科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
成蹊を知る	北川　浩 ・・・・・・・・	12
成蹊教養セミナー＜1＞	高木　新太郎 ・・・・・・・・	16
成蹊教養セミナー＜2＞	小川　貴宏 ・・・・・・・・	20
武蔵野地域研究	高田　昭彦 ・・・・・・・・	24
成蹊環境セミナー	山田　勝己 ・・・・・・・・	28
地域福祉論	澁谷　智子 ・・・・・・・・	32
武蔵野市寄附講座（昭和のサブカルチャー研究）	中江　桂子 ・・・・・・・・	36
人権とジェンダー	竹内　敬子 ・・・・・・・・	40
青年の心と身体	林　潤一郎 ・・・・・・・・	44
こどもと社会＜1＞	駒谷　真美 ・・・・・・・・	48
こどもと社会＜2＞	駒谷　真美 ・・・・・・・・	52
老人福祉論	大久保　洋子 ・・・・・・・・	56
福祉社会に生きる	大久保　洋子 ・・・・・・・・	60
情報保障とボランティア	倉谷　慶子 ・・・・・・・・	64
TOEFL P. Intermediate＜1＞	豊島　純子 ・・・・・・・・	68
TOEFL P. Intermediate＜2＞	田辺　春美 ・・・・・・・・	72
TOEFL P. Intermediate＜3＞	豊島　純子 ・・・・・・・・	76
TOEFL　Preparation　I＜4＞	田辺　春美 ・・・・・・・・	80
TOEFL　Preparation　I＜5＞	峰松　愛子 ・・・・・・・・	84
TOEFL P. Advanced＜1＞	石原　直美 ・・・・・・・・	88
TOEFL P. Advanced＜2＞	峰松　愛子 ・・・・・・・・	92
TOEIC P. Intermediate＜1＞	加藤　澄恵 ・・・・・・・・	96
TOEIC P. Intermediate＜2＞	鈴木　理恵 ・・・・・・・・	100
TOEIC P. Intermediate＜3＞	権田　建二 ・・・・・・・・	104
TOEIC　Preparation　I＜4＞	鈴木　理恵 ・・・・・・・・	108
TOEIC　Preparation　I＜5＞	佐々木　大介 ・・・・・・・・	112
TOEIC　Preparation　I＜6＞	小川　貴宏 ・・・・・・・・	116
TOEIC P. Advanced＜1＞	鈴木　理恵 ・・・・・・・・	120
TOEIC P. Advanced＜2＞	佐々木　大介 ・・・・・・・・	124
TOEIC P. Advanced＜3＞	小川　貴宏 ・・・・・・・・	128
TOEIC　Preparation　II＜4＞	加藤　澄恵 ・・・・・・・・	132
TOEIC　Preparation　II＜5＞	鈴木　理恵 ・・・・・・・・	136
TOEIC　Preparation　II＜6＞	権田　建二 ・・・・・・・・	140
Presentation　SkillsI＜1＞	ハデス　マイク ・・・・・・・・	144
Presentation　SkillsI＜2＞	ビーゲル　ケネス ・・・・・・・・	148
Presentation　SkillsII＜1＞	ハデス　マイク ・・・・・・・・	152
Presentation　SkillsII＜2＞	ビーゲル　ケネス ・・・・・・・・	156
Discussion　Skills　I＜1＞	森住　史 ・・・・・・・・	160
Discussion　Skills　I＜2＞	ハートウィック　トレイシー ・・・・・・・・	164
Discussion　Skills　II＜1＞	森住　史 ・・・・・・・・	168

Discussion Skills Ⅱ<2>	ハートウィック トレイシー	172
Essay Writing Ⅰ<1>	エヴァン ピーター ダニエル	176
Essay Writing Ⅰ<2>	ニシムラ キース	180
Essay Writing Ⅰ<3>	ラグズデール ジョセフ	184
Essay Writing Ⅰ<4>	シャープ ジェイムズ	188
Essay Writing Ⅱ<1>	エヴァン ピーター ダニエル	192
Essay Writing Ⅱ<2>	ニシムラ キース	196
Essay Writing Ⅱ<3>	ラグズデール ジョセフ	200
Essay Writing Ⅱ<4>	シャープ ジェイムズ	204
Extensive Reading Ⅰ<1>	山田 崇人	208
Extensive Reading Ⅰ<2>	ザブスラック ロナルド ステファン	212
Extensive Reading Ⅰ<3>	坂野 由紀子	216
Extensive Reading Ⅰ<4>	佐藤 明可	220
Extensive Reading Ⅰ<5>	徳岡 麻絵子	224
Extensive Reading Ⅱ<1>	山田 崇人	228
Extensive Reading Ⅱ<2>	ザブスラック ロナルド ステファン	232
Extensive Reading Ⅱ<3>	坂野 由紀子	236
Extensive Reading Ⅱ<4>	佐藤 明可	240
Extensive Reading Ⅱ<5>	徳岡 麻絵子	244
Media English Ⅰ<1>	小川 貴宏	248
Media English Ⅰ<2>	三国 由美子	252
Media English Ⅱ<1>	小川 貴宏	256
Media English Ⅱ<2>	三国 由美子	260
Global Issues Ⅰ<1>	ザブスラック ロナルド ステファン	264
Global Issues Ⅰ<2>	桃尾 美佳	268
Global Issues Ⅱ<1>	ザブスラック ロナルド ステファン	272
Global Issues Ⅱ<2>	桃尾 美佳	276
日本語表現講義<1>	布川 純子	280
日本語表現講義<2>	布川 純子	284
実践漢字講座<1>	藤本 灯	288
実践漢字講座<2>	久保田 篤	292
実践日本語表現<1>	土居 奈生子	296
実践日本語表現<2>	土居 奈生子	300
実践日本語表現<3>	土居 奈生子	304
実践日本語表現<4>	土居 奈生子	308
実践日本語表現<5>	稲生 知子	312
実践日本語表現<6>	田口 麻奈	316
実践日本語表現<7>	松野 彩	320
実践日本語表現<8>	土居 奈生子	324
実践日本語表現<9>	土居 奈生子	328
実践日本語表現<10>	土居 奈生子	332

実践日本語表現＜11＞	土居　奈生子	・・・・・・・・	336
実践日本語表現＜12＞	田口　麻奈	・・・・・・・・	340
実践日本語表現＜13＞	松野　彩	・・・・・・・・	344
実践日本語表現＜14＞	藤本　灯	・・・・・・・・	348
実践日本語表現＜15＞	山口　容子	・・・・・・・・	352
実践話し方入門＜21＞	新村　衣里子	・・・・・・・・	356
実践話し方入門＜22＞	山口　容子	・・・・・・・・	360
文章読解講座＜1＞	杉井　和子	・・・・・・・・	364
文章読解講座＜2＞	杉井　和子	・・・・・・・・	368
文章読解講座＜3＞	杉井　和子	・・・・・・・・	372
古典日本語A＜1＞	青島　麻子	・・・・・・・・	376
古典日本語A＜2＞	土居　奈生子	・・・・・・・・	380
古典日本語A＜3＞	土居　奈生子	・・・・・・・・	384
古典日本語B＜1＞	青島　麻子	・・・・・・・・	388
古典日本語B＜2＞	土居　奈生子	・・・・・・・・	392
古典日本語B＜3＞	土居　奈生子	・・・・・・・・	396
上級日本語表現（社会のなかの言葉）	永澤　済	・・・・・・・・	400
上級日本語表現（成蹊俳句教室）	高田　正子	・・・・・・・・	404
上級文章表現演習＜1＞	林　あまり	・・・・・・・・	408
上級文章表現演習＜2＞	林　あまり	・・・・・・・・	412
ドキュメント作成演習＜1＞	浅岡　伴夫	・・・・・・・・	416
ドキュメント作成演習＜2＞	浅岡　伴夫	・・・・・・・・	420
キャリアプランニング＜1＞	中島　誠一	・・・・・・・・	424
キャリアプランニング＜2＞	鈴木　賞子	・・・・・・・・	428
キャリアプランニング＜3＞	鈴木　賞子	・・・・・・・・	432
キャリアプランニング＜4＞	山科　美智子	・・・・・・・・	436
キャリアプランニング＜5＞	大野　和男	・・・・・・・・	440
キャリアプランニング＜6＞	丸尾　明美	・・・・・・・・	444
キャリアプランニング＜7＞	丸尾　明美	・・・・・・・・	448
キャリアプランニング＜8＞	鈴木　賞子	・・・・・・・・	452
キャリアプランニング＜9＞	鈴木　賞子	・・・・・・・・	456
キャリアプランニング＜10＞	大野　和男	・・・・・・・・	460
キャリアセミナー＜1＞	鈴木　賞子	・・・・・・・・	464
キャリアセミナー＜2＞	鈴木　賞子	・・・・・・・・	468
キャリアセミナー＜3＞	大野　和男	・・・・・・・・	472
キャリアセミナー＜4＞	鈴木　賞子	・・・・・・・・	476
キャリアセミナー＜5＞	大野　和男	・・・・・・・・	480
キャリアセミナー＜6＞	中島　誠一	・・・・・・・・	484
キャリアセミナー＜7＞	藤田　純子	・・・・・・・・	488
キャリアセミナー＜8＞	鈴木　賞子	・・・・・・・・	492
キャリアセミナー＜9＞	辻　恭平	・・・・・・・・	496

キャリアセミナー＜10＞	丸尾　明美	・・・・・・・・	500
キャリア発展講義（仕事とジェンダー）	藤田　純子	・・・・・・・・	504
日本企業の現状と展望	北川　浩	・・・・・・・・	508
インターンシップ準備講座＜1＞	鈴木　賞子	・・・・・・・・	512
インターンシップ準備講座＜2＞	鈴木　賞子	・・・・・・・・	516
インターンシップ実習＜1＞	鈴木　賞子	・・・・・・・・	520
インターンシップ実習＜2＞	鈴木　賞子	・・・・・・・・	524
インターンシップ実習＜3＞	篠田　心治	・・・・・・・・	528
理工系インターンシップ実習＜1＞	近　匡	・・・・・・・・	530
理工系インターンシップ実習＜2＞	渡邉　一衛	・・・・・・・・	532
理工系インターンシップ実習＜3＞	瓜生　芳久	・・・・・・・・	534
情報活用A＜1＞	新保　好美	・・・・・・・・	536
情報活用A＜2＞	北岡　紀子	・・・・・・・・	540
情報活用A＜3＞	鳥居　真	・・・・・・・・	544
情報活用B＜1＞	勝野　喜以子	・・・・・・・・	548
情報活用B＜2＞	勝野　喜以子	・・・・・・・・	552
情報活用B＜3＞	勝野　喜以子	・・・・・・・・	556
情報活用C＜1＞	小杉　洋子	・・・・・・・・	560
情報活用C＜2＞	小杉　洋子	・・・・・・・・	564
情報活用D	飯塚　邦彦	・・・・・・・・	568
情報活用E＜1＞	（教員未定）	・・・・・・・・	572
情報活用E＜2＞	（教員未定）	・・・・・・・・	576
スポーツと科学	武藤　健一郎	・・・・・・・・	580
スポーツと文化	稲葉　佳奈子	・・・・・・・・	584
スポーツと社会	三浦　康二	・・・・・・・・	588
健康と科学	境　広志	・・・・・・・・	592
健康スポーツの発展AI＜1＞	境　広志	・・・・・・・・	596
健康スポーツの発展AI＜2＞	渡邊　典子	・・・・・・・・	600
健康スポーツの発展AI＜3＞	飯田　義明	・・・・・・・・	604
健康スポーツの発展AI＜4＞	志村　広子	・・・・・・・・	608
健康スポーツの発展AI＜5＞	福井　真司	・・・・・・・・	612
健康スポーツの発展BI＜1＞	伴　好彦	・・・・・・・・	616
健康スポーツの発展BI＜2＞	渡邊　典子	・・・・・・・・	620
健康スポーツの発展BI＜3＞	伴　好彦	・・・・・・・・	624
健康スポーツの発展BI＜4＞	鈴木　雄太	・・・・・・・・	628
健康スポーツの発展BI＜5＞	渡邊　典子	・・・・・・・・	632
健康スポーツの発展BI＜6＞	小谷　究	・・・・・・・・	636
健康スポーツの発展BI＜7＞	渡邊　新一郎	・・・・・・・・	640
健康スポーツの発展BI＜8＞	飯田　義明	・・・・・・・・	644
健康スポーツの発展BI＜9＞	飯田　義明	・・・・・・・・	648
健康スポーツの発展BI＜10＞	志村　広子	・・・・・・・・	652

健康スポーツの発展BI＜11＞	岡田　光弘	・・・・・・・・	656
健康スポーツの発展BI＜12＞	渡邉　隆嗣	・・・・・・・・	660
健康スポーツの発展BI＜13＞	福井　真司	・・・・・・・・	664
健康スポーツの発展BI＜14＞	福井　真司	・・・・・・・・	668
健康スポーツの発展BI＜15＞	岩嶋　孝夫	・・・・・・・・	672
健康スポーツの発展SI＜1＞【ゴルフ】	渡邊　新一郎	・・・・・・・・	676
健康スポーツの発展SI＜2＞【ソフトボール】	小林　裕央	・・・・・・・・	680
健康スポーツの発展SI＜3＞【バドミントン】	伴　好彦	・・・・・・・・	684
健康スポーツの発展SI＜4＞【テニス】	渡邊　新一郎	・・・・・・・・	688
健康スポーツの発展SI＜5＞【太極拳】	渡邊　典子	・・・・・・・・	692
健康スポーツの発展SI＜6＞【バレーボール】	小谷　究	・・・・・・・・	696
健康スポーツの発展SI＜7＞【バスケットボール】	小谷　究	・・・・・・・・	700
健康スポーツの発展SI＜8＞【サッカー】	川田　尚弘	・・・・・・・・	704
健康スポーツの発展SI＜9＞【ソフトボール】	鈴木　雄太	・・・・・・・・	708
健康スポーツの発展SI＜10＞【ヨガ】	渡邊　典子	・・・・・・・・	712
健康スポーツの発展SI＜11＞【競技トレーニング】	守田　誠	・・・・・・・・	716
健康スポーツの発展SI＜12＞【バドミントン】	有山　逸平	・・・・・・・・	720
健康スポーツの発展SI＜13＞【バレーボール】	守田　誠	・・・・・・・・	724
健康スポーツの発展SI＜14＞【サッカー】	有山　逸平	・・・・・・・・	728
健康スポーツの発展SI＜15＞【テニス】	渡邊　新一郎	・・・・・・・・	732
健康スポーツの発展SI＜16＞【卓球】	岡田　光弘	・・・・・・・・	736
健康スポーツの発展SI＜17＞【エアロビクス】	志村　広子	・・・・・・・・	740
健康スポーツの発展SI＜18＞【バスケットボール】	渡邉　隆嗣	・・・・・・・・	744
健康スポーツの発展SI＜19＞【健康トレーニング】	志村　広子	・・・・・・・・	748
健康スポーツの発展SI＜20＞【テニス】	岡田　光弘	・・・・・・・・	752
健康スポーツの発展SI＜21＞【卓球】	重藤　誠市郎	・・・・・・・・	756
健康スポーツの発展SI＜22＞【テニス】	岩嶋　孝夫	・・・・・・・・	760
健康スポーツの発展SI＜23＞【バスケットボール】	小谷　究	・・・・・・・・	764
健康スポーツの発展SI＜24＞【バドミントン】	重藤　誠市郎	・・・・・・・・	768
健康スポーツの発展SI＜25＞【サッカー】	福井　真司	・・・・・・・・	772
哲学の基礎＜2＞	関口　浩	・・・・・・・・	776
哲学の基礎＜3＞	瀬戸　一夫	・・・・・・・・	780
倫理学の基礎＜1＞	的場　哲朗	・・・・・・・・	784
倫理学の基礎＜2＞	伊藤　由希子	・・・・・・・・	788
倫理学の基礎＜3＞	的場　哲朗	・・・・・・・・	792
文学への招待＜2＞	太西　雅一郎	・・・・・・・・	796
文学への招待＜3＞	原　善	・・・・・・・・	800
心理学の基礎＜2＞	清水　裕	・・・・・・・・	804
心理学の基礎＜3＞	林　潤一郎	・・・・・・・・	808
自己理解の心理学＜1＞	平山　敦子	・・・・・・・・	812
自己理解の心理学＜2＞	林　潤一郎	・・・・・・・・	816

自己理解の心理学＜3＞	岩田　淳子	・・・・・・・・	820
現代社会と哲学	関口　浩	・・・・・・・・	824
現代社会と倫理学	伊藤　由希子	・・・・・・・・	828
現代社会と宗教	岡本　亮輔	・・・・・・・・	832
日本の思想史	須佐　俊吾	・・・・・・・・	836
脳科学と心	山本　愛実	・・・・・・・・	840
こころの健康と臨床	林　潤一郎	・・・・・・・・	844
音楽への招待	西釋　英里香	・・・・・・・・	848
美術への招待	人見　伸子	・・・・・・・・	852
人間と美術	人見　伸子	・・・・・・・・	856
多文化主義と文学	大熊　昭信	・・・・・・・・	860
ことばの科学	小倉　美知子	・・・・・・・・	864
ファッションと文化	和田　早苗	・・・・・・・・	868
映像と文化	滝浪　佑紀	・・・・・・・・	872
映像と人間	北小路　隆志	・・・・・・・・	876
文化人類学の考え方	三吉　美加	・・・・・・・・	880
政治学の基礎＜1＞	(教員未定)	・・・・・・・・	884
政治学の基礎＜2＞	(教員未定)	・・・・・・・・	888
経済学の基礎＜2＞	大野　正智	・・・・・・・・	892
経済学の基礎＜3＞	武藤　恭彦	・・・・・・・・	896
社会学と現代＜1＞	挾本　佳代	・・・・・・・・	900
社会学と現代＜2＞	金崎　一郎	・・・・・・・・	904
社会学と現代＜3＞	青山　陽子	・・・・・・・・	908
日本国憲法＜1＞	小沼　史彦	・・・・・・・・	912
日本国憲法＜2＞	三田　奈穂	・・・・・・・・	916
日本国憲法＜3＞	三田　奈穂	・・・・・・・・	920
市民生活と法I	松元　安子	・・・・・・・・	924
市民生活と法II	松元　安子	・・・・・・・・	928
日本の政治	遠藤　晶久	・・・・・・・・	932
現代の国際政治	昇　亜美子	・・・・・・・・	936
日本と世界の経済	大野　正智	・・・・・・・・	940
企業と社会	浜松　翔平	・・・・・・・・	944
現代のマスメディア	挾本　佳代	・・・・・・・・	948
社会心理学入門	針原　素子	・・・・・・・・	952
裁判と社会	三田　奈穂	・・・・・・・・	956
生命倫理と法	三田　奈穂	・・・・・・・・	960
科学的に考える(物質の科学)	坪村　太郎	・・・・・・・・	964
科学的に考える(数の世界)	石井　卓	・・・・・・・・	968
科学的に考える(生命の科学)	佐藤　綾	・・・・・・・・	972
科学的に考える(文系のための数学)	小林　幸夫	・・・・・・・・	976
科学的に考える(文系のための科学実験)	伊藤　郁夫	・・・・・・・・	980

環境と科学（地球と環境）	財城　真寿美	・・・・・・・・	984
環境と科学（生命と環境）	池田　威秀	・・・・・・・・	988
人間と進化	櫻木　晃彦	・・・・・・・・	992
天文学入門	渡部　潤一	・・・・・・・・	996
薬はなぜ効くか	武田　収功	・・・・・・・・	1000
身の回りの科学	長沢　久男	・・・・・・・・	1004
科学技術の発展と歴史	渋谷　一夫	・・・・・・・・	1008
科学と哲学	瀬戸　一夫	・・・・・・・・	1012
環境論	斉藤　喬士	・・・・・・・・	1016
気象と地球環境	財城　真寿美	・・・・・・・・	1020
ドイツ語演習　活用AI	里村　和秋	・・・・・・・・	1024
ドイツ語演習　活用AII	里村　和秋	・・・・・・・・	1028
ドイツ語演習　活用BI	三浦　國泰	・・・・・・・・	1032
ドイツ語演習　活用BII	三浦　國泰	・・・・・・・・	1036
ドイツ語演習　活用CI	工藤　眞一	・・・・・・・・	1040
ドイツ語演習　活用CII	工藤　眞一	・・・・・・・・	1044
ドイツ語演習　発展（都市と文化）	河合　信晴	・・・・・・・・	1048
ドイツ語演習　発展（文学を読む）	天沼　春樹	・・・・・・・・	1052
ドイツ語演習　発展（音楽・映画入門）	天沼　春樹	・・・・・・・・	1056
ドイツ語演習　発展（歴史）	清水　威能子	・・・・・・・・	1060
ドイツ語演習　発展（上級会話I）	泉　ボグミワ	・・・・・・・・	1064
ドイツ語演習　発展（上級会話II）	赤池　エルフリーデ	・・・・・・・・	1068
フランス語演習　活用CI＜1＞	土屋　良二	・・・・・・・・	1072
フランス語演習　活用CI＜2＞	田村　恵子	・・・・・・・・	1076
フランス語演習　活用CII＜1＞	土屋　良二	・・・・・・・・	1080
フランス語演習　活用CII＜2＞	筒井　由美子	・・・・・・・・	1084
フランス語演習　活用AI	太西　雅一郎	・・・・・・・・	1088
フランス語演習　活用AII	太西　雅一郎	・・・・・・・・	1092
フランス語演習　活用BI＜1＞	田村　恵子	・・・・・・・・	1096
フランス語演習　活用BI＜2＞	松下　彩子	・・・・・・・・	1100
フランス語演習　活用BII＜1＞	田村　恵子	・・・・・・・・	1104
フランス語演習　活用BII＜2＞	松下　彩子	・・・・・・・・	1108
フランス語演習　発展（A仏検に挑戦I）	松下　彩子	・・・・・・・・	1112
フランス語演習　発展（A仏検に挑戦II）	松下　彩子	・・・・・・・・	1116
フランス語演習発展（Bフランス語で国際情勢を読むI）	墓田　桂	・・・・・・・・	1120
フランス語演習発展（Bフランス語で国際情勢を読むII）	墓田　桂	・・・・・・・・	1124
フランス語演習発展（C日仏マンガ比較論）	筒井　由美子	・・・・・・・・	1128
フランス語演習発展（Cフランス社会を通してみたアートな生活）	田村　恵子	・・・・・・・・	1132
フランス語演習発展（D発信力をつけるI）	デゥボー　フロランス	・・・・・・・・	1136
フランス語演習発展（D発信力をつけるII）	デゥボー　フロランス	・・・・・・・・	1140
スペイン語演習　活用AI＜1＞	渡辺　雅哉	・・・・・・・・	1144

スペイン語演習　活用AI＜2＞	又吉　和魅	・・・・・・・・	1148
スペイン語演習　活用AI＜3＞	渡辺　雅哉	・・・・・・・・	1152
スペイン語演習　活用AI＜4＞	又吉　和魅	・・・・・・・・	1156
スペイン語演習　活用AII＜1＞	渡辺　雅哉	・・・・・・・・	1160
スペイン語演習　活用AII＜2＞	又吉　和魅	・・・・・・・・	1164
スペイン語演習　活用BI	細谷　広美	・・・・・・・・	1168
スペイン語演習　活用BII	細谷　広美	・・・・・・・・	1172
スペイン語演習　活用CI	又吉　和魅	・・・・・・・・	1176
スペイン語演習　活用CII	又吉　和魅	・・・・・・・・	1180
スペイン語演習　発展（コムニカシオン・エン・エスパニョールI）	プラド　エウヘニオ　デル	・・・・・・・・	1184
スペイン語演習　発展（コムニカシオン・エン・エスパニョールII）	プラド　エウヘニオ　デル	・・・・・・・・	1188
スペイン語演習　発展（メキシコの文化と社会）	三輪　イルマ	・・・・・・・・	1192
スペイン語演習　発展（スペインの芸術・祭り・宗教II）	ドメネク　マリア	・・・・・・・・	1196
スペイン語演習　発展（語学検定にチャレンジI）	渡辺　雅哉	・・・・・・・・	1200
スペイン語演習　発展（語学検定にチャレンジII）	鈴木　恵美子	・・・・・・・・	1204
スペイン語演習　発展（スペインの芸術・祭り・宗教I）	ドメネク　マリア	・・・・・・・・	1208
スペイン語演習　発展（南米の文化と社会）	又吉　和魅	・・・・・・・・	1212
中国語演習　活用AI＜1＞	湯山　トミ子	・・・・・・・・	1216
中国語演習　活用AI＜2＞	土屋　肇枝	・・・・・・・・	1220
中国語演習　活用AI＜3＞	湯山　トミ子	・・・・・・・・	1224
中国語演習　活用AI＜4＞	浜田　ゆみ	・・・・・・・・	1228
中国語演習　活用AII＜1＞	湯山　トミ子	・・・・・・・・	1232
中国語演習　活用AII＜2＞	土屋　肇枝	・・・・・・・・	1236
中国語演習　活用BI	中桐　典子	・・・・・・・・	1240
中国語演習　活用BI＜2＞	木谷　富士子	・・・・・・・・	1244
中国語演習　活用BII	中桐　典子	・・・・・・・・	1248
中国語演習　活用CI＜1＞	張　竹翠	・・・・・・・・	1252
中国語演習　活用CI＜2＞	楊　晶	・・・・・・・・	1256
中国語演習　活用CII	張　竹翠	・・・・・・・・	1260
中国語演習　発展（講読アラカルトI）	湯山　トミ子	・・・・・・・・	1264
中国語演習　発展（講読アラカルトII）	湯山　トミ子	・・・・・・・・	1268
中国語演習発展（メデイア活用・映像の贈り物I）	芳沢　ひろ子	・・・・・・・・	1272
中国語演習発展（メデイア活用・映像の贈り物II）	芳沢　ひろ子	・・・・・・・・	1276
中国語演習発展（パワーアップ・学習の玉手箱I）	湯山　トミ子	・・・・・・・・	1280
中国語演習発展（パワーアップ・学習の玉手箱II）	湯山　トミ子	・・・・・・・・	1284
中国語演習　発展（中国語会話V）	凌　慶成	・・・・・・・・	1288
中国語演習　発展（中国語会話VI）	凌　慶成	・・・・・・・・	1292
ドイツ語会話I＜1＞	赤池　エルフリーデ	・・・・・・・・	1296
ドイツ語会話I＜2＞	泉　ボグミワ	・・・・・・・・	1300
ドイツ語会話II＜1＞	赤池　エルフリーデ	・・・・・・・・	1304
ドイツ語会話II＜2＞	泉　ボグミワ	・・・・・・・・	1308

ドイツ語会話III	泉　ボグミワ	・・・・・・・・	1312
ドイツ語会話IV	泉　ボグミワ	・・・・・・・・	1316
フランス語会話I＜1＞	サックス　ジェラール	・・・・・・・・	1320
フランス語会話I＜2＞	デゥボー　フロランス	・・・・・・・・	1324
フランス語会話II＜1＞	サックス　ジェラール	・・・・・・・・	1328
フランス語会話II＜2＞	デゥボー　フロランス	・・・・・・・・	1332
フランス語会話III	デゥボー　フロランス	・・・・・・・・	1336
フランス語会話IV	デゥボー　フロランス	・・・・・・・・	1340
スペイン語会話I＜1＞	サンス　アルセニオ	・・・・・・・・	1344
スペイン語会話I＜2＞	プラド　エウヘニオ　デル	・・・・・・・・	1348
スペイン語会話II＜1＞	三輪　イルマ	・・・・・・・・	1352
スペイン語会話II＜2＞	三輪　イルマ	・・・・・・・・	1356
スペイン語会話III	三輪　イルマ	・・・・・・・・	1360
スペイン語会話IV	三輪　イルマ	・・・・・・・・	1364
中国語会話I＜1＞	余　瀾	・・・・・・・・	1368
中国語会話I＜2＞	黄　暁恵	・・・・・・・・	1372
中国語会話I＜3＞	李　林静	・・・・・・・・	1376
中国語会話II＜1＞	余　瀾	・・・・・・・・	1380
中国語会話II＜2＞	黄　暁恵	・・・・・・・・	1384
中国語会話II＜3＞	李　林静	・・・・・・・・	1388
中国語会話III＜1＞	余　瀾	・・・・・・・・	1392
中国語会話III＜2＞	李　林静	・・・・・・・・	1396
中国語会話III＜3＞	凌　雲鳳	・・・・・・・・	1400
中国語会話IV＜1＞	余　瀾	・・・・・・・・	1404
中国語会話IV＜2＞	李　林静	・・・・・・・・	1408
中国語会話IV＜3＞	凌　雲鳳	・・・・・・・・	1412
世界の言語（韓国語I）	阪堂　千津子	・・・・・・・・	1416
世界の言語（韓国語I）	文　珍瑛	・・・・・・・・	1420
世界の言語（韓国語II）	阪堂　千津子	・・・・・・・・	1424
世界の言語（韓国語II）	文　珍瑛	・・・・・・・・	1428
世界の言語（韓国語III）＜1＞	文　珍瑛	・・・・・・・・	1432
世界の言語（韓国語III）＜2＞	文　珍瑛	・・・・・・・・	1436
世界の言語（韓国語IV）＜1＞	文　珍瑛	・・・・・・・・	1440
世界の言語（韓国語IV）＜2＞	文　珍瑛	・・・・・・・・	1444
異文化理解A（ことばと文化の窓）＜1＞	横山　裕人	・・・・・・・・	1448
異文化理解A（ことばと文化の窓）＜2＞	横山　裕人	・・・・・・・・	1452
異文化理解A（ことばと文化の窓）＜3＞	横山　裕人	・・・・・・・・	1456
異文化理解A（ことばと文化の窓）＜4＞	横山　裕人	・・・・・・・・	1460
異文化理解B（ドイツ語圏）	里村　和秋	・・・・・・・・	1464
異文化理解B（フランス語圏）	太西　雅一郎	・・・・・・・・	1468
異文化理解B（スペイン語圏）	鈴木　恵美子	・・・・・・・・	1472

異文化理解B（中国語圏）　凌　雲鳳　・・・・・・・・　1476
異文化理解B（ドイツ語圏）　坂口　尚史　・・・・・・・・　1480
異文化理解B（フランス語圏）　太西　雅一郎　・・・・・・・・　1484
異文化理解B（スペイン語圏）　鈴木　恵美子　・・・・・・・・　1488
異文化理解B（中国語圏）　湯山　トミ子　・・・・・・・・　1492
異文化理解B（韓国語圏）　文　珍瑛　・・・・・・・・　1496
世界の言語（ロシア語I）　中澤　朋子　・・・・・・・・　1500
世界の言語（ロシア語II）　中澤　朋子　・・・・・・・・　1504
世界の言語（タイ語I）　中島　マリン　・・・・・・・・　1508
世界の言語（タイ語II）　中島　マリン　・・・・・・・・　1512
世界の言語（イタリア語I）　越前　貴美子　・・・・・・・・　1516
世界の言語（イタリア語II）　越前　貴美子　・・・・・・・・　1520
近現代日本史A＜1＞　大町　健　・・・・・・・・　1524
近現代日本史A＜2＞　伊藤　悟　・・・・・・・・　1528
近現代日本史A＜3＞　坂本　昇　・・・・・・・・　1532
近現代日本史B＜1＞　大町　健　・・・・・・・・　1536
近現代日本史B＜3＞　伊藤　悟　・・・・・・・・　1540
戦後の日本と世界＜2＞　富田　武　・・・・・・・・　1544
戦後の日本と世界＜3＞　大町　健　・・・・・・・・　1548
現代日本の地理＜1＞　小田　宏信　・・・・・・・・　1552
現代日本の地理＜2＞　小金澤　孝昭　・・・・・・・・　1556
現代世界の地理＜1＞　加賀美　雅弘　・・・・・・・・　1560
現代世界の地理＜2＞　加賀美　雅弘　・・・・・・・・　1564
国際教養総合講義（保守主義とリベラルの思想的対立からみたアメリカ政治）　中岡　望　・・・・・・・・　1568
近現代アジア史A＜1＞　久保田　善丈　・・・・・・・・　1572
近現代アジア史A＜2＞　佐々木　紳　・・・・・・・・　1576
近現代アジア史B＜1＞　久保田　善丈　・・・・・・・・　1580
近現代アジア史B＜2＞　佐々木　紳　・・・・・・・・　1584
近現代欧米史A＜1＞　佐伯　哲朗　・・・・・・・・　1588
近現代欧米史A＜2＞　中島　幹人　・・・・・・・・　1592
近現代欧米史B＜1＞　佐伯　哲朗　・・・・・・・・　1596
近現代欧米史B＜2＞　中島　幹人　・・・・・・・・　1600
歴史トピックス（武士の仕事と生活）　高橋　一樹　・・・・・・・・　1604
歴史トピックス（武士と貴族・百姓）　高橋　一樹　・・・・・・・・　1608
アジア地域理解　小田　宏信　・・・・・・・・　1612
ヨーロッパ地域理解　太西　雅一郎　・・・・・・・・　1616
北米地域理解　小田　隆史　・・・・・・・・　1620
地域理解トピックス（地元学実践演習）　清水　孝治　・・・・・・・・　1624
地域理解トピックス（地域づくりの時代）　小金澤　孝昭　・・・・・・・・　1628
英語で学ぶ世界（現代の科学技術）　渡辺　裕　・・・・・・・・　1632
英語で学ぶ世界（国際関係）　上原　史子　・・・・・・・・　1636

英語で学ぶ日本（日本の文化と芸術）　細井　眞子　・・・・・・・・　1640
英語で学ぶ日本（日本の経済）　中岡　望　・・・・・・・・　1644
実践国際理解演習Ａ　小田切　由香子　・・・・・・・・　1648
実践国際理解演習Ｂ　小田切　由香子　・・・・・・・・　1652

科目名	成蹊を知る		
教員名	北川　浩		
科目ナンバー	1101415010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

みなさんはどうして成蹊大学に入学しようと思ったのでしょうか。また成蹊大学のことをどこでどのように知ったのでしょうか。みなさんは「成蹊」というものについてどれだけのことを知っていますか。例えば次のような質問に自分なりに答えてみてください。「成蹊を創った人はだれ？」「成蹊と三菱は関係あるの？」「成蹊は始めから吉祥寺にあったの？」この講義はいわゆる「自校史」の授業です。成蹊にはこれまで100年の歴史があります。その中でさまざまなものが積み上げられ、現在の成蹊を形づくっています。成蹊の歴史を知ることは、成蹊の中に身を置く自分自身のアイデンティティーを知ることです。この授業を聴くことによって、みなさんが成蹊の学生であることに自信と誇りを持つようになることを期待しています。★将来成蹊学園の職員として就職することを希望する学生のみなさんがいたら、ぜひこの授業を履修することをお勧めします。

到達目標

成蹊の歴史的位置づけとその特色を理解し、自らのアイデンティティーを認識する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 授業の趣旨および進め方を説明し、成蹊学園の歴史の全貌を概説します。	
	講義された内容（成蹊の歴史の概略）の復習	60分
第2回	中村春二の生い立ちと人物像 創立者中村春二の生い立ちと、明治期の学制に関する歴史的背景について講義します。	
	講義された内容（中村春二の人物像）の復習	60分
第3回	成蹊教育の確立 成蹊実務学校、中学校、小学校の開校過程とそこでの教育の特色について講義します。、	
	講義された内容（成蹊教育の成立過程と特色）の復習	60分

第4回	成蹊学園の変貌と中村春二の死 財団法人成蹊学園設立と中村春二の死が成蹊教育に及ぼした影響について、大正期の教育状況を合わせて講義します。	
	講義された内容（大正期の成蹊学園）の復習	60分
第5回	中村春二が目指した教育（まとめ） 中村春二がめざした教育についての総まとめと 映画「たしかｎあしぶみ」の鑑賞を行います。 （中間レポート課題提示）	
	中間レポート作成	180分
第6回	岩崎小彌太の生い立ちと人物像 創立期から生計を支えてきた岩崎小彌太の生い立ちと人柄について講義します。	
	講義された内容（岩崎小彌太の人物像）の復習	60分
第7回	三菱財閥形成史 戦前の日本最大の財閥であｒ三菱財閥がどのように形成されていったのか講義します。	
	講義された内容（三菱財閥形成史）の復習	60分
第8回	旧制七年制成蹊高校の教育 旧制七年制成蹊高校の教育の特色と、校長浅野孝之の目指したものについて講義します。	
	講義された内容（浅野孝之の教育）の復習	60分
第9回	第二次大戦下の成蹊学園 第二次世界大戦中の成蹊学園の状況について、校長土田誠一が行った施策と併せて講義します。	
	講義された内容（土田誠一の教育）の復習	60分

第10回	成蹊大学開設 成蹊大学政治経済学部がどのように開設され、その教育はどのような特色を持っていたのかについて講義します。	
	講義された内容（成蹊大学政治経済学部の特色）の復習	60分
第11回	成蹊大学四学部体制の確立 成蹊大学政治経済学部一学部のみからスタートした大学が、どのようにして四つの学部を備えるにいたったか、またそれぞれの学部はその後どのような変遷をたどったかについて講義します。	
	講義された内容（成蹊大学四学部ｔ体制の確立）の復習	60分
第12回	成蹊風土記 これまで授業であつかってきた成蹊の歴史上重要な史跡が現在の成蹊の中にどのように残されているかについてまとめて講義します。	
	講義された内容（成蹊風土記）の復習	60分
第13回	成蹊と三菱の関係（総まとめ） 成蹊と三菱の関係について全体のまとめの講義をします。 （最終レポート課題提示）	
	講義された内容（成蹊と三菱の関係）の復習	60分
第14回	成蹊学園の組織の現状 現在の成蹊学園の組織がどのようになっており、それぞれの部署が果たす役割について講義します。	
	講義された内容（成蹊学園の組織の現状）の復習	60分
第15回	総まとめ これまでの授業を振り返って、全体の復習を行います。	
	最終レポートの作成	180分

授業の方法

パワーポイントを用いた講義形式の授業です。
毎回ポータルで授業の感想等の小レポートを提出してください。
そのほか中間レポートと最終レポートがあります。

成績評価の方法

毎回の小レポート提出を30パーセント、中間レポート30パーセント、最終レポート40パーセントのウエイトで評価を行ないます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・成蹊学園の歴史上の主要な人物に関する事項の理解
・中村春二の教育の特色
・成蹊と三菱の関係
・成蹊学園100年の歴史の流れを順を追ってたどれるようになったか
の４つの観点を主要ポイントとして評価を行います。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本の近現代史に関する知識があると良い。

テキスト

特定のテキストは使用しません。必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

「大正自由教育の旗手ー中村春二」（まんが、みやぞえ郁雄）　小学館　1200円＋税
（興味のある人は成蹊ブックセンターで購入してください。）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	成蹊教養セミナー ＜1＞		
教員名	高木　新太郎		
科目ナンバー	1101415020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

本セミナーのテーマは「江戸、東京から学ぶ」である。東京を対象としてその歴史、文化、経済、首都機能、交通、自然等、東京を多角的な視点から勉強する。東京の大きな特徴は、多様性と日本における重要性にある。多様性は、東京にいろいろな分野があるだけでなく、特定分野についても特色がある。一例は「大学」で、大学数が都道府県の中で最多であり、各タイプの大学が存在する。重要性は東京が経済、政治等の中心である。また、「庭園」を例にとっても、最上位の「特別史跡・特別名勝の二重指定」（全国で７箇所）の庭園が２ヶ所ある。
こうした東京の特殊性を考慮し、東京に関する基礎知識を学ぶため、下記のテキストを用意した。また東京の現実等を観ることも重要で、可能なら東京見物を実施したい。皇居周辺、中央卸売市場（築地）、江戸東京博物館（両国）といった場所だけでなく、三社祭り（浅草）や朝顔市（入谷）等の風物も考えたい。

到達目標

①古代から近現代までの東京の歴史的概略を理解する。
②「東京シティガイド検定」に挑戦（合格）できる水準を目指す。
③東京に関し、少なくとも何か一つ専門的に探究する。
（例）江戸の三大改革、関東大震災の復興計画、江戸東京伝統野菜、東京のお祭り、国技と大相撲、特定地域（上野、新宿等）の歴史、五街道、その他

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・この科目は、講義科目（テキストを使用）と演習（発表、報告）の性格を持つ。 ・授業の内容、進め方等を説明する。	
	【予習】テキストの目次等を読み、科目の全体の範囲を把握する。 【復習】シラバスを読み返し、授業の進め方等を確認する。	60
第2回	・東京の概略、下町、山手、高層ビル等を説明する。 ・東京の特徴的な街を解説する。	
	【予習】第1章の1節（壱①）と2節（壱②）を熟読。 【復習】キーワードを確認する。	60
第3回	・東京の2つの観光資源について学ぶ。主要な動物園、公園、施設等を学ぶ。 ・古い東京（関東ローム層、大森貝塚、弥生式土器等）を学修する。	
	【予習】壱③と弐①を熟読。 【復習】今回学んだことを、確認しておく。	60

第4回	弐②将門が駆け抜けた坂東の地 ・武蔵国、豪族の台頭等を学修。 弐③江戸の誕生と発展 ・足利氏と後北条氏を学ぶ。 ・徳川家康と町づくりを学ぶ。	
	【予習】弐②と弐③を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。	60
第5回	参①江戸のインフラストラクチャー ・水路工事、五街道等の土木工事等を学修。 参②江戸城の昔と今 ・江戸城、天下普請、天守閣を学修。	
	【予習】参①、参②を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。	60
第6回	参③大名屋敷と江戸八百八町 ・江戸城と大名屋敷を学修する。 ・江戸の町人地と東へ拡大する江戸の街を学修する。	
	【予習】参③を熟読する。 【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする。	60
第7回	肆①江戸の事件と有名人 ・「武断政治から文治政治へ」、「生類憐みの令と赤穂事件」、「江戸の洋学ブーム」を学修する。	
	【予習】肆①を熟読する。 【復習】今回のキーワードを説明できるようにする。	60
第8回	肆②徳川将軍家の人々と幕府政治 ・御三家と御三郷を学ぶ。 ・正徳の治、三大改革、田沼時代、大御所時代、等を学修する。	
	【予習】肆②を熟読する。 【復習】今回のキーワードを説明できるようにする。	60
第9回	肆③江戸っ子の楽しみ ・江戸っ子と「いき」、「はり」等について学修する。 ・江戸の盛り場、芝居小屋等を学ぶ。	
	【予習】肆③を熟読する。 【復習】今回のキーワードを説明できるようにする。	60

第10回	肆④江戸っ子の信仰と祭り ・寺請制度、天下祭り、東京のイベント等を学修する。 肆⑤江戸東京のうまいもの ・江戸東京野菜等を学修する。	
	【予習】肆④、肆⑤を熟読する。 【復習】キーワードを説明できるようにする。	60
第11回	伍①東京の誕生 ・黒船の出現、安政の大獄等、幕末の江戸を学修する。 ・江戸遷都、新首都建設等を学修。	
	【予習】伍①を熟読する。 【復習】キーワードを説明できるようにする。	60
第12回	伍②東京の社会と事件 ・江戸開府300年祭、自由民権運動等を学修する。 ・日比谷焼き討ち事件、2.26事件、学生運動等、東京の事件を学修する。	
	【予習】伍②を熟読する。 【復習】キーワードを説明できるようにする。	60
第13回	伍③関東大震災と帝都復興 ・巨大地震の被害を学ぶ。 ・復興計画と実現した建設等を学修する。	
	【予習】伍③を熟読する。 【復習】キーワードを説明できるようにする。	60
第14回	陸①戦前、戦中そして戦後の東京 ・東京市と郡部の人口問題、5.15事件、東京都政の成立、進駐軍等を学修する。	
	【予習】陸①を熟読する。 【復習】キーワードを説明できるようにする。	60
第15回	到達度確認テスト テキストの各問題を利用してテストを行なう。 レポートの提出 江戸、東京に関することをレポートにまとめて提出する。	
	【復習】テストは問題も答も限定されているので、理解度の点検を確認する。レポートは「江戸・東京」で自分の勉強成果を確認することになる。	60

授業の方法

（1）テキストを輪読する。その際、特定のもの（人物、事象、その他）に関し、皆さんに調べてもらう。それを授業で発表し、小レポートの形で提出して下さい。
（2）小レポートとは別に、最後の授業にレポートを提出してもらいます。
（3）時間が許せば、施設等の見学を行う予定です。

成績評価の方法

（1）出席評価15%
（2）発表10%、小レポート10%
（3）到達度確認テスト30%
（4）レポート35%
これら4点に関する総合評価が基本です。施設見学等については別途考慮したい。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39
[成績評価の方法]の結果によって評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

東京観光財団『新・大江戸東京の歩き方』ダイヤモンド社　2012年8月

参考書

（1）その都度紹介する。
（2）授業中に関連資料を配布することもある。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	成蹊教養セミナー ＜2＞		
教員名	小川　貴宏		
科目ナンバー	1101415020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

サブタイトル：＜辞書学(Lexicography)入門～紙の辞書と電子辞書を考える＞　英語を含む外国語を身につけるにあたって、辞書は不可欠な唯一最強のツールです。私も皆さんも普段から様々な形で辞書を引き、辞書のお世話になっています。本講座では、
１）いかにして現在の形の辞書が出来上がってきたのか？また先達者たちの創意工夫は？--辞書の歴史（発達史）を振り返る
２）辞書の最適な使い分けとは？--辞書の様々な種類について知る
３）辞書の持っている情報を十二分に引き出すには？--辞書の内部構成（見出し・定義や訳語・例文・語源・文法情報など）について考える
４）（担当教員の辞書編集に携わった経験をもとに）辞書の編集過程について考える
５）様々な媒体（紙版、アプリ版、オンライン版、電子辞書etc.）について考え、特に電子辞書についてその現在と将来を考える
６）１～５を踏まえて、自分、あるいは身近な人にとって最適な辞書や辞書の使い方について考える。また、将来の辞書のあるべき姿を考えるといった、様々な考察を通して、辞書をよく知り、辞書とのこれから一生のうまい付き合い方を考察していきます。
外国語学習用辞典（英和・和英・英英など）や言葉について自省のできる国語辞典を中心に見ていきます。

到達目標

１）「辞書」の様々な種類・様々な形を知り、各個人や場面によって最適な辞書とその使い方がわかる（できれば人にアドバイスできる）ようになる
２）辞書の記述内容（コンテンツ）について知り、辞書から効率よく情報が引き出せるようになる。
３）将来辞書制作や辞書アプリ開発を考えている人は、それに資することができる素養を身につける
４）辞書の発達史を理解し、将来の辞書や辞書の将来について考えられるようになる
５）紙の辞書と電子辞書（スマホ辞書も含む）の違いや特徴を理解し、今後の辞書に求められるものを提案（要望）できるようになる
６）特定のテーマや辞書を取り上げ、それについて調べたり、発表（プレゼン）したりできる基本的な力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	テーマ1：自分のこれまであるいは現在の辞書引きを振り返り、様々な辞書の種類や形態について考える--学習用・学術用・２ヶ国語・1ヶ国語・非アルファベット配列・英語以外の外国語etc. テーマ2：様々な媒体の辞書を考えよう--紙版と電子辞書、スマホ（アプリ）辞書それぞれの利点と欠点は？	
	自分が普段使っている辞書、あるいはこれまで使ってきた辞書を振り返っておく。	60分
第2回	4回目以降の辞書のプレゼンの準備・企画をしよう： 個人またはグループに分かれ、プレゼンの計画を立てる （プレゼンのやり方の説明、取り上げる辞書や章立ての考察、辞書の調達方法などの相談）	
	自分がどんな辞書をテーマに選びたいか、あるいはどんな辞書とどんな辞書を比べたいかについて考えておく。	60分
第3回	辞書の編纂について考える--辞書の定義の構造を分析してみよう；辞書づくりの工程と定義体験 次回以降のプレゼンの進捗状況の確認と相談会	
	国語辞典などでことばがどういう定義がされているかを見ておく。	60分

第4回	辞書発達史その１（日本）：すべては日葡辞書（1603-04)から始まった；龍馬の頃の辞書は「チョコレート」をどう訳しているか？ 辞書についてのプレゼンテーション（第1グループ）	
	「幕末」「英和辞典」などをキーワードにWebで検索し、どういう情報が出ているか見ておく。	60分
第5回	辞書発達史その２（欧米）：ジョンソンやウェブスター、マレーの果たした役割は？；「辞書戦争」、「辞書神話」とは何か？ 辞書についてのプレゼンテーション（第2グループ）	
	「ウェブスター」「辞書戦争」などをキーワードに、Webで検索して、欧米の辞書について予備知識を得ておく	60分
第6回	辞書作りに必要なもの：日本語力を磨こう--「なおざり」と「おざなり」を区別して説明できますか？--日本語力チェッククイズで自分の「ことば力」を知ろう 辞書についてのプレゼンテーション（第3グループ）	
	似た言葉、あるいは紛らわしい言葉などを思い浮かべ、国語辞典（または英語なら英和辞典や英英辞典）でどのように説明しわけられているか、あるいはしわけられていないかを見ておく	60分
第7回	英英辞典と英和辞典,大辞典とポケット版辞典を比べてみよう--目的によって、辞書をどう使い分けるか？ 辞書についてのプレゼンテーション（第4グループ）	
	手持ちの複数の辞書や電子辞書に入っている様々な大きさの辞書を比べて、その役割の違いを考えておく	60分
第8回	前半のまとめ（前半扱った事柄に関して、前半の資料を見ながら、あるいは各自新たな考察を加えて、授業中まとめて記述して提出してもらいます）	
	前半の講義でやったことを振り返っておく	120分
第9回	辞書のパフォーマンスを知る--映画やコミックなどに出てくる「俗語」あるいは「新語」などはどのくらい辞書に出ているか？ 辞書についてのプレゼンテーション（第5グループ）	
	DVDの映画字幕や洋書、手持ちがあれば英語のコミックなどを見て、俗語と思われる単語を拾っておく。英語が苦手な人は、日本語のコミックなどを使ってもよい。	60分

第10回	辞書の「マクロ構造」--1冊の辞書の中はどのような構造になっているか？ 辞書の「ミクロ構造」--１つの項目（entry）の中はどういう構造になっているか？--見出し語・発音・訳語/定義・用例・語源情報… 辞書についてのプレゼンテーション（第6グループ）	
	手持ちの辞書や電子辞書の中の辞書全体の構造や１つの大きめの項目の中の構成（どういう要素が入っているか）を見ておく	60分
第11回	国語辞書・英語関連の辞書など以外の、メジャーな辞書以外の辞書を考える--初修外国語の辞書、変り種の辞書、etc.--その完成度や使い勝手は？ 辞書についてのプレゼンテーション（第7グループ）	
	初修外国語の辞書や、その他普段あまり使わない辞書を見て、いわゆる「メジャーな辞書」と比べて違いがあるかどうか見ておく	60分
第12回	電子辞書徹底比較--カシオ、シャープ、SII（セイコー）、キャノンの電子辞書４社の様々な辞書を比較し、使い勝手や今まで知らなかった機能を知ろう 辞書についてのプレゼンテーション（第8グループ）	
	手持ちの電子辞書を改めていじってみて、どういう辞書や機能が入っているか改めて徹底的に見て、書き出してみる。	60分
第13回	辞書を越えた電子辞書の使い方を考える--追加コンテンツや辞書以外の機能の活用/スマホ（アプリ）辞書やオンライン辞書の役に立つ使い方を考える 辞書についてのプレゼンテーション（第9グループ）	
	普段使う電子辞書やスマホの辞書の中で、辞書機能以外の機能を使ってみたり、斬新な使い方（アイデア）を提案できるか考えてみる。	60分
第14回	辞書の商業的な意味を考える--いわゆる「電子辞書」は「ガラケー」と同じ運命をたどるのか？紙の辞書の将来は？「辞書執筆者」は職業として成り立つのか？ 未来への提言--誰もにとって、よりよい、使いやすい辞書とは？ 辞書についてのプレゼンテーション（第10グループ）	
	電子辞書やスマホ辞書で、将来的にこう発展していってほしいという機能や方向性を考えてみる。	60分
第15回	後半のまとめ（後半扱った事柄に関して、前半の資料を見ながら、あるいは各自新たな考察を加えて、授業中まとめて記述して提出してもらいます）	
	後半で見たことや考えたことを見直しておく。期末レポートのテーマ（題材）について具体的に考えておく。	120分

授業の方法

担当教員による講義、辞書発達史の文献（日本語）の購読、実際の定義などの体験などの演習に加え、第4回目からは、グループに分かれて、あるいは個人で１つまたは複数の辞書をテーマに選び、調査（手持ちの辞書との比較など）し、良いところ、悪いところなどを交代でプレゼンしてもらいます。プレゼンは、グループでも個人でも全然構いません。個人のプレゼンも大歓迎です。

成績評価の方法

授業の積極的な参加(35%)、2度（第8回・第15回に）行う到達度・理解度の記述提出（25%)、プレゼンテーションと期末のレポート提出（各自好きな辞書を選んでレビューする、または辞書の「取扱説明書」を書く）（プレゼンとレポートを合わせて40%)を基準にして評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。「ことば」について、あるいは「辞書」について、興味があることが条件です。

テキスト

特にテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付しながら進めていきます。

参考書

英語辞書物語-時代を創った辞書とその編者たち〈上〉（小島 義郎, エレック選書）--9784755889110
英語辞書物語-時代を創った辞書とその編者たち〈下〉（小島 義郎, エレック選書）--9784755889127

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	武蔵野地域研究		
教員名	高田　昭彦		
科目ナンバー	1101416010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

「武蔵野地域」が対象ですが、当面は「武蔵野市」のエリアで考えます。武蔵野市が日本に誇れるものは幾つかありますが、その内の一つに「市民活動」と「ボランティア」があります。
2012年度と2013年度は、武蔵野市の「市民活動団体・NPO」に焦点を合わせて、それらの代表や事務局長の方に団体としての活動を紹介していただきました。今回は人に焦点を合わせます。
武蔵野市にはとてもユニークな人たちが沢山います。その中から広い意味で草の根から社会を変えようという意識で活動している人たちをピックアップして、授業で話していただきます。現段階では個々の人たちにまだアポイントメントを取っていませんので、活動の概要を紹介するに留めます。しかしこういう人たちが語ってくれる人生とは、これから社会に出て行くみなさんにとってすごく参考になると思います。活動分野としては環境、福祉、まちづくり、国際協力などを考えています。

到達目標

受講者に、地域で様々な問題解決に自主的に取り組んでいる団体があることを周知し、そこで活動している方々の豊富な人生経験に接して、これから社会に出たときに何を大切にしなければならないかということを各自で考えてもらえればと思います。このことは就職後あるいは結婚後の生活を豊かなものにします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業全体の説明。テープ起こしを担当する班の確定。	
	準備は要りません。	30分
第2回	以下に授業で話していただく予定の方を説明をします。具体的な氏名はまだですが、こういう領域の方を招くと考えていてください。 「ハモニカ横丁朝市実行委員会」の若い女性。ハモニカ横丁では、毎月第３日曜日に朝市をやっています。	
	事前の準備は要りませんが、授業の後、その授業を録音したUSBを担当の班に渡しますので、期日までにテープ起こしをして提出してください。	テープ起こしにかかる時間は、だいたい3時間が目安です。
第3回	多摩地域30市町村のまちづくりを推進する「東京にしがわ大学」の事務局の若い女性。	
	事前の準備は要りませんが、授業の後、その授業を録音したUSBを担当の班に渡しますので、期日までにテープ起こしをして提出してください。	テープ起こしにかかる時間は、だいたい3時間が目安です。

第4回	子育て中のママの役に立つ情報をまとめたマップづくりをしている「子どもも大人も楽しむ生活プロジェクト」（モモプロジェクト）の事務局の女性。	
	事前の準備は要りませんが、授業の後、その授業を録音したUSBを担当の班に渡しますので、期日までにテープ起こしをして提出してください。	テープ起こしにかかる時間は、だいたい3時間が目安です。
第5回	吉祥寺南町コミュニティセンターで、高齢者の食事の配食活動をしている団体の女性。	
	事前の準備は要りませんが、授業の後、その授業を録音したUSBを担当の班に渡しますので、期日までにテープ起こしをして提出してください。	テープ起こしにかかる時間は、だいたい3時間が目安です。
第6回	視覚障がい者のロッククライミングを推進している団体の代表。	
	事前の準備は要りませんが、授業の後、その授業を録音したUSBを担当の班に渡しますので、期日までにテープ起こしをして提出してください。	テープ起こしにかかる時間は、だいたい3時間が目安です。
第7回	子どもたちに本当の自然を体験させるために、武蔵野市と協働でビオトープや公園づくりなど武蔵野の自然の再生のために活動している団体の代表。	
	事前の準備は要りませんが、授業の後、その授業を録音したUSBを担当の班に渡しますので、期日までにテープ起こしをして提出してください。	テープ起こしにかかる時間は、だいたい3時間が目安です。
第8回	武蔵野市に唯一残された雑木林を管理・保全している団体の代表。某有名大学の教授でもある。	
	事前の準備は要りませんが、授業の後、その授業を録音したUSBを担当の班に渡しますので、期日までにテープ起こしをして提出してください。	テープ起こしにかかる時間は、だいたい3時間が目安です。
第9回	全国でも有名な高齢者福祉に先進的な取り組みをしている武蔵野市で、高齢者向けのテンミリオンハウスの運営を受託している団体の代表。	
	事前の準備は要りませんが、授業の後、その授業を録音したUSBを担当の班に渡しますので、期日までにテープ起こしをして提出してください。	テープ起こしにかかる時間は、だいたい3時間が目安です。

第10回	途上国の社会問題解決に結びつく現地の商品の輸入販売をしている団体の事務局の人。	
	事前の準備は要りませんが、授業の後、その授業を録音したUSBを担当の班に渡しますので、期日までにテープ起こしをして提出してください。	テープ起こしにかかる時間は、だいたい3時間が目安です。
第11回	外国人の生活支援、コミュニケーション支援、多文化共生のまちづくりを行っている武蔵野市の外郭団体のスタッフ。	
	事前の準備は要りませんが、授業の後、その授業を録音したUSBを担当の班に渡しますので、期日までにテープ起こしをして提出してください。	テープ起こしにかかる時間は、だいたい3時間が目安です。
第12回	イングリッシュガーデンの経験を基に、園芸や環境計画を学び、武蔵野市の「農業体験教室」など土にふれあう活動を推進している団体の代表。	
	事前の準備は要りませんが、授業の後、その授業を録音したUSBを担当の班に渡しますので、期日までにテープ起こしをして提出してください。	テープ起こしにかかる時間は、だいたい3時間が目安です。
第13回	武蔵野市のコミュニティFM放送で、街の生の情報を伝えるボランティアのインタビュー記者を束ねて、また武蔵野市在住のユニークな人たちを紹介する番組にも関わっている女性。	
	事前の準備は要りませんが、授業の後、その授業を録音したUSBを担当の班に渡しますので、期日までにテープ起こしをして提出してください。	テープ起こしにかかる時間は、だいたい3時間が目安です。
第14回	1978年に結成された「社会教育を考える会」の中心メンバーで、武蔵野市で一貫して市民活動を推進してきた女性。	
	事前の準備は要りませんが、授業の後、その授業を録音したUSBを担当の班に渡しますので、期日までにテープ起こしをして提出してください。	テープ起こしにかかる時間は、だいたい3時間が目安です。
第15回	授業のまとめ	
	テープ起こしをした学生は、授業で一番感銘を受けた人物をあげ、どこにどのように感銘したかをA4で１枚のレポートにまとめて提出すること。 テープ起こしをしなかった学生には、別に課題を出すのでそれを提出すること。	90分。

授業の方法

受講者の人数に応じて班分けを行う。その班はそれぞれの授業講師のテープ起こしを行う。それと同時に、講師への質問、講義後のコーヒータイムにおいて中心的役割を担う。彼らが行ったテープ起こしは、今まで前４回がそうであったように、最終的に冊子にまとめる。

成績評価の方法

講義後の質問タイムに質問をした者やコーヒータイムに参加した者、テープ起しなどの作業に関わった者は大いに評価します。欠席は４回までです（学則による）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目を上げるならば、文学部後期金曜３限に開講している「NPOの社会学」は、この「武蔵野地域研究」の理論編になっています。これを取っていれば、講義がより分かりやすくなります。

テキスト

特になし。

参考書

広井良典『コミュニティを問いなおす』ちくま新書、2009年8月。
高田昭彦「武蔵野市のコミュニティ政策（基盤整備期）」『成蹊大学文学部紀要』第46号、2011年3月。
高田昭彦「武蔵野市のコミュニティ政策（政策定着期）」『成蹊大学文学部紀要』第49号、2014年3月。
『コミセンによるコミュニティづくり』（2011年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（１）』（2012年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（２）』（2013年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の後直接、あるいはメールで質問や相談をしてください。文句を言う学生は歓迎します。

科目名	成蹊環境セミナー		
教員名	山田　勝己		
科目ナンバー	1101416020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本授業では、地球環境問題と組織の環境経営を通して、環境マネジメントシステム（EMS）について学ぶ。特に本学園の環境マネジメントシステム、国際規格ISO14001の誕生の背景と内容を理解する。

到達目標

環境問題及び環境経営を理解し、内部環境監査の手法を演習により学び、内部環境監査を実施出来るレベルに達する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス、地球環境問題 ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・地球環境問題についての基本的な考え方を学修する。	
	【予習】シラバスをよく読んで、授業の計画・内容を理解しておく。	３０
第2回	環境関連法規制 ・環境法規制と組織の同意するその他要求事項について学修する。	
	【予習】環境関連法規制について、どの様なものがあるか調べておく。	３０
第3回	環境ビジネス、環境コミュニケーション ・企業の環境ビジネス及び環境コミュニケーションの考え方について学修する。	
	【予習】環境ビジネス、環境コミュニケーションについて調べておく。	３０

第4回	ISO14001誕生の背景と内容、規格要求事項の説明 ・ISO14001誕生の背景と内容、また規格が要求する事項について学修する。 ＊課題レポート①ISO14001規格要求事項の内容を簡潔にまとめ提出する。	
	【予習】ISO14001の要求事項と、その内容について調べておく。	60
第5回	企業の環境経営事例① ・製造業（家電、自動車）の環境経営事例を理解し、その特色について学修する。	
	【予習】製造業（家電、自動車）の環境経営の実践例を調べておく。	３０
第6回	企業の環境経営事例② ・流通業（商社、運送業）の環境経営事例を理解し、その特色について学修する ＊課題レポート②企業の環境経営の特色を簡潔にまとめ提出する。	
	【予習】流通業（商社、運送業）の環境経営の実践例を調べておく。	３０
第7回	成蹊学園環境マネジメントシステム① ・成蹊学園の環境方針、環境目標の設定及びその管理について理解し、マネジメントシステムの運用の仕方について学修する。	
	【予習・復習】成蹊学園の環境マニュアルを読み、内容を理解する。	90
第8回	成蹊学園の環境マネジメントシステム② ・成蹊学園の環境コミュニケーション方法、内部環境監査、マネジメントレビューについて理解し、マネジメントシステムの運用の仕方について学修する。 ＊課題レポート③成蹊学園の環境マネジメントの改善提案を提出する。	
	【予習・復習】成蹊学園の環境マニュアルを読み、内容を理解する。	90
第9回	内部環境監査の実施の手引き ・内部環境監査の計画書、環境活動実施チェックシートを理解することで、実際の内部環境監査の流れと手法を学修する。 ＊課題レポート④内部環境監査の流れと重要ポイントについての内容を簡潔にまとめ提出する。	
	【予習・復習】成蹊学園の環境活動実施チェックシートを理解する。	30

第10回	内部環境監査演習１（監査の実施①） ・模擬の内部環境監査もしくは、場合によっては大学の内部環境監査または外部組織の内部環境監査の現場をオブザーバー参加または見学することで、内部環境監査の仕方を学修する。	
	【予習・復習】成蹊学園の環境活動実施チェックシートを理解する。	30
第11回	内部環境監査演習２（監査の実施②） ・模擬の内部環境監査もしくは、場合によっては大学の内部環境監査または外部組織の内部環境監査の現場をオブザーバー参加または見学することで、内部環境監査の仕方を学修する。	
	【予習・復習】成蹊学園の環境活動実施チェックシートを理解する。	３０
第12回	内部環境監査演習３（是正処置の要求） ・内部環境監査の結果に基づいた、不適合に対する是正処置の要求の仕方を学修する。	
	【予習・復習】内部環境監査演習のレビューをグループでしておく。	30
第13回	内部環境監査演習４（監査報告書作成） ・内部環境監査結果報告書を作成することで、監査結果の説明の仕方について学修する。	
	【予習・復習】内部環境監査演習のレビューをグループでしておく。	30
第14回	内部環境監査演習５（監査後フォロー） ・是正処置報告書のフォローアップにより、一連の内部環境監査の手順を再度学修する。	
	【予習・復習】監査報告書のレビューをグループでしておく。	30
第15回	全体のまとめ ・授業のまとめ、質疑応答	
	【復習】内部環境監査演習のレビューをグループでしておく。	30

授業の方法

授業は前半45分を講義主体、後半45分を演習主体として進める。授業において定期的に課題を提示する。演習は与えられた課題について、グループでディスカッションし・作業を経て発表を行う。内部環境監査演習１（監査の実施①）、内部環境監査演習２（監査の実施②）では、模擬の内部環境監査を実施もしくは、場合によっては大学の内部環境監査または許可を得た外部組織の内部環境監査の現場をオブザーバー参加または見学する。学生はその都度、課題についてレポートを作成し、提出することを求められる。

なお、各課題レポートの狙いは以下の通りである。

・課題レポート①～④：授業の内容が理解できているか確認する。

成績評価の方法

出席（40%）、演習（40%）、課題レポート（10%）、授業中の発言や質問、積極的な参加（10%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

①自分達の行動から環境に影響を与える事象を抽出評価をすることがきる。

②内部環境監査のチェックリストを作成することができる。

③内部環境監査結果報告書を作成することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

プリント配布

参考書

JIS Q 14001:2004「環境マネジメントシステム-要求事項及び利用の手引き」日本規格協会

JIS Q 19011:2012「マネジメントシステム監査のための指針」日本規格協会

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	地域福祉論		
教員名	澁谷　智子		
科目ナンバー	1101416030	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

地域福祉は、どこで、誰と、どのように暮らしていこうとするのかに深く関わる領域である。今の日本の社会福祉は、経済構造や社会状況の変化に合わせてさまざまな改革が試みられているが、その中で、生活の基盤である地域は重視され、在宅福祉サービス、ボランティア活動の推進など、住民を主体にした福祉のあり方が模索されている。この授業では、地域福祉の理念とその歴史について学び、自分と関わりのある地域で、住民が連携してお互いを支え合う仕組みがどのように作られているのかを考える。

到達目標

地域福祉が重視されるようになった経緯や地域福祉の考え方、その実践の仕組みを理解し、自分と関わりのある地域で、具体的にどのような試みがなされているのかを知る。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	地域福祉とは？	
	プリントの復習	15
第2回	コミュニティ・ケア	
	プリントの復習	15
第3回	地域福祉の歴史と理念	
	プリントの復習	15

第4回	地域福祉とソーシャル・サポート・ネットワーク	
	プリントの復習	15
第5回	地域の特性を知るということ	
	自分と関わりのある地域について調べる。	30
第6回	地域福祉計画とは？	
	自分と関わりのある地域の福祉計画を見る。	15
第7回	福祉計画――武蔵野市の場合	
	授業の内容に即して自分の意見をまとめる。	15
第8回	ケアマネジメントとは？	
	プリントの復習	15
第9回	ボランタリズムとボランティア	
	自分と関わりのある地域にどのような団体があるかを調べる。	30

第10回	子どもの貧困への支援	
	期末レポートに向け、情報を収集する。	60
第11回	イギリスのヤングケアラー支援	
	期末レポートに向け、情報を収集する。	60
第12回	地域における介護者支援	
	期末レポートに向け、情報等を読み込む。	60
第13回	地域福祉に関わる人材①	
	期末レポートの構成やアウトラインを考える。	60
第14回	地域福祉に関わる人材②	
	期末レポートを執筆する。	120
第15回	まとめ	
	期末レポートを執筆する。	120

授業の方法

プリントを配布し、必要に応じてインターネットや映像等を使いながら、講義を行う。

成績評価の方法

学期末のレポート試験（50%）と、授業への出席・授業中の課題（50%）で、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「社会福祉概論」「社会福祉事業史」「老人福祉論」

テキスト

授業で配布するプリント

参考書

上野谷加代子・松端克文・山縣文治編，2010，『よくわかる地域福祉　第４版』ミネルヴァ書房，ISBN978-4-623-05742-9，2200円＋税.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	武蔵野市寄附講座　（昭和のサブカルチャー研究）		
教員名	中江　桂子		
科目ナンバー	1101416050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この講座では，昭和の時代のサブカルチャーの一つひとつをテーマに取り上げます。
昭和――すなわち戦前、戦争の時代、戦後の時代を経て、やがて獲得した民主主義の自由の中で、闊達に自由な表現を求め、新しい表現を通じて世界を拓く実践をしてきた人びとに学ぶ機会としたいと思います。サブカルチャーを生きる人びとの生き方やその仕事、その言葉に接する機会を得ることによって、時代の閉塞感が重くのしかかっている現代に生きる私たちは、自分の問題として何を学べるのでしょうか。このような問いかけを、この講座に参加する私たちに共通の姿勢とします。
さまざまな講演者をお迎えして授業にご協力いただきます。以下の方々にご登壇の承諾をいただいていますが、2回から14回までの授業の順番は、講師の都合により微調整がありえます。最新情報にご注意ください。

到達目標

昭和を中心とした時代の、サブカルチャーの歴史および社会史の概略を理解すること。
その理解の結果として、現在まさに生きられている人々の文化にたいし、新しいアプローチの可能性を探ること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の全体の構造に関する授業。 授業の目的についての説明。 サブカルチャーという概念の多様性について。（中江桂子）	
	授業全体の計画を理解すること。 授業に参加する心構えを理解すること。	60分
第2回	ゲテモノから女王へ――美空ひばりとその時代 （市川孝一／明治大学文学部教授）	
	前回の授業の復習。その授業内容をうけて、自分が思考したことを記述し、まとめておくこと。	60分
第3回	昭和女装者列伝――トランスジェンダー・カルチャーの昭和史 （三橋順子／性社会・文化史研究者）	
	前回の授業の復習。その授業内容をうけて、自分が思考したことを記述し、まとめておくこと。	60分

第4回	講演者交渉中。	
	前回の授業の復習。その授業内容をうけて、自分が思考したことを記述し、まとめておくこと。	60分
第5回	ボーイスカウトとサーカス――少年探偵団の挑戦 （浜田雄介／成蹊大学文学部教授）	
	前回の授業の復習。その授業内容をうけて、自分が思考したことを記述し、まとめておくこと。	60分
第6回	中間のまとめ ”不気味さ”の可能性について（中江桂子）	
	前回の授業の復習。その授業内容をうけて、自分が思考したことを記述し、まとめておくこと。	60分
第7回	漫画というメディアと昭和 （夏目房之介／漫画評論家・漫画家）	
	前回の授業の復習。その授業内容をうけて、自分が思考したことを記述し、まとめておくこと。	60分
第8回	村上春樹とジャズのクールな関係 （宮脇俊文／成蹊大学経済学部教授）	
	前回の授業の復習。その授業内容をうけて、自分が思考したことを記述し、まとめておくこと。	60分
第9回	パルコ文化と『ビックリハウス』――アイディアをカタチにする技法 （榎本了壱／クリエイティブ・ディレクター・『ビックリハウスSUPER』元編集長）	
	前回の授業の復習。その授業内容をうけて、自分が思考したことを記述し、まとめておくこと。	60分

第10回	中間のまとめ 常識をくつがえすアイディアの守り方？（中江桂子）	
	前回の授業の復習。その授業内容をうけて、自分が思考したことを記述し、まとめておくこと。	60分
第11回	フォークソングのめざすもの――うたがつなぐ力 （中川五郎／フォークシンガー）	
	前回の授業の復習。その授業内容をうけて、自分が思考したことを記述し、まとめておくこと。	60分
第12回	紙芝居の影響力――街角の娯楽から見る社会 （鈴木常勝／紙芝居屋）	
	前回の授業の復習。その授業内容をうけて、自分が思考したことを記述し、まとめておくこと。	60分
第13回	「間―魔」のをどりを語る （麿　赤兒／舞踏家・俳優・舞踏集団『大駱駝艦』主宰）	
	前回の授業の復習。その授業内容をうけて、自分が思考したことを記述し、まとめておくこと。	60分
第14回	宮崎駿+スタジオジブリ――その魅力は何か （千葉伸夫／映画評論家）	
	前回の授業の復習。その授業内容をうけて、自分が思考したことを記述し、まとめておくこと。	60分
第15回	全体のまとめと総括 サブカルチャーの意義・再考。 （中江桂子）	
	授業全体を振り返って、この講義の意味と意義について理解すること。	60分

授業の方法

毎回異なるゲストスピーカーによる講義形式で行う。講義の最後には質疑応答の時間を取る予定。

成績評価の方法

提出物の成果、および授業への積極的な参加状況の成績の合計点により，総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

サブカルチャーはもちろん、文化現象に広く好奇心と興味をもっていること。

テキスト

特に指定はしない。

参考書

特に指定はしない。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	人権とジェンダー		
教員名	竹内　敬子		
科目ナンバー	1101417010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

現代社会におけるジェンダーをめぐるさまざまな問題を、人権という視点を重視しながら学ぶ。女性も男性も、そして、多様なジェンダー・アイデンティティやセクシュアリティを持つ人々も、すべての人が自由に生き生きと自分らしく生きられる社会とは？ということを考えて行きたい。

到達目標

①ジェンダーに関する基礎的な知識を修得する。
②日常生活のすみずみに埋め込まれたジェンダーの構造を見抜く鋭い物の見方が出来るようになる。
③上記に基づき、今後のジェンダーの望ましいあり方について自分なりの見解を持つ。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	女性・男性・ジェンダー	
	関連する文献や新聞記事を読む。（授業前＆授業後）	60
第2回	セクシュアリティとジェンダー	
	関連する文献や新聞記事を読む。（授業前＆授業後）	60
第3回	労働とジェンダー(1)	
	関連する文献や新聞記事を読む。（授業前＆授業後）	60

第4回	労働とジェンダー(2)	
	関連する文献や新聞記事を読む。（授業前＆授業後）	60
第5回	ジェンダーの歴史学	
	関連する文献や新聞記事を読む。（授業前＆授業後）	60
第6回	世界の女性たち(1)	
	関連する文献や新聞記事を読む。（授業前＆授業後）	60
第7回	世界の女性たち(2)	
	関連する文献や新聞記事を読む。（授業前＆授業後）	60
第8回	恋愛・結婚・家族	
	関連する文献や新聞記事を読む。（授業前＆授業後）	60
第9回	好きだけど、NOと言えるわたしに－「当たり前」を問い直そう－ （武蔵野市男女共同参画で前講座。ゲストスピーカー）	
	関連する文献や新聞記事を読む。（授業前＆授業後）	60

第10回	教育とジェンダー(1)	
	関連する文献や新聞記事を読む。（授業前＆授業後）	60
第11回	教育とジェンダー(2)	
	関連する文献や新聞記事を読む。（授業前＆授業後）	60
第12回	メディアとジェンダー(1)	
	関連する文献や新聞記事を読む。（授業前＆授業後）	60
第13回	メディアとジェンダー(2)	
	関連する文献や新聞記事を読む。（授業前＆授業後）	60
第14回	グローバリゼーションとジェンダー	
	関連する文献や新聞記事を読む。（授業前＆授業後）	60
第15回	まとめ	
	前期の授業のふりかえり。	60

授業の方法
講義を中心とするが、適宜、映像資料も利用する。

成績評価の方法
学期末試験（70%）、レスポンスペーパーや小レポート（30%）。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
関連科目としては、「家族社会学」「ジェンダー論」など。

テキスト
特に定めない。

参考書
伊藤公雄他『女性学・男性学改訂版ージェンダー論を学ぶ人のために』（有斐閣アルマ）
杉本貴代栄『女性学入門ージェンダーで社会と人生を考える』（ミネルヴァ書房）
高橋準『ジェンダー学への道案内』（北樹出版）
田中俊行『男性学の新展開』（青弓社）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	青年の心と身体		
教員名	林　潤一郎、岩田　淳子		
科目ナンバー	1101417020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本講義では、青年期を生きる大学生の多くに生じる様々な悩みや取り組む課題について、あるいは大学生活で直面する可能性のある危機的な問題に対して、その特徴を理解するとともに、それらに備えるべく必要な知識を得ることを目的としている。

本講義は本学学生相談室との連携科目であり、各テーマを専門とする外部講師による講演や大学カウンセラーによる講義を中心としたオムニバス形式で行われる。前半は主に「大学生の生活」にまつわるテーマを扱い、後半は主に「大学生が体験することの多い困難・問題とその対策」にまつわるテーマを扱う。

また、本講義は、聴講するのみならず、各テーマについて自らの体験を振り返るとともに、受講生一人一人が積極的に向き合い、自分自身で考え、（受講生同士の匿名性は保持される形ではあるものの）その考えを表明することを重視する場としたい。こうしたお互いの考えや経験を他人と共有する機会を通して、他者の意見や考えを尊重し、それに対して理解を深めるとともに、自分自身の見解を育て、一層深めていくことを経験する機会にしたいと考えている。

なお、外部講師の都合や受講生の希望および担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。

到達目標

（１）各テーマを積極的に聴講し、それぞれの専門領域における基礎的な知識を得ること。
（２）知識の習得にとどまらず、自らの実体験と照らし合わせながら理解を深めること。
（３）各テーマにおける自分自身の経験や意見を大切にしながら、他人の経験や見解にも積極的に耳を傾けることを通じて、自らの見解をさらに深め、精緻化すること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	オリエンテーション ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を知る。 大学における学びの意義とアイデンティティ形成 ・大学での学びの特徴と意義を理解する。 ・大学での学びとアイデンティティ形成の関係を理解する。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第2回	大学生と友人関係 ・大学生における友人関係の特徴や影響を理解する。 ・大学生にみられる友人関係の変遷を理解する。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第3回	大学生と親との関係 ・大学生における親子関係の特徴や影響を理解する。 ・大学生にみられる親子関係の変遷を理解する。	

	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第4回	大学生におけるやさしさとコミュニケーション（※） ・やさしさの在り方や変遷を切り口として、大学生のコミュニケーションについて学ぶ。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第5回	大学生と睡眠 ・大学生活を送る上で知っておくとよい睡眠についての知識を得る。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第6回	大学生と性（※） ・大学生活を送る上で知っておくとよい性に関する知識を得る。 ・セクシャルマイノリティについて理解する。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第7回	大学生とカルトの問題（※） ・大学生活で直面する可能性のあるカルトの問題について学ぶ。 ・カルトの問題に対する予防的知識および対策を学ぶ。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第8回	大討論会（１） ・授業で扱ったいくつかのテーマを題材として、レスポンスシートにみられた様々な意見や見解を振り返り、その多様性を共有する。 ・他人に意見や見解を尊重して積極的に耳を傾けるとともに、自分の見解をさらに精緻化する。 ・必要に応じて、いくつかのテーマにおける更なる問題提起や情報提供を行う。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60

第9回	大学生と引きこもりやニート（※） ・大学生が経験する（もしくは接する）可能性のある引きこもりやニートについて学ぶ。 ・引きこもりやニートを理解し、支援する方法について学ぶ。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第10回	大学生とインターネット依存 ・大学生活を送る上で知っておくべき依存の問題について学ぶ。 ・インターネット依存の特徴とその対策について学ぶ。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第11回	大学生と発達障害 ・大学生が知っておくべき発達障害についての知識を得る。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第12回	大学生と精神医学（※） ・大学生が知っておくべき精神医学の知識について学ぶ。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第13回	大学生と自殺予防 ・自殺およびその予防に関する正しい知識と理解を得る。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第14回	大学生とこころの健康を守り方 ・大学生活を送る上で知っておくべきこころの健康とその守り方について学ぶ。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60

第15回	大討論会（２） ・授業で扱ったいくつかのテーマを題材として、レスポンスシートにみられた様々な意見や見解を振り返り、その多様性を共有する。 ・他人に意見や見解を尊重して積極的に耳を傾けるとともに、自分の見解をさらに精緻化する。 ・必要に応じて、いくつかのテーマにおける更なる問題提起や情報提供を行う。 授業のまとめ	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60

授業の方法

授業は講義中心に進める。授業において毎回、レスポンスシートの提出を求める。「大検討会」では、それまでのレスポンスシートをもとに、いくつかのテーマについて紙上討論を行う。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

なお、レスポンスシート、期末レポートの狙いは以下のとおりである。

・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる（なお、レスポンスシートの内容に対するフィードバックを次回の講義にて実施予定である）。

・期末レポート：授業での学修内容および授業を通して得られた自分自身の見解（意見）を確認する。

また、出欠確認のためにハンディターミナルカードリーダーを使用する可能性があるため、学生証は必ず持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点（40%）、期末レポート（60%）、により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その到達度により評価する。

（１）各テーマを積極的に聴講し、それぞれの専門領域における基礎的な知識を得ること。

（２）知識の習得にとどまらず、自らの実体験と照らし合わせながら理解を深めること。

（３）各テーマにおける自分自身の経験や意見を大切にしながら、他人の経験や見解にも積極的に耳を傾けることを通じて、自らの見解をさらに深め、精緻化すること。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：自己理解の心理学／心理学の基礎

テキスト

特になし。各回のレジュメは事前にSeikei Portalにアップロードされるか講義時に配布される。事前にSeikei Portalにアップロードされる資料は各自プリントアウトして持参すること。

参考書

授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	こどもと社会 <1>		
教員名	駒谷　真美		
科目ナンバー	1101417030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

・本講義の概要として、第一段階では、高度情報化社会に生きる”いまどきの子ども達”の様相を浮き彫りにする。多メディア時代の子ども達には、メディアリテラシー（メディアを主体的に読み解く能力）が必要である。そのために次段階では、幼稚園・保育所や小学校の教育現場や家庭で活用できるメディアリテラシー教育の理論と実践を紹介しながら、基本的理解を深めていく。
・本講義全体のテーマは、高度情報化時代を生き抜くために、子ども達にとって必要不可欠なメディアリテラシーの基礎理解である。子ども達が「メディアと楽しく上手につきあう方法」を理解することである。

到達目標

・具体的な到達目標は、①子どもを取り巻く社会とメディアの環境の現状を把握する　②現代社会におけるメディアリテラシーの必要性を理解する　③子どもの発達段階に即したメディアリテラシー教育の在り方を学ぶことである。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス −シラバスに沿った講義概要の説明を聞き、理解する —成蹊ポータルによる授業資料の取り方と掲示チェック方法の説明を聞き、把握する —本講義に関連するメディアに関するアンケートに回答する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時のシラバスと授業資料をダウンロードし保存する —プリントアウトしたシラバスと授業資料を熟読する —テキストを購入する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする —ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	30
第2回	メディア社会の成り立ち（1） −子どもとメディアの歴史：昭和前半について学修する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する —プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする —ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第3回	メディア社会の成り立ち（2） −子どもとメディアの歴史：昭和後半〜平成前半について学修する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時の授業資料（ワークシートを含む）をダウンロードし保存する —プリントアウトした授業資料（ワークシートを含む）とテキスト類を熟読する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料（ワークシートを含む）と共にファイリングする —ファイリングした資料（ワークシートを含む）とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60

第4回	メディア社会の成り立ち（3） −子どもとメディアの歴史：平成後半（現在まで）について学修する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時の授業資料（ワークシートを含む）をダウンロードし保存する —プリントアウトした授業資料（ワークシートを含む）とテキスト類を熟読する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料（ワークシートを含む）と共にファイリングする —ファイリングした資料（ワークシートを含む）とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第5回	子どもとメディアの関わり（1） −子どもを取り巻くメディア環境について学修する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時の授業資料（ワークシートを含む）をダウンロードし保存する —プリントアウトした授業資料（ワークシートを含む）とテキスト類を熟読する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料（ワークシートを含む）と共にファイリングする —ファイリングした資料（ワークシートを含む）とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第6回	子どもとメディアの関わり（2） −子どもの発達と映像メディア（テレビ）について学修する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する —プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする —ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第7回	子どもとメディアの関わり（3） −子どもに及ぼす映像メディア（テレビ）の影響について学修する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する —プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする —ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第8回	子どもとメディアの関わり(4) −子どもとゲーム・ネット・スマホの現状・影響・つきあい方について学修する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する —プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする —ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第9回	メディア社会における子どもの未来 −子どもと最新メディアの動向について学修する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する —プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする —ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60

第10回	メディアリテラシー教育（1） -意義・海外の動向について学修する	
	【予習】 ―成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する ―プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 ―講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ―ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第11回	メディアリテラシー教育（2） -日本の動向・実践例について学修する	
	【予習】 ―成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する ―プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 ―講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ―ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第12回	メディアの制作者側の視点（1） -ゲストスピーカー（広告業界）による講義で、広告の製作者の意図について学修する	
	【予習】 ―成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する ―プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 ―講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ―ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第13回	メディアの制作者側の視点（2） -ゲストスピーカー（テレビ局の出前授業もしくはメディア関係者）による講義で、番組製作者の意図について学修する	
	【予習】 ―成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する ―プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 ―講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ―ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第14回	到達度確認テスト ―本講義の学修内容について理解度の確認	
	【予習】 ―到達度確認テストの準備をする ―これまでの学修内容を確認する ―テキスト・ワークシート・ハンドアウトを復習する	120
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答―総括	
	【復習】 ―到達度確認テストの結果を振り返る ―到達目標と自分の理解度を点検する ―不足している知識を再確認し、学修する	60

授業の方法

・授業は、講義中心に進める。
・テキストやDVD・ネットなどの視聴覚教材と成蹊ポータルにアップした授業資料を元に講義内容を詳説する。
・メディアの制作者側の視点（1）（2）の回では、まとめてレポート（A4サイズ1枚・両面）を課する。レポートの書き方や提出方法は、講義中に告知する。
・出席は学生証をカードリーダーで読み込み、データを管理する。よって、毎回学生証を必ず持参し、講義前にカードリーダに通すことを課する。学生証忘れや盗難などの措置は、ガイダンスで告知する。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
・第8回以降は、ゲストスピーカーの都合で内容が前後する可能性がある。成蹊ポータルと講義中に事前に告知する。

成績評価の方法

・出席状況15%＋課題レポート35%＋到達度確認テスト50%で総合的に評価する。学期末試験は、講義関連資料・自筆ノートの持込を許可し、DVD視聴後または配布記事を読後、講義内容に関わる知見を記述するものである。
・課題レポートは所定用紙を配布する場合がある。その場合は、講義内の所定時間内で配布する。それ以後は決して配布しないので、注意する。
・課題レポートは、学期末試験時に答案用紙と一緒にホチキス止めして提出する。学期末試験には、各自ホチキスを持参すること。後出しは一切受け取らない。

成績評価の基準

・成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・テレビを始めとするメディアと幼児・児童教育に興味がある学生の受講を期待する。
・この授業の特徴はEdutainment＝Education + Entertainmentであるので、受講者自身も積極的に楽しんで学習してもらいたい。

テキスト

①『わくわくメディアたんけん-子どものメディアリテラシー-』　駒谷真美著（同文書院）
②資料がある場合は、成蹊ポータルに掲示するので、各自プリントアウトし講義に持参する
・①と②を入手しているのを前提として講義を進める。
・それ以外の資料は、授業の際にハンドアウトとして適宜配布する場合もある。

参考書

授業の際に適宜提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	こどもと社会 <2>		
教員名	駒谷　真美		
科目ナンバー	1101417030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

・本講義の概要として、第一段階では、高度情報化社会に生きる”いまどきの子ども達”の様相を浮き彫りにする。多メディア時代の子ども達には、メディアリテラシー（メディアを主体的に読み解く能力）が必要である。そのために次段階では、幼稚園・保育所や小学校の教育現場や家庭で活用できるメディアリテラシー教育の理論と実践を紹介しながら、基本的理解を深めていく。
・本講義全体のテーマは、高度情報化時代を生き抜くために、子ども達にとって必要不可欠なメディアリテラシーの基礎理解である。子ども達が「メディアと楽しく上手につきあう方法」を理解することである。

到達目標

・具体的な到達目標は、①子どもを取り巻く社会とメディアの環境の現状を把握する　②現代社会におけるメディアリテラシーの必要性を理解する　③子どもの発達段階に即したメディアリテラシー教育の在り方を学ぶことである。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス -シラバスに沿った講義概要の説明を聞き、理解する ―成蹊ポータルによる授業資料の取り方と掲示チェック方法の説明を聞き、把握する ―本講義に関連するメディアに関するアンケートに回答する	
	【予習】 ―成蹊ポータルから本時のシラバスと授業資料をダウンロードし保存する ―プリントアウトしたシラバスと授業資料を熟読する ―テキストを購入する 【復習】 ―講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ―ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	30
第2回	メディア社会の成り立ち（1） -子どもとメディアの歴史：昭和前半について学修する	
	【予習】 ―成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する ―プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 ―講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ―ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第3回	メディア社会の成り立ち（2） -子どもとメディアの歴史：昭和後半～平成前半について学修する	
	【予習】 ―成蹊ポータルから本時の授業資料（ワークシートを含む）をダウンロードし保存する ―プリントアウトした授業資料（ワークシートを含む）とテキスト類を熟読する 【復習】 ―講義中に取ったメモを整理し、授業資料（ワークシートを含む）と共にファイリングする ―ファイリングした資料（ワークシートを含む）とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60

第4回	メディア社会の成り立ち（3） –子どもとメディアの歴史：平成後半（現在まで）について学修する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時の授業資料（ワークシートを含む）をダウンロードし保存する —プリントアウトした授業資料（ワークシートを含む）とテキスト類を熟読する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料（ワークシートを含む）と共にファイリングする —ファイリングした資料（ワークシートを含む）とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第5回	子どもとメディアの関わり（1） –子どもを取り巻くメディア環境について学修する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時の授業資料（ワークシートを含む）をダウンロードし保存する —プリントアウトした授業資料（ワークシートを含む）とテキスト類を熟読する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料（ワークシートを含む）と共にファイリングする —ファイリングした資料（ワークシートを含む）とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第6回	子どもとメディアの関わり（2） –子どもの発達と映像メディア（テレビ）について学修する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する —プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする —ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第7回	子どもとメディアの関わり（3） –子どもに及ぼす映像メディア（テレビ）の影響について学修する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する —プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする —ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第8回	子どもとメディアの関わり(4) –子どもとゲーム・ネット・スマホの現状・影響・つきあい方について学修する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する —プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする —ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第9回	メディア社会における子どもの未来 –子どもと最新メディアの動向について学修する	
	【予習】 —成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する —プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 —講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする —ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60

第10回	メディアリテラシー教育（1） -意義・海外の動向について学修する	
	【予習】 ―成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する ―プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 ―講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ―ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第11回	メディアリテラシー教育（2） -日本の動向・実践例について学修する	
	【予習】 ―成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する ―プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 ―講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ―ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第12回	メディアの制作者側の視点（1） -ゲストスピーカー（広告業界）による講義で、広告の製作者の意図について学修する	
	【予習】 ―成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する ―プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 ―講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ―ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第13回	メディアの制作者側の視点（2） -ゲストスピーカー（テレビ局の出前授業もしくはメディア関係者）による講義で、番組製作者の意図について学修する	
	【予習】 ―成蹊ポータルから本時の授業資料をダウンロードし保存する ―プリントアウトした授業資料とテキスト類を熟読する 【復習】 ―講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ―ファイリングした資料とテキスト類を読み返しながら、本時の振り返りをする	60
第14回	到達度確認テスト ―本講義の学修内容について理解度の確認	
	【予習】 ―到達度確認テストの準備をする ―これまでの学修内容を確認する ―テキスト・ワークシート・ハンドアウトを復習する	120
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答―総括	
	【復習】 ―到達度確認テストの結果を振り返る ―到達目標と自分の理解度を点検する ―不足している知識を再確認し、学修する	60

授業の方法

・授業は、講義中心に進める。
・テキストやDVD・ネットなどの視聴覚教材と成蹊ポータルにアップした授業資料を元に講義内容を詳説する。
・メディアの制作者側の視点（1）（2）の回では、まとめてレポート（A4サイズ1枚・両面）を課する。レポートの書き方や提出方法は、講義中に告知する。
・出席は学生証をカードリーダーで読み込み、データを管理する。よって、毎回学生証を必ず持参し、講義前にカードリーダに通すことを課する。学生証忘れや盗難などの措置は、ガイダンスで告知する。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
・第8回以降は、ゲストスピーカーの都合で内容が前後する可能性がある。成蹊ポータルと講義中に事前に告知する。

成績評価の方法

・出席状況15%＋課題レポート35%＋到達度確認テスト50%で総合的に評価する。学期末試験は、講義関連資料・自筆ノートの持込を許可し、DVD視聴後または配布記事を読後、講義内容に関わる知見を記述するものである。
・課題レポートは所定用紙を配布する場合がある。その場合は、講義内の所定時間内で配布する。それ以後は決して配布しないので、注意する。
・課題レポートは、学期末試験時に答案用紙と一緒にホチキス止めして提出する。学期末試験には、各自ホチキスを持参すること。後出しは一切受け取らない。

成績評価の基準

・成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・テレビを始めとするメディアと幼児・児童教育に興味がある学生の受講を期待する。
・この授業の特徴はEdutainment＝Education + Entertainmentであるので、受講者自身も積極的に楽しんで学習してもらいたい。

テキスト

①『わくわくメディアたんけん-子どものメディアリテラシー-』　駒谷真美著（同文書院）
②資料がある場合は、成蹊ポータルに掲示するので、各自プリントアウトし講義に持参する
・①と②を入手しているのを前提として講義を進める。
・それ以外の資料は、授業の際にハンドアウトとして適宜配布する場合もある。

参考書

授業の際に適宜提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	老人福祉論		
教員名	大久保　洋子		
科目ナンバー	1101417040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

高齢者福祉の制度化や質のレベルは、国、地方自治体、あるいは地域住民の意識や活動など　によって大きく左右される。本講義では、高齢社会から超高齢社会への進展が意味するものを探り、高齢者福祉が完成レベルにあるスウェーデンの歩み、近く超高齢社会を迎える日本の現状と今後の展望、21世紀の新しい自立支援・促進型福祉のあり方などを論じる。今後の高齢者はどのように生きることが望ましいか、国、地方自治体、民間組織、地域住民はどのように意識の変革をとげ、いかなる役割を担っていくべきか、そして高齢者はいかにして尊厳のある積極的な生活を維持する自助意識をゆうしていくべきかなど、今後の課題をともに考えたい。この科目は、社会福祉主事任用資格を取得する福祉科目のひとつである。

到達目標

ひとの老化を脳・からだ・こころの視点から理解し、ひとの老化がもたらす生活問題とその対応策を考える素養を養う。少子化がもたらす高齢化率の上昇が、公的扶助や社会福祉・社会保険におよぼす影響を理解し、高齢者のＡＤＬ（日常生活動作能力）の低下を予防し、そのひとらしく自立意識を有して自己実現を果たそうとするＱＯＬ（生活の質）維持のために、国や自治体はどのような法的措置を実践し、地域住民はいかなる意識を有して連帯と共助の精神を発揮するのか、そして高齢者は健康維持と社会的活動によって尊厳を有しながら安定した幸福な生活を維持する自助の精神を有することができるのかを理解する。また、福祉先進国スウェーデンの高齢者福祉の歴史と理念・到達目標を学ぶことによって、わが国の高齢者福祉の課題を見出し今後のあるべき姿を考察する力を蓄える。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の内容・進め方・予習・復習の仕方、課題レポート作成・試験・出席等を含む評価の方法を説明する。	
	【予習】レジュメ１を熟読。	30
第2回	からだの老化とADLの変化	
	【復習】キーワードについて日本文・英文で説明できるようにする。	30
第3回	脳の老化とQOLの維持・回復	
	【予習】レジュメ２を熟読。 【復習】キーワードを日本文・英文で説明できるようにする。	60

第4回	スウェーデンにおける高齢者福祉の歩みと目標 福祉の萌芽「救貧法」と現物給付	
	【予習】レジュメ３－１および３－２を熟読。 【復習】「救貧法」の趣旨と現物給付のあり方を記憶する。	60
第5回	スウェーデンにおける 福祉の発展 「社会扶助法」と金銭給付（年金）	
	【予習】レジュメ３－３を熟読。 【復習】地方自治制度と役割、老齢年金制度の発展過程をまとめる。	60
第6回	スウェーデンにおける福祉の５原則構築 と「社会サーヴィス法」の制定	
	【予習】レジュメ３－４および３－５を熟読。 【復習】「社会サーヴィス法」の目標と援助を得る権利を理解する。	60
第7回	スウェーデンにおける福祉の改革 「社会サーヴィス法」とエーデル改革	
	【予習】レジュメ３－５および３－６を熟読。 【復習】エーデル改革の主要なポイントをまとめ、高齢者のサーヴィス付住宅の種類を老化度や疾病と関連付ける。	60
第8回	スウェーデンにおける高齢者福祉の理念と構造 DVDで学ぶ「スウェーデンにおける高齢者の生活」 DVDで学ぶ「スウェーデンにおけるＰＧ」	
	【予習】レジュメ３－補足を熟読。 【復習】スウェーデンの高齢者福祉の目標は、どのような意識と環境を構築することによって達成されたかを理解する。	60
第9回	日本における高齢者福祉の歩みと目標 課題レポートのタイトル提示と解説	
	【予習】レジュメ４－１および４－２を熟読。 【復習】明治期から現在に至る高齢者福祉の全体像を把握する。	60

第10回	日本における高齢者福祉の萌芽と発展 福祉の萌芽「恤救規則」と金銭給付 「救護法」制定と現物給付（施設）の始まり	
	【予習】レジュメ５－１および５－２を熟読。 【復習】明治初期「恤救規則」と昭和初期の「救護法」を比較し、改善点と課題を探る。	60
第11回	日本国憲法の制定と「生活保護法」の改正 課題レポートの提出	
	【予習】レジュメ６－１～ ６－5に目を通す。 【復習】公的扶助「生活保護法」は、社会保障制度であることを理解し、高齢者の生活と密接な関連性があることを認識する。	60
第12回	日本における高齢者福祉関連法を理解する 「老人福祉法]の目的・基本理念と制度	
	【予習】レジュメ７－１～ 7－4に目を通し、特に「老人福祉法」の目的と基本理念を熟読。 【復習】「老人福祉法」の目的と基本理念を理解し、通称在宅福祉の三本柱とされる事業を認識する。	60
第13回	日本における「介護保険法」の目的・基本理念 と制度に見られる今後の課題	
	【予習】レジュメ８－１～ ８－３に目を通し、特に「介護保険法」の目的と基本理念を熟読し、保険者・被保険者・要介護認定などについて理解しておく。 【復習2000年の施行後2006年に改正された新「介護保険法」は、介護施設で暮らす高齢者の経費負担の増大を生み出していること、国民の連帯に基づく財源の負担などを含め、今後の介護問題を考える。	60
第14回	日本における高齢者の生活と福祉のモデル 福祉宣言都市 武蔵野市を例として	
	【予習】レジュメ９の文章と図に目を通し、「武蔵野市が2000年3月に作成した高齢者保健福祉計画の基本理念を熟読。 【復習】要援護から自立の高齢者まで、地域でいきいきと暮らしていくためには、福祉分野を超えた役割分担と地域住民の意識変革が必要であることを認識する。	60
第15回	授業のまとめと重要課題の確認	
	【復習】授業で使用したレジュメ１～９から、 重要なテーマや常識的に知っておく必要がある法や制度などを確認する。	120

授業の方法

テキストの代用となるレジュメの配布、関連ＤＶＤなどを用いて講義を行う。

成績評価の方法

試験期間中に、筆記試験を行う。また授業期間内に提示した小レポートや出席も重視し、評価に反映させる。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「福祉社会に生きる」、　「地域福祉論」、「社会福祉事業史」、「社会福祉概論」、「地域福祉実践研究」

テキスト

特定しない。

参考書

金子 勇、『高齢者の生活保障』、（財）放送大学教育振興会、2,520円税込 ISBEN978-4-595-31268-7 C1336
大橋謙策、『新訂 社会福祉入門』、(財)放送大学教育振興会、2,520円税込 ISBN978-4-595-30836-9 C1336
平野隆之他、『地域福祉の展開』、（財）放送大学教育振興会、2,415円税込、ISBN978-4-595-31199-4　C1336

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付け、必要によっては別途の面談とする。

科目名	福祉社会に生きる		
教員名	大久保　洋子		
科目ナンバー	1101417050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

福祉社会とは、どのような社会を指すのだろうか。福祉社会が構築されているか発展途上にあるかについては、眼でみることができない。しかし、構築されていく段階とその現状モデルを作成し、わが国の現状をあてはめて考察することは可能である。憲法に保障される権利と社会福祉関連法、人口問題と福祉、現行の福祉法と対象、福祉と国民の連帯、福祉の町づくりなど、複雑に交差するそれらの関係を知り、そこに大きく立ちはだかる課題を把握することが、その第一歩となる。

福祉社会とは、法や制度が整っているか否かによって判断できるものではなく、社会を構成する国民の意識の相違によって左右されるものである。本講義では、まずわが国の福祉の現状や国民の意識に横たわる様々な問題点を認識し、さらに福祉社会のモデルとしてスウェーデンをとりあげ、福祉の理念と制度がいかに国民の意識や実生活に浸透しているかを伝えたい。

そして、国、自治体、住民、福祉の適用を受ける対象者、それぞれが公助・共助・自助の役割を理解し、わが国の福祉社会構築に向けて、それぞれの機能をいかに発揮すべきかを考える授業にしたいと思う。

到達目標

明治期に始まるわが国の福祉の歴史を学習し、現在の福祉の概要を理解した上で、わが国は福祉社会といえるか否かを考察する素養を養う。スウェーデンを例として福祉社会を構築する過程と理念を理解し、わが国の現状を踏まえて、福祉社会を構築するために福祉社会の抜本的に検討しなければならない課題を見出す力を蓄え、対応する方策を提示することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の内容・進め方・予習・復習の仕方、課題レポート・試験・出席等を含む評価の方法を説明する。	
	【予習】レジュメ１－１および１－２に目を通し、明治期から戦中と戦後の違いを認識しておく。	30
第2回	わが国の福祉のルーツと歩み	
	【復習】わが国における福祉年表から、戦前と戦後の大きな違いを認識する。	30
第3回	福祉社会ｉ以前の基本的視点と体系 「恤救規則」と救済対象者	
	【予習】レジュメ２を熟読 【復習】規則が通達された時代背景を理解し、救済対象者と救済の方法を確認する。	60

第4回	福祉社会ｉ以前の基本的視点と体系 規則から法となった「救護法」の特徴	
	【予習】レジュメ３を熟読 【復習】「恤救規則」と比較して、どのように改善されたかを認識する。	60
第5回	福祉社会以前の基本的視点と体系 「救護法」を土台とした旧「生活保護法」の特徴	
	【予習】レジュメ４－１および４－２を熟読。 【復習】「救護法」と比較して、改善された点と改正が必要な項目を認識する。	60
第6回	公的扶助も福祉なのか 日本国憲法と新「生活保護法」の特徴と変化	
	【予習】レジュメ５－１～ ５－６に目を通す。 【復習】旧「生活保護法」と比較して改善された点を確認し、その後の改正点を認識する。	60
第7回	公的扶助は全ての国民のために 新「生活保護法」における保護と保護施設の種類	
	【予習】レジュメ５－１および ５－３を熟読。 【復習】旧「生活保護法」と比較して、改善された点を確認し、その後の改正点を認識する。	60
第8回	戦後における社会福祉 福祉三法から福祉六法の時代へ	
	【予習】レジュメ６を熟読。 【復習】戦後の福祉三法、福祉六法の法律名と対象者を確認する。	60
第9回	戦後における社会福祉 福祉八法と社会福祉改革のその後 課題レポートのタイトル提示と解説	
	【予習】レジュメ６の福祉八法の法律名を記憶する。 【復習】福祉八法の改正によってなされた社会福祉改革の内容を認識し、現在の社会における福祉のあり方を考える。	60

第10回	高齢者を対象とする福祉法とその対策 明るい長寿社会の実現に向けて	
	【予習】レジュメ７－１および７－２を熟読。【復習】特に1989年（平成元年）の厚生省によるスローガンの提示内容と戦略の経緯を認識する。	60
第11回	高齢者を対象とする福祉法とその対策 「高齢社会対策基本法」、「介護保険法」制定から現在 課題レポートの提出	
	【予習】７－２を熟読。 【復習】高齢社会対策大綱の内容を理解し、「介護保険法」制定移行から現在に至る変化を認識する。	60
第12回	福祉社会の構築に向けて 自助・共助・公助の役割分担と福祉	
	【予習】８を熟読。 【復習】ゴールドプラン21を受け、「介護保険法」施行を期して作成された武蔵野市の高齢者保健福祉計画の基本理念と重点施策を認識する。	60
第13回	福祉社会の構築に向けて スウェーデンの高齢者福祉の変遷	
	【予習】９を熟読。 【復習】スウェーデンの福祉のルーツから現在までの歴史的な流れを認識する。	60
第14回	福祉社会の構築に向けて スウェーデンの高齢者福祉が目指したもの DVDで確認する「スウェーデンの高齢者の生活」	
	【予習】９を熟読。 【復習】スウェーデンの福祉の原則と福祉法の目指すもの、高齢者の意識や環境に配慮した社会の構築を認識する。	60
第15回	授業のまとめと重要課題の確認	
	【復習】授業で使用したレジュメ１～９から、重要なテーマや常識的に知っておく必要がある法・制度・理念などを確認する。	120

授業の方法

テキストの代用となるレジュメの配布、関連ＤＶＤを用いて講義を行う。

成績評価の方法

試験期間中に、筆記試験を実施する。また授業期間内の小レポートと出席も重視し、評価に反映させる。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「老人福祉論」、「地域福祉論」、「社会福祉事業史」、「社会福祉概論」、「地域福祉実践研究」

テキスト

特定しない。

参考書

大橋謙策、『新訂 社会福祉入門』、(財)放送大学教育振興会、2,520円税込、 ISBN978-4-595-30836-9 C1336
牧里毎治、『改訂版 地域福祉』、（財）放送大学教育振興会、2,415円税込、ISBN978-4-595-30608-2 C1336

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付け、必要によっては別途の面談とする。

科目名	情報保障とボランティア		
教員名	倉谷　慶子、小林　千恵、長野　留美子、光岡　芳宏		
科目ナンバー	1101417060	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

近年、大学に学ぶ障がい学生が急増しており、大学においては今まで以上に、障がい学生の受入れや修学支援体制の整備を求められている。このことは、成蹊大学も例外ではない。一口に障がいと言っても聴覚、視覚など多くのケースがあるが、共通するのは授業をはじめ学生生活のさまざまな場面で情報取得のために多くの困難に直面せざるを得ないことである。
この困難を軽減するため、聴覚障がいの場合にはノートテイクのような支援、つまり「情報保障」が積極的に行われる必要がある。情報保障がないために授業やゼミに出席していても「参加」し「理解」することができない状況は多くの大学で現に発生しているが、学生は授業に参加する権利があり、これを保障する取り組みがなされなくてはならない。
この授業では、障がいごとに授業に「参加」するために必要な支援方法の実際について体験を加えながら紹介する。

到達目標

障がい学生にとって学びやすい環境は、一般学生にとっても学びやすい環境だといえる。体験を通してコミュニケーションの大切さを実感し、さらに学んだ支援方法を、授業期間を問わず、またキャンパスの内外や卒業後の地域・職業生活で活用できることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	・ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ ・情報保障と	
	シラバスを読み、あらかじめ講義の目的を理解しておく	30
第2回	・聴覚障がいの理解と支援方法① ノートテイク	
	テーマに応じて指示	30
第3回	・聴覚障がいの理解と支援方法② ノートテイク	
	テーマに応じて指示	30

第4回	・聴覚障がいの理解と支援方法③ 　ノートテイク	
	テーマに応じて指示	30
第5回	・視覚障がい、肢体不自由の理解と支援方法①	
	テーマに応じて指示	30
第6回	・視覚障がい、肢体不自由の理解と支援方法②	
	テーマに応じて指示	30
第7回	・視覚障がい、肢体不自由の理解と支援方法③	
	テーマに応じて指示	30
第8回	・視覚障がい、肢体不自由の理解と支援方法④	
	テーマに応じて指示	30
第9回	・聴覚障がいの理解と支援方法④ 　手話	
	学習内容を繰り返し練習する	毎日10分

第10回	・聴覚障がいの理解と支援方法⑤ 手話	
	学習内容を繰り返し練習する	毎日10分
第11回	・聴覚障がいの理解と支援方法⑥ 手話	
	学習を繰り返し練習する	毎日10分
第12回	・聴覚障がいの理解と支援方法⑦ 手話	
	学習内容を繰り返し練習する	毎日10分
第13回	・聴覚障がいの理解と支援方法⑧ 手話	
	学習内容を繰り返し練習する	毎日10分
第14回	・聴覚障がいの理解と支援方法⑨ 手話	
	学習内容を繰り返し練習する	60分
第15回	・まとめ	
	第1回～14回の内容について確認しておく	60

授業の方法

・障がいの特性を理解し、情報保障のために必要な支援方法、コミュニケーションの方法などを具体的に紹介し、体験する。支援を利用している方から経験談を伺う機会を設け、利用者主体のあり方を学び、理解を深める。特に聴覚障がいの支援及びコミュニケーション方法には多くの時間をかけて実施する。
・講義の形式はテーマ合わせて講義や実技を行う。支援の実際も体験する体験を通じて自ら取り組む姿勢を身に着けるよう工夫する。毎回各自の体験を小レポートやワークシート作成で振り返りをおこない、体験を共有する。当事者の立場を尊重し、コミュニケーションを通して相手を理解する。

成績評価の方法

出席を重視（60%）する。そのうえで毎回の小レポート・ワークシート・講義中の参加状況（30%）、期末の試験（10%）をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	TOEFL P. Intermediate <1>		
教員名	豊島　純子		
科目ナンバー	1101425010	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

TOEFL(Test of English as a Foreign Language)は、アメリカの大学で留学生が英語による授業を受けるのにふさわしい英語力があるかどうか測る試験であるが、アメリカだけでなく英語圏の多くの大学でTOEFLの点数を入学の判定の目安にしており、英語圏へ留学するには重要な試験である。テストには、教育機関で行う模擬試験であるTOEFL-ITPと実際の留学に使われるTOEFL-iBTがあり、それぞれ出題形式が異なっている。この授業は、TOEIC 400点程度（英検準２級・３級程度）で、留学にこだわらずに幅広く英語で学術的な文書や報告書を読み書きし、英語の発言を理解しその内容を発表することができるようにしたいと考えている人を対象としている。学習意欲があれば、スコアは400点に達していなくても履修して構わないので、CEだけでは英語の授業が足りないと思う人は積極的に履修して欲しい。授業の内容は、どちらの形式のTOEFLにも対応しており、リスニングやリーディングを中心にしながらスピーキングやライティングも含めてオールラウンドな英語力がつけられるように指導する。

旧カリのTOEFL Preparation Iと同じ内容となることに注意してください。また、Advancedのクラスはスピーキングとライティングを中心に行いますので、Intermediateと同時に履修しても、先にAdvancedを履修しそれからIntermediateを履修しても構いません。

前期開講の場合は予備登録なしですが、後期開講の場合は予備登録科目となります。

到達目標

(1) TOEFL-ITPとIBTの問題形式を理解することができる。
(2) TOEFLに必要なスキルやストラテジーを理解できる。
(3) 自分の意見や考えを相手にわかりやすく話すことができる。
(4) 100語程度の英文を書くことができる。
(5) TOEFLのスコアをITP460点、iBT50点程度取得できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、課題の取り組み方等を説明する。 TOEFLテストについて概略を説明する。 TOEFLテストのスコアを上げるためにスーパー英語をどのように活用すべきか説明する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	20分
第2回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 1のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 1のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第3回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 1のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 1のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分

第4回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 3のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 3のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第5回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 3のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 3のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第6回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 5のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 5のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第7回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 5 Speaking, Writing	
	【予習】Unit 5のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	90分
第8回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 6のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 6のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第9回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 6のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 6のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分

第10回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 8のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 8のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第11回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 8のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 8のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第12回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 10のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 10のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第13回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 10のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 10のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	90分
第14回	TOEFL模擬テスト実施	
	【予習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講しておく。	50分
第15回	TOEFL模擬テストの解説、授業の振り返り	
	【予習】これまでの授業で受講した「スーパー英語」TOEFL mini テストのスコアの推移を見て、学習成果と今後の学習計画について考える。	20分

授業の方法

対面授業をCALL教室で行う。TOEFL iBTに出題される問題の形式に慣れ、様々なスキルの能力を高めるように学習する。また、eラーニングの課題にとりくみ、TOEFL ITPに課される問題にも習熟する。

成績評価の方法

e-ラーニングの課題（20%）、スピーキング課題（20%）、ライティング課題（20%）と期末試験の成績（40%）。期末試験はIntermediateクラスの統一試験となる。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39 条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

John Beaumont, NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, (with CDs), ISBN 9780131985780 Pearson-Longman, 2005.

参考書

TOEFL受験ホームページ {http://ac.prometric-jp.com/toefl/jp/online.html}
Educational Testing Service, The Official Guide to the TOEFL iBT with CD-ROM, 3rd ed., McGraw-Hill, 2009.
仲本 浩喜『TOEFLテスト基本ボキャブラリー2000語』角川SSコミュニケーションズ、改訂新版, 2009.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。クラスによっては、初回の授業で指示する場合もある。

科目名	TOEFL P. Intermediate <2>		
教員名	田辺　春美		
科目ナンバー	1101425010	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

TOEFL(Test of English as a Foreign Language)は、アメリカの大学で留学生が英語による授業を受けるのにふさわしい英語力があるかどうか測る試験であるが、アメリカだけでなく英語圏の多くの大学でTOEFLの点数を入学の判定の目安にしており、英語圏へ留学するには重要な試験である。テストには、教育機関で行う模擬試験であるTOEFL-ITPと実際の留学に使われるTOEFL-iBTがあり、それぞれ出題形式が異なっている。この授業は、TOEIC 400点程度（英検準２級・３級程度）で、留学にこだわらずに幅広く英語で学術的な文書や報告書を読み書きし、英語の発言を理解しその内容を発表することができるようにしたいと考えている人を対象としている。学習意欲があれば、スコアは400点に達していなくても履修して構わないので、CEだけでは英語の授業が足りないと思う人は積極的に履修して欲しい。授業の内容は、どちらの形式のTOEFLにも対応しており、リスニングやリーディングを中心にしながらスピーキングやライティングも含めてオールラウンドな英語力がつけられるように指導する。

旧カリのTOEFL Preparation Iと同じ内容となることに注意してください。また、Advancedのクラスはスピーキングとライティングを中心に行いますので、Intermediateと同時に履修しても、先にAdvancedを履修しそれからIntermediateを履修しても構いません。

前期開講の場合は予備登録なしですが、後期開講の場合は予備登録科目となります。

到達目標

(1) TOEFL-ITPとIBTの問題形式を理解することができる。
(2) TOEFLに必要なスキルやストラテジーを理解できる。
(3) 自分の意見や考えを相手にわかりやすく話すことができる。
(4) 100語程度の英文を書くことができる。
(5) TOEFLのスコアをITP460点、iBT50点程度取得できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、課題の取り組み方等を説明する。 TOEFLテストについて概略を説明する。 TOEFLテストのスコアを上げるためにスーパー英語をどのように活用すべきか説明する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	20分
第2回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 1のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 1のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第3回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 1のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 1のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分

第4回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 3のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 3のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第5回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 3のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 3のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第6回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 5のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 5のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第7回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 5 Speaking, Writing	
	【予習】Unit 5のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	90分
第8回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 6のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 6のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第9回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 6のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 6のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分

第10回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 8のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 8のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第11回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 8のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 8のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第12回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 10のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 10のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第13回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 10のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 10のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	90分
第14回	TOEFL模擬テスト実施	
	【予習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講しておく。	50分
第15回	TOEFL模擬テストの解説、授業の振り返り	
	【予習】これまでの授業で受講した「スーパー英語」TOEFL mini テストのスコアの推移を見て、学習成果と今後の学習計画について考える。	20分

授業の方法

対面授業をCALL教室で行う。TOEFL iBTに出題される問題の形式に慣れ、様々なスキルの能力を高めるように学習する。また、eラーニングの課題にとりくみ、TOEFL ITPに課される問題にも習熟する。

成績評価の方法

e-ラーニングの課題（20%）、スピーキング課題（20%）、ライティング課題（20%）と期末試験の成績（40%）。期末試験はIntermediateクラスの統一試験となる。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39 条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

John Beaumont, NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, (with CDs), ISBN 9780131985780 Pearson-Longman, 2005.

参考書

TOEFL受験ホームページ {http://ac.prometric-jp.com/toefl/jp/online.html}
Educational Testing Service, The Official Guide to the TOEFL iBT with CD-ROM, 3rd ed., McGraw-Hill, 2009.
仲本 浩喜『TOEFLテスト基本ボキャブラリー2000語』角川SSコミュニケーションズ、改訂新版, 2009.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。クラスによっては、初回の授業で指示する場合もある。

科目名	TOEFL P. Intermediate ＜３＞		
教員名	豊島　純子		
科目ナンバー	1101425010	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

TOEFL(Test of English as a Foreign Language)は、アメリカの大学で留学生が英語による授業を受けるのにふさわしい英語力があるかどうか測る試験であるが、アメリカだけでなく英語圏の多くの大学でTOEFLの点数を入学の判定の目安にしており、英語圏へ留学するには重要な試験である。テストには、教育機関で行う模擬試験であるTOEFL-ITPと実際の留学に使われるTOEFL-iBTがあり、それぞれ出題形式が異なっている。この授業は、TOEIC 400点程度（英検準２級・３級程度）で、留学にこだわらずに幅広く英語で学術的な文書や報告書を読み書きし、英語の発言を理解しその内容を発表することができるようにしたいと考えている人を対象としている。学習意欲があれば、スコアは400点に達していなくても履修して構わないので、CEだけでは英語の授業が足りないと思う人は積極的に履修して欲しい。授業の内容は、どちらの形式のTOEFLにも対応しており、リスニングやリーディングを中心にしながらスピーキングやライティングも含めてオールラウンドな英語力がつけられるように指導する。

旧カリのTOEFL Preparation Iと同じ内容となることに注意してください。また、Advancedのクラスはスピーキングとライティングを中心に行いますので、Intermediateと同時に履修しても、先にAdvancedを履修しそれからIntermediateを履修しても構いません。

前期開講の場合は予備登録なしですが、後期開講の場合は予備登録科目となります。

到達目標

(1) TOEFL-ITPとIBTの問題形式を理解することができる。
(2) TOEFLに必要なスキルやストラテジーを理解できる。
(3) 自分の意見や考えを相手にわかりやすく話すことができる。
(4) 100語程度の英文を書くことができる。
(5) TOEFLのスコアをITP460点、iBT50点程度取得できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、課題の取り組み方等を説明する。 TOEFLテストについて概略を説明する。 TOEFLテストのスコアを上げるためにスーパー英語をどのように活用すべきか説明する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	20分
第2回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 1のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 1のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第3回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 1のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 1のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分

第4回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 3のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 3のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第5回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 3のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 3のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第6回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 5のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 5のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第7回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 5 Speaking, Writing	
	【予習】Unit 5のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	90分
第8回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 6のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 6のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第9回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 6のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 6のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分

第10回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 8のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 8のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第11回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 8のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 8のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第12回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 10のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 10のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第13回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 10のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 10のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	90分
第14回	TOEFL模擬テスト実施	
	【予習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講しておく。	50分
第15回	TOEFL模擬テストの解説、授業の振り返り	
	【予習】これまでの授業で受講した「スーパー英語」TOEFL mini テストのスコアの推移を見て、学習成果と今後の学習計画について考える。	20分

授業の方法

対面授業をCALL教室で行う。TOEFL iBTに出題される問題の形式に慣れ、様々なスキルの能力を高めるように学習する。また、eラーニングの課題にとりくみ、TOEFL ITPに課される問題にも習熟する。

成績評価の方法

e-ラーニングの課題（20%）、スピーキング課題（20%）、ライティング課題（20%）と期末試験の成績（40%）。期末試験はIntermediateクラスの統一試験となる。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39 条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

John Beaumont, NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, (with CDs), ISBN 9780131985780 Pearson-Longman, 2005.

参考書

TOEFL受験ホームページ {http://ac.prometric-jp.com/toefl/jp/online.html}
Educational Testing Service, The Official Guide to the TOEFL iBT with CD-ROM, 3rd ed., McGraw-Hill, 2009.
仲本 浩喜『TOEFLテスト基本ボキャブラリー2000語』角川SSコミュニケーションズ、改訂新版, 2009.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。クラスによっては、初回の授業で指示する場合もある。

科目名	ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　Ｉ ＜4＞		
教員名	田辺　春美		
科目ナンバー	1701025010	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

TOEFL(Test of English as a Foreign Language)は、アメリカの大学で留学生が英語による授業を受けるのにふさわしい英語力があるかどうか測る試験であるが、アメリカだけでなく英語圏の多くの大学でTOEFLの点数を入学の判定の目安にしており、英語圏へ留学するには重要な試験である。テストには、教育機関で行う模擬試験であるTOEFL-ITPと実際の留学に使われるTOEFL-iBTがあり、それぞれ出題形式が異なっている。この授業は、TOEIC 400点程度（英検準２級・３級程度）で、留学にこだわらずに幅広く英語で学術的な文書や報告書を読み書きし、英語の発言を理解しその内容を発表することができるようにしたいと考えている人を対象としている。学習意欲があれば、スコアは400点に達していなくても履修して構わないので、CEだけでは英語の授業が足りないと思う人は積極的に履修して欲しい。授業の内容は、どちらの形式のTOEFLにも対応しており、リスニングやリーディングを中心にしながらスピーキングやライティングも含めてオールラウンドな英語力がつけられるように指導する。

旧カリのTOEFL Preparation Iと同じ内容となることに注意してください。また、Advancedのクラスはスピーキングとライティングを中心に行いますので、Intermediateと同時に履修しても、先にAdvancedを履修しそれからIntermediateを履修しても構いません。

前期開講の場合は予備登録なしですが、後期開講の場合は予備登録科目となります。

到達目標

(1) TOEFL-ITPとIBTの問題形式を理解することができる。
(2) TOEFLに必要なスキルやストラテジーを理解できる。
(3) 自分の意見や考えを相手にわかりやすく話すことができる。
(4) 100語程度の英文を書くことができる。
(5) TOEFLのスコアをITP460点、iBT50点程度取得できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、課題の取り組み方等を説明する。 TOEFLテストについて概略を説明する。 TOEFLテストのスコアを上げるためにスーパー英語をどのように活用すべきか説明する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	20分
第2回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT,　Intermediate, Unit 1のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 1のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第3回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT,　Intermediate, Unit 1のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 1のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分

第4回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 3のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 3のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第5回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 3のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 3のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第6回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 5のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 5のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第7回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 5 Speaking, Writing	
	【予習】Unit 5のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	90分
第8回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 6のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 6のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第9回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 6のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 6のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分

第10回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 8のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 8のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第11回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 8のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 8のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第12回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 10のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 10のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第13回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 10のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 10のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	90分
第14回	TOEFL模擬テスト実施	
	【予習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講しておく。	50分
第15回	TOEFL模擬テストの解説、授業の振り返り	
	【予習】これまでの授業で受講した「スーパー英語」TOEFL mini テストのスコアの推移を見て、学習成果と今後の学習計画について考える。	20分

授業の方法

対面授業をCALL教室で行う。TOEFL iBTに出題される問題の形式に慣れ、様々なスキルの能力を高めるように学習する。また、eラーニングの課題にとりくみ、TOEFL ITPに課される問題にも習熟する。

成績評価の方法

e-ラーニングの課題（20%）、スピーキング課題（20%）、ライティング課題（20%）と期末試験の成績（40%）。期末試験はIntermediateクラスの統一試験となる。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39 条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

John Beaumont, NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, (with CDs), ISBN 9780131985780 Pearson-Longman, 2005.

参考書

TOEFL受験ホームページ {http://ac.prometric-jp.com/toefl/jp/online.html}
Educational Testing Service, The Official Guide to the TOEFL iBT with CD-ROM, 3rd ed., McGraw-Hill, 2009.
仲本 浩喜『TOEFLテスト基本ボキャブラリー2000語』角川SSコミュニケーションズ、改訂新版, 2009.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。クラスによっては、初回の授業で指示する場合もある。

科目名	ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　Ｉ ＜5＞		
教員名	峰松　愛子		
科目ナンバー	1801025010	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

TOEFL(Test of English as a Foreign Language)は、アメリカの大学で留学生が英語による授業を受けるのにふさわしい英語力があるかどうか測る試験であるが、アメリカだけでなく英語圏の多くの大学でTOEFLの点数を入学の判定の目安にしており、英語圏へ留学するには重要な試験である。テストには、教育機関で行う模擬試験であるTOEFL-ITPと実際の留学に使われるTOEFL-iBTがあり、それぞれ出題形式が異なっている。この授業は、TOEIC 400点程度（英検準２級・３級程度）で、留学にこだわらずに幅広く英語で学術的な文書や報告書を読み書きし、英語の発言を理解しその内容を発表することができるようにしたいと考えている人を対象としている。学習意欲があれば、スコアは400点に達していなくても履修して構わないので、CEだけでは英語の授業が足りないと思う人は積極的に履修して欲しい。授業の内容は、どちらの形式のTOEFLにも対応しており、リスニングやリーディングを中心にしながらスピーキングやライティングも含めてオールラウンドな英語力がつけられるように指導する。

旧カリのTOEFL Preparation Iと同じ内容となることに注意してください。また、Advancedのクラスはスピーキングとライティングを中心に行いますので、Intermediateと同時に履修しても、先にAdvancedを履修しそれからIntermediateを履修しても構いません。

前期開講の場合は予備登録なしですが、後期開講の場合は予備登録科目となります。

到達目標

(1) TOEFL-ITPとIBTの問題形式を理解することができる。
(2) TOEFLに必要なスキルやストラテジーを理解できる。
(3) 自分の意見や考えを相手にわかりやすく話すことができる。
(4) 100語程度の英文を書くことができる。
(5) TOEFLのスコアをITP460点、iBT50点程度取得できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、課題の取り組み方等を説明する。 TOEFLテストについて概略を説明する。 TOEFLテストのスコアを上げるためにスーパー英語をどのように活用すべきか説明する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	20分
第2回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT,　Intermediate, Unit 1のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 1のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第3回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT,　Intermediate, Unit 1のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 1のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分

第4回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 3のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 3のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第5回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 3のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 3のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第6回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 5のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 5のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第7回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 5 Speaking, Writing	
	【予習】Unit 5のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	90分
第8回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 6のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 6のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第9回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 6のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 6のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分

第10回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 8のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 8のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第11回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 8のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 8のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第12回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 10のCampus Listening, Academic Listening, Reading	
	【予習】Unit 10のCampus Listening, Academic ListeningのCDを聞いておく。Reading問題をあらかじめ解答しておく。 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	60分
第13回	NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, Unit 10のSpeaking, Writing	
	【予習】Unit 10のSpeaking/Writing課題を準備する 【復習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講する。	90分
第14回	TOEFL模擬テスト実施	
	【予習】指定された「スーパー英語」TOEFL mini テストを受講しておく。	50分
第15回	TOEFL模擬テストの解説、授業の振り返り	
	【予習】これまでの授業で受講した「スーパー英語」TOEFL mini テストのスコアの推移を見て、学習成果と今後の学習計画について考える。	20分

授業の方法

対面授業をCALL教室で行う。TOEFL iBTに出題される問題の形式に慣れ、様々なスキルの能力を高めるように学習する。また、eラーニングの課題にとりくみ、TOEFL ITPに課される問題にも習熟する。

成績評価の方法

e-ラーニングの課題（20%）、スピーキング課題（20%）、ライティング課題（20%）と期末試験の成績（40%）。期末試験はIntermediateクラスの統一試験となる。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39 条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

John Beaumont, NorthStar: Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate, (with CDs), ISBN 9780131985780 Pearson-Longman, 2005.

参考書

TOEFL受験ホームページ {http://ac.prometric-jp.com/toefl/jp/online.html}
Educational Testing Service, The Official Guide to the TOEFL iBT with CD-ROM, 3rd ed., McGraw-Hill, 2009.
仲本 浩喜『TOEFLテスト基本ボキャブラリー2000語』角川SSコミュニケーションズ、改訂新版, 2009.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。クラスによっては、初回の授業で指示する場合もある。

科目名	TOEFL P. Advanced ＜1＞		
教員名	石原　直美		
科目ナンバー	1101425020	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

TOEFL(Test of English as a Foreign Language)は、アメリカの大学で留学生が英語による授業を受けるのにふさわしい英語力があ るかどうか測る試験であるが、アメリカだけでなく英語圏の多くの大学でTOEFLの点数を入学の判定の目安にしており、英語圏へ留 学するには重要な試験である。テストには、教育機関で行う模擬試験であるTOEFL-ITPと実際の留学に使われるTOEFL-iBTがあり、 それぞれ出題形式が異なっている。この授業は、TOEIC 400点程度(英検準2級・3級程度)で、留学にこだわらずに幅広く英語で 学術的な文書や報告書を読み書きし、英語の発言を理解しその内容を発表することができるようにしたいと考えている人を対象とし ている。授業の内容は、どちらの形式のTOEFLにも対応しており、スピーキング・ライティングを中心に実践演習を行う。

到達目標

1) TOEFL-ITPとIBTの問題形式を理解することができる。
(2) TOEFLに必要なスキルやストラテジーを理解できる。
(3) 自分の意見や考えを相手にわかりやすく話すことができる。
(4) 200語程度の英文を書くことができる。
(5) TOEFLのスコアをITP480点、iBT55点程度取得できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	イントロダクション 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、課題の取り組み方等を説明する。 TOEFLテストについて概略を説明する。 TOEFLテストのスコアを上げるためにスーパー英語をどのように活用できるかを説明する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	２０分
第2回	Criterion Task 1 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Lesson 1	
	【予習】Criterion Task 1のアウトラインを作成する	６０分
第3回	Criterion Task 2 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Exercise 1	
	【予習】Criterion Task 2のアウトラインを作成する Speaking Exercise 1指定問題の回答を考えてくる	６０分

第4回	Criterion Task 3 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Lesson 2	
	【予習】Criterion Task 3のアウトラインを作成する	６０分
第5回	Criterion Task 4 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Exercise 2	
	【予習】Criterion Task 4のアウトラインを作成する Speaking Exercise 2指定問題の回答を考えてくる	６０分
第6回	Criterion Task 5 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Lesson 3	
	【予習】Criterion Task 5のアウトラインを作成する	６０分
第7回	Criterion Task 6 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Exercise 3	
	【予習】Criterion Task 6のアウトラインを作成する Speaking Exercise 3指定問題の回答を考えてくる	６０分
第8回	Review & communicative activities	
	【予習】既習事項の復習	９０分
第9回	Criterion Task 7 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Lesson 4	
	【予習】Criterion Task 7のアウトラインを作成する	６０分

第10回	Criterion Task 8 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Exercise 4	
	【予習】Criterion Task 8のアウトラインを作成する Speaking Exercise 4指定問題の回答を考えてくる	６０分
第11回	Criterion Task 9 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Lesson 5	
	【予習】Criterion Task 9のアウトラインを作成する	６０分
第12回	Criterion Task 10 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Exercise 5	
	【予習】Criterion Task 10のアウトラインを作成する Speaking Exercise 5指定問題の回答を考えてくる	６０分
第13回	TOEFL 模擬試験	
	TOEFL模擬試験の準備	９０分
第14回	期末試験	
	期末試験の準備	９０分
第15回	授業の振り返り	
	既習事項の復習	３０分

授業の方法

対面授業をCALL教室で行う。TOEFL iBTに出題される問題の形式に慣れ、スピーキングとライティングスキルを中心とした能力を高めるように学習する。

成績評価の方法

Criterion課題(30%)、スピーキング課題(30%)、期末試験の成績(40%)。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39 条)に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

Bruce Rogers, Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Text+CD-ROM ISBN 978-981-265-987-3 Cengage Learning, 2007

参考書

TOEFL受験ホームページ
Educational Testing Service, The Official Guide to the TOEFL iBT with CD-ROM, 3rd ed., McGraw-Hill, 2009.
仲本 浩喜『TOEFLテスト基本ボキャブラリー2000語』角川SSコミュニケーションズ、改訂新版, 2009.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	TOEFL P. Advanced ＜2＞		
教員名	峰松　愛子		
科目ナンバー	1101425020	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

TOEFL(Test of English as a Foreign Language)は、アメリカの大学で留学生が英語による授業を受けるのにふさわしい英語力があ るかどうか測る試験であるが、アメリカだけでなく英語圏の多くの大学でTOEFLの点数を入学の判定の目安にしており、英語圏へ留 学するには重要な試験である。テストには、教育機関で行う模擬試験であるTOEFL-ITPと実際の留学に使われるTOEFL-iBTがあり、 それぞれ出題形式が異なっている。この授業は、TOEIC 400点程度(英検準2級・3級程度)で、留学にこだわらずに幅広く英語で 学術的な文書や報告書を読み書きし、英語の発言を理解しその内容を発表することができるようにしたいと考えている人を対象とし ている。授業の内容は、どちらの形式のTOEFLにも対応しており、スピーキング・ライティングを中心に実践演習を行う。

到達目標

1) TOEFL-ITPとIBTの問題形式を理解することができる。
(2) TOEFLに必要なスキルやストラテジーを理解できる。
(3) 自分の意見や考えを相手にわかりやすく話すことができる。
(4) 200語程度の英文を書くことができる。
(5) TOEFLのスコアをITP480点、iBT55点程度取得できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、課題の取り組み方等を説明する。 TOEFLテストについて概略を説明する。 TOEFLテストのスコアを上げるためにスーパー英語をどのように活用できるかを説明する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	２０分
第2回	Criterion Task 1 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Lesson 1	
	【予習】Criterion Task 1のアウトラインを作成する	６０分
第3回	Criterion Task 2 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Exercise 1	
	【予習】Criterion Task 2のアウトラインを作成する Speaking Exercise 1指定問題の回答を考えてくる	６０分

第4回	Criterion Task 3 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Lesson 2	
	【予習】Criterion Task 3のアウトラインを作成する	６０分
第5回	Criterion Task 4 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Exercise 2	
	【予習】Criterion Task 4のアウトラインを作成する Speaking Exercise 2指定問題の回答を考えてくる	６０分
第6回	Criterion Task 5 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Lesson 3	
	【予習】Criterion Task 5のアウトラインを作成する	６０分
第7回	Criterion Task 6 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Exercise 3	
	【予習】Criterion Task 6のアウトラインを作成する Speaking Exercise 3指定問題の回答を考えてくる	６０分
第8回	Review & communicative activities	
	【予習】既習事項の復習	９０分
第9回	Criterion Task 7 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Lesson 4	
	【予習】Criterion Task 7のアウトラインを作成する	６０分

第10回	Criterion Task 8 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Exercise 4	
	【予習】Criterion Task 8のアウトラインを作成する Speaking Exercise 4指定問題の回答を考えてくる	６０分
第11回	Criterion Task 9 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Lesson 5	
	【予習】Criterion Task 9のアウトラインを作成する	６０分
第12回	Criterion Task 10 Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Exercise 5	
	【予習】Criterion Task 10のアウトラインを作成する Speaking Exercise 5指定問題の回答を考えてくる	６０分
第13回	TOEFL 模擬試験	
	TOEFL模擬試験の準備	９０分
第14回	期末試験	
	期末試験の準備	９０分
第15回	授業の振り返り	
	既習事項の復習	３０分

授業の方法

対面授業をCALL教室で行う。TOEFL iBTに出題される問題の形式に慣れ、スピーキングとライティングスキルを中心とした能力を高めるように学習する。

成績評価の方法

Criterion課題(30%)、スピーキング課題(30%)、期末試験の成績(40%)。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39 条)に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

Bruce Rogers, Complete Guide to the TOEFL® Test: SPEAKING (iBT) Text+CD-ROM ISBN 978-981-265-987-3 Cengage Learning, 2007

参考書

TOEFL受験ホームページ

Educational Testing Service, The Official Guide to the TOEFL iBT with CD-ROM, 3rd ed., McGraw-Hill, 2009.

仲本 浩喜『TOEFLテスト基本ボキャブラリー2000語』角川SSコミュニケーションズ、改訂新版, 2009.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	TOEIC P. Intermediate ＜1＞		
教員名	加藤　澄恵		
科目ナンバー	1101425030	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

TOEIC 550点（英検2級程度）あるいはそれ以上の人が、650点あるいはそれ以上をとれるようになるためのクラス。　TOEIC対策のe-ラーニング教材として定評のあるu-CAT（朝日出版社）と対面授業を組み合わせておこないます。対面授業では、TOEIC リスニング問題の得点向上のための学習法について学ぶと同時に、英語運用能力を高めるための方法論について学びます。また「iKnow!」（http://iknow.jp）のような英語学習サイトを活用して、英語の「自学自修」の習慣を身につけることも指導します。

到達目標

TOEIC で650点以上をとることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	［対面授業］オリエンテーション ・詳細な授業計画の説明 ・u-CATの使いかた、「iKnow!」の使い方など	
	『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第2回	［e-ラーニング］診断テスト・チュートリアル	
	・診断テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90
第3回	［対面授業］オリジナル教材#1	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第4回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120

第5回	［対面授業］オリジナル教材#2	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第6回	［e-ラーニング］第1回模擬テスト・チュートリアル	
	・第一回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第7回	［対面授業］オリジナル教材#3	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第8回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第9回	［対面授業］オリジナル教材#4	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第10回	［e-ラーニング］第2回模擬テスト・チュートリアル	
	・第二回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90

第11回	［対面授業］オリジナル教材#5	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第12回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第13回	［対面授業］オリジナル教材#6	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第14回	［e-ラーニング］第3回模擬テスト・チュートリアル	
	・第三回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第15回	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト	
	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト TOEICテストに備えて準備する。	60

授業の方法

e-ラーニングと対面授業を隔週交代で行います。e-ラーニングの週には、u-CAT（範囲が指定されています）およびiKnow!を自宅または大学で解いてください。教室での授業はありませんが、教員は個人指導（チュートリアル）のために教室に待機しています。対面授業の週には、指定された教材を宿題としてやってきてください。教室で問題の解説を行い、また必要に応じてクラスディスカッションを行います。

学習の成果を測るために、12月に一年生全員を対象に実施されるTOEIC-IPテスト（二年生以上の受講者は受験料3,400 円が必要です）か、11に実施されるTOEIC公開テストを必ず受験してください。

成績評価の方法

宿題（iKnow!学習状況を含む）　30%
授業への積極的な参加　20%
u-CAT教材の学習状況およびスコア　30%
TOEIC-IPテスト（TOEIC公開テスト）のスコア　20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』（朝日出版社 ISBN-13: 978-4255003764）（2,940円）（TOEIC PREPARATION 受講者は、オンラインでのクレジットカード払い、またはコンビニ払いで利用更新［2,100円］が必要です。） ほかに iKnow!料金（1500円）TOEIC-IPテスト受験料（予価3,400円：一年生は不要）またはTOEIC公開テスト受験料（5,565円）が必要になります。

参考書

対面授業の際には辞書を持参し、知らない単語や表現はその場で引いて覚える習慣をつけましょう。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

〇電子辞書
SII（セイコーインスツルメンツ）DF-X901B（税込¥33,943）またはCASIO AZ-U980O（税込¥33,943）。
市販モデルの同等品に比べると1万円以上安いですが、学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意してください。
どちらの製品にも学習英英辞典としては定評のある『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（OALD8）『ロングマン現代英英辞典　5訂版』（LDOCE5）『リーダーズ英和辞典　第三版』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』（研究）『ジーニアス英和大辞典』（大修館書店）『新編英和活用大辞典』（研究社）など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。前者には『ランダムハウス英和大辞典　第2版』（小学館）『コウビルド新英英辞典』（CoBuild6）が収録されており、どちらの製品もオプションでフランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語辞書などを追加することができます。
このほかにも、理系モデルのSII DF-X901R（税込¥33,943）および CASIO AZ-U9850 （税込¥33,943）は『岩波理化学辞典』など理系向けの辞典を多数収録していてお勧めですが、前者には『ロングマン現代英英辞典　5訂版』は収録されていません。
これらの電子辞書を購入しない人は、以下の英英辞典の購入を推奨します。

〇英英辞典
『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752975）、コンピュータで検索できるDVD-ROM付きのもの（ISBN-13: 978-4010752968） 『ロングマン現代英英辞典 5訂版 DVD-ROM付』（桐原書店 ISBN-13: 978-4342100949）
二冊の英英辞典の定義を比べながら使うことで、語句のニュアンスをつかむことができます。

〇 TOEIC問題集
『TOEICテスト新公式問題集 Vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、ISBN-13: 978-4906033430）
実際のTOEICテスト制作スタッフによって作成されており、もっとも信頼できるものです。

〇 文法自習書：Grammar in Use: Intermediate Student's Book with Answers and CD-ROM: Self-study Reference and Practice for Students of North American English (Cambridge University Press ISBN-13: 978-0521734776)
日本の文法書とは少し異なる角度から実践的かつ丁寧な説明がなされており、お勧めです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	TOEIC P. Intermediate ＜2＞		
教員名	鈴木　理恵		
科目ナンバー	1101425030	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

TOEIC 550点（英検2級程度）あるいはそれ以上の人が、650点あるいはそれ以上をとれるようになるためのクラス。　TOEIC対策のe-ラーニング教材として定評のあるu-CAT（朝日出版社）と対面授業を組み合わせておこないます。対面授業では、TOEIC リスニング問題の得点向上のための学習法について学ぶと同時に、英語運用能力を高めるための方法論について学びます。また「iKnow!」（http://iknow.jp）のような英語学習サイトを活用して、英語の「自学自修」の習慣を身につけることも指導します。

到達目標

TOEIC で650点以上をとることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	［対面授業］オリエンテーション ・詳細な授業計画の説明 ・u-CATの使いかた、「iKnow!」の使い方など	
	『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第2回	［e-ラーニング］診断テスト・チュートリアル	
	・診断テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90
第3回	［対面授業］オリジナル教材#1	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第4回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120

第5回	［対面授業］オリジナル教材#2	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第6回	［e-ラーニング］第1回模擬テスト・チュートリアル	
	・第一回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第7回	［対面授業］オリジナル教材#3	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第8回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第9回	［対面授業］オリジナル教材#4	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第10回	［e-ラーニング］第2回模擬テスト・チュートリアル	
	・第二回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90

第11回	［対面授業］オリジナル教材#5	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第12回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第13回	［対面授業］オリジナル教材#6	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第14回	［e-ラーニング］第3回模擬テスト・チュートリアル	
	・第三回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第15回	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト	
	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト TOEICテストに備えて準備する。	60

授業の方法

e-ラーニングと対面授業を隔週交代で行います。e-ラーニングの週には、u-CAT（範囲が指定されています）およびiKnow!を自宅または大学で解いてください。教室での授業はありませんが、教員は個人指導（チュートリアル）のために教室に待機しています。対面授業の週には、指定された教材を宿題としてやってきてください。教室で問題の解説を行い、また必要に応じてクラスディスカッションを行います。

学習の成果を測るために、12月に一年生全員を対象に実施されるTOEIC-IPテスト（二年生以上の受講者は受験料3,400 円が必要です）か、11に実施されるTOEIC公開テストを必ず受験してください。

成績評価の方法

宿題（iKnow!学習状況を含む）　30%
授業への積極的な参加　20%
u-CAT教材の学習状況およびスコア　30%
TOEIC-IPテスト（TOEIC公開テスト）のスコア　20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』（朝日出版社 ISBN-13: 978-4255003764）（2,940円）（TOEIC PREPARATION 受講者は、オンラインでのクレジットカード払い、またはコンビニ払いで利用更新［2,100円］が必要です。） ほかに iKnow!料金（1500円）TOEIC-IPテスト受験料（予価3,400円：一年生は不要）またはTOEIC公開テスト受験料（5,565円）が必要になります。

参考書

対面授業の際には辞書を持参し、知らない単語や表現はその場で引いて覚える習慣をつけましょう。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

〇電子辞書
SII（セイコーインスツルメンツ）DF-X901B（税込¥33,943）またはCASIO AZ-U980O（税込¥33,943）。
市販モデルの同等品に比べると1万円以上安いですが、学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意してください。
どちらの製品にも学習英英辞典としては定評のある『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（OALD8）『ロングマン現代英英辞典　5訂版』（LDOCE5）『リーダーズ英和辞典　第三版』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』（研究）『ジーニアス英和大辞典』（大修館書店）『新編英和活用大辞典』（研究社）など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。前者には『ランダムハウス英和大辞典　第2版』（小学館）『コウビルド新英英辞典』（CoBuild6）が収録されており、どちらの製品もオプションでフランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語辞書などを追加することができます。
このほかにも、理系モデルのSII DF-X901R（税込¥33,943）および CASIO AZ-U985O （税込¥33,943）は『岩波理化学辞典』など理系向けの辞典を多数収録していてお勧めですが、前者には『ロングマン現代英英辞典　5訂版』は収録されていません。
これらの電子辞書を購入しない人は、以下の英英辞典の購入を推奨します。

〇英英辞典
『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752975）、コンピュータで検索できるDVD-ROM付きのもの（ISBN-13: 978-4010752968） 『ロングマン現代英英辞典 5訂版 DVD-ROM付』（桐原書店 ISBN-13: 978-4342100949）
二冊の英英辞典の定義を比べながら使うことで、語句のニュアンスをつかむことができます。

〇 TOEIC問題集
『TOEICテスト新公式問題集 Vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、ISBN-13: 978-4906033430）
実際のTOEICテスト制作スタッフによって作成されており、もっとも信頼できるものです。

〇 文法自習書：Grammar in Use: Intermediate Student's Book with Answers and CD-ROM: Self-study Reference and Practice for Students of North American English (Cambridge University Press ISBN-13: 978-0521734776)
日本の文法書とは少し異なる角度から実践的かつ丁寧な説明がなされており、お勧めです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	TOEIC P. Intermediate ＜3＞		
教員名	権田　建二		
科目ナンバー	1101425030	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

TOEIC 550点（英検2級程度）あるいはそれ以上の人が、650点あるいはそれ以上をとれるようになるためのクラス。　TOEIC対策のe-ラーニング教材として定評のあるu-CAT（朝日出版社）と対面授業を組み合わせておこないます。対面授業では、TOEIC リスニング問題の得点向上のための学習法について学ぶと同時に、英語運用能力を高めるための方法論について学びます。また「iKnow!」（http://iknow.jp）のような英語学習サイトを活用して、英語の「自学自修」の習慣を身につけることも指導します。

到達目標

TOEIC で650点以上をとることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	［対面授業］オリエンテーション ・詳細な授業計画の説明 ・u-CATの使いかた、「iKnow!」の使い方など	
	『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第2回	［e-ラーニング］診断テスト・チュートリアル	
	・診断テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90
第3回	［対面授業］オリジナル教材#1	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第4回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120

第5回	［対面授業］オリジナル教材#2	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第6回	［e-ラーニング］第1回模擬テスト・チュートリアル	
	・第一回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第7回	［対面授業］オリジナル教材#3	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第8回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第9回	［対面授業］オリジナル教材#4	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第10回	［e-ラーニング］第2回模擬テスト・チュートリアル	
	・第二回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90

第11回	［対面授業］オリジナル教材#5	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第12回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第13回	［対面授業］オリジナル教材#6	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第14回	［e-ラーニング］第3回模擬テスト・チュートリアル	
	・第三回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第15回	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト	
	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト TOEICテストに備えて準備する。	60

授業の方法

e-ラーニングと対面授業を隔週交代で行います。e-ラーニングの週には、u-CAT（範囲が指定されています）およびiKnow!を自宅または大学で解いてください。教室での授業はありませんが、教員は個人指導（チュートリアル）のために教室に待機しています。対面授業の週には、指定された教材を宿題としてやってきてください。教室で問題の解説を行い、また必要に応じてクラスディスカッションを行います。

学習の成果を測るために、12月に一年生全員を対象に実施されるTOEIC-IPテスト（二年生以上の受講者は受験料3,400 円が必要です）か、11に実施されるTOEIC公開テストを必ず受験してください。

成績評価の方法

宿題（iKnow!学習状況を含む）　30%
授業への積極的な参加　20%
u-CAT教材の学習状況およびスコア　30%
TOEIC-IPテスト（TOEIC公開テスト）のスコア　20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』（朝日出版社 ISBN-13: 978-4255003764）（2,940円）（TOEIC PREPARATION 受講者は、オンラインでのクレジットカード払い、またはコンビニ払いで利用更新［2,100円］が必要です。） ほかに iKnow!料金（1500円）TOEIC-IPテスト受験料（予価3,400円：一年生は不要）またはTOEIC公開テスト受験料（5,565円）が必要になります。

参考書

対面授業の際には辞書を持参し、知らない単語や表現はその場で引いて覚える習慣をつけましょう。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

〇電子辞書
SII（セイコーインスツルメンツ）DF-X901B（税込¥33,943）またはCASIO AZ-U980O（税込¥33,943）。
市販モデルの同等品に比べると1万円以上安いですが、学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意してください。
どちらの製品にも学習英英辞典としては定評のある『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（OALD8）『ロングマン現代英英辞典　5訂版』（LDOCE5）『リーダーズ英和辞典　第三版』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』（研究）『ジーニアス英和大辞典』（大修館書店）『新編英和活用大辞典』（研究社）など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。前者には『ランダムハウス英和大辞典　第2版』（小学館）『コウビルド新英英辞典』（CoBuild6）が収録されており、どちらの製品もオプションでフランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語辞書などを追加することができます。
このほかにも、理系モデルのSII DF-X901R（税込¥33,943）および CASIO AZ-U985O （税込¥33,943）は『岩波理化学辞典』など理系向けの辞典を多数収録していてお勧めですが、前者には『ロングマン現代英英辞典　5訂版』は収録されていません。
これらの電子辞書を購入しない人は、以下の英英辞典の購入を推奨します。

〇英英辞典
『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752975）、コンピュータで検索できるDVD-ROM付きのもの（ISBN-13: 978-4010752968） 『ロングマン現代英英辞典 5訂版 DVD-ROM付』（桐原書店 ISBN-13: 978-4342100949）
二冊の英英辞典の定義を比べながら使うことで、語句のニュアンスをつかむことができます。

〇 TOEIC問題集
『TOEICテスト新公式問題集 Vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、ISBN-13: 978-4906033430）
実際のTOEICテスト制作スタッフによって作成されており、もっとも信頼できるものです。

〇 文法自習書：Grammar in Use: Intermediate Student's Book with Answers and CD-ROM: Self-study Reference and Practice for Students of North American English (Cambridge University Press ISBN-13: 978-0521734776)
日本の文法書とは少し異なる角度から実践的かつ丁寧な説明がなされており、お勧めです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　Ｉ ＜4＞		
教員名	鈴木　理恵		
科目ナンバー	1701025030	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

TOEIC 550点（英検2級程度）あるいはそれ以上の人が、650点あるいはそれ以上をとれるようになるためのクラス。　TOEIC対策のe-ラーニング教材として定評のあるu-CAT（朝日出版社）と対面授業を組み合わせておこないます。対面授業では、TOEIC リスニング問題の得点向上のための学習法について学ぶと同時に、英語運用能力を高めるための方法論について学びます。また「iKnow!」（http://iknow.jp）のような英語学習サイトを活用して、英語の「自学自修」の習慣を身につけることも指導します。

到達目標

TOEIC で650点以上をとることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	［対面授業］オリエンテーション ・詳細な授業計画の説明 ・u-CATの使いかた、「iKnow!」の使い方など	
	『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第2回	［e-ラーニング］診断テスト・チュートリアル	
	・診断テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90
第3回	［対面授業］オリジナル教材#1	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第4回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120

第5回	［対面授業］オリジナル教材#2	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第6回	［e-ラーニング］第1回模擬テスト・チュートリアル	
	・第一回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第7回	［対面授業］オリジナル教材#3	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第8回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第9回	［対面授業］オリジナル教材#4	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第10回	［e-ラーニング］第2回模擬テスト・チュートリアル	
	・第二回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90

第11回	［対面授業］オリジナル教材#5	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第12回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第13回	［対面授業］オリジナル教材#6	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第14回	［e-ラーニング］第3回模擬テスト・チュートリアル	
	・第三回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第15回	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト	
	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト TOEICテストに備えて準備する。	60

授業の方法

e-ラーニングと対面授業を隔週交代で行います。e-ラーニングの週には、u-CAT（範囲が指定されています）およびiKnow!を自宅または大学で解いてください。教室での授業はありませんが、教員は個人指導（チュートリアル）のために教室に待機しています。対面授業の週には、指定された教材を宿題としてやってきてください。教室で問題の解説を行い、また必要に応じてクラスディスカッションを行います。

学習の成果を測るために、12月に一年生全員を対象に実施されるTOEIC-IPテスト（二年生以上の受講者は受験料3,400 円が必要です）か、11に実施されるTOEIC公開テストを必ず受験してください。

成績評価の方法

宿題（iKnow!学習状況を含む）　30%
授業への積極的な参加　20%
u-CAT教材の学習状況およびスコア　30%
TOEIC-IPテスト（TOEIC公開テスト）のスコア　20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』（朝日出版社 ISBN-13: 978-4255003764）（2,940円）（TOEIC PREPARATION 受講者は、オンラインでのクレジットカード払い、またはコンビニ払いで利用更新［2,100円］が必要です。） ほかに iKnow!料金（1500円）TOEIC-IPテスト受験料（予価3,400円：一年生は不要）またはTOEIC公開テスト受験料（5,565円）が必要になります。

参考書

対面授業の際には辞書を持参し、知らない単語や表現はその場で引いて覚える習慣をつけましょう。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

〇電子辞書
SII（セイコーインスツルメンツ）DF-X901B（税込¥33,943）またはCASIO AZ-U980O（税込¥33,943）。
市販モデルの同等品に比べると1万円以上安いですが、学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意してください。
どちらの製品にも学習英英辞典としては定評のある『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（OALD8）『ロングマン現代英英辞典　5訂版』（LDOCE5）『リーダーズ英和辞典　第三版』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』（研究）『ジーニアス英和大辞典』（大修館書店）『新編英和活用大辞典』（研究社）など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。前者には『ランダムハウス英和大辞典　第2版』（小学館）『コウビルド新英英辞典』（CoBuild6）が収録されており、どちらの製品もオプションでフランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語辞書などを追加することができます。
このほかにも、理系モデルのSII DF-X901R（税込¥33,943）および CASIO AZ-U985O （税込¥33,943）は『岩波理化学辞典』など理系向けの辞典を多数収録していてお勧めですが、前者には『ロングマン現代英英辞典　5訂版』は収録されていません。
これらの電子辞書を購入しない人は、以下の英英辞典の購入を推奨します。

〇英英辞典
『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752975）、コンピュータで検索できるDVD-ROM付きのもの（ISBN-13: 978-4010752968） 『ロングマン現代英英辞典 5訂版 DVD-ROM付』（桐原書店 ISBN-13: 978-4342100949）
二冊の英英辞典の定義を比べながら使うことで、語句のニュアンスをつかむことができます。

〇 TOEIC問題集
『TOEICテスト新公式問題集 Vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、ISBN-13: 978-4906033430）
実際のTOEICテスト制作スタッフによって作成されており、もっとも信頼できるものです。

〇 文法自習書：Grammar in Use: Intermediate Student's Book with Answers and CD-ROM: Self-study Reference and Practice for Students of North American English (Cambridge University Press ISBN-13: 978-0521734776)
日本の文法書とは少し異なる角度から実践的かつ丁寧な説明がなされており、お勧めです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　Ｉ ＜5＞		
教員名	佐々木　大介		
科目ナンバー	1801025030	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

TOEIC 550点（英検2級程度）あるいはそれ以上の人が、650点あるいはそれ以上をとれるようになるためのクラス。　TOEIC対策のe-ラーニング教材として定評のあるu-CAT（朝日出版社）と対面授業を組み合わせておこないます。対面授業では、TOEIC リスニング問題の得点向上のための学習法について学ぶと同時に、英語運用能力を高めるための方法論について学びます。また「iKnow!」（http://iknow.jp）のような英語学習サイトを活用して、英語の「自学自修」の習慣を身につけることも指導します。

到達目標

TOEIC で650点以上をとることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	［対面授業］オリエンテーション ・詳細な授業計画の説明 ・u-CATの使いかた、「iKnow!」の使い方など	
	『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第2回	［e-ラーニング］診断テスト・チュートリアル	
	・診断テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90
第3回	［対面授業］オリジナル教材#1	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第4回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120

第5回	［対面授業］オリジナル教材#2	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第6回	［e-ラーニング］第1回模擬テスト・チュートリアル	
	・第一回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第7回	［対面授業］オリジナル教材#3	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第8回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第9回	［対面授業］オリジナル教材#4	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第10回	［e-ラーニング］第2回模擬テスト・チュートリアル	
	・第二回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90

第11回	［対面授業］オリジナル教材#5	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第12回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第13回	［対面授業］オリジナル教材#6	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第14回	［e-ラーニング］第3回模擬テスト・チュートリアル	
	・第三回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第15回	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト	
	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト TOEICテストに備えて準備する。	60

授業の方法

e-ラーニングと対面授業を隔週交代で行います。e-ラーニングの週には、u-CAT（範囲が指定されています）およびiKnow!を自宅または大学で解いてください。教室での授業はありませんが、教員は個人指導（チュートリアル）のために教室に待機しています。対面授業の週には、指定された教材を宿題としてやってきてください。教室で問題の解説を行い、また必要に応じてクラスディスカッションを行います。

学習の成果を測るために、12月に一年生全員を対象に実施されるTOEIC-IPテスト（二年生以上の受講者は受験料3,400 円が必要です）か、11に実施されるTOEIC公開テストを必ず受験してください。

成績評価の方法

宿題（iKnow!学習状況を含む）　30%
授業への積極的な参加　20%
u-CAT教材の学習状況およびスコア　30%
TOEIC-IPテスト（TOEIC公開テスト）のスコア　20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』（朝日出版社 ISBN-13: 978-4255003764）（2,940円）（TOEIC PREPARATION 受講者は、オンラインでのクレジットカード払い、またはコンビニ払いで利用更新［2,100円］が必要です。） ほかに iKnow!料金（1500円）TOEIC-IPテスト受験料（予価3,400円：一年生は不要）またはTOEIC公開テスト受験料（5,565円）が必要になります。

参考書

対面授業の際には辞書を持参し、知らない単語や表現はその場で引いて覚える習慣をつけましょう。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

〇電子辞書
SII（セイコーインスツルメンツ）DF-X901B（税込¥33,943）またはCASIO AZ-U980O（税込¥33,943）。
市販モデルの同等品に比べると1万円以上安いですが、学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意してください。
どちらの製品にも学習英英辞典としては定評のある『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（OALD8）『ロングマン現代英英辞典　5訂版』（LDOCE5）『リーダーズ英和辞典　第三版』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』（研究）『ジーニアス英和大辞典』（大修館書店）『新編英和活用大辞典』（研究社）など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。前者には『ランダムハウス英和大辞典　第2版』（小学館）『コウビルド新英英辞典』（CoBuild6）が収録されており、どちらの製品もオプションでフランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語辞書などを追加することができます。
このほかにも、理系モデルのSII DF-X901R（税込¥33,943）および CASIO AZ-U985O （税込¥33,943）は『岩波理化学辞典』など理系向けの辞典を多数収録していてお勧めですが、前者には『ロングマン現代英英辞典　5訂版』は収録されていません。
これらの電子辞書を購入しない人は、以下の英英辞典の購入を推奨します。

〇英英辞典
『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752975）、コンピュータで検索できるDVD-ROM付きのもの（ISBN-13: 978-4010752968）『ロングマン現代英英辞典 5訂版 DVD-ROM付』（桐原書店 ISBN-13: 978-4342100949）
二冊の英英辞典の定義を比べながら使うことで、語句のニュアンスをつかむことができます。

〇 TOEIC問題集
『TOEICテスト新公式問題集 Vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、ISBN-13: 978-4906033430）
実際のTOEICテスト制作スタッフによって作成されており、もっとも信頼できるものです。

〇 文法自習書：Grammar in Use: Intermediate Student's Book with Answers and CD-ROM: Self-study Reference and Practice for Students of North American English (Cambridge University Press ISBN-13: 978-0521734776)
日本の文法書とは少し異なる角度から実践的かつ丁寧な説明がなされており、お勧めです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　Ｉ ＜6＞		
教員名	小川　貴宏		
科目ナンバー	1801025030	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

TOEIC 550点（英検2級程度）あるいはそれ以上の人が、650点あるいはそれ以上をとれるようになるためのクラス。　TOEIC対策のe-ラーニング教材として定評のあるu-CAT（朝日出版社）と対面授業を組み合わせておこないます。対面授業では、TOEIC リスニング問題の得点向上のための学習法について学ぶと同時に、英語運用能力を高めるための方法論について学びます。また「iKnow!」（http://iknow.jp）のような英語学習サイトを活用して、英語の「自学自修」の習慣を身につけることも指導します。

到達目標

TOEIC で650点以上をとることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	［対面授業］オリエンテーション ・詳細な授業計画の説明 ・u-CATの使いかた、「iKnow!」の使い方など	
	『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第2回	［e-ラーニング］診断テスト・チュートリアル	
	・診断テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90
第3回	［対面授業］オリジナル教材#1	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第4回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120

第5回	［対面授業］オリジナル教材#2	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第6回	［e-ラーニング］第1回模擬テスト・チュートリアル	
	・第一回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第7回	［対面授業］オリジナル教材#3	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第8回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第9回	［対面授業］オリジナル教材#4	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第10回	［e-ラーニング］第2回模擬テスト・チュートリアル	
	・第二回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90

第11回	［対面授業］オリジナル教材#5	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第12回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第13回	［対面授業］オリジナル教材#6	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第14回	［e-ラーニング］第3回模擬テスト・チュートリアル	
	・第三回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第15回	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト	
	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト TOEICテストに備えて準備する。	60

授業の方法

e-ラーニングと対面授業を隔週交代で行います。e-ラーニングの週には、u-CAT（範囲が指定されています）およびiKnow!を自宅または大学で解いてください。教室での授業はありませんが、教員は個人指導（チュートリアル）のために教室に待機しています。対面授業の週には、指定された教材を宿題としてやってきてください。教室で問題の解説を行い、また必要に応じてクラスディスカッションを行います。

学習の成果を測るために、12月に一年生全員を対象に実施されるTOEIC-IPテスト（二年生以上の受講者は受験料3,400 円が必要です）か、11に実施されるTOEIC公開テストを必ず受験してください。

成績評価の方法

宿題（iKnow!学習状況を含む）　30%
授業への積極的な参加　20%
u-CAT教材の学習状況およびスコア　30%
TOEIC-IPテスト（TOEIC公開テスト）のスコア　20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』（朝日出版社 ISBN-13: 978-4255003764）（2,940円）（TOEIC PREPARATION 受講者は、オンラインでのクレジットカード払い、またはコンビニ払いで利用更新［2,100円］が必要です。） ほかに iKnow!料金（1500円）TOEIC-IPテスト受験料（予価3,400円：一年生は不要）またはTOEIC公開テスト受験料（5,565円）が必要になります。

参考書

対面授業の際には辞書を持参し、知らない単語や表現はその場で引いて覚える習慣をつけましょう。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

〇電子辞書
SII（セイコーインスツルメンツ）DF-X901B（税込¥33,943）またはCASIO AZ-U980O（税込¥33,943）。
市販モデルの同等品に比べると1万円以上安いですが、学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意してください。
どちらの製品にも学習英英辞典としては定評のある『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（OALD8）『ロングマン現代英英辞典　5訂版』（LDOCE5）『リーダーズ英和辞典　第三版』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』（研究）『ジーニアス英和大辞典』（大修館書店）『新編英和活用大辞典』（研究社）など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。前者には『ランダムハウス英和大辞典　第2版』（小学館）『コウビルド新英英辞典』（CoBuild6）が収録されており、どちらの製品もオプションでフランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語辞書などを追加することができます。
このほかにも、理系モデルのSII DF-X901R（税込¥33,943）および CASIO AZ-U985O （税込¥33,943）は『岩波理化学辞典』など理系向けの辞典を多数収録していてお勧めですが、前者には『ロングマン現代英英辞典　5訂版』は収録されていません。
これらの電子辞書を購入しない人は、以下の英英辞典の購入を推奨します。

〇英英辞典
『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752975）、コンピュータで検索できるDVD-ROM付きのもの（ISBN-13: 978-4010752968）『ロングマン現代英英辞典 5訂版 DVD-ROM付』（桐原書店 ISBN-13: 978-4342100949）
二冊の英英辞典の定義を比べながら使うことで、語句のニュアンスをつかむことができます。

〇 TOEIC問題集
『TOEICテスト新公式問題集 Vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、ISBN-13: 978-4906033430）
実際のTOEICテスト制作スタッフによって作成されており、もっとも信頼できるものです。

〇 文法自習書：Grammar in Use: Intermediate Student's Book with Answers and CD-ROM: Self-study Reference and Practice for Students of North American English (Cambridge University Press ISBN-13: 978-0521734776)
日本の文法書とは少し異なる角度から実践的かつ丁寧な説明がなされており、お勧めです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	TOEIC P. Advanced ＜1＞		
教員名	鈴木　理恵		
科目ナンバー	1101425040	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

TOEIC 550点（英検2級程度）あるいはそれ以上の人が、650点あるいはそれ以上をとれるようになるためのクラス。　TOEIC対策のe-ラーニング教材として定評のあるu-CAT（朝日出版社）と対面授業を組み合わせておこないます。対面授業では、TOEIC リスニング問題の得点向上のための学習法について学ぶと同時に、英語運用能力を高めるための方法論について学びます。また「iKnow!」（http://iknow.jp）のような英語学習サイトを活用して、英語の「自学自修」の習慣を身につけることも指導します。

到達目標

TOEIC で650点以上をとることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	［対面授業］オリエンテーション ・u-CATの使いかた、「iKnow!」の使い方など ・詳細な授業計画の説明	
	『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第2回	［e-ラーニング］診断テスト・チュートリアル	
	・診断テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90
第3回	［対面授業］オリジナル教材#1	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第4回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120

第5回	［対面授業］オリジナル教材#2	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第6回	［e-ラーニング］第1回模擬テスト・チュートリアル	
	・第一回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第7回	［対面授業］オリジナル教材#3	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第8回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第9回	［対面授業］オリジナル教材#4	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第10回	［e-ラーニング］第2回模擬テスト・チュートリアル	
	・第二回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90

第11回	［対面授業］オリジナル教材#5	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第12回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第13回	［対面授業］オリジナル教材#6	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第14回	［e-ラーニング］第3回模擬テスト・チュートリアル	
	・第三回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第15回	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト	
	TOEICテストに備えて準備する。	60

授業の方法

e-ラーニングと対面授業を隔週交代で行います。e-ラーニングの週には、u-CAT（範囲が指定されています）およびiKnow!を自宅または大学で解いてください。教室での授業はありませんが、教員は個人指導（チュートリアル）のために教室に待機しています。対面授業の週には、指定された教材を宿題としてやってきてください。教室で問題の解説を行い、また必要に応じてクラスディスカッションを行います。

成績評価の方法

宿題（iKnow!学習状況を含む）　30%
授業への積極的な参加　20%
u-CAT教材の学習状況およびスコア　30%
TOEIC-IPテスト（TOEIC公開テスト）のスコア　20%

学習の成果を測るために、7月に一年生全員を対象に実施されるTOEIC-IPテスト（二年生以上の受講者は受験料3,400 円が必要です）か、6月に実施される第TOEIC公開テストを必ず受験してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』（朝日出版社 ISBN-13: 978-4255003764）（2,940円）（TOEIC PREPARATION 受講者は、オンラインでのクレジットカード払い、またはコンビニ払いで利用更新［2,100円］が必要です。） ほかに iKnow!料金（1500円）TOEIC-IPテスト受験料（予価3,400円：一年生は不要）またはTOEIC公開テスト受験料（5,565円）が必要になります。

参考書

対面授業の際には辞書を持参し、知らない単語や表現はその場で引いて覚える習慣をつけましょう。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

〇電子辞書
SII（セイコーインスツルメンツ）DF-X901B（税込¥33,943）またはCASIO AZ-U980O（税込¥33,943）。
市販モデルの同等品に比べると1万円以上安いですが、学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意してください。
どちらの製品にも学習英英辞典としては定評のある『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（OALD8）『ロングマン現代英英辞典　5訂版』（LDOCE5）『リーダーズ英和辞典　第三版』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』（研究）『ジーニアス英和大辞典』（大修館書店）『新編英和活用大辞典』（研究社）など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。前者には『ランダムハウス英和大辞典　第2版』（小学館）『コウビルド新英英辞典』（CoBuild6）が収録されており、どちらの製品もオプションでフランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語辞書などを追加することができます。
このほかにも、理系モデルのSII DF-X901R（税込¥33,943）および CASIO AZ-U985O （税込¥33,943）は『岩波理化学辞典』など理系向けの辞典を多数収録していてお勧めですが、前者には『ロングマン現代英英辞典　5訂版』は収録されていません。
これらの電子辞書を購入しない人は、以下の英英辞典の購入を推奨します。

〇英英辞典
『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752975）、コンピュータで検索できるDVD-ROM付きのもの（ISBN-13: 978-4010752968） 『ロングマン現代英英辞典 5訂版 DVD-ROM付』（桐原書店 ISBN-13: 978-4342100949）
二冊の英英辞典の定義を比べながら使うことで、語句のニュアンスをつかむことができます。

〇 TOEIC問題集
『TOEICテスト新公式問題集 Vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、ISBN-13: 978-4906033430）
実際のTOEICテスト制作スタッフによって作成されており、もっとも信頼できるものです。

〇 文法自習書：Grammar in Use: Intermediate Student's Book with Answers and CD-ROM: Self-study Reference and Practice for Students of North American English (Cambridge University Press ISBN-13: 978-0521734776)
日本の文法書とは少し異なる角度から実践的かつ丁寧な説明がなされており、お勧めです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	TOEIC P. Advanced ＜2＞		
教員名	佐々木　大介		
科目ナンバー	1101425040	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

TOEIC 550点（英検2級程度）あるいはそれ以上の人が、650点あるいはそれ以上をとれるようになるためのクラス。　TOEIC対策のe-ラーニング教材として定評のあるu-CAT（朝日出版社）と対面授業を組み合わせておこないます。対面授業では、TOEIC リスニング問題の得点向上のための学習法について学ぶと同時に、英語運用能力を高めるための方法論について学びます。また「iKnow!」（http://iknow.jp）のような英語学習サイトを活用して、英語の「自学自修」の習慣を身につけることも指導します。

到達目標

TOEIC で650点以上をとることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	［対面授業］オリエンテーション ・u-CATの使いかた、「iKnow!」の使い方など ・詳細な授業計画の説明	
	『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第2回	［e-ラーニング］診断テスト・チュートリアル	
	・診断テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90
第3回	［対面授業］オリジナル教材#1	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第4回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120

第5回	［対面授業］オリジナル教材#2	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第6回	［e-ラーニング］第1回模擬テスト・チュートリアル	
	・第一回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第7回	［対面授業］オリジナル教材#3	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第8回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第9回	［対面授業］オリジナル教材#4	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第10回	［e-ラーニング］第2回模擬テスト・チュートリアル	
	・第二回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90

第11回	［対面授業］オリジナル教材#5	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第12回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第13回	［対面授業］オリジナル教材#6	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第14回	［e-ラーニング］第3回模擬テスト・チュートリアル	
	・第三回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第15回	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト	
	TOEICテストに備えて準備する。	60

授業の方法

e-ラーニングと対面授業を隔週交代で行います。e-ラーニングの週には、u-CAT（範囲が指定されています）およびiKnow!を自宅または大学で解いてください。教室での授業はありませんが、教員は個人指導（チュートリアル）のために教室に待機しています。対面授業の週には、指定された教材を宿題としてやってきてください。教室で問題の解説を行い、また必要に応じてクラスディスカッションを行います。

成績評価の方法

宿題（iKnow!学習状況を含む）　30%
授業への積極的な参加　20%
u-CAT教材の学習状況およびスコア　30%
TOEIC-IPテスト（TOEIC公開テスト）のスコア　20%

学習の成果を測るために、7月に一年生全員を対象に実施されるTOEIC-IPテスト（二年生以上の受講者は受験料3,400 円が必要です）か、6月に実施される第TOEIC公開テストを必ず受験してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』（朝日出版社 ISBN-13: 978-4255003764）（2,940円）（TOEIC PREPARATION 受講者は、オンラインでのクレジットカード払い、またはコンビニ払いで利用更新［2,100円］が必要です。） ほかに iKnow!料金（1500円）TOEIC-IPテスト受験料（予価3,400円：一年生は不要）またはTOEIC公開テスト受験料（5,565円）が必要になります。

参考書

対面授業の際には辞書を持参し、知らない単語や表現はその場で引いて覚える習慣をつけましょう。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

〇電子辞書
SII（セイコーインスツルメンツ）DF-X901B（税込¥33,943）またはCASIO AZ-U980O（税込¥33,943）。
市販モデルの同等品に比べると1万円以上安いですが、学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意してください。
どちらの製品にも学習英英辞典としては定評のある『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（OALD8）『ロングマン現代英英辞典　5訂版』（LDOCE5）『リーダーズ英和辞典　第三版』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』（研究）『ジーニアス英和大辞典』（大修館書店）『新編英和活用大辞典』（研究社）など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。前者には『ランダムハウス英和大辞典　第2版』（小学館）『コウビルド新英英辞典』（CoBuild6）が収録されており、どちらの製品もオプションでフランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語辞書などを追加することができます。
このほかにも、理系モデルのSII DF-X901R（税込¥33,943）および CASIO AZ-U985O （税込¥33,943）は『岩波理化学辞典』など理系向けの辞典を多数収録していてお勧めですが、前者には『ロングマン現代英英辞典　5訂版』は収録されていません。
これらの電子辞書を購入しない人は、以下の英英辞典の購入を推奨します。

〇英英辞典
『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752975）、コンピュータで検索できるDVD-ROM付きのもの（ISBN-13: 978-4010752968）『ロングマン現代英英辞典 5訂版 DVD-ROM付』（桐原書店 ISBN-13: 978-4342100949）
二冊の英英辞典の定義を比べながら使うことで、語句のニュアンスをつかむことができます。

〇 TOEIC問題集
『TOEICテスト新公式問題集 Vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、ISBN-13: 978-4906033430）
実際のTOEICテスト制作スタッフによって作成されており、もっとも信頼できるものです。

〇 文法自習書：Grammar in Use: Intermediate Student's Book with Answers and CD-ROM: Self-study Reference and Practice for Students of North American English (Cambridge University Press ISBN-13: 978-0521734776)
日本の文法書とは少し異なる角度から実践的かつ丁寧な説明がなされており、お勧めです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	TOEIC P. Advanced <3>		
教員名	小川　貴宏		
科目ナンバー	1101425040	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

TOEIC 550点（英検2級程度）あるいはそれ以上の人が、650点あるいはそれ以上をとれるようになるためのクラス。　TOEIC対策のe-ラーニング教材として定評のあるu-CAT（朝日出版社）と対面授業を組み合わせておこないます。対面授業では、TOEIC リスニング問題の得点向上のための学習法について学ぶと同時に、英語運用能力を高めるための方法論について学びます。また「iKnow!」（http://iknow.jp）のような英語学習サイトを活用して、英語の「自学自修」の習慣を身につけることも指導します。

到達目標

TOEIC で650点以上をとることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	［対面授業］オリエンテーション ・u-CATの使いかた、「iKnow!」の使い方など ・詳細な授業計画の説明	
	『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第2回	［e-ラーニング］診断テスト・チュートリアル	
	・診断テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90
第3回	［対面授業］オリジナル教材#1	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第4回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120

第5回	［対面授業］オリジナル教材#2	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第6回	［e-ラーニング］第1回模擬テスト・チュートリアル	
	・第一回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第7回	［対面授業］オリジナル教材#3	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第8回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第9回	［対面授業］オリジナル教材#4	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第10回	［e-ラーニング］第2回模擬テスト・チュートリアル	
	・第二回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90

第11回	［対面授業］オリジナル教材#5	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第12回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第13回	［対面授業］オリジナル教材#6	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第14回	［e-ラーニング］第3回模擬テスト・チュートリアル	
	・第三回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第15回	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト	
	TOEICテストに備えて準備する。	60

授業の方法

e-ラーニングと対面授業を隔週交代で行います。e-ラーニングの週には、u-CAT（範囲が指定されています）およびiKnow!を自宅または大学で解いてください。教室での授業はありませんが、教員は個人指導（チュートリアル）のために教室に待機しています。対面授業の週には、指定された教材を宿題としてやってきてください。教室で問題の解説を行い、また必要に応じてクラスディスカッションを行います。

成績評価の方法

宿題（iKnow!学習状況を含む）　30%
授業への積極的な参加　20%
u-CAT教材の学習状況およびスコア　30%
TOEIC-IPテスト（TOEIC公開テスト）のスコア　20%

学習の成果を測るために、7月に一年生全員を対象に実施されるTOEIC-IPテスト（二年生以上の受講者は受験料3,400 円が必要です）か、6月に実施される第TOEIC公開テストを必ず受験してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』（朝日出版社 ISBN-13: 978-4255003764）（2,940円）（TOEIC PREPARATION 受講者は、オンラインでのクレジットカード払い、またはコンビニ払いで利用更新［2,100円］が必要です。） ほかに iKnow!料金（1500円）TOEIC-IPテスト受験料（予価3,400円：一年生は不要）またはTOEIC公開テスト受験料（5,565円）が必要になります。

参考書

対面授業の際には辞書を持参し、知らない単語や表現はその場で引いて覚える習慣をつけましょう。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

〇電子辞書
SII（セイコーインスツルメンツ）DF-X901B（税込¥33,943）またはCASIO AZ-U980O（税込¥33,943）。
市販モデルの同等品に比べると1万円以上安いですが、学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意してください。
どちらの製品にも学習英英辞典としては定評のある『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（OALD8）『ロングマン現代英英辞典　5訂版』（LDOCE5）『リーダーズ英和辞典　第三版』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』（研究）『ジーニアス英和大辞典』（大修館書店）『新編英和活用大辞典』（研究社）など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。前者には『ランダムハウス英和大辞典　第2版』（小学館）『コウビルド新英英辞典』（CoBuild6）が収録されており、どちらの製品もオプションでフランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語辞書などを追加することができます。
このほかにも、理系モデルのSII DF-X901R（税込¥33,943）および CASIO AZ-U985O （税込¥33,943）は『岩波理化学辞典』など理系向けの辞典を多数収録していてお勧めですが、前者には『ロングマン現代英英辞典　5訂版』は収録されていません。
これらの電子辞書を購入しない人は、以下の英英辞典の購入を推奨します。

〇英英辞典
『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752975）、コンピュータで検索できるDVD-ROM付きのもの（ISBN-13: 978-4010752968）『ロングマン現代英英辞典 5訂版 DVD-ROM付』（桐原書店 ISBN-13: 978-4342100949）
二冊の英英辞典の定義を比べながら使うことで、語句のニュアンスをつかむことができます。

〇 TOEIC問題集
『TOEICテスト新公式問題集 Vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、ISBN-13: 978-4906033430）
実際のTOEICテスト制作スタッフによって作成されており、もっとも信頼できるものです。

〇 文法自習書：Grammar in Use: Intermediate Student's Book with Answers and CD-ROM: Self-study Reference and Practice for Students of North American English (Cambridge University Press ISBN-13: 978-0521734776)
日本の文法書とは少し異なる角度から実践的かつ丁寧な説明がなされており、お勧めです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　ＩＩ <4>		
教員名	加藤　澄恵		
科目ナンバー	1701025040	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

TOEIC 550点（英検2級程度）あるいはそれ以上の人が、650点あるいはそれ以上をとれるようになるためのクラス。　TOEIC対策のe-ラーニング教材として定評のあるu-CAT（朝日出版社）と対面授業を組み合わせておこないます。対面授業では、TOEIC リスニング問題の得点向上のための学習法について学ぶと同時に、英語運用能力を高めるための方法論について学びます。また「iKnow!」（http://iknow.jp）のような英語学習サイトを活用して、英語の「自学自修」の習慣を身につけることも指導します。

到達目標

TOEIC で650点以上をとることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	［対面授業］オリエンテーション ・u-CATの使いかた、「iKnow!」の使い方など ・詳細な授業計画の説明	
	『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第2回	［e-ラーニング］診断テスト・チュートリアル	
	・診断テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90
第3回	［対面授業］オリジナル教材#1	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第4回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120

第5回	［対面授業］オリジナル教材#2	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第6回	［e-ラーニング］第1回模擬テスト・チュートリアル	
	・第一回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第7回	［対面授業］オリジナル教材#3	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第8回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第9回	［対面授業］オリジナル教材#4	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第10回	［e-ラーニング］第2回模擬テスト・チュートリアル	
	・第二回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90

第11回	［対面授業］オリジナル教材#5	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第12回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第13回	［対面授業］オリジナル教材#6	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第14回	［e-ラーニング］第3回模擬テスト・チュートリアル	
	・第三回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第15回	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト	
	TOEICテストに備えて準備する。	60

授業の方法

e-ラーニングと対面授業を隔週交代で行います。e-ラーニングの週には、u-CAT（範囲が指定されています）およびiKnow!を自宅または大学で解いてください。教室での授業はありませんが、教員は個人指導（チュートリアル）のために教室に待機しています。対面授業の週には、指定された教材を宿題としてやってきてください。教室で問題の解説を行い、また必要に応じてクラスディスカッションを行います。

成績評価の方法

宿題（iKnow!学習状況を含む）　30%
授業への積極的な参加　20%
u-CAT教材の学習状況およびスコア　30%
TOEIC-IPテスト（TOEIC公開テスト）のスコア　20%

学習の成果を測るために、7月に一年生全員を対象に実施されるTOEIC-IPテスト（二年生以上の受講者は受験料3,400 円が必要です）か、6月に実施される第TOEIC公開テストを必ず受験してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』（朝日出版社 ISBN-13: 978-4255003764）（2,940円）（TOEIC PREPARATION 受講者は、オンラインでのクレジットカード払い、またはコンビニ払いで利用更新［2,100円］が必要です。） ほかに iKnow!料金（1500円）TOEIC-IPテスト受験料（予価3,400円：一年生は不要）またはTOEIC公開テスト受験料（5,565円）が必要になります。

参考書

対面授業の際には辞書を持参し、知らない単語や表現はその場で引いて覚える習慣をつけましょう。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

〇電子辞書
SII（セイコーインスツルメンツ）DF-X901B（税込¥33,943）またはCASIO AZ-U980O（税込¥33,943）。
市販モデルの同等品に比べると1万円以上安いですが、学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意してください。
どちらの製品にも学習英英辞典としては定評のある『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（OALD8）『ロングマン現代英英辞典　5訂版』（LDOCE5）『リーダーズ英和辞典　第三版』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』（研究）『ジーニアス英和大辞典』（大修館書店）『新編英和活用大辞典』（研究社）など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。前者には『ランダムハウス英和大辞典　第2版』（小学館）『コウビルド新英英辞典』（CoBuild6）が収録されており、どちらの製品もオプションでフランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語辞書などを追加することができます。
このほかにも、理系モデルのSII DF-X901R（税込¥33,943）および CASIO AZ-U985O （税込¥33,943）は『岩波理化学辞典』など理系向けの辞典を多数収録していてお勧めですが、前者には『ロングマン現代英英辞典　5訂版』は収録されていません。
これらの電子辞書を購入しない人は、以下の英英辞典の購入を推奨します。

〇英英辞典
『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752975）、コンピュータで検索できるDVD-ROM付きのもの（ISBN-13: 978-4010752968）『ロングマン現代英英辞典 5訂版 DVD-ROM付』（桐原書店 ISBN-13: 978-4342100949）
二冊の英英辞典の定義を比べながら使うことで、語句のニュアンスをつかむことができます。

〇 TOEIC問題集
『TOEICテスト新公式問題集 Vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、ISBN-13: 978-4906033430）
実際のTOEICテスト制作スタッフによって作成されており、もっとも信頼できるものです。

〇 文法自習書：Grammar in Use: Intermediate Student's Book with Answers and CD-ROM: Self-study Reference and Practice for Students of North American English (Cambridge University Press ISBN-13: 978-0521734776)
日本の文法書とは少し異なる角度から実践的かつ丁寧な説明がなされており、お勧めです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　ＩＩ <5>		
教員名	鈴木　理恵		
科目ナンバー	1801025040	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

TOEIC 550点（英検2級程度）あるいはそれ以上の人が、650点あるいはそれ以上をとれるようになるためのクラス。　TOEIC対策のe-ラーニング教材として定評のあるu-CAT（朝日出版社）と対面授業を組み合わせておこないます。対面授業では、TOEIC リスニング問題の得点向上のための学習法について学ぶと同時に、英語運用能力を高めるための方法論について学びます。また「iKnow!」（http://iknow.jp）のような英語学習サイトを活用して、英語の「自学自修」の習慣を身につけることも指導します。

到達目標

TOEIC で650点以上をとることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	［対面授業］オリエンテーション ・u-CATの使いかた、「iKnow!」の使い方など ・詳細な授業計画の説明	
	『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第2回	［e-ラーニング］診断テスト・チュートリアル	
	・診断テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90
第3回	［対面授業］オリジナル教材#1	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第4回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120

第5回	［対面授業］オリジナル教材#2	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第6回	［e-ラーニング］第1回模擬テスト・チュートリアル	
	・第一回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第7回	［対面授業］オリジナル教材#3	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第8回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第9回	［対面授業］オリジナル教材#4	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第10回	［e-ラーニング］第2回模擬テスト・チュートリアル	
	・第二回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90

第11回	［対面授業］オリジナル教材#5	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第12回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第13回	［対面授業］オリジナル教材#6	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第14回	［e-ラーニング］第3回模擬テスト・チュートリアル	
	・第三回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第15回	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト	
	TOEICテストに備えて準備する。	60

授業の方法

e-ラーニングと対面授業を隔週交代で行います。e-ラーニングの週には、u-CAT（範囲が指定されています）およびiKnow!を自宅または大学で解いてください。教室での授業はありませんが、教員は個人指導（チュートリアル）のために教室に待機しています。対面授業の週には、指定された教材を宿題としてやってきてください。教室で問題の解説を行い、また必要に応じてクラスディスカッションを行います。

成績評価の方法

宿題（iKnow!学習状況を含む）　30%
授業への積極的な参加　20%
u-CAT教材の学習状況およびスコア　30%
TOEIC-IPテスト（TOEIC公開テスト）のスコア　20%

学習の成果を測るために、7月に一年生全員を対象に実施されるTOEIC-IPテスト（二年生以上の受講者は受験料3,400 円が必要です）か、6月に実施される第TOEIC公開テストを必ず受験してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』（朝日出版社 ISBN-13: 978-4255003764）（2,940円）（TOEIC PREPARATION 受講者は、オンラインでのクレジットカード払い、またはコンビニ払いで利用更新［2,100円］が必要です。） ほかに iKnow!料金（1500円）TOEIC-IPテスト受験料（予価3,400円：一年生は不要）またはTOEIC公開テスト受験料（5,565円）が必要になります。

参考書

対面授業の際には辞書を持参し、知らない単語や表現はその場で引いて覚える習慣をつけましょう。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

〇電子辞書
SII（セイコーインスツルメンツ）DF-X901B（税込¥33,943）またはCASIO AZ-U980O（税込¥33,943）。
市販モデルの同等品に比べると1万円以上安いですが、学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意してください。
どちらの製品にも学習英英辞典としては定評のある『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（OALD8）『ロングマン現代英英辞典　5訂版』（LDOCE5）『リーダーズ英和辞典　第三版』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』（研究）『ジーニアス英和大辞典』（大修館書店）『新編英和活用大辞典』（研究社）など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。前者には『ランダムハウス英和大辞典　第2版』（小学館）『コウビルド新英英辞典』（CoBuild6）が収録されており、どちらの製品もオプションでフランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語辞書などを追加することができます。
このほかにも、理系モデルのSII DF-X901R（税込¥33,943）および CASIO AZ-U985O （税込¥33,943）は『岩波理化学辞典』など理系向けの辞典を多数収録していてお勧めですが、前者には『ロングマン現代英英辞典　5訂版』は収録されていません。
これらの電子辞書を購入しない人は、以下の英英辞典の購入を推奨します。

〇英英辞典
『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752975）、コンピュータで検索できるDVD-ROM付きのもの（ISBN-13: 978-4010752968） 『ロングマン現代英英辞典 5訂版 DVD-ROM付』（桐原書店 ISBN-13: 978-4342100949）
二冊の英英辞典の定義を比べながら使うことで、語句のニュアンスをつかむことができます。

〇 TOEIC問題集
『TOEICテスト新公式問題集 Vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、ISBN-13: 978-4906033430）
実際のTOEICテスト制作スタッフによって作成されており、もっとも信頼できるものです。

〇 文法自習書：Grammar in Use: Intermediate Student's Book with Answers and CD-ROM: Self-study Reference and Practice for Students of North American English (Cambridge University Press ISBN-13: 978-0521734776)
日本の文法書とは少し異なる角度から実践的かつ丁寧な説明がなされており、お勧めです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　II ＜6＞		
教員名	権田　建二		
科目ナンバー	1801025040	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

TOEIC 550点（英検2級程度）あるいはそれ以上の人が、650点あるいはそれ以上をとれるようになるためのクラス。　TOEIC対策のe-ラーニング教材として定評のあるu-CAT（朝日出版社）と対面授業を組み合わせておこないます。対面授業では、TOEIC リスニング問題の得点向上のための学習法について学ぶと同時に、英語運用能力を高めるための方法論について学びます。また「iKnow!」（http://iknow.jp）のような英語学習サイトを活用して、英語の「自学自修」の習慣を身につけることも指導します。

到達目標

TOEIC で650点以上をとることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	［対面授業］オリエンテーション ・u-CATの使いかた、「iKnow!」の使い方など ・詳細な授業計画の説明	
	『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第2回	［e-ラーニング］診断テスト・チュートリアル	
	・診断テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	90
第3回	［対面授業］オリジナル教材#1	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第4回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120

第5回	［対面授業］オリジナル教材#2	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第6回	［e-ラーニング］第1回模擬テスト・チュートリアル	
	・第一回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第7回	［対面授業］オリジナル教材#3	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第8回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第9回	［対面授業］オリジナル教材#4	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第10回	［e-ラーニング］第2回模擬テスト・チュートリアル	
	・第二回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90

第11回	［対面授業］オリジナル教材#5	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。 ・クラス独自の課題	60
第12回	［e-ラーニング］ホームワーク・チュートリアル	
	・ホームワーク受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	120
第13回	［対面授業］オリジナル教材#6	
	・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	60
第14回	［e-ラーニング］第3回模擬テスト・チュートリアル	
	・第三回模擬テスト受講[e-ラーニング] ・『新TOEICテスト英単語・熟語マスタリー2000』「頻度 Rank B」30語を覚える。	90
第15回	TOEIC-IPテスト／TOEIC公開テスト	
	TOEICテストに備えて準備する。	60

授業の方法

e-ラーニングと対面授業を隔週交代で行います。e-ラーニングの週には、u-CAT（範囲が指定されています）およびiKnow!を自宅または大学で解いてください。教室での授業はありませんが、教員は個人指導（チュートリアル）のために教室に待機しています。対面授業の週には、指定された教材を宿題としてやってきてください。教室で問題の解説を行い、また必要に応じてクラスディスカッションを行います。

成績評価の方法

宿題（iKnow!学習状況を含む）　30%
授業への積極的な参加　20%
u-CAT教材の学習状況およびスコア　30%
TOEIC-IPテスト（TOEIC公開テスト）のスコア　20%

学習の成果を測るために、7月に一年生全員を対象に実施されるTOEIC-IPテスト（二年生以上の受講者は受験料3,400 円が必要です）か、6月に実施される第TOEIC公開テストを必ず受験してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』（朝日出版社 ISBN-13: 978-4255003764）（2,940円）（TOEIC PREPARATION 受講者は、オンラインでのクレジットカード払い、またはコンビニ払いで利用更新［2,100円］が必要です。） ほかに iKnow!料金（1500円）TOEIC-IPテスト受験料（予価3,400円：一年生は不要）またはTOEIC公開テスト受験料（5,565円）が必要になります。

参考書

対面授業の際には辞書を持参し、知らない単語や表現はその場で引いて覚える習慣をつけましょう。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

〇電子辞書
SII（セイコーインスツルメンツ）DF-X901B（税込¥33,943）またはCASIO AZ-U980O（税込¥33,943）。
市販モデルの同等品に比べると1万円以上安いですが、学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意してください。
どちらの製品にも学習英英辞典としては定評のある『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（OALD8）『ロングマン現代英英辞典　5訂版』（LDOCE5）『リーダーズ英和辞典　第三版』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』（研究）『ジーニアス英和大辞典』（大修館書店）『新編英和活用大辞典』（研究社）など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。前者には『ランダムハウス英和大辞典　第2版』（小学館）『コウビルド新英英辞典』（CoBuild6）が収録されており、どちらの製品もオプションでフランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語辞書などを追加することができます。
このほかにも、理系モデルのSII DF-X901R（税込¥33,943）および CASIO AZ-U985O （税込¥33,943）は『岩波理化学辞典』など理系向けの辞典を多数収録していてお勧めですが、前者には『ロングマン現代英英辞典　5訂版』は収録されていません。
これらの電子辞書を購入しない人は、以下の英英辞典の購入を推奨します。

〇英英辞典
『オックスフォード現代英英辞典　第8版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752975）、コンピュータで検索できるDVD-ROM付きのもの（ISBN-13: 978-4010752968） 『ロングマン現代英英辞典 5訂版 DVD-ROM付』（桐原書店 ISBN-13: 978-4342100949）
二冊の英英辞典の定義を比べながら使うことで、語句のニュアンスをつかむことができます。

〇 TOEIC問題集
『TOEICテスト新公式問題集 Vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、ISBN-13: 978-4906033430）
実際のTOEICテスト制作スタッフによって作成されており、もっとも信頼できるものです。

〇 文法自習書：Grammar in Use: Intermediate Student's Book with Answers and CD-ROM: Self-study Reference and Practice for Students of North American English (Cambridge University Press ISBN-13: 978-0521734776)
日本の文法書とは少し異なる角度から実践的かつ丁寧な説明がなされており、お勧めです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ　ＳｋｉｌｌｓＩ <1>		
教員名	ハデス　マイク		
科目ナンバー	1101025070	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

This class will study the skills necessary to talk to groups in English as well as public speaking in general.
The course involves presenting and understanding topics related to societal issues in a group setting.
Students will learn the skills required to give an effective presentation in English and ask questions as an audience member.

到達目標

The main goals of the course are to gain familiarity with basic public speaking; speech tactics and devices; and sourcing resource materials for presentation topics. Students are also expected to use class handouts and materials to further develop their presentation skills in English.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Class 1. Course introduction	
	Introduction and course outline	60 min: homework presentation topic writing task
第2回	Class 2. Part 1	
	Presentation basics - key points for choosing a topic	60 min: presentation (decide topic & main points)
第3回	Class 3. Part 2	
	Basic presentation structure: introduction	60 min: presentation prep - prepare partner presentation

第4回	Class 4. Part 3	
	Presentation practice I: pair presentation 2 minutes	60 min: write out questions for other students
第5回	Class 5. Part 4	
	Presentation format & structure: examples & experience	60 min: prepare presentation notes
第6回	Class 6. Part 5	
	Review notes for presentation	60 min: presentation prep & find examples & sources
第7回	Class 7. Part 6	
	Presentation practice in groups	60 min: presentation practice with completed template
第8回	Class 8. Midterm presentation	
	Presentations on selected topcs	60 min: review presentation notes
第9回	Class 9. Part 7	
	Gestures: move & be heard + practice body language	60 min: presentation (put gesture notes in presentation

第10回	Class 10. Part 8	
	Find topic sources for key presentation points	60 min:locate source material for presentation
第11回	Class 11. Part 9	
	Presentation practice - solo presentation 1 min	60 min: create presentation first draft
第12回	Class 12. Part 10	
	Using PowerPoint for presentations	60 min: create powerpoint slides with key present points
第13回	Class 13. Part 11	
	Practice presentations in small goups	60 min: check partner's presentations for clarity
第14回	Class 14. End of term review	
	Final draft checkover and presentation practice	60 min: Review & practice for final presentation
第15回	Class 15. Final presntation	
	Final Individual PowerPoint presentations	You're finished. Go home & review

授業の方法

The class will study materials related to idea generation, creation, revision and giving presentations. Students are expected to make presentations and listen to and ask questions about other student presentations. Students will work together in groups and prepare group and individual presentations based on themes and topics presented in the class.

成績評価の方法

Semester grading will be based on making 3 short presentations in class and listening to and asking questions about their fellow student's presentations; participation in class discussions and presentations; effort given to communicate with others in English and presentation preparation homework. The grade is based on: 20% homework; 30% group and individual presentation; 50% presentation preparation in class and outside of class. Students must attend a minimum 10 classes to pass the course.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

Have reasons, objectives and goals related to improving public speaking skills in English.

テキスト

No textbook is required. Teacher will provide handouts.

参考書

A dictionary is required that you are familiar with.
A copy of Microsoft PowerPoint version 2007 or later.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ　ＳｋｉｌｌｓⅠ ＜2＞		
教員名	ビーゲル　ケネス		
科目ナンバー	1101025070	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

This class will study the skills necessary to talk to groups in English as well as public speaking in general. The course will involve preparing for, acting out, as well as understanding the group work involved in presentations. The students will learn a process for writing and making short presentations in English as well as audience participation.

到達目標

The main goals of the class are to gain familiarity with the basis of public speaking, devices and tactics in speeches, and resource material usage. The students will be expected to use the teaching material to further develop their listening and speaking skills in English.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Introduction to the course and a quick look at outlines.	
	Read assigned material and brainstorm topics for first presentation.	Depends on the week, but usually 30 to 60 min.
第2回	Organization of the basic presentation.	
	Work on outline for first presentation.	60 min.
第3回	Notecards and their use.	
	Work on making notecards and research for first presentation.	60 min.

第4回	A focus on body language and presentation practice.	
	Research and preparation for first presentation.	60 min.
第5回	Presentations.	
	Practice, practice, practice.	60 min.
第6回	Post-presentation feedback and discussion.	
	Review of first presentations.	60 min.
第7回	Organization of a group presentation.	
	Read assigned material and brainstorm topics for first group presentation.	60 min.
第8回	Group work and discussion.	
	Work on making notecards and research for first group presentation.	60 min.
第9回	Group presentations and feedback.	
	Practice, practice, practice.	60 min.

第10回	Group presentations and feedback.	
	Practice and review.	60 min.
第11回	Support and citing sources.	
	Read assigned material and brainstorm topics for final presentation.	60 min.
第12回	Questioning the speaker and critiquing.	
	Research and preparation for final presentation.	60 min.
第13回	Preparation for final presentation.	
	Research and preparation for final presentation.	60 min.
第14回	Final presentations.	
	Practice, practice, practice.	60 min.
第15回	Final presentations.	
	Practice and review.	60 min.

授業の方法

The class will: study material related to making presentations; prepare, make, practice and revise presentations. Students will be expected to make presentations and actively listen to their fellow classmates' presentations in class. Students will work with each other to develop audience and group rapport through questions, comments and advice during the production and execution of the presentations. Because language learning is group work, attendance and class participation are essential.

成績評価の方法

Semester grading will be based on: making short presentations; regular homework assignments; participation with classmates; improvement in communication skills; and attendance. In general, the grade will be based on: 15% homework; 35% group work and preparation; and 50% on presentation work. Excessive absences (over 1/3 of classes) will result in a failing grade.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

Have reasons, purposes and/or goals to improve your public speaking skills in English.

テキスト

There will be no assigned textbook for this course. Rather, students will be provided with materials prepared by the instructor.

参考書

(Reference material)
Any good bilingual dictionary.
The Internet.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Students can ask questions before, during and after class. Also, they should not hesitate to contact Mr. Biegel by email: niizaken@gmail.com

科目名	Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ　ＳｋｉｌｌｓII <1>		
教員名	ハデス　マイク		
科目ナンバー	1101025080	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

This class will study the skills necessary to talk to groups in English as well as public speaking in general. The course involves presenting and understanding topics related to societal issues in a group setting. Students will learn the skills required to give an effective presentation in English and ask questions as an audience member.

到達目標

The main goals of this part of the course are to increase familiarity with debate discussion; including credibl;e sources, presenting an argument and use of debate structures. Students are also expected to use class handouts and materials to further develop their debate skills in English.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Class 1. Course introduction	
	Term introduction & presentation topic activites	60min: choose topic & prepare 2min presentation
第2回	Class 2. Presentation review	
	Review of presentation key points with partner	60min: create 3min presentation on a class topic
第3回	Class 3. Preparation Practice	
	Present presentation to class & answer questions	60min: prepare intro/key points/conclusion 5min

第4回	Class 4. Presentation & debates	
	Following presentations prepare for Q&A debate	60min: prepare debate topics pros & cons for next class
第5回	Class 5. Presentation & debates	
	Next presentation followed by topic debare	60min: prepare debate topics sources for next class
第6回	Class 6. Mid term debate topic prep	
	Students prepare for mid-term debate in teams	60min: practice debate points for mid-term debate test
第7回	Class 7. Mid term debates	
	Students debate topics in 3min-4min-3min format	60min: review debate points from mid-term
第8回	Class 8. Debate topic 2 introduction	
	Students prep mini debate & practice in new teams	60min: prepare debate topics pros & cons for next class
第9回	Class 9. Debate topic 2 prep	
	Students prep for new debate & practice	60min: find credible sources for debate topic pros/cons

第10回	Class 10. Debate 2 practice	
	Students debate from opposing viewpoint	60min: find credible sources for debate topic pros/cons
第11回	Class 11. Final debate topics handout	
	Students do practice debate using sources	60min: establish reasons and support for debate topic
第12回	Class 12. Final debate preparation	
	Students choose arguments for both sides of topic	60min: find new sources for final debate topic side
第13回	Class 13. Final debate practice	
	Students debate from opposing viewpoint	60min: find credible sources for other side of debate
第14回	Class 14. Final debate	
	Students debate for end of term test	60min: review strong and weak points of their debate
第15回	Class 15. Review	
	Review debate good & bad points	60min: review class results

授業の方法

The class will study materials related to forming an opinion, giving reaons, locating credible sources to defend your opinions and use of debate structure. Students are expected to debate topics and listen to and ask questions about other student opinions. Students will work together in groups and debate in group and pair formats on themes and topics presented in the class.

成績評価の方法

Semester grading will be based on debating on 3 class topics and listening to and asking questions about their fellow student's opinions and reasons; participation in class discussions and debates; effort given to communicate with others in English and debate preparation homework. The grade is based on: 20% homework; 30% group debates; 50% debate preparation in class and outside of class. Students must attend a minimum 10 classes to pass the course.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

Have reasons, objectives and goals related to improving public speaking skills in English

テキスト

No textbook is required. Teacher will provide handouts.

参考書

A dictionary is required that you are familiar with.
A copy of Microsoft PowerPoint version 2007 or later.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ　ＳｋｉｌｌｓII <2>		
教員名	ビーゲル　ケネス		
科目ナンバー	1101025080	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

This class will build on skills taught in the first semester that are necessary to talk to groups in English as well as public speaking in general. The course will involve preparing for, acting out, as well as understanding the group work involved in presentations. The students will practice: debate; use of props; employ gestures, charts and diagrams; as well as utilizing basic presentation software.

到達目標

The main goals of the class are to build their knowledge of public speaking utilizing props, charts, argument, gesture and research materials. The students will be expected to use the teaching material to further develop their listening and speaking skills in English.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	The structure of a simple but formal debate.	
	Read assigned material and brainstorm topics for first debate.	Depends on the week, but usually 30 to 60 min.
第2回	Facts, graphs, diagrams and groups.	
	Research for first debate.	60 min.
第3回	Different opinions and group preparation.	
	Work and research for first debate.	60 min.

第4回	Debates.	
	Practice, practice, practice.	60 min.
第5回	Post debate feedback, discussion and preparation for next round.	
	Research for next debate.	60 min.
第6回	Preparation for next round of debates.	
	Research and practice for next debate.	60 min.
第7回	Debates and feedback.	
	Practice, practice, practice.	60 min.
第8回	Introduction to presentation software like PowerPoint and Prezi.	
	Work on outlines and research for the PowerPoint presentation.	60 min.
第9回	The good and bad of PowerPoint-style presentations.	
	Research and preparation.	60 min.

第10回	Group work with either PowerPoint or Prezi.	
	Research and preparation.	60 min.
第11回	Group work researching and preparing PowerPoint-style presentations.	
	Preparation and practice.	60 min.
第12回	Group presentations.	
	Practice, practice, practice.	60 min.
第13回	Quick feedback and discussion about group presentations. Preparation for final presentations.	
	Research and preparation for final presentation.	60 min.
第14回	Final presentations.	
	Practice, practice, practice.	60 min.
第15回	Final presentations.	
	Practice and review.	60 min.

授業の方法

The class will: study material related to making presentations; prepare, make, practice and revise presentations. Students will be expected to make presentations and actively listen to their fellow classmates' presentations in class. Students will work with each other to develop audience and group rapport through questions, comments and advice during the production and execution of the presentations. Because language learning is group work, attendance and class participation are essential.

成績評価の方法

Semester grading will be based on: making short presentations; regular homework assignments; participation with classmates; improvement in communication skills; and attendance. In general, the grade will be based on: 15% homework; 35% group work and preparation; and 50% on presentation work. Excessive absences (over 1/3 of classes) will result in a failing grade.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

A basic understanding of the material in the first semester of this class as well as willingness to improve your English to: work and speak with groups of people, listen to presentations, plus ask and answer questions.

テキスト

There will be no assigned textbook for this course. Rather, students will be provided with materials prepared by the instructor.

参考書

(Reference material)
Any good bilingual dictionary.
The Internet.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Students can ask questions before, during and after class. Also, they should not hesitate to contact Mr. Biegel by email: niizaken@gmail.com

科目名	Ｄｉｓｃｕｓｓｉｏｎ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｉ <1>		
教員名	森住　史		
科目ナンバー	1001025090	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

The aim of this course is to develop students' discussion skills across a range of registers and genres, particularly in business meetings. This will include working on formal and informal discussion strategies and skills.
Students will learn useful expressions and strategies for discussion that will help them present their ideas and listen to others.

到達目標

By the end of the course, students will have developed their spoken fluency, be more familiar with conversation strategies employed for the purposes of international business commuication.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Discussions: What, Who, When, Where, Why Self-introduction	
	Review the vocablary and expressions, as well as discussion strategies, learned in class. Complete assigned homework. Prepare for the next lesson.	70
第2回	Saying what you want to say: paraphrasing Providing an agenda and/or overview	
	Review the vocablary and expressions, as well as discussion strategies, learned in class. Complete assigned homework. Prepare for the next lesson.	70
第3回	Stating your opinions Reserving your opinions	
	Review the vocablary and expressions, as well as discussion strategies, learned in class. Complete assigned homework. Prepare for the next lesson.	70

第4回	Asking for opinions Asking for elaboration Summarising opinions	
	Review the vocablary and expressions, as well as discussion strategies, learned in class. Complete assigned homework. Prepare for the next lesson.	70
第5回	Making proposals Logical persuations: statistics, concrete examples, statements made by authorities	
	Review the vocablary and expressions, as well as discussion strategies, learned in class. Complete assigned homework. Prepare for the next lesson.	90
第6回	Mid-term Review Paraphrasing	
	Review Classes 1-6. Prepare for Mid-term Exam.	90
第7回	Mid-term Exam 1	
	Review the vocablary and expressions, as well as discussion strategies, learned in class. Complete assigned homework. Prepare for the next lesson.	90
第8回	Agreeing and disagreeing	
	Review the vocablary and expressions, as well as discussion strategies, learned in class. Complete assigned homework. Prepare for the next lesson.	70
第9回	Buying some time Going back to a point made earlier Asking others to repeat and/or clarify Telling the speakers you didn't hear/understand them	
	Review the vocablary and expressions, as well as discussion strategies, learned in class. Complete assigned homework. Prepare for the next lesson.	70

第10回	Sharing "what to do next"	
	Review the vocablary and expressions, as well as discussion strategies, learned in class. Complete assigned homework. Prepare for the next lesson.	70
第11回	Mid-term Review 2 Paraphrasing	
	Review the vocablary and expressions, as well as discussion strategies, learned in class. Complete assigned homework. Prepare for the next lesson.	70
第12回	How to chair a meeting: The role of the chairperson & Useful expressions 2	
	Review the vocablary and expressions, as well as discussion strategies, learned in class. Complete assigned homework. Prepare for the next lesson.	70
第13回	Asking the spaker to elaborate Summarizing main points Making suggestions	
	Review classes 1-13. Prepare for the final test.	90
第14回	Final Exam	
	Review the vocablary and expressions, as well as discussion strategies, learned in class.	60
第15回	Overall Review	
	Review the vocablary and expressions, as well as discussion strategies, learned in class.	60

授業の方法

Students are expected to actively engage themselves in discussion exercises, in pairs and/or in small groups.
There will be homework every week and students are expected to come to class fully prepared.
There will be a mid-term exam, as well as the final exam.
The weekly shedule is subject to change.

成績評価の方法

Grades will be assigned according to the following criteria:
In-class participation: 40%
Homework: 30%
Mit-term exam: 10%
Final test: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

Students should at least have daily conversation skills in English.

テキスト

Handouts will be given in class.

参考書

Goodale, M. 1987. The Language of Meetings. Heinle, Cengage Learning:London.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｄｉｓｃｕｓｓｉｏｎ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｉ <2>		
教員名	ハートウィック　トレイシー		
科目ナンバー	1001025090	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

The purpose of this course is to develop student discussion skills and to help students become more effective communicators in a group, while speaking English. The role of a group chairperson and the group participants will be explored, as well as the qualities of leadership. In our society more and more of the daily operations of business, education, and government are directed by groups of people as committees, boards, or councils. As a result, the need to understand and learn how to participant in a discussion is the goal of this course.

到達目標

Upon completion of this course, the students should be able to be an effective participant or chairperson for a group discussion. The student will know how to conduct a meeting, and how to be an active member in a group setting.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	1. Introduction of the course	
	Purchase supplies. Set-up Notebook.	30 min.
第2回	2. The making of a discussion group	
	Review notes from discussion.	30 min.
第3回	3. Roles of leadership	
	Review notes from discussion.	60 min.

第4回	4. The Chairman or Chairwoman	
	Review notes from discussion.	60 min.
第5回	5. The Different Types of Discussion Groups	
	Review notes from discussion.	60 min.
第6回	6. In small groups will prepare for a first discussion	
	Research for Discussion.	60 min.
第7回	7. First Small Group Discussion Presentations	
	Research for Discussion.	60 min.
第8回	8. Review Group Discussion	
	Research for Discussion.	60 min.
第9回	9. Presentathions on International Relations	
	Research for Discussion.	60 min.

第10回	10. Second Small Group Discussion Presentaions	
	Research for Discussion.	60 min.
第11回	11. Review Group Discussion	
	Research for Discussion.	60 min.
第12回	12. Final Discussion on Environmental Topics	
	Research for Discussion.	60 min.
第13回	13. Third Small Group Discussion Presentation	
	Research for Discussion.	60 min.
第14回	14. Review Group Discussion	
	Research for Discussion.	60 min.
第15回	15. End of the Semenster Review	
	Review Discusssions.	30 min.

授業の方法

Students will develop research skills for each discussion. Students will participate in the roles of a chairperson, and as an active member of the group, by giving actual discussion panels.

成績評価の方法

The final grade will be based on the following criteria: attendance 20%%, discussion participation 40%, homework research prepretation 20% and 20% for Final Exam.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Materials and supplies needed will be discussed at the first lesson.

参考書

No Textbook. Prints given by teacher.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Ｄｉｓｃｕｓｓｉｏｎ　Ｓｋｉｌｌｓ　II <1>		
教員名	森住　史		
科目ナンバー	1001025100	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

The aim of this course is to develop students' discussion skills across a range of registers and genres. This will include working on formal and informal discussion strategies and skills.

到達目標

By the end of the course, students will have developed their spoken fluency, be more familiar with conversation strategies employed in international communication. They will learn basic expressions and conversation strategies necessary to participate in discussions.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Discussion: What, Who, Where, When and Why Unit 6 'Marriage'	
	Students should bring the textbook to Class 1; should review and complete assignment to be ready for the next class.	70
第2回	Start a discussion by presenting a surpriging fact (Unit 2) Provide examples (Unit 6)	
	Review and complete assignment to be fully prepared for the next class.	90
第3回	Add another point (Unit 3) Contrast ideas (Unit 10)	
	Review and complete assignment to be fully prepared for the next class.	70

第4回	Logical argument: provide statistics Disagree and provide a reason (Unit 1)	
	Review and complete assignment to be fully prepared for the next class.	70
第5回	Mid-term Review 1	
	Review and complete assignment to be fully prepared for the next class.	90
第6回	Mid-term Test	
	Review and complete assignment to be fully prepared for the next class.	90
第7回	Unit 4 'Marriage' Contrast ideas (Unit 4) State your own opinions (Unit 5)	
	Review and complete assignment to be fully prepared for the next class.	70
第8回	Disagree and give a reason (Unit 12) Provide examples (Unit 11)	
	Review and complete assignment to be fully prepared for the next class.	70
第9回	Logical argument: statistics, concrete examples, statements made by authorities	
	Review and complete assignment to be fully prepared for the next class.	70

第10回	Unit 8 'Divorce' Provide a surprising fact (Unit 8)	
	Review and complete assignment to be fully prepared for the next class.	90
第11回	Provide a personal opinion (Unit 7) Rephrase (Unit 9)	
	Review and complete assignment to be fully prepared for the next class.	70
第12回	Putting it all together	
	Review and complete assignment to be fully prepared for the next class.	70
第13回	Mid-term Review 2	
	Review and complete assignment to be fully prepared for the next class.	90
第14回	Final Test	
	Review and complete assignment to be fully prepared for the next class.	90
第15回	Overall Review	
	Review the whole course.	60

授業の方法

Students are expected to actively partcipate in class activities.
In order to do so, they are also expected to be fully prepared before they come to class every week.
There will be reading assignment, as well as some writing and research assignment, each week.
Most of the classroom activities are pair/small group work.
There are mid-term test and final test (both oral).
The weekly schedule is subject to change.

成績評価の方法

Grades will be assigned according to the following criteria:
In-class participation: 40%
Homework: 30%
Mid-term test: 10%
Final test: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

Students should at least have daily conversation skills in English.

テキスト

Flaherty, G. 2002. Which Side Are You on? Seibido.
ISBN4-7919-4063-6

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｄｉｓｃｕｓｓｉｏｎ　Ｓｋｉｌｌｓ　II <2>		
教員名	ハートウィック　トレイシー		
科目ナンバー	1001025100	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

The purpose of this course is to develop student discussion skills and to help students become more effective communicators in a group, while speaking English. The role of a group chairperson and the group participants will be explored, as well as the qualities of leadership. In our society more and more of the daily operations of business, education, and government are directed by groups of people as committees, boards, or councils. As a result, the need to understand and learn how to participant in a discussion is the goal of this course.

到達目標

Upon completion of this course, the students should be able to be an effective participant or chairperson for a group discussion. The student will know how to conduct a meeting, and how to be an active member in a group setting.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	16. Introduction of the second semester to the course	
	Purchase supplies. Set-up Notebook.	30 min.
第2回	17. Discussion Defined and Purposes	
	Review notes from discussion.	30 min.
第3回	18. Rules for Conducting a Meeting	
	Review notes from discussion.	60 min.

第4回	19. How to Reach an Agreement or make a decision	
	Review notes from discussion.	60 min.
第5回	20. The Opening and Closing of a Discussion	
	Review notes from discussion.	60 min.
第6回	21. Small Groups will Prepare Discussion on Language Learning	
	Research for Discussion.	60 min.
第7回	22. Fourth Small Group Discussion Presentations	
	Research for Discussion.	60 min.
第8回	23. Review Small Group Discussion	
	Research for Discussion.	60 min.
第9回	24. Presentaions on the Problems of Ageing in our Society	
	Research for Discussion.	60 min.

第10回	25. Fifth Small Group Discussion Presentations	
	Research for Discussion.	60 min.
第11回	26. Review Small Group Discussion	
	Research for Discussion.	60 min.
第12回	27. Final Discussions on Student Selected Topics	
	Research for Discussion.	60 min.
第13回	28. Sixth Small Group Discussion Presentation	
	Research for Discussion.	60 min.
第14回	29. Review of Small Group Discussion	
	Research for Discussion.	60 min.
第15回	30. End of the Semenster Review	
	Review Discusssions.	30 min.

授業の方法

Students will develop research skills for each discussion. Students will participate in the roles of a chairperson, and as an active member of the group, by giving actual discussion panels.

成績評価の方法

The final grade will be based on the following criteria: attendance 20%%, discussion participation 40%, homework research prepretation 20% and 20% for Final Exam.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Materials and supplies needed will be discussed at the first lesson.

参考書

No Textbook. Prints given by teacher.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Ｅｓｓａｙ　Ｗｒｉｔｉｎｇ　Ｉ <1>		
教員名	エヴァン　ピーター　ダニエル		
科目ナンバー	1101025110	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

The purpose of this course is to improve students' writing skills to help them become more effective communicators in English. The emphasis is on developing paragraph writing skills in preparation for writing longer essays. Students will also learn about the culture of Anglophone essay writing and the importance of responsible and accurate citation.

到達目標

Upon completion of this course, students should be able to
a. write effective paragraphs in English on various topics
b. understand how to use the work of other authors and how to cite them accurately
c. write a simple narrative essay

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Introduction	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第2回	Brainstorming	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第3回	Brainstorming and paragraph structure	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.

第4回	Topic sentences I	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第5回	Topic sentences II	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第6回	Supporting sentences	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第7回	Concluding sentences	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第8回	Feedback and redrafting	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第9回	Organising ideas I	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.

第10回	Organising ideas II	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第11回	Using sources: citation and avoiding plagiarism	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第12回	Using sources: paraphrasing	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第13回	Review	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第14回	Final exam	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第15回	Feedback and evaluation	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.

授業の方法

Students will be given model paragraphs and essays, as well as instruction in various aspects of paragraph and essay writing. Students will be expected to engage in active writing, discussion and peer assessment, much of which will involve participation in pair and group activities. The class will be conducted in English.

成績評価の方法

The final grade will be based on the following criteria:
1) classroom attendance and participation (40%)
2) two assessed written assignments (40%)
3) a final exam (20%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｅｓｓａｙ　Ｗｒｉｔｉｎｇ　Ｉ ＜2＞		
教員名	ニシムラ　キース		
科目ナンバー	1101025110	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

Mastering the art of writing strongly, clear, interesting essays is an essential skill, yet many people find it a difficult process. This textbook provides straightforward explanations and effective practice, enabling students to build solid and engaging essays, step by step.

到達目標

Students will learn key notions that drive the planning of various types of essays and acquire expressions that are very useful in laying out your ideas on paper in a coherent and articulate fashion. Students will also observe sample essays and analyze how they "work". Finally, students will have opportunities to write their own essays on a range of topics.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Unit - 1 / Orientation	
	Prepare lesson	60 min.
第2回	Unit - 1	
	Prepare lesson	60 min.
第3回	Unit - 2	
	Prepare lesson	60 min.

第4回	Unit - 2	
	Prepare lesson	60 min.
第5回	Unit - 3	
	Prepare lesson	60 min.
第6回	Unit - 3	
	Prepare lesson	60 min.
第7回	Presentation (Mid Term Exam)	
	Prepare lesson	60 min.
第8回	Unit - 4	
	Prepare lesson	60 min.
第9回	Unit - 4	
	Prepare lesson	60 min.

第10回	Unit - 5	
	Prepare lesson	60 min.
第11回	Unit - 5	
	Prepare lesson	60 min.
第12回	Unit - 6	
	Prepare lesson	60 min.
第13回	Unit - 6	
	Prepare lesson	60 min.
第14回	Review / Writing Catch up	
	Prepare lesson	60 min.
第15回	Presentation (Final Exam)	
	Prepare lesson	60 min.

授業の方法

Students will be asked to write an essay weekly followed by a presentation of the essay written.

成績評価の方法

It is very important to attend class regularly, do the homework assignments, give class presentations, and to participate eagerly in the class room.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

None

テキスト

Writing From Within 1 / Curtis Kelly & Arlen Gargagliano / Cambridge

参考書

None

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Ｅｓｓａｙ　Ｗｒｉｔｉｎｇ　Ｉ ＜3＞		
教員名	ラグズデール　ジョセフ		
科目ナンバー	1101025110	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

The purpose of this course is to improve students' writing skills and to help them become more effective communicators in written English, especially focusing on the styles and methods of writing academic English. Emphasis is given to developing paragraph writing skills leading up to writing a short essay. Students will discover how to structure their paragraphs and give supporting details to create effective and interesting compositions. Students will also have opportunity to improve sentence structure and vocabulary through practice activities and interaction with other students.

到達目標

Upon completion of this course, the students should be able to
a. structure their paragraphs logically and with supporting details
b. write, edit, and revise narrative and process paragraphs
c. write a short essay on a selected topic

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Introduction: Chapter 1 - Academic Paragraphs	
	Bring your textbook, notebooks, and writing materials to class.	60 min.
第2回	Chapter 1 - Academic Paragraphs	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第3回	Chapter 2 - Narrative Paragraphs	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes

第4回	Chapter 2 - Narrative Paragraphs	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第5回	Chapter 3 - Paragraph Structure	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第6回	Chapter 3 - Paragraph Structure	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第7回	Mid-semester Exam	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第8回	Chapter 4 - Logical Division of Ideas	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第9回	Chapter 4 - Logical Division of Ideas	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes

第10回	Chapter 5 - Process Paragraphs	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第11回	Chapter 5 - Process Paragraphs	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第12回	Introduction to Essay Structure	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第13回	Writing Workshop - Drafting and Revising	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第14回	Review and Final Project Work	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第15回	Final Exam	
	Reflect and review.	60 minutes

授業の方法

The classroom will be a place for active learning, in which students work sometimes individually, but more often together with their classmates doing writing activities, peer assessment, and discussion of topics and writing processes. The class will be conducted in English. A more detailed lesson plan will be provided by the instructor at the beginning of the course. The lesson plan may be modified depending on students' actual progress. Improving your English requires regular study, and you will be expected to review the previous lesson, complete homework, and prepare for the next lesson as part of your outside preparatory work.

成績評価の方法

A final grade will be based on the following criteria:
1) classroom attendance and participation 35%
2) mid-semester exam 10%
3) homework (exercises, paragraph / essay writing assignments) 35%
4) final exam 20%.

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N/A

テキスト

Longman Academic Writing Series, Level 3: Paragraphs to Essays, Fourth Edition, Pearson Longman. ISBN# 978-0-13-291566-3

参考書

N/A

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Questions are accepted immediately before and after class. In addition, you may contact me via email. / My contact information will be announced in the first lesson.

科目名	Ｅｓｓａｙ　Ｗｒｉｔｉｎｇ　Ｉ <4>		
教員名	シャープ　ジェイムズ		
科目ナンバー	1101025110	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

The main skill I want to teach in this class is how to make a piece of writing EXCITING for your reader.

In the first part of the course, we will analyse the structure and techniques of powerful short essays from various magazines. We will copy these ideas in our own writing. In particular, we will focus on how to get the reader's attention in the first paragraph, how to create different kinds of logical 'flow' in an essay, and how to stimulate the reader's interest in various ways.

Later in the course, we will keep practicing these skills in various contexts. During class, we will do creative role-play or puzzle solving activities, with essays and other kinds of writing set as homework. These tasks will require you to work together, occasionally presenting your ideas to the class, and we will cover a wide range of areas so that you have a chance to practice writing skills in various contexts. Some of the activities are quite similar to what you might experience during job hunting group work assignments (but in English!).

If you like writing, being creative, thinking deeply about things, or producing a piece of work that you can be proud of, please take my class!

到達目標

Students will
1) analyse the structure of various short essays from famous newspapers, magazines and websites
2) copy these patterns to write short essays on a range of topics
3) work together to think of creative solutions to puzzles or role playing scenarios
4) produce pieces of writing to report, explain or promote their ideas to a general reader in an exciting way

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Introduction of what we're going to do in this class, and what I expect from you. I'd also like to know if you have any particular requests.	
	No homework.	0 mimutes
第2回	Understand the difference between a 感想文 and an essay	
	Assignment: turn a 感想文 into an essay	45 minutes
第3回	How to 'hook' your reader 1: 5 techniques to make the first few sentences powerful and exciting	
	Write three introductory paragraphs for various essay titles, so that they make the reader want to continue reading.	45 minutes

第4回	How to 'hook' your reader 2: look at everyone's homework together to suggest improvements and learn from good examples	
	No homework	0 minutes
第5回	Flow 1: Analysing the structure of some articles from the Economist Magazines	
	We will decide a topic and you will write a five paragraph article with a powerful introduction and a logical flow.	90 minutes
第6回	Flow 2: Look at everyone's answers and see how to make the flow stronger.	
	No homework.	0 minutes
第7回	Flow 3: We will look at a different essay structure where the reader compares two different ways of thinking. In particular, we will notice how the writer moves smoothly from one idea to another and changes direction in a way that forces the reader to think about the problem.	
	We will take a controversial topic and write an essay which presents two opposite viewpoints, so that the reader has to think.	90 minutes
第8回	Flow 4: We will look at each other's writing and see whether our techniques were successful!	
	No homework.	0 minutes
第9回	Persuasion 1: We will next look at how to write a one-sided piece of persuasive writing that makes the reader want to take action. We will analyse techniques and strategies from various campaign-style essays.	
	We will identify a problem in our daily lives and attempt to write a persuasive essay for the general public so that they want to do something about it. We will follow the strategies we identified in class.	90 minutes

第10回	Persuasion 2: We will read each others essays (or read them out) and see whether we feel motivated to do something afterwards! If not, we will think about how to make the writing more powerful.	
	No homework	0 minutes
第11回	Critical writing 1: We will look at how to quote another person's ideas and criticise them effectively. We will analyse the techniques and vocabulary for destroying someone's argument.	
	I will give you a piece of writing with terrible ideas in it. Your job will be to criticise it as harshly as possible, using the techniques we discussed.	90 minutes
第12回	Critical Writing 2: We will enjoy seeing who has attacked my ideas the most effectively. I will give you some more examples that we can practice on in class.	
	No homework.	0 minutes
第13回	Problem Solving: In this class, I will give you two essays which are of low quality. Your job will be to prepare advice for how to improve these essays.	
	Write the improved essays.	90 minutes
第14回	Problem Solving 2: Checking each others work to see how improvements have been made, and how we can take the essays even further.	
	No homework.	0 minutes
第15回	In this fun class, you will have one hour to write an essay to persuade me that.... actually, it's a secret!	
	No homework.	0 minutes

授業の方法

Students will
1) ...receive and memorise several handouts containing useful vocabulary and phrases.
2) ...work together to understand and re-create the structure of some example essays in the class.
3) ...do three homework activities to copy the style of the essays we examine.
4) ...look at each other's essays in class and share advice and constructive criticism
The class will mostly be carried out in English.

成績評価の方法

1) Grading of homework assigments (60%)
2) Class discussion and participation (35%)
3) Attendance (5%)

IMPORTANT: any plagiarism automatically fails this class.
(If you are worried about how to do a homework assignment, let's talk about it together and make a plan!)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

All materials will be provided by the teacher

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

I will give you my contact information in the first class.

科目名	Ｅｓｓａｙ　Ｗｒｉｔｉｎｇ　II <1>		
教員名	エヴァン　ピーター　ダニエル		
科目ナンバー	1001025120	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

The purpose of this course is to further improve students' writing abilities, building on skills acquired in the previous class. The emphasis is on understanding and using different styles of essay writing. Students will learn how to choose an appropriate essay style for a given topic, and how to use that style effectively.

到達目標

Upon completion of this course, students should be able to
a. understand the major styles of essay writing
b. choose the most effective stye of essay to fit a given topic
c. write essays in a variety of styles

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Paragraph writing review	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第2回	Basic essay structure	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第3回	Outlining and descriptive essays	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.

第4回	Introductions	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第5回	Conclusions	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第6回	Comparative essays I	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第7回	Comparative essays II	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第8回	Cause and effect essays I	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第9回	Cause and effect essays II	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.

第10回	Argumentative/persuasive essays I	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第11回	Argumentative/persuasive essays II	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第12回	Proofreading strategies	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第13回	Review	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第14回	Final exam	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第15回	Feedback and evaluations	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.

授業の方法

Students will be given model paragraphs and essays, as well as instruction in various aspects of paragraph and essay writing. Students will be expected to engage in active writing, discussion and peer assessment, much of which will involve participation in pair and group activities. The class will be conducted in English.

成績評価の方法

The final grade will be based on the following criteria:
1) classroom attendance and participation (40%)
2) two assessed written assignments (40%)
3) a final project/exam (20%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｅｓｓａｙ　Ｗｒｉｔｉｎｇ　II <2>		
教員名	ニシムラ　キース		
科目ナンバー	1001025120	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

Mastering the art of writing strong, clear, interesting essays is an essential skill, yet many people find it a difficult process. This textbook provides straightforward explanations and effective practice, enabling students to build solid and engaging essays, step by step.

到達目標

Students will learn key notions that drive the planning of various types of essays and acquire expressions that are very useful in laying out their ideas on paper in a coherent and articulate fashion. Students will also observe sample essays and analyze how they "work". Finally, they will have opportunities to write their own essays on a range of topics.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Unit - 7	
	Prepare lessoon	60 min.
第2回	Unit - 7	
	Prepare lesson	60 min.
第3回	Unit - 8	
	Prepare lesson	60 min

第4回	Unit - 8	
	Prepare lesson	60 min.
第5回	Unit - 9	
	Prepare lesson	60 min.
第6回	Unit - 9	
	Prepare lesson	60 min.
第7回	Presentation (Mid Term Exam)	
	Prepare lesson	60 min.
第8回	Unit - 10	
	Prepare lesson	60 min.
第9回	Unit - 10	
	Prepare lesson	60 min.

第10回	Unit - 11	
	Prepare lessoon	60 min.
第11回	Unit - 11	
	Prepare lesson	60 min.
第12回	Unit - 12	
	Prepare lesson	60 min.
第13回	Unit - 12	
	Prepare lesson	60 min.
第14回	Review / Writing Catch up	
	Prepare lesson	60 min.
第15回	Presentation (Final Exam)	
	Prepare lesson	60 min.

授業の方法

Students will be asked to write an essay weekly followed by a presentation of the essay written.

成績評価の方法

It is very important to attend class regularly, do the homework assignments, give class presentations, and participate eagerly in the class room.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

None

テキスト

Writing From Within 1 / Curtis Kelly & Arlen Gargagliano / Cambridge

参考書

None

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Ｅｓｓａｙ　Ｗｒｉｔｉｎｇ　II <3>		
教員名	ラグズデール　ジョセフ		
科目ナンバー	1001025120	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

The purpose of this course is to improve students' writing skills and to help them become more effective communicators in written English, especially focusing on the styles and methods of writing academic English. Emphasis is given to developing paragraph and essay writing skills. Students will discover how to structure and develop effective and interesting compositions. Students will also have opportunity to improve sentence structure and vocabulary through practice activities and interaction with other students.

到達目標

Upon completion of this course, the students should be able to
a. structure and develop their paragraphs and essays with rich supporting detail
b. write, edit, and revise Cause/Effect and Comparison/Contrast Paragraphs
c. write a persuasive Opinion Essay on a selected topic

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Introduction - Review of First Semester: Paragraph Writing	
	Bring your textbook, notebooks, and writing materials.	60 minutes
第2回	Chapter 7 - Cause / Effect Paragraphs	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第3回	Chapter 7 - Cause / Effect Paragraphs	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes

第4回	Chapter 8 - Comparison / Contrast Paragraphs	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第5回	Chapter 8 - Comparison / Contrast Paragraphs	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第6回	Chapter 9 - Essay Organization	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第7回	Chapter 9 - Essay Organization	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第8回	Mid-semester Exam	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第9回	Chapter 10 - Opinion Essays	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes

第10回	Chapter 10 - Opinion Essays	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第11回	Chapter 10 - Opinion Essays	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第12回	Writing Workshop I	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第13回	Writing Workshop II	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第14回	Review activities for the Final Exam	
	Read through the assigned section of the textbook and complete homework	60 - 90 minutes
第15回	Final Exam	
	Reflect and review.	60 minutes

授業の方法

The classroom will be a place for active learning, in which students work sometimes individually, but more often together with their classmates doing writing activities, peer assessment, and discussion of topics and writing processes. The class will be conducted in English. A more detailed lesson plan will be provided by the instructor at the beginning of the course. The lesson plan may be modified depending on students' actual progress. Improving your English requires regular study, and you will be expected to review the previous lesson, complete homework, and prepare for the next lesson as part of your outside preparatory work.

成績評価の方法

A final grade will be based on the following criteria:
1) classroom attendance and participation 35%
2) mid-semester exam 10%
3) homework (exercises, paragraph / essay writing assignments) 35%
4) final exam 20%.

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N/A

テキスト

Longman Academic Writing Series, Level 3: Paragraphs to Essays, Fourth Edition, Pearson Longman. ISBN# 978-0-13-291566-3

参考書

N/A

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Questions are accepted immediately before and after class. In addition, you may contact me via email. / My contact information will be announced in the first lesson.

科目名	Ｅｓｓａｙ　Ｗｒｉｔｉｎｇ　II <4>		
教員名	シャープ　ジェイムズ		
科目ナンバー	1001025120	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

This course continues from Essay Writing I. We will start to look at various role playing situations and problem solving tasks, writing essays as outcomes of these activities.

The activities are not written in detail here, but each activity covers a new topic area. I will provide vocabulary and phrases that you can use for the different situations. Your writing will depend on what happens in class so success is dependent on students having a good working relationship. I would like you to imagine they are being assessed like 'job hunting' exercises and try to co-operate with each other as much as possible.

We will also do several presentations during the class time, as a lot of the ideas about structure and flow apply to powerful presentations as well as to essay writing.

到達目標

Students will
1) Develop creative thinking and problem solving skills
2) Apply what they have learned in Essay Writing I to write powerful essays in various scenarios
3) Learn to feel comfortable doing presentations, groupwork and discussion activities

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Introduction and recap from Essay Writing I. We will revise the techniques for hooking the reader and creating flow, along with the techniques for making the reader think, persuading the reader and criticising other writing.	
	Go over all your notes from Essay Writing I	60 minutes
第2回	Activity 1: Business focus	
	Essay task	90 minutes
第3回	Activity 1: Follow up and development	
	No homework	0 minutes

第4回	Activity 2: Finance focus	
	Essay Task	90 minutes
第5回	Activity 2: Follow up and Development	
	No homework	0 minutes
第6回	Activity 3: Economic focus	
	Essay Task	90 minutes
第7回	Activity 3: Follow up and development	
	No homework	0 minutes
第8回	Activity 4: Education focus	
	Essay task	90 minutes
第9回	Activity 4: Follow up and Development	
	No homework	0 minutes

第10回	Activity 5: Environment Focus	
	Essay task	90 minutes
第11回	Activity 5: Follow up and Development	
	No homework	0 minutes
第12回	Activity 6: Social Problems Focus	
	Essay task	90 minutes
第13回	Activity 6: Follow up and Development	
	No homework	0 minutes
第14回	Activity 7: Government Focus	
	Essay task	90 minutes
第15回	Activity 7: Follow up and Development	
	No homework	0 minutes

授業の方法

Students will
1) Participate in group work to solve puzzles, respond to stimuli or think of creative solutions to problems
2) Present ideas in class or participate in discussions
3) use the techniques from Essay Writing I to create exciting pieces of writing that follow on from the class activities
The class will mostly be carried out in English.

成績評価の方法

1) Grading of three homework assigments (60%)
2) Class discussion and participation (35%)
3) Attendance (5%)

IMPORTANT: any plagiarism automatically fails this class.
(If you are worried about how to do a homework assignment, let's talk about it together and make a plan!)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

All materials will be provided by the teacher

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

I will tell you my contact details in the first class.

科目名	Ｅｘｔｅｎｓｉｖｅ　Ｒｅａｄｉｎｇ　Ｉ <1>		
教員名	山田　崇人		
科目ナンバー	1501025130	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

　長い英語の文章を目の前にして気後れしたことはありませんか？
辞書を引きながら一語一語訳していて疲れてしまったことはありませんか？
この授業は、そういったことを解消するために、多読によって英語の総合的な力を身につけるものです。

　そのために英語を、日本語に訳すのではなく、英語のまま読んで理解できるようになることを目指します。
これによって英語の読み方、英語に対する意識が劇的に変ります。
いつの間にか英語を読んだり聞いたりするのが、苦ではないどころか、楽しみになっていることに気づくでしょう。

　すべての学生に一度は体験してほしい学習法ですが、
英語を楽しんで読めるようになりたい人、
翻訳で読んだことのある本を原書でも読んでみたいという人、
話題になっているがまだ翻訳の出ていない本をいち早く読んでみたいという人には特にお勧めです。

到達目標

1. 多読という学習法を十分に理解し、効果的に実践することができる。
2. 自分に合ったレベルの長い英文を臆することなく楽しんで読むことができる。
3. 未知語や、一読して十分に理解できない文があっても、気にせず読み続け、文章全体の大意を把握することができる。
4. １学期間に５～１０万語（あるいはそれ以上）読む。

　＊ただし、レベル診断や個別面談などにより、個々の学習者のニーズに合わせて調整します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	■オリエンテーション 成蹊大学が採用している「多読」の方針を説明します。 この科目を履修する人は、オリエンテーションに必ず出席して下さい。 ＊【注意】ここに記載された計画は、履修者の多読の経験などによって変更になる場合があります。 実際の授業の詳細な計画は、教室で配付します。	
	復習：初回の授業で紹介された「多読」の方針に沿って、早速多読を始めましょう。 次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第2回	レベル0.1～0.5（ORT1～5、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第3回	レベル0.2～0.5（ORT2～5、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分

第4回	レベル0.3～0.6（ORT3～6、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第5回	レベル0.3～0.6（ORT3～6、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第6回	レベル0.4～0.7（ORT4～7、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第7回	レベル0.4～0.7（ORT4～7、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第8回	レベル0.4～0.9（ORT4～8、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第9回	レベル0.4～0.9（ORT4～8、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分

第10回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第11回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第12回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第13回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第14回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第15回	まとめ	
	最終回の前の準備学修：一学期の自分の多読の成果を振り返りつつ、記入し忘れた項目があれば記入しておきましょう。 最終回の後の学修：多読は、授業の履修が終わっても一生続けられる英語学習法です。この科目で身につけた読書習慣を維持できるように、大学卒業時までの具体的な読書プランを立ててみましょう。	60分

授業の方法

●教室：Extensive Reading専用教室
　　さまざまなレベルとジャンルの本（3,000～4,000冊）がそろっています。

●「授業内多読」：毎回行う基本的な活動です。
　教室に備え付けの図書から自分の好みに合うものを選び、
　まずは訳さなくても分かる易しい英語から読み始め、
　徐々にレベルの高いものへと進んでいきます。
　そして、読み終えた本のタイトルや総語数を、『読書記録手帳』に記入します。

●「多読」の学習効果を高めるために、あわせて行うアクティビティ：
　ブックレポート、推薦図書の紹介、書評コンクールなどを行います。

●個別の学習プログラムを設計するために行うアクティビティ：
(1)　レベル診断：学期の始めと終わりに行います。
(2) 個別面談：学期中に少なくとも一回は実施します。

●授業時間以外にも読むことを勧めます。方法は授業で説明します。

成績評価の方法

1. 授業への積極的な参加40%
2. 課題40%
3. 達成度（リーディング力の向上、授業外での取り組み、読書量等）20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『めざせ100万語！読書記録手帳』, SSS英語学習法研究会著, コスモピア, 630円, 4-902091-26-7

参考書

『快読100万語!ペーパーバックへの道』酒井邦秀(著), ちくま学芸文庫, 1050円, 4480087044
『100万語多読入門【CD付き】』古川昭夫, 伊藤晶子(著), 酒井 邦秀(編集), コスモピア, 1890円, 4902091259
『英語多読完全ブックガイド』改訂第３版　古川昭夫、他（著）、コスモピア、2940円、4902091763
『多読・多聴最強ガイド-英語の本が辞書なしで楽しめる!』Gakken Mook 英語耳&英語舌シリーズ 1, 学習研究社, 1260円, 4056050775

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｅｘｔｅｎｓｉｖｅ　Ｒｅａｄｉｎｇ　Ｉ ＜2＞		
教員名	ザブスラック　ロナルド　ステファン		
科目ナンバー	1501025130	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

長い英語の文章を目の前にして気後れしたことはありませんか？
辞書を引きながら一語一語訳していて疲れてしまったことはありませんか？
この授業は、そういったことを解消するために、多読によって英語の総合的な力を身につけるものです。

そのために英語を、日本語に訳すのではなく、英語のまま読んで理解できるようになることを目指します。
これによって英語の読み方、英語に対する意識が劇的に変ります。
いつの間にか英語を読んだり聞いたりするのが、苦ではないどころか、楽しみになっていることに気づくでしょう。

すべての学生に一度は体験してほしい学習法ですが、
英語を楽しんで読めるようになりたい人、
翻訳で読んだことのある本を原書でも読んでみたいという人、
話題になっているがまだ翻訳の出ていない本をいち早く読んでみたいという人には特にお勧めです。

到達目標

1. 多読という学習法を十分に理解し、効果的に実践することができる。
2. 自分に合ったレベルの長い英文を臆することなく楽しんで読むことができる。
3. 未知語や、一読して十分に理解できない文があっても、気にせず読み続け、文章全体の大意を把握することができる。
4. １学期間に５～１０万語（あるいはそれ以上）読む。

＊ただし、レベル診断や個別面談などにより、個々の学習者のニーズに合わせて調整します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	■オリエンテーション 成蹊大学が採用している「多読」の方針を説明します。 この科目を履修する人は、オリエンテーションに必ず出席して下さい。 ＊【注意】ここに記載された計画は、履修者の多読の経験などによって変更になる場合があります。 実際の授業の詳細な計画は、教室で配付します。	
	復習：初回の授業で紹介された「多読」の方針に沿って、早速多読を始めましょう。 次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第2回	レベル0.1～0.5（ORT1～5、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第3回	レベル0.2～0.5（ORT2～5、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分

第4回	レベル0.3～0.6（ORT3～6、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第5回	レベル0.3～0.6（ORT3～6、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第6回	レベル0.4～0.7（ORT4～7、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第7回	レベル0.4～0.7（ORT4～7、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第8回	レベル0.4～0.9（ORT4～8、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第9回	レベル0.4～0.9（ORT4～8、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分

第10回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第11回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第12回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第13回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第14回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第15回	まとめ	
	最終回の前の準備学修：一学期の自分の多読の成果を振り返りつつ、記入し忘れた項目があれば記入しておきましょう。 最終回の後の学修：多読は、授業の履修が終わっても一生続けられる英語学習法です。この科目で身につけた読書習慣を維持できるように、大学卒業時までの具体的な読書プランを立ててみましょう。	60分

授業の方法

●教室：Extensive Reading専用教室
　　さまざまなレベルとジャンルの本（3,000～4,000冊）がそろっています。

●「授業内多読」：毎回行う基本的な活動です。
　教室に備え付けの図書から自分の好みに合うものを選び、
　まずは訳さなくても分かる易しい英語から読み始め、
　徐々にレベルの高いものへと進んでいきます。
　そして、読み終えた本のタイトルや総語数を、『読書記録手帳』に記入します。

●「多読」の学習効果を高めるために、あわせて行うアクティビティ：
　ブックレポート、推薦図書の紹介、書評コンクールなどを行います。

●個別の学習プログラムを設計するために行うアクティビティ：
(1)　レベル診断：学期の始めと終わりに行います。
(2) 個別面談：学期中に少なくとも一回は実施します。

●授業時間以外にも読むことを勧めます。方法は授業で説明します。

成績評価の方法

1. 授業への積極的な参加40%
2. 課題40%
3. 達成度（リーディング力の向上、授業外での取り組み、読書量等）20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『めざせ100万語！読書記録手帳』, SSS英語学習法研究会著, コスモピア, 630円, 4-902091-26-7

参考書

『快読100万語!ペーパーバックへの道』酒井邦秀(著), ちくま学芸文庫, 1050円, 4480087044
『100万語多読入門【CD付き】』古川昭夫, 伊藤晶子(著), 酒井 邦秀(編集), コスモピア, 1890円, 4902091259
『英語多読完全ブックガイド』改訂第３版　古川昭夫、他（著）、コスモピア、2940円、4902091763
『多読・多聴最強ガイド-英語の本が辞書なしで楽しめる!』Gakken Mook 英語耳&英語舌シリーズ 1, 学習研究社, 1260円, 4056050775

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｅｘｔｅｎｓｉｖｅ　Ｒｅａｄｉｎｇ　Ｉ ＜3＞		
教員名	坂野　由紀子		
科目ナンバー	1501025130	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

長い英語の文章を目の前にして気後れしたことはありませんか？
辞書を引きながら一語一語訳していて疲れてしまったことはありませんか？
この授業は、そういったことを解消するために、多読によって英語の総合的な力を身につけるものです。

そのために英語を、日本語に訳すのではなく、英語のまま読んで理解できるようになることを目指します。
これによって英語の読み方、英語に対する意識が劇的に変ります。
いつの間にか英語を読んだり聞いたりするのが、苦ではないどころか、楽しみになっていることに気づくでしょう。

すべての学生に一度は体験してほしい学習法ですが、
英語を楽しんで読めるようになりたい人、
翻訳で読んだことのある本を原書でも読んでみたいという人、
話題になっているがまだ翻訳の出ていない本をいち早く読んでみたいという人には特にお勧めです。

到達目標

1. 多読という学習法を十分に理解し、効果的に実践することができる。
2. 自分に合ったレベルの長い英文を臆することなく楽しんで読むことができる。
3. 未知語や、一読して十分に理解できない文があっても、気にせず読み続け、文章全体の大意を把握することができる。
4. １学期間に５～１０万語（あるいはそれ以上）読む。

＊ただし、レベル診断や個別面談などにより、個々の学習者のニーズに合わせて調整します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	■オリエンテーション 成蹊大学が採用している「多読」の方針を説明します。 この科目を履修する人は、オリエンテーションに必ず出席して下さい。 ＊【注意】ここに記載された計画は、履修者の多読の経験などによって変更になる場合があります。 実際の授業の詳細な計画は、教室で配付します。	
	復習：初回の授業で紹介された「多読」の方針に沿って、早速多読を始めましょう。 次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第2回	レベル0.1～0.5（ORT1～5、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第3回	レベル0.2～0.5（ORT2～5、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分

第4回	レベル0.3～0.6（ORT3～6、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第5回	レベル0.3～0.6（ORT3～6、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第6回	レベル0.4～0.7（ORT4～7、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第7回	レベル0.4～0.7（ORT4～7、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第8回	レベル0.4～0.9（ORT4～8、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第9回	レベル0.4～0.9（ORT4～8、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分

第10回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第11回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第12回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第13回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第14回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第15回	まとめ	
	最終回の前の準備学修：一学期の自分の多読の成果を振り返りつつ、記入し忘れた項目があれば記入しておきましょう。 最終回の後の学修：多読は、授業の履修が終わっても一生続けられる英語学習法です。この科目で身につけた読書習慣を維持できるように、大学卒業時までの具体的な読書プランを立ててみましょう。	60分

授業の方法

●教室：Extensive Reading専用教室
　　さまざまなレベルとジャンルの本（3,000～4,000冊）がそろっています。

●「授業内多読」：毎回行う基本的な活動です。
　教室に備え付けの図書から自分の好みに合うものを選び、
　まずは訳さなくても分かる易しい英語から読み始め、
　徐々にレベルの高いものへと進んでいきます。
　そして、読み終えた本のタイトルや総語数を、『読書記録手帳』に記入します。

●「多読」の学習効果を高めるために、あわせて行うアクティビティ：
　ブックレポート、推薦図書の紹介、書評コンクールなどを行います。

●個別の学習プログラムを設計するために行うアクティビティ：
(1)　レベル診断：学期の始めと終わりに行います。
(2) 個別面談：学期中に少なくとも一回は実施します。

●授業時間以外にも読むことを勧めます。方法は授業で説明します。

成績評価の方法

1. 授業への積極的な参加40%
2. 課題40%
3. 達成度（リーディング力の向上、授業外での取り組み、読書量等）20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『めざせ100万語！読書記録手帳』, SSS英語学習法研究会著, コスモピア, 630円, 4-902091-26-7

参考書

『快読100万語!ペーパーバックへの道』酒井邦秀(著), ちくま学芸文庫, 1050円, 4480087044
『100万語多読入門【CD付き】』古川昭夫, 伊藤晶子(著), 酒井 邦秀(編集), コスモピア, 1890円, 4902091259
『英語多読完全ブックガイド』改訂第３版　古川昭夫、他（著）、コスモピア、2940円、4902091763
『多読・多聴最強ガイド-英語の本が辞書なしで楽しめる!』Gakken Mook 英語耳&英語舌シリーズ 1, 学習研究社, 1260円, 4056050775

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｅｘｔｅｎｓｉｖｅ　Ｒｅａｄｉｎｇ　Ｉ ＜4＞		
教員名	佐藤　明可		
科目ナンバー	1501025130	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

　長い英語の文章を目の前にして気後れしたことはありませんか？
辞書を引きながら一語一語訳していて疲れてしまったことはありませんか？
この授業は、そういったことを解消するために、多読によって英語の総合的な力を身につけるものです。

　そのために英語を、日本語に訳すのではなく、英語のまま読んで理解できるようになることを目指します。
これによって英語の読み方、英語に対する意識が劇的に変ります。
いつの間にか英語を読んだり聞いたりするのが、苦ではないどころか、楽しみになっていることに気づくでしょう。

　すべての学生に一度は体験してほしい学習法ですが、
英語を楽しんで読めるようになりたい人、
翻訳で読んだことのある本を原書でも読んでみたいという人、
話題になっているがまだ翻訳の出ていない本をいち早く読んでみたいという人には特にお勧めです。

到達目標

1. 多読という学習法を十分に理解し、効果的に実践することができる。
2. 自分に合ったレベルの長い英文を臆することなく楽しんで読むことができる。
3. 未知語や、一読して十分に理解できない文があっても、気にせず読み続け、文章全体の大意を把握することができる。
4. １学期間に５～１０万語（あるいはそれ以上）読む。

＊ただし、レベル診断や個別面談などにより、個々の学習者のニーズに合わせて調整します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	■オリエンテーション 成蹊大学が採用している「多読」の方針を説明します。 この科目を履修する人は、オリエンテーションに必ず出席して下さい。 ＊【注意】ここに記載された計画は、履修者の多読の経験などによって変更になる場合があります。 実際の授業の詳細な計画は、教室で配付します。	
	復習：初回の授業で紹介された「多読」の方針に沿って、早速多読を始めましょう。 次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第2回	レベル0.1～0.5（ORT1～5、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第3回	レベル0.2～0.5（ORT2～5、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分

第4回	レベル0.3～0.6（ORT3～6、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第5回	レベル0.3～0.6（ORT3～6、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第6回	レベル0.4～0.7（ORT4～7、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第7回	レベル0.4～0.7（ORT4～7、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第8回	レベル0.4～0.9（ORT4～8、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第9回	レベル0.4～0.9（ORT4～8、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分

第10回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第11回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第12回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第13回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第14回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第15回	まとめ	
	最終回の前の準備学修：一学期の自分の多読の成果を振り返りつつ、記入し忘れた項目があれば記入しておきましょう。 最終回の後の学修：多読は、授業の履修が終わっても一生続けられる英語学習法です。この科目で身につけた読書習慣を維持できるように、大学卒業時までの具体的な読書プランを立ててみましょう。	60分

授業の方法

●教室：Extensive Reading専用教室
　　さまざまなレベルとジャンルの本（3,000～4,000冊）がそろっています。

●「授業内多読」：毎回行う基本的な活動です。
　教室に備え付けの図書から自分の好みに合うものを選び、
　まずは訳さなくても分かる易しい英語から読み始め、
　徐々にレベルの高いものへと進んでいきます。
　そして、読み終えた本のタイトルや総語数を、『読書記録手帳』に記入します。

●「多読」の学習効果を高めるために、あわせて行うアクティビティ：
　ブックレポート、推薦図書の紹介、書評コンクールなどを行います。

●個別の学習プログラムを設計するために行うアクティビティ：
(1)　レベル診断：学期の始めと終わりに行います。
(2) 個別面談：学期中に少なくとも一回は実施します。

●授業時間以外にも読むことを勧めます。方法は授業で説明します。

成績評価の方法

1. 授業への積極的な参加40%
2. 課題40%
3. 達成度（リーディング力の向上、授業外での取り組み、読書量等）20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『めざせ100万語！読書記録手帳』, SSS英語学習法研究会著, コスモピア, 630円, 4-902091-26-7

参考書

『快読100万語!ペーパーバックへの道』酒井邦秀(著), ちくま学芸文庫, 1050円, 4480087044
『100万語多読入門【CD付き】』古川昭夫, 伊藤晶子(著), 酒井 邦秀(編集), コスモピア, 1890円, 4902091259
『英語多読完全ブックガイド』改訂第３版　古川昭夫、他（著）、コスモピア、2940円、4902091763
『多読・多聴最強ガイド-英語の本が辞書なしで楽しめる!』Gakken Mook 英語耳&英語舌シリーズ 1, 学習研究社, 1260円, 4056050775

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｅｘｔｅｎｓｉｖｅ　Ｒｅａｄｉｎｇ　Ｉ <5>		
教員名	徳岡　麻絵子		
科目ナンバー	1501025130	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

　長い英語の文章を目の前にして気後れしたことはありませんか？
辞書を引きながら一語一語訳していて疲れてしまったことはありませんか？
この授業は、そういったことを解消するために、多読によって英語の総合的な力を身につけるものです。

　そのために英語を、日本語に訳すのではなく、英語のまま読んで理解できるようになることを目指します。
これによって英語の読み方、英語に対する意識が劇的に変ります。
いつの間にか英語を読んだり聞いたりするのが、苦ではないどころか、楽しみになっていることに気づくでしょう。

　すべての学生に一度は体験してほしい学習法ですが、
英語を楽しんで読めるようになりたい人、
翻訳で読んだことのある本を原書でも読んでみたいという人、
話題になっているがまだ翻訳の出ていない本をいち早く読んでみたいという人には特にお勧めです。

到達目標

1. 多読という学習法を十分に理解し、効果的に実践することができる。
2. 自分に合ったレベルの長い英文を臆することなく楽しんで読むことができる。
3. 未知語や、一読して十分に理解できない文があっても、気にせず読み続け、文章全体の大意を把握することができる。
4. １学期間に５～１０万語（あるいはそれ以上）読む。

＊ただし、レベル診断や個別面談などにより、個々の学習者のニーズに合わせて調整します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	■オリエンテーション 成蹊大学が採用している「多読」の方針を説明します。 この科目を履修する人は、オリエンテーションに必ず出席して下さい。 ＊【注意】ここに記載された計画は、履修者の多読の経験などによって変更になる場合があります。 実際の授業の詳細な計画は、教室で配付します。	
	復習：初回の授業で紹介された「多読」の方針に沿って、早速多読を始めましょう。 次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第2回	レベル0.1～0.5（ORT1～5、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第3回	レベル0.2～0.5（ORT2～5、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分

第4回	レベル0.3～0.6（ORT3～6、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第5回	レベル0.3～0.6（ORT3～6、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第6回	レベル0.4～0.7（ORT4～7、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第7回	レベル0.4～0.7（ORT4～7、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第8回	レベル0.4～0.9（ORT4～8、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第9回	レベル0.4～0.9（ORT4～8、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分

第10回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第11回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第12回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第13回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第14回	レベル0.5～1.0（ORT5～9、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第15回	まとめ	
	最終回の前の準備学修：一学期の自分の多読の成果を振り返りつつ、記入し忘れた項目があれば記入しておきましょう。 最終回の後の学修：多読は、授業の履修が終わっても一生続けられる英語学習法です。この科目で身につけた読書習慣を維持できるように、大学卒業時までの具体的な読書プランを立ててみましょう。	60分

授業の方法

●教室：Extensive Reading専用教室
　　さまざまなレベルとジャンルの本（3,000～4,000冊）がそろっています。

●「授業内多読」：毎回行う基本的な活動です。
　教室に備え付けの図書から自分の好みに合うものを選び、
　まずは訳さなくても分かる易しい英語から読み始め、
　徐々にレベルの高いものへと進んでいきます。
　そして、読み終えた本のタイトルや総語数を、『読書記録手帳』に記入します。

●「多読」の学習効果を高めるために、あわせて行うアクティビティ：
　ブックレポート、推薦図書の紹介、書評コンクールなどを行います。

●個別の学習プログラムを設計するために行うアクティビティ：
(1)　レベル診断：学期の始めと終わりに行います。
(2) 個別面談：学期中に少なくとも一回は実施します。

●授業時間以外にも読むことを勧めます。方法は授業で説明します。

成績評価の方法

1. 授業への積極的な参加40%
2. 課題40%
3. 達成度（リーディング力の向上、授業外での取り組み、読書量等）20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『めざせ100万語！読書記録手帳』, SSS英語学習法研究会著, コスモピア, 630円, 4-902091-26-7

参考書

『快読100万語!ペーパーバックへの道』酒井邦秀(著), ちくま学芸文庫, 1050円, 4480087044
『100万語多読入門【CD付き】』古川昭夫, 伊藤晶子(著), 酒井 邦秀(編集), コスモピア, 1890円, 4902091259
『英語多読完全ブックガイド』改訂第３版　古川昭夫、他（著）、コスモピア、2940円、4902091763
『多読・多聴最強ガイド-英語の本が辞書なしで楽しめる!』Gakken Mook 英語耳&英語舌シリーズ 1, 学習研究社, 1260円, 4056050775

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｅｘｔｅｎｓｉｖｅ　Ｒｅａｄｉｎｇ　II <1>		
教員名	山田　崇人		
科目ナンバー	1501025140	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

　長い英語の文章を目の前にして気後れしたことはありませんか？
辞書を引きながら一語一語訳していて疲れてしまったことはありませんか？
この授業は、そういったことを解消するために、多読によって英語の総合的な力を身につけるものです。

　そのために英語を、日本語に訳すのではなく、英語のまま読んで理解できるようになることを目指します。
これによって英語の読み方、英語に対する意識が劇的に変ります。
いつの間にか英語を読んだり聞いたりするのが、苦ではないどころか、楽しみになっていることに気づくでしょう。

　すべての学生に一度は体験してほしい学習法ですが、
英語を楽しんで読めるようになりたい人、
翻訳で読んだことのある本を原書でも読んでみたいという人、
話題になっているがまだ翻訳の出ていない本をいち早く読んでみたいという人には特にお勧めです。

到達目標

1. 多読という学習法を十分に理解し、効果的に実践することができる。
2. 自分に合ったレベルの長い英文を臆することなく楽しんで読むことができる。
3. 未知語や、一読して十分に理解できない文があっても、気にせず読み続け、文章全体の大意を把握することができる。
4. 自分に合ったレベルの本を選ぶことができる。
5. 自分が本当に楽しんで、夢中になって読むことができる（シリーズ）本を見つける。
6. 授業内の読書のみでも１学期間に１０～２０万語（あるいはそれ以上）読む.
   *ただし、目標語数はレベル診断や個別面談などにより、個々の学習者にあわせて調整します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	■オリエンテーション 成蹊大学が採用している「多読」の方針を説明します。 この科目を履修する人は、オリエンテーションに必ず出席して下さい。 前期に「I」を履修した人も、方針をもう一度確認します。 ＊【注意】ここに記載された計画は、履修者の多読の経験などによって変更になる場合があります。 実際の授業の詳細な計画は、教室で配付します。	
	復習：初回の授業で紹介された「多読」の方針に沿って、早速多読を始めましょう。 次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第2回	レベル0.5～1.0（PGR0～1、OBW0、MMR1、CER0、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第3回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	

	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第4回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第5回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第6回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第7回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第8回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第9回	レベル0.5～2.5（PGR2、OBW2、CER2、他）	

	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第10回	レベル0.5～2.5（PGR2、OBW2、CER2、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第11回	レベル1.0～3.0（OBW3、MMR3、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第12回	レベル1.0～3.0（OBW3、MMR3、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第13回	レベル1.0～3.5（PGR3、MMR4、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第14回	レベル1.0～3.5（PGR3、MMR4、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第15回	まとめ	

	最終回の前の準備学修：一学期の自分の多読の成果を振り返りつつ、記入し忘れた項目があれば記入しておきましょう。 最終回の後の学修：多読は、授業の履修が終わっても一生続けられる英語学習法です。この科目で身につけた読書習慣を維持できるように、大学卒業時までの具体的な読書プランを立ててみましょう。	60分

授業の方法

●教室：Extensive Reading専用教室
　　さまざまなレベルとジャンルの本（3,000～4,000冊）がそろっています。

●「授業内多読」：毎回行う基本的な活動です。
　教室に備え付けの図書から自分の好みに合うものを選び、
　まずは訳さなくても分かる易しい英語から読み始め、
　徐々にレベルの高いものへと進んでいきます。
　そして、読み終えた本のタイトルや総語数を、『読書記録手帳』に記入します。

●「多読」の学習効果を高めるために、あわせて行うアクティビティ：
　ブックレポート、推薦図書の紹介、書評コンクールなどを行います。

●個別の学習プログラムを設計するために行うアクティビティ：
(1)　レベル診断：学期の始めと終わりに行います。
(2) 個別面談：学期中に少なくとも一回は実施します。

●授業時間以外にも読むことを勧めます。方法は授業で説明します。

成績評価の方法

1. 授業への積極的な参加40%
2. 課題40%
3. 達成度（リーディング力の向上、授業外での取り組み、読書量等）20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『めざせ100万語！読書記録手帳』, SSS英語学習法研究会著, コスモピア, 630円, 4-902091-26-7

参考書

『快読100万語!ペーパーバックへの道』酒井邦秀(著), ちくま学芸文庫, 1050円, 4480087044
『100万語多読入門【CD付き】』古川昭夫, 伊藤晶子(著), 酒井 邦秀(編集), コスモピア, 1890円, 4902091259
『英語多読完全ブックガイド』改訂第３版　古川昭夫、他（著）、コスモピア、2940円、4902091763
『多読・多聴最強ガイド-英語の本が辞書なしで楽しめる!』Gakken Mook 英語耳&英語舌シリーズ 1, 学習研究社, 1260円, 4056050775

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｅｘｔｅｎｓｉｖｅ　Ｒｅａｄｉｎｇ　II <2>		
教員名	ザブスラック　ロナルド　ステファン		
科目ナンバー	1501025140	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

長い英語の文章を目の前にして気後れしたことはありませんか？
辞書を引きながら一語一語訳していて疲れてしまったことはありませんか？
この授業は、そういったことを解消するために、多読によって英語の総合的な力を身につけるものです。

そのために英語を、日本語に訳すのではなく、英語のまま読んで理解できるようになることを目指します。
これによって英語の読み方、英語に対する意識が劇的に変ります。
いつの間にか英語を読んだり聞いたりするのが、苦ではないどころか、楽しみになっていることに気づくでしょう。

すべての学生に一度は体験してほしい学習法ですが、
英語を楽しんで読めるようになりたい人、
翻訳で読んだことのある本を原書でも読んでみたいという人、
話題になっているがまだ翻訳の出ていない本をいち早く読んでみたいという人には特にお勧めです。

到達目標

1. 多読という学習法を十分に理解し、効果的に実践することができる。
2. 自分に合ったレベルの長い英文を臆することなく楽しんで読むことができる。
3. 未知語や、一読して十分に理解できない文があっても、気にせず読み続け、文章全体の大意を把握することができる。
4. 自分に合ったレベルの本を選ぶことができる。
5. 自分が本当に楽しんで、夢中になって読むことができる（シリーズ）本を見つける。
6. 授業内の読書のみでも１学期間に１０～２０万語（あるいはそれ以上）読む.
   *ただし、目標語数はレベル診断や個別面談などにより、個々の学習者にあわせて調整します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	■オリエンテーション 成蹊大学が採用している「多読」の方針を説明します。 この科目を履修する人は、オリエンテーションに必ず出席して下さい。 前期に「I」を履修した人も、方針をもう一度確認します。 ＊【注意】ここに記載された計画は、履修者の多読の経験などによって変更になる場合があります。 実際の授業の詳細な計画は、教室で配付します。	
	復習：初回の授業で紹介された「多読」の方針に沿って、早速多読を始めましょう。 次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第2回	レベル0.5～1.0（PGR0～1、OBW0、MMR1、CER0、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第3回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分

第4回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第5回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第6回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第7回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第8回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第9回	レベル0.5～2.5（PGR2、OBW2、CER2、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分

第10回	レベル0.5～2.5（PGR2、OBW2、CER2、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第11回	レベル1.0～3.0（OBW3、MMR3、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第12回	レベル1.0～3.0（OBW3、MMR3、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第13回	レベル1.0～3.5（PGR3、MMR4、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第14回	レベル1.0～3.5（PGR3、MMR4、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第15回	まとめ	
	最終回の前の準備学修：一学期の自分の多読の成果を振り返りつつ、記入し忘れた項目があれば記入しておきましょう。 最終回の後の学修：多読は、授業の履修が終わっても一生続けられる英語学習法です。この科目で身につけた読書習慣を維持できるように、大学卒業時までの具体的な読書プランを立ててみましょう。	60分

授業の方法

●教室：Extensive Reading専用教室
　　さまざまなレベルとジャンルの本（3,000～4,000冊）がそろっています。

●「授業内多読」：毎回行う基本的な活動です。
　教室に備え付けの図書から自分の好みに合うものを選び、
　まずは訳さなくても分かる易しい英語から読み始め、
　徐々にレベルの高いものへと進んでいきます。
　そして、読み終えた本のタイトルや総語数を、『読書記録手帳』に記入します。

●「多読」の学習効果を高めるために、あわせて行うアクティビティ：
　ブックレポート、推薦図書の紹介、書評コンクールなどを行います。

●個別の学習プログラムを設計するために行うアクティビティ：
　(1)　レベル診断：学期の始めと終わりに行います。
　(2) 個別面談：学期中に少なくとも一回は実施します。

●授業時間以外にも読むことを勧めます。方法は授業で説明します。

成績評価の方法

1. 授業への積極的な参加40%
2. 課題40%
3. 達成度（リーディング力の向上、授業外での取り組み、読書量等）20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『めざせ100万語！読書記録手帳』, SSS英語学習法研究会著, コスモピア, 630円, 4-902091-26-7

参考書

『快読100万語!ペーパーバックへの道』酒井邦秀(著), ちくま学芸文庫, 1050円, 4480087044
『100万語多読入門【CD付き】』古川昭夫, 伊藤晶子(著), 酒井 邦秀(編集), コスモピア, 1890円, 4902091259
『英語多読完全ブックガイド』改訂第３版　古川昭夫、他（著）、コスモピア、2940円、4902091763
『多読・多聴最強ガイド-英語の本が辞書なしで楽しめる!』Gakken Mook 英語耳&英語舌シリーズ 1, 学習研究社, 1260円, 4056050775

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｅｘｔｅｎｓｉｖｅ　Ｒｅａｄｉｎｇ　II <3>		
教員名	坂野　由紀子		
科目ナンバー	1501025140	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

　長い英語の文章を目の前にして気後れしたことはありませんか？
辞書を引きながら一語一語訳していて疲れてしまったことはありませんか？
この授業は、そういったことを解消するために、多読によって英語の総合的な力を身につけるものです。

　そのために英語を、日本語に訳すのではなく、英語のまま読んで理解できるようになることを目指します。
これによって英語の読み方、英語に対する意識が劇的に変ります。
いつの間にか英語を読んだり聞いたりするのが、苦ではないどころか、楽しみになっていることに気づくでしょう。

　すべての学生に一度は体験してほしい学習法ですが、
英語を楽しんで読めるようになりたい人、
翻訳で読んだことのある本を原書でも読んでみたいという人、
話題になっているがまだ翻訳の出ていない本をいち早く読んでみたいという人には特にお勧めです。

到達目標

1. 多読という学習法を十分に理解し、効果的に実践することができる。
2. 自分に合ったレベルの長い英文を臆することなく楽しんで読むことができる。
3. 未知語や、一読して十分に理解できない文があっても、気にせず読み続け、文章全体の大意を把握することができる。
4. 自分に合ったレベルの本を選ぶことができる。
5. 自分が本当に楽しんで、夢中になって読むことができる（シリーズ）本を見つける。
6. 授業内の読書のみでも１学期間に１０～２０万語（あるいはそれ以上）読む.
   *ただし、目標語数はレベル診断や個別面談などにより、個々の学習者にあわせて調整します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	■オリエンテーション 成蹊大学が採用している「多読」の方針を説明します。 この科目を履修する人は、オリエンテーションに必ず出席して下さい。 前期に「I」を履修した人も、方針をもう一度確認します。 ＊【注意】ここに記載された計画は、履修者の多読の経験などによって変更になる場合があります。 実際の授業の詳細な計画は、教室で配付します。	
	復習：初回の授業で紹介された「多読」の方針に沿って、早速多読を始めましょう。 次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第2回	レベル0.5～1.0（PGR0～1、OBW0、MMR1、CER0、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第3回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分

第4回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第5回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第6回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第7回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第8回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第9回	レベル0.5～2.5（PGR2、OBW2、CER2、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分

第10回	レベル0.5～2.5（PGR2、OBW2、CER2、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第11回	レベル1.0～3.0（OBW3、MMR3、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第12回	レベル1.0～3.0（OBW3、MMR3、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第13回	レベル1.0～3.5（PGR3、MMR4、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第14回	レベル1.0～3.5（PGR3、MMR4、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第15回	まとめ	
	最終回の前の準備学修：一学期の自分の多読の成果を振り返りつつ、記入し忘れた項目があれば記入しておきましょう。 最終回の後の学修：多読は、授業の履修が終わっても一生続けられる英語学習法です。この科目で身につけた読書習慣を維持できるように、大学卒業時までの具体的な読書プランを立ててみましょう。	60分

授業の方法

●教室：Extensive Reading専用教室
　　さまざまなレベルとジャンルの本（3,000～4,000冊）がそろっています。

●「授業内多読」：毎回行う基本的な活動です。
　教室に備え付けの図書から自分の好みに合うものを選び、
　まずは訳さなくても分かる易しい英語から読み始め、
　徐々にレベルの高いものへと進んでいきます。
　そして、読み終えた本のタイトルや総語数を、『読書記録手帳』に記入します。

●「多読」の学習効果を高めるために、あわせて行うアクティビティ：
　ブックレポート、推薦図書の紹介、書評コンクールなどを行います。

●個別の学習プログラムを設計するために行うアクティビティ：
(1)　レベル診断：学期の始めと終わりに行います。
(2) 個別面談：学期中に少なくとも一回は実施します。

●授業時間以外にも読むことを勧めます。方法は授業で説明します。

成績評価の方法

1. 授業への積極的な参加40%
2. 課題40%
3. 達成度（リーディング力の向上、授業外での取り組み、読書量等）20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『めざせ100万語！読書記録手帳』, SSS英語学習法研究会著, コスモピア, 630円, 4-902091-26-7

参考書

『快読100万語!ペーパーバックへの道』酒井邦秀(著), ちくま学芸文庫, 1050円, 4480087044
『100万語多読入門【CD付き】』古川昭夫, 伊藤晶子(著), 酒井 邦秀(編集), コスモピア, 1890円, 4902091259
『英語多読完全ブックガイド』改訂第３版　古川昭夫、他（著）、コスモピア、2940円、4902091763
『多読・多聴最強ガイド-英語の本が辞書なしで楽しめる!』Gakken Mook 英語耳&英語舌シリーズ 1, 学習研究社, 1260円, 4056050775

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｅｘｔｅｎｓｉｖｅ　Ｒｅａｄｉｎｇ　II <4>		
教員名	佐藤　明可		
科目ナンバー	1501025140	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

　長い英語の文章を目の前にして気後れしたことはありませんか？
辞書を引きながら一語一語訳していて疲れてしまったことはありませんか？
この授業は、そういったことを解消するために、多読によって英語の総合的な力を身につけるものです。

　そのために英語を、日本語に訳すのではなく、英語のまま読んで理解できるようになることを目指します。
これによって英語の読み方、英語に対する意識が劇的に変ります。
いつの間にか英語を読んだり聞いたりするのが、苦ではないどころか、楽しみになっていることに気づくでしょう。

　すべての学生に一度は体験してほしい学習法ですが、
英語を楽しんで読めるようになりたい人、
翻訳で読んだことのある本を原書でも読んでみたいという人、
話題になっているがまだ翻訳の出ていない本をいち早く読んでみたいという人には特にお勧めです。

到達目標

1. 多読という学習法を十分に理解し、効果的に実践することができる。
2. 自分に合ったレベルの長い英文を臆することなく楽しんで読むことができる。
3. 未知語や、一読して十分に理解できない文があっても、気にせず読み続け、文章全体の大意を把握することができる。
4. 自分に合ったレベルの本を選ぶことができる。
5. 自分が本当に楽しんで、夢中になって読むことができる（シリーズ）本を見つける。
6. 授業内の読書のみでも１学期間に１０～２０万語（あるいはそれ以上）読む.
　*ただし、目標語数はレベル診断や個別面談などにより、個々の学習者にあわせて調整します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	■オリエンテーション 成蹊大学が採用している「多読」の方針を説明します。 この科目を履修する人は、オリエンテーションに必ず出席して下さい。 前期に「I」を履修した人も、方針をもう一度確認します。 ＊【注意】ここに記載された計画は、履修者の多読の経験などによって変更になる場合があります。 実際の授業の詳細な計画は、教室で配付します。	
	復習：初回の授業で紹介された「多読」の方針に沿って、早速多読を始めましょう。 次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第2回	レベル0.5～1.0（PGR0～1、OBW0、MMR1、CER0、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第3回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	

	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第4回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第5回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第6回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第7回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第8回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第9回	レベル0.5～2.5（PGR2、OBW2、CER2、他）	

	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第10回	レベル0.5～2.5（PGR2、OBW2、CER2、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第11回	レベル1.0～3.0（OBW3、MMR3、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第12回	レベル1.0～3.0（OBW3、MMR3、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第13回	レベル1.0～3.5（PGR3、MMR4、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第14回	レベル1.0～3.5（PGR3、MMR4、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第15回	まとめ	

	最終回の前の準備学修：一学期の自分の多読の成果を振り返りつつ、記入し忘れた項目があれば記入しておきましょう。 最終回の後の学修：多読は、授業の履修が終わっても一生続けられる英語学習法です。この科目で身につけた読書習慣を維持できるように、大学卒業時までの具体的な読書プランを立ててみましょう。	60分

授業の方法

●教室：Extensive Reading専用教室
　　さまざまなレベルとジャンルの本（3,000～4,000冊）がそろっています。

●「授業内多読」：毎回行う基本的な活動です。
　教室に備え付けの図書から自分の好みに合うものを選び、
　まずは訳さなくても分かる易しい英語から読み始め、
　徐々にレベルの高いものへと進んでいきます。
　そして、読み終えた本のタイトルや総語数を、『読書記録手帳』に記入します。

●「多読」の学習効果を高めるために、あわせて行うアクティビティ：
　ブックレポート、推薦図書の紹介、書評コンクールなどを行います。

●個別の学習プログラムを設計するために行うアクティビティ：
　(1)　レベル診断：学期の始めと終わりに行います。
　(2) 個別面談：学期中に少なくとも一回は実施します。

●授業時間以外にも読むことを勧めます。方法は授業で説明します。

成績評価の方法

1. 授業への積極的な参加40%
2. 課題40%
3. 達成度（リーディング力の向上、授業外での取り組み、読書量等）20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『めざせ100万語！読書記録手帳』, SSS英語学習法研究会著, コスモピア, 630円, 4-902091-26-7

参考書

『快読100万語!ペーパーバックへの道』酒井邦秀(著), ちくま学芸文庫, 1050円, 4480087044
『100万語多読入門【CD付き】』古川昭夫, 伊藤晶子(著), 酒井 邦秀(編集), コスモピア, 1890円, 4902091259
『英語多読完全ブックガイド』改訂第３版　古川昭夫、他（著）、コスモピア、2940円、4902091763
『多読・多聴最強ガイド-英語の本が辞書なしで楽しめる!』Gakken Mook 英語耳&英語舌シリーズ 1, 学習研究社, 1260円, 4056050775

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｅｘｔｅｎｓｉｖｅ　Ｒｅａｄｉｎｇ　II <5>		
教員名	徳岡　麻絵子		
科目ナンバー	1501025140	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

長い英語の文章を目の前にして気後れしたことはありませんか？
辞書を引きながら一語一語訳していて疲れてしまったことはありませんか？
この授業は、そういったことを解消するために、多読によって英語の総合的な力を身につけるものです。

そのために英語を、日本語に訳すのではなく、英語のまま読んで理解できるようになることを目指します。
これによって英語の読み方、英語に対する意識が劇的に変ります。
いつの間にか英語を読んだり聞いたりするのが、苦ではないどころか、楽しみになっていることに気づくでしょう。

すべての学生に一度は体験してほしい学習法ですが、
英語を楽しんで読めるようになりたい人、
翻訳で読んだことのある本を原書でも読んでみたいという人、
話題になっているがまだ翻訳の出ていない本をいち早く読んでみたいという人には特にお勧めです。

到達目標

1. 多読という学習法を十分に理解し、効果的に実践することができる。
2. 自分に合ったレベルの長い英文を臆することなく楽しんで読むことができる。
3. 未知語や、一読して十分に理解できない文があっても、気にせず読み続け、文章全体の大意を把握することができる。
4. 自分に合ったレベルの本を選ぶことができる。
5. 自分が本当に楽しんで、夢中になって読むことができる（シリーズ）本を見つける。
6. 授業内の読書のみでも１学期間に１０～２０万語（あるいはそれ以上）読む.
   *ただし、目標語数はレベル診断や個別面談などにより、個々の学習者にあわせて調整します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	■オリエンテーション 成蹊大学が採用している「多読」の方針を説明します。 この科目を履修する人は、オリエンテーションに必ず出席して下さい。 前期に「I」を履修した人も、方針をもう一度確認します。 ＊【注意】ここに記載された計画は、履修者の多読の経験などによって変更になる場合があります。 実際の授業の詳細な計画は、教室で配付します。	
	復習：初回の授業で紹介された「多読」の方針に沿って、早速多読を始めましょう。 次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第2回	レベル0.5～1.0（PGR0～1、OBW0、MMR1、CER0、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第3回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	

	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第4回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	
	『記録手帳』に読んだ本を記入しながら多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第5回	レベル0.5～1.5（MMR2、CER1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第6回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第7回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第8回	レベル0.5～2.0（OBW1、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第9回	レベル0.5～2.5（PGR2、OBW2、CER2、他）	

	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第10回	レベル0.5～2.5（PGR2、OBW2、CER2、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第11回	レベル1.0～3.0（OBW3、MMR3、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第12回	レベル1.0～3.0（OBW3、MMR3、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第13回	レベル1.0～3.5（PGR3、MMR4、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第14回	レベル1.0～3.5（PGR3、MMR4、他）	
	多読を続けます。次回の授業までに、教室で指示された課題に取り組んでおきましょう。	60分
第15回	まとめ	

	最終回の前の準備学修：一学期の自分の多読の成果を振り返りつつ、記入し忘れた項目があれば記入しておきましょう。 最終回の後の学修：多読は、授業の履修が終わっても一生続けられる英語学習法です。この科目で身につけた読書習慣を維持できるように、大学卒業時までの具体的な読書プランを立ててみましょう。	60分

授業の方法

●教室：Extensive Reading専用教室
　　さまざまなレベルとジャンルの本（3,000～4,000冊）がそろっています。

●「授業内多読」：毎回行う基本的な活動です。
　教室に備え付けの図書から自分の好みに合うものを選び、
　まずは訳さなくても分かる易しい英語から読み始め、
　徐々にレベルの高いものへと進んでいきます。
　そして、読み終えた本のタイトルや総語数を、『読書記録手帳』に記入します。

●「多読」の学習効果を高めるために、あわせて行うアクティビティ：
　ブックレポート、推薦図書の紹介、書評コンクールなどを行います。

●個別の学習プログラムを設計するために行うアクティビティ：
(1)　レベル診断：学期の始めと終わりに行います。
(2) 個別面談：学期中に少なくとも一回は実施します。

●授業時間以外にも読むことを勧めます。方法は授業で説明します。

成績評価の方法

1. 授業への積極的な参加40%
2. 課題40%
3. 達成度（リーディング力の向上、授業外での取り組み、読書量等）20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『めざせ100万語！読書記録手帳』, SSS英語学習法研究会著, コスモピア, 630円, 4-902091-26-7

参考書

『快読100万語!ペーパーバックへの道』酒井邦秀(著), ちくま学芸文庫, 1050円, 4480087044
『100万語多読入門【CD付き】』古川昭夫, 伊藤晶子(著), 酒井 邦秀(編集), コスモピア, 1890円, 4902091259
『英語多読完全ブックガイド』改訂第３版　古川昭夫、他（著）、コスモピア、2940円、4902091763
『多読・多聴最強ガイド-英語の本が辞書なしで楽しめる!』Gakken Mook 英語耳&英語舌シリーズ 1, 学習研究社, 1260円, 4056050775

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｍｅｄｉａ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｉ <1>		
教員名	小川　貴宏		
科目ナンバー	1101025050	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

テレビ・ラジオ・新聞雑誌、さらにはインターネットや音楽・書籍・映画なども含めたいわゆるマスメディアは、現代生活において不可欠の情報発信源となっています。本講座では、英字新聞やニュース等の音声・映像メディアを中心に、様々な分野・媒体（文字・音声両方）からの正確かつ効率的な情報把握力を無理なく養っていきたいと思います。また、就職活動前には必ず新聞を読めといわれますが、世の中で起こっているニュースをその背景知識とともに読んだり聞いたりすることを通して、社会に出る前に知っておかなければならない「『世の中（日本や世界）の動き』に関する一般常識」を豊かにしていきます。

到達目標

１）ニュースを読んだり聞いたりした際にその「本当の」意味するところがわかるように、ニュースの背景など、「世の中の動き」や世界情勢に関する知識や一般常識を深める。我々の苦手な「政治･経済・国際関係」も含め、ニュースの背景が少しずつわかってくれば、「ああ、そうだったんだ」という気づきが飛躍的に増え、ニュースを読んだり聞いたりすることが10倍面白くなります。
２）文字媒体・音声媒体を問わず、様々なメディアに触れることによって、それぞれのメディアが伝える内容を英語でできるだけ楽に理解できるようになる。
３）ニュース（見出し･本文・音声など）で用いられる英語をはじめとして、様々な分野に特徴的な語彙や表現をその正確な音声とともに身につけ、英語の「守備範囲」を広げる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の進め方・取り上げる題材等の説明と導入。英字新聞の見出しの読み方と記事の構造を知ろう 様々なメディア英語（テレビ・ラジオ・新聞雑誌・インターネットなど）の特徴と利用法その1	
	1) 自分が普段触れているメディア（日本語でもよい）にどんなものがあるか振り返ってみる。 2) 英字新聞や洋書、インターネットの英語などに目を通し、自分がどれだけ読んだり聴いたりして理解できるかを確認してみる。	60分
第2回	文字メディア：ニュースとその背景(1)：アベノミクスと日本経済--円相場と日銀、消費税と株価をわかりやすく理解する 音声メディア：映画・ドラマ・簡単なニュースなどの聞き取り	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第3回	文字メディア：ニュースとその背景(2)：アジア諸国と日本外交--中韓、そして躍進するミャンマーやベトナムなど東南アジア諸国と日本はどうつきあっていけばいいか 音声メディア：YouTubeで英語を学ぶ(1)	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分

第4回	文字メディア：インターネットからの情報収集法(1)--効率的な検索ワードと辞書や百科情報（Wikipediaなど）、翻訳サイトなどの活用 音声メディア：映画・アニメ・簡単なニュースなどの聞き取り	
	文字メディア：インターネットで興味ある英語のサイトを見て、どれだけ理解できるかを確認してみる 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第5回	文字メディア：ニュースとその背景(3)：オバマ政権と日米関係--アメリカの政治と二大政党制、アメリカ大統領の権限は？沖縄、尖閣諸島などの問題を含めた日米安全保障の行方は？ 音声メディア：著名人のインタビューやスピーチ(1)：アメリカ英語	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第6回	文字メディア：ニュースとその背景(4)：TPPと各国の経済--グローバル化する世界経済と各国のかけひき：TPPで得をするのは誰か？ 音声メディア：洋楽の歌詞を聞き取る	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第7回	文字メディア：英語でレシピを読んでみよう--日本料理を海外で披露し、絶品の欧米スイーツを作るために 音声メディア：映画・ドラマ・簡単なニュースなどの聞き取り	
	文字メディア：インターネットで英語のレシピサイトにアクセスし、どれだけ理解できるかを確認しておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第8回	文字メディア：ニュースとその背景(5)：パレスチナ問題とリビア紛争--世界の係争地域と根深い民族対立、国連の立場と役割、日本人が身の安全を守るためには 音声メディア：「多聴」について考える	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第9回	文字メディア：ニュースとその背景(6)：日本の国会と政党政治--衆議院・参議院のしくみと成り立ち、そして主要な政党の政策を正しく理解するには 音声メディア：映画・アニメ・簡単なニュースなどの聞き取り	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分

第10回	文字メディア：インターネットからの情報収集法(2)--英語版「価格.com」やAmazon.comを見てみる--「オンラインショッピングの手順と注意点 音声メディア：著名人のインタビューやスピーチ(2)：イギリス英語	
	文字メディア：インターネットで英語の通販サイト（amazon.comなど）にアクセスし、どんなことが書かれているかを見てみる （必要以外、間違って買ってしまわないこと） 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第11回	文字メディア：ニュースとその背景(7)：原発問題と震災復興--世界各国、そして日本の原発・エネルギー政策と電力確保、復興や除染をめぐる問題など 音声メディア：映画・ドラマ・簡単なニュースなどの聞き取り	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第12回	文字メディア：ニュースとその背景(8)：日本企業、特に「ものづくりジャパン」は再び元気を取り戻せるか--日本企業の体質と世界的な競争を勝ち抜くアイディア戦略 音声メディア：映画・アニメ・簡単なニュースなどの聞き取り	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第13回	文字メディア：英語で漫画を読んでみよう--日本発信の世界文化である'manga'とAmerican comics 音声メディア：YouTubeで英語を学ぶ(2)	
	文字メディア：Web上（米国Yahoo!トップページなど）で英語の4コマ漫画などを探し、読めるかどうかチャレンジしてみる 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第14回	前期Media Englishの総括（到達度テスト）	
	到達度テストの範囲を再度復習して備える	300分
第15回	14回目に行った試験の解説と復習 授業で扱った映画などの残りの部分を見て、どれだけ英語力や聴き取りの力が伸びたかを確認する	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分

授業の方法

授業の前半では、英字新聞の見出しや本文を中心に、様々なメディアにおける文字情報を取り上げ、ニュースの見出しや記事の読み方や、様々なメディアからの情報収集法などを取り上げます。その際、ニュースの背景にある世の中の動きなども毎回解説していきたいと思います。
授業の後半では音声メディアを中心に取り上げます。たとえば映画やアニメ、洋楽やニュース、インタビューなどを用いて、様々なシチュエーションにおける様々な文体の英語に触れて意味を取ったり、聞き取ったりしながら場面に合った英語の理解や英語での発信が自然にできるようになることを目指します。
素材はできるだけ新しいものをその日に配って扱いますので、基本的に予習はいらない形で進めていきますが、授業中は頻繁に辞書を引いて調べ物をする力をつけてもらいますので、授業には必ず電子辞書を持ってきてください。スマホでの辞書引きは、超人的に速くない限り認めません。

成績評価の方法

成績（単位付与）は、授業への参加（毎回出席するだけでなく、授業に身を入れて参加し、英語に進んで触れ、授業でやったことは確実に身につける、また毎回辞書を持ってきて授業中積極的に活用する）ことを大前提とします。評価はその意味での授業参加（平常点＆授業中の辞書引き：40%）およびおよび到達度テストの成績(60%)などを基準に総合的に判断して行います。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校程度の英語の基礎的な素養。扱う題材（英字新聞など）は高度に見えるかもしれませんが、英語の素養がそれほど高い学生でなくても理解できるように授業を進めていく予定です。
☆前期と後期は同じテーマで全く別の素材を扱いますので、両方履修するとさらに理解が深まります。

テキスト

旬の素材が勝負なので、基本的に毎回プリントを配布して進めていきます。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｍｅｄｉａ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｉ ＜2＞		
教員名	三国　由美子		
科目ナンバー	1101025050	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

テレビ・ラジオ・新聞雑誌、さらにはインターネットや音楽・書籍・映画なども含めたいわゆるマスメディアは、現代生活において不可欠の情報発信源となっています。本講座では、英字新聞や雑誌、英語の音声・映像メディアを中心に、様々な分野・媒体（文字・音声両方）からの正確かつ効率的な情報把握力を無理なく養っていきたいと思います。また、就職活動前には必ず新聞を読めといわれますが、ニュースをその背景知識とともに読んだり聞いたりすることを通して、社会に出る前に知っておかなければならない「世界の動きや国際情勢」に対する一般常識」を豊かにしていくこともあわせて目指したいと思います。

到達目標

１）ニュースを聞いてその「本当の」意味するところがわかるように、ニュースの背景など、「世の中の動き」や世界情勢に関する知識や一般常識を深める。たとえば、皆さんは「パレスチナ」と「イスラエル」の関係がわかりますか？アメリカはなぜイスラエルの肩を持つの？「TPP」、「アベノミクス」、「接続水域」とはどういうもので、社会の動きのなかでどういう意味合いを持っているの？?そうしたことがわかってくれば、「ああ、そうだったんだ！」ととたんにニュースが面白く読めるようになってきます。英語のニュースに触れながら、毎回そうした知識を深めていきたいと思います。
２）様々なメディアに触れることによって、文字媒体・音声媒体を問わず、英語の様々なメディアが伝える内容を英語で理解できるようになる。
３）テーマ・やシチュエーションなどの違いによる、様々な分野や文体の語彙をその正確な音声とともに身につけ、英語の「守備範囲」を広げる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の進め方、取り上げる題材等の説明と導入、英字新聞の特徴	
	テキストのp.7, 13, 19, 25, 37の英語のコラムを読み、内容を理解しておくこと。	60
第2回	Chapter 1 国内政治 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストの内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第3回	Chapter 2 ビジネス 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストの内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120

第4回	Chapter 3 外交・国際会議 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストの内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第5回	Mid-semester Review #1 Chapter 1-3の関連記事の読解。関連音声ニュースの聴き取り。 最新ニュース記事の読解	
	Chapter1-3の復習として、語彙・背景的知識の確認。事前に配布されたプリントを読み、専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第6回	Chapter 4 海外トピックス・文化 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストの内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第7回	Chapter 5 軍事 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストの内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第8回	Chapter 6 災害・気象 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストの内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第9回	Chapter 7 犯罪・司法 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストの内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120

第10回	Mid-semester Review #2 Chapter 4-7の関連記事の読解。関連音声ニュースの聴き取り。 最新ニュース記事の読解	
	Chapter4-7の復習として、語彙・背景的知識の確認。事前に配布されたプリントを読み、専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第11回	Chapter 8 環境・資源・エネルギー 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストの内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第12回	Chapter 9 科学・医学 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストの内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第13回	Chapter 10 スポーツ 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストの内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第14回	Final Class Session & Review Chapter 8-10の関連記事の読解。関連音声ニュースの聴き取り。 最新ニュース記事の読解。	
	Chapter 8-10の復習として、語彙・背景的知識の確認。期末テストの範囲の確認。	60-120
第15回	Final Exam	
	期末テストの内容の再確認	60-120

授業の方法

前期は、英字新聞の読み方文字を中心に、テキストを使用して授業を行います。授業の前半では、授業計画に沿って、政治・経済・外交・軍事・環境などを扱ったテキストのニュース記事の読解・語彙の問題・listeningを演習形式で行います。後半では、前半のテキストで学習した関連分を最新の新聞（主に　The Japan Times）やその他の英語メディアから取り上げ、前の週に起こった他のニュースも含めて読んでいきます。
授業の前半のテキストは毎回予習が前提ですが、毎回配るニュースの記事は、その日に読みますので、予習はいらない形式で進めて行きます。ただ、授業中頻繁に辞書をひいてもらいますので、辞書（英和・和英・英英などの入った電子辞書が望ましい）は、必ず持参して下さい。また、毎回配付する新聞記事の中から記事を指定し、内容を調べて、翌週の授業で発表することを義務付けます。必要に応じてテキスト以外の音声メディアの学習も行います。各分野のトピックについて、授業の後半でディスカッションを行うこともあります。

成績評価の方法

成績（単位付与）は、毎回のテキストの予習、授業への参加（毎回出席するだけでなく、授業に身を入れて参加し、英語に進んで触れ、授業でやったことは確実に身につける、また毎回辞書を持ってきて授業中積極的に活用する）ことを大前提とします。評価はその意味での授業参加と予習（平常点）および指定された英字新聞記事の授業中の発表とassignment(50%)、文字メディアと音声メディアの試験(50%)、を基本として、総合的に判断します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校程度の英語の基礎的な素養。扱う題材は高度に見えるかもしれませんが、ある程度わかりやすく授業を進めていく予定です。授業には身を入れて参加してください。

テキスト

English for Mass Communication 2014 Edition, Asahi Press.　ISBN978-4-255-15551-7

参考書

必要に応じて随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Ｍｅｄｉａ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　II <1>		
教員名	小川　貴宏		
科目ナンバー	1101025060	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

テレビ・ラジオ・新聞雑誌、さらにはインターネットや音楽・書籍・映画なども含めたいわゆるマスメディアは、現代生活において不可欠の情報発信源となっています。本講座では、英字新聞やニュース等の音声・映像メディアを中心に、様々な分野・媒体（文字・音声両方）からの正確かつ効率的な情報把握力を無理なく養っていきたいと思います。また、就職活動前には必ず新聞を読めといわれますが、世の中で起こっているニュースをその背景知識とともに読んだり聞いたりすることを通して、社会に出る前に知っておかなければならない「『世の中（日本や世界）の動き』に関する一般常識」を豊かにしていきます。

到達目標

１）ニュースを読んだり聞いたりした際にその「本当の」意味するところがわかるように、ニュースの背景など、「世の中の動き」や世界情勢に関する知識や一般常識を深める。
我々の苦手な「政治･経済・国際関係」も含め、ニュースの背景が少しずつわかってくれば、「ああ、そうだったんだ」という気づきが飛躍的に増え、ニュースを読んだり聞いたりすることが10倍面白くなります。
２）文字媒体・音声媒体を問わず、様々なメディアに触れることによって、それぞれのメディアが伝える内容を英語でできるだけ楽に理解できるようになる。
３）ニュース（見出し･本文・音声など）で用いられる英語をはじめとして、様々な分野に特徴的な語彙や表現をその正確な音声とともに身につけ、英語の「守備範囲」を広げる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の進め方・取り上げる題材等の説明と導入。改めて英字新聞の見出しの読み方と記事の構造を知ろう 様々なメディア英語（テレビ・ラジオ・新聞雑誌・インターネットなど）の特徴と利用法その2	
	1) 自分が普段触れているメディア（日本語でもよい）にどんなものがあるか振り返ってみる。 2) 英字新聞や洋書、インターネットの英語などに目を通し、自分がどれだけ読んだり聴いたりして理解できるかを確認してみる。	60分
第2回	文字メディア：ニュースとその背景(1)：ニュースを読む基本的な視点＝「誰得？」：「誰が、何の利益のためにそれをした（する）のか？」 音声メディア：映画・ドラマ・簡単なニュースなどの聞き取り	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第3回	文字メディア：ニュースとその背景(2)：北朝鮮のような国家が生まれた背景と北朝鮮の人々のくらし--冷戦と東西対立、現在の「超大国」と世界を脅かしている国々 音声メディア：YouTubeで英語を学ぶ	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分

第4回	文字メディア：インターネットからの情報収集法(1)--英語ポータル(Yahoo!などのトップページ）からニュースをはじめとする様々な情報を収集する 音声メディア：映画・アニメ・簡単なニュースなどの聞き取り	
	文字メディア：米国Yahoo! などの英語のポータルサイトはどんなものか見ておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第5回	文字メディア：ニュースとその背景(3)：寄り合い所帯の国家連合EUと共通通貨ユーロが抱える問題点；ヨーロッパを旅するなら一番満足度が高いのはどの国だろう？ 音声メディア：「多聴」について考える	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第6回	文字メディア：ニュースとその背景(4)：アメリカはなぜ紛争諸国に介入するのか？--パックス・アメリカーナと「アメリカ株式会社」が抱く経済戦略；そしてイスラムからのテロ攻撃 音声メディア：映画・ドラマ・簡単なニュースの聞き取り	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第7回	文字メディア：インターネットからの情報収集法(2)--Project Gutenberg（英語）、「青空文庫」（日本語）は無料の大図書館 音声メディア：英語で味わうジブリ映画--日・英（・仏）のセリフと字幕を比較する	
	文字メディア：Project Gutenberg, 「青空文庫」などでWebを検索し、あらかじめどういうものか見ておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第8回	文字メディア：ニュースとその背景(5)：円高と円安、株価とTPP--日本の農業、工業、国民生活それぞれに与える影響は？ パレスチナ問題とアルジェリア--世界の紛争地域と根深い民族対立、国連の立場と役割 音声メディア：映画・アニメ・簡単なニュースの聞き取り	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第9回	文字メディア：ニュースとその背景(6)：生活にかかわるニュースを英語で読もう--どう守る、食の安全？；スマホとLINEさえあれば天下無敵か？ 音声メディア：英語の小説や童話などの朗読の音声を無料でダウンロードして聞いてみよう	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分

第10回	文字メディア：「地球の歩き方」に匹敵するような、定番の英語版旅行ガイドを読んでみよう 音声メディア：映画・ドラマ・簡単なニュースの聞き取り	
	文字メディア：世界の中で行ってみたい国を想定し、Web上で英語の情報を検索してみる 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第11回	文字メディア：ニュースとその背景(7)：日本を動かすものたち--あなたは日本の政党や国会、日銀についてどれだけ知っているか？；「勝ち組」と言われる企業の成功と未来を考える 音声メディア：洋楽の歌詞を聞き取る（60年代～80年代）	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第12回	文字メディア：ニュースとその背景(8)：パレスチナvsイスラエルwith米国、アラブ人vsユダヤ人、イスラム教徒vsユダヤ教徒--これはすべて同じ対立を表しています--世界の紛争について考える 音声メディア：映画・アニメ・簡単なニュースの聞き取り	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第13回	文字メディア：英語で漫画を読んでみよう--Doraemon vs Snoopy 音声メディア：洋楽の歌詞を聞き取る（90年代～現在）	
	文字メディア：4コマ漫画ではない、まとまったストーリーの英語の漫画を図書館や書店で探したり、Web上で無料で読めるものがあるかどうか調べておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分
第14回	後期Media Englishの総括（到達度テスト）	
	後期やったことを復習する	300分
第15回	14回目に行った試験の解説と復習 授業で扱った映画などの残りの部分を見て、どれだけ英語力や聴き取りの力が伸びたかを確認する	
	文字メディア：日本語の新聞（または英字新聞）に目を通し、ニュースに出てくる話題の語や知らないことばをチェックしておく 音声メディア：自分の好きなDVD（映画やドラマ･アニメ）などを、日本語字幕や英語字幕で30分以上見る	60分

授業の方法

授業の前半では、英字新聞の見出しや本文を中心に、様々なメディアにおける文字情報を取り上げ、ニュースの見出しや記事の読み方や、様々なメディアからの情報収集法などを取り上げます。その際、ニュースの背景にある世の中の動きなども毎回解説していきたいと思います。
授業の後半では音声メディアを中心に取り上げます。たとえば映画やアニメ、洋楽やニュース、インタビューなどを用いて、様々なシチュエーションにおける様々な文体の英語に触れて意味を取ったり、聞き取ったりしながら場面に合った英語の理解や英語での発信が自然にできるようになることを目指します。
素材はできるだけ新しいものをその日に配って扱いますので、基本的に予習はいらない形で進めていきますが、授業中は頻繁に辞書を引いて調べ物をする力をつけてもらいますので、授業には必ず電子辞書を持ってきてください。スマホでの辞書引きは、超人的に速くない限り認めません。

成績評価の方法

成績（単位付与）は、授業への参加（毎回出席するだけでなく、授業に身を入れて参加し、英語に進んで触れ、授業でやったことは確実に身につける、また毎回辞書を持ってきて授業中積極的に活用する）ことを大前提とします。評価はその意味での授業参加（平常点＆授業中の辞書引き：40%）およびおよび到達度テストの成績(60%)などを基準に総合的に判断して行います。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校程度の英語の基礎的な素養。扱う題材（英字新聞など）は高度に見えるかもしれませんが、英語の素養がそれほど高い学生でなくても理解できるように授業を進めていく予定です。
☆前期と後期は同じテーマで全く別の素材を扱いますので、両方履修するとさらに理解が深まります。

テキスト

旬の素材が勝負なので、基本的に毎回プリントを配布して進めていきます。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｍｅｄｉａ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　II <2>		
教員名	三国　由美子		
科目ナンバー	1101025060	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

テレビ・ラジオ・新聞雑誌、さらにはインターネットや音楽・書籍・映画なども含めたいわゆるマスメディアは、現代生活において不可欠の情報発信源となっています。本講座では、英字新聞や雑誌、英語の音声・映像メディアを中心に、様々な分野・媒体（文字・音声両方）からの正確かつ効率的な情報把握力を無理なく養っていきたいと思います。また、就職活動前には必ず新聞を読めといわれますが、ニュースをその背景知識とともに読んだり聞いたりすることを通して、社会に出る前に知っておかなければならない「世界の動きや国際情勢」に対する一般常識」を豊かにしていくこともあわせて目指したいと思います。

到達目標

１）ニュースを聞いてその「本当の」意味するところがわかるように、ニュースの背景など、「世の中の動き」や世界情勢に関する知識や一般常識を深める。たとえば、皆さんは「パレスチナ」と「イスラエル」の関係がわかりますか？アメリカはなぜイスラエルの肩を持つの？「TPP」、「アベノミクス」、「接続水域」とはどういうもので、社会の動きのなかでどういう意味合いを持っているの？?そうしたことがわかってくれば、「ああ、そうだったんだ！」ととたんにニュースが面白く読めるようになってきます。英語のニュースに触れながら、毎回そうした知識を深めていきたいと思います。
２）様々なメディアに触れることによって、文字媒体・音声媒体を問わず、英語の様々なメディアが伝える内容を英語で理解できるようになる。
３）テーマ・やシチュエーションなどの違いによる、様々な分野や文体の語彙をその正確な音声とともに身につけ、英語の「守備範囲」を広げる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の進め方、取り上げる題材等の説明と導入、音声ニュース英語の特徴	
	テキストのp.ii-xxivを読み、内容を理解しておくこと。	60
第2回	Unit 1　Lessons to Be Learned 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストのListening を行い、内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第3回	Unit 2　Staying Away 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストのListening を行い、内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120

第4回	Unit 3　Dripping with Ambition 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストのListening を行い、内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第5回	Mid-semester Review ＃1 Unit1-3の関連記事の読解。関連音声ニュースの聴き取り。 最新ニュース記事の読解	
	Unit1-3の復習として、語彙・背景的知識の確認。事前に配布されたプリントを読み、専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第6回	Unit 4　No More Home Work 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストのListening を行い、内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第7回	Unit 5　Looking for the Right Word 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストのListening を行い、内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第8回	Unit 6　Think Before You “Like” 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストのListening を行い、内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第9回	Unit 7　Setting a New Standard 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストのListening を行い、内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120

第10回	Mid-semester Review #2 Unit4-7の関連記事の読解。関連音声ニュースの聴き取り。 最新ニュース記事の読解	
	Unit4-7の復習として、語彙・背景的知識の確認。事前に配布されたプリントを読み、専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第11回	Unit 8 Only Hillary Knows 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストのListening を行い、内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第12回	Unit 9 A Truly Green Solution 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストのListening を行い、内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第13回	Unit 10 A Hot Idea That's Working 最新ニュース記事の読解	
	毎回のテキストのListening を行い、内容の理解や語彙の予習をしておくこと。復習は、次回の授業に分からなかったことを質問ができるようにしておくこと。また、国際情勢などの専門用語や背景を調べて理解しておくように。	60-120
第14回	Final Class Session & Review Unit 8-10の関連記事の読解。関連音声ニュースの聴き取り。Unit 11,12の聴き取りの確認。 最新ニュース記事の読解。	
	Unit 8-10の復習として、音声・語彙・背景的知識の確認。期末テストの範囲の確認。	60-120
第15回	Final Exam	
	期末テストの内容の再確認	60-120

授業の方法

後期は、ニュース英語の音声メディアを中心に、テキストを使用して授業を行います。授業の前半では、授業計画に沿って、テキストのニュースのlistening・読解・語彙の問題・を演習形式で行います。後半では、前半のテキストで学習した関連分を最新の新聞（主にThe Japan Times）やその他の英語メディアから取り上げ、前の週に起こった他のニュースも含めて読んでいきます。
授業の前半のテキストは毎回予習が前提ですが、毎回配るニュースの記事は、その日に読みますので、予習はいらない形式で進めて行きます。ただ、授業中頻繁に辞書をひいてもらいますので、辞書（英和・和英・英英などの入った電子辞書が望ましい）は、必ず持参して下さい。また、毎回配付する新聞記事の中から記事を指定し、内容を調べて、翌週の授業で発表することを義務付けます。必要に応じてテキスト以外の音声メディアの学習も行います。各分野のトピックについて、授業の後半でディスカッションを行うこともあります。

成績評価の方法

成績（単位付与）は、毎回のテキストの予習、授業への参加（毎回出席するだけでなく、授業に身を入れて参加し、英語に進んで触れ、授業でやったことは確実に身につける、また毎回辞書を持ってきて授業中積極的に活用する）ことを大前提とします。評価はその意味での授業参加（平常点）および指定された英字新聞記事の授業中の発表とassignment(50%)、文字メディアと音声メディアの試験(50%)、を基本として、総合的に判断します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校程度の英語の基礎的な素養。扱う題材は高度に見えるかもしれませんが、ある程度わかりやすく授業を進めていく予定です。授業には身を入れて参加してください。

テキスト

English for the Global Age With CNN　2014 Vol.15,　Asahi Press.　　ISBN978-4-255-15546-3

参考書

必要に応じて随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Ｇｌｏｂａｌ　Ｉｓｓｕｅｓ　Ｉ <1>		
教員名	ザブスラック　ロナルド　ステファン		
科目ナンバー	1101025150	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

The purpose of this class is to make students aware of a number of current issues facing us as globalization progresses. It will also provide a familiarization with the English vocabulary for discussing and studying such issues as the pursuit of happiness, our addiction to technology, global warming, and other problems facing the world and Japan.
Another goal is to help students look at issues from both sides and allow them to take a position and support it with their ideas.

到達目標

Students will develop an awareness of a variety of current major issues. They will learn the history or background of an issue, the vocabulary needed to discuss the problem and develop skills in looking at both sides of an issue so that they can have an informed opinion. They will also learn how to get background information and summarize it for presentation to the class.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Class 1 Introduction to techniques for becoming an active listener and skills to improve reading comprehension. Topic overview.	
	Prep: Obtain the text and look through the topics. Look at current news events connected or related to the topics we will discuss.	30 minutes
第2回	Class 2 Group work and discussion on the first topic: Globalization; Advantages and Disadvantages.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第3回	Class 3 Group work and discussion about information and misinformation and disinformation.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Look for examples that represent these concepts. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes

第4回	Class 4 Continued group work and discussion about information and misinformation and disinformation with concrete examples.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第5回	Class 5 Group work and discussion about eco-tourism. What is it?	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points.Look for concrete examples to support your position from the internet. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第6回	Class 6 Group work and discussion about the benefits and harm of eco-tourism.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第7回	Class 7 Group work and discussion about the concept of happiness. What is happiness? A discussion of the economics of happiness.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第8回	Class 8 Group work and discussion about the concept of happiness. Video: Happy	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points.Look for concrete examples to support your position from the internet. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第9回	Class 9 A discussion of extrinsic and intrinsic values in family, work and society. A discussion of the OECD happiness guidelines and Japan's statistics.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points.Look for concrete examples to support your position from the internet. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes

第10回	Class 10 Group work and discussion about our addiction to technology.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第11回	Class11 Continued group work and discussion about our addiction to technology. Video: The Story of Stuff.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points.Look for concrete examples to support your position from the internet. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第12回	Class 12 Continued group work and discussion about our addiction to technology. What are the benefits and harms of Social Network Systems?	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Complete Story of Stuff worksheet. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第13回	Class 13 Group work and discussion about the issue of noise pollution.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第14回	Class 14 Continuing the discussion of noise pollution and identifying the levels and sources in our daily life.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points.Look for concrete examples to support your position from the internet. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第15回	Class 15 Feedback and evaluations.	
	Review: Review your ideas concerning each topic and choosing one which affected you the most. Finally, a chance for you to express what you have learned through this class.	60 minutes

授業の方法

This is a student centered class, which means that homework and class preparation are absolutely necessary. A reading will be assigned every 2 weeks and will be the basis of each discussion. Most of the classes will be group work and student presentations as well as student feedback, discussion and evaluation of other students work. Class participation means coming prepared and adding your ideas to each class and discussion. Attendance is important not only for understanding the content but for group work and presentations.

成績評価の方法

Evaluation will be based on class preparation and homework (30%), active group participation and discussion (20%) and presentations/reports (20%). At least 2 video reports (15% each) will be required.
Being absent or unprepared will greatly affect your grade.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

A strong interest in current events, news and social problems. An intermediate level of English and the desire to discuss these issues in English.

テキスト

Confronting the Issues, David Peaty, Kinseido
ISBN978-4-7647-3886-7

参考書

A good bilingual dictionary is essential. Mobile phone dictionary use is not allowed.
Global Issues Annual Editions: McGraw-Hill Higher Education Series
Global Issues: An Introduction, John L. Seitz Blackwell Publishing

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。
I can also be available by appointment or mail contact information which I will give in class to discuss class content or study abroad information.

科目名	Ｇｌｏｂａｌ　Ｉｓｓｕｅｓ　Ｉ ＜2＞		
教員名	桃尾　美佳		
科目ナンバー	1101025150	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

自分の母語とは異なる言語を学ぶということは、その言語の背景にある異なる文化体系を学ぶということでもあります。英語を学ぶ場合はさらに、英語を母語としない多くの英語使用者の文化と思想に、間接的にしろ接触する機会も手に入れることになります。それは同時に、自分自身の属している文化や物の考え方を、異なる社会に属するより多くの聞き手・読み手に向かって発信する手段を手に入れることでもあります。国際的なコミュニケーションにおいては、しばしば異なる文化の担い手同士の摩擦が発生しますが、そうしたぶつかり合いから生じる火花を争いの火種にするのではなく、互いをより深く理解しあうための灯りとするために、私たちは言葉を学ぶのではないでしょうか。この授業では、いわゆるカルチュラル・スタディーズの研究者による文章をテキストとし、さまざまな文化の有り様を多角的に眺めることで、「マジョリティ」の価値観や物の考え方を捉え直し、より柔軟な思考力と高度な英語運用能力を養うことをめざします。現実の国際社会が抱える難題の背景には、多くの場合価値観や思想面の齟齬があり、その事情は往々にして複雑です。そうした複雑な問題を扱っているテキストは、時に抽象的な議論も含む骨太なものですが、授業では地道に英文を読み解きながら自分で考えることの刺激的な楽しみを味わっていただければと思います。

到達目標

抽象的な議論を含む高度な英文を正確に解釈することができる。
提示された英文による議論を深く理解し、英語および日本語で説明することができる。
異なる文化体系に対する柔軟な姿勢と広い視野を持ち、客観的な議論に基づいて自分の意見を表現できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。	
	【予習】　シラバスをよく読んで授業の進め方を理解しておく。	30
第2回	英文解釈演習　1 Unit 1 Living Cultures and Killing Cultures を読む。 内容読解の演習問題を解説する。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第3回	英文解釈演習　2 Unit 1 Living Cultures and Killing Cultures を読む。 テーマに基づくディスカッションを行う。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60

第4回	英文解釈演習　3 Unit 2 From Cultures of Death to Cultures of Life を読む。内容読解の演習問題を解説する。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第5回	英文解釈演習　4 Unit 2 From Cultures of Death to Cultures of Life を読む。テーマに基づくディスカッションを行う。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第6回	英文解釈演習　5 Unit 3 Globalization as Genocide against Farmersを読む。内容読解の演習問題を解説する。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第7回	英文解釈演習　6 Unit 3 Globalization as Genocide against Farmersを読む。テーマに基づくディスカッションを行う。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第8回	英文解釈演習　7 Unit 4 Globalization and Crimes against Women を読む。内容読解の演習問題を解説する。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第9回	英文解釈演習　8 Unit 4 Globalization and Crimes against Women を読む。テーマに基づくディスカッションを行う。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60

第10回	英文解釈演習　９ Unit 5 Representations of Whiteness in the Black Imaginationを読む。内容読解の演習問題を解説する。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第11回	英文解釈演習　１０ Unit 5 Representations of Whiteness in the Black Imaginationを読む。テーマに基づくディスカッションを行う。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第12回	英文解釈演習　１１ Unit 6 The Black Gaze を読む。内容読解の演習問題を解説する。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第13回	英文解釈演習　１２ Unit 6 The Black Gaze を読む。テーマに基づくディスカッションを行う。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第14回	到達度確認テスト これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストを行う。	
	【予習】　到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	120
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答 授業のまとめ	
	【復習】　到達度確認テストの結果を受け、この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識などを確認し、学修する。	60

授業の方法

・テキストを精読し、展開されている議論を正確に把握できているかどうか、授業での質疑応答で確認します。
・わからない語彙や表現はあらかじめ調べておくこと。
・議論の内容を深く理解し、自分の言葉で言い換えたり、具体例や比喩を用いて表現する練習も行います。
・到達度確認テストを行い授業全体の学修内容についての理解度を確認します。
・授業の進捗によって内容を一部変更する場合があります。

成績評価の方法

毎回の質疑応答、討論を含む授業貢献度（５０％）、到達度確認テスト（５０％）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.次の点に着目し、その達成度により評価する。
・抽象的な議論を含む高度な英文を正確に解釈することができる。
・提示された英文による議論を深く理解し、英語および日本語で説明することができる。
・異なる文化体系に対する柔軟な姿勢と広い視野を持ち、客観的な議論に基づいて自分の意見を表現できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。入念な授業準備と積極的に議論に参加する授業態度が求められる。

テキスト

How to Read Cultures 『原書で読むカルチュラル・スタディーズ』/　編注者　山田雄三、室淳子、松木園久子、英宝社　ISBN　978-4-269-14034-9

参考書

授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Ｇｌｏｂａｌ　Ｉｓｓｕｅｓ　II <1>		
教員名	ザブスラック　ロナルド　ステファン		
科目ナンバー	1101025160	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

The purpose of this class is to make students aware of a number of current issues facing us as globalization progresses. It will also provide a familiarization with the English vocabulary for discussing and studying such issues as the pursuit of happiness, our addiction to technology, global warming, and other problems facing the world and Japan.
Another goal is to help students look at issues from both sides and allow them to take a position and support it with their ideas.

到達目標

Students will develop an awareness of a variety of current major issues. They will learn the history or background of an issue, the vocabulary needed to discuss the problem and develop skills in looking at both sides of an issue so that they can have an informed opinion. They will also learn how to get background information and summarize it for presentation to the class.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Class 1 Introduction to techniques for becoming an active listener and skills to improve reading comprehension. Topic overview.	
	Prep: Obtain the text and look through the topics. Look at current news events connected or related to the topics we will discuss.	30 minutes
第2回	Class 1 Humanity’ s Common Values Group work and discussion on the first topic on how we are alike yet different.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第3回	Class 3 Group work and discussion about whaling, its history and implications.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Look for examples that represent these concepts. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes

第4回	Class 4 Continued group work and discussion about whaling, the pros and cons of Japan's position.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第5回	Class 5 Group work and discussion about food issues. What is in the foods we eat?	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points.Look for concrete examples to support your position from the internet. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第6回	Class 6 Continuing group work and discussion about food. We are what we eat. Video: King Corn	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第7回	Class 7 Group work and discussion about food issues. Video: Super Size Me	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第8回	Class 8 Group work and discussion about Sweatshop Labor.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points.Look for concrete examples to support your position from the internet. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第9回	Class 9 A discussion of where our goods come from and the myths about sweatshop labor.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points.Look for concrete examples to support your position from the internet. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes

第10回	Class 10 Group work and discussion about energy. Are alternative energies viable?	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第11回	Class11 Continued group work and discussion about energy. What are the reasons and problems for nuclear energy. What is fracking?	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points.Look for concrete examples to support your position from the internet. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第12回	Class 12 Group work and discussion about Global Warming.	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Complete Story of Stuff worksheet. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第13回	Class 13 Continuing group work and discussion about global warming. Where are we now and can it be stopped?	
	Prep: Read assigned sections of the text and create a summary of the key points. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第14回	Class 14 Group work and discussion on euthanasia. The types and the pros and cons.	
	Prep: Read the handout and create a summary of the key points.Look for concrete examples to support your position from the internet. Review: Be able to explain in your terms the key concepts from the previous class.	60-90 minutes
第15回	Class 15 Feedback and evaluations.	
	Review: Review your ideas concerning each topic and choosing one which affected you the most. Finally, a chance for you to express what you have learned through this class.	60 minutes

授業の方法

This is a student centered class, which means that homework and class preparation are absolutely necessary. A reading will be assigned every 2 weeks and will be the basis of each discussion. Most of the classes will be group work and student presentations as well as student feedback, discussion and evaluation of other students work. Class participation means coming prepared and adding your ideas to each class and discussion. Attendance is important not only for understanding the content but for group work and presentations.

成績評価の方法

Evaluation will be based on class preparation and homework (30%), active group participation and discussion (20%) and presentations/reports (20%). At least 2 video reports (15% each) will be required.
Being absent or unprepared will greatly affect your grade.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

A strong interest in current events, news and social problems. An intermediate level of English and the desire to discuss these issues in English.

テキスト

Confronting the Issues, David Peaty, Kinseido
ISBN978-4-7647-3886-7

参考書

A good bilingual dictionary is essential. Mobile phone dictionary use is not allowed.
Global Issues Annual Editions: McGraw-Hill Higher Education Series
Global Issues: An Introduction, John L. Seitz Blackwell Publishing

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。
I can also be available by appointment or mail contact information which I will give in class to discuss class content or study abroad information.

科目名	Ｇｌｏｂａｌ　Ｉｓｓｕｅｓ　II <2>		
教員名	桃尾　美佳		
科目ナンバー	1101025160	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

自分の母語とは異なる言語を学ぶということは、その言語の背景にある異なる文化体系を学ぶということでもあります。英語を学ぶ場合はさらに、英語を母語としない多くの英語使用者の文化と思想に、間接的にしろ接触する機会も手に入れることになります。それは同時に、自分自身の属している文化や物の考え方を、異なる社会に属するより多くの聞き手・読み手に向かって発信する手段を手に入れることでもあります。国際的なコミュニケーションにおいては、しばしば異なる文化の担い手同士の摩擦が発生しますが、そうしたぶつかり合いから生じる火花を争いの火種にするのではなく、互いをより深く理解しあうための灯りとするために、私たちは言葉を学ぶのではないでしょうか。この授業では、いわゆるカルチュラル・スタディーズの研究者による文章をテキストとし、さまざまな文化の有り様を多角的に眺めることで、「マジョリティ」の価値観や物の考え方を捉え直し、より柔軟な思考力と高度な英語運用能力を養うことをめざします。現実の国際社会が抱える難題の背景には、多くの場合価値観や思想面の齟齬があり、その事情は往々にして複雑です。そうした複雑な問題を扱っているテキストは、時に抽象的な議論も含む骨太なものですが、授業では地道に英文を読み解きながら自分で考えることの刺激的な楽しみを味わっていただければと思います。

到達目標

抽象的な議論を含む高度な英文を正確に解釈することができる。
提示された英文による議論を深く理解し、英語および日本語で説明することができる。
異なる文化体系に対する柔軟な姿勢と広い視野を持ち、客観的な議論に基づいて自分の意見を表現できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。	
	【予習】　シラバスをよく読んで授業の進め方を理解しておく。	30
第2回	英文解釈演習　1 Unit 7 The Journeying of Black People を読む。 内容読解の演習問題を解説する。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第3回	英文解釈演習　2 Unit 7 The Journeying of Black Peopleを読む。 テーマに基づくディスカッションを行う。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60

第4回	英文解釈演習　3 Unit 8 Associations of Whiteness with Terror を読む。内容読解の演習問題を解説する。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第5回	英文解釈演習　4 Unit 8 Associations of Whiteness with Terror　を読む。テーマに基づくディスカッションを行う。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第6回	英文解釈演習　5 Unit 9 Techniques of TV (1)を読む。内容読解の演習問題を解説する。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第7回	英文解釈演習　6 Unit 9 Techniques of TV (1) を読む。テーマに基づくディスカッションを行う。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第8回	英文解釈演習　7 Unit 10 Techniques of TV (2) を読む。内容読解の演習問題を解説する。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第9回	英文解釈演習　8 Unit 10 Techniques of TV (2)を読む。テーマに基づくディスカッションを行う。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60

第10回	英文解釈演習　９ Unit 11 Culture is Ordinary (1) を読む。内容読解の演習問題を解説する。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第11回	英文解釈演習　１０ Unit 11 Culture is Ordinary (1)を読む。テーマに基づくディスカッションを行う。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第12回	英文解釈演習　１１ Unit 11 Culture is Ordinary (2) を読む。内容読解の演習問題を解説する。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第13回	英文解釈演習　１２ Unit 11 Culture is Ordinary (2) を読む。テーマに基づくディスカッションを行う。	
	【予習】　テキストの指定された箇所を精読し、重要な語彙や表現を確認し、疑問点をまとめておく。 【復習】授業の内容を振り返り、議論の流れを確認する。	60
第14回	到達度確認テスト これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストを行う。	
	【予習】　到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	120
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答 授業のまとめ	
	【復習】　到達度確認テストの結果を受け、この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識などを確認し、学修する。	60

授業の方法

・テキストを精読し、展開されている議論を正確に把握できているかどうか、授業での質疑応答で確認します。
・わからない語彙や表現はあらかじめ調べておくこと。
・議論の内容を深く理解し、自分の言葉で言い換えたり、具体例や比喩を用いて表現する練習も行います。
・到達度確認テストを行い授業全体の学修内容についての理解度を確認します。
・授業の進捗によって内容を一部変更する場合があります。

成績評価の方法

毎回の質疑応答、討論を含む授業貢献度（５０％）、到達度確認テスト（５０％）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.次の点に着目し、その達成度により評価する。
・抽象的な議論を含む高度な英文を正確に解釈することができる。
・提示された英文による議論を深く理解し、英語および日本語で説明することができる。
・異なる文化体系に対する柔軟な姿勢と広い視野を持ち、客観的な議論に基づいて自分の意見を表現できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。入念な授業準備と積極的に議論に参加する授業態度が求められる。

テキスト

How to Read Cultures 『原書で読むカルチュラル・スタディーズ』/　編注者　山田雄三、室淳子、松木園久子、英宝社　ISBN　978-4-269-14034-9

参考書

授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	日本語表現講義 ＜1＞		
教員名	布川　純子		
科目ナンバー	1101431010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

・日本語表現の諸ルールや文章作成上の留意点を、具体的に解説し、かつ実践する科目。
・半期の講義の中で、大学生が知っておくべき日本語表現上の知識をコンパクトに教授する。
・前期・後期の内容はほぼ同じ。履修者人数・学年等により若干の内容変更はある。
・扱う内容は、下記各授業回を参照。

到達目標

本講義は、日本語表現の諸ルールと文章作成を学ぶことで、日本人としての教養を身につけることを目標とする。
具体的には、
①正しい敬語を学ぶことで、コミュニケーションを潤滑にとることが出来る。
②事務的文書・手紙の書き方を学ぶことで、社会人になってから即実践的な文書を書くことが出来る。
③主語・述語・修飾語の配置や、意見文の書き方などを学ぶことで、論理的な文章を書くことが出来る。
④日本語の語彙を高めることで、より豊かな文章を書くことが出来る。
⑤文章の要約のポイントを学ぶことで、読解力を高めることが出来る。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス	
	テキストを用意し、これから学習すべき内容について概要を理解しておくこと。	３０分
第2回	敬語・敬意表現の使い方１、尊敬語・謙譲語	
	テキストP、３５～３９	６０分
第3回	敬語・敬意表現の使い方２、謙譲語・丁寧語	
	テキストP、３９～４５	６０分

第4回	文の構造１、主語と述語の関係、修飾語と被修飾語の関係	
	テキストP、１３～１６	６０分
第5回	文の構造２、読点・接続詞・副詞の用法、助詞	
	テキストP、１４～２１	６０分
第6回	文の要約の仕方 ・短い文章の中で、重要な語を抜き出す作業をし、 そこから要約のポイントをつかむ。	
	テキストP、４６～４７	６０分
第7回	各文書の書き方１、手紙の書き方 ・高校の恩師に充てての近況報告を、実際に縦書きで書いてみることで、手紙の形式を学ぶ。	
	テキストP、５０～５４、６０	９０分
第8回	各文書の書き方２、事務的文書の書き方①ビジネス文書 ・実務文書を実際に作成する。	
	テキストP、５６～５８	６０分
第9回	各文書の書き方３、事務的文書の書き方②案内文 ・学祭の案内文を作成する。	
	テキストP、５５～５７	６０分

第10回	各文書の書き方４、意見文の書き方 ・原稿用紙の書き方の確認も含む。 ・賛成・反対を明確にした意見文を書く。	
	○テキストP、４５～４９ ○資料配布した意見文の書き方を参考に、新聞記事等を選び、それに対する意見文を５００字でまとめる。	１２０分
第11回	各文書の書き方５、説明文の書き方 ・体験による自分自身の変化を、時間の経過を軸にして説明する文章を書く。	
	配布資料の説明文の書き方を参考に、自分で体験したことの前と後という設定で６００字でまとめる。	１２０分
第12回	各文書の書き方６、解説文の書き方 表などの分析をしながら、考察していくやり方を学ぶ。	
	○配布資料の書き方を参考にして、文章を８００字でまとめる。 ○テキストP、６２～７５	１２０分
第13回	各文書の書き方７、レポート・論文の書き方 ①レポートと論文の違い②原稿用紙の書き方の復習③形式④手順⑤参考文献の書き方	
	テキストP、７５～７９	６０分
第14回	新聞記事を読み、意見文を１２００字前後でまとめる。	
	意見文の書き方について、テキストや配布資料を読みかえしておく。	６０分
第15回	履歴書・エントリーシートの書き方とこれまでのまとめ ・これまでの提出物の返却をし、簡単な講評をする。	
	・返却された文書等の添削箇所の確認。 ・テキストP、８２～８５	６０分

授業の方法
講義形式。座席指定予定（但し教室と履修者人数による）。

成績評価の方法
日本語語彙チェックの小テスト１０回（30%）、課題提出６回(30%）と最後の意見文(40%）の総合で評価する。
なお、評価対象となるのは３分の２以上の出席が前提である。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・わかりやすい文章で書いてあるか。
・段落構成が出来ているか。
・正しい日本語、漢字で書いているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特にない。

テキスト
『大学生のための日本語表現実践ノート』（改訂版）風間書房刊、定価1，000円
　　2010年3月15日発行、米田明美・蔵中さやか・山中登志美共著

参考書
『日本語表記のルールブック』
（日本エディタースクール編・出版　2005年9月27日）
『新版　大学生のためのレポート・論文術』
（小笠原喜康著　講談社現代新書　2009年11月20日）他

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語表現講義 ＜2＞		
教員名	布川　純子		
科目ナンバー	1001031010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

・日本語表現の諸ルールや文章作成上の留意点を、具体的に解説し、かつ実践する科目。
・半期の講義の中で、大学生が知っておくべき日本語表現上の知識をコンパクトに教授する。
・前期・後期の内容はほぼ同じ。履修者人数・学年等により若干の内容変更はある。
・扱う内容は、下記各授業回を参照。

到達目標

本講義は、日本語表現の諸ルールと文章作成を学ぶことで、日本人としての教養を身につけることを目標とする。
具体的には、
①正しい敬語を学ぶことで、コミュニケーションを潤滑にとることが出来る。
②事務的文書・手紙の書き方を学ぶことで、社会人になってから即実践的な文書を書くことが出来る。
③主語・述語・修飾語の配置や、意見文の書き方などを学ぶことで、論理的な文章を書くことが出来る。
④日本語の語彙を高めることで、より豊かな文章を書くことが出来る。
⑤文章の要約のポイントを学ぶことで、読解力を高めることが出来る。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	テキストを用意し、これから学習すべき内容について概要を理解しておくこと。	３０分
第2回	敬語・敬意表現の使い方１、尊敬語・謙譲語	
	テキストP、３５～３９	６０分
第3回	敬語・敬意表現の使い方２、謙譲語・丁寧語	
	テキストP、３９～４５	６０分

第4回	文の構造１、主語と述語の関係、修飾語と被修飾語の関係	
	テキストP、１３～１６	６０分
第5回	文の構造２、読点・接続詞・副詞の用法、助詞	
	テキストP、１４～２１	６０分
第6回	文の要約の仕方 ・短い文章の中で、重要な語を抜き出す作業をし、 そこから要約のポイントをつかむ。	
	テキストP、４６～４７	６０分
第7回	各文書の書き方１、手紙の書き方 ・高校の恩師に充てての近況報告を、実際に縦書きで書いてみることで、手紙の形式を学ぶ。	
	テキストP、５０～５４、６０	９０分
第8回	各文書の書き方２、事務的文書の書き方①ビジネス文書 ・実務文書を実際に作成する。	
	テキストP、５６～５８	６０分
第9回	各文書の書き方３、事務的文書の書き方②案内文 ・学祭の案内文を作成する。	
	テキストP、５５～５７	６０分

第10回	各文書の書き方４、意見文の書き方 ・原稿用紙の書き方の確認も含む。 ・賛成・反対を明確にした意見文を書く。	
	○テキストP、４５～４９ ○資料配布した意見文の書き方を参考に、新聞記事等を選び、それに対する意見文を５００字でまとめる。	１２０分
第11回	各文書の書き方５、説明文の書き方 ・体験による自分自身の変化を、時間の経過を軸にして説明する文章を書く。	
	配布資料の説明文の書き方を参考に、自分で体験したことの前と後という設定で６００字でまとめる。	１２０分
第12回	各文書の書き方６、解説文の書き方 表などの分析をしながら、考察していくやり方を学ぶ。	
	○配布資料の書き方を参考にして、文章を８００字でまとめる。 ○テキストP、６２～７５	１２０分
第13回	各文書の書き方７、レポート・論文の書き方 ①レポートと論文の違い②原稿用紙の書き方の復習③形式④手順⑤参考文献の書き方	
	テキストP、７５～７９	６０分
第14回	新聞記事を読み、意見文を１２００字前後でまとめる。	
	意見文の書き方について、テキストや配布資料を読みかえしておく。	６０分
第15回	履歴書・エントリーシートの書き方とこれまでのまとめ ・これまでの提出物の返却をし、簡単な講評をする。	
	・返却された文書等の添削箇所の確認。 ・テキストP、８２～８５	６０分

授業の方法
講義形式。座席指定予定（但し教室と履修者人数による）。

成績評価の方法
日本語語彙チェックの小テスト１０回（30%）、課題提出６回(30%）と最後の意見文(40%）の総合で評価する。
なお、評価対象となるのは３分の２以上の出席が前提である。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・わかりやすい文章で書いてあるか。
・段落構成が出来ているか。
・正しい日本語、漢字で書いているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特にない。

テキスト
『大学生のための日本語表現実践ノート』（改訂版）風間書房刊、定価1，000円
　　2010年3月15日発行、米田明美・蔵中さやか・山中登志美共著

参考書
『日本語表記のルールブック』
　　（日本エディタースクール編・出版　2005年9月27日）
『新版　大学生のためのレポート・論文術』
　　（小笠原喜康著　講談社現代新書　2009年11月20日）他

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	実践漢字講座 <1>		
教員名	藤本　灯		
科目ナンバー	1101431020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

我々が日常生活で使っている漢字について、その歴史・変遷をたどりながら、実践的に使用する能力を養う。

到達目標

「常用漢字表」に掲載されている全ての漢字について、基本的な読み書きを習得することを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスを読み、授業内容を確認すること。	10
第2回	漢字の音と訓1	
	【予習】必要なし【復習】毎回の小テスト及び講義の内容をその都度復習すること。	30
第3回	漢字の音と訓2	
	【予習】必要なし【復習】毎回の小テスト及び講義の内容をその都度復習すること。	30

第4回	漢字の音と訓3	
	【予習】必要なし【復習】毎回の小テスト及び講義の内容をその都度復習すること。	30
第5回	同音・同訓異字	
	【予習】必要なし【復習】毎回の小テスト及び講義の内容をその都度復習すること。	30
第6回	部首1	
	【予習】必要なし【復習】毎回の小テスト及び講義の内容をその都度復習すること。	30
第7回	部首2	
	【予習】必要なし【復習】毎回の小テスト及び講義の内容をその都度復習すること。	30
第8回	国字	
	【予習】必要なし【復習】毎回の小テスト及び講義の内容をその都度復習すること。	30
第9回	送り仮名	
	【予習】必要なし【復習】毎回の小テスト及び講義の内容をその都度復習すること。	30

第10回	対義語・類義語	
	【予習】必要なし【復習】毎回の小テスト及び講義の内容をその都度復習すること。	30
第11回	四字熟語・故事成語	
	【予習】必要なし【復習】毎回の小テスト及び講義の内容をその都度復習すること。	30
第12回	漢字制限の歴史1	
	【予習】必要なし【復習】毎回の小テスト及び講義の内容をその都度復習すること。	30
第13回	漢字制限の歴史2	
	【予習】必要なし【復習】毎回の小テスト及び講義の内容をその都度復習すること。	30
第14回	漢字制限の歴史3	
	【予習】必要なし【復習】毎回の小テスト及び講義の内容をその都度復習すること。到達度確認テストの準備をすること。	60
第15回	到達度確認テスト	
	【予習】到達度確認テストの準備をすること。【復習】授業全体を通して学んだことを復習すること。	60

授業の方法
講義を中心とし、毎回、漢字検定２級レベルの漢字について、読み書きに関するテストや分野別練習問題等を解く。

成績評価の方法
受講態度など平常点（４０%）、到達度確認テスト（６０%）による。原則として遅刻・早退・欠席は不可。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
特になし。適宜プリントを配布する。

参考書
特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	実践漢字講座 ＜2＞		
教員名	久保田　篤		
科目ナンバー	1001031020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

漢字は、日本語の中で古くから重要な役割を果たしてきた。近代以降は、漢字の使用に関して盛んな議論が行われ、表記のきまりが定められるようになった。また近年は特にクイズ番組等で漢字の問題が盛んに出題され、更に２９年ぶりに常用漢字表が改訂されたこともあり、漢字に対する関心がますます高まっている。しかし一方、手書きの機会は急速に減っている。実生活で役立つ漢字能力を高めるためには、漢字に関する適切な知識を身につけるとともに、漢字を書く訓練を行うことが必要になっていると言える。

授業では、最初に漢字の成り立ちの分類を紹介し、これに関連して部首や読みの注意点を説明する。また、「常用漢字表」と「送り仮名の付け方」に関する解説を行い、現代表記のきまりを理解してもらう。これらの知識を身につけながら、毎時間、問題集等のプリントを解き答えを述べてもらうなどの漢字練習を行う。なお、学期の終盤に一回、日本漢字能力検定協会の職員の方に、社会が求める漢字能力や、漢字能力検定試験等に関する講義をお願いする予定である。この出張講義が第何回になるかはまだ確定していないため、後半の内容は変更になる可能性がある。また授業の進捗状況によって内容を一部変更する場合もある。

到達目標

漢字についての知識を広げ、できる限り多くの常用漢字の読み書き能力と、送り仮名のきまりに関する知識の習得を目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	漢字能力等の確認 練習問題を何種類か解いてもらい、漢字能力を改めて確認してみる。また、漢字に対する興味・関心について記述して提出してもらう（人数によっては口頭で述べてもらう場合もある）　。	
	漢字のどのような点に興味を持っているか、及び漢字の優れている点はどのようなところかについて考えておく。	60
第2回	六書について（１） ①象形 ②指事 読みの練習問題	
	象形・指事によってできた漢字（授業で示したもの以外の字）を漢和辞典で幾つか調べ、その成り立ちを小レポートにまとめる。	60
第3回	六書について（２）及び国字（和製漢字）について ③会意 ●会意の方法で成立した国字 書き取りの練習問題	
	会意によってできた漢字（授業で示したもの以外の字）を漢和辞典で幾つか調べ、その成り立ちを小レポートにまとめる。	60

第4回	六書について（３） 　④形声（諧声） 　⑤転注 　⑥仮借 読みの練習問題	
	形声によってできた漢字（授業で示したもの以外の字）を漢和辞典で幾つか調べ、音符と意符を明示した小レポートを作成する。また、個々の漢字の音読みと、その音符との関係についても記述する。	90
第5回	部首（１） 　形声（諧声）の字の部首について 書き取りの練習問題	
	漢和辞典で形声の字を幾つか調べ、意符を明示しつつ、その字の部首・部首名を記した小レポートを作成する。またその部首に所属する漢字に共通する意味は何かについても調べて記す。	90
第6回	部首（２） 　注意すべき部首の漢字 読み及び書き取りの練習問題	
	授業で示した以外の字の部首・部首名とと、その部首に所属する漢字に共通する意味は何かについて調べ、小レポートにまとめる。	90
第7回	常用漢字の音読みで注意すべきもの 　間違いの多い音読み 　読みにくい音読み等 表外字の音読み 　実生活で見かけることの多い表外字の熟語 読みの練習問題	
	練習問題で分からなかったり間違えたりした漢字の読みを復習しておく。	60
第8回	常用漢字の訓読み 　同訓異字の書き分け 書き取りの練習問題	
	練習問題で分からなかったり間違えたりした漢字の書き取りを復習しておく。	60
第9回	「常用漢字表」別表の読み 　熟字訓 表外字の訓読み 　実生活で見かけることの多い表外字 読みの練習問題	
	練習問題で分からなかったり間違えたりした漢字の読みを復習しておく。	60

第10回	「送り仮名の付け方」（１） 　例外について 送り仮名の練習問題	
	練習問題で分からなかったり間違えたりした漢字の書き取り及び送り仮名を復習しておく。	60
第11回	「送り仮名の付け方」（２） 　含まれている語の付け方によるもの 送り仮名の練習問題	
	活用語尾でない部分も送ると決められている場合の、含まれている語などに関する説明を小レポートにまとめる。	90
第12回	「常用漢字表」の改訂 　新しく加わった漢字など 読み及び書き取りの練習問題	
	練習問題で分からなかったり間違えたりした漢字の読み及び書き取りの復習をしておく。	60
第13回	日本漢字能力検定協会からの出張講義 　漢字雑学 　企業の求める漢字能力 　漢検について	
	出張講義を聴いて考えたことを小レポートにまとめる。 　模擬テストや期末筆記試験に備え、学修内容を確認する。	120
第14回	到達度確認等のための模擬テスト 　これまでの学修内容についての理解度、及び漢字の読み・書き取りに関する習熟度を確認し、期末筆記試験に備えるための模擬テスト	
	模擬テストに備え、これまでの学修内容を確認する。またテストにより分かった不足知識等を復習し期末筆記試験に備える。	120
第15回	模擬テストについての質疑応答	
	自分の理解度・習熟度を点検して不足の知識等を確認し、期末試験に備えた学修をする。	120

授業の方法

授業は、おおよそ半分の時間で講義を行い、残りの半分の時間は練習問題を解いてもらったり答え合わせをしたりする。学生は、毎回、宿題（簡単な小レポート）を提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間は目安であり、各自の理解度や練習問題のでき具合に応じて取り組むこと。

成績評価の方法

宿題（小レポート）提出状況（35%）、模擬テスト（１回：15%）、期末筆記試験（35%）、授業中の練習問題への取り組み（15%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	実践日本語表現 ＜1＞		
教員名	土居　奈生子		
科目ナンバー	1101431030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

様々な場面や目的に応じた文章を作成し、受講者同士で確認・批評しあう。出来上がった文章は担当教員が添削する。こうした実践を通して、多様な文章を的確に書けるようになること、そのために必要な語彙力を身につけること、を目指す。

到達目標

①学生として必要とされる文章作成力を身につけ、レポートや卒業論文の作成に応用できる。
②社会人として必要とされる文書作成力を身につけ、学内、学外に関わらず適切な文書をもってコミュニケーションの一助となせる。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習や復習の仕方等を説明する。 ・書き言葉による伝達の難しさを再認識するため、マニュアル文書を作成、授業終了時に提出する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	自己紹介（一） ・初回授業で提出された文書を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・紹介にふさわしい表現について考える。受講者全員、１分間スピーチによる自己紹介を行う。	
	【予習】指定されたテキストを入手し、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時の互いの自己紹介を振り返り、印象深い自己紹介について考える。	６０ ３０
第3回	自己紹介（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・身近にある自己証明書の類を示し、履歴書と比較することで、それぞれの特徴や用いる場面を考える。 ・解説に合わせて履歴書を作成する。受講者同士によるチェックを経て、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ履歴書作成法を振り返る。学外活動において履歴書提出を求められる場合の一助とする。	３０ ３０

第4回	書簡表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・手紙の諸形式と書き方を学ぶ。 ・履歴書を郵送するため、添え状の作成と封筒宛名書きを行う。受講者同士のチェックを経て、授業終了時に提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業時に学んだ手紙の作成法を振り返る。学外活動において手紙を書いて郵送する場合の一助とする。	３０ ３０
第5回	書簡表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・電子メールの形式と書き方を学ぶ。 ・メール文書を作成し、受講者同士、交換する。互いの文書チェックの後、返信文書の作成。互いの文書を返却し、修正、確認の後、提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業を振り返り、担当教員宛に電子メールを作成、宿題として送信（提出）する。	３０ ３０
第6回	敬語表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語定着のためのトレーニング問題を行う。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に取り上げられた敬語を中心に、次回の敬語表現（二）までの期間を使い、敬語を覚える。	３０ ３０
第7回	イベントの準備（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・事業とは何か、それに伴う文書作成の重要性、企画書について学ぶ。その後、企画書を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ企画書作成法を振り返る。学外活動において企画書ならびに提案書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第8回	イベントの準備（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・企画書にあるアイディアの実現・成功のための告知の重要性を学び、告知書あるいは案内書を作成する。 ・告知書を黒板に貼りだし、受講者同士で投票、批評する。後に票数を記録し、提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ告知書作成法を振り返る。学内や学外活動において告知書ならびに案内書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第9回	事柄の伝達と意思の伝達（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・新聞について学ぶ。その後、全国に展開する新聞社の記事を読み比べ、設問に解答しながら分析する。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０

第10回	事柄の伝達と意思の伝達（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・インタビュー取材の字起こしを材料に、記事作成（４００字程度）を行う。段階的な文章作成を経験し、授業終了後に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０
第11回	レポートの作成（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・レポートの作成法を学び、トレーニング問題（４００字程度）を行う。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	３０ ３０
第12回	レポートの作成（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・長めの文章を読み、要約文（４００字程度）を作成する。授業終了後、提出する。	
	【復習】授業時に読んだ長めの文章を読み返し、次回、授業時の返却、講評に備える。 授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０
第13回	レポートの作成（三） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・授業を振り返りながら、授業感想文（４００字程度）を作成する。作成後、提出する。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０ ３０
第14回	敬語表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語を使うためのトレーニング問題を行う。授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】敬語に関する宿題を行い、その報告として電子メールを作成、提出する。	３０ ６０
第15回	まとめ ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙総合テストの実施。 ・語彙総合テストの答え合わせならびに解説。 ・授業全体を通じての質疑応答。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修し試験に備える。 【復習】授業全体を振り返り、期末試験に備える。	６０ ６０

授業の方法

・授業は、文章作成の実践と、受講者相互の確認・批評とを二本の柱として進めていく。前者に関しては、授業終了時に提出→教員が添削→次週返却、という流れになる。後者は演習方式で行い、作成された文章をよりよくするための受講者同士の意見交換の場とする予定である。
・文章作成を行わない授業の際は、課題に関連する語彙について知識と理解を深めるための小テストと、文章作成を円滑にしていくためのトレーニングを行う。
・小テストの範囲は授業時に予告するが、基本的に半期の授業期間中でテキストすべてを学修する。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合、授業の順番を入れ替える場合がある。

成績評価の方法

１１回以上の出席を前提とする（特に初回授業の出席を重視する）。その上で、毎回の授業時の課題（提出状況ならびに取り組む姿勢）に対する評価の積み重ね（６０%程度）と期末試験（４０%程度）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①学生として必要とされる文章作成力を修得できたか。
②社会人として必要とされる文書作成力を修得できたか。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得できたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

２０１３年度以前入学生の皆さんへ
「実践日本語表現」では主に「書く力」を養う。ただし〈１５〉〈１６〉〈１７〉の各クラスは「話す力」を養うことを目的としている。また、基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という人には、「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」をお勧めしたい。各授業のシラバスを参考にしてほしい。

テキスト

『日本語チェック２０００辞典』樺島忠夫・植垣節也・内田満・佐竹秀雄、京都書房　ISBN978-4-7637-0600-3-C0581　　1000円（税抜き）

参考書

参考書は授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

各回の授業終了後に相談に応じる。オフィスアワーは、初回授業の「ガイダンス」で知らせるが、学内専用ホームページでも確認できる。

科目名	実践日本語表現 ＜2＞		
教員名	土居　奈生子		
科目ナンバー	1201431030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

様々な場面や目的に応じた文章を作成し、受講者同士で確認・批評しあう。出来上がった文章は担当教員が添削する。こうした実践を通して、多様な文章を的確に書けるようになること、そのために必要な語彙力を身につけること、を目指す。

到達目標

①学生として必要とされる文章作成力を身につけ、レポートや卒業論文の作成に応用できる。
②社会人として必要とされる文書作成力を身につけ、学内、学外に関わらず適切な文書をもってコミュニケーションの一助となせる。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習や復習の仕方等を説明する。 ・書き言葉による伝達の難しさを再認識するため、マニュアル文書を作成、授業終了時に提出する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	自己紹介（一） ・初回授業で提出された文書を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・紹介にふさわしい表現について考える。受講者全員、１分間スピーチによる自己紹介を行う。	
	【予習】指定されたテキストを入手し、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時の互いの自己紹介を振り返り、印象深い自己紹介について考える。	６０ ３０
第3回	自己紹介（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・身近にある自己証明書の類を示し、履歴書と比較することで、それぞれの特徴や用いる場面を考える。 ・解説に合わせて履歴書を作成する。受講者同士によるチェックを経て、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ履歴書作成法を振り返る。学外活動において履歴書提出を求められる場合の一助とする。	３０ ３０

第4回	書簡表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・手紙の諸形式と書き方を学ぶ。 ・履歴書を郵送するため、添え状の作成と封筒宛名書きを行う。受講者同士のチェックを経て、授業終了時に提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業時に学んだ手紙の作成法を振り返る。学外活動において手紙を書いて郵送する場合の一助とする。	３０ ３０
第5回	書簡表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・電子メールの形式と書き方を学ぶ。 ・メール文書を作成し、受講者同士、交換する。互いの文書チェックの後、返信文書の作成。互いの文書を返却し、修正、確認の後、提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業を振り返り、担当教員宛に電子メールを作成、宿題として送信（提出）する。	３０ ３０
第6回	敬語表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語定着のためのトレーニング問題を行う。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に取り上げられた敬語を中心に、次回の敬語表現（二）までの期間を使い、敬語を覚える。	３０ ３０
第7回	イベントの準備（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・事業とは何か、それに伴う文書作成の重要性、企画書について学ぶ。その後、企画書を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ企画書作成法を振り返る。学外活動において企画書ならびに提案書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第8回	イベントの準備（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・企画書にあるアイディアの実現・成功のための告知の重要性を学び、告知書あるいは案内書を作成する。 ・告知書を黒板に貼りだし、受講者同士で投票、批評する。後に票数を記録し、提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ告知書作成法を振り返る。学内や学外活動において告知書ならびに案内書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第9回	事柄の伝達と意思の伝達（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・新聞について学ぶ。その後、全国に展開する新聞社の記事を読み比べ、設問に解答しながら分析する。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０

第10回	事柄の伝達と意思の伝達（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・インタビュー取材の字起こしを材料に、記事作成（４００字程度）を行う。段階的な文章作成を経験し、授業終了後に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０
第11回	レポートの作成（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・レポートの作成法を学び、トレーニング問題（４００字程度）を行う。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	３０ ３０
第12回	レポートの作成（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・長めの文章を読み、要約文（４００字程度）を作成する。授業終了後、提出する。	
	【復習】授業時に読んだ長めの文章を読み返し、次回、授業時の返却、講評に備える。 授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０
第13回	レポートの作成（三） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・授業を振り返りながら、授業感想文（４００字程度）を作成する。作成後、提出する。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０ ３０
第14回	敬語表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語を使うためのトレーニング問題を行う。授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】敬語に関する宿題を行い、その報告として電子メールを作成、提出する。	３０ ６０
第15回	まとめ ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙総合テストの実施。 ・語彙総合テストの答え合わせならびに解説。 ・授業全体を通じての質疑応答。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修し試験に備える。 【復習】授業全体を振り返り、期末試験に備える。	６０ ６０

授業の方法

・授業は、文章作成の実践と、受講者相互の確認・批評とを二本の柱として進めていく。前者に関しては、授業終了時に提出→教員が添削→次週返却、という流れになる。後者は演習方式で行い、作成された文章をよりよくするための受講者同士の意見交換の場とする予定である。
・文章作成を行わない授業の際は、課題に関連する語彙について知識と理解を深めるための小テストと、文章作成を円滑にしていくためのトレーニングを行う。
・小テストの範囲は授業時に予告するが、基本的に半期の授業期間中でテキストすべてを学修する。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合、授業の順番を入れ替える場合がある。

成績評価の方法

１１回以上の出席を前提とする（特に初回授業の出席を重視する）。その上で、毎回の授業時の課題（提出状況ならびに取り組む姿勢）に対する評価の積み重ね（６０%程度）と期末試験（４０%程度）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①学生として必要とされる文章作成力を修得できたか。
②社会人として必要とされる文書作成力を修得できたか。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得できたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

２０１３年度以前入学生の皆さんへ
「実践日本語表現」では主に「書く力」を養う。ただし〈１５〉〈１６〉〈１７〉の各クラスは「話す力」を養うことを目的としている。また、基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という人には、「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」をお勧めしたい。各授業のシラバスを参考にしてほしい。

テキスト

『日本語チェック２０００辞典』樺島忠夫・植垣節也・内田満・佐竹秀雄、京都書房　ISBN978-4-7637-0600-3-C0581　　1000円（税抜き）

参考書

参考書は授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

各回の授業終了後に相談に応じる。オフィスアワーは、初回授業の「ガイダンス」で知らせるが、学内専用ホームページでも確認できる。

科目名	実践日本語表現 ＜3＞		
教員名	土居　奈生子		
科目ナンバー	1201431030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

様々な場面や目的に応じた文章を作成し、受講者同士で確認・批評しあう。出来上がった文章は担当教員が添削する。こうした実践を通して、多様な文章を的確に書けるようになること、そのために必要な語彙力を身につけること、を目指す。

到達目標

①学生として必要とされる文章作成力を身につけ、レポートや卒業論文の作成に応用できる。
②社会人として必要とされる文書作成力を身につけ、学内、学外に関わらず適切な文書をもってコミュニケーションの一助となせる。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習や復習の仕方等を説明する。 ・書き言葉による伝達の難しさを再認識するため、マニュアル文書を作成、授業終了時に提出する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	自己紹介（一） ・初回授業で提出された文書を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・紹介にふさわしい表現について考える。受講者全員、１分間スピーチによる自己紹介を行う。	
	【予習】指定されたテキストを入手し、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時の互いの自己紹介を振り返り、印象深い自己紹介について考える。	６０ ３０
第3回	自己紹介（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・身近にある自己証明書の類を示し、履歴書と比較することで、それぞれの特徴や用いる場面を考える。 ・解説に合わせて履歴書を作成する。受講者同士によるチェックを経て、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ履歴書作成法を振り返る。学外活動において履歴書提出を求められる場合の一助とする。	３０ ３０

第4回	書簡表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・手紙の諸形式と書き方を学ぶ。 ・履歴書を郵送するため、添え状の作成と封筒宛名書きを行う。受講者同士のチェックを経て、授業終了時に提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業時に学んだ手紙の作成法を振り返る。学外活動において手紙を書いて郵送する場合の一助とする。	３０ ３０
第5回	書簡表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・電子メールの形式と書き方を学ぶ。 ・メール文書を作成し、受講者同士、交換する。互いの文書チェックの後、返信文書の作成。互いの文書を返却し、修正、確認の後、提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業を振り返り、担当教員宛に電子メールを作成、宿題として送信（提出）する。	３０ ３０
第6回	敬語表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語定着のためのトレーニング問題を行う。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に取り上げられた敬語を中心に、次回の敬語表現（二）までの期間を使い、敬語を覚える。	３０ ３０
第7回	イベントの準備（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・事業とは何か、それに伴う文書作成の重要性、企画書について学ぶ。その後、企画書を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ企画書作成法を振り返る。学外活動において企画書ならびに提案書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第8回	イベントの準備（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・企画書にあるアイディアの実現・成功のための告知の重要性を学び、告知書あるいは案内書を作成する。 ・告知書を黒板に貼りだし、受講者同士で投票、批評する。後に票数を記録し、提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ告知書作成法を振り返る。学内や学外活動において告知書ならびに案内書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第9回	事柄の伝達と意思の伝達（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・新聞について学ぶ。その後、全国に展開する新聞社の記事を読み比べ、設問に解答しながら分析する。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０

第10回	事柄の伝達と意思の伝達（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・インタビュー取材の字起こしを材料に、記事作成（４００字程度）を行う。段階的な文章作成を経験し、授業終了後に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０
第11回	レポートの作成（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・レポートの作成法を学び、トレーニング問題（４００字程度）を行う。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	３０ ３０
第12回	レポートの作成（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・長めの文章を読み、要約文（４００字程度）を作成する。授業終了後、提出する。	
	【復習】授業時に読んだ長めの文章を読み返し、次回、授業時の返却、講評に備える。 授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０
第13回	レポートの作成（三） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・授業を振り返りながら、授業感想文（４００字程度）を作成する。作成後、提出する。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０ ３０
第14回	敬語表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語を使うためのトレーニング問題を行う。授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】敬語に関する宿題を行い、その報告として電子メールを作成、提出する。	３０ ６０
第15回	まとめ ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙総合テストの実施。 ・語彙総合テストの答え合わせならびに解説。 ・授業全体を通じての質疑応答。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修し試験に備える。 【復習】授業全体を振り返り、期末試験に備える。	６０ ６０

授業の方法

・授業は、文章作成の実践と、受講者相互の確認・批評とを二本の柱として進めていく。前者に関しては、授業終了時に提出→教員が添削→次週返却、という流れになる。後者は演習方式で行い、作成された文章をよりよくするための受講者同士の意見交換の場とする予定である。
・文章作成を行わない授業の際は、課題に関連する語彙について知識と理解を深めるための小テストと、文章作成を円滑にしていくためのトレーニングを行う。
・小テストの範囲は授業時に予告するが、基本的に半期の授業期間中でテキストすべてを学修する。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合、授業の順番を入れ替える場合がある。

成績評価の方法

１１回以上の出席を前提とする（特に初回授業の出席を重視する）。その上で、毎回の授業時の課題（提出状況ならびに取り組む姿勢）に対する評価の積み重ね（６０%程度）と期末試験（４０%程度）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①学生として必要とされる文章作成力を修得できたか。
②社会人として必要とされる文書作成力を修得できたか。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得できたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

２０１３年度以前入学生の皆さんへ
「実践日本語表現」では主に「書く力」を養う。ただし〈１５〉〈１６〉〈１７〉の各クラスは「話す力」を養うことを目的としている。また、基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という人には、「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」をお勧めしたい。各授業のシラバスを参考にしてほしい。

テキスト

『日本語チェック２０００辞典』樺島忠夫・植垣節也・内田満・佐竹秀雄、京都書房　ISBN978-4-7637-0600-3-C0581　　1000円（税抜き）

参考書

参考書は授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

各回の授業終了後に相談に応じる。オフィスアワーは、初回授業の「ガイダンス」で知らせるが、学内専用ホームページでも確認できる。

科目名	実践日本語表現 ＜4＞		
教員名	土居　奈生子		
科目ナンバー	1201431030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

様々な場面や目的に応じた文章を作成し、受講者同士で確認・批評しあう。出来上がった文章は担当教員が添削する。こうした実践を通して、多様な文章を的確に書けるようになること、そのために必要な語彙力を身につけること、を目指す。

到達目標

①学生として必要とされる文章作成力を身につけ、レポートや卒業論文の作成に応用できる。
②社会人として必要とされる文書作成力を身につけ、学内、学外に関わらず適切な文書をもってコミュニケーションの一助となせる。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習や復習の仕方等を説明する。 ・書き言葉による伝達の難しさを再認識するため、マニュアル文書を作成、授業終了時に提出する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	自己紹介（一） ・初回授業で提出された文書を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・紹介にふさわしい表現について考える。受講者全員、１分間スピーチによる自己紹介を行う。	
	【予習】指定されたテキストを入手し、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時の互いの自己紹介を振り返り、印象深い自己紹介について考える。	６０ ３０
第3回	自己紹介（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・身近にある自己証明書の類を示し、履歴書と比較することで、それぞれの特徴や用いる場面を考える。 ・解説に合わせて履歴書を作成する。受講者同士によるチェックを経て、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ履歴書作成法を振り返る。学外活動において履歴書提出を求められる場合の一助とする。	３０ ３０

第4回	書簡表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・手紙の諸形式と書き方を学ぶ。 ・履歴書を郵送するため、添え状の作成と封筒宛名書きを行う。受講者同士のチェックを経て、授業終了時に提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業時に学んだ手紙の作成法を振り返る。学外活動において手紙を書いて郵送する場合の一助とする。	３０ ３０
第5回	書簡表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・電子メールの形式と書き方を学ぶ。 ・メール文書を作成し、受講者同士、交換する。互いの文書チェックの後、返信文書の作成。互いの文書を返却し、修正、確認の後、提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業を振り返り、担当教員宛に電子メールを作成、宿題として送信（提出）する。	３０ ３０
第6回	敬語表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語定着のためのトレーニング問題を行う。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に取り上げられた敬語を中心に、次回の敬語表現（二）までの期間を使い、敬語を覚える。	３０ ３０
第7回	イベントの準備（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・事業とは何か、それに伴う文書作成の重要性、企画書について学ぶ。その後、企画書を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ企画書作成法を振り返る。学外活動において企画書ならびに提案書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第8回	イベントの準備（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・企画書にあるアイディアの実現・成功のための告知の重要性を学び、告知書あるいは案内書を作成する。 ・告知書を黒板に貼りだし、受講者同士で投票、批評する。後に票数を記録し、提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ告知書作成法を振り返る。学内や学外活動において告知書ならびに案内書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第9回	事柄の伝達と意思の伝達（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・新聞について学ぶ。その後、全国に展開する新聞社の記事を読み比べ、設問に解答しながら分析する。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０

第10回	事柄の伝達と意思の伝達（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・インタビュー取材の字起こしを材料に、記事作成（４００字程度）を行う。段階的な文章作成を経験し、授業終了後に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０
第11回	レポートの作成（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・レポートの作成法を学び、トレーニング問題（４００字程度）を行う。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	３０ ３０
第12回	レポートの作成（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・長めの文章を読み、要約文（４００字程度）を作成する。授業終了後、提出する。	
	【復習】授業時に読んだ長めの文章を読み返し、次回、授業時の返却、講評に備える。 授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０
第13回	レポートの作成（三） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・授業を振り返りながら、授業感想文（４００字程度）を作成する。作成後、提出する。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０ ３０
第14回	敬語表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語を使うためのトレーニング問題を行う。授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】敬語に関する宿題を行い、その報告として電子メールを作成、提出する。	３０ ６０
第15回	まとめ ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙総合テストの実施。 ・語彙総合テストの答え合わせならびに解説。 ・授業全体を通じての質疑応答。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修し試験に備える。 【復習】授業全体を振り返り、期末試験に備える。	６０ ６０

授業の方法

・授業は、文章作成の実践と、受講者相互の確認・批評とを二本の柱として進めていく。前者に関しては、授業終了時に提出→教員が添削→次週返却、という流れになる。後者は演習方式で行い、作成された文章をよりよくするための受講者同士の意見交換の場とする予定である。
・文章作成を行わない授業の際は、課題に関連する語彙について知識と理解を深めるための小テストと、文章作成を円滑にしていくためのトレーニングを行う。
・小テストの範囲は授業時に予告するが、基本的に半期の授業期間中でテキストすべてを学修する。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合、授業の順番を入れ替える場合がある。

成績評価の方法

１１回以上の出席を前提とする（特に初回授業の出席を重視する）。その上で、毎回の授業時の課題（提出状況ならびに取り組む姿勢）に対する評価の積み重ね（６０%程度）と期末試験（４０%程度）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①学生として必要とされる文章作成力を修得できたか。
②社会人として必要とされる文書作成力を修得できたか。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得できたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

２０１３年度以前入学生の皆さんへ
「実践日本語表現」では主に「書く力」を養う。ただし〈１５〉〈１６〉〈１７〉の各クラスは「話す力」を養うことを目的としている。また、基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という人には、「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」をお勧めしたい。各授業のシラバスを参考にしてほしい。

テキスト

『日本語チェック２０００辞典』樺島忠夫・植垣節也・内田満・佐竹秀雄、京都書房　ISBN978-4-7637-0600-3-C0581　　1000円（税抜き）

参考書

参考書は授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

各回の授業終了後に相談に応じる。オフィスアワーは、初回授業の「ガイダンス」で知らせるが、学内専用ホームページでも確認できる。

科目名	実践日本語表現 ＜5＞		
教員名	稲生　知子		
科目ナンバー	1201431030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

実際に伝わる文章にはインプットとアウトプットが必要である。多くの情報が入手可能な現在、伝えたい情報を信頼できるソースからインプットすること、効果的にアウトプットすることが重要となる。その方法について、実習を通して学ぶ。

到達目標

本講義では、文章表現の基礎を確認した上で、「伝わる表現」の条件を個々の作業を通して学ぶ。最終的にはまとまった論文を作成することを目標とする。詳細は以下の事項である。
（１）伝える媒体、伝えたい相手を想定する文章作りを知る。
（２）伝わりやすい構成（論証の方法）、表現を学び、自己点検できるように練習する。
（３）公的な文書の作成方法を学ぶ。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション ・授業の全体像、進め方、最終レポートなどについて説明する。 ・書き言葉と話し言葉の違いについて、添削を通して知る。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準、最終レポートなどについて確認する。	３０ ３０
第2回	わかりやすく表現する ・ダメ文章について添削し、わかりやすい表現、構造について考える。 ・グループスタディによって、わかりやすい表現の条件をまとめる。	
	【予習】これまで学んできた「よい文章」の条件を箇条書きにする。 【復習】講義を踏まえて新聞記事などの文章を通読してみる。	３０ ３０
第3回	説得できる情報を集める ・大学（社会）において有効な情報の質を学ぶ。 ・情報収集の概要を学ぶ。	
	【予習】新聞記事などの文章を通読し、どのような情報に基づいたものが説得的かを考える。 【復習】自分の興味ある情報を図書館などで検索し、目を通しておく。	３０ ３０

第4回	情報を分析する ・他者の論を読み、クリティカルシンキングによって、評価する。 ・実習を行い、提出する。	
	【予習】情報収集の方法について、自分の方法を箇条書きにしてみる。 【復習】新聞記事などで、要約する練習に取り組む。	３０ ３０
第5回	実際に情報収集する ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・資料検索の種類を知り、資料検索を実際に行う。	
	【予習】興味ある社会問題について、疑問をまとめておく。 【復習】授業を踏まえて、改めて最終レポートについての資料を検索する。	３０ ３０
第6回	感覚を伝える1 ・資料収集に関する確認テストを行う。 ・感覚表現の構造を説明し、感覚表現にも情報が不可欠であることを知る。 ・構成（アウトライン）の基本を学び、文章化のための準備をする。	
	【予習】自分が気に入っている食べ物を１つ考え、その情報をホームページ、広告、ブログなどから得て、持参。 【復習】 講義で作成したアウトラインをもとに400字程度の文章を作成する。	３０ ３０
第7回	感覚を伝える２ ・課題を発表する。（音読） ・聴衆は印象に残った文章を選び、講評する。 ・課題を提出する。	
	【予習】作成した文章を、1分程度で音読できるように練習しておく。 【復習】印象に残るテーマ設定、構成、文章表現の条件を考え、次回の課題の参考にする。	３０ ３０
第8回	行動を伝える ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・他者に行動を促すための表現を学ぶ。 ・道案内を例に実作する。	
	【予習】これまでもらった、イベントの案内例を探し、持参する。 【復習】課題を作成する。	３０ ３０
第9回	レポートを作成する１ ・収集した情報の分析を通して、最終レポートテーマの構想マッピングを行う。 ・具体的な主張（アブストラクト）を仮決定する。	
	【予習】収集した資料を評価し、参考文献として提示できるよう、まとめておく。 【復習】アブストラクトとは何かを確認し、再度、情報を収集、再検討する。	３０ ３０

第10回	レポートを作成する２ ・アブストラクトについての確認テストを行う。 ・最終レポートのアブストラクトに合わせて、アウトラインを作成する。 ・アウトラインをもとに、グループ内で自分の論を説明し、相互に講評する。	
	【予習】口頭で自分の意見を説明できるようにまとめる。 【復習】アウトラインを検討し、修正を加える。	３０ ３０
第11回	レポートを作成する３ ・論文らしい文体、注の示し方を学び、演習によって確認する。 ・アウトラインをもとに文章化する。	
	【予習】修正したアウトラインを通覧し、齟齬がないか検討する。 【復習】第一稿を作成する。	３０ ３０
第12回	意見を発表する１ ・論文の形式、文体について確認テストを行う。 ・発表形式の種類、発表の言葉づかい、資料の作成方法を学ぶ。 ・最終レポートの第一稿をもとにした、発表準備をする。 ・第一稿を提出する。	
	【予習】第一稿を見直し、適宜、手直しをする。 【復習】発表準備を完成させる。	３０ ３０
第13回	意見を発表する２ ・作成したポスターを掲示、発表をする。 ・他の受講生のポスターを評価し、自分で作成するための参考とする。	
	【予習】発表の練習をしておく 【復習】発表内でもらった講評をもとに最終レポートの最終稿を完成させる。	３０ ３０
第14回	公式文書で依頼する ・論文を読んでもらったり、調査を依頼したり、面会を申し込んだりするための公式文書について学ぶ。 ・依頼文書を実作する。	
	【予習】これまでもらった公式文書を例として集める。 【復習】公式文書に必要な要素を確認しておく。	３０ ３０
第15回	総括 ・公式文書に関する確認テストを行う。 ・最終レポートの最終チェックを行い、随時、自己添削をする。 ・最終レポートを提出する。	
	【予習】これまでの授業から学んだことを振り返り、最終レポートを自己点検する。	６０

授業の方法

・実習、グループスタディを通して自己点検をしながら展開し、最終的には論文を作成することを目標にする。
・学んだ内容については、確認テストかレポートで内容の理解を促す。
・言葉の知識については、テキストを使用し、偶数回の授業中に小テストを行う。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合、授業の順番を入れ替える場合がある。

成績評価の方法

成績評価は１１回以上の出席をもって行う。
授業内課題・小テスト,、確認テスト40%、最終レポート60%の割合で評価する予定である。そのほか、詳細については、初回授業において指示する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
（１）講義内容を踏まえて、文章を作成することができたか。
（２）公的な文章を正しく理解し、自分の論を作成することができたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

２０１３年度以前入学生の皆さんへ
「実践日本語表現」では主に「書く力」を養う。ただし〈１５〉〈１６〉〈１７〉の各クラスは「話す力」を養うことを目的としている。また、基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という人には、「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」をお勧めしたい。各授業のシラバスを参考にしてほしい。

テキスト

樺島忠夫・植垣節也・内田満・佐竹秀雄『日本語チェック２０００辞典』京都書房1993、1000円（税抜） ISBN978-4-7637-0600-3-C0581

参考書

国語辞典（特に指定はしないが、高校レベルの学習に耐えるものを準備すること。電子辞書可。）そのほか、参考書は授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

各回の授業終了後に相談に応じる。随時、電子メールで受け付ける。

科目名	実践日本語表現 ＜6＞		
教員名	田口　麻奈		
科目ナンバー	1201431030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

文章による自己表現や意見表明、コミュニケーションなどを適切に行うための鍛錬を積む。あるテーマに関して自分の意見を正確に述べたり、相手に意図した通りの情報を伝えたりするためには、伝達の精度を上げるための語彙を多く獲得し、一般性の高い表現の型を学ぶ必要がある。社会的に共有された型や表現に沿って書くことは、自分の思考や感情を図式化することではなく、むしろ自分自身の考えていることをよりクリアにしたり、複雑な情緒を他人と共有したりするために不可欠な手続きである。この授業では、そういった一般的な文章作法を学び、社会生活に資する文章力の向上をはかる。

到達目標

①自己紹介や手紙、メールなど、社会的なコミュニケーションの場面において、それぞれにふさわしい文書スタイルや情報提示の作法を身につける。
②論文や作文など、自分の主張や思考を表現し伝達することを目指す文章における基礎的な型を身につける。
③上記の目標に不可欠な語彙を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第１回　イントロダクション、自己紹介 シラバスの内容に沿って授業の構成を確認し、受講に際しての注意事項などを説明する。 初回の時点での文章力を確認するため、受講者には、授業時に指示するテーマに従って自己紹介文を提出して貰う。	
	【予習】シラバスをよく読み、授業の概要と目的を把握しておく。 【復習】特になし	各３０分～６０分
第2回	第２回　論理的に読む・書く（１） ・評論の型を学習し、用意された課題文の構成を理解した上、要約する。 ・前回の答案に対する講評を行い、前回の課題設定（自己紹介）におけるポイントを確認する。 ・語彙テストを実施する。	
	【予習】語彙テストに関して、指定された範囲でテスト勉強を行う。 【復習】返却された答案の問題点を理解し次の実践の機会（自己紹介の機会）に向けて問題意識を養う。	各30分～60分
第3回	第３回　論理的に読む・書く（２） ・前回の答案に対する講評を行い、課題文の要点を全員で確認した上で、論理的な反論を試み、文章化する。 ・課題文への反論文を提出する	
	【予習】課題文を再読し、余裕があれば関連するテーマについて予備知識を収集する 【復習】返却された答案の問題点を理解し、授業時の解説をふまえて評論文の論理構成を再考する。	各30分～60分

第4回	第４回　敬語表現 ・基本動詞を敬語に直せるよう問題演習を行い、誤りやすい敬語などを確認する。敬語表現に関するワークシートを作成する。 ・前回の答案に対する講評を行い、評論文の主張内容だけでなく論理構成を理解する。 ・語彙テストを実施する。	
	【予習】尊敬・謙譲・丁寧語の区分など基礎に不安がある場合は、各自、国語便覧など手持ちの参考書で予習する。語彙テストに関して、指定された範囲でテスト勉強をする。 【復習】返却された答案と授業時の解説をふまえて、意見を述べる際の論理的手続きに関して理解を深める。	各30分～60分
第5回	第５回　書簡・メールのスタイル（１）　御礼のメールを書く ・前回の課題に関する講評を行い、敬語表現の基礎を全員で確認した上で、目上の人物を宛先として想定したメール文を作成する。	
	【予習】前回の問題演習を踏まえ、敬語表現に関して苦手な部分を認識し、実践に備える。 【復習】返却された答案と授業時の解説をふまえ､誤って認識していた敬語を重点的に見直す。	各30分～60分
第6回	第６回　書簡・メールのスタイル（２）依頼の手紙を書く ・書簡の正式な約束事に従って、面識のない人物をイベントに招待するための依頼の手紙を作成する。 ・前回の課題に対する講評を行い、メール特有のマナーや書き方の決まりを理解する。 ・語彙テストを実施する。	
	【予習】この課題では、学園祭の運営スタッフの立場でイベントを企画して貰う。招待したい相手の情報やイベント内容の構想を、ある程度用意しておくことが望ましい。語彙テストに関して、指定された範囲でテスト勉強をする。 【復習】返却された答案と授業時の解説をふまえ、自身のメールに関する書き方の作法や敬語表現を見直す。	各30分～60分
第7回	第７回　表現を選択する（１） ・言語表現における差別語・不快語の問題について学習し、時と場所、その言葉が届く範囲を念頭に置いて表現を選択する必要性を学ぶ。現代社会で問題視されることの多い語群についてワークシートを提出する。 ・前回の課題に対する講評を行い、正式な書簡を書く際の注意点や、依頼を成功させるための各自の工夫を確認する。	
	【予習】新聞や雑誌、テレビなど、公的な場では使われない言葉や使いにくい言葉について、その理由とともに考えてくる。 【復習】返却された答案と授業時の解説をふまえ、面識のない人に書面で挨拶する際の心遣いや、他の受講者の表現の工夫を学び、自身の交渉力を養うヒントとする。	各30分～60分
第8回	第８回　表現を選択する（２） ・前回の課題をふまえ、関連するテーマに沿って情報を収集し意見を陳述する。 ・前回の課題に対する講評を行い、言葉遣いや表現そのものに対する配慮の必要性を学ぶ。 ・語彙テストを実施する。	
	【予習】身のまわりで使われている言葉のうち、問題があると思われる表現に関して考える。（授業内で作成する課題文に反映させる。） 【復習】返却された答案と授業時の解説、他の受講者の問題意識をふまえて、表現に内在する差別性や価値観に対して意識的になる。	各30～60分
第9回	第９回　情報の分析と言語化（１） ・ある事象に関する複数のデータを見比べ、そのデータが意味するところについて文章にまとめる訓練をする。 データの読み取り方について全員で意見を出し合った上で、ポイントをまとめて提出する。 ・前回の課題に対する講評を行い、ひとつの表現が様々な受け取られ方をする可能性について考えを深める、	
	【予習】特になし 【復習】課題で取組んだデータに関して、自分が疑問に思った点を明らかにするためにはさらにどんなデータが必要かを考え、出来る範囲で情報を収集する。	各30分～60分

第10回	第１０回　情報の分析と言語化（２） ・前回の課題をふまえ、各自が収集してきた資料を加えて、あらためて当該のデータ・資料をめぐる各自の見解を文章化する。 ・前回の課題に対する講評を行い、データの解釈と有効な利用の仕方について学ぶ。 ・語彙テストを実施する。	
	【予習】前回の課題をふまえて、関連するデータや資料を収集し、当該のテーマについて考えるための新たな視点を用意する。語彙テストに関して、指定された範囲でテスト勉強を行う。 【復習】身のまわりの報道や記事に組み込まれたデータを分析的に眺めてみる。	各30分～60分
第11回	第１１回　意見を交換する（１）　テーマを選ぶ ・指定したいくつかのトピックごとにグループワークを行い、論点を整理する。 ・前回の課題に対する講評を行い、意見を主張する際や状況を把握する際、データがどのように活用され、どの程度の有効性を持つのかについて認識を深める。	
	【予習】特になし。 【復習】各自が取り組むテーマごとに、自分なりに情報を収集する。返却された答案と授業時の解説をふまえ、統計やデータの扱い方に意識的になる。	各30分～60分
第12回	第１２回　意見を交換する（２）自分の意見を構築する ・前回でまとめた論点と各自が収集した情報をもとにして、各テーマに関する自分の意見を論述する。 ・前回の課題に対する講評を行い、さらに付け加えるべき点がないかどうかを話し合って共有する。 ・語彙テストを実施する。	
	【予習】前回のグループワークをふまえて、参考にするための情報を集めておく。語彙テストに関して、指定された範囲でテスト勉強を行う。 【復習】返却された答案と授業時の解説をふまえて、自分の意見をさらに固める。	各30分～60分
第13回	第１３回　意見を交換する（３）　批評・反論を試みる ・前回の課題をふまえ、他の受講者と意見文を交換して、互いに批評・反論を試みる。 ・前回の課題に対する講評を行い、問題点や論点を共有する。	
	【予習】特になし 【復習】前３回の課題を通して、意見を確立させていくためのプロセスや批評・反論の手続きについて振り返る。	各30分～60分
第14回	第１４回　時事問題を論じる（まとめ） ・直近の時事問題をテーマに、1200字程度の論述文を作成する。主題と構成、利用するデータなどの構想を、授業時に指示する書式に従ってまとめる。 ・語彙・敬語・書簡の形式に関して到達度確認テストを実施する。	
	【予習】直近の時事問題の中から興味のあるものを選び、必要な関連資料を収集する。語彙に関して、最終的な到達度確認テストを行うため、指定された範囲でテスト勉強を行う。なお、敬語や書簡の形式についてもあらためて目を通しておく。 【復習】返却された答案と授業時の解説をふまえて、3週間かけて構築した意見とそれに対する他の受講者の批評を検討し、自分の意見論述を見直すヒントとする。	各60分～90分
第15回	第１５回　時事問題を論じる（まとめ） ・前回提出した構想をもとに、1200字程度の論述文を作成・提出する。誤字脱字など表記上の問題や論理構成、データ活用などについては、この提出物によってそれまでの課題の成果を測り、到達度確認テストに代える。	
	【予習】それまでの課題で指摘されてきた点や返却された答案を再読し、記述の癖や問題点などの修正を図る。	60分～９０分

授業の方法

毎時、設定されたテーマについて文章作成を行う。最初に注意点や問題点を示し練習を行ったり、受講者への発問と返答を通してポイントを整理したりするので、それをふまえて課題を作成・提出すること。提出課題は添削の後、受講者に返却する。また、提出された課題をもとに、受講者同士の相互批評の場を定期的に設けることとする。
　なお、指定のテキストに従って語彙力アップのための確認テストを隔週で行う。実施日、範囲は初回授業時に決定する。

成績評価の方法

全１５回の授業のうち１１回以上の出席（欠席日数が全授業数の３分の１未満であること）を前提とし、
出席点・平常点（提出物や語彙テストの点数、授業中の発言、授業態度など）６０パーセント、
到達度確認テスト４０パーセントで評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

2013年度以前入学の皆さんへの連絡
「実践日本語表現」では主に「書く力」を養う。ただし〈８〉〈１６〉〈１７〉の各クラスは「話す力」を養うことを目的とする。また、基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という学生には、２年生以上を対象にした「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」を勧める。各授業のシラバスを参考にされたい。

テキスト

樺島忠夫・植垣節也・内田満・佐竹秀雄『日本語チェック2000辞典』（京都書房、1993年）【小テストの予習・復習教材として使用】

参考書

授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	実践日本語表現 ＜7＞		
教員名	松野　彩		
科目ナンバー	1201431030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

大学生活・社会生活において必要な日本語の形式・語彙を学習し、受講生自身が文章作成を実践することによって、文章を的確に書く技術を身につける。

到達目標

1. 手紙・レジュメ・レポート・論文の書き方などを学習し、大学生活・社会生活において必要な文章形式を習得することを目標とする。
2. 文章の要点整理方法を学び、文章要約技術の向上をめざす。
3. 履歴書や作文・小論文の書き方を学習し、就職活動を行うために必要な知識・文章作成方法を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 手紙の書き方（１） ・封筒・葉書の宛名の書き方を解説する。受講者は練習問題を解き、授業終了時に提出する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	手紙の書き方（２） ・語彙確認テストを実施する。 ・初回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・縦書きの文書の書き方について解説する。受講者は礼状・招待状を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】指定されたテキストを入手し、テスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題（封筒・葉書の宛名の書き方）について復習する。	３０ ３０
第3回	手紙の書き方（３） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・横書きの文書の書き方について解説する。受講者は送付状・メールの文書を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題（縦書きの文書の書き方）について復習する。	３０ ３０

第4回	レジュメ・レポート・論文の作成方法（１） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・わかりやすい文章を書くための文章構成について解説する。 ・書き言葉と話し言葉の違いについて解説する。受講者は練習問題を解き、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題（横書きの文書の書き方）について復習する。	３０ ３０
第5回	レジュメ・レポート・論文の作成方法（２） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・レポート・論文に使用する書き言葉について解説する。受講者は練習問題を解き、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題（書き言葉と話し言葉の違い）について復習する。	３０ ３０
第6回	レジュメ・レポート・論文の作成方法（３） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・参考文献一覧の書き方や注のつけ方について解説する。受講者は練習問題を解き、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題（レポート・論文に使用する書き言葉）について復習する。	３０ ３０
第7回	要点整理の方法 ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・箇条書きで文書を整理する方法を解説する。受講者は練習問題を解き、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題（参考文献一覧の書き方や注のつけ方）について復習する。	３０ ３０
第8回	文章の要約（１） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・文章の要約方法を解説する。受講者は新聞記事（テーマ：環境問題）を250～400字に要約する作業を行い、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題（箇条書きで文書を整理する方法）について復習する。	３０ ３０
第9回	文章の要約（２） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・前回の課題の講評をもとに、受講者は新聞記事（テーマ：国際問題）を250～400字に要約する作業を行い、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題を見て、自分の文体の特徴を把握し、わかりやすい文章を書くために自分に必要なことは何かを認識する。	３０ ３０

第10回	文章の要約（３） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・前回の課題の講評をもとに、受講者は新聞記事（テーマ：生活・文化）を250～400字に要約する作業を行い、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題を見て、自分の文体の特徴を把握し、わかりやすい文章を書くために自分に必要なことは何かを認識する。	３０ ３０
第11回	就職試験対策（１） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・履歴書と自己分析ワークシートの書き方について解説する。受講者は自身の履歴書・ワークシートを作成する。上記の文書は個人情報にかかわるものであるため、教員は回収せず、授業時間内に点検・添削する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題を見て、自分の文体の特徴を把握し、わかりやすい文章を書くために自分に必要なことは何かを認識する。	３０ ３０
第12回	就職試験対策（２） ・語彙確認テストを実施する。 ・作文の書き方について解説する。受講者は「自己ＰＲ」をテーマに400字の作文を作成して教員の点検を受ける。400字の作文が完成した受講生は、800字の作文を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 作文の構想を考える。 【復習】作文の基本的な書き方について復習する。	６０ ３０
第13回	就職試験対策（３） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・作文の書き方について解説する。受講者は「異文化交流」をテーマに400字の作文を作成して教員の点検を受ける。400字の作文が完成した受講生は、800字の作文を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 作文の構想を考える。 【復習】返却された課題を見て、自分の文体の特徴を把握し、わかりやすい文章を書くために自分に必要なことは何かを認識する。	６０ ３０
第14回	就職試験対策（４） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・小論文の書き方について解説する。受講者は400字の小論文を作成して教員の点検を受ける。400字の小論文が完成した受講生は、800字の小論文を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題を見て、自分の文体の特徴を把握し、わかりやすい文章を書くために自分に必要なことは何かを認識する。	３０ ３０
第15回	まとめ ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・到達度確認テストを実施する。	
	【予習】これまでの授業で学習したことを復習し、到達度確認テストに備える。	１２０

授業の方法

1. 授業は、各回のテーマとなっている文書の書き方を教員が解説した後、受講生が文書作成を実践する形で行う。
2. 語彙について知識と理解を深めるために、各回の授業開始時に小テスト（語彙確認テスト）を行う。小テストはテキストから出題する。各回のテスト範囲は第１回の授業で発表する。
※授業の進捗状況によっては、内容を一部変更することがある。

成績評価の方法

評価配分は、到達度確認テスト（５０%）、提出物・授業態度（４０%）、小テスト（１０%）とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「実践日本語表現」では主に「書く力」を養う。ただし〈８〉〈１６〉〈１７〉の各クラスは「話す力」を養うことを目的とする。また、基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という学生には、２年生以上を対象にした「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」を勧める。各授業のシラバスを参考にされたい。

テキスト

樺島忠夫・植垣節也・内田満・佐竹秀雄『日本語チェック２０００辞典』（京都書房）を小テスト（語彙確認）の予習・復習用教材として使用する。

参考書

授業時に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	実践日本語表現 ＜8＞		
教員名	土居　奈生子		
科目ナンバー	1001031030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

様々な場面や目的に応じた文章を作成し、受講者同士で確認・批評しあう。出来上がった文章は担当教員が添削する。こうした実践を通して、多様な文章を的確に書けるようになること、そのために必要な語彙力を身につけること、を目指す。

到達目標

①学生として必要とされる文章作成力を身につけ、レポートや卒業論文の作成に応用できる。
②社会人として必要とされる文書作成力を身につけ、学内、学外に関わらず適切な文書をもってコミュニケーションの一助となせる。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習や復習の仕方等を説明する。 ・書き言葉による伝達の難しさを再認識するため、マニュアル文書を作成、授業終了時に提出する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	自己紹介（一） ・初回授業で提出された文書を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・紹介にふさわしい表現について考える。受講者全員、１分間スピーチによる自己紹介を行う。	
	【予習】指定されたテキストを入手し、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時の互いの自己紹介を振り返り、印象深い自己紹介について考える。	６０ ３０
第3回	自己紹介（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・身近にある自己証明書の類を示し、履歴書と比較することで、それぞれの特徴や用いる場面を考える。 ・解説に合わせて履歴書を作成する。受講者同士によるチェックを経て、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ履歴書作成法を振り返る。学外活動において履歴書提出を求められる場合の一助とする。	３０ ３０

第4回	書簡表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・手紙の諸形式と書き方を学ぶ。 ・履歴書を郵送するため、添え状の作成と封筒宛名書きを行う。受講者同士のチェックを経て、授業終了時に提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業時に学んだ手紙の作成法を振り返る。学外活動において手紙を書いて郵送する場合の一助とする。	３０ ３０
第5回	書簡表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・電子メールの形式と書き方を学ぶ。 ・メール文書を作成し、受講者同士、交換する。互いの文書チェックの後、返信文書の作成。互いの文書を返却し、修正、確認の後、提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業を振り返り、担当教員宛に電子メールを作成、宿題として送信（提出）する。	３０ ３０
第6回	敬語表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語定着のためのトレーニング問題を行う。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に取り上げられた敬語を中心に、次回の敬語表現（二）までの期間を使い、敬語を覚える。	３０ ３０
第7回	イベントの準備（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・事業とは何か、それに伴う文書作成の重要性、企画書について学ぶ。その後、企画書を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ企画書作成法を振り返る。学外活動において企画書ならびに提案書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第8回	イベントの準備（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・企画書にあるアイディアの実現・成功のための告知の重要性を学び、告知書あるいは案内書を作成する。 ・告知書を黒板に貼りだし、受講者同士で投票、批評する。後に票数を記録し、提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ告知書作成法を振り返る。学内や学外活動において告知書ならびに案内書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第9回	事柄の伝達と意思の伝達（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・新聞について学ぶ。その後、全国に展開する新聞社の記事を読み比べ、設問に解答しながら分析する。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０

第10回	事柄の伝達と意思の伝達（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・インタビュー取材の字起こしを材料に、記事作成（４００字程度）を行う。段階的な文章作成を経験し、授業終了後に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０
第11回	レポートの作成（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・レポートの作成法を学び、トレーニング問題（４００字程度）を行う。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	３０ ３０
第12回	レポートの作成（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・長めの文章を読み、要約文（４００字程度）を作成する。授業終了後、提出する。	
	【復習】授業時に読んだ長めの文章を読み返し、次回、授業時の返却、講評に備える。 授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０
第13回	レポートの作成（三） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・授業を振り返りながら、授業感想文（４００字程度）を作成する。作成後、提出する。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０ ３０
第14回	敬語表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語を使うためのトレーニング問題を行う。授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】敬語に関する宿題を行い、その報告として電子メールを作成、提出する。	３０ ６０
第15回	まとめ ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙総合テストの実施。 ・語彙総合テストの答え合わせならびに解説。 ・授業全体を通じての質疑応答。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修し試験に備える。 【復習】授業全体を振り返り、期末試験に備える。	６０ ６０

授業の方法

・授業は、文章作成の実践と、受講者相互の確認・批評とを二本の柱として進めていく。前者に関しては、授業終了時に提出→教員が添削→次週返却、という流れになる。後者は演習方式で行い、作成された文章をよりよくするための受講者同士の意見交換の場とする予定である。
・文章作成を行わない授業の際は、課題に関連する語彙について知識と理解を深めるための小テストと、文章作成を円滑にしていくためのトレーニングを行う。
・小テストの範囲は授業時に予告するが、基本的に半期の授業期間中でテキストすべてを学修する。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合、授業の順番を入れ替える場合がある。

成績評価の方法

１１回以上の出席を前提とする（特に初回授業の出席を重視する）。その上で、毎回の授業時の課題（提出状況ならびに取り組む姿勢）に対する評価の積み重ね（６０%程度）と期末試験（４０%程度）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①学生として必要とされる文章作成力を修得できたか。
②社会人として必要とされる文書作成力を修得できたか。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得できたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

２０１３年度以前入学生の皆さんへ
「実践日本語表現」では主に「書く力」を養う。ただし〈１５〉〈１６〉〈１７〉の各クラスは「話す力」を養うことを目的としている。また、基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という人には、「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」をお勧めしたい。各授業のシラバスを参考にしてほしい。

テキスト

『日本語チェック２０００辞典』樺島忠夫・植垣節也・内田満・佐竹秀雄、京都書房　ISBN978-4-7637-0600-3-C0581　　1000円（税抜き）

参考書

参考書は授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

各回の授業終了後に相談に応じる。オフィスアワーは、初回授業の「ガイダンス」で知らせるが、学内専用ホームページでも確認できる。

科目名	実践日本語表現 ＜9＞		
教員名	土居　奈生子		
科目ナンバー	1001031030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

様々な場面や目的に応じた文章を作成し、受講者同士で確認・批評しあう。出来上がった文章は担当教員が添削する。こうした実践を通して、多様な文章を的確に書けるようになること、そのために必要な語彙力を身につけること、を目指す。

到達目標

①学生として必要とされる文章作成力を身につけ、レポートや卒業論文の作成に応用できる。
②社会人として必要とされる文書作成力を身につけ、学内、学外に関わらず適切な文書をもってコミュニケーションの一助となせる。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習や復習の仕方等を説明する。 ・書き言葉による伝達の難しさを再認識するため、マニュアル文書を作成、授業終了時に提出する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	自己紹介（一） ・初回授業で提出された文書を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・紹介にふさわしい表現について考える。受講者全員、１分間スピーチによる自己紹介を行う。	
	【予習】指定されたテキストを入手し、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時の互いの自己紹介を振り返り、印象深い自己紹介について考える。	６０ ３０
第3回	自己紹介（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・身近にある自己証明書の類を示し、履歴書と比較することで、それぞれの特徴や用いる場面を考える。 ・解説に合わせて履歴書を作成する。受講者同士によるチェックを経て、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ履歴書作成法を振り返る。学外活動において履歴書提出を求められる場合の一助とする。	３０ ３０

第4回	書簡表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・手紙の諸形式と書き方を学ぶ。 ・履歴書を郵送するため、添え状の作成と封筒宛名書きを行う。受講者同士のチェックを経て、授業終了時に提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業時に学んだ手紙の作成法を振り返る。学外活動において手紙を書いて郵送する場合の一助とする。	３０ ３０
第5回	書簡表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・電子メールの形式と書き方を学ぶ。 ・メール文書を作成し、受講者同士、交換する。互いの文書チェックの後、返信文書の作成。互いの文書を返却し、修正、確認の後、提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業を振り返り、担当教員宛に電子メールを作成、宿題として送信（提出）する。	３０ ３０
第6回	敬語表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語定着のためのトレーニング問題を行う。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に取り上げられた敬語を中心に、次回の敬語表現（二）までの期間を使い、敬語を覚える。	３０ ３０
第7回	イベントの準備（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・事業とは何か、それに伴う文書作成の重要性、企画書について学ぶ。その後、企画書を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ企画書作成法を振り返る。学外活動において企画書ならびに提案書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第8回	イベントの準備（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・企画書にあるアイディアの実現・成功のための告知の重要性を学び、告知書あるいは案内書を作成する。 ・告知書を黒板に貼りだし、受講者同士で投票、批評する。後に票数を記録し、提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ告知書作成法を振り返る。学内や学外活動において告知書ならびに案内書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第9回	事柄の伝達と意思の伝達（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・新聞について学ぶ。その後、全国に展開する新聞社の記事を読み比べ、設問に解答しながら分析する。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０

第10回	事柄の伝達と意思の伝達（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・インタビュー取材の字起こしを材料に、記事作成（４００字程度）を行う。段階的な文章作成を経験し、授業終了後に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０
第11回	レポートの作成（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・レポートの作成法を学び、トレーニング問題（４００字程度）を行う。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	３０ ３０
第12回	レポートの作成（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・長めの文章を読み、要約文（４００字程度）を作成する。授業終了後、提出する。	
	【復習】授業時に読んだ長めの文章を読み返し、次回、授業時の返却、講評に備える。 授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０
第13回	レポートの作成（三） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・授業を振り返りながら、授業感想文（４００字程度）を作成する。作成後、提出する。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０ ３０
第14回	敬語表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語を使うためのトレーニング問題を行う。授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】敬語に関する宿題を行い、その報告として電子メールを作成、提出する。	３０ ６０
第15回	まとめ ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙総合テストの実施。 ・語彙総合テストの答え合わせならびに解説。 ・授業全体を通じての質疑応答。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修し試験に備える。 【復習】授業全体を振り返り、期末試験に備える。	６０ ６０

授業の方法

・授業は、文章作成の実践と、受講者相互の確認・批評とを二本の柱として進めていく。前者に関しては、授業終了時に提出→教員が添削→次週返却、という流れになる。後者は演習方式で行い、作成された文章をよりよくするための受講者同士の意見交換の場とする予定である。
・文章作成を行わない授業の際は、課題に関連する語彙について知識と理解を深めるための小テストと、文章作成を円滑にしていくためのトレーニングを行う。
・小テストの範囲は授業時に予告するが、基本的に半期の授業期間中でテキストすべてを学修する。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合、授業の順番を入れ替える場合がある。

成績評価の方法

１１回以上の出席を前提とする（特に初回授業の出席を重視する）。その上で、毎回の授業時の課題（提出状況ならびに取り組む姿勢）に対する評価の積み重ね（６０%程度）と期末試験（４０%程度）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①学生として必要とされる文章作成力を修得できたか。
②社会人として必要とされる文書作成力を修得できたか。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得できたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

２０１３年度以前入学生の皆さんへ
「実践日本語表現」では主に「書く力」を養う。ただし〈１５〉〈１６〉〈１７〉の各クラスは「話す力」を養うことを目的としている。また、基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という人には、「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」をお勧めしたい。各授業のシラバスを参考にしてほしい。

テキスト

『日本語チェック２０００辞典』樺島忠夫・植垣節也・内田満・佐竹秀雄、京都書房　ISBN978-4-7637-0600-3-C0581　　1000円（税抜き）

参考書

参考書は授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

各回の授業終了後に相談に応じる。オフィスアワーは、初回授業の「ガイダンス」で知らせるが、学内専用ホームページでも確認できる。

科目名	実践日本語表現 ＜10＞		
教員名	土居　奈生子		
科目ナンバー	1101031030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

様々な場面や目的に応じた文章を作成し、受講者同士で確認・批評しあう。出来上がった文章は担当教員が添削する。こうした実践を通して、多様な文章を的確に書けるようになること、そのために必要な語彙力を身につけること、を目指す。

到達目標

①学生として必要とされる文章作成力を身につけ、レポートや卒業論文の作成に応用できる。
②社会人として必要とされる文書作成力を身につけ、学内、学外に関わらず適切な文書をもってコミュニケーションの一助となせる。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習や復習の仕方等を説明する。 ・書き言葉による伝達の難しさを再認識するため、マニュアル文書を作成、授業終了時に提出する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	自己紹介（一） ・初回授業で提出された文書を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・紹介にふさわしい表現について考える。受講者全員、１分間スピーチによる自己紹介を行う。	
	【予習】指定されたテキストを入手し、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時の互いの自己紹介を振り返り、印象深い自己紹介について考える。	６０ ３０
第3回	自己紹介（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・身近にある自己証明書の類を示し、履歴書と比較することで、それぞれの特徴や用いる場面を考える。 ・解説に合わせて履歴書を作成する。受講者同士によるチェックを経て、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ履歴書作成法を振り返る。学外活動において履歴書提出を求められる場合の一助とする。	３０ ３０

第4回	書簡表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・手紙の諸形式と書き方を学ぶ。 ・履歴書を郵送するため、添え状の作成と封筒宛名書きを行う。受講者同士のチェックを経て、授業終了時に提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業時に学んだ手紙の作成法を振り返る。学外活動において手紙を書いて郵送する場合の一助とする。	３０ ３０
第5回	書簡表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・電子メールの形式と書き方を学ぶ。 ・メール文書を作成し、受講者同士、交換する。互いの文書チェックの後、返信文書の作成。互いの文書を返却し、修正、確認の後、提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業を振り返り、担当教員宛に電子メールを作成、宿題として送信（提出）する。	３０ ３０
第6回	敬語表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語定着のためのトレーニング問題を行う。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に取り上げられた敬語を中心に、次回の敬語表現（二）までの期間を使い、敬語を覚える。	３０ ３０
第7回	イベントの準備（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・事業とは何か、それに伴う文書作成の重要性、企画書について学ぶ。その後、企画書を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ企画書作成法を振り返る。学外活動において企画書ならびに提案書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第8回	イベントの準備（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・企画書にあるアイディアの実現・成功のための告知の重要性を学び、告知書あるいは案内書を作成する。 ・告知書を黒板に貼りだし、受講者同士で投票、批評する。後に票数を記録し、提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ告知書作成法を振り返る。学内や学外活動において告知書ならびに案内書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第9回	事柄の伝達と意思の伝達（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・新聞について学ぶ。その後、全国に展開する新聞社の記事を読み比べ、設問に解答しながら分析する。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０

第10回	事柄の伝達と意思の伝達（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・インタビュー取材の字起こしを材料に、記事作成（４００字程度）を行う。段階的な文章作成を経験し、授業終了後に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０
第11回	レポートの作成（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・レポートの作成法を学び、トレーニング問題（４００字程度）を行う。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	３０ ３０
第12回	レポートの作成（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・長めの文章を読み、要約文（４００字程度）を作成する。授業終了後、提出する。	
	【復習】授業時に読んだ長めの文章を読み返し、次回、授業時の返却、講評に備える。 授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０
第13回	レポートの作成（三） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・授業を振り返りながら、授業感想文（４００字程度）を作成する。作成後、提出する。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０ ３０
第14回	敬語表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語を使うためのトレーニング問題を行う。授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】敬語に関する宿題を行い、その報告として電子メールを作成、提出する。	３０ ６０
第15回	まとめ ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙総合テストの実施。 ・語彙総合テストの答え合わせならびに解説。 ・授業全体を通じての質疑応答。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修し試験に備える。 【復習】授業全体を振り返り、期末試験に備える。	６０ ６０

授業の方法

・授業は、文章作成の実践と、受講者相互の確認・批評とを二本の柱として進めていく。前者に関しては、授業終了時に提出→教員が添削→次週返却、という流れになる。後者は演習方式で行い、作成された文章をよりよくするための受講者同士の意見交換の場とする予定である。
・文章作成を行わない授業の際は、課題に関連する語彙について知識と理解を深めるための小テストと、文章作成を円滑にしていくためのトレーニングを行う。
・小テストの範囲は授業時に予告するが、基本的に半期の授業期間中でテキストすべてを学修する。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合、授業の順番を入れ替える場合がある。

成績評価の方法

１１回以上の出席を前提とする（特に初回授業の出席を重視する）。その上で、毎回の授業時の課題（提出状況ならびに取り組む姿勢）に対する評価の積み重ね（６０%程度）と期末試験（４０%程度）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①学生として必要とされる文章作成力を修得できたか。
②社会人として必要とされる文書作成力を修得できたか。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得できたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

２０１３年度以前入学生の皆さんへ
「実践日本語表現」では主に「書く力」を養う。ただし〈１５〉〈１６〉〈１７〉の各クラスは「話す力」を養うことを目的としている。また、基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という人には、「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」をお勧めしたい。各授業のシラバスを参考にしてほしい。

テキスト

『日本語チェック２０００辞典』樺島忠夫・植垣節也・内田満・佐竹秀雄、京都書房　ISBN978-4-7637-0600-3-C0581　　1000円（税抜き）

参考書

参考書は授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

各回の授業終了後に相談に応じる。オフィスアワーは、初回授業の「ガイダンス」で知らせるが、学内専用ホームページでも確認できる。

科目名	実践日本語表現 ＜11＞		
教員名	土居　奈生子		
科目ナンバー	1001031030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

様々な場面や目的に応じた文章を作成し、受講者同士で確認・批評しあう。出来上がった文章は担当教員が添削する。こうした実践を通して、多様な文章を的確に書けるようになること、そのために必要な語彙力を身につけること、を目指す。

到達目標

①学生として必要とされる文章作成力を身につけ、レポートや卒業論文の作成に応用できる。
②社会人として必要とされる文書作成力を身につけ、学内、学外に関わらず適切な文書をもってコミュニケーションの一助となせる。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習や復習の仕方等を説明する。 ・書き言葉による伝達の難しさを再認識するため、マニュアル文書を作成、授業終了時に提出する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	自己紹介（一） ・初回授業で提出された文書を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・紹介にふさわしい表現について考える。受講者全員、１分間スピーチによる自己紹介を行う。	
	【予習】指定されたテキストを入手し、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時の互いの自己紹介を振り返り、印象深い自己紹介について考える。	６０ ３０
第3回	自己紹介（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・身近にある自己証明書の類を示し、履歴書と比較することで、それぞれの特徴や用いる場面を考える。 ・解説に合わせて履歴書を作成する。受講者同士によるチェックを経て、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ履歴書作成法を振り返る。学外活動において履歴書提出を求められる場合の一助とする。	３０ ３０

第4回	書簡表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・手紙の諸形式と書き方を学ぶ。 ・履歴書を郵送するため、添え状の作成と封筒宛名書きを行う。受講者同士のチェックを経て、授業終了時に提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業時に学んだ手紙の作成法を振り返る。学外活動において手紙を書いて郵送する場合の一助とする。	３０ ３０
第5回	書簡表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・電子メールの形式と書き方を学ぶ。 ・メール文書を作成し、受講者同士、交換する。互いの文書チェックの後、返信文書の作成。互いの文書を返却し、修正、確認の後、提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】授業を振り返り、担当教員宛に電子メールを作成、宿題として送信（提出）する。	３０ ３０
第6回	敬語表現（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語定着のためのトレーニング問題を行う。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に取り上げられた敬語を中心に、次回の敬語表現（二）までの期間を使い、敬語を覚える。	３０ ３０
第7回	イベントの準備（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・事業とは何か、それに伴う文書作成の重要性、企画書について学ぶ。その後、企画書を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ企画書作成法を振り返る。学外活動において企画書ならびに提案書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第8回	イベントの準備（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・企画書にあるアイディアの実現・成功のための告知の重要性を学び、告知書あるいは案内書を作成する。 ・告知書を黒板に貼りだし、受講者同士で投票、批評する。後に票数を記録し、提出する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだ告知書作成法を振り返る。学内や学外活動において告知書ならびに案内書の作成が必要となる場合の一助とする。	３０ ３０
第9回	事柄の伝達と意思の伝達（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・新聞について学ぶ。その後、全国に展開する新聞社の記事を読み比べ、設問に解答しながら分析する。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０

第10回	事柄の伝達と意思の伝達（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・インタビュー取材の字起こしを材料に、記事作成（４００字程度）を行う。段階的な文章作成を経験し、授業終了後に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】全国紙系新聞、朝刊一紙分を入手し見出しすべてを通読。興味を持った記事について精読する。	３０ ６０
第11回	レポートの作成（一） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙力テストを実施。答え合わせの後、授業終了時に提出する。 ・レポートの作成法を学び、トレーニング問題（４００字程度）を行う。授業終了後、解答用紙を提出する。	
	【予習】テキストを用いて、テスト範囲を中心に学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	３０ ３０
第12回	レポートの作成（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・長めの文章を読み、要約文（４００字程度）を作成する。授業終了後、提出する。	
	【復習】授業時に読んだ長めの文章を読み返し、次回、授業時の返却、講評に備える。 授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０
第13回	レポートの作成（三） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・レポート作成法を復習する。 ・授業を振り返りながら、授業感想文（４００字程度）を作成する。作成後、提出する。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修する。 【復習】授業時に学んだレポート作成法を振り返る。同時期および以降、他の受講授業において期末レポートが課される場合の一助とする。	６０ ３０
第14回	敬語表現（二） ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・敬語について学ぶ。敬語を使うためのトレーニング問題を行う。授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学修する。 【復習】敬語に関する宿題を行い、その報告として電子メールを作成、提出する。	３０ ６０
第15回	まとめ ・前回授業での提出物を返却し、講評する。 ・語彙総合テストの実施。 ・語彙総合テストの答え合わせならびに解説。 ・授業全体を通じての質疑応答。	
	【予習】テキストの語彙についてすべて学修し試験に備える。 【復習】授業全体を振り返り、期末試験に備える。	６０ ６０

授業の方法

・授業は、文章作成の実践と、受講者相互の確認・批評とを二本の柱として進めていく。前者に関しては、授業終了時に提出→教員が添削→次週返却、という流れになる。後者は演習方式で行い、作成された文章をよりよくするための受講者同士の意見交換の場とする予定である。
・文章作成を行わない授業の際は、課題に関連する語彙について知識と理解を深めるための小テストと、文章作成を円滑にしていくためのトレーニングを行う。
・小テストの範囲は授業時に予告するが、基本的に半期の授業期間中でテキストすべてを学修する。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合、授業の順番を入れ替える場合がある。

成績評価の方法

１１回以上の出席を前提とする（特に初回授業の出席を重視する）。その上で、毎回の授業時の課題（提出状況ならびに取り組む姿勢）に対する評価の積み重ね（６０%程度）と期末試験（４０%程度）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①学生として必要とされる文章作成力を修得できたか。
②社会人として必要とされる文書作成力を修得できたか。
③①や②において必要とされる、十分な語彙を修得できたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

２０１３年度以前入学生の皆さんへ
「実践日本語表現」では主に「書く力」を養う。ただし〈１５〉〈１６〉〈１７〉の各クラスは「話す力」を養うことを目的としている。また、基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という人には、「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」をお勧めしたい。各授業のシラバスを参考にしてほしい。

テキスト

『日本語チェック２０００辞典』樺島忠夫・植垣節也・内田満・佐竹秀雄、京都書房　ISBN978-4-7637-0600-3-C0581　　1000円（税抜き）

参考書

参考書は授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

各回の授業終了後に相談に応じる。オフィスアワーは、初回授業の「ガイダンス」で知らせるが、学内専用ホームページでも確認できる。

科目名	実践日本語表現 ＜12＞		
教員名	田口　麻奈		
科目ナンバー	1001031030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

文章による自己表現や意見表明、コミュニケーションなどを適切に行うための鍛錬を積む。あるテーマに関して自分の意見を正確に述べたり、相手に意図した通りの情報を伝えたりするためには、伝達の精度を上げるための語彙を多く獲得し、一般性の高い表現の型を学ぶ必要がある。社会的に共有された型や表現に沿って書くことは、自分の思考や感情を図式化することではなく、むしろ自分自身の考えていることをよりクリアにしたり、複雑な情緒を他人と共有したりするために不可欠な手続きである。この授業では、そういった一般的な文章作法を学び、社会生活に資する文章力の向上をはかる。

到達目標

①自己紹介や手紙、メールなど、社会的なコミュニケーションの場面において、それぞれにふさわしい文書スタイルや情報提示の作法を身につける。
②論文や作文など、自分の主張や思考を表現し伝達することを目指す文章における基礎的な型を身につける。
③上記の目標に不可欠な語彙を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第１回　イントロダクション、自己紹介 シラバスの内容に沿って授業の構成を確認し、受講に際しての注意事項などを説明する。 初回の時点での文章力を確認するため、受講者には、授業時に指示するテーマに従って自己紹介文を提出して貰う。	
	【予習】シラバスをよく読み、授業の概要と目的を把握しておく。 【復習】特になし	各３０分～６０分
第2回	第２回　論理的に読む・書く（１） ・評論の型を学習し、用意された課題文の構成を理解した上、要約する。 ・前回の答案に対する講評を行い、前回の課題設定（自己紹介）におけるポイントを確認する。 ・語彙テストを実施する。	
	【予習】語彙テストに関して、指定された範囲でテスト勉強を行う。 【復習】返却された答案の問題点を理解し次の実践の機会（自己紹介の機会）に向けて問題意識を養う。	各30分～60分
第3回	第３回　論理的に読む・書く（２） ・前回の答案に対する講評を行い、課題文の要点を全員で確認した上で、論理的な反論を試み、文章化する。 ・課題文への反論文を提出する	
	【予習】課題文を再読し、余裕があれば関連するテーマについて予備知識を収集する 【復習】返却された答案の問題点を理解し、授業時の解説をふまえて評論文の論理構成を再考する。	各30分～60分

第4回	第４回　敬語表現 ・基本動詞を敬語に直せるよう問題演習を行い、誤りやすい敬語などを確認する。敬語表現に関するワークシートを作成する。 ・前回の答案に対する講評を行い、評論文の主張内容だけでなく論理構成を理解する。 ・語彙テストを実施する。	
	【予習】尊敬・謙譲・丁寧語の区分など基礎に不安がある場合は、各自、国語便覧など手持ちの参考書で予習する。語彙テストに関して、指定された範囲でテスト勉強をする。 【復習】返却された答案と授業時の解説をふまえて、意見を述べる際の論理的手続きに関して理解を深める。	各30分～60分
第5回	第５回　書簡・メールのスタイル（１）　御礼のメールを書く ・前回の課題に関する講評を行い、敬語表現の基礎を全員で確認した上で、目上の人物を宛先として想定したメール文を作成する。	
	【予習】前回の問題演習を踏まえ、敬語表現に関して苦手な部分を認識し、実践に備える。 【復習】返却された答案と授業時の解説をふまえ､誤って認識していた敬語を重点的に見直す。	各30分～60分
第6回	第６回　書簡・メールのスタイル（２）依頼の手紙を書く ・書簡の正式な約束事に従って、面識のない人物をイベントに招待するための依頼の手紙を作成する。 ・前回の課題に対する講評を行い、メール特有のマナーや書き方の決まりを理解する。 ・語彙テストを実施する。	
	【予習】この課題では、学園祭の運営スタッフの立場でイベントを企画して貰う。招待したい相手の情報やイベント内容の構想を、ある程度用意しておくことが望ましい。語彙テストに関して、指定された範囲でテスト勉強をする。 【復習】返却された答案と授業時の解説をふまえ、自身のメールに関する書き方の作法や敬語表現を見直す。	各30分～60分
第7回	第７回　表現を選択する（１） ・言語表現における差別語・不快語の問題について学習し、時と場所、その言葉が届く範囲を念頭に置いて表現を選択する必要性を学ぶ。現代社会で問題視されることの多い語群についてワークシートを提出する。 ・前回の課題に対する講評を行い、正式な書簡を書く際の注意点や、依頼を成功させるための各自の工夫を確認する。	
	【予習】新聞や雑誌、テレビなど、公的な場では使われない言葉や使いにくい言葉について、その理由とともに考えてくる。 【復習】返却された答案と授業時の解説をふまえ、面識のない人に書面で挨拶する際の心遣いや、他の受講者の表現の工夫を学び、自身の交渉力を養うヒントとする。	各30分～60分
第8回	第８回　表現を選択する（２） ・前回の課題をふまえ、関連するテーマに沿って情報を収集し意見を陳述する。 ・前回の課題に対する講評を行い、言葉遣いや表現そのものに対する配慮の必要性を学ぶ。 ・語彙テストを実施する。	
	【予習】身のまわりで使われている言葉のうち、問題があると思われる表現に関して考える。（授業内で作成する課題文に反映させる。） 【復習】返却された答案と授業時の解説、他の受講者の問題意識をふまえて、表現に内在する差別性や価値観に対して意識的になる。	各30～60分
第9回	第９回　情報の分析と言語化（１） ・ある事象に関する複数のデータを見比べ、そのデータが意味するところについて文章にまとめる訓練をする。 データの読み取り方について全員で意見を出し合った上で、ポイントをまとめて提出する。 ・前回の課題に対する講評を行い、ひとつの表現が様々な受け取られ方をする可能性について考えを深める、	
	【予習】特になし 【復習】課題で取組んだデータに関して、自分が疑問に思った点を明らかにするためにはさらにどんなデータが必要かを考え、出来る範囲で情報を収集する。	各30分～60分

第10回	第１０回　情報の分析と言語化（２） ・前回の課題をふまえ、各自が収集してきた資料を加えて、あらためて当該のデータ・資料をめぐる各自の見解を文章化する。 ・前回の課題に対する講評を行い、データの解釈と有効な利用の仕方について学ぶ。 ・語彙テストを実施する。	
	【予習】前回の課題をふまえて、関連するデータや資料を収集し、当該のテーマについて考えるための新たな視点を用意する。語彙テストに関して、指定された範囲でテスト勉強を行う。 【復習】身のまわりの報道や記事に組み込まれたデータを分析的に眺めてみる。	各30分～60分
第11回	第１１回　意見を交換する（１）　テーマを選ぶ ・指定したいくつかのトピックごとにグループワークを行い、論点を整理する。 ・前回の課題に対する講評を行い、意見を主張する際や状況を把握する際、データがどのように活用され、どの程度の有効性を持つのかについて認識を深める。	
	【予習】特になし。 【復習】各自が取り組むテーマごとに、自分なりに情報を収集する。返却された答案と授業時の解説をふまえ、統計やデータの扱い方に意識的になる。	各30分～60分
第12回	第１２回　意見を交換する（２）自分の意見を構築する ・前回でまとめた論点と各自が収集した情報をもとにして、各テーマに関する自分の意見を論述する。 ・前回の課題に対する講評を行い、さらに付け加えるべき点がないかどうかを話し合って共有する。 ・語彙テストを実施する。	
	【予習】前回のグループワークをふまえて、参考にするための情報を集めておく。語彙テストに関して、指定された範囲でテスト勉強を行う。 【復習】返却された答案と授業時の解説をふまえて、自分の意見をさらに固める。	各30分～60分
第13回	第１３回　意見を交換する（３）　批評・反論を試みる ・前回の課題をふまえ、他の受講者と意見文を交換して、互いに批評・反論を試みる。 ・前回の課題に対する講評を行い、問題点や論点を共有する。	
	【予習】特になし 【復習】前３回の課題を通して、意見を確立させていくためのプロセスや批評・反論の手続きについて振り返る。	各30分～60分
第14回	第１４回　時事問題を論じる（まとめ） ・直近の時事問題をテーマに、1200字程度の論述文を作成する。主題と構成、利用するデータなどの構想を、授業時に指示する書式に従ってまとめる。 ・語彙・敬語・書簡の形式に関して到達度確認テストを実施する。	
	【予習】直近の時事問題の中から興味のあるものを選び、必要な関連資料を収集する。語彙に関して、最終的な到達度確認テストを行うため、指定された範囲でテスト勉強を行う。なお、敬語や書簡の形式についてもあらためて目を通しておく。 【復習】返却された答案と授業時の解説をふまえて、3週間かけて構築した意見とそれに対する他の受講者の批評を検討し、自分の意見論述を見直すヒントとする。	各60分～90分
第15回	第１５回　時事問題を論じる（まとめ） ・前回提出した構想をもとに、1200字程度の論述文を作成・提出する。誤字脱字など表記上の問題や論理構成、データ活用などについては、この提出物によってそれまでの課題の成果を測り、到達度確認テストに代える。	
	【予習】それまでの課題で指摘されてきた点や返却された答案を再読し、記述の癖や問題点などの修正を図る。	60分～９０分

授業の方法

毎時、設定されたテーマについて文章作成を行う。最初に注意点や問題点を示し練習を行ったり、受講者への発問と返答を通してポイントを整理したりするので、それをふまえて課題を作成・提出すること。提出課題は添削の後、受講者に返却する。また、提出された課題をもとに、受講者同士の相互批評の場を定期的に設けることとする。
　なお、指定のテキストに従って語彙力アップのための確認テストを隔週で行う。実施日、範囲は初回授業時に決定する。

成績評価の方法

全１５回の授業のうち１１回以上の出席（欠席日数が全授業数の３分の１未満であること）を前提とし、
出席点・平常点（提出物や語彙テストの点数、授業中の発言、授業態度など）６０パーセント、
到達度確認テスト４０パーセントで評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

2013年度以前入学の皆さんへの連絡
「実践日本語表現」では主に「書く力」を養う。ただし〈８〉〈１６〉〈１７〉の各クラスは「話す力」を養うことを目的とする。また、基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という学生には、２年生以上を対象にした「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」を勧める。各授業のシラバスを参考にされたい。

テキスト

樺島忠夫・植垣節也・内田満・佐竹秀雄『日本語チェック2000辞典』（京都書房、1993年）【小テストの予習・復習教材として使用】

参考書

授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	実践日本語表現 ＜13＞		
教員名	松野　彩		
科目ナンバー	1001031030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

大学生活・社会生活において必要な日本語の形式・語彙を学習し、受講生自身が文章作成を実践することによって、文章を的確に書く技術を身につける。

到達目標

1. 手紙・レジュメ・レポート・論文の書き方などを学習し、大学生活・社会生活において必要な文章形式を習得することを目標とする。
2. 文章の要点整理方法を学び、文章要約技術の向上をめざす。
3. 履歴書や作文・小論文の書き方を学習し、就職活動を行うために必要な知識・文章作成方法を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 手紙の書き方（１） ・封筒・葉書の宛名の書き方を解説する。受講者は練習問題を解き、授業終了時に提出する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	手紙の書き方（２） ・語彙確認テストを実施する。 ・初回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・縦書きの文書の書き方について解説する。受講者は礼状・招待状を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】指定されたテキストを入手し、テスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題（封筒・葉書の宛名の書き方）について復習する。	３０ ３０
第3回	手紙の書き方（３） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・横書きの文書の書き方について解説する。受講者は送付状・メールの文書を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題（縦書きの文書の書き方）について復習する。	３０ ３０

第4回	レジュメ・レポート・論文の作成方法（１） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・わかりやすい文章を書くための文章構成について解説する。 ・書き言葉と話し言葉の違いについて解説する。受講者は練習問題を解き、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題（横書きの文書の書き方）について復習する。	３０ ３０
第5回	レジュメ・レポート・論文の作成方法（２） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・レポート・論文に使用する書き言葉について解説する。受講者は練習問題を解き、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題（書き言葉と話し言葉の違い）について復習する。	３０ ３０
第6回	レジュメ・レポート・論文の作成方法（３） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・参考文献一覧の書き方や注のつけ方について解説する。受講者は練習問題を解き、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題（レポート・論文に使用する書き言葉）について復習する。	３０ ３０
第7回	要点整理の方法 ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・箇条書きで文書を整理する方法を解説する。受講者は練習問題を解き、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題（参考文献一覧の書き方や注のつけ方）について復習する。	３０ ３０
第8回	文章の要約（１） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・文章の要約方法を解説する。受講者は新聞記事（テーマ：環境問題）を250～400字に要約する作業を行い、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題（箇条書きで文書を整理する方法）について復習する。	３０ ３０
第9回	文章の要約（２） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・前回の課題の講評をもとに、受講者は新聞記事（テーマ：国際問題）を250～400字に要約する作業を行い、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題を見て、自分の文体の特徴を把握し、わかりやすい文章を書くために自分に必要なことは何かを認識する。	３０ ３０

第10回	文章の要約（３） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・前回の課題の講評をもとに、受講者は新聞記事（テーマ：生活・文化）を250～400字に要約する作業を行い、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題を見て、自分の文体の特徴を把握し、わかりやすい文章を書くために自分に必要なことは何かを認識する。	３０ ３０
第11回	就職試験対策（１） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・履歴書と自己分析ワークシートの書き方について解説する。受講者は自身の履歴書・ワークシートを作成する。上記の文書は個人情報にかかわるものであるため、教員は回収せず、授業時間内に点検・添削する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題を見て、自分の文体の特徴を把握し、わかりやすい文章を書くために自分に必要なことは何かを認識する。	３０ ３０
第12回	就職試験対策（２） ・語彙確認テストを実施する。 ・作文の書き方について解説する。受講者は「自己ＰＲ」をテーマに400字の作文を作成して教員の点検を受ける。400字の作文が完成した受講生は、800字の作文を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 作文の構想を考える。 【復習】作文の基本的な書き方について復習する。	６０ ３０
第13回	就職試験対策（３） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・作文の書き方について解説する。受講者は「異文化交流」をテーマに400字の作文を作成して教員の点検を受ける。400字の作文が完成した受講生は、800字の作文を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 作文の構想を考える。 【復習】返却された課題を見て、自分の文体の特徴を把握し、わかりやすい文章を書くために自分に必要なことは何かを認識する。	６０ ３０
第14回	就職試験対策（４） ・語彙確認テストを実施する。 ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・小論文の書き方について解説する。受講者は400字の小論文を作成して教員の点検を受ける。400字の小論文が完成した受講生は、800字の小論文を作成し、授業終了時に提出する。	
	【予習】テキストのテスト範囲を学習する。 【復習】返却された課題を見て、自分の文体の特徴を把握し、わかりやすい文章を書くために自分に必要なことは何かを認識する。	３０ ３０
第15回	まとめ ・前回の授業で提出された課題を返却し、講評する。 ・到達度確認テストを実施する。	
	【予習】これまでの授業で学習したことを復習し、到達度確認テストに備える。	１２０

授業の方法

1. 授業は、各回のテーマとなっている文書の書き方を教員が解説した後、受講生が文書作成を実践する形で行う。
2. 語彙について知識と理解を深めるために、各回の授業開始時に小テスト（語彙確認テスト）を行う。小テストはテキストから出題する。各回のテスト範囲は第１回の授業で発表する。
※授業の進捗状況によっては、内容を一部変更することがある。

成績評価の方法

評価配分は、到達度確認テスト（５０%）、提出物・授業態度（４０%）、小テスト（１０%）とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「実践日本語表現」では主に「書く力」を養う。ただし〈８〉〈１６〉〈１７〉の各クラスは「話す力」を養うことを目的とする。また、基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という学生には、２年生以上を対象にした「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」を勧める。各授業のシラバスを参考にされたい。

テキスト

樺島忠夫・植垣節也・内田満・佐竹秀雄『日本語チェック２０００辞典』（京都書房）を小テスト（語彙確認）の予習・復習用教材として使用する。

参考書

授業時に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	実践日本語表現 ＜14＞		
教員名	藤本　灯		
科目ナンバー	1001031030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

メール、手紙、レポートや学術論文などの構成、書き方、またスピーチ・プレゼンテーションについて、概説と演習を通してこれらを体得する。また、語彙力を高めるために毎週小テストを行う。

到達目標

本授業では、自分の表現したいことを正確に伝えるための、分かりやすい文章を書けるようになること、またスピーチを始めとしたプレゼンテーション力の基礎力を身につけることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	1. イントロダクション ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	10
第2回	2. 自己紹介 ・受講者全員が、スピーチによる自己紹介を行う。	
	【予習】指定されたテキストを入手し、テスト範囲を中心に学習する。また自己紹介の準備を行う。 【復習】授業時の自己紹介を振り返り、印象深い自己紹介について考える。	60
第3回	3. 手紙の形式 ・手紙の形式について学習し、実践する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】手紙の形式について学習したことを復習し、実践にうつす。	60

第4回	4. メールの形式 ・メールの形式について学習し、実践する。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】メールの形式について学習したことを復習し、実践にうつす。	60
第5回	5. 分かりやすい文章を書く（句読法・文構造） ・悪文の例を見ながら、良い文章とは何かを考える。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】「良い文章とは何か」について、各自、引き続き考える。	60
第6回	6. 敬語の運用 ・誤りとされる敬語の使用例を見ながら、実際の運用場面について考える。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】敬語について復習し、実践にうつす。	60
第7回	7. レポート・論文の作成１ ・レポートの作成法を学ぶ。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】レポートの作成時の注意点を振り返り、実践にうつす。	60
第8回	8. レポート・論文の作成２ ・出典・参考文献の示し方について学ぶ。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】レポートの作成時の注意点を振り返り、実践にうつす。	60
第9回	9. レポート・論文の作成３ ・実際のレポートの構成を考える。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】レポートの作成時の注意点を振り返り、実践にうつす。	60

第10回	10. プレゼンテーション（準備）１ ・プレゼンテーションの仕方について学ぶ。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】学期末プレゼンテーションの準備を行う。	60
第11回	11. プレゼンテーション（準備）２ グループでプレゼンテーションについて話し合い、準備を行う。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】学期末プレゼンテーションの準備を行う。	60
第12回	12. プレゼンテーション（準備）３ プレゼンテーションの準備と最終確認を行う。	
	【予習】テキストを用いて、次回のテスト範囲を中心に学習する。 【復習】学期末プレゼンテーションの準備を行う。	60
第13回	13. プレゼンテーション（実践）１	
	【予習】期末プレゼンテーション・スピーチの準備を行う。 【復習】プレゼンテーションの実施例から学んだことを考える。	60
第14回	14. プレゼンテーション（実践）２	
	【予習】期末プレゼンテーション・スピーチの準備を行う。 【復習】プレゼンテーションの実施例から学んだことを考える。	60
第15回	15. 最終スピーチ（達成度確認テスト）	
	【予習】期末スピーチの準備を行う。 【復習】スピーチの実施例から学んだことを考える。また授業全体について復習を行う。	60

授業の方法

毎回、以下の四点について講義、作業、テストを行う。
（１）各回テーマについての講義、（２）文章作成の実践、（３）グループによるプレゼンテーション準備・ディスカッション、（４）語彙確認テスト

成績評価の方法

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

成績評価の基準

毎回の課題・授業態度 50%
学期末試験 50%

必要な予備知識／先修科目／関連科目

２０１３年度以前入学生の皆さんへ

「実践日本語表現」では主に「書く力」を養う。ただし〈１５〉〈１６〉〈１７〉の各クラスは「話す力」を養うことを目的としている。また、基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という人には、「上級日本語表現」「上級日本語表現演習」「ドキュメント作成演習」をお勧めしたい。各授業のシラバスを参考にしてほしい。

テキスト

『日本語チェック2000辞典』（京都書房）

参考書

必要に応じて提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	実践日本語表現 ＜15＞		
教員名	山口　容子		
科目ナンバー	1001031030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

・当クラスは「話す力」を養うクラスである。
・自らの考えを自分らしい声で自信を持って話せるよう、基本的なトレーニングを行う。
・「話し言葉としての日本語」の特徴をよく理解し、わかりやすく説得力のある話し方を身につける。
・臨機応変に、当意即妙なスピーチができるようになるため、実践力を養う。
・「話す力」をつけることで大学生活をより充実させ、社会への適応力を高めることを目的とする。

到達目標

・自己実現のツールとしての話す力を身につけ、状況に応じたスピーチができるようになる。
・発声や発音の基本を学び、自分の声に自信を持てるようになる。
・日本語の特徴を理解し、自分の言葉に自信を持ち、実際のスピーチに取り入れられるようになる。
・人前でスピーチすることへの抵抗感を減らし、堂々と人前に立てるようになる。
・双方向のコミュニケーションを意識し、聞き手としてのマナーを身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習等の説明	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ授業内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	伝えるための基礎（１） テーマ：「コミュニケーションのカギをにぎるものとは？」 ・ネガポジリスニング ・ノンバーバルコミュニケーション伝言ゲーム	
	【予習】普段のコミュニケーションを振り返り、 コミュニケーションをスムーズにする上で、 各自が大切にしているもの・重要だと思うものをリストアップする。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	３０ ３０
第3回	伝えるための基礎（２）□ テーマ：「コミュニケーションをスムーズにする聞く力」 ・インタビューワーク	
	【予習】普段のコミュニケーションを振り返り、自分が聞き手の立場の時に大事にしていること、意識していることについて考えておく。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	３０ ３０

第4回	伝えるための基礎（３） テーマ：「自分に自信をつける声の力」 ・声と身体の関係 ・発声・発音練習 ・滑舌練習	
	【予習】話し方や声の出し方についてよく考え、 お手本としたいロールモデルについて考えておく。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。 。	３０ ３０
第5回	伝えるための基礎（４）□ テーマ：「印象を良くする言葉の力」 ・コミュニケーションパターンテスト ・アサーション練習 DESC法で嫌みなくサラリと気持ちを伝える方法	
	【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	３０
第6回	伝えるための基礎（５）□ テーマ：「面接上手になる言葉選び」 ・敬語の復習 ・クッションことば ・短所言い換え練習	
	【予習】敬語について苦手意識のある場合は、基本をおさらいしておく。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	６０ ３０
第7回	伝えるための基礎（6）□ テーマ：「聞き手の視点で考える力」 ・聞き手としての立場から評価のポイントを考える ・評価コメントシートの作成と相互アドバイス	
	【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	３０
第8回	伝えるための基礎（７）□ テーマ：「論理的に伝える構成力」 ・ＰＲＥＰ法とPR法 ・聞き手に合わせた構成の仕方 ・クライマックスの持っていきかた	
	【予習】前週に出されたテーマに沿って自分なりの考えをまとめておく。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	６０ ３０
第9回	もっと伝えるための応用（1） テーマ：「即興力をつけるカードゲーム」 ・スピーチカードゲーム ・事前準備カードと即興カード作成	
	【復習】授業を振り返り、課題を発見する	３０

第10回	もっと伝えるための応用（2）☐ テーマ：「誰でもわかる客観的な描写力」 ・客観描写と主観描写の違いとは ・パネルを使った描写の練習	
	【予習】前週に出されるテーマに沿って、必要なパネルや写真等を準備する。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	６０ ３０
第11回	もっと伝えるための応用（3）☐ テーマ：「自分を売り込むアピール力」 ・一瞬を切り取る描写力をつける ・主観描写の練習	
	【予習】前週に出されるテーマに沿って、各自のエピソードを洗い出しておく。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	６０ ３０
第12回	もっと伝えるための応用（4）☐ テーマ：「アピール力と説得力」 ・おススメグッズやおススメ本の紹介 TVショッピング風に見せながら話すコツ ・私も欲しいと思わせる話し方	
	【予習】おすすめグッズやおすすめ本を選定し、おすすめ理由の洗い出しやデータ収集をする。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	６０ ３０
第13回	もっと伝えるための応用（5）☐ テーマ：「想像力」 ・与えられた課題に対するスピーチ作成と発表 ・評価コメントシートによる相互評価	
	【予習】前週に与えられたテーマに沿ってスピーチを準備し練習する。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	６０ ３０
第14回	最終スピーチ発表 テーマ：「総合力」 ・授業の総まとめとしてのラストスピーチ発表 （到達度確認テスト）	
	【予習】前週に与えられた課題でラストスピーチを準備し練習する。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	６０ ３０
第15回	まとめと振り返り ・前回のラストスピーチ（到達度確認テスト）の反省 ・各人の今後の課題抽出 ・Q&A	
	【予習】ラストスピーチを振り返り、各自の課題を再確認する。 【復習】全授業を振り返り、今後における課題を再確認する。	３０ ３０

授業の方法

・講義＋実習形式。
・前半の基礎パートでは、主にペアワークやグループワークを通して自ら課題を発見する。
・後半の応用パートでは、毎回テーマに沿ったショートスピーチの練習を行う。

成績評価の方法

・（１）出席状況、（２）毎回の授業時の課題に取り組む姿勢、（３）課題に対する習熟度　（６０%程度）。
・最終スピーチ（到達度確認テスト）に対する評価　（４０%程度）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

２０１３年度以前入学生の皆さんへ
＊「実践日本語表現」は全部で１７クラスあるが、書く力を養うクラスと、話す力を養うクラスとに分かれている。
〈１５〉〈１６〉〈１７〉クラスは話す力を、他のクラスは書く力を、それぞれ養成する。
＊基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という人には、２年生以上を対象にした「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」を勧める。各授業のシラバスを参考にしてほしい。

テキスト

・理解と実践に必要なプリントを適宜授業内に配布する。

参考書

・教員自著
『ハッピーボイス・トレーニング』　山口　容子　著
ソフトバンククリエイティブ　2007年2月24日　刊
ISBN-10: 4797338202　ISBN-13: 978-4797338201

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

・各回の授業内、及び終了後、教室で質問・相談に応じる。

科目名	実践話し方入門 ＜21＞		
教員名	新村　衣里子		
科目ナンバー	1101431040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本講座では、「自分なりの視点で感じ、考えたことを自分らしく生き生きと表現する力を身につける」にはどうすればよいかを探っていきます。まずは、話し手だけでなく聴き手にとっても興味深い内容を、すっきりとした構成にあてはめて、わかりやすい言葉ではきはきと話せるようになることを目指します。また、自分の内面を見つめて言語化したり、外からの情報を取捨選択し、整理して伝えたりするなど、「内」と「外」をバランスよく話材にできるような習慣もつけたいと思います。

さらに、論理的に説明できる力や表現力をも身につけることによって、最終的には、「話すこと」や「聞くこと」を介した人とのコミュニケーションをより楽しめるようになってほしいと願っています。人の心を動かす話し方や、状況をよりよい方向に導くための話の組み立て方などについても一緒に考えていきたいと思っています。

到達目標

・聴き手をひきつける話し方を身につける。
・効果的で説得力のある話し方の技法を習得する。
・自分らしさを生かした提言ができるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	自分を知ってもらうために-話し方の基礎を学び、自分を効果的にアピールする①	
	【予習】自己紹介のための準備 【復習】スピーチの要約と今後の課題分析、滑舌練習（毎回）	60分
第2回	自分を知ってもらうために-話し方の基礎を学び、自分を効果的にアピールする②	
	【予習】発話課題のための準備 【復習】発話内容の要約と今後の課題分析	60分
第3回	わかりやすく話す-構成を意識する①	
	【予習】発話課題のための準備 【復習】発話内容の要約と今後の課題分析	60分
第4回	わかりやすく話す-構成を意識する②	

	【予習】発話課題のための準備 【復習】発話内容の要約と今後の課題分析	60分
第5回	相手に働きかける①ー見せながら説明する	
	【予習】発話課題のための準備 【復習】発話内容の要約と今後の課題分析	60分
第6回	相手に働きかける②ー聞いてきたことを伝える	
	【予習】発話課題のための準備 【復習】発話内容の要約と今後の課題分析	60分
第7回	※小テスト（敬語や語句、間違えやすい言葉などの確認のためのテスト）	
	【予習】小テストと発話課題のための準備 【復習】小テストの見直し。発話内容の要約と今後の課題分析	100分
第8回	相手の心を動かす①ー宣伝する	
	【予習】発話課題のための準備 【復習】発話内容の要約と今後の課題分析	60分
第9回	相手の心を動かす②ー励ます	
	【予習】発話課題のための準備 【復習】発話内容の要約と今後の課題分析	60分
第10回	主張する-問題意識を持って情報を収集し、意見を述べる①	

	【予習】発話課題のための準備 【復習】発話内容の要約と今後の課題分析	60分
第11回	主張する-問題意識を持って情報を収集し、意見を述べる②	
	【予習】発話課題のための準備 【復習】発話内容の要約と今後の課題分析	60分
第12回	表現する-声の出し方や読み方を工夫する	
	【予習】発話課題のための準備 【復習】発話内容の要約と今後の課題分析	60分
第13回	提言する-新たな視点を提示する	
	【予習】発話課題のための準備 【復習】発話内容の要約と今後の課題分析	60分
第14回	到達度確認テスト	
	【予習】到達度確認テストと発話課題のための準備 【復習】発話内容の要約と今後の課題分析	120分
第15回	到達度確認テストの解説 授業のまとめ	
	【予習】発話課題のための準備 【復習】到達度確認テストを見直して、この授業を振り返る。自身の今後の課題を設定する。	60分
授業の方法		

講義と発話演習（1分間程度のスピーチ）を中心に行います。発声、滑舌、音読の練習も適宜行います。授業中に課題や小レポートを課すこともあります。
上に示した準備学修に関しての時間はあくまで目安ですので、各自の達成度や理解度に応じて積極的に取り組んでください。なお、授業の進捗状況によっては計画内容を一部変更する場合もあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況）（25%）、技能到達度（25%）、提出物やテスト（50%）で総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・特に予備知識を必要としませんが、話者がどのように聴き手をひきつけようと努力しているかということに着目して普段から身の回りに目を向け、耳をすませてほしいと思います。また、授業で行うスピーチなどのために、話材を集める習慣をつけておいてください。
〈２０１３年度以前入学生の皆さんへ〉
＊「実践日本語表現」は全部で１７クラスありますが、書く力を養うクラスと、話す力を養うクラスとに分かれています。
〈１５〉〈１６〉〈１７〉クラスは話す力を、他のクラスは書く力を、それぞれ伸ばします。
＊基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という人には、２年生以上を対象にした「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」をお勧めします。各授業のシラバスを参考にして下さい。

テキスト

特になし

参考書

授業において紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	実践話し方入門 ＜22＞		
教員名	山口　容子		
科目ナンバー	1101431040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

・当クラスは「話す力」を養うクラスである。
・自らの考えを自分らしい声で自信を持って話せるよう、基本的なトレーニングを行う。
・「話し言葉としての日本語」の特徴をよく理解し、わかりやすく説得力のある話し方を身につける。
・臨機応変に、当意即妙なスピーチができるようになるため、実践力を養う。
・「話す力」をつけることで大学生活をより充実させ、社会への適応力を高めることを目的とする。

到達目標

・自己実現のツールとしての話す力を身につけ、状況に応じたスピーチができるようになる。
・発声や発音の基本を学び、自分の声に自信を持てるようになる。
・日本語の特徴を理解し、自分の言葉に自信を持ち、実際のスピーチに取り入れられるようになる。
・人前でスピーチすることへの抵抗感を減らし、堂々と人前に立てるようになる。
・双方向のコミュニケーションを意識し、聞き手としてのマナーを身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習等の説明	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ授業内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	伝えるための基礎（１） テーマ：「コミュニケーションのカギをにぎるものとは？」 ・ネガポジリスニング ・ノンバーバルコミュニケーション伝言ゲーム	
	【予習】普段のコミュニケーションを振り返り、 コミュニケーションをスムーズにする上で、 各自が大切にしているもの・重要だと思うものをリストアップする。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	３０ ３０
第3回	伝えるための基礎（２）□ テーマ：「コミュニケーションをスムーズにする聞く力」 ・インタビューワーク	
	【予習】普段のコミュニケーションを振り返り、自分が聞き手の立場の時に大事にしていること、意識していることについて考えておく。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	３０ ３０

第4回	伝えるための基礎（３） テーマ：「自分に自信をつける声の力」 ・声と身体の関係 ・発声・発音練習 ・滑舌練習	
	【予習】話し方や声の出し方についてよく考え、 お手本としたいロールモデルについて考えておく。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。 。	３０ ３０
第5回	伝えるための基礎（４）□ テーマ：「印象を良くする言葉の力」 ・コミュニケーションパターンテスト ・アサーション練習 DESC法で嫌みなくサラリと気持ちを伝える方法	
	【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	３０
第6回	伝えるための基礎（５）□ テーマ：「面接上手になる言葉選び」 ・敬語の復習 ・クッションことば ・短所言い換え練習	
	【予習】敬語について苦手意識のある場合は、基本をおさらいしておく。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	６０ ３０
第7回	伝えるための基礎（6）□ テーマ：「聞き手の視点で考える力」 ・聞き手としての立場から評価のポイントを考える ・評価コメントシートの作成と相互アドバイス	
	【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	３０
第8回	伝えるための基礎（７）□ テーマ：「論理的に伝える構成力」 ・ＰＲＥＰ法とPR法 ・聞き手に合わせた構成の仕方 ・クライマックスの持っていきかた	
	【予習】前週に出されたテーマに沿って自分なりの考えをまとめておく。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	６０ ３０
第9回	もっと伝えるための応用（1） テーマ：「即興力をつけるカードゲーム」 ・スピーチカードゲーム ・事前準備カードと即興カード作成	
	【復習】授業を振り返り、課題を発見する	３０

第10回	もっと伝えるための応用（2）□ テーマ：「誰でもわかる客観的な描写力」 ・客観描写と主観描写の違いとは ・パネルを使った描写の練習	
	【予習】前週に出されるテーマに沿って、必要なパネルや写真等を準備する。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	６０ ３０
第11回	もっと伝えるための応用（3）□ テーマ：「自分を売り込むアピール力」 ・一瞬を切り取る描写力をつける ・主観描写の練習	
	【予習】前週に出されるテーマに沿って、各自のエピソードを洗い出しておく。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	６０ ３０
第12回	もっと伝えるための応用（4）□ テーマ：「アピール力と説得力」 ・おススメグッズやおススメ本の紹介 TVショッピング風に見せながら話すコツ ・私も欲しいと思わせる話し方	
	【予習】おすすめグッズやおすすめ本を選定し、おすすめ理由の洗い出しやデータ収集をする。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	６０ ３０
第13回	もっと伝えるための応用（5）□ テーマ：「想像力」 ・与えられた課題に対するスピーチ作成と発表 ・評価コメントシートによる相互評価	
	【予習】前週に与えられたテーマに沿ってスピーチを準備し練習する。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	６０ ３０
第14回	最終スピーチ発表 テーマ：「総合力」 ・授業の総まとめとしてのラストスピーチ発表 （到達度確認テスト）	
	【予習】前週に与えられた課題でラストスピーチを準備し練習する。 【復習】授業を振り返り、課題を発見する。	６０ ３０
第15回	まとめと振り返り ・前回のラストスピーチ（到達度確認テスト）の反省 ・各人の今後の課題抽出 ・Q&A	
	【予習】ラストスピーチを振り返り、各自の課題を再確認する。 【復習】全授業を振り返り、今後における課題を再確認する。	３０ ３０

授業の方法

・講義＋実習形式。
・前半の基礎パートでは、主にペアワークやグループワークを通して自ら課題を発見する。
・後半の応用パートでは、毎回テーマに沿ったショートスピーチの練習を行う。

成績評価の方法

・（１）出席状況、（２）毎回の授業時の課題に取り組む姿勢、（３）課題に対する習熟度　（６０%程度）。
・最終スピーチ（到達度確認テスト）に対する評価　（４０%程度）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

２０１３年度以前入学生の皆さんへ
＊「実践日本語表現」は全部で１７クラスあるが、書く力を養うクラスと、話す力を養うクラスとに分かれている。
〈１５〉〈１６〉〈１７〉クラスは話す力を、他のクラスは書く力を、それぞれ養成する。
＊基礎的な文章力は身についているが、さらに日本語力を磨きたい、日本語の特徴を学びたい、という人には、２年生以上を対象にした「上級日本語表現」「上級文章表現演習」「ドキュメント作成演習」を勧める。各授業のシラバスを参考にしてほしい。

テキスト

・理解と実践に必要なプリントを適宜授業内に配布する。

参考書

・教員自著
『ハッピーボイス・トレーニング』　山口　容子　著
ソフトバンククリエイティブ　2007年2月24日　刊
ISBN-10: 4797338202　ISBN-13: 978-4797338201

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

・各回の授業内、及び終了後、教室で質問・相談に応じる。

科目名	文章読解講座 <1>		
教員名	杉井　和子		
科目ナンバー	1101431050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本講義は、読む力、書く力を養成するために、日本の近代（明治、大正、昭和）の時代を特徴づける様々な文章を読み、考察していく。（テーマ）文化、政治、戦争、国家、恋愛などのテーマを、新聞、雑誌などのジャーナリズム、評論文、小説など多岐にわたるジャンルで読み込んでいく。世相をつかむため、フランス人の文との比較や、社会科学、文学と広汎にわたって文章を読み込むことで、問題意識を明確にしていく。（概要）表現の面白さを味わいながら、歴史的に考察する力を身につける。（目標）

到達目標

文章の読解のために、自分の考えを論理的に表現できるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション：文章を読むとはどういうことか 扱う教材について、説明ガイダンスを行う。	
	いままで、文章を読むということに当たって、どんなことを実践してきたかを考えてみる。	20
第2回	新聞の論説文を読む 短い文章の論理をつかむ学習をする。	
	わからない単語を調べる。 通読しておく。	30
第3回	福沢諭吉の「福翁自伝」を読む。 会話体のやさしい文のなかから、問題点を自分でつかむようにする。	
	問題となる文に注目して、自分の語で解説できるようにする。	30

第4回	福沢諭吉の文を続けて読む。近代の文明ということを考察していく。	
	前回問題にしたところを、考える。	40
第5回	メルシエ「１８世紀パリ生活誌」を読む	
	世相をあらわすために筆者が用いた、比喩、知識を調べる。	30
第6回	メルシエ「１８世紀パリ生活誌」を読む。	
	前回の問題を自分で考察し、説明できるようにする。	40
第7回	渋沢栄一「雨夜譚」を読む。	
	商業、経済の近代史における意味に注目して文を読む。	30
第8回	渋沢栄一「雨夜譚」を読む。	
	前回問題とされた文を解説できるようにする。	40
第9回	内田樹「日本辺境論」を読む。	
	辺境ということがどう説明されているかを考える。	30

第10回	内田樹「日本辺境論」を読む。	
	丸山真男の使う比喩と重ねながら文意を読み取る。	40
第11回	鶴見俊輔「漫画の戦後思想」を読む。	
	戦後、思想という語について考察する。	20
第12回	鶴見俊輔「漫画の戦後思想」を読む。	
	筆者のモチーフ、意図を解説できるようにする。	30
第13回	村上春樹「海辺のカフカ」を読む。	
	小説の文章を自分で味わう。	40
第14回	村上春樹「海辺のカフカ」を読む。	
	作者の言葉に対して自分のイメージをもって理解を深める。	40
第15回	まとめ	
	文章読解にあたって、どんなことが大切であり、どんなことを発見できたかをまとめる。	30

授業の方法

基本的に講義形式で行うが、時に応じて、小レポートを書かせる。発表も多く取り入れる。

成績評価の方法

学期末試験　７０％　小テスト、レポート　３０％を基本とし、授業時の積極的発言などを見る。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

授業はすべてプリントを使用する。ただし、一部を抜粋する形になるので、その都度、なるべく一冊の本を入手して、積極的に読むようにすること。
「文明論の概略」　「福翁自伝」福沢諭吉　岩波文庫
「１８世紀パリ生活誌」（メルシエ）岩波文庫
「雨夜譚」〈渋沢栄一〉
「日本辺境論」（内田樹）　新潮選書
「海辺のカフカ」（村上春樹）　「村上春樹にご用心」〈内田樹〉

参考書

その都度指定する。
「２０世紀の定義」樺山紘一・岩波書店
「日本文化のかくれた形」丸山真男・岩波現代文庫

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	文章読解講座 ＜2＞		
教員名	杉井　和子		
科目ナンバー	1101431050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本講義は、読む力、書く力を養成するために、日本の近代（明治、大正、昭和）の時代を特徴づける様々な文章を読み、考察していく。（テーマ）文化、政治、戦争、国家、恋愛などのテーマを、新聞、雑誌などのジャーナリズム、評論文、小説など多岐にわたるジャンルで読み込んでいく。世相をつかむため、フランス人の文との比較や、社会科学、文学と広汎にわたって文章を読み込むことで、問題意識を明確にしていく。（概要）表現の面白さを味わいながら、歴史的に考察する力を身につける。（目標）

到達目標

文章の読解のために、自分の考えを論理的に表現できるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション：文章を読むとはどういうことか 扱う教材について、説明ガイダンスを行う。		
		いままで、文章を読むということに当たって、どんなことを実践してきたかを考えてみる。	20
第2回	新聞の論説文を読む 短い文章の論理をつかむ学習をする。		
		わからない単語を調べる。 通読しておく。	30
第3回	福沢諭吉の「福翁自伝」を読む。 会話体のやさしい文のなかから、問題点を自分でつかむようにする。		
		問題となる文に注目して、自分の語で解説できるようにする。	30

第4回	福沢諭吉の文を続けて読む。近代の文明ということを考察していく。	
	前回問題にしたところを、考える。	40
第5回	メルシエ「１８世紀パリ生活誌」を読む	
	世相をあらわすために筆者が用いた、比喩、知識を調べる。	30
第6回	メルシエ「１８世紀パリ生活誌」を読む。	
	前回の問題を自分で考察し、説明できるようにする。	40
第7回	渋沢栄一「雨夜譚」を読む。	
	商業、経済の近代史における意味に注目して文を読む。	30
第8回	渋沢栄一「雨夜譚」を読む。	
	前回問題とされた文を解説できるようにする。	40
第9回	内田樹「日本辺境論」を読む。	
	辺境ということがどう説明されているかを考える。	30

第10回	内田樹「日本辺境論」を読む。	
	丸山真男の使う比喩と重ねながら文意を読み取る。	40
第11回	鶴見俊輔「漫画の戦後思想」を読む。	
	戦後、思想という語について考察する。	20
第12回	鶴見俊輔「漫画の戦後思想」を読む。	
	筆者のモチーフ、意図を解説できるようにする。	30
第13回	村上春樹「海辺のカフカ」を読む。	
	小説の文章を自分で味わう。	40
第14回	村上春樹「海辺のカフカ」を読む。	
	作者の言葉に対して自分のイメージをもって理解を深める。	40
第15回	まとめ	
	文章読解にあたって、どんなことが大切であり、どんなことを発見できたかをまとめる。	30

授業の方法

基本的に講義形式で行うが、時に応じて、小レポートを書かせる。発表も多く取り入れる。

成績評価の方法

学期末試験　７０％　小テスト、レポート　３０％を基本とし、授業時の積極的発言などを見る。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

授業はすべてプリントを使用する。ただし、一部を抜粋する形になるので、その都度、なるべく一冊の本を入手して、積極的に読むようにすること。
「文明論の概略」　「福翁自伝」福沢諭吉　岩波文庫
「１８世紀パリ生活誌」（メルシエ）岩波文庫
「雨夜譚」〈渋沢栄一〉
「日本辺境論」（内田樹）　新潮選書
「海辺のカフカ」（村上春樹）　「村上春樹にご用心」〈内田樹〉

参考書

その都度指定する。
「２０世紀の定義」樺山紘一・岩波書店
「日本文化のかくれた形」丸山真男・岩波現代文庫

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	文章読解講座 ＜3＞		
教員名	杉井　和子		
科目ナンバー	1001031040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

本講義は、読む力、書く力を養成するために、日本の近代（明治、大正、昭和）の時代を特徴づける様々な文章を読み、考察していく。（テーマ）文化、政治、戦争、国家、恋愛などのテーマを、新聞、雑誌などのジャーナリズム、評論文、小説など多岐にわたるジャンルで読み込んでいく。世相をつかむため、フランス人の文との比較や、社会科学、文学と広汎にわたって文章を読み込むことで、問題意識を明確にしていく。（概要）表現の面白さを味わいながら、歴史的に考察する力を身につける。（目標）

到達目標

文章の読解のために、自分の考えを論理的に表現できるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	イントロダクション：文章を読むとはどういうことか 扱う教材について、説明ガイダンスを行う。	
	いままで、文章を読むということに当たって、どんなことを実践してきたかを考えてみる。	20
第2回	新聞の論説文を読む 短い文章の論理をつかむ学習をする。	
	わからない単語を調べる。 通読しておく。	30
第3回	福沢諭吉の「福翁自伝」を読む。 会話体のやさしい文のなかから、問題点を自分でつかむようにする。	
	問題となる文に注目して、自分の語で解説できるようにする。	30

第4回	福沢諭吉の文を続けて読む。近代の文明ということを考察していく。	
	前回問題にしたところを、考える。	40
第5回	メルシエ「１８世紀パリ生活誌」を読む	
	世相をあらわすために筆者が用いた、比喩、知識を調べる。	30
第6回	メルシエ「１８世紀パリ生活誌」を読む。	
	前回の問題を自分で考察し、説明できるようにする。	40
第7回	渋沢栄一「雨夜譚」を読む。	
	商業、経済の近代史における意味に注目して文を読む。	30
第8回	渋沢栄一「雨夜譚」を読む。	
	前回問題とされた文を解説できるようにする。	40
第9回	内田樹「日本辺境論」を読む。	
	辺境ということがどう説明されているかを考える。	30

第10回	内田樹「日本辺境論」を読む。	
	丸山真男の使う比喩と重ねながら文意を読み取る。	40
第11回	鶴見俊輔「漫画の戦後思想」を読む。	
	戦後、思想という語について考察する。	20
第12回	鶴見俊輔「漫画の戦後思想」を読む。	
	筆者のモチーフ、意図を解説できるようにする。	30
第13回	村上春樹「海辺のカフカ」を読む。	
	小説の文章を自分で味わう。	40
第14回	村上春樹「海辺のカフカ」を読む。	
	作者の言葉に対して自分のイメージをもって理解を深める。	40
第15回	まとめ	
	文章読解にあたって、どんなことが大切であり、どんなことを発見できたかをまとめる。	30

授業の方法

基本的に講義形式で行うが、時に応じて、小レポートを書かせる。発表も多く取り入れる。

成績評価の方法

学期末試験　７０％　小テスト、レポート　３０％を基本とし、授業時の積極的発言などを見る。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

授業はすべてプリントを使用する。ただし、一部を抜粋する形になるので、その都度、なるべく一冊の本を入手して、積極的に読むようにすること。
「文明論の概略」　「福翁自伝」福沢諭吉　岩波文庫
「１８世紀パリ生活誌」（メルシエ）岩波文庫
「雨夜譚」〈渋沢栄一〉
「日本辺境論」（内田樹）　新潮選書
「海辺のカフカ」（村上春樹）　「村上春樹にご用心」〈内田樹〉

参考書

その都度指定する。
「２０世紀の定義」樺山紘一・岩波書店
「日本文化のかくれた形」丸山真男・岩波現代文庫

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	古典日本語Ａ ＜1＞		
教員名	青島　麻子		
科目ナンバー	1101435010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この授業では、始発時から平安時代までの文学作品を味読していきます。文学がどのようにして生み出されていったのかという問いからはじめ、その歴史を辿りながら、日本古典文学の最高峰とも言われる源氏物語の成立までを眺めていきます。
この時代の作品には、後の時代に多大な影響を及ぼしたものが少なくありません。後世、どのように享受されたのかという点にも触れつつ、実際に原文を読み解いていくことで、それらの魅力を知ってもらいたいと考えています。なお授業では、絵画・映像資料や、古典作品を典拠とした小説・漫画などとの比較も適宜取り入れていきます。古典世界を遠い世界のものと見なすのではなく、より身近なものとして親しんでほしいと思います。

到達目標

散文・韻文問わず様々なジャンルの作品の原文を読むことで、それらの特質を学びます。具体的な表現に着目することで、言葉の用いられ方に意識的になることを目指します。
併せて、当時の人々の生活慣習や時代背景についても考察を深め、多角的に作品を読解していく力を養うことを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	導入 文字のかたち、書物のかたち	
	【予習】シラバスをよく読み、授業の進め方や扱う作品を確認しておきましょう。	30
第2回	史書① 記紀神話の世界	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第3回	史書② 今なお残る伝承	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60

第4回	和歌 古今和歌集と歌の配列	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第5回	作り物語① 竹取物語に見る物語のパターン	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第6回	歌物語 伊勢物語の男と業平	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第7回	日記文学① 記録としての日記との差異	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第8回	日記文学② 和泉式部日記の視点	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第9回	随筆① 枕草子と古典の本文	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60

第10回	随筆② 　枕草子の訳し方	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第11回	作り物語② 　物語の冒頭とは	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第12回	作り物語③ 　源氏物語と年立	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第13回	作り物語④ 　源氏物語の達成	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第14回	歴史物語 　栄花物語と史実	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。	30
第15回	確認テスト	
	【予習】これまでの授業内容を振り返り、確認テストに備えてください。今まで返却された全ての小課題にも今一度目を通しておきましょう。	120

授業の方法

授業の進度は受講者の理解度に応じます。
基本的には講義形式ですが、小課題やグループワークなどの作業時間を毎回設けます。主体的に取り組むことを望みます。

成績評価の方法

3分の2以上の出席を単位取得の前提とします。
コメントペーパーを含めた授業態度（20%）、授業中の小課題（30%）、学期末テスト（50%）により総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

古文の文法・単語などについての予備知識は前提としません。

テキスト

毎回プリントを配布します。

参考書

参考書は、授業中に適宜紹介します。
毎回の授業に、古語辞典（古語辞典が含まれていれば電子辞書でも可）を持ってきてください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	古典日本語Ａ ＜2＞		
教員名	土居　奈生子		
科目ナンバー	1101435010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この授業は、平安時代以前の散文・韻文等、様々な文章を読み、古典文学に慣れ親しむことを主眼としています。当時の人々の暮らしぶりや考え方について、言葉を頼りに考えます。

日本人がいかに漢字を使いこなし、仮名文字を発達させていったかという、日本語表記の変遷についても学びます。

到達目標

①上代から中古にかけて成立した古典文学をじっくりと味わい、親しむことができたか。
②授業で取り上げられた古典作品の表記を通じて、仮名文字の発達をおおまかにでも理解できたか。
③　①②により、自分自身の日本語の語彙力、表現力を豊かにできたか。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・「上代」、「中古」という時代区分、時代背景など受講にあたり必要な事柄について把握する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	『古事記』『日本書紀』を読む（一） ・『古事記』『日本書紀』に関する概説。 ・『古事記』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・漢字を導入して日本語（ヤマトコトバ）を表記していく上代の人々の創意工夫、苦労について考える。	
	【予習】前回配布の資料に目を通し、上代の文学史的特徴を把握しておく。 【復習】授業時に読んだ『古事記』の部分を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第3回	『古事記』『日本書紀』を読む（二） ・前回の授業を振り返る。 ・『古事記』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・上代の人々のものの考え方、暮らしぶりを言葉を頼りに考える。	
	【予習】前回の授業で読んだ『古事記』の前後の部分や注についても読んでおく。 【復習】授業時に読んだ『古事記』の部分を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０

第4回	『古事記』『日本書紀』を読む（三） ・『日本書紀』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・『古事記』と『日本書紀』の違いについて考える。 ・授業の理解度を確認するための小テストを実施する。	
	【予習】講読した箇所を中心に授業を振り返り、小テストに備える。	６０
第5回	『万葉集』『風土記』を読む（一） ・小テストの返却と答え合わせ。 ・『万葉集』『風土記』に関する概説。 ・『万葉集』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・万葉仮名について考える。	
	【復習】小テストの結果を踏まえ、復習する。 授業時に読んだ『万葉集』の歌を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	６０
第6回	『万葉集』『風土記』を読む（二） ・前回の授業を振り返る。 ・『万葉集』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・歌を詠んでいる人々と、それを記録する人々について考える。	
	【予習】前回の授業時に読んだ『万葉集』の歌の、前後の歌についても注など含めて読んでおく。 【復習】授業時に読んだ『万葉集』の歌を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第7回	『万葉集』『風土記』を読む（三） ・『風土記』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・「中央」に対する「地方」について考える。 ・授業の理解度を確認するための小テストを実施する。	
	【予習】とりあげられた『万葉集』の歌を中心に授業を振り返り、小テストに備える。	６０
第8回	『古今和歌集』と関連作品を読む（一） ・小テストの返却と答え合わせ。 ・『古今和歌集』に関する概説。 ・『古今和歌集』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・仮名文字による表記について考える。	
	【復習】小テストの結果を踏まえ、復習する。 授業時に読んだ『古今和歌集』の歌を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	６０
第9回	『古今和歌集』と関連作品を読む（二） ・前回の授業を振り返る。 ・『古今和歌集』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・「歌うこと」について考える。	
	【予習】前回の授業時に読んだ『古今和歌集』の歌の、前後の歌についても注など含めて読んでおく。 【復習】授業時に読んだ『古今和歌集』の歌を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０

第10回	『古今和歌集』と関連作品を読む（三） ・関連作品を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・歌集や歌物語について考える。 ・授業の理解度を確認するための小テストを行う。	
	【予習】とりあげられた『古今和歌集』の歌を中心に授業を振り返り、小テストに備える。	６０
第11回	『源氏物語』と関連作品を読む（一） ・小テストの返却と答え合わせ。 ・『源氏物語』に関する概説。 ・『源氏物語』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・物語について考える。	
	【復習】小テストの結果を踏まえ、復習する。 授業時に読んだ『源氏物語』の部分を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	６０
第12回	『源氏物語』と関連作品を読む（二） ・『源氏物語』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・「書くこと」について考える。	
	【予習】前回の授業で読んだ『源氏物語』の前後の部分や注についても読んでおく。 【復習】授業時に読んだ『源氏物語』の部分を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第13回	『源氏物語』と関連作品を読む（三） ・『源氏物語』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・「読むこと」について考える。	
	【予習】前回の授業で読んだ『源氏物語』の前後の部分や注についても読んでおく。 【復習】授業時に読んだ『源氏物語』の部分を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第14回	『源氏物語』と関連作品を読む（四） ・関連作品を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・作品同士を比較し、影響関係について考える。	
	【予習】前回の授業で読んだ『源氏物語』の前後の部分や注についても読んでおく。 【復習】授業時に読んだ関連作品を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。自分自身で作品比較を試みる。	３０ ３０
第15回	『源氏物語』と関連作品を読む（五） ・関連作品を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・授業の理解度を確認するための小テストを行う。 ・小テストの解説と授業のまとめ。	
	【予習】講読した箇所を中心に授業を振り返り、小テストに備える。	６０

授業の方法

「読む」ことが、現在のような黙読ではなかった当時の状況をふまえ、適宜、授業内では音読を試みます。また、毎回ではありませんが、授業内容の理解を確認するため、小テストを行います。

成績評価の方法

出席を含めた授業への取り組み（２０%程度）、小テスト（３０%程度）、学期末レポート（５０%程度）により判断します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①上代から中古にかけて成立した文学を味わい、親しみ、理解できたか。
②漢字から仮名への発達、使用環境をおおまかにでもイメージできるか。
③自らの日本語の語彙力、表現力をこれまでより豊かにできたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

古典文法等の予備知識は前提としません。

テキスト

プリントを配布します。

参考書

毎回の授業に、筆記具と古語辞典（電子辞書でも古語辞典が含まれていれば可）を必ず持参してください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

毎回の授業終了後に教室で受け付けます。オフィスアワーは授業初回の「ガイダンス」でお知らせしますが、学内専用ホームページでも確認できます。

科目名	古典日本語Ａ ＜3＞		
教員名	土居　奈生子		
科目ナンバー	1101435010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この授業は、平安時代以前の散文・韻文等、様々な文章を読み、古典文学に慣れ親しむことを主眼としています。当時の人々の暮らしぶりや考え方について、言葉を頼りに考えます。

日本人がいかに漢字を使いこなし、仮名文字を発達させていったかという、日本語表記の変遷についても学びます。

到達目標

①上代から中古にかけて成立した古典文学をじっくりと味わい、親しむことができたか。
②授業で取り上げられた古典作品の表記を通じて、仮名文字の発達をおおまかにでも理解できたか。
③　①②により、自分自身の日本語の語彙力、表現力を豊かにできたか。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・「上代」、「中古」という時代区分、時代背景など受講にあたり必要な事柄について把握する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	『古事記』『日本書紀』を読む（一） ・『古事記』『日本書紀』に関する概説。 ・『古事記』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・漢字を導入して日本語（ヤマトコトバ）を表記していく上代の人々の創意工夫、苦労について考える。	
	【予習】前回配布の資料に目を通し、上代の文学史的特徴を把握しておく。 【復習】授業時に読んだ『古事記』の部分を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第3回	『古事記』『日本書紀』を読む（二） ・前回の授業を振り返る。 ・『古事記』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・上代の人々のものの考え方、暮らしぶりを言葉を頼りに考える。	
	【予習】前回の授業で読んだ『古事記』の前後の部分や注についても読んでおく。 【復習】授業時に読んだ『古事記』の部分を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０

第4回	『古事記』『日本書紀』を読む（三） ・『日本書紀』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・『古事記』と『日本書紀』の違いについて考える。 ・授業の理解度を確認するための小テストを実施する。	
	【予習】講読した箇所を中心に授業を振り返り、小テストに備える。	６０
第5回	『万葉集』『風土記』を読む（一） ・小テストの返却と答え合わせ。 ・『万葉集』『風土記』に関する概説。 ・『万葉集』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・万葉仮名について考える。	
	【復習】小テストの結果を踏まえ、復習する。 授業時に読んだ『万葉集』の歌を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	６０
第6回	『万葉集』『風土記』を読む（二） ・前回の授業を振り返る。 ・『万葉集』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・歌を詠んでいる人々と、それを記録する人々について考える。	
	【予習】前回の授業時に読んだ『万葉集』の歌の、前後の歌についても注など含めて読んでおく。 【復習】授業時に読んだ『万葉集』の歌を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第7回	『万葉集』『風土記』を読む（三） ・『風土記』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・「中央」に対する「地方」について考える。 ・授業の理解度を確認するための小テストを実施する。	
	【予習】とりあげられた『万葉集』の歌を中心に授業を振り返り、小テストに備える。	６０
第8回	『古今和歌集』と関連作品を読む（一） ・小テストの返却と答え合わせ。 ・『古今和歌集』に関する概説。 ・『古今和歌集』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・仮名文字による表記について考える。	
	【復習】小テストの結果を踏まえ、復習する。 授業時に読んだ『古今和歌集』の歌を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	６０
第9回	『古今和歌集』と関連作品を読む（二） ・前回の授業を振り返る。 ・『古今和歌集』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・「歌うこと」について考える。	
	【予習】前回の授業時に読んだ『古今和歌集』の歌の、前後の歌についても注など含めて読んでおく。 【復習】授業時に読んだ『古今和歌集』の歌を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０

第10回	『古今和歌集』と関連作品を読む（三） ・関連作品を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・歌集や歌物語について考える。 ・授業の理解度を確認するための小テストを行う。	
	【予習】とりあげられた『古今和歌集』の歌を中心に授業を振り返り、小テストに備える。	６０
第11回	『源氏物語』と関連作品を読む（一） ・小テストの返却と答え合わせ。 ・『源氏物語』に関する概説。 ・『源氏物語』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・物語について考える。	
	【復習】小テストの結果を踏まえ、復習する。 授業時に読んだ『源氏物語』の部分を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	６０
第12回	『源氏物語』と関連作品を読む（二） ・『源氏物語』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・「書くこと」について考える。	
	【予習】前回の授業で読んだ『源氏物語』の前後の部分や注についても読んでおく。 【復習】授業時に読んだ『源氏物語』の部分を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第13回	『源氏物語』と関連作品を読む（三） ・『源氏物語』を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・「読むこと」について考える。	
	【予習】前回の授業で読んだ『源氏物語』の前後の部分や注についても読んでおく。 【復習】授業時に読んだ『源氏物語』の部分を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉について注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第14回	『源氏物語』と関連作品を読む（四） ・関連作品を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・作品同士を比較し、影響関係について考える。	
	【予習】前回の授業で読んだ『源氏物語』の前後の部分や注についても読んでおく。 【復習】授業時に読んだ関連作品を今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。自分自身で作品比較を試みる。	３０ ３０
第15回	『源氏物語』と関連作品を読む（五） ・関連作品を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・授業の理解度を確認するための小テストを行う。 ・小テストの解説と授業のまとめ。	
	【予習】講読した箇所を中心に授業を振り返り、小テストに備える。	６０

授業の方法

「読む」ことが、現在のような黙読ではなかった当時の状況をふまえ、適宜、授業内では音読を試みます。また、毎回ではありませんが、授業内容の理解を確認するため、小テストを行います。

成績評価の方法

出席を含めた授業への取り組み（２０%程度）、小テスト（３０%程度）、学期末レポート（５０%程度）により判断します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①上代から中古にかけて成立した文学を味わい、親しみ、理解できたか。
②漢字から仮名への発達、使用環境をおおまかにでもイメージできるか。
③自らの日本語の語彙力、表現力をこれまでより豊かにできたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

古典文法等の予備知識は前提としません。

テキスト

プリントを配布します。

参考書

毎回の授業に、筆記具と古語辞典（電子辞書でも古語辞典が含まれていれば可）を必ず持参してください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

毎回の授業終了後に教室で受け付けます。オフィスアワーは授業初回の「ガイダンス」でお知らせしますが、学内専用ホームページでも確認できます。

科目名	古典日本語Ｂ ＜1＞		
教員名	青島　麻子		
科目ナンバー	1001035020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

この授業では、鎌倉時代から江戸時代までの文学作品を味読していきます。前代までの作品を規範としながらも、それを発展させた新たな形の文学が次々と生み出され、多くの人々に享受されていった時代です。様々なジャンルの原文に触れることで、それらの魅力を知ってもらいたいと考えています。
またこの時代の作品には、現在の日本文化と直接繋がっているものも少なくありません。そのため授業では、絵画・映像資料や、古典作品を典拠とした小説・漫画などとの比較も適宜取り入れていきます。古典世界を遠い世界のものと見なすのではなく、より身近なものとして親しんでほしいと思います。

到達目標

散文・韻文問わず様々なジャンルの作品の原文を読むことで、それらの特質を学びます。具体的な表現に着目することで、言葉の用いられ方に意識的になることを目指します。
併せて、当時の人々の生活慣習や時代背景についても考察を深め、多角的に作品を読解していく力を養うことを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	導入 教科書の中の古文	
	【予習】シラバスをよく読み、授業の進め方や扱う作品を確認しておきましょう。	30
第2回	説話① 説話の話題とは	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第3回	説話② 絵巻物をひもとく	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60

第4回	和歌① 百人一首の謎	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第5回	和歌② 和歌のレトリック	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第6回	軍記物語① 平家物語と史実	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第7回	軍記物語② 多様な芸能と軍記	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第8回	随筆 徒然草の読み方	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第9回	演劇① 能の詞章を味わう	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60

第10回	演劇② 歌舞伎の世界	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第11回	浮世草子 古典のパロディ	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第12回	読本 雨月物語の怪談	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第13回	俳諧 松尾芭蕉と旅	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。 【復習】授業を振り返り、不明点がないか確認しておいてください。返却された小課題にも目を通しておきましょう。	60
第14回	戯作 対話のおもしろさ	
	【予習】適宜、次回読む作品の資料を配付します。現代語訳で構わないので、目を通しておいてください。また、授業中に提示した参考文献も自主的に読んでおきましょう。	30
第15回	確認テスト	
	【予習】これまでの授業内容を振り返り、確認テストに備えてください。今まで返却された全ての小課題にも今一度目を通しておきましょう。	120

授業の方法

授業の進度は受講者の理解度に応じます。
基本的には講義形式ですが、小課題やグループワークなどの作業時間を毎回設けます。主体的に取り組むことを望みます。

成績評価の方法

3分の2以上の出席を単位取得の前提とします。
コメントペーパーを含めた授業態度（20%）、授業中の小課題（30%）、学期末テスト（50%）により総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

古文の文法・単語などについての予備知識は前提としません。

テキスト

毎回プリントを配布します。

参考書

参考書は、授業中に適宜紹介します。
毎回の授業に、古語辞典（古語辞典が含まれていれば電子辞書でも可）を持ってきてください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	古典日本語Ｂ ＜2＞		
教員名	土居　奈生子		
科目ナンバー	1001035020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

　この授業は、中世以後の散文・韻文等、様々な文章を読み、古典文学に慣れ親しむことを主眼としています。当時の人々の暮らしぶりや考え方について、言葉を中心におきつつ、ほかの要素も加え多角的に考えます。
　印刷技術の導入、識字層の拡大とともに、発展し、多様化する文学のあり方についても学びます。そのため、絵巻や絵入り版本、浄瑠璃本など、他芸との組み合わせにも注意しつつ、授業で作品をとりあげます。古くからの言葉や文章に触れることで、受講生自身の日本語の語彙力、表現力を養うことも目指しています。

到達目標

①中世から近世にかけて成立した古典文学、ひいては芸能をじっくりと味わい、親しむことができたか。
②中世以後の文学を中心に、多様に発展した日本文化をおおまかにでも理解できたか。
③　①②により、自分自身の日本語の語彙力、表現力をより豊かにできたか。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・「中世」、「近世」という時代区分、時代背景など受講にあたり必要な事柄について把握する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	絵巻を解く（一） ・絵巻に関する概説。 ・授業でとりあげる絵巻作品のもとになった文学作品を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・絵巻作品と文学作品との関係を文学・芸能史的に位置づける。	
	【予習】前回配布の資料に目を通し、中世の文芸史的特徴を把握しておく。 【復習】授業時に読んだ古典作品を、今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉については注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第3回	絵巻を解く（二） ・前回授業を振り替える。 ・絵巻の鑑賞と解説。	
	【復習】鑑賞した絵巻作品を中心に、これまでの授業を振り返り、次回の小テストに備える。	６０

第4回	絵巻を解く（三） ・古典作品と絵巻作品を改めて比較し、分析する。 ・絵巻の技法や、特徴について学修する。 ・現代につながる影響について学修する。 ・授業の理解度を確認するための小テストを実施する。	
	【予習】鑑賞した絵巻作品を中心に、これまでの授業を振り返り、小テストに備える。古典作品についても読み返す。	６０
第5回	軍記を読む（一） ・小テストの返却と答え合わせ。 ・軍記に関する概説。 ・授業でとりあげる軍記物語を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。	
	【復習】小テストの結果を踏まえ、復習する。 授業時に読んだ軍記物語を、今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉については注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	６０
第6回	軍記を読む（二） ・前回の授業を振り返る。 ・引き続き軍記物語を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・関連する古典作品を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。	
	【予習】前回とりあげられた軍記物語において、授業時に読み切れなかった前後の部分や、注について一通り読んでおく。 【復習】授業時に読んだ軍記物語を、今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉については注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第7回	軍記を読む（三） ・前回の授業を振り返る。 ・引き続き軍記物語を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・関連する事項の補足解説。	
	【予習】前回とりあげられた関連古典作品を、今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。授業時に読み切れなかった部分があれば一通り読んでおく。 【復習】授業時に読んだ軍記物語を、今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉については注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第8回	軍記を読む（四） ・前回の授業を振り返る。 ・引き続き軍記物語を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・授業の理解度を確認するための小テストを実施する。	
	【予習】講読した軍記物語を中心に、これまでの授業を振り返り、小テストに備える。	６０
第9回	連歌・俳諧を詠む（一） ・小テストの返却と答え合わせ。 ・連歌から俳諧、俳句への概説。 ・授業でとりあげる俳諧の連歌または俳諧入りの紀行文を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。	
	【復習】小テストの結果を踏まえ、復習する。 授業時に読んだ俳諧に関する作品を、今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉については注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	６０

第10回	連歌・俳諧を詠む（二） ・前回の授業を振り返る。 ・引き続き授業でとりあげる俳諧の連歌または俳諧入りの紀行文を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・関連する事項の補足解説。	
	【予習】前回授業時に読んだ俳諧に関する作品の前後、注など含めて読んでおく。 【復習】授業時に読んだ俳諧に関する作品を、今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉については注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第11回	連歌・俳諧を詠む（三） ・前回の授業を振り返る。 ・引き続き授業でとりあげる俳諧の連歌または俳諧入りの紀行文を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・授業の理解度を確認するための小テストを実施する。	
	【予習】講読した俳諧に関する作品を中心に授業を振り返り、小テストに備える。	６０
第12回	芸能を観る（一） ・小テストの返却と答え合わせ。 ・日本古来からの身体表現による諸芸能について、言語表現である文学作品と関わらせながら学修する。 ・DVD鑑賞する芸能の、鑑賞前の下勉強を行う。	
	【復習】小テストの結果を踏まえ、復習する。 授業で取り扱った芸能について振り返り、これまで鑑賞したことがあるものについて、あるいはこれから鑑賞したいものについて調べてみる。	６０
第13回	芸能を観る（二） ・前回授業において下勉強した芸能作品についてのDVD鑑賞を行う。	
	【予習】授業時に鑑賞する芸能作品について、授業時配布の資料を中心に学修しておく。 【復習】鑑賞した作品を振り返り、資料を頼りに見所、特徴について考える。	３０ ３０
第14回	戯作を楽しむ（一） ・日本における印刷技術の発達について学修する。 ・絵入り版本の中でも戯作作品を読む（原文音読による内容把握、解説）。	
	【復習】授業時に読んだ戯作作品を、今一度、読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉については注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	６０
第15回	戯作を楽しむ（二） ・前回の授業を振り返る。 ・引き続き絵入り版本の中でも戯作作品を読む（原文音読による内容把握、解説）。 ・授業の理解度を確認するための小テストを実施する。 ・小テストの解説と授業のまとめ。	
	【予習】前回授業時に読んだ戯作作品の前後、注など含めて読んでおく。 芸能の鑑賞に関する授業から、戯作作品に関する授業までの内容を振り返り、小テストに備える。	６０

授業の方法

「読む」ことが、現在のような黙読ではなかった当時の状況をふまえ、適宜、授業内では音読を試みます。音読するのみならず、絵や所作をともなうものについては、それらを含め鑑賞し、技法や特徴についても学びます。また、毎回ではありませんが、授業内容の理解を確認するための小テストを行います。

成績評価の方法

出席を含めた授業への取り組み（２０%程度）、小テスト（３０%程度）、学期末レポート（５０%程度）により判断します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①中世から近世にかけて成立した文学や芸能を味わい、親しみ、理解できたか。
②多様に発展した日本文化の全体像をおおまかにでもイメージできるか。
③自らの日本語の語彙力、表現力をこれまでより豊かにできたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

古典文法等の予備知識は前提としません。

テキスト

プリントを配布します。

参考書

毎回の授業に、筆記具と古語辞典（電子辞書でも古語辞典が含まれていれば可）を必ず持参してください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

毎回の授業終了後に教室で受け付けます。オフィスアワーは授業初回の「ガイダンス」でお知らせしますが、学内専用ホームページでも確認できます。

科目名	古典日本語Ｂ ＜3＞		
教員名	土居　奈生子		
科目ナンバー	1001035020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

　この授業は、中世以後の散文・韻文等、様々な文章を読み、古典文学に慣れ親しむことを主眼としています。当時の人々の暮らしぶりや考え方について、言葉を中心におきつつ、ほかの要素も加え多角的に考えます。
　印刷技術の導入、識字層の拡大とともに、発展し、多様化する文学のあり方についても学びます。そのため、絵巻や絵入り版本、浄瑠璃本など、他芸との組み合わせにも注意しつつ、授業で作品をとりあげます。古くからの言葉や文章に触れることで、受講生自身の日本語の語彙力、表現力を養うことも目指しています。

到達目標

①中世から近世にかけて成立した古典文学、ひいては芸能をじっくりと味わい、親しむことができたか。
②中世以後の文学を中心に、多様に発展した日本文化をおおまかにでも理解できたか。
③　①②により、自分自身の日本語の語彙力、表現力をより豊かにできたか。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・「中世」、「近世」という時代区分、時代背景など受講にあたり必要な事柄について把握する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	３０ ３０
第2回	絵巻を解く（一） ・絵巻に関する概説。 ・授業でとりあげる絵巻作品のもとになった文学作品を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・絵巻作品と文学作品との関係を文学・芸能史的に位置づける。	
	【予習】前回配布の資料に目を通し、中世の文芸史的特徴を把握しておく。 【復習】授業時に読んだ古典作品を、今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉については注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第3回	絵巻を解く（二） ・前回授業を振り替える。 ・絵巻の鑑賞と解説。	
	【復習】鑑賞した絵巻作品を中心に、これまでの授業を振り返り、次回の小テストに備える。	６０

第4回	絵巻を解く（三） ・古典作品と絵巻作品を改めて比較し、分析する。 ・絵巻の技法や、特徴について学修する。 ・現代につながる影響について学修する。 ・授業の理解度を確認するための小テストを実施する。	
	【予習】鑑賞した絵巻作品を中心に、これまでの授業を振り返り、小テストに備える。古典作品についても読み返す。	６０
第5回	軍記を読む（一） ・小テストの返却と答え合わせ。 ・軍記に関する概説。 ・授業でとりあげる軍記物語を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。	
	【復習】小テストの結果を踏まえ、復習する。 授業時に読んだ軍記物語を、今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉については注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	６０
第6回	軍記を読む（二） ・前回の授業を振り返る。 ・引き続き軍記物語を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・関連する古典作品を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。	
	【予習】前回とりあげられた軍記物語において、授業時に読み切れなかった前後の部分や、注について一通り読んでおく。 【復習】授業時に読んだ軍記物語を、今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉については注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第7回	軍記を読む（三） ・前回の授業を振り返る。 ・引き続き軍記物語を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・関連する事項の補足解説。	
	【予習】前回とりあげられた関連古典作品を、今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。授業時に読み切れなかった部分があれば一通り読んでおく。 【復習】授業時に読んだ軍記物語を、今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉については注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第8回	軍記を読む（四） ・前回の授業を振り返る。 ・引き続き軍記物語を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・授業の理解度を確認するための小テストを実施する。	
	【予習】講読した軍記物語を中心に、これまでの授業を振り返り、小テストに備える。	６０
第9回	連歌・俳諧を詠む（一） ・小テストの返却と答え合わせ。 ・連歌から俳諧、俳句への概説。 ・授業でとりあげる俳諧の連歌または俳諧入りの紀行文を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。	
	【復習】小テストの結果を踏まえ、復習する。 授業時に読んだ俳諧に関する作品を、今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉については注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	６０

第10回	連歌・俳諧を詠む（二） ・前回の授業を振り返る。 ・引き続き授業でとりあげる俳諧の連歌または俳諧入りの紀行文を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・関連する事項の補足解説。	
	【予習】前回授業時に読んだ俳諧に関する作品の前後、注など含めて読んでおく。 【復習】授業時に読んだ俳諧に関する作品を、今一度、現代語とともに読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉については注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	３０ ３０
第11回	連歌・俳諧を詠む（三） ・前回の授業を振り返る。 ・引き続き授業でとりあげる俳諧の連歌または俳諧入りの紀行文を読む（原文音読ならびに現代語訳による内容把握、解説）。 ・授業の理解度を確認するための小テストを実施する。	
	【予習】講読した俳諧に関する作品を中心に授業を振り返り、小テストに備える。	６０
第12回	芸能を観る（一） ・小テストの返却と答え合わせ。 ・日本古来からの身体表現による諸芸能について、言語表現である文学作品と関わらせながら学修する。 ・DVD鑑賞する芸能の、鑑賞前の下勉強を行う。	
	【復習】小テストの結果を踏まえ、復習する。 授業で取り扱った芸能について振り返り、これまで鑑賞したことがあるものについて、あるいはこれから鑑賞したいものについて調べてみる。	６０
第13回	芸能を観る（二） ・前回授業において下勉強した芸能作品についてのDVD鑑賞を行う。	
	【予習】授業時に鑑賞する芸能作品について、授業時配布の資料を中心に学修しておく。 【復習】鑑賞した作品を振り返り、資料を頼りに見所、特徴について考える。	３０ ３０
第14回	戯作を楽しむ（一） ・日本における印刷技術の発達について学修する。 ・絵入り版本の中でも戯作作品を読む（原文音読による内容把握、解説）。	
	【復習】授業時に読んだ戯作作品を、今一度、読み返し理解を深める。その中で、わからなかった言葉については注や辞書で調べ、自身の語彙として修得する。	６０
第15回	戯作を楽しむ（二） ・前回の授業を振り返る。 ・引き続き絵入り版本の中でも戯作作品を読む（原文音読による内容把握、解説）。 ・授業の理解度を確認するための小テストを実施する。 ・小テストの解説と授業のまとめ。	
	【予習】前回授業時に読んだ戯作作品の前後、注など含めて読んでおく。 芸能の鑑賞に関する授業から、戯作作品に関する授業までの内容を振り返り、小テストに備える。	６０

授業の方法

「読む」ことが、現在のような黙読ではなかった当時の状況をふまえ、適宜、授業内では音読を試みます。音読するのみならず、絵や所作をともなうものについては、それらを含め鑑賞し、技法や特徴についても学びます。また、毎回ではありませんが、授業内容の理解を確認するための小テストを行います。

成績評価の方法

出席を含めた授業への取り組み（２０%程度）、小テスト（３０%程度）、学期末レポート（５０%程度）により判断します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①中世から近世にかけて成立した文学や芸能を味わい、親しみ、理解できたか。
②多様に発展した日本文化の全体像をおおまかにでもイメージできるか。
③自らの日本語の語彙力、表現力をこれまでより豊かにできたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

古典文法等の予備知識は前提としません。

テキスト

プリントを配布します。

参考書

毎回の授業に、筆記具と古語辞典（電子辞書でも古語辞典が含まれていれば可）を必ず持参してください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

毎回の授業終了後に教室で受け付けます。オフィスアワーは授業初回の「ガイダンス」でお知らせしますが、学内専用ホームページでも確認できます。

科目名	上級日本語表現　（社会のなかの言葉）		
教員名	永澤　済		
科目ナンバー	1001035101	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本講義では、社会のなかの言葉を多角的に――歴史・文化・言語構造・ルール・人権・コミュニケーション等の観点から――考察する。情報が飛び交う社会のなかで、言葉を主体的に受け取る力や表現力を養い、配慮と責任ある言葉の使い手になることを目標とする。

到達目標

言葉を見つめることを通して、社会の一員としてものごとをよく考える姿勢を身につける。
配慮と責任をもって言葉を使うことができるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	1.　社会の中の言葉 社会の中で言葉は重要な役割を果たしている。一方、言葉をめぐり様々な問題もある。社会に生きる私達はそのことに自覚的である必要がある。言葉・日本語の歴史にふれながら、イントロダクションを行う。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60
第2回	2.　文書の歴史 日本では、古代の文字移入以降、大量の文書作成が行われてきた。証文、権利文書、裁判文書など、現代のビジネスや生活において不可欠の「文書」の歴史を概観する。文書の偽造、改ざんにもふれる。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60
第3回	3.　手紙の歴史 手紙は、他者に意思や情報を伝える重要な手段である。古代から現代まで様式の変化こそあれ、その重要性は変わらない。手紙の歴史にふれながら、時と場合に応じた手紙の書き方を解説する。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60

第4回	4.　表現の自由と責任 　表現の自由は、憲法で保障された重要な権利である。プライバシーの侵害や名誉棄損など、表現の自由をめぐって争った裁判の判例などを示しながら、「社会的に表現する」とはどういうことかを考える。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60
第5回	5.　表現と著作権 　現代社会は、コピー機、パソコン、ビデオなどの普及により、従来以上に著作権保護が問題になっている。学問、仕事、日常生活における表現の場で注意すべき著作権の問題を解説する。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60
第6回	6.　メッセージを端的に伝える―命名、キャッチコピー 　商品名やキャッチコピーは、短い言葉で受け手のイメージを喚起し、商品の売れ行きを大きく左右する。その好例を示しながら、言葉のもつ表現力について考える。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60
第7回	7.　非母語話者の人権―法廷通訳を例に 　日本語は日本社会の最も基本的なコミュニケーション手段である。だが、その運用能力が十分でない人たちが存在する。非母語話者の直面する社会問題の中から、例として法廷通訳の問題を取り上げる。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60
第8回	8.　差別と表現 　差別語を中心に差別と表現の問題を考える。差別意識は無くとも、ある表現が、他者にとっては差別的に感じられる場合がある。他者に不快を与える表現を避け、適切に表現する姿勢を伝える。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60
第9回	9.　マスメディア 　現代社会のマスメディアは、様々な表現で情報を伝える。マスメディアが何をどのように伝えているかを考えることにより社会に大きな影響力を与えるメディアの役割と危険性を考える。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60

第10回	10. 広告 広告は、商品や意見をアピールする手段として現代社会で大きな力をもっている。作り手の側、受け手の側の両面から広告について考える。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60
第11回	11. 匿名と責任―インターネット、アンケート 社会に言葉を発信することには責任を伴う。しかし、web上のブログや掲示版で他者の人格を否定したり秘密を漏えいしたりする人が増えている。現代社会の表現における匿名性と責任について考える。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60
第12回	12. 文書に書き残すことの効力と口頭伝達 重要な契約や金銭の授受は大抵、文書のやりとりを伴う。また、手形の文言証券性にみられるように、書面上の記載（のみ）が有効に働く場合がある。現代社会における文書の効力について考える。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60
第13回	13. 電子文書と署名の変容 インターネットの発達した現代は、ペーパーレス化が進んでいる。その利点や危険性を考える。また、公文書やビジネスの場で利用の増えている「電子署名」による本人確認と改ざん防止のしくみを解説する。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60
第14回	14. 様々な立場の意見―社説の比較 新聞各社の社説を比較し、多様な意見とその表現の仕方について考える。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60
第15回	15. コミュニケーション まとめとして、意見の異なる他者との対話について考える。迎合でなく単なる否定でもない、より高い次元で理解し合うには、論理的に表現し主体的に受け取る力を磨くことが必要であることを確認する。	
	授業の内容を自分の言葉でまとめ、普段の生活でいかせるようにする。関連文献や作品にふれ、考察を深める。	60

授業の方法

講義と、それにもとづく課題。授業中に意見を聞くことがある。

成績評価の方法

授業中に指示する課題により評価します。講義内容をもとに、社会に目を向け、自分自身でよく考えてください。評価にあたっては、その姿勢を重視します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。４学部いずれの学生であっても予備知識なしで受講可能である。

テキスト

特になし。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	上級日本語表現　（成蹊俳句教室）		
教員名	高田　正子		
科目ナンバー	1001035100	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

俳句は世界最短の詩です。五七五のたった十七音字。これだけで表現が可能なのか、不思議ではありませんか。言葉をさがし、組み立てることは、今の自分と向き合い、慈しむことに通じます。俳句を実際に作りながら、まずそれを実感しましょう。そして作品をお互いに鑑賞しあうことを通して、完成度を高めていきます。表現力と鑑賞力は、俳句に限らず創作の両輪です。実作者として他者の作品に向き合い、表現力を更に高めましょう。

到達目標

①季語（季節の言葉）の現場に実際に立ち、実感しながら季語を会得する。
②心に宿った今現在の心情を、定型俳句のリズムに乗せてうたうことができる。
③他者の作った俳句の意味を的確に解釈し、鑑賞することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、準備の仕方等を説明する。 ・「季語」と「歳時記」について概略を説明する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】・授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。 ・歳時記を購入する。	30 30
第2回	吟行（１） ・「季語」をさがしながらキャンパスを歩く。 ・出会った季語を使って俳句を作る。	
	【予習】出会いそうな季語を「歳時記」で確認しておく。 【復習】出会った季語を再確認する。	30 30
第3回	第２回の続き ・吟行で作った俳句を用い、表現について考える。	
	【復習】季語を含め、新しく得た語彙、表現を再確認する。	30

第4回	句会（１） ・俳句を作って持ち寄り、互いに鑑賞しあうシステム＝句会を知る。 ・句会の手順を、実際に句会を進めながら学ぶ。	
	【予習】句会に提出する作品を作る。 【復習】句会の結果を受けて、作品に推敲等を施す。	＊30～ 30
第5回	句会（２） ・前回の俳句作品の記録を、添削例を付けて配布する。 ・手順を再確認しながら句会を行う。スムーズな進行のためのポイントを押さえる。	
	【予習】句会に提出する作品を作る。 【復習】・句会の結果を受けて、作品に推敲等を施す。 ・前回の作品録を読み、添削例を再確認する。	＊30～ 30
第6回	吟行（２） ・前回の俳句作品の記録を、添削例を付けて配布する。 ・第２回と同じルートを歩き、ひと月の違いを味わう。 ・吟行句を作って提出する。	
	【予習】出会いそうな季語を「歳時記」で確認しておく。 【復習】・出会った季語を再確認する。 ・前回の作品録を読み、添削例を再確認する。	30 30
第7回	第６回の続き ・吟行で作った俳句を用い、表現について考える。	
	【復習】季語を含め、新しく得た語彙、表現を再確認する。	30
第8回	句会（３） ・手順をマスターしたことを前提に、合評（お互いに講評しあうこと）に重点をおいて句会を行う。俳句を的確に読み解くためのポイントを押さえる。	
	【予習】句会に提出する作品を作る。 【復習】句会の結果を受けて、作品に推敲等を施す。	＊30～ 30
第9回	句会（４） ・前回の俳句作品の記録を、添削例を付けて配布する。 ・スムーズに、かつ積極的に展開するための最終確認をしながら句会を行う。	
	【予習】句会に提出する作品を作る。 【復習】・句会の結果を受けて、作品に推敲等を施す。 ・前回の作品録を読み、添削例を再確認する。	＊30～ 30

第10回	吟行（３） ・前回の俳句作品の記録を、添削例を付けて配布する。 ・更にひと月経ったキャンパスを吟行する。	
	【予習】出会いそうな季語を「歳時記」で確認しておく。 【復習】・出会った季語を再確認する。 ・前回の作品録を読み、添削例を再確認する。	30 30
第11回	第10回の続き ・吟行で作った俳句を用い、表現について考える。	
	【復習】季語を含め、新しく得た語彙、表現を再確認する。	30
第12回	現代の秀句鑑賞 ・小中学生の俳句大会入賞作品などを読む。 ・現代の若い俳人の作品を中心に秀句を読む。	
	【復習】共鳴句をチェックする。	30
第13回	鑑賞文を書く（１） ・自作の背景、意図等をまとめた文章をひとりずつ読み上げる。 ・その場で一編ずつ講評する。	
	【予習】既発表作品から自信作１句を選び、解説文（200字程度）を書く。	30
第14回	鑑賞文を書く（２） ・選句の理由、解釈と鑑賞等をまとめた文章をひとりずつ読み上げる。 ・その場で一編ずつ講評する。	
	【予習】授業で出会った作品の中から共鳴句を１句選び、鑑賞文（200字程度）を書く。	30
第15回	最終句会（まとめ） ・講師の捌き（さばき）により、世の中で行われているものと同等の句会を体験する。 ・授業のまとめも兼ねた講評までを、時間内に行う。	
	【予習】・句会に提出する作品を作る。 ・授業時間内にレポートが提出できるよう、準備する。	＊30～

授業の方法

・季語を体感するため、俳句のフィールドワークとも言える「吟行」を柱として、授業を組み立てていきます。
・「句会」というお互いの作品を鑑賞しあうシステムを授業に取り入れます。相互に鑑賞しあい、講師からのアドバイスを受けて、作品の完成度を高めていきます。
＊創作活動に時間の制限をつけることは難しいですが、授業外の個人作業は不可欠ですから、各自の生活サイクルの中に俳句と向き合う時間を作ってください。俳句は自得の文芸です。多く作り多く捨てた人ほど上達は早いです。
・学習指導要領に作句の時間が取り入れられたことを受け、小中学生が実際に作った作品に触れる時間を設けます。
・履修人数、授業の進捗によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況及び課題の提出状況）４０%、期末レポート４０%、積極性２０%により評価します。
・ほぼ毎回、作句などの在宅課題があります。授業終了時に記名して提出することにより、出席点かつ課題提出点とします。
・期末レポートとして「半期の作品集」をまとめていただきます。作品の巧みさより、どれだけ真剣に取り組むことができたかを重視します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・季語を使って俳句を作ることができるようになったか。
・定型のリズムに乗って俳句を作ることができるようになったか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。
継続履修が可能です。履修経験のある受講生は、新たなテーマを設定して取り組んでください。

テキスト

その都度プリントを配付しますが、「歳時記」「国語辞典（電子辞書可）」は毎回必携です。
歳時記は、ガイダンスの説明を聞いて、各自で購入してください。
例：角川学芸出版の場合
『合本俳句歳時記　第四版』２３００円
『俳句歳時記　第四版増補』春、夏、秋、冬、新年５分冊各５５０円程度

参考書

授業中に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

電子メールも併用し、随時受け付けます。

科目名	上級文章表現演習 ＜1＞		
教員名	林　あまり		
科目ナンバー	1001035210	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

もっと文章がうまくなりたいなあ・・・と思ったこと、ありませんか。ほんのちょっとしたコツで、文章力はみるみるアップするものです。この授業では、まず皆さんの作文を徹底的に批評します。すべて手書きなので、クセ字の指摘もしていきます。もの書きとして生きている講師自身の体験に基づいたアドバイスを心がけます。就職活動の自己ＰＲ文作成などにも、参考になるはずです。同時に、優れたエッセイや現代詩にふれることで、読解力を伸ばします。

到達目標

わかりやすい文章を書くためのコツを学ぶ。
今までよりも伝えたいことが伝わる作文が書けるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	前もってシラバスをよく読んでおく。	10分
第2回	文章のコツについて講義の回	
	この回で出された課題の作文に取り組む。	180分
第3回	課題作文批評の回	
	この回の授業で配られた全員の作文を読んでくる。	60分

第4回	課題作文批評の回	
	終了後、授業で講師の言ったポイントを整理しておく。	30分
第5回	課題作文批評の回	
	前回までに発言出来ていない場合は、発言の準備をしてくる。	30分
第6回	課題作文批評の回	
	この回の終了後、全員の作文・批評を通して得たことを確認しておく。	30分
第7回	いい文章を読む回。どこがうまいのか解説。	
	この回で出された課題の作文に取り組む。	180分
第8回	課題作文批評の回	
	この回の授業で配られた全員の作文を読んでくる。	60分
第9回	課題作文批評の回	
	前回で発言出来ていない場合は、発言の準備をしてくる。	30分

第10回	課題作文批評の回	
	この回の終了後、全員の作文・批評を通して得たことを確認しておく。	30分
第11回	いい文章を読む回。どこがおもしろいのか解説。	
	ここまでの授業から、自分の文章の弱点などについて考えてみる。	30分
第12回	人生を豊かにする手紙・はがきの書き方	
	この回で出された課題の、はがきに取り組む。	60分
第13回	はがきの添削	
	終了後、手紙・はがきのポイントを整理しておく。	30分
第14回	現代詩を聴く	
	興味が持てれば、授業で紹介された詩集を図書館で眺めてみる。	30分
第15回	本とのつきあいかた	
	授業で紹介された書店など、ポイントを整理しておく。	30分

授業の方法

講義の回と、皆さんの提出作文を批評する回があります。批評の回では、作文を人数分コピーして全員に配布（無記名）してもらいます。互いに意見を言い、講師が評価します。作文提出は６００字・４００字各１回です。

成績評価の方法

平常点５０%、作文提出４０%（出来不出来でなく、〆切を守れたかどうかと、取り組みの姿勢）、授業での積極性１０%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.講義のポイントを理解し、課題に取り組めたか。締切を守れたか。他の人の作文について、感想などの発言が出来たか。真面目な態度で授業にのぞめたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

なし。そのつど、プリントを配ります。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	上級文章表現演習 ＜2＞		
教員名	林　あまり		
科目ナンバー	1001035210	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

もっと文章がうまくなりたいなあ・・・と思ったこと、ありませんか。ほんのちょっとしたコツで、文章力はみるみるアップするものです。この授業では、まず皆さんの作文を徹底的に批評します。すべて手書きなので、クセ字の指摘もしていきます。もの書きとして生きている講師自身の体験に基づいたアドバイスを心がけます。就職活動の自己ＰＲ文作成などにも、参考になるはずです。同時に、優れたエッセイや現代詩にふれることで、読解力を伸ばします。

到達目標

わかりやすい文章を書くためのコツを学ぶ。
今までよりも伝えたいことが伝わる作文が書けるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	前もってシラバスをよく読んでおく。	10分
第2回	文章のコツについて講義の回	
	この回で出された課題の作文に取り組む。	180分
第3回	課題作文批評の回	
	この回の授業で配られた全員の作文を読んでくる。	60分

第4回	課題作文批評の回	
	終了後、授業で講師の言ったポイントを整理しておく。	30分
第5回	課題作文批評の回	
	前回までに発言出来ていない場合は、発言の準備をしてくる。	30分
第6回	課題作文批評の回	
	この回の終了後、全員の作文・批評を通して得たことを確認しておく。	30分
第7回	いい文章を読む回。どこがうまいのか解説。	
	この回で出された課題の作文に取り組む。	180分
第8回	課題作文批評の回	
	この回の授業で配られた全員の作文を読んでくる。	60分
第9回	課題作文批評の回	
	前回で発言出来ていない場合は、発言の準備をしてくる。	30分

第10回	課題作文批評の回	
	この回の終了後、全員の作文・批評を通して得たことを確認しておく。	30分
第11回	いい文章を読む回。どこがおもしろいのか解説。	
	ここまでの授業から、自分の文章の弱点などについて考えてみる。	30分
第12回	人生を豊かにする手紙・はがきの書き方	
	この回で出された課題の、はがきに取り組む。	60分
第13回	はがきの添削	
	終了後、手紙・はがきのポイントを整理しておく。	30分
第14回	現代詩を聴く	
	興味が持てれば、授業で紹介された詩集を図書館で眺めてみる。	30分
第15回	本とのつきあいかた	
	授業で紹介された書店など、ポイントを整理しておく。	30分

授業の方法

　講義の回と、皆さんの提出作文を批評する回があります。批評の回では、作文を人数分コピーして全員に配布（無記名）してもらいます。互いに意見を言い、講師が評価します。作文提出は６００字・４００字各１回です。

成績評価の方法

平常点５０%、作文提出４０%（出来不出来でなく、〆切を守れたかどうかと、取り組みの姿勢）、授業での積極性１０%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.講義のポイントを理解し、課題に取り組めたか。締切を守れたか。他の人の作文について、感想などの発言が出来たか。真面目な態度で授業にのぞめたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

なし。そのつど、プリントを配ります。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ドキュメント作成演習 <1>		
教員名	浅岡　伴夫、天川　勝志		
科目ナンバー	1101035220	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

就職活動においてもっとも重視される力の一つが、コミュニケーション能力、特に客観的な情報を的確に伝達する情報コミュニケーションスキルである。ところが、理系・文系を問わず多くの大学生にこのスキルが欠如しており、年々そのレベルが低下していると言われている。これを逆に考えると、このスキルをしっかり身につけておけば、就職活動において優位に立てることになる。

この講義では、そのスキルの中で核となる技術文書やビジネス文書を作成するスキルを学ぶ。具体的には、理論解説・事例検討・演習を通じて、技術情報やビジネス情報を文書（ドキュメント）の形でわかりやすく表現するための工学的なスキルを体系的に習得する。ここでいう工学的なスキルとは、だれでも再現できる客観性のあるスキルのことである。

このほか、技術文書やビジネス文書の中身を濃くするために、どのような情報をどこからどのように収集し活用したらよいのかについても、新聞、書籍、雑誌、インターネットなどの情報を使って学ぶ。

到達目標

大学生活において日常的に作成するレポート、就職活動で重要な役割を担うエントリーシート、卒業論文はもとより、企業やその他の組織に入ってから日常的に作成することになる技術文書やビジネス文書をわかりやすく読みやすい形で作成する基本スキルを習得することを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	文書の必要性、必然性、文書の種類と利用目的について知る（浅岡）	
	【予習】身の回りにどのような種類の文書があるか調べ、作成の目的や用途について考えておく。	30
第2回	文書を書き始める前にすべきこと1：必要な情報を集め整理する（浅岡）	
	【予習】卒業論文を書くことを想定して、書き始める前に準備すべきことは何か考えてメモしておく。	30
第3回	文書を書き始める前にすべきこと2：どんな文書にするか企画する（浅岡）	
	【予習】文書の企画とは何かについて、参考書やインターネットなどで調べ、概要を理解しておく。	30

第4回	文書を書き始める前にすべきこと3：文書の内容を設計し内容目次を作る（浅岡）	
	【予習】文書の目次は何のためにあるのか、どのように作成したらよいのかについて、参考書やインターネットなどで調べておく。	30
第5回	文章表現に必要な用字の基礎知識：「送りがな」、「かなづかい」などについて学ぶ（浅岡）	
	【予習】普段書いているレポートや身近な文書において送りがなや仮名づかいがどのようになっているのか調べ、どのようなルールに基づいているのかについて参考書やインターネットなどで調べておく。	30
第6回	文章表現に必要な表記法：カタカナ語、数字、数量単位などについて学ぶ（浅岡）	
	【予習】普段書いているレポートや身近な文書においてカタカナ語、数字、数量単位がどのように使われているのか調べ、どのようなルールに基づいているのかについて参考書やインターネットなどで調べておく。	30
第7回	文章表現の基礎1：句読点の使い方、修飾語の順序などについて学ぶ（浅岡）	
	【予習】普段書いているレポートや身近な文書において句読点の使い方や修飾語の順序がどのようになっているのか調べ、どのようなルールに基づいているのかについて、参考書やインターネットなどで調べておく。	30
第8回	文章表現の基礎2：助詞の使い方、係り結びなどについて学ぶ（浅岡）	
	【予習】普段書いているレポートや身近な文書において助詞の使い方や係り結びがどのようになっているのか調べ、どのようなルールに基づいているのかについて、参考書やインターネットなどで調べておく。	30
第9回	読みやすい文章のポイント（誰のため、何のための文章作成か）ー「評価者」の視点を体験してみる（天川）	
	【復習】課題の文章を読み、評価者の視点でコメントをつけてもらいます。	30

第10回	わかりやすい文章を書くルール（伝わらなければ意味がない）－簡潔かつ一貫性をもって書く（天川）	
	【復習】テーマに基づき、簡潔な文章作成に取り組んでもらいます。	60
第11回	学生に共通する文章表現上の不備－文章改善before-after(1)（天川）	
	【復習】授業を振り返り、演習問題に取り組んでもらいます。	60
第12回	学生に共通する文章表現上の不備－文章改善before-after(2)（天川）	
	【復習】授業を振り返り、演習問題に取り組んでもらいます。	60
第13回	インパクトのある文章作成（読み手の心を掴む文章とは）-文章表現、図解表現（天川）	
	【復習】授業を振り返り、図解に取り組んでもらいます。	30
第14回	定型フォーマットの活用－文章編、e-mail編（天川）	
	【復習】テーマを決め、実際にメールを作成し、送ってもらいます。	60
第15回	「書く力」を鍛える方法-上達のためのトレーニング法とは（天川）	
	【復習】文章作成にチャレンジしてもらいます。作成した文章は、個別にフィードバックします（方法は授業時に相談のうえ、決定）。	90

授業の方法

参考書やその他資料を使った講義を軸とし、演習を随時行う。上記の授業計画はあくまでも目安であって、受講者の要望や反応に応じて講義内容を柔軟に変えていく。毎回出席をとる。質問・疑問や意見を自由に述べる形で、学生が講義に積極的に参加することを期待する。

成績評価の方法

授業内への参加度合（質問・発言・演習への取組み姿勢）（30%）、演習（随時）の成果物（35%）、および最終レポート（35%）によって評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

なし。

参考書

『SE・製造技術者・理工系学生のための技術文書の作り方・書き方』（シーエーピー出版、2，800円＋税）。これ以外にも、随時資料を配付する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ドキュメント作成演習 ＜2＞		
教員名	浅岡　伴夫、天川　勝志		
科目ナンバー	1101035220	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

就職活動においてもっとも重視される力の一つが、コミュニケーション能力、特に客観的な情報を的確に伝達する情報コミュニケーションスキルである。ところが、理系・文系を問わず多くの大学生にこのスキルが欠如しており、年々そのレベルが低下していると言われている。これを逆に考えると、このスキルをしっかり身につけておけば、就職活動において優位に立てることになる。

この講義では、そのスキルの中で核となる技術文書やビジネス文書を作成するスキルを学ぶ。具体的には、理論解説・事例検討・演習を通じて、技術情報やビジネス情報を文書（ドキュメント）の形でわかりやすく表現するための工学的なスキルを体系的に習得する。ここでいう工学的なスキルとは、だれでも再現できる客観性のあるスキルのことである。

このほか、技術文書やビジネス文書の中身を濃くするために、どのような情報をどこからどのように収集し活用したらよいのかについても、新聞、書籍、雑誌、インターネットなどの情報を使って学ぶ。

到達目標

大学生活において日常的に作成するレポート、就職活動で重要な役割を担うエントリーシート、卒業論文はもとより、企業やその他の組織に入ってから日常的に作成することになる技術文書やビジネス文書をわかりやすく読みやすい形で作成する基本スキルを習得することを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	文書の必要性、必然性、文書の種類と利用目的について知る（浅岡）	
	【予習】身の回りにどのような種類の文書があるか調べ、作成の目的や用途について考えておく。	30
第2回	文書を書き始める前にすべきこと1：必要な情報を集め整理する（浅岡）	
	【予習】卒業論文を書くことを想定して、書き始める前に準備すべきことは何か考えてメモしておく。	30
第3回	文書を書き始める前にすべきこと2：どんな文書にするか企画する（浅岡）	
	【予習】文書の企画とは何かについて、参考書やインターネットなどで調べ、概要を理解しておく。	30

第4回	文書を書き始める前にすべきこと3：文書の内容を設計し内容目次を作る（浅岡）	
	【予習】文書の目次は何のためにあるのか、どのように作成したらよいのかについて、参考書やインターネットなどで調べておく。	30
第5回	文章表現に必要な用字の基礎知識：「送りがな」、「かなづかい」などについて学ぶ（浅岡）	
	【予習】普段書いているレポートや身近な文書において送りがなや仮名づかいがどのようになっているのか調べ、どのようなルールに基づいているのかについて参考書やインターネットなどで調べておく。	30
第6回	文章表現に必要な表記法：カタカナ語、数字、数量単位などについて学ぶ（浅岡）	
	【予習】普段書いているレポートや身近な文書においてカタカナ語、数字、数量単位がどのように使われているのか調べ、どのようなルールに基づいているのかについて参考書やインターネットなどで調べておく。	30
第7回	文章表現の基礎1：句読点の使い方、修飾語の順序などについて学ぶ（浅岡）	
	【予習】普段書いているレポートや身近な文書において句読点の使い方や修飾語の順序がどのようになっているのか調べ、どのようなルールに基づいているのかについて、参考書やインターネットなどで調べておく。	30
第8回	文章表現の基礎2：助詞の使い方、係り結びなどについて学ぶ（浅岡）	
	【予習】普段書いているレポートや身近な文書において助詞の使い方や係り結びがどのようになっているのか調べ、どのようなルールに基づいているのかについて、参考書やインターネットなどで調べておく。	30
第9回	読みやすい文章のポイント（誰のため、何のための文章作成か）ー「評価者」の視点を体験してみる（天川）	
	【復習】課題の文章を読み、評価者の視点でコメントをつけてもらいます。	30

第10回	わかりやすい文章を書くルール（伝わらなければ意味がない）－簡潔かつ一貫性をもって書く（天川）	
	【復習】テーマに基づき、簡潔な文章作成に取り組んでもらいます。	60
第11回	学生に共通する文章表現上の不備－文章改善before-after(1)（天川）	
	【復習】授業を振り返り、演習問題に取り組んでもらいます。	60
第12回	学生に共通する文章表現上の不備－文章改善before-after(2)（天川）	
	【復習】授業を振り返り、演習問題に取り組んでもらいます。	60
第13回	インパクトのある文章作成（読み手の心を掴む文章とは）-文章表現、図解表現（天川）	
	【復習】授業を振り返り、図解に取り組んでもらいます。	30
第14回	定型フォーマットの活用－文章編、e-mail編（天川）	
	【復習】テーマを決め、実際にメールを作成し、送ってもらいます。	60
第15回	「書く力」を鍛える方法-上達のためのトレーニング法とは（天川）	
	【復習】文章作成にチャレンジしてもらいます。作成した文章は、個別にフィードバックします（方法は授業時に相談のうえ、決定）。	90

授業の方法

参考書やその他資料を使った講義を軸とし、演習を随時行う。上記の授業計画はあくまでも目安であって、受講者の要望や反応に応じて講義内容を柔軟に変えていく。毎回出席をとる。質問・疑問や意見を自由に述べる形で、学生が講義に積極的に参加することを期待する。

成績評価の方法

授業内への参加度合（質問・発言・演習への取組み姿勢）（30%）、演習（随時）の成果物（35%）、および最終レポート（35%）によって評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

なし。

参考書

『SE・製造技術者・理工系学生のための技術文書の作り方・書き方』（シーエーピー出版、2，800円＋税）。これ以外にも、随時資料を配付する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	キャリアプランニング ＜1＞		
教員名	中島　誠一		
科目ナンバー	1101441010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

「キャリア」と聞いて、何をイメージしますか。具体的な職業や仕事内容・職歴や経歴などを思い浮かべる人も多いことでしょう。一般的にキャリアとは、仕事を通して身につけた経験や職歴のことを言いますが、仕事を軸として、人生をどのように生きていけばよいか、つまりは「生き方そのもの」という広義的な意味もあります。「自分はどのような人間なのか」「いま自分を取り巻く社会環境はどう変化しようとしているのか」「自分のやりたいこと、学びたいことは何なのか」。まだ大学生活は始まったばかりですが、いま考えなければならないことは、将来社会人になるにあたって欠かす事のできない事ばかりです。これからの学習や経験の一つ一つが、社会へ向けての第一歩を踏み出すために貴重なものであり、自分自身で考えて行動することによって、みなさんの能力が顕在化します。この授業の目標は、自分と社会を知り、多くの情報を自分なりに整理することによって大学生活や進路選択に向けて自分らしい行動計画を立てられるようになることです。自分の能力を過信することも悲観することもなく、自分らしい大学生活を送るためにこの授業を役立てることを期待します。

到達目標

①進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を学ぶ。
②多様化した働き方を知り、働く人を通して知識を増やす。
③社会の動きを知り、自分なりのテーマを持って調べる。
④グループの中で積極的に自分の意見を述べる。
⑤書いて伝える、話をして伝える能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンスーキャリアプランニングとは何か ・授業の内容と目的、進め方、予習と復習の仕方について説明。 ・キャリアとキャリア形成の方法を理解する。 ・卒業後の進路選択（働く・学ぶ）の可能性を知る。	
	【復習】授業を振り返り、授業に対して自分の目標を持つ。 大学生活のプランを考えてみる。	60
第2回	社会的責任について考える ・社会人と学生の違いについて理解し、どのような責任が発生するのかを知る。 ・責任と自己責任の違いを理解する。 ・働くことや職業への理解を深める。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第3回	組織と人間の関係について考える ・企業とは何か、組織とは何かを理解する。 ・企業活動と企業の社会的責任について理解する。 ・労働形態の多様化について理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で指示された課題に取り組む。	60

第4回	社会を知るⅠ ・我々を取り巻く環境はどのように変化しているのか理解する。 ・インターネット以外の情報収集の方法を知る。 ・社会のキーワードやヒット商品から社会のトレンドを知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	90
第5回	社会を知るⅡ ・ビジネスの現場を知る。 ・アイディアとはどのようにして生まれるのか体験する。 ・ビッグデータとデータの活用について知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第6回	社会に求められる人材と就職活動 ・就職活動の概要と方法を理解する。 ・社会が求める人材を理解する。 ・選考過程における多様性や最新の選考方法を知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第7回	ビジネス概論Ⅰ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第8回	ビジネス概論Ⅱ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第9回	資格と職業選択 ・資格の種類と資格への評価を理解する。 ・資格が必要な職業、資格を活かした職業を理解する。 ・公務員や教員として働くことを理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。興味を持った資格を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60

第10回	コミュニケーションは社会のベースⅠ ・コミュニケーションとは何かを理解する。 ・社会で求められる多様なコミュニケーションを理解する。 ・コミュニケーションの方法を知って実践する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第11回	コミュニケーションは社会のベースⅡ ・ビジネスや就職活動におけるマナーを理解する。 ・敬語の種類と言葉遣い、表現方法を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第12回	自己理解をする ・自己理解の重要性を理解し、自己理解の方法を知る。 ・自己の強みと弱みを認識する。 ・ワークシートに記入する。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。	70
第13回	自分を伝える ・自己理解の成果を伝える。 ・書き言葉と話し言葉の違いを理解する。 ・書いて伝える。 ・話をして伝える。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第14回	大学生活とキャリアを考える ・大学生活をどのように送るのかを考える。 ・働く現場やビジネスの現場を知る。 ・何を経験するか考えてみる。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べて、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第15回	授業のまとめ ・これまでの授業の振り返りをする。 ・授業の理解度を確認する。	
	【復習】これまでの授業を振り返り、理解できていないことや不足していることを確認して調べる。	60

授業の方法

授業は講義を主体に行いますが、授業中に各自が作業を行ったり、グループワークをして発表を行ったりすることがあります。授業では必要に応じてその都度プリント（レジュメ）を配布しますが、各自ノートを準備し板書以外の講義内容を書き取り復習に役立てるようにすること。
毎回、授業の最後に振り返りシートを記入します。狙いは授業をきちんと理解しているか自覚するため、書いて伝える力を養成するためです。
またテーマに応じて課題も出します。
課題の狙い
・授業で取り上げたキーワードを更に調べ理解を深める。
・インタビューをしたり調べるプロセスで新たな発見をするため。

成績評価の方法

課題提出（２０％）、授業への取り組みやグループワークへの積極的参加（４０％）、期末レポート（４０％）で総合評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
具体的な達成度
①時事用語について説明できる。
②自分の意見や考えを根拠を明確に伝えることができる。
③自分の意見や考えを「書く」「話す」で積極的に発信できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

キャリアセミナー

テキスト

特定のテキストは使用しません。必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示しますが、以下の書籍を理解促進として参照。
鈴木賞子著『大学生活・就活・キャリアがよくわかる本』（同友館）。
また日頃から新聞を読んだり、テレビの報道番組などを見ておくことも大切です。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	キャリアプランニング ＜2＞		
教員名	鈴木　賞子		
科目ナンバー	1101441010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

「キャリア」と聞いて、何をイメージしますか。具体的な職業や仕事内容・職歴や経歴などを思い浮かべる人も多いことでしょう。一般的にキャリアとは、仕事を通して身につけた経験や職歴のことを言いますが、仕事を軸として、人生をどのように生きていけばよいか、つまりは「生き方そのもの」という広義的な意味もあります。「自分はどのような人間なのか」「いま自分を取り巻く社会環境はどう変化しようとしているのか」「自分のやりたいこと、学びたいことは何なのか」。まだ大学生活は始まったばかりですが、いま考えなければならないことは、将来社会人になるにあたって欠かす事のできない事ばかりです。これからの学習や経験の一つ一つが、社会へ向けての第一歩を踏み出すために貴重なものであり、自分自身で考えて行動することによって、みなさんの能力が顕在化します。この授業の目標は、自分と社会を知り、多くの情報を自分なりに整理することによって大学生活や進路選択に向けて自分らしい行動計画を立てられるようになることです。自分の能力を過信することも悲観することもなく、自分らしい大学生活を送るためにこの授業を役立てることを期待します。

到達目標

①進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を学ぶ。
②多様化した働き方を知り、働く人を通して知識を増やす。
③社会の動きを知り、自分なりのテーマを持って調べる。
④グループの中で積極的に自分の意見を述べる。
⑤書いて伝える、話をして伝える能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンスーキャリアプランニングとは何か ・授業の内容と目的、進め方、予習と復習の仕方について説明。 ・キャリアとキャリア形成の方法を理解する。 ・卒業後の進路選択（働く・学ぶ）の可能性を知る。	
	【復習】授業を振り返り、授業に対して自分の目標を持つ。 大学生活のプランを考えてみる。	60
第2回	社会的責任について考える ・社会人と学生の違いについて理解し、どのような責任が発生するのかを知る。 ・責任と自己責任の違いを理解する。 ・働くことや職業への理解を深める。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第3回	組織と人間の関係について考える ・企業とは何か、組織とは何かを理解する。 ・企業活動と企業の社会的責任について理解する。 ・労働形態の多様化について理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で指示された課題に取り組む。	60

第4回	社会を知るⅠ ・我々を取り巻く環境はどのように変化しているのか理解する。 ・インターネット以外の情報収集の方法を知る。 ・社会のキーワードやヒット商品から社会のトレンドを知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	90
第5回	社会を知るⅡ ・ビジネスの現場を知る。 ・アイディアとはどのようにして生まれるのか体験する。 ・ビッグデータとデータの活用について知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第6回	社会に求められる人材と就職活動 ・就職活動の概要と方法を理解する。 ・社会が求める人材を理解する。 ・選考過程における多様性や最新の選考方法を知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第7回	ビジネス概論Ⅰ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第8回	ビジネス概論Ⅱ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第9回	資格と職業選択 ・資格の種類と資格への評価を理解する。 ・資格が必要な職業、資格を活かした職業を理解する。 ・公務員や教員として働くことを理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。興味を持った資格を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60

第10回	コミュニケーションは社会のベースⅠ ・コミュニケーションとは何かを理解する。 ・社会で求められる多様なコミュニケーションを理解する。 ・コミュニケーションの方法を知って実践する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第11回	コミュニケーションは社会のベースⅡ ・ビジネスや就職活動におけるマナーを理解する。 ・敬語の種類と言葉遣い、表現方法を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第12回	自己理解をする ・自己理解の重要性を理解し、自己理解の方法を知る。 ・自己の強みと弱みを認識する。 ・ワークシートに記入する。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。	70
第13回	自分を伝える ・自己理解の成果を伝える。 ・書き言葉と話し言葉の違いを理解する。 ・書いて伝える。 ・話をして伝える。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第14回	大学生活とキャリアを考える ・大学生活をどのように送るのかを考える。 ・働く現場やビジネスの現場を知る。 ・何を経験するか考えてみる。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べて、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第15回	授業のまとめ ・これまでの授業の振り返りをする。 ・授業の理解度を確認する。	
	【復習】これまでの授業を振り返り、理解できていないことや不足していることを確認して調べる。	60

授業の方法

授業は講義を主体に行いますが、授業中に各自が作業を行ったり、グループワークをして発表を行ったりすることがあります。授業では必要に応じてその都度プリント（レジュメ）を配布しますが、各自ノートを準備し板書以外の講義内容を書き取り復習に役立てるようにすること。
毎回、授業の最後に振り返りシートを記入します。狙いは授業をきちんと理解しているか自覚するため、書いて伝える力を養成するためです。
またテーマに応じて課題も出します。
課題の狙い
・授業で取り上げたキーワードを更に調べ理解を深める。
・インタビューをしたり調べるプロセスで新たな発見をするため。

成績評価の方法

課題提出（２０%）、授業への取り組みやグループワークへの積極的参加（４０%）、期末レポート（４０%）で総合評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
具体的な達成度
①時事用語について説明できる。
②自分の意見や考えを根拠を明確に伝えることができる。
③自分の意見や考えを「書く」「話す」で積極的に発信できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

キャリアセミナー

テキスト

特定のテキストは使用しません。必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示しますが、以下の書籍を理解促進として参照。
鈴木賞子著『大学生活・就活・キャリアがよくわかる本』（同友館）。
また日頃から新聞を読んだり、テレビの報道番組などを見ておくことも大切です。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	キャリアプランニング ＜3＞		
教員名	鈴木　賞子		
科目ナンバー	1101441010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

「キャリア」と聞いて、何をイメージしますか。具体的な職業や仕事内容・職歴や経歴などを思い浮かべる人も多いことでしょう。一般的にキャリアとは、仕事を通して身につけた経験や職歴のことを言いますが、仕事を軸として、人生をどのように生きていけばよいか、つまりは「生き方そのもの」という広義的な意味もあります。「自分はどのような人間なのか」「いま自分を取り巻く社会環境はどう変化しようとしているのか」「自分のやりたいこと、学びたいことは何なのか」。まだ大学生活は始まったばかりですが、いま考えなければならないことは、将来社会人になるにあたって欠かす事のできない事ばかりです。これからの学習や経験の一つ一つが、社会へ向けての第一歩を踏み出すために貴重なものであり、自分自身で考えて行動することによって、みなさんの能力が顕在化します。この授業の目標は、自分と社会を知り、多くの情報を自分なりに整理することによって大学生活や進路選択に向けて自分らしい行動計画を立てられるようになることです。自分の能力を過信することも悲観することもなく、自分らしい大学生活を送るためにこの授業を役立てることを期待します。

到達目標

①進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を学ぶ。
②多様化した働き方を知り、働く人を通して知識を増やす。
③社会の動きを知り、自分なりのテーマを持って調べる。
④グループの中で積極的に自分の意見を述べる。
⑤書いて伝える、話をして伝える能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンスーキャリアプランニングとは何か ・授業の内容と目的、進め方、予習と復習の仕方について説明。 ・キャリアとキャリア形成の方法を理解する。 ・卒業後の進路選択（働く・学ぶ）の可能性を知る。	
	【復習】授業を振り返り、授業に対して自分の目標を持つ。 大学生活のプランを考えてみる。	60
第2回	社会的責任について考える ・社会人と学生の違いについて理解し、どのような責任が発生するのかを知る。 ・責任と自己責任の違いを理解する。 ・働くことや職業への理解を深める。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第3回	組織と人間の関係について考える ・企業とは何か、組織とは何かを理解する。 ・企業活動と企業の社会的責任について理解する。 ・労働形態の多様化について理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で指示された課題に取り組む。	60

第4回	社会を知るⅠ ・我々を取り巻く環境はどのように変化しているのか理解する。 ・インターネット以外の情報収集の方法を知る。 ・社会のキーワードやヒット商品から社会のトレンドを知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	90
第5回	社会を知るⅡ ・ビジネスの現場を知る。 ・アイディアとはどのようにして生まれるのか体験する。 ・ビッグデータとデータの活用について知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第6回	社会に求められる人材と就職活動 ・就職活動の概要と方法を理解する。 ・社会が求める人材を理解する。 ・選考過程における多様性や最新の選考方法を知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第7回	ビジネス概論Ⅰ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第8回	ビジネス概論Ⅱ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第9回	資格と職業選択 ・資格の種類と資格への評価を理解する。 ・資格が必要な職業、資格を活かした職業を理解する。 ・公務員や教員として働くことを理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。興味を持った資格を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60

第10回	コミュニケーションは社会のベースⅠ ・コミュニケーションとは何かを理解する。 ・社会で求められる多様なコミュニケーションを理解する。 ・コミュニケーションの方法を知って実践する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第11回	コミュニケーションは社会のベースⅡ ・ビジネスや就職活動におけるマナーを理解する。 ・敬語の種類と言葉遣い、表現方法を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第12回	自己理解をする ・自己理解の重要性を理解し、自己理解の方法を知る。 ・自己の強みと弱みを認識する。 ・ワークシートに記入する。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。	70
第13回	自分を伝える ・自己理解の成果を伝える。 ・書き言葉と話し言葉の違いを理解する。 ・書いて伝える。 ・話をして伝える。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第14回	大学生活とキャリアを考える ・大学生活をどのように送るのかを考える。 ・働く現場やビジネスの現場を知る。 ・何を経験するか考えてみる。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べて、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第15回	授業のまとめ ・これまでの授業の振り返りをする。 ・授業の理解度を確認する。	
	【復習】これまでの授業を振り返り、理解できていないことや不足していることを確認して調べる。	60

授業の方法

授業は講義を主体に行いますが、授業中に各自が作業を行ったり、グループワークをして発表を行ったりすることがあります。授業では必要に応じてその都度プリント（レジュメ）を配布しますが、各自ノートを準備し板書以外の講義内容を書き取り復習に役立てるようにすること。
毎回、授業の最後に振り返りシートを記入します。狙いは授業をきちんと理解しているか自覚するため、書いて伝える力を養成するためです。
またテーマに応じて課題も出します。
課題の狙い
・授業で取り上げたキーワードを更に調べ理解を深める。
・インタビューをしたり調べるプロセスで新たな発見をするため。

成績評価の方法

課題提出（２０%）、授業への取り組みやグループワークへの積極的参加（４０%）、期末レポート（４０%）で総合評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
具体的な達成度
①時事用語について説明できる。
②自分の意見や考えを根拠を明確に伝えることができる。
③自分の意見や考えを「書く」「話す」で積極的に発信できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

キャリアセミナー

テキスト

特定のテキストは使用しません。必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示しますが、以下の書籍を理解促進として参照。
鈴木賞子著『大学生活・就活・キャリアがよくわかる本』（同友館）。
また日頃から新聞を読んだり、テレビの報道番組などを見ておくことも大切です。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	キャリアプランニング ＜4＞		
教員名	山科　美智子		
科目ナンバー	1101441010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

「キャリア」と聞いて、何をイメージしますか。具体的な職業や仕事内容・職歴や経歴などを思い浮かべる人も多いことでしょう。一般的にキャリアとは、仕事を通して身につけた経験や職歴のことを言いますが、仕事を軸として、人生をどのように生きていけばよいか、つまりは「生き方そのもの」という広義的な意味もあります。「自分はどのような人間なのか」「いま自分を取り巻く社会環境はどう変化しようとしているのか」「自分のやりたいこと、学びたいことは何なのか」。まだ大学生活は始まったばかりですが、いま考えなければならないことは、将来社会人になるにあたって欠かす事のできない事ばかりです。これからの学習や経験の一つ一つが、社会へ向けての第一歩を踏み出すために貴重なものであり、自分自身で考えて行動することによって、みなさんの能力が顕在化します。この授業の目標は、自分と社会を知り、多くの情報を自分なりに整理することによって大学生活や進路選択に向けて自分らしい行動計画を立てられるようになることです。自分の能力を過信することも悲観することもなく、自分らしい大学生活を送るためにこの授業を役立てることを期待します。

到達目標

①進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を学ぶ。
②多様化した働き方を知り、働く人を通して知識を増やす。
③社会の動きを知り、自分なりのテーマを持って調べる。
④グループの中で積極的に自分の意見を述べる。
⑤書いて伝える、話をして伝える能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンスーキャリアプランニングとは何か ・授業の内容と目的、進め方、予習と復習の仕方について説明。 ・キャリアとキャリア形成の方法を理解する。 ・卒業後の進路選択（働く・学ぶ）の可能性を知る。	
	【復習】授業を振り返り、授業に対して自分の目標を持つ。 大学生活のプランを考えてみる。	60
第2回	社会的責任について考える ・社会人と学生の違いについて理解し、どのような責任が発生するのかを知る。 ・責任と自己責任の違いを理解する。 ・働くことや職業への理解を深める。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第3回	組織と人間の関係について考える ・企業とは何か、組織とは何かを理解する。 ・企業活動と企業の社会的責任について理解する。 ・労働形態の多様化について理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で指示された課題に取り組む。	60

第4回	社会を知るⅠ ・我々を取り巻く環境はどのように変化しているのか理解する。 ・インターネット以外の情報収集の方法を知る。 ・社会のキーワードやヒット商品から社会のトレンドを知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	90
第5回	社会を知るⅡ ・ビジネスの現場を知る。 ・アイディアとはどのようにして生まれるのか体験する。 ・ビッグデータとデータの活用について知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第6回	社会に求められる人材と就職活動 ・就職活動の概要と方法を理解する。 ・社会が求める人材を理解する。 ・選考過程における多様性や最新の選考方法を知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第7回	ビジネス概論Ⅰ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第8回	ビジネス概論Ⅱ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第9回	資格と職業選択 ・資格の種類と資格への評価を理解する。 ・資格が必要な職業、資格を活かした職業を理解する。 ・公務員や教員として働くことを理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。興味を持った資格を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60

第10回	コミュニケーションは社会のベースⅠ ・コミュニケーションとは何かを理解する。 ・社会で求められる多様なコミュニケーションを理解する。 ・コミュニケーションの方法を知って実践する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第11回	コミュニケーションは社会のベースⅡ ・ビジネスや就職活動におけるマナーを理解する。 ・敬語の種類と言葉遣い、表現方法を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第12回	自己理解をする ・自己理解の重要性を理解し、自己理解の方法を知る。 ・自己の強みと弱みを認識する。 ・ワークシートに記入する。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。	70
第13回	自分を伝える ・自己理解の成果を伝える。 ・書き言葉と話し言葉の違いを理解する。 ・書いて伝える。 ・話をして伝える。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第14回	大学生活とキャリアを考える ・大学生活をどのように送るのかを考える。 ・働く現場やビジネスの現場を知る。 ・何を経験するか考えてみる。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べて、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第15回	授業のまとめ ・これまでの授業の振り返りをする。 ・授業の理解度を確認する。	
	【復習】これまでの授業を振り返り、理解できていないことや不足していることを確認して調べる。	60

授業の方法

授業は講義を主体に行いますが、授業中に各自が作業を行ったり、グループワークをして発表を行ったりすることがあります。授業では必要に応じてその都度プリント（レジュメ）を配布しますが、各自ノートを準備し板書以外の講義内容を書き取り復習に役立てるようにすること。
毎回、授業の最後に振り返りシートを記入します。狙いは授業をきちんと理解しているか自覚するため、書いて伝える力を養成するためです。
またテーマに応じて課題も出します。
課題の狙い
・授業で取り上げたキーワードを更に調べ理解を深める。
・インタビューをしたり調べるプロセスで新たな発見をするため。

成績評価の方法

課題提出（２０%）、授業への取り組みやグループワークへの積極的参加（４０%）、期末レポート（４０%）で総合評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
具体的な達成度
①時事用語について説明できる。
②自分の意見や考えを根拠を明確に伝えることができる。
③自分の意見や考えを「書く」「話す」で積極的に発信できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

キャリアセミナー

テキスト

特定のテキストは使用しません。必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示しますが、以下の書籍を理解促進として参照。
鈴木賞子著『大学生活・就活・キャリアがよくわかる本』（同友館）。
また日頃から新聞を読んだり、テレビの報道番組などを見ておくことも大切です。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	キャリアプランニング ＜5＞		
教員名	大野　和男		
科目ナンバー	1101441010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

「キャリア」と聞いて、何をイメージしますか。具体的な職業や仕事内容・職歴や経歴などを思い浮かべる人も多いことでしょう。一般的にキャリアとは、仕事を通して身につけた経験や職歴のことを言いますが、仕事を軸として、人生をどのように生きていけばよいか、つまりは「生き方そのもの」という広義的な意味もあります。「自分はどのような人間なのか」「いま自分を取り巻く社会環境はどう変化しようとしているのか」「自分のやりたいこと、学びたいことは何なのか」。まだ大学生活は始まったばかりですが、いま考えなければならないことは、将来社会人になるにあたって欠かす事のできない事ばかりです。これからの学習や経験の一つ一つが、社会へ向けての第一歩を踏み出すために貴重なものであり、自分自身で考えて行動することによって、みなさんの能力が顕在化します。この授業の目標は、自分と社会を知り、多くの情報を自分なりに整理することによって大学生活や進路選択に向けて自分らしい行動計画を立てられるようになることです。自分の能力を過信することも悲観することもなく、自分らしい大学生活を送るためにこの授業を役立てることを期待します。

到達目標

①進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を学ぶ。
②多様化した働き方を知り、働く人を通して知識を増やす。
③社会の動きを知り、自分なりのテーマを持って調べる。
④グループの中で積極的に自分の意見を述べる。
⑤書いて伝える、話をして伝える能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンスーキャリアプランニングとは何か ・授業の内容と目的、進め方、予習と復習の仕方について説明。 ・キャリアとキャリア形成の方法を理解する。 ・卒業後の進路選択（働く・学ぶ）の可能性を知る。	
	【復習】授業を振り返り、授業に対して自分の目標を持つ。 大学生活のプランを考えてみる。	60
第2回	社会的責任について考える ・社会人と学生の違いについて理解し、どのような責任が発生するのかを知る。 ・責任と自己責任の違いを理解する。 ・働くことや職業への理解を深める。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第3回	組織と人間の関係について考える ・企業とは何か、組織とは何かを理解する。 ・企業活動と企業の社会的責任について理解する。 ・労働形態の多様化について理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で指示された課題に取り組む。	60

第4回	社会を知るⅠ ・我々を取り巻く環境はどのように変化しているのか理解する。 ・インターネット以外の情報収集の方法を知る。 ・社会のキーワードやヒット商品から社会のトレンドを知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	90
第5回	社会を知るⅡ ・ビジネスの現場を知る。 ・アイディアとはどのようにして生まれるのか体験する。 ・ビッグデータとデータの活用について知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第6回	社会に求められる人材と就職活動 ・就職活動の概要と方法を理解する。 ・社会が求める人材を理解する。 ・選考過程における多様性や最新の選考方法を知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第7回	ビジネス概論Ⅰ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第8回	ビジネス概論Ⅱ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第9回	資格と職業選択 ・資格の種類と資格への評価を理解する。 ・資格が必要な職業、資格を活かした職業を理解する。 ・公務員や教員として働くことを理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。興味を持った資格を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60

第10回	コミュニケーションは社会のベースⅠ ・コミュニケーションとは何かを理解する。 ・社会で求められる多様なコミュニケーションを理解する。 ・コミュニケーションの方法を知って実践する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第11回	コミュニケーションは社会のベースⅡ ・ビジネスや就職活動におけるマナーを理解する。 ・敬語の種類と言葉遣い、表現方法を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第12回	自己理解をする ・自己理解の重要性を理解し、自己理解の方法を知る。 ・自己の強みと弱みを認識する。 ・ワークシートに記入する。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。	70
第13回	自分を伝える ・自己理解の成果を伝える。 ・書き言葉と話し言葉の違いを理解する。 ・書いて伝える。 ・話をして伝える。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第14回	大学生活とキャリアを考える ・大学生活をどのように送るのかを考える。 ・働く現場やビジネスの現場を知る。 ・何を経験するか考えてみる。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べて、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第15回	授業のまとめ ・これまでの授業の振り返りをする。 ・授業の理解度を確認する。	
	【復習】これまでの授業を振り返り、理解できていないことや不足していることを確認して調べる。	60

授業の方法

授業は講義を主体に行いますが、授業中に各自が作業を行ったり、グループワークをして発表を行ったりすることがあります。授業では必要に応じてその都度プリント（レジュメ）を配布しますが、各自ノートを準備し板書以外の講義内容を書き取り復習に役立てるようにすること。
毎回、授業の最後に振り返りシートを記入します。狙いは授業をきちんと理解しているか自覚するため、書いて伝える力を養成するためです。
またテーマに応じて課題も出します。
課題の狙い
・授業で取り上げたキーワードを更に調べ理解を深める。
・インタビューをしたり調べるプロセスで新たな発見をするため。

成績評価の方法

課題提出（２０%）、授業への取り組みやグループワークへの積極的参加（４０%）、期末レポート（４０%）で総合評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
具体的な達成度
①時事用語について説明できる。
②自分の意見や考えを根拠を明確に伝えることができる。
③自分の意見や考えを「書く」「話す」で積極的に発信できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

キャリアセミナー

テキスト

特定のテキストは使用しません。必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示しますが、以下の書籍を理解促進として参照。
鈴木賞子著『大学生活・就活・キャリアがよくわかる本』（同友館）。
また日頃から新聞を読んだり、テレビの報道番組などを見ておくことも大切です。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	キャリアプランニング ＜6＞		
教員名	丸尾　明美		
科目ナンバー	1101441010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

「キャリア」と聞いて、何をイメージしますか。具体的な職業や仕事内容・職歴や経歴などを思い浮かべる人も多いことでしょう。一般的にキャリアとは、仕事を通して身につけた経験や職歴のことを言いますが、仕事を軸として、人生をどのように生きていけばよいか、つまりは「生き方そのもの」という広義的な意味もあります。「自分はどのような人間なのか」「いま自分を取り巻く社会環境はどう変化しようとしているのか」「自分のやりたいこと、学びたいことは何なのか」。まだ大学生活は始まったばかりですが、いま考えなければならないことは、将来社会人になるにあたって欠かす事のできない事ばかりです。これからの学習や経験の一つ一つが、社会へ向けての第一歩を踏み出すために貴重なものであり、自分自身で考えて行動することによって、みなさんの能力が顕在化します。この授業の目標は、自分と社会を知り、多くの情報を自分なりに整理することによって大学生活や進路選択に向けて自分らしい行動計画を立てられるようになることです。自分の能力を過信することも悲観することもなく、自分らしい大学生活を送るためにこの授業を役立てることを期待します。

到達目標

①進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を学ぶ。
②多様化した働き方を知り、働く人を通して知識を増やす。
③社会の動きを知り、自分なりのテーマを持って調べる。
④グループの中で積極的に自分の意見を述べる。
⑤書いて伝える、話をして伝える能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンスーキャリアプランニングとは何か ・授業の内容と目的、進め方、予習と復習の仕方について説明。 ・キャリアとキャリア形成の方法を理解する。 ・卒業後の進路選択（働く・学ぶ）の可能性を知る。	
	【復習】授業を振り返り、授業に対して自分の目標を持つ。 大学生活のプランを考えてみる。	60
第2回	社会的責任について考える ・社会人と学生の違いについて理解し、どのような責任が発生するのかを知る。 ・責任と自己責任の違いを理解する。 ・働くことや職業への理解を深める。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第3回	組織と人間の関係について考える ・企業とは何か、組織とは何かを理解する。 ・企業活動と企業の社会的責任について理解する。 ・労働形態の多様化について理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で指示された課題に取り組む。	60

第4回	社会を知るⅠ ・我々を取り巻く環境はどのように変化しているのか理解する。 ・インターネット以外の情報収集の方法を知る。 ・社会のキーワードやヒット商品から社会のトレンドを知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	90
第5回	社会を知るⅡ ・ビジネスの現場を知る。 ・アイディアとはどのようにして生まれるのか体験する。 ・ビッグデータとデータの活用について知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第6回	社会に求められる人材と就職活動 ・就職活動の概要と方法を理解する。 ・社会が求める人材を理解する。 ・選考過程における多様性や最新の選考方法を知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第7回	ビジネス概論Ⅰ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第8回	ビジネス概論Ⅱ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第9回	資格と職業選択 ・資格の種類と資格への評価を理解する。 ・資格が必要な職業、資格を活かした職業を理解する。 ・公務員や教員として働くことを理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。興味を持った資格を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60

第10回	コミュニケーションは社会のベースⅠ ・コミュニケーションとは何かを理解する。 ・社会で求められる多様なコミュニケーションを理解する。 ・コミュニケーションの方法を知って実践する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第11回	コミュニケーションは社会のベースⅡ ・ビジネスや就職活動におけるマナーを理解する。 ・敬語の種類と言葉遣い、表現方法を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第12回	自己理解をする ・自己理解の重要性を理解し、自己理解の方法を知る。 ・自己の強みと弱みを認識する。 ・ワークシートに記入する。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。	70
第13回	自分を伝える ・自己理解の成果を伝える。 ・書き言葉と話し言葉の違いを理解する。 ・書いて伝える。 ・話をして伝える。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第14回	大学生活とキャリアを考える ・大学生活をどのように送るのかを考える。 ・働く現場やビジネスの現場を知る。 ・何を経験するか考えてみる。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べて、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第15回	授業のまとめ ・これまでの授業の振り返りをする。 ・授業の理解度を確認する。	
	【復習】これまでの授業を振り返り、理解できていないことや不足していることを確認して調べる。	60

授業の方法

授業は講義を主体に行いますが、授業中に各自が作業を行ったり、グループワークをして発表を行ったりすることがあります。授業では必要に応じてその都度プリント（レジュメ）を配布しますが、各自ノートを準備し板書以外の講義内容を書き取り復習に役立てるようにすること。
毎回、授業の最後に振り返りシートを記入します。狙いは授業をきちんと理解しているか自覚するため、書いて伝える力を養成するためです。
またテーマに応じて課題も出します。
課題の狙い
・授業で取り上げたキーワードを更に調べ理解を深める。
・インタビューをしたり調べるプロセスで新たな発見をするため。

成績評価の方法

課題提出（２０％）、授業への取り組みやグループワークへの積極的参加（４０％）、期末レポート（４０％）で総合評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
具体的な達成度
①時事用語について説明できる。
②自分の意見や考えを根拠を明確に伝えることができる。
③自分の意見や考えを「書く」「話す」で積極的に発信できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

キャリアセミナー

テキスト

特定のテキストは使用しません。必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示しますが、以下の書籍を理解促進として参照。
鈴木賞子著『大学生活・就活・キャリアがよくわかる本』（同友館）。
また日頃から新聞を読んだり、テレビの報道番組などを見ておくことも大切です。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	キャリアプランニング <7>		
教員名	丸尾　明美		
科目ナンバー	1101441010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

「キャリア」と聞いて、何をイメージしますか。具体的な職業や仕事内容・職歴や経歴などを思い浮かべる人も多いことでしょう。一般的にキャリアとは、仕事を通して身につけた経験や職歴のことを言いますが、仕事を軸として、人生をどのように生きていけばよいか、つまりは「生き方そのもの」という広義的な意味もあります。「自分はどのような人間なのか」「いま自分を取り巻く社会環境はどう変化しようとしているのか」「自分のやりたいこと、学びたいことは何なのか」。まだ大学生活は始まったばかりですが、いま考えなければならないことは、将来社会人になるにあたって欠かす事のできない事ばかりです。これからの学習や経験の一つ一つが、社会へ向けての第一歩を踏み出すために貴重なものであり、自分自身で考えて行動することによって、みなさんの能力が顕在化します。この授業の目標は、自分と社会を知り、多くの情報を自分なりに整理することによって大学生活や進路選択に向けて自分らしい行動計画を立てられるようになることです。自分の能力を過信することも悲観することもなく、自分らしい大学生活を送るためにこの授業を役立てることを期待します。

到達目標

①進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を学ぶ。
②多様化した働き方を知り、働く人を通して知識を増やす。
③社会の動きを知り、自分なりのテーマを持って調べる。
④グループの中で積極的に自分の意見を述べる。
⑤書いて伝える、話をして伝える能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンスーキャリアプランニングとは何か ・授業の内容と目的、進め方、予習と復習の仕方について説明。 ・キャリアとキャリア形成の方法を理解する。 ・卒業後の進路選択（働く・学ぶ）の可能性を知る。	
	【復習】授業を振り返り、授業に対して自分の目標を持つ。 大学生活のプランを考えてみる。	60
第2回	社会的責任について考える ・社会人と学生の違いについて理解し、どのような責任が発生するのかを知る。 ・責任と自己責任の違いを理解する。 ・働くことや職業への理解を深める。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第3回	組織と人間の関係について考える ・企業とは何か、組織とは何かを理解する。 ・企業活動と企業の社会的責任について理解する。 ・労働形態の多様化について理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で指示された課題に取り組む。	60

第4回	社会を知るⅠ ・我々を取り巻く環境はどのように変化しているのか理解する。 ・インターネット以外の情報収集の方法を知る。 ・社会のキーワードやヒット商品から社会のトレンドを知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	90
第5回	社会を知るⅡ ・ビジネスの現場を知る。 ・アイディアとはどのようにして生まれるのか体験する。 ・ビッグデータとデータの活用について知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第6回	社会に求められる人材と就職活動 ・就職活動の概要と方法を理解する。 ・社会が求める人材を理解する。 ・選考過程における多様性や最新の選考方法を知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第7回	ビジネス概論Ⅰ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第8回	ビジネス概論Ⅱ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第9回	資格と職業選択 ・資格の種類と資格への評価を理解する。 ・資格が必要な職業、資格を活かした職業を理解する。 ・公務員や教員として働くことを理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。興味を持った資格を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60

第10回	コミュニケーションは社会のベースⅠ ・コミュニケーションとは何かを理解する。 ・社会で求められる多様なコミュニケーションを理解する。 ・コミュニケーションの方法を知って実践する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第11回	コミュニケーションは社会のベースⅡ ・ビジネスや就職活動におけるマナーを理解する。 ・敬語の種類と言葉遣い、表現方法を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第12回	自己理解をする ・自己理解の重要性を理解し、自己理解の方法を知る。 ・自己の強みと弱みを認識する。 ・ワークシートに記入する。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。	70
第13回	自分を伝える ・自己理解の成果を伝える。 ・書き言葉と話し言葉の違いを理解する。 ・書いて伝える。 ・話をして伝える。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第14回	大学生活とキャリアを考える ・大学生活をどのように送るのかを考える。 ・働く現場やビジネスの現場を知る。 ・何を経験するか考えてみる。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べて、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第15回	授業のまとめ ・これまでの授業の振り返りをする。 ・授業の理解度を確認する。	
	【復習】これまでの授業を振り返り、理解できていないことや不足していることを確認して調べる。	60

授業の方法

授業は講義を主体に行いますが、授業中に各自が作業を行ったり、グループワークをして発表を行ったりすることがあります。授業では必要に応じてその都度プリント（レジュメ）を配布しますが、各自ノートを準備し板書以外の講義内容を書き取り復習に役立てるようにすること。
毎回、授業の最後に振り返りシートを記入します。狙いは授業をきちんと理解しているか自覚するため、書いて伝える力を養成するためです。
またテーマに応じて課題も出します。
課題の狙い
・授業で取り上げたキーワードを更に調べ理解を深める。
・インタビューをしたり調べるプロセスで新たな発見をするため。

成績評価の方法

課題提出（２０%）、授業への取り組みやグループワークへの積極的参加（４０%）、期末レポート（４０%）で総合評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
具体的な達成度
①時事用語について説明できる。
②自分の意見や考えを根拠を明確に伝えることができる。
③自分の意見や考えを「書く」「話す」で積極的に発信できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

キャリアセミナー

テキスト

特定のテキストは使用しません。必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示しますが、以下の書籍を理解促進として参照。
鈴木賞子著『大学生活・就活・キャリアがよくわかる本』（同友館）。
また日頃から新聞を読んだり、テレビの報道番組などを見ておくことも大切です。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	キャリアプランニング ＜8＞		
教員名	鈴木　賞子		
科目ナンバー	1101041010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

「キャリア」と聞いて、何をイメージしますか。具体的な職業や仕事内容・職歴や経歴などを思い浮かべる人も多いことでしょう。一般的にキャリアとは、仕事を通して身につけた経験や職歴のことを言いますが、仕事を軸として、人生をどのように生きていけばよいか、つまりは「生き方そのもの」という広義的な意味もあります。「自分はどのような人間なのか」「いま自分を取り巻く社会環境はどう変化しようとしているのか」「自分のやりたいこと、学びたいことは何なのか」。まだ大学生活は始まったばかりですが、いま考えなければならないことは、将来社会人になるにあたって欠かす事のできない事ばかりです。これからの学習や経験の一つ一つが、社会へ向けての第一歩を踏み出すために貴重なものであり、自分自身で考えて行動することによって、みなさんの能力が顕在化します。この授業の目標は、自分と社会を知り、多くの情報を自分なりに整理することによって大学生活や進路選択に向けて自分らしい行動計画を立てられるようになることです。自分の能力を過信することも悲観することもなく、自分らしい大学生活を送るためにこの授業を役立てることを期待します。

到達目標

①進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を学ぶ。
②多様化した働き方を知り、働く人を通して知識を増やす。
③社会の動きを知り、自分なりのテーマを持って調べる。
④グループの中で積極的に自分の意見を述べる。
⑤書いて伝える、話をして伝える能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンスーキャリアプランニングとは何か ・授業の内容と目的、進め方、予習と復習の仕方について説明。 ・キャリアとキャリア形成の方法を理解する。 ・卒業後の進路選択（働く・学ぶ）の可能性を知る。	
	【復習】授業を振り返り、授業に対して自分の目標を持つ。 大学生活のプランを考えてみる。	60
第2回	社会的責任について考える ・社会人と学生の違いについて理解し、どのような責任が発生するのかを知る。 ・責任と自己責任の違いを理解する。 ・働くことや職業への理解を深める。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第3回	組織と人間の関係について考える ・企業とは何か、組織とは何かを理解する。 ・企業活動と企業の社会的責任について理解する。 ・労働形態の多様化について理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で指示された課題に取り組む。	60

第4回	社会を知るⅠ ・我々を取り巻く環境はどのように変化しているのか理解する。 ・インターネット以外の情報収集の方法を知る。 ・社会のキーワードやヒット商品から社会のトレンドを知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	90
第5回	社会を知るⅡ ・ビジネスの現場を知る。 ・アイディアとはどのようにして生まれるのか体験する。 ・ビッグデータとデータの活用について知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第6回	社会に求められる人材と就職活動 ・就職活動の概要と方法を理解する。 ・社会が求める人材を理解する。 ・選考過程における多様性や最新の選考方法を知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第7回	ビジネス概論Ⅰ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第8回	ビジネス概論Ⅱ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第9回	資格と職業選択 ・資格の種類と資格への評価を理解する。 ・資格が必要な職業、資格を活かした職業を理解する。 ・公務員や教員として働くことを理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。興味を持った資格を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60

第10回	コミュニケーションは社会のベースⅠ ・コミュニケーションとは何かを理解する。 ・社会で求められる多様なコミュニケーションを理解する。 ・コミュニケーションの方法を知って実践する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第11回	コミュニケーションは社会のベースⅡ ・ビジネスや就職活動におけるマナーを理解する。 ・敬語の種類と言葉遣い、表現方法を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第12回	自己理解をする ・自己理解の重要性を理解し、自己理解の方法を知る。 ・自己の強みと弱みを認識する。 ・ワークシートに記入する。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。	70
第13回	自分を伝える ・自己理解の成果を伝える。 ・書き言葉と話し言葉の違いを理解する。 ・書いて伝える。 ・話をして伝える。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第14回	大学生活とキャリアを考える ・大学生活をどのように送るのかを考える。 ・働く現場やビジネスの現場を知る。 ・何を経験するか考えてみる。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べて、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第15回	授業のまとめ ・これまでの授業の振り返りをする。 ・授業の理解度を確認する。	
	【復習】これまでの授業を振り返り、理解できていないことや不足していることを確認して調べる。	60

授業の方法

授業は講義を主体に行いますが、授業中に各自が作業を行ったり、グループワークをして発表を行ったりすることがあります。授業では必要に応じてその都度プリント（レジュメ）を配布しますが、各自ノートを準備し板書以外の講義内容を書き取り復習に役立てるようにすること。
毎回、授業の最後に振り返りシートを記入します。狙いは授業をきちんと理解しているか自覚するため、書いて伝える力を養成するためです。
またテーマに応じて課題も出します。
課題の狙い
・授業で取り上げたキーワードを更に調べ理解を深める。
・インタビューをしたり調べるプロセスで新たな発見をするため。

成績評価の方法

課題提出（２０%）、授業への取り組みやグループワークへの積極的参加（４０%）、期末レポート（４０%）で総合評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
具体的な達成度
①時事用語について説明できる。
②自分の意見や考えを根拠を明確に伝えることができる。
③自分の意見や考えを「書く」「話す」で積極的に発信できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

キャリアセミナー

テキスト

特定のテキストは使用しません。必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示しますが、以下の書籍を理解促進として参照。
鈴木賞子著『大学生活・就活・キャリアがよくわかる本』（同友館）。
また日頃から新聞を読んだり、テレビの報道番組などを見ておくことも大切です。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	キャリアプランニング ＜9＞		
教員名	鈴木　賞子		
科目ナンバー	1101041010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

「キャリア」と聞いて、何をイメージしますか。具体的な職業や仕事内容・職歴や経歴などを思い浮かべる人も多いことでしょう。一般的にキャリアとは、仕事を通して身につけた経験や職歴のことを言いますが、仕事を軸として、人生をどのように生きていけばよいか、つまりは「生き方そのもの」という広義的な意味もあります。「自分はどのような人間なのか」「いま自分を取り巻く社会環境はどう変化しようとしているのか」「自分のやりたいこと、学びたいことは何なのか」。まだ大学生活は始まったばかりですが、いま考えなければならないことは、将来社会人になるにあたって欠かす事のできない事ばかりです。これからの学習や経験の一つ一つが、社会へ向けての第一歩を踏み出すために貴重なものであり、自分自身で考えて行動することによって、みなさんの能力が顕在化します。この授業の目標は、自分と社会を知り、多くの情報を自分なりに整理することによって大学生活や進路選択に向けて自分らしい行動計画を立てられるようになることです。自分の能力を過信することも悲観することもなく、自分らしい大学生活を送るためにこの授業を役立てることを期待します。

到達目標

①進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を学ぶ。
②多様化した働き方を知り、働く人を通して知識を増やす。
③社会の動きを知り、自分なりのテーマを持って調べる。
④グループの中で積極的に自分の意見を述べる。
⑤書いて伝える、話をして伝える能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンスーキャリアプランニングとは何か ・授業の内容と目的、進め方、予習と復習の仕方について説明。 ・キャリアとキャリア形成の方法を理解する。 ・卒業後の進路選択（働く・学ぶ）の可能性を知る。	
	【復習】授業を振り返り、授業に対して自分の目標を持つ。 大学生活のプランを考えてみる。	60
第2回	社会的責任について考える ・社会人と学生の違いについて理解し、どのような責任が発生するのかを知る。 ・責任と自己責任の違いを理解する。 ・働くことや職業への理解を深める。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第3回	組織と人間の関係について考える ・企業とは何か、組織とは何かを理解する。 ・企業活動と企業の社会的責任について理解する。 ・労働形態の多様化について理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で指示された課題に取り組む。	60

第4回	社会を知るⅠ ・我々を取り巻く環境はどのように変化しているのか理解する。 ・インターネット以外の情報収集の方法を知る。 ・社会のキーワードやヒット商品から社会のトレンドを知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	90
第5回	社会を知るⅡ ・ビジネスの現場を知る。 ・アイディアとはどのようにして生まれるのか体験する。 ・ビッグデータとデータの活用について知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第6回	社会に求められる人材と就職活動 ・就職活動の概要と方法を理解する。 ・社会が求める人材を理解する。 ・選考過程における多様性や最新の選考方法を知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第7回	ビジネス概論Ⅰ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第8回	ビジネス概論Ⅱ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第9回	資格と職業選択 ・資格の種類と資格への評価を理解する。 ・資格が必要な職業、資格を活かした職業を理解する。 ・公務員や教員として働くことを理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。興味を持った資格を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60

第10回	コミュニケーションは社会のベースⅠ ・コミュニケーションとは何かを理解する。 ・社会で求められる多様なコミュニケーションを理解する。 ・コミュニケーションの方法を知って実践する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第11回	コミュニケーションは社会のベースⅡ ・ビジネスや就職活動におけるマナーを理解する。 ・敬語の種類と言葉遣い、表現方法を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第12回	自己理解をする ・自己理解の重要性を理解し、自己理解の方法を知る。 ・自己の強みと弱みを認識する。 ・ワークシートに記入する。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。	70
第13回	自分を伝える ・自己理解の成果を伝える。 ・書き言葉と話し言葉の違いを理解する。 ・書いて伝える。 ・話をして伝える。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第14回	大学生活とキャリアを考える ・大学生活をどのように送るのかを考える。 ・働く現場やビジネスの現場を知る。 ・何を経験するか考えてみる。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べて、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第15回	授業のまとめ ・これまでの授業の振り返りをする。 ・授業の理解度を確認する。	
	【復習】これまでの授業を振り返り、理解できていないことや不足していることを確認して調べる。	60

授業の方法

授業は講義を主体に行いますが、授業中に各自が作業を行ったり、グループワークをして発表を行ったりすることがあります。授業では必要に応じてその都度プリント（レジュメ）を配布しますが、各自ノートを準備し板書以外の講義内容を書き取り復習に役立てるようにすること。
毎回、授業の最後に振り返りシートを記入します。狙いは授業をきちんと理解しているか自覚するため、書いて伝える力を養成するためです。
またテーマに応じて課題も出します。
課題の狙い
・授業で取り上げたキーワードを更に調べ理解を深める。
・インタビューをしたり調べるプロセスで新たな発見をするため。

成績評価の方法

課題提出（２０%）、授業への取り組みやグループワークへの積極的参加（４０%）、期末レポート（４０%）で総合評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
具体的な達成度
①時事用語について説明できる。
②自分の意見や考えを根拠を明確に伝えることができる。
③自分の意見や考えを「書く」「話す」で積極的に発信できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

キャリアセミナー

テキスト

特定のテキストは使用しません。必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示しますが、以下の書籍を理解促進として参照。
鈴木賞子著『大学生活・就活・キャリアがよくわかる本』（同友館）。
また日頃から新聞を読んだり、テレビの報道番組などを見ておくことも大切です。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	キャリアプランニング ＜10＞		
教員名	大野　和男		
科目ナンバー	1101041010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

「キャリア」と聞いて、何をイメージしますか。具体的な職業や仕事内容・職歴や経歴などを思い浮かべる人も多いことでしょう。一般的にキャリアとは、仕事を通して身につけた経験や職歴のことを言いますが、仕事を軸として、人生をどのように生きていけばよいか、つまりは「生き方そのもの」という広義的な意味もあります。「自分はどのような人間なのか」「いま自分を取り巻く社会環境はどう変化しようとしているのか」「自分のやりたいこと、学びたいことは何なのか」。まだ大学生活は始まったばかりですが、いま考えなければならないことは、将来社会人になるにあたって欠かす事のできない事ばかりです。これからの学習や経験の一つ一つが、社会へ向けての第一歩を踏み出すために貴重なものであり、自分自身で考えて行動することによって、みなさんの能力が顕在化します。この授業の目標は、自分と社会を知り、多くの情報を自分なりに整理することによって大学生活や進路選択に向けて自分らしい行動計画を立てられるようになることです。自分の能力を過信することも悲観することもなく、自分らしい大学生活を送るためにこの授業を役立てることを期待します。

到達目標

①進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を学ぶ。
②多様化した働き方を知り、働く人を通して知識を増やす。
③社会の動きを知り、自分なりのテーマを持って調べる。
④グループの中で積極的に自分の意見を述べる。
⑤書いて伝える、話をして伝える能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンスーキャリアプランニングとは何か ・授業の内容と目的、進め方、予習と復習の仕方について説明。 ・キャリアとキャリア形成の方法を理解する。 ・卒業後の進路選択（働く・学ぶ）の可能性を知る。	
	【復習】授業を振り返り、授業に対して自分の目標を持つ。 大学生活のプランを考えてみる。	60
第2回	社会的責任について考える ・社会人と学生の違いについて理解し、どのような責任が発生するのかを知る。 ・責任と自己責任の違いを理解する。 ・働くことや職業への理解を深める。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第3回	組織と人間の関係について考える ・企業とは何か、組織とは何かを理解する。 ・企業活動と企業の社会的責任について理解する。 ・労働形態の多様化について理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で指示された課題に取り組む。	60

第4回	社会を知るⅠ ・我々を取り巻く環境はどのように変化しているのか理解する。 ・インターネット以外の情報収集の方法を知る。 ・社会のキーワードやヒット商品から社会のトレンドを知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	90
第5回	社会を知るⅡ ・ビジネスの現場を知る。 ・アイディアとはどのようにして生まれるのか体験する。 ・ビッグデータとデータの活用について知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第6回	社会に求められる人材と就職活動 ・就職活動の概要と方法を理解する。 ・社会が求める人材を理解する。 ・選考過程における多様性や最新の選考方法を知る。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第7回	ビジネス概論Ⅰ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第8回	ビジネス概論Ⅱ ・業界と業態の違いを理解する。 ・業界研究の仕方を理解する。 ・仕事（職種）を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べ、説明できるようにする。興味のある業界を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第9回	資格と職業選択 ・資格の種類と資格への評価を理解する。 ・資格が必要な職業、資格を活かした職業を理解する。 ・公務員や教員として働くことを理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。興味を持った資格を調べてみる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60

第10回	コミュニケーションは社会のベースⅠ ・コミュニケーションとは何かを理解する。 ・社会で求められる多様なコミュニケーションを理解する。 ・コミュニケーションの方法を知って実践する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第11回	コミュニケーションは社会のベースⅡ ・ビジネスや就職活動におけるマナーを理解する。 ・敬語の種類と言葉遣い、表現方法を理解する。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだことを実践する。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第12回	自己理解をする ・自己理解の重要性を理解し、自己理解の方法を知る。 ・自己の強みと弱みを認識する。 ・ワークシートに記入する。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。	70
第13回	自分を伝える ・自己理解の成果を伝える。 ・書き言葉と話し言葉の違いを理解する。 ・書いて伝える。 ・話をして伝える。	
	【復習】授業の振り返りをする。ワークシートを完成させる。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第14回	大学生活とキャリアを考える ・大学生活をどのように送るのかを考える。 ・働く現場やビジネスの現場を知る。 ・何を経験するか考えてみる。	
	【復習】授業の振り返りをする。授業で学んだキーワードを更に調べて、説明できるようにする。 【予習】授業で提示された課題に取り組む。	60
第15回	授業のまとめ ・これまでの授業の振り返りをする。 ・授業の理解度を確認する。	
	【復習】これまでの授業を振り返り、理解できていないことや不足していることを確認して調べる。	60

授業の方法

授業は講義を主体に行いますが、授業中に各自が作業を行ったり、グループワークをして発表を行ったりすることがあります。授業では必要に応じてその都度プリント（レジュメ）を配布しますが、各自ノートを準備し板書以外の講義内容を書き取り復習に役立てるようにすること。
毎回、授業の最後に振り返りシートを記入します。狙いは授業をきちんと理解しているか自覚するため、書いて伝える力を養成するためです。
またテーマに応じて課題も出します。
課題の狙い
・授業で取り上げたキーワードを更に調べ理解を深める。
・インタビューをしたり調べるプロセスで新たな発見をするため。

成績評価の方法

課題提出（２０%）、授業への取り組みやグループワークへの積極的参加（４０%）、期末レポート（４０%）で総合評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
具体的な達成度
①時事用語について説明できる。
②自分の意見や考えを根拠を明確に伝えることができる。
③自分の意見や考えを「書く」「話す」で積極的に発信できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

キャリアセミナー

テキスト

特定のテキストは使用しません。必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示しますが、以下の書籍を理解促進として参照。
鈴木賞子著『大学生活・就活・キャリアがよくわかる本』（同友館）。
また日頃から新聞を読んだり、テレビの報道番組などを見ておくことも大切です。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	キャリアセミナー ＜1＞		
教員名	鈴木　賞子		
科目ナンバー	1101045000	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この授業のテーマは「現代社会と自分を考える」です。自分の中には様々な可能性があります。その可能性は人と関わったり、様々なことに関心を持ったりすることで広がって行きます。我々を取り巻く社会を知りこれからの社会がどのようになっていくのかを予測します。そこには社会と密接に関わりながら働く場があり、また自分を活かす場があるということを知ることでしょう。これは卒業後の進路を考える上で大切なことです。
授業は講義中心ではなく、グループワークを通じて自分の持ち味（強み・知識・情報）に気付き発揮し伸ばしてくことを目的とします。そのプロセスでコミュニケーション能力や書いて伝える・書いて伝える表現力も身に付くでしょう。自分の意見を述べることの大切さを感じてほしいです。

到達目標

①社会に関心を持って、更に調べることの大切さを認識する。
②行動することを大事にし、ビジネスの現場に行って調べる。
③自分の意見を根拠を明確に積極的に発信する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の目的と進め方を説明。 ・グループメンバーの相互理解。 ・ウォーミングアップグループディスカッションで授業の特徴を理解する。	
	次週への課題への取り組み。	60
第2回	社会環境と社会に求められる「力」 ・ビジネスを取り巻く環境を知る。 ・ヒット商品のキーワードを理解する。 ・サービスの進化を知る。	
	授業の振り返りとキーワードを更に調べる。次週課題への取り組み。	60
第3回	グループワークⅠ（調査）－① ・グループを作り、テーマを決める。 ・チームビルディングを意識して話し合いをする。	
	次週課題を調べる。	60

第4回	グループワークⅠ（調査）－② ・調べた結果や情報を共有化する。 ・話し合いをする。 ・次週に向けて役割を決める。	
	次週課題への取り組み。現場調査に行く。	120
第5回	グループワークⅠ（調査）－③ ・調査結果の報告と情報の共有化をする。 ・話し合いをする。 ・プレゼンテーションに向けての準備をする。 ・次週への役割と課題を確認する。	
	プレゼンテーション資料の作成をする。	90
第6回	グループワークⅠ（調査）－④ ・調査結果の報告と情報の共有化をする。 ・プレゼンテーション資料の作成をする。 ・プレゼンテーションに向けての準備をする。	
	プレゼンテーションの資料作成と準備をする。	90
第7回	プレゼンテーションⅠ－① ・プレゼンテーションをする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションを振り返り、良かった点と課題を明確にする。	60
第8回	プレゼンテーションⅠ－② ・プレゼンテーションをする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションを振り返り、良かった点と課題を明確にする。	60
第9回	プレゼンテーションとは ・プレゼンテーションを振り返る。 ・グループへの評価をフィードバックをする。 ・プレゼンテーションの基本を理解する。	
	プレゼンテーションを振り返り、次のグループワークへの準備をする。	60

第10回	グループワークⅡ（新しいビジネスを考える）－① ・前回のグループワークを参考にアイディアを出す。 ・情報の共有化をする。 ・グループのメンバーとチームビルディングをする。 ・テーマを決める。	
	役割を理解し、課題に取り組む。	60
第11回	グループワークⅡ（新しいビジネスを考える）－② ・調べたことをもとに話し合いをする。 ・アイディアを出し合う。 ・次週までの役割分担をする。	
	課題に取り組む。現場調査をする。	120
第12回	グループワークⅡ（新しいビジネスを考える）－③ ・調べたことをもとに話し合う。 ・情報の共有化をする。 ・プレゼンテーションに向けて準備をする。	
	プレゼンテーション資料の作成をする。プレゼンテーションの準備をする。	90
第13回	プレゼンテーションⅡ－① ・グループワークの結果をプレゼンテーションする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションの振り返り、指摘された課題に取り組む。	60
第14回	プレゼンテーションⅡ－② ・グループワークの結果をプレゼンテーションをする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションを振り返り、指摘された課題に取り組む。	60
第15回	授業のまとめ＆職業選択に活かすために ・授業の全体的な振り返りをする。 ・職業選択にどのように活かすのか考える。 ・就職活動の概要を知る。	
	授業を振り返り、課題を明確にし、行動計画をたてる。	60

授業の方法

グループで自由にテーマを設定し、調査や情報収集をしながらグループワークを実施します。グループ内で積極的に意見交換をしながら進めて行きます。そのプロセスでコミュニケーション能力が身に付き、社会や企業に関する知識も増えていきます。グループワークの成果はプレゼンテーションという形で実施します。２回行いますので、違うテーマ（調査する・新しいビジネスを興す）で取り組み、社会やビジネスへの理解を更に深めていくことが可能です。
自分の目で確かめたり、好奇心旺盛に行動することが楽しくなっていくと思います。授業全体を通して、表現方法やマナーなども身につけることができるように、その都度気付いたことなどをフィードバックしていきます。楽しく、興味深く、積極的に取り組みましょう。
授業はあくまでも学生の皆さんが主体ですが、グループワークのプロセスではグループ毎に質問を受け付けたり調査方法などについてアドバイスをします。
職業選択に活かすきっかけにもしてください。

成績評価の方法

授業やグループワークへの積極的な参加（協力・発言・態度など）とプレゼンテーションで60%、授業内の提出物40%で総合的に評価します。グループワーク主体ですので毎回の出席が前提となります。５回以上欠席した場合には原則として評価は「Ｆ」となります。ただし、体調や入院などの特別な事情がある場合には別途考慮します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
①グループワークへの取り組み。
②授業中の提出物への内容。
③プレゼンテーションへの取り組み。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありませんが、新聞を読んだりニュースを見たり、社会に関心を持ってください。

テキスト

テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	キャリアセミナー ＜2＞		
教員名	鈴木　賞子		
科目ナンバー	1101045000	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この授業のテーマは「現代社会と自分を考える」です。自分の中には様々な可能性があります。その可能性は人と関わったり、様々なことに関心を持ったりすることで広がって行きます。我々を取り巻く社会を知りこれからの社会がどのようになっていくのかを予測します。そこには社会と密接に関わりながら働く場があり、また自分を活かす場があるということを知ることでしょう。これは卒業後の進路を考える上で大切なことです。
授業は講義中心ではなく、グループワークを通じて自分の持ち味（強み・知識・情報）に気付き発揮し伸ばしてくことを目的とします。そのプロセスでコミュニケーション能力や書いて伝える・書いて伝える表現力も身に付くでしょう。自分の意見を述べることの大切さを感じてほしいです。

到達目標

①社会に関心を持って、更に調べることの大切さを認識する。
②行動することを大事にし、ビジネスの現場に行って調べる。
③自分の意見を根拠を明確に積極的に発信する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の目的と進め方を説明。 ・グループメンバーの相互理解。 ・ウォーミングアップグループディスカッションで授業の特徴を理解する。	
	次週への課題への取り組み。	60
第2回	社会環境と社会に求められる「力」 ・ビジネスを取り巻く環境を知る。 ・ヒット商品のキーワードを理解する。 ・サービスの進化を知る。	
	授業の振り返りとキーワードを更に調べる。次週課題への取り組み。	60
第3回	グループワークⅠ（調査）－① ・グループを作り、テーマを決める。 ・チームビルディングを意識して話し合いをする。	
	次週課題を調べる。	60

第4回	グループワークⅠ（調査）－② ・調べた結果や情報を共有化する。 ・話し合いをする。 ・次週に向けて役割を決める。	
	次週課題への取り組み。現場調査に行く。	120
第5回	グループワークⅠ（調査）－③ ・調査結果の報告と情報の共有化をする。 ・話し合いをする。 ・プレゼンテーションに向けての準備をする。 ・次週への役割と課題を確認する。	
	プレゼンテーション資料の作成をする。	90
第6回	グループワークⅠ（調査）－④ ・調査結果の報告と情報の共有化をする。 ・プレゼンテーション資料の作成をする。 ・プレゼンテーションに向けての準備をする。	
	プレゼンテーションの資料作成と準備をする。	90
第7回	プレゼンテーションⅠ－① ・プレゼンテーションをする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションを振り返り、良かった点と課題を明確にする。	60
第8回	プレゼンテーションⅠ－② ・プレゼンテーションをする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションを振り返り、良かった点と課題を明確にする。	60
第9回	プレゼンテーションとは ・プレゼンテーションを振り返る。 ・グループへの評価をフィードバックをする。 ・プレゼンテーションの基本を理解する。	
	プレゼンテーションを振り返り、次のグループワークへの準備をする。	60

第10回	グループワークⅡ（新しいビジネスを考える）－① ・前回のグループワークを参考にアイディアを出す。 ・情報の共有化をする。 ・グループのメンバーとチームビルディングをする。 ・テーマを決める。	
	役割を理解し、課題に取り組む。	60
第11回	グループワークⅡ（新しいビジネスを考える）－② ・調べたことをもとに話し合いをする。 ・アイディアを出し合う。 ・次週までの役割分担をする。	
	課題に取り組む。現場調査をする。	120
第12回	グループワークⅡ（新しいビジネスを考える）－③ ・調べたことをもとに話し合う。 ・情報の共有化をする。 ・プレゼンテーションに向けて準備をする。	
	プレゼンテーション資料の作成をする。プレゼンテーションの準備をする。	90
第13回	プレゼンテーションⅡ－① ・グループワークの結果をプレゼンテーションする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションの振り返り、指摘された課題に取り組む。	60
第14回	プレゼンテーションⅡ－② ・グループワークの結果をプレゼンテーションをする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションを振り返り、指摘された課題に取り組む。	60
第15回	授業のまとめ＆職業選択に活かすために ・授業の全体的な振り返りをする。 ・職業選択にどのように活かすのか考える。 ・就職活動の概要を知る。	
	授業を振り返り、課題を明確にし、行動計画をたてる。	60

授業の方法

グループで自由にテーマを設定し、調査や情報収集をしながらグループワークを実施します。グループ内で積極的に意見交換をしながら進めて行きます。そのプロセスでコミュニケーション能力が身に付き、社会や企業に関する知識も増えていきます。グループワークの成果はプレゼンテーションという形で実施します。２回行いますので、違うテーマ（調査する・新しいビジネスを興す）で取り組み、社会やビジネスへの理解を更に深めていくことが可能です。
自分の目で確かめたり、好奇心旺盛に行動することが楽しくなっていくと思います。授業全体を通して、表現方法やマナーなども身につけることができるように、その都度気付いたことなどをフィードバックしていきます。楽しく、興味深く、積極的に取り組みましょう。
授業はあくまでも学生の皆さんが主体ですが、グループワークのプロセスではグループ毎に質問を受け付けたり調査方法などについてアドバイスをします。
職業選択に活かすきっかけにもしてください。

成績評価の方法

授業やグループワークへの積極的な参加（協力・発言・態度など）とプレゼンテーションで60%、授業内の提出物40%で総合的に評価します。グループワーク主体ですので毎回の出席が前提となります。５回以上欠席した場合には原則として評価は「Ｆ」となります。ただし、体調や入院などの特別な事情がある場合には別途考慮します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
①グループワークへの取り組み。
②授業中の提出物への内容。
③プレゼンテーションへの取り組み。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありませんが、新聞を読んだりニュースを見たり、社会に関心を持ってください。

テキスト

テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	キャリアセミナー ＜3＞		
教員名	大野　和男		
科目ナンバー	1101045000	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

ゼミのテーマは「社会と自分を考える」です。これから自分の進路を考えながら充実した学生生活を送ろうとしている学生のみなさんにとって、就職活動は不安なものに思えるかもしれません。「就職に役立つ資格をとりたい」とか「就職に役立つ勉強をしたい」ということをよく耳にします。しかし、就職のための一番の対策は「自分自身が社会人になるためにどう成長するのかというプロセス」を見つけ出し、行動することです。

社会人になるために必要なものの一つに「コミュニケーション力」があります。このゼミでは、グループディスカッション・グループワークなどを通じ、「聴く・話す・書く」といった「コミュニケーション力向上」を目指します。その中で「社会と自分を知る」ことで自分の課題を見つけ、どう成長していくかを考えて欲しいと思います。また、社会問題やビジネステーマなどに関するディスカッションや意見発表の中で積極的に人に関わり、自分の意見を伝えることの面白さや難しさを実感として味わって欲しいです。
授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。

到達目標

１．「話す・聴く・書く」といった「コミュニケーション力向上」
①積極的に人に関わり、自分の意見を伝えられるようになること
②相手の考え・意図を聞き取れるようになる
③自分の考えを分かりやすく文章化することができるようになる

２．社会・経済・時事などに関心を持ち自ら調べていけるようになる

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション（ゼミの進め方などの説明）	
	【予習】シラバスをよく読んでゼミの目的、進め方を理解する	30
第2回	効果的な自己紹介とコミュニケーション	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む 【復習】今回学んだことを基に自己紹介を改善し実践してみる	90
第3回	面接とコミュニケーション	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	90

第4回	グループディスカッション・グループワークの進め方	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む。来週のディスカッションテーマについて調べる 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	120
第5回	グループディスカッション１	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む。来週のディスカッションテーマについて調べる 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	120
第6回	グループディスカッション２	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む。来週のディスカッションテーマについて調べる 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	120
第7回	グループディスカッション３	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む。来週のグループワークテーマについて調べる 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	120
第8回	グループワーク１	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む。来週のグループワークテーマについて調べる 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	120
第9回	グループワーク２	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読み、業界・企業についての記事を調べる 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	120

第10回	グループワーク３（業界研究・発表①） ・業界情報共有、発表業界決め、プレゼンコンセプト・進め方・調査役割分担決め	
	【予習】業界研究発表に向けて情報収集・準備をする 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	180
第11回	グループワーク３（業界研究・発表②） 進捗状況確認・収集情報まとめ・レジュメ作成準備・発表方法確認	
	【予習】業界研究発表に向けて情報収集・準備をする 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	180
第12回	グループワーク３（業界研究・発表③） グループ別での業界発表 ＊課題レポート内容説明	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む。来週のディスカッションテーマについてまとめる。課題レポートを作成する。 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する。	180
第13回	グループディスカッション４ テーマ 「良いグループディスカッション・グループワークとは」	
	【予習】プレゼンテーションに向けて準備、リハーサルを行う。課題レポートを作成する。 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する。	180
第14回	基本事項の復習と課題レポート内容のプレゼンテーション ＊課題レポート提出	
	【予習】講座全体で学んだことをまとめる。自分の到達目標に対しての到達度を考え、不足している点をまとめる。 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する。	60
第15回	総まとめ	
	【復習】講座全体で学んだことをまとめる。自分の到達目標に対しての到達度を考え、不足している点をまとめる。	60

授業の方法

発表と討論が基本になります。ほとんどはグループ形式で行います。
第５回～第９回までのテーマは前回（第５回でしたら第４回）の授業でテーマを伝え、テーマについて事前に情報収集をすることを宿題といたします。
毎回文章の作成なども行います。

成績評価の方法

授業やグループディスカッションへの積極的な参加（協力・発言・態度など）」と「提出課題」をそれぞれ半分ずつのウエイトで総合的に評価します。ゼミ形式の授業なので、全部出席することが前提であり、5回以上欠席した場合には原則として評価は「Ｆ」となります。（入院等の特別な事情がある場合には別途考慮します）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません

テキスト

特定のテキストは使用しません。
必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

必要な参考文献は授業中に提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	キャリアセミナー ＜4＞		
教員名	鈴木　賞子		
科目ナンバー	1101045000	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

この授業のテーマは「現代社会と自分を考える」です。自分の中には様々な可能性があります。その可能性は人と関わったり、様々なことに関心を持ったりすることで広がって行きます。我々を取り巻く社会を知りこれからの社会がどのようになっていくのかを予測します。そこには社会と密接に関わりながら働く場があり、また自分を活かす場があるということを知ることでしょう。これは卒業後の進路を考える上で大切なことです。
授業は講義中心ではなく、グループワークを通じて自分の持ち味（強み・知識・情報）に気付き発揮し伸ばしてくことを目的とします。そのプロセスでコミュニケーション能力や書いて伝える・書いて伝える表現力も身に付くでしょう。自分の意見を述べることの大切さを感じてほしいです。

到達目標

①社会に関心を持って、更に調べることの大切さを認識する。
②行動することを大事にし、ビジネスの現場に行って調べる。
③自分の意見を根拠を明確に積極的に発信する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の目的と進め方を説明。 ・グループメンバーの相互理解。 ・ウォーミングアップグループディスカッションで授業の特徴を理解する。	
	次週への課題への取り組み。	60
第2回	社会環境と社会に求められる「力」 ・ビジネスを取り巻く環境を知る。 ・ヒット商品のキーワードを理解する。 ・サービスの進化を知る。	
	授業の振り返りとキーワードを更に調べる。次週課題への取り組み。	60
第3回	グループワークⅠ（調査）－① ・グループを作り、テーマを決める。 ・チームビルディングを意識して話し合いをする。	
	次週課題を調べる。	60

第4回	グループワークⅠ（調査）－② ・調べた結果や情報を共有化する。 ・話し合いをする。 ・次週に向けて役割を決める。	
	次週課題への取り組み。現場調査に行く。	120
第5回	グループワークⅠ（調査）－③ ・調査結果の報告と情報の共有化をする。 ・話し合いをする。 ・プレゼンテーションに向けての準備をする。 ・次週への役割と課題を確認する。	
	プレゼンテーション資料の作成をする。	90
第6回	グループワークⅠ（調査）－④ ・調査結果の報告と情報の共有化をする。 ・プレゼンテーション資料の作成をする。 ・プレゼンテーションに向けての準備をする。	
	プレゼンテーションの資料作成と準備をする。	90
第7回	プレゼンテーションⅠ－① ・プレゼンテーションをする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションを振り返り、良かった点と課題を明確にする。	60
第8回	プレゼンテーションⅠ－② ・プレゼンテーションをする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションを振り返り、良かった点と課題を明確にする。	60
第9回	プレゼンテーションとは ・プレゼンテーションを振り返る。 ・グループへの評価をフィードバックをする。 ・プレゼンテーションの基本を理解する。	
	プレゼンテーションを振り返り、次のグループワークへの準備をする。	60

第10回	グループワークⅡ（新しいビジネスを考える）－① ・前回のグループワークを参考にアイディアを出す。 ・情報の共有化をする。 ・グループのメンバーとチームビルディングをする。 ・テーマを決める。	
	役割を理解し、課題に取り組む。	60
第11回	グループワークⅡ（新しいビジネスを考える）－② ・調べたことをもとに話し合いをする。 ・アイディアを出し合う。 ・次週までの役割分担をする。	
	課題に取り組む。現場調査をする。	120
第12回	グループワークⅡ（新しいビジネスを考える）－③ ・調べたことをもとに話し合う。 ・情報の共有化をする。 ・プレゼンテーションに向けて準備をする。	
	プレゼンテーション資料の作成をする。プレゼンテーションの準備をする。	90
第13回	プレゼンテーションⅡ－① ・グループワークの結果をプレゼンテーションする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションの振り返り、指摘された課題に取り組む。	60
第14回	プレゼンテーションⅡ－② ・グループワークの結果をプレゼンテーションをする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションを振り返り、指摘された課題に取り組む。	60
第15回	授業のまとめ＆職業選択に活かすために ・授業の全体的な振り返りをする。 ・職業選択にどのように活かすのか考える。 ・就職活動の概要を知る。	
	授業を振り返り、課題を明確にし、行動計画をたてる。	60

授業の方法

グループで自由にテーマを設定し、調査や情報収集をしながらグループワークを実施します。グループ内で積極的に意見交換をしながら進めて行きます。そのプロセスでコミュニケーション能力が身に付き、社会や企業に関する知識も増えていきます。グループワークの成果はプレゼンテーションという形で実施します。２回行いますので、違うテーマ（調査する・新しいビジネスを興す）で取り組み、社会やビジネスへの理解を更に深めていくことが可能です。
自分の目で確かめたり、好奇心旺盛に行動することが楽しくなっていくと思います。授業全体を通して、表現方法やマナーなども身につけることができるように、その都度気付いたことなどをフィードバックしていきます。楽しく、興味深く、積極的に取り組みましょう。
授業はあくまでも学生の皆さんが主体ですが、グループワークのプロセスではグループ毎に質問を受け付けたり調査方法などについてアドバイスをします。
職業選択に活かすきっかけにもしてください。

成績評価の方法

授業やグループワークへの積極的な参加（協力・発言・態度など）とプレゼンテーションで60%、授業内の提出物40%で総合的に評価します。グループワーク主体ですので毎回の出席が前提となります。５回以上欠席した場合には原則として評価は「Ｆ」となります。ただし、体調や入院などの特別な事情がある場合には別途考慮します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
①グループワークへの取り組み。
②授業中の提出物への内容。
③プレゼンテーションへの取り組み。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありませんが、新聞を読んだりニュースを見たり、社会に関心を持ってください。

テキスト

テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	キャリアセミナー ＜5＞		
教員名	大野　和男		
科目ナンバー	1101045000	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

ゼミのテーマは「社会と自分を考える」です。これから自分の進路を考えながら充実した学生生活を送ろうとしている学生のみなさんにとって、就職活動は不安なものに思えるかもしれません。「就職に役立つ資格をとりたい」とか「就職に役立つ勉強をしたい」ということをよく耳にします。しかし、就職のための一番の対策は「自分自身が社会人になるためにどう成長するのかというプロセス」を見つけ出し、行動することです。

社会人になるために必要なものの一つに「コミュニケーション力」があります。このゼミでは、グループディスカッション・グループワークなどを通じ、「聴く・話す・書く」といった「コミュニケーション力向上」を目指します。その中で「社会と自分を知る」ことで自分の課題を見つけ、どう成長していくかを考えて欲しいと思います。また、社会問題やビジネステーマなどに関するディスカッションや意見発表の中で積極的に人に関わり、自分の意見を伝えることの面白さや難しさを実感として味わって欲しいです。

授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。

到達目標

１．「話す・聴く・書く」といった「コミュニケーション力向上」
①積極的に人に関わり、自分の意見を伝えられるようになること
②相手の考え・意図を聞き取れるようになる
③自分の考えを分かりやすく文章化することができるようになる

２．社会・経済・時事などに関心を持ち自ら調べていけるようになる

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション（ゼミの進め方などの説明）	
	【予習】シラバスをよく読んでゼミの目的、進め方を理解する	30
第2回	効果的な自己紹介とコミュニケーション	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む 【復習】今回学んだことを基に自己紹介を改善し実践してみる	90
第3回	面接とコミュニケーション	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	90

第4回	グループディスカッション・グループワークの進め方	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む。来週のディスカッションテーマについて調べる 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	120
第5回	グループディスカッション１	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む。来週のディスカッションテーマについて調べる 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	120
第6回	グループディスカッション２	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む。来週のディスカッションテーマについて調べる 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	120
第7回	グループディスカッション３	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む。来週のグループワークテーマについて調べる 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	120
第8回	グループワーク１	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む。来週のグループワークテーマについて調べる 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	120
第9回	グループワーク２	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読み、業界・企業についての記事を調べる 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	120

第10回	グループワーク３（業界研究・発表①） ・業界情報共有、発表業界決め、プレゼンコンセプト・進め方・調査役割分担決め	
	【予習】業界研究発表に向けて情報収集・準備をする 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	180
第11回	グループワーク３（業界研究・発表②） 進捗状況確認・収集情報まとめ・レジュメ作成準備・発表方法確認	
	【予習】業界研究発表に向けて情報収集・準備をする 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する	180
第12回	グループワーク３（業界研究・発表③） グループ別での業界発表 ＊課題レポート内容説明	
	【予習】１週間の新聞、ニュースを読む。来週のディスカッションテーマについてまとめる。課題レポートを作成する。 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する。	180
第13回	グループディスカッション４ テーマ 「良いグループディスカッション・グループワークとは」	
	【予習】プレゼンテーションに向けて準備、リハーサルを行う。課題レポートを作成する。 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する。	180
第14回	基本事項の復習と課題レポート内容のプレゼンテーション ＊課題レポート提出	
	【予習】講座全体で学んだことをまとめる。自分の到達目標に対しての到達度を考え、不足している点をまとめる。 【復習】今回学んだことを振り返り深く理解する。	60
第15回	総まとめ	
	【復習】講座全体で学んだことをまとめる。自分の到達目標に対しての到達度を考え、不足している点をまとめる。	60

授業の方法

発表と討論が基本になります。ほとんどはグループ形式で行います。
第５回～第９回までのテーマは前回（第５回でしたら第４回）の授業でテーマを伝え、テーマについて事前に情報収集をすることを宿題といたします。
毎回文章の作成なども行います。

成績評価の方法

授業やグループディスカッションへの積極的な参加（協力・発言・態度など）」と「提出課題」をそれぞれ半分ずつのウエイトで総合的に評価します。ゼミ形式の授業なので、全部出席することが前提であり、5回以上欠席した場合には原則として評価は「Ｆ」となります。（入院等の特別な事情がある場合には別途考慮します）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません

テキスト

特定のテキストは使用しません。
必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

必要な参考文献は授業中に提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	キャリアセミナー ＜6＞		
教員名	中島　誠一		
科目ナンバー	1101045000	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

ゼミのテーマは「人間力」です。
人間力とは内閣府の人間力戦略研究会で、「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」と定義されています。つまり、ひとり立ちした大人が家庭を作り、社会に役立っていくための力です。
長い間学びの場にある皆さんは人間力を養うために勉強をし、様々な経験をしてきました。そして近い将来社会人としてひとり立ちします。そのためには培った人間力をあらためて確認し、足りない力を養いながら学業を全うしなければなりません。
授業では、ひとり立ちした社会人になるために知っておかなければならない様々な事を、実習を通じて学びます。更に「「ん？！」から始める人間力養成法」の手法で、「気付く自分に気付く」「自ら動いて情報を得る」「得た知識経験をもとに考える」「自分の意見を持つ」「オリジナルな意見を発信する」訓練を行います。

到達目標

自ら感じ、自ら考えて積極的に動く習慣をつけることで、社会から望まれる人間力を備え、それを人に伝えることができる人材として成長することを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：ゼミの進め方などの説明。相互理解。	
	シラバスの理解。	30分
第2回	大学とは何か？大学で何をするか。	
	「大学とは何か」を書き出す。	60分
第3回	「大学とは何か」発表。私はだれ？	
	「私はだれ」を書き出す。	60分

第4回	「私はだれ」発表。不安を確認する。	
	「不安に思うこと」を書き出す。	90分
第5回	「不安に思うこと」発表。「ん？！」の確認。	
	「不安に思うこと」を調べる。	90分
第6回	「不安に思うこと」調査結果発表。「ん？！」の整理。	
	「ん？！」を調べる。	90分
第7回	「ん？！」の発表。興味の発展拡大。感想討論。	
	「できる私」作文。	90分
第8回	「できる私」発表。作文のシェイプアップ。	
	「２００字で自己ＰＲ」作文。	90分
第9回	「２００字で自己ＰＲ」発表。相互取材。	
	「成蹊大学の〇〇さん」記事執筆。	90分

第10回	「成蹊大学の〇〇さん」発表。〇〇さんの売り込み。	
	「就活への不明」を書き出す。	90分
第11回	取材「企業と新卒採用」。	
	「企業と新卒採用」記事執筆。	90分
第12回	「企業と新卒採用」発表。ディベート。	
	「自己ＰＲ」を考える。	60分
第13回	「自己ＰＲ」（面接形式）。	
	「質問」を考える。	60分
第14回	自由質疑。人間力を見直す。	
	「自分を見直す」	90分
第15回	人間力の確認。まとめ。	
	人間力の確認。	90分

授業の方法

授業ではグループワークやグループ討論、文章作成、プレゼンテーションといった具体的な作業を行います。聞くこと、書くこと、話すことを実地訓練します。
また、自ら感じ自ら考えることをモットーとして、真剣な研究考察を行ないながら成長します。このため、授業への積極的な参加を求め、授業を阻害する要素は基本的に排除します。

成績評価の方法

授業中の態度、発言・発表と理解進捗度（コミュニケーション・カード、レポート）を最終評価します。ゼミ形式の授業なので、全時間出席することが前提であり、５回以上欠席した場合には原則として評価は「Ｆ」となります。（入院等の特別な事情がある場合には別途考慮します）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
特に毎時間、自ら感じ、自ら考えて積極的に動いているかを評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

特定のテキストは使用しません。必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

必要な参考文献は授業中に提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

コミュニケーション・カードによる質問・相談に応えます。さらに、メールによる積極的なコミュニケーションを推進します。

科目名	キャリアセミナー ＜7＞		
教員名	藤田　純子		
科目ナンバー	1101045000	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

現代社会における社会参加のあり方の中で「職業を持つ」ことについて様々な角度から考えます。学生から社会人に変わっていく過程において、自分の進路に不安を感じるかもしれませんが、3年後の就職活動を積極的に推進したいものです。

この授業では、まずコミュニケーション力をつけることを目標とし、その向上のために「話す、書く」ことから始めます。そのような作業を通して「自分とは」、「自分らしく生きる」ことについて考えます。さらに自立した大人が、社会の中である役割を担うこと、つまり「働く」ことに焦点を合わせながら、これから社会人になる学生のみなさんにとって避けられない「社会とは」、「企業社会」について勉強していきたいと思います。

到達目標

学生のみなさんが、将来、社会で活躍するのに不可欠な「考える力、伝える力、行動する勇気」を身につけ、進路決定能力を高めることを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション（グループ分け、授業の進め方などの説明）	
	（予習） シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	30分
第2回	自分の分析 ○ 自己分析シート2を作成する。 （自分の性格について幼年期から現在までの恩師、両親・きょうだいの指摘と自分の記憶を記入。自分の未来についてのイメージ・目標を書く） ○ 書いてみて感じたこと、戸惑ったことをグループで話し合う。	
	(予習) 自己分析シート1を作成 （小学校から大学時代までの経験について）	60分
第3回	自己紹介書の作成と効果的なプレゼンテーション	
	（予習） 企業での面接を前提とした、3分間の自己紹介文を作成する。	60分

第4回	進路・キャリア計画シートの作成	
	（予習・復習） 自分の将来の計画について具体的に確認する。	60分
第5回	社会参加とコミュニケ-ション ＊5回～13回ではグル-プ討論、グル-プ発表があります。	
	（予習・復習） 新聞記事を用いてキャリア探索を行う。	60分
第6回	家族と性役割（１） ＊5回～13回ではグル-プ討論、グル-プ発表があります。 。	
	（予習・復習） 家族に関する新聞記事を読み、ドキュメンタリー番組を視聴する。	60分
第7回	家族と性役割（２） ＊5回～13回ではグル-プ討論、グル-プ発表があります。	
	（予習・復習） 家族およびワーク・ライフ・バランスに関する、新聞記事およびドキュメンタリー番組を視聴する。	60分
第8回	雇用の実態 ＊5回～13回ではグループ討論、グループ発表があります。	
	（予習・復習） 新聞記事を読み、報道番組を視聴する。	60分
第9回	特別講義 ＊9回はゲスト・スピ-カ-によるキャリアについての講義を予定。	
	（予習・復習） 新聞記事を読み、報道番組を視聴する。	60分

第10回	職業を持つこと（1） （事例から職業観、勤労観を考える） ＊5回～13回ではグループ討論、グループ発表があります。	
	（予習・復習）グループ・ワークのための情報を集めておく。	60分
第11回	職業を持つこと（2） （事例から職業観、勤労観を考える） ＊５回～13回ではグループ討論、グループ発表があります。	
	（予習・復習）グループ・ワークのための情報を集めておく。	60分
第12回	職業を持つこと　(3) （事例から職業観、勤労観を考える） ＊5回～13回ではグループ討論、グループ発表があります。	
	（予習・復習）グループ・ワークのための予備的アウトラインを作成しておく。	60分
第13回	職業を持つこと（4） （事例から職業観、勤労観を考える） ＊5回～13回ではグループ討論、グループ発表があります。	
	（予習・復習）プレゼンテーションに向けた準備をしておく。	60分
第14回	基本事項の復習と最終レポートのための発表	
	（予習・復習） プレゼンテーション全般をレビューしておく。	60分
第15回	総まとめ	
	（予習）プレゼンテーション全般のレビューをしておく。	60分

授業の方法

授業では講義とグループ・ワークでの作業、発表を行います。視聴覚教材も活用します。

成績評価の方法

授業中の発表や発言(40%)とレポート(60%)による総合的評価。ゼミ形式の授業なので、全部出席することが前提であり、5回以上欠席した場合には原則として評価は「F」となる。（入院等の特別な事情がある場合には別途考慮する。）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

テキストは使用しない。必要な資料は授業中に配布します。

参考書

授業中に提示をします。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	キャリアセミナー ＜8＞		
教員名	鈴木　賞子		
科目ナンバー	1101045000	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

この授業のテーマは「現代社会と自分を考える」です。自分の中には様々な可能性があります。その可能性は人と関わったり、様々なことに関心を持ったりすることで広がって行きます。我々を取り巻く社会を知りこれからの社会がどのようになっていくのかを予測します。そこには社会と密接に関わりながら働く場があり、また自分を活かす場があるということを知ることでしょう。これは卒業後の進路を考える上で大切なことです。
授業は講義中心ではなく、グループワークを通じて自分の持ち味（強み・知識・情報）に気付き発揮し伸ばしてくことを目的とします。そのプロセスでコミュニケーション能力や書いて伝える・書いて伝える表現力も身に付くでしょう。自分の意見を述べることの大切さを感じてほしいです。

到達目標

①社会に関心を持って、更に調べることの大切さを認識する。
②行動することを大事にし、ビジネスの現場に行って調べる。
③自分の意見を根拠を明確に積極的に発信する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の目的と進め方を説明。 ・グループメンバーの相互理解。 ・ウォーミングアップグループディスカッションで授業の特徴を理解する。	
	次週への課題への取り組み。	60
第2回	社会環境と社会に求められる「力」 ・ビジネスを取り巻く環境を知る。 ・ヒット商品のキーワードを理解する。 ・サービスの進化を知る。	
	授業の振り返りとキーワードを更に調べる。次週課題への取り組み。	60
第3回	グループワークⅠ（調査）－① ・グループを作り、テーマを決める。 ・チームビルディングを意識して話し合いをする。	
	次週課題を調べる。	60

第4回	グループワークⅠ（調査）－② ・調べた結果や情報を共有化する。 ・話し合いをする。 ・次週に向けて役割を決める。	
	次週課題への取り組み。現場調査に行く。	120
第5回	グループワークⅠ（調査）－③ ・調査結果の報告と情報の共有化をする。 ・話し合いをする。 ・プレゼンテーションに向けての準備をする。 ・次週への役割と課題を確認する。	
	プレゼンテーション資料の作成をする。	90
第6回	グループワークⅠ（調査）－④ ・調査結果の報告と情報の共有化をする。 ・プレゼンテーション資料の作成をする。 ・プレゼンテーションに向けての準備をする。	
	プレゼンテーションの資料作成と準備をする。	90
第7回	プレゼンテーションⅠ－① ・プレゼンテーションをする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションを振り返り、良かった点と課題を明確にする。	60
第8回	プレゼンテーションⅠ－② ・プレゼンテーションをする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションを振り返り、良かった点と課題を明確にする。	60
第9回	プレゼンテーションとは ・プレゼンテーションを振り返る。 ・グループへの評価をフィードバックをする。 ・プレゼンテーションの基本を理解する。	
	プレゼンテーションを振り返り、次のグループワークへの準備をする。	60

第10回	グループワークⅡ（新しいビジネスを考える）－① ・前回のグループワークを参考にアイディアを出す。 ・情報の共有化をする。 ・グループのメンバーとチームビルディングをする。 ・テーマを決める。	
	役割を理解し、課題に取り組む。	60
第11回	グループワークⅡ（新しいビジネスを考える）－② ・調べたことをもとに話し合いをする。 ・アイディアを出し合う。 ・次週までの役割分担をする。	
	課題に取り組む。現場調査をする。	120
第12回	グループワークⅡ（新しいビジネスを考える）－③ ・調べたことをもとに話し合う。 ・情報の共有化をする。 ・プレゼンテーションに向けて準備をする。	
	プレゼンテーション資料の作成をする。プレゼンテーションの準備をする。	90
第13回	プレゼンテーションⅡ－① ・グループワークの結果をプレゼンテーションする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションの振り返り、指摘された課題に取り組む。	60
第14回	プレゼンテーションⅡ－② ・グループワークの結果をプレゼンテーションをする。 ・他のグループのプレゼンテーションを評価する。	
	プレゼンテーションを振り返り、指摘された課題に取り組む。	60
第15回	授業のまとめ＆職業選択に活かすために ・授業の全体的な振り返りをする。 ・職業選択にどのように活かすのか考える。 ・就職活動の概要を知る。	
	授業を振り返り、課題を明確にし、行動計画をたてる。	60

授業の方法

グループで自由にテーマを設定し、調査や情報収集をしながらグループワークを実施します。グループ内で積極的に意見交換をしながら進めて行きます。そのプロセスでコミュニケーション能力が身に付き、社会や企業に関する知識も増えていきます。グループワークの成果はプレゼンテーションという形で実施します。２回行いますので、違うテーマ（調査する・新しいビジネスを興す）で取り組み、社会やビジネスへの理解を更に深めていくことが可能です。
自分の目で確かめたり、好奇心旺盛に行動することが楽しくなっていくと思います。授業全体を通して、表現方法やマナーなども身につけることができるように、その都度気付いたことなどをフィードバックしていきます。楽しく、興味深く、積極的に取り組みましょう。
授業はあくまでも学生の皆さんが主体ですが、グループワークのプロセスではグループ毎に質問を受け付けたり調査方法などについてアドバイスをします。
職業選択に活かすきっかけにもしてください。

成績評価の方法

授業やグループワークへの積極的な参加（協力・発言・態度など）とプレゼンテーションで60%、授業内の提出物40%で総合的に評価します。グループワーク主体ですので毎回の出席が前提となります。５回以上欠席した場合には原則として評価は「Ｆ」となります。ただし、体調や入院などの特別な事情がある場合には別途考慮します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
①グループワークへの取り組み。
②授業中の提出物への内容。
③プレゼンテーションへの取り組み。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありませんが、新聞を読んだりニュースを見たり、社会に関心を持ってください。

テキスト

テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	キャリアセミナー ＜9＞		
教員名	辻　恭平		
科目ナンバー	1101045000	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

講師の総合商社での経験や事業開発の事例を題材として、総合商社・国際ビジネス・企業活動とは何かについて考え、グローバルな場と視点で活躍することを志す学生に将来求められる資質についてヒントを提供する。講師自身が大学在学中に感じた漠然とした疑問（「会社の仕事って、具体的に何をするのか？国際ビジネスとはどんな仕事か？商社とは何か？」）や不安を想い起こしながら、これらの疑問に対する答えを『実感』として伝えたい。
授業は、演習（資料精読／ディスカッション／発表）と講義の比率を半々程度として運営する。演習の一環として、自主調査・研究とレポート提出（5～6回）も求める。また、理解度の確認のため、小テストを随時実施（2～3回）する。
尚、授業の進捗状況、受講者の関心に応じ、内容を一部変更する場合がある。

到達目標

総合商社を題材として、「広く世界に視野を向ける」姿勢を身につけること。

副次的目標として；
① 総合商社について理解すること。
② 国際ビジネスの諸側面について理解すること。
③ 企業活動の実像についてイメージを持つこと。
④ 何故いま「グローバル性」なのか、またどのような資質が求められるかについて理解すること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	○ガイダンス ・授業の内容、目標、受講ルール、評価方法等の説明 ・グループ分け ○導入ディスカッション	
	翌週のディスカッション・テーマに関し準備する	30
第2回	国際ビジネスとは？ ―グループ・ディスカッション／発表 ―講師による補足／集約	
	講義内容を復習することによって内容を咀嚼し、新聞等に掲載される企業活動に関する情報について、講義内容と関連付けて読み、考える。	60
第3回	国際ビジネスとは？ ―その現場（講師経験談等）	
	自主研究／レポート作成： 『総合商社とは』	90

第4回	総合商社とは？ ―グループ・ディスカッション ―講師による概論	
	自主研究／レポート作成： 『東洋冷蔵』ドキュメンタリー記事を精読し、キーワードの意味を調査の上、ビジネスモデルの変革点についてレポートを作成。	90
第5回	総合商社とは？ ―ケーススタディ：東洋冷蔵のビジネスモデル変革 ・・・・・受講者によるキーワードの説明 ・・・・・グループディスカッション／発表 ・・・・・講師による補足／集約	
	復習：キーワードとビジネスモデルの変革について咀嚼する	30
第6回	総合商社とは？ ―Value Chain経営とは？（東洋冷蔵の場合）	
	自主研究／レポート作成： 『MDP』ドキュメンタリー記事を精読し、キーワードに関し調査の上、ビジネスモデルの変革点についてレポートを作成	90
第7回	総合商社とは？ ―ケーススタディ：MDPのビジネスモデル変革 ・・・・・受講者によるキーワードの説明 ・・・・・グループディスカッション／発表 ・・・・・講師による補足／集約	
	復習：キーワードとビジネスモデルの変革について咀嚼する	30
第8回	総合商社とは？ ―その発展の姿、組織、経営戦略	
	自主研究／レポート作成： ①『総合商社とは』 ②『水先案内人』ドキュメンタリー記事を読み、総合商社の管理部門の機能に関する発表を準備する	120
第9回	総合商社とは？ ―サポート部門の機能 ・・・・・グループ・ディスカッション／発表 ・・・・・講師による補足／集約 理解度確認小テスト	
	復習：サポート部門の機能について咀嚼する	30

第10回	総合商社とは？ ―レポート／小テストの講評／補足説明	
	総合商社のHPを閲覧し、実際の活動内容についての理解を深める。	60
第11回	国際ビジネスに求められるスキル： ―常識としての法律 （集団訴訟等の事例紹介）	
	復習：法律に関する講義内容を咀嚼し、今後の自習方法について考える。	30
第12回	国際ビジネスに求められるスキル： ―貿易実務 ・グループ・ディスカッション（輸入会社立ち上げ）	
	復習：貿易実務のキーワードについて復習	30
第13回	国際ビジネスに求められるスキル： ―交渉力 ・・・・・グループ・デイスカッションによる発表 理解度確認小テスト	
	復習：講義内容について復習し、今後の自習方法について考える	30
第14回	国際ビジネスに求められるスキル： ―コミュニケーション	
	復習：講義内容を咀嚼し、今後の自習方法について考える。	30
第15回	まとめ： ―総合商社が求める人材 ―就職／仕事について ―質疑応答 期末レポート：『総合商社とは』	
	期末レポート作成：『総合商社とは』	120

授業の方法

演習と講義の比率を半々程度として運営する。

演習については、主に資料（総合商社のドキュメンタリー記事等）の予習／精読、同資料に関するディスカッションと発表を行うが、その他のテーマについても適宜グループディスカッションと発表を行う。

成績評価の方法

ディスカッション／発表／質疑応答を通じた理解度と授業への参加姿勢および出席率に基づき合否を判定（60%±α）したうえで、小テスト／レポートの内容／結果を加算（40%±α）して総合評価する。
授業内容には連続性があるので、特別な理由のない欠席は評価に大きく（「F評価」を含む）影響する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する

必要な予備知識／先修科目／関連科目

TOEIC500以上の英語力があることを前提として授業を進める。

テキスト

資料を適宜出席者に配布する。

参考書

都度紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	キャリアセミナー ＜10＞		
教員名	丸尾　明美		
科目ナンバー	1101045000	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

ゼミのテーマは「社会と自分を知り、自分のキャリアを考える」です。将来どうなりたいのか？を考えるためには、まず自分が将来生きていく世の中のことを知る必要があります。また、その世の中のどこでどのように生きていくのが良いのかを知るためには、自分の特性を知る必要もあります。
このゼミでは毎回グループワークを通じて、「社会についての知識」を主体的に調べ、考え、それを人に伝えることをしていきます。その活動の中で、社会と自分の特性を知り、自分の将来のキャリアを考えていきます。同時に、グループワーク、個人ワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを繰り返し行うことで、社会で必要とされる「社会人基礎力」「コミュニケーション能力」を高めていきます。

到達目標

以下の３点を到達目標とします。
1.　社会、企業、職業についての知識が増え、理解が深まること
2.　自らの将来のキャリアイメージ、およびそこへ向かう計画が描けるようになること
3.　社会で通用する実践的な対人スキル（社会人基礎力、コミュニケーション能力）が向上すること

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション／チームビルディング 今、社会で求められる人材とは？	
	【復習】授業で学んだことに関連する実際のニュースなど社会の情報を調べ、、理解を深める。	60分
第2回	社会を知る① 会社とはどのようなものか？	
	【復習】授業で配布された資料に基づき、情報を調べる。	60分
第3回	社会を知る② 事例を通じて企業の仕組みを理解する	
	【予習】授業内でグループワークを行うために必要な情報を調べてくる。 【復習】次回の授業でプレゼンテーションを行うために必要な準備をグループで行う。	90分

第4回	社会を知る③ 理想の会社！～プレゼン大会	
	【予習】授業内で行うグループプレセンテーションの準備をグループで行ってくる。 【復習】授業で学んだ資料に基づき、関連するニュースや情報を自ら調べ、理解を深める。	60分
第5回	社会を知る④ 株式投資から企業活動を学ぶ	
	【復習】授業で配布された資料に基づき、情報を調べる。	60分
第6回	社会を知る⑤ 株式投資ゲーム／グループディスカッション	
	【予習】授業内でグループワークを行うために必要な情報を調べてくる。 【復習】次回の授業でプレゼンテーションを行うために必要な準備をグループで行う。	90分
第7回	社会を知る⑥ 株式投資ゲーム／プレセンテーション	
	【予習】授業内で行うグループプレセンテーションの準備をグループで行ってくる。 【復習】授業で学んだ資料に基づき、関連するニュースや情報を自ら調べ、理解を深める。	60分
第8回	仕事を知る① 仕事とはどのようなものなのか？	
	【復習】授業で配布された資料に基づき、情報を調べる。	60分
第9回	仕事を知る② 多種多様なキャリアの選択肢を知る／グループワーク	
	【予習】授業内でグループワークを行うために必要な情報を調べてくる。 【復習】次回の授業でプレゼンテーションを行うために必要な準備をグループで行う。	90分

第10回	仕事を知る③ 仕事と学びの接点を知る	
	【予習】授業内で行うグループプレセンテーションの準備をグループで行ってくる。 【復習】授業で学んだ資料に基づき、関連するニュースや情報を自ら調べ、理解を深める。	60分
第11回	自分を知る① キャリアデザイン上の自分の課題を考える	
	【復習】授業で配布された資料に基づき、情報を調べる。	60分
第12回	自分を知る② 計画力、行動力を上げる	
	【復習】授業で配布された資料に基づき、自分自身の行動計画を立てる。（第14回授業で発表）	60分
第13回	社会を知る⑦ 株式投資ゲーム　結果発表	
	【予習】授業内でグループワークを行うために必要な情報を調べ、次回の授業でプレゼンテーションを行うために必要な準備をグループで行う。	90分
第14回	自分を知る③ 行動計画のプレゼンテーション	
	【予習】第12回で学んだことを基に、自己の計画案を作り上げ、個人でプレゼンテーションの準備をしてくる。　【復習】授業で発表した行動計画について見直しを行い、自分でより完成度を高める。	90分
第15回	総まとめ これまで学んできたことの総復習	
	【復習】14回の授業を通じて学んだことを活かし、新聞や雑誌などを活用し、社会、職業、職場についての情報収集を行う。	60分

授業の方法

参加型授業です。個人またはグループごとに、情報を調べたり、それを使ってワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを繰り返し行います。最初は苦手という人でも、休まずに毎回授業に出席し、授業で行う課題にしっかり取り組んでいけば、人前で発表したり、相手の意見に対して即座に自分の意見を述べたり、論理的に物事を考え、伝える力などが「必ず」鍛えられ、自信がつきます。毎回休まず出席してください。

成績評価の方法

授業やグループワークへの積極的な参加（協力・発言・態度など）とプレゼンテーションで60%、授業内の提出物40%で総合的に評価します。グループワーク主体ですので、毎回の出席が前提となります。5回以上欠席した場合には原則として評価は「Ｆ」となります。ただし、体調や入院などの特別な事情がある場合には別途考慮します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に必要な予備知識、先修科目はありません。

テキスト

テキストは使用しません。授業内で資料を配布します。

参考書

必要に応じて授業中に提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	キャリア発展講義　（仕事とジェンダー）		
教員名	藤田　純子		
科目ナンバー	1001045101	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

人はどのように働けばよいのでしょうか。社会は、職場や家庭などにおける人と人との関係で成り立っているのです。人には男性と女性があり、その性差が、社会関係の仕組みや内容に影響を与えています。授業では、このような「ジェンダ-」の視点から「仕事を行う」ことに焦点を当て、現状と課題を分析し、これから社会人になる学生のみなさんにとって避けられない「社会とは」、「企業社会」、「男女共同参画社会」について考察します。仕事を通して能力を発揮し、キャリアを形成するために「仕事とジェンダ-」について勉強していきたいと思います。

到達目標

ジェンダ-の意味することを理解し、学生のみなさんがキャリアをどのように構築するのか、という方向性を身につけます。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション（授業の進め方、「職業人レポ-ト」について等）	
	（予習） シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	30分
第2回	女性のキャリアについての意識調査	
	（予習・復習） 進路・キャリア計画シートを作成する	60分
第3回	家族の実態	
	（予習・復習） 新聞を読んだり、報道番組を視聴する。	60分

第4回	アンペイド・ワークとペイド・ワーク	
	（予習・復習） 新聞記事を用いたキャリア探索を行う	60分
第5回	晩婚化とキャリア	
	（予習・復習） 新聞記事を用いたキャリア探索を行う。	60分
第6回	性役割とキャリア	
	（予習・復習） 新聞記事を用いたキャリア探索を行う	60分
第7回	ゆらぐ日本型雇用	
	（予習・復習） 新聞記事を読んだり、報道番組を視聴する。	60分
第8回	男女雇用機会均等法	
	（予習・復習） 新聞を読んだり、報道番組を視聴する。	60分
第9回	ワーク・ライフ・バランス	
	（予習・復習） 新聞を読んだり、報道番組を視聴する。	60分

第10回	保育政策・税制・社会保障制度の実態	
	（予習・復習） 新聞を読んだり、報道番組を視聴する。	60分
第11回	ニュー・エコノミーの進展とジェンダー	
	（予習・復習） 新聞を読み、報道番組も視聴する。	60分
第12回	男女共同参画社会の形成	
	（予習・復習） 課題のアウトラインを作成する。	60分
第13回	「職業人レポート」の発表（1）	
	（予習・復習）プレゼンテーションに向けた準備をしておく。	60分
第14回	「職業人レポート」の発表（2）	
	（予習） プレゼンテーションに向けた準備をする。	60分
第15回	キャリア展開の課題と展望 授業のまとめ	
	この授業を振り返り、到達目標と理解度を点検する。	60分

授業の方法

配布プリントをもとに講義を進めます。講義以外に身近にいる職業人にインタビュ-を行い、「職業人レポ-ト」の取材・発表をします。

成績評価の方法

授業への積極的な参加状況および課題の提出状況40%、発表10%、レポ-ト50%を総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

テキストは使用しない。必要な資料は授業中に配布します。

参考書

授業中に提示をします。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本企業の現状と展望		
教員名	北川　浩		
科目ナンバー	1001045220	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

「業界や企業の現状と展望」を知ることで自らの進路選択をリアルなものにする。
この講義は、民間企業への就職を志す学生のために、業界や企業に関する基礎知識をまなび、その現状を紹介することによって、学生自らが自分自身の進路選択と結び付けていくための科目です。実際に企業の人を招へいしてお話しいただく場合もあり、民間企業への就職を間近に控えた3年生のみなさんにとってとても有益なものになると思います。私は約10年間成蹊大生の就職活動を見てきましたが、その経験から3年生の前期の段階で必要なる知識をなるべく絞り込んだ形でみなさんに伝えていければと考えています。業界研究や企業研究のための基本的な手法などもご紹介します。
★基本的には3年生の受講を想定した授業です。

到達目標

民間企業への就職を志す学生が、企業選びのために必要な基礎知識を修得し、情報収集の方法を身につけること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	イントロダクション 講義の趣旨とねらい、企業研究の基本、などについて説明します。	
	授業のねらいと概要についての復習	60分
第2回	企業研究のポイント 企業研究の基本的な手法について講義する。	
	企業研究の基本手法についての復習	60分
第3回	損害保険業界の現状と展望 企業の人を招いて業界全体の展望と仕事内容に関する説明を聞いた後、簡単な質疑応答を行う。	
	授業で取り上げた業界の現状と展望についての復習と次回にとりあげる業界についての情報収集	60分

第4回	銀行業界の現状と展望 企業の人を招いて業界全体の展望と仕事内容に関する説明を聞いた後、簡単な質疑応答を行う。	
	授業で取り上げた業界の現状と展望についての復習と次回にとりあげる業界についての情報収集	60分
第5回	不動産業界の現状と展望 企業の人を招いて業界全体の展望と仕事内容に関する説明を聞いた後、簡単な質疑応答を行う。 （第1回レポート課題提示）	
	授業で取り上げた業界の現状と展望についての復習と次回にとりあげる業界についての情報収集	60分
第6回	製薬業界の現状と展望 企業の人を招いて業界全体の展望と仕事内容に関する説明を聞いた後、簡単な質疑応答を行う。	
	授業で取り上げた業界の現状と展望についての復習と次回にとりあげる業界についての情報収集	60分
第7回	小売（百貨店）業界の現状と展望 企業の人を招いて業界全体の展望と仕事内容に関する説明を聞いた後、簡単な質疑応答を行う。	
	授業で取り上げた業界の現状と展望についての復習と次回にとりあげる業界についての情報収集	60分
第8回	専門商社（食品流通）の現状と展望 企業の人を招いて業界全体の展望と仕事内容に関する説明を聞いた後、簡単な質疑応答を行う。	
	授業で取り上げた業界の現状と展望についての復習と次回にとりあげる業界についての情報収集	60分
第9回	物流業界の現状と展望 企業の人を招いて業界全体の展望と仕事内容に関する説明を聞いた後、簡単な質疑応答を行う。	
	授業で取り上げた業界の現状と展望についての復習と次回にとりあげる業界についての情報収集	60分

第10回	産業構造を見る視点 基本的な産業構造と企業知名度の関係を講義する。 （第2回レポート課題提示）	
	産業構造に関する基本概念の復習	60分
第11回	建設業界の現状と展望 企業の人を招いて業界全体の展望と仕事内容に関する説明を聞いた後、簡単な質疑応答を行う。	
	授業で取り上げた業界の現状と展望についての復習と次回にとりあげる業界についての情報収集	60分
第12回	製造業（電機メーカー）の現状と展望 企業の人を招いて業界全体の展望と仕事内容に関する説明を聞いた後、簡単な質疑応答を行う。	
	授業で取り上げた業界の現状と展望についての復習と次回にとりあげる業界についての情報収集	60分
第13回	これまでの総復習 これまで行ってきた各業界の現状と展望を総復習し今後の各自のアクションプランを考えるために必要な項目を整理する講義を行う。 （第3回レポート課題提示）	
	各自が自分の気づきを整理する	60分
第14回	企業を見る視点 実際の企業の実態について、これまでの授業を補足する講義を行う。	
	これまでの各自が行った企業研究について各自が振り返りを行い、課題を整理する。	60分
第15回	企業研究と就職活動 就職活動のながれと企業研究の意味について講義する。	
	就職活動に向けた自分の行動計画を作成する。	60分

授業の方法

講義形式の授業です。
講義の順番は招へいする企業の人の都合により入れ替わる場合があります。
(順番等に変更が生じた場合は開講時にお知らせします。)

成績評価の方法

３回のレポート提出の合計点（3割×3）と、ポータル上の授業の感想記述、質問1割のウエイトによって評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・講義で述べた基本的な企業研究手法にもとづいて企業研究が行えるようになっているか
・独自の分析や洞察などが行われているか
の２点をポイントとして評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日ごろから新聞やテレビのニュースに関心を持って接しておくことが大切です。

テキスト

テキストはとくに使用しません。

参考書

参考書などは必要に応じて授業中に提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	インターンシップ準備講座 ＜1＞		
教員名	鈴木　賞子		
科目ナンバー	1101045230	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

民間企業や公共機関などでのインターンシップの準備のために必要な知識の習得や能力開発を行う授業です。組織とは何か、働くとは何かを知り、インターンシップに積極的に臨むための準備をします。授業のプロセスで自分のことに気づき、社会や企業・組織などに対する様々な知識が増えます。

到達目標

①社会と企業を知る。
②組織で働くことの役割を知る。
③社会で必要とされるルールを理解し、マナーを身につける。
④書いて伝える文章力の向上。
⑤話をして伝える表現力の向上。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス ・授業の目的と進め方を理解する。 ・授業に対して各自の目標を持つ。	
	授業を振り返り、自分なりの目的を考える。	60
第2回	インターンシップとは ・体験することの目的を理解する。 ・現状を知り、どのような体験ができるのか理解する。	
	インターンシップ先企業・行政機関などの探し方を調べてみる。	60
第3回	ビジネスを取り巻く環境 ・社会的環境の変化を理解する。 ・ビジネスを取り巻く環境がどのように変化しているのか理解する。	
	授業で学んだキーワードを振り返り、更に調べる。新聞を読んで気になるキーワードを調べる。	60

第4回	企業と組織 ・企業とは何かを理解する。 ・企業と行政機関の役割を理解する。 ・組織とは何かを理解する。	
	授業の振り返りをし、理解できないキーワードを更に調べる。	60
第5回	業界＆企業研究 ・業界研究と企業研究の仕方を理解する。 ・業態と業界の特徴を理解する。 ・業界の種類を知る。	
	どのような業界があるのか、その業界にはどのような企業があるのか調べる。	60
第6回	グループワークⅠ（業界研究）－① ・グループで話し合いをする。 ・次週へ向けて役割を決める。	
	自分の役割を理解して、次週へ向けて課題への取り組みをする。	90
第7回	グループワークⅠ（業界研究）－② ・調べた結果をもとに話し合いをする。 ・プレゼンテーションに向けて準備する。	
	プレゼンテーション資料の作成と準備をする。	90
第8回	プレゼンテーション① ・資料をもとにプレゼンテーションする。 ・他のグループの評価をする。	
	プレゼンテーションの振り返りをし、良かった点と改善点を認識する。	60
第9回	プレゼンテーション② ・資料をもとにプレゼンテーションする。 ・他のグループの評価をする。	
	プレゼンテーションの振り返りをし、良かった点と改善点を認識する。	60

第10回	社会におけるプレゼンテーションとは ・プレゼンテーションの総評とグループへのフィードバック。 ・プレゼンテーションの意義を理解する。 ・インターンシップにおけるプレゼンテーションを理解する。	
	授業をインターンシップに活かせるように準備する。課題（振り返りシート）を記入する。	60
第11回	仕事の役割と責任 ・仕事とは何かを理解する。 ・組織における役割と責任を理解する。 ・組織におけるコミュニケーションを理解する。	
	授業を参考に働く人をインタビューする。インターンシップ先を探し始める。	60
第12回	ビジネスコミュニケーション ・ビジネスの現場におけるコミュニケーションを理解する。 ・マナーと言葉遣いの重要性を理解する。 ・コミュニケーション手段を知る。	
	.実行できるコミュニケーション手段を考えて行動に移す。	30
第13回	グループワークⅡ ・コミュニケーションの難しさを体験する。 ・積極的に意見を発信する。	
	授業を振り返り、インターンシップに活かせるように準備する。	60
第14回	インターンシップと就職活動 ・就職活動の概要を理解する。 ・インターンシップでどのょうな体験をするのか考えてみる。 ・人事担当者との付き合い方を知る。	
	インターンシップで何を体験するのか準備をする。	60
第15回	総括 ・インターンシップへ向けて何を準備するのか理解する。 ・目的と具体的行動について考える。	
	授業を振り返り、疑問は更に調べたり、インターンシップへ向けて準備をする。	60

授業の方法

授業では講義の他に、グループディスカッション、グループワークなどを必要に応じて行います。インターンシップを自主的に取り組めるように、調べたり考えたりしながらインターンシップへの期待やモチベーションを高めていきます。

成績評価の方法

課題への提出物（４０%）、グループワークへや授業への積極的な取り組み（６０%）などで総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
①インターンシップを体験する目的が明確である。
②グループワークに協力的である。
③提出物に関してよく調べ根拠が明確である。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありませんが、インターンシップ先決定に関し、事前面接・実習選考があります。また、マナーに関する課外講座の授業は必須です。

テキスト

使用しませんが、毎回レジュメ・資料を配布します。

参考書

必要に応じて、授業中に随時提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	インターンシップ準備講座 ＜2＞		
教員名	鈴木　賞子		
科目ナンバー	1101045230	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

民間企業や公共機関などでのインターンシップの準備のために必要な知識の習得や能力開発を行う授業です。組織とは何か、働くとは何かを知り、インターンシップに積極的に臨むための準備をします。授業のプロセスで自分のことに気づき、社会や企業・組織などに対する様々な知識が増えます。

到達目標

①社会と企業を知る。
②組織で働くことの役割を知る。
③社会で必要とされるルールを理解し、マナーを身につける。
④書いて伝える文章力の向上。
⑤話をして伝える表現力の向上。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の目的と進め方を理解する。 ・授業に対して各自の目標を持つ。	
	授業を振り返り、自分なりの目的を考える。	60
第2回	インターンシップとは ・体験することの目的を理解する。 ・現状を知り、どのような体験ができるのか理解する。	
	インターンシップ先企業・行政機関などの探し方を調べてみる。	60
第3回	ビジネスを取り巻く環境 ・社会的環境の変化を理解する。 ・ビジネスを取り巻く環境がどのように変化しているのか理解する。	
	授業で学んだキーワードを振り返り、更に調べる。新聞を読んで気になるキーワードを調べる。	60

第4回	企業と組織 ・企業とは何かを理解する。 ・企業と行政機関の役割を理解する。 ・組織とは何かを理解する。	
	授業の振り返りをし、理解できないキーワードを更に調べる。	60
第5回	業界＆企業研究 ・業界研究と企業研究の仕方を理解する。 ・業態と業界の特徴を理解する。 ・業界の種類を知る。	
	どのような業界があるのか、その業界にはどのような企業があるのか調べる。	60
第6回	グループワークⅠ（業界研究）－① ・グループで話し合いをする。 ・次週へ向けて役割を決める。	
	自分の役割を理解して、次週へ向けて課題への取り組みをする。	90
第7回	グループワークⅠ（業界研究）－② ・調べた結果をもとに話し合いをする。 ・プレゼンテーションに向けて準備する。	
	プレゼンテーション資料の作成と準備をする。	90
第8回	プレゼンテーション① ・資料をもとにプレゼンテーションする。 ・他のグループの評価をする。	
	プレゼンテーションの振り返りをし、良かった点と改善点を認識する。	60
第9回	プレゼンテーション② ・資料をもとにプレゼンテーションする。 ・他のグループの評価をする。	
	プレゼンテーションの振り返りをし、良かった点と改善点を認識する。	60

第10回	社会におけるプレゼンテーションとは ・プレゼンテーションの総評とグループへのフィードバック。 ・プレゼンテーションの意義を理解する。 ・インターンシップにおけるプレゼンテーションを理解する。	
	授業をインターンシップに活かせるように準備する。課題（振り返りシート）を記入する。	60
第11回	仕事の役割と責任 ・仕事とは何かを理解する。 ・組織における役割と責任を理解する。 ・組織におけるコミュニケーションを理解する。	
	授業を参考に働く人をインタビューする。インターンシップ先を探し始める。	60
第12回	ビジネスコミュニケーション ・ビジネスの現場におけるコミュニケーションを理解する。 ・マナーと言葉遣いの重要性を理解する。 ・コミュニケーション手段を知る。	
	.実行できるコミュニケーション手段を考えて行動に移す。	30
第13回	グループワークⅡ ・コミュニケーションの難しさを体験する。 ・積極的に意見を発信する。	
	授業を振り返り、インターンシップに活かせるように準備する。	60
第14回	インターンシップと就職活動 ・就職活動の概要を理解する。 ・インターンシップでどのょうな体験をするのか考えてみる。 ・人事担当者との付き合い方を知る。	
	インターンシップで何を体験するのか準備をする。	60
第15回	総括 ・インターンシップへ向けて何を準備するのか理解する。 ・目的と具体的行動について考える。	
	授業を振り返り、疑問は更に調べたり、インターンシップへ向けて準備をする。	60

授業の方法

授業では講義の他に、グループディスカッション、グループワークなどを必要に応じて行います。インターンシップを自主的に取り組めるように、調べたり考えたりしながらインターンシップへの期待やモチベーションを高めていきます。

成績評価の方法

課題への提出物（４０%）、グループワークへや授業への積極的な取り組み（６０%）などで総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
①インターンシップを体験する目的が明確である。
②グループワークに協力的である。
③提出物に関してよく調べ根拠が明確である。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありませんが、インターンシップ先決定に関し、事前面接・実習選考があります。また、マナーに関する課外講座の授業は必須です。

テキスト

使用しませんが、毎回レジュメ・資料を配布します。

参考書

必要に応じて、授業中に随時提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	インターンシップ実習 <1>		
教員名	鈴木　賞子		
科目ナンバー	1601045240	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

民間企業や行政機関等で体験したインターンシップの内容や体験を整理・確認し、自分の進路選択や将来に役立てていくことをサポートすることを目的とする授業です。単にインターンシップを単位認定するだけのための授業ではありません。体験を整理し、課題解決や職業選択などにつなげていきます。原則として前期の「インターンシップ準備講座」を受講し、実際にインターンシップ実習を行なった学生を対象とします。

到達目標

①インターンシップでの経験を整理する。
②インターンシップでの課題を認識し、今後へ向けての行動計画をたてる。
③職業選択に活かす。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	インターンシップ実習１ ・実習先オリエンテーション。 ・実習先のルールと仕事を知る。 ・目標をたてる。	
	実習先のスケジュールを確認し、ルールを理解する。毎日すべきことを確認する。 実習ノートの記入。	60
第2回	インターンシップ実習２ ・仕事を体験する。 ・課題に取り組む。	
	業務を整理する。一日を振り返り、実習ノートを作成する。	60
第3回	インターンシップ実習３ ・仕事を体験する。 ・課題に取り組む。	
	業務を整理する。一日を振り返り、実習ノートを作成する。	60

第4回	インターンシップ実習４ ・仕事を体験する。 ・課題に取り組む。 ・実習後半に向けて到達目標を設定する。	
	業務を整理する。一日を振り返り、実習ノートを作成する。実習後半に向けて、到達目標を確認する。	60
第5回	インターンシップ実習５ ・仕事を体験する。 ・課題に取り組む。	
	業務を確認する。一日を振り返り、実習ノートを作成する。	60
第6回	インターンシップ実習６ ・仕事を体験する。 ・課題に取り組む。	
	業務を確認する。一日を振り返り、実習ノートを作成する。	60
第7回	インターンシップ実習７ ・仕事を体験する。 ・課題に取り組む。	
	業務を確認する。一日を振り返り、実習ノートを作成する。	60
第8回	インターンシップ実習８ ・仕事を体験する。 ・課題に取り組む。 ・体験を振り返る。	
	実習内容を振り返り、報告書をまとめる。	120
第9回	インターンシップ事後報告 ・実習の振り返りをする。 ・提出物や手続きを確認する。 ・インターンシップ相互報告と情報の共有化をする。	
	提出物や今後のスケジュールを確認し、提出物を準備する。	60

第10回	グループワークⅠ ・インターンシップの成果と課題について話し合う。 ・結果をプレゼンテーションする。	
	グループワークをもとに、興味のある業界や企業を調べる。	90
第11回	インターンシップを職業選択に活かす ・働くことを考えてみる。 ・体験を就職活動にどのように活かすのか考えてみる。 ・アピールの仕方を考えてみる。	
	授業を参考に、書類を作成する。	120
第12回	グループワークⅡ（企業研究）－① ・体験をもとに企業研究をする。 ・グループ内で役割を決める。	
	興味のある企業を調べる。	90
第13回	グループワークⅡ（企業研究）－② ・調べたことをもとに情報の共有化をする。 ・企業研究をする。 ・プレゼンテーションに向けて準備をする。	
	プレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションの準備をする。	90
第14回	プレゼンテーション ・資料をもとにプレゼンテーションをする。 ・他のグループのプレゼンテーションの評価をする。 ・グループワークを振り返る。	
	プレゼンテーションを振り返り、課題シートを作成する。	60
第15回	総括 ・社会で求められる能力とは何かを理解する。 ・多様性（ダイバシティ）の重要性を理解する。 ・実習を今後にどのように繋げていくのか考える。	
	実習を振り返り、課題のエントリーシートを記入する。	120

授業の方法

インターンシップの実習を振り返り、実習後の学生個人やグループのプレゼンテーションとそれに関する補足講義を行ないます。グループワークを通してインターンシップの体験や情報の共有化をします。個人の就職活動へ向けて文章表現やプレゼンテーションスキルアップなども目指します。
インターンシップの実習分が授業の一部として考慮されるため、授業はシラバス通りに進んだ時点で終了します。

成績評価の方法

個人発表・グループワークおよびレポートの内容を評価の対象とします。個人面談を行なう場合もあります。授業で提出するレポートはキャリア支援センターに提出する報告書とは異なるものですから、注意してください。
グループワークへの取り組みとそれに伴う提出物（３０%）、授業への積極的参加（３０%）、レポート（４０%）で総合評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
①提出物の内容。
②グループワークへの取り組みとプレゼンテーションの内容。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

キャリア支援センター主催のビジネスマナーに関する課外講座の受講が必要になります。

テキスト

特にありません。必要に応じてレジュメを配布します。

参考書

必要なものがあれば、授業中に提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	インターンシップ実習 ＜2＞		
教員名	鈴木　賞子		
科目ナンバー	1701045240	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

民間企業や行政機関等で体験したインターンシップの内容や体験を整理・確認し、自分の進路選択や将来に役立てていくことをサポートすることを目的とする授業です。単にインターンシップを単位認定するだけのための授業ではありません。体験を整理し、課題解決や職業選択などにつなげていきます。原則として前期の「インターンシップ準備講座」を受講し、実際にインターンシップ実習を行なった学生を対象とします。

到達目標

①インターンシップでの経験を整理する。
②インターンシップでの課題を認識し、今後へ向けての行動計画をたてる。
③職業選択に活かす。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	インターンシップ実習１ ・実習先オリエンテーション。 ・実習先のルールと仕事を知る。 ・目標をたてる。	
	実習先のスケジュールを確認し、ルールを理解する。毎日すべきことを確認する。 実習ノートの記入。	60
第2回	インターンシップ実習２ ・仕事を体験する。 ・課題に取り組む。	
	業務を整理する。一日を振り返り、実習ノートを作成する。	60
第3回	インターンシップ実習３ ・仕事を体験する。 ・課題に取り組む。	
	業務を整理する。一日を振り返り、実習ノートを作成する。	60

第4回	インターンシップ実習４ ・仕事を体験する。 ・課題に取り組む。 ・実習後半に向けて到達目標を設定する。	
	業務を整理する。一日を振り返り、実習ノートを作成する。実習後半に向けて、到達目標を確認する。	60
第5回	インターンシップ実習５ ・仕事を体験する。 ・課題に取り組む。	
	業務を確認する。一日を振り返り、実習ノートを作成する。	60
第6回	インターンシップ実習６ ・仕事を体験する。 ・課題に取り組む。	
	業務を確認する。一日を振り返り、実習ノートを作成する。	60
第7回	インターンシップ実習７ ・仕事を体験する。 ・課題に取り組む。	
	業務を確認する。一日を振り返り、実習ノートを作成する。	60
第8回	インターンシップ実習８ ・仕事を体験する。 ・課題に取り組む。 ・体験を振り返る。	
	実習内容を振り返り、報告書をまとめる。	120
第9回	インターンシップ事後報告 ・実習の振り返りをする。 ・提出物や手続きを確認する。 ・インターンシップ相互報告と情報の共有化をする。	
	提出物や今後のスケジュールを確認し、提出物を準備する。	60

第10回	グループワークⅠ ・インターンシップの成果と課題について話し合う。 ・結果をプレゼンテーションする。	
	グループワークをもとに、興味のある業界や企業を調べる。	90
第11回	インターンシップを職業選択に活かす ・働くことを考えてみる。 ・体験を就職活動にどのように活かすのか考えてみる。 ・アピールの仕方を考えてみる。	
	授業を参考に、書類を作成する。	120
第12回	グループワークⅡ（企業研究）－① ・体験をもとに企業研究をする。 ・グループ内で役割を決める。	
	興味のある企業を調べる。	90
第13回	グループワークⅡ（企業研究）－② ・調べたことをもとに情報の共有化をする。 ・企業研究をする。 ・プレゼンテーションに向けて準備をする。	
	プレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションの準備をする。	90
第14回	プレゼンテーション ・資料をもとにプレゼンテーションをする。 ・他のグループのプレゼンテーションの評価をする。 ・グループワークを振り返る。	
	プレゼンテーションを振り返り、課題シートを作成する。	60
第15回	総括 ・社会で求められる能力とは何かを理解する。 ・多様性（ダイバシティ）の重要性を理解する。 ・実習を今後にどのように繋げていくのか考える。	
	実習を振り返り、課題のエントリーシートを記入する。	120

授業の方法

インターンシップの実習を振り返り、実習後の学生個人やグループのプレゼンテーションとそれに関する補足講義を行ないます。グループワークを通してインターンシップの体験や情報の共有化をします。個人の就職活動へ向けて文章表現やプレゼンテーションスキルアップなども目指します。
インターンシップの実習分が授業の一部として考慮されるため、授業はシラバス通りに進んだ時点で終了します。

成績評価の方法

個人発表・グループワークおよびレポートの内容を評価の対象とします。個人面談を行なう場合もあります。授業で提出するレポートはキャリア支援センターに提出する報告書とは異なるものですから、注意してください。
グループワークへの取り組みとそれに伴う提出物（３０%）、授業への積極的参加（３０%）、レポート（４０%）で総合評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
①提出物の内容。
②グループワークへの取り組みとプレゼンテーションの内容。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

キャリア支援センター主催のビジネスマナーに関する課外講座の受講が必要になります。

テキスト

特にありません。必要に応じてレジュメを配布します。

参考書

必要なものがあれば、授業中に提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	インターンシップ実習 ＜3＞		
教員名	篠田　心治		
科目ナンバー	1801045240	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

成蹊大学が2013年春より新たに開始した産学連携による人材育成プログラムです。20～30社の企業から課題、講演、職場を提供していただくことで適した企業を見極められる人材、そこで活躍できる人材を育成しようとするものです。対象は経済学部、法学部、文学部、理工学部の3年生と理工学研究科の修士１年生となっています。本プログラムは、ステップ１の学内準備研修、ステップ２の丸の内研修、ステップ３の課題型インターンシップ実習という3段階で社会人基礎力を育成します。本プログラムの特徴は、以下のとおりです。１）多業種・多職種の優良企業とのコラボレーションにより授業を構成していること、２）文理融合（経済学部・法学部・文学部・理工学部）のプロジェクトになっていること、３）全体を通して課題解決型プログラムになっていることです。

到達目標

働くことの意義や自己の適性などに気づき、企業から求められる社会人基礎力を備えた人材を育成することです。具体的には、「問題を解決するための考える力」、「チームで働く力」、「自信をもって何事にも取り組む前に踏み出す力」、「自己分析・表現力」、「プレゼンテーション力」が身につくことを目標とします。

授業の計画と準備学修

全体は以下の3つのステップからなっています。
ステップ１は「学内準備研修」です。学内準備研修は、学内で行われる座学の研修であり、演習を中心に問題解決能力、コミュニケーション力、マナーの育成を行います。
ステップ２では、場所を丸の内に設置する研修室に移し、企業の方に講師を務めて頂く「丸の内研修」を行います。ここでは、2つの項目が用意されています。1つ目は、グループワークにより企業から提示される課題について、プレゼンに取り組む研修です。なお、課題はステップ１の学内準備研修の段階で事前に提示され、授業内でプレゼンの準備に取り掛かります。２つ目は、企業の方による講演です。講演を聞き、グループワークを交え、企業の方とディスカッションを行います。
ステップ３は、課題解決型のインターンシップが用意されています。単なる職場体験で終わることなく、各企業、業界の実際の現場で取り扱われる課題について、インターンシップの中で考え、解決策を見出すものです。これらについてはインターンシップ終了後、学内で個人発表会の形で全員が発表し、さらに参加協力企業の方をはじめ、関係者全員の前で発表する成果発表会を丸の内で行います。
　以上の履修に当たっては、「インターンシップ科目の履修について」をよく読んで、ガイダンスに出席してください。

授業の方法

学内での講義・演習、丸の内オフィスでの研修、就業体験実習。

成績評価の方法

円滑に実習が行えたかどうか、および成果に関するレポートを評価の対象とする。インターンシップ実習が正常に行えなかった場合またはレポートの提出がない場合はいずれも単位の認定を行わない。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識はないが、あらかじめ企業研究や業界研究などを行っていることが望ましい。
役立つ科目は前期の「日本企業の現状と展望」（成蹊教養カリキュラム）である。

テキスト

特定のテキストは使用しません。

参考書

必要な参考文献があればその都度提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	理工系インターンシップ実習 <1>		
教員名	近　匡、横山　明弘、(教員未定)		
科目ナンバー	1101045250	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

インターンシップは、民間企業または公的研究機関等の組織における業務を対象として体験し、それら組織の中での業務の位置付け、役割の大切さを実感する社会体験型の授業である。

到達目標

自らの体験を通して社会のニーズを実感することによって、大学卒業後の進路の決定に役立てることを目的とする。　また，実習先の開拓，実習計画の作成，実習の実行，報告書の作成による自己評価といったステップを実践することにより，自主的にものごとを進めていく能力を身につける。

授業の計画と準備学修

1．ガイダンス
　インターンシップについて、授業の進め方、心構え、申請方法、活動方法、報告、
　成績の評価などについて説明する。
2～3．インターンシップセミナー
　インターンシップに対する心構え、社会での活動における周囲との接し方やマナー、報告書の書き方について
4～14．外部実習
　自己開拓（選抜はしない）、大学キャリアセンター経由（キャリア支援センターと理
　工学部キャリア教育委員との協議の上選抜を行う）、学科・学部の紹介（学科担当教
　員が選抜する）などにより実習先を決め、実習申請書を作成、提出する。申請書を
　提出するためには原則として上記1～3に出席していなければならない。
　実習の条件は以下のとおりである。
　　実習内容が受入先の業務あるいは業務に準じているものであること。
　　実習内容が就業経験に適したものであること。
　　正味実習期間が合計28時間以上、かつ5日以上であること（業務の研修時間や
　　業務を知るための見学時間は含まれるとする）。
　　実習期間は他の授業・試験に差し支えない時期とする（夏季休業期間が望ましい）
15．報告書作成・面接
　実習が終わり次第、決められた様式にもとづいて報告書の作成を行う。なお、作成
　した報告書は実習先の承認を受ける必要がある。

授業の方法

ガイダンス、セミナー、自己診断テスト等実習に向けて学内で準備されている講習には必ず出席すること。実習については自己開拓を基本とする。希望をしていても実習先が必ず見つかるとは限らない。実習終了後、報告書の提出とともに担当教員の前で実習報告を中心に面接を行うことがある。

成績評価の方法

講義における演習、実習先の評価、報告書、面接により評価する。原則として履修中止は不可であるが、授業の計画1～3の講義・説明を受け、かつ実習先が見つからない場合に限り履修を中止することができる。実習を円滑に進めるために、担当教員と連絡を密に取ること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	理工系インターンシップ実習 <2>		
教員名	渡邉　一衛、小口　喜美夫、(教員未定)		
科目ナンバー	1101045250	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

インターンシップはボランティア活動とともに、社会体験型の授業として多くの教育機関に広まりつつある。その目的は、民間企業、官公庁、公共団体、NPO法人などの組織における業務を対象として体験し、それら組織のなかでの業務の位置付け、役割の大切さを実感し、就職活動や大学卒業後の進路の設定に役立てることである。また、実習先の開拓、実習計画の作成、実習の実行、報告書の作成による自己評価といったステップを実施することにより、自主的にものごとを進めていく能力を身につけるとともに、報告書の作成やプレゼンテーションを通じて、自分の考えを人に伝えるための技術を修得することもそのねらいとして位置付けている。

到達目標

企業や組織におけるマナーを学び、実践できる。企業や組織の業務に関する内容を体験し、自分の将来の進路に役立てることができる。企業や組織での仕事が複数の人との共働により行われていることを理解し、自らその一員として活動できる。様々なコミュニケーション技術を学び実践できる。

授業の計画と準備学修

1　ガイダンス：インターンシップについて、授業の進め方、心構え、申請方法、活動方法、報告、成績の評価　などについて説明する。
2-3　インターンシップセミナー：インターンシップに対する心構え、社会での活動における周囲との接し方やマ　ナーを中心に講義を受ける。
4　報告書作成、プレゼンテーションの方法：インターンシップの報告書だけでなく、授業等のレポートの書き　方、まとめ方、発表の道具であるパワーポイントの作成技術についての講義、演習をおこなう。
5-14　外部実習：自己開拓（選抜はしない）、大学キャリアセンター経由（キャリア支援センターと理工学部キャ　リア教育委員との協議の上選抜を行う）、学科・学部の紹介（学科担当教員が選抜する）などにより実習先を　決め、実習申請書を作成、提出する。申請書を提出するためには原則として上記1～４に出席していなければ　ならない。
実習の条件は以下のとおりである。
　i）実習内容が受入先の業務あるいは業務に準じているものであること。
　ii）実習内容が就業経験に適したものであること。
　iii）正味実習期間が合計28時間以上、かつ5日以上であること（業務の研修時間や業務を知るための見学時間は　　含まれているとする）。
　iv）実習期間は他の授業・試験に差し支えない時期とする。
15　報告書作成・面接
　実習が終わり次第、決められた様式にもとづいて報告書の作成を行う。なお、作成した報告書は実習先の承認　を受ける必要がある。最後に、担当教員の前で実習についてのプレゼンテーション、質疑応答を行う

授業の方法

授業の計画に示されているように、1回目にこの科目の概要を説明し、その後3回程度の講義、演習をおこなう。実習については自己開拓を基本とする。希望をしていても実習先が必ず見つかるとは限らないことを覚悟しておいて欲しい。実習終了後、報告書の提出とともに実習報告を中心にしたプレゼンテーション、面接を行う。

成績評価の方法

講義における演習（５%）、報告書（５０%）、実習先の評価（２０%）、実習内容のプレゼンテーション（２５%） により評価する。履修中止は不可の科目であるが、授業の計画1～4の講義を受け、かつ実習先が見つからない場合に限り履修を中止することができる。実習を円滑に進めるために、担当教員と連絡を密にとって欲しい。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

なし

テキスト

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

参考書

必要に応じて指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。　担当教員にメールによりアポイントをとってから訪問する。

科目名	理工系インターンシップ実習 <3>		
教員名	瓜生　芳久、笠原　和夫、酒井　孝、篠田　心治、(教員未定)		
科目ナンバー	1101045250	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

インターンシップは、社会体験型の授業である。原則として民間企業または公的研究機関等の組織における業務を対象として体験し、それら組織のなかでの業務の位置付け、役割の大切さを実感し、大学卒業後の進路の設定に役立てることを目的とする。また、実習先の開拓、実習計画の作成、実習の実行、報告書の作成による自己評価といった各ステップの体験を通して、自主的にものごとを進めていく能力を身につける。

到達目標

企業や公的研究機関などで実習を行い、組織の中での業務の位置づけが認識でき，大学卒業後の進路設定に役立てることが出来るようになる。

授業の計画と準備学修

1．ガイダンス
インターンシップについて、授業の進め方、心構え、申請方法、活動方法、報告、成績の評価などについて説明する。
2～3．インターンシップセミナー
インターンシップに対する心構え、社会での活動における周囲との接し方やマナー、報告書の書き方などについて説明する。
4～14．外部実習
●自己開拓（選抜はしない）：大学キャリアセンター経由（キャリア支援センターと理工学部キャリア教育委員との協議の上選抜を行う）。原則として上記1～3に出席していなければならない。
●学科・学部の紹介（履修コース、志望研究室を考慮して学科担当教員が選抜する）：学科学部などにより実習先を決め、実習申請書を作成、提出する。申請書を提出するたには、原則として上記1～3に出席していなければならない。
●実習の条件
① 実習内容が受入先の業務あるいは業務に準じているものであること。
② 実習内容が就業経験に適したものであること。
③ 正味実習期間が合計28時間以上、かつ5日以上であること（業務の研修時間や業務を知るための見学時間は含まれる）。
④ 実習期間は、他の授業・試験に差し支えない時期とする（夏季休業期間が望ましい）。
15．報告書作成・面接
実習終了後、決められた様式にもとづいて報告書の作成を行う。なお、作成した報告書は実習先の承認を受ける必要がある。

授業の方法

後期科目となっているが、前期中にこの科目の概要の説明、2回程度の講義、演習を行う。実習については自己開拓を基本とする。希望をしていても実習先が必ず見つかるとは限らない。実習終了後、報告書の提出とともに、担当教員による実習報告を中心とした面接を行う。

成績評価の方法

講義における演習、実習先の評価、報告書、面接により評価する。原則として履修中止は不可であるが、授業の計画1～3の講義・説明を受け、かつ実習先が見つからない場合に限り履修を中止することができる。実習を円滑に進めるために、担当教員と連絡を密に取ること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識はないが､あらかじめWebやOBによる会社説明会などにて、企業研究や業界研究などインターンシップ情報を集めていることが望ましい。

テキスト

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

参考書

必要な参考文献があればその都度提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	情報活用Ａ ＜1＞		
教員名	新保　好美		
科目ナンバー	1101455010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

パソコンやネットワークの進歩により画像を含む情報発信が容易にできるようになった。本授業では、Webサイトとプレゼンテーションによる情報発信を取り上げ、実習を通して基本的なしくみを理解し、情報を発信する力を身につけていく。
まず、ホームページ作成法ではHTMLの基本構造からツールを使ったページ作成方法までを学んでいく。また、プレゼンテーション技法ではPowerPointを使ったプレゼンテーションの企画および効果的な発表方法を学んでいく。

到達目標

適確かつ効果的に情報発信するプロセスを身につける
テーマⅠ： WWWによる情報発信（Webサイトの作成・公開）
テーマⅡ： PCを用いた効果的なプレゼンテーション（PowerPointによるスライド作成・発表）

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業ガイダンス WWWによる情報発信の基礎知識	
	＜復習＞ 授業時間内に「ホームページ開設」修了テストで合格しなかった場合は、合格して次回授業２日前までに「ホームページ開設」申請を情報センター受付窓口に提出	0～30
第2回	画像処理の基礎 コンテンツの検討	
	＜予習＞ 自分のサイトに使う画像の収集	120
第3回	Webサイト作成の基礎1（HTMLの基礎、WWW）	
	＜予習＞ 自分のサイトのコンテンツを検討 ＜復習＞ HTMLの入力演習	60

第4回	Webサイト作成の基礎2（パスの記述）	
	＜予習＞ 自分のサイトのサイトマップおよびディレクトリ構成を検討 ＜復習＞ パスの記述演習	90
第5回	Webサイト作成の基礎3（CSSの基礎）	
	＜予習＞ 自分のサイトの各ページのラフレイアウトを検討 ＜復習＞ CSSの入力演習	90
第6回	Webサイト作成	
	＜予習＞ 自分のサイトを作成するための素材等の準備	120
第7回	Webサイト公開	
	＜予習＞ 自分のサイトを完成して公開できるように準備	120
第8回	Webサイト評価と改善	
	＜予習＞ クラス内のサイトを相互評価 ＜復習＞ 自分のサイトを改善して完成させ、公開	90
第9回	PowerPointの基礎（復習） 便利な機能	
	＜予習＞ 情報基礎で習ったPowerPointの基本操作を復習 ＜復習＞ 新しく習ったPowerPointの操作を復習	60

第10回	プレゼンテーションの基礎知識（発表準備）	
	＜復習＞ PowerPointプレゼンテーションと発表原稿の作成	120
第11回	PowerPointプレゼンテーション作成（発表準備）	
	＜復習＞ PowerPointプレゼンテーション完成と発表練習	120
第12回	プレゼンテーション技法1（発表及び評価）	
	＜復習＞ 評価の入力	30
第13回	プレゼンテーション技法2（発表の改善）	
	＜復習＞ PowerPointプレゼンテーションと発表原稿の改善	90
第14回	プレゼンテーション発表会及び評価	
	＜予習＞ 発表練習	60
第15回	Webサイト評価	
	＜予習＞ 自分のサイトがWWWサーバにアップロードされ、正しく表示されていることを確認	5

授業の方法

授業はパソコン教室を使用し、各学生1台のPCを用いた実習形式で行う。

成績評価の方法

●実習科目のため原則として毎回出席すること。出席日数が開講授業数の3分の2に満たない場合は、成績評価をFとする。（なお、遅刻・早退も程度により欠席に換算する。）
●成績評価は課題レポート[50%]、出席・授業態度・その他（授業中の小レポートなど）[50%]を総合的に評価する。指定された課題レポートの提出が1つでも足りなかった場合には、成績評価をFとする。
●学期末試験は実施しない。
●課題レポートの複製や剽窃が発覚した場合、成績評価はFとする。なお、複製の場合、コピーした学生だけでなく、コピー元となった学生にも同様の処分を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

情報基礎を先に履修しておくこと。

テキスト

「情報演習14　HTML5 & CSS3 ワークブック」（著者）相澤 裕介　（発行）株式会社カットシステム
ISBN978-4-87783-821-8

参考書

授業時、必要に応じて随時紹介

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	情報活用Ａ ＜2＞		
教員名	北岡　紀子		
科目ナンバー	1201455010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

パソコンとネットワークの進歩により情報発信が容易にできるようになった。その結果、世の中には情報が氾濫し、的確かつ効果的に情報発信する能力が必要とされている。
本科目では、情報発信手段であるWebサイトとプレゼンテーションをテーマとして取り上げ、講義や実習を通して基本構造を理解し、情報を発信する力を身につける。

■　的確かつ効果的に情報発信するプロセスを身につける
●テーマⅠ：　WWWによる情報発信（Webサイトの作成・公開）
HTMLの基本から、ツールを使ったページ作成、Webサーバへのファイルアップまでを、講義と実習で学ぶ。閲覧者が直感的に操作でき、読みやすいサイト作りを目指す。ページタイトル、見出し、リンクなど、検索エンジン対策に重要となる適切なタグの設定についても学ぶ。
インターネットで情報発信することの影響力や責任、情報の著作権についても考察する。

●テーマⅡ：　PCを用いた効果的なプレゼンテーション（PowerPointによるスライド作成・発表）
PowerPointを使いこなすだけでなく、プレゼンテーションの企画、情報の収集・整理、視覚化のポイント、発表技法など、プレゼンテーション技法についてトータルで学び、「伝える」のではなく「伝わる」プレゼンテーションを目指す。
PowerPointについては、マスターの編集やスライドファイルの二次利用など、やや高度なテクニックについても学ぶ。

到達目標

的確かつ効果的な情報発信を習得するために、テーマⅠ、Ⅱともに、以下を到達目標とする。
・　企画、情報の収集・整理、電子ファイルの作成、公開（発表）というプロセスで、作業を進めることができる。
・　上記プロセスの過程で、読みやすさ、見やすさ、伝わりやすさ等への配慮を行うことができる。
・　電子ファイル作成時において、授業で実習するテクニックを確実に用いることができる。
・　著作権侵害、不適切な内容、個人情報の漏えいなどの問題性を認識し、自らが発信する情報に責任を持つことができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	●授業ガイダンス ●WWWによる情報発信1 ・講義：Webサイト作成の基礎（WWWの仕組み　他）	
	【予習・復習】 ・シラバス、授業ガイダンス資料をよく読んで、授業の進め方、出欠遅刻の条件、評価基準などを確認しておく。 ・アンケートに答える。	30
第2回	●WWWによる情報発信2 ・講義：Webサイト作成の基礎（Webサイト作成作業の流れ、HTMLの構成　他） ・演習：Webサイトの作成1	
	【予習・復習】 ・今回の演習でつまずいたところがあれば、PCを操作して復習しておく。 ・ホームページの開設講座を受講し、修了テストに合格・申請する。	60
第3回	●WWWによる情報発信3 ・講義：Webサイト作成の基礎（Webサイト作成時の留意点、閲覧しやすい Webサイトとは　他） ・演習：Webサイトの作成2	
	【予習・復習】 ・今回の演習でつまずいたところがあれば、PCを操作して復習しておく。 ・次回の演習の準備を行う。	60

第4回	●WWWによる情報発信4 ・講義：Webサイト作成の基礎（画像処理の基礎、スタイルシート　他） ・演習：Webサイトの作成3	
	【予習・復習】 ・今回の演習でつまずいたところがあれば、PCを操作して復習しておく。 ・課題Webサイトの準備を行う。課題取り組みに先立ち、Webサイトの著作権及び情報を発信する責任についての関連資料を読んでおく。	90
第5回	●WWWによる情報発信5 ・講義：Webサイト作成の基礎（適切なタグ設定の意義、Webサイトの著作権、情報を発信する責任　他） ・演習：Webサイトの作成4	
	【予習・復習】 ・今回の演習でつまずいたところがあれば、PCを操作して復習しておく。 ・課題Webサイトの準備を行う。	120
第6回	●WWWによる情報発信6 ・講義：Webサイト作成の基礎（対象とする閲覧者への配慮、検索エンジン対策、Webサーバへのファイルアップロード　他） ・演習：Webサイトの作成5	
	【予習・復習】 ・今回の演習でつまずいたところがあれば、PCを操作して復習しておく。 ・課題Webサイトの準備を行う。	120
第7回	●WWWによる情報発信7 ・実習：課題Webサイトの公開 ・講義：課題の評価、Webサイト開設後の管理、発展	
	【予習】 ・PowerPointの基本操作を復習する。	30
第8回	●PCを用いた効果的なプレゼンテーション1 ・講義：プレゼンテーションの基礎（プレゼンテーションとは、プレゼンテーション準備の進め方　他） ・演習：PowerPointの基本操作（復習）	
	【予習・復習】 ・今回の演習でつまずいたところがあれば、PCを操作して復習しておく。 ・次回の演習の準備を行う。	60
第9回	●PCを用いた効果的なプレゼンテーション2 ・講義：プレゼンテーション技法（視覚化のポイント　他） ・演習：視覚化のトレーニング、スライド作成テクニックの習得1（PowerPoint）	
	【予習・復習】 ・今回の演習でつまずいたところがあれば、PCを操作して復習しておく。 ・次回の演習の準備を行う。	60

第10回	●PCを用いた効果的なプレゼンテーション3 ・講義：プレゼンテーション技法（企画段階での確認事項、ストーリーの構成　他） ・演習：スライド作成テクニックの習得2（PowerPoint）	
	【予習・復習】 ・今回の演習でつまずいたところがあれば、PCを操作して復習しておく。 ・次回の演習の準備を行う。	60
第11回	●PCを用いた効果的なプレゼンテーション4 ・講義：プレゼンテーション技法（情報の収集・整理　他） ・演習：スライド作成テクニックの習得3（PowerPoint）	
	【予習・復習】 ・今回の演習でつまずいたところがあれば、PCを操作して復習しておく。 ・課題プレゼンテーションの準備を行う。	90
第12回	●PCを用いた効果的なプレゼンテーション5 ・講義：プレゼンテーション技法（発表技法　　他） ・演習：スライド作成テクニックの習得4（PowerPoint）	
	【予習・復習】 ・今回の演習でつまずいたところがあれば、PCを操作して復習しておく。 ・課題プレゼンテーションの準備を行う。	90
第13回	●PCを用いた効果的なプレゼンテーション6 ・講義：プレゼンテーション技法（事前チェック、リハーサルの必要性　他） ・演習：スライド作成テクニックの習得5（PowerPoint）	
	【予習・復習】 ・今回の演習でつまずいたところがあれば、PCを操作して復習しておく。 ・課題プレゼンテーションの準備を行う。	120
第14回	●PCを用いた効果的なプレゼンテーション7 ・課題プレゼンテーションの実施（発表会）	
	【復習】 ・プレゼンテーションの振り返りを行う。	30
第15回	●PCを用いた効果的なプレゼンテーション8 ・課題プレゼンテーションの振り返り ・演習：応用テクニックの習得（スライドファイルの共有、ネット配信　他） ・まとめ	
	【復習】 ・再度課題プレゼンテーションの振り返りを行う。 ・今回の演習でつまずいたところがあれば、PCを操作して復習しておく。	60

授業の方法

授業はPC教室を使用し、講義と実習で進める。
■　授業で使用するアプリケーション
テーマⅠ：テキストエディタ、画像編集、ホームページ作成、ファイル転送
テーマⅡ：スライド作成（MS PowerPoint2013）
■　課題
テーマ毎に課題を与え、授業時間外に取り組んでもらう。課題は到達目標の達成度を確認する他、各自のスキルや創意工夫なども確認する。
テーマⅠ：Webサイトの作成・公開
テーマⅡ：プレゼンテーション（発表会）の実施
■　その他の受講条件
病気などの理由により授業を欠席した際には、自己責任で次の授業までに授業内容をフォローしておくこと。

成績評価の方法

・　授業時間外に取り組む課題［50%］、授業中の演習、出席・授業態度など［50%］により総合的に評価する。学期末試験は実施しない。
・　課題の提出が1つでも足りなかった場合には、成績評価をFとする。
・　実習科目のため原則として毎回出席すること。出席日数が開講授業数の3分の2に満たない場合は、成績評価をFとする。なお、3回の遅刻で欠席1回に換算する。
・　課題や授業中の演習など、全ての提出物において複製や剽窃が発覚した場合、成績評価はFとする。履修生間の複製の場合、コピーした学生だけでなく、コピー元の学生にも同様の処分を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

テーマⅠ、Ⅱともに次の点に着目し、その達成度により評価する。
・　企画、情報の収集・整理、電子ファイルの作成、公開（発表）というプロセスで、作業を進めることができる。
・　上記プロセスの過程で、読みやすさ、見やすさ、伝わりやすさ等への配慮を行うことができる。
・　電子ファイル作成時において、授業で実習するテクニックを確実に用いることができる。
・　著作権侵害、不適切な内容、個人情報の漏えいなどの問題性を認識し、自らが発信する情報に責任を持つことができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

情報基礎の範囲（Windows・Officeの基本操作、インターネットによる情報検索、大学システムの活用）を習得していることが望ましい。

テキスト

未決定の為、5月下旬に履修登録者へ周知する。

参考書

参考書は必要に応じて授業中に紹介する。授業の中で関連資料を配布することもある。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。授業時間外は、電子メールで受け付ける。

科目名	情報活用Ａ ＜3＞		
教員名	鳥居　真		
科目ナンバー	1301455010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

パソコンとネットワークの進歩により情報発信が容易にできるようになった。本授業では、情報発信の手段であるWebサイトとプレゼンテーションを取り上げ、実習を通して情報を発信する力を身につける。

到達目標

ホームページ作成では、HTMLの基礎を理解し、ホームページを作成し公開できるようになる。プレゼンテーション技法では、PowerPointの技法、効果的なプレゼンテーションにするための企画、情報収集、表現の方法を学び、自らテーマを決めプレゼンテーションを作成し発表する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業ガイダンス、WWWによる情報発信の基礎知識	
	HTMLの基本構造など授業内容の復習	６０分
第2回	Webサイト作成ツールの基本操作	
	Webサイト作成ツールの操作法の復習	６０分
第3回	Webサイト作成実習１	
	ホームページの基本について	６０分

第4回	Webサイト作成実習２	
	画像処理関連について	６０分
第5回	Webサイト作成実習３	
	ハイパーリンクとその周辺について	６０分
第6回	Webサイト作成実習４	
	テーブル、スタイルシート、レイアウトについて	６０分
第7回	Webサイト公開に向けて	
	Webサイト公開のための事前手続き、申請	６０分
第8回	Webサイトの公開	
	デザインの調整、ページ公開ツールの操作、公開されたページの確認	１２０分
第9回	プレゼンテーションの基礎知識、PowerPoinの基礎の復習	
	PowerPoint基本操作の確認、プレゼンテーションのテーマについて	６０分

第10回	PowerPointの高度な技術	
	授業内容の復習、プレゼンテーションに必要な取材、素材収集	１８０分
第11回	PowerPointの高度な技術	
	授業内容の復習、プレゼンテーションに必要な取材、素材収集	１８０分
第12回	プレゼンテーション技法	
	授業内容の復習、プレゼンテーションの作成	１８０分
第13回	プレゼンテーション発表会及び評価	
	プレゼンテーション発表練習	１２０分
第14回	プレゼンテーション発表会及び評価	
	プレゼンテーション発表練習	１２０分
第15回	まとめ	
	プレゼンテーションの評価	６０分

授業の方法

パソコン教室を使用し、各学生1台のPCを用いて実習形式で行う。

成績評価の方法

実習科目のため原則として毎回出席すること。出席日数が開講授業数の３分の２に満たない場合は、成績評価をFとする。なお、遅刻も程度により欠席に換算する。
成績評価は課題となるホームページ公開およびプレゼンテーション発表を50%、出席・授業態度・授業中の小レポートなどを50%としてを総合的に評価する。指定された課題の提出が１つでも足りなかった場合には、成績評価をFとする。
学期末試験は実施しない。
課題レポートの複製や剽窃が発覚した場合、成績評価はFとする。なお、複製の場合、コピーした学生だけでなく、コピー元となった学生にも同様の処分を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

情報基礎を先に履修しておくこと。

テキスト

ビギナーズ情報リテラシ　成蹊大学学園情報センター

参考書

必要に応じて参考書の指示を行う。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	情報活用Ｂ ＜1＞		
教員名	勝野　喜以子		
科目ナンバー	1101455020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本講義では、MS-Officeのうち、業務で特に必要とされるWordやExcel、PowerPointのさらに高度な活用法を学ぶ。これらのスキルは、論文作成の際や社会人になってからの業務などで、文系理系を問わず大いに役立つスキルである。

到達目標

MS-Word、MS-Excel、MS-PowerPointを使いこなせるようになる。
MS-Word　：　見出しや差し込み文書、図形描画といった機能を、論文やビジネス文書の作成に活用できるようになる。
MS-Excel　：　Vlookup, 記録マクロなどの機能を使いこなし、ビジネス文書に活用できるようになる。
MS-PowerPoint　：　動画やBGMを活用した自動プレゼンテーションが作成できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方、出欠の取り方、採点の方法などを説明する。 本学システムの復習 ・成蹊ポータル、WebClass、メールシステム、レポートシステムなど本学で利用しているシステムの操作方法の復習する。 Wordの復習 ・情報基礎で学修したMS-Wordのスキルに関して復習する。	
	【予習】シラバスを熟読しておくこと。 キーボードの入力を練習しておくこと。 情報基礎の授業内容をよく復習しておくこと。	30
第2回	Wordの活用(1) ・MS-Wordの少し高度なスキルを学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第3回	資格試験の紹介 ・比較的有名なパソコンの資格試験について、その特徴等の紹介を行う。 Word模擬試験 ・これまでのWordのスキルで受験可能な資格試験の模擬試験を行い、解答の解説をする。	
	【予習】これまで習ったWordの機能を復習しておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60

第4回	Wordの活用(2) ・テンプレートの活用やExcelとの連携による葉書や名札の作成など、実用的なスキルを学修する。	
	【予習】Wordの差し込み印刷機能について調べておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第5回	課題レポート（Word） ・Wordを用いた課題レポートについての説明を行い、課題を行うのに必要なスキルを学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	120
第6回	Excelの復習 ・情報基礎で学修したMS-Excelのスキルに関して復習する。	
	【予習】情報基礎で習ったExcelの機能を復習しておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第7回	Excelの活用(1) ・MS-Excelの少し高度なスキルを学修する。（データベース、集計　等）	
	【予習】データベース機能について調べておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第8回	Excelの活用(2) ・MS-Excelの少し特殊なスキルを学修する。（記録マクロ、フォームコントロール　等）	
	【予習】記録マクロについて調べておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第9回	Excelの活用(3) ・MS-Excelの少し高度なスキルを学修する。（データの取り込み、ピポットテーブル　等）	
	【予習】ピポットテーブルについて調べておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60

第10回	Excel模擬試験 ・これまでのExcelのスキルで受験可能な資格試験の模擬試験を行い、解答の解説をする。 課題レポート（Excel） ・Excelを用いた課題レポートについての説明を行い、課題を行うのに必要なスキルを学修する。	
	【予習】これまで習ったExcelの機能を復習しておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	120
第11回	画像編集 ・画像編集ソフト（GIMP）を用いて、画像の加工の初歩を学修する。 色覚バリアフリー ・色覚バリアフリーの考え方を把握し、色覚バリアフリーな資料の作成方法を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第12回	動画編集 ・動画編集の基礎を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第13回	PowerPointの活用 ・MS-PowerPointの少し高度なスキルを学修する。。	
	【予習】プレゼンテーションの作成に必要となるため、著作権や肖像権についてよく復習しておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第14回	PowerPointを用いた自動プレゼンテーション ・PowerPointを用いた自動プレゼンテーションの際の注意事項を把握する。	
	【予習】自分の作成した自動プレゼンテーションをよく見直して、見やすくしておくこと 【復習】どのプレゼンテーションがよかったか、なぜそのプレゼンテーションが良かったのかをよく考え、自分でできるようになること	120
第15回	まとめと総合演習 ・これまでのまとめと総合演習。	
	【予習】これまでの授業内容をよく復習し、疑問点を明らかにしておくこと	60

授業の方法

授業はパソコン教室を使用し、各学生１台ずつのPCを用いた実習形式で行う。履修人数に応じて、ティーチングアシスタント （TA） を置き、各学生の理解度に合った授業進行をする。授業において課題レポート（授業内容の習得状況を測るための課題）と授業中課題（授業中内容を習得するために課される練習問題）を提示する。

・授業を欠席した際には、自己責任で次の授業までに授業内容をフォローしておくこと。
・授業の計画に従って、テキスト・参考書の該当箇所を読んでおくこと。
・授業内容に関しては必ずノートをとり、日ごろから復習に力を入れ、授業で習ったことは次回の授業までに確実に習得しておくこと。
・上記の準備学修の時間はあくまで目安であるため、各自の習熟度に応じて取り組むこと。

成績評価の方法

・実習科目のため原則として毎回出席すること。出席日数が開講授業数の３分の２に満たない場合は、成績評価をFとする。（なお、遅刻も程度により欠席に換算する。）
・成績評価は課題レポート［50%］、出席［30%］、授業態度・授業中課題など［20%］を総合的に評価する。指定された課題レポートの提出が１つでも足りなかった場合には、成績評価をFとする。
・学期末試験は実施しない。
・課題の複製や剽窃、他人による作成などの不正が発覚した場合、成績評価はFとする。なお、複製の場合、コピーした学生だけでなく、コピー元となった学生にも同様の処分を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・「情報基礎」を履修済み、もしくは同等のスキルを有することが前提となる。
・「情報基礎」との同時履修は、授業についてこられない可能性が高いので、避けるようにすること。

テキスト

MS-Word、MS-Excel、MS-Powerpointの応用的な内容が掲載されている本を各自で選んで購入しておくこと。
授業中に、わからない機能を調べる辞書として活用する。なお、自分で教科書を選ぶことも、重要なスキルである。

参考書

授業中に必要に応じて参考書の指示を行う。
・情報リテラシー　Windows 7 / Windows Internet Explorer 8 / Microsoft Word 2010 / Microsoft Excel 2010 / Microsoft PowerPoint 2010 対応 ISBN：978-4-89311-816-5

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

第1回の授業で周知する。学内専用ホームページで周知する。

科目名	情報活用Ｂ ＜2＞		
教員名	勝野　喜以子		
科目ナンバー	1101455020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本講義では、MS-Officeのうち、業務で特に必要とされるWordやExcel、PowerPointのさらに高度な活用法を学ぶ。これらのスキルは、論文作成の際や社会人になってからの業務などで、文系理系を問わず大いに役立つスキルである。

到達目標

MS-Word、MS-Excel、MS-PowerPointを使いこなせるようになる。
MS-Word　：　見出しや差し込み文書、図形描画といった機能を、論文やビジネス文書の作成に活用できるようになる。
MS-Excel　：　Vlookup, 記録マクロなどの機能を使いこなし、ビジネス文書に活用できるようになる。
MS-PowerPoint　：　動画やBGMを活用した自動プレゼンテーションが作成できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	授業ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方、出欠の取り方、採点の方法などを説明する。 本学システムの復習 ・成蹊ポータル、WebClass、メールシステム、レポートシステムなど本学で利用しているシステムの操作方法の復習する。 Wordの復習 ・情報基礎で学修したMS-Wordのスキルに関して復習する。	
	【予習】シラバスを熟読しておくこと。 キーボードの入力を練習しておくこと。 情報基礎の授業内容をよく復習しておくこと。	30
第2回	Wordの活用(1) ・MS-Wordの少し高度なスキルを学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第3回	資格試験の紹介 ・比較的有名なパソコンの資格試験について、その特徴等の紹介を行う。 Word模擬試験 ・これまでのWordのスキルで受験可能な資格試験の模擬試験を行い、解答の解説をする。	
	【予習】これまで習ったWordの機能を復習しておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60

第4回	Wordの活用(2) ・テンプレートの活用やExcelとの連携による葉書や名札の作成など、実用的なスキルを学修する。	
	【予習】Wordの差し込み印刷機能について調べておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第5回	課題レポート（Word） ・Wordを用いた課題レポートについての説明を行い、課題を行うのに必要なスキルを学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	120
第6回	Excelの復習 ・情報基礎で学修したMS-Excelのスキルに関して復習する。	
	【予習】情報基礎で習ったExcelの機能を復習しておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第7回	Excelの活用(1) ・MS-Excelの少し高度なスキルを学修する。（データベース、集計　等）	
	【予習】データベース機能について調べておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第8回	Excelの活用(2) ・MS-Excelの少し特殊なスキルを学修する。（記録マクロ、フォームコントロール　等）	
	【予習】記録マクロについて調べておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第9回	Excelの活用(3) ・MS-Excelの少し高度なスキルを学修する。（データの取り込み、ピポットテーブル　等）	
	【予習】ピポットテーブルについて調べておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60

第10回	Excel模擬試験 ・これまでのExcelのスキルで受験可能な資格試験の模擬試験を行い、解答の解説をする。 課題レポート（Excel） ・Excelを用いた課題レポートについての説明を行い、課題を行うのに必要なスキルを学修する。	
	【予習】これまで習ったExcelの機能を復習しておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	120
第11回	画像編集 ・画像編集ソフト（GIMP）を用いて、画像の加工の初歩を学修する。 色覚バリアフリー ・色覚バリアフリーの考え方を把握し、色覚バリアフリーな資料の作成方法を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第12回	動画編集 ・動画編集の基礎を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第13回	PowerPointの活用 ・MS-PowerPointの少し高度なスキルを学修する。。	
	【予習】プレゼンテーションの作成に必要となるため、著作権や肖像権についてよく復習しておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第14回	PowerPointを用いた自動プレゼンテーション ・PowerPointを用いた自動プレゼンテーションの際の注意事項を把握する。	
	【予習】自分の作成した自動プレゼンテーションをよく見直して、見やすくしておくこと 【復習】どのプレゼンテーションがよかったか、なぜそのプレゼンテーションが良かったのかをよく考え、自分でできるようになること	120
第15回	まとめと総合演習 ・これまでのまとめと総合演習。	
	【予習】これまでの授業内容をよく復習し、疑問点を明らかにしておくこと	60

授業の方法

授業はパソコン教室を使用し、各学生１台ずつのPCを用いた実習形式で行う。履修人数に応じて、ティーチングアシスタント （TA） を置き、各学生の理解度に合った授業進行をする。授業において課題レポート（授業内容の習得状況を測るための課題）と授業中課題（授業中内容を習得するために課される練習問題）を提示する。

・授業を欠席した際には、自己責任で次の授業までに授業内容をフォローしておくこと。
・授業の計画に従って、テキスト・参考書の該当箇所を読んでおくこと。
・授業内容に関しては必ずノートをとり、日ごろから復習に力を入れ、授業で習ったことは次回の授業までに確実に習得しておくこと。
・上記の準備学修の時間はあくまで目安であるため、各自の習熟度に応じて取り組むこと。

成績評価の方法

・実習科目のため原則として毎回出席すること。出席日数が開講授業数の３分の２に満たない場合は、成績評価をFとする。（なお、遅刻も程度により欠席に換算する。）
・成績評価は課題レポート［50%］、出席［30%］、授業態度・授業中課題など［20%］を総合的に評価する。指定された課題レポートの提出が１つでも足りなかった場合には、成績評価をFとする。
・学期末試験は実施しない。
・課題の複製や剽窃、他人による作成などの不正が発覚した場合、成績評価はFとする。なお、複製の場合、コピーした学生だけでなく、コピー元となった学生にも同様の処分を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・「情報基礎」を履修済み、もしくは同等のスキルを有することが前提となる。
・「情報基礎」との同時履修は、授業についてこられない可能性が高いので、避けるようにすること。

テキスト

MS-Word、MS-Excel、MS-Powerpointの応用的な内容が掲載されている本を各自で選んで購入しておくこと。
授業中に、わからない機能を調べる辞書として活用する。なお、自分で教科書を選ぶことも、重要なスキルである。

参考書

授業中に必要に応じて参考書の指示を行う。
・情報リテラシー　Windows 7 / Windows Internet Explorer 8 / Microsoft Word 2010 / Microsoft Excel 2010 / Microsoft PowerPoint 2010 対応 ISBN：978-4-89311-816-5

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

第1回の授業で周知する。学内専用ホームページで周知する。

科目名	情報活用Ｂ ＜3＞		
教員名	勝野　喜以子		
科目ナンバー	1101455020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本講義では、MS-Officeのうち、業務で特に必要とされるWordやExcel、PowerPointのさらに高度な活用法を学ぶ。これらのスキルは、論文作成の際や社会人になってからの業務などで、文系理系を問わず大いに役立つスキルである。

到達目標

MS-Word、MS-Excel、MS-PowerPointを使いこなせるようになる。
MS-Word　：　見出しや差し込み文書、図形描画といった機能を、論文やビジネス文書の作成に活用できるようになる。
MS-Excel　：　Vlookup, 記録マクロなどの機能を使いこなし、ビジネス文書に活用できるようになる。
MS-PowerPoint　：　動画やBGMを活用した自動プレゼンテーションが作成できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方、出欠の取り方、採点の方法などを説明する。 本学システムの復習 ・成蹊ポータル、WebClass、メールシステム、レポートシステムなど本学で利用しているシステムの操作方法の復習する。 Wordの復習 ・情報基礎で学修したMS-Wordのスキルに関して復習する。	
	【予習】シラバスを熟読しておくこと。 キーボードの入力を練習しておくこと。 情報基礎の授業内容をよく復習しておくこと。	30
第2回	Wordの活用(1) ・MS-Wordの少し高度なスキルを学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第3回	資格試験の紹介 ・比較的有名なパソコンの資格試験について、その特徴等の紹介を行う。 Word模擬試験 ・これまでのWordのスキルで受験可能な資格試験の模擬試験を行い、解答の解説をする。	
	【予習】これまで習ったWordの機能を復習しておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60

第4回	Wordの活用(2) ・テンプレートの活用やExcelとの連携による葉書や名札の作成など、実用的なスキルを学修する。	
	【予習】Wordの差し込み印刷機能について調べておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第5回	課題レポート（Word） ・Wordを用いた課題レポートについての説明を行い、課題を行うのに必要なスキルを学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	120
第6回	Excelの復習 ・情報基礎で学修したMS-Excelのスキルに関して復習する。	
	【予習】情報基礎で習ったExcelの機能を復習しておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第7回	Excelの活用(1) ・MS-Excelの少し高度なスキルを学修する。（データベース、集計　等）	
	【予習】データベース機能について調べておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第8回	Excelの活用(2) ・MS-Excelの少し特殊なスキルを学修する。（記録マクロ、フォームコントロール　等）	
	【予習】記録マクロについて調べておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第9回	Excelの活用(3) ・MS-Excelの少し高度なスキルを学修する。（データの取り込み、ピポットテーブル　等）	
	【予習】ピポットテーブルについて調べておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60

第10回	Excel模擬試験 ・これまでのExcelのスキルで受験可能な資格試験の模擬試験を行い、解答の解説をする。 課題レポート（Excel） ・Excelを用いた課題レポートについての説明を行い、課題を行うのに必要なスキルを学修する。	
	【予習】これまで習ったExcelの機能を復習しておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	120
第11回	画像編集 ・画像編集ソフト（GIMP）を用いて、画像の加工の初歩を学修する。 色覚バリアフリー ・色覚バリアフリーの考え方を把握し、色覚バリアフリーな資料の作成方法を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第12回	動画編集 ・動画編集の基礎を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第13回	PowerPointの活用 ・MS-PowerPointの少し高度なスキルを学修する。。	
	【予習】プレゼンテーションの作成に必要となるため、著作権や肖像権についてよく復習しておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできりるように練習すること	60
第14回	PowerPointを用いた自動プレゼンテーション ・PowerPointを用いた自動プレゼンテーションの際の注意事項を把握する。	
	【予習】自分の作成した自動プレゼンテーションをよく見直して、見やすくしておくこと 【復習】どのプレゼンテーションがよかったか、なぜそのプレゼンテーションが良かったのかをよく考え、自分でできるようになること	120
第15回	まとめと総合演習 ・これまでのまとめと総合演習。	
	【予習】これまでの授業内容をよく復習し、疑問点を明らかにしておくこと	60

授業の方法

授業はパソコン教室を使用し、各学生１台ずつのPCを用いた実習形式で行う。履修人数に応じて、ティーチングアシスタント （TA） を置き、各学生の理解度に合った授業進行をする。授業において課題レポート（授業内容の習得状況を測るための課題）と授業中課題（授業中内容を習得するために課される練習問題）を提示する。

・授業を欠席した際には、自己責任で次の授業までに授業内容をフォローしておくこと。
・授業の計画に従って、テキスト・参考書の該当箇所を読んでおくこと。
・授業内容に関しては必ずノートをとり、日ごろから復習に力を入れ、授業で習ったことは次回の授業までに確実に習得しておくこと。
・上記の準備学修の時間はあくまで目安であるため、各自の習熟度に応じて取り組むこと。

成績評価の方法

・実習科目のため原則として毎回出席すること。出席日数が開講授業数の３分の２に満たない場合は、成績評価をFとする。（なお、遅刻も程度により欠席に換算する。）
・成績評価は課題レポート［50%］、出席［30%］、授業態度・授業中課題など［20%］を総合的に評価する。指定された課題レポートの提出が１つでも足りなかった場合には、成績評価をFとする。
・学期末試験は実施しない。
・課題の複製や剽窃、他人による作成などの不正が発覚した場合、成績評価はFとする。なお、複製の場合、コピーした学生だけでなく、コピー元となった学生にも同様の処分を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・「情報基礎」を履修済み、もしくは同等のスキルを有することが前提となる。
・「情報基礎」との同時履修は、授業についてこられない可能性が高いので、避けるようにすること。

テキスト

MS-Word、MS-Excel、MS-Powerpointの応用的な内容が掲載されている本を各自で選んで購入しておくこと。
授業中に、わからない機能を調べる辞書として活用する。なお、自分で教科書を選ぶことも、重要なスキルである。

参考書

授業中に必要に応じて参考書の指示を行う。
・情報リテラシー　Windows 7 / Windows Internet Explorer 8 / Microsoft Word 2010 / Microsoft Excel 2010 / Microsoft PowerPoint 2010 対応 ISBN：978-4-89311-816-5

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

第1回の授業で周知する。学内専用ホームページで周知する。

科目名	情報活用Ｃ ＜1＞		
教員名	小杉　洋子		
科目ナンバー	1101455030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この授業ではすでに学んだパソコン基礎の技能をさらに充実させることを目的とする。ワープロソフトの習熟に的を絞り、通常仕事を行う上で必要とされる日本語入力速度を初めに達成し、つぎに社外・社内宛てのビジネス文書の作成を学び、さらに技術のみならずパソコンに関連する知識や情報倫理も学ぶ。日本語ワープロ習得後、現在では当然のように必要とされる英文ワープロ技能も英文ビジネスレターやレジュメの作成を通して学ぶ。

到達目標

日本語ワープロ、英文ワープロを習得し、適切な速度で和英のビジネス文書を作成する能力を身につけることを目標とする。また、検定試験(日本商工会議所主催の日商PC検定(文書作成)3級）にチャレンジし、資格を取得することを大きな目標としている。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	PowerPointで日程の説明 検定についての説明（12月16日） 　検定試験の受験は自由であるが、当日は全員出欠をとり、受験しない学生には特別課題が課される 日本語の入力練習（10分で400字） Wordの基本その１（罫線） 練習問題	
	テキスト(日商ＰPC定試験3級公式テキスト）を購入し、検定試験について把握しておく	30~60分
第2回	Wordの基本その２（図形） 検定実技試験用練習問題1~3	
	罫線基本練習問題を完成させ、Portalで提出 プリント（作表練習問題）、練習問題１～３を印刷して次週提出 （毎回授業中に間に合わない場合は、課題を完成させ、次週提出）	30~60分
第3回	入力10分タイム測定 練習問題4~6	
	10分で400字入力ができない学生は、入力練習問題をダウンロードし、練習しておくこと （第6回に入力テスト）	30~60分

第4回	公式テキスト第1章 練習問題7~10 模擬問題1	
	第1章の章末の問題を解いておく	30~60分
第5回	公式テキスト第2章 模擬問題2~4 知識科目練習問題	
	第2 章の章末の問題を解いておく 知識科目練習問題の解答を解答用紙に記入し、Portalで提出（印刷もしておくこと）	30~60分
第6回	公式テキスト第3章 模擬問題5~7 入力テスト	
	第3章の章末の問題を解いておく	30~60分
第7回	公式テキスト第4章、第5章 模擬問題8~10 知識科目（文書作成）	
	公式テキスト第4章、第5章の章末の問題を解いておく（次週テスト） 知識科目（文書作成）の解答を解答用紙に記入し、Portalで提出（印刷もしておくこと）	30~60分
第8回	模擬問題11~14 公式テキスト例題テスト 知識科目（共通）	
	知識科目（共通）の解答を解答用紙に記入し、Portalで提出（印刷もしておくこと）	30~60分
第9回	模擬問題15~17 検定申込第1回	
	次週知識科目テストその１	60分

第10回	知識科目テストその１ 模擬問題19~20	
	次週知識科目テストその２、実技模擬テスト実施	60分
第11回	知識科目テストその２ 模擬テストその１、その２ 実技のチェックポイントについて	
	次週検定サンプル問題を実施するので、実技、知識の総復習をしておくこと	60分
第12回	模擬テストその３、その４ 検定試験サンプル問題	
	次週検定試験実施 実技だけでなく、知識も復習しておくこと	60~120分
第13回	検定試験実施 受験しない学生には特別課題	
	受験しない学生は特別課題を期日までに必ずPortalで提出	60~120分
第14回	英文ワープロについて 　書式設定 　スペルチェック等 英文ビジネスレター	
	英文入力が不得手な学生は練習しておくこと 英文レターを完成させ提出	30~60分
第15回	ResumeとCover Letter	
	間に合わない場合は、期日までにPortalで提出	30~60分

授業の方法

講義とパソコンを使用した演習。
毎回さまざまなパターンのビジネス文書を効率よく短時間で作成することを実践的に学ぶ。
手順のわからないところは個人的に質問して納得の行く作成方法を学ぶ。
メールで個人的な質問も可。
毎週課題を出題。
授業中に数回小テストを行う。

成績評価の方法

出席(30%程度)、提出物(40%程度)、テスト成績(30%程度)の総合評価とし、学期末試験は実施しない。ただし、出席が70%に満たない場合は評価の対象外となり、また検定試験に合格した場合は評価の一部とする。
実技科目なので欠席しないこと。
欠席した場合はPortalで授業内容を確認し、課題を必ず提出すること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

情報処理Iまたは情報基礎を履修したものであればクラスに関係なくだれにでも理解できるように指導する。

テキスト

日商PC検定試験（文書作成）公式テキスト　FOM出版　2，000円　（予定）
その他プリント

参考書

情報基礎で使用したテキスト

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。
電子メールでも随時受け付ける。

科目名	情報活用Ｃ ＜2＞		
教員名	小杉　洋子		
科目ナンバー	1101455030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この授業ではすでに学んだパソコン基礎の技能をさらに充実させることを目的とする。ワープロソフトの習熟に的を絞り、通常仕事を行う上で必要とされる日本語入力速度を初めに達成し、つぎに社外・社内宛てのビジネス文書の作成を学び、さらに技術のみならずパソコンに関連する知識や情報倫理も学ぶ。日本語ワープロ習得後、現在では当然のように必要とされる英文ワープロ技能も英文ビジネスレターやレジュメの作成を通して学ぶ。

到達目標

日本語ワープロ、英文ワープロを習得し、適切な速度で和英のビジネス文書を作成する能力を身につけることを目標とする。また、検定試験(日本商工会議所主催の日商PC検定(文書作成)3級）にチャレンジし、資格を取得することを大きな目標としている。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	PowerPointで日程の説明 検定についての説明（12月16日） 　検定試験の受験は自由であるが、当日は全員出欠をとり、受験しない学生には特別課題が課される 日本語の入力練習（10分で400字） Wordの基本その１（罫線） 練習問題	
	テキスト(日商ＰPC定試験3級公式テキスト）を購入し、検定試験について把握しておく	30~60分
第2回	Wordの基本その２（図形） 検定実技試験用練習問題1~3	
	罫線基本練習問題を完成させ、Portalで提出 プリント（作表練習問題）、練習問題１～３を印刷して次週提出 （毎回授業中に間に合わない場合は、課題を完成させ、次週提出）	30~60分
第3回	入力10分タイム測定 練習問題4~6	
	10分で400字入力ができない学生は、入力練習問題をダウンロードし、練習しておくこと （第6回に入力テスト）	30~60分

第4回	公式テキスト第1章 練習問題7~10 模擬問題1	
	第1章の章末の問題を解いておく	30~60分
第5回	公式テキスト第2章 模擬問題2~4 知識科目練習問題	
	第2 章の章末の問題を解いておく 知識科目練習問題の解答を解答用紙に記入し、Portalで提出（印刷もしておくこと）	30~60分
第6回	公式テキスト第3章 模擬問題5~7 入力テスト	
	第3章の章末の問題を解いておく	30~60分
第7回	公式テキスト第4章、第5章 模擬問題8~10 知識科目（文書作成）	
	公式テキスト第4章、第5章の章末の問題を解いておく（次週テスト） 知識科目（文書作成）の解答を解答用紙に記入し、Portalで提出（印刷もしておくこと）	30~60分
第8回	模擬問題11~14 公式テキスト例題テスト 知識科目（共通）	
	知識科目（共通）の解答を解答用紙に記入し、Portalで提出（印刷もしておくこと）	30~60分
第9回	模擬問題15~17 検定申込第1回	
	次週知識科目テストその１	60分

第10回	知識科目テストその１ 模擬問題19~20	
	次週知識科目テストその２、実技模擬テスト実施	60分
第11回	知識科目テストその２ 模擬テストその１、その２ 実技のチェックポイントについて	
	次週検定サンプル問題を実施するので、実技、知識の総復習をしておくこと	60分
第12回	模擬テストその３、その４ 検定試験サンプル問題	
	次週検定試験実施 実技だけでなく、知識も復習しておくこと	60~120分
第13回	検定試験実施 受験しない学生には特別課題	
	受験しない学生は特別課題を期日までに必ずPortalで提出	60~120分
第14回	英文ワープロについて 　書式設定 　スペルチェック等 英文ビジネスレター	
	英文入力が不得手な学生は練習しておくこと 英文レターを完成させ提出	30~60分
第15回	ResumeとCover Letter	
	間に合わない場合は、期日までにPortalで提出	30~60分

授業の方法

講義とパソコンを使用した演習。
毎回さまざまなパターンのビジネス文書を効率よく短時間で作成することを実践的に学ぶ。
手順のわからないところは個人的に質問して納得の行く作成方法を学ぶ。
メールで個人的な質問も可。
毎週課題を出題。
授業中に数回小テストを行う。

成績評価の方法

出席(30%程度)、提出物(40%程度)、テスト成績(30%程度)の総合評価とし、学期末試験は実施しない。ただし、出席が70%に満たない場合は評価の対象外となり、また検定試験に合格した場合は評価の一部とする。
実技科目なので欠席しないこと。
欠席した場合はPortalで授業内容を確認し、課題を必ず提出すること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

情報処理Iまたは情報基礎を履修したものであればクラスに関係なくだれにでも理解できるように指導する。

テキスト

日商PC検定試験（文書作成）公式テキスト　FOM出版　2，000円　（予定）
その他プリント

参考書

情報基礎で使用したテキスト

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。
電子メールでも随時受け付ける。

科目名	情報活用Ｄ		
教員名	飯塚　邦彦		
科目ナンバー	1101455040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本講義は、Microsoft Word2013とExcel2013の実践的な技術を身につけることを目的とする。そのために、Microsoftが認定する国際資格である、MOS（Microsoft Office Specialist）2013 スペシャリストレベルの取得を目指す。MOSはMicrosoft Officeに習熟していることを客観的に示す資格であり、就職やキャリアアップの際に有利に働くと考えられる。「パソコンが使える」レベルより、ワンランク上の客観的な技術を得ようとしている学生のニーズに応えることを想定している。
本講義で扱うアプリケーションは、Word2013とExcel2013の2つである。WordとExcelの試験には、スペシャリストレベル（一般）とエキスパートレベル（上級）の二種類があるが、本講義で扱うのは、スペシャリストレベル（一般）である。また、MOSの上級資格であるマイクロソフトオフィススペシャリスト マスターを取得するためには、PowerPointとAccessの試験にも合格しなければならないが、本講義の範囲には含まない。

到達目標

・社会で求められる実践的なMicrosoft Officeの技能を身につける。
・MOS Word 2013、Excel2013のスペシャリストレベルに合格できるだけの技能を身につける。
・（Word）身につけた技能を生かし、表現力の高い文書を作成できるようにする。
・（Excel）身につけた技能を生かし、表現力の高いグラフ、表を作成できるようにする。また関数や機能を使い、効率的にデータ分析を行えるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション&Microsoftアカウントの取得 ・授業の進め方、評価基準、課題、MOS受験について説明する。 ・Office2013を使う際に必須ともいえるMicrosoftアカウントを取得する。またSkyDriveの使い方を学ぶ。	
	（予習） ・成蹊大学のメールの使い方を確認しておく。 ・テキストを準備しておく。 ・MOSのページ{http://mos.odyssey-com.co.jp/index.html}にアクセスし、MOS試験の概要をつかんでおく。 （復習） ・全ての時間で復習が必要。 ・授業で触れたテキスト部分を復習しておくこと。実際に作業して技術を身につけること。 ・以後の授業も全て同様。予習よりも復習に重点を置くこと。	30
第2回	Word第1回（論文を書く1） ・論文の全体構造の設定について学ぶ。 （学ぶ技術）ページ設定、ヘッダーとフッター、セクション区切り、見出し設定による文書のアウトライン化、スタイルの設定、図の挿入と設定　他	
	・所属する学部・学科の卒論、レポート作成の方法をチェックしておく。	30
第3回	Word第2回（論文を書く2） ・論文に必要な参考資料の挿入方法を学ぶ。 （学ぶ技術）ハイパーリンクとブックマーク、脚注・文末脚注の挿入、参考文献の設定、索引の設定、目次の挿入、図表番号の設定　他	
	所属する学部・学科の卒論を実際に見ておくこと。	30

第4回	Word第3回（ニューズレターを作る1） ・Wordの機能を生かした見栄えの良い文書の作成方法を学ぶ。 （学ぶ技術）ページ罫線、ページの背景、テキストボックスの挿入と設定、テーマの適用　他	
	さまざまなパンフレットや広告を見て、どのような表現が効果的なのか考える。	30
第5回	Word第4回（ニューズレターを作る2） ・画像、図形、ワードアートなどを挿入して、文書の表現力を高める。 （学ぶ技術）図形・画像の挿入と設定、図形を組み合わせて地図を描く、図形の位置の調整とグループ化、ワードアート、文書パーツの活用　他	
	パンフレットや広告などで、画像がどのように使われているかを確かめる。どのように配置すれば効果的なのか考える。デザインや配色についての本を読んでおくとなおよい。	30-60
第6回	Word第5回（ビジネス文書を書く1） ・ビジネス文書の基本を学ぶ。 ・ビジネス文書に必要な技術を学ぶ。 （学ぶ技術）タブとインデントの設定、文書のプロパティの設定、表の挿入と書式設定、コメントと更新履歴、PDFで保存　他	
	Webを検索し、ビジネス文書の基本的な書き方を調べておく。	30
第7回	Word第6回（ビジネス文書を書く2） ・より実践的なビジネス文書の書き方を学ぶ。 ・文書を保護する方法を学ぶ。 （学ぶ技術）文書の保護とセキュリティ設定、差し込み印刷、簡単なマクロ　他	
	Wordが仕事においてどのように使われているか調べ、ビジネスにおいて必要な機能が何か確認しておく。	30
第8回	Excel第1回（データ入力） ・さまざまなデータの入力方法と表示方法を学ぶ。特に見栄え良く書式設定する方法を学ぶ。 ・入力を制限する方法を学ぶ。 （学ぶ技術）オートフィル、セルの書式設定、セルの結合と分割、テーブルとして書式設定、入力規則の設定　他	
	情報基礎で学んだExcelの技術を復習しておく。	45-60
第9回	Excel第2回（ページ設定とグラフ） ・印刷の際のページ設定と印刷の設定を学ぶ。 ・表現力の高いグラフの作り方を学ぶ。 （学ぶ技術）ページ設定、印刷範囲の設定、タイトル行列の設定、おまかせグラフの挿入、任意のグラフの挿入、グラフの詳細な書式設定　他	

	グラフの種類と、適している用途を確認しておく。	30
第10回	Excel第3回（ワークシートの操作と条件付き書式） ・ワークシートの操作、データ・ワークシートのインポートについて学ぶ。 ・条件付き書式を使い、表現力の高い表を作成する。 （学ぶ技術）ワークシートの操作と書式設定、他のデータのインポート、条件付き書式の詳細な設定、カラーバー・アイコンの設定、スパークラインの挿入と設定　他	
	Excelのデモンストレーションを検索し、見栄えの良いExcelファイルを調べておく。	45
第11回	Excel第4回（関数を使って計算） ・関数を使ったデータ処理の方法を学ぶ。 ・相対参照、絶対参照の違いについて学び、Excelでの高度な計算方法を学ぶ。 （学ぶ技術）統計関数（SUM、AVERAGEなど）、文字列関数（TRIM、CONCATENATEなど）、論理関数（SUMIF、AVERAGEIFなど）、その他の関数（RANK.EQ、VLOOKUP）、絶対参照と相対参照の違い　他	
	情報基礎で学んだ関数を復習しておく。	45-60
第12回	Excel第5回（データの操作と集計） ・データベースとしてのExcelの使い方を学ぶ。 ・条件付き書式、関数以外のデータ処理の方法を学ぶ。 （学ぶ技術）高度な検索機能、データの並べ替え、テーブルの操作とフィルター、小計の挿入、アウトラインの挿入、クイック分析　他	
	データベースとは何なのか、どのようにデータを整理する必要があるのか、調べておく。	45-60
第13回	Excel第6回（提出準備とセキュリティ） ・複数人でデータを作成する際に必要な機能を学ぶ。 ・ファイル内の情報のコントロール方法を学び、発表する際に使う機能を学ぶ。 ・データ、ファイルを保護する方法を学ぶ。 （学ぶ技術）変更履歴とコメント、プロパティの設定、ファイルの保護　他	
	Excelを使って作られたプレスリリースを検索し、個人情報、会社情報などがないかを確認する。	30
第14回	総合練習1（MOS受験を前提とした練習問題） ・これまで学んだ技能を生かし、実践的なファイルを作成し、提出する。	

	改めてこれまでの復習をしておく。	60
第15回	総合練習2（14回の解答・解説とMOS受験にあたっての注意） ・14回の解答・解説を行う。 ・MOS受験の際に必要な注意点を学び、受験に備える。	
	・テキストやプリントを見て、提出したファイルの自己採点をしておく。 ・テキストを練習して、MOS受験の準備を進める。	60

授業の方法

パソコン教室で、実技指導を行う。
評価基準となる課題は、毎回の授業で練習した技術を使って作成する。欠席は技術を習得できないことを意味し、評価の低下に直結するので注意すること。公欠や病気による出席停止などの正当な理由がある場合、しかるべき証明書を提示すれば、欠席扱いにはしない。

成績評価の方法

Word課題（30点）＋Excel課題（30点）＋総合練習問題（20点）＋平常点（20点）

・Word、Excelともに、中間課題1回（10点）＋本課題1回（20点）を提出する。また第14回の授業で行う練習問題も評価対象（20点）とする。これに出席・授業への参加状況を勘案した平常点（20点）を加え、評価を行う。
・授業期間内に個人でMOSを受験し、合格した場合、合格証明書を提示すれば加点する（1科目10点）。
・本講義を通じてMOSの団体受験を申し込む予定である（2015年2月上旬）。合格者には前項同様に加点する（1科目10点）。
・MOSを受験しない場合でも、課題を提出し、一定の基準に達すれば、単位取得は可能である。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

「MOSに合格できること」を基準とした採点を行うので、「指示通りに作業する」ことを原則とする。例えば色、スタイルの設定を変更する場合、指示された条件と全く同じになるように作業しなければならない。「見た目がだいたい同じ」では、得点の対象にならないので注意すること。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

先修科目…情報基礎
ファイル操作などの基本的なコンピュータ操作については練習しないので、情報基礎の単位を取得しておくこと。

テキスト

MOS2013用のテキストは、シラバス執筆段階ではまだ発売されていない。テキストが発売されたのちに掲示するので、受講者は授業開始前に確認すること。
授業ではプリントを配布するが、テキストに準拠して授業を進めていく。またテキストは、MOS受験用の自習教材としても重要である。そのためテキストは必ず購入すること。
なお、自宅で復習する必要が出てくると思われるため、自宅のパソコンにWord2013、Excel2013がインストールしてあることが望ましい。

参考書

テキスト同様、発売された後に掲示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。また電子メールでも随時受け付ける。

科目名	情報活用Ｅ ＜1＞		
教員名	(教員未定)		
科目ナンバー	1101455050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

Excelは大学でも企業でも活用されているソフトであり、プログラミングスキルを身につけることにより、研究活動や業務をスムーズに進めることができる可能性がある。本講義では、文系・理系を問わずプログラミング初心者を対象として、Excel VBA（Visual Basic for Applications）によるプログラミングスキルの習得を目的としている。また、課題プログラムの作成を通じて、論理的思考を身につけ、アルゴリズムの構築を理解する。

到達目標

プログラミングの初歩を身につける。MS-ExcelをVBAでコントロールできるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	授業ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方、出欠の取り方、採点の方法などを説明する。記録マクロ ・MS-Excelの記録マクロの活用方法を学修する。	
	【予習】シラバスを熟読しておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第2回	Excel VBAの基本 ・VBAを利用するための設定、プログラムの記述方法などを学修する。 メッセージボックスとコメントアウト ・メッセージボックスの使い方やコメントアウトの方法を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第3回	変数・算術演算子の使い方 ・変数の型や算術演算子の使い方などを学修する。 分岐処理 ・if文や論理演算子などの使い方などを学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60

第4回	配列の使い方 ・配列の使い方を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第5回	ユーザーフォーム ・ユーザーフォームの設定方法を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第6回	デバッグの方法、乱数 ・乱数の使い方、デバッグの方法を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第7回	繰り返し処理（１） ・For文の使い方を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第8回	繰り返し処理（２） ・Do文の使い方を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第9回	サブルーチン ・サブルーチンの使い方を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60

第10回	省略表記／メソッドの活用	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第11回	課題プログラム作成	
	【復習】授業中にできなかった部分の課題プログラムの作成を行うこと	60
第12回	課題プログラム作成	
	【復習】授業中にできなかった部分の課題プログラムの作成を行うこと	60
第13回	課題プログラム作成	
	【復習】授業中にできなかった部分の課題プログラムの作成を行うこと	60
第14回	課題プログラム作成	
	【復習】授業中にできなかった部分の課題プログラムの作成を行うこと	60
第15回	まとめ、及び、質疑応答	
	【予習】課題プログラムを仕上げること	0

授業の方法

授業はパソコン教室を使用し、各学生１台ずつのPCを用いた実習形式で行う。履修人数に応じて、ティーチングアシスタント （TA） を置き、各学生の理解度に合った授業進行をする。授業において課題レポート（授業内容の習得状況を測るための課題）と授業中課題（授業中内容を習得するために課される練習問題）を提示する。

・授業を欠席した際には、自己責任で次の授業までに授業内容をフォローしておくこと。
・授業内容に関しては必ずノートをとり、日ごろから復習に力を入れ、授業で習ったことは次回の授業までに確実に習得しておくこと。
・情報基礎の範囲（Windows・Officeの基本操作、インターネットによる情報検索、大学システムの活用）は、授業の前にできるようになっておくこと。
・上記の準備学修の時間はあくまで目安であるため、各自の習熟度に応じて取り組むこと。

成績評価の方法

・実習科目のため原則として毎回出席すること。出席日数が開講授業数の3分の2に満たない場合は、成績評価をFとする。（なお、遅刻も程度により欠席に換算する。）
・成績評価は，出席・授業態度、授業中課題・小レポート・小テスト等、課題レポートを加味して行う。
・課題の複製や剽窃、他人による作成などの不正が発覚した場合、成績評価はFとする。なお、複製の場合、コピーした学生だけでなく、コピー元となった学生にも同様の処分を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」を履修済み、もしくは同等のスキルを有すること。

テキスト

第1回目の授業で指示する。

参考書

特定のテキストに即した講義を行うわけではない。自分に適したExcel-VBAの参考書を各自で選んで購入しておくこと。
授業中に、わからない機能を調べる辞書として活用する。なお、自分で教科書を選ぶことも、重要なスキルである。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

原則は授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	情報活用Ｅ ＜2＞		
教員名	(教員未定)		
科目ナンバー	1101455050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

Excelは大学でも企業でも活用されているソフトであり、プログラミングスキルを身につけることにより、研究活動や業務をスムーズに進めることができる可能性がある。本講義では、文系・理系を問わずプログラミング初心者を対象として、Excel VBA（Visual Basic for Applications）によるプログラミングスキルの習得を目的としている。また、課題プログラムの作成を通じて、論理的思考を身につけ、アルゴリズムの構築を理解する。

到達目標

プログラミングの初歩を身につける。MS-ExcelをVBAでコントロールできるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	授業ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方、出欠の取り方、採点の方法などを説明する。記録マクロ ・MS-Excelの記録マクロの活用方法を学修する。	
	【予習】シラバスを熟読しておくこと 【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第2回	Excel VBAの基本 ・VBAを利用するための設定、プログラムの記述方法などを学修する。 メッセージボックスとコメントアウト ・メッセージボックスの使い方やコメントアウトの方法を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第3回	変数・算術演算子の使い方 ・変数の型や算術演算子の使い方などを学修する。 分岐処理 ・if文や論理演算子などの使い方などを学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60

第4回	配列の使い方 ・配列の使い方を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第5回	ユーザーフォーム ・ユーザーフォームの設定方法を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第6回	デバッグの方法、乱数 ・乱数の使い方、デバッグの方法を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第7回	繰り返し処理（１） ・For文の使い方を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第8回	繰り返し処理（２） ・Do文の使い方を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第9回	サブルーチン ・サブルーチンの使い方を学修する。	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60

第10回	省略表記／メソッドの活用	
	【復習】授業中に行った作業が一人でできるように練習すること	60
第11回	課題プログラム作成	
	【復習】授業中にできなかった部分の課題プログラムの作成を行うこと	60
第12回	課題プログラム作成	
	【復習】授業中にできなかった部分の課題プログラムの作成を行うこと	60
第13回	課題プログラム作成	
	【復習】授業中にできなかった部分の課題プログラムの作成を行うこと	60
第14回	課題プログラム作成	
	【復習】授業中にできなかった部分の課題プログラムの作成を行うこと	60
第15回	まとめ、及び、質疑応答	
	【予習】課題プログラムを仕上げること	0

授業の方法

授業はパソコン教室を使用し、各学生１台ずつのPCを用いた実習形式で行う。履修人数に応じて、ティーチングアシスタント （TA） を置き、各学生の理解度に合った授業進行をする。授業において課題レポート（授業内容の習得状況を測るための課題）と授業中課題（授業中内容を習得するために課される練習問題）を提示する。

・授業を欠席した際には、自己責任で次の授業までに授業内容をフォローしておくこと。
・授業内容に関しては必ずノートをとり、日ごろから復習に力を入れ、授業で習ったことは次回の授業までに確実に習得しておくこと。
・情報基礎の範囲（Windows・Officeの基本操作、インターネットによる情報検索、大学システムの活用）は、授業の前にできるようになっておくこと。
・上記の準備学修の時間はあくまで目安であるため、各自の習熟度に応じて取り組むこと。

成績評価の方法

・実習科目のため原則として毎回出席すること。出席日数が開講授業数の3分の2に満たない場合は、成績評価をFとする。（なお、遅刻も程度により欠席に換算する。）
・成績評価は，出席・授業態度、授業中課題・小レポート・小テスト等、課題レポートを加味して行う。
・課題の複製や剽窃、他人による作成などの不正が発覚した場合、成績評価はFとする。なお、複製の場合、コピーした学生だけでなく、コピー元となった学生にも同様の処分を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」を履修済み、もしくは同等のスキルを有すること。

テキスト

第1回目の授業で指示する。

参考書

特定のテキストに即した講義を行うわけではない。自分に適したExcel-VBAの参考書を各自で選んで購入しておくこと。
授業中に、わからない機能を調べる辞書として活用する。なお、自分で教科書を選ぶことも、重要なスキルである。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

原則は授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スポーツと科学		
教員名	武藤　健一郎		
科目ナンバー	1101465010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本科目では、健康・スポーツ科目のコア科目「健康・スポーツの基礎」で修得された知見について、スポーツとくにそのパフォーマンスに着目し、より科学的に理解を深めることを主たる目的とする。
スポーツパフォーマンスを構成する要素は「心・技・体」といわれる「スキル・フィットネス・モチベーション」にくわえ、「戦術・戦略」などである。このように本講義では、パフォーマンスを支える要素として、「授業の計画・内容」にあるようにおおきく4つのテーマにわけて検証する。その一方で、パフォーマンス発揮のためには、要素還元論的に統合して検討をしていくことが必要であることも考察していく。
スポーツを題材として、このように科学的に検証していく過程をとおして、合目的的に活動するための教養を高めてもらいたい。

到達目標

①図ポーツ・身体運動に関する科学的根拠を理解でき、スポーツ関連諸科学の学問内容や方法が理解できる。
②自己やスポーツ、運動を客観的に把握・分析し、論理的に説明でき、さらに活用できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：授業の概要、成績評価の方法、必要な予備知識・先修科目・関連科目などの説明	
	【予習】シラバスからあらかじめ授業内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準について確認する。	３０ ３０
第2回	テーマ①　スポーツと体力科学：身体・体力の把握と確認	
	「健康・スポーツの基礎」における体力テストのプロフィールについて確認、把握しておく。	６０
第3回	テーマ① スポーツと体力科学：体力トレーニングの理論と実際	
	体力トレーニングの理論について把握をする。	６０

第4回	テーマ① スポーツと体力科学：発達とトレーニング	
	人間の発達とトレーニングについて把握をする。	６０
第5回	テーマ① スポーツと体力科学：ピーキングとピリオダイゼーション	
	スポーツにおけるピーキングおよびピリオダイゼーションについては把握をする。	６０
第6回	テーマ② スポーツと技術の科学：技術の定義	
	技術の定義について把握をする。	６０
第7回	テーマ② スポーツと技術の科学：局面構造と運動協調	
	スポーツの技術における局面構造と運動協調について把握をする。	６０
第8回	テーマ② スポーツと技術の科学：能力段階と技術トレーニング	
	スポーツ技術に対する能力段階について把握をし、技術トレーニングについて理解をする。	６０
第9回	テーマ③ スポーツと心理学：メンタルトレーニングの基礎理論とアセスメント	
	スポーツにおけるメンタルトレーニングの基礎理論、アセスメントについて把握をする。	６０

第10回	テーマ③ スポーツと心理学：リラクセーションとトレーニングの実施法	
	スポーツにおけるリラクセーションについて把握をする。	６０
第11回	テーマ③ スポーツと心理学：さまざまなメンタルトレーニングプログラム	
	スポーツにおけるさまざまなメンタルトレーニングプログラムについて把握をする。	６０
第12回	テーマ④ スポーツとさまざまな関連科学：コンディショニングの科学	
	スポーツにおけるコンディショニングについて把握をする。	６０
第13回	テーマ④ スポーツとさまざまな関連科学：戦術・戦略の理解と把握、ゲーム分析	
	スポーツにおける戦術・戦略について把握をする。	６０
第14回	テーマ④ スポーツとさまざまな関連科学：スポーツビジョン	
	スポーツにおける視科学、スポーツビジョンについて把握をする。	６０
第15回	まとめ：（到達度確認テストを実施する場合もある）	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握・確認する。	６０

授業の方法

・原則的に教室の授業であるが、必要に応じて測定機器を使用した演習形式の授業、グループによるディスカッション・発表という形式の授業も行う。
・毎回レポートを課すので、そのレポートを利用して、質問への回答など受講生とのコミュニケーションを図り、できるだけ双方向の授業を展開する。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

毎回レポートを課し、これによって総合的に評価をする。履修者数などの状況によっては最終週に到達度確認テストを実施する場合がある。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
なお、次の点に着目し、その達成度により評価する。
・毎回の授業のテーマと内容について基本的な理解ができているか。
・それを応用してレポートテーマを設定し、客観的に分析し、論理的に説明できているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。
また、関連科目として、健康・スポーツ科目の「健康と科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展A」、「健康・スポーツの発展B」、「健康・スポーツの発展S」がある。

テキスト

テキストは特にない。必要な資料等は授業内に配布・掲示する。

参考書

参考書は授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	スポーツと文化		
教員名	稲葉　佳奈子		
科目ナンバー	1101465020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本科目では、スポーツ文化の成立と発展プロセス、およびスポーツ文化の多様なあり方やスポーツとの多様なつきあい方を具体例とともに紹介し、スポーツが文化としてもつ特質や意義について歴史や社会的背景との関連から概説する。
文化的側面からスポーツを「知る・考える・語る」楽しさを理解することで、スポーツに関わるさまざまな事柄への興味をより広くもち、生涯にわたる豊かなスポーツライフの構築に活かしてもらいたい。

到達目標

①　スポーツ・運動に関して、人文科学・社会科学的な根拠にもとづいた意義を理解することができる。
②　スポーツ・運動の文化的特質を理解し、具体的現象や経験等と関連させて論理的に考察することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：授業の概要、成績評価の方法、必要な予備知識等についての説明	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	スポーツ文化の諸構成要素	
	スポーツ文化の諸構成要素について把握する。	60
第3回	スポーツの成立と発展①フットボールの文化史	
	近代スポーツ成立の過程とその特質について把握する。	60

第4回	スポーツの成立と発展②ルールの変容	
	スポーツのルール変容の過程とその特質について把握する。	60
第5回	スポーツの成立と発展③近代オリンピックの誕生	
	近代オリンピック誕生の文化・社会的背景や意義について把握する。	60
第6回	アマチュアリズムとアスレティシズム	
	アマチュアリズムとアスレティシズムの特質と文化・社会的背景との関連について把握する。	60
第7回	スポーツ・フォー・オールと「オリンピック憲章」	
	スポーツ・フォー・オールについて把握し、「オリンピック憲章」の意義と主な内容を理解する。	60
第8回	日本の身体運動文化と「日本的スポーツ観」の形成	
	日本の身体運動文化と　「日本的スポーツ観」の特質について把握する。	60
第9回	日本におけるスポーツ文化の受容と大衆化	
	日本におけるスポーツ文化の受容と大衆化について把握する。	60

第10回	メディアイベントとしてのスポーツと「物語」	
	メディアイベントとしてのスポーツの特質とスポーツの「物語」化について把握する。	60
第11回	ウェブ社会におけるスポーツメディア	
	ウェブ社会化を背景とするスポーツメディアの現状について把握する。	60
第12回	スポーツ文化の多様性①「みる」スポーツ	
	「みる」スポーツの多様なあり方とその文化的特質について把握する。	60
第13回	スポーツ文化の多様性②「支える」スポーツ	
	「支える」スポーツの多様なあり方とその文化的特質について把握する。	60
第14回	スポーツ文化の多様性③文字・視覚文化への広がり	
	スポーツと文字文化・視覚文化をめぐる現状と特質について把握する。	60
第15回	まとめ	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握・確認する。	60

授業の方法

・各回のテーマに即した資料（パワーポイント、ビデオ教材、配布資料など）を用いながら、講義形式で授業を進める。
・授業時に作成・提出する小レポートを適宜活用し、可能な範囲で受講生とのコミュニケーションをはかる。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

授業時の小レポート50%、期末レポート50%をもとにして総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・毎回のテーマと授業内容について基本的なことが適切に理解できているか。
・レポートにおいて、授業内容の理解をふまえた論理的な考察および説明ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として「スポーツと科学」、「健康と科学」、「スポーツと社会」の講義科目、「健康・スポーツの発展A」「健康・スポーツの発展B」、「健康・スポーツの発展S」がある。

テキスト

特になし。必要資料等は授業時に配布する。

参考書

授業時に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	スポーツと社会		
教員名	三浦　康二		
科目ナンバー	1101465030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本科目では、健康・スポーツ科目のコア科目「健康・スポーツの基礎」で修得された知見について、スポーツの政治・経済などとの関わりといった社会的側面に着目し、スポーツの社会的な位置づけや歴史的背景について理解を深めることをテーマとする。また、受講生のスポーツ・身体運動の実践に際して、その社会的基盤となるスポーツ基本法をはじめとした我が国のスポーツ制度などへの理解を含めることを狙いとする。

到達目標

①身体運動・スポーツに関して人文科学、社会科学的な根拠にもとづいた意義を理解し、生涯スポーツに向けた社会性の修得に関する考察と理解につなげることができる。
②人文科学・社会科学分野における健康・運動関連諸科学の学問内容および方法を理解し、身体運動・スポーツの社会における有用性について理解できる。
③ルールやマナーなどのスポーツのもつ文化・社会的特質を理解し、実践のための知識と能力を身につけられる。
④日本におけるスポーツ・健康に関する行政的な取り組みを理解し、その対応について考えることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ授業内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	60
第2回	スポーツの概念①：語源と現代での受容，スポーツの起源と発展①：古代	
	授業内の配布資料について理解につとめ、スポーツの概念と起源について把握しておく。	60
第3回	スポーツの起源と発展②：中世から現代まで	
	授業内の配布資料について理解につとめ、中世から現代までのスポーツの発展について把握しておく。	60

第4回	現代社会の中のスポーツ①：政治・経済との関わり	
	授業内の配布資料について理解につとめ、現代におけるスポーツの政治・経済との関わりについて把握しておく。	60
第5回	現代社会の中のスポーツ②：スポーツの産業化と発展，地域社会との関わり	
	授業内の配布資料について理解につとめ、現代におけるスポーツの産業化と地域社会との関わりについてキーワードを用いて把握しておく。	60
第6回	現代社会の中のスポーツ③：スポーツの大衆化と生涯スポーツ、健康増進活動	
	授業内の配布資料について理解につとめ、スポーツの大衆化と生涯スポーツについて把握しておく。	60
第7回	日本のスポーツ行政①：国および地方自治体における目的と仕組み	
	授業内の配布資料について理解につとめ、日本におけるスポーツ行政の目的と仕組みについて把握しておく。	60
第8回	日本のスポーツ行政②：国および地方自治体におけるスポーツ関連事業とその財源	
	授業内の配布資料について理解につとめ、日本におけるスポーツ行政の財源について把握しておく。	60
第9回	日本のスポーツ行政③：国および地方自治体における公的スポーツ施設	
	授業内の配布資料について理解につとめ、日本における公的スポーツ施設について把握しておく。	60

第10回	日本のスポーツ行政④：生涯スポーツ・健康増進活動と総合型地域スポーツクラブ	
	授業内の配布資料について理解につとめ、日本における生涯スポーツと総合型地域スポーツクラブについて把握しておく。	60
第11回	日本のプロスポーツ：スポーツマーケットと収支構造	
	授業内の配布資料について理解につとめ、日本のプロスポーツにおける収支構造について把握しておく。	60
第12回	外国のプロスポーツ：スポーツマーケットと収支構造	
	授業内の配布資料について理解につとめ、外国のプロスポーツにおける収支構造について把握しておく。	60
第13回	スポーツ選手の労働契約とスポーツ代理人	
	授業内の配布資料について理解につとめ、プロスポーツ選手の労働契約と代理人について把握しておく。	60
第14回	スポーツイベント・選手のスポンサーシップとメディア，到達度確認	
	授業内の配布資料について理解につとめ、スポーツにおけるスポンサーシップとメディアについて把握しておく。	60
第15回	到達度確認テストを実施する可能性あり	
	これまでにおこなった学修のすべての把握と理解につとめる。	90

授業の方法

・各回のテーマに即した資料（スライド、動画資料、配布資料）を用いながら講義形式で授業を進める。
・毎回授業内レポートを課する。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況、授業内レポート、期末レポートなどをもとにして総合的に評価する。
履修者数などの状況によっては最終週に到達度確認テストを実施する場合がある。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
また、次の点に着目し、その達成度により評価する。
①毎回の授業のテーマと内容について基本的な理解ができているか。
②キーワードを用いて学習した内容を論理的に説明できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。また、関連科目として、健康・スポーツ科目の「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展A」、「健康・スポーツの発展B」、「健康・スポーツの発展 S」がある。

テキスト

特に指定しない.

参考書

授業時に適宜紹介する.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	健康と科学		
教員名	境　広志		
科目ナンバー	1101465040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

本科目では、健康・スポーツ科目のコア科目「健康・スポーツの基礎」で修得された知見について、健康の維持・増進や疾病の予防を目的とした運動やスポーツを実施するために必要な知識と理解をさらに深めることをテーマとする。本講義では、安全かつ効果的に運動やスポーツを実施するために必要な、骨格筋や神経、呼吸・循環器系、ホメオスタシス、栄養・エネルギー、トレーニング、運動医学に裏付けられた運動処方の知識などを学ぶことを目的としている。

到達目標

①科学的根拠に基づいた運動やスポーツの実践の必要性を認識し、それを自己の健康実現と結びつけて考えることができる。
②健康の維持・増進や疾病の予防を目的とした運動やスポーツを効果的かつ安全に実践するために必要な学問内容および方法を理解できる。
③日本における健康に関する行政的な取り組みを理解できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、評価基準の説明、講義内容に関するミニテストの実施	
	シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	60
第2回	運動器のしくみ～骨格筋～：関節のしくみ、筋収縮の様式、筋の構造、筋収縮のメカニズム、筋収縮のエネルギー、筋線維のタイプ	
	『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。速筋線維と遅筋線維について把握する。	60
第3回	運動器のしくみ～神経系～：運動単位、運動のコントロール、小脳による調整、力の種類とトレーニング	
	『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。筋紡錘と伸張反射について把握する。	60

第4回	運動と心肺機能～呼吸器系～: 呼吸の調節、ガス交換、酸素借と酸素負債、運動強度と最大酸素摂取量、トレーニングによる呼吸機能の向上	
	『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。最大酸素摂取量について把握する。	60
第5回	運動と心肺機能～循環器系～: 心臓の拍動、心拍動の調節、4つのポンプ機能、運動と血圧・血流配分	
	『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。動脈ポンプ、筋ポンプ、胸郭ポンプについて把握する。	60
第6回	運動とホメオスタシス～体液～: 身体の内部環境、体液量と組成、水分量の調節と腎臓、運動とホメオスタシス、脱水	
	『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。ホメオスタシスについて把握する。	60
第7回	運動とホメオスタシス～体温～: 体液のpHの調節、体温のホメオスタシス、熱の産生と放散、体温調節、運動と体温調節、熱障害	
	『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。熱中症について把握する。	60
第8回	運動と栄養素: 食品の栄養素、栄養素の働きと運動、糖質と脂質の利用、グリコーゲンの補給、タンパク質の働き	
	『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。ATP-CP系、解糖系、有酸素系について把握する。	60
第9回	トレーニングと栄養: ミネラル・ビタミン・水、食事摂取基準、エネルギー消費量、食事への展開、グリコーゲン・ローディング	
	『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。厚労省の定める「日本人の食事摂取基準」について把握する。	60

第10回	トレーニングの理論～全身持久力～: トレーニングとは、トレーニングの原理・原則、全身持久力のトレーニング(カルボーネン法)、高地トレーニング	
	『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。カルボーネン法を用いて、各自の適切な運動強度における目標心拍数を求める。	60
第11回	トレーニングの理論～筋力トレーニング～: 筋力のトレーニング、スキルのトレーニング、ウォームアップとクールダウン、トレーニングと休息	
	『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。トレーニングにおける超回復について把握する。	60
第12回	運動と生活習慣病: 運動の種類と生理的変化、運動と肥満、運動と糖尿病、運動と脂質代謝、運動と高血圧、運動と骨粗鬆症	
	『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。生活習慣病について把握する。	60
第13回	健康の維持・増進～運動処方～: 運動処方とは、トレーニングの原理、メディカルチェック、運動処方の構成要素、運動プログラムの進め方	
	『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。速筋線維と遅筋線維について把握する。	60
第14回	応急手当と健康: 命を救う応急手当、心肺蘇生とAED、RICE処置、熱中症への対処	
	『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。応急手当の手順について把握する。	60
第15回	まとめと試験対策: 講義全体のまとめ、模擬問題の解答と解説による試験対策	
	これまでに学習した内容すべてを把握する。	60

授業の方法

基本的には講義形式で行う。授業の最初にレジュメと関連資料を配布する。また、必要に応じてDVD教材を用いる。毎時の終わりに小レポートを提出してもらい、受講生との双方向性を高める。小レポートに記載された質問については、次回に詳細な解説を行うことで学習した内容をさらに深めたい。

成績評価の方法

出席状況(20%程度)、学期末試験(80%程度)を基本としつつ、発言や質問などの積極性をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価する。
・毎回の授業のテーマと内容について基本的な理解ができているか。
・キーワードを用いて学習した内容を論理的に説明できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、健康・スポーツ科目の「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の関連科目、「健康・スポーツの発展A」、「健康・スポーツの発展B」、「健康・スポーツの発展S」がある。また、法学部生は、法学部開講の「健康政策論」を併せて履修することが望ましい。

テキスト

テキストは特にない。必要資料等は授業内に配布する。

参考書

参考書は授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	健康スポーツの発展ＡＩ ＜1＞		
教員名	境　広志、伴　好彦		
科目ナンバー	1001466010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①：テニス】ラケッティングとショートラリー（グリップ、ラケット、ボールとの距離感、フットワーク） 【前半種目②：サッカー】ボールフィーリング、コミュニケーション、ゲーム	
	【テニス】基本的な競技規則、グリップの握り方の種類、ラケッティングのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【サッカー】基本的な競技規則とボールフィーリング、ドリブル・パスのポイントを把握し、安全管理について考察する。	60
第3回	【前半種目①：テニス】グラウンドストローク、ゲーム 【前半種目②：サッカー】多彩なパス（ボレー、ヘディング）、ゲーム	
	【テニス】グラウンドストロークのポイントを把握する。 【サッカー】多彩なパスのポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①：テニス】ボレーとスマッシュ、ゲーム 【前半種目②：サッカー】シュート（ボレー、ヘディング）、ゲーム	
	【テニス】ボレーとスマッシュのポイントを把握する。 【サッカー】シュートのポイントを把握する。	60
第5回	【前半種目①：テニス】サービスとレシーブ、ゲーム 【前半種目②：サッカー】ボールを奪う（守備の基本、三原則の理解）、ゲーム	
	【テニス】サービスとリターンのポイントを把握する。 【サッカー】ボールを奪うためのポイントを把握する。	60
第6回	【前半種目①：テニス】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【前半種目②：サッカー】off the ballの動き、フルコートゲームの運営（運営・評価）	
	【テニス】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【サッカー】off the ballの動きのポイントを把握する。フルコートゲームの運営と安全管理について考察する。	60
第7回	【前半種目①：テニス】ダブルス（ノーアドバンテージ方式とタイブレーク、ゲームの運営） 【前半種目②：サッカー】フルコートゲーム（運営・課題改善・評価）	
	【テニス】タイブレークとノーアドバンテージ方式による試合の進め方を把握する。 【サッカー】これまでの授業内容からフルコートゲーム実践のポイントを把握する。運営と安全管理について評価する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①：卓球】　ラケットワーク　（ラケットの種類と握り方、基本姿勢と打ち方）、フットワーク、ゲーム 【後半種目②：ディスクゴルフ】バックサイドスロー、ディスクの種類と飛行特性の関係、安全管理	
	【卓球】基本的な競技規則、ラケットワークとフットワークのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【ディスクゴルフ】基本的な競技規則、ディスクの種類と飛行特性、バックサイドスローのポイントを把握し、安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①：卓球】フォアハンドストローク、ゲーム 【後半種目②：ディスクゴルフ】サイドアームスロー、気象条件と飛行特性の関係	
	【卓球】フォアハンドストロークのポイントを把握する。 【ディスクゴルフ】サイドアームスローのポイント、ディスクの種類と飛行特性を把握する。	60
第11回	【後半種目①：卓球】バックハンドストローク、ゲーム 【後半種目②：ディスクゴルフ】カーブスロー、スキップショット、アップサイドダウンスロー、パット	
	【卓球】バックハンドストロークのポイントを把握する。 【ディスクゴルフ】 ディスクゴルフのプレーに用いられるスローの種類とポイントを把握する。	60
第12回	【後半種目①：卓球】サービスとレシーブ、ボールの回転の理解、ゲーム 【後半種目②：ディスクゴルフ】ラウンドに必要なルールとマナー、ゲームの進め方、スコアの記入方法、ゲーム	
	【卓球】基本的な競技規則、サービスとレシーブのポイントを把握する。 【ディスクゴルフ】ラウンドに必要なルールとマナー、ゲームの進め方、スコアの記入方法を把握する。	60
第13回	【後半種目①：卓球】シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②：ディスクゴルフ】競技会（運営・評価）、メンバーとのコミュニケーション	
	【卓球】シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。 【ディスクゴルフ】 競技会の進め方を把握し、運営と安全管理、コミュニケーションの方法について考察・評価する。	60
第14回	【後半種目①：卓球】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②：ディスクゴルフ】競技会（運営・課題改善・評価）、コースの攻略、スコアマネジメント	
	【卓球】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【ディスクゴルフ】コースの攻略、スコアマネジメントについて把握する。運営と安全管理について考察・評価する。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＡＩ ＜2＞		
教員名	渡邊　典子、川田　尚弘		
科目ナンバー	1001466010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①サッカー】ボールフィーリング、コミュニケーション、ゲーム 【前半種目②ヨガ】身体状況の確認と動きを通した気づき	
	【サッカー】基本的な競技規則とボールフィーリング、ドリブル・パスのポイントを把握し、安全管理について考察する。 【ヨガ】自己の身体の状況について動きを通じて把握する。	60
第3回	【前半種目①サッカー】多彩なパス（ボレー、ヘディング）、ゲーム 【前半種目②ヨガ】ヨガ呼吸法、身体のコアを意識したポーズ	
	【サッカー】多彩なパスのポイントを把握する。 【ヨガ】ポーズ成形の順番、正確なポーズについて把握する。	60

第4回	【前半種目①サッカー】シュート（ボレー、ヘディング）、ゲーム 【前半種目②ヨガ】柔軟性と筋力アップのためのパワーヨガ	
	【サッカー】シュートのポイントを把握する。 【ヨガ】柔軟性と筋力アップのためのポイントを把握する。	60
第5回	【前半種目①サッカー】ボールを奪う（守備の基本、三原則の理解）、ゲーム 【種目前半②ヨガ】バランス機能と集中力アップのためのポーズ	
	【サッカー】ボールを奪うためのポイントを把握する。 【ヨガ】バランス機能と集中力アップのためのポイントを把握する。	60
第6回	【前半種目①サッカー】off the ballの動き、フルコートゲームの運営（運営・評価） 【前半種目②ヨガ】生活習慣による体質改善のためのポーズ	
	【サッカー】off the ballの動きのポイントを把握する。フルコートゲームの運営と安全管理について考察する。 【ヨガ】個々の体質を把握し、それぞれに合わせた課題を考察する。	60
第7回	【前半種目①サッカー】フルコートゲーム（運営・課題改善・評価） 【前半種目②ヨガ】ペアストレッチとパートナーヨガ	
	【サッカー】これまでの授業内容からフルコートゲーム実践のポイントを把握する。運営と安全管理について評価する。 【ヨガ】ペアストレッチとパートナーヨガのポイントを把握する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①ソフトボール】ルールの確認とキャッチボール（捕球と送球） 【後半種目②太極拳】姿勢と呼吸法（立位の内気功による気と動作の勁力の確認）	
	【ソフトボール】基本的な競技規則、投球・捕球動作のポイントを把握し、安全管理について考察する。 【太極拳】立位姿勢と起式の中腰姿勢のポイントを把握する。	60

第10回	【後半種目①ソフトボール】打撃（素振り、ティーバッティング）とゲーム（ティーボール） 【後半種目②太極拳】歩法・手法による防御と攻撃の型	
	【ソフトボール】打撃のポイントを把握する。 【太極拳】歩法・手法における動作のポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①ソフトボール】守備（内外野ノック）とゲーム（ティーボール） 【後半種目②太極拳】２人組対練における防御から攻撃への展開、武術としての太極拳	
	【ソフトボール】各ポジションの守備位置や動き、捕球から送球までの動作のポイントを把握する。 【太極拳】２人組対練において体軸を安定させる際のポイントを把握し、武術としての太極拳について考察する。	60
第12回	【後半種目①ソフトボール】ピッチング（スローピッチ）とゲーム（スローピッチゲーム） 【後半種目②太極拳】対局（内気功にもとづく左右対称の動作）、グループで動作確認	
	【ソフトボール】ピッチャー（スローピッチ）に関するルール、ピッチング動作とスローピッチゲームのルールを把握する。 【太極拳】対局における動作のポイント、内気功の重要性を把握する。	60
第13回	【後半種目①ソフトボール】ピッチング（ファストピッチ）とゲームの運営（スローピッチゲーム、運営・評価） 【後半種目②太極拳】套路の流れ（ゆったり動作、途切れない動作、中腰の水平移動）、グループで動作確認	
	【ソフトボール】ピッチャー（ファストピッチ）に関するルール、ファストピッチでのピッチング動作を把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察する。 【太極拳】「套路図」の内容、無駄な力を抜く動作のポイントを把握する。	60
第14回	【後半種目①ソフトボール】ゲームの運営（ファストピッチゲーム、運営・課題改善・評価） 【後半種目②太極拳】太極拳（集中力とリラックスと動作の調和）と講義（生涯スポーツとしての太極拳）	
	【ソフトボール】スローピッチとファストピッチのルールの違いを把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察をする。 【太極拳】太極拳の社会的浸透状況を把握し、日常生活に太極拳を取り入れるための現実的な方法について考察する。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＡⅠ ＜3＞		
教員名	飯田　義明、渡邊　新一郎		
科目ナンバー	1001466010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①サッカー】ボールフィーリング、コミュニケーション、ゲーム 【前半種目②テニス】ラケッティングとショートラリー（グリップ、ラケット、ボールとの距離感、フットワーク）	
	【サッカー】基本的な競技規則とボールフィーリング、ドリブル・パスのポイントを把握し、安全管理について考察する。 【テニス】基本的な競技規則、グリップの握り方の種類、ラケッティングのポイントを把握する。安全管理について考察する。	60
第3回	【前半種目①サッカー】多彩なパス（ボレー、ヘディング）、ゲーム 【前半種目②テニス】グラウンドストローク、ゲーム	
	【サッカー】多彩なパスのポイントを把握する。 【テニス】グラウンドストロークのポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①サッカー】シュート（ボレー、ヘディング）、ゲーム 【前半種目②テニス】ボレーとスマッシュ、ゲーム	
	【サッカー】シュートのポイントを把握する。 【テニス】ボレーとスマッシュのポイントを把握する。	60
第5回	【前半種目①サッカー】ボールを奪う（守備の基本、三原則の理解）、ゲーム 【前半種目②テニス】サービスとレシーブ、ゲーム	
	【サッカー】ボールを奪うためのポイントを把握する。 【テニス】サービスとリターンのポイントを把握する。	60
第6回	【前半種目①サッカー】off the ballの動き、フルコートゲームの運営（運営・評価） 【前半種目②テニス】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	【サッカー】off the ballの動きのポイントを把握する。フルコートゲームの運営と安全管理について考察する。 【テニス】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。	60
第7回	【前半種目①サッカー】フルコートゲーム（運営・課題改善・評価） 【前半種目②テニス】ダブルス（ノーアドバンテージ方式とタイブレーク、ゲームの運営）	
	【サッカー】これまでの授業内容からフルコートゲーム実践のポイントを把握する。運営と安全管理について評価する。 【テニス】タイブレークとノーアドバンテージ方式による試合の進め方を把握する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①卓球】ラケットワーク　（ラケットの種類と握り方、基本姿勢と打ち方）、フットワーク、ゲーム 【後半種目②ゴルフ】ガイダンス（安全管理、グリップ、アドレス、ハーフスイング）	
	【卓球】基本的な競技規則、ラケットワークとフットワークのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【ゴルフ】基本的な競技規則、グリップ、アドレス、ハーフスイングのポイントを把握し、安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①卓球】フォアハンドストローク、ゲーム 【後半種目②ゴルフ】ショートアイアンの飛距離調節方法	
	【卓球】フォアハンドストロークのポイントを把握する。 【ゴルフ】ショートアイアンのスイングのポイントを把握し、距離を打ち分ける方法について考察する。	60
第11回	【後半種目①卓球】バックハンドストローク、ゲーム 【後半種目②ゴルフ】パッティングのグリップ、アドレス、スイング	
	【卓球】バックハンドストロークのポイントを把握する。 【ゴルフ】パッティングのポイントを把握する。	60
第12回	【後半種目①卓球】サービスとレシーブ、ボールの回転の理解、ゲーム 【後半種目②ゴルフ】ショートコースラウンド	
	【卓球】サービスとレシーブのポイントを把握する。 【ゴルフ】ショートアイアンのスイング、パッティングのポイントを把握・考察する。	60
第13回	【後半種目①卓球】シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②ゴルフ】ショートコースラウンド	
	【卓球】シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。 【ゴルフ】マナー・ルールと安全管理について把握し、自己点検および考察する。	60
第14回	【後半種目①卓球】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②ゴルフ】ショートコースでのトーナメント競技方法	
	【卓球】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【ゴルフ】スコアカードから自己のトーナメントでの課題について考察する。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＡⅠ ＜4＞		
教員名	志村　広子、小山　陽平		
科目ナンバー	1001466010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）		
	シラバスの内容を把握する。		60
第2回	【前半種目①テニス】ラケッティングとショートラリー（グリップ、ラケット、ボールとの距離感、フットワーク） 【前半種目②卓球】ラケットワーク　（ラケットの種類と握り方、基本姿勢と打ち方）、フットワーク、ゲーム		
	【テニス】基本的な競技規則、グリップの握り方の種類、ラケッティングのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【卓球】基本的な競技規則、ラケットワークとフットワークのポイントを把握する。安全管理について考察する。		60
第3回	【前半種目①テニス】グラウンドストローク、ゲーム 【前半種目②卓球】フォアハンドストローク、ゲーム		
	【テニス】グラウンドストロークのポイントを把握する。 【卓球】フォアハンドストロークのポイントを把握する。		60

第4回	【前半種目①テニス】ボレーとスマッシュ、ゲーム 【前半種目②卓球】バックハンドストローク、ゲーム	
	【テニス】ボレーとスマッシュのポイントを把握する。 【卓球】バックハンドストロークのポイントを把握する。	60
第5回	【前半種目①テニス】サービスとレシーブ、ゲーム 【前半種目②卓球】サービスとレシーブ、ボールの回転の理解、ゲーム	
	【テニス】サービスとリターンのポイントを把握する。 【卓球】サービスとレシーブのポイントを把握する。	60
第6回	【前半種目①テニス】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【前半種目②卓球】シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	【テニス】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【卓球】シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。	60
第7回	【前半種目①テニス】ダブルス（ノーアドバンテージ方式とタイブレーク、ゲームの運営） 【前半種目②卓球】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	【テニス】タイブレークとノーアドバンテージ方式による試合の進め方を把握する。 【卓球】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①エアロビクス】ロー・インパクト（歩くレベルの強度、マーチ、ステップタッチ） 【後半種目②ソフトボール】ルールの確認とキャッチボール（捕球と送球）	
	【エアロビクス】音楽に合わせて手拍子でリズムを取れるようにする。マーチ、ステップタッチのポイントを把握する。 【ソフトボール】基本的な競技規則、投球・捕球動作のポイントを把握し、安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①エアロビクス】ロー・インパクト（歩くレベルの強度、Vステップ、レッグカール） 【後半種目②ソフトボール】打撃（素振り、ティーバッティング）とゲーム（ティーボール）	
	【エアロビクス】Vステップ、レッグカールのポイントを把握する。 【ソフトボール】打撃のポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①エアロビクス】ロー・インパクト（歩くレベルの強度、やや複雑な動きや方向転換、周りの人との間隔の取り方やマナー） 【後半種目②ソフトボール】守備（内外野ノック）とゲーム（ティーボール）	
	【エアロビクス】グレープバインのポイントを把握する。 【ソフトボール】各ポジションの守備位置や動き、捕球から送球までの動作のポイントを把握する。	60
第12回	【後半種目①エアロビクス】ロー・インパクト（歩くレベルの強度、やや複雑な動きや方向転換、体力等に合わせて動きを選択） 【後半種目②ソフトボール】ピッチング（スローピッチ）とゲーム（スローピッチゲーム）	
	【エアロビクス】ターンのポイントを把握する。 【ソフトボール】ピッチャー（スローピッチ）に関するルール、ピッチング動作とスローピッチゲームのルールを把握する。	60
第13回	【後半種目①エアロビクス】ロー・インパクトとハイ・インパクト（軽いジョギング程度の強度、ヒールタッチ、ツイスト、ホッピング） 【後半種目②ソフトボール】ピッチング（ファストピッチ）とゲームの運営（スローピッチゲーム、運営・評価）	
	【エアロビクス】ヒールタッチ、ツイスト、ホッピングのポイントを把握する。 【ソフトボール】ピッチャー（ファストピッチ）に関するルール、ファストピッチでのピッチング動作を把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察する。	60
第14回	【後半種目①エアロビクス】ロー・インパクトとハイ・インパクト（軽いジョギング程度の強度、いろいろな動きを楽しむ） 【後半種目②ソフトボール】ゲームの運営（ファストピッチゲーム、運営・課題改善・評価）	
	【エアロビクス】エアロビクスを続けるための現実的な方法について考察する。 【ソフトボール】スローピッチとファストピッチのルールの違いを把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察をする。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＡⅠ ＜5＞		
教員名	福井　真司、岩嶋　孝夫		
科目ナンバー	1001466010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①：テニス】ラケッティングとショートラリー（グリップ、ラケット、ボールとの距離感、フットワーク） 【前半種目②：サッカー】ボールフィーリング、コミュニケーション、ゲーム	
	【テニス】基本的な競技規則、グリップの握り方の種類、ラケッティングのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【サッカー】基本的な競技規則とボールフィーリング、ドリブル・パスのポイントを把握し、安全管理について考察する。	60
第3回	【前半種目①：テニス】グラウンドストローク、ゲーム 【前半種目②：サッカー】多彩なパス（ボレー、ヘディング）、ゲーム	
	【テニス】グラウンドストロークのポイントを把握する。 【サッカー】多彩なパスのポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①：テニス】ボレーとスマッシュ、ゲーム 【前半種目②：サッカー】シュート（ボレー、ヘディング）、ゲーム	
	【テニス】ボレーとスマッシュのポイントを把握する。 【サッカー】シュートのポイントを把握する。	60
第5回	【前半種目①：テニス】サービスとレシーブ、ゲーム 【前半種目②：サッカー】ボールを奪う（守備の基本、三原則の理解）、ゲーム	
	【テニス】サービスとリターンのポイントを把握する。 【サッカー】ボールを奪うためのポイントを把握する。	60
第6回	【前半種目①：テニス】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【前半種目②：サッカー】off the ballの動き、フルコートゲームの運営（運営・評価）	
	【テニス】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【サッカー】off the ballの動きのポイントを把握する。フルコートゲームの運営と安全管理について考察する。	60
第7回	【前半種目①：テニス】ダブルス（ノーアドバンテージ方式とタイブレーク、ゲームの運営） 【前半種目②：サッカー】フルコートゲーム（運営・課題改善・評価）	
	【テニス】タイブレークとノーアドバンテージ方式による試合の進め方を把握する。 【サッカー】これまでの授業内容からフルコートゲーム実践のポイントを把握する。運営と安全管理について評価する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①卓球】ラケットワーク　（ラケットの種類と握り方、基本姿勢と打ち方）、フットワーク、ゲーム 【後半種目②ソフトボール】ルールの確認とキャッチボール（捕球と送球）	
	【卓球】基本的な競技規則、ラケットワークとフットワークのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【ソフトボール】基本的な競技規則、投球・捕球動作のポイントを把握し、安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①卓球】フォアハンドストローク、ゲーム 【後半種目②ソフトボール】打撃（素振り、ティーバッティング）とゲーム（ティーボール）	
	【卓球】フォアハンドストロークのポイントを把握する。 【ソフトボール】打撃のポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①卓球】バックハンドストローク、ゲーム 【後半種目②ソフトボール】守備（内外野ノック）とゲーム（ティーボール）	
	【卓球】バックハンドストロークのポイントを把握する。 【ソフトボール】各ポジションの守備位置や動き、捕球から送球までの動作のポイントを把握する。	60
第12回	【後半種目①卓球】サービスとレシーブ、ボールの回転の理解、ゲーム 【後半種目②ソフトボール】ピッチング（スローピッチ）とゲーム（スローピッチゲーム）	
	【卓球】サービスとレシーブのポイントを把握する。 【ソフトボール】ピッチャー（スローピッチ）に関するルール、ピッチング動作とスローピッチゲームのルールを把握する。	60
第13回	【後半種目①卓球】シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②ソフトボール】ピッチング（ファストピッチ）とゲームの運営（スローピッチゲーム、運営・評価）	
	【卓球】シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。 【ソフトボール】ピッチャー（ファストピッチ）に関するルール、ファストピッチでのピッチング動作を把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察する。	60
第14回	【後半種目①卓球】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②ソフトボール】ゲームの運営（ファストピッチゲーム、運営・課題改善・評価）	
	【卓球】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【ソフトボール】スローピッチとファストピッチのルールの違いを把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察をする。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜1＞		
教員名	伴　好彦、小林　裕央		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①卓球】ラケットワーク　（ラケットの種類と握り方、基本姿勢と打ち方）、フットワーク、ゲーム 【前半種目②ディスクゴルフ】バックサイドスロー、ディスクの種類と飛行特性の関係、安全管理	
	【卓球】基本的な競技規則、ラケットワークとフットワークのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【ディスクゴルフ】基本的な競技規則、ディスクの種類と飛行特性、バックサイドスローのポイントを把握し、安全管理について考察する。	60
第3回	【前半種目①卓球】フォアハンドストローク、ゲーム 【前半種目②ディスクゴルフ】サイドアームスロー、気象条件と飛行特性の関係	
	【卓球】フォアハンドストロークのポイントを把握する。 【ディスクゴルフ】サイドアームスローのポイント、ディスクの種類と飛行特性を把握する。	60

第4回	【前半種目①卓球】バックハンドストローク、ゲーム 【前半種目②ディスクゴルフ】カーブスロー、スキップショット、アップサイドダウンスロー、パット	
	【卓球】バックハンドストロークのポイントを把握する。 【ディスクゴルフ】ディスクゴルフのプレーに用いられるスローの種類とポイントを把握する。	60
第5回	【前半種目①卓球】サービスとレシーブ、ボールの回転の理解、ゲーム 【前半種目②ディスクゴルフ】ラウンドに必要なルールとマナー、ゲームの進め方、スコアの記入方法、ゲーム	
	【卓球】サービスとレシーブのポイントを把握する。 【ディスクゴルフ】ラウンドに必要なルールとマナー、ゲームの進め方、スコアの記入方法を把握する。	60
第6回	【前半種目①卓球】シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【前半種目②ディスクゴルフ】競技会（運営・評価）、メンバーとのコミュニケーション	
	【卓球】シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。 【ディスクゴルフ】競技会の進め方を把握し、運営と安全管理、コミュニケーションの方法について考察・評価する。	60
第7回	【前半種目①卓球】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【前半種目②ディスクゴルフ】競技会（運営・課題改善・評価）、コースの攻略、スコアマネジメント	
	【卓球】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【ディスクゴルフ】コースの攻略、スコアマネジメントについて把握する。運営と安全管理について考察・評価する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①バドミントン】イースタングリップを用いたラケッティング、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】競技規則と安全管理、ゲーム	
	【バドミントン】基本的な競技規則、イースタングリップでの腕の動きを把握する。安全管理について考察する。 【バスケットボール】基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①バドミントン】ドロップとロブ、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】ボールハンドリング、ゲーム	
	【バドミントン】スマッシュ、クリア、ドロップのインパクトの違いとポイントを把握する。 【バスケットボール】ボールハンドリングのポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①バドミントン】ヘアピンとドライブ、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】ステーショナリードリブル、ゲーム	
	【バドミントン】ヘアピンとドライブの打点・フェースの向きの違いとポイントを把握する。 【バスケットボール】ステーショナリードリブルのポイントを把握する。グループ分けやチーム編成について考察する。	60
第12回	【後半種目①バドミントン】ショートサービスとロングサービス、サービスから主導権を握る三打目攻撃、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】様々な条件下でのパス、ゲーム	
	【バドミントン】サービスと攻撃のポイントを把握する。 【バスケットボール】様々な条件下でのパスのポイントを把握する。コミュニケーションを目的とするゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第13回	【後半種目①バドミントン】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②バスケットボール】セットシュート、ゲームの運営（運営・評価）	
	【バドミントン】試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【バスケットボール】セットシュートのポイントを把握する。競技力バランスに主眼をおくゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第14回	【後半種目①バドミントン】ダブルス（リーグ戦等、運営・評価） 【後半種目②バスケットボール】ゴール下ジャンプシュート、ゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	【バドミントン】ダブルスのポイントを把握し、プレーや運営の課題と改善方法について考察する。 【バスケットボール】ゴール下ジャンプシュートのポイントを把握する。ゲーム運営の評価・考察をする。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜2＞		
教員名	渡邊　典子、渡邊　新一郎		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①バレーボール】パス（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム 【前半種目②太極拳】姿勢と呼吸法（立位の内気功による気と動作の勁力の確認）	
	【バレーボール】基本的な競技規則、パスのポイントを把握し、安全管理とラリーを継続させるローカルルールについて考察する。 【太極拳】立位姿勢と起式の中腰姿勢のポイントを把握する。	60
第3回	【前半種目①バレーボール】サーブ（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム 【前半種目②太極拳】歩法・手法による防御と攻撃の型	
	【バレーボール】サーブのポイントを把握する。 【太極拳】歩法・手法における動作のポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①バレーボール】スパイク、ブロック、ゲーム 【前半種目②太極拳】２人組対練における防御から攻撃への展開、武術としての太極拳	
	【バレーボール】スパイクのポイントを把握し、チーム編成とコミュニケーション、リーグ戦の運営について考察する。 【太極拳】２人組対練において体軸を安定させる際のポイントを把握し、武術としての太極拳について考察する。	60
第5回	【前半種目①バレーボール】守備のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム 【前半種目②太極拳】対局（内気功にもとづく左右対称の動作）、グループで動作確認	
	【バレーボール】守備のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。 【太極拳】対局における動作のポイント、内気功の重要性を把握する。	60
第6回	【前半種目①バレーボール】攻撃のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム 【前半種目②太極拳】套路の流れ（ゆったり動作、途切れない動作、中腰の水平移動）、グループで動作確認	
	【バレーボール】攻撃のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。 【太極拳】「套路図」の内容、無駄な力を抜く動作のポイントを把握する。	60
第7回	【前半種目①バレーボール】ゲームの運営（運営・課題改善・評価） 【前半種目②太極拳】太極拳（集中力とリラックスと動作の調和）と講義（生涯スポーツとしての太極拳）	
	【バレーボール】運営と安全管理、チームの戦術・戦略の課題改善について把握・考察する。 【太極拳】太極拳の社会的浸透状況を把握し、日常生活に太極拳を取り入れるための現実的な方法について考察する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①テニス】ラケッティングとショートラリー（グリップ、ラケット、ボールとの距離感、フットワーク） 【後半種目②ヨガ】身体状況の確認と動きを通した気づき	
	【テニス】基本的な競技規則、グリップの握り方の種類、ラケッティングのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【ヨガ】自己の身体の状況について動きを通じて把握する。	60

第10回	【後半種目①テニス】グラウンドストローク、ゲーム 【後半種目②ヨガ】ヨガ呼吸法、身体のコアを意識したポーズ	
	【テニス】グラウンドストロークのポイントを把握する。 【ヨガ】ポーズ成形の順番、正確なポーズについて把握する。	60
第11回	【後半種目①テニス】ボレーとスマッシュ、ゲーム 【後半種目②ヨガ】柔軟性と筋力アップのためのパワーヨガ	
	【テニス】ボレーとスマッシュのポイントを把握する。 【ヨガ】柔軟性と筋力アップのためのポイントを把握する。	60
第12回	【後半種目①テニス】サービスとレシーブ、ゲーム 【後半種目②ヨガ】バランス機能と集中力アップのためのポーズ	
	【テニス】サービスとリターンのポイントを把握する。 【ヨガ】バランス機能と集中力アップのためのポイントを把握する。	60
第13回	【後半種目①テニス】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②ヨガ】生活習慣による体質改善のためのポーズ	
	【テニス】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【ヨガ】個々の体質を把握し、それぞれに合わせた課題を考察する。	60
第14回	【後半種目①テニス】ダブルス（ノーアドバンテージ方式とタイブレーク、ゲームの運営） 【後半種目②ヨガ】ペアストレッチとパートナーヨガ	
	【テニス】タイブレークとノーアドバンテージ方式による試合の進め方を把握する。 【ヨガ】ペアストレッチとパートナーヨガのポイントを把握する。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜3＞		
教員名	伴　好彦、小林　裕央		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①ソフトボール】ルールの確認とキャッチボール（捕球と送球） 【前半種目②バドミントン】イースタングリップを用いたラケッティング、ゲーム	
	【ソフトボール】基本的な競技規則、投球・捕球動作のポイントを把握し、安全管理について考察する。 【バドミントン】基本的な競技規則、イースタングリップでの腕の動きを把握する。安全管理について考察する。	60
第3回	【前半種目①ソフトボール】打撃（素振り、ティーバッティング）とゲーム（ティーボール） 【前半種目②バドミントン】ドロップとロブ、ゲーム	
	【ソフトボール】打撃のポイントを把握する。 【バドミントン】スマッシュ、クリア、ドロップのインパクトの違いとポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①ソフトボール】守備（内外野ノック）とゲーム（ティーボール） 【前半種目②バドミントン】ヘアピンとドライブ、ゲーム	
	【ソフトボール】各ポジションの守備位置や動き、捕球から送球までの動作のポイントを把握する。 【バドミントン】ヘアピンとドライブの打点・フェースの向きの違いとポイントを把握する。	60
第5回	【前半種目①ソフトボール】ピッチング（スローピッチ）とゲーム（スローピッチゲーム） 【前半種目②バドミントン】ショートサービスとロングサービス、サービスから主導権を握る三打目攻撃、ゲーム	
	【ソフトボール】ピッチャー（スローピッチ）に関するルール、ピッチング動作とスローピッチゲームのルールを把握する。 【バドミントン】サービスと攻撃のポイントを把握する。	60
第6回	【前半種目①ソフトボール】ピッチング（ファストピッチ）とゲームの運営（スローピッチゲーム、運営・評価） 【前半種目②バドミントン】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	【ソフトボール】ピッチャー（ファストピッチ）に関するルール、ファストピッチでのピッチング動作を把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察する。 【バドミントン】試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。	60
第7回	【前半種目①ソフトボール】ゲームの運営（ファストピッチゲーム、運営・課題改善・評価） 【前半種目②バドミントン】ダブルス（リーグ戦等、運営・評価）	
	【ソフトボール】スローピッチとファストピッチのルールの違いを把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察をする。 【バドミントン】ダブルスのポイントを把握し、プレーや運営の課題と改善方法について考察する。	60
第8回	前半選択まとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①サッカー】ボールフィーリング、コミュニケーション、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】競技規則と安全管理、ゲーム	
	【サッカー】基本的な競技規則とボールフィーリング、ドリブル・パスのポイントを把握し、安全管理について考察する。 【バスケットボール】基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①サッカー】多彩なパス（ボレー、ヘディング）、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】ボールハンドリング、ゲーム	
	【サッカー】多彩なパスのポイントを把握する。 【バスケットボール】ボールハンドリングのポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①サッカー】シュート（ボレー、ヘディング）、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】ステーショナリードリブル、ゲーム	
	【サッカー】シュートのポイントを把握する。 【バスケットボール】ステーショナリードリブルのポイントを把握する。グループ分けやチーム編成について考察する。	60
第12回	【後半種目①サッカー】ボールを奪う（守備の基本、三原則の理解）、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】様々な条件下でのパス、ゲーム	
	【サッカー】ボールを奪うためのポイントを把握する。 【バスケットボール】様々な条件下でのパスのポイントを把握する。コミュニケーションを目的とするゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第13回	【後半種目①サッカー】off the ballの動き、フルコートゲームの運営（運営・評価） 【後半種目②バスケットボール】セットシュート、ゲームの運営（運営・評価）	
	【サッカー】off the ballの動きのポイントを把握する。フルコートゲームの運営と安全管理について考察する。 【バスケットボール】セットシュートのポイントを把握する。競技力バランスに主眼をおくゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第14回	【後半種目①サッカー】フルコートゲーム（運営・課題改善・評価） 【後半種目②バスケットボール】ゴール下ジャンプシュート、ゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	【サッカー】これまでの授業内容からフルコートゲーム実践のポイントを把握する。運営と安全管理について評価する。 【バスケットボール】ゴール下ジャンプシュートのポイントを把握する。ゲーム運営の評価・考察をする。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜4＞		
教員名	鈴木　雄太、川田　尚弘		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①バスケットボール】競技規則と安全管理、ゲーム 【前半種目②テニス】ラケッティングとショートラリー（グリップ、ラケット、ボールとの距離感、フットワーク）	
	【バスケットボール】基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。 【テニス】基本的な競技規則、グリップの握り方の種類、ラケッティングのポイントを把握する。安全管理について考察する。	60
第3回	【前半種目①バスケットボール】ボールハンドリング、ゲーム 【前半種目②テニス】グラウンドストローク、ゲーム	
	【バスケットボール】ボールハンドリングのポイントを把握する。 【テニス】グラウンドストロークのポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①バスケットボール】ステーショナリードリブル、ゲーム 【前半種目②テニス】ボレーとスマッシュ、ゲーム	
	【バスケットボール】ステーショナリードリブルのポイントを把握する。グループ分けやチーム編成について考察する。 【テニス】ボレーとスマッシュのポイントを把握する。	60
第5回	【前半種目①バスケットボール】様々な条件下でのパス、ゲーム 【前半種目②テニス】サービスとレシーブ、ゲーム	
	【バスケットボール】様々な条件下でのパスのポイントを把握する。コミュニケーションを目的とするゲーム運営と安全管理について考察・評価する。 【テニス】サービスとリターンのポイントを把握する。	60
第6回	【前半種目①バスケットボール】セットシュート、ゲームの運営（運営・評価） 【前半種目②テニス】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	【バスケットボール】セットシュートのポイントを把握する。競技力バランスに主眼をおくゲーム運営と安全管理について考察・評価する。 【テニス】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。	60
第7回	【前半種目①バスケットボール】ゴール下ジャンプシュート、ゲームの運営（運営・課題改善・評価） 【前半種目②テニス】ダブルス（ノーアドバンテージ方式とタイブレーク、ゲームの運営）	
	【バスケットボール】ゴール下ジャンプシュートのポイントを把握する。ゲーム運営の評価・考察をする。 【テニス】タイブレークとノーアドバンテージ方式による試合の進め方を把握する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①フットサル】ボールフィーリング、コミュニケーション、ゲーム 【後半種目②バドミントン】イースタングリップを用いたラケッティング、ゲーム	
	【フットサル】基本的な競技規則とボールフィーリングのポイントを把握し、安全管理について考察する。 【バドミントン】基本的な競技規則、イースタングリップでの腕の動きを把握する。安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①フットサル】パス＆コントロール、ゲーム 【後半種目②バドミントン】ドロップとロブ、ゲーム	
	【フットサル】パスとコントロールのポイントを把握する。 【バドミントン】スマッシュ、クリア、ドロップのインパクトの違いとポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①フットサル】ドリブル＆シュート、ゲーム 【後半種目②バドミントン】ヘアピンとドライブ、ゲーム	
	【フットサル】ドリブル・シュートのポイントを把握する。 【バドミントン】ヘアピンとドライブの打点・フェースの向きの違いとポイントを把握する。	60
第12回	【後半種目①フットサル】ゲームの運営（積極的にゴールを奪う攻撃、運営・評価） 【後半種目②バドミントン】ショートサービスとロングサービス、サービスから主導権を握る三打目攻撃、ゲーム	
	【フットサル】ゴールを奪うためのポイントを把握する。ゲーム運営と安全管理について考察する。 【バドミントン】サービスと攻撃のポイントを把握する。	60
第13回	【後半種目①フットサル】ゲームの運営（積極的にボールを奪う守備、運営・課題改善・評価） 【後半種目②バドミントン】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	【フットサル】ボールを奪うためのポイントを把握する。運営と安全管理の課題改善について考察する。 【バドミントン】試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。	60
第14回	【後半種目①フットサル】ゲームの運営（攻守の切り替え、運営・課題改善・評価） 【後半種目②バドミントン】ダブルス（リーグ戦等、運営・評価）	
	【フットサル】攻守の切り替えにおけるポイントを把握する。運営と安全管理について評価・考察をする。 【バドミントン】ダブルスのポイントを把握し、プレーや運営の課題と改善方法について考察する。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜5＞		
教員名	渡邊　典子、鈴木　雄太		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①バレーボール】パス（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム 【前半種目②ヨガ】身体状況の確認と動きを通した気づき	
	【バレーボール】基本的な競技規則、パスのポイントを把握し、安全管理とラリーを継続させるローカルルールについて考察する。 【ヨガ】自己の身体の状況について動きを通じて把握する。	60
第3回	【前半種目①バレーボール】サーブ（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム 【前半種目②ヨガ】ヨガ呼吸法、身体のコアを意識したポーズ	
	【バレーボール】サーブのポイントを把握する。 【ヨガ】ポーズ成形の順番、正確なポーズについて把握する。	60

第4回	【前半種目①バレーボール】スパイク、ブロック、ゲーム 【前半種目②ヨガ】柔軟性と筋力アップのためのパワーヨガ	
	【バレーボール】スパイクのポイントを把握し、チーム編成とコミュニケーション、リーグ戦の運営について考察する。 【ヨガ】柔軟性と筋力アップのためのポイントを把握する。	60
第5回	【前半種目①バレーボール】守備のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム 【前半種目②ヨガ】バランス機能と集中力アップのためのポーズ	
	【バレーボール】守備のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。 【ヨガ】バランス機能と集中力アップのためのポイントを把握する。	60
第6回	【前半種目①バレーボール】攻撃のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム 【前半種目②ヨガ】生活習慣による体質改善のためのポーズ	
	【バレーボール】攻撃のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。 【ヨガ】個々の体質を把握し、それぞれに合わせた課題を考察する。	60
第7回	【前半種目①バレーボール】ゲームの運営（運営・課題改善・評価） 【前半種目②ヨガ】ペアストレッチとパートナーヨガ	
	【バレーボール】運営と安全管理、チームの戦術・戦略の課題改善について把握・考察する。 【ヨガ】ペアストレッチとパートナーヨガのポイントを把握する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①バドミントン】イースタングリップを用いたラケッティング、ゲーム 【後半種目②太極拳】姿勢と呼吸法（立位の内気功による気と動作の勁力の確認）	
	【バドミントン】基本的な競技規則、イースタングリップでの腕の動きを把握する。安全管理について考察する。 【太極拳】立位姿勢と起式の中腰姿勢のポイントを把握する。	60

第10回	【後半種目①バドミントン】ドロップとロブ、ゲーム 【後半種目②太極拳】歩法・手法による防御と攻撃の型	
	【バドミントン】スマッシュ、クリア、ドロップのインパクトの違いとポイントを把握する。 【太極拳】歩法・手法における動作のポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①バドミントン】ヘアピンとドライブ、ゲーム 【後半種目②太極拳】２人組対練における防御から攻撃への展開、武術としての太極拳	
	【バドミントン】ヘアピンとドライブの打点・フェースの向きの違いとポイントを把握する。 【太極拳】２人組対練において体軸を安定させる際のポイントを把握し、武術としての太極拳について考察する。	60
第12回	【後半種目①バドミントン】ショートサービスとロングサービス、サービスから主導権を握る三打目攻撃、ゲーム 【後半種目②太極拳】対局（内気功にもとづく左右対称の動作）、グループで動作確認	
	【バドミントン】サービスと攻撃のポイントを把握する。 【太極拳】対局における動作のポイント、内気功の重要性を把握する。	60
第13回	【後半種目①バドミントン】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②太極拳】套路の流れ（ゆったり動作、途切れない動作、中腰の水平移動）、グループで動作確認	
	【バドミントン】試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【太極拳】「套路図」の内容、無駄な力を抜く動作のポイントを把握する。	60
第14回	【後半種目①バドミントン】ダブルス（リーグ戦等、運営・評価） 【後半種目②太極拳】太極拳（集中力とリラックスと動作の調和）と講義（生涯スポーツとしての太極拳）	
	【バドミントン】ダブルスのポイントを把握し、プレーや運営の課題と改善方法について考察する。 【太極拳】太極拳の社会的浸透状況を把握し、日常生活に太極拳を取り入れるための現実的な方法について考察する。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜6＞		
教員名	小谷　究、川田　尚弘		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①テニス】ラケッティングとショートラリー（グリップ、ラケット、ボールとの距離感、フットワーク） 【前半種目②バレーボール】パス（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム	
	【テニス】基本的な競技規則、グリップの握り方の種類、ラケッティングのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【バレーボール】基本的な競技規則、パスのポイントを把握し、安全管理とラリーを継続させるローカルルールについて考察する。	60
第3回	【前半種目①テニス】グラウンドストローク、ゲーム 【前半種目②バレーボール】サーブ（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム	
	【テニス】グラウンドストロークのポイントを把握する。 【バレーボール】サーブのポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①テニス】ボレーとスマッシュ、ゲーム 【前半種目②バレーボール】スパイク、ブロック、ゲーム	
	【テニス】ボレーとスマッシュのポイントを把握する。 【バレーボール】スパイクのポイントを把握し、チーム編成とコミュニケーション、リーグ戦の運営について考察する。	60
第5回	【前半種目①テニス】サービスとレシーブ、ゲーム 【前半種目②バレーボール】守備のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム	
	【テニス】サービスとリターンのポイントを把握する。 【バレーボール】守備のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。	60
第6回	【前半種目①テニス】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【前半種目②バレーボール】攻撃のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム	
	【テニス】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【バレーボール】攻撃のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。	60
第7回	【前半種目①テニス】ダブルス（ノーアドバンテージ方式とタイブレーク、ゲームの運営） 【前半種目②バレーボール】ゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	【テニス】タイブレークとノーアドバンテージ方式による試合の進め方を把握する。 【バレーボール】運営と安全管理、チームの戦術・戦略の課題改善について把握・考察する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①卓球】ラケットワーク　（ラケットの種類と握り方、基本姿勢と打ち方）、フットワーク、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】競技規則と安全管理、ゲーム	
	【卓球】基本的な競技規則、ラケットワークとフットワークのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【バスケットボール】基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①卓球】フォアハンドストローク、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】ボールハンドリング、ゲーム	
	【卓球】フォアハンドストロークのポイントを把握する。 【バスケットボール】ボールハンドリングのポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①卓球】バックハンドストローク、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】ステーショナリードリブル、ゲーム	
	【卓球】バックハンドストロークのポイントを把握する。 【バスケットボール】ステーショナリードリブルのポイントを把握する。グループ分けやチーム編成について考察する。	60
第12回	【後半種目①卓球】サービスとレシーブ、ボールの回転の理解、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】様々な条件下でのパス、ゲーム	
	【卓球】サービスとレシーブのポイントを把握する。 【バスケットボール】様々な条件下でのパスのポイントを把握する。コミュニケーションを目的とするゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第13回	【後半種目①卓球】シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②バスケットボール】セットシュート、ゲームの運営（運営・評価）	
	【卓球】シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。 【バスケットボール】セットシュートのポイントを把握する。競技力バランスに主眼をおくゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第14回	【後半種目①卓球】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②バスケットボール】ゴール下ジャンプシュート、ゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	【卓球】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【バスケットボール】ゴール下ジャンプシュートのポイントを把握する。ゲーム運営の評価・考察をする。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜7＞		
教員名	渡邊　新一郎、有山　逸平		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①バスケットボール】競技規則と安全管理、ゲーム 【前半種目②ゴルフ】ガイダンス（安全管理、グリップ、アドレス、ハーフスイング）	
	【バスケットボール】基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。 【ゴルフ】基本的な競技規則、グリップ、アドレス、ハーフスイングのポイントを把握し、安全管理について考察する。	60
第3回	【前半種目①バスケットボール】ボールハンドリング、ゲーム 【前半種目②ゴルフ】ショートアイアンの飛距離調節方法	
	【バスケットボール】ボールハンドリングのポイントを把握する。 【ゴルフ】ショートアイアンのスイングのポイントを把握し、距離を打ち分ける方法について考察する。	60

第4回	【前半種目①バスケットボール】ステーショナリードリブル、ゲーム 【前半種目②ゴルフ】パッティングのグリップ、アドレス、スイング	
	【バスケットボール】ステーショナリードリブルのポイントを把握する。グループ分けやチーム編成について考察する。 【ゴルフ】パッティングのポイントを把握する。	60
第5回	【前半種目①バスケットボール】様々な条件下でのパス、ゲーム 【前半種目②ゴルフ】ショートコースラウンド	
	【バスケットボール】様々な条件下でのパスのポイントを把握する。コミュニケーションを目的とするゲーム運営と安全管理について考察・評価する。 【ゴルフ】ショートアイアンのスイング、パッティングのポイントを把握・考察する。	60
第6回	【前半種目①バスケットボール】セットシュート、ゲームの運営（運営・評価） 【前半種目②ゴルフ】ショートコースラウンド	
	【バスケットボール】セットシュートのポイントを把握する。競技力バランスに主眼をおくゲーム運営と安全管理について考察・評価する。 【ゴルフ】マナー・ルールと安全管理について把握し、自己点検および考察する。	60
第7回	【前半種目①バスケットボール】ゴール下ジャンプシュート、ゲームの運営（運営・課題改善・評価） 【前半種目②ゴルフ】ショートコースでのトーナメント競技方法	
	【バスケットボール】ゴール下ジャンプシュートのポイントを把握する。ゲーム運営の評価・考察をする。 【ゴルフ】スコアカードから自己のトーナメントでの課題について考察する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①フットサル】ボールフィーリング、コミュニケーション、ゲーム 【後半種目②テニス】ラケッティングとショートラリー（グリップ、ラケット、ボールとの距離感、フットワーク）	
	【フットサル】基本的な競技規則とボールフィーリングのポイントを把握し、安全管理について考察する。 【テニス】基本的な競技規則、グリップの握り方の種類、ラケッティングのポイントを把握する。安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①フットサル】パス＆コントロール、ゲーム 【後半種目②テニス】グラウンドストローク、ゲーム	
	【フットサル】パスとコントロールのポイントを把握する。 【テニス】グラウンドストロークのポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①フットサル】ドリブル＆シュート、ゲーム 【後半種目②テニス】ボレーとスマッシュ、ゲーム	
	【フットサル】ドリブル・シュートのポイントを把握する。 【テニス】ボレーとスマッシュのポイントを把握する。	60
第12回	【後半種目①フットサル】ゲームの運営（積極的にゴールを奪う攻撃、運営・評価） 【後半種目②テニス】サービスとレシーブ、ゲーム	
	【フットサル】ゴールを奪うためのポイントを把握する。ゲーム運営と安全管理について考察する。 【テニス】サービスとリターンのポイントを把握する。	60
第13回	【後半種目①フットサル】ゲームの運営（積極的にボールを奪う守備、運営・課題改善・評価） 【後半種目②テニス】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	【フットサル】ボールを奪うためのポイントを把握する。運営と安全管理の課題改善について考察する。 【テニス】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。	60
第14回	【後半種目①フットサル】ゲームの運営（攻守の切り替え、運営・課題改善・評価） 【後半種目②テニス】ダブルス（ノーアドバンテージ方式とタイブレーク、ゲームの運営）	
	【フットサル】攻守の切り替えにおけるポイントを把握する。運営と安全管理について評価・考察をする。 【テニス】タイブレークとノーアドバンテージ方式による試合の進め方を把握する。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜8＞		
教員名	飯田　義明、渡邊　新一郎		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①ソフトボール】ルールの確認とキャッチボール（捕球と送球） 【前半種目②卓球】ラケットワーク　（ラケットの種類と握り方、基本姿勢と打ち方）、フットワーク、ゲーム	
	【ソフトボール】基本的な競技規則、投球・捕球動作のポイントを把握し、安全管理について考察する。 【卓球】基本的な競技規則、ラケットワークとフットワークのポイントを把握する。安全管理について考察する。	60
第3回	【前半種目①ソフトボール】打撃（素振り、ティーバッティング）とゲーム（ティーボール） 【前半種目②卓球】フォアハンドストローク、ゲーム	
	【ソフトボール】打撃のポイントを把握する。 【卓球】フォアハンドストロークのポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①ソフトボール】守備（内外野ノック）とゲーム（ティーボール） 【前半種目②卓球】バックハンドストローク、ゲーム	
	【ソフトボール】各ポジションの守備位置や動き、捕球から送球までの動作のポイントを把握する。 【卓球】バックハンドストロークのポイントを把握する。	60
第5回	【前半種目①ソフトボール】ピッチング（スローピッチ）とゲーム（スローピッチゲーム） 【前半種目②卓球】サービスとレシーブ、ボールの回転の理解、ゲーム	
	【ソフトボール】ピッチャー（スローピッチ）に関するルール、ピッチング動作とスローピッチゲームのルールを把握する。 【卓球】サービスとレシーブのポイントを把握する。	60
第6回	【前半種目①ソフトボール】ピッチング（ファストピッチ）とゲームの運営（スローピッチゲーム、運営・評価） 【前半種目②卓球】シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	【ソフトボール】ピッチャー（ファストピッチ）に関するルール、ファストピッチでのピッチング動作を把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察する。 【卓球】シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。	60
第7回	【前半種目①ソフトボール】ゲームの運営（ファストピッチゲーム、運営・課題改善・評価） 【前半種目②卓球】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	【ソフトボール】スローピッチとファストピッチのルールの違いを把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察をする。 【卓球】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①サッカー】ボールフィーリング、コミュニケーション、ゲーム 【後半種目②テニス】ラケッティングとショートラリー（グリップ、ラケット、ボールとの距離感、フットワーク）	
	【サッカー】基本的な競技規則とボールフィーリング、ドリブル・パスのポイントを把握し、安全管理について考察する。 【テニス】基本的な競技規則、グリップの握り方の種類、ラケッティングのポイントを把握する。安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①サッカー】多彩なパス（ボレー、ヘディング）、ゲーム 【後半種目②テニス】グラウンドストローク、ゲーム	
	【サッカー】多彩なパスのポイントを把握する。 【テニス】グラウンドストロークのポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①サッカー】シュート（ボレー、ヘディング）、ゲーム 後半種目②テニス】ボレーとスマッシュ、ゲーム	
	【サッカー】シュートのポイントを把握する。 【テニス】ボレーとスマッシュのポイントを把握する。	60
第12回	【後半種目①サッカー】ボールを奪う（守備の基本、三原則の理解）、ゲーム 【後半種目②テニス】サービスとレシーブ、ゲーム	
	【サッカー】ボールを奪うためのポイントを把握する。 【テニス】サービスとリターンのポイントを把握する。	60
第13回	【後半種目①サッカー】off the ballの動き、フルコートゲームの運営（運営・評価） 【後半種目②テニス】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	【サッカー】off the ballの動きのポイントを把握する。フルコートゲームの運営と安全管理について考察する。 【テニス】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。	60
第14回	【後半種目①サッカー】フルコートゲーム（運営・課題改善・評価） 【後半種目②テニス】ダブルス（ノーアドバンテージ方式とタイブレーク、ゲームの運営）	
	【サッカー】これまでの授業内容からフルコートゲーム実践のポイントを把握する。運営と安全管理について評価する。 【テニス】タイブレークとノーアドバンテージ方式による試合の進め方を把握する。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜9＞		
教員名	飯田　義明、守田　誠		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①卓球】ラケットワーク　（ラケットの種類と握り方、基本姿勢と打ち方）、フットワーク、ゲーム 【前半種目②バレーボール】パス（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム	
	【卓球】基本的な競技規則、ラケットワークとフットワークのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【バレーボール】基本的な競技規則、パスのポイントを把握し、安全管理とラリーを継続させるローカルルールについて考察する。	60
第3回	【前半種目①卓球】フォアハンドストローク、ゲーム 【前半種目②バレーボール】サーブ（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム	
	【卓球】フォアハンドストロークのポイントを把握する。 【バレーボール】サーブのポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①卓球】バックハンドストローク、ゲーム 【前半種目②バレーボール】スパイク、ブロック、ゲーム	
	【卓球】バックハンドストロークのポイントを把握する。 【バレーボール】スパイクのポイントを把握し、チーム編成とコミュニケーション、リーグ戦の運営について考察する。	60
第5回	【前半種目①卓球】サービスとレシーブ、ボールの回転の理解、ゲーム 【前半種目②バレーボール】守備のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム	
	【卓球】サービスとレシーブのポイントを把握する。 【バレーボール】守備のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。	60
第6回	【前半種目①卓球】シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【前半種目②バレーボール】攻撃のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム	
	【卓球】シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。 【バレーボール】攻撃のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。	60
第7回	【前半種目①卓球】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【前半種目②バレーボール】ゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	【卓球】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【バレーボール】運営と安全管理、チームの戦術・戦略の課題改善について把握・考察する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①バスケットボール】競技規則と安全管理、ゲーム 【後半種目②バドミントン】イースタングリップを用いたラケッティング、ゲーム	
	【バスケットボール】基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。 【バドミントン】基本的な競技規則、イースタングリップでの腕の動きを把握する。安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①バスケットボール】ボールハンドリング、ゲーム 【後半種目②バドミントン】ドロップとロブ、ゲーム	
	【バスケットボール】ボールハンドリングのポイントを把握する。 【バドミントン】スマッシュ、クリア、ドロップのインパクトの違いとポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①バスケットボール】ステーショナリードリブル、ゲーム 【後半種目②バドミントン】ヘアピンとドライブ、ゲーム	
	【バスケットボール】ステーショナリードリブルのポイントを把握する。グループ分けやチーム編成について考察する。 【バドミントン】ヘアピンとドライブの打点・フェースの向きの違いとポイントを把握する。	60
第12回	【後半種目①バスケットボール】様々な条件下でのパス、ゲーム 【後半種目②バドミントン】ショートサービスとロングサービス、サービスから主導権を握る三打目攻撃、ゲーム	
	【バスケットボール】様々な条件下でのパスのポイントを把握する。コミュニケーションを目的とするゲーム運営と安全管理について考察・評価する。 【バドミントン】サービスと攻撃のポイントを把握する。	60
第13回	【後半種目①バスケットボール】セットシュート、ゲームの運営（運営・評価） 【後半種目②バドミントン】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	【バスケットボール】セットシュートのポイントを把握する。競技力バランスに主眼をおくゲーム運営と安全管理について考察・評価する。 【バドミントン】試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。	60
第14回	【後半種目①バスケットボール】ゴール下ジャンプシュート、ゲームの運営（運営・課題改善・評価） 【後半種目②バドミントン】ダブルス（リーグ戦等、運営・評価）	
	【バスケットボール】ゴール下ジャンプシュートのポイントを把握する。ゲーム運営の評価・考察をする。 【バドミントン】ダブルスのポイントを把握し、プレーや運営の課題と改善方法について考察する。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜10＞		
教員名	志村　広子、小山　陽平		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①バレーボール】パス（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム 【前半種目②テニス】ラケッティングとショートラリー（グリップ、ラケット、ボールとの距離感、フットワーク）	
	【バレーボール】基本的な競技規則、パスのポイントを把握し、安全管理とラリーを継続させるローカルルールについて考察する。 【テニス】基本的な競技規則、グリップの握り方の種類、ラケッティングのポイントを把握する。安全管理について考察する。	60
第3回	【前半種目①バレーボール】サーブ（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム 【前半種目②テニス】グラウンドストローク、ゲーム	
	【バレーボール】サーブのポイントを把握する。 【テニス】グラウンドストロークのポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①バレーボール】スパイク、ブロック、ゲーム【前半種目②テニス】ボレーとスマッシュ、ゲーム	
	【バレーボール】スパイクのポイントを把握し、チーム編成とコミュニケーション、リーグ戦の運営について考察する。 【テニス】ボレーとスマッシュのポイントを把握する。	60
第5回	【前半種目①バレーボール】守備のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム 【前半種目②テニス】サービスとレシーブ、ゲーム	
	【バレーボール】守備のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。 【テニス】サービスとリターンのポイントを把握する。	60
第6回	【前半種目①バレーボール】攻撃のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム 【前半種目②テニス】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	【バレーボール】攻撃のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。 【テニス】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。	60
第7回	【前半種目①バレーボール】ゲームの運営（運営・課題改善・評価） 【前半種目②テニス】ダブルス（ノーアドバンテージ方式とタイブレーク、ゲームの運営）	
	【バレーボール】運営と安全管理、チームの戦術・戦略の課題改善について把握・考察する。 【テニス】タイブレークとノーアドバンテージ方式による試合の進め方を把握する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①バドミントン】イースタングリップを用いたラケッティング、ゲーム 【後半種目②エアロビクス】ロー・インパクト（歩くレベルの強度、マーチ、ステップタッチ）	
	【バドミントン】基本的な競技規則、イースタングリップでの腕の動きを把握する。安全管理について考察する。 【エアロビクス】音楽に合わせて手拍子でリズムを取れるようにする。マーチ、ステップタッチのポイントを把握する。	60

第10回	【後半種目①バドミントン】ドロップとロブ、ゲーム 【後半種目②エアロビクス】ロー・インパクト（歩くレベルの強度、Vステップ、レッグカール）	
	【バドミントン】スマッシュ、クリア、ドロップのインパクトの違いとポイントを把握する。 【エアロビクス】Vステップ、レッグカールのポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①バドミントン】ヘアピンとドライブ、ゲーム 【後半種目②エアロビクス】ロー・インパクト（歩くレベルの強度、やや複雑な動きや方向転換、周りの人との間隔の取り方やマナー）	
	【バドミントン】ヘアピンとドライブの打点・フェースの向きの違いとポイントを把握する。 【エアロビクス】グレープバインのポイントを把握する。	60
第12回	【後半種目①バドミントン】ショートサービスとロングサービス、サービスから主導権を握る三打目攻撃、ゲーム 【後半種目②エアロビクス】ロー・インパクト（歩くレベルの強度、やや複雑な動きや方向転換、体力等に合わせて動きを選択）	
	【バドミントン】サービスと攻撃のポイントを把握する。 【エアロビクス】ターンのポイントを把握する。	60
第13回	【後半種目①バドミントン】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②エアロビクス】ロー・インパクトとハイ・インパクト（軽いジョギング程度の強度、ヒールタッチ、ツイスト、ホッピング）	
	【バドミントン】試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【エアロビクス】ヒールタッチ、ツイスト、ホッピングのポイントを把握する。	60
第14回	【後半種目①バドミントン】ダブルス（リーグ戦等、運営・評価） 【後半種目②エアロビクス】ロー・インパクトとハイ・インパクト（軽いジョギング程度の強度、いろいろな動きを楽しむ）	
	【バドミントン】ダブルスのポイントを把握し、プレーや運営の課題と改善方法について考察する。 【エアロビクス】エアロビクスを続けるための現実的な方法について考察する。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜11＞		
教員名	岡田　光弘、小山　陽平		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①卓球】ラケットワーク　（ラケットの種類と握り方、基本姿勢と打ち方）、フットワーク、ゲーム 【前半種目②バレーボール】パス（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム	
	【卓球】基本的な競技規則、ラケットワークとフットワークのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【バレーボール】基本的な競技規則、パスのポイントを把握し、安全管理とラリーを継続させるローカルルールについて考察する。	60
第3回	【前半種目①卓球】フォアハンドストローク、ゲーム 【前半種目②バレーボール】サーブ（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム	
	【卓球】フォアハンドストロークのポイントを把握する。 【バレーボール】サーブのポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①卓球】バックハンドストローク、ゲーム 【前半種目②バレーボール】スパイク、ブロック、ゲーム	
	【卓球】バックハンドストロークのポイントを把握する。 【バレーボール】スパイクのポイントを把握し、チーム編成とコミュニケーション、リーグ戦の運営について考察する。	60
第5回	【前半種目①卓球】サービスとレシーブ、ボールの回転の理解、ゲーム 【前半種目②バレーボール】守備のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム	
	【卓球】サービスとレシーブのポイントを把握する。 【バレーボール】守備のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。	60
第6回	【前半種目①卓球】シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【前半種目②バレーボール】攻撃のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム	
	【卓球】シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。 【バレーボール】攻撃のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。	60
第7回	【前半種目①卓球】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【前半種目②バレーボール】ゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	【卓球】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【バレーボール】運営と安全管理、チームの戦術・戦略の課題改善について把握・考察する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①テニス】ラケッティングとショートラリー（グリップ、ラケット、ボールとの距離感、フットワーク） 【後半種目②ソフトボール】ルールの確認とキャッチボール（捕球と送球）	
	【テニス】基本的な競技規則、グリップの握り方の種類、ラケッティングのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【ソフトボール】基本的な競技規則、投球・捕球動作のポイントを把握し、安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①テニス】グラウンドストローク、ゲーム 【後半種目②ソフトボール】打撃（素振り、ティーバッティング）とゲーム（ティーボール）	
	【テニス】グラウンドストロークのポイントを把握する。 【ソフトボール】打撃のポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①テニス】ボレーとスマッシュ、ゲーム 【後半種目②ソフトボール】守備（内外野ノック）とゲーム（ティーボール）	
	【テニス】ボレーとスマッシュのポイントを把握する。 【ソフトボール】各ポジションの守備位置や動き、捕球から送球までの動作のポイントを把握する。	60
第12回	【後半種目①テニス】サービスとレシーブ、ゲーム 【後半種目②ソフトボール】ピッチング（スローピッチ）とゲーム（スローピッチゲーム）	
	【テニス】サービスとリターンのポイントを把握する。 【ソフトボール】ピッチャー（スローピッチ）に関するルール、ピッチング動作とスローピッチゲームのルールを把握する。	60
第13回	【後半種目①テニス】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②ソフトボール】ピッチング（ファストピッチ）とゲームの運営（スローピッチゲーム、運営・評価）	
	【テニス】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【ソフトボール】ピッチャー（ファストピッチ）に関するルール、ファストピッチでのピッチング動作を把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察する。	60
第14回	【後半選択種目①テニス】ダブルス（ノーアドバンテージ方式とタイブレーク、ゲームの運営） 【後半種目②ソフトボール】ゲームの運営（ファストピッチゲーム、運営・課題改善・評価）	
	【テニス】タイブレークとノーアドバンテージ方式による試合の進め方を把握する。 【ソフトボール】スローピッチとファストピッチのルールの違いを把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察をする。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜12＞		
教員名	渡邉　隆嗣、小山　陽平		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①バスケットボール】競技規則と安全管理、ゲーム 【前半種目②ソフトボール】ルールの確認とキャッチボール（捕球と送球）	
	【バスケットボール】基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。 【ソフトボール】基本的な競技規則、投球・捕球動作のポイントを把握し、安全管理について考察する。	60
第3回	【前半種目①バスケットボール】ボールハンドリング、ゲーム 【前半種目②ソフトボール】打撃（素振り、ティーバッティング）とゲーム（ティーボール）	
	【バスケットボール】ボールハンドリングのポイントを把握する。 【ソフトボール】打撃のポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①バスケットボール】ステーショナリードリブル、ゲーム 【前半種目②ソフトボール】守備（内外野ノック）とゲーム（ティーボール）	
	【バスケットボール】ステーショナリードリブルのポイントを把握する。グループ分けやチーム編成について考察する。 【ソフトボール】各ポジションの守備位置や動き、捕球から送球までの動作のポイントを把握する。	60
第5回	【前半種目①バスケットボール】様々な条件下でのパス、ゲーム 【前半種目②ソフトボール】ピッチング（スローピッチ）とゲーム（スローピッチゲーム）	
	【バスケットボール】様々な条件下でのパスのポイントを把握する。コミュニケーションを目的とするゲーム運営と安全管理について考察・評価する。 【ソフトボール】ピッチャー（スローピッチ）に関するルール、ピッチング動作とスローピッチゲームのルールを把握する。	60
第6回	【前半種目①バスケットボール】セットシュート、ゲームの運営（運営・評価） 【前半種目②ソフトボール】ピッチング（ファストピッチ）とゲームの運営（スローピッチゲーム、運営・評価）	
	【バスケットボール】セットシュートのポイントを把握する。競技力バランスに主眼をおくゲーム運営と安全管理について考察・評価する。 【ソフトボール】ピッチャー（ファストピッチ）に関するルール、ファストピッチでのピッチング動作を把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察する。	60
第7回	【前半種目①バスケットボール】ゴール下ジャンプシュート、ゲームの運営（運営・課題改善・評価） 【前半種目②ソフトボール】ゲームの運営（ファストピッチゲーム、運営・課題改善・評価）	
	【バスケットボール】ゴール下ジャンプシュートのポイントを把握する。ゲーム運営の評価・考察をする。 【ソフトボール】スローピッチとファストピッチのルールの違いを把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察をする。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①サッカー】ボールフィーリング、コミュニケーション、ゲーム 【後半種目②バドミントン】イースタングリップを用いたラケッティング、ゲーム	
	【サッカー】基本的な競技規則とボールフィーリング、ドリブル・パスのポイントを把握し、安全管理について考察する。 【バドミントン】基本的な競技規則、イースタングリップでの腕の動きを把握する。安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①サッカー】多彩なパス（ボレー、ヘディング）、ゲーム 【後半種目②バドミントン】ドロップとロブ、ゲーム	
	【サッカー】多彩なパスのポイントを把握する。 【バドミントン】スマッシュ、クリア、ドロップのインパクトの違いとポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①サッカー】シュート（ボレー、ヘディング）、ゲーム 【後半種目②バドミントン】ヘアピンとドライブ、ゲーム	
	【サッカー】シュートのポイントを把握する。 【バドミントン】ヘアピンとドライブの打点・フェースの向きの違いとポイントを把握する。	60
第12回	【後半種目①サッカー】ボールを奪う（守備の基本、三原則の理解）、ゲーム 【後半種目②バドミントン】ショートサービスとロングサービス、サービスから主導権を握る三打目攻撃、ゲーム	
	【サッカー】ボールを奪うためのポイントを把握する。 【バドミントン】サービスと攻撃のポイントを把握する。	60
第13回	【後半種目①サッカー】off the ballの動き、フルコートゲームの運営（運営・評価） 【後半種目②バドミントン】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	【サッカー】off the ballの動きのポイントを把握する。フルコートゲームの運営と安全管理について考察する。 【バドミントン】試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。	60
第14回	【後半種目①サッカー】フルコートゲーム（運営・課題改善・評価） 【後半種目②バドミントン】ダブルス（リーグ戦等、運営・評価）	
	【サッカー】これまでの授業内容からフルコートゲーム実践のポイントを把握する。運営と安全管理について評価する。 【バドミントン】ダブルスのポイントを把握し、プレーや運営の課題と改善方法について考察する。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜13＞		
教員名	福井　真司、岩嶋　孝夫		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①テニス】ラケッティングとショートラリー（グリップ、ラケット、ボールとの距離感、フットワーク） 【前半種目②バスケットボール】競技規則と安全管理、ゲーム	
	【テニス】基本的な競技規則、グリップの握り方の種類、ラケッティングのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【バスケットボール】基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第3回	【前半種目①テニス】グラウンドストローク、ゲーム 【前半種目②バスケットボール】ボールハンドリング、ゲーム	
	【テニス】グラウンドストロークのポイントを把握する。 【バスケットボール】ボールハンドリングのポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①テニス】ボレーとスマッシュ、ゲーム 【前半種目②バスケットボール】ステーショナリードリブル、ゲーム	
	【テニス】ボレーとスマッシュのポイントを把握する。 【バスケットボール】ステーショナリードリブルのポイントを把握する。グループ分けやチーム編成について考察する。	60
第5回	【前半種目①テニス】サービスとレシーブ、ゲーム 【前半種目②バスケットボール】様々な条件下でのパス、ゲーム	
	【テニス】サービスとリターンのポイントを把握する。 【バスケットボール】様々な条件下でのパスのポイントを把握する。コミュニケーションを目的とするゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第6回	【前半種目①テニス】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【前半種目②バスケットボール】セットシュート、ゲームの運営（運営・評価）	
	【テニス】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【バスケットボール】セットシュートのポイントを把握する。競技力バランスに主眼をおくゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第7回	【前半種目①テニス】ダブルス（ノーアドバンテージ方式とタイブレーク、ゲームの運営） 【前半種目②バスケットボール】ゴール下ジャンプシュート、ゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	【テニス】タイブレークとノーアドバンテージ方式による試合の進め方を把握する。 【バスケットボール】ゴール下ジャンプシュートのポイントを把握する。ゲーム運営の評価・考察をする。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①バドミントン】イースタングリップを用いたラケッティング、ゲーム 【後半種目②サッカー】ボールフィーリング、コミュニケーション、ゲーム	
	【バドミントン】基本的な競技規則、イースタングリップでの腕の動きを把握する。安全管理について考察する。 【サッカー】基本的な競技規則とボールフィーリング、ドリブル・パスのポイントを把握し、安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①バドミントン】ドロップとロブ、ゲーム 【後半種目②サッカー】多彩なパス（ボレー、ヘディング）、ゲーム	
	【バドミントン】スマッシュ、クリア、ドロップのインパクトの違いとポイントを把握する。 【サッカー】多彩なパスのポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①バドミントン】ヘアピンとドライブ、ゲーム 【後半種目②サッカー】シュート（ボレー、ヘディング）、ゲーム	
	【バドミントン】ヘアピンとドライブの打点・フェースの向きの違いとポイントを把握する。 【サッカー】シュートのポイントを把握する。	60
第12回	【後半種目①バドミントン】ショートサービスとロングサービス、サービスから主導権を握る三打目攻撃、ゲーム 【後半種目②サッカー】ボールを奪う（守備の基本、三原則の理解）、ゲーム	
	【バドミントン】サービスと攻撃のポイントを把握する。 【サッカー】ボールを奪うためのポイントを把握する。	60
第13回	【後半種目①バドミントン】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②サッカー】off the ballの動き、フルコートゲームの運営（運営・評価）	
	【バドミントン】試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【サッカー】off the ballの動きのポイントを把握する。フルコートゲームの運営と安全管理について考察する。	60
第14回	【後半種目①バドミントン】ダブルス（リーグ戦等、運営・評価） 【後半種目②サッカー】フルコートゲーム（運営・課題改善・評価）	
	【バドミントン】ダブルスのポイントを把握し、プレーや運営の課題と改善方法について考察する。 【サッカー】これまでの授業内容からフルコートゲーム実践のポイントを把握する。運営と安全管理について評価する。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜14＞		
教員名	福井　真司、重藤　誠市郎		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①ソフトボール】ルールの確認とキャッチボール（捕球と送球） 【前半種目②バレーボール】パス（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム	
	【ソフトボール】基本的な競技規則、投球・捕球動作のポイントを把握し、安全管理について考察する。 【バレーボール】基本的な競技規則、パスのポイントを把握し、安全管理とラリーを継続させるローカルルールについて考察する。	60
第3回	【前半種目①ソフトボール】打撃（素振り、ティーバッティング）とゲーム（ティーボール） 【前半種目②バレーボール】サーブ（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム	
	【ソフトボール】打撃のポイントを把握する。 【バレーボール】サーブのポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①ソフトボール】守備（内外野ノック）とゲーム（ティーボール） 【前半種目②バレーボール】スパイク、ブロック、ゲーム	
	【ソフトボール】各ポジションの守備位置や動き、捕球から送球までの動作のポイントを把握する。 【バレーボール】スパイクのポイントを把握し、チーム編成とコミュニケーション、リーグ戦の運営について考察する。	60
第5回	【前半種目①ソフトボール】ピッチング（スローピッチ）とゲーム（スローピッチゲーム） 【前半種目②バレーボール】守備のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム	
	【ソフトボール】ピッチャー（スローピッチ）に関するルール、ピッチング動作とスローピッチゲームのルールを把握する。 【バレーボール】守備のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。	60
第6回	【前半種目①ソフトボール】ピッチング（ファストピッチ）とゲームの運営（スローピッチゲーム、運営・評価） 【前半種目②バレーボール】攻撃のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム	
	【ソフトボール】ピッチャー（ファストピッチ）に関するルール、ファストピッチでのピッチング動作を把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察する。 【バレーボール】攻撃のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。	60
第7回	【前半種目①ソフトボール】ゲームの運営（ファストピッチゲーム、運営・課題改善・評価） 【前半種目②バレーボール】ゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	【ソフトボール】スローピッチとファストピッチのルールの違いを把握する。ゲームの運営と安全管理について評価・考察をする。 【バレーボール】運営と安全管理、チームの戦術・戦略の課題改善について把握・考察する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①サッカー】ボールフィーリング、コミュニケーション、ゲーム 【後半種目②バドミントン】イースタングリップを用いたラケッティング、ゲーム	
	【サッカー】基本的な競技規則とボールフィーリング、ドリブル・パスのポイントを把握し、安全管理について考察する。 【バドミントン】基本的な競技規則、イースタングリップでの腕の動きを把握する。安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①サッカー】多彩なパス（ボレー、ヘディング）、ゲーム 【後半種目②バドミントン】ドロップとロブ、ゲーム	
	【サッカー】多彩なパスのポイントを把握する。 【バドミントン】スマッシュ、クリア、ドロップのインパクトの違いとポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①サッカー】シュート（ボレー、ヘディング）、ゲーム 【後半種目②バドミントン】ヘアピンとドライブ、ゲーム	
	【サッカー】シュートのポイントを把握する。 【バドミントン】ヘアピンとドライブの打点・フェースの向きの違いとポイントを把握する。	60
第12回	【後半種目①サッカー】ボールを奪う（守備の基本、三原則の理解）、ゲーム 【後半種目②バドミントン】ショートサービスとロングサービス、サービスから主導権を握る三打目攻撃、ゲーム	
	【サッカー】ボールを奪うためのポイントを把握する。 【バドミントン】サービスと攻撃のポイントを把握する。	60
第13回	【後半種目①サッカー】off the ballの動き、フルコートゲームの運営（運営・評価） 【後半種目②バドミントン】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	【サッカー】off the ballの動きのポイントを把握する。フルコートゲームの運営と安全管理について考察する。 【バドミントン】試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。	60
第14回	【後半種目①サッカー】フルコートゲーム（運営・課題改善・評価） 【後半種目②バドミントン】ダブルス（リーグ戦等、運営・評価）	
	【サッカー】これまでの授業内容からフルコートゲーム実践のポイントを把握する。運営と安全管理について評価する。 【バドミントン】ダブルスのポイントを把握し、プレーや運営の課題と改善方法について考察する。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＢⅠ ＜15＞		
教員名	岩嶋　孝夫、小谷　究		
科目ナンバー	1001467010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツは、健康の維持増進や充足感を得ることを通じてわれわれの生活の質向上に資する、社会に不可欠な文化である。この授業では、各７回にわたり２種目のスポーツや運動を実践することを通じて、スポーツ・運動をおこなう場の安全管理をしながら技能を習得し、周囲とコミュニケーションをはかりながら、種目の特性や健康への効果およびルールやマナー等の知識を学ぶ。

到達目標

①さまざまな運動様式・技術・技能を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら実践することができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス（授業の説明と種目の振り分け）	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	【前半種目①テニス】ラケッティングとショートラリー（グリップ、ラケット、ボールとの距離感、フットワーク） 【前半種目②バレーボール】パス（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム	
	【テニス】基本的な競技規則、グリップの握り方の種類、ラケッティングのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【バレーボール】基本的な競技規則、パスのポイントを把握し、安全管理とラリーを継続させるローカルルールについて考察する。	60
第3回	【前半種目①テニス】グラウンドストローク、ゲーム 【前半種目②バレーボール】サーブ（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム	
	【テニス】グラウンドストロークのポイントを把握する。 【バレーボール】サーブのポイントを把握する。	60

第4回	【前半種目①テニス】ボレーとスマッシュ、ゲーム 【前半種目②バレーボール】スパイク、ブロック、ゲーム	
	【テニス】ボレーとスマッシュのポイントを把握する。 【バレーボール】スパイクのポイントを把握し、チーム編成とコミュニケーション、リーグ戦の運営について考察する。	60
第5回	【前半種目①テニス】サービスとレシーブ、ゲーム 【前半種目②バレーボール】守備のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム	
	【テニス】サービスとリターンのポイントを把握する。 【バレーボール】守備のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。	60
第6回	【前半種目①テニス】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【前半種目②バレーボール】攻撃のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム	
	【テニス】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【バレーボール】攻撃のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。	60
第7回	【前半種目①テニス】ダブルス（ノーアドバンテージ方式とタイブレーク、ゲームの運営） 【前半種目②バレーボール】ゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	【テニス】タイブレークとノーアドバンテージ方式による試合の進め方を把握する。 【バレーボール】運営と安全管理、チームの戦術・戦略の課題改善について把握・考察する。	60
第8回	前半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60
第9回	【後半種目①卓球】ラケットワーク　（ラケットの種類と握り方、基本姿勢と打ち方）、フットワーク、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】競技規則と安全管理、ゲーム	
	【卓球】基本的な競技規則、ラケットワークとフットワークのポイントを把握する。安全管理について考察する。 【バスケットボール】基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60

第10回	【後半種目①卓球】フォアハンドストローク、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】ボールハンドリング、ゲーム	
	【卓球】フォアハンドストロークのポイントを把握する。 【バスケットボール】ボールハンドリングのポイントを把握する。	60
第11回	【後半種目①卓球】バックハンドストローク、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】ステーショナリードリブル、ゲーム	
	【卓球】バックハンドストロークのポイントを把握する。 【バスケットボール】ステーショナリードリブルのポイントを把握する。グループ分けやチーム編成について考察する。	60
第12回	【後半種目①卓球】サービスとレシーブ、ボールの回転の理解、ゲーム 【後半種目②バスケットボール】様々な条件下でのパス、ゲーム	
	【卓球】サービスとレシーブのポイントを把握する。 【バスケットボール】様々な条件下でのパスのポイントを把握する。コミュニケーションを目的とするゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第13回	【後半種目①卓球】シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②バスケットボール】セットシュート、ゲームの運営（運営・評価）	
	【卓球】シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。 【バスケットボール】セットシュートのポイントを把握する。競技力バランスに主眼をおくゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第14回	【後半種目①卓球】ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営） 【後半種目②バスケットボール】ゴール下ジャンプシュート、ゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	【卓球】ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、コミュニケーションやゲーム運営について考察する。 【バスケットボール】ゴール下ジャンプシュートのポイントを把握する。ゲーム運営の評価・考察をする。	60
第15回	後半選択種目のまとめ：本種目の実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・本授業は7回ずつ2種目で展開する。初回ガイダンスにて種目の振り分けをおこなう。
・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・各種目において「達成度確認のためのテスト（レポート）」が課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・各種目における適切な運動様式・技術・技能等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等の理解と実践ができているか。
・各種目におけるルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ｂ」、「健康・スポーツの発展Ｓ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳⅠ ＜1＞ 【ゴルフ】		
教員名	渡邊　新一郎		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス（安全管理、グリップ、アドレス、スイング）	
	シラバスの内容と基本的な競技規則、グリップ、アドレス、スイングのポイントを把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	ハーフスイングの飛距離調節方法	
	ハーフスイング、距離を打ち分けるスイングのポイントを把握する。	60
第3回	フルスイングの最大飛距離の向上	
	フルスイングのポイントを把握する。	60

第4回	パッティングのグリップ、アドレス、スイング	
	パッティングのポイントを把握する。	60
第5回	様々なクラブでのスイングとパッティング、コースラウンドでのマナー・ルールの理解と安全管理	
	ハーフスイング、フルスイング、パッティングのポイント、コースラウンドでのマナー・ルール、安全管理について把握する。	60
第6回	練習ラウンド（マナー・ルール、安全管理）	
	マナー・ルールと安全管理の実践について把握・考察する。	60
第7回	練習ラウンド（スコアカードの記入とコースマネジメント）	
	スコアカード記入の方法を把握し、コースマネジメントについて考察する。	60
第8回	自己の飛距離および方向の調節方法の点検（アイアン、パター）	
	スコアカードから自己の課題を把握し、その改善方法について考察する。	60
第9回	自己の飛距離および方向の調節方法の点検、トーナメントの理解と実践	
	自己のスイング改善のポイントを把握し、とトーナメント実践の方法について考察する。	60

第10回	自己の飛距離および方向の調節方法の点検（アイアン、パター）	
	トーナメント成績から自己の課題について考察する。	60
第11回	ゴルフトーナメントの企画と運営	
	競技方法について把握し、ゴルフトーナメントの企画・運営と安全管理について考察する。	60
第12回	トーナメント（企画と運営・評価）	
	これまで体得した技術、安全管理などのマネジメントについて把握する。	60
第13回	トーナメント（企画と運営・課題改善）	
	前回の評価からプレーとマネジメントの課題を把握し、改善について考察する。	60
第14回	トーナメント（企画と運営・課題改善・評価）	
	前回・前々回の評価からプレーとマネジメントの課題を把握し、評価・考察をする。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳＩ ＜2＞ 【ソフトボール】		
教員名	小林　裕央		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	捕球（ゴロ、フライ）と送球	
	投球・捕球動作のポイントを把握する。	60
第3回	打撃（素振り、ティーバッティング、フリーバッティング）	
	打撃のポイントを把握する。	60

第4回	守備（ピッチングとノック）	
	ピッチングおよび捕球から送球までの動作のポイントを把握する。	60
第5回	守備（カバーリングと中継プレイ）	
	各ポジションの守備位置や役割、打球方向に応じた動きのポイントを把握する。	60
第6回	守備（ケースノック）、ゲーム（ティーボール）	
	ティーボールのルールとランナーに関するルール、各ポジションのアウトカウントやランナーに応じた動きや位置の変化のポイントを把握する。	60
第7回	打撃（ケースバッティング）、ゲーム（ティーボール）	
	アウトカウントやランナーに応じた守備位置の変化、打撃のポイントを把握する。	60
第8回	スコアブックのつけ方、ゲーム（スローピッチゲーム）	
	スローピッチゲームのルール、スコアブックのつけ方を把握する。	60
第9回	審判の方法、ゲーム（スローピッチゲーム）	
	審判法を把握する。個人やチームの技術的課題を把握し、その解決方法について考察する。	60

第10回	ファストピッチゲーム（進め方の理解）	
	スローピッチとファストピッチのルールの違いを把握する。	60
第11回	ファストピッチゲーム（個人の技術的課題の解決とゲーム）	
	個人の技術的課題を把握し、解決方法について考察する。	60
第12回	ファストピッチゲーム（チームの技術・戦術的課題の解決とゲーム）	
	個人やチームの技術・戦術的課題を把握し、解決方法について考察する。	60
第13回	ゲームの運営（リーグ戦等、運営・評価）	
	チームの戦術、運営と安全管理の課題を把握し、改善方法について考察する。	60
第14回	ゲームの運営（リーグ戦等、運営・課題改善・評価）	
	チーム戦術、運営と安全管理について評価・考察をする。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 /Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳＩ ＜3＞ 【バドミントン】		
教員名	伴　好彦		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	イースタングリップを用いたラケッティング、スマッシュとクリア、ゲーム	
	イースタングリップでのラケッティングのポイントを把握する。	60
第3回	ドロップとロブ、ゲーム	
	スマッシュ、クリア、ドロップのインパクトの違いとポイントを把握する。	60

第4回	ヘアピンとドライブ、ゲーム	
	ヘアピンとドライブの打点・フェースの向きの違いとポイントを把握する。	60
第5回	ショートサービスとロングサービス、サービスから主導権を握る三打目攻撃、ゲーム	
	サービスと三打目攻撃のポイントを把握する。	60
第6回	ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	ダブルスの試合の進め方とマナーを把握する。	60
第7回	ダブルスの陣形（トップ＆バック、ゲーム）	
	前衛・後衛それぞれに求められるポイントを把握し、自身のプレースタイルを考察する。	60
第8回	ダブルスの陣形（サイド・バイ・サイド、ゲーム）	
	ダブルスにおける陣形変化のポイントを把握する。	60
第9回	ダブルス（戦術の理解、ゲーム）	
	ダブルスにおける戦術について把握・考察する。	60

第10回	ダブルス（まとめ、ゲームの運営）	
	パートナーとのチームワーク、コミュニケーションについて把握・考察する。	60
第11回	シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。	60
第12回	シングルス（戦術の理解、ゲーム）	
	試合で主導権を握るためのポイントを把握する。	60
第13回	シングルス（まとめ、ゲームの運営）	
	シングルスにおける自己の戦術について把握・考察する。	60
第14回	ゲームの運営（トーナメント・リーグ戦・団体戦等、運営・評価）	
	試合運営と安全管理について考察・評価する。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳⅠ ＜4＞ 【テニス】		
教員名	渡邊　新一郎		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を 把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	グラウンドストローク（グリップ、ボディコントロール、ボールコントロール）、ゲーム	
	グラウンドストロークのポイントを把握する。	60
第3回	ボレーとスマッシュ（グリップ、ボディコントロール、ボールコントロール）、ゲーム	
	ボレーとスマッシュのポイントを把握する。	60

第4回	サービスとレシーブ（グリップ、ボディコントロール、ボールコントロール）、ゲーム	
	サービスとレシーブのポイントを把握する。	60
第5回	ベースラインからネットプレーへの展開（アプローチショット）、ゲーム	
	アプローチショットとネットプレーのポイントを把握する。	60
第6回	球出しによる様々なドリル（指導的視点をふまえたグループ学習）、ゲーム	
	球出しによるドリルを実践するうえでのポイントを把握する。	60
第7回	ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、パートナーとのコミュニケーションについて考察する。	60
第8回	ダブルス（雁行陣による戦術、ゲーム）	
	雁行陣のポイントを把握し、パートナーとのチームワークについて考察する。	60
第9回	ダブルス（平行陣による戦術、ゲーム）	
	平行陣のポイントを把握し、パートナーとのチームワークについて考察する。	60

第10回	シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。	60
第11回	シングルス（ベースラインでのプレーを主体とした戦術、ゲーム）	
	ベースラインを主体としたシングルスの戦術について把握・考察する。	60
第12回	シングルス（ネットプレーを主体とした戦術、ゲーム）	
	ネットプレーを主体としたシングルスの戦術について把握・考察する。	60
第13回	ゲームの運営（トーナメント・リーグ戦・団体戦等、運営・評価）	
	試合運営と安全管理の方法・課題について把握・考察する。	60
第14回	ゲームの運営（トーナメント・リーグ戦・団体戦等、審判方法、運営・課題改善・評価）	
	審判方法を把握し、プレー・戦術・運営について評価・考察をする。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳⅠ ＜5＞ 【太極拳】		
教員名	渡邊　典子		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス（太極拳における套路とは）	
	シラバスの内容、套路の考え方と流れについて把握する。	60
第2回	姿勢と呼吸法（立位の内気功による気と動作の勁力の確認）	
	立位姿勢と起式の中腰姿勢のポイントを把握する。	60
第3回	歩法・手法による防御と攻撃の型、内気功にもとづくゆったり呼吸とゆったり動作	
	歩法・手法における動作のポイント、内気功と動作の関係を把握する。	60

第4回	２人組対練における防御から攻撃への展開、武術としての太極拳	
	２人組対練において体軸を安定させる際のポイントを把握し、武術としての太極拳について考察する。	60
第5回	後退・防御しながら攻撃するための歩法・手法	
	各動作の連携と目線のポイントを把握する。	60
第6回	前回までの套路の通し、内気功にもとづく動作の方法、グループで動作確認	
	「套路図」の内容とこれまでの套路の流れを把握する。	60
第7回	横移動の歩法からの手法・身法	
	横移動の歩法からの手法・身法における身体の方向、上体・下体のバランス、手足のタイミングを把握する。	60
第8回	横移動からの攻撃と防御、太極拳用語と動作の対応	
	横移動からの攻撃と防御のポイント、動作に関する用語を把握する。	60
第9回	「簡化９式」における身体機能と体力向上のための動作	
	「簡化９式」の内容を把握し、身体機能や体力向上との関連について考察する。	60

第10回	対局（内気功にもとづく左右対称の動作）	
	対局のポイント、内気功の重要性を把握する。	60
第11回	前後左右の方向転換に応じた動作	
	方向転換する際の足の使い方や身法のポイントを把握し、効率的な動作について考察する。	60
第12回	套路の最終技、講義（太極拳が要求する動作の用語）	
	套路の最終技のポイントと基本的な太極拳用語を把握する。	60
第13回	全套路の通し（単体、集体）、套路の動作と勁力の関連	
	全套路の通しにおける勁力を意識した動作のポイントを把握する。	60
第14回	太極拳（集中力とリラックスと動作の調和）と講義（生涯スポーツとしての太極拳）	
	太極拳の社会的浸透状況を把握し、日常生活に太極拳を取り入れるための現実的な方法について考察する。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳⅠ ＜6＞ 【バレーボール】		
教員名	小谷　究		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	パス（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム	
	パスの種類とポイントを把握し、ラリーを継続させるローカルルールについて考察する。	60
第3回	サーブ（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム	
	サーブの種類とポイントを把握する。	60

第4回	サーブレシーブ、ゲーム	
	サーブレシーブのポイントを把握する。	60
第5回	オープン攻撃（ストレート、クロス）、ゲーム	
	オープン攻撃の種類とポイントを把握する。	60
第6回	クイック攻撃、ゲーム	
	クイック攻撃の種類とポイントを把握する。	60
第7回	ブロック、ゲーム	
	ブロックのポイントを把握する。	60
第8回	守備のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム	
	守備のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。	60
第9回	攻撃のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム	
	攻撃のフォーメーションと各ポジションの役割を把握する。	60

第10回	守備から攻撃へ（サーブレシーブから、スパイクレシーブから、ブロックフォローから）、ゲーム	
	守備から攻撃の流れにおけるポイントを把握する。	60
第11回	守備から攻撃へ（サーブレシーブから、スパイクレシーブから、ブロックフォローから）、ゲーム	
	守備から攻撃への移行のポイントを把握し、チーム編成と戦術、コミュニケーションについて考察する。	60
第12回	ゲームの運営（リーグ戦等、運営）	
	ゲーム運営と安全管理、チームの戦術・戦略について考察する。	60
第13回	ゲームの運営（リーグ戦等、運営・評価）	
	ゲーム運営と安全管理、チームの戦術・戦略の課題を把握し、改善方法について考察する。	60
第14回	ゲームの運営（リーグ戦等、運営・課題改善・評価）	
	ゲーム運営と安全管理、自己のプレー、チームの戦術・戦略について評価・考察する。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳＩ ＜7＞ 【バスケットボール】		
教員名	小谷　究		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	ボールハンドリング、ステーショナリードリブル、ゲーム	
	バスケットボール競技の特異的なボールハンドリングのポイントを把握する。	60
第3回	様々なパス、ゲーム	
	パスの種類とそれぞれのポイントを把握する。	60

第4回	レイアップシュート、ゲーム	
	レイアップシュートのポイントを把握する。	60
第5回	セットシュート、ゲーム	
	セットシュートのフォームとポイントを把握する。	60
第6回	ゴール下ジャンプシュート、ゲーム	
	ジャンプシュートのフォームとポイントを把握する。	60
第7回	ストップ、ターン、ピボット、ゲーム	
	ストップ、ターンの種類とそれぞれのポイントを把握する。	60
第8回	チェンジ・オブ・ペース、チェンジ・オブ・ディレクション、ゲーム	
	ドリブルチェンジの種類とそれぞれのポイントを把握する。	60
第9回	個人戦術からチーム戦術への展開（1on1）、ゲーム	
	ゴールラインの原則について把握する。	60

第10回	個人戦術からチーム戦術への展開（2on2）、ゲーム	
	内線の利について把握する。	60
第11回	個人戦術からチーム戦術への展開（3on3）、ゲーム	
	パスの3方向について把握する。	60
第12回	個人戦術からチーム戦術への展開（5on5）、ゲーム	
	ハーフコートオフェンスのアライメントの種類とそれぞれのポイントを把握する。	60
第13回	アウトナンバー（2on1）、ゲームの運営（運営・評価）	
	2on1の状況におけるディフェンスについて把握する。ゲーム運営と安全管理、戦術について考察・評価する。	60
第14回	アウトナンバー（3on2）、ゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	3on2の状況におけるディフェンスについて把握する。ゲーム運営と安全管理、戦術について考察・評価をする。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳⅠ ＜8＞ 【サッカー】		
教員名	川田　尚弘		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	ボールフィーリング	
	ボールフィーリングのポイントを把握する。	60
第3回	パス＆コントロール	
	パス＆コントロールのポイントを把握する。	60

第4回	多彩なパス・シュート（ボレー、ヘディング）、ゲーム	
	多彩なパス・シュートのポイントを把握する。	60
第5回	守備（守備の基本）、ゲーム	
	守備（守備の基本）のポイントを把握する。	60
第6回	攻撃（off the ballの動き）、ゲーム	
	攻撃（off the ballの動き）のポイントを把握する。	60
第7回	守備（DFの三原則）、ゲーム	
	守備（DFの三原則）のポイントを把握する。	60
第8回	攻撃（幅と厚み）、ゲーム	
	攻撃（幅と厚み）のポイントを把握する。	60
第9回	守備（チャレンジ＆カバー）、ゲーム	
	守備（チャレンジ＆カバー）のポイントを把握する。	60

第10回	攻撃（ポゼッション）、ゲーム	
	攻撃（ポゼッション）のポイントを把握する。	60
第11回	クロスからの攻守、ゲーム	
	クロスからの攻守のポイントを把握する。	60
第12回	セットプレー（スローイン、コーナーキック、フリーキック、ペナルティキック）、ゲーム	
	セットプレーのポイントを把握し、実践のためのアイディアを考察・準備する。	60
第13回	フルコートゲームの運営（審判法の理解、運営・評価）	
	主審および副審の役割、対角線式審判法を把握する。ゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第14回	フルコートゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	これまでにおこなった戦術、審判法などを把握する。ゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳＩ ＜9＞ 【ソフトボール】		
教員名	鈴木　雄太		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	捕球（ゴロ、フライ）と送球	
	投球・捕球動作のポイントを把握する。	60
第3回	打撃（素振り、ティーバッティング、フリーバッティング）	
	打撃のポイントを把握する。	60

第4回	守備（ピッチングとノック）	
	ピッチングおよび捕球から送球までの動作のポイントを把握する。	60
第5回	守備（カバーリングと中継プレイ）	
	各ポジションの守備位置や役割、打球方向に応じた動きのポイントを把握する。	60
第6回	守備（ケースノック）、ゲーム（ティーボール）	
	ティーボールのルールとランナーに関するルール、各ポジションのアウトカウントやランナーに応じた動きや位置の変化のポイントを把握する。	60
第7回	打撃（ケースバッティング）、ゲーム（ティーボール）	
	アウトカウントやランナーに応じた守備位置の変化、打撃のポイントを把握する。	60
第8回	スコアブックのつけ方、ゲーム（スローピッチゲーム）	
	スローピッチゲームのルール、スコアブックのつけ方を把握する。	60
第9回	審判の方法、ゲーム（スローピッチゲーム）	
	審判法を把握する。個人やチームの技術的課題を把握し、その解決方法について考察する。	60

第10回	ファストピッチゲーム（進め方の理解）	
	スローピッチとファストピッチのルールの違いを把握する。	60
第11回	ファストピッチゲーム（個人の技術的課題の解決とゲーム）	
	個人の技術的課題を把握し、解決方法について考察する。	60
第12回	ファストピッチゲーム（チームの技術・戦術的課題の解決とゲーム）	
	個人やチームの技術・戦術的課題を把握し、解決方法について考察する。	60
第13回	ゲームの運営（リーグ戦等、運営・評価）	
	チームの戦術、運営と安全管理の課題を把握し、改善方法について考察する。	60
第14回	ゲームの運営（リーグ戦等、運営・課題改善・評価）	
	チーム戦術、運営と安全管理について評価・考察をする。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳⅠ ＜10＞ 【ヨガ】		
教員名	渡邊　典子		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスと配付資料の内容を把握する。	60
第2回	呼吸と姿勢、柔軟性とバランス機能の確認	
	呼吸と姿勢、柔軟性とバランス機能について把握する。	60
第3回	ヨガ呼吸法と身体のコアを意識したヨガポーズ	
	ポーズ成形の順番と正確なポーズについて把握する。	60

第4回	柔軟性と筋力アップのためのヨガ	
	柔軟性と筋力アップのためのポイントを把握する。	60
第5回	座位を中心とした柔軟性アップのためのヨガ	
	座位でおこなう場合の柔軟性と筋力アップのためのポイントを把握する。	60
第6回	ポーズを発展させたパワーヨガ	
	パワーヨガにおけるポーズキープのポイントを把握する。	60
第7回	ヨガ８支則、連続型パワーヨガ太陽礼拝	
	ヨガ８支則の内容、太陽礼拝のポーズのポイントを把握する。	60
第8回	立位を中心としたバランス機能・筋力・集中力アップのためのヨガ	
	立位でおこなう場合のバランス機能・筋力・集中力アップのためのポイントを把握する。	60
第9回	逆腹式呼吸法と内臓機能アップのためのヨガ	
	腹式呼吸法のポイントを把握する。	60

第10回	片鼻呼吸法と自律神経調節のためのヨガ	
	身体機能の自己調整法および呼吸法について把握する。	60
第11回	生活習慣による体質改善のためのヨガポーズ	
	個々の体質を把握し、それぞれに合わせた課題を考察する。	60
第12回	座位・伏臥位でおこなうペアストレッチとパートナーヨガ	
	座位・伏臥位でのペアストレッチとパートナーヨガについて把握する。	60
第13回	立位・仰臥位でおこなうペアストレッチとパートナーヨガ	
	立位・仰臥位でのペアストレッチとパートナーヨガについて把握する。	60
第14回	身体マネジメントのためのヨガ、講義（生活マネジメントとヨガ実践の相乗効果）	
	これまでおこなった学修を確認し、身体マネジメントについて考察する。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳＩ ＜11＞ 【競技トレーニング】		
教員名	守田　誠		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス、自身が関わる競技種目の特性分析と目標設定	
	シラバスの内容を把握する。自身が関わる競技種目について考察する。	60
第2回	体力、形態測定、体幹トレーニング	
	トレーニング目標の設定について考察する。	60
第3回	ウォーミングアップ（静的、動的ストレッチング）	
	身体各部位の筋肉（大筋群）の名称、機能について把握する。	60

第4回	ウォーミングアップ（リアクションドリル、アジリティトレーニング）	
	身体各部位の筋肉（小筋群）の名称、機能について把握する。	60
第5回	スピードトレーニング（リニア、ラテラル、クロスオーバー）	
	スピードトレーニングの基礎知識について把握する。	60
第6回	プライオメトリクストレーニング（上肢、下肢、体幹プライオメトリクス）	
	パワートレーニングの基礎知識について把握する。	60
第7回	エンデュランストレーニング（無酸素性持久力トレーニング）	
	呼吸循環系の基礎知識について把握する。	60
第8回	エンデュランストレーニング（有酸素性持久力トレーニング）	
	持久力トレーニングの基礎知識について把握する。	60
第9回	ウエイトトレーニング（器具、徒手抵抗負荷、自体重負荷を用いた下肢ウエイトトレーニング）	
	プログラムデザイン（プログラム変数）の基礎知識について把握する。	60

第10回	ウエイトトレーニング（器具、徒手抵抗負荷、自体重負荷を用いた上肢ウエイトトレーニング）	
	プログラムデザイン（プログラム変数）の基礎知識について把握する。	60
第11回	競技特異的トレーニング（様々な競技特異的トレーニングの実践）	
	競技特異性を高めるためのトレーニング方法について把握・考察する。	60
第12回	競技特異的トレーニング（様々な競技特異的トレーニングの実践）	
	競技特異性を高めるためのトレーニング方法について把握・考察する。	60
第13回	競技特異的トレーニング（様々な競技特異的トレーニングの実践）	
	競技特異性を高めるためのトレーニング方法について把握・考察する。	60
第14回	体力、形態測定、バランストレーニング	
	自主トレーニングの目標設定について評価・考察をする。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳＩ ＜12＞ 【バドミントン】		
教員名	有山　逸平		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	イースタングリップを用いたラケッティング、スマッシュとクリア、ゲーム	
	イースタングリップでのラケッティングのポイントを把握する。	60
第3回	ドロップとロブ、ゲーム	
	スマッシュ、クリア、ドロップのインパクトの違いとポイントを把握する。	60

第4回	ヘアピンとドライブ、ゲーム	
	ヘアピンとドライブの打点・フェースの向きの違いとポイントを把握する。	60
第5回	ショートサービスとロングサービス、サービスから主導権を握る三打目攻撃、ゲーム	
	サービスと三打目攻撃のポイントを把握する。	60
第6回	ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	ダブルスの試合の進め方とマナーを把握する。	60
第7回	ダブルスの陣形（トップ＆バック、ゲーム）	
	前衛・後衛それぞれに求められるポイントを把握し、自身のプレースタイルを考察する。	60
第8回	ダブルスの陣形（サイド・バイ・サイド、ゲーム）	
	ダブルスにおける陣形変化のポイントを把握する。	60
第9回	ダブルス（戦術の理解、ゲーム）	
	ダブルスにおける戦術について把握・考察する。	60

第10回	ダブルス（まとめ、ゲームの運営）	
	パートナーとのチームワーク、コミュニケーションについて把握・考察する。	60
第11回	シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。	60
第12回	シングルス（戦術の理解、ゲーム）	
	試合で主導権を握るためのポイントを把握する。	60
第13回	シングルス（まとめ、ゲームの運営）	
	シングルスにおける自己の戦術について把握・考察する。	60
第14回	ゲームの運営（トーナメント・リーグ戦・団体戦等、運営・評価）	
	試合運営と安全管理について考察・評価する。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳⅠ ＜13＞ 【バレーボール】		
教員名	守田　誠		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	パス（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム	
	パスの種類とポイントを把握し、ラリーを継続させるローカルルールについて考察する。	60
第3回	サーブ（オーバーハンド、アンダーハンド）、ゲーム	
	サーブの種類とポイントを把握する。	60

第4回	サーブレシーブ、ゲーム	
	サーブレシーブのポイントを把握する。	60
第5回	オープン攻撃（ストレート、クロス）、ゲーム	
	オープン攻撃の種類とポイントを把握する。	60
第6回	クイック攻撃、ゲーム	
	クイック攻撃の種類とポイントを把握する。	60
第7回	ブロック、ゲーム	
	ブロックのポイントを把握する。	60
第8回	守備のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム	
	守備のフォーメーションの特徴と各ポジションの役割を把握する。	60
第9回	攻撃のフォーメーション、ポジションと役割、ゲーム	
	攻撃のフォーメーションと各ポジションの役割を把握する。	60

第10回	守備から攻撃へ（サーブレシーブから、スパイクレシーブから、ブロックフォローから）、ゲーム	
	守備から攻撃の流れにおけるポイントを把握する。	60
第11回	守備から攻撃へ（サーブレシーブから、スパイクレシーブから、ブロックフォローから）、ゲーム	
	守備から攻撃への移行のポイントを把握し、チーム編成と戦術、コミュニケーションについて考察する。	60
第12回	ゲームの運営（リーグ戦等、運営）	
	ゲーム運営と安全管理、チームの戦術・戦略について考察する。	60
第13回	ゲームの運営（リーグ戦等、運営・評価）	
	ゲーム運営と安全管理、チームの戦術・戦略の課題を把握し、改善方法について考察する。	60
第14回	ゲームの運営（リーグ戦等、運営・課題改善・評価）	
	ゲーム運営と安全管理、自己のプレー、チームの戦術・戦略について評価・考察する。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳＩ ＜14＞ 【サッカー】		
教員名	有山　逸平		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	ボールフィーリング	
	ボールフィーリングのポイントを把握する。	60
第3回	パス＆コントロール	
	パス＆コントロールのポイントを把握する。	60

第4回	多彩なパス・シュート（ボレー、ヘディング）、ゲーム	
	多彩なパス・シュートのポイントを把握する。	60
第5回	守備（守備の基本）、ゲーム	
	守備（守備の基本）のポイントを把握する。	60
第6回	攻撃（off the ballの動き）、ゲーム	
	攻撃（off the ballの動き）のポイントを把握する。	60
第7回	守備（DFの三原則）、ゲーム	
	守備（DFの三原則）のポイントを把握する。	60
第8回	攻撃（幅と厚み）、ゲーム	
	攻撃（幅と厚み）のポイントを把握する。	60
第9回	守備（チャレンジ＆カバー）、ゲーム	
	守備（チャレンジ＆カバー）のポイントを把握する。	60

第10回	攻撃（ポゼッション）、ゲーム	
	攻撃（ポゼッション）のポイントを把握する。	60
第11回	クロスからの攻守、ゲーム	
	クロスからの攻守のポイントを把握する。	60
第12回	セットプレー（スローイン、コーナーキック、フリーキック、ペナルティキック）、ゲーム	
	セットプレーのポイントを把握し、実践のためのアイディアを考察・準備する。	60
第13回	フルコートゲームの運営（審判法の理解、運営・評価）	
	主審および副審の役割、対角線式審判法を把握する。ゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第14回	フルコートゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	これまでにおこなった戦術、審判法などを把握する。ゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳⅠ ＜15＞ 【テニス】		
教員名	渡邊　新一郎		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を 把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	グラウンドストローク（グリップ、ボディコントロール、ボールコントロール）、ゲーム	
	グラウンドストロークのポイントを把握する。	60
第3回	ボレーとスマッシュ（グリップ、ボディコントロール、ボールコントロール）、ゲーム	
	ボレーとスマッシュのポイントを把握する。	60

第4回	サービスとレシーブ（グリップ、ボディコントロール、ボールコントロール）、ゲーム	
	サービスとレシーブのポイントを把握する。	60
第5回	ベースラインからネットプレーへの展開（アプローチショット）、ゲーム	
	アプローチショットとネットプレーのポイントを把握する。	60
第6回	球出しによる様々なドリル（指導的視点をふまえたグループ学習）、ゲーム	
	球出しによるドリルを実践するうえでのポイントを把握する。	60
第7回	ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、パートナーとのコミュニケーションについて考察する。	60
第8回	ダブルス（雁行陣による戦術、ゲーム）	
	雁行陣のポイントを把握し、パートナーとのチームワークについて考察する。	60
第9回	ダブルス（平行陣による戦術、ゲーム）	
	平行陣のポイントを把握し、パートナーとのチームワークについて考察する。	60

第10回	シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。	60
第11回	シングルス（ベースラインでのプレーを主体とした戦術、ゲーム）	
	ベースラインを主体としたシングルスの戦術について把握・考察する。	60
第12回	シングルス（ネットプレーを主体とした戦術、ゲーム）	
	ネットプレーを主体としたシングルスの戦術について把握・考察する。	60
第13回	ゲームの運営（トーナメント・リーグ戦・団体戦等、運営・評価）	
	試合運営と安全管理の方法・課題について把握・考察する。	60
第14回	ゲームの運営（トーナメント・リーグ戦・団体戦等、審判方法、運営・課題改善・評価）	
	審判方法を把握し、プレー・戦術・運営について評価・考察をする。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳⅠ ＜16＞ 【卓球】		
教員名	岡田　光弘		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	フォアハンドストローク(ロング、ドライブ、スマッシュ、ロビングスマッシュ、ブロック、ツッツキ)、ゲーム	
	フォアハンドストロークのポイントを把握する。	60
第3回	バックハンドストローク（ハーフボレー、ドライブ、ブロック、ツッツキ、プッシュ）、ゲーム	
	バックハンドストロークのポイントを把握する。	60

第4回	サービス（フォアハンド、バックハンド、ボールの回転と変化、スピードとコース）、ゲーム	
	サービスのポイントを把握する。	60
第5回	レシーブ（ストップレシーブ、フリックレシーブ、フェイント）、ゲーム	
	レシーブのポイントを把握する。	60
第6回	球出しによる様々なドリル(指導的視点でのグループ学習)、ゲーム	
	球出しドリルの種類とポイントを把握する。	60
第7回	シングルス(試合の進め方とマナー、ゲームの運営)	
	シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。	60
第8回	シングルス（サービスのコースと打分けによる戦術、ゲーム）	
	サービスのコースと打分けによる戦術を把握する。	60
第9回	シングルス（3球目攻撃による戦術、ゲーム）	
	シングルスにおける3球目攻撃について把握する。	60

第10回	ダブルス(試合の進め方とマナー、ゲームの運営)	
	ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、パートナーとのコミュニケーションについて考察する。	60
第11回	ダブルス(サービスのコースと打分けによる戦術、ゲーム)	
	サービスのコースと打分けによる戦術を把握する。	60
第12回	ダブルス(3球目攻撃による戦術、ゲーム)	
	ダブルスにおける3球目攻撃について把握する。	60
第13回	ゲームの運営（昇格・降格方式、総当たり方式、ハンディキャップ方式、運営・評価）	
	試合運営と安全管理について考察・評価する。	60
第14回	ゲームの運営（トーナメント方式、ラウンド・ロビン方式、対抗戦方式、運営・課題改善・評価）	
	試合運営と安全管理について考察・評価する。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳＩ ＜17＞ 【エアロビクス】		
教員名	志村　広子		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容を把握する。音楽に合わせて手拍子でリズムを取れるようにする。	60
第2回	ロー・インパクト（マーチ、ステップタッチ）	
	マーチ、ステップタッチのポイントを把握する。	60
第3回	ロー・インパクト（Vステップ、レッグカール）	
	Vステップ、レッグカールのポイントを把握する。	60

第4回	ロー・インパクト（Aステップ、グレープバイン）	
	Aステップ、グレープバインのポイントを把握する。	60
第5回	ロー・インパクト（ストンプ、マンボ）	
	ストンプ、マンボのポイントを把握する。	60
第6回	ロー・インパクト（ステップニー）	
	ステップニーのポイントを把握する。	60
第7回	ロー・インパクト（ランジ）	
	ランジのポイントを把握する。	60
第8回	自分の姿勢と動きを確認する（写真、動画撮影）	
	自分の姿勢や動きの特徴および課題を把握し、日常生活の中での改善方法について考察する。	60
第9回	ロー・インパクトとハイ・インパクト（シャッセ）	
	シャッセのポイントを把握する。	60

第10回	ロー・インパクトとハイ・インパクト（ジョグ、ツーカウントジョグ）	
	ジョグ、ツーカウントジョグのポイントを把握する。	60
第11回	ロー・インパクトとハイ・インパクト（ホッピング、ヒールタッチ）	
	ホッピング、ヒールタッチのポイントを把握する。	60
第12回	ロー・インパクトとハイ・インパクト（ツイスト、ヒップシェイク）	
	ツイスト、ヒップシェイクのポイントを把握する。	60
第13回	ロー・インパクトとハイ・インパクト（ジャンピングジャック）	
	ジャンピングジャックのポイントを把握する。	60
第14回	ロー・インパクトとハイ・インパクト（バッククロス）	
	バッククロスのポイントを把握する。エアロビクス等の運動を続けるための現実的な方法について考察する。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳＩ ＜18＞ 【バスケットボール】		
教員名	渡邉　隆嗣		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	ボールハンドリング、ステーショナリードリブル、ゲーム	
	バスケットボール競技の特異的なボールハンドリングのポイントを把握する。	60
第3回	様々なパス、ゲーム	
	パスの種類とそれぞれのポイントを把握する。	60

第4回	レイアップシュート、ゲーム	
	レイアップシュートのポイントを把握する。	60
第5回	セットシュート、ゲーム	
	セットシュートのフォームとポイントを把握する。	60
第6回	ゴール下ジャンプシュート、ゲーム	
	ジャンプシュートのフォームとポイントを把握する。	60
第7回	ストップ、ターン、ピボット、ゲーム	
	ストップ、ターンの種類とそれぞれのポイントを把握する。	60
第8回	チェンジ・オブ・ペース、チェンジ・オブ・ディレクション、ゲーム	
	ドリブルチェンジの種類とそれぞれのポイントを把握する。	60
第9回	個人戦術からチーム戦術への展開（1on1）、ゲーム	
	ゴールラインの原則について把握する。	60

第10回	個人戦術からチーム戦術への展開（2on2）、ゲーム	
	内線の利について把握する。	60
第11回	個人戦術からチーム戦術への展開（3on3）、ゲーム	
	パスの3方向について把握する。	60
第12回	個人戦術からチーム戦術への展開（5on5）、ゲーム	
	ハーフコートオフェンスのアライメントの種類とそれぞれのポイントを把握する。	60
第13回	アウトナンバー（2on1）、ゲームの運営（運営・評価）	
	2on1の状況におけるディフェンスについて把握する。ゲーム運営と安全管理、戦術について考察・評価する。	60
第14回	アウトナンバー（3on2）、ゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	3on2の状況におけるディフェンスについて把握する。ゲーム運営と安全管理、戦術について考察・評価をする。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳⅠ ＜19＞ 【健康トレーニング】		
教員名	志村　広子		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容を把握する。	60
第2回	エアロビクス（歩くレベルの強度、マーチ、ステップタッチ）	
	マーチ、ステップタッチのポイントを把握する。	60
第3回	エアロビクス（歩くレベルの強度、Vステップ、レッグカール）	
	Vステップ、レッグカールのポイントを把握する。	60

第4回	エアロビクス（歩くレベルの強度、グレープバイン）	
	グレープバインのポイントを把握する。	60
第5回	エアロビクス（歩くレベルの強度、ターン）	
	ターンのポイントを把握する。	60
第6回	エアロビクス（軽いジョギング程度の強度、ヒールタッチ、ツイスト、ホッピング）	
	ヒールタッチ、ツイスト、ホッピングのポイントを把握する。	60
第7回	エアロビクス（軽いジョギング程度の強度まで、いろいろな動き）	
	エアロビクスを続けるための現実的な方法について考察する。	60
第8回	機器を用いた有酸素トレーニング（エアロバイクやパワーマックス、運動強度と心拍数の関係）	
	有酸素トレーニングおよび運動強度と心拍数について把握する。	60
第9回	ウォーキング（自分の姿勢や歩き方の見直し）	
	写真や動画を用いて自分の姿勢や歩き方について把握する。	60

第10回	ウォーキング（歩幅やスピードの確認）	
	日常生活の中で歩幅やスピードを変える動作を実践し、考察する。	60
第11回	ノルディック・ウォーキング（ポールの使い方）	
	ノルディック・ウォーキング、ポールの特徴について把握する。	60
第12回	ノルディック・ウォーキング（ポール利用の効果）	
	ポール利用の有無による差を把握する。	60
第13回	ノルディック・ウォーキング（コースを作る）	
	安全性と運動量の面からコースについて考察する。	60
第14回	ノルディック・ウォーキング（作ったコースを歩く）	
	日常生活に運動を取り入れるための現実的な方法について考察する。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳⅠ ＜20＞ 【テニス】		
教員名	岡田　光弘		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を 把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	グラウンドストローク（グリップ、ボディコントロール、ボールコントロール）、ゲーム	
	グラウンドストロークのポイントを把握する。	60
第3回	ボレーとスマッシュ（グリップ、ボディコントロール、ボールコントロール）、ゲーム	
	ボレーとスマッシュのポイントを把握する。	60

第4回	サービスとレシーブ（グリップ、ボディコントロール、ボールコントロール）、ゲーム	
	サービスとレシーブのポイントを把握する。	60
第5回	ベースラインからネットプレーへの展開（アプローチショット）、ゲーム	
	アプローチショットとネットプレーのポイントを把握する。	60
第6回	球出しによる様々なドリル（指導的視点をふまえたグループ学習）、ゲーム	
	球出しによるドリルを実践するうえでのポイントを把握する。	60
第7回	ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、パートナーとのコミュニケーションについて考察する。	60
第8回	ダブルス（雁行陣による戦術、ゲーム）	
	雁行陣のポイントを把握し、パートナーとのチームワークについて考察する。	60
第9回	ダブルス（平行陣による戦術、ゲーム）	
	平行陣のポイントを把握し、パートナーとのチームワークについて考察する。	60

第10回	シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。	60
第11回	シングルス（ベースラインでのプレーを主体とした戦術、ゲーム）	
	ベースラインを主体としたシングルスの戦術について把握・考察する。	60
第12回	シングルス（ネットプレーを主体とした戦術、ゲーム）	
	ネットプレーを主体としたシングルスの戦術について把握・考察する。	60
第13回	ゲームの運営（トーナメント・リーグ戦・団体戦等、運営・評価）	
	試合運営と安全管理の方法・課題について把握・考察する。	60
第14回	ゲームの運営（トーナメント・リーグ戦・団体戦等、審判方法、運営・課題改善・評価）	
	審判方法を把握し、プレー・戦術・運営について評価・考察をする。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳⅠ ＜21＞ 【卓球】		
教員名	重藤　誠市郎		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	フォアハンドストローク(ロング、ドライブ、スマッシュ、ロビングスマッシュ、ブロック、ツッツキ)、ゲーム	
	フォアハンドストロークのポイントを把握する。	60
第3回	バックハンドストローク（ハーフボレー、ドライブ、ブロック、ツッツキ、プッシュ）、ゲーム	
	バックハンドストロークのポイントを把握する。	60

第4回	サービス（フォアハンド、バックハンド、ボールの回転と変化、スピードとコース）、ゲーム	
	サービスのポイントを把握する。	60
第5回	レシーブ（ストップレシーブ、フリックレシーブ、フェイント）、ゲーム	
	レシーブのポイントを把握する。	60
第6回	球出しによる様々なドリル(指導的視点でのグループ学習)、ゲーム	
	球出しドリルの種類とポイントを把握する。	60
第7回	シングルス(試合の進め方とマナー、ゲームの運営)	
	シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。	60
第8回	シングルス（サービスのコースと打分けによる戦術、ゲーム）	
	サービスのコースと打分けによる戦術を把握する。	60
第9回	シングルス（3球目攻撃による戦術、ゲーム）	
	シングルスにおける3球目攻撃について把握する。	60

第10回	ダブルス(試合の進め方とマナー、ゲームの運営)	
	ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、パートナーとのコミュニケーションについて考察する。	60
第11回	ダブルス(サービスのコースと打分けによる戦術、ゲーム)	
	サービスのコースと打分けによる戦術を把握する。	60
第12回	ダブルス(3球目攻撃による戦術、ゲーム)	
	ダブルスにおける3球目攻撃について把握する。	60
第13回	ゲームの運営（昇格・降格方式、総当たり方式、ハンディキャップ方式、運営・評価）	
	試合運営と安全管理について考察・評価する。	60
第14回	ゲームの運営（トーナメント方式、ラウンド・ロビン方式、対抗戦方式、運営・課題改善・評価）	
	試合運営と安全管理について考察・評価する。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳⅠ ＜22＞ 【テニス】		
教員名	岩嶋　孝夫		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を 把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	グラウンドストローク（グリップ、ボディコントロール、ボールコントロール）、ゲーム	
	グラウンドストロークのポイントを把握する。	60
第3回	ボレーとスマッシュ（グリップ、ボディコントロール、ボールコントロール）、ゲーム	
	ボレーとスマッシュのポイントを把握する。	60

第4回	サービスとレシーブ（グリップ、ボディコントロール、ボールコントロール）、ゲーム	
	サービスとレシーブのポイントを把握する。	60
第5回	ベースラインからネットプレーへの展開（アプローチショット）、ゲーム	
	アプローチショットとネットプレーのポイントを把握する。	60
第6回	球出しによる様々なドリル（指導的視点をふまえたグループ学習）、ゲーム	
	球出しによるドリルを実践するうえでのポイントを把握する。	60
第7回	ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	ダブルスの試合の進め方とマナーを把握し、パートナーとのコミュニケーションについて考察する。	60
第8回	ダブルス（雁行陣による戦術、ゲーム）	
	雁行陣のポイントを把握し、パートナーとのチームワークについて考察する。	60
第9回	ダブルス（平行陣による戦術、ゲーム）	
	平行陣のポイントを把握し、パートナーとのチームワークについて考察する。	60

第10回	シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。	60
第11回	シングルス（ベースラインでのプレーを主体とした戦術、ゲーム）	
	ベースラインを主体としたシングルスの戦術について把握・考察する。	60
第12回	シングルス（ネットプレーを主体とした戦術、ゲーム）	
	ネットプレーを主体としたシングルスの戦術について把握・考察する。	60
第13回	ゲームの運営（トーナメント・リーグ戦・団体戦等、運営・評価）	
	試合運営と安全管理の方法・課題について把握・考察する。	60
第14回	ゲームの運営（トーナメント・リーグ戦・団体戦等、審判方法、運営・課題改善・評価）	
	審判方法を把握し、プレー・戦術・運営について評価・考察をする。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳＩ ＜23＞ 【バスケットボール】		
教員名	小谷　究		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	ボールハンドリング、ステーショナリードリブル、ゲーム	
	バスケットボール競技の特異的なボールハンドリングのポイントを把握する。	60
第3回	様々なパス、ゲーム	
	パスの種類とそれぞれのポイントを把握する。	60

第4回	レイアップシュート、ゲーム	
	レイアップシュートのポイントを把握する。	60
第5回	セットシュート、ゲーム	
	セットシュートのフォームとポイントを把握する。	60
第6回	ゴール下ジャンプシュート、ゲーム	
	ジャンプシュートのフォームとポイントを把握する。	60
第7回	ストップ、ターン、ピボット、ゲーム	
	ストップ、ターンの種類とそれぞれのポイントを把握する。	60
第8回	チェンジ・オブ・ペース、チェンジ・オブ・ディレクション、ゲーム	
	ドリブルチェンジの種類とそれぞれのポイントを把握する。	60
第9回	個人戦術からチーム戦術への展開（1on1）、ゲーム	
	ゴールラインの原則について把握する。	60

第10回	個人戦術からチーム戦術への展開（2on2）、ゲーム	
	内線の利について把握する。	60
第11回	個人戦術からチーム戦術への展開（3on3）、ゲーム	
	パスの3方向について把握する。	60
第12回	個人戦術からチーム戦術への展開（5on5）、ゲーム	
	ハーフコートオフェンスのアライメントの種類とそれぞれのポイントを把握する。	60
第13回	アウトナンバー（2on1）、ゲームの運営（運営・評価）	
	2on1の状況におけるディフェンスについて把握する。ゲーム運営と安全管理、戦術について考察・評価する。	60
第14回	アウトナンバー（3on2）、ゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	3on2の状況におけるディフェンスについて把握する。ゲーム運営と安全管理、戦術について考察・評価をする。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳＩ ＜24＞ 【バドミントン】		
教員名	重藤　誠市郎		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	イースタングリップを用いたラケッティング、スマッシュとクリア、ゲーム	
	イースタングリップでのラケッティングのポイントを把握する。	60
第3回	ドロップとロブ、ゲーム	
	スマッシュ、クリア、ドロップのインパクトの違いとポイントを把握する。	60

第4回	ヘアピンとドライブ、ゲーム	
	ヘアピンとドライブの打点・フェースの向きの違いとポイントを把握する。	60
第5回	ショートサービスとロングサービス、サービスから主導権を握る三打目攻撃、ゲーム	
	サービスと三打目攻撃のポイントを把握する。	60
第6回	ダブルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	ダブルスの試合の進め方とマナーを把握する。	60
第7回	ダブルスの陣形（トップ＆バック、ゲーム）	
	前衛・後衛それぞれに求められるポイントを把握し、自身のプレースタイルを考察する。	60
第8回	ダブルスの陣形（サイド・バイ・サイド、ゲーム）	
	ダブルスにおける陣形変化のポイントを把握する。	60
第9回	ダブルス（戦術の理解、ゲーム）	
	ダブルスにおける戦術について把握・考察する。	60

第10回	ダブルス（まとめ、ゲームの運営）	
	パートナーとのチームワーク、コミュニケーションについて把握・考察する。	60
第11回	シングルス（試合の進め方とマナー、ゲームの運営）	
	シングルスの試合の進め方とマナーを把握する。	60
第12回	シングルス（戦術の理解、ゲーム）	
	試合で主導権を握るためのポイントを把握する。	60
第13回	シングルス（まとめ、ゲームの運営）	
	シングルスにおける自己の戦術について把握・考察する。	60
第14回	ゲームの運営（トーナメント・リーグ戦・団体戦等、運営・評価）	
	試合運営と安全管理について考察・評価する。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	健康スポーツの発展ＳⅠ ＜25＞ 【サッカー】		
教員名	福井　真司		
科目ナンバー	1001468010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スポーツや運動に関する高度かつ多面的な資質の獲得は、個人におけるスポーツライフの充実や健康の維持増進はもちろんのこと、広くスポーツの普及や発展への寄与にもつながる。この授業では、１種目のスポーツや運動を継続して実践することを通じて、持てる技能をさらに高めることに加え、戦術・戦略の観点やスポーツ科学の知見を活かした合目的的なプランを立てるための理論と実際を学ぶ。併せて、安全管理や試合運営等のマネジメントや指導に関する要素を学び、スポーツへの理解をさらに深める。

到達目標

①目的に適った正しい運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を、運動・スポーツに関する理論にもとづいて理解し、体得できる。
②安全管理をベースとしたマネジメントについて理解し、周囲とコミュニケーションをとりながら、より高度な実践・運営に移すことができる。
③ルールやマナーなどを理解し、効果的な活動につなげることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	シラバスの内容と基本的な競技規則を把握し、安全管理について考察する。	60
第2回	ボールフィーリング	
	ボールフィーリングのポイントを把握する。	60
第3回	パス＆コントロール	
	パス＆コントロールのポイントを把握する。	60

第4回	多彩なパス・シュート（ボレー、ヘディング）、ゲーム	
	多彩なパス・シュートのポイントを把握する。	60
第5回	守備（守備の基本）、ゲーム	
	守備（守備の基本）のポイントを把握する。	60
第6回	攻撃（off the ballの動き）、ゲーム	
	攻撃（off the ballの動き）のポイントを把握する。	60
第7回	守備（DFの三原則）、ゲーム	
	守備（DFの三原則）のポイントを把握する。	60
第8回	攻撃（幅と厚み）、ゲーム	
	攻撃（幅と厚み）のポイントを把握する。	60
第9回	守備（チャレンジ＆カバー）、ゲーム	
	守備（チャレンジ＆カバー）のポイントを把握する。	60

第10回	攻撃（ポゼッション）、ゲーム	
	攻撃（ポゼッション）のポイントを把握する。	60
第11回	クロスからの攻守、ゲーム	
	クロスからの攻守のポイントを把握する。	60
第12回	セットプレー（スローイン、コーナーキック、フリーキック、ペナルティキック）、ゲーム	
	セットプレーのポイントを把握し、実践のためのアイディアを考察・準備する。	60
第13回	フルコートゲームの運営（審判法の理解、運営・評価）	
	主審および副審の役割、対角線式審判法を把握する。ゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第14回	フルコートゲームの運営（運営・課題改善・評価）	
	これまでにおこなった戦術、審判法などを把握する。ゲーム運営と安全管理について考察・評価する。	60
第15回	まとめ：実技技術等獲得状況の確認と理論学修状況の確認	
	これまでにおこなった学修のすべてを把握する。	60

授業の方法

・必要な準備および実施場所等の詳細については、「履修要項」に記すとともに、初回ガイダンスにて説明をする。
・「達成度確認のためのテスト（レポート）」が2回課される。
・天候および授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席状況（参加・取り組み状況も含む）が40%、技能（技術の習得、各自の目標達成度等）が20%、理論（ルール・マナー等の理解、レポートによる評価等）が20%、その他（相互協力度、安全に対する配慮等）が20%を基準として、総合的に評価をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業内容に積極的に取り組んでいるか。
・適切な運動様式・技術・技能・戦術・指導法等を理論にもとづいて理解し、体得できているか。
・安全管理を含むマネジメント、コミュニケーション等を理解・実践し、それについて適切な評価・考察や課題改善ができているか。
・ルールやマナー等の理解と実践ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「健康・スポーツの基礎」を先修科目とする。関連科目として、「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツの発展Ａ」、「健康・スポーツの発展Ｂ」がある。

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。また、授業終了後にも授業実施場所で受け付ける。

科目名	哲学の基礎 ＜2＞		
教員名	関口　浩		
科目ナンバー	1201071001	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

　この講義では、まず〈哲学とは何か？〉という基本的な事柄を、ほかのさまざまな学問と比較しながら説明します。さらに、西洋哲学の歴史を概観しながら、この学問におけるいくつかの基本概念――自由、歴史、理想、科学、客観性など――について説明していきます。
　哲学的な思索の＜おもしろさ＞を存分に楽しんでもらえるような授業にしたいと思っています。

到達目標

各々の履修者が自分自身で哲学的に思索できるようになることを目的とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	哲学とはなにか？　ソクラテスの思想	
	テキストの１０頁の言葉を読み、その意味をよく考えておくこと。	３０分
第2回	自由(1)　モーゼとイエスの思想。	
	旧約聖書・出エジプト記の「十戒」の部分と、新約聖書・マタイ伝の「誘惑の山」の箇所を読んでおくこと。	６０分
第3回	自由(2)　プラトンの「洞窟の譬喩」	
	テキストの「自由」の章、第３節テキストをよく読んでおくこと。	６０分

第4回	歴史(1)　われわれは「進歩」したのか？	
	テキストの「歴史」の章を読んでおくこと。	６０分
第5回	歴史(2)　パスカルの言葉「もしクレオパトラの鼻が・・・」	
	配付資料のA・トインビーの言葉を読み、その意味をよく考えておくこと。	６０分
第6回	個と普遍(1)　プラトンのイデア説	
	テキストの「個と普遍」の章、第１節を読んでおくこと。	６０分
第7回	個と普遍(2)　アリストテレスによるプラトン批判	
	テキストの「個と普遍」の章、第２節を読んでおくこと。	６０分
第8回	ルネサンスにおける＜遠近法＞の成立とその哲学的意義	
	「最後の晩餐」ほかのレオナルド・ダ・ヴィンチの絵画作品を見ておくこと。	６０分
第9回	近代科学の勃興とその思想的背景	
	テキストの「科学の勃興」の章をよく読んでおくこと。	６０分

第10回	デカルトの方法論、そして「我思う、ゆえに我あり」	
	テキストの「客観性」の章を読んでおくこと。	６０分
第11回	ヘラクレイトスの思想と弁証法	
	テキストの「弁証法」の章をよく読んでおくこと。	６０分
第12回	芸術の哲学。　マグリットの作品をめぐって	
	「光の帝国」ほかのR・マグリットの絵画作品を見ておくこと。	６０分
第13回	死についての省察(1)　「楽園からの追放」をめぐって	
	テキストの「ニヒリズム」の章を熟読しておくこと。	６０分
第14回	死についての省察(2)　キューブラ・ロス『死ぬ瞬間』	
	参考資料のキューブラー・ロスの文章をよく読んで、講義の内容について理解を深めること。	６０分
第15回	まとめ	
	今期の講義内容を回想してその意義をよく考えること。	６０分

授業の方法

講義。　絵画や写真、映画などヴィジュアルな資料も必要に応じて使っていきたいと思ってます。

成績評価の方法

授業への積極的な参加を評価する。平常点（授業内レポートなど）２０%、定期試験８０%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

いかなる予備知識もとくに求めません。
関連科目は「現代社会と哲学」。

テキスト

『哲学入門以前』、川原栄峰、南窓社、2000円、ISBN4-8165-0054-5 C0010

参考書

左近司祥子　『西洋哲学の10冊』、岩波書店、　819円、ISBN-13:　978-4005006137
プラトン　『ソークラテースの弁明・クリトーン・パイドーン』田中美知太郎他訳、新潮文庫

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

質問等は授業前・授業後に受け付けます。

科目名	哲学の基礎 ＜3＞		
教員名	瀬戸　一夫		
科目ナンバー	1201071001	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

広く社会・思想的な文脈から、今日の哲学に流入している主要問題を歴史的に解説し、古代から近現代までの哲学を特徴づけている基本的な考え方に学ぶ。講義にあたっては、基本的な概念や伝統的な哲学問題の解説にとどまることなく、今日のわれわれが現代社会のうちにどのような問題を見て取らなければならないかをも考察する。

到達目標

現代社会の諸問題を含め、さまざまな問題を常識的な観点からだけでなく、哲学的な観点から根本的に考えられるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の進め方と狙いについて解説する。また、西洋哲学の歴史的な背景を概観する。	
	(予習)シラバスを読み、授業内容の概要をイメージしておく。 (復習)授業内容のイメージを修正し、自分に必要な予習の計画づくりをする。	30
第2回	哲学的な思考様式の源流	
	(予習)必要に応じて、前回の授業内容を､確認しておく。	60
第3回	古代地中海世界の社会状況 について	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60

第4回	自然論の成立過程	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第5回	西欧中世の宗教的文脈	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第6回	キリスト教神学の発展	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第7回	古代哲学のキリスト教化	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第8回	盛期中世の哲学的課題	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第9回	晩期中世の問題情況	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60

第10回	近代哲学の課題	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第11回	合理論の展開	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第12回	経験論の問題設定	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第13回	哲学のコペルニクス革命	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第14回	近代的な自我の成立とその理論化	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第15回	. 現代における哲学の可能性	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60

授業の方法

講義形式で行う。なお、授業の進捗によって、第２回～第14回の項目を入れ替える、あるいは変更する場合がある。

成績評価の方法

学期末試験、受講態度、小テスト、その他で、総合的に評価する。学期末試験を60パーセント、小テストその他を40パーセントの割合で評価する予定である。ただし、これはあくまでも目安とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
特に次のことを重視して評価する。
・哲学の基本用語が正確に使えるようになったか。
・ものごとを哲学の観点からも捉えられる力が獲得されたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

使用しない。

参考書

瀬戸一夫著『無根拠への挑戦』　（勁草書房）　３，３００円
瀬戸一夫著『ムーミンの哲学』　（勁草書房）　２，８００円
瀬戸一夫著『科学的思考とは何だろうか』　（ちくま新書）　７４０円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	倫理学の基礎 <1>		
教員名	的場　哲朗		
科目ナンバー	1101471020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

前期に読んだニーチェの『ツァラトゥストラはこう言った』の下巻を読み、善く生きるとはどういうことなのかという倫理学の、いや、わたしたちの生の根本問題についてさらに皆さんと一緒に考えてみたいと思っています。授業の最初にニーチェの思想の紹介や上巻部分のまとめをするので、後期に初めて受講する学生も歓待します。ツァラトゥストラの発する、「真理といえるものはない。何をしても許される」や「これが人生というものか？よし！それならもう一度！」などの肯定的な言葉や、永劫回帰の思想には結構元気づけられます。

授業は、倫理学の概説ではなく、むしろ一冊の古典書を深く味わうという形で進めます。最初の数回、ニーチェ思想や上巻部分のまとめを行い、その後テキストから重要な箇所を選択して読みます。大人数の講義となるかと思いますが、皆さんの意見を取り入れながら、対話形式の授業を目指します。

到達目標

・現代思想に大きな影響を与えたニーチェの思想を理解することができる。
・伝統的な倫理規範が簡単に通用しなくなった現代という社会の中でいかに生きるべきかという人生問題を考える足掛りを得ることができる。
・思想書を読む面白さを体験することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、質問用紙の提出の仕方、予習復習の仕方などを説明する。 ・ニーチェの生涯と思想について説明する。 ・テキストの上巻部分の説明。	
	予習　シラバスを読む。	30
第2回	『ツァラトゥストラはこう言った(上)』の概略 ・三段の変化 ・「読むことと書くこと」 ・「市場の蝿」などの紹介	
	予習　ニーチェの生涯や思想について調べてみる。 復習　授業で紹介した箇所を読む。	90
第3回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「幻影と謎」 ・「これが生きるということであったか？よし！もう一度！」 ・円環する時間	
	予習　「幻影と謎」を読む 復習　時間論について調べる。	90

第4回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「小さくする美徳」 ・現代人は何でも小さくする ・中庸とは一体何か？	
	予習　「小さくする美徳」を読む 復習　現代文化について考えてみる。	60
第5回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「通過」 ・大都会とは何か ・新聞とは何か	
	予習　「通過」を読む 復習　大都会の「功罪」について考えてみよう	60
第6回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「三つの徳」 ・肉欲・支配欲・我欲 ・贈り与える徳とは	
	予習　「三つの徳」を読む 復習　「欲」について調べる。	90
第7回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「古い石の板と新しい石の板」 ・伝統的な規範と新しい「規範」 ・善と悪とは何か	
	予習　「古い石の板と新しい石の板」を読む 復習　因習や社会規範について調べる。超人の生き方とはどのようなものか？	60
第8回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「密の供え物」 ・君は君らしくなれ！ ・「高山に登って、魚を釣った人間がいただろうか？」	
	予習　「密の供え物」を読む。 復習　自分とは何であろうか、考えてみよう。	60
第9回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「退職」「最も醜い人間」 ・神はどのように死んだか	
	予習　「退職」と「最も醜い人間」を読む 復習　神とは何か？宗教とは何であろうか？	120

第10回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「影」 ・真理などは存在しない	
	予習　「影」を読む 復習　「真理」とは何かを考えてみよう。	60
第11回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「正午」 ・「世界は完全だ！」	
	予習　「正午」を読む 復習　世界とは何だろうか。	60
第12回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「ましな人間について」（1） ・「誠実」とは何か？	
	予習　「ましな人間を読む」 復習　誠実に生きるとはどのようなことか	60
第13回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「ましな人間について」（2） ・賤民とは ・学者とは	
	予習　「ましな人間を読む」 復習　高らかに笑うとはどのようなことなのだろうか	60
第14回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「酔歌」 ・人生の肯定とは	
	予習　「酔歌」を読む 復習　自分の人生を肯定すること・否定することについて考えてみよう。	60
第15回	ニーチェ『ツァラトゥストラはこう言った』と現代思想――ニヒリズムに生きるとは ・授業の総括 ・元気が出る生き方とは	
	予習　講義全体を振り返ってみよう 復習　自分にとって超人の思想はどのような意味を持つか考えてみよう	90

授業の方法

講義で受講生も多いですが、しかし、テキストを拾い読みしながら、基本的に対話形式で授業を進めたいと思います。毎回授業後に、その日の講義内容について質問・感想・要望・批判などを書いてもらい、次の授業の冒頭で紹介、その質問に答えながら、講義を進めて行きます。ですから、奮って質問用紙を提出して下さい。

成績評価の方法

学期末試験(100%)で評価します。試験の形式は空所を埋めるもので、授業の内容から出題します(全十問)。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①ニーチェの基本用語について理解し、説明できる。
②ニーチェの思想を表現している文章内容について理解し、説明できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

ニーチェ『ツァラトゥストラはこう言った(下)』岩波文庫ISBN4-00-336393-0

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	倫理学の基礎 ＜2＞		
教員名	伊藤　由希子		
科目ナンバー	1601071002	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

私は何を背負って生まれてきたのか――『日本霊異記』から考える

結婚当日の夜、美しい花嫁の寝室から「痛い痛い」という声が聞こえ、朝になると、花嫁は頭と一本の指以外食べられてしまっており、花婿の姿はなくなっていた。花嫁は花婿の姿をした鬼に食われてしまったのである――。

平安時代初期に、仏教のいわゆる〈因果応報〉の教えをひとびとに広めるために書かれた『日本霊異記』は、ごくごく短い物語をたくさんあつめた書物であるが、そこには、このような不可思議が出来事が数多く記されている。一方、現代のわたしたちは、多くの知識やさまざまな情報に囲まれているが、世界にはあいかわらず知識や科学では説明のつかないものごとも多い。なかでも、「なぜ私はこのような姿かたちなのか」「なぜ私はこのようなことをしてしまったのだろうか」「なぜ私はこのような目にあわなければならないのだろうか」等々、「この私」が「この私」であることの理由は、突きつめて考えれば考えるほどわからなくなってくる。

この講義では、わたしたち自身の問題でもある「この私とは何か」「私は何を背負って生まれてきたのか」といった問題を、同じ問題を問うた『日本霊異記』の説話を味わうかたちでじっくり考えていきます。

また、それと並行して、仏教という外来思想が日本においてどのように受け容れられてきたのか、日本という場の秩序にとって「天皇」とはどのような存在なのか、といった日本の倫理思想に関する問題も考えていきます。

到達目標

・過去のひとびとの思想を見つめなおすことで、それをもとに現代のわたしたちの生き方・あり方を考える基礎を身につける。
・日本における神やその他土着の信仰と、仏教という外来思想との関係を学ぶ。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像・進め方等について ・日本で初めての仏教説話集『日本霊異記』の解説	
	【予習】シラバスを読み、講義内容を把握しておく。 【復習】授業の全体像を確認する。	【予習】30 【復習】30
第2回	人間とは何か ・雷や狐と人間のあいだに生まれた子どもとはどのような存在か ・仏教の因果応報について	
	【予習】指定した話を読んでおく。 【復習】講義内容を確認し、テキストの該当箇所で復習する。	【予習】20 【復習】40
第3回	日本の神とはどのような存在か ・『古事記』『日本書紀』にあらわれた神々	
	【復習】講義内容を確認する。	【復習】60

第4回	なぜ聖人は泣きわめく子を川に捨てさせたのか ・聖人とはどのような存在か（１）	
	【予習】指定した話を読んでおく。 【復習】講義内容を確認し、テキストの該当箇所で復習する。	【予習】20 【復習】40
第5回	聖徳太子には何が見えていたのか ・聖人とはどのような存在か（２）	
	【予習】指定した話を読んでおく。 【復習】講義内容を確認し、テキストの該当箇所で復習する。	【予習】20 【復習】40
第6回	なぜ天女の像は僧侶と交わったのか ・仏像とは何か	
	【予習】指定した話を読んでおく。 【復習】講義内容を確認し、テキストの該当箇所で復習する。	【予習】20 【復習】40
第7回	なぜ仏像が「痛い」と叫ぶのか ・仏像に祈るということの意味	
	【予習】指定した話を読んでおく。 【復習】講義内容を確認し、テキストの該当箇所で復習する。	【予習】20 【復習】40
第8回	人の前世を見通す釈迦 ・仏とはどのような存在か	
	【予習】指定した話を読んでおく。 【復習】講義内容を確認し、テキストの該当箇所で復習する。	【予習】20 【復習】40
第9回	なぜ男は牛に生まれ変わったのか ・人は何を背負って生まれてくるのか	
	【予習】指定した話を読んでおく。 【復習】講義内容を確認し、テキストの該当箇所で復習する。	【予習】20 【復習】40

第10回	なぜ天皇は恥じたのか ・「恥じる」ことの意味	
	【予習】指定した話を読んでおく。 【復習】講義内容を確認し、テキストの該当箇所で復習する。	【予習】20 【復習】40
第11回	雷をつかまえる話 ・仏教と天皇と日本という場（１）	
	【予習】指定した話を読んでおく。 【復習】講義内容を確認し、テキストの該当箇所で復習する。	【予習】20 【復習】40
第12回	天皇とはどのような存在か ・仏教と天皇と日本という場（２）	
	【予習】指定した話を読んでおく。 【復習】講義内容を確認し、テキストの該当箇所で復習する。	【予習】20 【復習】40
第13回	なぜ女は鬼に食われなければならなかったのか ・災いと因果応報	
	【予習】指定した説話を読んでおく。 【復習】講義内容を確認し、テキストの該当箇所で復習する。レポート作成の準備をしておく。	【予習】20 【復習】100
第14回	私は何を背負って生まれてきたのか ・この時代のこの国に、「この私」として生まれてきたことを考える	
	【予習】指定した説話を読んでおく。 【復習】講義内容を確認し、テキストの該当箇所で復習する。レポートを作成する。	【予習】20 【復習】100
第15回	授業のまとめとレポート提出	
	【予習】レポートを作成する。 【復習】講義内容を確認し、テキストの該当箇所で復習する。	【予習】90 【復習】30

授業の方法

・基本は講義形式であるが、受講者には事前にその週にあつかう説話を読んできてもらい（日本語訳を付したプリントを毎回配付する）、その感想や考え等も聴きながら進めていく。
・学期末レポートでは、講義内容の理解度と、過去の思想を自分自身の課題として受けとめ、考えられているかを確認する。
・授業の進捗状況や受講者の反応・希望等を見ながら、内容を適宜変更していく場合がある。

成績評価の方法

学期末レポート（90%。分量は自由）、平常点（10%。授業時間内で書いてもらうミニレポートや授業への取り組み方）を基本とするが、プラスに評価できる要素はさらに加点していく。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
平常では過去のひとびとの思想を自分自身の問題としてとらえ、それらと向き合う姿勢を、学期末レポートでは、この講義を通して考えたこと、感じたことを論理的に説明することができているかを重視して評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。現代語訳を付すので古文が苦手な人も、短い話ばかりなので集中力に自信がない人も、また、不思議な物語がほとんどなので思想や難しい話に苦手意識を持っている人も、臆さずに参加してください。

テキスト

『仏と天皇と「日本国」』伊藤由希子著、ぺりかん社、ISBN：978-4-8315-1369-4。これ以外に、毎回レジュメと、次回にあつかう話の原文・現代語訳を配布したものを使って講義を進める。

参考書

講義中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	倫理学の基礎 <3>		
教員名	的場　哲朗		
科目ナンバー	1601071002	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

古来倫理学のテーマは、善く生きることだと言われます。しかし、現実には、そう簡単に、善く生きることが実現するはずはありません。現実の生は不条理や矛盾に満ちていますし、それ以上に、深いからです。そんな、底なしの深い現実を哲学者ニーチェは見つめて、「おお生よ！わたしはさきごろ、おまえの眼をのぞき込んだ。すると、わたしは底知れぬ深みの中に沈んでいくかと思われた」（「舞踏の歌」）と述べています。先の見えない現代世界をどのように生きるべきか。彼の主著『ツァラトゥストラはこう言った』を手掛かりにして、善く生きるとはどういうことなのかという倫理学の、いや、わたしたちの生の根本問題について皆さんと一緒に考えてみたいです。

授業は、倫理学の概説ではなく、むしろ一冊の古典書を深く味わうという形で進めます。最初の数回、ニーチェの生涯や思想を紹介し、その後テキストから重要な箇所を選択して読みます。大人数の講義となるかと思いますが、皆さんの意見を取り入れながら、対話形式の授業を目指します。

到達目標

・現代思想に大きな影響を与えたニーチェの思想を理解することができる。
・伝統的な倫理規範が簡単に通用しなくなった現代という社会の中でいかに生きるべきかという人生問題を考える足掛りを得ることができる。
・思想書を読む面白さを体験することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス ・授業の進め方・内容、質問用紙の提出の仕方、予習復習の仕方などを説明する。 ・倫理学はどのような学問なのかを説明し、その中でニーチェはどのような意味を持つのかを説明する。	
	予習　シラバスを読み、倫理学とはどのような学問なのかをすこし調べてみる。	30分
第2回	ニーチェの生涯と思想（1） ・早熟の天才ニーチェの生涯と思想について説明。 ・ニーチェの作曲した曲を聴く。	
	予習　ニーチェの天才ぶりについて調べてみよう。 復習　年表と地図を使ってニーチェの生涯について整理する。	60
第3回	ニーチェの生涯と思想（２） ・大学を辞め、放浪生活を送った中期のニーチェの思想を紹介。 ・『悲劇の誕生』の内容を紹介する。 ・アポロン的なものとディオニュソス的なものと知的ソクラテス主義 ・ヨーロッパは病気か	
	予習　最初の著作『悲劇の誕生』について調べてみよう。 復習　ニーチェの生涯を整理し、アポロン的なものとディオニュソス的なものと知的ソクラテス主義について調べる	90

第4回	ニーチェの生涯と思想（3） ・病気に倒れるまでの晩年の生涯と思想を紹介する ・『道徳の系譜』と『善悪の彼岸』の内容を紹介する。 ・「神は死んだ」、ニヒリズム、貴族道徳と奴隷道徳、ルサンチマン、畜群、価値の転倒などを紹介。	
	晩年のニーチェについて整理する。 基本的な用語につて調べる。	90
第5回	ニーチェの主著『ツァラトゥストラはこう言った』は不思議な著作 ・10日で執筆された ・独特の文体と構成――哲学なのか文学なのか。 ・ツァラトゥストラとは何か？	
	予習　『ツァラトゥストラはこう言った』の序文を読んでみよう。 復習　ツァラトゥストラの言葉、とくに「超人」とは何かを調べる。	60
第6回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――末人の世界とは？ 序説の「５」を読む。	
	予習　序説を読む。 復習　序説の「５」の末人と現代社会を比較してみる。	60
第7回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――三段の変化 ・人生における駱駝・獅子・幼子とは何か？	
	予習　ニーチェの三つの変化を読む。 復習　三つの変化を整理する。特に、「幼子」とは何か。その他の思想家の述べる、人生の成長過程について調べてみる。	90
第8回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――読むことと書くこと ・本を血で書き、血で読むとはどういうことか ・理解するとはどういうことか	
	予習　「読むことと書くこと」を読む。 復習　「読むこと」、「解釈すること」、「理解すること」について調べる。	60
第9回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「新しい偶像」 ・「近代国家」とは何か ・「教養」や「マスコミ」とは何か	
	予習　「新しい偶像」を読む。 復習　近代国家やマスコミや教養とは何なのかを整理する。	60

第10回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――市場の蠅 ・「市場の蠅」とは何か ・マス・メディアや世間に振り回されていないか。	
	復習　「市場の蠅」を読む。 予習　現代のマス・メディアや世間というものを調べてみる。	60
第11回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「友」 ・友人とは何か ・孤独とは何か	
	予習　「友」を読む 復習　真の友人とはどんなものなのだろうか。孤独とは何か。調べてみる。	60
第12回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「老いた女と若い女」 ・女性とは何か ・男性とは何か	
	予習　「老いた女と若い女」を読む 復習　ニーチェの女性論を現代の女性論と比較してみよう。	60
第13回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「賤民」 ・「賤民」とは何か ・ニーチェはなぜそのようなことを言うのか。	
	予習　「賤民」を読む 復習　大衆社会について調べる。	60
第14回	『ツァラトゥストラはこう言った』を読む――「毒ぐもタランテラ」 ・「タランテラ」とは何か ・「人間の平等」とは何か	
	予習　毒ぐもタランテラ」を読む 復習　人間の平等とは何だろうか。	60
第15回	ニーチェと現代――ニヒリズムに生きるとは？ ・倫理学におけるニーチェ思想の意味を考える ・超人とは何か	
	予習　これまで学んだことを振り返る。 復習　自分にとってニーチェの超人思想はどのような意味を持つかを考えてみよう。	30

授業の方法

講義で受講生も多いですが、しかし、テキストを拾い読みしながら、基本的に対話形式で授業を進めたいと思います。毎回授業後に、その日の講義内容について質問・感想・要望・批判などを書いてもらい、次の授業の冒頭で紹介、その質問に答えながら、講義を進めて行きます。ですから、奮って質問用紙を提出して下さい。

成績評価の方法

学年末試験(100%)で評価します。試験の形式は空所補充問題です(全十問)。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①ニーチェの基本用語について理解し、説明できる。
②ニーチェの思想を表現している文章内容について理解し、説明できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

ニーチェ『ツァラトゥストラはこう言った(上)』岩波文庫 ISBN4-00-336392-2

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	文学への招待 ＜2＞		
教員名	太西　雅一郎		
科目ナンバー	1101471050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

到達目標

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回		
第2回		
第3回		

第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		

第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業の方法

成績評価の方法

成績評価の基準

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

参考書

質問・相談方法等（オフィス・アワー）

科目名	文学への招待 ＜3＞		
教員名	原　善		
科目ナンバー	1101071005	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

最も現代的な超人気作家である村上春樹の超短篇の幾つかを読み味わう。
　とうてい長篇作品を取り扱う時間がないなかで、長篇のテーマとも相通じる超短篇の読解を通して、村上春樹文学の本質に迫りつつ、文学の魅力や、各作品がテーマとする現代の様々な問題についても考える。
　春樹作品の魅力を明らかにするためにも、他作家の作品（例えば秦恒平「加賀少納言」、Ｍ・エンデ「はてしない物語」、江戸川乱歩「人間椅子」、葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」等）と読み比べることもしてみたい。

到達目標

村上春樹の超短篇の魅力を存分に味わうこと、そのことで村上春樹の文学の本質に迫ること、をとりあえずの目標にしつつ、文学なるものの魅力や本質への理解も目指してもらいたい。
　〈対照読解〉という方法の中で、相異なる２つのものを比較して共通点・相違点を炙り出すことで固定的な物の見方を斥ける、相対的・総体的な視点も養いたい。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	１　ガイダンス。村上春樹の文学の概説。 「夜中の汽笛あるいは物語の効用について」読解	
	【予習】シラバスをよく読んで、授業の進め方を理解しておく。また、これまで読んだことのある村上春樹作品の内容を思い出しておく。 【復習】村上春樹作品の本質を他の作品などで確認しておく。	30分
第2回	「四月の晴れた朝に100%の女の子に出会うことについて」の読解と映画鑑賞 （以下順不同）	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	30分
第3回	「鏡の中の夕焼け」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	30分

第4回	「鏡」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	30分
第5回	「夜のくもざる」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	30分
第6回	「ＦＵＮ、ＦＵＮ、ＦＵＮ」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	30分
第7回	「1963／1982のイパネマ娘」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	30分
第8回	「スパゲティー工場の秘密」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	30分
第9回	「グッド・ニュース」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	30分

第10回	「ビール」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	30分
第11回	「とんがり焼の盛衰」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	30分
第12回	「バースデー・ガール」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	30分
第13回	「パン屋襲撃」の読解と映画鑑賞	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	30分
第14回	「カティサーク自身のための広告」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	30分
第15回	「ジョン・アプダイクを読むための最良の場所」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	30分

授業の方法

基本的にはパワーポイント（あるいは電子紙芝居？）での講義形式を中心とするが、その読みを相対化すべく各自の読みを対照させる形の、積極的な参加を促していきたい。
　他ジャンルとの対照という意味でも、春樹作品を映像化したものの鑑賞も取り入れて、原作と映像作品とを対照させながら、原作の問題を透かし出してみることも行ないたい。

成績評価の方法

受講者数によっては学期末にレポートを課すこともありうるが、基本的には毎授業時に提出した小課題の点数の合計という平常点のみで評価を行なう予定である。

成績評価の基準

　成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にないが、当該作品のテーマと対比できるような作品（文学に限らない映画や漫画などでも）を頭の中から呼び起こせるように普段からの幅広い読書（をはじめとする文化享受）を行なっておくことを希望する。

テキスト

授業内でプリントを配布する。もっと早目の準備のために収録書を購入するなら、『カンガルー日和』（講談社文庫）『夜のくもざる』（新潮文庫）『象工場のハッピーエンド』（新潮文庫）などに収められている。

参考書

参考書：『村上春樹作品研究事典改訂版』　村上春樹研究会編　鼎書房　4，000円
　　『村上春樹がわかる。』　アエラムック　朝日新聞社　1，200円
　　『村上春樹超短篇小説案内』　波瀬蘭著　学研パブリッシング　1，300円
　　『ゼロからわかる村上春樹』　学研ムック　　学研パブリッシング　980円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

質問等は授業前・授業後に受け付けるが、電子メールでも随時受け付けている。

科目名	心理学の基礎 ＜2＞		
教員名	清水　裕		
科目ナンバー	1601071003	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

心理学の各研究領域を紹介するとともに、その領域において最も基礎となる事柄を中心に講述する。そのため授業内容は多岐にわたるが、心理学の初学者にわかりやすいよう、具体的な事例を紹介しながら授業をすすめていく。また、理解の助けになるよう、テキストのほか視聴覚教材も多用する予定である。

到達目標

・心理学の基礎的な知識を習得する。
・個人内や個人間に生じる認知や行動を心理学的な視点から説明することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	.導入：心理学の研究領域　−心理学が研究対象としている各領域において、どのような研究が行われているのか− 心理学の研究対象・研究内容は多岐にわたるため、概要を紹介する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。ノートを準備する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	60
第2回	知覚・認知１　　錯視図形を用いて、ヒトが環境を認識するメカニズムについて解説する。	
	【予習】テキストの１章　知覚　を読み、事前に授業の概要を把握しておく。 【復習】授業内容を再度見直し、わからないところがないか確認する。	90
第3回	知覚・認知２　　運動の知覚など、様々な知覚現象について解説する。	
	【予習】配付されたプリントの内容を確認し、授業内容を把握しておく。 【復習】授業内容を再度見直し、わからないところがないか確認する。	90

第4回	大脳の機能局在　　脳のどの場所がどのような働きをしているのか。また、神経伝達や脳波などについても解説する。	
	【予習】テキストの２章　認知　を読み、事前に授業の概要を把握しておく。 【復習】授業内容を再度見直し、わからないところがないか確認する。	90
第5回	記憶と忘却１　　記憶の種類と記憶のメカニズムについて、簡単な実験もを行いながら解説する。	
	【予習】テキストの４章　記憶・思考　を読み、事前に授業の概要を把握しておく。 【復習】授業内容を再度見直し、わからないところがないか確認する。	90
第6回	記憶と忘却２　　忘却とはどのようなことか、忘却のメカニズムについて解説する。	
	【予習】配付されたプリントを読み、事前に授業の概要を把握しておく。 【復習】授業内容を再度見直し、わからないところがないか確認する。	90
第7回	学習１　　古典的条件づけを中心に学習とその消去のメカニズムについて解説する。	
	【予習】テキストの３章　学習　を読み、事前に授業の概要を把握しておく。 【復習】授業内容を再度見直し、わからないところがないか確認する。	90
第8回	学習２　　オペラント条件づけを中心に学習と消去のメカニズムを解説する。	
	【予習】配付されたプリントを読み、事前に授業の概要を把握しておく。 【復習】授業内容を再度見直し、わからないところがないか確認する。	90
第9回	パーソナリティ１　　パーソナリティとはどのようなものか、その考え方と理論に関して解説する。	
	【予習】テキストの７章　無意識、パーソナリティと心理検査　を読み、事前に授業の概要を把握しておく。 【復習】授業内容を再度見直し、わからないところがないか確認する。	90

第10回	パーソナリティ２　　パーソナリティの測定方法に関して、心理テストを中心に解説する。	
	【予習】配付されたプリントを読み、事前に授業の概要を把握しておく。 【復習】授業内容を再度見直し、わからないところがないか確認する。	90
第11回	適応・不適応１　　精神疾患と心理的不適応に関して解説する。	
	【予習】テキストの８章　適応とこころの健康　を読み、事前に授業の概要を把握しておく。 【復習】授業内容を再度見直し、わからないところがないか確認する。	90
第12回	適応・不適応２　　心理療法に関して、カウンセリングを中心に解説する。	
	【予習】配付されたプリントを読み、事前に授業の概要を把握しておく。 【復習】授業内容を再度見直し、わからないところがないか確認する。	90
第13回	対人関係　　対人関係の進展に影響する要因に関して解説する。	
	【予習】テキストの９章　対人関係　を読み、事前に授業の概要を把握しておく。 【復習】授業内容を再度見直し、わからないところがないか確認する。	90
第14回	対人行動　　同調や集団思考を中心に他者からの影響について解説する。	
	【予習】テキストの１０章　集団と社会　を読み、事前に授業の概要を把握しておく。 【復習】授業内容を再度見直し、わからないところがないか確認する。	90
第15回	まとめ	
	【予習】これまでの授業内容を見直し、理解していないところがないか、再度確認しておく。 【復習】授業内容を再度見直し、わからないところがないか確認する。	90

授業の方法

講義形式であるが、テキストのほかプリントや各種の視聴覚機器も使用しながら進める。
板書も多用するが、板書のみならず、口頭での説明もノートに記載すること。

成績評価の方法

定期試験の成績(80%)と出席状況および小レポートなどの課題提出による平常点(20%)を合わせて評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に予備知識は必要としない。

テキスト

『心理学ナヴィゲータ　Ver.2』　神田義浩ほか(著)　北大路書房　2，500円＋税
ISBN: 978-4-7628-2749-5

参考書

授業時に適宜紹介する予定。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	心理学の基礎 ＜3＞		
教員名	林　潤一郎		
科目ナンバー	1701071003	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

心理学は、これまで得られたデータや事実をもとにして、こころの性質や働きを科学的に探究する学問である。心理学の代表的な研究対象は、知覚、記憶、学習、発達、性格、対人関係などを含み、多様な領域に広がっている。

そこで、本講義では、こうした代表的な研究領域を概説するとともに、それぞれの研究領域において基礎となる知見を紹介することを目的とする。

なお、心理学を初めて学ぶという人たちにも理解しやすいよう、体験ワークを実施したり、なるべく身近で具体性に富むエピソード等を紹介しながら授業を進める予定である。

また、授業の進捗や受講生の希望および担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。

到達目標

心理学の初歩に位置付く本授業では、以下の目標が達成されることを期待する。
（１）心理学（および科学）の基本的な知識や考え方を身につけること。
（２）自己理解および他者理解のために、心理学の知識を活用できるようになること（およびその限定性を知ること）。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション ・授業の内容、進め方、評価、予習・復習の仕方等を知る。	
	【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。	【復習】60
第2回	心理学の歴史 ・心理学の発展の歴史を学び、心理学の現状を知る。 ・人の心の動きがどのように解明されようとしてきたかについて学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第3回	心理学の方法 ・心理学の研究法を学ぶ。 ・心の動きや心のメカニズムについて科学的に研究（検討）するための発想と方法論を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50

第4回	脳のはたらき ・心と脳の関係について学ぶ	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第5回	感覚と知覚 ・人が世界をどのように体験し、認識するのかについて学ぶ。 ・モノの見え方（視覚）の特徴と錯覚について理解する。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第6回	学習 ・経験によって人の行動はどのように変わるのかを学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第7回	記憶 ・人はどのようにモノを覚え、忘れるのかを知る。 ・記憶の種類や特徴を知る。 ・記憶法について学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第8回	思考と言語 ・心の働きにおけることばの獲得とその役割を知る。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第9回	第9回　動機づけ ・人が行動を起こすメカニズムを学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50

第10回	性格（１）　理論編 ・性格を理解するための理論を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第11回	性格（２）　実践編 ・性格を把握、測定するための方法を学び、体験する。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第12回	性格（３）　様々な性格理論 ・性格を把握するための多様な理論や枠組みを学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第13回	発達心理学 ・人の心がどのように発達するのかを学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第14回	社会心理学 ・人間関係・対人関係・組織における人の心の動きについて学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第15回	授業のまとめ	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50

授業の方法

授業は講義中心に進める。授業において毎回、レスポンスシートの提出を求める。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

なお、レスポンスシート、期末テストの狙いは以下のとおりである。

・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる（なお、必要に応じて、レスポンスシートの内容に対するフィードバックを次の回の講義で実施予定である）。

・期末テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

また、出欠確認のためにハンディターミナルカードリーダーを使用する可能性があるため、学生証は必ず持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点（40%）、期末テスト（60%）、により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その到達度により評価する。

（１）心理学（および科学）の基本的な知識や考え方を身につけること。

（２）自己理解および他者理解のために、心理学の知識を活用できるようになること（およびその限定性を知ること）。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：自己理解の心理学／こころの健康と臨床／脳科学と心

テキスト

特になし。なお、各回のレジュメは事前にSeikei Portalにアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。

参考書

特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	自己理解の心理学 ＜1＞		
教員名	平山　敦子		
科目ナンバー	1101471040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

「自己理解」とは、その人の生き方やアイデンティティ、さらにはメンタルヘルスにかかわる重要なキー概念である。しかし一方で、私たちは自身の力だけで自己理解を深めていくのは非常に難しいという側面も同時に持っている。

本講義は、心理学という科学的に「こころ」を探求する学問をツールとして、青年期の皆さんが自己理解を深めるのに役に立つと思われる知見を学ぶということを第一に目指している。また、第二に知識の獲得と並行して、心理検査等の用いた自己理解・自己分析のワークを重視する予定である。本講義によって、受講生がこれまでの自分を振りかえり、今の自分を見つめ、これからの自分を考える機会を提供できればと考えている。

到達目標

１．自己理解に有用だと思われる心理学諸領域の基礎的知見を学ぶこと
２．心理検査等のワークで自己理解を深めること
３．自己分析を踏まえ、普段の生活や今後の人生に役立ちそうな知見を見出し、それらを活かしていく

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション	
	【予習・復習】シラバスを読んで授業の進め方を理解しておく	30
第2回	青年期から自己を振り返る(1)-ライフサイクル理論	
	【予習】ライフサイクルとは何か、調べておく 【復習】ライフサイクルにおける青年期の位置づけについて理解を深める	60
第3回	青年期から自己を振り返る(2) -自己概念，自尊感情，自己評価	
	【予習】自尊感情が高いこととメンタルヘルスの関連について自分なりに考えておく 【復習】重要なキーワードの理解を深める	60

第4回	青年期から自己を振り返る(3)-人間関係の変遷	
	【予習】自分自身の人間関係の変遷について考えてみる 【復習】重要なキーワードの理解を深める	60
第5回	青年期から自己を振り返る(4)-学生から社会人への過渡期として	
	【予習】自分にとって「社会人」とは何か考える 【復習】現代の青年にとっての社会人の特徴を理解する	60
第6回	自己の性格を知る-性格理論，性格検査	
	【予習】人のパーソナリティを規定するものは何か考えておく 【復習】性格理論についての理解を深める	60
第7回	児童および青年期にみられる心の問題から自己を振り返る(1)-発達障害	
	【予習】発達障害という言葉について調べる 【復習】授業で紹介した発達障害の特徴とケアについて理解を深める	60
第8回	児童および青年期にみられる心の問題から自己を振り返る(2)-精神疾患	
	【予習】厚生労働省HPに目を通しておく {http://www.mhlw.go.jp/kokoro/know/disease.html} 【復習】授業で紹介した精神疾患とそのケアについての理解を深める	90
第9回	自己が不安を感じるとき(1)-不安についての心理学	
	【予習】不安とはどういうこころの状態が考えておく 【復習】重要なキーワードの理解を深める	60

第10回	自己が不安を感じるとき(2)-不安についての心理学	
	【予習】不安が高まる状況について具体的に例を挙げて考えておく 【復習】重要なキーワードについて理解を深める	60
第11回	自己が憂うつを感じるとき(1)-抑うつについての心理学	
	【予習】抑うつの定義について自分なりに考えておく 【復習】認知行動療法における抑うつの考え方についての理解を深める	60
第12回	自己が憂うつを感じるとき(2)-抑うつについての心理学	
	【予習】どのような時に抑うつが生じやすいかいくつか例を挙げて考えておく 【復習】精神分析理論における抑うつについて理解を深める	60
第13回	自己を支える(1)-不安・憂うつ・ストレスを軽減する方法・上手に付き合う方法	
	【予習】自分なりのストレス対処法を挙げておく 【復習】心理学的な不安緩和法について理解を深める	60
第14回	自己を支える(2)-不安・憂うつ・ストレスを軽減する方法・上手に付き合う方法	
	【予習】心理療法（カウンセリング）に対するイメージを箇条書きで書き出しておく 【復習】授業で紹介した様々なオリエンテーションの心理療法についての理解を深める	60
第15回	まとめ	
	【予習】これまで配布した授業の資料に目を通しておく 【復習】重要なキーワードについて理解を深める	60

授業の方法

講義中心ではあるが、授業の中で心理テスト等の実習や作業を行う。また、これらの作業を通じて行った自己分析の結果をレスポンスシートにまとめ、毎回提出する。

成績評価の方法

授業中の取り組み10%、レスポンスシート10%、テスト80%による総合評価

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：心理学の基礎・心の健康と臨床
また、教員免許取得希望の学生は履修することが望ましい。

テキスト

なし。各回のレジュメを授業で配布する予定である。

参考書

授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	自己理解の心理学 ＜2＞		
教員名	林　潤一郎		
科目ナンバー	1101471040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

心理学とは、これまで得られたデータや事実をもとにして、こころの性質や働きを科学的に探究する学問である。心理学の専門領域は、認知心理学、学習心理学、発達心理学、健康心理学、教育心理学、臨床心理学などに分けれ、現在も、それぞれの領域で新しい知見が蓄積されている。

この授業では、これまで得られた心理学の研究知見の中から「青年期を生きる大学生が自分自身を知るために役立つと思われるもの」に焦点を当て、紹介する。前半では、主に青年期に関する心理学の諸理論を学ぶ。後半では、主にメンタルヘルスに関する心理学の諸理論を学ぶ。さらに、こうした心理学の知見とあわせて、大学生の発達課題、大学生の過去とこれから（発達臨床心理学）についての見通し、 メンタルヘルスの問題とその対処（精神医学や臨床心理学）、等について、担当教員の臨床心理士としての経験に基づく情報提供も織り交ぜながら講義する。

また、本講義では、知識の獲得と並行して、心理テスト等の用いた自己理解・自己分析のワークを重視する予定である。本講義によって、受講生がこれまでの自分を振りかえり、今の自分を見つめ、これからの自分を考える機会を提供できればと考えている。

なお、授業の進捗状況および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。

到達目標

（１）自己理解に有用だと思われる心理学諸領域の基礎的知見を学ぶこと。
（２）心理テスト等のワークで自己理解を深めること。
（３）心理学の知見に基づく自己分析を通して、自分の普段の生活や今後の人生に役立ちそうな知見を見出し、それらを活かしていくこと。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	第1回 オリエンテーション ・授業の内容、進め方、評価、予習・復習の仕方等を知る。 ・心理学の基本的発想について学ぶ。	
	【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。	【復習】60
第2回	青年期に関する諸理論から自分自身を振り返る（１） ・青年期意識、認知発達理論、ライフサイクル理論を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第3回	青年期に関する諸理論から自分自身を振り返る（２） ・青年期意識、認知発達理論、ライフサイクル理論を学び、そこから自分自身の特徴を振り返る（続き）。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50

第4回	青年期に関する諸理論から自分自身を振り返る（３） ・自己概念、自尊感情、自己評価を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第5回	青年期に関する諸理論から自分自身を振り返る（４） ・人間関係（親子関係、友人関係や恋愛関係）の一般的変遷とその多様性を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第6回	青年期に関する諸理論から自分自身を振り返る（５） ・人間関係（親子関係、友人関係や恋愛関係）の一般的変遷とその多様性を学ぶ（続き）。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第7回	青年期に関する諸理論から自分自身を振り返る（６） ・性格理論、性格検査を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第8回	メンタルヘルスに関する諸理論から自分自身を振り返る（１） ・児童期および青年期にみられやすい様々な心の問題を学ぶ（続き）。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第9回	メンタルヘルスに関する諸理論から自分自身を振り返る（２） ・児童期および青年期にみられやすい様々な心の問題を学ぶ（続き）。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50

第10回	メンタルヘルスに関する諸理論から自分自身を振り返る（３） ・不安にについての心理学を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第11回	メンタルヘルスに関する諸理論から自分自身を振り返る（４） ・抑うつ（憂うつ）についての心理学を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第12回	メンタルヘルスに関する諸理論から自分自身を振り返る（５） ・ストレスについての心理学を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第13回	メンタルヘルスに関する諸理論から自分自身を振り返る（６） ・不安、抑うつ、ストレスを軽減する方法や上手に付き合う方法を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第14回	メンタルヘルスに関する諸理論から自分自身を振り返る（７） ・不安、抑うつ、ストレスを軽減する方法や上手に付き合う方法を学ぶ（続き）。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第15回	授業のまとめ	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【復習】60

授業の方法

授業は講義中心に進めるが、授業の中で心理テスト等の実習や作業を行う。また、これらの作業を通じて行った自己分析の結果や感想をレスポンスシートにまとめ、毎回提出する。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

なお、レスポンスシート、期末テストの狙いは以下のとおりである。

・レスポンスシート：各授業に参加して（心理テスト等の結果も含めて）、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる（なお、必要に応じて、レスポンスシートの内容に対するフィードバックを次の回の講義で実施予定である）。

・期末テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

また、出欠確認のためにハンディターミナルカードリーダーを使用する可能性があるため、学生証は必ず持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点（40%）、期末テスト（60%）、により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その到達度により評価する。

（１）自己理解に有用だと思われる心理学諸領域の基礎的知見を学ぶこと。

（２）心理テスト等のワークで自己理解を深めること。

（３）心理学の知見に基づく自己分析を通して、自分の普段の生活や今後の人生に役立ちそうな知見を見出し、それらを活かしていくこと。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：心理学の基礎／こころの健康と臨床／脳科学と心

また、教員免許取得希望の学生は履修することが望ましい。

テキスト

特になし。なお、各回のレジュメは事前にSeikei Portalにアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。

参考書

特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	自己理解の心理学 ＜3＞		
教員名	岩田　淳子		
科目ナンバー	1101071004	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

心理学とは、これまで得られたデータや事実をもとにして、こころの性質や働きを科学的に探究する学問である。心理学の専門領域は、認知心理学、学習心理学、発達心理学、健康心理学、教育心理学、臨床心理学などに分けれ、現在も、それぞれの領域で新しい知見が蓄積されている。

本講義は、大学生が、こころの成長、健康なこころ、他者に共感できる人間関係を身につけた大人として、社会の構成員となるための基礎づくりを目的とし、臨床心理学とその近接領域の研究知見の中から「青年期を生きるみなさんが自分自身を知るために役立つと思われるもの」に焦点を当て、紹介するものである。臨床心理学とは、なんらかの心の問題や葛藤をもつ人々に対して、広い意味での心の科学に基づく知識や技法を用いて、心理的苦悩を軽減するために心理援助を行い、それを通して問題の解決や改善を目指す実践・理論・技法について研究する学問である。

大学生の発達課題、青年期にみられるこころの問題（精神医学）、大学生の過去とこれから（発達臨床心理学）について、講師の臨床心理士としての臨床経験を織り交ぜながら講義する。こころの問題や不健康は一部の人にみられるのではなく、だれにでも起こり得る。受講生がこれまでの自分を振りかえり、今の自分を見つめ、これからの自分を考える際に役立つ、自己理解の心理学を講じたい。

到達目標

1．発達臨床心理学に基づく各発達段階の特徴と心理的危機についての基礎的知見を修得する。
2．臨床心理学・精神医学に基づく自他のこころの問題や不健康についての適切な基礎的知見を修得する。
3．知識としての学習と自分自身のこれまでの経験や心理検査等のワークを踏まえて自己理解を深める。
4.1・2の学びから、学生生活や今後の人生に役立ちそうな知見を見出し、それらを活かしていくことができる。また、適切な理解により、誤った偏見や誤解を減らす。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	イントロダクション ・授業の内容・進め方・心構えと予習・復習の仕方等を説明する。 ・大学生にとっての今－発達臨床心理学：青年期（1） 発達臨床心理学の視座から青年期を概観する。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】１０分 【復習】５０分
第2回	大学生にとっての今－発達臨床心理学：青年期（２） ・心理・社会的発達理論から青年期の諸相を知る。 ・青年期の心理的危機について考える。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】１０分 【復習】５０分
第3回	自分のこころを通して理解する「こころの問題」（ソフトな精神病理学）（１）抑うつ ・抑うつ気分、抑うつ症状、うつ病について知る。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】１０分 【復習】５０分

第4回	自分のこころを通して理解する「こころの問題」（ソフトな精神病理学）（１）抑うつ（続き） ・「うつ」の対処法と予防について学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】１０分 【復習】５０分
第5回	自分のこころを通して理解する「こころの問題」（ソフトな精神病理学）（２）不安 ・不安兆候が顕われるさまざまな状態について学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】１０分 【復習】５０分
第6回	自分のこころを通して理解する「こころの問題」（ソフトな精神病理学）（２）不安（続き） ・対人不安とその対処法、考え方について学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】１０分 【復習】５０分
第7回	自分のこころを通して理解する「こころの問題」（ソフトな精神病理学）（３）スチューデントアパシーとひきこもり ・スチューデントアパシー、大学生の不登校、ひきこもりについて知る。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】１０分 【復習】５０分
第8回	自分のこころを通して理解する「こころの問題」（ソフトな精神病理学）（４）依存・アディクション ・摂食障害、自傷行為、インターネット依存を知る。 ・依存・アディクションのメカニズムから、その対処法について考える。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】１０分 【復習】５０分
第9回	大学生にとっての「これまで」（１）乳幼児期 ・乳幼児期の発達の特徴と発達課題について学ぶ。 ・障害をもって生まれることについて考える。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】１０分 【復習】５０分

第10回	大学生にとっての「これまで」（２）児童期・思春期 ・児童期・思春期の発達の特徴と発達課題について学ぶ。 ・仲間関係の発達を知る。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】１０分 【復習】５０分
第11回	大学生にとっての「これまで」（３）子どもの心理的問題と心理療法 ・乳幼児期・児童期・思春期にあらわれやすい心理的問題と心理療法の実際について学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】１０分 【復習】５０分
第12回	大学生にとっての「これから」（１）成人期 ・親世代である成人期（特に中年期）の発達の特徴と発達課題について学ぶ。 ・中年期危機を知る。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】１０分 【復習】５０分
第13回	大学生にとっての「これから」（２）老年期 ・老年期の発達の特徴と発達課題について学ぶ。 ・老年期における心理援助について知る。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】１０分 【復習】５０分
第14回	大学生にとっての「これから」（３）家族の発達と家族療法 ・家族のライフサイクルについて学ぶ。 ・家族療法を知る。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】１０分 【復習】５０分
第15回	心理療法とカウンセリング ・心理療法・カウンセリングとは何かを学ぶ。 ・カウンセリングの実際に触れる。 ・これまでの授業のまとめ。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【復習】６０分

授業の方法

授業は　講義中心に進めるが、授業の中で心理テスト等の実習や作業を行う。これらの作業を通じて行った自己分析の結果を授業内レポートとして提出することがある。また、毎回、レスポンスシートの提出を求める。
普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。
なお、レスポンスシート、期末テストのねらいは以下のとおりである。
・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる（なお、必要に応じて、レスポンスシートの内容について次の回の講義でフィードバックする予定である。
・期末テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

成績評価の方法

授業への参加状況やレスポンスシート・授業内レポートの提出状況などの平常点（４０%）、期末テスト（６０%）、により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その到達度により評価する。
1．発達臨床心理学に基づく各発達段階の特徴と心理的危機についての基礎的知見を説明することができる。
2. 臨床心理学・精神医学に基づく自他のこころの問題や不健康についての適切な基礎的知見を説明することができる。
3. 知識としての学習と自分自身のこれまでの経験や心理検査等のワークを踏まえて自己理解を深めることができる。
4.1・2の学びから、学生生活や今後の人生に役立ちそうな知見を見出し、それらを活かしていくことができる。また、適切な理解により、誤った偏見や誤解を減らす。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：心理学の基礎・心の健康と臨床
また、教員免許取得希望の学生は履修することが望ましい。

テキスト

特に　なし。なお、各回のレジュメをアップロードするので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。

参考書

特になし。ただし、必要に応じて、　授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	現代社会と哲学		
教員名	関口　浩		
科目ナンバー	1101075101	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

私たちにとって自分の人間性あるいは個性はとても大切なもののはずです。しかしながら、現代社会のなかで私たちがそのような自分の人間性を円満に向上させてゆくことは、そう簡単なことではないようです。現代の労働者の多くが、大きな組織の一つの歯車にすぎないものになってしまう。壊れたら、いくらでも代りのあるもの、そういう個性のない部品のようなものと見なされてしまう。このようなことを、現代哲学の用語では「人間疎外」と言いますが、この講義ではこのような人間疎外の問題を中心に、今日の精神的状況に対して哲学がどのように答えうるか、ということを考えてゆきたいと思います。

到達目標

現代という時代のいちばん深いところを見ようとする根本的な思索について、それを単に知識として学習するのではなく、むしろ履修者各自が自分自身の精神のなかでそうした思想家たちの＜事柄＞を共に経験してもらいたいと思っています。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	アイデンティティへの問い(1)　『臨済録』における殺仏殺祖説	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	３０分
第2回	アイデンティティへの問い(2)　『十牛図』における自己の問題	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	６０分
第3回	アイデンティティへの問い(3)　A・ザンダー『２０世紀の人々』	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	６０分

第4回	大衆社会の問題(1)　S．キルケゴール『現代の批判』	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	６０分
第5回	大衆社会の問題(2)　D・リースマン『孤独な群集』	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	６０分
第6回	福祉国家の問題　I・ベルイマン『沈黙』	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	６０分
第7回	「精神なき専門人、心情なき享楽人」へのM・ウェーバーの批判	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	６０分
第8回	官僚制の問題(1)　M・ウェーバー『官僚制』	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	６０分
第9回	官僚制の問題(2)　H・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	６０分

第10回	官僚制の問題(3)　杉原千畝と官僚の倫理	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	６０分
第11回	官僚制の問題(4)　Ｇ・リッツァ『マクドナルド化する社会』	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	６０分
第12回	Ｍ・ウェーバーの価値自由説	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	６０分
第13回	エド・マローを例として、ジャーナリズムの役割	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	６０分
第14回	Ｍ・ハイデッガーの現代技術論	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	６０分
第15回	まとめ	
	今期の授業全体を回想して、その意義を考えてもらいたい。	６０分

授業の方法

講義。　絵画や写真、映画などヴィジュアルな資料も必要に応じて使っていきたいと思ってます。

成績評価の方法

授業への積極的な参加を評価する。平常点（授業内レポートなど）２０%、定期試験８０%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

いかなる予備知識もとくに求めません。
関連科目は「哲学の基礎」。

テキスト

とくに定めない。（毎回、資料を配付する）

参考書

Ｍ・ウェーバー『権力と支配』（講談社学術文庫）濱嶋朗 訳、1,155円、ISBN-13: 978-4062920919
左近司祥子『西洋哲学の10冊』、岩波書店、　819円、ISBN-13: 978-4005006137

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	現代社会と倫理学		
教員名	伊藤　由希子		
科目ナンバー	1201075102	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

日本思想を女文化として読み解く

「敗戦当夜、食事をする気力もなくなった男性は多くいた。しかし夕食をととのえない女性がいただろうか。他の日と同じく、女性は、食事をととのえた。」（鶴見俊輔）

女性たちが厳しい状況におかれてきた時代が長かったことは言うまでもないが、たとえば本居宣長が日本文化の本質には女性性（「たをやめぶり」）があると指摘していることからもわかるように、日本では、女性性なるものをひとびとが尊重し、そしてそれが社会・生活にとって欠かせない重要な意味・役割を担ってきた。

この講義では、『古事記』『日本書紀』から現代にいたるまでの、各時代の思想・文学・文化・芸能（近現代では、映画、テレビドラマ、歌謡曲、漫画等も）のさまざまな材料を使いながら、日本においてひとびとが尊重してきた女性性について、思想の問題として考えていきたいと思います。

到達目標

・過去のひとびとの思想を見つめなおすことで、それをもとに現代のわたしたちの生き方・あり方を考える基礎を身につける。
・日本思想の特徴的なトピックを学ぶ。
・ものごとを多角的に捉える思考力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス ・授業の全体像・進め方等について ・女性性とは（鶴見俊輔、中島みゆき等）	
	【予習】シラバスを読み、講義内容を把握しておく。 【復習】授業の全体像を確認する。講義内容の理解につとめる。	60
第2回	生と死の神・イザナミ ・神話における女性（１）（『古事記』『日本書紀』等）	
	【予習・復習】前回・今回講義内容の確認	60
第3回	世界を照らす神・アマテラス／「場」をひらく神・アメノウズメ ・神話における女性（２）（『古事記』『日本書紀』等）	
	【予習・復習】前回・今回講義内容の確認	60

第4回	仏と人をつなぐ女 ・日本における宗教と女性（『日本霊異記』『曽根崎心中』等）	
	【予習・復習】前回・今回講義内容の確認	60
第5回	女性がまなざすもの ・政（まつりごと）の背後にあるもの（１）（『源氏物語』等）	
	【予習・復習】前回・今回講義内容の確認	60
第6回	女性の感性 ・政（まつりごと）の背後にあるもの（２）（『枕草子』等）	
	【予習・復習】前回・今回講義内容の確認	60
第7回	女性の老いと死 ・老いと死の拒絶と受容（「卒塔婆小町」「姨捨」『楢山節考』等）	
	【予習・復習】前回・今回講義内容の確認	60
第8回	「もののあはれ」を知る女 ・女文化としての日本文化（本居宣長、九鬼周造等）	
	【予習・復習】前回・今回講義内容の確認	60
第9回	男を救う女 ・女性と「やさしさ」（『御伽草子』等）	
	【予習・復習】前回・今回講義内容の確認	60

第10回	男は女をどう見てきたか ・女性特有の能力（『女大学』、坂口安吾等）	
	【予習・復習】前回・今回講義内容の確認	60
第11回	近・現代日本と女性（１） ・女性がささえる場の力（１）（柳田国男、下田歌子等）	
	【予習・復習】前回・今回講義内容の確認	60
第12回	近・現代日本と女性（２） ・女性がささえる場の力（２）（向田邦子等）	
	【予習・復習】前回・今回講義内容の確認	60
第13回	近・現代日本と女性（３） ・女性がささえる場の力（３）（阿久悠、西原理恵子等）	
	【予習・復習】前回・今回講義内容の確認	60
第14回	到達度確認テスト ・学修内容確認のためのテスト	
	【予習】テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	120
第15回	到達度確認テストの解説・講評／授業のまとめ	
	【復習】 到達度確認テストをふまえて授業内容を見直し、自身がこの講義を通して感じたこと、考えたことを再確認する。	60

授業の方法

・レジュメを使用した講義を中心に、視聴覚資料を適宜使用する。また、講義を聴いて考えたこと、感じたことなどを講義時間内に書いてもらうミニレポート（不定期に実施）を講義内で適宜紹介・応答する。
・到達度確認テストでは、学修内容の理解度と、ものごとを多角的に捉え、論じる力が身についたかを重視する。
・授業の進捗状況や受講者の反応・希望等を見ながら、内容を適宜変更していく場合がある。

成績評価の方法

到達度確認テスト（90%。紙媒体のものはすべて持ち込み可）、平常点（10%。ミニレポートや授業への取り組み方）を基本とするが、プラスに評価できる要素はさらに加点していく。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
平常では過去のひとびとの思想を自分自身の問題としてとらえ、それらと向き合う姿勢を、到達度確認テストでは、学修内容の理解度と、この講義を通して考えたこと、感じたことを論理的に説明することができているかを重視して評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。古い文献も取りあげますが、現代語訳を付すので、古文が苦手な人も臆さずに参加してください。

テキスト

特になし。毎回レジュメを配布する。

参考書

講義中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	現代社会と宗教		
教員名	岡本　亮輔		
科目ナンバー	1101075103	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

宗教というとほとんどの人は自分とは関係のないものだと思うかもしれません。
しかし、現代社会では宗教は形を変えながらさまざまな領域へと浸透しています。
この講義では、宗教領域だけではなく、政治、教育、サブカルチャー、観光といった諸領域との相互作用に光をあてながら、現代宗教について学んでゆきます。

到達目標

宗教に関する基礎知識を身につけた上で、現代社会で生じるさまざまな宗教現象を読み解くリテラシーを身につけることを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	授業内に指示します。	60分
第2回	キリスト教の基礎知識（１）	
	文献リストをガイドに講義内容の理解を深める。	60分
第3回	キリスト教の基礎知識（２）	
	文献リストをガイドに講義内容の理解を深める。	60分

第4回	キリスト教の基礎知識（３）	
	文献リストをガイドに講義内容の理解を深める。	60分
第5回	イスラームの基礎知識（１）	
	文献リストをガイドに講義内容の理解を深める。	60分
第6回	イスラームの基礎知識（２）	
	文献リストをガイドに講義内容の理解を深める。	60分
第7回	神道の基礎知識（１）	
	文献リストをガイドに講義内容の理解を深める。	60分
第8回	神道の基礎知識（２）	
	文献リストをガイドに講義内容の理解を深める。	60分
第9回	仏教の基礎知識（１）	
	文献リストをガイドに講義内容の理解を深める。	60分

第10回	仏教の基礎知識（２）	
	文献リストをガイドに講義内容の理解を深める。	60分
第11回	現代の聖地巡礼（１）	
	文献リストをガイドに講義内容の理解を深める。	60分
第12回	現代の聖地巡礼（２）	
	文献リストをガイドに講義内容の理解を深める。	60分
第13回	現代の聖地巡礼（３）	
	文献リストをガイドに講義内容の理解を深める。	60分
第14回	神話の宗教学	
	これまでの授業をふまえた上でレポートを作成する。	60分
第15回	まとめ	
	これまでの授業をふまえた上でレポートを作成する。	60分

授業の方法

講義形式で行います。
授業の最後にレスポンス・シートを提出してもらい、可能な限り受講者との双方向性を高めます。

成績評価の方法

平常点と期末レポートによって評価します。
私語には厳しく対処します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

講義とレポート作成の以下のテキストを使用します。

星野英紀ほか（編）『聖地巡礼ツーリズム』弘文堂、2012年。
http://www.koubundou.co.jp/books/pages/16071.html

第２回目の授業までに必ず入手してください。

参考書

授業の際に文献リストを配布します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

毎回、授業の最後に質問のための時間を確保します。

科目名	日本の思想史		
教員名	須佐　俊吾		
科目ナンバー	1101075104	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

「キリシタンの思想」
戦国時代に伝えられたキリスト教信仰＝キリシタンは、それまでの在来思想とは全く異質なものでした。
本講義では、このキリシタンの日本思想史における意味を考えます。

到達目標

・キリシタンに関する基本的な知識が持てるようになる。
・それまで日本人が知っていた思想とは全く異質な考えを、当時の人々がどのように受容・否定したかを知ることにより、現在の我々が直面する多様な異なる他者（国籍、人種、宗教など）との関係を構築する際の指針の一つに出来るようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	特にありません。	0
第2回	日本の時代状況	
	【復習】授業時に取られたノートを、授業後に調べ直すなどして、今回の講義内容を完全に理解して下さい。	30
第3回	キリスト教の大要	
	【復習】授業時に取られたノートを、授業後に調べ直すなどして、今回の講義内容を完全に理解して下さい。	30

第4回	世界の時代状況	
	【復習】授業時に取られたノートを、授業後に調べ直すなどして、今回の講義内容を完全に理解して下さい。	30
第5回	キリシタン思想史1	
	【復習】授業時に取られたノートを、授業後に調べ直すなどして、今回の講義内容を完全に理解して下さい。	30
第6回	キリシタン思想史2	
	【復習】授業時に取られたノートを、授業後に調べ直すなどして、今回の講義内容を完全に理解して下さい。	30
第7回	キリシタン思想史3	
	【復習】授業時に取られたノートを、授業後に調べ直すなどして、今回の講義内容を完全に理解して下さい。	30
第8回	キリシタン思想史4	
	【復習】授業時に取られたノートを、授業後に調べ直すなどして、今回の講義内容を完全に理解して下さい。	30
第9回	キリシタン思想史5	
	【復習】授業時に取られたノートを、授業後に調べ直すなどして、今回の講義内容を完全に理解して下さい。	30

第10回	転びイルマン不干斎ハビアン1	
	【復習】授業時に取られたノートを、授業後に調べ直すなどして、今回の講義内容を完全に理解して下さい。	30
第11回	転びイルマン不干斎ハビアン2	
	【復習】授業時に取られたノートを、授業後に調べ直すなどして、今回の講義内容を完全に理解して下さい。	30
第12回	転びイルマン不干斎ハビアン3	
	【復習】授業時に取られたノートを、授業後に調べ直すなどして、今回の講義内容を完全に理解して下さい。	30
第13回	転びイルマン不干斎ハビアン4	
	【復習】授業時に取られたノートを、授業後に調べ直すなどして、今回の講義内容を完全に理解して下さい。	30
第14回	転びイルマン不干斎ハビアン5	
	【復習】授業時に取られたノートを、授業後に調べ直すなどして、今回の講義内容を完全に理解して下さい。	30
第15回	全体のまとめ	
	特にありません。	0

授業の方法

講義形式です。
ハンドアウト的なペーパーは配布しませんので、講義に集中して、各自できちんとしたノートを作って下さい。
また、授業内容に変更はありませんが、参考DVDを見るなど各回に多少の変更はあり得ます。

成績評価の方法

課題レポート（1回、100%）。前期末にご提出いただきます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特には何も求めませんが、高校程度の日本史と世界史の知識を前提にして講義は行われます。

テキスト

特にありません。

参考書

参考書は授業時に適宜ご紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	脳科学と心		
教員名	山本　愛実		
科目ナンバー	1001075105	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

脳神経科学の最新の研究テーマを例としてとりあげ、神経科学上の成果が人間理解や社会生活
に大きな影響を及ぼし始めていることを概説する

到達目標

脳神経科学の基礎的な知識を習得するとともに、それがわれわれの生活や社会にどんな影響を
及ぼすかを考察する能力を身につけることを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	１.脳神経科学とは何かその意義を考える	
	教科書の1章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45
第2回	２.知覚(環境変化の見落としについて、知覚のメカニズムを知る)	
	教科書の2章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45
第3回	３.記憶(偽記憶研究の現状と展望、偽記憶とうその脳メカニズムの違いを知る)	
	教科書の3章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45

第4回	４．自由意志（意志と行為の脳メカニズム、自由意志の存在に疑問を投げかける脳科学の研究について考える）	
	教科書の4章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45
第5回	５．意思決定（薬物依存と意思決定の歪み、薬物による健常な意思決定の歪みにより、薬物依存からの脱却の困難さを知る）	
	教科書の5章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45
第6回	６．道徳（道徳の脳科学、道徳・倫理を脳科学の視点で考える）	
	教科書の6章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45
第7回	７．社会性の神経経済学（脳神経科学の最新の研究分野である信頼に関する神経経済学について、社会にとって互いの信頼の重要性を示すとともにその脳基盤を知る）	
	教科書の7章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45
第8回	８．マインドリーディング（ニューロイメージング法の解説、脳科学は他人の心を読み取れるのか）	
	教科書の8章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45
第9回	９．ブレインマシンインターフェイス（ブレインマシンインターフェイスとは何か、その目的は？失った機能をどこまで機械で補えるのか）	
	教科書の9章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45

第10回	10. 精神疾患（精神疾患について知り、その社会の中での問題を考える、精神疾患は脳機能の疾患である）	
	教科書の10章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45
第11回	11. スマートドラッグ（薬による能力の増強について現状を知る、 スマートドラッグは許されるのか）	
	教科書の11章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45
第12回	12. 教育（三歳児神話について関連する脳科学的研究を学ぶ、脳科学は教育に役立つのか）	
	教科書の12章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45
第13回	13. 加齢（加齢に伴う認知機能の低下について考える、なぜ、お年寄りを狙う犯罪が多いのか）	
	教科書の13章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45
第14回	14. 広告利用（脳トレ広告の問題点を知る、似非科学に騙されないために）	
	教科書の14章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45
第15回	15. まとめ（神経科学リテラシーと社会的意義）	
	教科書の15章を授業前に読んでくる。 授業の内容をふまえ、授業の最期に提示する質問に関して考えてくる。	45

授業の方法
講義を主とする。

成績評価の方法
定期試験による。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
現代科学についての知識はそれほど必要としない。

テキスト
脳神経科学リテラシー
勁草書房
信原幸弘、原塑、山本愛実　編

参考書
特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	こころの健康と臨床		
教員名	林　潤一郎		
科目ナンバー	1101075106	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

近年、こころの健康問題は社会的に大きな話題となっている。ストレスをかかえやすい現代社会においては、こころの健康とその問題についての正しい知識と対策を知っておくことは、今後の学生生活や社会生活における自分自身を支える上で、また周囲の人と接する際に、有用なものとなるであろう。

本講義では、臨床心理学や精神医学で扱われる代表的なこころの健康問題を取り上げ、多様な理解の枠組みとその予防策・対応策を紹介する。特に、臨床心理学において発展を遂げている認知行動理論および認知行動療法を中心に、心の健康問題（主に精神障害）の予防や軽減および心の健康維持増進に有益だと思われる様々な研究成果や臨床的な知見を紹介する予定である。

なお、授業の進捗および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。

到達目標

知識としての学習、および自分自身のこれまでの経験とも照らし合わせながら理解を深めることを通じて、次の目標を達成することを期待している。

（１）（自他の）こころの健康問題に対する正しい知識を得ること（で、誤解や誤った偏見を減らすこと）。

（２）こころの健康問題で困ることを減らすために必要な予防的知識を学ぶこと。

（３）こころの健康問題で困った際に、その症状を和らげたり、その問題から抜け出るために役立つような対処のレパートリーを学ぶこと。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・こころの健康問題の概観を知る。	
	【復習】授業で紹介した内容を理解する。また、主要トピックやキーワードを振り返り、説明できるようにする。	【復習】60
第2回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（１） ・こころの健康ー不調の連続性、定義、諸基準等を知る。 ・こころの問題を理解するための代表的枠組みを知る。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第3回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（２） ・こころの問題を理解するための代表的枠組みを知る（続き）。 ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50

第4回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（３） ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ（続き）。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第5回	気分障害（１） ・気分障害を理解する。 ・「日常的に経験する（抑うつ気分）」と「うつ病」の異同を知る。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第6回	気分障害（２） ・気分障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第7回	気分障害（３） ・気分障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ（続き）。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第8回	睡眠障害 ・睡眠の基本性質を知る。 ・睡眠障害を理解する。 ・睡眠障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第9回	不安障害（１） ・パニック障害を理解する。 ・パニック障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50

第10回	不安障害（２） ・社会不安障害（社交不安障害）を理解する。 ・社会不安障害（社交不安障害）で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第11回	不安障害（３） ・強迫性障害を理解する。 ・強迫性障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第12回	パーソナリティ障害 ・パーソナリティ障害を理解する。 ・パーソナリティ障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第13回	摂食障害 ・摂食障害を理解する。 ・摂食障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第14回	統合失調症 ・統合失調症を理解する。 ・統合失調症で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	
	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第15回	授業のまとめ	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【復習】60

授業の方法

授業は講義中心に進める。授業において毎回、レスポンスシートの提出を求める。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

なお、レスポンスシート、期末テストの狙いは以下のとおりである。

・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる（なお、必要に応じて、レスポンスシートの内容に対するフィードバックを次の回の講義で実施予定である）。

・期末テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

また、出欠確認のためにハンディターミナルカードリーダーを使用する可能性があるため、学生証は必ず持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点（40%）、期末テスト（60%）、により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その到達度により評価する。

（１）（自他の）こころの健康問題に対する正しい知識を得ること（で、誤解や誤った偏見を減らすこと）。

（２）こころの健康問題で困ることを減らすために必要な予防的知識を学ぶこと。

（３）こころの健康問題で困った際に、その症状を和らげたり、その問題から抜け出るために役立つような対処のレパートリーを学ぶこと。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：心理学の基礎／自己理解の心理学／脳科学と心

テキスト

特になし。なお、各回のレジュメはSeikei Portalにアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。

参考書

特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	音楽への招待		
教員名	西釋　英里香		
科目ナンバー	1101075107	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

本講義では、いわゆる「西洋音楽」の17世紀から現代までの歴史を、オペラやバレエなどの舞台芸術を中心に考察する。

到達目標

代表的なオペラやバレエを鑑賞し、あわせてその作曲家や創作の背景、ならびに音楽の構成などを知ることにより、音楽的・芸術的教養の基礎を身につけることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	導入：西洋音楽史概観 オペラを中心に17世紀～20世紀の西洋クラシック音楽の歴史を概観する。	
	授業で学んだ西洋音楽史及びオペラの歴史について復習する。	30
第2回	オルフェオのオペラ モンテヴェルディの《オルフェオ》とグルックの《オルフェオとエウリディーチェ》を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第3回	モーツァルトのオペラ（１） モーツァルトのイタリア・オペラである《フィガロの結婚》や《ドン・ジョヴァンニ》を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60

第4回	モーツァルトのオペラ（２） モーツァルトのジングシュピール（ドイツ語オペラ）である《魔笛》を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第5回	19世紀のイタリア・オペラ（１） ロッシーニの《セヴィリアの理髪師》やドニゼッティの《ランメルモールのルチア》を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第6回	19世紀のイタリア・オペラ（２） 《椿姫》などヴェルディの代表的なオペラをいくつか鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第7回	19世紀のドイツ・オペラ（１） ウェーバーの《魔弾の射手》やワーグナーの初期・中期のオペラを鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第8回	19世紀のドイツ・オペラ（２） ワーグナーの《ニーベルングの指環》４部作について考察し、一部を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第9回	19世紀後半～20世紀初頭のイタリア・オペラ 《トゥーランドット》などプッチーニの代表的なオペラをいくつか鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60

第10回	19世紀後半～20世紀初頭のドイツ・オペラ 《サロメ》などリヒャルト・シュトラウスの代表的なオペラをいくつか鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第11回	19世紀後半～20世紀初頭のフランス・オペラ ビゼーの《カルメン》やドビュッシーの《ペレアスとメリザンド》などを鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第12回	20世紀のオペラ シェーンベルクの《モーゼとアロン》やベルクの《ルル》などの20世紀の未完のオペラを鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第13回	オペレッタ オペレッタの歴史について概観し、ヨハン・シュトラウスⅡ世の《こうもり》や、レハールの《メリー・ウィドウ》を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第14回	バレエ（１） バレエの歴史について概観し、19世紀フランスのロマンティック・バレエ、そしてチャイコフスキーの《白鳥の湖》などのクラシック・バレエを鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第15回	バレエ（２） 《春の祭典》などストラヴィンスキーのバレエ作品を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60

授業の方法

・配布プリントをもとに、講義を行う。
・授業でとりあげる音楽作品のＣＤやＤＶＤも鑑賞する。ただし、授業では作品の一部しか鑑賞することができないので、自分でも積極的に作品に触れる努力をしてほしい。
・授業の終わりに、その日の授業内容を理解しているかどうかを確認するきわめて簡単なテスト（レポート）を行うこともある。実施日は事前に告知しないが、ほぼ毎回の予定。
・期末レポートでは、授業でとりあげた作曲家とその作品をめぐって自分で明確なテーマを設定し、自由に論じてもらう。
・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や授業内レポートもしくはテスト）60%及び期末レポート40%により評価する。
単位認定には、講義回数の３分の２以上の出席を必要とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業でとりあげた作曲家とその作品について基礎的な知識を獲得し、明確に説明できる。
・オペラやバレエなどの舞台芸術について自分なりの興味を深め、自由に論じることができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

楽譜を読めることが望ましいが、もちろん読めなくても履修可。
西洋クラシック音楽を中心に扱うことを了承されたい。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	美術への招待		
教員名	人見　伸子		
科目ナンバー	1001075109	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

今年は「ラファエル前派展」「ザ・ビューティフル：英国の唯美主義」など、19世紀イギリスの美術を扱った展覧会が続いている。この授業ではイギリス・ヴィクトリア朝の絵画に焦点をあて、その特徴や個々の画家たちの作品を取り上げ、他国とは異なる特殊性を検証していく。この時代はまた文学や美術批評の黄金期でもあった。そうしたジャンルとの関係や応用美術の進展にも目を向けていきたい。

到達目標

過去の美術の歴史を理解するとともに、現在我々の周囲にある美についても関心をもつ。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の概要：ヴィクトリア朝の諸問題 ・今後の授業計画を説明 ・ヴィクトリア朝とはどんな時代であったか、一般的な理解を深める。	
	シラバスを読み、講義内容を把握しておく。	60分
第2回	ヴィクトリア朝の絵画 ・社会の状況を反映した「物語る絵」を概観する。	
	参考文献やプリントで予習・復習するとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60分
第3回	ラファエル前派の登場と分裂 ・1848年に結成されたラファエル前派について、その目標や個々の画家たち、分裂までの経緯を検証する。	
	・参考文献やプリントでの予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60分

第4回	ラファエル前派と自然主義 ・同時代のフランスの自然主義と比較しながら、ラファエル前派の独自性について考察する。	
	・参考文献やプリントでの予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60分
第5回	ラスキンの美術批評 ・当時を代表する美術批評家ジョン・ラスキンの生涯をたどり、美術界や社会に与えた影響を検証する。	
	・参考文献やプリントでの予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60分
第6回	ロセッティのヒロインたち ・ラファエル前派の画家のひとり、D.G.ロセッティの女性像について、複数の側面から検証する。	
	・参考文献やプリントでの予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60分
第7回	鏡をめぐる考察 ・同時代の作品に描かれた鏡のモティーフについて、伝統的な用例と比較しながら、その意味を考察する。	
	・参考文献やプリントでの予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60分
第8回	ペイターと唯美主義絵画 ・ウォルター・ペイターの著作『ルネサンス』を紹介し、古代美術やルネサンスをどのように評価していたか、検証する。	
	・参考文献やプリントでの予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60分
第9回	ホイッスラーとジャポニスムの流行 ・アメリカ出身の画家ホイッスラーの作品を中心に、日本美術との関係を考察する。	
	・参考文献やプリントでの予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60分

第10回	レイトンとギリシア趣味 ・ロイヤル・アカデミー会長であったフレデリック・レイトンや仲間の作品を通して、ギリシア趣味の流行について考える。	
	・参考文献やプリントでの予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60分
第11回	バーン=ジョーンズの国際性 ・ラファエル前派の第2世代バーン=ジョーンズが何故、国際的な評価を得るにいたったか、考察する。	
	・参考文献やプリントでの予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60分
第12回	モリスと近代デザインの誕生 ・中世の職人芸を再評価し、日常生活における美を追究したモリスの革新性を検証する。	
	・参考文献やプリントでの予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60分
第13回	ビアズリーとグラフィック・アート ・オーブリー・ビアズリーの作品を中心に、印刷文化の流行について考察する。	
	・参考文献やプリントでの予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60分
第14回	ジェンダーの視点から ・ヴィクトリア朝では、さまざまな女性の画家や写真家が活躍した。彼女たちの社会的な立場や評価を含めて、改めて考えてみたい。	
	・参考文献やプリントでの予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60分
第15回	授業のまとめ ・これまでの授業を総括し、現代にもつながるヴィクトリア朝の問題点を改めて指摘することで、各自のレポートに繋げてみよう。	
	・参考文献やプリントでの予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60分

授業の方法

毎回スライド等で作品の画像を提示しながら、講義形式で授業を進める。最新の展覧会情報を提供するので、実際の作品に接する機会をぜひ作ってほしい。

成績評価の方法

中間・学期末の2回のレポート課題（各40%）、および出席点（20%）を総合して評価する。
単位認定には、3分の2以上の出席、2回のレポート提出が必要である。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

（高校の）世界史の既習が望ましいが、必須ではない。

テキスト

とくに指定しない

参考書

授業中に随時指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	人間と美術		
教員名	人見　伸子		
科目ナンバー	1101075110	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

1853年にペリーが来航して以降、多数の日本の文物が海外に渡り、さまざまな地域や国に影響をもたらした。「ジャポニスム」と総称されるこうした現象は、その後、半世紀ほど続いたが、表面的な日本趣味から精神の深い部分への浸透にいたるまで、その様相は多岐にわたる。　この授業では、各国における「ジャポニスム」の状況を紹介し、その特徴や国による違いを考察するとともに、建築や音楽といった他分野にも視野を広げていく。さらに現在、日本の文化が世界各国でどのように受容されているかについて検証し、グローバルな現代社会における文化交流のあり方を考えてみよう。

到達目標

・ジャポニスムの普遍性を理解し、自分が発見した実証的な例について考察する。
・グローバル化が進む現代社会において、日本の文化が果たすべき役割について考えてみる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の概要 / ジャポニスムとは何か？ ・授業の内容や進め方、参考文献や評価について説明する。 ・黒船来航以前の日本と海外との交流について触れる。	
	シラバスの内容を理解して授業にのぞむ。	60分
第2回	フランス（1）1890年以前：絵画と工芸の革新 ・パリ万博をきっかけに起こった日本ブームとは？ ・文学者や美術評論家を魅了した日本 ・印象派の画家と浮世絵との関係	
	・テキストの該当箇所 pp.26-50 を事前に読んでおく。 ・ジャポニスムの具体的な事例を自ら検証。	60分
第3回	フランス（2）1890年以降：装飾芸術への浸透 ・日本人画商の活躍 ・ポスターや工芸品における日本美術の影響	
	・テキストの該当箇所 pp.51-68 を事前に読んでおく。 ・ジャポニスムの具体的な事例を自ら検証。	60分

第4回	イギリス（1）ヴィクトリア朝と日本 ・ロンドン万博とジャポニスム ・ヴィクトリア朝の絵画と浮世絵の関係	
	・テキストの該当箇所 pp.69-89 を事前に読んでおく。 ・ジャポニスムの具体的な事例を自ら検証。	60分
第5回	イギリス（2）装飾芸術のジャポニスム ・家具調度品・工芸品・書籍に現れた日本の影響 ・アール・ヌーヴォーへの架け橋	
	・テキストの該当箇所 pp.69-89 を事前に読んでおく。 ・ジャポニスムの具体的な事例を自ら検証。	60分
第6回	アメリカ：東回りのジャポニスム ・日本美術のアメリカへの到来 ・日本の影響を受けた女性画家たち	
	・テキストの該当箇所 pp.90-109 を事前に読んでおく。 ・ジャポニスムの具体的な事例を自ら検証。	60分
第7回	オランダ：出島の国のジャポニスム ・東インド会社が果たした役割 ・陶磁器に見られる日本の影響	
	・テキストの該当箇所 pp.110-119 を事前に読んでおく。 ・ジャポニスムの具体的な事例を自ら検証。	60分
第8回	オーストリア ・ウィーン分離派とジャポニスムの関係	
	・テキストの該当箇所 pp.138-153 を事前に読んでおく。 ・ジャポニスムの具体的な事例を自ら検証。	60分
第9回	北欧のジャポニスム ・北欧の絵画と浮世絵 ・北欧デザインと日本の工芸の関係	
	・テキストの該当箇所 pp.161-169 を事前に読んでおく。 ・ジャポニスムの具体的な事例を自ら検証。	60分

第10回	建築のジャポニスム ・コンドル、マッキントッシュ、ライトを中心に、西欧と日本の双方向的な関係を考察	
	・テキストの該当箇所 pp.187-201 を事前に読んでおく。 ・ジャポニスムの具体的な事例を自ら検証。	60分
第11回	音楽：近代音楽の誕生とジャポニスム ・日本をテーマにしたオペラやオペラ・コミックの流行 ・ドビュッシーと日本	
	・テキストの該当箇所 pp.202-215 を事前に読んでおく。 ・ジャポニスムの具体的な事例を自ら検証。	60分
第12回	写真のジャポにスム ・江戸末期から明治初期にかけて日本を訪れた西欧の写真家たち ・スティーグリッツやスタイケンを魅了した日本美術	
	・テキストの該当箇所 pp.216-230 を事前に読んでおく。 ・ジャポニスムの具体的な事例を自ら検証。	60分
第13回	モードのジャポニスム ・西欧に大量に輸出された日本のキモノと流行 ・日本の服飾を巧みに活かしたデザイナーたち	
	・テキストの該当箇所 pp.231-245 を事前に読んでおく。 ・ジャポニスムの具体的な事例を自ら検証。	60分
第14回	日本文化の海外発信 ・日本文化発信の歴史 ・今後の課題について	
	自分の考えをまとめる。	60分
第15回	授業のまとめ ・これまでの授業を振り返り、理解を深める。 ・日本文化の海外発信について、自分の立場で考えてみる。	
	自分の考えをまとめて、レポートの準備をする。	60分

授業の方法
毎回、スライドやDVDによって画像を提示しながら、講義形式で授業を進める。最新の展覧会情報を紹介するので、美術館に足を運び、実際の作品を鑑賞する機会をぜひ作ってほしい。

成績評価の方法
２回のレポート課題（各40%）と出席点（20%）を綜合して評価する。
単位認定には、３分の２以上の出席と２回のレポート提出が必要である。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
ジャポニスム学会編『ジャポニスム入門』思文閣出版　2000年 ISBN4-7842-1053-9 C1020

参考書
大島清次『ジャポニスム 印象派と浮世絵の周辺』美術公論社 1980年、講談社学術文庫1992年
馬渕明子『ジャポニスム　幻想の日本』ブリュッケ　1997年、新版2004年
その他、授業時に随時紹介

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	多文化主義と文学		
教員名	大熊　昭信		
科目ナンバー	1101075111	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

今日の多文化社会とはどのような社会なのか。どのように形成されたのか。そこでの文化はいったいどのような形をとっているのか。また異文化間の交流にはどのような形態があるのか。そうしたことを概論的に紹介しながら、現在、そうした状況から生産され消費されている文学作品のうちで、主として英米文学や英語圏の文学、それに日本文学から取り上げ、その概要や作家の抱えた問題などを、適宜映像や生活文化的な資料にも参照しつつ、批評的に解説する。

到達目標

多文化社会とそこで生まれた文学を理解し、それを批評的に分析できる能力を涵養する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第１回　　講義の概要	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	６０分
第2回	第２回　　多文化社会の形成	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	９０分
第3回	第３回　　多文化社会のありかた（１）	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	９０分

第4回	第４回　　多文化社会のありかた（２）	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	９０分
第5回	第５回　　多文化社会における移動――作家と作品	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	９０分
第6回	第６回　　植民地の作家の場合（１）――祖国在住	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	９０分
第7回	第７回　　植民地の作家の場合（２）――宗主国への移民	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	９０分
第8回	第８回　　宗主国の作家　（１）―移住者	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	９０分
第9回	第９回　　宗主国の作家（２）―旅行者、コスモポリタン	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	９０分

第10回	第１０回　エクソフォニー	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	９０分
第11回	第１１回　クレオール	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	９０分
第12回	第１２回　翻訳	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	９０分
第13回	第１３回　日本人作家の場合	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	９０分
第14回	第１４回　日本の場合（２）―在日と移民	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	９０分
第15回	第１５回　まとめ	
	これまでの講義概要を通読して、質問内容を整理しておく。	９０分

授業の方法
パソコンからの映像を見ながらの講義を中心とするが、質疑応答の時間を求めて双方向の授業にする。

成績評価の方法
期末試験（８０%）と授業への参加度（２０%）などで総合的に評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
特になし。

参考書
大熊昭信・庄司宏子編著『グローバル化の中のポストコロニアリズム――環太平洋諸国の英語文学と日本語文学の可能性』（風間書房、２０１３）
アッシュクロフト、ビル、ガレス・グリフィス、ヘレン・ティフィン『ポストコロニアルの文学』木村茂雄訳、青土社、一九九八）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ことばの科学		
教員名	小倉　美知子		
科目ナンバー	1101075114	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

ことばの諸相について、研究対象として考えられる様々な分野を紹介し、専門課程に入る前の基礎知識をつける。

到達目標

専門課程で学ぶことになるであろう英語史、英語学、言語学、音声学、文法などの基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	まず音・つづり・形態・文法・意味・語彙・文体などの言語プロパーな分野に関して話したのち、ことばと他分野とのつながり、すなわちことばと脳・言語習得・ことばと社会などの問題を講義する予定である。第1回イントロダクション、第2回音と音変化、第3回音と形態、第4回形態の変化、第5回辞書、第6回文法、第7回統語論、第8回意味、第9回意味変化、第10回語彙、第11回文体、第12回ことばと脳、第13回言語習得、第14回ことばと社会、第15回まとめ。	
	毎回授業中に配布するプリントをよく読んでおくこと。	90
第2回	音と音変化	
	プリントをよく読んでおくこと	90
第3回	音と形態	
	プリントをよく読んでおくこと	90

第4回	形態の変化	
	プリントをよく読んでおくこと	90
第5回	辞書	
	プリントをよく読んでおくこと	90
第6回	文法	
	プリントをよく読んでおくこと	90
第7回	統語論	
	プリントをよく読んでおくこと	90
第8回	意味	
	プリントをよく読んでおくこと	90
第9回	意味変化	
	プリントをよく読んでおくこと	90

第10回	語彙	
	プリントをよく読んでおくこと	90
第11回	文体	
	プリントをよく読んでおくこと	90
第12回	ことばと脳	
	プリントをよく読んでおくこと	90
第13回	言語習得	
	プリントをよく読んでおくこと	90
第14回	ことばと社会	
	プリントをよく読んでおくこと	90
第15回	まとめ	
	今までのプリントをよく読んでまとめておくこと	90

授業の方法
講義形式で行う。毎回、最後の10分間を質疑応答にあてる。

成績評価の方法
学期中のレポートと学期末の筆記試験により評価する。

成績評価の基準
学期中のレポートと学期末の筆記試験により評価する。成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
国際語である英語を例にとるので、英語音声学、英語史、言語学などの知識があると理解しやすい。

テキスト
テキストは使わず、毎回プリントを配布する。

参考書
第1回のイントロダクションで指示すると共に、毎回の授業中にそのつど指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ファッションと文化		
教員名	和田　早苗		
科目ナンバー	1101075115	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

ファッションを、衣服・服飾・服装・流行…などを表わすことばとして広くとらえ、それを装う人と文化との関わりについて扱う。
講義では、まず、人間にとってファッション（服）とは何であり、なぜ人は装うのかを考える。次に、衣服の役割・機能面を概観した後でファッションの歴史（服飾史）をたどりながらその時代背景や生活感情との関わりの中で服をとらえていく。また、現象としての流行やファッション産業などにも触れる。
外面的な部分から内面的な部分まで、様々な角度からファッション（服）と人との関係について考える。
なお、授業の進度により内容や順序を変更する場合もある。

到達目標

ファッション（服）を文化という視点からとらえ、その特質を理解した上でファッションと人との関わりについて説明することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 　授業の内容、授業の進め方、受講上の注意点 ファッションとは何か	
	【予習】シラバスを読み、講義内容の全体像を把握する。 【復習】ファッション（服）についての自分の考えを整理する。	60
第2回	人はなぜ服を着るのか	
	【予習】第1回目の授業内容をふまえて、人にとってファッション（服）とは何か、自分の考えを持つ。 【復習】文学作品の中の服飾描写の例を確認する。	60
第3回	衣服の役割	
	【予習】衣服にはどのような役割があるのか、自分なりに考えておく。 【復習】今回取り上げた内容について、具体例を考える。	60

第4回	衣服の機能	
	【予習】快適な衣服について自分の考えを整理しておく。 【復習】日本の季節に応じた服装について理解を深める。	60
第5回	民族服、西洋ファッション史（1）	
	【予習】様々な気候に適した服とはそれぞれどのようなものか、考えをまとめておく。 【復習】歴史の流れの中でのファッション、着る人とファッションとのかかわりについて考えを整理する。	60
第6回	西洋ファッション史（2）	
	【予習・復習】歴史の流れの中でのファッション、着る人とファッションとのかかわりについて考えを整理する。	60
第7回	西洋ファッション史（3）	
	【予習・復習】歴史の流れの中でのファッション、着る人とファッションとのかかわりについて考えを整理する。	60
第8回	日本服飾史（1）	
	【予習・復習】歴史の流れの中での服飾、着る人と服飾とのかかわりについて考えを整理する。	60
第9回	日本服飾史（2）	
	【予習・復習】歴史の流れの中での服飾、着る人と服飾とのかかわりについて考えを整理する。	60

第10回	服飾と文様	
	【復習】着物の文様の構図や意味などについて理解を深める。	60
第11回	ファッションと流行	
	【復習】流行という事象とファッションとのかかわりについて自分の考えを整理する。	60
第12回	第二次世界大戦後の日本の流行色・ファッションの変遷	
	【復習】ファッションと経済、社会生活とのかかわりについて理解する。	60
第13回	ファッション産業	
	【復習】今回取り上げた内容を身近な例に当てはめて説明できるようにする。	60
第14回	季節感と服、着心地とは	
	【復習】着心地について理解を深める。	60
第15回	学期末試験	
	【予習】学期末試験に備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】到達目標を達成できているかどうかを確認する。	90

授業の方法

スライド、DVDなど視聴覚教材を使用しながら講義形式で授業を進める。その日の配布資料や講義内容に関する授業内の小レポートを毎回実施する。記述内容の一部を紹介しながら授業を進めることもある。
なお、第1回目の授業時に受講上の注意点を説明する。

成績評価の方法

授業内の提出物（約50%）、筆記試験（約50%）、授業への参加状況などに基づき総合的に評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし（プリントを配布）

参考書

特になし（必要に応じて授業内で指示）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	映像と文化		
教員名	滝浪　佑紀		
科目ナンバー	1101075116	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

私たちと映像文化の関係はいかなるものだろうか？１２０年にわたる映画史を辿りつつ、最近のスペクタクル映画・テレビ・ミュージックビデオにも考察の対象を広げることによって、２０世紀・２１世紀の映像文化について、概観的かつ多角的にアプローチする。

本科目では、イントロダクションに続いて、映画の発明から、サイレント映画・トーキー映画、ニューウェーブ、近年のブロックバスター映画までを、ハリウッド、欧州、日本映画を中心にたどり、続いて、その応用編として、（１）サイレント映画美学、政治的映画、近年の特撮CG映画の考察、（２）映画を超えて、テレビやミュージックビデオの分析に着手する。

より具体的に言えば、グリフィス、エイゼンシュタイン、小津、溝口、ヒッチコック、キャプラ、ウェルズ、ゴダール、大島、スピルバーグ、タランティーノ、ノーランなどの映画監督の作品を扱うことになるだろう。また、授業の進行に応じて、学生からもリクエストを募り、みなさんの興味のある作品についても授業で扱っていきたいと考えている。

到達目標

映画や映像文化に対し、ただ楽しむだけではなく、批判的視点も備えた鑑賞を可能にする。と同時に、映画をより楽しく見ることのできるようにしたい。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	映画を見るとは？：編集の原理 〔キーワード〕ウォン・カーウァイ、小津安二郎、黒沢清、編集、視線	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第2回	映画史Ⅰ：初期映画から物語映画へ 〔キーワード〕リュミエール兄弟、D・W・グリフィス、映画言語の発展、編集の文法、物語映画	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第3回	映画史Ⅱ：サイレント映画全盛期 〔キーワード〕ジョセフ・フォン・スタンバーグ、セルゲイ・エイゼンシュタイン、欧州アヴァンギャルド映画、リズム、サイレント映画美学	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分

第4回	映画史Ⅲ：トーキー初期 〔キーワード〕フランク・キャプラ、バスビー・バークレー、小津安二郎、編集のリズムの変化、ミュージカル、第二次世界大戦前に映画が含意していた「夢」	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第5回	映画史Ⅳ：戦後映画 〔キーワード〕オーソン・ウェルズ、フレッド・アステア、フィルム・ノワール、B級映画、スタジオ・システムの凋落の兆し、新しい映画文法	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第6回	映画史Ⅴ：ニューウェーブ 〔キーワード〕ジャン・リュック・ゴダール、大島渚、吉田喜重、映画の持つ政治性、非物語映画	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第7回	映画史Ⅵ：ニューウェーブ以降 〔キーワード〕アメリカン・ニュー・シネマ、プログラム・ピクチャー、勝新太郎、ロマン・ポランスキー、ヴィム・ヴェンダース	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第8回	映画史Ⅶ：ブロックバスター 〔キーワード〕スティーブン・スピルバーグ、スターウォーズ、スペクタクル、大作映画とは何か？	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第9回	映画史Ⅷ：最近の映画 〔キーワード〕リドリー・スコット、クエンティン・タランティーノ、クリストファー・ノーラン、新しい編集法、CG、特撮	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分

第10回	映画史を捉え直すⅠ：サイレント映画美学 〔キーワード〕小津安二郎、エルンスト・ルビッチ、1920年代のハリウッド映画、戦間期大衆文化、大恐慌	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第11回	映画史を捉え直すⅡ：政治的映画 〔キーワード〕大島渚、テレビ、1968年、ポリティカル・モダニズム	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第12回	映画史を捉え直すⅢ：2000年以降のアクション映画 〔キーワード〕バットマン、ミッション・インポッシブル、マトリックス、CG、特撮、人間と機械の関係、人間とコンピュータの関係、スマートフォン	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第13回	映画以外の映像文化Ⅰ：テレビ 〔キーワード〕野球中継、ニュース、映画とテレビの相違点、スタンリー・カヴェル	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第14回	映画以外の映像文化Ⅱ：ミュージックビデオ 〔キーワード〕MTV文化、You Tube、映画とは異なる編集の原理、アトラクション	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第15回	まとめ	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分

授業の方法
映像を共に鑑賞し、それについて論じる。

成績評価の方法
試験期間内に６０分試験で。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
とくに予備知識はいらないが、映画や映像文化に対し、強い思い入れがあることが望ましい（好き嫌いは問わない）。

テキスト

参考書
ルイス・ジアネッティ『映画技法のリテラシー１』堤和子・増田珠子・堤龍一郎訳、フィルムアート社、2003年、映画の専門用語を学ぶにあたって有益

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付けるとともに、メール等でも対応する。

科目名	映像と人間		
教員名	北小路　隆志		
科目ナンバー	1101075117	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

テーマは「映画のより分析的な見方」を学んだうえで、「映画を通して《見ること》の多様性や歴史」を考えることです。ふだん皆さんは映画館に出かけたり、家でDVD鑑賞するなどして映画に接し、よほど難解であったり特殊であったりする作品でもない限り、その内容を理解しているはずです。しかし、皆さんは本当に映画を《見ること》ができているのでしょうか。単にそこで展開される物語に一喜一憂しているだけではないでしょうか。19世紀末に誕生した映画は、20世紀を《映画の世紀》とする見方も成立するほど、巨大な娯楽産業として世界中で影響力を持ち、わたしたちの視覚のあり方を決定づけました。映画は長い時間をかけて、さまざまな物語を語るための技法を身につけ、それを洗練させたり変化させたりしてきおり、今なおさまざまな視覚表現の規範となっています。この授業では、まず（物語の）「内容」に傾きがちなわたしたちの映画鑑賞のあり方に疑問を呈し、（物語の）形式（語り方や映画技法、技術的な側面）により焦点を当てた鑑賞法について学びます。さらに、そうした下地を会得したうえで、「見ること（＝視覚）」の歴史や多様性について考察を進めましょう。視覚は歴史的あるいは哲学的にどのようなものとして把握されてきたのか。そうしたことを世紀の変わり目に登場した新たな視覚芸術であった映画を通して考え、ほとんどの人にとって当然のものとしてある《視覚＝見ること》についての認識を新たにしてもらおうと考えています。

到達目標

①現在もなお規範となっている映画の基本的な技法を学び、より分析的な映画鑑賞法を身につけることができる。
②映画を通して「見ること＝視覚」の歴史や哲学を学ぶことで、それについての理解を深めることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス ・授業の概要や狙い、進め方について説明する。 ・参加者各自に、これまで抱いてきた映画観について発表を求め、検討する。	
	・シラバスの内容を読み込み、あらかじめ授業内容を把握する。 ・各自の映画観（これまでどのような映画を見てきたか、どんな映画が好きか、それはなぜか、など）をまとめておくこと。	60
第2回	映画の見方についての授業(1) ・映画の基本的性格とフレームをめぐる考察。 （関連資料の配布）	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。	60
第3回	映画の見方にいての授業(2) ・映画的空間についての考察。 ・画面と画面外空間の関係について。	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。	60

第4回	映画の見方についての授業(3) ・ショットとはなにか。 ・その分類法やカメラの動きについて。	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。	60
第5回	映画の見方についての授業(4) ・サウンドをめぐる考察。 ・サウンドと画面の関係について。	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・サイレント映画を見る。	90
第6回	サイレント映画についての授業 ・サイレント映画固有の魅力と可能性。 ・サイレントからトーキーへの以降について。 （関連資料の配布）	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。	60
第7回	小テスト ・これまでの授業内容の理解度を確認するためのもの。	
	・テスト準備のために、これまでの授業内容の復習や配布資料の精読。	90
第8回	小テスト内容についての振り返り。 ・課題についての考察。 ・各自の答案についての検証。	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・各自のテスト結果への振り返り。	60
第9回	映画の起源とそこでのまなざしのあり方についての授業(1) ・関連作品の上映と解説。	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連作品への考察を小レポートにまとめる。	90

第10回	映画の起源とそこでのまなざしのあり方についての授業(2) ・関連作品めぐる参加者の発表と討議。 ・映画誕生期の時代背景とまなざしの関係について。 （関連資料の配布）	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。	60
第11回	映画の起源とそこでのまなざしのあり方についての授業(3) ・映画史の進展と物語化をめぐる考察。 ・編集についての考察。	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。	60
第12回	映画と視覚の歴史についての授業(1) ・視覚をめぐる思考の考察。 ・覗き見る視線と映画の関係について。	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・課題作品の鑑賞。	90
第13回	映画と視覚の歴史についての授業(2) ・前回の振り返りと課題作品についての発表、討議、解説。 （関連資料の配布）	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。	60
第14回	映画と視覚の歴史についての授業(3) ・視覚と権力についての考察。	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。	60
第15回	映画と視覚の歴史についての授業(4) ・全体のまとめ。	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・全体の復習と期末レポートの準備。	60

授業の方法

授業は講義を中心に進めるが、適宜、関連する映画の（主として部分的な）上映も行う。もちろん、授業の一環としての上映であり、そもそも映画についての授業である以上、真剣な態度での鑑賞が必要とされ、上映作品についての口頭での質問やディスカッションを行う場合もある。なお、授業に関連する映画を随時、自主的に鑑賞することが望ましいが、それに要する時間については、上記の準備学修時間に含まれない。
なお、各レポート、テストの狙いは以下の通りである。
小テスト：授業や関連資料での学習を通し、映画の基本的な技法について理解でき、それを作品鑑賞で具体的に応用し、文章化できるかを確認する。
小レポート：先のテストの結果を踏まえた改善ができているか、さらに映画の主題を正確に把握し、必要に応じて調べるなどして文章化することができるかを確認する。
期末レポート：授業全体の内容を理解し、映画の分析的な鑑賞法にどこまで到達できているかを確認する。

成績評価の方法

期末レポート（50%）、小テストやレポートも含め、授業での発表や発言など、授業への積極的な参加（50%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

なし

テキスト

なし

参考書

授業中に適宜指定する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	文化人類学の考え方		
教員名	三吉　美加		
科目ナンバー	1201075118	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

本授業は、米国におけるラティーノおよびアフリカ系アメリカ人のコミュニティの形成を理解し、各エスニック集団の文化表象について文化人類学的視点から考察するものである。

主に検討する集団は、アフリカ系アメリカ人、メキシコ系、プエルトリコ系、ドミニカ系、キューバ系である。米国主流社会との関係性を検討しながら、それぞれのコミュニティにみられる若者文化をみていく。

到達目標

受講者は、文化人類学がどのような学問であるかをまず理解し、人種やエスニシティにまつわる社会的文化的事がらを文化人類学的に考察することを学ぶ。

また、米国社会のアフリカ系アメリカ人とラティーノがどのようにそれぞれのコミュニティを形成し、文化的社会的活動を通して、どのようなアイデンティティを強化しているかについて説明できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	配布するプリントをよく読んでおくこと	１０分
第2回	文化人類学的とは？ 文化人類学の特徴、学問形成の背景について説明する	
	配布されたプリントをよく読んでくること	１０分
第3回	アフリカ系アメリカ人の歴史とコミュニティの形成 米国のアフリカ系アメリカ人の歴史を概観した後、奴隷解放後、どのように全米で黒人コミュニティが形成されていったかを解説する	
	配布されたプリントをよく読んでくること	１０分

第4回	アフリカ系アメリカ人のコミュニティ 南部とシカゴ、ワシントンD.C.、ニューヨーク、ロサンゼルスなどの米国大都市部のアフリカ系アメリカ人の生活経験の差について解説する	
	配布されるプリントをよく読んでくること。講義中、言及する都市や州名を地図で確認すること	２０分
第5回	ブラックカルチャー ジャズにおけるアフリカ系アメリカ人やカリブ系の影響、 ソウル音楽、R&Bなどに共通してみられる「黒人らしい」特徴について解説する	
	配布されるプリントをよく読んでくること	１５分
第6回	ラティーノとは？ ラティーノと呼ばれる人びとはどういう人びとなのだろうか。彼らの米国社会における影響は？なぜ多くのラティーノが米国に流入しつづけるのかについて解説する	
	教科書の該当章をよく読んでくること	３０分
第7回	メキシコ系アメリカ人 １９世紀半ばの米墨の関係を説明した後、どのようにメキシコ人が「アメリカ人」になったかをみていく。また、現在の南西部およびロサンジェルスのメキシコ系のコミュニティを具体的にみていく。そのなかで、若い人びとの間で流行するローライダーの文化を検討する。	
	教科書の該当章をよく読んでくること。メキシコ系文化にどのようなものがあるかを各自調べてくる。	４５分
第8回	ロサンゼルスのメキシコ系とサルバドル系 ロサンゼルスにおいてどのようにメキシコ系とサルバドル系がコミュニティをそれぞれ形成しているのか理解する	
	教科書の該当章をよく読んでくること。サルバドル系の文化にどのようなものがあるか各自調べてくる	４５分
第9回	プエルトリコ系アメリカ人 プエルトリコ系が「米国人」になった歴史的経緯を説明した後、彼らが集中するニューヨーク市のコミュニティについてみていく。	
	教科書の該当章をよく読んでくる。プエルトリコ系文化にどのようなものがあるか各自調べてくる	４５分

第10回	プエルトリコ系の文化復興運動 ニューヨーク市で１９５０年代からみられたプエルトリコ系による社会運動に注目する。また、サルサ、ボンバ、レゲトンなどの文化表象を検討し、アイデンティティの表象とどのようにかかわっているかを理解していく	
	教科書の該当章をよく読んでくる	４５分
第11回	キューバ系アメリカ人 キューバと米国の歴史的なかかわりを理解した後、キューバ人が大勢米国にやってきた時期を検討する。また、彼らがマイアミに築いたキューバ系コミュニティのなかからどのような文化が登場したかをみていく。	
	教科書の該当章をよく読んでくる	４０分
第12回	ドミニカ系アメリカ人 ドミニカ人が大勢米国に押し寄せてくるようになった社会的背景を検討しながら、ニューヨーク市の彼らのコミュニティについて解説する。	
	教科書の該当章をよく読んでくる	４０分
第13回	ニューヨークのドミニカ系コミュニティ ラティーノやアフリカ系も多く居住するドミニカ系コミュニティでどのような若者文化が創造されているかについてみていく。	
	教科書の該当章をよく読んでくる	２０分
第14回	講義のまとめ	
	配布したプリント、教科書を再読する	６０分
第15回	試験	
	よく準備をして試験に臨むこと	６０分

授業の方法

１回から３回目の授業は、講義中心となるが、それ以降は、ディスカッションやグループワークを取り入れる。

成績評価の方法

リアクションペーパー２０％、
授業参加度（発言、グループワークでの積極性）２０％、
小テスト　２０％
期末テスト　４０％

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

初回授業時指示する

参考書

初回授業時指示する

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	政治学の基礎 <1>		
教員名	(教員未定)		
科目ナンバー	1101472010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

現代の複雑な政治現象を読み解くための分析的視座を培う。日本では現在、社会構造が大きく変化するなかで、意志決定システムとしての政治制度のあり方も根底から問い直されてきている。そこで現代の政治制度の歴史的・思想的な成り立ちを踏まえたうえで、政治過程に大きな影響力を及ぼしているアクターとして、内閣、官僚、政党、利益団体、そしてマス・メディアなどを取り上げ、その機能や意義について分析する。また、1990年代以降の日本の政治改革や行政改革についても併せて検討する予定である。

到達目標

政治学の基礎的な理論や概念を理解することで、最終的には、政治をめぐって自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る市民的教養を身につけることを目標としている。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	政治とは何か？：権力と公共善	
	政治について自分なりのイメージを考えてみる。	30分
第2回	権力分立(1)：ジョン・ロック	
	配布されたレジュメとテキストの53-57頁を読む。	30分
第3回	権力分立(2)：モンテスキュー	
	配布されたレジュメとテキストの53-57頁を読む。	30分

第4回	権力分立（３）：フェデラリスト	
	配布されたレジュメや資料を読んで内容を確認する。	30分
第5回	政治制度（１）：大統領制と議院内閣制	
	配布されたレジュメとテキストの227-232頁を読む。	30分
第6回	政治制度（２）：日本型議院内閣制	
	配布されたレジュメとテキストの215-220頁を読む。	30分
第7回	官僚制（１）：合法的支配の特質	
	配布されたレジュメと、テキストの97-100頁および238-240頁を読む。	30分
第8回	官僚制（２）：公務員任用制度	
	配布されたレジュメや資料を読んで内容を確認する。	30分
第9回	官僚制（３）：日本の行政改革	
	配布されたレジュメとテキストの220-227頁を読む。	30分

第10回	政党制（１）：政党の構造	
	配布されたレジュメとテキストの493-504頁を読む。	30分
第11回	政党制（２）：政党制の諸類型	
	配布されたレジュメとテキストの504-511頁を読む。	30分
第12回	政党制（３）：日本の政治改革	
	配布されたレジュメや資料を読んで内容を確認する。	30分
第13回	利益団体：利益団体政治の意義と限界	
	配布されたレジュメとテキストの469-489頁を読む。	30分
第14回	マス・メディア（１）：メディアの影響力	
	配布されたレジュメとテキストの427-444頁を読む	30分
第15回	マス・メディア（２）：テレビ報道と政治	
	配布されたレジュメとテキストの427-444頁を読む。	30分

授業の方法
配布するレジュメや資料に基づいて講義を進める。講義形式だが、質問については積極的に歓迎する。

成績評価の方法
定期試験の成績によって評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特別な予備知識は必要としないが、日頃から新聞をよく読んでおくこと。

テキスト
授業はテキストどおりに進められるわけではないが、以下の文献は授業の理解に有益である。
久米郁男ほか『政治学［補訂版］』有斐閣、2011年。

参考書
関連する参考書については、授業中に適宜指示する。さしあたり以下の文献を参照のこと。
川崎修・杉田敦編『現代政治理論［新版］』有斐閣、2012年。
山口二郎『内閣制度』東京大学出版会、2007年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	政治学の基礎 ＜2＞		
教員名	(教員未定)		
科目ナンバー	1301072010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

現代の複雑な政治現象を読み解くための分析的視座を培う。日本では現在、社会構造が大きく変化するなかで、意志決定システムとしての政治制度のあり方も根底から問い直されてきている。そこで現代の政治制度の歴史的・思想的な成り立ちを踏まえたうえで、政治過程に大きな影響力を及ぼしているアクターとして、内閣、官僚、政党、利益団体、そしてマス・メディアなどを取り上げ、その機能や意義について分析する。また、1990年代以降の日本の政治改革や行政改革についても併せて検討する予定である。

到達目標

政治学の基礎的な理論や概念を理解することで、最終的には、政治をめぐって自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る市民的教養を身につけることを目標としている。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	政治とは何か？：権力と公共善	
	政治について自分なりのイメージを考えてみる。	30分
第2回	権力分立(1)：ジョン・ロック	
	配布されたレジュメとテキストの53-57頁を読む。	30分
第3回	権力分立(2)：モンテスキュー	
	配布されたレジュメとテキストの53-57頁を読む。	30分

第4回	権力分立（３）：フェデラリスト	
	配布されたレジュメや資料を読んで内容を確認する。	30分
第5回	政治制度（１）：大統領制と議院内閣制	
	配布されたレジュメとテキストの227-232頁を読む。	30分
第6回	政治制度（２）：日本型議院内閣制	
	配布されたレジュメとテキストの215-220頁を読む。	30分
第7回	官僚制（１）：合法的支配の特質	
	配布されたレジュメと、テキストの97-100頁および238-240頁を読む。	30分
第8回	官僚制（２）：公務員任用制度	
	配布されたレジュメや資料を読んで内容を確認する。	30分
第9回	官僚制（３）：日本の行政改革	
	配布されたレジュメとテキストの220-227頁を読む。	30分

第10回	政党制（１）：政党の構造	
	配布されたレジュメとテキストの493-504頁を読む。	30分
第11回	政党制（２）：政党制の諸類型	
	配布されたレジュメとテキストの504-511頁を読む。	30分
第12回	政党制（３）：日本の政治改革	
	配布されたレジュメや資料を読んで内容を確認する。	30分
第13回	利益団体：利益団体政治の意義と限界	
	配布されたレジュメとテキストの469-489頁を読む。	30分
第14回	マス・メディア（１）：メディアの影響力	
	配布されたレジュメとテキストの427-444頁を読む	30分
第15回	マス・メディア（２）：テレビ報道と政治	
	配布されたレジュメとテキストの427-444頁を読む。	30分

授業の方法
配布するレジュメや資料に基づいて講義を進める。講義形式だが、質問については積極的に歓迎する。

成績評価の方法
定期試験の成績によって評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特別な予備知識は必要としないが、日頃から新聞をよく読んでおくこと。

テキスト
授業はテキストどおりに進められるわけではないが、以下の文献は授業の理解に有益である。
久米郁男ほか『政治学［補訂版］』有斐閣、2011年。

参考書
関連する参考書については、授業中に適宜指示する。さしあたり以下の文献を参照のこと。
川崎修・杉田敦編『現代政治理論［新版］』有斐閣、2012年。
山口二郎『内閣制度』東京大学出版会、2007年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	経済学の基礎 ＜2＞		
教員名	大野　正智		
科目ナンバー	1101472020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

現代の経済は自由な市場取引を通じて各種の「資源配分」が決まっていくのが基本であるが、「市場経済」は万能ではなく、政府や中央銀行のような公共セクターも大きな役割を果たしている。本講義では、そのような現代経済を理解するための基礎的な見方・考え方を紹介する。 なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

到達目標

現代社会を理解するための重要な視角として、「経済的なものの見方・考え方」を育てることを目標にする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	シラバスを読み講義内容を確認する。 授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	60
第2回	＜ミクロ編＞ 家計の行動 　財への需要	
	家計や需要の意味を理解する。	90
第3回	家計の行動 　労働の供給	
	家計と労働の関係を理解する。	60

第4回	企業と生産活動	
	費用と利潤に関する概念を理解する。	90
第5回	競争市場と資源配分	
	経済学における資源と効率性の意味を理解する。	60
第6回	競争市場の失敗	
	競争市場が成立する条件とともに、それが成立しないケースを理解する。	60
第7回	政府と公共財 　　政府の規模、政府の機能、公共財とタダ乗り	
	政府を経済学的に理解する。	60
第8回	政府支出の資金調達	
	政府におけるお金の流れを理解する。	60
第9回	これまでのまとめと補足 授業内テスト	
	イントロダクション、及び、ミクロ編に関するこれまでの学習内容を確認する。	60

第10回	授業内テストの解説と補足 ＜マクロ編＞ マクロ経済 　　日本経済の規模、経済成長率、景気循環	
	中間テストにおける自分の到達度を確認し、不十分な点があれば補う。 マクロ経済とは何か理解する。	60
第11回	GDPの概念とその成長・循環	
	GDPとは何か理解する。	90
第12回	物価と為替レート 　　物価、インフレーション・デフレーション 　　為替レート、実質経済成長率	
	物価と実質の関係を理解する。	90
第13回	貨幣・金融市場と利子率	
	金融市場のキーワードを理解する。	60
第14回	マクロ経済政策　政府と中央銀行 　　財政政策、金融政策、マクロ政策の効果	
	経済政策とは何か理解する。	60
第15回	まとめ　ミクロ編とマクロ編の復習	
	全体を振り返り、各テーマの要点を確認する。	90

授業の方法

板書・配布物を中心に講義を行うが、講義内容と連動性の高い参照文献の一例として以下の参考書を挙げる。その他類似の参考文献を含め、詳細は、必要に応じ、講義内で紹介する。なお、授業の進度に応じて、授業内でのテストの実施時期や回数は異なることがある

成績評価の方法

平常点（授業内のテスト）30%、期末試験70%.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・経済学の基本的なキーワードを正確に理解しているか。
・ミクロ経済学が扱うテーマを論理的に理解できているか。
・マクロ経済学が扱うテーマを論理的に理解できているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

『入門経済学（第２版）』井堀利宏【著】新世社；サイエンス社
ISBN:9784883841110（4883841111） 2572円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	経済学の基礎 ＜3＞		
教員名	武藤　恭彦		
科目ナンバー	1301072020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

現代の経済は自由な市場取引を通じて各種の「資源配分」が決まっていくのが基本であるが、「市場経済」は万能ではなく、政府や中央銀行のような公共セクターも大きな役割を果たしている。本講義では、そのような現代経済を理解するための基礎的な見方・考え方を紹介する。 なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

到達目標

現代社会を理解するための重要な視角として、「経済的なものの見方・考え方」を育てることを目標にする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	シラバスを読み講義内容を確認する。 授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	60分
第2回	＜ミクロ編＞ 家計の行動 　財への需要	
	家計や需要の意味を理解する。	90分
第3回	家計の行動 　労働の供給	
	家計と労働の関係を理解する。	60

第4回	企業と生産活動	
	費用と利潤に関する概念を理解する。	90
第5回	競争市場と資源配分	
	経済学における資源と効率性の意味を理解する。	60
第6回	競争市場の失敗	
	競争市場が成立する条件とともに、それが成立しないケースを理解する。	60
第7回	政府と公共財 　　政府の規模、政府の機能、公共財とタダ乗り	
	政府を経済学的に理解する。	60
第8回	政府支出の資金調達	
	政府におけるお金の流れを理解する。	60
第9回	これまでのまとめと補足 授業内テスト	
	イントロダクション、及び、ミクロ編に関するこれまでの学習内容を確認する。	60

第10回	授業内テストの解説と補足 ＜マクロ編＞ マクロ経済 　　日本経済の規模、経済成長率、景気循環	
	中間テストにおける自分の到達度を確認し、不十分な点があれば補う。 マクロ経済とは何か理解する。	60
第11回	GDPの概念とその成長・循環	
	GDPとは何か理解する。	90
第12回	物価と為替レート 　　物価、インフレーション・デフレーション 　　為替レート、実質経済成長率	
	物価と実質の関係を理解する。	90
第13回	貨幣・金融市場と利子率	
	金融市場のキーワードを理解する。	60
第14回	マクロ経済政策　政府と中央銀行 　　財政政策、金融政策、マクロ政策の効果	
	経済政策とは何か理解する。	60
第15回	まとめ　ミクロ編とマクロ編の復習	
	全体を振り返り、各テーマの要点を確認する	90

授業の方法

板書・配布物を中心に講義を行うが、講義内容と連動性の高い参照文献の一例として以下の参考書を挙げる。その他類似の参考文献を含め、詳細は、必要に応じ、講義内で紹介する。なお、授業の進度に応じて、授業内でのテストの実施時期や回数は異なることがある

成績評価の方法

平常点（授業内のテスト）30%、期末試験70%.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。
・経済学の基本的なキーワードを正確に理解しているか。
・ミクロ経済学が扱うテーマを論理的に理解できているか。
・マクロ経済学が扱うテーマを論理的に理解できているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

『入門経済学（第２版）』井堀利宏【著】新世社；サイエンス社
ISBN:9784883841110（4883841111） 2572円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	社会学と現代 <1>		
教員名	挟本　佳代		
科目ナンバー	1101472030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

「公と私のゆくえ」

この授業では「公と私」をキーワードに、現在、わたしたちが生きている社会がどのような問題を抱えているのかを考察していく。

「公と私」とは、「社会と個人」「国家と個人」とも言い換えることができる。これまで、わたしたち個人が感じてきた閉塞感は、個人が社会の中で生きづらいというだけでなく、個人が社会との距離感があまりにもありすぎるという現状からも引き起こされているのかもしれまない。個人の利益を追求すると、社会的正義が成り立たなくなるという事例も、「公と私」の問題のひとつといえる。

この授業では、わたしたち個人が社会の中でおかれている現状も考えていく。自分が生きている社会を追求してみようという強い問題意識をもって、授業に臨んで欲しい。

到達目標

①社会でおきている「公と私」の相克関係を理解し、説明できる。
②自分が生きている社会の問題点の在処を知ることができる。
③社会の中での自らの立ち位置を明確にすることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・「公と私」の関係性の破綻にはどのようなものがあるかを把握する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】	60
第2回	「社会」とは何か／その理論（１） ・社会学における社会理論を解説する。 ・そもそも「社会」とはどういう状態を指し示しているのかを解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第3回	「社会」とは何か／その理論（２） ・社会学の歴史を通し、「社会」がどのように捉えられるべきものとして変遷してきたのかを解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60

第4回	「社会」としての人間の結びつき／つながりの限界（１） ・「無縁社会」の現状を解説する。 ・「無縁社会」批判を解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第5回	「社会」としての人間の結びつき／つながりの限界（２） ・「無縁社会」は人間の結びつきやつながりの限界なのかどうかを考察する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第6回	コミュニティの可能性 ・コミュニティは人間の結びつき、つながりを密接なものにするのかどうかを考察する。 ・「コミュニティ」という言葉が使われる現状を解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	90
第7回	中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するため　のテストを行う。	
	【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。	60
第8回	コミュニケーション不全は解決できるか（１） ・平野啓一郎による「分人」という考え方を解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第9回	コミュニケーション不全は解決できるか（２） ・「分人」によって社会の中の一人の人間は救われるかどうかを考察する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60

第10回	大きな政府と小さな政府と個人（１） ・「大きな政府」「小さな政府」を解説する。 ・それぞれの政府の問題点についても検討する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第11回	大きな政府と小さな政府と個人（２） ・個人が「公」との矛盾を小さくするには、どちらの政府が良いのかを考察する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第12回	ネットワーク／メディアの可能性 ・社会全体と個人の意思疎通を図るものとして、ネットワークやメディアはどのように使われていくべきかを解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第13回	わたし探しのゆくえ ・社会の中で上手くコミュニケーションがとれない人間は、アイデンティティの在処を追い求める「わたし探し」をしなければならないのか、について解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第14回	社会的正義と個人（１） ・ロールズ『正義の理論』を解説する。 ・ロールズ正義論の批判を解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第15回	社会的正義と個人（２） ・個人の利益と社会的正義の相克関係をさらに解説する。 ・これまでの学修内容を振り返り、現代社会における「公と私」の諸問題を確認する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60

授業の方法

基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。
随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。
上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。
なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。
・中間テスト：第１回～６回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。
・課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。
・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

成績評価の方法

随時行う課題への解答／コメント（20%）、中間テスト（20%）、到達度確認テスト（60%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度によって評価する。
・基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。
・人間と自然環境との関係性に対する深い思考。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。開講後に適宜指示する。

参考書

特になし。開講後に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	社会学と現代 ＜2＞		
教員名	金崎　一郎		
科目ナンバー	1401072030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

社会学は従来イメージしにくい学問であると考えらてきたが、近年その研究対象の広さからか、「社会学の時代」と言われるまで一般に受け入れられた感がある。社会の様々な領域に応用され、ポップな印象を持っている学生も多いだろう。この講義では、３つの議論に分けて社会学の内容を見ていくことにしたい。
A 社会学の前提に関わる議論
B マクロな社会についての社会学的な説明に関わる議論
C ミクロな社会についての社会学的な説明に関わる議論
まずAにおいて、社会学だけでなくより広く社会科学の見地から概念や理論構成、人間観、文化・集団・個人についての基本的な議論を、Bでは、マクロに捉えられた社会を近代・資本主義・産業社会という点から、そしてCで、ミクロな社会として対面的状況における他者との関係性を表出的行為の視点から、それぞれ見ていくことになる。講義を通じて最終的に、マクロ・ミクロ様々な現代社会の諸現象を社会学的な視座から捉え、記述・説明できるようになってもらいたい。

到達目標

①人間の社会性についての社会学的な理解を深める
②社会学的な記述・説明のタイプを理解すること
③自分を取り込んだ具体的な対面的状況の記述・説明ができること
④学習した概念を具体的な社会現象に適用・応用できること

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・講義の概要、進め方、予習・復習についての説明 A1 社会科学の用語法（１） ・定義と認識 ・科学言語の構成 ・理論構成のタイプ	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	６０
第2回	A1 社会科学の用語法（２） ・科学と価値判断 ・価値自由と社会的責任	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	６０
第3回	A2 社会学の前提 ・社会学はどのようにを捉えるか 社会学の「人間観」について ・経済学との対比 としての人間 ・自己現象からみる人間の ・知覚からみる人間の ・「自明性」からみる人間の	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	６０

第4回	A2 自己現象からみる人間の ・Cooleyの「鏡映自己」 ・G.H.Meadの「役割取得」、「I と Me」 ・吉田民人の「自己包絡図式」	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	６０
第5回	A2 知覚からみる人間の ・視覚と他の知覚について ・Bruner&Goodmanの「過大視実験」 ・Sherifの「規範形成実験」	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	６０
第6回	A2 「自明性」からみる人間の ・性に関わるアイデンティティと文化の拘束 A3 文化と価値 ・生物の進化段階と文化 ・丸山圭三郎の「見分け」と「言分け」 ・言語について ・意味と価値	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	６０
第7回	A3 集団と個人 ・近代・前近代における集団との関わり ・個人主義の歴史的変容 ・欲望の個人主義の登場 ・Girardの「欲望の三角形」 ・Mertonの「準拠集団」	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	６０
第8回	B1 DurkheimとWeberにみる社会学の方法 Durkheimの捉えたの関係 ・『自殺論』から ・集合意識と自殺	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	６０
第9回	B2 Weberの捉えた「宗教と資本主義」について ・『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』から ・Weber vs. Marxについて ・資本主義の精神（ethos）	

	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	６０
第10回	B3 Frommの捉えた「近代と自由」 ・『自由からの逃走』から ・ファシズムと	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	６０
第11回	C 対面的状況での相互行為について ・活動としての行為と表出としての行為 ・Goffmanの演出論的社会学の視点	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また自分と周囲の他者との関係に対する適用・応用。	６０
第12回	C 「パフォーマンス(performance)」について ・外面(front) ・劇的具象化(dramatization) ・理想化(idealization)など	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また自分と周囲の他者との関係に対する適用・応用。	６０
第13回	C 「チーム(team)」について ・チームのメンバーの関係性 ・チーム単位で行うパフォーマンスの方針	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また自分と周囲の他者との関係に対する適用・応用。	６０
第14回	C 「局域(region)」について ・相互行為の場・空間 ・「表局域」と「裏局域」 ・「局域」のコントール	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また自分と周囲の他者との関係に対する適用・応用。	６０
第15回	講義全体の総括と質疑	

	【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。	６０

授業の方法

教室における講義を中心とする。

成績評価の方法

期末試験（あるいは授業内試験）及び出席よって評価する。
出席は適宜取る。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

井上俊・大村英昭、1993年、『社会学入門』、日本放送出版協会

参考書

講義時に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	社会学と現代 <3>		
教員名	青山　陽子		
科目ナンバー	1401072030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

なぜ、自分が他ならぬ仕方でこのように存在するのか、他者とのやりとりはどうして成り立つのか。いかにして何事もなく日々は過ぎていくのか。社会学は、こうした当たり前の日常の中に問いを立てる学問です。それは、一般社会の常識的なものの見方をいったん括弧に入れて、社会を見つめ直す作業から始まり、人々のふるまいのなかに、人々の相互作用のなかに、人々の集まりのなかに、社会の存在を複眼的にみいだし、探求していく営みといえます。講義では、まず、社会学の学問的な歴史を概観したのち、様々な領域における社会のあらわれについて考えてゆきます。

到達目標

社会を読み解く学問としての社会学のユニークな見方や考え方を身につける。社会学への関心を深め、現実社会への洞察力を高める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の概要と進め方	
	シラバスを読んでくる。	30
第2回	社会学の視点1（社会学の対象と方法・分析のレベル）	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第3回	社会学の視点2（社会学の草創から現代まで）	
	キーワードについて説明できるようにする。	60

第4回	社会学の歴史1（ミクロな視点からみる社会）	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第5回	社会学の歴史2（マクロな視点からみる社会）	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第6回	社会化と人間形成1（家族のなかの個人）	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第7回	社会化と人間形成2（多様化する家族）	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第8回	規範と逸脱1（役割と社会的自己）	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第9回	規範と逸脱2（逸脱的下位文化とスティグマ）	
	キーワードについて説明できるようにする。	60

第10回	構造と社会問題1（学校と文化的再生産）	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第11回	構造と社会問題2（格差と階層）	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第12回	構造と社会問題3（医療化する社会）	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第13回	多元化する現代社会1（国家とグローバリゼーション）	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第14回	多元化する現代社会2（日本におけるエスニシティ）	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第15回	まとめ	
	到達確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	120

授業の方法
講義形式で行います。

成績評価の方法
講義中の小スト20%、筆記試験80%。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特に必要としません。

テキスト
特に指定しません。

参考書
授業時に適宜指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	日本国憲法 ＜1＞		
教員名	小沼　史彦		
科目ナンバー	1101472040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

日本国憲法は、大学入学以前にも、社会科関係の科目で習いました。国民主権、平和主義、そして基本的人権の尊重を基本原理とする憲法だということは、皆さんご存知だと思います。では、国民主権の国民とは、いったい誰のことでしょう？日本国籍を持っている人は皆、主権者国民なのでしょうか？また、「住民」と言ったときには、国籍は問題になるでしょうか。ここでは一例だけを挙げてみましたが、言葉としては知っていても、それが何を意味する概念なのか、実際にはよく分かっていないものがいくつもありそうです。

現代の立憲主義は、国際的な広がりを見せています。国際社会では、国家の枠を超えて人類が取り組むべき価値の問題（人権、平和、環境など）が認識されるようになってきています。国際社会に共通の価値を含む憲法について学ぶことは、今後益々重要になってくるでしょう。

この授業では、日本社会の基本的なルールのあり方について、憲法の基本的な考え方や基本的人権の諸問題を中心に取り上げながら、単なる知識の伝達を越えて、皆さんと一緒に考えて行きます。

到達目標

現代の憲法が持つ基本的な考え方を理解する。
立憲主義的な観点から政治を見ることが出来る。
近代的な憲法の歴史を押さえた上で、自分なりの視点を持つ。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	憲法とは何か？	
	教科書や参考書の好きなところを読んでみて、憲法学の議論に触れる。	120分
第2回	日本国憲法の誕生	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	120分
第3回	日本国憲法の基本原理（1）　国民主権	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	120分

第4回	日本国憲法の基本原理（2）　平和主義	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	120分
第5回	日本国憲法の基本原理（3）　基本的人権の尊重・人権総論	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	120分
第6回	精神的自由（1）　思想良心の自由・信教の自由	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	120分
第7回	精神的自由（2）　表現の自由	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	120分
第8回	経済的自由	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	120分
第9回	人身の自由　憲法と刑事法	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	120分

第10回	社会権（1）　生存権	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	120分
第11回	社会権（2）　教育を受ける権利・労働基本権	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	120分
第12回	包括的人権条項・幸福追求権	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	120分
第13回	三権分立（1）　議院内閣制	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	120分
第14回	三権分立（2）　裁判所・地方自治	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	120分
第15回	まとめ 以上の予定で進行しますが、講義を進めて行く中で、必要に応じて修正することもあります。	
	講義ノートの振り返り。	120分

授業の方法
講義形式で行いますが、皆さんに問題を考えてもらうなど、コミュニケーションを取りながら、双方向の授業を目指します。

成績評価の方法
学期末試験による。平常点も考慮する場合もある。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特にありませんが、社会や政治の動きを知る努力をしてください。

テキスト
初宿・大沢・高橋・常本・高井編著『目で見る憲法　第4版』有斐閣　ISBN978-4-641-13104-0

参考書
六法（『ポケット六法』、『セレクト六法』、『岩波基本六法』など）
渋谷秀樹『憲法への招待』岩波新書（具体的な問題に関する24の短い章からなっているので読みやすい）
安部圭介『速効！憲法ノート』DTP出版（公務員試験向け）
その他、適宜指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
質問･相談の宛先：konuma△mail.dendai.ac.jp（△はアットマーク）
E-mailを送る際は、必ず件名に成蹊大学の日本国憲法履修者であることが分かるように書くこと。必ず氏名（可能であれば学籍番号も）を明記すること。

科目名	日本国憲法 ＜2＞		
教員名	三田　奈穂		
科目ナンバー	1301072040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

日本国憲法は、国の最高法規である。憲法は、中学・高校の社会科の授業で扱われ、また、近年はニュース等で盛んに取り上げられることもあって、比較的馴染み深い学問領域であるかも知れない。しかし、憲法の本質とは何か、何をもとにして記されているのか、他の法令に優位しなければならないのは何故か等について、明確な答えを導き出せる学生は少ないのではないか。大学の講義では、憲法に関する大体の制度的枠組みを理解したうえで、それら制度の沿革や趣旨、目的・機能等を検討することに重点を置いている。制度の意義を深く理解することによって、近代立憲主義の国家の礎といえる憲法の本当意味を理解することが可能となるからである。

到達目標

本講義の到達目標は、受講生が、①憲法の個々の条文に記載された内容に関する知識を修得し、②憲法とは国家権力を制限し広く人権を保障する法であるという本質を理解することを身に付けられることである。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	はじめに 憲法とは何か、その語源を探りながら問題提起をおこなう。	
	シラバスを一読しておくこと。	６０分
第2回	憲法と立憲主義 「憲法」という言葉の有する意味について検討しながら、国家について考える。	
	日本国憲法の目次および前文を一読しておくこと。	６０分
第3回	日本国憲法制定史と天皇の地位 大日本帝国憲法から日本国憲法への制定の歴史を概観する。	
	憲法第１章を一読しておくこと。また、大日本帝国憲法の条文を一覧しておくことが望ましい。	６０分

第4回	国民主権の原理 前文の内容から、日本国憲法の３つの基本原理、特に国民主権について説明する。	
	「主権」という言葉について調べておくこと。	６０分
第5回	平和主義の原理 戦争の放棄について、憲法第９条の成立経緯を中心に説明する。	
	憲法第２章を一読しておくこと。また、条文を読みながら、自衛隊の存在について考えてみること。	６０分
第6回	基本的人権の原理（１）――人権の歴史とその内容 西洋の人権宣言を検討しながら、人権とは何かを考える。	
	高等学校レベルの近代ヨーロッパの歴史を復習しておくこと。	６０分
第7回	基本的人権の原理（２）――人権の保障とその限界 人権制限が許される場合について説明する。	
	憲法第３章および第９７条を一読しておくこと。	６０分
第8回	包括的基本権 幸福追求権とそこから導き出される人権について説明する。	
	憲法第１３条を一読しておくこと。また、条文が意味する内容について考えてみること。	６０分
第9回	法の下の平等 平等原則について、昨年最高裁が判示した非嫡出子相続分規定に関する違憲決定を素材としながら検討する。	
	憲法第１４条を一読しておくこと。また、差別とは何かについて考えてみること。	６０分

第10回	自由権 自由権の種類を概観する。	
	再度、憲法第３章を一読しておくこと。	６０分
第11回	社会権 生存権、教育を受ける権利、労働基本権について説明する。	
	憲法第２５条を一読しておくこと。また、社会保障について考えてみること。	６０分
第12回	三権分立の概要 権力分立の意義を学び、日本国憲法に規定された各権力の内容を概観する。	
	憲法第４～６章を一読しておくこと。	６０分
第13回	法令審査権と司法権の優越性 憲法８１条の意味する内容について、沿革と併せて検討する。	
	第１２回の講義を踏まえ、三権相互の関係を図式化しておくこと。	６０分
第14回	憲法改正論議をめぐって 近年盛んな憲法改正に関する議論を概観し、改正方法や国民投票、参政権について説明する。	
	憲法第９章および第１５条を一読しておくこと。また、ニュースや新聞記事等を通じて、どのような議論があるのか調べておくことが望ましい。	６０分
第15回	おわりに 憲法の存在意義についてあらためて考え、その本質をとらえる。	
	これまで扱ったプリント、自筆メモ・ノート等を整理し、試験に向けた対策をおこなうこと。	３００分以上

授業の方法

原則として講義形式をとるが、法的な問題意識に関する問いかけに対して、指名された受講生には意見を述べてもらいたい。また、教材としてビデオ等の視聴覚教材も使用する。

成績評価の方法

成績評価の80%は定期試験により、20%は抜き打ちで実施する小テスト・授業内レポートによる。定期試験の形式・内容等については、講義中に言及する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。
憲法問題については、しばしば新聞やテレビ等で扱われることがあるので、ニュースを追いながら法的意識を高めていくこと。

テキスト

プリントを配布する。配布資料は整理してファイリングすること。

参考書

芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法〔第5版〕』（岩波書店、2011年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内ホームページにて周知する。

科目名	日本国憲法 ＜3＞		
教員名	三田　奈穂		
科目ナンバー	1301072040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

日本国憲法は、国の最高法規である。憲法は、中学・高校の社会科の授業で扱われ、また、近年はニュース等で盛んに取り上げられることもあって、比較的馴染み深い学問領域であるかも知れない。しかし、憲法の本質とは何か、何をもとにして記されているのか、他の法令に優位しなければならないのは何故か等について、明確な答えを導き出せる学生は少ないのではないか。大学の講義では、憲法に関する大体の制度的枠組みを理解したうえで、それら制度の沿革や趣旨、目的・機能等を検討することに重点を置いている。制度の意義を深く理解することによって、近代立憲主義の国家の礎といえる憲法の本当意味を理解することが可能となるからである。

到達目標

本講義の到達目標は、受講生が、①憲法の個々の条文に記載された内容に関する知識を修得し、②憲法とは国家権力を制限し広く人権を保障する法であるという本質を理解することを身に付けられることである。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	はじめに 憲法とは何か、その語源を探りながら問題提起をおこなう。	
	シラバスを一読しておくこと。	６０分
第2回	憲法と立憲主義 「憲法」という言葉の有する意味について検討しながら、国家について考える。	
	日本国憲法の目次および前文を一読しておくこと。	６０分
第3回	日本国憲法制定史と天皇の地位 大日本帝国憲法から日本国憲法への制定の歴史を概観する。	
	憲法第１章を一読しておくこと。また、大日本帝国憲法の条文を一覧しておくことが望ましい。	６０分

第4回	国民主権の原理 前文の内容から、日本国憲法の３つの基本原理、特に国民主権について説明する。	
	「主権」という言葉について調べておくこと。	６０分
第5回	平和主義の原理 戦争の放棄について、憲法第９条の成立経緯を中心に説明する。	
	憲法第２章を一読しておくこと。また、条文を読みながら、自衛隊の存在について考えてみること。	６０分
第6回	基本的人権の原理（１）――人権の歴史とその内容 西洋の人権宣言を検討しながら、人権とは何かを考える。	
	高等学校レベルの近代ヨーロッパの歴史を復習しておくこと。	６０分
第7回	基本的人権の原理（２）――人権の保障とその限界 人権制限が許される場合について説明する。	
	憲法第３章および第９７条を一読しておくこと。	６０分
第8回	包括的基本権 幸福追求権とそこから導き出される人権について説明する。	
	憲法第１３条を一読しておくこと。また、条文が意味する内容について考えてみること。	６０分
第9回	法の下の平等 平等原則について、昨年最高裁が判示した非嫡出子相続分規定に関する違憲決定を素材としながら検討する。	
	憲法第１４条を一読しておくこと。また、差別とは何かについて考えてみること。	６０分

第10回	自由権 自由権の種類を概観する。	
	再度、憲法第３章を一読しておくこと。	６０分
第11回	社会権 生存権、教育を受ける権利、労働基本権について説明する。	
	憲法第２５条を一読しておくこと。また、社会保障について考えてみること。	６０分
第12回	三権分立の概要 権力分立の意義を学び、日本国憲法に規定された各権力の内容を概観する。	
	憲法第４～６章を一読しておくこと。	６０分
第13回	法令審査権と司法権の優越性 憲法８１条の意味する内容について、沿革と併せて検討する。	
	第１２回の講義を踏まえ、三権相互の関係を図式化しておくこと。	６０分
第14回	憲法改正論議をめぐって 近年盛んな憲法改正に関する議論を概観し、改正方法や国民投票、参政権について説明する。	
	憲法第９章および第１５条を一読しておくこと。また、ニュースや新聞記事等を通じて、どのような議論があるのか調べておくことが望ましい。	６０分
第15回	おわりに 憲法の存在意義についてあらためて考え、その本質をとらえる。	
	これまで扱ったプリント、自筆メモ・ノート等を整理し、試験に向けた対策をおこなうこと。	３００分以上

授業の方法

原則として講義形式をとるが、法的な問題意識に関する問いかけに対して、指名された受講生には意見を述べてもらいたい。また、教材としてビデオ等の視聴覚教材も使用する。

成績評価の方法

成績評価の80%は定期試験により、20%は抜き打ちで実施する小テスト・授業内レポートによる。定期試験の形式・内容等については、講義中に言及する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。
憲法問題については、しばしば新聞やテレビ等で扱われることがあるので、ニュースを追いながら法的意識を高めていくこと。

テキスト

プリントを配布する。配布資料は整理してファイリングすること。

参考書

芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法〔第5版〕』（岩波書店、2011年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内ホームページにて周知する。

科目名	市民生活と法 I		
教員名	松元　安子		
科目ナンバー	1101472050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

法とは何かを理解するとともに、交通事故をはじめとする事故、家族関係などの日常的な問題が、どのような法律によって規定されているのかを、身近な事例を通して理解することを目的とする。内容としては、主として民法の不法行為、親族、相続に関する主要な条文や法的概念の理解をはかる。必要に応じて、民事裁判の手続、労働法、刑法などについても説明する。法学部法律学科の学生は履修不可となっている。なるべくわかりやすい事例の説明を盛り込みながら授業を進める。

到達目標

民事責任、刑事責任など、法的な考え方の基本を習得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	私法と公法　民事裁判と刑事裁判 日常生活におけるアクシデント	
	予習　シラバスを読み、授業の概要、進め方を知る 復習　授業の内容の理解確認	20
第2回	不法行為と損害賠償請求	
	予習　テキストの指定の箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第3回	損害額の算定　慰謝料　過失相殺	
	予習　テキストの指定の箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30

第4回	交通事故と自賠法　使用者責任　製造物責任	
	予習　テキストの指定の箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第5回	親族法（１）戸籍　婚姻と離婚	
	予習　テキストの指定の箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第6回	親族法（２）親子関係　親族間の扶養	
	予習　テキストの指定の箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第7回	相続法　法定相続　遺産分割　特別受益者　寄与分 遺言と遺留分	
	予習　テキストの指定の箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第8回	民事紛争の解決	
	予習　テキストの指定の箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第9回	雇用と法	
	予習　テキストの指定の箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30

第10回	企業と法　株式会社の仕組み	
	予習　テキストの指定の箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第11回	刑事法の考え方	
	予習　テキストの指定の箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第12回	刑事手続	
	予習　テキストの指定の箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第13回	日常生活における契約 権利能力　行為能力	
	予習　テキストの指定の箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第14回	売買契約　消費貸借契約	
	予習　テキストの指定の箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第15回	賃貸借契約	
	予習　テキストの指定の箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30

授業の方法
講義形式

成績評価の方法
学期末の筆記試験の成績による

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト
有斐閣アルマ　『法の世界へ』　第5版補訂　池田真朗他著

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	市民生活と法II		
教員名	松元　安子		
科目ナンバー	1101072060	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

「市民生活と法1 」を履修していることを前提として、その続きを講義する授業である。民法全体の目的、構造を理解したうえで、主として民法の総則、物権、債権に関する主要な条文や法的概念の理解を促していく。法学部法律学科の学生は履修不可となっている。なるべくわかりやすい事例の説明を盛り込みながら授業をすすめる。

到達目標

物権、債権、担保などの民法の基本的な制度を理解する。各種の契約を知る。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	私的自治の原則 虚偽表示　錯誤	
	予習　シラバスを読み授業の概要、進め方を理解 復習　授業の内容の理解確認	20
第2回	詐欺　強迫	
	予習　テキストの指定された箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第3回	代理　無権代理　表見代理	
	予習　テキストの指定された箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30

第4回	契約の成立　同時履行の抗弁権　売買契約	
	予習　テキストの指定された箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第5回	不動産登記　即時取得	
	予習　テキストの指定された箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第6回	弁済　相殺 債権譲渡	
	予習　テキストの指定された箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第7回	債務不履行責任 強制履行　解除　損害賠償	
	予習　テキストの指定された箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第8回	債権者代位権　債権者取消権	
	予習　テキストの指定された箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第9回	連帯債務　保証債務	
	予習　テキストの指定された箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30

第10回	担保物権とは　質権　先取特権	
	予習　テキストの指定された箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第11回	抵当権	
	予習　テキストの指定された箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第12回	その他の担保物権 譲渡担保　仮登記担保　など	
	予習　テキストの指定された箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第13回	期間　条件　消滅時効　取得時効	
	予習　テキストの指定された箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第14回	所有権　法人	
	予習　テキストの指定された箇所を一読 復習　授業の内容の理解確認	30
第15回	種々の設例問題	
	予習　指定されたテーマにつきテキスト、ノートの確認 復習　授業の理解確認	30

授業の方法
講義形式

成績評価の方法
学期末の筆記試験による

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
「市民生活と法Ｉ」を履修してあること

テキスト
『民法入門』　第6版　幾代通　他共著　　有斐閣双書

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本の政治		
教員名	遠藤　晶久		
科目ナンバー	1101076101	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

本講義では、戦後日本の政治について政治学的なアプローチから包括的に論じる。有権者の意見はどのように政治の過程に伝えられ、どのような政策へと転換されるのかというテーマに基づいて、日本政治のアクター・制度・政策をそれぞれ数回かけて講義を行う。

到達目標

本科目の目的は、日本政治を理解するために必要とされる基本的知識を身につけるとともに、それを分析する理論的枠組みを修得することである。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業紹介	
	久米・河野1章	60分
第2回	選挙	
	久米・河野3章（pp. 30-40）、5章（pp. 56-63）	60分
第3回	世論・メディア	
	久米・河野3章（pp. 40-42）、11章	75分

第4回	政党	
	久米・河野4章、5章（pp.63-58）	75分
第5回	利益団体	
	久米・河野10章	60分
第6回	国会	
	久米・河野6章	60分
第7回	内閣・官僚	
	久米・河野7章、8章	90分
第8回	地方政治	
	久米・河野9章	60分
第9回	経済政策	
	久米・河野2章、8章（pp.99-104、再読）、13章	90分

第10回	福祉政策	
	久米・河野12章	60分
第11回	外交政策	
	久米・河野14章、15章	90分
第12回	民主党政治	
	佐々木毅・清水真人『ゼミナール現代日本政治』日本経済新聞出版社、2章 ＊ 教科書ではないので、興味がある場合	90分
第13回	日本政治先端研究	
	久米・河野3章、5章（再読）	60分
第14回	日本政治先端研究	
	久米・河野3章、5章（再読）	60分
第15回	総括	
	久米・河野全章	90分

授業の方法
講義形式で行う。レジュメは当該授業時に配布し、Seikei Portalにも掲示する。

成績評価の方法
評価はレポート(30%)と期末試験(70%)の成績による。どちらかでも欠いた場合は、単位を認めない。ただし、履修人数によってはレポートの代わりに中間試験を課す場合がありえる。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特別な予備知識は必要としない。

テキスト
必ずしもテキストに即して講義を行うわけではないが、以下を講義とあわせて読み進めてもらいたい。
久米郁男・河野勝『現代日本の政治』放送大学教育振興会（＊2011年改訂版に限る）

参考書
全体の講義に関しては、
平野浩・河野勝『新版・アクセス日本政治論』日本経済評論社
石川真澄・山口二郎『戦後政治史』岩波新書
が挙げられるが、その他、講義の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	現代の国際政治		
教員名	昇　亜美子		
科目ナンバー	1101076102	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

本講義は、国際関係の主に政治的側面についての基礎知識を学ぶことを目的とする。どうして戦争は起こるのだろうか。正しい戦争はあるのだろうか。国連があるのになぜ世界は平和にならないのだろうか。グローバリゼーションの深化は国際関係をどのように変容させたのだろうか。情報革命は世界に平和をもたらすのだろうか。国家は今後も国際関係の主役であり続けるのだろうか。こうした問題について、理論と歴史の両面から考えていく。

到達目標

現代の国際関係について、「何故そのような事象が起きるのか」を分析する社会科学的な視角を養う。また、国際関係理論と歴史を学ぶことを通じて、今日の国際政治に関心を持ち、日々のニュースに敏感になり、国際社会とのかかわりの重要性を意識できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション−国際関係とはなにか	
	新聞やテレビの国際ニュースに注意を向ける。	15分
第2回	国際関係理論（１）リアリズム	
	授業ノートを読む（復習）。	15分
第3回	国際関係理論（２）リベラリズム、コンストラクティビズム	
	授業ノートを読む（予習・復習）。	15分

第4回	勢力均衡と第一次世界大戦	
	授業ノートを読む（予習・復習）。	15分
第5回	集団安全保障の挫折と第二次世界大戦	
	授業ノートを読む（予習・復習）。	15分
第6回	冷戦（１）	
	授業ノートを読む（予習・復習）。	15分
第7回	冷戦（２）	
	授業ノートを読む（予習・復習）。	15分
第8回	ポスト冷戦とアメリカ	
	授業ノートを読む（予習・復習）。	15分
第9回	地域紛争と国際社会の介入	
	授業ノートを読む（予習・復習）。	15分

第10回	国際法と国際機構	
	授業ノートを読む（予習・復習）。	15分
第11回	開発と貧困	
	授業ノートを読む（予習・復習）。	15分
第12回	地域主義	
	授業ノートを読む（予習・復習）。	15分
第13回	グローバリゼーションと相互依存	
	授業ノートを読む（予習・復習）。	15分
第14回	中国の台頭	
	授業ノートを読む（予習・復習）。	15分
第15回	国際関係と日本	
	授業ノートを読む（予習・復習）。	15分

授業の方法
講義方式で行なう。授業時間内に小テストないしはリアクションペーパーを課すことがある。

成績評価の方法
平常点（小テストほか）20%、期末テスト80%

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
特になし。

参考書
ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ著、田村明彦、村田晃嗣訳『国際紛争一理論と歴史〔原書第9版〕』（有斐閣、2013年）。
藤原帰一『国際政治』（放送大学教育振興会、2007年）。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本と世界の経済		
教員名	大野　正智		
科目ナンバー	1101076103	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

一国で起きた出来事の影響は国内だけに留まらず，瞬時にして全世界に波及してしまう世の中です。もはや日本の経済問題を国内だけで論ずることはできません。グローバル化の現代社会にあって，日本ならびに世界でおこっている経済現象を単なる事実としてだけとらえるのではなく，論理的・体系的に事の本質に迫ることを目標とします。 なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

到達目標

教養レベルの経済学入門（あるいは、経済学の基礎）を踏まえた上で、国際経済問題を理解できるようになることを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	身近に経済を見る	
	経済学入門の初日的位置づけとして、生活の中での経済を認識する。	60
第2回	取引として経済を見る	
	人と人のつながりの中で経済を認識する。	90
第3回	国全体として経済を見る	
	マクロ経済学的視点としての経済を認識する。	90

第4回	GDPの基礎	
	GDPの基礎を復習・再確認する。	90
第5回	国際貿易とGDP 小テスト１(第1回から小テスト直前までの範囲より出題)	
	国際的な位置づけとしてGDPを認識する。	90
第6回	小テスト１の解説と補足 為替レートと貿易	
	小テスト１の理解を完全にする。 為替レートと貿易の基本概念を理解する。	90
第7回	為替レートと貿易の相互関係(1)	
	為替レートと貿易の関係について、基礎的理論を理解する。	90
第8回	為替レートと貿易の相互関係(2)	
	為替レートと貿易の関係について、発展的理論を理解する。	90
第9回	国内通貨と国際通貨	
	通貨とは何か、国内・国際の両面から考察する。	90

第10回	世界の金融市場 小テスト２(小テスト１終了後から小テスト２直前までの範囲より出題)	
	為替市場や株式市場などについて、世界のマーケットの状況を理解する。	90
第11回	小テスト２の解説と補足 海外直接投資	
	小テスト２の理解を完全にする。 日本の直接投資について、対外・対内の両方向の状況について認識を深める。	90
第12回	国際収支の読み方(1)	
	対外的な取引について、国際基準における記録方法の基礎を学ぶ。	90
第13回	国際収支の読み方(2)	
	対外的な取引について、国際基準における記録方法の応用を学ぶ。	90
第14回	対外資産負債	
	日本の対外的な資産と債務の状況を理解し今後の見通しを考察する。	90
第15回	授業全体のまとめ ※学期末試験(全範囲より出題) の解答は試験終了後ポータルサイトにアップします。	
	学期末試験に向けての要点整理	90

授業の方法

配布プリントや板書を通して主に講義形式で行う。また、授業の進展に合わせて理解力の向上が伴うよう、小テストを実施する。なお、授業の進度に応じて、授業内でのテストの実施時期や回数は異なることがある。

成績評価の方法

小テスト（３０%）、期末テスト（７０%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度によって評価する。
１．教養科目として必要な広域的理解ができているか。
２．日本における世界との関わり方について、今日的理解ができているか。
３．基本的概念と初級レベルの理論的理解ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

経済学に関する入門科目を履修済み、あるいは、並行履修予定であることが望ましい。（例えば、経済学部以外の学生の場合、「経済学の基礎」が入門科目に相当します）

テキスト

適宜、指定します。

参考書

「経済のしくみと制度（第2版）」井出・井上・北川・幸村著、1900円、多賀出版
(ISBN:978-4-8115-6812-6)

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	企業と社会		
教員名	浜松　翔平		
科目ナンバー	1101076104	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

私たちの生活は企業の活動と密接なかかわりを持っています。常に持ち歩くスマートフォン、お腹が空いたときにさっと食べられるファーストフード。こうした製品やサービスは企業によって提供されています。また、多くのみなさんがアルバイトを経験したり、大学を卒業するまでに就職活動をします。企業はみなさんの働く場としての役割も持っています。

本講義は、社会の中で企業の役割を理解できるようになることを目的とし、経営学の基礎的な知識について学びながら、社会における企業の役割や意義、働く場としての企業について考えてもらいます。

到達目標

(1)社会の中での企業の役割について説明できる
(2)経営学の基礎的な概念を説明できる
(3)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする	60
第2回	企業とは何か(1) 企業の役割	
	【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする	60
第3回	企業とは何か(2) 企業のマネジメント	
	【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする	60

第4回	企業とは何か(3) 経営者の役割	
	【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする	60
第5回	組織(1) リーダーシップとアントレプレナーシップ	
	【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする	60
第6回	組織(2) モチベーションとインセンティブシステム	
	【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする	60
第7回	組織(3) 組織構造	
	【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする	60
第8回	戦略(1) マーケティング	
	【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする	60
第9回	戦略(2) 競争	
	【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする	60

第10回	戦略(3) 事業システム	
	【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする	60
第11回	戦略(4) 技術	
	【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする	60
第12回	企業の国際化(1) 大企業の国際化	
	【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする	60
第13回	企業の国際化(2) 中小企業の国際化	
	【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする	60
第14回	企業の国際化(3) ベンチャー企業の国際化	
	【復習】今回学んだキーワードを説明できるようにする	60
第15回	まとめ	
	【復習】授業を通じて学んだ内容を確認する	90

授業の方法

授業は講義形式で行いますが、質疑応答やコメントシートの記載を通じて双方向の授業形式も取り入れます。
授業の進捗によって内容は一部変更する可能性があります。

成績評価の方法

学期中に行う小レポート（あるいは小テスト）40%、最終レポート60%による総合評価を基準として、授業での発言、コメントシートの記入など授業への積極的な参加をプラスに評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に予備知識は必要ありません。毎回の授業の復習をしたうえで次回の授業にのぞんでください。

テキスト

テキストは必要ありません。講義におけるプレゼン資料がテキストになります。

参考書

参考書は、講義中に適宜指定します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	現代のマスメディア		
教員名	挟本　佳代		
科目ナンバー	1201076105	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

「マスメディアのこれまでとこれからを考える」

　わたしたちは好むと好まざるとにかかわらず、日々マスメディアによって発信される膨大な情報にさらされている。こうした情報を共有することで、わたしたちは一見バラバラに存在しているかのように見えても、実は情報を共有することで相互に結びついているのだとする考え方もある。

　この授業では、現代社会を語る上で欠かすことのできないマスメディアの現状と問題点を考察していく。そして、急速に発展してきたソーシャルネットワークの展望も考察する予定である。

　わたしたちは、マスメディアに対してどのような姿勢をもって臨むべきなのか。いま現実に生活をしている社会そのものに関心をもちながら、毎回の授業に臨んでほしい。

到達目標

①マスメディアが果たしている役割を近いし、説明できる。
②マスメディアの功罪と展望を説明できる。
③ソーシャルネットワークの展望について、的確に理解し、説明できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	イントロダクション ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・マスメディアにはどのようなものがあるかを把握する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の進め方などを確認する。	60
第2回	マスメディアとは何か／コミュニケーションの類型 ・マスメディアの定義、特徴を解説する。 ・コミュニケーションの類型を解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第3回	多チャンネル化と嗜好の多様化 ・地上デジタルテレビ放送やケーブルテレビ放送によってもたらされた嗜好の多様化について解説する。 ・視聴率のからくりについて解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60

第4回	マスメディアと個性（１） ・マスメディアが人間の個性にどのような影響を与えているかを考察する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第5回	マスメディアと個性（２） ・消費行動と人間個性の関連性を解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第6回	スモールメディアとミドルメディアの可能性 ・スモールメディアとミドルメディアの現状を考察する。 ・この２つのメディアがマスメディアを凌駕するかどうか、問題点はどこにあるのかについて解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	90
第7回	中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するため　のテストを行う。	
	【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。	120
第8回	ソーシャルネットワークの展望（１） ・ＳＮＳの歴史とメディアとしての特徴を解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第9回	ソーシャルネットワークの展望（２） ・ＳＮＳが抱える問題点にはどのようなものがあるのかを検討する。 ・ＳＮＳの社会における影響について解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60

第10回	新聞の再生は可能か（１） ・メディアとしての新聞の歴史を解説する。 ・新聞の発行部数の推移から、メディアとしての役割の変化を考察する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第11回	新聞の再生は可能か（２） ・インターネット網の拡大化によって、新聞にどのような影響が及ぼされたかについて解説する。 ・新聞の今後の展望を考える。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第12回	マスメディアと政治と民主主義（１） ・政治に及ぼすマスメディアの果たす役割を解説する。 ・民主主義に関する理論とその特徴を解説する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第13回	マスメディアと政治と民主主義（２） ・マスメディアによって政治意識は変化するかどうかについての問題を考察する。 ・マスメディアと政治の良好な関係を探る。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第14回	マスメディアの功罪とその展望（１） ・マスメディアの功罪にはどのようなものがあるのかを考察する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第15回	マスメディアの功罪とその展望（２） ・マスメディアとスモールメディア・ミドルメディアとの棲み分けは可能かどうかを考察する。 ・これまでの学修内容を振り返り、現代社会におけるマスメディアの現状を確認する。	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60

授業の方法

基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。
随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。
上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。
なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。
・中間テスト：第１回～６回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。
・課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。
・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

成績評価の方法

随時行う課題への解答／コメント（20%）、中間テスト（20%）、到達度確認テスト（60%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度によって評価する。
・基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。
・人間と自然環境との関係性に対する深い思考。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。開講後に適宜指示する。

参考書

特になし。開講後に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	社会心理学入門		
教員名	針原　素子		
科目ナンバー	1101076107	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

社会心理学は、人間の感じ方や考え方、行動について、他者との関係の中で理解することを目指し、科学的に研究する学問である。この講義では、社会心理学の基本的な研究手法と、主要な知見を解説することを通じて、私たち自身が普段、どのように感じ、考え、行動しているのかを客観的に理解することを目指す。

到達目標

（１）人間の認知、感情、行動について科学的に調べる方法を理解する
（２）人々が無意識のうちに受けている対人的、社会的影響について理解する
（３）人間の考え方、行動、社会現象について、「なぜ？」と問い、客観的に考える力をつける

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	オリエンテーション ・授業の内容、進め方等を説明する。 社会心理学とは？社会心理学の方法 ・社会心理学の特徴、方法について説明する。	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】社会心理学の方法について、確認しておく。	30分
第2回	対人認知１：印象形成、対人魅力 ・私たちが他者の限られた情報から、どのように印象を形成し、魅力を感じるのかを学ぶ。	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60分
第3回	対人認知２：「血液型人間学」、ステレオタイプ ・血液型で人の性格を判断することは正しいことなのか、考える。	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60分

第4回	帰属過程 ・私たちが他者の行動の原因をどのように推測するのか、その傾向を学ぶ。	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60分
第5回	態度と態度変化 ・私たちは、どのような時に、なぜ態度を変えるのかを学ぶ。	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60分
第6回	自己１：自己認知 ・私たちが自分自身についてどのように認知しているのか、その認知がどのような影響を及ぼすかを学ぶ。	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60分
第7回	自己２：自己と動機づけ ・私たちが自分自身をどのように評価しているのか、その評価がどのように歪んでいるかを学ぶ。	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60分
第8回	社会的影響（同調・服従）、援助行動 ・私たちが他者から影響されてどのように行動を変えるのかを学ぶ。 ・私たちはなぜ他者をすぐに助けられないのかを学ぶ。	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60分
第9回	集団過程１：集団と個人 ・私たちが集団に属すると、個人でいる時と比べてどのように変わるのかを学ぶ。	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60分

第10回	集団過程２：集団間関係、偏見 ・2つ以上の集団がある時、なぜ対立が起こりやすいかを学ぶ。	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60分
第11回	社会の秩序：囚人のジレンマ・社会的ジレンマ ・自分の利益を追求することで、お互いに損をするような状況についてゲーム理論を用いて考え、社会の秩序はどのように成り立っているのかを考える。	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60分
第12回	心理的プロセスの文化差 ・私たちの心は、国や文化によってどのように違うのか、その違いはどのように生まれるのかについて学ぶ。	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60分
第13回	ソーシャル・ネットワーク、社会関係資本 ・人と人が結びつくことで、どのような利点があるのか、どのように結びつくことが良いのかについて学ぶ。	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60分
第14回	マスコミュニケーションと世論、流行現象 ・私たちは、マスメディアや周囲の人からどのように影響されているのか、流行現象はどのように生じるのかについて学ぶ。	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60分
第15回	質疑応答 授業のまとめ	
	【復習】授業全体を振り返り、自分がこの授業で何を学んだかを体系的に考える。	120分

授業の方法

授業は、パワーポイントと配付資料を用いて、講義を中心に進める。
実際に、簡単な質問紙実験やゲームを体験してもらう機会も設け、講義内容の理解を促進する。
学生は、毎回、その日の講義で学んだこと、考えたこと、疑問に思ったことなどをリアクションペーパーとして提出することを求められる。重要な疑問、質問については、授業内で回答する。
普段から、授業資料を用いた復習に力を入れ、分からないところを持ち越さないようにすること。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出）40%、期末試験60%で総合的に評価する。なお、欠席が4回以上で不合格とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度によって評価する。
・社会心理学の主な知見について、理解できているか。
・社会心理学で学んだ視点で、身近な出来事について考えているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識は特にない。

テキスト

特に指定しない。毎回、資料を配付する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	裁判と社会		
教員名	三田　奈穂		
科目ナンバー	1101076109	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

「裁判」という言葉を聞くと、自分には関係のない、異次元の世界のように感じる学生も多いかもしれない。本講義では、裁判の役割は何か、どのような人物によっておこなわれているのかといった基礎的な事項に関する知見を深め、具体的な事例を検討し、日本社会における裁判とは一体どのようなものであるのかということについて考察する。また、進路紹介も兼ねて、法を扱う専門家や労働法についても言及する。

到達目標

本講義の到達目標は、①「裁判」とはいかなるものであるのかということを知り、②日本社会に根差した法意識に対する指摘や裁判の実態に関する知識を修得することを通じて、現代の「日本社会における裁判のあり方」について主体的に答える力を身につけられることである。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	はじめに――裁判の機能と「判例」 本講義の前提となる知識として、法律と判例との関係を概観する。	
	シラバスを一読しておくこと。また、ガイダンス後には、図書館・書店等で六法を手にとり、購入を検討することが望ましい。	６０分
第2回	日本の訴訟の種類 刑事訴訟と民事訴訟の区分について、身近な交通事故を素材として説明する。	
	自動車を運転するということは、どういうことか考えてみること。普通自動車免許と取得している者は運転者の立場から、そうでない者は歩行者の立場から考察してみること。	６０分
第3回	裁判の意義と限界 裁判の役割について、特に正義との関係から検討したうえで、裁判外の紛争解決手続（ADR）や微罪処分・起訴猶予等の意義を考える。	
	裁判の役割について考えてみること。また、身近に起きた規模の小さな争いごとについて、どのように解決するのが望ましいのか、考察してみること。	６０分

第4回	日本の裁判所の種類――最高裁判所の役割 最高裁判所と下級裁判所の種類を概観し、法令審査権について検討する。	
	第３回の講義を受けて、裁判の「公開」と「秘密」について、考えてみること。	６０分
第5回	裁判に携わる専門家 裁判の中心となる法曹に加え、裁判所書記官・裁判所事務官・検察事務官・司法書士等の法律従事者について説明する。	
	ニュースまたは手近な法廷ドラマ等で、裁判の構成員に関する概観をおさえておくこと。また、裁判の実施にはどのような人々が欠かせないのか、考えてみること。	６０分
第6回	裁判官とは 裁判官のあるべき姿について、大岡政談に言及し、裁判官に対する懲戒申立て事件（分限裁判）を素材として考察する。	
	これまで学んだことを通じて裁判の役割をイメージし、どのような人物が裁判官となるべきか、その人物像を描いてみること。	６０分
第7回	弁護士とは 日本の弁護士法の変遷について概観し、法曹一元について検討を加える。	
	三百代言という言葉の意味を調べておくこと。また、弁護士について、裁判官と比べてどのような印象を持っているのか、考えてみること。	６０分
第8回	検察官とは 検察官の役割について、弾劾主義という視点から考察し、検察審査会について説明する。	
	起訴独占主義（刑事訴訟法247条）という言葉について調べ、その長所と短所について考えてみること。	６０分
第9回	国民の司法参加――裁判員制度 平成２１年に導入された裁判員制度について、最近の統計資料をもとに詳細を検討する。	
	裁判員の参加する刑事裁判に関する法律を一読しておくことが望ましい。	９０分

第10回	世界の市民の司法参加――陪審・参審制 比較法にみる刑事裁判への市民参加の諸モデルを説明する。	
	映画『十二人の怒れる男』（図書館にＤＶＤが所蔵されており、また、リメイク版も一部店舗ではレンタル可能である）を視聴しておくことが望ましい。	９０分
第11回	日本における陪審制の歴史 日本の国民の刑事司法参加の淵源として、参座規則と昭和の陪審法について概観する。	
	刑事裁判の場において、有罪無罪を決定するのに多数決と全員一致のどちらがよいのか、考えてみること。	６０分
第12回	日本人の法意識 刑事法にみえる律的宥恕観念や民事訴訟へのためらい（隣人訴訟）、訴訟費用等について考察する。	
	近所の人と裁判で争うことについて、自分自身は抵抗がないかどうか考えてみること。また、身近な年長の人の意見も調査してみることが望ましい。	６０分
第13回	三審制 上訴の制度について、ハンセン病訴訟熊本地裁判決（国側の控訴断念）を素材としながら説明する。	
	ハンセン病について調査し、差別の実態について把握しておくこと。	６０分
第14回	日本型雇用システムの崩壊 現代社会の一問題である非正規雇用と労働審判（行政審判）について考察する。	
	卒業後の進路について、ビジョンを明確にしておくこと。	６０分
第15回	おわりに――社会意識と制度のあり方 日本社会における裁判とは何か、どうあるべきかを考える。	
	これまで扱ったプリント、自筆メモ・ノート等を整理し、試験に向けた対策をおこなうこと。	３００分以上

授業の方法

原則として講義形式をとるが、法的な問題意識に関する問いかけに対して、指名された受講生には意見を述べてもらいたい。また、教材としてビデオ等の視聴覚教材も使用する。

成績評価の方法

成績評価の80%は定期試験により、20%は抜き打ちで実施する小テスト・授業内レポートによる。定期試験の形式・内容等については、講義中に言及する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。
講義では、日々話題となっている事件や裁判についても適宜解説するので、積極的に新聞やテレビ等でニュースを追いながら法的意識を高めていくこと。

テキスト

プリントを配布する。配布資料は整理してファイリングすること。
また、「六法」を持参することが望ましい。

参考書

読売新聞社会部『ドキュメント裁判官―人が人をどう裁くのか』（中央公論新社、2002年）〔第６回、第１３回〕
川島武宜『日本人の法意識』（岩波書店、1967年）〔第１２回、第１４回〕

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内ホームページにて周知する。

科目名	生命倫理と法		
教員名	三田　奈穂		
科目ナンバー	1001076110	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本講義では、命の始まりや終りをめぐる倫理的問題について、法との関係から検討する。学生のなかには、生命倫理と法について無縁であると感じる人もいるかも知れない。事実、本講義で扱う内容は、あまり知られていない遺伝病であったり、高齢者の終末期医療の決定方針であったり、男子学生にはイメージしにくい不妊手術に関する内容であったり、学生生活からはかけ離れたものである。しかし、社会生活を送るなかで、いつどのような場面でこうした問題と直面するかはわからない。特に、高齢社会のなかで、また、医療技術の発達に伴って、自らの人生設計に思いがけない問題が舞い込んでくる可能性は十分に考えられうる。そうした状況においてどのように判断すべきか、その基準を涵養するのが本講義の目的である。

到達目標

本講義の到達目標は、①近年話題となっている生命倫理をめぐる法的問題についての知見を深め、②倫理観が問われる場において妥当な解決を導くことができる力を身に付けられることである。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	はじめに	
	シラバスを一読しておくこと。	６０分
第2回	遺伝病の告知（１） ハンチントン病を素材としながら、遺伝病の告知について、主に医師の役割と倫理との関係から検討する。	
	ハンチントン病について、インターネット等で調査してみること。特に動画を見てみることが望ましい。	６０分
第3回	遺伝病の告知（２） 第２回の講義に続いて、遺伝病の告知についてどのような法整備が望まれるかを考える。	
	遺伝病の告知が人生に及ぼす影響について考えてみること。	６０分

第4回	終末期医療のあり方（１） 現代の終末期医療について概観する。	
	「終末期」とはどのくらいの期間をいうのか、自らの見解をまとめておくこと。	６０分
第5回	終末期医療のあり方（２） 安楽死の類型について、高瀬舟を素材としながら説明する。	
	後掲参考書『高瀬舟』を一読しておくこと。	６０分
第6回	終末期医療のあり方（３） 東海大学病院事件判決を中心に判例の見解を概観しながら、尊厳死をめぐる法律制定の動きについて検討する。	
	近年の尊厳死をめぐる動向について、ニュース等を追ってみること。	６０分
第7回	終末期医療のあり方（４） リビング・ウィルと自己決定権について説明する。	
	後掲参考書『ケース・スタディ生命倫理と法』所収の「自己決定権」を一読しておくことが望ましい。 併せて、生命の処分については何歳から判断することができるとするのが適当であるか、考えてみること。	９０分
第8回	出生をめぐる問題（１） 生殖補助医療について、その是非と生まれてきた子供にふりかかる実際の問題を検討する。	
	不妊症について考えてみること。	６０分
第9回	出生をめぐる問題（２） 出生前診断と人工妊娠中絶について説明する。	
	中絶の是非について、自らの意見をまとめておくこと。	６０分

第10回	出生をめぐる問題（３） 母親と胎児のどちらかを選ばなければならないときに、どのように判断すべきか、考える。	
	胎児の権利について、考えてみること。	６０分
第11回	出生をめぐる問題（４） 知的障害者の不妊手術について、法的な問題を考える。	
	知的障害者の不妊手術について、遺伝病の問題、自己決定権等をふまえたうえでどのようにするのが適当であるか、考えてみること。	６０分
第12回	脳死をめぐる問題（１） 臓器移植の概要を説明する。	
	人の死期はどのように判定すべきか、考えてみること。	６０分
第13回	脳死をめぐる問題（２） 臓器移植法制定をめぐって交わされた議論を概観する。	
	臓器移植法について、調査してみること。	６０分
第14回	再生医療と法 最近話題の再生医療について、その倫理的問題と法の関わり方について検討する。	
	ＥＳ細胞、ｉＰＳ細胞、ＳＴＡＰ細胞等については、新聞記事等を通じて大まかな内容をおさえておくことが望ましい。	６０分
第15回	おわりに	
	これまで扱ったプリント、自筆メモ・ノート等を整理し、試験に向けた対策をおこなうこと。	３００分以上

授業の方法

原則として講義形式をとるが、倫理的・法的な問いかけに対して、指名された受講生には意見を述べてもらいたい。また、教材としてビデオ等の視聴覚教材も使用する。

成績評価の方法

成績評価の60%は定期試験により、40%は授業内レポートによる。定期試験の形式・内容等については、講義中に言及する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。
なお、本講義は法学系の教員によって開講され、医療とりわけ生物学に関する言及は最低限に留める。

テキスト

プリントを配布する。配布資料は整理してファイリングすること。

参考書

樋口範雄編著『ケース・スタディ生命倫理と法〔第2版〕』（ジュリスト増刊、有斐閣、2012年）
甲斐克則編『ブリッジブック医事法』（信山社、2008年）
森鷗外『山椒大夫・高瀬舟他四篇』（岩波書店、2002年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内ホームページにて周知する。

科目名	科学的に考える（物質の科学）		
教員名	坪村　太郎		
科目ナンバー	1101073002	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

現在世の中には情報はあふれかえっており、その中から正しいと思われるものを自分で取捨選択する能力が求められていることは皆さんもよくおわかりのことであろう。インチキ商品、エセ科学も氾濫している。授業では原子や分子、固体の構造といった化学の基礎から、先端材料に至るまで物質の科学の例をわかりやすく解説することで科学の考え方を学んでもらいたい。ビデオ、演示実験や(可能であれば)機器の見学なども取り入れる。

到達目標

この講義では、物質の科学をとおして「科学的な考え方」とはどのようなものかを会得することを最終目的とする。もっともらしいかウソっぽいかが判断できるようになれば理想的だが、ともかくも疑うことを身につけたい。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	科学的な考え方　疑似科学と疑わしい商品　学説が認められるには？	
	講義中に作成したノートに基づき復習を行ってください。	各回で取りあげる話題の知識や興味に応じて30-90分
第2回	ノーベル賞に見る物質の化学	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習を行ってください。	各回で取りあげる話題の知識や興味に応じて30-90分
第3回	原子の成り立ち、原子力パワーの起源	
	講義中に作成したノートに基づき復習を行ってください。	各回で取りあげる話題の知識や興味に応じて30-90分

第4回	原子　→　分子　→　超分子	
	講義中に作成したノートに基づき復習を行ってください。	各回で取りあげる話題の知識や興味に応じて30-90分
第5回	周期表とさまざまな元素の性質	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習を行ってください。	各回で取りあげる話題の知識や興味に応じて30-90分
第6回	固体、液体、気体、それ以外？	
	講義中に作成したノートに基づき復習を行ってください。	各回で取りあげる話題の知識や興味に応じて30-90分
第7回	固体と結晶の性質　金属・絶縁体・半導体	
	講義中に作成したノートに基づき復習を行ってください。	各回で取りあげる話題の知識や興味に応じて30-90分
第8回	水は不思議な化合物	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習を行ってください。	各回で取りあげる話題の知識や興味に応じて30-90分
第9回	化学変化とそうでない変化	
	講義中に作成したノートに基づき復習を行ってください。	各回で取りあげる話題の知識や興味に応じて30-90分

第10回	無機物、金属資源と触媒	
	講義中に作成したノートに基づき復習を行ってください。	各回で取りあげる話題の知識や興味に応じて30-90分
第11回	無機物、金属資源と触媒	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習を行ってください。	各回で取りあげる話題の知識や興味に応じて30-90分
第12回	錯体、金属と生物	
	講義中に作成したノートに基づき復習を行ってください。	各回で取りあげる話題の知識や興味に応じて30-90分
第13回	生物内の分子？科学での右と左	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習を行ってください。	各回で取りあげる話題の知識や興味に応じて30-90分
第14回	先端科学を支えるハイテク機器	
	講義中に作成したノートに基づき、復習を行ってください。	各回で取りあげる話題の知識や興味に応じて30-90分
第15回	まとめ　結局科学的な考え方とは？	
	これまでの内容を整理し、期末レポートを作成してください。	期末レポート作成には120以上

授業の方法
講義を中心とする。小テストを５回行う予定。

成績評価の方法
レポート(50%)と小テスト(50%)の合計で評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特に必要としない。

テキスト
指定しない。必要に応じてプリント配布。

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	科学的に考える（数の世界）		
教員名	石井　卓		
科目ナンバー	1101073003	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

数にまつわる問題は、数千年もの昔から多くの人々を惹きつけ、今なお未解決の問題も多く存在する。ここでは、微積分を初めとする解析学などの高度な数学を用いない「初等整数論」についての入門的講義を行い、数の世界のもつ不思議さや美しさに触れる。一方で、この一見「役に立たない」整数論も近年、現代の通信技術において不可欠な暗号理論に応用されることがわかってきた。講義の後半では、RSA暗号、エルガマル暗号といわれる暗号を中心にその仕組みを解説する。

到達目標

整数になじみ、素因数分解、べき乗剰余、合同式の計算などができるようになること。整数論を用いた暗号が解読できること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	導入、ピタゴラス数	
	シラバスを読む。	10分
第2回	約数・倍数、ユークリッドの互除法	
	ノート、レジュメを見直し理解を深める。	60分
第3回	一次不定方程式	
	ノート、レジュメを見直し理解を深める。	60分

第4回	素数、素因数分解	
	ノート、レジュメを見直し理解を深める。	60分
第5回	約数の個数・総和、完全数	
	ノート、レジュメを見直し理解を深める。	60分
第6回	合同式、一次合同式の解法	
	ノート、レジュメを見直し理解を深める。	60分
第7回	フェルマーの小定理、オイラーの関数	
	ノート、レジュメを見直し理解を深める。	60分
第8回	オイラーの定理	
	ノート、レジュメを見直し理解を深める。	60分
第9回	べき乗剰余の計算	
	ノート、レジュメを見直し理解を深める。	60分

第10回	RSA暗号	
	ノート、レジュメを見直し理解を深める。	60分
第11回	原始根、指数、離散対数問題	
	ノート、レジュメを見直し理解を深める。	60分
第12回	エルガマル暗号	
	ノート、レジュメを見直し理解を深める。	60分
第13回	平方剰余の相互法則	
	ノート、レジュメを見直し理解を深める。	60分
第14回	平方数の和	
	ノート、レジュメを見直し理解を深める。	60分
第15回	総合演習	
	ノート、レジュメを見直し理解を深める。	60分

授業の方法

教室における講義を主体とする。教科書は特に指定せず、毎回レジュメを配布し、その内容を板書、口頭での説明によって解説する。また講義内に演習の時間を設け、その日に学習した内容を自分の手を動かして確認する。

成績評価の方法

講義内の演習1/3, 期末試験2/3

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校で習う数学Ⅰ、数学A

テキスト

指定しない。

参考書

「はじめての数論」・シルヴァーマン著、鈴木治郎訳・ピアソンエデュケーション

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	科学的に考える（生命の科学）		
教員名	佐藤　綾		
科目ナンバー	1101473040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

現在の多様な生物は長い時間をかけた進化の産物であり、ヒトもまた一生物である。本講義では、生物とは何か、進化とは何か、という生物の基本的な成り立ちを踏まえ、生物の一義性と多様性について学ぶ。そして、それらの生物学的な考え方をヒトに当てはめ、ヒトのいくつかの特徴の進化的な背景を考察する。特に、講義の後半では、様々な動物の性差を取り上げる。それらの知見から、ヒトにおける男女の違いについて、進化的な背景という視点から考える。

到達目標

・生物とは何か、進化とは何か、という問いに対し、生物学的な視点から答える事が出来る
・ヒトのいくつかの行動を生物の進化的な側面から考える事が出来る
・様々な性のあり方について理解する事が出来る
・ヒトが持つ性差を科学的、生物学的視点から考察出来るようになる

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス ・本講義の目的、授業で取り扱う内容について説明	
	【予習、復習】シラバスを読み、講義の内容を把握する事	60分
第2回	生命の定義 ・生命とは何か、生命の仕組みについて学修する	
	【予習、復習】配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60分
第3回	遺伝子とは何か ・遺伝子とは何か、構造とはたらきについて学修する	
	【予習、復習】配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60分

第4回	遺伝子の複製と変異 ・遺伝子の複製の仕組みと遺伝子の変異について学修する	
	【予習、復習】配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60分
第5回	進化とは何か ・進化の仕組みと具体的な事例について学修する	
	【予習、復習】配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60分
第6回	性の進化 ・性がなぜ存在するのか、その進化的背景を学修する	
	【予習、復習】配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60分
第7回	様々な性の様式 ・生物がもつ様々な性のあり方や、性決定様式について学修する	
	【予習、復習】配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60分
第8回	利己的遺伝子 ・行動の進化について学修する	
	【予習、復習】配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60分
第9回	ヒトの子殺し ・ヒトにおける子殺しの生物学的な側面を考える	
	【予習、復習】講義で学んだ事を基に、自身の考えをまとめること	60分

第10回	ヒトの性差① ・ヒトに見られる性差が、現代科学でどのように説明されているのかVTRを用いて学修する	
	【予習、復習】講義で学んだ事を基に、自身の考えをまとめること	60分
第11回	性淘汰とは ・性淘汰の基本的概念と、様々な動物での例について学修する	
	【予習、復習】配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60分
第12回	ヒトの性淘汰 ・性淘汰理論をヒトに当てはめた研究の事例を紹介する	
	【予習、復習】講義で学んだ事を基に、自身の考えをまとめること	60分
第13回	ヒトの性差② ・ヒトに見られる性差が、現代科学でどのように説明されているのかVTRを用いて学修する	
	【予習、復習】講義で学んだ事を基に、自身の考えをまとめること	60分
第14回	脳の性差 ・性差の発達について学修する	
	【予習、復習】講義で学んだ事を基に、自身の考えをまとめること	60分
第15回	講義のまとめ ・講義をまとめ、科学的に考える利点と欠点について考察する	
	【予習、復習】講義で学んだ事を基に、自身の考えをまとめること	60分

授業の方法
授業は講義形式で行なう。講義終了後、数回のコメントペーパーの提出を求め、学修状況を確認する。

成績評価の方法
期末試験：80%、平常点（コメントペーパーの提出、内容）：20%による総合評価を基本とする。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・進化とはなにか、科学的に理解できているか
・講義で学んだ内容をふまえ、身近な事象を説明する事が出来るか

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
特になし。

参考書
『科学でわかる男と女の心と脳』　麻生一枝著 サイエンス・アイ新書 税込¥1000

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	科学的に考える（文系のための数学）		
教員名	小林　幸夫		
科目ナンバー	1101473050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

あなたは，2÷0、0÷2、0÷0 の答を正しく言えますか？0 を含むわり算が，実は連立方程式の解を見つけるときに重大なカギを握っている。「勉強したら親に叱られる」「病気が治らないならば薬を飲まない」という命題はあり得るでしょうか? これらは「行列・行列式」「集合・論理」を学ぶと納得できる問題である。

本講義では，「数理の話題」と「集合・論理の話題」とを取り上げる。たとえば，行列を通じて，高校までとちがった発想で連立方程式を眺めてみる。価格の計算の中で，かけ算・わり算の意味を見直すところから始める。同じ式の中では，かけ算をたし算よりも先に計算する理由が納得できる。それだけではなく，簡単な連立方程式であれば，暗算でも解を求めることができるようになる。他方，ヒトが問題を考えるときには，「まったくそう」「大体そう」…のようにゆらぎがある。脳は本来論理的でないのかも知れない。しかし，あいまいな表現の引き起こすトラブルは少なくない。このような事情を踏まえて，数学の規則で命題の内容を論理的に判断する方法も身につける。数理の話題と集合・論理の話題との橋渡しとして，高校までとちがった方法で確率の考え方を振り返る。

講義で培った素養を何に生かすかは受講者次第である。SPI 適性検査・公務員試験などでは，数列・行列・集合・論理の素養を要求しているようである。本講義は，これらの受験講座ではない。しかし，このような試験の数理・判断・推理の分野に役立てるのも一つの活かし方になる。何かに役立てるためにだけ学習するのではなく，何にも活かさない自由もある。人文・社会系の多くの受講者にとって，本講義が学校教育で受ける最後の数学になる。数学を活かす仕事に従事しないのであれば，今しか数学を学習する機会はない。だからこそ履修するという発想もある。数学は日常生活から生まれてきたのだから，本来は人と親しくなれる性格を持っている。数学の意外な姿を見つけてみませんか？

到達目標

1. 数と図形に対するイメージが思い浮かぶような感覚を培う。
   公式を暗記してあてはめるという習慣から脱却する。
   問題の意味，解法の説明を図解するプレゼンテーション技術を身につける。
2. 型通りに式を扱うのではなく，計算を工夫する力を伸ばす。
   数学の文法を身につけ，日本語と同じレベルで表現手段として式を使えるようにする。
3. 統計データの見方を身につけて，数学の立場で社会現象のしくみを理解する力を伸ばす。
   数値に潜む意味を読み取る目を養う。
4. 論理の組み立て方を正しく理解する。
   あいまいな言語に陥らないような表現力を身につける。
5. 思考パズルを通じて，柔軟な思考力，洞察力を伸ばす。

これらの観点から，目安として SPI 適性検査，公務員試験等と同程度以上の基礎力を養うことをめざす。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第１回　数学的発想　生活の中のどこに数学が現れるか?	
	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】配布資料の演習問題を解く。	60
第2回	第２回　大きな数の扱い方（クレジットカードの返済，指数・対数の使い方） 演算規則の決め方　負の数を含む割り算の商と余りを求めるには?	
	【予習】国語辞典等で接頭辞を調べる。 クレジットカード等の利子計算のしくみを調べる。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で，配布資料の演習問題を解く。	60
第3回	第３回　身のまわりの数理モデル（ハノイの塔，ウサギの繁殖）	

	【予習】高校で数列を学習した経験の有無に関係なく，生活の中で数列を使う実例を考える。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で，配布資料の演習問題を解く。	60
第4回	第４回　連立方程式の解き方（その１）　あなたがコンピュータになったつもりで解くには? （その２）　解を分数で簡単に表すことができるのはほんとうか?	
	【予習】0 を含む割算の商の考え方を確認する。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で，配布資料の演習問題を解く。	60
第5回	第５回　数を行列の形に並べる発想（その１）　魔方陣，　パスカルの三角形に潜む神秘性	
	【予習】多項式の意味と扱い方を確認する。 (a+b) の 4 乗以上の展開の方法を考える。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で，配布資料の演習問題を解く。	60
第6回	第６回　数を行列の形に並べる発想（その２）　鷲虎算:リンゴ５個からミカン３個を引けるのか? 乗除を加減よりも先に計算する規則を決めたのはなぜ?	
	【予習】実生活で，数式の規則とちがって，乗除よりも加減を先に計算する例があるかどうかを確認する。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で，配布資料の演習問題を解く。	60
第7回	第７回　ポーランド記法　括弧をまったく使わないで式を書けるか ？	
	【予習】数式と言語との間で，語順，修飾関係などの共通点を考える。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で，配布資料の演習問題を解く。	60
第8回	第８回　確率の発想　デタラメの中にある規則性とは? ベイズの法則（紅白玉問題・タクシー問題），　円周率の推定	
	【予習】コイン投げで，10 回投げたら必ず5 回おもてが出るといえるかどうかを確かめ，確率 1/2 の意味を考える。降水確率，打率等の意味も確認する。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で，配布資料の演習問題を解く。	60
第9回	第９回　集合と要素との関係（要素の数え方のトレーニング）　まっすぐの思考とまるい思考とは? ものの集まりはすべて「集合」といえるのか? 奇数と自然数とはどちらが多い ？	

	【予習】数学では，どのような場合に集合の概念を考えたかを確認する。ものの数え方の意味(男子学生の人数から女子学生の人数を引けるか）を考える。わかったつもりになっていなかったどうかを自問する。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で，配布資料の演習問題を解く。	60
第10回	第10回　演算の意味と集合の発想　引き算の意味をいくつ知っているか? 論理クイズ（これから論理の問題に入るための準備） 命題の意味：「あなたは優等生である」という文は命題といえるか ？	
	【予習】減法を使う例題を考える。ただし，「引く」意味の異なる例を挙げる。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で，配布資料の演習問題を解く。	60
第11回	第11回　命題演算（その１）「かつ」「または」が真になるのはどんな場合 ？ （その２）「山と海とのどちらか一方に行かない」の否定はどんな意味 ？ （その３）「雨天ならば旅行を中止する」とはどんな意味 ？	
	【予習】「雨天ならば体育祭を延期する」というのは，雨天でない場合は必ず実施するという意味になるのかどうかを考える。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で，配布資料の演習問題を解く。	60
第12回	第12回　（その４）「イヌは四つ足である」はいつでも真か? （その５）　命題の立場で不等式を見直してみよう （その６）　逆・裏・対偶 （その７）「すべて」と「ある」との意味をはっきりさせよう	
	【予習】「イヌは四つ足である」という命題は，どういう状況で正しいといえるのかどうかを考える。手がかりは前回の講義で示唆する。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で，配布資料の演習問題を解く。	60
第13回	第13回　推論　アリバイの原理とは? 判断・推理の少しむずかしい問題に挑戦してみよう	
	【予習】前回の講義で出題する問題を考える。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で，配布資料の演習問題を解く。	60
第14回	第14回　数学パズル（柔軟な思考力のトレーニング）　あなたは暗号を解読できるか?　楽譜はグラフの一種?	
	【予習】前回の講義で出題する問題を考える。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で，配布資料の演習問題を解く。	60
第15回	第15回　まとめ 社会と数学との密接な関係，数学の発想による脳のトレーニング 履修後も数学と長くつき合うために	

	【予習】初回の講義に戻って，数学が数学以外の分野で活用されている例を挙げる。たとえば，音楽，美術，スポーツに見つからないかどうかを確かめる。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で，配布資料の演習問題を解く。	60

授業の方法

●初回を単なるガイダンスと誤解しないこと。放送大学・NHK教育テレビ等を見るとわかるように，　初回からテーマを決めて講義を進行することは不思議ではない。
●1回あたり一つのトピックスを取り上げる。
●板書・配布資料による講義と演習とを行う。
●本講義はSPI・公務員試験の受験講座ではない。しかし，　これらの試験の数的処理・判断推理の分野に対応できる基礎学力が養える。
●中学・高校数学の単なるくり返しを期待している学生，公式を暗記して正解を求めればわかったことになると思い込んでいる学生には，　まったく向かない。
●数学は積み上げ式に理解していくという性格がある。受講を中断すると，　筋道を見失うので注意する。

成績評価の方法

定期試験 80%・毎時間の確認問題 20%
ただし，　定期試験の採点後，　難易度を判断した上で，　評価割合を ± 10% 程度の範囲で変更することがある。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
単に，正解に達するだけでなく，プレゼンテーション技術としての日本語作文能力（数学の書式を含む）が身についていること。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識を期待していない。高校までの先入観に固執しない柔軟な発想で受講することがのぞましい。

テキスト

プリント配布
　問題の見方，　考え方，　説明の方法は人によってちがうので，　講義に沿った補助教材を作成している。

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	科学的に考える（文系のための科学実験）		
教員名	伊藤　郁夫		
科目ナンバー	1101073006	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

例年，授業の冒頭で「科学（理科）は好きですか？」と聞くと，「小学生までは理科は好きだった」という答えが多くかえってくる。中学や高校で，暗記しなければいけないことや計算問題がなかったならもっと理科が好きになれたのに，と思う人も少なからずいることだろう。この授業では日常生活の中での見慣れた現象をとりあげて，自ら実験や工作することを中心に進めるので，科学をより身近なものとして感じることができるようになるはずだ。中学や高校の理科をやり直してみたい，科学技術に興味はあるがいつも話ばかりで飽き足らない，子供の時のように実験でわくわくするような感覚を味わってみたい，など，いろいろな動機での受講を歓迎する。

到達目標

① 身の回りの現象を題材にして，自らの手で実験をし，確かめることで，科学に対して積極的に向き合う姿勢を醸成する。
② 実験結果を整理した上で，自分の視点にもとづいて人に伝えることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	【ガイダンス】授業の概要と到達目標を確認し，テーブル上でできる簡単な実験を体験して，授業の進め方を説明する。予習・復習の仕方などについても確認する。	
	【予習】シラバスを読み、教室の確認とポータルサイトへのアクセス環境を確認しておく。 【復習】授業時に行った実験内容を，自分で再現して他の人に見せられるくらいにしておく。	60
第2回	【サングラスを通して見える世界】偏光サングラスを通して見える様々な風景を通して，光が波であるということを実感する。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業で配布された偏光シートを通していろいろな景色を観察し，普段と違って見えるものがないか調べてみる。	60
第3回	【虹の解体】プリズムを通してものの見え方を観察する。光の反射と屈折の仕方について思い出すと同時に，白い物体を見たときの色づき方を確かめる。虹は光の性質によって科学的に理解できるのだということに対して詩人John Keatsの言及した虹の解体についても考えてみる。	
	【予習】ポータルサイトにアップした資料を読んでおく。 【復習】自宅でシャボン玉を作り，時間がたつと表面の模様にどのような変化が生じるかに注意して観察する。	60

第4回	【光を分ける】回折格子を使った分光計を製作し，それを通していろいろな光源からの光を観察する。光が放たれるメカニズムの違いによって色の分かれ方がどうなるのかを調べる。第2回目，3回目とあわせ，光について学んだ知識をまとめてレポートを提出する。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】製作した分光計でいろいろな光源からの光を観察し，その結果も含めてレポートを作成する。	120
第5回	【楽器の科学】ギターの弦の長さはどんな規則で決まっているのか測って調べる。試験管に水を入れて息を吹きこみメロディーを演奏する。これらのことを通して，弦楽器や管楽器では音階が何によって決まるのかを確かめる。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】リコーダーやギターなど，自分の持っている楽器で，実験で確かめた音階の法則を確かめてみる。	60
第6回	【音を科学する】さまざまな音源からの音の波形をパネルに映し出し，その形と音色や音の性質の関係を調べる。	
	【予習】ポータルサイトにアップされたた資料を読んでおく。 【復習】自分の好きな楽器を一つ選び，音の鳴る仕組みを調べる。	60
第7回	【キャンディを噛んで稲妻】静電気のよく知られた様々な実験を自分で実演する。蛍光管はいうにおよばず，キャンディも静電気で光る。身近な現象でもある静電気の知識をあらためて確認するとともに，原子や電子などミクロな世界の理解に近づく。	
	【予習】ポータルサイトにアップされたた資料を読んでおく。 【復習】授業で配布したキャンディを他の人の前で光らせて確認してもらう。なぜ光るのかを説明して納得してもらう。	60
第8回	【LEDは未来の光】豆電球とLEDを乾電池で点灯させ，メーターを使って電圧や電流を測る。LED照明が省エネルギーと言える理由を実感する。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】家庭の電気器具定格や契約電流を調べ，自分の生活が毎日どのくらい電力を消費しているのか調べる。	60
第9回	【電池を作ってオルゴールを鳴らしてみよう】トマトなど身近な材料を使って電池をつくり，電子オルゴールを鳴らすことができるかどうか確かめる。実験結果をまとめてレポートを提出する。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】いろいろな材料の電池を自分で作り，実験時に貸し出す電子オルゴールで働きを確認する。その結果もあわせてレポートを作成する。	120

第10回	【電気と磁気は切っても切れない】電子ビームや電流が磁石から力を受けることから，電気と磁気の関係を体験する。簡単なモーターを製作し，回してみることで，その働きを実感する。モーターが回れば大成功だ。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】身の回りでモーターがどんなところに使われていて，どんな役割をしているのか，またサイズはどのくらいなのを調べる。	60
第11回	【放射線をつかまえる】シンチレーション検出器やガイガーカウンターなどの検出器をつかって自然放射線の存在を確認する。霧箱によって放射線を目で確認することができる。これらを通して，放射線の基礎的な性質の理解に努める。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】自然放射線はどのような起源によるものなのかを整理した上で，上野の国立科学博物館にある霧箱を観察してくる。	60
第12回	【環境にある放射線】ポータブルのガンマ線検出器を持って学園内の環境放射線量を測定し，マップをつくる。第10回の実験結果とあわせ，放射線について学んだことをまとめた上でレポートを提出する。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】自分の住んでいる自治体で公表されている環境放射線量もふまえて，測定結果をまとめた上でレポートを作成する。	120
第13回	【コーヒーが冷めない工夫】紙コップに注いだコーヒーはどのくらいで冷めるのか，また，マグボトルはどのくらい保温能力があるか，を温度計で測って確認する。熱の移動形態について思い出すとともに，地球温暖化とは何を意味するのか理解に努める。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】手近にあるマグボトル，魔法瓶などの保温能力を調べてみる。普通のカップで冷めない工夫をしてみて，どの程度効果があるか試してみる。	60
第14回	【凍らない水】塩を混ぜた氷水で試験管の水を過冷却にし，これを振って目の前で一瞬のうちに氷になる現象を確かめる。水は0℃で凍るとは限らない，など，水が凍るという現象も単純ではないことを実感する。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】ペットボトルに水を入れて，冷凍庫で過冷却になるまで冷やし，それを器にあけて解放される現象を観察する。	60
第15回	【過冷却湖畔のかすかな光】硫酸ナトリウムという物質の過冷却現象を観察する。これは詩人宮沢賢治が好んで観察したと言われている。実際，賢治の作品には「過冷却湖畔」という言葉を使った詩作がある。実験結果を整理してその場で簡単なまとめを提出する。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】宮沢賢治の詩集の中から，科学用語の使われているものにどのようなものがあるか，その言葉の意味もあわせて調べてみる。	60

授業の方法

・教員が実験して見せてくれる授業ではない。学生自らが実験室で作業を行うことで授業が進められる。
・授業内容に関連した資料を事前にポータルサイトへアップするので，授業時に行う実験内容の理解のためにも30分ほど時間を取って目を通しておくこと。
・授業内容と関連して自宅で簡単に実験できる教材も提供するので，それに取り組むことで授業内容を思い出し，理解が深められるはずである。時間の目安は30分程度であるが，いろいろと確かめたりしているうちにおもしろくなって，時間を忘れてしまうことを期待している。
・4回目，9回目，12回目の実験については，それぞれ報告書を作成して期日（おおむね2週間後）までに提出する。1回の報告書の作成に要する時間の目安は90分程度であるが，実験内容を再度思い出し，調べものをする中でより興味深いことを考えたりするのがおもしろくなって，時間を忘れてしまうことを期待している。

成績評価の方法

平常点（授業への参加）50%，提出物（実験報告書）50%。期末試験はない。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
① 自然科学の現象に対して積極的に向き合う姿勢ができているか。
② 実験内容を整理した上で，自分の視点も取り込んだ報告書を作成できたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識はとくに要しないが，新聞やウェブ，またテレビなどで科学関連のニュースや記事があったら，スキップしないで目を通すようにしよう。また，科学博物館へ足を運んだり，サイエンスチャンネルを視聴したりして，少しでも科学に触れる時間を作り，さらに授業で扱った実験を自宅で再現するなどして，積極的に取り組む姿勢を醸成してほしい。

テキスト

授業前にポータルにアップされる資料と，授業時に配布するプリント

参考書

授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。
それ以外の時間でも，教員室にいるときは随時質問や相談を受ける。

科目名	環境と科学（地球と環境）		
教員名	財城　真寿美		
科目ナンバー	1101073011	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

到達目標

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回		
第2回		
第3回		

第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		

第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業の方法

成績評価の方法

成績評価の基準

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

参考書

質問・相談方法等（オフィス・アワー）

科目名	環境と科学（生命と環境）		
教員名	池田　威秀		
科目ナンバー	1101073012	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

本講義では、生物がいかにして環境に適応してきたか、特に生物の体色に関しての話題を中心に紹介する予定である。
　生物、物理等を履修していない学生も理解できるよう、前半は遺伝子、進化、光と色などの基礎的な話題が中心となる。後半は主に生物の視覚や体色を例に、その適応的な意味について検討したい。なお、事情により内容を一部変更、前後する場合がある。

到達目標

生命の進化と環境への適応について、特に視覚と体色の進化を中心に理解する。
①生命の進化、適応について理解する
②光、色の特性と様々な光環境を理解する
③環境を考慮して体色の論理的考察ができる

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方について ・レポートに関して	
	・シラバスの確認と内容把握	60
第2回	進化と適応（1） ・ダーウィンの進化論 ・ゲーム理論の考え方等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第3回	進化と適応（2） ・ネオダーウィニズム ・様々な適応戦略　等	
	授業内キーワードの確認と復習	60

第4回	光と色（1） ・光とは何か ・色とは何か　等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第5回	光と色（2） ・どのように色を記述するか ・分光スペクトル　等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第6回	視覚（1） ・複眼と単眼 ・物が見える仕組み　等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第7回	視覚（2） ・目と視物質の進化　等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第8回	体色と適応的意味 ・様々な体色と適応的意義　等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第9回	発色のメカニズム ・色素細胞とは ・チューリング・パターン　等	
	授業内キーワードの確認と復習	60

第10回	体色を考える（1） ・レポートの書き方 ・魚類の体色について　等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第11回	体色を考える（２） ・環境と体色 ・体色変化とメカニズム　等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第12回	体色を考える（3） ・特殊な環境と色 ・見え方を考える	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第13回	植物と色 ・花の色／実の色 ・受粉戦略と種子散布	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第14回	生活と色 ・生活における色	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第15回	まとめ	
	授業内キーワードの確認と復習	60

授業の方法
基本的にはプロジェクターを用いた講義形式で行う。

成績評価の方法
学期末に課すレポート（80%程度）を中心に評価する。その他、平常点（授業への参加状況等）も考慮する予定である（20%程度）。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
特にレポート課題に関しては、
①適切な対象を選択し、その生態をよく理解しているか
②物理的、生物的環境を理解できているか
③上記をふまえた上での論理的な考察ができているか
を主な評価点とする
詳細に関してはガイダンスおよび授業内に発表する予定である

必要な予備知識／先修科目／関連科目
必須ではないが、生物学、物理学等の基礎が理解できていることが望ましい。

テキスト
特に指定しないが、下記参考書の内容を中心に講義する予定である。

参考書
視覚とその進化に関しては、アンドリュー・パーカー『眼の誕生』、サイモン・イングス『見る』、色素に関しては梅鉢幸重『動物の色素』、藤井良三『色素細胞』、また生物の色に関しては日高敏隆『動物の体色』等。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	人間と進化		
教員名	櫻木　晃彦		
科目ナンバー	1101077102	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この授業の内容は生物人類学、すなわち生物学的観点に立って人間を探求するものである。具体的には、生物としてのヒトの特徴を学ぶ。あらゆる自然科学の究極の目的は自分自身を知るということであろう。生物としての人間、すなわちヒトとはどのようなものかを学ぶことによって、「自らを知ろう」という知的作業を体験する。

到達目標

生物としてのヒトの正確なイメージをもつこと。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	１．生物としてのヒトを概観する	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分
第2回	２．生物とは何か	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分
第3回	３．人体の概形を決める骨の形	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分

第4回	４．人体の運動システム	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分
第5回	５．人体のエネルギーシステム	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分
第6回	６．人体の物流・調節システム	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分
第7回	７．人体の防御システム	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分
第8回	８．人体の情報システム	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分
第9回	９．ヒトの個体発生（１）受精・誕生・成長	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分

第10回	10. ヒトの個体発生（２）老化と死	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分
第11回	11. 進化とは何か	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分
第12回	12. 人類への進化	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分
第13回	13. ヒトは特別な生物か	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分
第14回	14. ヒトとしての自分自身を考える	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分
第15回	15. まとめと試験	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	30分

授業の方法
講義形式で行なう。ほぼ毎回プリントを配布し、コンピュータグラフィックス等の画像を駆使して視覚に訴え、わかりやすく解説する。

成績評価の方法
評価は筆記試験(95%)と課題(５%)による。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
人体に興味があることを必要とする。高校で「生物」を履修している必要はない。

テキスト
『人体で学ぶ生物学』、桜木晃彦、てらぺいあ社

参考書
『ここまでわかった人類の起源と進化』、Ｒ．ルーウィン、てらぺいあ社、￥3200、ISBN:88699-013-4

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	天文学入門		
教員名	渡部　潤一、古荘　玲子		
科目ナンバー	1101077103	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

天文学は、私たち人類が自分たちを取り巻く世界を理解したいという知的好奇心から生まれた、最古の学問のひとつである。私たちの住む地球からはじまり、太陽系、銀河系そして遠方銀河までが、どのように観測され、研究されてきたのか、宇宙の構造を空間スケールを変えながら概略を学ぶ。また、私たちの住む地球や太陽系を含めて、時間とともにどのように進化してきたのかを概説する。

到達目標

1. 天文学が明らかにしてきた知見を、時間的・空間的なスケールと絡めて包括的に理解する
2. 地球や私たちの文明のあり方を、宇宙における存在として捉えなおす

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス／宇宙観の変遷 ・本講義の進め方や評価基準について説明する。 ・天文学の始まりと研究の流れについて解説する。	
	【予習】シラバスや参考書を読み、予め講義内容を把握する。 【復習】講義の進め方や評価基準を確認し、配布プリントを復習する。	30 60
第2回	基礎知識１ ・時間と空間、暦の成立と変遷、天体のスケールについて解説し、学修する。	
	時間と空間の概念、暦の成立と変遷、天体のスケールについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第3回	基礎知識２ ・観測とはなにか、観測手法、波長、座標系などについて解説し、学修する。	
	観測とはなにか、観測手法、波長、座標系などについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90

第4回	地球 ・地球の誕生、歴史について解説し、学修する。	
	地球の誕生と進化の歴史について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第5回	太陽系１ ・太陽系の概念の変遷と惑星とは何かについて解説し、学修する。	
	太陽系の概念の変遷、特に惑星の定義について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第6回	太陽系２ ・個々の惑星の性質、特徴、種別などについて解説し、学修する。	
	個々の惑星の性質、特徴、種別などについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第7回	太陽系３ ・太陽系小天体、特に彗星、小惑星、および流星について解説し、学修する。	
	太陽系小天体、特に彗星、小惑星、および流星について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第8回	太陽 ・恒星としての太陽、太陽の物理について解説し、学修する。	
	太陽の物理について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第9回	恒星１ ・恒星とは何か、および恒星分類について解説し、学修する。	
	恒星とは何か、および恒星分類についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90

第10回	恒星２ ・恒星の進化と輪廻、物質循環に果たす役割について解説し、学修する。	
	恒星の進化と輪廻、物質循環に果たす役割についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第11回	銀河系 ・天の川銀河の性質、構造、および進化について解説し、学修する。	
	天の川銀河の性質、構造、および進化についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第12回	銀河 ・銀河の種別と分類、銀河の進化、および構造について解説し、学修する。	
	銀河の種別と分類、銀河の進化、および構造についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第13回	宇宙論 ・宇宙の誕生、進化、構造、および多宇宙論について解説し、学修する。	
	宇宙の誕生、進化、構造、および多宇宙論についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第14回	宇宙と生命 ・宇宙における生命の可能性や生命探査、さらに系外惑星について解説し、学修する。	
	宇宙における生命の可能性や生命探査、系外惑星について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第15回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストを実施する。	
	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	120

授業の方法

教室での講義を主体とする。授業時に各回のトピックに関するプリントを配布する。普段から、ノートやプリントを使って復習に力を入れること。最終授業で到達度確認テストを行い、授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

成績評価の方法

授業最後に実施する到達度確認テストの成績を主とするが（70%）、講義への出席状況(30%)を加味する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価する。
① 天文学が明らかにしてきた基本的な知見を、論理的に正しく説明できる。
② ①について、さらに時間的・空間的なスケールと絡めて解説できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校程度の数学的な基礎知識があることを前提とする。

テキスト

なし（必要に応じてプリントを配布します）

参考書

「面白いほど宇宙がわかる１５の言の葉」　渡部潤一著、小学館１０１新書
「宇宙科学入門 - 第2版 - 」　尾崎洋二著、東京大学出版会

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	薬はなぜ効くか		
教員名	武田　収功		
科目ナンバー	1101077104	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

「 薬はなぜ効くか」を考えたとき、その対象は常に生体である。　生体は主に有機化合物で構成されており、薬もまたその多くは有機化合物としての化学構造を持っている。それゆえ生体と薬の何らかの相互作用、すなわち分子どうしの化学反応によってその効果が発現される。「薬が効く」ということはまさにこの化学反応を理解するということである。　薬（医薬品）は病気の治療、予防、そして診断に用いられ、人類の健康の維持に無くてはならないものである。近年、多岐にわたる薬が開発され、薬の作用も多様化している。薬の効果は治療面に大いに発揮されるが、薬の持つ副作用も意外に大きく無視できない。更に結核菌などの病原細菌はもちろん、ガン細胞にも薬に対する耐性が発生している。このような薬についての様々な事柄について、薬にかかわる分野が総合科学であることを認識しながら、その本質を多様な観点から考察し、理解する。＜テーマ＞

「薬はなぜ効くか」の理解は、より優れた新薬の開発、耐性の克服、副作用の軽減、正しい薬の用い方などのために必要である。この点を中心に、薬の種類、作用機序（薬はなぜ効くか）、薬剤耐性（薬はなぜ効かなくなるか）、薬による副作用、遺伝子治療など、”薬”全般について講義する。その他、アレルギーなどの慢性疾患に効果が認められる漢方薬について概説し、更に覚せい剤、モルヒネ、大麻などを違法に使用する”薬物乱用”についてもその危険性などについて講義する。できるだけ化学構造式や反応式などを使わず、図案化したモデルを用い、わかりやすい、しかしサイエンスに基づいた内容とする。　＜概要＞

到達目標

受講生が薬について正しい知識を取得し、薬の全体像を理解し説明できる。　また、それがこれからの健康的な生活の一助となることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	講義全体の概説及び薬（医薬品）とは何かについて ・薬の定義などについて学修する。	
	【予習】　シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】　テクニカルタームの理解をする。	30 60
第2回	薬の発展の歴史（人類と様々な疾病との闘い） ・ヒポクラテス、錬金術からゲノム新薬へ。人類はどのように薬を開発し利用してきたかを学修する。	
	【予習】図書館、インターネットなどで、薬の発展の経緯を調べておく。 【復習】進化の過程を理解する。伝統薬などを知る。	30 60
第3回	薬の形と性質・薬の作用を受ける身体の仕組み ・臓器、神経、ホルモン、酵素、DNA・・・などの働きとその理解。	
	【予習】高校の生物、化学の教科書をあらかじめ読んでおく。 【復習】個々の用語が説明できる。	60 60

第4回	薬の種類（サルファ剤，抗生物質などの抗菌剤） ・病原細菌の種類と薬の作用機序を学修する。 ・前回までの確認小テスト。	
	【予習】シラバス内容にある単語を調べておく。 【復習】効くメカニズムを理解し、説明できるようにする。	30 60
第5回	薬の種類（抗ガン剤，抗高血圧薬、抗高脂血症薬などの抗生活習慣病薬） ・抗がん剤の種類と効き方の違いについて学修する。	
	【予習】がんとは何か、イメージしておく。 【復習】３人に１人はがんになる現代、自分の生活習慣や遺伝などと考え合わせ、理解を深める。	60 60
第6回	薬の種類（解熱鎮痛薬、抗精神病薬など） ・風邪薬について ・情動作用と大脳辺縁系など、こころと脳をつなぐ薬について学修する。	
	【予習】新聞などでインフルエンザやうつ病について読んでおく。 【復習】学んだことを実生活で生かせるように具体的な薬名を覚える。	60 60
第7回	薬の種類（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬など） ・免疫とアレルギー。身近な疾患と市販薬なども含め薬の種類を学修する。	
	【予習】アレルギー性鼻炎や蕁麻疹など身近な疾病について調べておく。 【復習】対症法について理解を深める。	30 60
第8回	薬の種類（ビタミン剤、ホルモン剤など） ・栄養とビタミン ・少量でぴりりと効く ・特徴的な化学構造などモデルを使い学修する。 ・ここまでの確認小テスト。	
	【予習】医薬品では、新聞やテレビコマーシャルなどで知れる知識とは異なることをあらかじめ理解しておく。 【復習】講義内容を振り返り、理解を深める。	30 60
第9回	薬はなぜ効くか（作用機序） ・受容体 ・ファーマコフォア ・薬と受容体のＣＧによるドッキングシミュレーションを視覚で体験することで、生体と薬が化学反応していることを学ぶ。	
	【予習】この講義の本質的なところなので、図書館やインターネットでキーワードを確認しておく。 【復習】テクニカルタームの理解と作用機序を科学の言葉で説明できる。	60 60

第10回	薬はなぜ効かなくなるか（薬剤耐性） ・薬剤耐性と遺伝子について学修する。	
	【予習】キーワードを調べておく。 【復習】テクニカルタームの理解。	30 60
第11回	薬の副作用（ほとんどの薬は副作用を持つ。様々なケースとそれらの原因、予防など） ・薬はさじ加減、毒物としての作用も含め学修する。	
	【予習】キーワードを調べておく。 【復習】テクニカルタームの理解。	30 60
第12回	違法薬物（薬物乱用に用いられる違法薬物の種類と身体に及ぼす悪影響など） ・麻薬、覚せい剤、大麻、コカイン・・・などなど。 ・薬物乱用について学修する。	
	【予習】キーワードについてあらかじめ調べておく。 【復習】違法薬物についての知識を理解する。	30 60
第13回	薬用植物と漢方薬・健康食品などについて ・生薬 ・栄養機能食品、特定保健用食品など。 ・補完代替医療について学修する。	
	【予習】シラバスの内容を調べておくこと。 【復習】生薬・漢方薬は種類が多いので整理して理解する。	30 60
第14回	これからの薬・医療（新しいアイデアから得られた薬や遺伝子療法などについて） ・分子生物学、薬物動態学、コンピュータによるドラッグデザインなどが新薬を創る。 ・創薬について学修する。	
	【予習】人類にとってどんな薬が必要か考える。 【復習】新しい薬の未来と医の倫理について考え理解する。	30 60
第15回	全体のまとめ ・薬の未来。 ・講義全体のレポート提出。	
	【復習】健康と薬を生活の中で深く考え理解する。	60 60

授業の方法

パワーポイントによる講義形式を中心に、小テスト（８～１０回程度）、レポート提出（１回）を実施する。対話形式をとりながら可能な限り受講生との双方向性を高めるよう工夫する。毎回講義内容を配布し復習の手助けとする。

成績評価の方法

学期末試験、演習問題、レポート等の成績に授業態度などを加味して評価する。
評価方法は
学期末試験（３０～４０%程度）、８～１０回の演習問題（２０～３０%程度）、レポート１０%程度、出席（１４回）３０%程度。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日常的に新聞、テレビ、雑誌などから薬・医療に関する情報を摂取するように努めると、講義内容が理解しやすい。

テキスト

「特になし」

参考書

特に定めないが、毎回講義内容の印刷物を配布する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	身の回りの科学		
教員名	長沢　久男		
科目ナンバー	1101077105	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

科学技術は、現代の人間生活の基本的な衣食住に深く関わっているのみならず、人間が限りなく豊かに生きてゆくことを力強く支えるものでもある。現代の科学技術は日常的な知識をはるかに超える自然科学に基礎を置いている．高級な数学を駆使し，巧妙な実験による検証を重ねて築かれた自然科学を平易に解説することを試みる．半導体を中心とする物質科学やデジタル技術等の具体的な科学技術の概観を通じて、科学技術のあるべき姿を考察し、その発展を正しく理解し、そして、現代に生きる社会人として自然科学とその技術にどのように対処したらよいかを議論したい。

到達目標

人間を含めた自然に関する科学的認識を理解できる能力を養うことを目標とする．自然に関する科学的認識の理解とは，自然現象を数学を含む科学のことばで理解することであり，その理解を通じて自然界の科学的世界像の確立が促される．人が生きている世界の現実が自然科学の学習によって初めて認識され，人が自然界にどのように生きて行くべきかを教える人生観のようなものが科学的に養われることを期待している．

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の内容や進め方として，テキスト「１億人の科学」のどの節を使用するかなどを説明する．そして，テキストの序文「自然科学と世界平和」を読む．	
	テキスト「１億人の科学」の序文を熟読する．	60
第2回	第１節「自然科学」を読んで，自然科学と科学技術について認識を深める．	
	第１節「自然科学」を読み，自然科学について自分のことばで説明できるようにする．	60
第3回	第６，７節「運動の法則(1)，(2)」を読む．「慣性の法則」を中心として解説する．	
	第６，７節を読む．	60

第4回	第８節「運動の法則(3)」を読む．特に運動と摩擦の関係について説明する．	
	第８節を読む．	60
第5回	第14節「大気と太陽光」を読んで，身の回りを覆う光に関する認識を深める．	
	第12，13，14節を読んで，身の回りの自然環境の理解を確認する．	60
第6回	第15節「大気と電気」を読んで，身の回りの自然環境の主役が電気と磁気であることを認識する．	
	第15節を読んで，見えない電気現象等についての自分の理解を明確にする．	60
第7回	第21節「物質世界の微視的な実体」では，巨視的な物質の世界を構成する微視的な実体としての原子や分子について解説し，以下の各テーマを理解するための準備とする．	
	第21節を読んで，物質世界の階層構造を理解する．	60
第8回	第23節「物質の状態変化」では，身近な物質である水を例にとって解説を試みる．	
	第23節を読んで，水についての科学的認識を深める．	60
第9回	第24節「水分子の大きさと重さ」を読んで，原子や分子が，われわれの想像をはるかに超えるほどいかに小さいものであるかを実感する．	
	第24節を読んで，水分子を科学のことばで説明できるようにする．	60

第10回	第25節「原子の配列」および第26節「結晶」では，原子や分子がどのように巨視的な物質を造りあげているかを説明する.	
	第25，26節を熟読する.	60
第11回	第27節「Ｘ線」を読んで，目に見えないＸ線の発見に始まる現代科学技術の発展を概観する．そして，20世紀の自然科学の最大の成果の１つは，物質が原子からできていることを明らかにしたことである，と理解する.	
	物質が原子や分子からできていることを説明することができるか.	60
第12回	第45，46，47節で原子核の構造と放射線についての理解を深め，エネルギー問題や地球環境問題を考慮しつつ，原子力発電等の技術の将来について議論したい.	
	第45，46，47節を読んで，原子力の安全な利用が可能であるかどうかを自分なりに考えてみよう.	60
第13回	第52節「光と電気，電子」では，光と電気の本質的な関係を理解する.	
	第51，52，53節を読む.	60
第14回	第54節「電磁波」を読んで，電磁波に関する現代の科学的認識について理解を深め，通信や家庭電気器具等に応用されている光や電波の技術について概説する.	
	電磁波，電波，光についての認識を深める.	60
第15回	第58，59，60節では，半導体とは何かを電気的特性によって理解し，それを応用した科学技術を概観する.	
	半導体とは何かを自分のことばで説明できるようになる.	60

授業の方法

通常の講義以外に、1000字程度のテキストを読み、それに関する2、3の小問に解答する形式で演習を行う。

成績評価の方法

学期末試験(～60%)と授業中の数回の小テスト(～20%)およびレポート(～20%)で評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
評価の判断基準としては，自然科学の基礎的な事項をどのくらい正確に理解しているかを重要視する.
さらに，未解決な難問などに関して自分の考えを明確に記述できるかを考慮する.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識は特にない.

テキスト

「１億人の科学」を使用する.

参考書

特になし.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。また，電子メールでも受け付ける.

科目名	科学技術の発展と歴史		
教員名	渋谷　一夫		
科目ナンバー	1101077106	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

科学技術は長い歴史の中で多くの人びとの努力の積み重ねによって発展させられてきた。この授業では、18世紀後半にはじまる産業革命以降のヨーロッパの科学技術に関するいくつかのエピソードを取り上げながら、科学と技術とが相互に影響を及ぼしあいながらそれぞれどのように発展してきたのかを明らかにする。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

到達目標

①それぞれの科学技術がどのような経過をたどって内的に発展してきたかを説明できる。
②それぞれの科学技術が当時の社会・経済・政治などとどのような関係にあったかを説明できる。
③それぞれの科学技術が後の社会・経済・思想などにどのような影響を与えたかを説明できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習のしかたなどを説明する。 科学技術と産業革命 ・科学技術から見た産業革命について概観する。	
	【予習】産業革命とは何だったかを確認する。	60
第2回	素材革命の発達の特徴 ・繊維を漂白する技術の変化について学修する。	
	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第3回	素材革命の発達と近代化学の成立 ・漂白技術の近代化と平行して展開される無機化学の基礎的内容を学修する。	
	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60

第4回	素材革命の発達と近代化学の展開 ・漂白技術の発達に伴って発生した環境問題とその解決策および化学理論の進展について学修する。	
	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第5回	動力革命の発達の特徴 ・動力技術の変遷について学修する。 ・動力技術の発達にワットが果した役割について学修する。	
	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第6回	動力革命の発達と熱力学の成立 ・新しい動力技術が社会で普及していく中で、熱力学という新しい科学が生まれてくる過程を学修する。	
	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第7回	動力革命の発達と熱力学の展開 ・動力技術のさらなる発展が熱力学の展開とどのように関連していくかを学修する。	
	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。また、課題レポートを作成に努める。	120
第8回	染色革命の発達の特徴 ・新しい染色技術の形成過程について学修する。	
	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第9回	染色革命の発達と有機化学の成立 ・新しい染色技術が定着する上で化学理論が果した役割について学修する。	
	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60

第10回	染色革命の発達と有機化学の展開 ・染色技術のさらなる発展が有機化学の展開とどのような関連性をもっていたかについて学修する。	
	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第11回	照明革命の発達の特徴 ・照明技術の変化について学修する。	
	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第12回	照明革命の進展の特徴 ・電気を利用した照明技術の展開について学修する。 ・電気照明が社会に与えた影響について学修する。	
	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第13回	通信革命の発達の特徴 ・通信技術の変化について学修する。	
	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第14回	通信革命の発達と電磁気学の成立 ・電磁気学の成立が通信技術の進展に与えた影響について学修する。	
	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第15回	まとめ ・産業革命後に発明された技術が自然科学の発展とどのような関連をもち、また社会や思想に与えた影響について学修する。	
	【復習】この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度を点検し、不足している知識などを確認し、学修する。また、課題レポートの作成に努める。	120

授業の方法

講義形式で、ウェブ上に公開する講義レジュメ（概要）および授業中に配布する資料をもとに詳説する。講義レジュメは授業の前日までには公開するので、必ずプリントアウトしておくこと。また、できる限り受講者との双方向性を高めるよう工夫する。

成績評価の方法

随時課すレポート（２５%程度）と学期末試験（７５%程度）を基本としつつ、講義中の発言や質問など積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

テキストは使用しない。

参考書

『科学技術史概論』山崎正勝ほか編著、ムイスリ出版、1985年

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受けつける。

科目名	科学と哲学		
教員名	瀬戸　一夫		
科目ナンバー	1101077107	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

現代の科学と科学技術は、専門細分化が高度に進み、全貌を捉えることが難しくなっている。このような情況のもとで、人間社会に対して科学がどのような役割を果たすべきであるのかを考える機会はどうしても少なくなりがちである。この授業では「科学」が歴史のなかで果たしてきた役割とその哲学的な意義について検討する予定である。

到達目標

科学に関する問題を、根本から考えることができるように、哲学的な考え方の基本を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の内容と進め方の概説	
	(予習)シラバスを読み、授業内容の概要をイメージしておく。 (復習)授業内容のイメージを修正し、自分に必要な予習の計画づくりをする。	60
第2回	自然科学の考え方と方法	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第3回	科学の客観性の哲学的基礎	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60

第4回	自然観の諸類型と科学の歴史	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第5回	ガリレオの課題	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第6回	コペルニクス革命の様々な解釈	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第7回	コペルニクス革命の謎	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第8回	宗教と科学の関係	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第9回	科学の源流と神話	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60

第10回	古代の自然研究	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第11回	科学的な説明の原型	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第12回	説明原理の役割	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第13回	古代の宇宙論	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第14回	. 宇宙進化論の原型	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第15回	科学的客観性の真相	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60

授業の方法

解説講義を中心とする。なお、授業の進捗によって、第２回～第14回の項目を入れ替える、あるいは変更する場合がある。

成績評価の方法

各学生について、50パーセントは学期末試験の点数により、残る50パーセントは受講態度と小テストの成績により総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
特に以下のことを重視して評価する。
・哲学の基本用語が正しく使えるようになったか。
・科学の問題を、哲学的な観点から捉え、考えられるようになったか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

なし。

テキスト

特に指定しない。

参考書

瀬戸一夫著『コペルニクス的転回の哲学』（勁草書房）３，５００円
瀬戸一夫著『知識と時間』（勁草書房）２，６００円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	環境論		
教員名	斉藤　喬士		
科目ナンバー	1101077108	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

テーマ　生物と環境との相互関係と進化について考える。
概　要　生命のなりたちや物質の循環を考え、DNA, RNA, 細胞、個体などの基本的な生命単位を理解しながら環境の変化が生物に与える影響や生物の多様な変化が環境に与える影響という観点で環境全体を考えていく。
目　標　環境について、生物の進化という切り口で学び、生物と環境との関係を自分の価値観でとらえられるようになることを目的とする。

到達目標

各時間の内容に沿った課題を文章でまとめるには、まず自分の考えを整理しその考えの根拠を明確にすることが要求される。この積み重ねが生物進化と環境の相互関係の理解を深めるだけでなく、「環境」をより身近な問題としてとらえ、問題解決に対して自分の意見が持てるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	全体の流れと生命と進化、生態系、環境について ＊地球上には多種多様な生物が生きているが、現生生物には、細胞の基本構造、生体の営む化学反応、生体における遺伝情報の流れ、遺伝暗号、タンパク質を構成するアミノ酸の立体構造、生体における直接的なエネルギー源など、多くの点で共通性が認められ、現生生物は同一祖先に由来すると考えられていることを概観し学修する。	
	（予習）参考文献の中の生命、生態系についての項目を読んでおくこと。 （復習）課題問題を中心に、講義内容に沿ってテキストを読み返し、生命について理解を深める。	60
第2回	原始地球環境と生命の起源 ＊地球最古の細胞の化石　＊生命の起源、初期進化研究法　＊化学進化に関連した残された問題点などについて学び、考える。	
	（予習）原始地球環境や生命の起源についての内容は参考図書を読んで準備する。 （復習）課題問題と講義内容についてテキストを読み返しながら理解を深め、自分の言葉でまとめてみる。	60
第3回	生命の起源とＲＮＡ ＊動的平衡について例を挙げて説明　＊ＲＮＡワールド、酵素活性をもつＲＮＡ、分子センサーとしてのＲＮＡの発見　＊ＲＮＡワールドから現代の生物の世界へなどを学び、物質から生命の誕生を考える。	
	（予習）生命の起源とＲＮＡワールドについて参考図書を読んで準備する。 （復習）課題問題やＲＮＡワールドの中の化学物質の特徴をテキストを読み返しながら理解を深め、自分の言葉でまとめる。	60

第4回	極限環境での生物の生存戦略 ＊進化についての基本的理解を深める　＊膜輸送の基本である膜存在タンパク質について学ぶ　＊生物が持つ酸性、アルカリ性、圧力、放射線、熱などに対する耐性の仕組みを理解し、極限環境での生存戦略を学ぶ。	
	（予習）極限の環境下で生存している生き物にはどんなものがいるのかなどを参考図書を読んで準備する。 （復習）課題問題と細胞膜の働きや極限状態での生命現象についてテキストを読み返して理解を深め、自分の言葉でまとめてみる。	90
第5回	細胞の出現 ＊生命というシステムの誕生は細胞の誕生でもある。細胞の内部では、生物にとってさまざまな反応が行われている。そこで細胞の起源、構造、機能などを学び、細胞内の環境が整えられてはじめて生命活動が起こることを学修する。	
	（予習）細胞の構造の名称や働きについて参考図書を読んで準備する。 （復習）細胞内部での生命活動を中心にテキストを読み返して理解を深め、課題問題を含め自分の言葉で説明できるようにする。	90
第6回	酸素と生物 ＊原始生命が出現してからもしばらくは原始大気が維持されていたが、あるときから大気中の酸素濃度が上昇した。酸素濃度上昇を境に、地球環境と生物相が一変した。これらの経過と無気呼吸、酸素呼吸の違いを学修する。	
	（予習）原始大気が変化する過程を参考図書を読んで準備する。 （復習）課題問題と酸素呼吸についてテキストを読み返して理解を深め、自分の言葉でまとめてみる。	90
第7回	真核細胞の出現 ＊原核生物の機能の改善や多様化による進化というより、異なるタイプの原核生物を組み合わせて真核生物を創出した共生という営みの意味を考え、進化史上重要な転換点を学修する	
	（予習）原核細胞と真核細胞の違いについて参考図書を読んで理解しておく。 （復習）課題問題と真核細胞における生命現象についてテキストを読み返し、理解を深め、自分の言葉でまとめる。	90
第8回	多細胞生物の出現 ＊生物の大型化と複雑化は、細胞自身の大型化、複雑化より細胞数の増加とそれらの組織化によってもたらされ、多細胞化は内部環境と形態の多様化を出現させた。生物の大型化、複雑化と進化について学修する。	
	（予習）多細胞生物における組織化について参考図書を読んで準備する。 （復習）課題問題と生物の大型化、複雑化と進化についてテキストを読み返して理解を深め、自分の言葉でまとめる。	60~120
第9回	水と生命 ＊細胞はすべて水溶液に浸っており、生体反応は全て水溶液中での反応であり、吸収、排泄、分泌、拡散など水の存在下で行われている。水の特異性と地球上の水資源について考え、生命と水について学修する。	
	（予習）地球上における水の存在について参考図書を読んでおくこと。 （復習）テキストを読み返して、課題問題と生命活動にとって水の存在の重要性を理解し学修する。	60~120

第10回	寄生：異種生物という環境における生存戦略 ＊敵対関係にある寄生者と宿主の間には、だまし、あやつり、ねじふせ、妥協し、ときには協力するといった興味深い駆け引きや巧妙な生存戦略がみられる。同じ空間を共有する寄生者と宿主生物の生存戦略を学修する。	
	（予習）寄生者と宿主についてあらかじめ参考図書を読んで準備しておく。 （復習）寄生者と宿主生物との間で行われる生存戦略をテキストを読み返して理解を深め、自分の言葉で説明する。	60~120
第11回	内部共生と進化 ＊密接な生物間相互作用のもとに成り立つ内部共生とそれにともなう相互依存関係の発展について多様な実例、動物と腸内細菌、発光魚と発光バクテリア、などを学び、生物進化における内部共生の重要性を学修する。	
	（予習）内部共生にどのようなものがあるかを参考図書を読んで準備しておく。 （復習）内部共生という相互依存関係についてテキストを読み返して理解を深め、生物進化との関連を考える。	60~120
第12回	遺伝子と環境 ＊遺伝子の構造と機能を学び、細胞内外の様々な環境変異原がもたらす莫大な量のＤＮＡ損傷に対抗して、ＤＮＡ修復など複雑かつ多様な生物機能が遺伝子情報の安定性を支えていることを学修する。	
	（予習）遺伝子の構造と働きについて参考図書を読んでどのようなものか知っておく。 （復習）ＤＮＡの損傷と修復そして遺伝子情報の安定性についてテキストを読み返して理解を深め、生物進化について考えてみる。	90
第13回	免疫系における異物認識 ＊免疫系での最初のポイントである免疫担当細胞がどのようにして特異的に外来抗原を識別することができるが、この抗原認識の仕組みを学び、いかにして調和のとれた反応系を維持できるのかを学修する。	
	（予習）免疫における異物とはなんであるかをあらかじめ参考図書を読んで知っておく。 （復習）異物認識の仕組みと調和のとれた免疫系についてテキストを読み返して理解を深め、自分の言葉で説明できる。	90
第14回	生物の絶滅と地球環境 ＊生物が進化してきた過程では、数多くの種が絶滅し、新たな種が生み出されてきたことを確認する　＊生物の大量絶滅の原因として寒冷化、小天体の衝突、無酸素事変などについて学び、考察する。	
	（予習）地球環境の激変による生物の絶滅について参考図書を読んでどのような地球環境の変化があったのかを知っておく。 （復習）環境変化と生物の絶滅についてテキストを読み返して理解を深め、自分の言葉で説明する。	90
第15回	生物に対する人為の影響　ーマンモスの絶滅の謎ー ＊古代の気候、氷河期と温暖化を通して人類の生活を考える　＊マンモスの進化過程と生活行動を考える　＊マンモスの絶滅の理由を考え、なぜ生物多様性の保全が必要なのかを考え、全体のまとめとする	
	（予習）氷河期をはじめ古代の気候について参考図書を読んであらかじめ知っておく。 （復習）マンモスの絶滅の原因をいろいろ考え、人為の影響についてテキストを読み返して理解し、生物の多様性の保全の重要性を考える。	90

授業の方法

授業はパワーポイントを用いて行う。講義の内容を印刷物にして配布する。各講義時間の終了10分前にその日の授業内容について課題を出すのでその課題についてレポートをまとめること。まとめるにあたっては自分の言葉で自分の考えを表現しなければならない。提出されたレポートは平常点として評価する。

成績評価の方法

各時間に提出されたレポート（５０％） 、期末に行うレポート試験（５０％）で評価する。レポートには自分の考え、意見が含まれていなければならない。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

生物学に興味を持っていることが最低限必要である。また、分野を問わないが、新書を月１冊ほど読める読書量があること。

テキスト

各時間プリントを配布する。プリントの内容は参考図書レベルであるので、講義をしっかり聴くこと。また、期末のレポート作成には配布したプリントを参考資料として利用するとよい。

参考書

環境と生物進化　石川　統　日本放送出版協会　￥２０００
生物進化を考える　木村資生　岩波新書　￥５５０
地球の水が危ない　高橋　裕　岩波新書　￥７００

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	気象と地球環境		
教員名	財城　真寿美		
科目ナンバー	1101077109	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

気象・気候および地球環境問題を理解するために，気象学と気候学の基礎的な事項の理解を深めます．身近な大気の現象から，地球規模で発生する現象や環境問題などを取り扱います．高校の地学や物理の知識があると良いですが，文系の学生にも理解できるように解説します．

到達目標

天気に関する身近な現象や地球規模の現象について，メカニズムから理解し，説明できるようになることを目標とする．

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	講義ガイダンス	
	シラバスを読み，講義計画を確認してくること	60
第2回	大気圏の構造	
	前回の講義内容の確認	60
第3回	大気圏の構造	
	前回の講義内容の確認	60

第4回	気圧と風（１）	
	前回の講義内容の確認	60
第5回	気圧と風（２）	
	前回の講義内容の確認	60
第6回	放射と熱	
	前回の講義内容の確認	60
第7回	水蒸気と雲	
	前回の講義内容の確認	60
第8回	大気の大循環	
	前回の講義内容の確認	60
第9回	低気圧と高気圧	
	前回の講義内容の確認	60

第10回	台風	
	前回の講義内容の確認	60
第11回	四季の天気図	
	前回の講義内容の確認	60
第12回	エルニーニョ・ラニーニャ現象	
	前回の講義内容の確認	60
第13回	地球温暖化	
	前回の講義内容の確認	60
第14回	ヒートアイランド現象	
	前回の講義内容の確認	60
第15回	全講義内容の総復習	
	すべての講義内容を振り返って、不明な点については質問できるようにしておくこと	60

授業の方法
配布プリントとPCプロジェクターを使用して講義を進めます.

成績評価の方法
期末試験（持ち込み不可）の結果で評価します.

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
環境と科学（地球と環境）

テキスト
本年度は指定しません.

参考書
「百万人の天気教室」白木正規, 成山堂書店, ISBN：4425511093
「図解　気象の基礎知識」二宮洸三, オーム社, ISBN：4274024733
「身近な気象学」木村龍治・新野宏, 放送大学教育振興会, ISBN：4595312210
「気象と地球の環境科学」二宮洸三, オーム社, ISBN：4274201856

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	ドイツ語演習　活用ＡＩ		
教員名	里村　和秋		
科目ナンバー	1201085211	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

この授業は、ドイツ語の基礎文法の知識に基づいて，さらに一層のドイツ語の総合的な運用力を高めることを目的としています。

ドイツと日本の比較文化的な観点から書かれたテキストを訳読しながら、基本的な文法事項の習熟と定着を図り，さらにドイツの文化に対して多面的な分析を加えることも目指します。またテキストの中で用いられた単語・熟語を用いながら会話練習をあわせて行い、日常会話の能力の向上も目指します。ドイツ語検定３級のための対策も行います。

この授業の履修後には、ドイツ語検定試験３級に合格するレベルに到達することが到達目標になります。

到達目標

この授業ではドイツ語検定の３級の合格レベルを到達目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	１課　　ドイツの位置(1)	
	【予習】１課について、単語や熟語を調べておく 【復習】	６０
第2回	１課　　ドイツの位置(2)	
	【予習】１課について、単語や熟語を調べておく。巻末の練習問題に回答しておく。 【復習】１課について、習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	６０
第3回	２課　　導入(1)	
	【予習】２課について、単語や熟語を調べておく。 【復習】１課について、習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	６０

第4回	２課　　導入(2)	
	【予習】２課について、単語や熟語を調べておく。巻末の練習問題に回答しておく。 【復習】２課について、授業で習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	６０
第5回	３課　　日本における最初のドイツ人(1)	
	【予習】３課について、単語や熟語を調べておく。 【復習】２課について、授業で習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	６０
第6回	３課　　日本における最初のドイツ人(2)	
	【予習】３課について、単語や熟語を調べておく。巻末の練習問題に回答しておく。 【復習】３課について、授業で習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	６０
第7回	４課　　ドイツからの鉄砲鍛冶(1)	
	【予習】４課について、単語や熟語を調べておく。 【復習】４課について、授業で習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	６０
第8回	４課　　ドイツからの鉄砲鍛冶(2)	
	【予習】４課について、単語や熟語を調べておく。巻末の練習問題に回答しておく。 【復習】４課について、授業で習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	６０
第9回	５課　　ドイツにおける最初の日本人(1)	
	【予習】５課について、単語や熟語を調べておく。 【復習】５課について、授業で習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	６０

第10回	５課　　ドイツにおける最初の日本人(2)	
	【予習】５課について、単語や熟語を調べておく。巻末の練習問題に回答しておく。 【復習】５課について、授業で習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第11回	６課　　ケムプファーと彼の日本研究(1)	
	【予習】６課について、単語や熟語を調べておく。 【復習】６課について、授業で習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第12回	６課　　ケムプファーと彼の日本研究(2)	
	【予習】６課について、単語や熟語を調べておく。巻末の練習問題に回答しておく。 【復習】６課について、授業で習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第13回	７課　　シーボルトと彼の業績(1)	
	【予習】７課について、単語や熟語を調べておく。 【復習】７課について、授業で習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第14回	７課　　シーボルトと彼の業績(2)	
	【予習】７課について、単語や熟語を調べておく。巻末の練習問題に回答しておく。 【復習】７課について、授業で習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第15回	８課　　日本における最初の女医(1)	
	【予習】８課について、単語や熟語を調べておく。 【復習】８課について、授業で習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	60

授業の方法

CDを用いてドイツ語の発音に慣れ、音読を行ったのちに、テキストの訳読を行います。さらに文法的な説明を詳細に行い、内容の理解も深めます。また豊富な練習演習によって動詞や名詞の活用変化などのトレーニングを行い、形態・構造上の文法事項の定着を図ります。またテキスト以外にも、ドイツに関する様々な情報を提供していく予定です。

成績評価の方法

成績は、担当部分の発表（４０%）、受講態度・授業での積極的発言（４０%）、予習・復習への取り組み（２０%）によって評価します。学期末試験は特に予定していません。授業に関する質問・相談がある場合には、教室または研究室またはメール（satomura@law.seikei.ac.jp）にて随時受け付けます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「ドイツ語基礎A・B」（ドイツ語I・II)を履修していることが望まれます。

テキスト

Begegnen und Verstehen 日独交流400年
杉谷 恭一・舘石 宏明・Eberhard Herzog 著、2, 200円
ISBN 4-560-01395-0 白水社

参考書

独和辞書や文法書については教室で指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	ドイツ語演習　活用ＡII		
教員名	里村　和秋		
科目ナンバー	1201085212	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

　この授業は、ドイツ語演習・活用ＡIの継続であり、ドイツ語の基礎文法の知識に基づいて，一層のドイツ語の総合的な運用力を高めることを目的としています。ドイツと日本の比較文化的な観点から書かれたテキストを訳読しながら、基本的な文法事項の習熟と定着を図り，あわせてドイツの文化に対して多面的な分析を加えることも目指します。またテキストで用いられた単語・熟語を使っての会話練習をあわせて行いながら、日常会話の能力の向上も目指します。
　この授業の履修後には、ドイツ語検定試験３級に合格するレベルに到達することが到達目標になります。

到達目標

この授業ではドイツ語検定の３級の合格レベルを到達目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	９課　　森鴎外とドイツ(1)	
	【予習】9課について、単語や熟語を調べておく 【復習】	60
第2回	９課　　森鴎外とドイツ(2)	
	【予習】9課について、単語や熟語を調べておく。巻末の練習問題に回答しておく。 【復習】9課について、習った範囲の単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第3回	１０課　　ナウマンと鴎外との出会い(1)	
	【予習】１０課について、単語や熟語を調べておく。 【復習】９課について、習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	60

第4回	１０課　　ナウマンと鴎外との出会い(2)	
	【予習】１０課について、単語や熟語を調べておく。巻末の練習問題に回答しておく。 【復習】１０課について、習った範囲の単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第5回	１１課　　ベートーヴェンの第九の初演(1)	
	【予習】１１課について、単語や熟語を調べておく。 【復習】１０課について、習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第6回	１１課　　ベートーヴェンの第九の初演(2)	
	【予習】１１課について、単語や熟語を調べておく。巻末の練習問題に回答しておく。 【復習】１１課について、習った範囲の単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第7回	１２課　　ブルーノ・タウトと日本の建築(1)	
	【予習】１２課について、単語や熟語を調べておく。 【復習】１１課について、習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第8回	１２課　　ブルーノ・タウトと日本の建築(2)	
	【予習】１２課について、単語や熟語を調べておく。巻末の練習問題に回答しておく。 【復習】１２課について、習った範囲の単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第9回	１３課　　ドイツにおける日本学(1)	
	【予習】１３課について、単語や熟語を調べておく。 【復習】１２課について、習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	60

第10回	１３課　　ドイツにおける日本学(2)	
	【予習】１３課について、単語や熟語を調べておく。巻末の練習問題に回答しておく。 【復習】１３課について、習った範囲の単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第11回	１４課　　ドイツ人監督と日本のサッカー(1)	
	【予習】１４課について、単語や熟語を調べておく。 【復習】１３課について、習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第12回	１４課　　ドイツ人監督と日本のサッカー(2)	
	【予習】１４課について、単語や熟語を調べておく。巻末の練習問題に回答しておく。 【復習】１４課について、習った範囲の単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第13回	１５課　　ドイツにおける日本文化(1)	
	【予習】１５課について、単語や熟語を調べておく。 【復習】１４課について、習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第14回	１５課　　ドイツにおける日本文化(2)	
	【予習】１５課について、単語や熟語を調べておく。巻末の練習問題に回答しておく。 【復習】１５課について、習った範囲の単語や熟語を整理し、覚えておく。	60
第15回	１６課　　ドイツの環境政治(1)	
	【予習】１６課について、単語や熟語を調べておく。 【復習】１５課について、習った単語や熟語を整理し、覚えておく。	60

授業の方法

CDも用いてドイツ語の発音に慣れ、音読を行ったのちに、テキストの訳読を行います。さらに文法的な説明を詳細に行い、内容の理解も深めます。また豊富な練習演習によって動詞や名詞の活用変化などのトレーニングを行い、形態・構造上の文法事項の定着化を図ります。

成績評価の方法

成績は、担当部分の発表（４０%）、受講態度・授業での積極的発言（４０%）、予習・復習への取り組み（２０%）によって評価します。学期末試験は特に予定していません。授業に関する質問・相談がある場合には、教室または研究室またはメール（satomura@law.seikei.ac.jp）にて随時受け付けます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

ドイツ語基礎A・Bを履修していることが望まれます。

テキスト

Begegnen und Verstehen 日独交流400年 （ドイツ語演習 活用ＡＩと同一のテキストを使用します）
杉谷 恭一・舘石 宏明・Eberhard Herzog 著、2，200円
ISBN 4-560-01395-0 白水社

参考書

独和辞書や文法書・参考書については教室で指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	ドイツ語演習　活用ＢⅠ		
教員名	三浦　國泰		
科目ナンバー	1101085221	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

１）日常会話を中心にしたテキストを使用して、１年次習得したドイツ語文法を復習する。
２）日常生活に使える生きたドイツ語を身につけ、実践的に活用する。
３）ドイツ語という言葉の世界を直接体験し、ドイツ語圏の文化に関心をもつ。
４）多様な異文化に接することによって、国際感覚を身につける。

到達目標

１）日常生活に必要な基礎的な会話能力を身につける。
２）ドイツ語検定試験３級合格をめざす。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	【予習・復習】 シラバスをよく読んでおくこと。	30
第2回	１年の復習	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第3回	Lektion 4 Studentenleben (1)	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60

第4回	Lektion 4 Studentenleben (2)	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第5回	Lektion 4 Studentenleben (3) ・文法復習	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第6回	Lektion 5 Eine Reise nach Spanien (1)	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第7回	Lektion 5 Eine Reise nach Spanien (2)	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第8回	Lektion 5 Eine Reise nach Spanien (3) ・文法復習	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第9回	Lektion 6 Motorrad oder Wagen (1)	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60

第10回	Lektion 6 Motorrad oder Wagen (2) ・文法復習	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第11回	Lektion 7 Freizeit und Wochenende (1)	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第12回	Lektion 7 Fraizeit und Wochenende (2) ・文法復習	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第13回	全体の復習	
	【予習・復習】 ここまでのテキストを再度大きな声で音読すること。基礎的な文法事項を確認すること。	120
第14回	到達度確認テスト	
	【予習・復習】 前回と同様のことを再度反復すること。	120
第15回	テストの講評と到達度の確認	
	【予習・復習】 確認テストでよく理解できていなかった点を復習すること。	30

授業の方法

・積極的に会話に参加する。
・視聴覚教材（ビデオ、ＣＤ）などを積極的に利用する。

成績評価の方法

テスト（60%）、出席（20%）、授業への積極的な参加（20%）、などを総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

（関連科目）
　必要な予備知識は特にない。積極的意欲があれば初習者も可能である。ドイツの歴史と文化Ａ・Ｂ、ヨーロッパの文学Ａ・Ｂ、ドイツ文化・文化史特講Ａ・Ｂ、などが参考になる。

テキスト

　ＣＤ付き
　ドイチュ・プラクティッシュ＜ロート＞
　著者：シュレヒト／三室
　出版社：三修社

参考書

　授業中に紹介する

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	ドイツ語演習　活用ＢII		
教員名	三浦　國泰		
科目ナンバー	1101085222	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

１）日常会話を中心にしたテキストを使用して、１年次習得したドイツ語文法を復習する。
２）日常生活に使える生きたドイツ語を身につけ、実践的に活用する。
３）ドイツ語という言葉の世界を直接体験し、ドイツ語圏の文化に関心をもつ。
４）多様な異文化に接することによって、国際感覚を身につける。

到達目標

１）日常生活に必要な基礎的な会話能力を身につける。
２）ドイツ語検定試験３級合格をめざす。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	【予習・復習】 シラバスをよく読んでおくこと。	30
第2回	１年の復習	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第3回	Lektion 8 Zimmersuche (1)	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60

第4回	Lektion 8 Zimmersuche (2) ・文法復習	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第5回	Lektion 9 Franziska, Michael und Claudia (1)	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第6回	Lektion 9 Franziska, Michael und Claudia (2) ・文法復習	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第7回	Lektion 10 Studium (1)	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第8回	Lektion 10 Studium (2) ・文法復習	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第9回	Lektion 11 Urlaub (1)	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60

第10回	Lektion 11 Urlaub (2) ・文法復習	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第11回	Lektion 12 Junge Leute (1)	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第12回	Lektion 12 Junge Leute (2) ・文法復習	
	【予習・復習】 テキストをよく読むこと。	60
第13回	全体の復習	
	【予習・復習】 ここまでのテキストを再度大きな声で音読すること。基礎的な文法事項を確認すること。	120
第14回	到達度確認テスト	
	【予習・復習】 前回と同様のことを再度反復すること。	120
第15回	テストの講評と到達度の確認	
	【予習・復習】 確認テストでよく理解できていなかった点を復習すること。	30

授業の方法

・積極的に会話に参加する。
・視聴覚教材（ビデオ、ＣＤ）などを積極的に利用する。

成績評価の方法

テスト（60%）、出席（20%）、授業への積極的な参加（20%）、などを総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

（関連科目）
　必要な予備知識は特にない。積極的意欲があれば初習者も可能である。ドイツの歴史と文化Ａ・Ｂ、ヨーロッパの文学Ａ・Ｂ、ドイツ文化・文化史特講Ａ・Ｂ、などが参考になる。

テキスト

　ＣＤ付き
　ドイチュ・プラクティッシュ＜ロート＞
　著者：シュレヒト／三室
　出版社：三修社

参考書

　授業中に紹介する

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	ドイツ語演習　活用ＣＩ		
教員名	工藤　眞一		
科目ナンバー	1101085231	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

この授業では、1年次のドイツ語の授業を通して習得した文法事項の復習を交えながら、広くドイツ語のテキストを戦略的な視点から読み解き、さらには、コミュニケーションのためのドイツ語力練成を目指します。テキストの各章は二つのLesetext（読章）から構成され、発音、内容理解問題、文法説明と関連発展問題、解読のポイント説明、聞き取り練習、ゲーム問題、各章のテーマに関連のあるインターネット情報などが配置されています。
　また、授業と平行しながら、環境やエネルギー問題、福祉先進国としてのドイツの現状、1989年のベルリンの壁崩壊 、1990年の東西両ドイツの再統一から現代に至るまでのドイツの歩みなどにも、新たな資料を配付して、触れるつもりです。そのためには、CD 、DVD、VHSなどの使用も予定しています。

到達目標

　この授業では、1年次のドイツ語の授業を通して習得した文法事項の復習を交えながら、さらにブラッシュアップし、広くドイツ語のテキストを戦略的な視点から読み解いて行く力を養成し、同時に、基本的なコミュニケーションのためのドイツ語力練成を目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第1回　　この授業に関するガイダンス	
	テキスト、第一章に目を通しておくこと。 シラバスを精読すること。	30分
第2回	Kapitel 1　Europa,Europa　(1)　ヨーロッパとドイツ Fragen zum Text この課の文法練習問題 場所の前置詞。nach とzu。	
	付属のCDを聞き、Lesetext 1の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第3回	Kapitel 1　Europa,Europa　(2)　ヨーロッパとドイツ Fragen zum Text この課の文法練習問題 冠詞を伴う国名。日付と序数。数詞・	
	付属のCDを聞き、Lesetext2　の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第4回	Kapitel 2　Musik　(1)　音楽 Fragen zum Text この課の文法練習問題 使役の助動詞　lassen。話法の助動詞の基本。	

	付属のCDを聞き、Lesetext 1の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第5回	Kapitel 2　Musik　(2)　音楽 Fragen zum Text この課の文法練習問題	
	付属のCDを聞き、Lesetext 2の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第6回	Kapitel 3　Mail Und Handy　(1)　メールと携帯電話 Fragen zum Text この課の文法練習問題 外交的接続法	
	付属のCDを聞き、Lesetext 1の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第7回	Kapitel 3　Mail Und Handy　(2)　メールと携帯電話 Fragen zum Text この課の文法練習問題 形容詞の格変化	
	付属のCDを聞き、Lesetext 2の意味を調べ、発音練習をする	60分
第8回	apitel 3　Mail Und Handy　(3)　メールと携帯電話 Fragen zum Text この課の文法練習問題	
	Text 2　の　Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第9回	Kapitel 4　Einkaufen　(1)　ショッピング Fragen zum Text この課の文法練習問題 現在完了形	
	付属のCDを聞き、Lesetext 1の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分

第10回	Kapitel 4　Einkaufen　(2)　ショッピング Fragen zum Text この課の文法練習問題 時刻の言い方、聞き方	
	付属のCDを聞き、Lesetext 1の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第11回	Kapitel 4　Einkaufen　(3)　ショッピング Fragen zum Text この課の文法練習問題	
	付属のCDを聞き、Lesetext 2の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第12回	Kapitel 5　Studium　(1)　ドイツの大学と企業研修 Fragen zum Text この課の文法練習問題 絶対的比較級	
	付属のCDを聞き、Lesetext 1の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第13回	Kapitel 5　Studium　(2)　ドイツの大学と企業研修 Fragen zum Text この課の文法練習問題 能動文と受動文の基本	
	付属のCDを聞き、Lesetext 2の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第14回	Kapitel 5　Studium　(3)　ドイツの大学と企業研修 Fragen zum Text この課の文法練習問題 werden の３つの用法。　　bei の基本用法。	
	Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第15回	到達度確認テスト	

	今期の学習内容について理解度を確認のためのテストを実施	60分

授業の方法

1)　成績評価とも関連しますが、繰り返される授業中の無自覚で迷惑な私語や、目に余る授業中の教室からの出入り、遅刻などは、その対策を明確に示すつもりです。課題提出物についても、その内容をよく吟味するとともに、提出期限の厳守を求めます。
2)　辞書について一言。各時間ごとに、入念に説明し、使用するので、辞書携帯を毎時間の出席の最低条件とします。辞書チェックをすることもあるかもしれません。
3)　また、授業中の携帯電話の使用については、その都度授業が中断されるばかりか、その他の出席者の迷惑にもなりますので、私の授業に関する限り、その使用を固く禁止します。

成績評価の方法

先ず、なによりも本人のやる気のあるなし。次に具体的には、授業時における各個人の発表を40%、定期試験を40%、レポート提出と小テスト等を20%の割合で評価し、これらの総合評価を最終評価とします。
原則として、前期、全授業時間数15回の中、13回以上の出席を定期試験の受験資格とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

ドイツ語文法の基礎知識。

テキスト

現代ドイツを学ぶための１０章

Ute Schmidt, Mechthild Duppel-Takayama, 三ッ石　祐子　他　著　　三修社
978-4-384-13087-4

参考書

参考書等については、適宜、必要に応じて教室で指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ドイツ語演習　活用ＣII		
教員名	工藤　眞一		
科目ナンバー	1101085232	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

前期の方針・目標をさらに継続、発展させながら、後期の、ドイツ語演習　活用C II　では、1年次のドイツ語の授業を通して、これまでに学び、習得した文法知識をさらに定着させ、再確認して、「生きたドイツ語」が身につくように、テキストを中心に、さらにステップ・アップしていく内容を備えています。安心して受講して下さい。

到達目標

この授業では、1年次のドイツ語の授業を通して習得した文法事項の復習を交えながら、さらにブラッシュアップし、広くドイツ語のテキストを戦略的な視点から読み解いて行く力を養成し、同時に、基本的なコミュニケーションのためのドイツ語力練成を目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Kapitel 6　Multikulturelles　(1)　多文化社会 Fragen zum Text この課の文法練習問題 wenn 文の基本用法	
	付属のCDを聞き、Lesetext 1の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第2回	Kapitel 6　Multikulturelles　(2)　多文化社会 Fragen zum Text この課の文法練習問題 関係代名詞文の基本用法	
	付属のCDを聞き、Lesetext 2の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第3回	Kapitel 6　Multikulturelles　(3)　多文化社会 Fragen zum Text この課の文法練習問題 言語種と形容詞	
	Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第4回	Kapitel 7　Essen　(1)　食べ物、飲み物 Fragen zum Text この課の文法練習問題 冠飾句	
	付属のCDを聞き、Lesetext 1の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分

第5回	Kapitel 7　Essen　(2)　食べ物、飲み物 Fragen zum Text この課の文法練習問題	
	付属のCDを聞き、Lesetext 2の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第6回	Kapitel 7　Essen　(3)　食べ物、飲み物 Fragen zum Text この課の文法練習問題	
	Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第7回	Kapitel 8　Umwelt　(1)　環境 Fragen zum Text この課の文法練習問題 分離動詞・非分離動詞の基本	
	付属のCDを聞き、Lesetext 1の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第8回	Kapitel 8　Umwelt　(2)　環境 Fragen zum Text この課の文法練習問題 obwohl　と　trotzdem	
	付属のCDを聞き、Lesetext 2の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第9回	Kapitel 8　Umwelt　(3)　環境 Fragen zum Text この課の文法練習問題 接続詞	
	Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第10回	Kapitel 9　Kunst　(1)　芸術 Fragen zum Text この課の文法練習問題 zu　不定詞の基本	

	付属のCDを聞き、Lesetext 1の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第11回	Kapitel 9　Kunst　(2)　芸術 Fragen zum Text この課の文法練習問題 特定の動詞と結びつくzu　不定句	
	付属のCDを聞き、Lesetext 2の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第12回	Kapitel 9　Kunst　(3)　芸術 Fragen zum Text この課の文法練習問題 dass　文	
	Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第13回	Kapitel 10　Jahresende　(1)　クリスマスと年末年始 Fragen zum Text この課の文法練習問題 接続法第二式の基本形	
	付属のCDを聞き、Lesetext 1の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第14回	Kapitel 10　Jahresende　(2)　クリスマスと年末年始 Fragen zum Text この課の文法練習問題 話法の助動詞を使った非現実話法 クリスマスカード	
	付属のCDを聞き、Lesetext 2の意味を調べ、発音練習をする Fragen zum Text、並びに この課の文法練習問題の予習	60分
第15回	到達度確認テスト	
	今期の学習内容について理解度を確認のためのテストを実施	60分

授業の方法

1)　成績評価とも関連しますが、繰り返される授業中の無自覚で迷惑な私語や、目に余る授業中の教室からの出入り、遅刻などは、その対策を明確に示すつもりです。課題提出物についても、その内容をよく吟味するとともに、提出期限の厳守を求めます。
2)　辞書について一言。各時間ごとに、入念に説明し、使用するので、辞書携帯を毎時間の出席の最低条件とします。辞書チェックをすることもあるかもしれません。
3)　また、授業中の携帯電話等の使用については、その都度授業が中断されるばかりか、その他の出席者の迷惑にもなりますので、私の授業に関する限り、その使用を固く禁止します。

成績評価の方法

先ず、なによりも本人のやる気のあるなし。次に具体的には、授業時における各個人の発表を40%、定期試験を40%、レポート提出と小テスト等を20%の割合で評価し、これらの総合評価を最終評価とします。
原則として、後期、全授業時間数15回の中、13回以上の出席を定期試験の受験資格とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

ドイツ語文法の基礎知識。

テキスト

現代ドイツを学ぶための１０章

Ute Schmidt, Mechthild Duppel-Takayama, 三ッ石　祐子　他　著　　三修社
978-4-384-13087-4

参考書

参考書等については、適宜、必要に応じて教室で指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ドイツ語演習　発展　（都市と文化）		
教員名	河合　信晴		
科目ナンバー	1101085241	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス等）の様々な文化のうち、都市と文化にまつわるいくつかのテーマを取り上げ、ドイツ語圏の多層的な文化の特質について考察しながら、ドイツおよびドイツ語に対する理解を深めることを目的としています。興味をもってドイツ語圏の文化や言葉に関する知識を深めることができるように十分に配慮します。また、特にドイツ語を選択していなくても履修できます。

到達目標

ドイツ語になれること、ドイツの都市と文化についてのおおよそのイメージをもてるようになることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	1　　オリエンテーション	
	特になし	特になし
第2回	ドイツの中世都市の伝統と今 ハンブルク・ローテンブルク・ロストック	
	復習：　オリエンテーションを踏まえて、授業の全体像をつかむ 予習：　配付された日本語文献を読む。発表者はレジュメを製作。 ドイツ語文献についてはそれぞれ3行ぐらいを訳し、声に出して読んでみる。（ドイツ語履修者）	予習 和訳　30分 発表準備　1時間
第3回	ドイツの都市　（1）　ベルリン	
	復習：　授業内での議論をまとめ直す。訳についても再確認 予習：　配付された日本語文献を読む。発表者はレジュメを製作。 ドイツ語文献についてはそれぞれ3行ぐらいを訳し、声に出して読んでみる　（ドイツ語履修者）	予習 和訳　30分 発表準備　1時間

第4回	ドイツの都市　(2)　ウィーン	
	復習：　授業内での議論をまとめ直す。訳についても再確認 予習：　配付された日本語文献を読む。発表者はレジュメを製作。 ドイツ語文献についてはそれぞれ3行ぐらいを訳し、声に出して読んでみる　（ドイツ語履修者）	予習 和訳　30分 発表準備　1時間
第5回	戦後ドイツ史　1960年代までの東西ドイツ	
	復習：　授業内での議論をまとめ直す。訳についても再確認 予習：　配付された日本語文献を読む。発表者はレジュメを製作。 ドイツ語文献についてはそれぞれ3行ぐらいを訳し、声に出して読んでみる　（ドイツ語履修者）	予習 和訳　30分 発表準備　1時間
第6回	戦後ドイツ史　1989年までの東西ドイツ	
	復習：　授業内での議論をまとめ直す。訳についても再確認 予習：　配付された日本語文献を読む。発表者はレジュメを製作。 ドイツ語文献についてはそれぞれ3行ぐらいを訳し、声に出して読んでみる　（ドイツ語履修者）	予習 和訳　30分 発表準備　1時間
第7回	ドイツ統一と旧東ドイツ	
	復習：　授業内での議論をまとめ直す。訳についても再確認 予習：　配付された日本語文献を読む。発表者はレジュメを製作。 ドイツ語文献についてはそれぞれ3行ぐらいを訳し、声に出して読んでみる　（ドイツ語履修者）	予習 和訳　30分 発表準備　1時間
第8回	移民・環境問題	
	復習：　授業内での議論をまとめ直す。訳についても再確認 予習：　配付された日本語文献を読む。発表者はレジュメを製作。 ドイツ語文献についてはそれぞれ3行ぐらいを訳し、声に出して読んでみる　（ドイツ語履修者）	予習 和訳　30分 発表準備　1時間
第9回	映画を使って東ドイツを考える 映画　「東ベルリンから来た女」　「グッバイレーニン」	
	復習：　授業内での議論をまとめ直す。訳についても再確認	なし

第10回	ドイツの暮らし、日本の暮らし	
	復習：　映画の感想文作成 予習：　配付された日本語文献を読む。発表者はレジュメを製作。 ドイツ語文献についてはそれぞれ5行ぐらいを訳し、声に出して読んでみる　（ドイツ語履修者）	予習 和訳　30分 発表準備　1時間
第11回	現代ドイツ史　ナチズム期の歴史	
	復習：　授業内での議論をまとめ直す。訳についても再確認 予習：　配付された日本語文献を読む。発表者はレジュメを製作。 ドイツ語文献についてはそれぞれ5行ぐらいを訳し、声に出して読んでみる　（ドイツ語履修者）	予習 和訳　30分 発表準備　1時間
第12回	「過去の克服」と社会教育（ナチズムの過去をめぐって）	
	復習：　授業内での議論をまとめ直す。訳についても再確認 予習：　配付された日本語文献を読む。発表者はレジュメを製作。 ドイツ語文献についてはそれぞれ5行ぐらいを訳し、声に出して読んでみる　（ドイツ語履修者）	予習 和訳　30分 発表準備　1時間
第13回	ドイツの食文化	
	復習：　授業内での議論をまとめ直す。訳についても再確認 予習：　配付された日本語文献を読む。発表者はレジュメを製作。 ドイツ語文献についてはそれぞれ5行ぐらいを訳し、声に出して読んでみる　（ドイツ語履修者）	予習 和訳　30分 発表準備　1時間
第14回	絵画・建築・音楽	
	復習：　授業内での議論をまとめ直す。訳についても再確認 予習：　配付された日本語文献を読む。発表者はレジュメを製作。 ドイツ語文献についてはそれぞれ5行ぐらいを訳し、声に出して読んでみる　（ドイツ語履修者）	予習 和訳　30分 発表準備　1時間
第15回	原子力開発の社会的影響についてドイツ映画から考える 映画　「イエローケーキ」	
	復習：　授業内での議論をまとめ直す。訳についても再確認	なし

授業の方法

　授業はゼミ形式とし、参加者にこちらから選んだテーマを選んでもらい、発表の割り当てを行います。授業においてはあらかじめ用意された文献、配布する資料を読んでいることが前提となります。ドイツ語と日本語の文献両方を用いることにします。また単にドイツの文化を学ぶだけでなく、プレゼンの練習、さまざまな思考法の修得の訓練、簡単なドイツ語文献を用意してそれをを読む訓練も同時に行うことになります。

1　簡単なドイツ語購読：（課題は事前に配付、30分ぐらいを目安に）
2　ゼミ形式の報告とディスカッション：（日本語を用います、60分ぐらいを目安に）
いずれも、初級ドイツ語選択者＋ドイツ語非履修者の組み合わせでグループでやることを考えています。

成績評価の方法

　成績は、出席点（30%）、受講態度・授業への積極的参加（７0%）によって評価します。学期末試験は行わない予定。質問は随時受け付けます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「ドイツ語演習　発展　（歴史）」を履修することが望ましいです。

テキスト

使用テキストは、授業において指示します。さらに授業内容に応じてプリントやレジュメ等を配布。

参考書

若尾祐司・井上茂子（編）　「ドイツ文化史入門」　昭和堂
若尾祐司・井上茂子（編）　「近代ドイツの歴史」　ミネルヴァ書房

中島 義道：「ウィーン愛憎-ヨーロッパ精神との格闘」　中公新書
川口 マーン 惠美：「ベルリン物語 都市の記憶をたどる」　平凡社新書
山本 武信:「世界を揺るがした10年-ベルリンの壁崩壊から9・11まで」　晃洋書房
ヴォルフガング ベッカー ：「グッバイ、レーニン! 」竹書房文庫
ザビーネ ハーケ:「ドイツ映画」 鳥影社ロゴス企画
馬渕 明子：「ジャポニスム-幻想の日本」　ブリュッケ
中島 義道：「ヒトラーのウィーン」 新潮社

伸井太一　「ニセドイツ1-3」　社会評論社

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	ドイツ語演習　発展　（文学を読む）		
教員名	天沼　春樹		
科目ナンバー	1201085242	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

よくある講読の授業ではなく、ドイツ語の文芸作品をていねいに味わえるほどに読み解きながら、文学の魅力や秘密にせまる講義としたい。たった1行のドイツの諺から、彼らと私たち日本人のメンタルのちがいや文化的背景のちがいがにじみだしてくる。たとえば、豪華客船が氷山と衝突して、乗客は船員の指示で海にとびこまなければならないとする。乗客たちはみな尻込みをしている。アメリカ人にむかって、「とびこめば英雄になれますよ」というと、彼らはいさんでとびこんでくれる。イギリス人には「ジェントルマンならとびこみなさい!」とよびかける。ドイツ人には、「規則です」というのがいちばんだ。さて、我々日本人には？　そうです「みなさんとびこんでますよ!」と、いうとみんな列をなして殺到するそうです。
「文学を読む」とは、ただストーリーを楽しむたげではないこと、とくに教室ではこまかい心の機微にふれるような一語一語にこだわりたい。

到達目標

辞書を使いながらも、まとまった文章を最後まで読み通してみる体験をとおして、外国語の文学を味わう意味などわかってほしい。それは人の心を知ることなのだと。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	授業でもちいるテキストについては、開講時に履修者の語学力の程度にあわせて調節したい。テキストの難易度もあるし、いきなり難しい文章で暗号解読のようになってしまってはモチベーションがざかるので、はじめは大まかなジャンルを配分しておく。その際、私が現在訳しているドイツの絵本などのテキストと、実際に日本で出版された最終訳がどうなっているか比較してみる「現場的」話もしていく。教授の話がすこし長いのがタマに傷か？ 講義の素材は、受講者の顔をみてから、さしかえられることもある。希望があればその際にいってほしい。	
	これまでのドイツ語学習の実力のほどを自己判定しておいてください。かならず独和辞書を持参してください。	目安30～60分。個人差による。
第2回	①メルヒェンの不思議　グリム童話の原文にふれる	
	グリム童話についてすこしは予備知識として調べてみてください。	目安30～60分。個人差による
第3回	ドイツ詩を味わう ゲーテをはじめ、名詩をテキストとCD音声で鑑賞します。	
	ドイツの詩人を3人まで選んできてください。	目安30～60分。個人差による

第4回	③ドイツ文学の名作(部分) 例ゲーテ「ファウスト」の一部とか。	
	J.W.Goetheの人と作品を調べて見ましょう。	目安30～60分。個人差による
第5回	④カフカの短編	
	フランツ・カフカの住んだチェコのプラハについて調べてみましょう。	目安30～60分。個人差による
第6回	カフカの短編(2)	
	ドイツ語が通じる周辺諸国について調べておいてください。	目安30～60分。個人差による
第7回	ドイツ現代映画のドイツ語。ビィム・ベンダーズやニュージャーマン・シネマの作品から。	
	ニュージャーマン・シネマの監督たちを検索しておいてください。	目安30～60分。個人差による
第8回	シュレンドルフ映画『ブリキの太鼓』(前編)	
	ナチス親衛隊の話をします。予備知識をどうぞ。	目安30～60分。個人差による
第9回	シュレンドルフ映画『ブリキの太鼓』(後編)	
	ギュンター・グラスの主たる作品のタイトルを調べておいてください。	目安30～60分。個人差による

第10回	ヘルマン・ヘッセの短編から	
	ドイツの地理。ボーデン湖がどこにあるか確かめておいてください。	目安30～60分。個人差による
第11回	ヘルマン・ヘッセの短編から	
	テキストの予習。	目安30～60分。個人差による
第12回	ヘルマン・ヘッセの短編から	
	テキストの予習。	目安30～60分。個人差による
第13回	ヘルマン・ヘッセの短編から	
	テキストの予習。	目安30～60分。個人差による
第14回	ヘルマン・ヘッセ『荒野の狼』を映像で見る。	
	ヘッセの一作品を読んでみよう。	目安30～60分。個人差による
第15回	前期の総括としての講義。ドイツ文学の魅力について。	
	レポートの準備。	目安30～60分。個人差による

授業の方法

授業の半分くらいはテキストを訳しながらの講義。和訳ではなく「翻訳」ということについて、ただ日本語として意味がとおるだけではなく、美しくわかりやすく伝えるにはどうするのかという日本語力も考え直すきっかけにする。そのほか、鑑賞の部分としては、いろいろなメディアを使って発展的に講義したい。

成績評価の方法

平常点を重視する。学期末に短いレポートがある。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

ドイツ語力は、初級1年程度を終了しているくらいでかまわない。履修者全体の現状能力を考えて、それを向上させていくつもりである。ただし、よく辞書をひくこと。

テキスト

開講後にプリントして配布する。

参考書

そのつど指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ドイツ語演習　発展　（音楽・映画入門）		
教員名	天沼　春樹		
科目ナンバー	1201085243	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

ドイツ語の学習から発展して、ドイツの文化に実際ふれて教養を高めることを意図する。とくに、映像資料を駆使して、普通では見ることが難しいクラッシックな映画や映像をふんだんに紹介するつもりだ。今年度は、とくにドイツの文化との比較として、ドイツ語圏むと国境を接する東の諸国、ベルギー、フランスなどの短編アニメーション作品も見せていく。

到達目標

イメージだけでない、ドイツを中心とするヨーロッパ文化の理解と、その知識をどう発展させるかの意識の養成。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	解説・理論だけではわからない体験として、授業内で可能な映像資料を駆使していく。そのあとで、それについてのコメントをもとめていくし、またこちらからの解説もたっぷりいれていく。これもドイツ映画？「バグダット・カフェ」 といったドイツ人の登場する作品も紹介。 以上のほかにも、意外な切り口から意外な映画を紹介する。そのほか、ドイツ語で歌われる映画音楽のテキストなども楽しんでみたい。実は、世界一イントロんが長いと思われる『狂乱のモンテカルロ』の主題歌など衝撃的ではないだろうか。	
	毎週、扱った映画・音楽などについて批評または感想をまとめるノートを1冊用意しておくひと。ルーズリーフではいけない。ミニレポートの扱いとする。	ノート整理・作成の時間。
第2回	①世界初の劇場映画公開(実はフランrスだった。しかし、ドイツで花開く1920年代の映画。	
	講義の記録と自主研究のためのうすいノートを1冊つくってもらう。開講時に説明する。	ノート整理・作成の時間。
第3回	映画『カリガリ博士』サイコ・ホラーの先駆者。	
	Heft&Kommentar	ノート整理・作成の時間。

第4回	世界初のロボット映画フリッツ・ラングの『メトロポリス』系譜はピグマリオンから、鉄腕アトム、ブレードランナー、AI、攻殻機動隊、エバンゲリオンにまでもつづいていく。	
	Heft&Kommentar	ノート整理・作成の時間。
第5回	第二次黄金時代の若き監督たち。70年代のニュージャーマン・シネマを読み解く。	
	Heft&Kommentar	ノート整理・作成の時間。
第6回	必見!古典となった『ベルリン天使の詩』./そのときはまだ、東西ベルリンの壁があった。	
	Heft&Kommentar	ノート整理・作成の時間。
第7回	クラッシックの戦い。バッハかモーツァルトか？それとも、ベートーベンなのか？ドイツのクラッシック音楽の巨匠たちの旋律を聴きながら、なぜドイツは音楽の国なのかを考える。	
	Heft&Kommentar	ノート整理・作成の時間。
第8回	ドイツのマーチ。軍歌、ナチ党の党歌!!戦前のアブナイ歌を検証する。わが国にも北原白秋作詞の問題の歌「万歳ヒトラー・ユーゲント」がある。貴重な音源を再生しながら、あの当時の民衆の煽動に寄与した歌の「魔力」について考える。	
	Heft&Kommentar	ノート整理・作成の時間。
第9回	プロパガンダの天才、ヨーゼフ・ゲッペルスGebbelsの戦略とはなんであったのか。前期につづき、徹底検証する。意外な人物像がうきあがる。	
	Heft&Kommentar	ノート整理・作成の時間。

第10回	再現ドラマ『ヴァンゼー湖畔の秘密会議』 ユダヤ人最終処理を決定した悪魔の秘密会議はこのように行われた。。。。	
	Heft&Kommentar	ノート整理・作成の時間。
第11回	ドイツのコメディ映画。ドイツ人の力いっぱいスベるギャグの世界へようこそ。ドイツ人の笑いのツボを知る。なんともベタで。ちょっと下品なところを人気コメディアンがぶちかましている。『ヒーロー・イン・チロル』『ビデオタイムマシン』　モンティパイソンのドイツ版も必見。イギリス人がドイツ人を徹底にいじっているさまを見てみよう。	
	Heft&Kommentar	ノート整理・作成の時間。
第12回	ドイツとその周辺の国々。チェコ。ポーランド。ハンガリー。スイス。フランス。オランダ。デンマーク。それぞれとのかかわりについて講義します。	
	Heft&Kommentar	ノート整理・作成の時間。
第13回	日本のアニメ映画『魔女の宅急便』のドイツ語吹き替え版を見。あのよく知っているセリフはこんなふうにドイツ語になっている!!2回にわけて、ドイツ語を話すキキを見よう。	
	Heft&Kommentar	ノート整理・作成の時間。
第14回	『魔女の宅急便』ドイツ語版第2回。飛行船の遭難の名場面に特別解説アリ。	
	Heft&Kommentar	ノート整理・作成の時間。
第15回	ドイツ飛行船ツェッペリンの記録画像と現代に復活し日本でも5年ちかくとんでいたハイテク飛行船ツェッペリンNTの貴重な記録を見ながら、20世紀のドイツの飛行機と飛行船のドラマを語る。	
	Heft&Kommentar	ノート整理・作成の時間。

授業の方法
講義形式。

成績評価の方法
学期末のレポートによる。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
図書館の映像ライブラリーの探索。

テキスト
必要な資料をその都度プリントにて配布する。ただし、紙資源を節約するために、私のWebブログなどに公開してそれを見てもらうことも考えている。

参考書
その都度指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ドイツ語演習　発展　（歴史）		
教員名	清水　威能子		
科目ナンバー	1101085244	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

　ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の歴史の中で、転換期となった時代や現代にも関係するテーマを取り上げ、歴史的事象の本質や問題点を探りながら、ドイツおよびドイツ語に対する知識と理解を深めます。さらにドイツの歴史から、現代の日本に生きる我々は何を学ぶことができるかを考察し、議論します。ドイツの歴史についての学修が、ヨーロッパ全体を理解し、日本の社会を再認識する機会となるように授業を進めます。
　特にドイツ語を選択していなくても履修できますが、ドイツ語の既習者にはドイツ語学習やドイツ語技能検定試験のための特別の指導を行います。

到達目標

①ドイツの歴史に関する基礎的な知識を修得し、その特質を説明できる。
②ドイツの歴史との比較から、日本の社会や文化について自分の見解を述べることができる。
③問題意識を持って必要な情報を収集し、その知識を活用するように努める。ドイツ語の既習者は、ドイツ語の情報を積極的に収集する習慣を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス（ドイツ語圏の歴史概説）	
	（予習）ドイツ語圏の歴史について、自分の関心事を整理しておく。	60分
第2回	中世の時代（史実から伝説へ、『ニーベルンゲンの歌』）	
	（予習）『ニーベルンゲンの歌』を読んでおく。あるいは粗筋を調べておく。	60分
第3回	中世の時代（史実から伝説へ、『ハーメルンの笛吹き男』）	
	（予習）『ハーメルンの笛吹き男』を読んでおく。あるいは粗筋を調べておく。	60分

第4回	ルターの宗教改革の時代的背景とその影響	
	（予習）ルターの宗教改革について把握しておく。 （復習）前回の授業内容を確認し、自分の疑問点を参考文献やインターネットで確認する。	60分
第5回	啓蒙主義時代（読者層とメディア文化の誕生）	
	（予習）ドイツの啓蒙主義時代について把握しておく。 （復習）前回の授業内容を確認し、自分の疑問点を参考文献やインターネットで確認する。	60分
第6回	啓蒙主義時代（東洋に対する関心とイメージ）	
	（復習）前回の授業内容を確認し、自分の疑問点を参考文献やインターネットで確認する。	60分
第7回	グリム童話の誕生と時代的背景	
	（予習）グリム兄弟の生涯について把握しておく。 （復習）前回の授業内容を確認し、自分の疑問点を参考文献やインターネットで確認する。	60分
第8回	第一次世界大戦とワイマール共和国（ドイツ映画の黄金時代）	
	（予習）ワイマール共和国について把握しておく。 （復習）前回の授業内容を確認し、自分の疑問点を参考文献やインターネットで確認する。	60分
第9回	第二次世界大戦（ワーグナーとドイツ第三帝国）	
	（予習）ドイツ第三帝国について把握しておく。 （復習）前回の授業内容を確認し、自分の疑問点を参考文献やインターネットで確認する。	60分

第10回	第二次世界大戦（ユダヤ人問題）	
	（予習）ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史を把握しておく。 （復習）前回の授業内容を確認し、自分の疑問点を参考文献やインターネットで確認する。	60分
第11回	ドイツの分断と再統一	
	（予習）ドイツの再統一について把握しておく。 （復習）前回の授業内容を確認し、自分の疑問点を参考文献やインターネットで確認する。	60分
第12回	ドイツの再統一における初期の問題点	
	（復習）前回の授業内容を確認し、自分の疑問点を参考文献やインターネットで確認する。	60分
第13回	テーマ別発表とディスカッション（中世）	
	（予習）指定のテーマについて、発表の準備、あるいはディスカッションの準備をしておく。	60分
第14回	テーマ別発表とディスカッション（近代）	
	（予習）指定のテーマについて、発表の準備、あるいはディスカッションの準備をしておく。	60分
第15回	テーマ別発表とディスカッション（現代）	
	（予習）指定のテーマについて、発表の準備、あるいはディスカッションの準備をしておく。	60分

授業の方法

前半は、講義形式で説明した後、そのテーマについてディスカッションを行います。説明の際には、理解を深めるために、映画やドキュメンタリー映像などの資料を利用します。
後半は、ゼミ形式で受講者に発表をしてもらい、そのテーマについてディスカッションを行います。
ディスカッションを行う場合には、参加者全員で議論が行えるように、問題点を整理した資料を用意します。日本語の文献も用います。また単にドイツの歴史を学ぶだけでなく、プレゼンの練習、さまざまな思考法の修得の訓練なども行います。

成績評価の方法

準備学修における課題達成度と、授業時のディスカッションへの参加姿勢（30%）、発表時の要件の達成度（30%）、期末レポート（40%）により総合的に判断します。
出席は単位取得の前提条件（最低で全授業数の2/3以上出席）となりますので、きちんと出席して積極的に授業参加することが求められます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

プリントを配布します。

参考書

『図説　ドイツの歴史』、石田勇治、河出書房新社
『中世を旅する人びと—ヨーロッパ庶民生活点描』、阿部謹也、ちくま学芸文庫
『ニーベルンゲンの歌』、相良守峯、岩波文庫
『啓蒙のヨーロッパ』、ウルリヒ・イム・ホーフ、成瀬治訳、平凡社
『グリム童話考』、小澤俊夫、講談社学術文庫
『ワーグナーのヒトラー「ユダヤ」にとり憑かれた預言者と執行者』、ヨアヒム・ケーラー、三交社

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後の教室で、あるいは随時、電子メールで受け付けます。

科目名	ドイツ語演習　発展　（上級会話Ⅰ）		
教員名	泉　ボグミワ		
科目ナンバー	1101085247	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

　この授業では、初級ドイツ語の知識を定着させながら、生きた現代ドイツ語を用いて読み、聞き、話し、書く力を養うことを目標としている。教科書に沿って学習を進める。CD,DVDを使った聞き取りの練習も重視する。またドイツ語圏諸国の事情、風俗習慣、文化などについての知識も得られるようにする

到達目標

ドイツ語の基礎を習得し、簡単な日常会話ができるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション 使用する教科書、授業の進め方などについて説明する。	
	第1回授業の後、教科書全体に目を通す。	30分
第2回	第1課	
	学習した内容を復習する。	60分
第3回	第2課	
	学習した内容を復習する。	60分

第4回	第3課	
	学習した内容を復習する。	60分
第5回	第4課	
	学習した内容を復習する。	60分
第6回	第5課	
	学習した内容を復習する。	60分
第7回	第6課	
	学習した内容を復習する。	60分
第8回	第7課	
	学習した内容を復習する。	60分
第9回	第8課	
	学習した内容を復習する。	60分

第10回	第9課	
	学習した内容を復習する。	60分
第11回	第10課	
	学習した内容を復習する。	60分
第12回	第11課	
	学習した内容を復習する。	60分
第13回	第12課	
	学習した内容を復習する。	60分
第14回	前期の総復習	
	前期に学んだ事柄、特に文法事項を総復習する。	120分
第15回	学期テスト	
	特になし。	なし

授業の方法
教科書を使用し、初めから順を追って学習する。ビデオ教材も使用する。折に触れて、プリントなども配布する。

成績評価の方法
出席率、平常点および試験で評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
ドイツ語の時間　ビデオ教材　恋するベルリン　清野智昭　朝日出版社

参考書
授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ドイツ語演習　発展　（上級会話II）		
教員名	赤池　エルフリーデ		
科目ナンバー	1101085248	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この授業ではドイツ語のコミュニケーション能力をスキルアップすることが目的です。
今まで習った語彙や慣用句を復習しながら、それらをさらに増やすために、色々なテーマの下で、ドイツ語の理解力を深めます。
パートナーやグループワーク、又、役割分担による会話練習を行います。
ドイツ語圏の国々の文化や生活習慣についても語り会う予定です。

到達目標

様々のテーマで会話練習を行い、その際、必要な語彙や文法事項のふくしゅうをし、新しい語彙や言い回しを習います。
発音にも重点を置きます。パートナーやグループワークで楽しく練習したいと思います。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：授業のやり方、進め方の説明 自己紹介　　ドイツ語圏の国々について語り会う	
	復習	１５分
第2回	写真の描写　　ストーリの聞き取る練習 対話練習	
	復習	１５分
第3回	テキストを読む　　単語練習 役割分担練習　　ロールプレイ	
	復習	１５分

第4回	写真の描写　　ストーリの聞き取る練習 対話練習	
	復習	１５分
第5回	テキストを読む　　単語練習 役割分担　　ロールプレイ	
	復習	１５分
第6回	写真の描写　　ストーリの聞き取る練習 対話練習	
	復習	１５分
第7回	テキストを読む　　単語練習 役割分担　　ロールプレイ	
	復習	１５分
第8回	絵本のテキスト 語彙や言い回しの学習 朗読練習	
	復習	１５分
第9回	絵本のテキスト 語彙や言い回し練習 朗読練習	
	復習	１５分

第10回	絵本のテキスト 語彙や言い回し練習 朗読練習	
	復習	１５分
第11回	絵画の描写 絵画について語り会う	
	復習	１５分
第12回	画家の経歴について 対話練習	
	復習	１５分
第13回	絵画の描写 絵画と画家について語り会う	
	復習	１５分
第14回	一学期のまとめ　　期末テストの説明 授業アンケート	
	復習	１５分
第15回	期末テスト	
	復習	１５分

授業の方法

授業はパートナーやグループワークを中心に行いますので積極的に参加して下さい。

成績評価の方法

期末テスト５０％　平常店５０％

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

一回目の授業で指示します。

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランス語演習　活用ＣＩ　<1>		
教員名	土屋　良二		
科目ナンバー	1001085331	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

テーマ：フランス語圏の文化を知る。
概要：初年度に学びきれなかった初級文法の全体像を把握し、平易な文章を読みながら語彙を増やし、読解力、表現力を養う。様々なテキストに触れ、映像・音声資料の助けも借りながらフランス語・フランス文化に対する理解を深める。

到達目標

辞書を使って一人でもフランス語の文章を読めるようにする。フランス語圏の文化を理解し、より広い国際的視野を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	既習事項の復習	
	フランス語基礎で学んだことを確認する。	90分
第2回	事物の提示方法、名詞グループについて	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第3回	世界の中のフランス語	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分

第4回	自分および他者の紹介の方法、形容詞について	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第5回	フランスと言語	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第6回	好みを言う、理由を言う方法	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第7回	ヨーロッパのフランス語	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第8回	１日の活動について語る方法、動詞グループについて	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第9回	歴史の中のフランス語	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分

第10回	ものを比べる方法	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第11回	様々な地域のフランス語（1）	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第12回	しなければいけないことを言う方法	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第13回	様々な地域のフランス語（2）	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第14回	総復習	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第15回	まとめ	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分

授業の方法

音読、訳読、聞き取り練習など様々な作業を中心に演習形式で行う。主体的に問題と取り組む積極的な姿勢が必要とされる。限られた時間の中でどのように教材を扱ってゆくかは受講する皆さんと話し合いながら決めたい。

成績評価の方法

平常点（出席、授業態度）20%、課題達成度（宿題など）20%、定期試験 60% から総合的に評価する。定期試験は評価の必須条件なので必ず受験すること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特別な予備知識は不要だが、異文化に関心を持ち、「フランス語会話」、「フランス語講読」、「ヨーロッパの文学」など、フランスとフランス語を知る機会を積極的に活用してほしい。

テキスト

小松祐子、Gilles Delmaire著『フランコフォニーへの旅』、駿河台出版社、¥2, 625、ISBN978-4-411-00926-5
初回の授業には初年時に使用した教科書も持参すること。

参考書

仏和辞典は毎回必ず持参のこと。その他は必要があれば、授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランス語演習　活用ＣＩ　<2>		
教員名	田村　恵子		
科目ナンバー	1001085331	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

このクラスは、すでに一年間フランス語の基礎を学習した方を対象として、一年次にやり終えられなかった文法事項を補強し、応用力をつけるためのものです。『フランスを読み解く鍵』という教科書を手がかりに、文学（『星の王子さま』）、食文化（フランスのチーズについて学ぶ）、フランス人の生活にアプローチする（朝食につきもののクロワッサンとコーヒーについて）などについて簡単なフランス語で書かれた文章を読んでいきます。エスプリあふれる文章を通して、生き生きとしたフランス文化が感じ取られ、フランス語に対する興味も自然と湧き起ってくるでしょう。
音読も行い、フランス語の音に対して感覚を磨いて行きたいと思います。

到達目標

1年生の時に勉強した文法を復習、発展させながら、フランス文化に関した文章を読むことによって、言葉の背景をなすフランスの社会を深く理解することを目指します。また、内容を考えながらテキストを音読することによって、フランス語を発音する楽しみを発見することも大切な目標です。そして、理解した文章を応用して自分の文章を作って行くことも最終的にはできるようになる筈です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	１回目：オリエンテーション	
	一年次に学習したことを総復習して、疑問点を明らかにする。	60分
第2回	『星の王子さま』について書かれて文章を読みながら、疑問形について学習。	
	次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第3回	『星の王子さま』について書かれた文章を読みながら、疑問形について学習。	
	前回の本文の音読。次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分

第4回	『星の王子さま』について書かれた文章を読みながら疑問形について学習。	
	前回の本文の音読。次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第5回	『最も有名なフランスチーズ』について書かれた文章を読みながら関係代名詞について学習。	
	前回の本文の音読。次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第6回	『最も有名なフランスチーズ』について書かれた文章を読みながら関係代名詞について学習。	
	前回の本文の音読。次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第7回	『最も有名なフランスチーズ』について書かれた文章を読みながら関係代名詞を学習。	
	前回の本文の音読。次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第8回	『カフェとクロワッサン』フランス人の朝食について書かれた文章を読みながら中性代名詞について学習。	
	前回の本文の音読。次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第9回	『カフェとクロワッサン』フランス人の朝食についてかかれた文章を読みながら中性代名詞について学習。	
	前回の本文の音読。次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分

第10回	『カフェとクロワッサン』フランス人の朝食について書かれた文章を読みながら中性代名詞について学習。	
	前回の本文の音読。次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第11回	『フランスの就活』について書かれた文章を読みながら、強調構文について学習。	
	前回の本文の音読。次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第12回	『フランスの就活』について書かれた文章を読みながら強調構文について学習。	
	前回の本文の音読。次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第13回	『フランスの就活』について書かれた文章を読みながら強調構文について学習。	
	前回の本文の音読。次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第14回	『フランスの教育制度』について書かれた文章を読みながら、非人称構文について学習。前期の総まとめ。	
	前回の授業の内容に目を通し、本文の音読。次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第15回	前期に学習したことの理解度をはかるための小論文形式のテスト。	
	前期全体の総復習をし、小論文形式のテストの準備。	90分

授業の方法

基本的には毎回、テキストの訳読、音読を行います。一年次に学習したフランス語文法の復習と並行して、新しい文法事項の学習ウ、問題練習を行いつつ、フランス文化を考察する文章を読んでいきますが、積極的な参加を望みます。リスニング練習も適宜取り入れていきます。

成績評価の方法

授業への参加度(質問に答えるなど、50%＋学期末の試験50%)
（人数によっては、学期に一度、興味のあるテーマについての発表を行うことがあります）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

一年間のフランス語の学習（独学でも構いませんが）：複合過去程度まで

テキスト

『フランスを読み解く鍵』　北村卓　（編著）　長崎出版

参考書

一年次の復習をメインにしたい場合は白水社刊の『フラ語シリーズ』清岡智比古著を通して読むと役にたちます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランス語演習　活用ＣＩＩ ＜1＞		
教員名	土屋　良二		
科目ナンバー	1001085332	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

テーマ：フランス語圏の文化を知る。
概要：初年度に学びきれなかった初級文法の全体像を把握して、平易な文章を読みながら語彙を増やし、読解力、表現力を養う。様々なテキストに触れ、映像・音声資料の助けも借りながらフランス語・フランス文化に対する理解も深める。

到達目標

辞書を使って一人でもフランス語の文章を読めるようにする。フランス語圏の文化を理解し、広い国際的視野を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	過去の出来事を語る方法	
	既習事項を確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第2回	物語を読む・作る（１）	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第3回	過去の状態を語る方法、	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分

第4回	物語を読む・作る（２）	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第5回	将来について語る方法	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第6回	映画とフランス語	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第7回	仮定を語る方法	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第8回	音楽・絵画とフランス語	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第9回	感想を言う方法	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分

第10回	詩のフランス語	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第11回	願望や感情を表現する方法	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第12回	手紙のフランス語	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第13回	小説の世界に親しむ	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第14回	総復習	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分
第15回	まとめ	
	前回学習したことを確認し、課題があればそれを準備する。授業後は資料やノートを見直す。	90分

授業の方法

音読、訳読、聞き取り練習など様々な作業を中心に演習形式で行う。主体的に問題と取り組む積極的な姿勢が必要とされる。限られた時間の中でどのように教材を扱ってゆくかは受講する皆さんと話し合いながらめ決めたい。

成績評価の方法

平常点（出席、授業態度）20%、課題達成度（宿題など）20%、定期試験 60% から総合的に評価する。定期試験は評価の必須条件なので必ず受験すること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特別な予備知識は不要だが、異文化に関心を持ち、「フランス語会話」、「フランス語講読」、「ヨーロッパの文学」など、フランスとフランス語を知る機会を積極的に活用してほしい。

テキスト

小松祐子、Gilles Delmaire著『フランコフォニーへの旅』、駿河台出版社、¥2, 625、ISBN978-4-411-00926-5

参考書

仏和辞典は毎回必ず持参のこと。その他は必要があれば、授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランス語演習　活用ＣＩＩ ＜2＞		
教員名	筒井　由美子		
科目ナンバー	1001085332	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

フランスの国民的歌手ブラッサンスやいまだに世界中に熱狂的なファンを持つゲンズブールらのシャンソン歌手からヴァネッサ・パラディらのアイドル歌手まで、様々なフランスのポピュラー・ソングを通じて、フランス文化の一端に触れるとともに、実践的にフランス語を学ぶ。

到達目標

１年次や２年次前期で学んだフランス語文法を応用して、実際のフランス語を読んだり、聞いたりする力を身につけることと、ポピュラー・ソングを通じてフランス文化に触れることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業内容の概要と授業の進め方の説明	
	シラバスを良く読んでおくこと。	３０
第2回	フランス・ポピュラー・ソングの流れについて。文法の簡単な復習。	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第3回	ブラッサンスからゲンズブールまでのシャンソン歌手達　Ｉ	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０

第4回	ブラッサンスからゲンズブールまでのシャンソン歌手達　Ⅱ	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第5回	ブラッサンスからゲンズブールまでのシャンソン歌手達　Ⅲ	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第6回	ブラッサンスからゲンズブールまでのシャンソン歌手達　Ⅳ	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第7回	ブラッサンスからゲンズブールまでのシャンソン歌手達　Ⅴ	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第8回	イヴ・モンタンが唄う詩人プレヴェール	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第9回	イヴ・モンタンが唄う詩人プレヴェール	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０

第10回	イヴ・モンタンが唄う詩人プレヴェール	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第11回	アイドル歌手達	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第12回	アイドル歌手達	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第13回	アイドル歌手達	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第14回	アイドル歌手達	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第15回	今学期学んだことを振り返ってまとめる。	
	今学期学んだ内容を見返しておくこと。	６０

授業の方法

演習形式で、毎回CDを聞きながら、プリントで配布した歌詞カードのフランス語を学生に読んでもらう。内容や背景となる文化、またフランス語の文法についての説明を適宜加える。フランス映画の中にはシャンソンが効果的に使われているものがあるので、DVDでその場面の鑑賞も行う。

成績評価の方法

質問や発言など授業への積極的な参加、授業時の課題発表等の平常点（６０％）と学期末のレポート（４０％）とによる総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

先修科目　１年次のフランス語基礎A、B　I、II　を履修していること。

テキスト

プリント

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

初回の授業で指示しますが、授業中に分からないことがあったら、遠慮せず、その都度その場で質問して下さい。

科目名	フランス語演習　活用ＡＩ		
教員名	太西　雅一郎		
科目ナンバー	1201085311	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

若いフランス人女性、Claire（クレール）のメールの文章を素材にして、文法、練習問題、聞き取り等を通して、「読む」「書く」「聴く」
「話す」といった総合的な語学能力の習得を目指します。
また、Civilisationのページでは、五つのフランス料理のレシピを紹介していますので、興味の有る方はトライしてみるといいでしょう。
文法は複合過去の復習から入り、前期は主に半過去、大過去、関係代名詞、現在分詞、ジェロンディフなどを学習します。
テキストの他に、各課の補充プリントにより文法事項の定着を図り、１課終了毎に動詞の小テストと各課の小テストを実施します。
後期の「フランス語演習　活用AⅡ」終了時点で、フランス語検定４級ないし３級程度の学力の養成を目指します。

到達目標

フランス語演習　活用ＡＩ終了時点で、フランス語検定４級レベルの学力と３級への準備程度となる学力の養成を目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第１週　テキスト０課 「クレール、旅に出る」、綴り字の法則	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第2回	第２週 「クレール、旅に出る」、綴り字の法則	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第3回	第３週　テキスト１課 「アルザス地方１」、複合過去、代名動詞	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分

第4回	第４週　テキスト１課 「アルザス地方１」、代名動詞の複合過去、過去分詞の一致	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第5回	Unit/Chapter 4　動詞avoirの直接法現在	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第6回	第５週　テキスト２課 「アルザス地方２」、半過去、大過去	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第7回	第７週　テキストCivilisation キッシュ・ロレーヌ、地方の名産物	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第8回	第８週　テキスト３課 「ブルゴーニュ地方１」、関係代名詞、命令形と補語人称代名詞	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第9回	第９週　テキスト３課 「ブルゴーニュ地方１」、命令形と補語人称代名詞、序数	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分

第10回	第１０週　テキスト４課 「ブルゴーニュ地方２」、現在分詞、ジェロンディフ	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第11回	第１１週　テキスト４課 「ブルゴーニュ地方２」、疑問代名詞	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第12回	第１２週　テキストCivilisation コッコ・ヴァン、アルコール飲料	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第13回	第１３週　テキスト５課 「ローヌ・アルプ地方１」、受動態、最上級	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第14回	第１４週　テキスト５課 「ローヌ・アルプ地方１」、最上級、副詞	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第15回	第１５週 前期のまとめ	
	これまでの学習内容の総復習。	60分

授業の方法

各課の文法項目を説明した後、文法の練習問題、聴き取り練習と進み、最後にテキストの本文を解説します。
毎回、授業終了時にその日の学習内容の確認のための簡単な小テストを行います。
翌週の最初には、前回の学習内容、とくに動詞および文法事項についての小テストを行います。
随時、テキスト以外に補助的にDVDの教材なども使用します。

成績評価の方法

1) 毎回の授業の最後に当日の授業内容についての小テストを行う　50%
2) 毎回の授業の最初に前回の学習内容についての小テストを行う　50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。さらに上記に掲げた到達目標、フランス語検定4級程度の文法構造の理解と、3級への準備学習がどの程度達成できたかを評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

フランス語基礎ＡⅠ、ＡⅡ、ＢⅠ、ＢⅡでの学習内容を確実なものにしておくこと

テキスト

『彼女は食いしん坊！2』（朝日出版）
著者：藤田裕二

参考書

授業中に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

質問等は授業前・授業後に受け付けます。/メールで受け付けます。/初回の授業で指示します。専任教員のオフィスアワーは学内専用ホームページで周知します。

科目名	フランス語演習　活用ＡII		
教員名	太西　雅一郎		
科目ナンバー	1201085312	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

若いフランス人女性、Claire（クレール）のメールの文章を素材にして、文法、練習問題、聞き取り等を通して、「読む」「書く」「聴く」
「話す」といった総合的な語学能力の習得を目指します。
また、Civilisationのページでは、五つのフランス料理のレシピを紹介していますので、興味の有る方はトライしてみるといいでしょう。
前期に続き、文法は強調構文から入り、条件法、接続法、間接話法等を学習して初級文法を完成させます。

到達目標

フランス語演習　活用AⅡ終了時点で、フランス語検定４級レベルから３級にかけての学力の養成を目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第１週　　テキスト６課 「ローヌ・アルプ地方２」、強調構文、中性代名詞	
	今回分の予習と復習、次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第2回	第２週　　テキスト６課 「ローヌ・アルプ地方２」、中性代名詞、年号	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第3回	第３週　　テキストCivilisation グラタン・ドフィノワ、チーズ	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分

第4回	第４週　　テキスト７課 「プロヴァンス地方１」、条件法現在	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第5回	第５週　　テキスト７課 「プロヴァンス地方１」、条件法過去	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第6回	第６週　　テキスト８課 「プロヴァンス地方２」、接続法現在	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第7回	第７週　　テキスト８課 「プロヴァンス地方２」、接続法過去	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第8回	第８週　　テキストCivilisation ラタトゥイユ、食材	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第9回	第９週　　テキスト９課 「ブルターニュ地方１」、間接話法	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分

第10回	第１０週　　テキスト９課 「ブルターニュ地方１」、時制の一致	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第11回	第１１週　　テキスト１０課 「ブルターニュ地方２」、前置詞	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第12回	第１２週　　テキスト１０課 「ブルターニュ地方２」、接続詞	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第13回	第１３週　　テキストCivilisation ガトー・ブルトン、お菓子	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第14回	第１４週 文法補遺、フランス語検定模擬試験問題	
	復習として本文の音読。次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	90分
第15回	第１５週 後期のまとめ	
	これまでの学習内容の総復習。	60分

授業の方法

各課の文法項目を説明した後、文法の練習問題、聴き取り練習と進み、最後にテキストの本文を解説します。
毎回、授業終了時にその日の学習内容の確認のための簡単な小テストを行います。
翌週の最初には、前回の学習内容、とくに動詞および文法事項についての小テストを行います。
随時、テキスト以外に補助的にDVDの教材なども使用します。

成績評価の方法

1) 毎回の授業の最後に当日の授業内容についての小テストを行う　50%
2) 毎回の授業の最初に前回の学習内容についての小テストを行う　50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。さらに上記に掲げた到達目標、フランス語検定4級程度の文法構造の理解と、3級への準備学習がどの程度達成できたかを評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

フランス語基礎ＡⅠ、ＡⅡ、ＢⅠ、ＢⅡでの学習内容を確実なものにしておくこと

テキスト

『彼女は食いしん坊！2』（朝日出版）
著者：藤田裕二

参考書

授業中に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

質問等は授業前・授業後に受け付けます。/メールで受け付けます。/初回の授業で指示します。専任教員のオフィスアワーは学内専用ホームページで周知します。

科目名	フランス語演習　活用ＢⅠ　<1>		
教員名	田村　恵子		
科目ナンバー	1101085321	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

このクラスは、一年間フランス語を学習した方を対象に、さらに詳しい文法を学習しながら、今のフランスで使われているフランス語に親しむことを目的としています。たとえば過去時制や仮定法などは日常の会話でも頻繁に使用されていますから、使いこなせるようになれば会話も自由にできるようになることでしょう。教材は、パリの街を生き生きと描いている映画のシナリオ、日本でもCMなどに使用され親しみのあるシャンソンの歌詞、ラジオのインタビュー番組、雑誌のスポーツ記事などを読むことと並行して、簡単な作文演習をしながらEメールをフランス語で書けるように指導して行きます。学期の途中でフランス人の留学生を招いて話を聞くことも、できれば企画していきたいと思っています。

到達目標

一年生の時に学習したフランス語の知識を補足し、発展させることによって、フランス語で表現することがより自由にできるようになることを目標とします。映画のシナリオや、シャンソンの歌詞、時事的なインタビューなどに用いられたボキャブラリーや表現を習得することによって、充実した単語力を身につけ、独特の言い回しを使いこなせるようになることを目指します。フランス語を知ることによって、日本語についても深い理解ができることにも繋がって行くことでしょう。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	1回: イントロダクション	
	次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第2回	映画『アメリ』のシナリオ	
	次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第3回	映画『アメリ』のシナリオ（好きなものの表現）	
	次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分

第4回	映画『アメリ』のシナリオ	
	次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第5回	映画『アメリ』のシナリオ	
	次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第6回	映画『女は女である』のシナリオ（部分冠詞の使い方）	
	次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第7回	映画『女は女である』のシナリオ（部分冠詞の使い方）	
	次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第8回	映画『女は女である』のシナリオ（仮定の表現）	
	次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第9回	映画『女は女である』のシナリオ（仮定の表現）	
	次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分

第10回	雑誌『ELLE』のインタビュー記事を読む	
	次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第11回	雑誌『ELLE』のインタビュー記事を読む	
	次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第12回	フランス語でEメールを書いてみる。	
	次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第13回	フランス語でEメールを書いてみる。	
	次回授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第14回	前期の総まとめ	
	前期学習内容に目を通し、疑問点があれば、授業で質問できるよう準備する。	60分
第15回	前期に学習したことを確認する小論文形式テスト	
	前期の学習内容の総復習をする。	90分

授業の方法

このクラスでは、一年次に学習したフランス語の復習とその継続を大きな目標にしています。一年次のフランス語が完璧に身についている方はいないでしょうから、復習を重視し、やや進んだ内容の文法事項に進みます。映画のシナリオ、シャンソンの歌詞、ラジオ番組の書き下ろしテキストを用いて、音読、内容理解、応用した会話表現の習得を楽しく学んでいけたら、と思います。授業では毎回フランス語をたくさん発音し、フランス語で話すことを楽しむことができるようになると思います。

成績評価の方法

総合評価を実施します。学期末試験（小論文形式:60%), 授業への参加度（20%),小テストの結果(
20%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

一年次で学習するフランス語の文法的知識（複合過去くらいまで)を学習していること。ブランクのある方は、復習しておいてください。他のフランス語演習科目を並行して履修することも助けになるでしょう。

テキスト

授業時にコピーを配布します。
辞書（主に仏和辞書）は必ず入手しておくこと。

参考書

フランス語の文法＆会話の参考書はどれも勉強になります。
白水社から刊行されている『フラ語シリーズ』清岡智比古著は読みやすいので、通して読むと力がつきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランス語演習　活用ＢⅠ　<2>		
教員名	松下　彩子		
科目ナンバー	1101085321	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

新聞や雑誌の記事、インターネット上のフランス語の文章を読めるようにします。前期は、ニュースを簡単なフランス語でまとめた教科書を中心に読んでいきます。それと同時に、1年次の文法事項の復習と未習得部分の学習をします。また、このような学習を通じて、フランスの文化や歴史、ひいてはヨーロッパの文化、歴史の基礎知識が備わるようにします。また毎回フランスのニュースをＤＶＤで見ますので、フランスの「今」に触れてみてください。

到達目標

簡単なメディアのフランス語が読め、フランスの文化、歴史の知識を身につける。1年次に学んだ文法項目を復習して完全に理解できるようにし、、より高度な文法知識を学習する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業計画は以下のとおりですが、受講者の状況を見て進めますので、多少の変更の可能性もあります。 １課　エラスムス計画　（欧州連合） 文法事項　中性代名詞 基本動詞の現在形	
	授業内容を確認し、１課の内容の解説を読んでおく。	90分
第2回	１課　エラスムス計画　（欧州連合） 文法事項　中性代名詞　基本動詞の過去分詞	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習する。	90分
第3回	２課　ラングゾー　（日仏） 文法事項　指示代名詞　基本動詞の現在形	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習する。	90分

第4回	２課　ラングゾー　（日仏） 文法事項　指示代名詞　基本動詞の過去分詞　動詞から名詞へ	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習する。	90分
第5回	3課　神童クリスチアン　（教育） 文法事項　代名動詞　基本動詞の現在と過去分詞	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習する。	90分
第6回	３課　神童クリスチアン　（教育） 文法事項　代名動詞　動詞から名詞へ	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習する。	90分
第7回	４課　人種差別テスト　（社会） 文法事項　強勢形人称代名詞　基本動詞の現在形と過去分詞	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習する。	90分
第8回	４課　人種差別テスト　（社会） 文法事項　強勢形人称代名詞　基本動詞の現在形と過去分詞	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習する。	90分
第9回	５課　都市農業　（農業） 文法事項　関係代名詞　基本動詞の現在形と過去分詞	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習する。	90分

第10回	５課　都市農業　（農業） 文法事項　関係代名詞　形容詞から名詞へ	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習する。	90分
第11回	６課　初生雛鑑別師　（農業） 文法事項　複合過去　形容詞の女性形	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習する。	90分
第12回	６課　初生雛鑑別師　（農業） 文法事項　複合過去　基本的な前置詞	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習する。	90分
第13回	７課　オオカミ対ヒツジ　（農業） 文法事項　受動態の複合過去形　形容詞から副詞へ	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習する。	90分
第14回	８課　闘牛と憲法　（文化） 文法事項　代名動詞の複合過去　部分冠詞	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習する。	90分
第15回	８課　闘牛と憲法　（文化） 文法事項　代名動詞の複合過去　名詞から動詞へ　人称代名詞	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習する。	90分

授業の方法

まず文法を説明してから、練習問題をします。その後、本文のＣＤを聞いて正しく発音ができるようにし、訳をつけてもらい、書かれている項目の理解を深めます。毎回フランスのニュース(翻訳つき）をＤＶＤで見ます。

成績評価の方法

出席、授業参加度などの平常点（２０%）程度と、レポート（８０%程度）を基本として、総合的に判断します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

フランス語を1年以上学んでいること。

テキスト

加藤晴久＋ミシエル・サガズ著、 時事フランス語（2014年度版）、 朝日出版社、 1900円＋税

参考書

必要があれば教室で指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランス語演習　活用ＢII ＜1＞		
教員名	田村　恵子		
科目ナンバー	1101085322	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

このクラスでは前期に引き続き、一年次のフランス語文法を復習しつつ、さらに深い内容を理解し表現できるように学習して行きます。教材は映画のシナリオ、シャンソンの歌詞、ラジオ、TV番組のトランスクリプションなどから厳選し、これらを読み、リスニングも行います　また、前期同様Eメールの作成、フランスのウェブサイトで使われるボキャブラリーの学習も行いたいと思います。「いまのフランス」が感じ取れるような授業で、楽しくフランス語の充実を図りたいと思います。また、機会があれば、フランス人の留学生をゲストに招いて話を聞く試みを企画したいと思います。

到達目標

1年生の時に勉強した文法を復習、発展させながら「フランスのいま」を感じられる教材を読むことによって、現代のフランス語を学習していくことを目指します。メディアで使用されているフランス語を中心として、読み、書き、話す能力を養成することが目的です。街中で見かけるフランス語を理解したり、簡単なeメールをフランス語で作成したりすることができるようになる筈です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	1回目: イントロダクション	
	前期の授業内容をざっと復習する。	60分
第2回	スタジオ・ジブリの『魔女の宅急便』のシナリオ 命令法、複合過去	
	前回の授業内容の例文を音読。次回授業の単語調べ。	60分
第3回	スタジオ・ジブリの映画『魔女の宅急便』のフランス語シナリオを読み、命令法、複合過去を学習	
	前回の授業の例文を音読。次回授業の単語調べ。	60分

第4回	スタジオ・ジブリの映画『魔女の宅急便』のシナリオを読み、条件法、接続法の学習	
	前回の授業の例文を音読。次回の授業の単語調べ。	60分
第5回	スタジオ・ジブリの映画『魔女の宅急便のシナリオを読み、条件法、接続法を学習	
	前回の授業の単語調べ。次回の単語調べ。	60分
第6回	映画『パリのランデ・ブー』のシナリオを読み単純未来形を学習	
	前回の授業の例文の音読。今回の授業の単語調べ。	60分
第7回	映画『パリのランデ・ブー』のシナリオを読み、未来形、接続法を学習	
	前回の授業の例文の音読。次回の授業の単語調べ。	60分
第8回	映画『パリのランデ・ブー』のシナリオを読み、接続法、代名動詞を学習	
	前回の授業の例文の音読。次回の授業の例文の音読。	60分
第9回	シャンソン『オー・シャンゼリゼ』の歌詞を読み、半過去形を学習。	
	前回の授業の例文の音読。次回の授業の単語調べ。	60分

第10回	シャンソン『夢見るシャンソン人形』の歌詞を読み、比較級を学習	
	前回の授業の例文の音読。次回の授業の単語調べ。	60分
第11回	シャンソン『さよならを教えて』の歌詞を読み、疑問副詞について学習	
	前回の授業の例文の音読。次回の授業の単語調べ。	60分
第12回	ラジオのインタビュー番組を聴いてみる。	
	前回の授業の例文の音読。次回の授業の単語調べ。	60分
第13回	前回の続きで、ラジオ番組のインタビューを聴いてみる。口語的表現に特徴的なことを、いくつかピックアップして学習。	
	前回の授業の例文の音読。次回の授業の単語調べ。	60分
第14回	後期全体の復習	
	前回の授業の例文の音読。後期の授業全体の総復習。	60分
第15回	後期の学習内容の理解度を確認するための、小論文形式のテスト	
	授業の総復習をし、テストの準備をする。	90分

授業の方法

基本的には、毎回、テキストの音読、訳読を行い、それをもとに応用した作文を試みます。一年次に学習したフランス語文法の復習と並行して新しい文法事項の学習、問題練習を行いつつ、フランスのいまを感じさせる教材を読んでいきますが、積極的な参加を望みます。リスニングに関しては、スピードのゆっくりした教材を利用し、報道などのフランス語に触れるのが目的です。フランスの社会、文化に親しむ内容の授業ですので、各自、興味をひかれたテーマについて、5分程度の発表を学期に一回することが望ましいです。

成績評価の方法

毎回の授業への参加度(30%)＋学期に一回の発表(30%)＋学期末の試験(40%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

前期に準じて、一年間のフランス語の基礎的な学習をしていることが条件です。
ブランクのある方は、個人的に一年生の教科書を、しっかり復習してください。
複合過去、あたりまでは確実に復習しておくと楽に授業が受けられ、実力のつき方にも断然差がでます。

テキスト

授業時にコピーで配布します。

参考書

本屋さんで売っているフランス語の文法および会話の参考書はすべて役に立ちますから、気に入ったものをセレクトして読むことをお勧めします。
一年次のフランス語の復習に力を入れたい方は白水社の『フラ語シリーズ』（特に文法編）：清岡智比古著　を通して読むと、力が付くと思います。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランス語演習　活用ＢII ＜2＞		
教員名	松下　彩子		
科目ナンバー	1101085322	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

新聞や雑誌の記事、インターネット上のフランス語を読めるようにします。前期は教科書中心ですが、後期はできたら、インターネットから「今」のフランス語を取り出して読んでいくことを加えていきたいと思います。それと同時に、基礎文法の後半部分、1年次に未修得だった項目を重点的に学習します。毎回フランスのニュース（翻訳つき）をＤＶＤで見ていきます。
このような作業を通じて、フランスやヨーロッパの文化、歴史、考え方の違いなどの知識が深まることを目指します。

到達目標

簡単なメディアのフランス語が読め、フランスの文化、歴史の知識を身につける。初等文法全体を理解できるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	授業計画は以下のとおりですが、受講者の状況を見て進めますので、多少の変更の可能性はあります。 ９課　フランスのスターバックス　（社会） 文法事項　現在分詞　代名詞	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を確認。	90分
第2回	９課　フランスのスターバックス　（社会） 文法事項　動詞から名詞へ　代名詞	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習。	90分
第3回	１０課　ボン・マルシェ　（経済） 文法事項　命令形　形容詞から名詞へ	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習。	90分

第4回	１０課　ボン・マルシェ　（経済） 文法事項　命令形　疑問副詞	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習。	90分
第5回	１１課　フリーマーケット　（社会） 文法事項　動詞の半過去形　動詞から名詞へ	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習。	90分
第6回	１１課　フリーマーケット　（社会） 文法事項　動詞の半過去形　基本的な前置詞	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習。	90分
第7回	１２課　セーヌ河に浮かぶ住宅　（日常生活） 文法事項　動詞の大過去形　名詞から形容詞へ	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習。	90分
第8回	１２課　セーヌ河に浮かぶ住宅　（日常生活） 文法事項　動詞の大過去形　受動態	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習。	90分
第9回	１３課　節税亡命者たち　（社会） 文法事項　動詞の単純未来形　名詞の女性形	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習。	90分

第10回	１３課　節税亡命者たち　（社会） 文法事項　動詞の単純未来形　比較級	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習。	90分
第11回	１４課　オモンパランタリテ　（社会） 文法事項　動詞の条件法　動詞から名詞へ	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項を復習。	90分
第12回	１４課　オモンパランタリテ（社会） 文法事項　動詞の条件法と半過去形	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項の復習。	90分
第13回	１５課　フランス女性の選挙権　７０周年　（歴史） 文法事項　条件法過去形　反対の意味の語	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項の復習。	90分
第14回	１５課　フランス女性の選挙権　７０周年　（歴史） 文法事項　動詞の条件法過去形　前置詞	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項の復習。	90分
第15回	１６課　モン・ブラン　（地理） 文法事項　動詞の接続法　さまざまな時制の使い分け	
	本文を和訳し、音読してみる。文法事項の復習。	90分

授業の方法

まず文法の説明をして、練習問題をします。その後、本文のＣＤを聞いて正しく発音できるようにして、訳をつけてもらい、書かれている項目についての理解を深めます。毎回フランスのニュース(翻訳つき）をＤＶＤで見ていきます。

成績評価の方法

出席、授業参加度などの平常点（２０%程度）とレポート（８０%程度）を基本として評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

1年以上フランス語を学んでいること。

テキスト

加藤晴久＋ミシェル・サガズ著、　時事フランス語（2014年度版）、　朝日出版社、　1900円＋税

参考書

必要があれば教室で指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランス語演習　発展　（A仏検に挑戦I）		
教員名	松下　彩子		
科目ナンバー	1001085341	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

実用フランス語技能試験（仏検）の3級合格、あるいは同程度の学力をつけるクラスです。仏検受験を奨励しますが、義務ではありません。
仏検は、毎年6月と11月に行われ、その問題は実際のコミュニケーションを念頭に作られているので、仏検対策は受験しない人にもより実践的なフランス語力を身につけるのに大変有効です。仏検の問題は大体毎年傾向が決まっているので、それに即した学習を行ない、過去問や模擬試験を解いていきます。

到達目標

仏検3級に合格する学力をつけることを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	基礎文法を復習しながら、仏検の過去問（筆記、聞き取り）を解き、必須単語や表現を覚え、また3級からは書き入れる問題も出てくるので、書く力もつけながら、仏検受験が可能な学力を養成します。毎回、筆記問題と聞き取り問題の両方を行ないます。 授業計画は以下のとおりですが、受講者の状況を見て進めますので、多少の変更の可能性もあります。 今後の授業の説明 筆記問題　　冠詞を中心とした問題 聞き取り　　数詞の聞き取り 短文聞き取り	
	授業内容を理解しておく。数詞を復習。	90分
第2回	筆記問題　　冠詞を中心とした問題 聞き取り問題　　数詞聞き取り　短文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法項目を復習。	90分
第3回	筆記問題　　代名詞を中心とした問題 聞き取り　　数詞聞き取り　短文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法項目を復習。	90分

第4回	筆記問題　　代名詞に関する問題 聞き取り　　数詞聞き取り　短文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法項目を復習。	90分
第5回	筆記問題　　対話文読解 聞き取り　　数詞聞き取り　短文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法項目を復習。	90分
第6回	筆記問題　対話文読解 聞き取り　　数詞聞き取り　質問文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法項目を復習。	90分
第7回	筆記問題　　動詞活用に関する問題 聞き取り　　数詞聞き取り　質問文聞き取り	
	中間試験のために、模試形式に慣れておく。文法項目を復習。	90分
第8回	中間試験として、フランス語検定模試。	
	試験の解答を見て、間違えた箇所をチェックし、理解する。文法項目を復習。	90分
第9回	筆記問題　単語を並べかえる問題 聞き取り　数字の聞き取り　質問文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法項目を復習。	90分

第10回	筆記問題　単語を並べかえる問題 聞き取り　数字の聞き取り　会話文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法項目を復習。	90分
第11回	筆記問題　前置詞に関する問題 聞き取り　数字の聞き取り 会話文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法項目を復習。	90分
第12回	筆記問題　前置詞に関する問題 聞き取り　数字の聞き取り 会話文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法項目を復習。	90分
第13回	筆記問題　短文読解 聞き取り　数字の聞き取り　会話文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法項目を復習。	90分
第14回	筆記問題　短文読解 聞き取り　模擬試験形式	
	期末試験のために、模試形式に慣れておく。文法項目を復習。	90分
第15回	期末試験として、フランス語検定模試。	
	試験の解答を見て、間違えた箇所をチェックし、理解する。文法項目を復習。	90分

授業の方法
プリントを使った筆記問題とリスニング教材を使った練習が中心です。

成績評価の方法
出席、授業参加度などの平常点（２０％程度）と、中間、期末試験（８０％）程度を基本として評価します。仏検は義務ではあありませんが、仏検の結果を考慮しますので、申し出てください。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
仏検4級問題で60%（合格ライン）程度取れる学力があることが望ましい。

テキスト
毎回プリントを配布します。

参考書
必要があれば、教室で指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランス語演習　発展　（A仏検に挑戦II）		
教員名	松下　彩子		
科目ナンバー	1001085342	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

実用フランス語技能試験（仏検）の準2級（できれば2級も）合格、あるいは同程度の学力をつけるクラスです。仏検受験を奨励していますが、義務ではありません。

到達目標

仏検準2級、あるいは2級合格レベルの学力をつけること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	基礎文法のとくに後半を復習しながら、より高度な応用問題を解けるようにします。また書くことは、3級にもまして重要になってくるので、単語、成句表現、動詞活用を書くこと、文章のの書き取りなど、書く力を伸ばすことにも力を注ぎます。仏検の過去問を解くなど、毎回、筆記問題と聞き取り問題の両方を行ないます。 授業計画は以下のとおりですが、受講者の状況を見て進めますので、多少の変更の可能性もあります。 筆記問題　語彙に関する問題 聞き取り　部分書き取り 短文聞き取り	
	授業内容を確認し、前期の復習をする。	90分
第2回	筆記問題　語彙に関する問題 聞き取り　部分書き取り 短文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法事項を復習。	90分
第3回	筆記問題　動詞の活用 聞き取り　部分書き取り 短文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法事項を復習。	90分
第4回	筆記問題　動詞の活用 聞き取り　部分書き取り 短文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法事項を復習。	90分

第5回	筆記問題　代名詞に関する問題 聞き取り　部分書き取り 短文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法事項を復習。	90分
第6回	筆記問題　代名詞に関する問題 聞き取り　書き取り　内容一致問題	
	次回の授業内容を確認。文法事項を復習。	90分
第7回	筆記問題　前置詞に関する問題 聞き取り　書き取り　内容一致問題	
	中間試験のために、模試形式に馴れておく。文法事項を復習。	90分
第8回	中間試験としてフランス語検定模試問題	
	試験の解答を見て、まちがえた箇所をチェックし、理解する。文法事項を復習。	90分
第9回	筆記問題 前置詞に関する問題 聞き取り　書き取り　応答文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法事項を復習。	90分
第10回	筆記問題　単語を並べかえる問題 聞き取り　書き取り　応答文聞き取り	
	文法事項を復習。	90分

第11回	筆記問題　応答問題 聞き取り　書き取り　応答文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法事項を復習。	90分
第12回	筆記問題　条件にあった語を選択する問題 聞き取り　書き取り　応答文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法事項を復習。	90分
第13回	筆記問題　長文読解 聞き取り　書き取り　応答文聞き取り	
	次回の授業内容を確認。文法事項を復習。	90分
第14回	筆記問題　長文読解 聞き取り　模試形式	
	次回の授業内容を確認。文法事項を復習。	90分
第15回	期末試験　フランス語検定模試問題	
	試験の解答を見てまちがえた箇所をチェックし、理解する。	90分

授業の方法

プリントを使った筆記問題とリスニング教材を使った練習が中心です。

成績評価の方法

出席、授業参加度などの平常点（20%程度）と中間、期末試験（80%程度）を基本として評価します。仏検は義務ではありませんが、仏検の結果を考慮しますので、申し出てください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

仏検3級問題で６０％（合格ライン）程度取れる学力があることが望ましい。

テキスト

毎回教室でプリントを配布。

参考書

必要があれば教室で指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランス語演習発展　(Bフランス語で国際情勢を読むI)		
教員名	墓田　桂		
科目ナンバー	1001085343	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

フランス語圏や世界各地で起きている事象をフランス語で読み解くことを目的とする。日本や英語圏のメディアでは取り上げられることの少ないテーマや視点に慣れ親しむことを目的とするが、それと同時に基礎的な文法事項の習得も図る。

到達目標

初歩的な時事フランス語に馴染む。基礎的なフランス語の文章が理解できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	（おおよそ以下の計画に従って授業を進める（学生のフランス語のレベルに応じて進捗状況は変化する。） 各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	これまでに使ったフランス語のテキスト（文法書など）に目を通しておく。	90
第2回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第3回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90

第4回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第5回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第6回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第7回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第8回	ここまでの振り返り	
	課題を復習する。	90
第9回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90

第10回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第11回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第12回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第13回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第14回	到達度試験	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	※到達度試験の準備学修は、個人の判断に委ねる。
第15回	まとめ	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

授業の方法

基本的には新聞や雑誌記事の講読を中心とした授業。事前に予習をし、授業で日本語訳を発表してもらう。フランスの国際放送Radio France Internationaleの音声とスクリプトも利用して、リスニングの力も養いたい。

成績評価の方法

おおよそ到達度試験90%、出席率10%をベースに成績評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「フランス語基礎」の授業を履修していること、またはそれと同等以上の知識があることを前提として授業を進める。

テキスト

特になし。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	フランス語演習発展 （Bフランス語で国際情勢を読むII）		
教員名	墓田　桂		
科目ナンバー	1001085344	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

フランス語圏や世界各地で起きている事象をフランス語で読み解くことを目的とする。日本や英語圏のメディアでは取り上げられることの少ないテーマや視点に慣れ親しむことを目的とするが、それと同時に基礎的な文法事項の習得も図る。

到達目標

初歩的な時事フランス語に馴染む。基礎的なフランス語の文章が理解できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	（おおよそ以下の計画に従って授業を進める。学生のフランス語のレベルに応じて進捗状況は変化する。） 各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	過去に使ったフランス語のテキスト（文法書など）に目を通しておく。	90
第2回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第3回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90

第4回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第5回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第6回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第7回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第8回	ここまでの振り返り	
	課題を復習する。	90
第9回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90

第10回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第11回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第12回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第13回	各種メディア（新聞雑誌記事やラジオのスクリプト）の読解	
	課題を準備する。	90
第14回	到達度試験	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	※到達度試験の準備学修は、個人の判断に委ねる。
第15回	まとめ	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

授業の方法

基本的には新聞や雑誌記事の講読を中心とした授業。事前に予習をし、授業で日本語訳を発表してもらう。フランスの国際放送Radio France Internationaleの音声とスクリプトも利用して、リスニングの力も養いたい。

成績評価の方法

おおよそ到達度試験90%、出席率10%をベースに成績評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「フランス語基礎」の授業を履修していること、またはそれと同等以上の知識があることを前提として授業を進める。

テキスト

特になし。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	フランス語演習発展　（C日仏マンガ比較論）		
教員名	筒井　由美子		
科目ナンバー	1001085394	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

日本の漫画はいまや世界中で読まれ、特に若い世代に影響を与えているが、フランスもその例外ではない。フランスにも独自の漫画文化が元々存在しているが、続々とフランス語に翻訳されている日本の漫画やアニメはフランスの若者達に大きな影響を与えているだけでなく、漫画文化そのものをも変化させていっている。この授業では、実際に、元々のフランスの漫画やフランス語に訳された日本の漫画、またフランスで出された漫画論などを読み、２年次までで学んだフランス語力をさらに高めるとともに、日仏の漫画文化についても学びたい。

到達目標

本授業では、２年次までで身につけたフランス語を読む力をさらに高めることと、日仏の漫画文化を知ることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業内容の概要と進め方についての説明	
	シラバスをよく読んでおくこと。	３０
第2回	従来のフランスの漫画と日本の漫画の比較　Ⅰ １コマ漫画	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第3回	従来のフランスの漫画と日本の漫画の比較　Ⅱ ４コマ漫画	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０

第4回	従来のフランスの漫画と日本の漫画の比較　Ⅲ 　　バンド・デシネ	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第5回	従来のフランスの漫画と日本の漫画の比較　Ⅳ 　　バンド・デシネ	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第6回	フランス語になった日本の漫画	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第7回	フランス語になった日本の漫画	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第8回	フランス語になった日本の漫画	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第9回	フランス語になった日本の漫画	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０

第10回	フランス人の日本漫画論	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第11回	フランス人の日本漫画論	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第12回	フランス人の日本漫画論	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第13回	新しいフランスの漫画	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第14回	新しいフランスの漫画	
	配ったプリントを読んでおくこと。	６０
第15回	今学期学んだことを振り返ってまとめる。	
	今学期学んだ内容を見返しておくこと。	６０

授業の方法

演習形式で、プリントで配布したテキストを毎回学生に読んでもらいながら、適宜説明を加えつつ、授業を進める。

成績評価の方法

質問や発言など授業への積極的な参加、授業時の課題発表等の平常点（６０％）と学期末のレポート（４０％）とによる総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

先修科目　フランス語基礎　A, B　I, II　、フランス語２年次のフランス語演習活用

テキスト

プリント

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

初回の授業で指示しますが、授業中に分からないことがあったら、遠慮せず、その都度その場で質問して下さい。

科目名	フランス語演習発展 （Cフランス社会を通してみたアートな生活）		
教員名	田村　恵子		
科目ナンバー	1001085395	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

このクラスでは前期に引き続き、一年次のフランス語文法を復習しつつ、さらに深い内容を理解し表現できるように学習して行きます。教材は前期と同様『フランスを読み解く鍵：第一巻』ですが、今期はフランスを代表する人物たちにスポットを当てていきます。先ずはフランスを代表するファッション・デザイナーであるココ・シャネル、次にポップスをアートの域にまで高めたシンガー・ソングライター、セルジュ・ゲンズブール、そして、押しも押されぬフランスを代表する芸術家であるヴィクトル・ユゴーなどです。時間が許せば印象派の画家、モネにも言及したいところです。これらのアーティストたちがフランス社会でどんなふうに可能性を試して行ったのかは、大変スリリングなストーリーです。今も人々に愛され続けるこれらのクリエーターの生涯の秘密を、フランス文法を学習しつつ読み解いて行きたいと思います。

到達目標

前期に引き続きフランス語文法の基礎固めをしつつ、興味深い芸術家について書かれた文章を読んでいくことによって語学力の充実を図ります。主な目標は3点あります。　1．文法の基礎をしっかりと身につける。2．簡単なフランス語の文章を明快な発音で音読できるようにする。3．フランス語の語彙力を増進させる。　一気に到達することは難しいのですが、毎回の授業を大切にすることで、年度の終わりには実力がついたことを実感できると思います。クラスメートと刺激しあうことも楽しく勉強するコツだと思いますので、わからないことはクラスの友達にきいたり、また、わかることは教えてあげたりなど、できる範囲で交流を図ってください。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	1回目：オリエンテーション	
	一年次に学習したことをざっと見返す。	60分
第2回	『ココ・シャネル、モードの革新者』を読みながら、現在分詞とジェロンディフを学習。	
	次回の授業内容の本文に目を通し、単語を調べる。	60分
第3回	『ココ・シャネル、モードの革新者』を読みながら、現在分詞とジェロンディフを学習	
	次回の授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分

第4回	『ココ・シャネル、モードの革新者』を読みながら現在分詞とジェロンディフを学習	
	次回の授業の内容に目を通し、単語を調べる。	６０分
第5回	シャネルの愛したパリ1区について学びます。	
	次回の授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第6回	『セルジュ・ゲンズブール、規制社会へのノン』を読みながら、受動態を学習	
	次回の授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第7回	『セルジュ・ゲンズブール、規制社会へのノン』を読みながら受動態を学習。	
	次回の授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第8回	『セルジュ・ゲンズブール、規制社会へのノン』を読みながら受動態を学習。	
	次回の授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第9回	ゲンズブールにゆかりのパリ、カルティエ・ラタンについて学びます。	
	次回の授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分

第10回	『ヴィクトル・ユゴー、ユゴーの存在感』を読みながら強調構文を学習。	
	次回の授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第11回	『ヴィクトル・ユゴー、ユゴーの存在感』を読みながら強調構文を学習。	
	次回の授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第12回	『ヴィクトル・ユゴー、ユゴーの存在感』を読みながら強調構文を学習。	
	次回の授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第13回	ユゴー記念館のあるマレ地区について学びます。	
	次回の授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第14回	『印象派の画家たち、モネ』を読みながら代名動詞について学習。	
	次回の授業の内容に目を通し、単語を調べる。	60分
第15回	授業のまとめとしての小論文形式のテスト	
	後期の授業全体を見直し、テストの準備をする。	60分

授業の方法

基本的には、毎回、教科書の文章の訳読、音読を基本に行います。各レッスンごとに文法の重要事項が取り上げられていますから、それに沿って文法の説明、問題演習も順次行います。音読を補強するために、シャンソンを取り上げて、歌詞を読んだり、声に出して読み、歌うことも試みたいと思います。
授業時間中には、積極的に発音練習に参加して欲しいと思いますが、学年が終わるころには、随分と発音が綺麗になったことが自分でもわかることでしょう。

成績評価の方法

毎回の授業の参加度(50%)＋学期末の試験(50%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

フランス語基礎ＡⅠ、ＡⅡ、ＢⅠ、ＢⅡを受講し終えていること。

テキスト

仏語辞書（基本的には仏和、巻末に和仏が付いていることが望ましい）は毎回授業に持ってくること。
『フランス語を読み解く鍵』　北村卓著　　長崎出版

参考書

フランス語の文法、会話の参考書で気に入ったものを書店で見つけたら、まずは通読してみてください。
基礎の復習をしたい場合には白水社から刊行されている『フラ語シリーズ』清岡智比古著（特に文法編）を通して読むことが役に立ちます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	フランス語演習発展 （Ｄ発信力をつけるⅠ）		
教員名	デゥボー　フロランス		
科目ナンバー	1101085347	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

フランスの現代社会や文化を発見しながら中上級フランス語会話ができるようにする。オーラルコミュニケーション（リスニング、ドリル、会話、発表の練習等）をたくさんしながながら、筆記コミュニケーション（フランス語圏の人とメール交換等）を支えて、全面のコミュニケーション能力を発展させる。
物事を語る、状況の説明し、理由をのべる。発表する力を鍛える。

日常のくだけた言い方からフォーマルな表現まで言い方のバリエーションを増やす。

フランス語圏の国々の文化の鑑賞を深める。

前期のトピックス：
人々のルーツ、趣味・習慣、生活環境、のぞみ・願望。

文法の狙い：
Pronoms, Indicatif, Conditionnelを使って、慣れて、身につける。

到達目標

フランス語でかなり自由にコミュニケーションをとる。

テーマの到達目標：
人の経験、習慣、行動、動機、気持ち、原因・結果の述べ方。
文法の到達目標：
Pronoms, Indicatif, Conditionnel、いわゆるフランス語の文法の難しいところに使い慣れて、身に付ける。

知識の到達目標：
フランス語圏の国々の文化の知識を増やす。

Le nouveau taxi! 2は、ヨーロッパ共通のフランス語能力試験 DELFA2 や日本の仏検の準２級のレベルを育む教材。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション・自己紹介 (L 1)	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第2回	L 2　家族（現在形、近接未来・近接過去）	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第3回	L 3　趣味　（現在形）（強勢形人称代名詞）	

	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第4回	L 5　人のルーツ　（複合過去・半過去） （関係代名詞 qui, que）	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第5回	L 6　服装の習慣　（指定代名詞）(Celui qui, celle que...)	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。次回授業に、フランス語で早くて、たくさん書かなければならない語彙やセンテンスの書く練習しておく。	60分
第6回	（コンピューターを使って、フランス語圏の人と メール交換を始める。）	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第7回	L 7　自分のプロジェクト　（礼儀用の条件法） （疑問代名詞 Lequel, laquelle...）	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第8回	L 8　夢、願望，気になること（願望用の条件法）	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第9回	L 9　理想的なお住まい （関係代名詞 ou (avec accent grave), dont）	

	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第10回	L 10　生活環境 1- 交通手段　　（所有代名詞、比較級）	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。 書く宿題：メール	60分
第11回	L 11　生活環境 2-街　　（最上級）	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第12回	L 12　街、フォーマルな説明 ミニ発表会：メールが住んでいるところに紹介	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第13回	L 13　決心　（可能性のない仮定の条件法） （plusieurs, quelques, tout...）	
	前期の勉強範囲で復習をはじめる。 書く練習：メール	60分
第14回	（復習）映画を見て、語る。 受講生のディベートと発表：都会の暮らしvs　　地方の生活	
	期末口頭テストの準備	期末口頭テストの準備に必要な時間を取る。
第15回	期末口頭テスト	

	期末テストの内容を再確認し、訂正してみる。	60分

授業の方法

予習：授業中、自分の話す時間をたくさんできるように、各レッスンに必要な文法を必ず調べておく。
授業法：
教材の資料を使用し　（CDを聞く、読む、書く）、新しい単語、言い回しに慣れてから、文法のドリルを行って話す練習する。
最後にオーラルコミュニケーションの練習：会話や発表を作る。
復習は、フランス語学修において不可欠であるので、授業外の学習にも積極的に取り組んでください。

書く宿題：
月一回、筆記コミュニケーションを練習する：書く練習として、学んだ表現を今度メールで生かし、フランス語圏の人とメールで交流する。

＊レッソン６の回目のクラスは、パスコン室でフランス語圏の人とメール交換を始める。
＊＊１５回目のクラスは、期末口頭テストとなる。

尚、受講生のフランス語の知識や授業の進捗によって、授業内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席、授業時の積極性（間違っても、たくさん話してみる）（40%）、メール、発表と期末の口頭テスト（60%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

最低限、必要なフランス語文法は、直説法（現在形、複合過去、半過去、単純未来）条件法と接続法。

テキスト

Le Nouveau Taxi! 2　　ISBN　9782011555519　　￥3，800+税
DVD-ROM付

辞書を必ず持参する。

参考書

辞書、文法の本など.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中、随時質問を受け付けます。授業前後にも、質問を教室で受け付けます。（水・木）
授業前に質問や相談のあるの方、早めにお越し下さい。次の授業の開始時間を守るようにしましょう。

科目名	フランス語演習発展 （D発信力をつけるII）		
教員名	デゥボー　フロランス		
科目ナンバー	1301085348	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

フランスの現代社会や文化を発見しながら中上級フランス語会話ができるようにする。オーラルコミュニケーション（リスニング、ドリル会話、発表の練習等）をたくさんしながながら、筆記コミュニケーション（フランス語圏の人とメール交換等）を支えて、全面のコミュニケーション能力を発展させる。
　気持ちや物事を語る、状況の説明し、理由をのべる。
　日常のくだけた言い方からフォーマルな表現まで言い方のバリエーションを増やす。

フランス語圏の国々の文化の鑑賞を深める。

後期のトピックス：
自分の人生の改善へ、労働世界、学校世界、余暇世界、メディア。

文法の狙い：
　Pronoms, Indicatif, Conditionnel, Subjonctif を使って、慣れて、身につける。

到達目標

フランス語でかなり自由にコミュニケーションをとる。

テーマの到達目標：
　人の経験、習慣、行動、動機、気持ち、原因・結果の述べ方。
　文法の到達目標：
　Pronoms, Indicatif, Conditionnel, Subjonctif いわゆるフランス語の文法の難しいところに使い慣れて、身に付ける。

知識の到達目標：
　フランス語圏の国々の文化の知識を増やす。

Le nouveau taxi! 2は、ヨーロッパ共通のフランス語能力試験 DELF2 や日本の仏検の準２級のレベルを育む教材。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	L 14　アドバイス　（接続法現在形）	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第2回	L 15　生活の改善：　アドバイス　　（接続法現在形）	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第3回	L 16　スポーツと健康　　映画を見て語る、ミニディベート	

	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第4回	L 17　労働世界での経験 （現在形、複合過去、半過去で語る。）	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第5回	L 18　仕事のリズム　（副詞の作り方）（否定形１　ne…que）	
	復習：次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。次回授業に、フランス語で早くて、たくさん書かなければならない語彙やセンテンスの書く練習しておく。	60分
第6回	コンピューターを使って、フランス語圏の人 とメール交換を始める。	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第7回	L 19　学校時代　　（時点を表す表現）	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第8回	L 20　留学　（システムの比較） 映画を見て、語って、ミニディベート	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第9回	L 21　自分と Internet　（否定形）	

	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。 書く宿題：メール作成	60分
第10回	L 22　喫茶店の減少　（原因を用いる表現）	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第11回	L 23　Week-ends　　（ジェロンディフ）	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第12回	L 24　余暇とイベント 　　映画を見て、語って、ミニディベート フランス人の余暇と日本人の余暇　（バカンス）	
	次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第13回	L 25　未来のテレビ　（未来形と未来の時点を表す表現）	
	書く宿題：メール作成 期末口頭テストへの準備に入る。	60分
第14回	（復習）　映画を見て、語る　受講生のディベートと発表：未来のコミュニケーション	
	期末口頭テストの準備	期末口頭テストの準備に必要な時間を取る。
第15回	期末口頭テスト	

	期末テストの内容を再確認し、訂正をしてみる。	60分

授業の方法

予習：授業中、自分の話す時間をたくさんできるように、各レッスンに必要な文法を必ず調べておく。
授業法：
教材の資料を使用し　（CDを聞く、読む、書く）、新しい単語、言い回しに慣れてから、文法のドリルを行って話す練習する。
最後にオーラルコミュニケーションの練習：会話や発表を作る。
復習は、フランス語学修において不可欠であるので、授業外の学習にも積極的に取り組んでください。

書く宿題：
月一回、筆記コミュニケーションを練習する：書く練習として、学んだ表現を今度メールで生かし、フランス語圏の人とメールで交流する。

＊レッソン６の回目のクラスは、パスコン室でフランス語圏の人とメール交換を始める。
＊＊１５回目のクラスは、期末口頭テストとなる。

尚、受講生のフランス語の知識や授業の進捗によって、授業内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席、授業時の積極性（間違っても、たくさん話してみる）（40%）、メール、発表と期末の口頭テスト（60%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

最低限、必要なフランス語文法は、直説法（現在形、複合過去、半過去、単純未来）条件法と接続法。

テキスト

Le Nouveau Taxi! 2　　ISBN　9782011555519　　￥3，800+税
DVD-ROM付

辞書を必ず持参する。

参考書

辞書、文法の本など.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中、随時質問を受け付けます。授業前後にも、質問を教室で受け付けます。（水・木）
授業前に質問や相談のあるの方、早めにお越し下さい。次の授業の開始時間を守るようにしましょう。

科目名	スペイン語演習　活用ＡＩ　<1>		
教員名	渡辺　雅哉		
科目ナンバー	1101085411	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

「スペイン語基礎AI・AII」で学んだ文法の基礎知識をさらに固めたうえで、平易な文体で書かれたテキストを一緒に読みながら、スペインの社会や文化や歴史について考える。

到達目標

動詞の扱いに慣れれば、スペイン語はそれほど難しくない。「スペイン語基礎AI・AII」では、直説法の現在形を学んだ。このクラスでは、直説法の現在完了形・点過去形・線過去形その他の用法を身につける。もちろん復習から始めるので、現在形について不明な点や曖昧な点があってもかまわない。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション	
	「スペイン語基礎AI・AII」で使った教科書を読み返し、自分の理解が充分ではないと思われる個所をピック・アップする。	30分
第2回	直説法の現在形（復習①）	
	復習	30分
第3回	直説法の現在形（復習②）	
	復習	30分

第4回	直説法の点過去形	
	復習	30分
第5回	直説法の線過去形	
	復習	30分
第6回	直説法の点過去形と線過去形	
	復習	30分
第7回	直説法の現在完了形	
	復習	30分
第8回	テキスト第１課	
	予習。自分に割り当てられていない個所も、可能な限り目を通しておくこと。第2課以降も同様。	40分
第9回	テキスト第2課	
	予習	40分

第10回	テキスト第3課	
	予習	40分
第11回	テキスト第4課	
	予習	40分
第12回	テキスト第5課	
	予習	40分
第13回	テキスト第6課	
	予習	40分
第14回	テキスト第7課	
	予習	40分
第15回	テキスト第8課	
	予習	40分

授業の方法

文法事項の説明については「スペイン語基礎AI・AII」と同じ。前に使った教科書を持ってくること。下記のテキストについては、輪読形式で読み進める。

成績評価の方法

6月以降は輪読形式の授業になるので、授業に取り組む姿勢により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識：「スペイン語基礎ＡⅠ・ＡⅡ」

テキスト

西川喬／セフェリーノ・プエブラ『改訂版　スペインを知るために』第三書房、2200円　ISBN978-4-8086-3030-0　C1087

参考書

エウヘニオ・デル・プラド／齋藤華子／仲道慎治『スペイン語のある風景』同学社（「スペイン語基礎ＡⅠ・AII」の2013年度使用の教科書）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語演習　活用ＡＩ　<2>		
教員名	又吉　和魅		
科目ナンバー	1101085411	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

「スペイン語基礎ＡＩ」と「スペイン語基礎ＡⅡ」 で学んだ知識を復習しながら、基本的な文法要素を学び、簡単な手紙の読み書きや、日常生活を送るために必要な表現や言い回しを学習する。

到達目標

スペイン語の「読み・書き・話す・聞く」能力をさらに高め、スペイン語の理解を深める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の進め方、成績評価の方法などを説明する。	
	【復習】 スペイン語で自己紹介をする。	３０分
第2回	直説法現在・規則動詞 ・ar / er / ir　動詞を使って練習する。	
	【復習】 hablar / comer / vivir / estudiar / viajar / trabajar / tomar / beber / aprender / escribir / etc.	３０分
第3回	直説法現在・不規則動詞 ・語幹母音変化動詞を練習する。	
	【復習】 querer / poder / pedir / etc.	３０分

第4回	直説法現在・再帰動詞 ・日常生活について作文を書く。	
	【復習】 levantarse / acostarse / lavarse / bañarse / vestirse / etc.	３０分
第5回	直説法点過去（規則動詞） ・動詞の語尾変化を理解し、簡単な文を書く。	
	【復習】 直説法現在動詞の意味 【予習】 Unidad 11 (1)	３０分
第6回	直説法点過去（不規則動詞） ・不規則動詞の活用を理解し、作文を作る。	
	【復習】 点過去規則の動詞 【予習】 Unidad 11 (2)	３０分
第7回	直説法線過去（規則動詞） ・動詞の語尾変化を理解し、簡単な文を書く。	
	【復習】 点過去（不規則動詞） 【予習】 Unidad 12 (1)	３０分
第8回	直説法線過去（不規則動詞） ・不規則動詞の活用を理解し、自分のことについて作文を書く。	
	【復習】 線過去規則動詞・意味 【予習】 Unidad 12 (2)	３０分
第9回	直説法点過去と線過去の違い ・点過去と線過去を比較しながら文の和訳する。	
	【復習】 点過去と線過去の動詞 Unidad 11 - 12	３０分

第10回	過去分詞 ・過去分詞の語尾変化と用法を理解し、簡単な文を書く。	
	【復習】 動詞の意味 【予習】 Unidad 13 (1)	３０分
第11回	直説法現在完了 ・現在完了の文の作り方を練習する。	
	【復習】 過去分詞の活用 【予習】 Unidad 13 (2)	３０分
第12回	直説法過去完了 過去完了の文の作り方を練習する。	
	【復習】 過去分詞の活用 【予習】 Unidad 13 (3)	３０分
第13回	現在分詞・現在進行形 現在進行形を使って簡単な文を書く。	
	【復習】 動詞の意味 【予習】 Unidad 14	３０分
第14回	期末試験 ・理解度を確認するためのテストを行う。	
	【復習】 Unidad 11～Unidad 14	９０分
第15回	試験の解説・質疑応答	
	今までの課題やテストなどの点数を確認する。	３０分

授業の方法

文法項目の説明を行い、例文の訳と発音練習をした後、スペイン語で作文を書いたり、文章を読んだりする。また映像等も使用してスペイン語圏諸国の文化・社会への理解を深めていく。

成績評価の方法

毎回の課題（３０%）、テスト（３０%）、期末試験（４０%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「スペイン語基礎ＡⅠ」・「スペイン語基礎ＡⅡ」

テキスト

『スペイン語のある風景』、Eugenio del Prado ・ 齋藤華子 ・ 仲道慎治、同学社、 ISBN: 978-4-8102-0395-0

参考書

授業の中で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語演習　活用ＡＩ　<3>		
教員名	渡辺　雅哉		
科目ナンバー	1001085411	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

「スペイン語基礎AI・AII」で学んだ文法の基礎知識をさらに固めたうえで、平易な文体で書かれたテキストを一緒に読みながら、スペインの社会や文化や歴史について考える。

到達目標

動詞の扱いに慣れれば、スペイン語はそれほど難しくない。「スペイン語基礎AI・AII」では、直説法の現在形を学んだ。このクラスでは、直説法の現在完了形・点過去形・線過去形その他の用法を身につける。もちろん復習から始めるので、現在形について不明な点や曖昧な点があってもかまわない。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション	
	「スペイン語基礎AI・AII」で使った教科書を読み返し、自分の理解が充分ではないと思われる個所をピック・アップする。	30分
第2回	直説法の現在形（復習①）	
	復習	30分
第3回	直説法の現在形（復習②）	
	復習	30分

第4回	直説法の点過去形	
	復習	30分
第5回	直説法の線過去形	
	復習	30分
第6回	直説法の点過去形と線過去形	
	復習	30分
第7回	直説法の現在完了形	
	復習	30分
第8回	テキスト第１課	
	予習。自分に割り当てられていない個所も、可能な限り目を通しておくこと。第2課以降も同様。	40分
第9回	テキスト第2課	
	予習	40分

第10回	テキスト第3課	
	予習	40分
第11回	テキスト第4課	
	予習	40分
第12回	テキスト第5課	
	予習	40分
第13回	テキスト第6課	
	予習	40分
第14回	テキスト第7課	
	予習	40分
第15回	テキスト第8課	
	予習	40分

授業の方法

文法事項の説明については「スペイン語基礎AI・AII」と同じ。前に使った教科書を持ってくること。下記のテキストについては、輪読形式で読み進める。

成績評価の方法

6月以降は輪読形式の授業になるので、授業に取り組む姿勢により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識：「スペイン語基礎ＡⅠ・ＡⅡ」

テキスト

西川喬／セフェリーノ・プエブラ『改訂版　スペインを知るために』第三書房、2200円　ISBN978-4-8086-3030-0　C1087

参考書

エウヘニオ・デル・プラド／齋藤華子／仲道慎治『スペイン語のある風景』同学社（「スペイン語基礎ＡⅠ・AII」の2013年度使用の教科書）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語演習　活用ＡＩ　<4>		
教員名	又吉　和魅		
科目ナンバー	1001085411	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

「スペイン語基礎ＡⅠ」と「スペイン語基礎ＡⅡ」 で学んだ知識を復習しながら、基本的な文法要素を学び、簡単な手紙の読み書きや、日常生活を送るために必要な表現や言い回しを学習する。

到達目標

スペイン語の「読み・書き・話す・聞く」能力をさらに高め、スペイン語の理解を深める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の進め方、成績評価の方法などを説明する。	
	【復習】 スペイン語で自己紹介をする。	３０分
第2回	直説法現在・規則動詞 ・ar / er / ir　動詞を使って練習する。	
	【復習】 hablar / comer / vivir / estudiar / viajar / trabajar / tomar / beber / aprender / escribir / etc.	３０分
第3回	直説法現在・不規則動詞 ・語幹母音変化動詞を練習する。	
	【復習】 querer / poder / pedir / etc.	３０分

第4回	直説法現在・再帰動詞 ・日常生活について作文を書く。	
	【復習】 levantarse / acostarse / lavarse / bañarse / vestirse / etc.	３０分
第5回	直説法点過去（規則動詞） ・動詞の語尾変化を理解し、簡単な文を書く。	
	【復習】 直説法現在動詞の意味 【予習】 Unidad 11 (1)	３０分
第6回	直説法点過去（不規則動詞） ・不規則動詞の活用を理解し、声を出して練習する。	
	【復習】 点過去規則の動詞 【予習】 Unidad 11 (2)	３０分
第7回	直説法線過去（規則動詞） ・動詞の語尾変化を理解し、簡単な文を書く。	
	【復習】 点過去（不規則動詞） 【予習】 Unidad 12 (1)	３０分
第8回	直説法線過去（不規則動詞） ・不規則動詞の活用を理解し、自分のことについて作文を書く。	
	【復習】 線過去規則動詞・意味 【予習】 Unidad 12 (2)	３０分
第9回	直説法点過去と線過去の違い ・点過去と線過去を比較しながら文の和訳する。	
	【復習】 点過去と線過去の動詞 Unidad 11 - 12	３０分

第10回	過去分詞 ・過去分詞の語尾変化と用法を理解し、簡単な文を書く。	
	【復習】 動詞の意味 【予習】 Unidad 13 (1)	３０分
第11回	直説法現在完了 ・現在完了の文の作り方を練習する。	
	【復習】 過去分詞の活用 【予習】 Unidad 13 (2)	３０分
第12回	直説法過去完了 過去完了の文の作り方を練習する。	
	【復習】 過去分詞の活用 【予習】 Unidad 13 (3)	３０分
第13回	現在分詞・現在進行形 現在進行形を使って簡単な文を書く。	
	【復習】 動詞の意味 【予習】 Unidad 14	３０分
第14回	期末試験 ・理解度を確認するためのテストを行う。	
	【復習】 Unidad 11～Unidad 14	９０分
第15回	試験の解説・質疑応答	
	今までの課題やテストなどの点数を確認する。	３０分

授業の方法

文法項目の説明を行い、例文の訳と発音練習をした後、スペイン語で作文を書いたり、文章を読んだりする。また映像等も使用してスペイン語圏諸国の文化・社会への理解を深めていく。

成績評価の方法

毎回の課題（３０%）、テスト（３０%）、期末試験（４０%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「スペイン語基礎ＡⅠ」・「スペイン語基礎ＡⅡ」

テキスト

『スペイン語のある風景』、Eugenio del Prado ・ 齋藤華子 ・ 仲道慎治、同学社、 ISBN: 978-4-8102-0395-0

参考書

授業の中で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語演習　活用ＡII ＜1＞		
教員名	渡辺　雅哉		
科目ナンバー	1101085412	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

前期に引き続き直説法の未来形と過去未来形を学び、さらに接続法の現在形と過去形へと進む。文法の知識をひと通り身につけたところで、テキストの第9課以降を読み、スペインに関する知識を深める。

到達目標

直説法に加えて接続法の使い方も身につけ、深みのあるスペイン文を読んだり書いたりできるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション	
	「スペイン語演習　活用AI」で学んだ事項の確認。	30分
第2回	直説法の未来形・過去未来形	
	復習	30分
第3回	接続法の現在形	
	復習	30分

第4回	接続法の過去形	
	復習	30分
第5回	テキスト第9課	
	予習。自分に割り当てられていない個所も、可能な限り目を通しておくこと。第10課以降も同様。	40分
第6回	テキスト第10課	
	予習	40分
第7回	テキスト第11課	
	予習	40分
第8回	テキスト第12課	
	予習	40分
第9回	テキスト第13課	
	予習	40分

第10回	テキスト第14課	
	予習	40分
第11回	テキスト第15課	
	予習	40分
第12回	テキスト第16課	
	予習	40分
第13回	テキスト第17課	
	予習	40分
第14回	テキスト第18課	
	予習	40分
第15回	テキスト第19課	
	予習	40分

授業の方法

文法事項の説明も、テキストの講読も「スペイン語演習　活用AI＜１＞」「スペイン語演習　活用AI＜３＞」と同じ。

成績評価の方法

文法事項の説明を終えた後は輪読形式の授業になるので、授業に取り組む姿勢により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識：「スペイン語演習　活用AI」

テキスト

西川喬／セフェリーノ・プエブラ『改訂版　スペインを知るために』第三書房、2200円、ISBN978-4-8086-3030-0 C1087

参考書

エウヘニオ・デル・プラド／齋藤華子／仲道慎治『スペイン語のある風景』同学社（「スペイン語基礎AI・AII」の2013年度使用の教科書）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語演習　活用ＡII ＜2＞		
教員名	又吉　和魅		
科目ナンバー	1101085412	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

前期で学んだ知識を復習しながら、さらに基本的な文法要素を学び、簡単な手紙の読み書きや、日常生活を送るために必要な表現や言い回しを学習する。

到達目標

スペイン語の「読み・書き・話す・聞く」能力をさらに高め、スペイン語の理解を深める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の進め方、成績評価の方法などを説明する。 ・点過去・線過去の練習する。	
	【予習】 夏休みについて語る。	３０分
第2回	直説法未来 ・動詞の活用を練習する。	
	【復習】 動詞の意味 【予習】 Unidad 15 (1)	３０分
第3回	直説法未来 ・不規則動詞の活用を練習する。	
	【復習】 直説法未来の動詞 【予習】 Unidad 15 (2)	３０分

第4回	直説法過去未来 ・動詞の語尾変化を練習する。	
	【復習】 不定詞 【予習】 Unidad 15 ② (1)	３０分
第5回	直説法過去未来 ・不規則動詞を練習する	
	【復習】 直説法過去未来の動詞 【予習】 Unidad 15 ② (2)	３０分
第6回	直説法現在・過去・未来 ・授業で習った新しい表現を使って作文を書く。	
	【復習】 直説法現在・過去・未来の動詞活用 Unidad 1 ~ 15	３０分
第7回	接続法現在 ・規則動詞の活用・用法を理解する。	
	【復習】 動詞の意味 【予習】 Unidad 16 (1)	３０分
第8回	接続法現在 ・不規則動詞の活用を練習する。	
	【復習】 接続法現在の動詞 【予習】 Unidad 16 (2)	３０分
第9回	接続法・命令 ・動詞の語尾変化を練習する。	
	【復習】 接続法現在の動詞 【予習】 Unidad 16 (3)	３０分

第10回	接続法現在（２） ・不規則動詞の活用を練習する。	
	【復習】 接続法現在の動詞 【予習】 Unidad 17 (1)	３０分
第11回	接続法命令（２） ・再帰動詞の命令形を練習する。	
	【復習】 接続法現在の動詞 【予習】 Unidad 17 (2)	３０分
第12回	接続法現在の用法 ・接続法の用法（副詞節・形容詞節）を理解する。	
	【復習】 接続法現在の動詞 【予習】 Unidad 18 (1) (2)	３０分
第13回	接続法過去 ・動詞の活用・用法を理解する。	
	【復習】 直説法点過去の動詞 【予習】 Unidad 18 (3)	３０分
第14回	期末試験 ・理解度を確認するためのテストを行う。	
	【復習】 Unidad 15 ～ Unidad 18	９０分
第15回	試験の解説・質疑応答	
	提出した課題やテストを確認し復習する。	３０分

授業の方法

文法項目の説明を行い、例文の訳と発音練習をした後、スペイン語で作文を書いたり、文章を読んだりする。また映像等も使用してスペイン語圏諸国の文化・社会への理解を深めていく。

成績評価の方法

毎回の課題（３０%）、テスト（３０%）、期末試験（４０%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「スペイン語基礎ＡⅠ」、「スペイン語基礎ＡⅡ」、「スペイン語演習活用ＡⅠ」

テキスト

『スペイン語のある風景』、Eugenio del Prado ・ 齋藤華子 ・ 仲道慎治、同学社、 ISBN: 978-4-8102-0395-0

参考書

授業の中で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語演習　活用ＢⅠ		
教員名	細谷　広美		
科目ナンバー	1101085421	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

スペイン語の初中級レベルの学習をおこないます。スペイン語はスペインのみならず、ラテンアメリカ、カリブ海地域、アメリカ合衆国のヒスパニックの人々の間で幅広く話されている言語で、４億人以上の話者がいるとされています。

到達目標

・スペイン語を辞書等を使用しつつも自分の力で読むことができるようになることを目標とする。
・スペイン語及び、スペイン語圏の文化への関心を高め、知識を得る。
・スペイン語の活用能力を強化するとともに、言葉の背後にある文化を知り、異文化コミュニケーション能力を高める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	導入	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第2回	unidad 1(1)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第3回	unidad 1(2)	
	テキストの予習と復習をする。	90分

第4回	unidad 2(1)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第5回	unidad 2(2)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第6回	スペイン語映画1 スペイン語圏の映画をみて、スペイン語が実際にどのように使用されているか知るとともに、スペイン語を話す人々の文化的背景についての理解を深めます。	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第7回	スペイン語映画2 スペイン語圏の映画をみて、スペイン語が実際にどのように使用されているか知るとともに、スペイン語を話す人々の文化的背景についての理解を深めます。	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第8回	Unidad 3(1)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第9回	unidad 3(2)	
	テキストの予習と復習をする。	90分

第10回	unidad 4(1)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第11回	unidad 4(2)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第12回	スペイン語映画3 スペイン語圏の映画をみて、スペイン語が実際にどのように使用されているか知るとともに、スペイン語を話す人々の文化的背景についての理解を深めます。	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第13回	スペイン語映画4 スペイン語圏の映画をみて、スペイン語が実際にどのように使用されているか知るとともに、スペイン語を話す人々の文化的背景についての理解を深めます。	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第14回	Unidad 5(1)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第15回	Unidad 5(2)	
	テキストの予習と復習をする。	90分

授業の方法

テキストにそって進めていきます。必ず予習、復習をして下さい。

成績評価の方法

平常点３０%、学期末テスト７０%。学期末試験では６０点以上が合格ラインになります。できるだけスペイン語にふれる機会をつくり、日々の学習を欠かさないで下さい。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

本授業はスペイン語の文法の授業ではなく、スペイン語の既習者を対象に活用能力を強化します（本学ですでにスペイン語を１年間学んでいるか、あるいは初級文法を一通り学んだ経験があること）。後期開講のスペイン語演習活用ＢⅡとの継続受講が必要です。

文学部の学生は同じ教員が担当する「エスニック・スタディーズ」、またラテンアメリカ地域を扱う「地域研究B」、「開発人類学」をあわせて受講すると、スペイン語を使用する人々についての理解がより深まります。

テキスト

「Entre amigos 2」 朝日書店
「のだめカンタービレ」（スペイン語版）
詳細は第１回目の授業の際に伝えます。受講生のレベルに応じてテキストを変更する可能性があります。

参考書

辞書は西和辞典の他に、西英・英西辞典も持っているとよいです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	スペイン語演習　活用ＢII		
教員名	細谷　広美		
科目ナンバー	1101085422	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

　スペイン語の初中級レベルの学習をおこないます。スペイン語はスペインのみならず、ラテンアメリカ、カリブ海地域、アメリカ合衆国のヒスパニックの人々の間で幅広く話されている言語で、４億人以上の話者がいるとされています。

到達目標

・スペイン語を辞書等を使用しつつも自分の力で読むことができるようになることを目標とする。
・スペイン語及び、スペイン語圏の文化への関心を高め、知識を得る。
・スペイン語の活用能力を強化するとともに、言葉の背後にある文化を知り、異文化コミュニケーション能力を高める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Unidad 6(1)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第2回	unidad 6(2)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第3回	unidad 7(1)	
	テキストの予習と復習をする。	90分

第4回	unidad 7(2)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第5回	unidad 8(1)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第6回	Unidad 8(2)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第7回	スペイン語映画5 スペイン語圏の映画をみて、スペイン語が実際にどのように使用されているか知るとともに、スペイン語を話す人々の文化的背景についての理解を深めます。	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第8回	スペイン語映画6 スペイン語圏の映画をみて、スペイン語が実際にどのように使用されているか知るとともに、スペイン語を話す人々の文化的背景についての理解を深めます。	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第9回	unidad 9(1)	
	テキストの予習と復習をする。	90分

第10回	unidad 9(2)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第11回	unidad 10(1)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第12回	Unidad 10(2)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第13回	Unidad 11(1)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第14回	Unidad 11(2)	
	テキストの予習と復習をする。	90分
第15回	Unidad 12	
	テキストの予習と復習をする。	90分

授業の方法
テキストにそって進めていきます。必ず予習、復習をして下さい。

成績評価の方法
平常点３０%、学期末テスト７０%。学期末試験では６０点以上が合格ラインになります。できるだけスペイン語にふれる機会をつくり、日々の学習を欠かさないで下さい。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
本授業はスペイン語の文法の授業ではなく、スペイン語の既習者を対象に活用能力を強化します（本学ですでにスペイン語を１年間学んでいるか、あるいは初級文法を一通り学んだ経験があること）。後期開講のスペイン語演習活用ＢⅡとの継続受講が必要です。

文学部の学生は同じ教員が担当する「エスニック・スタディーズ」、またラテンアメリカ地域を扱う「地域研究B」、「開発人類学」をあわせて受講すると、スペイン語を使用する人々についての理解がより深まります。

テキスト
「Entre amigos 2」 朝日書店
「のだめカンタービレ」（スペイン語版）
詳細は第１回目の授業の際に伝えます。受講生のレベルに応じてテキストを変更する可能性があります。

参考書
辞書は西和辞典の他に、西英・英西辞典も持っているとよいです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	スペイン語演習　活用ＣＩ		
教員名	又吉　和魅		
科目ナンバー	1001085431	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

スペイン語はスペインだけでなく、ラテンアメリカの殆どの国で公用語として使われている。この授業では、様々な文化・歴史・などに触れながら、日常生活を送るのに必要となる表現力・語彙力を身につける。

到達目標

ラテンアメリカの様々な文化を紹介しながら、スペイン語の「読み・書き・話す・聞く」能力をさらに高めることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の進め方、成績評価の方法などを説明する。	
	【復習】 初級スペイン語文法	３０分
第2回	Lección 1 Yo soy Taro y planeo viajar por América Latina.	
	【予習】 Gramática y expresiones 1 (página 8)	３０分
第3回	Lección 2 La ciudad de México.	
	【予習】 Gramática y expresiones 2 (página 12)	３０分

第4回	Lección 3 El sistema educativo de México.	
	【予習】 Gramática y expresiones 3 (página 16)	３０分
第5回	Lección 4 San Cristóbal de las Casas en Chiapas.	
	【予習】 Gramática y expresiones 4 (página 20)	３０分
第6回	Lección 5 Guatemala, país de los Mayas.	
	【予習】 Gramática y expresiones 5 (página 24)	３０分
第7回	Lección 6 El Salvador, el país más pequeño de Centro América.	
	【予習】 Gramática y expresiones 6 (página 28)	３０分
第8回	Examen de comprensión de léctura.	
	【復習】 Repasar las lecciones aprendidas.	９０分
第9回	Lección 7 Honduras, exportador de bananos.	
	【予習】 Gramática y expresiones 7 (página 32)	３０分

第10回	Lección 8 Nicaragua, país más grande de la región.	
	【予習】 Gramática y expresiones 8 (página 36)	３０分
第11回	Lección 9 Costa Rica, el país verde.	
	【予習】 Gramática y expresiones 9 (página 40)	３０分
第12回	Lección 10 Panamá y su canal.	
	【予習】 Gramática y expresiones 10 (página 42)	３０分
第13回	Lección 11 Cuba, país socialista en el Caribe.	
	【予習】 Gramática y expresiones 11 (página 48)	３０分
第14回	Examen de comprensión.	
	【復習】 Repasar las lecciones aprendidas.	９０分
第15回	Correción de examenes.	
	Repaso de las expresiones.	３０分

授業の方法

ラテンアメリカの国々について文章を読みながら、文法事項の復習をしていく。また聞く力を養うために、ＤＶＤ教材などを使用しての練習も行う。

成績評価の方法

毎回の課題（３０%）、テスト（３０%）、期末試験（４０%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「スペイン語基礎ＡⅠとⅡ」 「スペイン語演習活用ＡⅠとⅡ」

テキスト

『ラテンアメリカ旅行記』　国本伊代（著），ロメオ・ヘオルヒーナ（著），安井伸（著）、弘学社　ISBN978-4-902964-68-4

参考書

授業の中で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語演習　活用ＣII		
教員名	又吉　和魅		
科目ナンバー	1001085432	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スペイン語はスペインだけでなく、ラテンアメリカの殆どの国で公用語として使われている。この授業では、様々な文化・歴史・などに触れながら、日常生活を送るのに必要となる表現力・語彙力を身につける。

到達目標

ラテンアメリカの様々な文化を紹介しながら、スペイン語の「読み・書き・話す・聞く」能力をさらに高めることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の進め方、成績評価の方法などを説明する。	
	【復習】 初級スペイン語文法	３０分
第2回	Lección 12 Santo Domingo, perla del Caribe.	
	【予習】 Gramática y expresiones 12 (página 52)	３０分
第3回	Lección 13 Venezuela, país del petróleo.	
	【予習】 Gramática y expresiones 13 (página 56)	３０分

第4回	Lección 14 Colombia, país del café.	
	【予習】 Gramática y expresiones 14 (página 60)	３０分
第5回	Lección 15 Ecuador, la mitad del mundo.	
	【予習】 Gramática y expresiones 15 (página 64)	３０分
第6回	Lección 16 Perú, otro país andino.	
	【予習】 Gramática y expresiones 16 (página 68)	３０分
第7回	Examen de comprensión.	
	【復習】 Repasar las lecciones aprendidas.	９０分
第8回	Lección 17 El mundo incaico.	
	【予習】 Gramática y expresiones 17 (página 72)	３０分
第9回	Lección 18 Bolivia, país multicultural.	
	【予習】 Gramática y expresiones 18 (página 76)	３０分

第10回	Lección 19 Chile, país del cobre y vino.	
	【予習】 Gramática y expresiones 19 (página 80)	３０分
第11回	Lección 20 Argentina, país del tango.	
	【予習】 Gramática y expresiones 20 (página 84)	３０分
第12回	Lección 21 Uruguay, país del Río de la Plata.	
	【予習】 Gramática y expresiones 21 (página 88)	３０分
第13回	Lección 22 Paraguay, país de contraste.	
	【予習】 Gramática y expresiones 22 (página 92)	３０分
第14回	Examen de comprensión.	
	【復習】 Repasar las lecciones aprendidas.	９０分
第15回	Correción de examenes.	
	Repaso de las expresiones.	３０分

授業の方法

ラテンアメリカの国々について文章を読みながら、文法事項の復習をしていく。また聞く力を養うために、ＤＶＤ教材などを使用しての練習も行う。

成績評価の方法

毎回の課題（３０%）、テスト（３０%）、期末試験（４０%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「スペイン語基礎ＡⅠとⅡ」・「スペイン語演習活用ＡⅠとＡⅡ」

テキスト

『ラテンアメリカ旅行記』　国本伊代（著），ロメオ・ヘオルヒーナ（著），安井伸（著）、弘学社　ISBN978-4-902964-68-4

参考書

授業の中で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語演習　発展　（コムニカシオン・エン・エスパニョールⅠ）		
教員名	プラド　エウヘニオ　デル		
科目ナンバー	1101085441	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

今までに学んだスペイン語の基礎や文法を復習し、それらの習得に努めます。更に力をつけるために多様な日常生活の場面を想定し実際に会話練習を行いながら、豊かな表現能力やボキャブラリーを身につけます。またビデオ等を通してスペインの社会、生活、文化全般の理解を深めていきます。

到達目標

学習した基礎知識を確認し発展させながら、会話能力を高め、表現力を豊かにし 、コミュニケーションに役立つ生きたスペイン語を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	再帰動詞	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第2回	動詞gustar	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第3回	比較級	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分

第4回	最上級	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第5回	語彙（衣類、色）、コミュニケーション（「白いセーターがほしいのですが。」）	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第6回	直説法点過去 － 規則動詞	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする	60分
第7回	直説法点過去 － 不規則動詞	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第8回	語彙（時の表現）、コミュニケーション（「月曜日、どこにいたの？」）	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第9回	直説法線過去	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分

第10回	点過去と線過去	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第11回	語彙（時の表現、日常の活動）、コミュニケーション（「どこに住んでいたの？」）	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第12回	直説法現在完了	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第13回	直接法過去完了	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第14回	到達度確認テスト	
	履修したことの振り返りと総括を行い、テストの範囲を復習し、確認する。	120分
第15回	テストの内容の確認と復習・まとめ	
	テストの内容の再確認をする。 授業で学んだことの総括と振り返りを行い、今後の学習の範囲を把握し、見通しを立てる。	60分

授業の方法

DVDは本教材のエッセンスです。ＤＶＤを基盤に、会話形式の演習を中心にしながら、発音およびイントネーションの練習も行います。

成績評価の方法

平常点(出席、課題、授業への参加態度など)40%、試験60%を目安に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
さらに授業の到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とします。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

『スペイン語のある風景』、エウヘニオ・デル・プラド他、同学社出版、ISBN 978-4-8102-0395-0

参考書

適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	スペイン語演習　発展　（コムニカシオン・エン・エスパニョールII）		
教員名	プラド　エウヘニオ　デル		
科目ナンバー	1101085442	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

今までに学んだスペイン語の基礎や文法を復習し、それらの習得に努めます。更に力をつけるために多様な日常生活の場面を想定し実際に会話練習を行いながら、豊かな表現能力やボキャブラリーを身につけます。またビデオ等を通してスペインの社会、生活、文化全般の理解も深めていきます。

到達目標

学習した基礎知識を確認し発展させながら、会話能力を高め、表現力を豊かにし、コミュニケーションに役立つ生きたスペイン語を身につけることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	. 現在分詞	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第2回	.. 関係詞の独立用法	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第3回	語彙（家の中で、パーティーで）、コミュニケーション（「食事をしている赤いドレスの人は誰？」）	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分

第4回	直説法未来	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第5回	直説法過去未来	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第6回	語彙（パーティーの準備）、コミュニケーション（「どこを旅行するでしょうか？」）	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第7回	肯定命令 接続法現在	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第8回	語彙（助言する、家具、調度品、電気製品）、コミュニケーション（「寝室にそれを置いて。」）	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第9回	接続法の用法 － 名詞節	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分

第10回	願望文	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第11回	．語彙（体調、願望・疑惑などを表す表現）コミュニケーション（「日本人の良いところは？」）	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第12回	接続法過去の用法	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第13回	語彙（職業）、コミュニケーション（「仕事を選ぶときに重視したことは？」）	
	既習したことの振り返りをし、次回授業で扱う章の一読を行い、未知語や自己課題の確認をする。	60分
第14回	到達度確認テスト	
	履修したことの振り返りと総括を行い、テストの範囲を復習し、確認する。	120分
第15回	テストの内容の確認と復習・まとめ	
	授業で学んだことの総括と振り返りを行い、今後の学習の範囲を把握し、見通しを立てる。	60分

授業の方法

DVDは本教材のエッセンスです。ＤＶＤを基盤に、会話形式の演習を中心にしながら、発音およびイントネーションの練習も行います。

成績評価の方法

平常点(出席、課題、授業への参加態度など)40%、試験60%を目安に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
さらに授業の到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とします。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

『スペイン語のある風景』、Eugenio del Pradoほか著、同学社出版、ISBN 978-4-8102-0395-0

参考書

適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	スペイン語演習　発展　（メキシコの文化と社会）		
教員名	三輪　イルマ		
科目ナンバー	1001085453	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

ラテンアメリカ諸国の一つ、メキシコは豊かな文化遺産に恵まれた広大な国です。本演習では、受講生にとって未知の国メキシコをめぐりながら、その歴史から現在の社会までを見渡したいと思います。

到達目標

メキシコの豊かな文化遺産に対する理解を深めると同時に、歴史・文化・芸術・食文化などに関するトピックを通してメキシコとはどのような国なのか、全体像をつかむことを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	世界の中のメキシコ、基本情報	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	60分
第2回	メキシコの歴史	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱うテーマについて調べておく。	60分
第3回	メソアメリカの古代文明とその遺産	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱うテーマについて調べておく。	60分

第4回	オルメカ、テオティワカン、マヤ、アステカ	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱うテーマについて調べておく。	60分
第5回	視聴覚資料（映画など）鑑賞	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱うテーマについて調べておく。	60分
第6回	植民地時代の都市：サカテカス、グアナフアト、プエブラ	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱うテーマについて調べておく。	60分
第7回	首都メキシコシティー	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱うテーマについて調べておく。	60分
第8回	芸術家：ディエゴ・リベラ、オロスコ、シケイロス、フリーダ・カーロ	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱うテーマについて調べておく。	60分
第9回	メキシコの社会、習慣、教育	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱うテーマについて調べておく。	60分

第10回	メキシコの祭り、音楽、踊り	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱うテーマについて調べておく。	60分
第11回	メキシコの食文化	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱うテーマについて調べておく。	60分
第12回	メキシコと日本の交流	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱うテーマについて調べておく。	60分
第13回	視聴覚資料（映画など）鑑賞	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱うテーマについて調べておく。	60分
第14回	レポートの発表	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】レポート発表の準備をする。	120分
第15回	ディスカッションとまとめ	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】メキシコについて、今後の学習の見通しを立てる。	60分

授業の方法

まず教員が学生に質問しながら、各テーマへの関心を喚起します。次にパワーポイント、DVD、映画などを用いて、教員がそのテーマを解説します。学生はテーマを決めて、毎週パワーポイントを使ってプレゼンテーションをします。最後に、学生全員でテーマについてディスカッションをします。

成績評価の方法

出席：15%、プレゼンテーション：30%、授業の感想（毎回）：15%、ディスカッション：20%、最終レポート：20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
さらに、上記の到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：異文化理解A（ことばと文化の窓）、異文化理解B（スペイン語圏）、スペイン語基礎AI/AII、スペイン語基礎BI/BII、スペイン語会話I/II

テキスト

必要な資料は教員が用意します。

参考書

必要に応じて、インターネットなどの資料を紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	スペイン語演習　発展　（スペインの芸術・祭り・宗教II）		
教員名	ドメネク　マリア		
科目ナンバー	1001085450	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この授業ではスペインの歴史的推移や社会の様々な様相を背景に、その芸術、宗教、祭りにテーマを絞った知識を得ることができます。スペインではアルタミラの壁画以来、今日まで数多くの芸術作品を残し、またたくさんの芸術家を輩出してきました。その足跡をたどってみましょう。
宗教と祭りは切っても切り離せない関係にあります。宗教（カトリック）の概要を知るとともに、そこから発生した様々な興味深い祭り、また宗教とは無関係の祭りを検証することは、スペインを理解するうえでとても大切なことと思われます。これら３つのテーマを楽しい映像等を紹介しながら解説していきます。

到達目標

スペインにおける歴史、文化、伝統、習慣等を理解し、この国の人々との交流に役立つ知識を習得することを目標にします。また、他国における様々な社会状況の理解を深め、同時に自国の状況と照らし合わせるのも興味深いことです。類似点や相違点などを指摘しながら、比較検討するのも意義のあることでしょう。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業のプレゼンテーション　スペインにおける芸術、祭り、宗教の短い紹介	
	スペインの芸術、祭り、宗教または一般的にスペインについて１０の質問を準備してください。	30分
第2回	スペインの紹介　地理と歴史	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第3回	中央スペイン：マドリード、アランフエス、エスコリアル、アルカラ、都市の建築物	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分

第4回	古典絵画ー２、ベラスケスー２、スルバラン、ムリージョ、ゴヤー２	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第5回	スペイン北部ー１、原始時代（アタプエルカ、アルタミラ）～ローマ時代	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第6回	スペイン北部ー２、サンフェルミンの牛追い祭り、中世ー１（城郭、城塞、城壁、修道院、十字軍、サンチヤゴ巡礼）	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第7回	スペイン南部-１、中世ー２（スペインにおけるイスラム教、コルドバ、グラナダ、レコンキスタ）	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第8回	スペイン南部ー２、セビージャ、カディス、南部の祭り：フェリア、ロシオ	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第9回	スペイン東部ー１、ルネサンス、バレンシアの火祭り	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分

第10回	スペイン西部、アメリカ発見と征服者、海賊	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第11回	復習	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第12回	音楽と舞踊（フラメンコ、民族舞踊）	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第13回	スペイン東部ー２、バルセローナ、モデルニズモ建築（ガウディ、ドメネク）	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第14回	現代絵画（ピカソー２、ダリー２、ミローー２）	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第15回	まとめ	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分

授業の方法

第一義的に受講生の積極的参加を促す。教師からの一方的な説明に終わるのではなく、時に応じて受講生との質疑応答を通じて各テーマに関する理解を深めることを目指す。具体的方法としては、まずその日のテーマを教師が提供し、そのテーマについてビデオ等を活用し説明する。その後受講生に質問書を配布し、受講生はその質問書に答える。その際、理解が不十分だと思われる項目に関しては、教師との質疑応答により理解を確実なものにするよう努める。

成績評価の方法

試験　６０％　　出席、宿題、受講態度など授業内評価　４０％

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識のための簡単な宿題

テキスト

なし

参考書

なし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語演習　発展　（語学検定にチャレンジⅠ）		
教員名	渡辺　雅哉		
科目ナンバー	1001085454	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

日本の文科省が認定する「スペイン語技能検定」の6級（入門）・5級（初級）、スペインの教育省が認定する「外国語としてのスペイン語検定試験（DELE）」のA１（入門）・A2（初級）の合格を目指して、スペイン語の基礎知識を確かなものにする。
試験の詳細については、次のサイトを参照。
「スペイン語技能検定」
{http://www.casa-esp.com/link-examen.html}
「外国語としてのスペイン語検定試験（DELE）」
{http://dele.jp/index.html}

到達目標

「入門」であれ、「初級」であれ、各自が受験を希望するレベルに見合うだけの実力を身につける。「入門」の場合には、「スペイン語基礎AI・AII」で学んだ内容を改めてしっかり自分のものにすること。「初級」の場合には、もう少し幅の広い知識の習得が求められる。時間が限られていることもあり、「初級」の受験に必要とされる範囲を網羅的に扱うことは難しい。受講者の要望をできるだけ受け入れながら、授業を進めていく。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション。各自の目標の設定。	
	既習の学習内容に関して、使った教科書やノートの見返し。	30分
第2回	既習の文法事項の確認と問題練習（１）	
	復習	30分
第3回	既習の文法事項の確認と問題練習（２）	
	復習	30分

第4回	既習の文法事項の確認と問題練習（３）	
	復習	30分
第5回	既習の文法事項の確認と問題練習（４）	
	復習	30分
第6回	既習の文法事項の確認と問題練習（５）	
	復習	30分
第7回	到達度確認テスト（１）	
	試験のための勉強	60分～
第8回	到達度確認テスト（1）の見直し	
	試験の反省	30分
第9回	新しい文法事項の説明と問題練習（１）	
	復習	40分

第10回	新しい文法事項の説明と問題練習（２）	
	復習	40分
第11回	新しい文法事項の説明と問題練習（３）	
	復習	40分
第12回	新しい文法事項の説明と問題練習（４）	
	復習	40分
第13回	新しい文法事項の説明と問題練習（５）	
	復習	40分
第14回	到達度確認テスト（２）	
	試験のための勉強	60分～
第15回	到達度確認テスト（２）の見直し	
	試験の反省	30分

授業の方法

初回のガイダンスの折に、各自の目標を設定する。とりあえずは6月下旬に実施される予定の「スペイン語技能検定」を視野に、学力の充実を図る。文法事項の確認や説明と問題練習のどちらに主眼を置くかは、授業を進めるなかで決める。

成績評価の方法

およそ、授業態度40%と2度の到達度確認テストの結果60%の比率で評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

先修科目として、「スペイン語基礎AI・AII」
関連科目として、「スペイン語演習　活用ＡⅠ・ＡⅡ」「スペイン語会話Ⅲ・Ⅳ」（中級レベル）。

テキスト

新しいテキストを購入する必要はないが、今までに使った教科書を持ってくること。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語演習　発展　（語学検定にチャレンジII）		
教員名	鈴木　恵美子		
科目ナンバー	1001085455	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スペイン語は世界の言語の中でも使用人口が極めて多く、現在これを日常語とする人々は4 億人に近いと言われています。その言語圏は、スペインをはじめ、ブラジルを除く中南米のほぼ全地域、アメリカ合衆国の一部などです。これらの国と関係の深い日本でも、スペイン語の需要は高まりつつあります。そうしたニーズを受けて、日本では2つのスペイン語検定試験が実施されています。日本文科省認定の「スペイン語技能検定（西検）」とスペイン教育省認定の「外国語としてのスペイン語検定試験（DELE）」です。留学を目指す方、将来仕事で使いたい方、スペイン語学習の成果を形に残したい方はチャレンジしてみませんか。
前期開講の「スペイン語演習　発展（語学検定にチャレンジI）」は西検を目指す人を対象に、
後期開講の「スペイン語演習　発展（語学検定にチャレンジII）」（本科目）はDELEを目指す人を対象に、各自が目標とするレベルの合格に必要な実力をつけていきます。
各検定試験については、次のサイトを参照してください。
「スペイン語技能検定」
{http://www.casa-esp.com/link-examen.html}
「外国語としてのスペイン語検定試験（DELE）」
{http://dele.jp/index.html}

到達目標

・スペイン語の検定試験の特徴と傾向をつかむ
・各自で設定した目標レベルの合格に必要な実力をつける
・スペイン語の初級～中級文法を一通り身につける

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	検定試験の概要説明、受講生の学習歴の確認と目標レベルの設定・スケジュール調整	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	60分
第2回	各受講生の目標に沿った実践練習（1）	
	【復習】授業内課題を見直し、宿題に取り組む。 【予習】次の授業で扱う内容を参考書などで調べておく。	60分
第3回	各受講生の目標に沿った実践練習（2）	
	【復習】授業内課題を見直し、宿題に取り組む。 【予習】次の授業で扱う内容を参考書などで調べておく。	60分

第4回	各受講生の目標に沿った実践練習(3)	
	【復習】授業内課題を見直し、宿題に取り組む。 【予習】次の授業で扱う内容を参考書などで調べておく。	60分
第5回	模擬テストと達成度確認 (1)	
	【復習】授業内課題を見直し、宿題に取り組む。 【予習】次の授業で扱う内容を参考書などで調べておく。	60分
第6回	各受講生の目標に沿った実践練習(4)	
	【復習】授業内課題を見直し、宿題に取り組む。 【予習】次の授業で扱う内容を参考書などで調べておく。	60分
第7回	各受講生の目標に沿った実践練習(5)	
	【復習】授業内課題を見直し、宿題に取り組む。 【予習】次の授業で扱う内容を参考書などで調べておく。	60分
第8回	各受講生の目標に沿った実践練習(6)	
	【復習】授業内課題を見直し、宿題に取り組む。 【予習】次の授業で扱う内容を参考書などで調べておく。	60分
第9回	模擬テストと達成度確認 (2)	
	【復習】授業内課題を見直し、宿題に取り組む。 【予習】次の授業で扱う内容を参考書などで調べておく。	60分

第10回	各受講生の目標に沿った実践練習(7)	
	【復習】授業内課題を見直し、宿題に取り組む。 【予習】次の授業で扱う内容を参考書などで調べておく。	60分
第11回	各受講生の目標に沿った実践練習(8)	
	【復習】授業内課題を見直し、宿題に取り組む。 【予習】次の授業で扱う内容を参考書などで調べておく。	60分
第12回	各受講生の目標に沿った実践練習(9)	
	【復習】授業内課題を見直し、宿題に取り組む。 【予習】次の授業で扱う内容を参考書などで調べておく。	60分
第13回	ここまでの総復習	
	【復習】授業内課題を見直し、宿題に取り組む。 【予習】次の授業で扱う内容を参考書などで調べておく。	60分
第14回	到達度確認テスト	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】未習の範囲を把握し、今後の学習の見通しを立てる。	120分
第15回	テストの解説と復習	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】未習の範囲を把握し、今後の学習の見通しを立てる。	60分

授業の方法

初回ガイダンスで受講生のスペイン語学習歴を確認し、目標レベルを設定します。過去の問題を解きながら傾向をつかみ、出題形式に慣れていきます。受講生の目標とするレベルにより、柔軟に授業を構成していく予定です。適宜文法的な解説は行いますが、問題を解くことに時間を割きますので、1年次の未習文法を体系的に修得するためには「スペイン語演習　活用ＡⅠ・ＡⅡ」の履修を強くおすすめします。また、ネイティブ教員による「スペイン語会話Ⅲ・Ⅳ」、「スペイン語演習　発展（コムニカシオン・エン・エスパニョールⅠ・Ⅱ）」は、面接対策としても役立つでしょう。

成績評価の方法

授業内課題、宿題など：40%
テスト：60%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
さらに、上記に掲げた到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

1年次の未習文法を体系的に修得するためには「スペイン語演習　活用ＡⅠ・ＡⅡ」の履修を強くおすすめします。また、ネイティブ教員による会話科目「スペイン語会話Ⅲ・Ⅳ」（中級レベル）、「スペイン語演習　発展（コムニカシオン・エン・エスパニョールⅠ・Ⅱ）」（上級レベル）は、面接対策としても役立つでしょう。

テキスト

特にありません。必要な資料は教員が用意します。

参考書

授業内で紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	スペイン語演習　発展　（スペインの芸術・祭り・宗教Ｉ）		
教員名	ドメネク　マリア		
科目ナンバー	1001085447	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

この授業ではスペインの歴史的推移や社会の様々な様相を背景に、その芸術、宗教、祭りにテーマを絞った知識を得ることができます。スペインではアルタミラの壁画以来、今日まで数多くの芸術作品を残し、またたくさんの芸術家を輩出してきました。その足跡をたどってみましょう。
宗教と祭りは切っても切り離せない関係にあります。宗教（カトリック）の概要を知るとともに、そこから発生した様々な興味深い祭り、また宗教とは無関係の祭りを検証することは、スペインを理解するうえでとても大切なことと思われます。これら３つのテーマを楽しい映像等を紹介しながら解説していきます。

到達目標

スペインにおける歴史、文化、伝統、習慣等を理解し、この国の人々との交流に役立つ知識を習得することを目標にします。また、他国における様々な社会状況の理解を深め、同時に自国の状況と照らし合わせるのも興味深いことです。類似点や相違点などを指摘しながら、比較検討するのも意義のあることでしょう。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業のプレゼンテーション スペインにおける芸術、祭り、宗教の短い紹介	
	スペインの芸術、祭り、宗教または一般的にスペインについて１０の質問を準備してください。	30分
第2回	スペインの紹介　地理と歴史	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第3回	スペイン都市ー１　都市の建築物-１	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分

第4回	祭りー１：　トマト祭り、人間タワーの祭り、太鼓の祭り・・・	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第5回	古典絵画ー１：　ベラスケスー１、リアリズム絵画、ゴヤー１	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第6回	カトリックの短い説明 キリスト教と芸術の関係	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第7回	キリスト教と社会の関係、宗教的祭り（クリスマス、聖週間・・・）、宗教儀式（洗礼式、結婚式、葬式）	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第8回	復習	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第9回	料理文化、祭りの料理	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分

第10回	近代・ 現代絵画：ピカソー１、ダリー１、ミローー１	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第11回	闘牛、牛に関係する祭り	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第12回	スペイン都市ー２　小都市と町村、都市の建築物ー２	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第13回	舞台芸術 演劇、バレーなどと映画	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第14回	芸術と社会の関係：ライフススタイル、習慣	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分
第15回	まとめ	
	前回授業のテーマについて、１０の質問とその質問に対する答えを書き、提出する。	60分

授業の方法

第一義的に受講生の積極的参加を促す。教師からの一方的な説明に終わるのではなく、時に応じて受講生との質疑応答を通じて各テーマに関する理解を深めることを目指す。具体的方法としては、まずその日のテーマを教師が提供し、そのテーマについてビデオ等を活用し説明する。その後受講生に質問書を配布し、受講生はその質問書に答える。その際、理解が不十分だと思われる項目に関しては、教師との質疑応答により理解を確実なものにするよう努める。

成績評価の方法

試験　６０％　　出席、宿題、受講態度など授業内評価　４０％

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識のための簡単な宿題

テキスト

なし

参考書

なし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語演習　発展　（南米の文化と社会）		
教員名	又吉　和魅		
科目ナンバー	1001085449	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

ラテンアメリカには日本と異なるさまざまな文化がある。この授業では、それらの文化を理解するためにさまざまな視点から考察を行う。アルゼンチン、ブラジル、ペルーなどの社会・文化の基本的な情報を紹介しながら授業を進めまる。図版資料やDVDを用いて視覚的にも理解を深められるようにする。

到達目標

南米地域の基礎知識を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス 授業の進め方、成績評価の方法などを説明する。	
	【予習】 キーワード「ラテンアメリカ」	３０分
第2回	ラテンアメリカの歴史・特徴 南アメリカの国々を紹介する。	
	【予習】 アメリカ大陸の「発見」	３０分
第3回	南アメリカの国―社会（日系人社会） ペルー社会、ブラジル社会、アルゼンチン社会などについて学習する。	
	【予習】 日本の社会について考える。	３０分

第4回	南アメリカの国―言語 アメリカのスペイン語、ブラジルのポルトガル語、ケチュア語を紹介する。	
	スペイン語の簡単な会話を覚える。	３０分
第5回	南アメリカの国―音楽 アンデス音楽を紹介する。	
	【予習】 キーワード「ラテン音楽」	３０分
第6回	南アメリカ―世界遺産 有名な世界遺産を紹介する。	
	【予習】 南アメリカの有名な世界遺産	３０分
第7回	ペルー 基本情報・文化・観光を紹介する。	
	【予習】 ペルーの観光地	３０分
第8回	ブラジル 基本情報・文化・観光を紹介する。	
	【予習】ブラジルの観光地	３０分
第9回	アルゼンチン 基本情報・文化・観光を紹介する。	
	【予習】 アルゼンチンの観光地	３０分

第10回	エクアドル 基本情報・文化・観光を紹介する。	
	【予習】 エクアドルの観光地	３０分
第11回	コロンビア 基本情報・文化・観光を紹介する。	
	【予習】 コロンビアの観光地	３０分
第12回	チリ 基本情報・文化・観光を紹介する。	
	【予習】 チリの観光地	３０分
第13回	南アメリカ―宗教 キリスト教について学習する。	
	【予習】 キーワード「クリスマス」	３０分
第14回	テスト 理解度を確認するためのテストを行う。	
	【復習】 これまでの学習内容を確認する。	９０分
第15回	試験の解説・質疑応答	
	【復習】 不足している知識などを確認し、学習する。	３０分

授業の方法
講義と受講生の発表を融合させながら授業を進める予定。

成績評価の方法
毎回の課題（３０%）・発表（３０%）・期末試験（４０%）

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし

テキスト
毎回プリントを配布する。

参考書
国本伊代、中川文雄 編 、『ラテンアメリカへの招待』、新評論
三好準之助 、『南北アメリカ・スペイン語』、大学書林
ジョン・M.リプスキ 、『ラテンアメリカのスペイン語-言語・社会・歴史』、南雲堂フェニックス

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語演習　活用ＡＩ　<1>		
教員名	湯山　トミ子		
科目ナンバー	1101085511	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

一年生で学んだ中国語はどうでしたか？　少々大変だったと思う人、なかなか楽しい、もっと勉強したいという人、面白いところもあるけど力不足、消化不良だと思っている人、いろいろな感想があると思います。この授業は、そんないろいろな感想をもつ人を対象に、初級基礎一年間の力を活用して、いろいろな話題を盛り込んだ中国語の文章を読んでみよう！という目標を目指して作られています。いろいろな話題を読む楽しさを味わいながら、一年間学んだ中国語を活用することにより、消化不良の部分を補いながら、確かな基礎作りを進められます。基礎作りの達成感、充実感を得ながら、「こんなに読める！」と、自分の語学力に驚くことでしょう。

内容的には、少しずつ長い文章になじんでいきますので、特に学習のむずかしさを心配する必要はありません。徐々に中国語で、中国事情や中国文化・歴史を理解することができるようになります。日本語とは違う表現や内容に触れるなかで、日中の感覚や思考の違いを知り、中国、中国文化理解を深めることもできるでしょう。中国語による文章理解（読解）は中国語検定試験の試験課題です。受験を考えている人は、ぜひ積極的に受講してみてください。

なお中国語演習活用ＡIは後期開講の活用ＡIIに継続しており、Ｉ・IIあわせて中級レベルの内容を習得できます。Iの履修者はIIもあわせて履修するようにしてください。

到達目標

・外部テストでは、中国語検定試験3級レベルを目指せるような中国語講読の力を習得できます。
・学習課題は、初級一年次のレベルの文章事項を理解し、運用できる力(文法の理解と運用）の習得、発音力の向上と正しい発音の定着、自己の発音を自力で矯正できる能力を育成できます。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の目的、内容、進め方、受講者の学習方法などの説明 ・受講者の学習歴、学習状況、要望などの聴取 ・基礎力の復習、確認 ・当面の学習法、教材の選定	
	自己の学習課題、達成目標、関心、授業への要望など、可能な範囲で整理しておく。	20
第2回	・発音と文法の復習 ・時空を越えて、中国の歴史や文化に触れられる短めの教材から学習していきます。 （例）中国文化・歴史（四字成語のルーツ「自相矛盾」、「塞翁失馬」、「画蛇添足」、笑い話「駆蚊符」など）	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第3回	・発音と文法の復習 ・時空を越えて、中国の歴史や文化に触れる短めの平易な教材から学習していきます。 （例）中国文化・歴史（四字成語のルーツ「自相矛盾」、「塞翁失馬」、「画蛇添足」、笑い話「駆蚊符」など）	
	選定された教材・課題の予習と復習	60

第4回	・発音のブラッシュアップ ・時空を越えて、中国の歴史や文化に触れる短めの平易な教材から学習していきます。 （例）中国文化・歴史（四字成語のルーツ「自相矛盾」、「塞翁失馬」、「画蛇添足」、笑い話「駆蚊符」など）	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第5回	・発音のブラッシュアップ ・時空を越えて、中国の歴史や文化に触れられる短めの平易な教材から学習していきます。 （例）中国文化・歴史（四字成語のルーツ「自相矛盾」、「塞翁失馬」、「画蛇添足」、笑い話「駆蚊符」など）	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第6回	・これまでの授業の進行を振り返り課題と達成度を確認します。 ・初級基礎文法と発音の習得度を測るための到達度テストを行います。 ・映像資料、関連資料の紹介、視聴などにより、文化学習や応用学習を組み入れます。 （例）中国アニメなどを鑑賞します。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第7回	・発音ウォーミングアップ ・教材は中国の今を知る時事問題、文化社会事情の話題、あるいはよく知られた馴染み深い外国童話の中国語版などを教材に取上げます。有名童話の中国版の特徴から興味深い文化学習もできます。 （例）中国事情（「ショートメール」、「就職難」、「アニメ時代」、外国童話（「白雪姫」、「シンデレラ」、「裸の王様」）など）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第8回	・発音ウォーミングアップ ・教材は中国の今を知る時事問題、文化社会事情の話題、あるいはよく知られた馴染み深い外国童話の中国語版などを教材に取上げます。有名童話の中国版の特徴から興味深い文化学習もできます。 （例）中国事情（「ショートメール」、「就職難」、「アニメ時代」、外国童話（「白雪姫」、「シンデレラ」、「裸の王様」）など）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第9回	・発音ウォーミングアップ ・教材は中国の今を知る時事問題、文化社会事情の話題、あるいはよく知られた馴染み深い外国童話の中国語版などを教材に取上げます。有名童話の中国版の特徴から興味深い文化学習もできます。 （例）中国事情（「ショートメール」、「就職難」、「アニメ時代」、外国童話（「白雪姫」、「シンデレラ」、「裸の王様」）など）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60

第10回	・発音ウォーミングアップ ・教材は中国の今を知る時事問題、文化社会事情の話題、あるいはよく知られた馴染み深い外国童話の中国語版などを教材に取上げます。有名童話の中国版の特徴から興味深い文化学習もできます。 （例）中国事情（「ショートメール」、「就職難」、「アニメ時代」、外国童話（「白雪姫」、「シンデレラ」、「裸の王様」）など）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第11回	・発音ウォーミングアップ ・教材は中国の今を知る時事問題、文化社会事情の話題、あるいはよく知られた馴染み深い外国童話の中国語版などを教材に取上げます。有名童話の中国版の特徴から興味深い文化学習もできます。 （例）中国事情（「ショートメール」、「就職難」、「アニメ時代」、外国童話（「白雪姫」、「シンデレラ」、「裸の王様」）など）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第12回	・発音ウォーミングアップ ・教材は中国の今を知る時事問題、文化社会事情の話題、あるいはよく知られた馴染み深い外国童話の中国語版などを教材に取上げます。有名童話の中国版の特徴から興味深い文化学習もできます。 （例）中国事情（「ショートメール」、「就職難」、「アニメ時代」、外国童話（「白雪姫」、「シンデレラ」、「裸の王様」）など）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第13回	・映像資料、関連資料の紹介、視聴などにより、文化学習や応用学習を組み入れます。 （例）シンデレラの中国語版ＤＶＤを視聴するなど。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第14回	・これまでの授業での習得度と学習課題を確認するために筆記試験を行います。	
	これまでに使用した教材、学習課題について、必要な復習をしてくる。	120
第15回	・試験結果を含めて、学習状況、学習課題の達成度、習得度などについて点検し、理解を深めます。	
	これまでの学習状況、学習課題などについて、自分自身の考えをまとめてくる（自己省察）。	30

授業の方法

(1)　授業開始期数回に、一年次に学んだ基礎文法について総復習を行います。中国語の大きな文法枠組みを確認するなかで、中国語の基本構造を再確認できます。文法の細目は、読み物（プリント）を通して、具体的に、繰り返し学習していきますので、文法に不安があっても心配いりません。ゆっくりと理解し、基礎力を確実にしていくことができます。
(2)音で読み物を楽しむ魅力を引き出していきます。授業開始期に発音を復習し、毎回の授業でさらにブラッシュアップできるような練習を組み込んでいきます。発音や音声学習に自信をもてなかった人、単調な音声訓練には飽きてしまうという人も楽しみながら、徐々に発音力を高めていけます。
(3) 使用する教材は、受講生の関心とレベルに応じて選択し、進行は、学習状況、授業状況に合わせて調整します。内容的には、成蹊大学開発の講読用WEB教材“游”の中から、歴史・文化・時事に関係のある講読教材を選択して使用する予定です。授業では選定された教材をプリントして受講者に配布しますが、WEB上の文法、発音の練習問題、解説など、随時利用しながら進めていきます。授業以外でも各種教材にアクセスして学習できるので、予習復習にぜひ活用してください。
(4) 毎回の授業の進め方は、学生の音読、訳読に、教師による指導（音声、文法、訳文の解説）、関連事項の説明などを加えていきます。
(5)前期開講のⅠでは、進度にとらわれず、比較的ゆっくりした速度で、授業を進めていきます。また映画や関連資料も積極的に紹介したいと思います。

成績評価の方法

・筆記試験（50%）、平常点（授業への参加状況、学習状況　50%）などを総合して評価します。

成績評価の基準

・成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
・教材の予習・復習、課題の達成度、発音学習の状況、試験における基礎講読力（構文理解、文法知識）、達成度を評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・中国語基礎Ａ・ＢⅠ・Ⅱの修了、もしくはこれと同等の学力を有する者

テキスト

・プリントとＷＥＢ教材(成蹊大学オリジナル中国語ＷＥＢシステム“游”の講読、文法、発音、語彙力増強の教材を活用し、それに合わせたプリント教材を配布し、使用します(“游”システムは、教材授業内外、学内外から自由にアクセスでできます。教材により制約もありますが、スマートホンでも使用可能です。）。
・“游”システム：成蹊大学ＨＰ現代ＧＰ“游”：http://www.seikei.ac.jp/university/gp-you)

参考書

・授業内で紹介、必要により指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

・学内専用ホームページで周知します。

科目名	中国語演習　活用ＡⅠ　<2>		
教員名	土屋　肇枝		
科目ナンバー	1101085511	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

短文を読みながら、基礎文法を固めよう。
語学学習の基本である「聞く、話す、読む、書く」のうち、「読む」学習を中心にして、書く・聞く・音声学習をバランスよく学習していきます。一年次に学習した文法項目を丁寧に復習しながら、テキストに入っていきますので、基礎文法や発音に自信がなくても大丈夫です。
テキストの短文を教材にして、基礎文法の復習と練習、さらに日常でよく使われる表現を少しずつ学んでいきます。初級から中級へと少しずつ移行していくので、学習のむずかしさを心配する必要はありません。中国語に親しみながらレベルアップを図りたい学生に受講を勧めます。
また、中国語検定の受験を考えている人は、中国語による文章理解（読解）は必須ですので、積極的に受講してください。

（この授業は後期開講の活用AⅡに継続しており、Ⅰ・Ⅱ合わせて初中級レベルの内容を習得できます。Ⅰの履修者はⅡも合わせて履修するようにしましょう。）

到達目標

初級文法の把握。中国語検定試験四級に合格するレベルから三級を目指すレベルへと押し上げていきます。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	＜例＞ ガイダンス・中国語の仕組みについて・発音復習 ＊　具体的な進行に関しては、受講者のレベルに応じて変更することもあります。	
	シラバスを読み、授業の進め方や評価基準等について確認する。	60分
第2回	発音復習と聞き取りの練習	
	不確実な部分を認識し、正確な発音を把握する。	60分
第3回	基礎文法の復習１	
	不確実な部分、未習部分の語法をきちんと理解する。	60分

第4回	基礎文法の復習２	
	不確実な部分や未習部分の語法をきちんと理解する。	60分
第5回	小まとめ、小テスト	
	基礎文法や基本単語の練習をしておく。	90分
第6回	テキスト第一課　語法説明・プリント練習・本文解釈	
	本文の音読練習と訳出	60分
第7回	第一課　本文解釈・練習問題	
	本文の音読練習と訳出、語法の確認	60分
第8回	第二課　語法説明・プリント練習・本文解釈	
	本文の音読練習と訳出	60分
第9回	第二課　本文解釈・練習問題	
	本文の音読練習と訳出、語法の確認	60分

第10回	映画鑑賞ほか	
	小レポート作成	60分
第11回	第三課　語法説明・プリント練習・本文解釈	
	本文の音読練習と訳出	60分
第12回	第三課　本文解釈・練習問題	
	本文の音読練習と訳出、語法の確認	60分
第13回	口答試験	
	課題文の音読練習	120分
第14回	筆記試験	
	前期学習部分の復習・確認	180分以上
第15回	総まとめ	
	最終仕上げ	30分

授業の方法

最初の数回はプリントを利用して一年次の復習をします。テキストに入ってからは、短文読解、基礎文法の確認、常用表現の使い方等を、練習問題を通して把握していきます。
また、テキストだけでなく関連する映像資料も随時紹介する予定です。

成績評価の方法

口答試験・筆記試験と平常点（授業態度・小テスト）などから総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語演習　活用AⅡ

テキスト

『大学生のための現代中国１２話・Ⅲ』　杉野元子、黄漢青著（白帝社）

参考書

授業時に紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語演習　活用ＡⅠ　<3>		
教員名	湯山　トミ子		
科目ナンバー	1001085511	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

一年生で学んだ中国語はどうでしたか？　少々大変だったと思う人、なかなか楽しい、もっと勉強したいという人、面白いところもあるけど力不足、消化不良だと思っている人、いろいろな感想があると思います。この授業は、そんないろいろな感想をもつ人を対象に、初級基礎一年間の力を活用して、いろいろな話題を盛り込んだ中国語の文章を読んでみよう！という目標を目指して作られています。いろいろな話題を読む楽しさを味わいながら、一年間学んだ中国語を活用することにより、消化不良の部分を補いながら、確かな基礎作りを進められます。基礎作りの達成感、充実感を得ながら、「こんなに読める！」と、自分の語学力に驚くことでしょう。

内容的には、少しずつ長い文章になじんでいきますので、特に学習のむずかしさを心配する必要はありません。徐々に中国語で、中国事情や中国文化・歴史を理解することができるようになります。日本語とは違う表現や内容に触れるなかで、日中の感覚や思考の違いを知り、中国、中国文化理解を深めることもできるでしょう。中国語による文章理解（読解）は中国語検定試験の試験課題です。受験を考えている人は、ぜひ積極的に受講してみてください。

なお中国語演習活用ＡⅠは後期開講の活用ＡⅡに継続しており、Ⅰ・Ⅱあわせて中級レベルの内容を習得できます。Ⅰの履修者はⅡもあわせて履修するようにしてください。

到達目標

・外部テストでは、中国語検定試験3級レベルを目指せるような中国語講読の力を習得できます。
・学習課題は、初級一年次のレベルの文章事項を理解し、運用できる力(文法の理解と運用）の習得、発音力の向上と正しい発音の定着、自己の発音を自力で矯正できる能力を育成できます。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の目的、内容、進め方、受講者の学習方法などの説明 ・受講者の学習歴、学習状況、要望などの聴取 ・基礎力の復習、確認 ・当面の学習法、教材の選定	
	自己の学習課題、達成目標、関心、授業への要望など、可能な範囲で整理しておく。	20
第2回	・発音と文法の復習 ・時空を越えて、中国の歴史や文化に触れられる短めの教材から学習していきます。 （例）中国文化・歴史（四字成語のルーツ「自相矛盾」、「塞翁失馬」、「画蛇添足」、笑い話「駆蚊符」など）	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第3回	・発音と文法の復習 ・時空を越えて、中国の歴史や文化に触れる短めの平易な教材から学習していきます。 （例）中国文化・歴史（四字成語のルーツ「自相矛盾」、「塞翁失馬」、「画蛇添足」、笑い話「駆蚊符」など）	
	選定された教材・課題の予習と復習	60

第4回	・発音のブラッシュアップ ・時空を越えて、中国の歴史や文化に触れる短めの平易な教材から学習していきます。 （例）中国文化・歴史（四字成語のルーツ「自相矛盾」、「塞翁失馬」、「画蛇添足」、笑い話「駆蚊符」など）	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第5回	・発音のブラッシュアップ ・時空を越えて、中国の歴史や文化に触れられる短めの平易な教材から学習していきます。 （例）中国文化・歴史（四字成語のルーツ「自相矛盾」、「塞翁失馬」、「画蛇添足」、笑い話「駆蚊符」など）	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第6回	・これまでの授業の進行を振り返り課題と達成度を確認します。 ・初級基礎文法と発音の習得度を測るための到達度テストを行います。 ・映像資料、関連資料の紹介、視聴などにより、文化学習や応用学習を組み入れます。 （例）中国アニメなどを鑑賞します。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第7回	・発音ウォーミングアップ ・教材は中国の今を知る時事問題、文化社会事情の話題、あるいはよく知られた馴染み深い外国童話の中国語版などを教材に取上げます。有名童話の中国版の特徴から興味深い文化学習もできます。 （例）中国事情（「ショートメール」、「就職難」、「アニメ時代」、外国童話（「白雪姫」、「シンデレラ」、「裸の王様」）など）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第8回	・発音ウォーミングアップ ・教材は中国の今を知る時事問題、文化社会事情の話題、あるいはよく知られた馴染み深い外国童話の中国語版などを教材に取上げます。有名童話の中国版の特徴から興味深い文化学習もできます。 （例）中国事情（「ショートメール」、「就職難」、「アニメ時代」、外国童話（「白雪姫」、「シンデレラ」、「裸の王様」）など）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第9回	・発音ウォーミングアップ ・教材は中国の今を知る時事問題、文化社会事情の話題、あるいはよく知られた馴染み深い外国童話の中国語版などを教材に取上げます。有名童話の中国版の特徴から興味深い文化学習もできます。 （例）中国事情（「ショートメール」、「就職難」、「アニメ時代」、外国童話（「白雪姫」、「シンデレラ」、「裸の王様」）など）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60

第10回	・発音ウォーミングアップ ・教材は中国の今を知る時事問題、文化社会事情の話題、あるいはよく知られた馴染み深い外国童話の中国語版などを教材に取上げます。有名童話の中国版の特徴から興味深い文化学習もできます。 （例）中国事情（「ショートメール」、「就職難」、「アニメ時代」、外国童話（「白雪姫」、「シンデレラ」、「裸の王様」）など）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第11回	・発音ウォーミングアップ ・教材は中国の今を知る時事問題、文化社会事情の話題、あるいはよく知られた馴染み深い外国童話の中国語版などを教材に取上げます。有名童話の中国版の特徴から興味深い文化学習もできます。 （例）中国事情（「ショートメール」、「就職難」、「アニメ時代」、外国童話（「白雪姫」、「シンデレラ」、「裸の王様」）など）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第12回	・発音ウォーミングアップ ・教材は中国の今を知る時事問題、文化社会事情の話題、あるいはよく知られた馴染み深い外国童話の中国語版などを教材に取上げます。有名童話の中国版の特徴から興味深い文化学習もできます。 （例）中国事情（「ショートメール」、「就職難」、「アニメ時代」、外国童話（「白雪姫」、「シンデレラ」、「裸の王様」）など）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第13回	・映像資料、関連資料の紹介、視聴などにより、文化学習や応用学習を組み入れます。 （例）シンデレラの中国語版ＤＶＤを視聴するなど。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第14回	・これまでの授業での習得度と学習課題を確認するために筆記試験を行います。	
	これまでに使用した教材、学習課題について、必要な復習をしてくる。	120
第15回	・試験結果を含めて、学習状況、学習課題の達成度、習得度などについて点検し、理解を深めます。	
	これまでの学習状況、学習課題などについて、自分自身の考えをまとめてくる（自己省察）。	30

授業の方法

(1)　授業開始期数回に、一年次に学んだ基礎文法について総復習を行います。中国語の大きな文法枠組みを確認するなかで、中国語の基本構造を再確認できます。文法の細目は、読み物（プリント）を通して、具体的に、繰り返し学習していきますので、文法に不安があっても心配いりません。ゆっくりと理解し、基礎力を確実にしていくことができます。
(2)音で読み物を楽しむ魅力を引き出していきます。授業開始期に発音を復習し、毎回の授業でさらにブラッシュアップできるような練習を組み込んでいきます。発音や音声学習に自信をもてなかった人、単調な音声訓練には飽きてしまうという人も楽しみながら、徐々に発音力を高めていけます。
(3) 使用する教材は、受講生の関心とレベルに応じて選択し、進行は、学習状況、授業状況に合わせて調整します。内容的には、成蹊大学開発の講読用WEB教材“游”の中から、歴史・文化・時事に関係のある講読教材を選択して使用する予定です。授業では選定された教材をプリントして受講者に配布しますが、WEB上の文法、発音の練習問題、解説など、随時利用しながら進めていきます。授業以外でも各種教材にアクセスして学習できるので、予習復習にぜひ活用してください。
(4) 毎回の授業の進め方は、学生の音読、訳読に、教師による指導（音声、文法、訳文の解説）、関連事項の説明などを加えていきます。
(5)前期開講のⅠでは、進度にとらわれず、比較的ゆっくりした速度で、授業を進めていきます。また映画や関連資料も積極的に紹介したいと思います。

成績評価の方法

・筆記試験（50%）、平常点（授業への参加状況、学習状況　50%）などを総合して評価します。

成績評価の基準

・成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
・教材の予習・復習、課題の達成度、発音学習の状況、試験における基礎講読力（構文理解、文法知識）、達成度を評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・中国語基礎Ａ・ＢⅠ・Ⅱの修了、もしくはこれと同等の学力を有する者

テキスト

・プリントとＷＥＢ教材(成蹊大学オリジナル中国語ＷＥＢシステム“游”の講読、文法、発音、語彙力増強の教材を活用し、それに合わせたプリント教材を配布し、使用します(“游”システムは、教材授業内外、学内外から自由にアクセスでできます。教材により制約もありますが、スマートホンでも使用可能です。）。
・“游”システム：成蹊大学ＨＰ現代ＧＰ“游”：http://www.seikei.ac.jp/university/gp-you)

参考書

・授業内で紹介、必要により指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

・学内専用ホームページで周知します。

科目名	中国語演習　活用ＡⅠ　<4>		
教員名	浜田　ゆみ		
科目ナンバー	1001085511	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

中国語基礎A、基礎Bの修了者を対象にしたクラスです。初級で学んだ発音や語彙、文法の復習を繰り返しながら、「読む」をベースにした総合型学習（文法・発音・講読の学習）を行います。

到達目標

- 初級文法を着実に習得し、更に準中級レベルの文を読解できるようになる。
- 比較的長い文でも、正確な発音で音読できる。
- 基本語彙を着実に習得し、更に準中級レベルの単語を暗記し、簡単な文を聞き取り、書くことができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	初級で学んだ語彙、文法の復習（プリントを使用する）	
	シラバスを読み、授業の進め方、評価基準等を確認する。	60分
第2回	初級で学んだ語彙、文法の復習（プリントを使用する）	
	配付されたプリントの練習問題をやっておく。	60分
第3回	第1課　中国の朝ごはん	
	教科書付属のCDを聞き、第1課の新出単語、本文の発音練習をする。文法のポイントのページにも目を通しておく。	60分

第4回	第1課続き	
	第1課本文の音読練習をする。練習問題をやっておく。	60分
第5回	第2課　タクシーに乗る	
	教科書付属のCDを聞き、第2課の新出単語、本文の発音練習をする。文法のポイントのページにも目を通しておく。	60分
第6回	第2課続き	
	第2課本文の音読練習をする。練習問題をやっておく。	60分
第7回	第3課　値段が高い映画	
	教科書付属のCDを聞き、第3課の新出単語、本文の発音練習をする。文法のポイントのページにも目を通しておく。	60分
第8回	第3課続き	
	第3課本文の音読練習をする。練習問題をやっておく。	60分
第9回	第4課　割り勘	
	教科書付属のCDを聞き、第4課の新出単語、本文の発音練習をする。文法のポイントのページにも目を通しておく。	60分

第10回	第4課続き	
	第4課本文の音読練習をする。練習問題をやっておく。	60分
第11回	第5課　お腹をこわす	
	教科書付属のCDを聞き、第5課の新出単語、本文の発音練習をする。文法のポイントのページにも目を通しておく。	60分
第12回	第5課続き	
	第1課本文の音読練習をする。練習問題をやっておく。	60分
第13回	音読試験	
	音読試験に備えて、本文の音読練習をしておく。	60分
第14回	筆記試験	
	筆記試験に備えて、これまでに学んだ内容を確認しておく。	60分
第15回	総まとめ	
	最終仕上げのための確認。	60分

授業の方法

毎回発音練習を重視します。テキストの各課では、新出単語、文法のポイント、本文（会話文、短文）、練習問題の順番で進めていきます。また、数回の小テストを実施します。
なお、受講者のレベルに応じて、進度を多少変更する場合もあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況など）20%、小テスト20%、音読試験20%、筆記試験40%により評価します。
原則として出席は3分の2以上とし、遅刻などが3回あった場合は、1回の欠席となります。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。更に上記に掲げた到達目標（文の読解、正確な音読、単語の習得など）がどの程度達成できたかを評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語演習　活用AⅡ、中国語演習　活用BⅠ・BⅡ、中国語演習　活用CⅠ・CⅡ、中国語会話Ⅰ・Ⅱ、中国語会話Ⅲ・Ⅳ

テキスト

『中国語への道【準中級編】　　—浅きより深きへ—改訂版』　内田慶市、奥村佳代子、塩山正純、張軼欧著、金星堂

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語演習　活用ＡII ＜1＞		
教員名	湯山　トミ子		
科目ナンバー	1101085512	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

　前期開講の中国語演習活用ＡIに続き、いろいろな話題を盛り込んだ中国語の文章を読んでいきます。活用ＡＩで使用した教材よりもう少し長く、内容、話題の豊富な文章へと進めていきます。語学的には、基礎力を応用力に高めていきながら、文章の背後にある文化的・社会的な知識を深めていきます。これにより総合的な文化理解と語学力のアップが図れます。文章を読む楽しさを味わいながら、達成感、充実感を得て、「こんなものまで読めた！」と、中国語力の進歩を実感できることでしょう。
　長い文章には、少しずつなじんでいきますので、活用ＡＩと同様、特に学習のむずかしさを心配する必要はありません。中国文化、中国事情への理解を深めながら、日中の感覚や思考の違いを感じ、中国、中国文化理解のカギに触れることができるでしょう。使用教材は、受講生の関心とレベルに応じて選択し、実際の進行、進度は、学習状況、授業状況に合わせて調整します。
中国語による文章理解（読解）は、中国語検定試験の試験課題です。受験を考えている人は、ぜひ積極的に受講してみてください。中国文化。社会文化事情を理解するための映像資料なども活用する機会を盛り込む予定です。
　なお、演習活用ＡIIは前期開講の演習活用ＡIを基盤にして行われます。IIの履修者は、前期開講のIもあわせて履修するようにしてください。

到達目標

・外部テストでは、中国語検定試験3級レベルに該当する中国語文章理解力を習得できます。
・短い講読教材（前期の初級講読）を基盤に、少し長めの文章（平易な中級講読）を育成することを目指し、これにより中国語の長文を読み解く思考力、構文構造を読み取る力を強化できます。
・楽に中国語の文章を音読し、自分の発音の間違いなどを自力で矯正できる力を習得できます。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ガイダンス ・後期授業の目的、内容、進め方、受講者の学習方法などの説明 ・受講者の学習歴、学習状況、要望などの聴取 ・基礎力の復習、確認 ・当面の学習法、教材の選定。 後期ウォーミングアップ（音声、基礎文法の確認）	
	自己の学習課題、達成目標、関心、授業への要望など、可能な範囲で整理しておいてください。	20
第2回	・発音ウォーミングアップ ・時空を越えて、中国の歴史や文化に触れていきます。 （例）神話（「羿射九日」）、風俗習慣「餃子的由来」）、中国のお化け話「宋定伯卖鬼」、歴史物語「三国志」、「西遊記」など）	
	必要により資料、教材の予習と復習	60
第3回	・発音ブラッシュアップ ・時空を越えて、中国の歴史や文化に触れていきます。 （例）神話（「羿射九日」）、風俗習慣「餃子的由来」）、中国のお化け話「宋　定伯卖鬼」、歴史物語「三国志」、「西遊記」など）	
	必要により資料、教材の予習と復習	60

第4回	・発音ブラッシュアップ ・時空を越えて、中国の歴史や文化に触れていきます。 （例）神話（「羿射九日」）、風俗習慣「餃子的由来」）、中国のお化け話「宋定伯卖鬼」、歴史物語「三国志」、「西遊記」など）	
	必要により資料、教材の予習と復習	60
第5回	・発音ブラッシュアップ ・時空を越えて、中国の歴史や文化に触れていきます。 （例）神話（「羿射九日」）、風俗習慣「餃子的由来」）、中国のお化け話「宋定伯卖鬼」、歴史物語「三国志」、「西遊記」など）	
	必要により資料、教材の予習と復習	60
第6回	・これまでの授業の進行を振り返り課題と達成度を確認します。 ・中級文法と発音力の向上を測るための基礎力を図る簡単な到達度テストを行います。 ・映像資料、関連資料の紹介、視聴などにより、文化学習や応用学習を組み入れます。 （例）三国志の映画、西遊記のテレビドラマなどを鑑賞します。	
	必要により資料、教材の予習と復習	60
第7回	・発音ブラッシュアップ ・学習者の関心、前半の達成度に即して後半期の教材選定を行います。引き続き中国の歴史や文化に触れるか、中国社会事情を知るための時事問題などを学びます。 （例）中国事情（「海賊版」、「介護は誰が」、「中国最高視聴率番組」など）、少数民族の伝承、推理小説、なども視野に入れていきます。	
	必要により資料、教材の予習と復習	60
第8回	・発音ブラッシュアップ ・学習者の関心、前半の達成度に即して後半期の教材選定を行います。引き続き中国の歴史や文化に触れるか、中国社会事情を知るための時事問題などを学びます。 （例）中国事情（「海賊版」、「介護は誰が」、「中国最高視聴率番組」など）、少数民族の伝承、推理小説、なども視野に入れていきます。	
	必要により資料、教材の予習と復習	60
第9回	・発音ブラッシュアップ ・学習者の関心、前半の達成度に即して後半期の教材選定を行います。引き続き中国の歴史や文化に触れるか、中国社会事情を知るための時事問題などを学びます。 （例）中国事情（「海賊版」、「介護は誰が」、「中国最高視聴率番組」など）、少数民族の伝承、推理小説、なども視野に入れていきます。	

	必要により資料、教材の予習と復習	60
第10回	・発音ブラッシュアップ ・学習者の関心、前半の達成度に即して後半期の教材選定を行います。引き続き中国の歴史や文化に触れるか、中国社会事情を知るための時事問題などを学びます。 （例）中国事情（「海賊版」、「介護は誰が」、「中国最高視聴率番組」など）、少数民族の伝承、推理小説、なども視野に入れていきます。	
	必要により資料、教材の予習と復習	60
第11回	・発音ブラッシュアップ ・学習者の関心、前半の達成度に即して後半期の教材選定を行います。引き続き中国の歴史や文化に触れるか、中国社会事情を知るための時事問題などを学びます。 （例）中国事情（「海賊版」、「介護は誰が」、「中国最高視聴率番組」など）、少数民族の伝承、推理小説、なども視野に入れていきます。	
	必要により資料、教材の予習と復習	60
第12回	・発音ブラッシュアップ ・学習者の関心、前半の達成度に即して後半期の教材選定を行います。引き続き中国の歴史や文化に触れるか、中国社会事情を知るための時事問題などを学びます。 （例）中国事情（「海賊版」、「介護は誰が」、「中国最高視聴率番組」など）、少数民族の伝承、推理小説、なども視野に入れていきます。	
	必要により資料、教材の予習と復習	60
第13回	・映像資料、関連資料の紹介、視聴などにより、文化学習や応用学習を組み入れます。 （例）少数民族を題材とした映画や中国文学作品、台湾の映画作品などを鑑賞します。	
	必要により資料、教材の予習と復習	60
第14回	・授業学習における中級文法と音声力の習得度、到達度を確認するため、試験を行います。	
	これまでに使用した教材、学習課題について、必要な復習をしてくる。	120

第15回	・まとめ、学習状況、到達度の確認、今後の課題などを点検し、理解を深めます。	
	これまでの学習状況、学習課題などについて、自分自身の考えをまとめてくる（自己省察）。	30

授業の方法

(1)　クラスの理解度により、随時、学習内容の確認・復習にWEB教材を利用して進めていきます。システムの補助を活用しながら、音声感覚の養成、文法理解の深化を図ります。
(2)テキストは前期同様、成蹊大学開発の講読用WEB教材“游”の中から、学習者の関心、レベルに合わせて選びます。前期Ⅰに使用したものより長い中級レベルの教材を使用し、精読・多読を組合せていきます。進度、進行速度は、学習状況、授業状況に合わせて調整しますが、前期よりも少し早めを目指します。
（3）毎回の授業の進め方は、学生の音読、訳読に、教師による指導（音声、文法、訳文の解説）、関連事項の説明などを加えていきます。選定した教材は、基本教材としてプリントして受講者に配布し、ＷＥＢ画面と併用しますが、文法、発音の練習問題、解説などについても、随時ＷＥＢ教材を利用して授業を進めます。これらの教材は、授業以外でも自由にアクセスして学習できるので、予習復習にぜひ活用してください。
(4)　随時、映画などの映像資料や関連資料も紹介します。

成績評価の方法

・試験（50%）、平常点（授業への参加状況、学習状況　50%）などを総合して評価します。

成績評価の基準

・成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
・教材の予習・復習、課題の達成度、発音学習の状況、試験における基礎講読力（構文理解、文法知識）、達成度を評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・中国語基礎Ａ・ＢⅠ・Ⅱ、中国語活用ＡⅠ修了もしくはこれと同等の学力を有する者

テキスト

・使用教材に関しては、受講生の関心とレベルに応じて選択します。
・プリントとＷＥＢ教材(成蹊大学オリジナル中国語ＷＥＢシステム“游”の講読、文法、発音、語彙力増強の教材を活用し、それに合わせたプリント教材を配布し、使用します。
・“游”システムは、教材授業内外、学内外から自由にアクセスできます。教材により制約もありますが、スマートホンでの使用も可能です。
・“游”システム：成蹊大学ＨＰ現代ＧＰ“游”：http://www.seikei.ac.jp/university/gp-you)

参考書

・授業内で紹介、必要により指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

・学内専用ホームページで周知します。

科目名	中国語演習　活用ＡII ＜2＞		
教員名	土屋　肇枝		
科目ナンバー	1101085512	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

短文を読みながら、基礎文法を固めよう。
語学学習の基本である「聞く、話す、読む、書く」のうち、「読む」学習を中心にして、書く・聞く・音声学習をバランスよく学習していきます。一年次に学習した文法項目を丁寧に復習しながら、テキストに入っていきますので、基礎文法や発音に自信がなくても大丈夫です。
テキストの短文を教材にして、基礎文法の復習と練習、さらに日常でよく使われる表現を少しずつ学んでいきます。初級から中級へと少しずつ移行していくので、学習のむずかしさを心配する必要はありません。中国語に親しみながらレベルアップを図りたい学生に受講を勧めます。
また、中国語検定の受験を考えている人は、中国語による文章理解（読解）は必須ですので、積極的に受講してください。

（この授業は前期開講の活用ＡＩから続いており、Ｉ・Ⅱ合わせて初中級レベルの内容を習得できます。Ⅱの履修者はＩも合わせて履修するようにしましょう。）

到達目標

初級文法の把握。中国語検定試験四級に合格するレベルから三級を目指すレベルへと押し上げていきます。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	＜例＞ 前期学習内容の復習 ＊　具体的な進行に関しては、受講者のレベルに応じて変更することもあります。	
	不確実な部分を認識し、正確な語法を身に着ける。	60分
第2回	テキスト第四課　語法説明・プリント練習・本文解釈	
	本文の音読練習と訳出	60分
第3回	第四課　本文解釈・練習問題	
	本文の音読練習と訳出・語法の確認	60分

第4回	第五課　語法説明・プリント練習・本文解釈	
	本文の音読練習と訳出	60分
第5回	第五課　本文解釈・練習問題	
	本文の音読練習と訳出・語法の確認	60分
第6回	映画鑑賞ほか	
	小レポート作成	60分
第7回	映画鑑賞ほか	
	小レポート作成	60分
第8回	第六課　語法説明・プリント練習・本文解釈	
	本文の音読練習と訳出	60分
第9回	第六課　本文解釈・練習問題	
	本文の音読練習と訳出・語法の確認	60分

第10回	第七課　語法説明・プリント練習・本文解釈	
	本文の音読練習と訳出	60分
第11回	第七課　本文解釈・練習問題	
	本文の音読練習と訳出・語法の確認	60分
第12回	第八課　語法説明・プリント練習・本文解釈	
	本文の音読練習と訳出	60分
第13回	第八課　本文解釈・練習問題 口答試験	
	課題文の音読練習	90分
第14回	筆記試験	
	後期学習部分の復習・確認	180分以上
第15回	総まとめ	
	最終仕上げ	60分

授業の方法

前期に引き続きテキストを使用して学習します。毎回、短文読解に加えて基礎文法の確認、常用表現の使い方等を練習問題を通して把握していきます。
また、テキストだけでなく関連する映像資料も随時紹介する予定です。

成績評価の方法

口答試験・筆記試験と平常点（授業態度・小テスト）などから総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語演習　活用ＡＩ

テキスト

『大学生のための現代中国12話　Ⅲ』　杉野元子、黄漢青著（白帝社）

参考書

授業時に紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語演習　活用ＢⅠ		
教員名	中桐　典子		
科目ナンバー	1001085521	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

[テーマ] 1年次に学んだ語法知識の総復習をするとともに,中国語検定試験で必要とされる和文中訳やリスニングの力を養成する。
[概要]中国語検定試験4級合格レベルの力をつけることを目標とする。中国語検定試験の過去問題を解きながら、つまずきやすい箇所を取り上げ、解説を加えていく。また、リスニング力をつけるために朗読・暗誦を行う。

到達目標

2014年6月あるいは11月に行われる中国語検定試験で4級に合格することを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：中国語検定試験の傾向・授業の進め方を説明	
	ネットで「日本中国語検定試験協会」のホームページを読む。	60分
第2回	第81回中国語検定試験4級（リスニング）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第3回	第81回中国語検定試験4級（筆記）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分

第4回	第80回中国語検定試験4級（リスニング）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第5回	第80回中国語検定試験4級（筆記）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第6回	第79回中国語検定試験4級（リスニング）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第7回	第79回中国語検定試験4級（筆記）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第8回	第78回中国語検定試験4級（リスニング）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第9回	第78回中国語検定試験4級（筆記）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分

第10回	第77回中国語検定試験4級（リスニング）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第11回	第77回中国語検定試験4級（筆記）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第12回	第2回から第11回までの総復習	
	今学期学習した項目の総復習	90分
第13回	口頭試験	
	口頭試験の実施	90分
第14回	筆記試験	
	筆記試験の実施	90分
第15回	総まとめ	
	最終仕上げ	90分

授業の方法

講義演習方式。筆記問題対策・・・中国語検定試験の過去問題を解きながら解説を加えていく。リスニング対策・・・毎回の授業で、過去問題に取り組む。聞き取れなかったところを中心に自宅で復習すること。翌週に小テストで確認する。毎回、発音・和文中訳・リスニングの小テストをする。

成績評価の方法

小テスト30%,　口頭試験30%、 筆記試験40%により、総合的に評価する。なお、欠席は厳しく減点し、検定試験合格者には加点をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語基礎Ａ・Ｂ（Ⅰ・Ⅱ）の履修を前提とする。
[関連科目]中国語基礎Ａ・Ｂ（Ⅰ・Ⅱ）、中国語会話Ⅰ・Ⅱ、中国語演習活用ＢⅡ

テキスト

プリント配布。

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語演習　活用ＢⅠ　<2>		
教員名	木谷　富士子		
科目ナンバー	1001085521	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

1年間中国語を学んだ基礎をもとに、更に中国語のレベルアップを図る講座です。1年次に学んだ語法知識の総復習をするとともに,中国語検定試験で必要とされる和文中訳やリスニングの力を養成します。具体的には中国語検定試験４級（大学で第二外国語として１年間履修程度）合格を目指して対策します。４級合格を目標に学習すれば、知らず知らずに中国語の実力が身につきます。

到達目標

2013年6月あるいは11月に行われる中国語検定試験で4級に合格することを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	１年の復習	６０分
第2回	1年の復習	
	1年の復習	６０分
第3回	過去問（筆記）	
	筆記問題の復習	６０分

第4回	過去問（リスニング）	
	リスニング文の復習	６０分
第5回	過去問（筆記）	
	筆記問題の復習	６０分
第6回	過去問（リスニング）	
	リスニング文の復習	６０分
第7回	過去問（筆記）	
	筆記問題の復習	６０分
第8回	過去問（リスニング）	
	リスニング問題の復習	６０分
第9回	過去問（筆記）	
	過去問の復習	６０分

第10回	過去問（リスニング）	
	リスニングの復習	６０分
第11回	過去問（筆記）	
	筆記問題の復習	６０分
第12回	過去問（リスニング）	
	リスニング文の復習	６０分
第13回	総復習	
	総復習	６０分
第14回	模擬テスト風試験	
	試験対策	６０分
第15回	総まとめ	
	総復習	６０分

授業の方法

毎回過去問のリスニングと筆記を交互に解き、解説、復習、練習を行う。次週それぞれの問題の確認を行い定着を図る。4級合格に必要な単語も暗記して語彙を増やしていく。

成績評価の方法

平常点（出席、小テスト）、音読、筆記試験等により、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語基礎Ａ・Ｂ（Ⅰ・Ⅱ）の履修を前提とする。
［関連科目］中国語基礎Ａ・Ｂ（Ⅰ・Ⅱ）、中国語会話Ⅰ・Ⅱ、中国語演習活用ＢⅡ

テキスト

プリントを配布する。

参考書

授業内で指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語演習　活用ＢII		
教員名	中桐　典子		
科目ナンバー	1001085522	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

[テーマ] 今までに学んだ語法知識の総復習をするとともに,中国語検定試験で必要とされる和文中訳やリスニングの力を養成する。
[概要]中国語検定試験3級合格レベルの力をつけることを目標とする。中国語検定試験の過去問題を解きながら、つまずきやすい箇所を取り上げ、解説を加えていく。また、リスニング力をつけるために朗読・暗誦を行う。

到達目標

2015年3月に行われる中国語検定試験で3級に合格することを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：中国語検定試験の傾向・授業の進め方を説明	
	ネットで「日本中国語検定試験協会」のホームページを読む。	60分
第2回	第81回中国語検定試験3級（リスニング）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第3回	第81回中国語検定試験3級（筆記）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分

第4回	第80回中国語検定試験3級（リスニング）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第5回	第80回中国語検定試験3級（筆記）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第6回	第79回中国語検定試験3級（リスニング）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第7回	第79回中国語検定試験3級（筆記）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第8回	第78回中国語検定試験3級（リスニング）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第9回	第78回中国語検定試験3級（筆記）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分

第10回	第77回中国語検定試験3級（リスニング）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第11回	第77回中国語検定試験3級（筆記）	
	小テストに備えた学習（発音・和文中訳・リスニング）。 次回授業で扱う箇所の予習。	90分
第12回	第2回から第11回までの総復習	
	今学期学習した項目の総復習	90分
第13回	口頭試験	
	口頭試験の実施	90分
第14回	筆記試験	
	筆記試験の実施	90分
第15回	総まとめ	
	最終仕上げ	90分

授業の方法

講義演習方式。筆記問題対策・・・中国語検定試験の過去問題を解きながら解説を加えていく。リスニング対策・・・毎回の授業で、過去問題に取り組む。聞き取れなかったところを中心に自宅で復習すること。翌週に小テストで確認する。毎回、発音・和文中訳・リスニングの小テストをする。

成績評価の方法

小テスト30%,　口頭試験30%、 筆記試験40%により、総合的に評価する。なお、欠席は厳しく減点し、検定試験合格者には加点をする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語基礎Ａ・Ｂ（Ⅰ・Ⅱ）の履修を前提とする。
[関連科目]中国語基礎Ａ・Ｂ（Ⅰ・Ⅱ）、中国語会話Ⅰ・Ⅱ、中国語演習活用ＢⅠ

テキスト

プリント配布。

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語演習　活用ＣＩ　<1>		
教員名	張　竹翠		
科目ナンバー	1001085531	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

本授業では１年次に学んだ中国語の基礎学力を基盤に、中国語で自分自身や身の回りのことを書き、人に伝える力を身につけます。やさしい表現を活用することで、さまざまな自己表現、意思伝達が可能となるでしょう。
語学学習に欠かせない要素「書く」は、いわゆる外国語4技能（「読む・書く・聞く、話す」）の中では、地味な学習項目に見えます。しかし、中国語らしい文の組み立て方を習得し、中国語による思考力を高めることは、「聞く、話す」、「読む」ことの土台づくりとしても重要な役割をもちます。ＩＴ時代の今、メールなどを書ける力も必要です。
本授業では、さまざまな話題（トピック）について中国語で「書く」練習を行い、その成果を口頭で発表することにより、「話す」練習へと発展させます。紙面での文字学習にとどまらない活きた表現力の養成は、中国語によるコミュニケーション力を高める基礎力として、「聞く、話す」を中心とする会話学習の土台作りにも大きな力を発揮することでしょう。中国語演習活用ＣＩは中国語演習活用ＣⅡに継続し、ＩとⅡをあわせて完結します。Ｉの履修者は、できるだけⅡも履修するようにして下さい。

到達目標

この授業を履修することによって、身近な話題について書ける、話せるようになることが到達目標になります。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	身近な日常生活をいくつかのテ−マに分け、これに属する項目（小課題）について、中国語で自分の考えや思いを書く「トピック作文」を行います。必要により、発音矯正など、音声指導を随時取り入れるほか、まとめ、復習も行います。 第１課	
	シラバスを読み、授業の進め方、評価基準などについて確認する。	60分
第2回	第１課	
	前回の授業で習った課を復習して、作文作成する。 次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第3回	第2課	
	次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分

第4回	第2課	
	前回の授業で習った課を復習して、作文作成する。 次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第5回	第3課	
	次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第6回	第3課	
	前回の授業で習った課を復習して、作文作成する。 次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第7回	第4課	
	次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第8回	第4課	
	前回の授業で習った課を復習して、作文作成する。 次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第9回	第5課	
	次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分

第10回	第5課	
	前回の授業で習った課を復習して、作文作成する。 次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第11回	第6課	
	次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第12回	第6課	
	前回の授業で習った課を復習して、作文作成する。 次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第13回	口頭試験	
	口頭試験の実施	60分
第14回	筆記試験	
	筆記試験の実施	60分
第15回	総仕上げ	
	最終仕上げ	60分

授業の方法

授業前に中国語の模範文のプリントを配ります。受講生にその内容と表現について予習してもらいます。授業中は、教員が模範文に出てくる基礎構文、慣用句などを解説し、作文のポイントを指導します。受講生には、自宅で類似の内容を書き、授業中に読み上げてもらいます。教員が作文の誤用例などを説明し、正しい表現について指導します。

成績評価の方法

平常点（授業態度、予習の達成度、出席率など）30%、口頭試験30%、筆記試験40%を基本とします。
出席について、原則として出席の三分の二以上とし、遅刻などが三回あった場合は、一回の欠席となります。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語基礎Ａ・Ｂ（Ⅰ・Ⅱ）

テキスト

プリントを配布します。

参考書

授業中に適時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語演習　活用ＣＩ　<2>		
教員名	楊　晶		
科目ナンバー	1001085531	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

一年間中国語を学習した経験を持つ人のための授業です。これまで学んできた中国語の基礎学力を基盤に、中国語で自分自身や身の回りのことを書き、人に伝える力を身につけます。
授業では、初級で学んだ文法や文型を復習しながら、身近な生活について、話題（トピック）ごとに中国語で「書く」練習を行います。更に書いた文章を口頭で発表することにより、「話す」練習へと発展させます。紙面での文字学習にとどまらない活きた表現力の養成は、中国語によるコミュニケーション力の向上につながり、「聞く、話す」を中心とする会話学習の土台作りにも大きな力を発揮することでしょう。

到達目標

これまで身につけてきた中国語の基礎を土台に、さまざまな表現をアクティブに使えるように練習を行って、身近な話題について書ける、話せるようになることを目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業ガイダンス、自己紹介	
	シラバスを読み、授業の進め方、評価基準等について確認する。	６０分
第2回	自分紹介	
	授業で出された課題を完成し、次回の授業で扱う内容の予習をする。	６０分
第3回	家族について	
	授業で出された課題を完成し、次回の授業で扱う内容の予習をする。	６０分

第4回	家族について	
	授業で出された課題を完成し、次回の授業で扱う内容の予習をする。	６０分
第5回	日本について	
	授業で出された課題を完成し、次回の授業で扱う内容の予習をする。	６０分
第6回	日本について	
	授業で出された課題を完成し、次回の授業で扱う内容の予習をする。	６０分
第7回	大学生活について	
	授業で出された課題を完成し、次回の授業で扱う内容の予習をする。	６０分
第8回	大学生活について	
	授業で出された課題を完成し、次回の授業で扱う内容の予習をする。	６０分
第9回	クラブ活動を楽しむ	
	授業で出された課題を完成し、次回の授業で扱う内容の予習をする。	６０分

第10回	クラブ活動を楽しむ	
	授業で出された課題を完成し、次回の授業で扱う内容の予習をする。	６０分
第11回	アルバイトをする	
	授業で出された課題を完成し、次回の授業で扱う内容の予習をする。	６０分
第12回	アルバイトをする	
	授業で出された課題を完成し、次回授業で扱う内容の予習をする。	６０分
第13回	口頭試験	
	授業で出された課題を完成し、口頭試験の準備をする。	６０分
第14回	筆記試験	
	授業で出された課題を完成し、筆記試験の準備をする。	６０分
第15回	総まとめ	
	最終仕上げ	６０分

授業の方法

授業前に中国語の模範文のプリントを配ります。受講生にその内容と表現について予習してもらいます。授業中は、教員が模範文に出てくる基礎構文、慣用句などを解説し、作文のポイントを指導します。受講生には、自宅で類似の内容を書き、授業中に読み上げてもらいます。教員が作文の誤用例などを説明し、正しい表現について指導します。

成績評価の方法

(1) 平常点30%（課題の完成度、予習状況など）
(2) 口頭試験30%
(3) 筆記試験40%
遅刻3回は、欠席1回とする。学期の3分の1以上欠席すると、期末試験が受けられなくなる可能性があるので、要注意。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語基礎ＡⅠ、中国語基礎ＡⅡ、中国語基礎BⅠ、中国語基礎BⅡ

テキスト

授業時プリントを配布する。

参考書

開講後指定する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語演習　活用ＣII		
教員名	張　竹翠		
科目ナンバー	1001085532	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

本授業では１年次に学んだ中国語の基礎学力を基盤に、中国語で自分自身や身の回りのことを書き、人に伝える力を身につけます。やさしい表現を活用することで、さまざまな自己表現、意思伝達が可能となるでしょう。
語学学習に欠かせない要素「書く」は、いわゆる外国語4技能（「読む・書く・聞く、話す」）の中では、地味な学習項目に見えます。しかし、中国語らしい文の組み立て方を習得し、中国語による思考力を高めることは、「聞く、話す」、「読む」ことの土台づくりとしても重要な役割をもちます。ＩＴ時代の今、メールなどを書ける力も必要です。
本授業では、さまざまな話題（トピック）について中国語で「書く」練習を行い、その成果を口頭で発表することにより、「話す」練習へと発展させます。紙面での文字学習にとどまらない活きた表現力の養成は、中国語によるコミュニケーション力を高める基礎力として、「聞く、話す」を中心とする会話学習の土台作りにも大きな力を発揮することでしょう。中国語演習活用ＣＩは中国語演習活用ＣⅡに継続し、ＩとⅡをあわせて完結します。Ｉの履修者は、できるだけⅡも履修するようにして下さい。

到達目標

この授業を履修することによって、身近な話題について書ける、話せるようになることが到達目標になります。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	身近な日常生活をいくつかのテ−マに分け、これに属する項目（小課題）について、中国語で自分の考えや思いを書く「トピック作文」を行います。必要により、発音矯正など、音声指導を随時取り入れるほか、まとめ、復習も行います。 第7課	
	シラバスを読み、授業の進め方、評価基準などについて確認する。	60分
第2回	第7課	
	前回の授業で習った課を復習して、作文作成する。 次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第3回	第8課	
	次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分

第4回	第8課	
	前回の授業で習った課を復習して、作文作成する。 次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第5回	第9課	
	次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第6回	第9課	
	前回の授業で習った課を復習して、作文作成する。 次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第7回	第10課	
	次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第8回	第10課	
	前回の授業で習った課を復習して、作文作成する。 次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第9回	第11課	
	次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分

第10回	第11課	
	前回の授業で習った課を復習して、作文作成する。 次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第11回	第12課	
	次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第12回	第12課	
	前回の授業で習った課を復習して、作文作成する。 次回の授業で扱う課に目を通り、未知語の意味を確認して、本文会話文を音読する。	60分
第13回	口頭試験	
	口頭試験の実施	60分
第14回	筆記試験	
	筆記試験の実施	60分
第15回	総仕上げ	
	最終仕上げ	60分

授業の方法

授業前に中国語の模範文のプリントを配ります。受講生にその内容と表現について予習してもらいます。授業中は、教員が模範文に出てくる基礎構文、慣用句などを解説し、作文のポイントを指導します。受講生には、自宅で類似の内容を書き、授業中に読み上げてもらいます。教員が作文の誤用例などを説明し、正しい表現について指導します。

成績評価の方法

平常点（授業態度、予習の達成度、出席率など）30%、口頭試験30%、筆記試験40%を基本とします。
出席について、原則として出席の三分の二以上とし、遅刻などが三回あった場合は、一回の欠席となります。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語基礎Ａ・Ｂ（Ⅰ・Ⅱ）

テキスト

プリントを配布します。

参考書

授業中に適時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語演習　発展　（講読アラカルトⅠ）		
教員名	湯山　トミ子		
科目ナンバー	1101085541	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

読むにあたる講読学習は、語学四技能（読む・書く・聞く・話す）のなかでも、臨場感あふれる会話学習に比べ、地味な学習法ですが、中国語で中国文化や中国事情をじっくり理解しながら総合力を磨くことができる長所を持っています。本授業は、基礎科目で習得した中国語力を活用しながら、時空を越えて、中国古今の事物や物語世界とのコミュニケーション世界を深訪する講読学習を行います。具体的には、成蹊大学オリジナル中国語教育システム“游”の多様な講読教材（歴史・文　化・文学・時事など）、中国人の色彩感覚や動物にまつわるエピソード、衣食住の習俗、タブーを巡るエッセイをなど、幅広い閲読教材から、受講者の要望と難度に基づき選定します。特に、後半には、中国の文化社会、歴史上の著名な人物伝（ex毛沢東と衝突、不遇のまま生涯を終えた馬寅初、中国の有名な乞食坊主済公、文武に長けた乾隆帝、文革の中で命を落とした著名な現代作家老舎）を読む、あるいは現代文学作品や評論、書簡（ex魯迅　梁啓超、陶行知）などに進めていけたらと思います。以上のほかに、台湾のベストセラー大人の童話など、学習用教材をはなれた原書、新聞、雑誌などの記事も希望により選定材料にすることができます。語学的には、基礎力の点検と定着により、「読む」に焦点を置いた総合的な中国語講読学習を基本とし、３級レベルの検定試験で必要な講読力とその発展、展開を目指します。これまでに蓄えてきた中国語基礎力をさらに活用し、歴史と社会のはざまに生まれた人々の姿に触れていきたいと思います。ことばを通して生まれる出会いと発見が、中国語と中国文化、そして学習する人自身の新たな世界への一歩を導いてくれると思います。なお、中国語演習講読アラカルトⅠは、後期開講の講読アラカルトⅡに継続しています。Ⅱと併せて中級ブラッシュアップのレベルを学ぶため、Ⅰの履修者はできるかぎりⅡも履修するようにして下さい。

到達目標

・外部試験では、中国語検定試験3級レベルの読解力の上に、その強化、発展をはかることができます。
・活用ＡⅠ・Ⅱなどで養成した初中級読解力を強化し、幅広い文体と内容の文章に触れ、学習用教材から本格的な読解力要請へと進む足がかりを得ることができます。
・中国語で書かれた文章を楽しみ、知識、関心を深めることができる理解力を養うことができます。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス ・授業の目標、内容、特色、進め方学習法などについての基本要件を紹介し、解説します。 ・学習者の学習歴、関心、レベル、要望を聴取し、授業の進行、内容、教材選定について相談します。 ・教材は、当初は比較的短い文章によりウォーミングアップし、徐々に長く、内容の深いものへと進めていきます。当初は、１教材を１～２回で完了する予定です。	
	自己の学習課題、達成目標、関心、授業への要望など、可能な範囲で整理しておいてください。	20
第2回	・発音の復習と確認 ・短文によるウォーミングアップ１（例）台湾作家ジミーの諸作品や“游”の多様な講読教材（歴史・文　化・文学・時事など）より、受講者の希望と難度に基づき選定します。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第3回	・発音の復習と確認 ・短文によるウォーミングアップ（例）台湾作家ジミーの諸作品や　“游”より“游”の多様な講読教材（歴史・文化・文学・時事など）より、受講者の希望と難度に基づき選定します。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60

第4回	・発音の復習と確認 ・短文によるウォーミングアップ１（例）台湾作家ジミーの諸作品や　“游”の多様な講読教材（歴史・文化・文学・時事など）より、受講者の希望と難度に基づき選定します。選定します。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第5回	・“游”講読教材より少し内容の深い長めの教材、もしくは中国人の色彩感覚や動物にまつわるエピソード、衣食住の習慣、タブーなどを取上げたエッセイなどを含む閲読教材から、受講者の要望と難度に基づいて選定します。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第6回	・“游”講読教材より少し内容の深い長めの教材、もしくは中国人の色彩感覚や動物にまつわるエピソード、衣食住の習慣、タブーなどを取上げたエッセイなどを含む閲読教材から、受講者の要望と難度に基づいて選定します。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第7回	・“游”講読教材より少し内容の深い長めの教材、もしくは中国人の色彩感覚や動物にまつわるエピソード、衣食住の習慣、タブーなどを取上げたエッセイなどを含む閲読教材から、受講者の要望と難度に基づいて選定します。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第8回	・“游”講読教材より少し内容の深い長めの教材、もしくは中国人の色彩感覚や動物にまつわるエピソード、衣食住の習慣、タブーなどを取上げたエッセイなどを含む閲読教材から、受講者の要望と難度に基づいて選定します。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第9回	・関係する映画などを映像による学習を行います。映像資料のほかに関係する資料（中国語・日本語）を読んだり、紹介したりします。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60

第10回	・“游”講読教材より長めの内容のより深いものを選択します。 （例）中国を代表する文化、経済。政治などの領域から著名な人物を選び編集された著名人の伝記と足跡を紹介する文書を学び、中国の人と社会に対する関心を高め、理解力を深めます。具体的には、中国の著名な画家斉白石、現代中国の人口問題に警鐘をならし毛沢東と対立した著名な人口学者馬寅、魯迅と並び称される現代中国の著名な作家、満州人の老舎など、多様な領域のキーパーソンを選び学びます（「名人名伝」シリーズ）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第11回	・“游”講読教材より長めの内容のより深いものを選択します。 （例）中国を代表する文化、経済。政治などの領域から著名な人物を選び編集された著名人の伝記と足跡を紹介する文書を学び、中国の人と社会に対する関心を高め、理解力を深めます。具体的には、中国の著名な画家斉白石、現代中国の人口問題に警鐘をならし毛沢東と対立した著名な人口学者馬寅、魯迅と並び称される現代中国の著名な作家、満州人の老舎など、多様な領域のキーパーソンを選び学びます（「名人名伝」シリーズ）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第12回	・“游”講読教材より長めの内容のより深いものを選択します。 （例）中国を代表する文化、経済。政治などの領域から著名な人物を選び編集された著名人の伝記と足跡を紹介する文書を学び、中国の人と社会に対する関心を高め、理解力を深めます。具体的には、中国の著名な画家斉白石、現代中国の人口問題に警鐘をならし毛沢東と対立した著名な人口学者馬寅、魯迅と並び称される現代中国の著名な作家、満州人の老舎など、多様な領域のキーパーソンを選び学びます（「名人名伝」シリーズ）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第13回	・関係する映画などを映像による学習を行います。映像資料のほかに関係する資料（中国語・日本語）を読んだり、紹介したりします。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第14回	・これまでの授業内容の理解度、習得度を確認するために試験を行います。	
	これまでに使用した教材、学習課題について、必要な復習をしてくる。	120
第15回	・試験結果も含めて、学習状況、今後の課題などを点検し、理解を深めます。	
	これまでの学習状況、試験の状況を含めて、自分自身の考えをまとめておいてください（自己省察）。	30

授業の方法

・進度と教材内容は、受講者のレベルにより、調整しますが、取り上げる教材は、短文は２回、長文は３回～４回で新教材に進みます。
・各種教材（映像教材、ＩＴ教材、プリントテキスト）は、音声訓練（発話・聞き取り）と講読学習を併行し、音声力を高めながら、文章構造の理解度を増し、文法事項を復習します。
・教師による文法解説、学生間の協同学習などを組み合わせて、授業を運営し、“游”システムの学習機能を活用して、自己の到達度を確認する学習法なども指導します。
・人物伝、文学作品などの教材については、中国語の原文だけでなく、日本語の関係資料も加え、歴史、社会、文化理解を深めるようにしていく予定です。
・関係資料は文字だけではなく映像からも取り込み、視野の広い学習を行います。
・内容、レベルについては、初中級から中上級への足掛かりをつけられるよう学習者の語学的到達度に応じて調整していきますので、難しい、大変そうと思わず、安心して学習を始めてみてください。

成績評価の方法

・試験（50%）、平常点（授業への参加状況、学習状況　50%）などを総合して評価します。

成績評価の基準

・成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
・教材の予習・復習、課題の達成度、音声学習の状況、試験における講読力（構文理解、文法知識）などについて評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・中国語基礎、各種演習科目など

テキスト

・受講者の関心、レベル、要望によりアレンジします。
・プリントとＷＥＢ教材(成蹊大学オリジナル中国語ＷＥＢシステム“游”）の講読、文法、発音、語彙力増強の教材を活用し、それに合わせたプリント教材を配布し、使用します。
・“游”システムは、教材授業内外、学内外から自由にアクセスでき、教材内容、機種により制約もありますが、スマートホンでも使用可能です。
・“游”システム：成蹊大学ＨＰ現代ＧＰ“游”：http://www.seikei.ac.jp/university/gp-you)

参考書

・授業内で紹介、必要により指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

・学内専用ホームページで周知します。

科目名	中国語演習　発展　（講読アラカルトII）		
教員名	湯山　トミ子		
科目ナンバー	1101085542	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

前期の講読アラカルトⅠに続き、中国の文化、社会、歴史に関わる中国語教材を幅広く読み解いていきます。人を知ることは社会を知ること、社会を知ることは人を知ること、前期の講読アラカルトⅠで取上げた伝記作品に着目し、中国の社会、文化理解に広がりをもつ人物、民間伝説、空想上の人物のプロフィールを取上げる“游”の「名人名伝」シリーズ、あるいは著名な中国文学作品、著述（原書）、新聞、雑誌などの記事、論説なども視野に入れ、受講者の関心、レベル、要望に基づきながら教材を選定し、中国語の語学力の発展と文化理解の二つの内容を満たしていきます。具体的には、これまでに学んできた中国語力を生かし、「読む」力を基盤に、日常会話とは異なる対話能力、意見や考え方を述べることのできるコミュニケーション力の習得へと進むことを目指します。ことばの翼に乗り、より多くの人物、社会、文化事情を深訪し、さらに深い内容理解へと進んでいきましょう。エッセイ、手紙、文学作品など、学習用教材から幅を広げた生の中国語の世界に歩んでいけば、ことばを通してさまざまな出会いと発見が生まれます。その出会いと発見は、中国語と中国文化、そして学習する人自身の新たな世界への一歩を導いてくれると思います。なお、講読アラカルトⅡはⅠの継続科目です。Ⅰの基盤の上に進行しますので、Ⅱの履修者はできるかぎりⅠも履修するようにしてください。

到達目標

・講読アラカルトⅠで養成した中級読解力を強化し、幅広い文体と内容の文章に触れ、学習用教材から本格的な読解力へと進む（中級から上級へのブラッシュアップ）運用力を養えます。
・外部試験では、中国語検定試験3級レベルの基盤に2級レベルの読解力を目指す学習法を学ぶことができます。
・中国語で書かれた文章を楽しみ、知識、関心を深める応用力、理解力を養うことができます。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス ・授業の目標、内容、特色、進め方学習法などについての基本要件を紹介し、解説します。 ・学習者の学習歴、関心、レベル、要望を聴取し、授業の進行、内容、教材などについて相談します。 ・教材などを選定します。	
	自己の学習課題、達成目標、関心、授業への要望など、可能な範囲で整理しておいてください。	20
第2回	・発音の復習と確認 ・短文によるウォーミングアップ１（例）文学作品、台湾作家ジミーのややむずかしい作品や“游”より選定します。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第3回	・発音の復習と確認 ・短文によるウォーミングアップ１（例）文学作品、台湾作家ジミーのややむずかしい作品や“游”より選定します。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60

第4回	・発音の復習と確認 ・短文によるウォーミングアップ１ （例）文学作品、台湾作家ジミーのややむずかしい作品や“游”より選定します。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第5回	・“游”講読教材より選択 （例）中国を代表する文化、経済。政治などの領域から著名な人物を選び編集された著名人の伝記と足跡を紹介する文書を学び、中国の人と社会に対する関心を高め、理解力を深めます。具体的には、中国の著名な画家斉白石、現代中国の人口問題に警鐘をならし毛沢東と対立した著名な人口学者馬寅、魯迅と並び称される現代中国の著名な作家、満州人の老舎、中国清時代の皇帝乾隆帝、乞食坊主斉公など、前期講読アラカルトⅠで選定しなかった人物群からキーパーソンを選び学びます（「名人名伝」シリーズ）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第6回	・“游”講読教材より選択、１教材を3回ほどで完了する予定です。 （例）中国を代表する文化、経済。政治などの領域から著名な人物を選び編集された著名人の伝記と足跡を紹介する文書を学び、中国の人と社会に対する関心を高め、理解力を深めます。具体的には、中国の著名な画家斉白石、現代中国の人口問題に警鐘をならし毛沢東と対立した著名な人口学者馬寅、魯迅と並び称される現代中国の著名な作家、満州人の老舎、中国清時代の皇帝乾隆帝、乞食坊主斉公など、前期講読アラカルトⅠで選定しなかった人物群からキーパーソンを選び学びます（「名人名伝」シリーズ）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第7回	・“游”講読教材より選択、１教材を3回ほどで完了する予定です。 （例）中国を代表する文化、経済。政治などの領域から著名な人物を選び編集された著名人の伝記と足跡を紹介する文書を学び、中国の人と社会に対する関心を高め、理解力を深めます。具体的には、中国の著名な画家斉白石、現代中国の人口問題に警鐘をならし毛沢東と対立した著名な人口学者馬寅、魯迅と並び称される現代中国の著名な作家、満州人の老舎、中国清時代の皇帝乾隆帝、乞食坊主斉公など、前期講読アラカルトⅠで選定しなかった人物群からキーパーソンを選び学びます（「名人名伝」シリーズ）。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第8回	・“游”講読教材より選択、１教材を3回ほどで完了する予定です。 ・“游”講読教材より選択 （例）中国を代表する文化、経済。政治などの領域から著名な人物を選び編集された著名人の伝記と足跡を紹介する文書を学び、中国の人と社会に対する関心を高め、理解力を深めます。具体的には、中国の著名な画家斉白石、現代中国の人口問題に警鐘をならし毛沢東と対立した著名な人口学者馬寅、魯迅と並び称される現代中国の著名な作家、満州人の老舎、中国清時代の皇帝乾隆帝、乞食坊主斉公など、前期講読アラカルトⅠで選定しなかった人物群からキーパーソンを選び学びます（「名人名伝」	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第9回	・関係する映画などを映像による学習を行います。映像資料のほかに関係する資料（中国語・日本語）を読んだり、紹介したりします。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60

第10回	・“游”講読教材より選択、１教材を3回ほどで完了する予定です。 ・“游”講読教材より選択 （例）中国を代表する文化、経済。政治などの領域から著名な人物を選び編集された著名人の伝記と足跡を紹介する文書を学び、中国の人と社会に対する関心を高め、理解力を深めます。具体的には、中国の著名な画家斉白石、現代中国の人口問題に警鐘をならし毛沢東と対立した著名な人口学者馬寅、魯迅と並び称される現代中国の著名な作家、満州人の老舎、中国清時代の皇帝乾隆帝、乞食坊主斉公など、前期講読アラカルトⅠで選定しなかった人物群からキーパーソンを選び学びます（「名人名伝」	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第11回	・“游”講読教材より選択、１教材を3回ほどで完了する予定です。 ・“游”講読教材より選択 （例）中国を代表する文化、経済。政治などの領域から著名な人物を選び編集された著名人の伝記と足跡を紹介する文書を学び、中国の人と社会に対する関心を高め、理解力を深めます。具体的には、中国の著名な画家斉白石、現代中国の人口問題に警鐘をならし毛沢東と対立した著名な人口学者馬寅、魯迅と並び称される現代中国の著名な作家、満州人の老舎、中国清時代の皇帝乾隆帝、乞食坊主斉公など、前期講読アラカルトⅠで選定しなかった人物群からキーパーソンを選び学びます（「名人名伝」	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第12回	・“游”講読教材より選択、１教材を3回ほどで完了する予定です。 ・ “游”講読教材より選択 （例）中国を代表する文化、経済。政治などの領域から著名な人物を選び編集された著名人の伝記と足跡を紹介する文書を学び、中国の人と社会に対する関心を高め、理解力を深めます。具体的には、中国の著名な画家斉白石、現代中国の人口問題に警鐘をならし毛沢東と対立した著名な人口学者馬寅、魯迅と並び称される現代中国の著名な作家、満州人の老舎、中国清時代の皇帝乾隆帝、乞食坊主斉公など、前期講読アラカルトⅠで選定しなかった人物群からキーパーソンを選び学びます（「名人名伝」	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第13回	・関係する映画などを映像による学習を行います。映像資料のほかに関係する資料（中国語・日本語）を読んだり、紹介したりします。	
	選定された教材・課題の予習と復習	60
第14回	・これまでの授業での習得度と学習課題の達成度を確認するために試験を行います。	
	これまでに使用した教材、学習課題について、必要な復習をしてくる。	120
第15回	・試験の結果を含めて、授業内容の習得度、学習課題の達成度、今後の課題などについて点検し、理解を深めます。	
	これまでの学習状況、学習課題などについて、自分自身の考えをまとめてくる（自己省察）。	30

授業の方法

・人物伝、文学作品などの教材については、中国語の原文だけでなく、日本語の関係資料も加え、歴史、社会、文化理解を深めるようにしていく予定です。
・関係資料は文字だけではなく映像からも取り込み、視野の広い学習を行います。
・進度と教材内容は、受講者のレベルにより、調整しますが、取り上げる教材は、短文は２回、長文は３回～４回で新教材に進みます。
・各種教材（映像教材、ＩＴ教材、プリントテキスト）は、音声訓練（発話・聞き取り）と講読学習を併行し、音声力を高めながら、文章構造の理解度を増し、文法事項を復習します。
・教師による文法解説、学生間の協同学習などを組み合わせて、授業を運営し、“游”システムの学習機能を活用して、自己の到達度を確認する学習法なども指導します。
・内容、レベルについては、初中級から中上級へと展開できるように学習者の語学的到達度に応じて調整していきますので、むずかしい、大変そうと思わず、安心して学習を始めてみてください。

成績評価の方法

・試験（50%）、平常点（授業への参加状況、学習状況　50%）などを総合して評価します。

成績評価の基準

・成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
・教材の予習・復習、課題の達成度、発音学習の状況、試験における講読力（構文理解、文法知識）の到達度、などについて評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・中国語基礎、各種演習科目など

テキスト

・受講者の関心、レベル、要望によりアレンジします。
・プリントとＷＥＢ教材(成蹊大学オリジナル中国語ＷＥＢシステム“游”）の講読、文法、発音、語彙力増強の教材を活用し、それに合わせたプリント教材を配布し、使用します。
・“游”システムは、教材授業内外、学内外から自由にアクセスでき、教材内容、機種により制約もありますが、スマートホンでも使用可能です。
・“游”システム：成蹊大学ＨＰ現代ＧＰ“游”：http://www.seikei.ac.jp/university/gp-you)

参考書

・授業内で紹介、必要により指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

・学内専用ホームページで周知します。

科目名	中国語演習発展　（メデイア活用・映像の贈り物Ｉ）		
教員名	芳沢　ひろ子		
科目ナンバー	1001085543	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

中国大陸や台湾の映画を見ることで中国文化圏の生活スタイルや文化を知るとともに、映画の中の世界を楽しみながら、同時代を生きる隣国の人々の喜怒哀楽に触れる。映画を見終わるごとに簡単な感想を提出し、次の授業でそれらをまとめたプリントを読んで感想を共有するとともに、映画の背景などについて簡単な講義も受ける。また映画ごとに「映画のセリフから学ぶこのひとこと」コーナーもある。学期末のテストでは、鑑賞してきた映画をテーマにした感想文を書くと同時に「映画のセリフから学ぶこのひとこと」からの出題に答える。半年以上の基礎的な中国語学習歴が必要。ただし映画は日本語字幕付きなので中国語にあまり自信のない受講者も参加することができる。自分の学んだ中国語が生きたことばになって耳に届く喜びを味わうとともに、その背景に日本人と同じように喜びや悲しみの中に暮らす人々がいて、けれどもその生き方にはやはり日本文化とは異なる文化が貫かれている様を学んでいってほしい。前期で６本の映画を見る。

到達目標

①中国文化圏の人々の暮らし、文化、社会等に関する理解を深める。②教科書で学んだ中国語が実際どのように使われているのかを理解するとともに、その一部を習得する。③中国語映画を通して人間や文化に対する認識を深める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第１回 授業のやり方の説明。この日の映画についての情報。「イノセントワールド」鑑賞。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第2回	第２回　「イノセントワールド」鑑賞。感想を書いて提出。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第3回	第３回　「イノセントワールド」全員の感想のまとめプリントを読む。映画の背景等への講義。「台北の朝、僕は恋をする」鑑賞。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分

第4回	第４回　「台北の朝、僕は恋をする」鑑賞。感想を書いて提出。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第5回	第５回　「台北の朝、僕は恋をする」全員の感想のまとめプリントを読む。映画の背景等への講義。「北京バイオリン」鑑賞。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第6回	第６回　「北京バイオリン」鑑賞。感想を書いて提出。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第7回	第７回　「北京バイオリン」全員の感想のまとめプリントを読む。映画の背景等への講義。「ココシリ」鑑賞。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第8回	第８回　「ココシリ」鑑賞。感想を書いて提出。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第9回	第９回　「ココシリ」全員の感想のまとめプリントを読む。映画の背景等への講義。「小さな村の小さなダンサー」鑑賞。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分

第10回	第１０回　「小さな村の小さなダンサー」鑑賞。感想を書いて提出。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第11回	第１１回　「小さな村の小さなダンサー」全員の感想のまとめプリントを読む。映画の背景等への講義。「サンザシの木の下で」鑑賞。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第12回	第１２回　「サンザシの木の下で」鑑賞。感想を書いて提出。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第13回	第１３回　「サンザシの木の下で」全員の感想のまとめプリントを読む。映画の背景等への講義。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第14回	筆記試験	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第15回	総まとめ	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分

授業の方法

映画に関する情報、鑑賞し終わった映画の背景などに関する説明などは講義形式。受講者は映画を見て、感想等を書き提出する。映画のセリフを活用した中国語の表現のしかたなどは声を出して練習する。

成績評価の方法

平常点（毎回映画を見て感想を提出する）が２０%、期末テスト（感想文と映画のセリフを利用した中国語表現に関するテスト）８０%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語基礎ＡⅠおよび中国語基礎ＡⅡを学び終えた、あるいはそれと同等の中国語力が必要。 中国語演習発展（メデイア活用・映像の贈り物Ⅱ）を継続して学ぶことが望ましい。

テキスト

プリント教材。テキストは不必要。

参考書

不必要。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語演習発展　（メデイア活用・映像の贈り物II）		
教員名	芳沢　ひろ子		
科目ナンバー	1001085544	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

中国大陸や台湾の映画を見ることで中国文化圏の生活スタイルや文化を知るとともに、映画の中の世界を楽しみながら、同時代を生きる隣国の人々の喜怒哀楽に触れる。映画を見終わるごとに簡単な感想を提出し、次の授業でそれらをまとめたプリントを読んで感想を共有するとともに、映画の背景などについて簡単な講義も受ける。また映画ごとに「映画のセリフから学ぶこのひとこと」コーナーもある。学期末のテストでは、鑑賞してきた映画をテーマにした感想文を書くと同時に「映画のセリフから学ぶこのひとこと」からの出題に答える。半年以上の基礎的な中国語学習歴が必要。ただし映画は日本語字幕付きなので中国語にあまり自信のない受講者も参加することができる。自分の学んだ中国語が生きたことばになって耳に届く喜びを味わうとともに、その背景に日本人と同じように喜びや悲しみの中に暮らす人々がいて、けれどもその生き方にはやはり日本文化とは異なる文化が貫かれている様を学んでいってほしい。後期は６本の映画を見る。

到達目標

①中国文化圏の人々の暮らし、文化、社会等に関する理解を深める。②教科書で学んだ中国語が実際どのように使われているのかを理解するとともに、その一部を習得する。③中国語映画を通して人間や文化に対する認識を深める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第１回 授業のやり方の説明。この日の映画についての情報。「海角７号」鑑賞。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第2回	第２回　「海角７号」鑑賞。感想を書いて提出。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第3回	第３回　「海角７号」全員の感想のまとめプリントを読む。映画の背景等への講義。「あの子をさがして」鑑賞。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分

第4回	第４回　「あの子をさがして」鑑賞。感想を書いて提出。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第5回	第５回　「あの子をさがして」全員の感想のまとめプリントを読む。映画の背景等への講義。「覇王別姫」鑑賞。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第6回	第６回　「覇王別姫」鑑賞。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第7回	第７回　「覇王別姫」鑑賞後感想提出。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第8回	第８回　「覇王別姫」全員の感想をまとめたプリントを読む。時代背景等講義。「ラブソング」鑑賞。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第9回	第９回　「ラブソング」鑑賞。感想を提出。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分

第10回	第１０回　「ラブソング」全員の感想をまとめたものを読む。時代背景などの講義。「北京の自転車」鑑賞。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第11回	第１１回　「北京の自転車」鑑賞。感想を提出。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第12回	第１２回　「北京の自転車」全員の感想をまとめたものを読む。時代背景などの講義。「インファナルアフェア」鑑賞。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第13回	第１３回　「インファナルアフェア」鑑賞。感想提出。	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第14回	筆記試験	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分
第15回	総まとめ	
	映画についての感想をまとめたり、記憶に残った中国語を確認する。	３０分

授業の方法

映画に関する情報、鑑賞し終わった映画の背景などに関する説明などは講義形式。受講者は映画を見て、感想等を書き提出する。映画のセリフを活用した中国語の表現のしかたなどは声を出して練習する。

成績評価の方法

平常点（毎回映画を見て感想を提出する）が２０%、期末テスト（感想文と映画のセリフを利用した中国語表現に関するテスト）８０%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語基礎ＡⅠおよび中国語基礎ＡⅡを学び終えた、あるいはそれと同等の中国語力が必要。 中国語演習発展（メデイア活用・映像の贈り物Ⅱ）を継続して学ぶことが望ましい。

テキスト

プリント教材。テキストは不必要。

参考書

不必要。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語演習発展　（パワーアップ・学習の玉手箱Ⅰ）		
教員名	湯山　トミ子		
科目ナンバー	1001085545	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

中国語学習歴２年（基礎学習の上に講読などの学習経験を持つ学習者）以上の中級学習者を対象とする授業です。学習歴２年以上といっても、実際の学習時間、関心などにより、個人差も大きいと思います。中国語を用いてさまざま内容を見たり、聞いたり、読んだりしたい人、中国語の基礎力（語彙力や文法力など）を確かなものにしたい人、中国語を使ったコミュニケーションをもっと幅広く体験してみたい人など、いろいろなニーズがあると思います。本授業は、基礎学習後の学習者がもつさまざまな要望、特徴に配慮しながら、運用力を伸ばし、中国語によるコミュニケーションをより確かで豊かなものに成長させていくためのパワーアップを目指しています。具体的には、学習者のレベル、関心、習得度に配慮して、個人差を活かした学習を提供できる授業づくりをいろいろな方法で実現していく予定です。「学習の玉手箱」という授業副題のとおりです。学習歴２年以上の人は自分のレベルにこだわらず、思い切って参加してみてください。フレキシブルな学習課題と学習法の中から、受講者自身のニーズを基にした授業を作り出し、その成果を体得していけるはずです。なお、本授業は、中国語演習発展（パワーアップ・学習の玉手箱）Ⅱに継続して行われます。Ⅱの継続履修により、より確実で効果的な学習を実現することができるでしょう。

到達目標

・学習者の目的、レベルと特徴(習得度・関心)などに基づき、苦手な課題をフォローしながら学力を増進できる
・中国語検定試験3級、2級レベルを目標として掲げ、達成するための学習法を身に着けることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス （学習者の学習要望の聴取、確認） 学習者の学習状況に合わせた個人学習とグループ学習の基本設計、教材の選定などについて相談し、試案作りをする。	
	特に学習準備は不要である。 自己のこれまでの学習状況、これからの学習要望、達成目標など、できるだけ明確にしてくる。	20
第2回	第１回目の授業での相談に基づき、学習者の学習状況に合わせた個人学習とグループ学習の試案を行う。	
	第１回目に相談し、選定した教材、学習内容について、必要な予習をしてくる。	60
第3回	第２回目の授業の進捗に基づき、継続学習を行う。必要な補正を行う。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60

第4回	策定した個人の学習課題と共通学習課題について学習し、課題を確認する。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60
第5回	策定した個人の学習課題と共通学習課題について学習する。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60
第6回	策定した個人の学習課題と共通学習課題について学習する。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60
第7回	映画などの視覚教材、文化教材を使用し、ブレイク学習として受講者の関心、レベル、要望に即した応用学習を行う。	
	使用教材について、必要な予習をしてくる。	60
第8回	前半期に策定した個人の学習課題と共通課題の達成度を確認し、後半期の学習課題を再構築する。	
	これまでの学習課題について、振り返り（点検）し、自己の課題を再確認してくる。	60
第9回	第8回で策定した個人学習の課題と共通課題の後半期の学習案を行う。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60

第10回	後半期の個人学習の課題と共通課題の学習案を行う。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60
第11回	後半期の個人学習の課題と共通課題の学習案を行う。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60
第12回	後半期の個人課題と共通課題の学習案を行う。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60
第13回	後半期の個人学習の課題と共通課題の学習案を引き続き実施するか、映画などの視覚教材、文化教材を使用し、受講者の関心、レベル、要望に即した応用学習を行う。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。または応用教材について必要な予習をしてくる。	60
第14回	個人学習の課題と共通課題に即した達成度の確認のためにテスト（口頭・筆記試験）を行う。	
	これまでに使用した教材、学習課題について、必要な復習をしてくる。	120
第15回	まとめ。試験結果を含めて、学習状況、学習課題の達成度、今後の課題などを点検し、理解を深める。	
	これまでの学習状況、学習課題などについて、自分自身の考えをまとめてくる（自己省察）。	30

授業の方法

・学習者の習得度、関心など（個人差）により、受講者と教員が相談しながらそれぞれに適した学習課題と学習法の基本枠を見つけ、類似する内容より、グループまたは個人学習を行います。
・教材は、講読教材、映像教材、演習問題など、学習者の要望を基に選定し、学習課題を達成していきます。教材により学習対象の多様化を実現し、文法力、語彙力の補充補強点を効果的に見出し、各自の運用力を高めていきます。
・受講者の学習ニーズによるグループ化を行い、授業時間を活用し、フレキシブルな授業（学習時間）を作りだしていきます。具体的には、受講者の状況により、一つの授業時間を前半、後半に分ける、隔週で課題設定による学習を行うなどを考えています。これによりクラス学習という枠組みを基盤にしながら、受講者の個人差に応じた授業づくりを生み出していく予定です。
・受講者の状況により、複数の学習内容が想定されます。
・学習者それぞれに必要な個人課題と共同学習の課題について、必要な予習、復習により課題が達成されているかどうか確認します。

成績評価の方法

・達成度確認試験（50%）、平常点（授業への参加状況、学習状況　50%）などを総合して評価します。
・試験の代わりに授業内での学習成果発表などに切り替える場合もあります。

成績評価の基準

・成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
・学期はじめに策定する受講者それぞれの学習課題の進展、達成目標への取り組み、共通課題への取り組み、達成目標の進展度を評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・基礎中国語、中国語各種演習、中国語会話など

テキスト

・プリント配布

参考書

・授業時に紹介、指定します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

・学内専用ホームページで周知します。

科目名	中国語演習発展　（パワーアップ・学習の玉手箱II）		
教員名	湯山　トミ子		
科目ナンバー	1001085546	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

　中国語学習歴２年（基礎学習の上に講読などの学習経験を持つ学習者）以上の中級学習者を対象とする授業です。学習歴２年以上といっても、実際の学習時間、関心などにより、個人差も大きいと思います。中国語を用いてさまざま内容を見たり、聞いたり、読んだりしたい人、中国語の基礎力（語彙力や文法力など）を確かなものにしたい人、中国語を使ったコミュニケーションをもっと幅広く体験してみたい人など、いろいろなニーズがあると思います。本授業は、基礎学習後の学習者がもつさまざまな要望、特徴に配慮しながら、運用力を伸ばし、中国語によるコミュニケーションをより確かで豊かなものに成長させていくためのパワーアップを目指しています。具体的には、学習者のレベル、関心、習得度に配慮して、個人差を活かした学習を提供できる授業づくりをいろいろな方法で実現していく予定です。「学習の玉手箱」という授業副題のとおりです。学習歴２年以上の人は自分のレベルにこだわらず、思い切って参加してみてください。フレキシブルな学習課題と学習法の中から、受講者自身のニーズを基にした授業を作り出し、その成果を体得していけるはずです。なお、本授業は、中国語演習発展（パワーアップ・学習の玉手箱）Ｉ に継続して行われます。Ｉからの継続履修により、より確実で効果的な学習を実現することができるでしょう。

到達目標

・学習者の目的、レベルと特徴(習得度・関心)などに基づき、苦手な課題をフォローしながら学力を増進できる
・中国語検定試験3級、2級レベルを目標として掲げ、達成するための学習法を身に着けることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス （学習者の学習要望の聴取、確認） 学習者の学習状況に合わせた個人学習とグループ学習の基本設計、教材の選定などについて相談し、試案作りをする。	
	特に学習準備は不要である。 自己のこれまでの学習状況、これからの学習要望、達成目標など、できるだけ明確にしてくる。	20
第2回	第１回目の授業での相談に基づき、学習者の学習状況に合わせた個人学習とグループ学習の試案を行う。	
	第１回目に相談し、選定した教材、学習内容について、必要な予習をしてくる。	60
第3回	第２回目の授業の進捗に基づき、継続学習を行う。必要な補正を行う。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60

第4回	策定した個人の学習課題と共通学習課題について学習し、課題を確認する。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60
第5回	策定した個人の学習課題と共通学習課題について学習する。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60
第6回	策定した個人の学習課題と共通学習課題について学習する。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60
第7回	映画などの視覚教材、文化教材を使用し、ブレイク学習として受講者の関心、レベル、要望に即した応用学習を行う。	
	使用教材について、必要な予習をしてくる。	60
第8回	前半期に策定した個人の学習課題と共通課題の達成度を確認し、後半期の学習課題を再構築する。	
	これまでの学習課題について、振り返り（点検）し、自己の課題を再確認してくる。	60
第9回	第8回で策定した個人学習の課題と共通課題の後半期の学習案を行う。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60

第10回	後半期の個人学習の課題と共通課題の学習案を行う。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60
第11回	後半期の個人学習の課題と共通課題の学習案を行う。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60
第12回	後半期の個人課題と共通課題の学習案を行う。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。	60
第13回	後半期の個人学習の課題と共通課題の学習案を引き続き実施するか、映画などの視覚教材、文化教材を使用し、受講者の関心、レベル、要望に即した応用学習を行う。	
	選定した教材、学習課題について、必要な予習と復習をしてくる。または応用教材について必要な予習をしてくる。	60
第14回	個人学習の課題と共通課題に即した達成度の確認するためにテスト（口頭・筆記試験）を行う。	
	これまでに使用した教材、学習課題について、必要な復習をしてくる。	120
第15回	まとめ。試験結果を含めて、学習課題の達成、課題などについて点検し、理解を深める。	
	これまでの学習状況、学習課題などについて、自分自身の考えをまとめてくる（自己省察）。	30

授業の方法

・学習者の習得度、関心など（個人差）により、受講者と教員が相談しながらそれぞれに適した学習課題と学習法の基本枠を見つけ、類似する内容より、グループまたは個人学習を行います。
・教材は、講読教材、映像教材、演習問題など、学習者の要望を基に選定し、学習課題を達成していきます。教材により学習対象の多様化を実現し、文法力、語彙力の補充補強点を効果的に見出し、各自の運用力を高めていきます。
・受講者の学習ニーズによるグループ化を行い、授業時間を活用し、フレキシブルな授業（学習時間）を作りだしていきます。具体的には、受講者の状況により、一つの授業時間を前半、後半に分ける、隔週で課題設定による学習を行うなどを考えています。これによりクラス学習という枠組みを基盤にしながら、受講者の個人差に応じた授業づくりを生み出していく予定です。
・受講者の状況により、複数の学習内容が想定されます。
・学習者それぞれに必要な個人課題と共同学習の課題について、必要な予習、復習により課題が達成されているかどうか確認します。

成績評価の方法

・達成度確認試験（50%）、平常点（授業への参加状況、学習状況　50%）などを総合して評価します。
・試験の代わりに授業内での学習成果発表などに切り替える場合もあります。

成績評価の基準

・成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
・学期はじめに策定する受講者それぞれの学習課題の進展、達成目標への取り組み、共通課題への取り組み、達成目標の進展度などを評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・基礎中国語、中国語各種演習、中国語会話など

テキスト

・プリント配布

参考書

・授業時に紹介、指定します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

・学内専用ホームページで周知します。

科目名	中国語演習　発展　（中国語会話Ⅴ）		
教員名	凌　慶成		
科目ナンバー	1101085547	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

中国語演習発展(中国語会話Ⅴ)は学生が中国語を口頭で応用する力を高めることを目的とする授業です。開講会話授業の最終レベルにあたるため、むずかしいと敬遠する学生も少なくないようですが、初級→中級→上級というのは、それぞれ目指していく目標であり、すでに最終レベル、上級レベルに到達した学生が受講するクラスという意味ではありません。中級レベルまでの会話を一通り学んだ学習者は、これまでの力を基盤にしながらレベルアップを目標に、積極的に授業に参加してみてください。きっと今のレベルをさらに高める学習に喜びを見出せることでしょう。

到達目標

最初は簡単な内容からスタートし、これまで学んだ中国語の知識の復習と強化を行い、学習状況に応じて進度を速めていく。後半になると比較的難易度の高い内容になっていくので、習得度を見ながら授業を進めていく。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業では、まず、ウォーミングアップとして学生に自己紹介をしてもらい、今まで勉強したことを簡単な中国語でまとめてもらいましょう。学生の基礎知識を確認したあと、履修者と相談して選定した教材やトピックに基づく会話演習を始めます。トピックは、食生活、住宅事情、旅行と出入国、読書、自然と気候、病気と治療、スポーツ、舞台芸術、民族音楽、名人伝記など、学習者の関心のあるものを考えています。トピック学習、対話型スキット練習などでは、中国語の基礎語彙を増やし、自然な表現を身に付けることを目指します。	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第2回	中華料理(上)	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第3回	中華料理（下）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分

第4回	近代化の上海（上）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第5回	近代化の上海（下）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第6回	ネットワークの生活（上）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第7回	ネットワークの生活（下）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第8回	中国の気候（上）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第9回	中国の気候（下）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分

第10回	中国の経済変化（上）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第11回	中国の経済変化（下）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第12回	買い物（上）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第13回	買い物（下）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第14回	筆記試験	
	筆記試験の実施。	60分
第15回	総まとめ	
	最終仕上げ。	60分

授業の方法

授業は、配られたプリントを十分に予習したうえで、授業中に文章内容をめぐって議論を展開する方法で進めます。先生からの質問に答えるだけでなく、思いついたことに対して質問したり、自分なりの見解を述べたりするような練習により、語彙表現を増やし、口語レベルの更なる向上を目指します。
より詳細な授業計画や方法については授業にて直接指示しますが、授業の進捗によっては、内容を一部変更する場合があります。なお、準備学修（予習・復習、授業外の課題）は中国語学習において必要不可欠な要素です。授業外での学習にも積極的に取り組んでください。

成績評価の方法

出席率、授業態度、予習の出来ばえ、レポートなどを総合的に評価します。中国語の勉強に興味を持っ学生が奮って参加することを待ち望んでいます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語会話Ⅰ～Ⅳ

テキスト

プリントを配布します

参考書

特に参考書は必要としませんが、小学館、講談社など、中型レベルの『中日辞典』を用意してほしいです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語演習　発展　（中国語会話VI）		
教員名	凌　慶成		
科目ナンバー	1101085548	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

中国語演習発展(中国語会話VI)は学生が中国語を口頭で応用する力を高めることを目的とする授業です。開講会話授業の最終レベルにあたるため、むずかしいと敬遠する学生も少なくないようですが、初級→中級→上級というのは、それぞれ目指していく目標であり、すでに最終レベル、上級レベルに到達した学生が受講するクラスという意味ではありません。中級レベルまでの会話を一通り学んだ学習者は、これまでの力を基盤にしながらレベルアップを目標に、積極的に授業に参加してみてください。きっと今のレベルをさらに高める学習に喜びを見出せることでしょう。

到達目標

最初は簡単な内容からスタートし、これまで学んだ中国語の知識の復習と強化を行い、学習状況に応じて進度を速めていく。後半になると比較的難易度の高い内容になっていくので、習得度を見ながら授業を進めていく。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	前期に続いて、後期も教材、あるいはトピックテーマにより学習していきます。トピックテーマは、人間と科学、民主主義制度、国民の平均寿命、現代社会、日本の企業、教育制度、金融と為替、株投資、テレビとマスコミ、宗教信仰など、学習者の関心の高いものを考えています。前期の学習の基盤の上に、基礎語彙を増やしながら、よりたくさんの自然な表現を身に付け、使えるようにしていきましょう。	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第2回	観光（上）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第3回	観光（下）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分

第4回	中国の医療（上）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第5回	中国の医療（下）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第6回	近代化の上海（上）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第7回	近代化の上海（下）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第8回	ネットワークの生活（上）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第9回	ネットワークの生活（下）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分

第10回	若い人の消費観（上）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第11回	若い人の消費観（下）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第12回	春節を祝う（上）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第13回	春節を祝う（下）	
	授業は新出語彙の読み方をしっかり覚えるため反復練習した上で、文法ポイントを確認に、会話や作文する。	60分
第14回	筆記試験	
	筆記試験の実施。	60分
第15回	総まとめ	
	最終仕上げ。	60分

授業の方法

基本教材を基盤にしながら基礎練習を行い、さらにできるだけ議論を展開したり、スキット学習をしたりする方法で進めます。先生からの質問に答えるだけでなく、思いついたことに対して質問したり、自分なりの見解を述べたりするような練習により、語彙表現を増やし、口語レベルの更なる向上を目指します。
より詳細な授業計画や方法については授業にて直接指示しますが、授業の進捗によっては、内容を一部変更する場合があります。なお、準備学修（予習・復習、授業外の課題）は中国語学習において必要不可欠な要素です。授業外での学習にも積極的に取り組んでください。

成績評価の方法

出席率、授業態度、予習の出来ばえ、レポートなどを総合的に評価します。中国語の勉強に興味を持つ学生が奮って参加することを待ち望んでいます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語会話Ⅰ～Ⅳ、中国語演習発展(中国語会話Ⅴ)

テキスト

教材については、前期の学習状況と到達度に応じて調整して選定します。

参考書

特に参考書は必要としませんが、小学館、講談社など、中型レベルの『中日辞典』を用意してほしいです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ドイツ語会話Ⅰ ＜1＞		
教員名	赤池　エルフリーデ		
科目ナンバー	1101086210	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

この授業ではドイツ語会話を練習します。ドイツ語の初心者、ドイツ語会話が始めての学生、ドイツ語会話を復習したい学生のための授業です。ドイツ語圏の国々への旅行や、短期留学、留学を考えている皆さんも歓迎です。様々な日常生活の場面での会話を通じてドイツ語圏の国々の習慣や文化にも触れて行きます。

到達目標

教科書に沿って色々なテーマを取り上げ、ドイツ語会話を練習します。
例文を聴く、読む、これらの語彙や慣用句、言い回し（イディオム）を学びます。会話に必要な文構造や文法事項をパートナーやグループワークの練習で身につけます。役割分担によって自由に話せる練習も行いたいと思います。その際、発音練習にも重点が置かれます。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス：　授業のやり方と進め方、成績評価の説明、 教科書の使い方など、　ドイツ語について	
	復習	15分
第2回	（第一課）　Guten Tag. Mein Name ist ... 挨拶と自己紹介の言葉を学ぶ。	
	復習	15分
第3回	Ich komme aus Finnland. 出身時について ヨーロッパの国々と言語について学ぶ。 動詞の人称変化I	
	復習	15分

第4回	（第二課）　Familie und Freunde ストーリの聞き取り練習 Wie geht's?　　対話練習	
	復習	15分
第5回	Sie wohnt in der Baaderstrasse. 第三者の紹介　　対話練習 動詞人称変化II	
	復習	15分
第6回	Zahlen und Personalien 数字の学習　　申し込み用紙の記入 名詞を読む　　ホテルでの対話	
	復習	15分
第7回	Wer? Wo? Was?　ゲーム メールや葉書を読む、書く 所有代名詞	
	復習	15分
第8回	（第三課）　Essen und Trinken ストーリの聞き取る練習　　対話練習	
	復習	15分
第9回	Haben Sie Aepfel? 買い物での対話を練習する。 複数形ゲーム ちらしを読む　　値段の言い方	
	復習	15分

第10回	Mein Lieblingsessen 食習慣について話す。 レストランでの注文　　ロールプレイ	
	復習	15分
第11回	Wir machen Kartoffelsalat. ドイツの食文化について レシピを読む、　書く	
	復習	15分
第12回	Meine Wohnung ストーリの聞き取る練習 ドイツの住まい文化について	
	復習	15分
第13回	Du hast aber schoene Moebel. 家と家具について 形容詞　　対話練習	
	復習	15分
第14回	一学期のまとめ　　期末テストの説明 授業のアンケート	
	復習	15分
第15回	期末テスト	
	復習	15分

授業の方法

授業はパートナーやグループワークを中心に行いますので積極的に参加して下さい。

成績評価の方法

期末テスト５０%、平常点５０%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Schritte international 1 (Kursbuch + Arbeitsbuch) Hueber ISBN: 978-3-19-001851-2

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ドイツ語会話Ⅰ ＜2＞		
教員名	泉　ボグミワ		
科目ナンバー	1101086210	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

現代ドイツ語の生きた話し言葉による会話の練習を行なう。教科書に沿って学習を進める。特に日常会話でよく使われる基本的な表現に重点をおく。文例の音読、会話の練習と並行して、基礎的な文法を一通り学べるようにする。ドイツ語圏諸国の事情、風俗習慣、文化などについての知識も得られるようにする

到達目標

ドイツ語の基礎を習得し、簡単な日常会話ができるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション 教科書は、会話の部分と、短い文章の部分から成っている。この教材を用いて、会話、音読の練習をし、それと並行して文法事項も学ぶ。授業中、できるだけ学生同士での会話の練習もする。	
	第1回授業の後、教科書全体に目を通す。	30分
第2回	アルファベットと発音の練習。	
	自宅で発音を練習する。	60分
第3回	第1課　互いに紹介する 現在人称変化1・2人称	
	学習した内容を復習する。	60分

第4回	第2課　何をするのが好きですか？ 現在人称変化　sein, haben １・２人称	
	学習した内容を復習する。	60分
第5回	第3課　友達を紹介する 現在人称変化3人称、数詞21－1000	
	学習した内容を復習する。	60分
第6回	第1課－第3課の復習	
	これまでに学習した文法事項を復習する。	60分
第7回	第4課　部屋で 主語１格、時刻	
	学習した内容を復習する。	60分
第8回	第５課　きょうだいはいますか？ 目的語４格、所有冠詞、複数	
	学習した内容を復習する。	60分
第9回	第6課　誕生日に 間接目的語3格、人称代名詞	
	学習した内容を復習する。	60分

第10回	第4課－第6課の復習	
	第4課－第6課で学んだ文法事項を復習する。	60分
第11回	第7課　買い物 定冠詞類、序数・月日	
	学習した内容を復習する。	60分
第12回	第8課　学生生活 不規則動詞、zu不定詞	
	学習した内容を復習する。	60分
第13回	第9課　道案内 前置詞の格支配、命令文	
	学習した内容を復習する。	60分
第14回	前期の総復習	
	前期に学んだ事柄、特に文法事項を総復習する。	120分
第15回	学期テスト	
	特になし。	なし

授業の方法
教科書を使用し、初めから順を追って学習する。ビデオ教材も使用する。折に触れて、プリントなども配布する。

成績評価の方法
出席率、平常点および試験で評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
Dialog --- ドイツ語へのキックオフ　Vers.5　　近藤　弘他　郁文堂

参考書
授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ドイツ語会話II ＜1＞		
教員名	赤池　エルフリーデ		
科目ナンバー	1101086220	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この授業ではドイツ語会話を練習します。ドイツ語の初心者、ドイツ語会話のはじめての学生、ドイツ語会話を復習したい学生のための授業です。ドイツ語圏の国々への旅行や、短期留学、留学を考えている皆さんも歓迎です。様々な日常生活の場面での会話を通じてドイツ語圏の国々の習慣や文化にも触れて行きます。

到達目標

教科書に沿って色々なテーマを取り上げ、ドイツ語会話を練習します。
例文を聴く、読む、これらの語彙や慣用句、言い回し（イディオム）を学びます。会話に必要な文構造や文法事項をパートナーやグループワークの練習で見につけます。役割分担によって自由に話せる練習も行いたいと思います。その際、発音練習にも重点が置かれます。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：　授業の説明 前期の復習	
	復習	15分
第2回	Wohnungsanzeigen 新聞の広告を読む 色々なライフスタイルについて	
	復習	15分
第3回	Die Adresse ist... ドイツの街並み雰囲気について 手紙やメールを読む、　書く	
	復習	15分

第4回	(第五課)　Mein Tag ストーリの聞き取る練習 一日の日程について	
	復習	15分
第5回	Wie spaet ist es? 時刻表現を学ぶ 毎日の過ごし方について	
	復習	15分
第6回	Ich stehe von Montag bis Freitag um halb acht auf. 一週間のスケジュールを語る、　書く 分離動詞	
	復習	15分
第7回	Ein Tag in Berlin. ドイツの首都ベルリンについて ベルリンでの一日滞在	
	復習	15分
第8回	(第六課)　Freizeit ストーリの聞き取る練習 天候について	
	復習	15分
第9回	Sie haben ja einen Jogginganzug, oder? 買い物について レストランのメニューを読む	
	復習	15分

第10回	Freizeit und Hobbys 趣味について　　週末の過ごし方 メールを読む、書く	
	復習	15分
第11回	(第七課)　Lernen - ein Leben lang ストーリの聞き取る練習 習い事について語る	
	復習	15分
第12回	Corinna will einen Tangokurs machen. 未来時制　　対話練習 助動詞	
	復習	15分
第13回	Hast du das gehoert, Koko? 過去時制　　対話練習 完了形	
	復習	15分
第14回	一学期のまとめ　　期末テストの説明 授業のアンケート	
	復習	15分
第15回	期末テスト	
	復習	１５分

授業の方法

授業はパートナーやグループワークを中心に行いますので積極的に参加して下さい。

成績評価の方法

期末テスト５０%、平常店５０%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Schritte international 1　(Kursbuch + Arbeitsbuch)　Hueber　ISBN 978-3-19-001851-2

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ドイツ語会話II ＜2＞		
教員名	泉　ボグミワ		
科目ナンバー	1101086220	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

現代ドイツ語の生きた話し言葉による会話の練習を行なう。教科書に沿って学習を進める。特に日常会話でよく使われる基本的な表現に重点をおく。文例の音読、会話の練習と並行して、基礎的な文法を一通り学べるようにする。ドイツ語圏諸国の事情、風俗習慣、文化などについての知識も得られるようにする

到達目標

ドイツ語の基礎を習得し、簡単な日常会話ができるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション 前期と同じく、教材を用いて、会話、音読の練習をし、それと並行して文法事項も学ぶ。授業中、できるだけ学生同士での会話の練習もする。	
	教科書全体に目を通す。	30分
第2回	第10課　週末の予定 前置詞の格支配、前置詞と冠詞の融合、um...zu不定詞	
	学習した内容を復習する。	60分
第3回	読み物1　ブレーメン 所有格2格、形容詞1	
	学習した内容を復習する。	60分

第4回	第11課　電話で約束する 分離動詞	
	学習した内容を復習する。	60分
第5回	第12課　インフォメーションで 話法の助動詞	
	学習した内容を復習する。	60分
第6回	第13課　一日の過ごし方 再帰動詞	
	学習した内容を復習する。	60分
第7回	第14課　週末のできごと 現在完了・過去分詞の作り方	
	学習した内容を復習する。	60分
第8回	第15課　メールと履歴書 現在完了2・過去	
	学習した内容を復習する。	60分
第9回	読み物2　ブレーメンの音楽隊 過去人称変化	
	学習した内容を復習する。	60分

第10回	第16課　サイクリングに行こう 副文・比較表現	
	学習した内容を復習する。	60分
第11回	第17課　パーティーで 関係代名詞、形容詞2	
	学習した内容を復習する。	60分
第12回	第18課　ハンブルクへ行く 接続法	
	学習した内容を復習する。	60分
第13回	読み物3　メルヘン街道 受動態	
	学習した内容を復習する。	60分
第14回	後期の総復習	
	後期に学んだ事柄、特に文法事項を総復習する。	120分
第15回	学期テスト	
	特になし。	なし

授業の方法
教科書を使用し、初めから順を追って学習する。ビデオ教材も使用する。折に触れて、プリントなども配布する。

成績評価の方法
出席率、平常点および試験で評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
Dialog --- ドイツ語へのキックオフ　Vers.5　　近藤　弘他　郁文堂

参考書
授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ドイツ語会話III		
教員名	泉　ボグミワ		
科目ナンバー	1101086230	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

現代ドイツ語の生きた話し言葉による会話の練習を行なう。教科書に沿って学習を進める。特に日常会話でよく使われる基本的な表現に重点をおく。文例の音読、会話の練習と並行して、基礎的な文法を一通り学べるようにする。ドイツ語圏諸国の事情、風俗習慣、文化などについての知識も得られるようにする

到達目標

ドイツ語の基礎を習得し、簡単な日常会話ができるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション 教科書は、会話の部分と、短い文章の部分から成っている。この教材を用いて、会話、音読の練習をし、それと並行して文法事項も学ぶ。授業中、できるだけ学生同士での会話の練習もする。	
	第1回授業の後、教科書全体に目を通す。	30分
第2回	アルファベットと発音の練習。	
	自宅で発音を練習する。	60分
第3回	第1課　互いに紹介する 現在人称変化1・2人称	
	学習した内容を復習する。	60分

第4回	第2課　何をするのが好きですか？ 現在人称変化　sein, haben １・２人称	
	学習した内容を復習する。	60分
第5回	第3課　友達を紹介する 現在人称変化3人称、数詞21－1000	
	学習した内容を復習する。	60分
第6回	第1課－第3課の復習	
	これまでに学習した文法事項を復習する。	60分
第7回	第4課　部屋で 主語１格、時刻	
	学習した内容を復習する。	60分
第8回	第５課　きょうだいはいますか？ 目的語４格、所有冠詞、複数	
	学習した内容を復習する。	60分
第9回	第6課　誕生日に 間接目的語3格、人称代名詞	
	学習した内容を復習する。	60分

第10回	第4課－第6課の復習	
	第4課－第6課で学んだ文法事項を復習する。	60分
第11回	第7課　買い物 定冠詞類、序数・月日	
	学習した内容を復習する。	60分
第12回	第8課　学生生活 不規則動詞、zu不定詞	
	学習した内容を復習する。	60分
第13回	第9課　道案内 前置詞の格支配、命令文	
	学習した内容を復習する。	60分
第14回	前期の総復習	
	前期に学んだ事柄、特に文法事項を総復習する。	120分
第15回	学期テスト	
	特になし。	なし

授業の方法

教科書を使用し、初めから順を追って学習する。ビデオ教材も使用する。折に触れて、プリントなども配布する。

成績評価の方法

出席率、平常点および試験で評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

Dialog --- ドイツ語へのキックオフ　Vers.5　　近藤　弘他　郁文堂

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ドイツ語会話IV		
教員名	泉　ボグミワ		
科目ナンバー	1101086240	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

現代ドイツ語の生きた話し言葉による会話の練習を行なう。教科書に沿って学習を進める。特に日常会話でよく使われる基本的な表現に重点をおく。文例の音読、会話の練習と並行して、基礎的な文法を一通り学べるようにする。ドイツ語圏諸国の事情、風俗習慣、文化などについての知識も得られるようにする

到達目標

ドイツ語の基礎を習得し、簡単な日常会話ができるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション 前期と同じく、教材を用いて、会話、音読の練習をし、それと並行して文法事項も学ぶ。授業中、できるだけ学生同士での会話の練習もする。	
	教科書全体に目を通す。	30分
第2回	第10課　週末の予定 前置詞の格支配、前置詞と冠詞の融合、um...zu不定詞	
	学習した内容を復習する。	60分
第3回	読み物1　ブレーメン 所有格2格、形容詞1	
	学習した内容を復習する。	60分

第4回	第11課　電話で約束する 分離動詞	
	学習した内容を復習する。	60分
第5回	第12課　インフォメーションで 話法の助動詞	
	学習した内容を復習する。	60分
第6回	第13課　一日の過ごし方 再帰動詞	
	学習した内容を復習する。	60分
第7回	第14課　週末のできごと 現在完了・過去分詞の作り方	
	学習した内容を復習する。	60分
第8回	第15課　メールと履歴書 現在完了2・過去	
	学習した内容を復習する。	60分
第9回	読み物2　ブレーメンの音楽隊 過去人称変化	
	学習した内容を復習する。	60分

第10回	第16課　サイクリングに行こう 副文・比較表現	
	学習した内容を復習する。	60分
第11回	第17課　パーティーで 関係代名詞、形容詞2	
	学習した内容を復習する。	60分
第12回	第18課　ハンブルクへ行く 接続法	
	学習した内容を復習する。	60分
第13回	読み物3　メルヘン街道 受動態	
	学習した内容を復習する。	60分
第14回	後期の総復習	
	後期に学んだ事柄、特に文法事項を総復習する。	120分
第15回	学期テスト	
	特になし。	なし

授業の方法
教科書を使用し、初めから順を追って学習する。ビデオ教材も使用する。折に触れて、プリントなども配布する。

成績評価の方法
出席率、平常点および試験で評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
特になし。

テキスト
Dialog --- ドイツ語へのキックオフ　Vers.5　　近藤　弘他　郁文堂

参考書
授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランス語会話Ⅰ ＜1＞		
教員名	サックス　ジェラール		
科目ナンバー	1101086310	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

会話表現学習のために編まれた教科書『フランス語２０２０』を使って授業を進めます。フランス語会話Ⅰは、フランス人教員が担当し、フランス語をじかに聞き、じかに話すという実践的会話力を身につけるとともに、基礎フランス語の確実な理解を目指します。

到達目標

この授業では、基礎的な文法の知識を身につけながら、フランス語のコミュニケーション能力を養うことを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	教科書の構成に従い概ね以下の内容を学習します。 １－（１） 名前、国籍、出身地、数の表現（その１）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第2回	１－（１） 名前、国籍、出身地、数の表現（その２）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第3回	１－（２）住んでいるところ、数の表現、年齢（その１）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０

第4回	１－（２）住んでいるところ、数の表現、年齢（その２）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第5回	１－（３）職業、言語、数の表現（その１）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第6回	１－（３）職業、言語、数の表現（その２）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第7回	１－（４）好き嫌い（その１）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第8回	１－（４）好き嫌い（その２）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第9回	２－（１）月曜から日曜まで（その１）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０

第10回	２－（１）月曜から日曜まで（その２）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第11回	２－（２）起きてから寝るまで（その１）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第12回	２－（２）起きてから寝るまで（その２）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第13回	２－（３）すること、しないこと（その１）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第14回	２－（３）すること、しないこと（その２）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第15回	前期試験	
	授業で学んだことをよく復習しておくこと。	各自で決める。

授業の方法

一つの課を2回にわたって学習します。１回目の時、リスニングと発音の練習をしながら、文法や言い回しに慣れます。2回目では学んだ言葉や言い回しを使用し、会話の練習（ロールプレー）をしながら、質問への答え方や会話の進め方を習得します。それと同時に、宿題を通じて、書く能力を学んでもらいます。小テスト（聞き取り、ミニ作文）ではそれまでに学んだ知識をチェックします。

成績評価の方法

授業への積極的な出席を基本とする平常点（10%）、課題や小テスト（10%）、期末試験の成績（80%）を考慮して総合的に判断する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

登録必須のフランス語基礎ＢＩ（文法クラス）での勉強を怠らないこと。

テキスト

中川努、中井珠子、曽我祐典著　『フランス語2020』　（白水社、2011、　ISBN978-4-560-06105-3）

参考書

Le Dico 仏和辞典　（フランス語の辞書は必ず購入しておくこと）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランス語会話Ⅰ ＜2＞		
教員名	デゥボー　フロランス		
科目ナンバー	1101086310	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

フランス語の初級のクラスです。
フランス語を聞く、読む、書く、話す。

フランス語のの日常生活に使う表現を習得する。
＊基本文法を使いながら、フランス語の表現を学んで、質問・答えを身につけて会話を作る。
＊日常のくだけた言い方からフォーマルな表現までの言い方のバリエーションを増やす。
＊物事を比べて、意見、感想を言う。
フランスを始め、フランス語圏の国々を発見し、鑑賞する。

テーマ：自己紹介、好み、余暇・日常生活（買い物、行動）
　　物・人の描写、物の位置づけ、旅

文法：　動詞の直法現在形、名詞、形容詞

到達目標

コミュニケーション到達目標：
＊オラールコミュニケーションで質問・答えを交わすスピードをあげて、コミュニケーションをとるようにする。
＊筆記コミュニケーションの練習：学んだ表現をメールで生かし、実際にコミュニケーションができるようになる。
出来事、経験、過程、プランを簡単に語るようになる。
意見を述べるようにする。

テーマの到達目標：自己紹介、好み、余暇・日常生活（買い物、行動）
　　物、人の描写・物の位置づけ、旅

文法の到達目標：　動詞の直法現在形、名詞と形容詞の性別・単数・複数に慣れる

文化の知識：フランスを始め、フランス語圏の国々について、知識を増やせる。

＊EUで認められたフランス語能力試験（DELF A1)や日本の仏検の４～３級向けのフランス語能力を鍛える。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション 　　アルファベット、数字、挨拶、クラスに使う表現	
	教科書に慣れるために、最初授業の前に教科書の構成を見ておく。	30分
第2回	L 1　自己紹介　　フランス語の発音の基本	
	L 1　の復習　（CDをもう一度聞いて、練習をもう一度やってみる。本文を音読する。）	60分
第3回	L 2　日常生活の買い物　　冠詞、名詞の性	

	L 2　の復習　（CDをもう一度聞いて、練習をもう一度やってみる。本文を音読する。）	60分
第4回	L 3　旅に出る　（フランス語の to be,to have）現在形	
	L 3　の復習　（CDをもう一度聞いて、練習をもう一度やってみる。本文を音読する。）	60分
第5回	L 4　趣味 aimer （= to like, to love）のような動詞の活用	
	L 4　の復習　（CDをもう一度聞いて、練習をもう一度やってみる。本文を音読する。）するとともに今まで勉強した課題を復習もする。次のクラスに、学んだ表現を速く書かなければならないので書く練習も行う。	60～90分
第6回	（コンピューターを使って、フランス語圏の人とメール交換を始める。）	
	作成したメールの内容確認と自らの訂正をしてみる。	60分
第7回	L 5　日常生活の買い物　　部分冠詞	
	L 5　の復習　（CDをもう一度聞いて、練習をもう一度やってみる。本文を音読する。）	60分
第8回	L 6　意見、判断　　形容詞	
	L 6　の復習　（CDをもう一度聞いて、練習をもう一度やってみる。本文を音読する。） 次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味を調べる。	60分
第9回	L 7　誘い、招待　　aller, venir （= to go, to come）	

	L 7　の復習　（CDをもう一度聞いて、練習をもう一度やってみる。本文を音読する。） 次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味を調べる。 書く宿題：メールを作成と送信し,教員に提出	60分
第10回	L 8　レストラン、喫茶店にて prendre, faire (=to take, to do or to make)	
	L 8　の復習　（CDをもう一度聞いて、練習をもう一度やってみる。本文を音読する。） 次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味を調べる。	60～90分
第11回	L 9　　遊びに行く　　partir,sortir etc.（不規則動詞）	
	L 9　の復習　（CDをもう一度聞いて、練習をもう一度やってみる。本文を音読する。） 次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味を調べる。	60分
第12回	L 10　可能なこと、願い、期待、しなければならない事 (vouloir, pouvoir, savoir,devoir = to want, can or may, to know or can, must)	
	L10　の復習（CDをもう一度聞いて、練習をもう一度やってみる。本文を音読する。） 次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味を調べる。	60分
第13回	L 11　一日の生活　　代名動詞（現在形） (se lever, se coucher 等＝ 起きる、寝る等)	
	L 11　の復習　（CDをもう一度聞いて、練習をもう一度やってみる。本文を音読する。） 書く宿題：メール作成、送信し、教員に提出 期末口頭テストの準備に入る。	60～90分
第14回	前期の勉強を振り替えて、復習する。	
	期末口頭テストの準備	期末口頭テストの準備のための必要な時間を取る。 90分以上は目安
第15回	期末口頭テスト	

	期末口頭テストの内容を自分で訂正してみる。	60分

授業の方法

予習：
特別なし。

授業法：
教材の資料を使用し　(CDを聞く、読む、書く)、新しい単語、言い回しに慣れてから、話す練習する。文法のドリルを行う。
最後にオーラルコミュニケーションの練習：会話を作る。

復習：
必ず行う。(準備学修(予習・復習)欄を参考)
復習は、フランス語学修において不可欠であるので、授業外の学習にも積極的に取り組んでください。

書く宿題：
月一回、筆記コミュニケーションを練習する：書く練習として、学んだ表現を今度メールで生かし、フランス語圏の人とメールで交流する。

＊６回目のクラスは、パスコン室で、フランス語圏の人とメール交換を始める。
＊＊１５回目のクラスは、期末口頭テストとなる。

尚、受講生のフランス語の知識や授業の進捗によって、授業内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席、授業時の積極性(間違っても、たくさん話してみる)(40%)、メール、期末の口頭テスト(60%)。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

フランス語の文法のクラスをとる。

テキスト

Navi.fr　(なびふらんせ)　長崎出版　CD付き・Web<なびふらんせ>ポートフォリオ付き　ISBN978-4-86095-802-2
¥2500＋税

仏和・和仏の辞書を必ず持参する。

参考書

辞書、文法の教科書。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中や授業前後、質問に教室で受け付ける。(水・木)
授業前に質問や相談のある方、早めにお越し下さい。次の授業の開始時間を守るようにしましょう。

科目名	フランス語会話II ＜1＞		
教員名	サックス　ジェラール		
科目ナンバー	1101086320	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

会話表現学習のために編まれた教科書『フランス語２０２０』を使って授業を進めます。フランス語会話Ⅱは、フランス人教員が担当し、フランス語をじかに聞き、じかに話すという実践的会話力を身につけるとともに、基礎フランス語の確実な理解を目指します。

到達目標

この授業では、基礎的な文法の知識を身につけながら、フランス語のコミュニケーション能力を養うことを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	２－（４）すでにしたこと、週末にしたこと（その１）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第2回	２－（４）すでにしたこと、週末にしたこと（その２）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第3回	３－（１）したこと、あったこと（その１）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０

第4回	３－（１）したこと、あったこと（その２）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第5回	３－（２）あのころは・・・（その１）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第6回	３－（２）あのころは・・・（その２）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第7回	３－（３）場所と思い出（その１）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第8回	３－（３）場所と思い出（その２）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第9回	３－（４）出来事と背景（その１）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０

第10回	３－（４）出来事と背景（その２）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第11回	４－（１）描写、印象、意見（その１）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第12回	４－（１）描写、印象、意見（その２）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第13回	４－（２）欲しいもの、好き嫌い、理由（その１）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第14回	４－（２）欲しいもの、好き嫌い、理由（その２）	
	単語を調べる、宿題を解く、例文を音読するなどの予習・復習。	６０
第15回	後期試験	
	授業で学んだことをよく復習しておくこと。	各自で決める。

授業の方法

一つの課を2回にわたって学習します。１回目の時、リスニングと発音の練習をしながら、文法や言い回しに慣れます。2回目では学んだ言葉や言い回しを使用し、会話の練習（ロールプレー）をしながら、質問への答え方や会話の進め方を習得します。それと同時に、宿題を通じて、書く能力を学んでもらいます。小テスト（聞き取り、ミニ作文）ではそれまでに学んだ知識をチェックします。

成績評価の方法

授業への積極的な出席を基本とする平常点（10%）、課題や小テスト（10%）、期末試験の成績（80%）を考慮して総合的に判断する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

登録必須のフランス語基礎BII（文法クラス）での勉強を怠らないこと。

テキスト

中川努、中井珠子、曽我祐典著　『フランス語2020』　（白水社、2011、　ISBN978-4-560-06105-3）

参考書

Le Dico 仏和辞典

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランス語会話II ＜2＞		
教員名	デゥボー　フロランス		
科目ナンバー	1101086320	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

フランス語の初級のクラスです。
フランス語を聞く、読む、書く、話す。

フランス語のの日常生活に使う表現を習得する。
＊基本文法を使いながら、フランス語の表現を学んで、質問・答えを身につけて会話を作る。
＊日常のくだけた言い方からフォーマルな表現までの言い方のバリエーションを増やす。
＊物事を比べて、意見、感想を言う。
フランスを始め、フランス語圏の国々を発見し、鑑賞する。

テーマ：道案内、行き先、交通手段、旅
　　行動、余暇　（バカンス）

文法：　直法現在形、過去形（複合過去）、近接未来

到達目標

コミュニケーション到達の目標：
＊オラールコミュニケーションで質問・答えを交わすスピードをあげて、より自然なフランス語のリズムの近く、会話ができる。
＊筆記コミュニケーションで、メールを少し長くかけるようになる。
出来事、経験、過程、プランを簡単に語るようになる。
意見を述べるようにする。

テーマの到達目標：道案内、行き先、交通手段、旅
　　行動、余暇　（バカンス）　、企画

文法の到達目標：　直法現在形、過去形（複合過去）、近接未来

文化の知識：フランスをはじめ、フランス語圏の国々について、知識を増やせる。

＊EUで認められたフランス語能力試験（DELF A1)や日本の仏検の４～３級向けのフランス語能力を鍛える。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	L 12　過去を語る　　（複合過去）	
	L 12　の復習　（CDをもう一度聞いて、練習をもう一度やってみる。本文の音読する。） ポートフォリオで、L1 を復習する。	60分
第2回	Copie 1　過去を語る：　練習　　（複合過去）	
	Copie 1　の復習 　　（練習をもう一度やってみる。） ポートフォリオで、L2 を復習する。	60分
第3回	Copie 2　Vacances　　（過去を語る：複合過去＋半過去）	

	Copie 2　復習 （練習をもう一度やってみる。） ポートフォリオで、L2 を復習する。	60分
第4回	Copie 3　Projet de week-end　Invitation　（現在形）	
	Copie 3　の復習 （練習をもう一度やってみる。） ポートフォリオで、L3 を復習する。 書く宿題： メールを作成と送信し、教員に提出。	90分
第5回	Copie 4　Projet：留学する　（近接未来）	
	Copie 4　の復習 （練習をもう一度やってみる。） ポートフォリオで、L4 を復習する。	60分
第6回	Copie 5　Recette de cuisine　（料理のレシピ）（命令形）	
	Copie 5　の復習 （練習をもう一度やってみる。） ポートフォリオで、L5 を復習する。	60分
第7回	Copie 6　Raconter un film（見た映画を語る）（現在形）	
	Copie 6　の復習 （練習をもう一度やってみる。） ポートフォリオで、L6 を復習する。	60分
第8回	Copie 7　Raconter un film　（映画を語る）（過去形）	
	Copie 7　の復習 （練習をもう一度やってみる。） ポートフォリオで、L7 を復習する。 書く宿題： メールを作成と送信し、教員に提出。	90分
第9回	Copie 8　Parler de quelqu'un　（人の描写）　（現在形）	

	Copie 8　の復習 （練習をもう一度やってみる。） ポートフォリオで、L8 を復習する。	60分
第10回	ミニプレゼンでフランス語のチャレンジ: Parler d'un artiste　（ミニ発表会）	
	復習（プレゼンをもう一度やってみる。） ポートフォリオで、L9 を復習する。	30分
第11回	Copie 9　Parler des gens　Habitudes （人々の話をする）（習慣）	
	Copie 10　の復習 （練習をもう一度やってみる。） ポートフォリオで、L10 を復習する。	60分
第12回	ミニプレゼンでフランス語のチャレンジ: Parler d'un pays （国の紹介）（ミニ発表会）	
	復習　（練習をもう一度やってみる。） ポートフォリオで、L11 を復習する。 書く宿題： メールを作成と送信し、教員に提出。	90分
第13回	Ecouter et raconter　1　どこ? いつ? 何があった? 現在形	
	復習　（練習をもう一度やってみる。） ポートフォリオで、L12 を復習する。 期末口頭テストの準備に入る。	必要な時間を作る。90分は、目安。
第14回	Ecouter et raconter　2　現在形、過去形、未来形	
	期末口頭テストの準備	必要な時間をかける。９０分は、目安。
第15回	Test oral	

	Test oral 内容を自分で訂正してみる。	60分

授業の方法

予習：
特別なし。

授業法：
教材の資料を使用し　（CDを聞く、読む、書く）、新しい単語、言い回しに慣れてから、話す練習する。文法のドリルを行う。
最後にオーラルコミュニケーションの練習：会話を作る。

復習：
必ず行う。（準備学修（予習・復習）欄を参考）
復習は、フランス語学修において不可欠であるので、授業外の学習にも積極的に取り組んでください。

書く宿題：
月一回、筆記コミュニケーションを練習する：書く練習として、学んだ表現を今度メールで生かし、フランス語圏の人とメールで交流する。

＊６回目のクラスは、パスコン室で、フランス語圏の人とメール交換を始める。
＊＊１５回目のクラスは、期末口頭テストとなる。

尚、受講生のフランス語の知識や授業の進捗によって、授業内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

出席、授業時の積極性（間違っても、たくさん話してみる）（40%）、メール、発表、期末の口頭テスト（60%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

フランス語の文法のクラスを受けること。

テキスト

Navi.fr　（なびふらんせ）　　長崎出版　　CD付き・Web＜なびふらんせ＞ポートフォリオ付き　　ISBN978-4-86095-802-2　¥2500＋税

仏和・和仏の辞書を必ず持参する。

参考書

文法の本、和仏・仏和の辞書等

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中や授業前後に質問を教室で受け付ける。（水・木）
授業前に質問や相談のある方、早めにお越し下さい。次の授業の開始時間を守るようにしましょう。

科目名	フランス語会話III		
教員名	デゥボー　フロランス		
科目ナンバー	1101086330	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

フランス語の初・中級の会話のクラスです。
フランス語を聞く、話す。目標は、フランス語の日常生活に使う表現を習得する。
＊基本的な文法を使いながら、フランス語の表現を学んで、会話する。
＊日常のくだけた言い方からフォーマルな表現までの言い方のバリエーションを増やす。
＊フランスの文化や社会とフランス語圏の国々を発見し、鑑賞する。

テーマ：自分と他人の描写、日常生活、買い物、旅行

文法：冠詞の使い方、形容詞や名詞の性・数、直法現在形、命令形
目的語の人称代名詞

＊当クラスで使用する教科書 Le nouveau taxi! 1で 勉強するとヨーロッパ共通参照枠レベルのA1となり、日本の仏検の４?３級です。

到達目標

コミュニケーションの到達目標：
オラールコミュニケーションの到達目標：質問・答えの速い交わし、会話、簡単な発表でも少し自然に使えるようにする。
筆記コミュニケーション到達目標：メールを書いて、実際にフランス語圏の人と日常生活に関するテーマでコミュニケーションがとれるようにする。

前期のテーマの到達目標：自己紹介、好み、余暇・日常生活（買い物、行動）、旅行
物、人の描写・物の位置づけ

文法の到達目標：　冠詞、直説法現在形、命令形、代名詞を使うことに慣れる。

文化の到達：フランスを始め、フランス語圏の国々について知識を増やす。

＊EUで認められたフランス語能力試験（DELF A1)や日本の仏検の４～３級向けの必要な知識の習得ができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション・自己紹介 (L 1, L 2)　s'appeler, フランス語の be動詞	
	予習：教科書の構成の確認。L1, L2 の文法の項目の確認。復習：本文の音読。	60分
第2回	L3, L4 連絡先を交わす、自描　　avoir, verbes du 1er groupe	
	復習：本文の音読。予習：L5, L6 に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第3回	L5, L6 Localisation, Description	

	復習：本文の音読。予習：L7, L8 に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第4回	L7,L8 Faire des achats, Parler des gens sur des photos　位置づけ	
	今まで勉強した章の復習	60分
第5回	映画を見て、語る。	
	復習。次のクラスに、学んだ表現を速く書かなければならないので書く練習も行う。	60分
第6回	（コンピューターを使って、フランス語圏の人とメール交換を始める。）	
	作成できたフランス語のメールをスペルチェックする。間違った言い回しや表現を自分で訂正する。L9 の予習	60分
第7回	L9 Le logement　位置づけ	
	復習：CDをもう一度聞く。本文の音読する。予習：　L10 に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第8回	L10 Indiquer le chemin　命令形　代名詞の y	
	復習：CDをもう一度聞く。本文の音読する。予習：　L11 に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第9回	L11　Voyage　序数	

	復習：CDをもう一度聞く。本文の音読する。予習：　L12 に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第10回	L12　Parler de sa ville　　ミニ発表会：自分の街の紹介	
	復習：今までの勉強を振り返る。 書く宿題：メール作成	60分
第11回	映画を見て、語る。　　ミニ発表会：理想的な住まい	
	予習：L13に目を通し、未知語の意味を調べる。	60分
第12回	L13　Acheter un billet de train Partir, Prendre　時間を言う	
	復習：CDをもう一度聞く。本文の音読する。予習：　L14 に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第13回	L14 Ryhtme de vie　　Faire　Est-ce que の疑問形	
	復習：CDをもう一度聞いて、本文の音読。前期の勉強範囲で復習を始める。 書く宿題：メール作成	60分
第14回	復習：　映画を見て、語る。 ミニ発表会：メール相手のために日本旅行の企画	
	期末口頭テストの準備	60?90分
第15回	期末口頭テスト	

	期末テストの内容を再確認する。	60分

授業の方法

予習：
各レッスンに必要な語彙を調べる。文法を必ず見ておく。なるべく、授業で自分の話す時間を増やせるようの積極的に予習する。

授業法：
聞く、読む、話す練習する。文法のドリル。会話を作る。

宿題：
月一回、書く練習として、学んだ表現を今度メールで生かし、フランス語圏の人とメールで交流する。

成績評価の方法

出席、授業時の積極性（間違っても、たくさん話してみる）（40%）、メール、発表と期末の口頭テスト（６０%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

フランス語の文法のクラスをとる。
現在形、複合過去、半過去、単純未来を勉強したことがある。

テキスト

Le Nouveau Taxi! 1　　ISBN　9782011555489　　￥3，600+税
DVD-ROM付

和仏・仏和の辞書を必ず持参する。

参考書

辞書、文法の教科書。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中、随時質問を受け付けます。授業前後にも、質問を教室で受け付けます。（水・木）
授業前に質問や相談のあるの方、早めにお越し下さい。次の授業の開始時間を守るようにしましょう。

科目名	フランス語会話IV		
教員名	デゥボー　フロランス		
科目ナンバー	1101086340	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

フランス語の初・中級の会話のクラスです。
フランス語を聞く、話す。目標は、フランス語の日常生活に使う表現を習得する。
＊基本的な文法を使いながら、フランス語の表現を学んで、会話する。
＊日常のくだけた言い方からフォーマルな表現までの言い方のバリエーションを増やす。
＊フランスの文化や社会とフランス語圏の国々を発見し、鑑賞する。

テーマ：選択、経験・目撃したこと、企画・予定、仮定、余暇・バカンス、天候

文法：　直法現在形、複合過去、半過去、未来形（単純未来・近接未来）、 命令形、条件法現在。そして、目的語の人称代名詞。当クラスで使用する教科書 Le nouveau taxi! 1で 勉強するとヨーロッパ共通参照枠レベルのA1となり、日本の仏検の４?３級です。

到達目標

コミュニケーション到達の目標：
＊オラールコミュニケーションで質問・答えを交わすスピードをあげる。
＊筆記コミュニケーションで、メールをフランス語で書いて、フランス語圏の人と実際にコミュニケーションを取る練習。
出来事、経験、過程、プランを簡単に語るようになる。
意見を述べるようにする。

テーマの到達：選択、経験・目撃したこと、企画・予定、仮定、余暇・バカンス、天候

文法の到達目標：　直法現在形、複合過去、半過去、単純未来/ 命令形/条件法現在　を使い慣れる。

文化の知識：フランスをはじめ、フランス語圏の国々について、知識を増やせる。

＊EUで認められたフランス語能力試験（DELF A1)や日本の仏検の４～３級向けのフランス語能力を鍛える。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	L15　一日を語る。　　Verbes pronominaux	
	復習：本文の音読する。予習：Ｌ16 に目を通し、未知語の意味を調べる。	60分
第2回	L16 一日の出来事　　経時的な順番１　　ミニ発表会：　自分の一日	
	復習：本文の音読。予習：L17 に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第3回	L17 レシーピ　　部分冠詞　　経時的な順番２	
	復習：本文の音読。予習：L18 に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分

第4回	L18 昨日のことを語る　複合過去１　意見１	
	復習：本文の音読。予習：L19 に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第5回	L19 旅について語る。　複合過去２　時点（時間の目印をつける）　意見２	
	復習。次のクラスに、学んだ表現を速く書かなければならないので書く練習も行う。	60分
第6回	（コンピューターを使って、フランス語圏の人とメール交換を始める。）	
	作成できたフランス語のメールをスペルチェックする。間違った言い回しや表現を自分で訂正する。 L20の予習	60分
第7回	L20 お祝い ミニ発表会：自分の一番楽しかったお祝いを語る。	
	復習：本文の音読する。練習を音読で繰り返す。	60分
第8回	映画を見て、語る。　ミニ発表会：　メール相手の国の行事の紹介	
	予習：　L21 に目を通し、未知語の意味などを確認。書く宿題：メール作成・メール相手の国の行事確認をとる等。	60分
第9回	L21　C'est interdit.　命令形　Pouvoir,devoir	
	復習：CDをもう一度聞く。本文の音読する。予習：　L22 に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分

第10回	L22　一長一短　　義務　　savoir, devoir　Il faut	
	復習：CDをもう一度聞く。本文の音読する。予習：　L24 に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第11回	L24　面接　　映画を見て語る。ミニ発表会：就職活動	
	復習：本文の音読する。予習：　L23 に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第12回	L23　Faire un cadeau　直接・間接目的語の人称代名詞	
	復習：CDをもう一度聞く。本文の音読する。予習：　L25 に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第13回	L25 Passe-temps　　程度・頻度　　人称代名詞 en	
	復習：後期の勉強範囲で復習を始める。 書く宿題：メール作成 予習：L26 に目を通し、未知語の意味などを確認。	60分
第14回	L26　La ville ou la campagne ミニ議論会：選択をディベートする。	
	期末口頭テストの準備	60?90分
第15回	期末口頭テスト	
	期末テストの内容を再確認する。	60分

授業の方法

予習：
各レッスンに必要な語彙を調べる。文法を必ず見ておく。なるべく、授業で自分の話す時間を増やせるようの積極的に予習する。

授業法：
聞く、読む、話す練習する。文法のドリル。会話を作る。

宿題：
月一回、書く練習として、学んだ表現を今度メールで生かし、フランス語圏の人とメールで交流する。

成績評価の方法

出席、授業時の積極性（間違っても、たくさん話してみる）（40%）、メール、発表、期末の口頭テスト（60%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

フランス語の文法のクラスをとる。
現在形、複合過去、半過去、単純未来を勉強したことがある。

テキスト

Le Nouveau Taxi! 1　　ISBN　9782011555489　　￥3, 600+税
DVD-ROM付

仏和・和仏の辞書を必ず持参する。

参考書

文法の本、和仏・仏和辞書など

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中、随時質問を受け付けます。授業前後にも、質問を教室で受け付けます。（水・木）
授業前に質問や相談のあるの方、早めにお越し下さい。次の授業の開始時間を守るようにしましょう。

科目名	スペイン語会話Ⅰ ＜1＞		
教員名	サンス　アルセニオ		
科目ナンバー	1101086410	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

１．日常の基本的な会話ができるように、コミュニケーション能力を高めます。
２．テキスト、ビデオ、CDを使って、スペイン語圏の国々への関心を喚起します。
３．学生が積極的に参加できるように授業を進めていきます。
４．できる限り学生の必要性やレベルに合わせて授業を進んて行くつもりです。

到達目標

文法のレベル：直説法現在形を使いこなせるようになることが目標です。
現在形を使って、日常会話や手紙などでのコミュニケーション能力を高めます。
スペイン語圏のどこでも買い物や一人旅行などができるように目指したいです。
※出来る限り学生の希望をとり入れて授業の構成していく。
※下記の予定は受講生の習熟度を見ながら適宜調整します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業のオリエンテーション	
	【予習】シラバスの講義内容を読んでおく 【復習】授業の進め方や評価を確認する	60分
第2回	スペイン語の発音の特徴、あいさつ、 自己紹介 （スペイン語文の作り方Ⅰ）	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第3回	人を紹介する、家族や友達の話。 電話番号を教えてもらえますか。 （スペイン語文の作り方ⅠⅠ）	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分

第4回	どんな人ですか。人や物の説明。 無くしてしまったものの説明。 いろいろなものの特徴を話す。 （SER動詞と形容詞）	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第5回	試験はいつですか。（日付や生年月日） 町で迷った時の表現。 どこかに行きたいときに。（estarとhay動詞）	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第6回	大学での生活。 日常の活動を話す。 現在形(-AR, -ER, -IR動詞の規則活用)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第7回	理想的な仕事の話し。 現在形(-AR, -ER, -IR動詞の規則活用)(2)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第8回	何をしたいですか。 （趣味や暇な時にすることの話し） 現在形(不規則規則活用)(1) 日常の活動を話す	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第9回	何をしているのですか。 まだお風呂に入っているか。 現在進行形の使い方。	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分

第10回	今週末海に行きませんか。 丁寧に断る時の表現。 未来の予定を話す(ir a動詞 ＋不定詞)、	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第11回	その映画を見なくちゃ。 たばこを吸ってもいいですか。 (～してはいけません、しなければいけません、 義務や禁止を表すいろいろな表現)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第12回	趣味やお好みの話し。 料理を作るのは嫌です。 夕ご飯を作ってもらえませんか。 （人にお願いする時の表現）	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第13回	お医者さんとの話し。 何か痛いところがありますか。 すごく疲れてるよ。どうすればいいですか。 （人になにかを勧める時の表現）	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第14回	到達度確認テスト。	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】未習の範囲を把握し、今後の学習の見通しを立てる。	120分
第15回	テストの復習とまとめ。	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】未習の範囲を把握し、今後の学習の見通しを立てる。	60分

授業の方法

テキストの各課のダイアログを読み、ペアで練習します。
・発音、文章の理解と作文にも配慮します。
・時々、スペイン語圏の文化に関するDVDや歌を紹介します。
・グループで会話をしたり、発表したりしながら、スペイン語の学習を楽しもうと思います。

成績評価の方法

平常点(出席、授業中の活動、課題など)60%、試験40%を目安に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「スペイン語基礎AI/AII」, 「スペイン語基礎BI/BII」
この授業ではコミュニケーションを重視しますが、詳細な文法説明はが必要なら日本語で説明します。

テキスト

Ámbar : curso de español （アンバル : スペイン語講座）
フアン カルロス モヤノ ロペス, カルロス ガルシア ルイス-カスティージョ, 高松英樹著, 弘学社

参考書

必要に応じて紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

質問等は授業中に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語会話Ⅰ ＜2＞		
教員名	プラド　エウヘニオ　デル		
科目ナンバー	1101086410	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

１．日常の基本的な会話ができるように、コミュニケーション能力を高めます。
２．テキスト、ビデオ、CDを使って、スペイン語圏の国々への関心を喚起します。
※　この科目の履修は、「スペイン語基礎」を履修中の初級者に限ります。

到達目標

文法のレベル：直説法現在形を使いこなせるようになることが目標です。
現在形を使って、日常会話や手紙などでのコミュニケーション能力を高めます。
※下記の予定は受講生の習熟度を見ながら適宜調整します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業のオリエンテーション	
	【予習】シラバスの講義内容を読んでおく 【復習】授業の進め方や評価を確認する	60分
第2回	アルファベット、あいさつ、自己紹介	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第3回	人を紹介する(冠詞、名詞、性と数)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分

第4回	自分の専攻や学習言語について話す(世界の国名と言語)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第5回	いろいろなものの特徴を述べる(SER動詞と形容詞)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第6回	疑問文と答えの作り方	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第7回	街で使える表現(場所、行き方、交通手段、ESTARとHABER)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第8回	現在形(-AR, -ER, -IR動詞の規則活用)(1) 日常の活動を話す	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第9回	現在形(-AR, -ER, -IR動詞の規則活用)(2) 日常の活動を話す	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分

第10回	現在形(不規則規則活用)(1) 日常の活動を話す	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第11回	現在形(不規則規則活用)(2) 日常の活動を話す	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第12回	未来の予定を話す(ir a ＋不定詞)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第13回	QUERERやPODERを使った表現	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第14回	到達度確認テスト	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】未習の範囲を把握し、今後の学習の見通しを立てる。	120分
第15回	テストの復習とまとめ	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】未習の範囲を把握し、今後の学習の見通しを立てる。	60分

授業の方法

・テキストの各課のダイアログを読み、ペアで練習します。
・発音、文章の理解と作文にも配慮します。
・時々、スペイン語圏の文化に関するビデオやラテンアメリカの歌を紹介します。
・ペアやグループで発表してもらいます。
・課題を出しますので、必ず準備をしてきてください。

成績評価の方法

平常点(出席、授業中の活動、課題など)60%、試験40%を目安に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
さらに、上記の到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

※　この授業ではコミュニケーションを重視しますが、詳細な文法説明が必要なら日本語で説明します。

テキスト

Ambar : curso de espa?ol　（アンバル : スペイン語講座）
フアン カルロス モヤノ ロペス, カルロス ガルシア ルイス-カスティージョ, 高松英樹著、弘学社.

参考書

必要に応じて紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語会話II ＜1＞		
教員名	三輪　イルマ		
科目ナンバー	1101086420	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

１．日常の基本的な会話ができるように、コミュニケーション能力を高めます。
２．テキスト、ビデオ、CDを使って、スペイン語圏の国々への関心を喚起します。

到達目標

文法のレベル：直説法現在(規則動詞・不規則動詞)、点過去、線過去
前期で習った現在形を復習しつつ、応用表現を学びます。過去形の使い方にも少しずつ慣れていきます。引き続き日常会話や手紙などでのコミュニケーション能力を高めます。
※下記の予定は受講生の習熟度を見ながら適宜調整します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション	
	【予習】シラバスの講義内容を読んでおく 【復習】授業の進め方や評価を確認する	60分
第2回	前期の復習	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第3回	1日の行動を述べる: 再帰動詞	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分

第4回	食べ物について話す：動詞gustar (1)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第5回	食べ物について話す：動詞gustar (2)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第6回	動詞interesar, parecer, dolerを使って話す	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第7回	視聴覚資料（映画など）鑑賞(1)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第8回	視聴覚資料（映画など）鑑賞(2)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第9回	家族と職業について話す	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分

第10回	日常生活について話す(ここまでに習った動詞や再帰動詞の復習)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第11回	週末の出来事を話す(過去形のイントロダクション)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第12回	子供のころの出来事を話す(過去形の続き)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第13回	学んだことを駆使してプレゼンテーションにチャレンジ	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第14回	到達度確認テスト	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】未習の範囲を把握し、今後の学習の見通しを立てる。	120分
第15回	テストの復習とまとめ	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】未習の範囲を把握し、今後の学習の見通しを立てる。	60分

授業の方法

・テキストの各課のダイアログを読み、ペアで練習します。
・発音、文章の理解と作文にも配慮します。
・時々、スペイン語圏の文化に関するビデオやラテンアメリカの歌を紹介します。
・グループごとに、ラテンアメリカの国についてパワーポイントで発表してもらいます。

成績評価の方法

平常点(出席、授業中の活動、課題など)60%、試験40%（そのうち20%はプレゼンテーション）を目安に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
さらに、上記の到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：スペイン語基礎AI/AII、スペイン語基礎BI/BII、スペイン語会話I
※　この授業ではコミュニケーションを重視しますが、必要に応じて文法の復習をおこないます。

テキスト

Ambar : curso de espanol　（アンバル : スペイン語講座）
フアン カルロス モヤノ ロペス, カルロス ガルシア ルイス-カスティージョ, 高松英樹著, 弘学社

参考書

必要に応じて紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語会話II ＜2＞		
教員名	三輪　イルマ		
科目ナンバー	1101086420	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

１．日常の基本的な会話ができるように、コミュニケーション能力を高めます。
２．テキスト、ビデオ、CDを使って、スペイン語圏の国々への関心を喚起します。

到達目標

文法のレベル：直説法現在(規則動詞・不規則動詞)、点過去、線過去
前期で習った現在形を復習しつつ、応用表現を学びます。過去形の使い方にも少しずつ慣れていきます。引き続き日常会話や手紙などでのコミュニケーション能力を高めます。
※下記の予定は受講生の習熟度を見ながら適宜調整します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション	
	【予習】シラバスの講義内容を読んでおく 【復習】授業の進め方や評価を確認する	60分
第2回	前期の復習	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第3回	1日の行動を述べる: 再帰動詞	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分

第4回	食べ物について話す：動詞gustar (1)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第5回	食べ物について話す：動詞gustar (2)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第6回	動詞interesar, parecer, dolerを使って話す	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第7回	視聴覚資料（映画など）鑑賞(1)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第8回	視聴覚資料（映画など）鑑賞(2)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第9回	家族と職業について話す	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分

第10回	日常生活について話す(ここまでに習った動詞や再帰動詞の復習)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第11回	週末の出来事を話す(過去形のイントロダクション)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第12回	子供のころの出来事を話す(過去形の続き)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第13回	学んだことを駆使してプレゼンテーションにチャレンジ	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第14回	到達度確認テスト	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】未習の範囲を把握し、今後の学習の見通しを立てる。	120分
第15回	テストの復習とまとめ	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】未習の範囲を把握し、今後の学習の見通しを立てる。	60分

授業の方法

・テキストの各課のダイアログを読み、ペアで練習します。
・発音、文章の理解と作文にも配慮します。
・時々、スペイン語圏の文化に関するビデオやラテンアメリカの歌を紹介します。
・グループごとに、ラテンアメリカの国についてパワーポイントで発表してもらいます。

成績評価の方法

平常点(出席、授業中の活動、課題など)60%、試験40%（そのうち20%はプレゼンテーション）を目安に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
さらに、上記の到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：スペイン語基礎AI/AII、スペイン語基礎BI/BII、スペイン語会話I
※　この授業ではコミュニケーションを重視しますが、必要に応じて文法の復習をおこないます。

テキスト

Ambar : curso de espanol　（アンバル : スペイン語講座）
フアン カルロス モヤノ ロペス, カルロス ガルシア ルイス-カスティージョ, 高松英樹著, 弘学社

参考書

必要に応じて紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語会話III		
教員名	三輪　イルマ		
科目ナンバー	1101086430	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

1．スペイン語圏の国々への関心を深めます。
2．日常の会話ができるように、コミュニケーション能力を高めます。
3．文法事項の理解を深め、音声学習・文章作成にも力を入れます。

到達目標

文法レベル：直説法現在、点過去、線過去、現在完了
すでに習ったことを復習しながら、話す・聞く・読む・書く力を伸ばします。文法や語彙を確かなものにしていきます。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	１年次の復習(1)（直説法現在）	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	60分
第2回	１年次の復習(2)（直説法点過去、線過去、現在完了）	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第3回	日記の書き方(1)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分

第4回	日記の書き方(2) 毎週日記を提出し、コメントする	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第5回	スペイン語圏の生活習慣を知る	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第6回	スペイン語圏の文化(1) 映画	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第7回	スペイン語圏の文化(2) 音楽	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第8回	ペアでのプレゼンテーション(自由テーマ)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第9回	ペアでのプレゼンテーション(続き)、意見交換	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分

第10回	日記についてのプレゼンテーションと意見交換	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第11回	手紙やメールの書き方、送り方	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第12回	手紙の返事を書く	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第13回	場面別会話練習：病院や旅行での会話	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第14回	到達度確認テスト	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】未習の範囲を把握し、今後の学習の見通しを立てる。	120分
第15回	テストの復習とまとめ	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】未習の範囲を把握し、今後の学習の見通しを立てる。	60分

授業の方法

ペアやグループでの発表、日記の提出を中心に、受講生に積極的に参加してもらうように配慮します。その他に１ヶ月に１度位の割合で歌や踊りを体験したりビデオを見たりする機会を設けます。

成績評価の方法

平常点(出席、授業中の活動、課題など)60%、試験40%を目安に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
さらに、上記の到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「スペイン語基礎AI/AII」「スペイン語基礎BI/BII」「スペイン語会話I/II」を履修済みか、同等の学力をもつ人が対象です。
※基礎文法、特に動詞の活用に関する知識を前提とします。

テキスト

会話練習や講読に使う資料は教員が準備します。

参考書

中西千夏(著)『旅の指さし会話帳(12)スペイン』情報センター出版局

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	スペイン語会話IV		
教員名	三輪　イルマ		
科目ナンバー	1101086440	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

1．スペイン語圏の国々への関心を深めます。
2．日常の会話ができるように、コミュニケーション能力を高めます。
3．文法事項の理解を深め、音声学習・文章作成にも力を入れます。

到達目標

文法レベル：直説法現在、点過去、線過去、現在完了、未来
日常生活で使えるさまざまな会話表現を身につけます。さらに、日記や手紙などの文章作成力、物語などの文章理解力も伸ばします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	夏休みの出来事を話す	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	60分
第2回	日記の発表	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第3回	ラテンアメリカの国々の習慣を知る(クリスマス、誕生日、その他の祭り)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分

第4回	スペイン語圏の童話や伝説の紹介	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第5回	物語１(読解と意見交換)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第6回	物語２(読解と意見交換)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第7回	物語３(読解と意見交換)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第8回	物語４(読解と意見交換)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第9回	物語５(読解と意見交換)	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分

第10回	物語６（読解と意見交換）	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第11回	物語７（読解と意見交換）	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第12回	物語８（読解と意見交換）	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第13回	物語９（読解と意見交換）	
	【復習】授業で学んだ部分を見直し、出された課題に取り組む。 【予習】次回授業で扱う章に目を通し、未知語の意味などを確認する。	60分
第14回	到達度確認テスト	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】未習の範囲を把握し、今後の学習の見通しを立てる。	120分
第15回	テストの復習とまとめ	
	【復習】半期で学んだことを総復習する。 【予習】未習の範囲を把握し、今後の学習の見通しを立てる。	60分

授業の方法

ペアやグループでの発表、日記の提出を中心に、受講生に積極的に参加してもらうように配慮します。その他に１ヶ月に１度位の割合で歌や踊りを体験したりビデオを見たりする機会を設けます。

成績評価の方法

平常点(出席、授業中の活動、課題など)60%、試験40%を目安に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
さらに、上記の到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「スペイン語基礎AI/AII」「スペイン語基礎BI/BII」「スペイン語会話I/II」を履修済みか、同等の学力をもつ人が対象です。
※基礎文法、特に動詞の活用に関する知識を前提とします。

テキスト

会話練習や講読に使う資料は教員が準備します。

参考書

中西千夏(著)『旅の指さし会話帳(12)スペイン』情報センター出版局

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語会話Ⅰ ＜1＞		
教員名	余　瀾		
科目ナンバー	1301086510	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

中国語初級会話の授業です。大学生活をテーマに設定したさまざまな場面のもとで、自分のこと、家族のこと、授業のことなどの聴き・話す練習を行い、自分の身の回りのことを中国語で言えるようになります。

到達目標

簡単な会話ができ、初歩的なコミュニケーション力の養成を目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第1課　自己紹介 会話を音読する 文法を学習する ①名詞判断文 ② 一般疑問文 ③ 名前の言い方　④　“的”の使い方	
	CDを聞いて、第1課の会話を暗唱できるようにする。	60
第2回	第1課 練習問題を学習する 会話を発表する	
	第１課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする	60
第3回	第2課　你家有几口人？ 会話を音読する 文法を学習する ① 動詞“在”　② 動詞“有”	
	CDを聞いて、第2課の会話を暗唱できるようにする。	60
第4回	第2課 練習問題を学習する 会話を発表する	
	第2課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする	6o

第5回	第3課　明天星期六 会話を音読する 文法を学習する ①“是”を用いない名詞述語文　②　動詞文 ③　前置詞“在…”④　連動文（1）	
	CDを聞いて、第3課の会話を暗唱できるようにする。	60
第6回	第3課 練習問題を学習する 会話を発表する	
	第3課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする	60
第7回	第4課　夏天很热 会話を音読する 文法を学習する ①　形容詞述語文　②　主述述語文 ③　反復疑問文　④　指示詞 ＋ 量詞 + 名詞	
	CDを聞いて、第4課の会話を暗唱できるようにする。	60
第8回	第4課 練習問題を学習する 会話を発表する	
	第4課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする	60
第9回	第5課　打算干什么？ 会話を音読する 文法を学習する ①　予定を表す“打算”②　希望を表す“想” ③可能を表す“能”と“可以”　④ 数量補語	
	CDを聞いて、第5課の会話を暗唱できるようにする。	60

第10回	第5課 練習問題を学習する 会話を発表する	
	第5課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする	60
第11回	第6課　我去香港了 会話を音読する 文法を学習する ①　動詞の「完了」表現　②　動詞の「経験」表現 ③　「完了」と「経験」を表す場合の反復疑問文	
	CDを聞いて、第6課の会話を暗唱できるようにする。	60
第12回	第6課 練習問題を学習する 会話を発表する	
	第6課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする	60
第13回	口頭試験	
	口頭試験のために第1課～6課のCDを聞き、会話をテーマ別にまとめ、教科書を見ないまま、質問や受け答ができるようにする。	120
第14回	筆記試験	
	筆記試験のために第1課～6課のCDを聞き、会話をテーマ別にまとめ、ピンインや漢字を暗記する。	120
第15回	総まとめ	

	総仕上げ	60

授業の方法

単語、基本文型、スキット、置き換えなどいくつかのパターンを用いて授業を進めます。またロールプレイ、寸劇などにより、気軽に、楽しくコミュニケーション能力を身につけていきます。

成績評価の方法

1)平常点30%（授業中小テスト、会話発表など）
(2) 口頭試験30%
(3) 筆記試験40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語基礎ＡⅠ・基礎ＢⅠ、中国語会話II

テキスト

「学ぶ中国語」楽しく身につく初級トレーニング　　王亜新　劉素英 著　朝日出版社

参考書

参考書などは、授業開始時に担当教員より随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。
随時、電子メールで受け付けます。

科目名	中国語会話Ⅰ ＜2＞		
教員名	黄　暁恵		
科目ナンバー	1301086510	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

中国語初級会話の授業です。大学生活をテーマに設定したさまざまな場面のもとで、自分のこと、家族のこと、授業のこと、趣味などの聴き・話す練習を行い、中国語になじみ、自然に会話力が身につき、自分の身の回りのことを中国語で言えるようになります。各課は基本表現、文型練習、会話本文、文法ポイント、対話練習という構成になっています。語学を習得するうえで最も基本的な能力-話す能力を身につけて行きましょう。
〔注意〕中国語会話Iは、中国語基礎科目の履修者（同時履修者は可）あるいは修了者のための授業です。中国語基礎ＡⅠ・ＢⅠを履修せずに中国語会話Iのみを履修することはできませんので注意してください。また、中国語会話Iは、後期開講の中国語会話IIとあわせて初級会話課程の内容を修了します。Iの履修者はできるだけIIも継続して履修するようにしましょう。

到達目標

この授業は初歩的なコミュニケーション能力を習得することを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	1　ガイダンス 2　発音篇	
	シラバスを読み、授業の進め方、評価基準等について確認する。	60分
第2回	第１課「こんにちは」	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	60分
第3回	第１課 第２課　「また明日」	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分

第4回	第２課	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分
第5回	第３課　「お名前は？」	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分
第6回	第３課 第４課　「私は成蹊大学の学生です」	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分
第7回	第４課	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分
第8回	段階復習とテスト	
	段階復習、テストの実施。	６０分
第9回	第５課　「おうちはどこですか？」	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分

第10回	第５課 第６課　「あれは図書館です」	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分
第11回	第６課	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分
第12回	第１課ー第６課の復習	
	復習の実施。	６０分
第13回	口頭試験	
	口頭試験の実施。	６０分
第14回	筆記試験	
	筆記試験の実施。	６０分
第15回	総まとめ	
	総まとめの実施	６０分

授業の方法

発音習得段階においては、大きい声でネイティブの先生の発音をまねしてもらいながら、発音、声調の基礎訓練を行っていきます。テキスト本篇に入ってからは、文法説明を行った後、繰り返し本文の音読、会話練習を行い、最終的に本文を暗記してもらいます。

成績評価の方法

平常点（出席状況、授業態度、宿題の完成状況、小テスト）と中間試験、期末試験の状況などで総合的に評価します。授業においては学生を直接指名しテキストの朗読や暗誦、会話の練習などの課題を課す事が頻繁にあります。これらの課題に対する取り組みについても重視して成績を出します。場合によっては小テストを課す事もあります。きわめて出席率を重視し、授業中熱心に参加する学生は平常点で高く評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語基礎ＡⅠ・、中国語基礎ＢⅠ

テキスト

プリント教材

参考書

『日中辞典』第2版（小学館）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語会話Ⅰ ＜3＞		
教員名	李　林静		
科目ナンバー	1301086510	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

中国語初級会話の授業です。各課は基本文型と語法、単語と関連語句、会話、練習問題という構成となっています。これらの練習により、基礎文法を定着させていくと同時に、コミュニケーション力を高めていきます。

〔注意〕本授業は、今年度初めて中国語基礎ＡII・ＢIIを履修する初習者、今までに中国語基礎授業を履修したことのある既習者のための授業であるため、基本授業中国語（基礎ＡII・ＢII）を履修せずに本授業のみを履修することはできませんので注意してください。

到達目標

正しい発音を身につけ、基本文型を習得し、簡単な会話ができることを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	発音編（１）	
	シラバスに目を通し、成績評価の方法などを確認しておくこと	60分
第2回	発音編（２）	
	発音を予習、復習すること	60分
第3回	発音編（３）	
	発音を予習、復習すること	60分

第4回	第１課	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第5回	第2課	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第6回	第3課	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第7回	第4課	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第8回	第4課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第9回	第5課	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分

第10回	第5課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第11回	第6課	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第12回	第6課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第13回	口頭試験	
	Web教材を利用して、第1課～第6課のスキットを音読すること。	60分
第14回	筆記試験	
	第1課～第6課の文法事項を万遍なく復習すること。	60分
第15回	総まとめ（筆記試験の解説など）	
	筆記試験で回答できなかった問題についてチェックしておく。	60分

授業の方法

毎回の授業時に単語テストや書取テストを行います。パソコンで単語、本文の音声を聞き、音読練習を行った後、ペアを組んで会話練習を行ってもらいます。教員について大きい声で発音練習をし、楽しく耳と口の筋トレをしましょう。

成績評価の方法

平常点20%（単語テスト、書取テスト）、期末口頭試験30%、期末筆記試験50%の割合で評価します。遅刻3回は、欠席1回とする。学期の3分の1以上欠席すると、期末試験が受けられなくなる可能性があるので、要注意。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語基礎ＡII・基礎ＢII、中国語会話I

テキスト

プリント配布。

参考書

参考書などは、授業時に担当教員より随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	中国語会話II ＜1＞		
教員名	余　瀾		
科目ナンバー	1301086520	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

中国語初級会話の授業です。大学生活をテーマに設定したさまざまな場面のもとで、自分のこと、家族のこと、授業のことなどの聴き・話す練習を行い、自分の身の回りのことを中国語で言えるようになります。

到達目標

簡単な会話ができ、初歩的なコミュニケーション力の養成を目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	第7課　我家离学校不远 会話を音読する 文法を学習する ①　前置詞“从…到…”　②　前置詞“从” ③　前置詞“离”　④　連動文　(2)	
	CDを聞いて、第7課の会話を暗唱できるようにする。	60
第2回	第7課 練習問題を学習する 会話を発表する	
	第7課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする	60
第3回	第8課　有点儿不舒服 会話を音読する 文法を学習する ①　二重目的語　②　前置詞“给” ③　助動詞“要”　④　疑問詞“怎么”	
	CDを聞いて、第8課の会話を暗唱できるようにする。	60
第4回	第8課 練習問題を学習する 会話を発表する	

	第8課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする	6o
第5回	第9課　打乒乓球 会話を音読する 文法を学習する ①　状態補語　②　助動詞“会” ③　比較構文（1）“…比…”　④　比較構文（2）“…没有…”	
	CDを聞いて、第9課の会話を暗唱できるようにする。	60
第6回	第9課 練習問題を学習する 会話を発表する	
	第9課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする	60
第7回	第10課　你在干什么呢？ 会話を音読する 文法を学習する ①　動作の進行中を表す表現　②　助動詞　“应该” ③　結果補語　④　動詞の重ね方	
	CDを聞いて、第10課の会話を暗唱できるようにする。	60
第8回	第10課 練習問題を学習する 会話を発表する	
	第10課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする	60
第9回	第11課　汉语老师 会話を音読する 文法を学習する ①“听说”　②“是…的”　③ 逆接を表す接続詞	

	CDを聞いて、第11課の会話を暗唱できるようにする。	60
第10回	第11課 練習問題を学習する 会話を発表する	
	第11課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする	60
第11回	第12課　学习汉语 会話を音読する 文法を学習する ①　変化を表す“了”　②“快…了” ③“一点儿”と“有点儿”　④“只”	
	CDを聞いて、第12課の会話を暗唱できるようにする。	60
第12回	第12課 練習問題を学習する 会話を発表する	
	第12課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする	60
第13回	口頭試験	
	口頭試験のために第7課～12課のCDを聞き、会話をテーマ別にまとめ、教科書を見ないまま、質問や受け答ができるようにする。	120
第14回	筆記試験	
	筆記試験のために第7課～12課のCDを聞き、会話をテーマ別にまとめ、ピンインや漢字を暗記する。	120

第15回	総まとめ	
	総仕上げ	60

授業の方法

単語、基本文型、スキット、置き換えなどいくつかのパターンを用いて授業を進めます。またロールプレイ、寸劇などにより、気軽に、楽しくコミュニケーション能力を身につけていきます。

成績評価の方法

1)平常点30%（授業中小テスト、会話発表など）
(2) 口頭試験30%
(3) 筆記試験40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語基礎ＡⅠ・基礎ＢⅠ、中国語会話II

テキスト

「学ぶ中国語」楽しく身につく初級トレーニング　　王亜新　劉素英 著　朝日出版社

参考書

参考書などは、授業開始時に担当教員より随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。
随時、電子メールで受け付けます。

科目名	中国語会話II ＜2＞		
教員名	黄　暁恵		
科目ナンバー	1301086520	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

中国語初級会話の授業です。大学生活をテーマに設定したさまざまな場面のもとで、自分のこと、家族のこと、授業のこと、趣味などの聴き・話す練習を行い、中国語になじみ、自然に会話力が身につき、自分の身の回りのことを中国語で言えるようになります。各課は基本表現、文型練習、会話本文、文法ポイント、対話練習という構成になっています。語学を習得するうえで最も基本的な能力-話す能力を身につけて行きましょう。
〔注意〕中国語会話Iは、中国語基礎科目の履修者（同時履修者は可）あるいは修了者のための授業です。中国語基礎ＡⅠ・ＢⅠを履修せずに中国語会話Iのみを履修することはできませんので注意してください。また、中国語会話Iは、後期開講の中国語会話IIとあわせて初級会話課程の内容を修了します。Iの履修者はできるだけIIも継続して履修するようにしましょう。

到達目標

この授業は初歩的なコミュニケーション能力を習得することを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	1　第１課～第6課を復習する 2　第７課　「今日は何時から授業ですか」	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	60分
第2回	第7課	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	60分
第3回	第8課　「我が家に猫が一匹あります」	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分

第4回	第8課 第9課　「趣味は何ですか？」	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分
第5回	第9課	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分
第6回	第10課　「将来に何の仕事をやりたいですか？」	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分
第7回	第10課 段階小テスト	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分
第8回	第11課　「毎晩家で何をしますか？」	
	段階復習、テストの実施。	６０分
第9回	第11課 第12課　「明日暇がありますか？」	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分

第10回	第12課 第１３課　「休暇が楽しみ過ごしました」	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分
第11回	第13課	
	教科書付属CDを聞き、本文を音読。次回の授業で扱う課に目を通し、未知語の意味を確認。	６０分
第12回	第7課ー第13課の復習	
	復習の実施。	６０分
第13回	口頭試験	
	口頭試験の実施。	６０分
第14回	筆記試験	
	筆記試験の実施。	６０分
第15回	総まとめ	
	総まとめの実施	６０分

授業の方法

発音習得段階においては、大きい声でネイティブの先生の発音をまねしてもらいながら、発音、声調の基礎訓練を行っていきます。テキスト本篇に入ってからは、文法説明を行った後、繰り返し本文の音読、会話練習を行い、最終的に本文を暗記してもらいます。

成績評価の方法

平常点（出席状況、授業態度、宿題の完成状況、小テスト）と中間試験、期末試験の状況などで総合的に評価します。授業においては学生を直接指名しテキストの朗読や暗誦、会話の練習などの課題を課す事が頻繁にあります。これらの課題に対する取り組みについても重視して成績を出します。場合によっては小テストを課す事もあります。きわめて出席率を重視し、授業中熱心に参加する学生は平常点で高く評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語基礎ＡⅠ・、中国語基礎ＢⅠ

テキスト

プリント教材

参考書

『日中辞典』第2版（小学館）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語会話II ＜3＞		
教員名	李　林静		
科目ナンバー	1301086520	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

中国語初級会話の授業です。各課は基本文型と語法、単語と関連語句、会話、練習問題という構成となっています。これらの練習により、基礎文法を定着させていくと同時に、コミュニケーション力を高めていきます。

〔注意〕本授業は、今年度初めて中国語基礎ＡII・ＢIIを履修する初習者、今までに中国語基礎授業を履修したことのある既習者のための授業であるため、基本授業中国語（基礎ＡII・ＢII）を履修せずに本授業のみを履修することはできませんので注意してください。

到達目標

正しい発音を身につけ、基本文型を習得し、簡単な会話ができることを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	前期の復習	
	シラバスに目を通し、成績評価の方法などを確認しておくこと	60分
第2回	第7課	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第3回	第7課	
	Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分

第4回	第7課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第5回	第8課	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第6回	第8課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第7回	第9課	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第8回	第9課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第9回	第10課	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分

第10回	第10課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第11回	第11課	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第12回	第11課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第13回	口頭試験	
	Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第14回	筆記試験	
	文法事項を万遍なく復習すること	60分
第15回	総まとめ（筆記試験の解説など）	
	筆記試験で回答できなかった問題をチェックしておくこと	60分

授業の方法

毎回の授業の始まりに単語テストを行います。パソコンで単語、本文の音声を聞き、音読練習を行った後、ペアを組んで会話練習を行ってもらいます。教員について大きい声で発音練習をし、楽しく耳と口の筋トレをしましょう。

成績評価の方法

平常点20%（単語テスト、書取テスト）、期末口頭試験30%、期末筆記試験50%の割合で評価します。遅刻3回は、欠席1回とする。学期の3分の1以上欠席すると、期末試験が受けられなくなる可能性があるので、要注意。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語基礎ＡⅠ・II、ＢⅠ・II、中国語会話I

テキスト

プリント配布。

参考書

参考書などは、授業時に担当教員より随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	中国語会話III ＜1＞		
教員名	余　瀾		
科目ナンバー	1101086530	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

やさしい中級会話の授業です。北京に留学するという設定の会話教材を使います。一年生で学んだ基本的な単語や表現を復習し、定着しながら、さらに新しい表現を徐々に加え、目、口と耳を使って繰り返し練習することによって、中国で留学、旅行又暮らす時に必要な会話を習得していきます。
〔注意〕中国語会話Ⅲ（前期）・「中国語会話Ⅳ（後期」は、「中国語会話Ⅰ・Ⅱ」の単位修得者あるいはそれと同等の学力を有する者を対象とします。

到達目標

中国で暮らすときに必要なコミュニケーション力の養成を目指します。主に次のテーマの会話を流暢に話せるようにします。
①人と知り合うときの会話
②買い物する時の会話
③出掛ける時の会話（道順を尋ねる・乗り物に乗る･場所を聞くなど）
④レストランで食事する時の会話

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	発音の復習	
	ピンイン字母・声調の発音 ピンインつづりの変化規則 ピンインのつづりを識別すること	60分
第2回	第１課　「北京に到着」 会話本文の音読・文法の学習	
	CDを聞いて、第1課の会話を暗唱できるようにする。	60分
第3回	第１課 練習問題を学習する 補充単語・文型を練習する 応用会話を聞き取る	
	第１課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする。	60分

第4回	第2課　「道を尋ねる」 会話本文の音読・文法の学習	
	CDを聞いて、第2課の会話を暗唱できるようにする。	60分
第5回	第2課 練習問題を学習する 補充単語・文型を練習する 応用会話を聞き取る	
	第2課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする。	60分
第6回	第3課　「買い物」 会話本文の音読・文法の学習	
	CDを聞いて、第3課の会話を暗唱できるようにする。	60分
第7回	第3課 練習問題を学習する 補充単語・文型を練習する 応用会話を聞き取る	
	第3課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする。	60分
第8回	第4課　「バスに乗る」 会話本文の音読・文法の学習	
	CDを聞いて、第4課の会話を暗唱できるようにする。	60分
第9回	第4課 練習問題を学習する 補充単語・文型を練習する 応用会話を聞き取る	
	第4課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする。	60分

第10回	第5課　「新しい友達」 会話本文の音読・文法の学習	
	CDを聞いて、第5課の会話を暗唱できるようにする。	60分
第11回	第5課 練習問題を学習する 補充単語・文型を練習する 応用会話を聞き取る	
	第5課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする。	60分
第12回	第6課　「外食」 会話本文の音読・文法の学習 練習問題を学習する 補充単語・文型を練習する 応用会話を聞き取る	
	CDを聞いて、第6課の会話を暗唱できるようにする。 第6課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする。	60分
第13回	口頭試験	
	口頭試験のために第1課～6課のCDを聞き、会話をテーマ別にまとめ、教科書を見ないまま、質問や受け答ができるようにする。	120分
第14回	筆記試験	
	筆記試験のために第1課～6課のCDを聞き、会話をテーマ別にまとめ、ピンインや漢字を暗記する。	120分
第15回	総まとめ	
	総仕上げ	60分

授業の方法

音声と会話を中心に耳と口のトレーニングを行います。まずは単語や文の発音を定着させ、その後ペアーを組んで、スキットの会話を身振り、手振りで楽しく練習し、中国語でのコミュニケーションに欠かせない受け答えの反射能力を高めていきます。中国語による簡単な発表なども行う予定です。

成績評価の方法

(1)平常点30%（授業中小テスト、会話発表など）
(2) 口頭試験30%
(3) 筆記試験40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語会話Ⅰ、Ⅱ

テキスト

２年生のコミュニケーシュン中国語　白水社　　塚本慶一監修　劉穎著

参考書

授業開始時に担当教員より随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。
随時、電子メールで受け付けます。

科目名	中国語会話III ＜2＞		
教員名	李　林静		
科目ナンバー	1101086530	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

一年間の基礎学習を終え、会話力をつけいたい、伸ばしたい人のための中級会話クラスです。中級と言っても、一年次に習った文法を復習しながら丁寧に進めていくので、ご心配なく。
大学、街中、レストランなどざまざまなシチュエーションを想定し、自己紹介、道の尋ね方、料理注文の仕方など、豊富な話題について聞き話す練習を行い、自分の身の回りのことをより確かな中国語で表現できる力へと導いていきます。

〔注意〕中国語学習歴を1年乃至1年以上有することを条件とします。中国語会話IIIの履修者は、できるだけ後期開講の中国語会IVも継続して履修するようにしましょう。

到達目標

語彙力を増強し、初級会話より少しレベルアップした会話をできるようになることを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第1課　让我们来认识一下吧！	
	ピンイン及び一年次に習った文法を復習しておくこと。	60分
第2回	第１課	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第3回	第2課　我选了很多课	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分

第4回	第2課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第5回	第3課　有点儿不舒服	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第6回	第3課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第7回	第4課　我的房间没有空调	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第8回	第4課	
	Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第9回	第4課、第5課　请帮我们照张相，好吗?	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分

第10回	第5課	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第11回	第5課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第12回	まとめ　第1課～第5課	
	Web教材を利用して、第1課～第5課のスキットを音読すること。	60分
第13回	口頭試験	
	Web教材を利用して、第1課～第5課のスキットを音読すること。	60分
第14回	筆記試験	
	第1課～第5課の文法事項を万遍なく復習すること。	60分
第15回	総まとめ（試験の解説）	
	筆記試験で回答できなかった問題についてチェックしておく。	60分

授業の方法

毎回の授業の始まりに単語テストを行います。また履修者に中国語で自身のニュースを発表してもらいます。パソコンでスキットの発音練習（リピート、シャドーイング）を行った後、ロールプレイ、寸劇、練習問題、書き取りテストを行っていきます。早めに授業のリズムをつかめて、仲間と中国語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

成績評価の方法

平常点20%（単語テスト、書取テスト）、期末口頭試験30%、期末筆記試験50%の割合で評価します。遅刻3回は、欠席1回とする。学期の3分の1以上欠席すると、期末試験が受けられなくなる可能性があるので、要注意。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語会話Ⅰ・Ⅱ、中国語会話Ⅳ

テキスト

プリント配布

参考書

参考書などは、授業開始時に担当教員より随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	中国語会話III ＜3＞		
教員名	凌　雲鳳		
科目ナンバー	1101086530	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

中国語会話Ⅰ・Ⅱの既習者、及びそれと同等の学力を有する者を対象とする中級レベル（ビジネス中国語会話）を目指すクラスです。初級中国語（会話・文法）を習得し、中国関係の仕事に関心を持つ学習者には、初歩的な業務体験を模擬的に味わうこともできるでしょう。具体的には、日常会話から、来日した中国の取引先の接待によく使う慣用語句など、さまざまなテーマにわたる会話を聞いたり、話したりしながら練習を重ねていきます。なお、後期開講の中国語会話Ⅳ＜3＞と合わせて中級レベルの内容を習得できるように構成されています。中国語会話Ⅲ＜3＞の履修者は、できるだけ中国語Ⅳ＜3＞も引き続き履修するようにしましょう。

到達目標

訪日した中国人客への挨拶、接待、見学先の案内、新製品の説明など、日中関係の仕事における初歩的な実務を中国語で表現できること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業内容、授業方法、予習と復習の方法などについて　説明する 第１課　　初対面の挨拶	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ授業内容を把握する。 【復習】授業内容を振り返る。	60分
第2回	第１課　まとめ	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる。	60分
第3回	第２課　自己紹介	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる。	60分

第4回	第2課　まとめ 第３課　新製品の説明	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる。	60分
第5回	第３課　まとめ	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる。	60分
第6回	第４課　工場へ	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる。	60分
第7回	第４課　まとめ 復習（第１課～第４課）	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる。	60分
第8回	第５課　工場を見学する	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる。	60分
第9回	第５課　まとめ 第６課　空港への出迎え	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる	60分

第10回	第６課　まとめ	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる	60分
第11回	第７課　宿泊先と日程の説明	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる	60分
第12回	第７課　まとめ 復習（第5課～第７課）	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる	60分
第13回	口頭試験	
	口頭試験の実施	60分
第14回	筆記試験	
	筆記試験の実施	60分
第15回	総まとめ	
	総仕上げ	60分

授業の方法

三回２課で進めていきます。授業中、音読、聴き取り、定型表現の置き換え練習、教師との会話、学生同士の会話練習などを組み合わせながら、授業を展開させます。ビジネス実務と中国語の一般的な表現を覚え、中国語による会話発表なども行う予定です。

成績評価の方法

学期末試験、平常点（出席率、学習態度、小テスト）などを総合して評価します。三分の二以上の出席率が必要とします。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語会話Ⅰ・Ⅱ

テキスト

プリント教材（成蹊大学が開発した中国語学習Ｗｅｂ教材「游」の第四部に入っています。）

参考書

授業時担当教師より紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	中国語会話IV ＜1＞		
教員名	余　瀾		
科目ナンバー	1101086540	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

やさしい中級会話の授業です。北京に留学するという設定の会話教材を使います。一年生で学んだ基本的な単語や表現を復習し、定着しながら、さらに新しい表現を徐々に加え、目、口と耳を使って繰り返し練習することによって、中国で留学、旅行又暮らす時に必要な会話を習得していきます。
〔注意〕中国語会話Ⅲ（前期）・「中国語会話Ⅳ（後期」は、「中国語会話Ⅰ・Ⅱ」の単位修得者あるいはそれと同等の学力を有する者を対象とします。

到達目標

中国で暮らすときに必要なコミュニケーション力の養成を目指します。主に次のテーマの会話を流暢に話せるようにします。
①病気や病院での会話
②郵便局での会話
③人と約束する時の会話
④電話の受け方･掛け方
⑤家庭訪問の時の挨拶など

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	前期の復習	
	ピンインの発音を確認する。 第１課～6課の会話のCDを聞く。	60
第2回	第7課　「約束」 会話本文の音読・文法の学習	
	CDを聞いて、第7課の会話を暗唱できるようにする。	60
第3回	第7課 練習問題を学習する 補充単語・文型を練習する 応用会話を聞き取る	
	第7課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする。	60

第4回	第8課　「友達に電話する」 会話本文の音読・文法の学習	
	CDを聞いて、第8課の会話を暗唱できるようにする。	60
第5回	第8課 練習問題を学習する 補充単語・文型を練習する 応用会話を聞き取る	
	第8課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする。	60
第6回	第9課　「郵便局」 会話本文の音読・文法の学習	
	CDを聞いて、第9課の会話を暗唱できるようにする。	60
第7回	第9課 練習問題を学習する 補充単語・文型を練習する 応用会話を聞き取る	
	第9課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする。	60
第8回	第10課　「医者に行く」 会話本文の音読・文法の学習	
	CDを聞いて、第10課の会話を暗唱できるようにする。	60
第9回	第10課 練習問題を学習する 補充単語・文型を練習する 応用会話を聞き取る	
	第１0課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする。	60

第10回	第11課　「家庭訪問」 会話本文の音読・文法の学習	
	CDを聞いて、第11課の会話を暗唱できるようにする。	60
第11回	第11課 練習問題を学習する 補充単語・文型を練習する 応用会話を聞き取る	
	第11課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする。	60
第12回	第12課　「謝恩会」 会話本文の音読・文法の学習 練習問題を学習する 補充単語・文型を練習する 応用会話を聞き取る	
	CDを聞いて、第12課の会話を暗唱できるようにする。第１2課の練習問題に出る単語や文型を暗記し、言えるようにする。	60
第13回	口頭試験	
	口頭試験のために第7課～12課のCDを聞き、会話をテーマ別にまとめ、教科書を見ないまま、質問や受け答ができるようにする。	120
第14回	筆記試験	
	筆記試験のために第7課～12課のCDを聞き、会話をテーマ別にまとめ、ピンインや漢字を暗記する。	120
第15回	総まとめ	
	総仕上げ	60

授業の方法

音声と会話を中心に耳と口のトレーニングを行います。まずは単語や文の発音を定着させ、その後ペアーを組んで、スキットの会話を身振り、手振りで楽しく練習し、中国語でのコミュニケーションに欠かせない受け答えの反射能力を高めていきます。中国語による簡単な発表なども行う予定です。

成績評価の方法

(1)平常点30%（授業中小テスト、会話発表など）
(2) 口頭試験30%
(3) 筆記試験40%
を基本としつつ、出席率及び学習状況などを総合して評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語会話Ⅰ、Ⅱ

テキスト

２年生のコミュニケーション中国語　白水社　　塚本慶一監修　劉穎著

参考書

授業開始時に担当教員より随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。
随時、電子メールで受け付けます。

科目名	中国語会話IV ＜2＞		
教員名	李　林静		
科目ナンバー	1101086540	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

一年間の基礎学習を終え、会話力をつけいたい、伸ばしたい人のための中級会話クラスです。中級と言っても、一年次に習った文法を復習しながら丁寧に進めていくので、ご心配なく。
大学、街中、レストランなどざまざまなシチュエーションを想定し、自己紹介、道の尋ね方、料理注文の仕方など、豊富な話題について聞き話す練習を行い、自分の身の回りのことをより確かな中国語で表現できる力へと導いていきます。

到達目標

語彙力を増強し、初級会話より少しレベルアップした会話をできるようになることを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	復習 第7課　再要一份饺子	
	シラバスを読み、授業の進め方、評価基準等について確認する。	60分
第2回	第7課	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第3回	第7課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分

第4回	第8課　一直往前走	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第5回	第8課	
	Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第6回	第8課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第7回	第9課　有空给我发伊妹儿吧	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第8回	第9課	
	Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第9回	第9課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分

第10回	第10課　旅行計划	
	単語テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第11回	第10課	
	Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第12回	第10課	
	書取テストに備えること。 Web教材を利用して、スキットを音読すること。	60分
第13回	口頭試験	
	Web教材を利用して、第6課～第10課のスキットを音読すること。	60分
第14回	筆記試験	
	第6課～第10課の文法事項を万遍なく復習すること。	60分
第15回	総まとめ（筆記試験の解説など）	
	筆記試験で回答できなかった問題についてチェックしておく。	60分

授業の方法

毎回の授業の始まりに単語テストを行います。また履修者に中国語で自身のニュースを発表してもらいます。パソコンでスキットの発音練習（リピート、シャドーイング）を行った後、ロールプレイ、寸劇、練習問題、書き取りテストを行っていきます。早めに授業のリズムをつかめて、仲間と中国語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

成績評価の方法

平常点20%（単語テスト、書取テスト）、期末口頭試験30%、期末筆記試験50%の割合で評価します。遅刻3回は、欠席1回とする。学期の3分の1以上欠席すると、期末試験が受けられなくなる可能性があるので、要注意。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語会話I・II、中国語会話Ⅲ

テキスト

プリント配布

参考書

参考書などは、授業開始時に担当教員より随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	中国語会話IV ＜3＞		
教員名	凌　雲鳳		
科目ナンバー	1101086540	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

前期開講の中国語会話Ⅲ＜3＞に引き続き、ビジネスを話題とする会話の授業を行います。中国の取引先の接待から実務の連絡などを、聞いたり、話したりしながら練習を重ねていきます。前期のⅢ＜3＞よりも、ビジネスで使われる実践的な学習素材を多少増やし、実務にも使用される日常会話をより楽しく習得できるように構成されています。履修者は、できるだけ中国語会話Ⅲ＜3＞も履修することをお勧めします。

到達目標

歓迎宴会での祝辞、歓談、買い物と観光案内、電話による連絡など、日中関係の仕事における初歩的な実務を中国語で表現できること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	中国語会話Ⅲ＜3＞の復習	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ授業内容を把握する。 【復習】授業内容を振り返る。	60分
第2回	第８課　　歓迎宴会	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる。	60分
第3回	第８課　まとめ	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる。	60分

第4回	第９課　買い物と観光案内	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる。	60分
第5回	第９課　まとめ	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる。	60分
第6回	第10課　　見送り	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる。	60分
第7回	第10課　　まとめ	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる。	60分
第8回	復習（第８課～第10課）	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる。	60分
第9回	第11課　　電話による引き合い	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる	60分

第10回	第11課　まとめ	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる	60分
第11回	第12課　　電話による依頼	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる	60分
第12回	第12課　まとめ 復習（第11課～第12課）	
	【予習】本文を音読、新出語句の発音や使い方などを確認する。 【復習】授業内容を振り返り、練習問題を完成させる	60分
第13回	口頭試験	
	口頭試験の実施	60分
第14回	筆記試験	
	筆記試験の実施	60分
第15回	総まとめ	
	総仕上げ	60分

授業の方法

基本的に２回１課でゆっくり進めていきます。授業中、音読、聴き取り、定型表現の置き換え練習、教師との会話、学生同士の会話練習などを組み合わせながら、授業を展開させます。ビジネス実務と中国語の一般的な表現を覚え、中国語による会話発表なども行う予定です。

成績評価の方法

学期末試験、平常点（出席率、学習態度、小テスト）などを総合して評価します。三分の二以上の出席率が必要とします。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中国語会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（3）

テキスト

プリント教材（成蹊大学が開発した中国語学習Ｗｅｂ教材「游」の第四部に入っています。）

参考書

授業時担当教師より紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	世界の言語 （韓国語Ⅰ）		
教員名	阪堂　千津子		
科目ナンバー	1301088021	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

韓国語を初めて学ぶ人のための入門クラスです。ハングルの文字と発音、そして単語と基本文法を学び、「話す・書く・聞く・読む」という総合的な言語能力を身につけることを目指します。言語の背景になる朝鮮半島の文化・生活などにも触れ、幅広い理解力を培いながら進めます。言語習得には、基礎が大事なので積極的に参加し、復習・予習をしてください。

到達目標

①ハングルの仕組みを理解し、文字の発音と書くことを身につけます。
②単語を覚えるとともに基本文法を学びます
③韓国語で挨拶と自己紹介（家族のことを含む）ができるように目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	文字と発音（１）基本母音を覚えましょう ハングルの基本的なしくみを知り、10個の基本母音字の文字と発音を学びます。簡単なあいさつ言葉も覚えます。	
	教科書に沿ったワークシート(2014年改訂版）を配布します。毎回、該当する部分を自宅で学習し、提出してください。 授業でならった基本母音10個の文字と発音を復習してください。	60分
第2回	文字と発音（２）　基本子音を覚えましょう ハングルのカ、ナ、タ、ラ、マ、パ、サ、チャ行の文字と発音を学びます。簡単なあいさつ言葉も覚えましょう。	
	基本子音8つの文字と発音の仕方を復習してください。基本的な単語も覚えます。	60分
第3回	文字と発音（３）　激音と濃音 日本語にはない息を激しく吐き出しながら発音する「激音」と、息をとめて発音する「濃音」の文字と発音を学びます。	
	激音と濃音の発音のコツを習得するまで練習してください。ハングル（韓国語ではありません）で日記を書きます。	60分

第4回	文字と発音（４）　合成母音字 ハングルのワ行とヤ行を学びます。 ハングル名刺を作って、交換しましょう	
	合成母音字の文字と発音の仕方を復習してください。合成母音字の入った基本単語(表現）も覚えます。	60分
第5回	文字と発音（５）　パッチム 日本語の「っ」や「ん」にあたるパッチムの発音を学びます。 正しい発音でK-popが歌えるようになります。	
	パッチムの入った単語がスラスラ読めるように復習してください。	60分
第6回	発音上手になるコツ なめらかに読むための「連音化（スライド読み）」「有声音化（濁音化）」を学びます。 実際の看板、チラシ、メニューなどを読む練習をします 食堂で使える簡単な表現も覚えます	
	いろいろな単語が書けるように、読めるようになるまで練習してください。	60分
第7回	第5課　私は～です 自分や家族の紹介の仕方を学びます	
	家族や職業に関する単語を覚えてください。文法の理解度をワークシートで確認してください。	60分
第8回	第5課　これは韓国語で何といいますか 旅先でわからない単語をたずねる表現を学びます 「～といいます」の言い方を覚えます	
	第5課の本文やワークシートにある自己紹介文を参考に、単語を入れ替えて自分なりの簡単な自己紹介を書いてみましょう。	60分
第9回	第6課　あります（います）、ありません（いません） 自分の部屋や教室にあるものを使って練習します。 友だちの持ち物やスケジュールも聞いてみましょう。	
	身の回りの物を表す単語を覚えてください。（プリント配布）	60分

第10回	第6課　位置を表すことば 道案内を聞き取るのに必要な位置を表す言葉（上、下、前、後、右、左など）を学びます。モノの位置をより詳しく言えるようになります。	
	第6課までのワークシートを完成させてください。位置を表す単語も覚えます。	60分
第11回	第7課　それはなんですか 「こそあど」にあたる言葉をまなびます。 本文を応用して、人や持ち物をほめたり、感想を言う表現を学びましょう。	
	引き続き、身の回りの物を表す単語を覚えましょう。	60分
第12回	第7課　友だちになりましょう 「家はどこですか」「趣味は何ですか」などのやりとりを 通して、お互いのことを知ってともだちになる方法を学びましょう。友だち同士で簡単なインタビューワークをします。	
	家族や周りの人のことも含めたより詳しい自己紹介文を書いてみましょう。	60分
第13回	まとめと復習 韓国語の「てにをは」の使い方の確認・復習をします。 数字の言い方を学びます。友だちの電話番号や誕生日がききとれるようになりましょう。	
	5~7課までの本文を覚えてください。 これまで習った内容も復習しておいてください。	60分
第14回	まとめと小テスト 今まで習った内容を確認する小テストを行います。	
	7課までのワークシートを完成させましょう。	60分
第15回	小テストの答え合わせ、まとめ	
	小テストのまちがえたところを確認し、夏休みの課題を計画してください。	60分

授業の方法

自分の身近なことが言える表現を、主に会話体で学習していきます。授業中には耳と口と手をふんだんに使ってください。友だちとのペア練習やインタビュータスク、ゲームなどを通して、楽しくてすぐに役に立つ授業をめざします。学習進度に合わせてDVDドラマも鑑賞していきます。

成績評価の方法

授業への積極的な参加度(30%)、ワークシートの提出と本文の暗記（30%）、小テスト（40%）の結果により、総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

他の韓国語基礎科目（会話１など）も、あわせて受講することをオススメします。

テキスト

①金順玉・阪堂千津子『最新チャレンジ！韓国語』白水社、2014、2300円
＊『新チャレンジ！韓国語』とは若干内容が違うので注意してください。

②金順玉・阪堂千津子『最新チャレンジ！韓国語　ワークシート』白水社、2014、非売品（教室で配布します）

参考書

『韓国語単語集』（新星出版社）
『ゼロから1人で韓国語』（あさ出版）
『コスモス朝和辞典』（白水社）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	世界の言語 （韓国語Ⅰ）		
教員名	文　珍瑛		
科目ナンバー	1401088021	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

韓国語を初めて学ぶ人のための入門クラスです。ハングルの文字と発音、そして単語と基本文法を学び、「話す・書く・聞く・読む」という総合的な言語能力を身につけることを目指します。言語の背景になる朝鮮半島の文化・生活などにも触れ、幅広い理解力を培いながら進めます。言語習得には、基礎が大事なので積極的に参加し、復習・予習をしてください。

到達目標

ハングルの仕組みを理解し、文字の発音と書くことを身につけます。さらに、単語を覚えるともに基本文法を学び、韓国語で挨拶と自己紹介（家族のことを含む）ができるように目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 1課　母音と子音Ⅰ	
	ハングルについて調べる。	60分
第2回	2課　母音と子音Ⅱ	
	①習った文字を声を出して読む。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第3回	3課　パッチム	
	①習った文字を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分

第4回	4課　こんにちは	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第5回	5課　これは何ですか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第6回	6課　この人たちは誰ですか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第7回	7課　何をしますか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第8回	中間テスト 8課　社長いらっしゃいますか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第9回	9課　どこに行かれますか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分

第10回	10課　携帯電話の番号は何番ですか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第11回	11課　銀行はどこにありますか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第12回	12課　週末には何をなさいましたか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第13回	13課　東大門市場はどうですか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第14回	期末テスト	
	期末テスト範囲を復習する。	60分
第15回	総まとめと期末テスト解説	
	期末テストの内容を再確認する。	60分

授業の方法

初めて学習する言語なので、文字と発音に重点をおいて進めます。文法事項に関してはテキストに沿ってバランスよく学習します。授業中に日常的に頻繁に使う表現を作文し、ペアーで練習します。多様な文章を読み、韓国語の特有な表現が使えるようにします。副教材として映像や音楽を積極的に使います。
より詳細な授業計画や方法については授業にて直接指示しますが、授業の進捗によっては、内容を一部変更する場合があります。なお、準備学修（予習・復習、授業外の課題）は韓国語学習において必要不可欠な要素です。授業外での学習にも積極的に取り組んでください。

成績評価の方法

1) 授業への積極的な参加 30%
2) 小テストあるいは中間試験の成績30%
3) 最終試験 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

カナタ韓国語学院著、『カナタKOREAN初級１』、図書刊行会、2013年

参考書

授業中に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の前・後とオフィスアワーに受け付けます。

科目名	世界の言語 （韓国語II）		
教員名	阪堂　千津子		
科目ナンバー	1301088022	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

前期に学んだ文字と発音と基本文法を復習しながら、日常生活で実際に使える文型と文法を学びます。「話す・書く・聞く・読む」という言語能力をさらにアップさせることを目指します。言語の背景になる朝鮮半島の文化・生活などにも触れ、幅広い理解力を培いながら進めます。前期と同様に、復習と予習をしっかりしてください。

到達目標

①日常生活で使う文型と文法を身につけて、簡単な会話ができる
②韓国語で日記が書ける

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	前期学習項目の復習 第8課　一週間の日課を言う 動詞の活用「～ます」（ヘヨ体）①	
	動詞の活用の仕方を復習してください 1週間の言い方を覚えましょう	60分
第2回	第8課　一日の日課を言う 動詞の活用「～ます」（ヘヨ体）②	
	時間のいいかを覚えてください。 日課を言うのに必要な単語も覚えましょう。	60分
第3回	第9課　ご飯食べに行きましょう いろいろな場所の単語を覚えます。そこで何をするのか言えるように勉強します	
	場所の単語を覚えてください。そこで何をするのか、目的も一緒に覚えましょう	60分

第4回	第9課　～がすきです 好き嫌いが言えるようにな r ます	
	本文を覚えてください。ワークシートも範囲まで終えましょう。	60分
第5回	第9課　　変則用言 いくつかの非規則的な活用（変則用言）を学びましょう	
	変則用言の活用のしかたを再度確認、復習してください。	60分
第6回	第10課　週末に内をしましたか 過去形の言い方（活用）を学びましょう。	
	過去形の活用のしかたを復習してください。	60分
第7回	第9課　～してから～しました 1週間のできごとをともだちに伝えてみましょう	
	日記を書いてください	60分
第8回	第11課　明日は何をするつもりですか 推量や予定をあらわす「～でしょう」「かもしれません」の言い方などを覚えましょう	
	自分の将来や夢について書いてください。	60分
第9回	第11課 理由をあらわす表現を学びます	
	本文を覚えましょう	60分

第10回	第11課　買い物 店の客と店員になったつもりでロールプレイをします	
	値段や数の言い方を覚えてください。	60分
第11回	第12課　韓国語の勉強はどうですか？ 感想や意見を言うことができるようになりましょう。	
	「～て」「～だけど」などの表現を使って、いろいろな事物についての感想や意見を書いてください。	60分
第12回	第12課　どれが一番好きですか？ ２つや３つのものを比較する表現を学びます。	
	本文を覚えてください	60分
第13回	第13課　お茶でも飲みましょうか？ 相手を誘う表現や、断る表現を学習します。	
	友達を誘う会話を作ってください	60分
第14回	まとめと小テスト	
	８～13課の本文暗記の復習してください。 ワークシートを終わらせましょう	60分
第15回	小テストの振り返り、総復習	
	学習項目の総復習	60分

授業の方法

すぐに使える定型文を応用をしながら、文法と会話練習を行います。授業中には耳と口と手をふんだんに使いましょう。毎回、宿題を出します。単語と本文は暗記してください。本文の暗記カードを渡しますので各自のペースで自主的にチャレンジしましょう。

成績評価の方法

授業への参加度(30%)、ワークシートの提出と本文の暗記（30%）、小テスト(40%）の結果により、総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「世界の言語（韓国語I)」をすでに履修していること。

テキスト

金順玉・阪堂千津子『最新チャレンジ！韓国語』白水社、2014、2300円

参考書

『韓国語単語集』(新星出版社)
『ゼロから一人で韓国語』（あさ出版）
『コスモス朝和辞典』（白水社）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	世界の言語　（韓国語II）		
教員名	文　珍瑛		
科目ナンバー	1401088022	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

前期に学んだ文字と発音と基本文法を復習しながら、日常生活で実際に使える文型と文法を学びます。「話す・書く・聞く・読む」という言語能力をさらにアップさせることを目指します。言語の背景になる朝鮮半島の文化・生活などにも触れ、幅広い理解力を培いながら進めます。前期と同様に、復習と予習をしっかりしてください。

到達目標

日常生活で使う文型と文法をしっかり身につけて、簡単な会話ができることと韓国語で日記が書けることを目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	14課　リンゴがいくらですか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第2回	15課　カルビ2人分と水冷麺2つください	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第3回	16課　アルバイトは何時に終わりますか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分

第4回	17課　いつからその会社に勤めていらっしゃいますか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第5回	18課　それでは5時半に劇場の前で会いましょう	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第6回	19課　下宿に住んでいるので、料理はしません	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第7回	20課　どんな運動が好きですか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第8回	中間テスト 21課　旅行は楽しかったですか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第9回	22課　私たち、明日何をしましょうか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分

第10回	23課　卒業後に就職しようと思います	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第11回	24課　向かっているところです	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第12回	25課　宏美さんも来られますか	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第13回	26課　すみません。私は行けません	
	①習った単語を声を出して読み、暗記する。 ②次回授業で扱う章に目を通す。	60分
第14回	期末テスト	
	期末テスト範囲を復習する。	60分
第15回	総まとめと期末テスト解説	
	期末テストの内容を再確認する。	60分

授業の方法

文法事項に関してはテキストに沿ってバランスよく学習します。授業中に日常的に頻繁に使う表現を作文し、ペアーで練習します。多様な文章を読み、韓国語の特有な表現が使えるようにします。副教材として映像や音楽を積極的に使います。
より詳細な授業計画や方法については授業にて直接指示しますが、授業の進捗によっては、内容を一部変更する場合があります。なお、準備学修（予習・復習、授業外の課題）は韓国語学習において必要不可欠な要素です。授業外での学習にも積極的に取り組んでください。

成績評価の方法

1) 授業への積極的な参加 30%
2) 小テストあるいは中間試験の成績30%
3) 最終試験 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

カナタ韓国語学院著、『カナタKOREAN初級１』、図書刊行会、2013年

参考書

授業中に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の前・後とオフィスアワーに受け付けます。

科目名	世界の言語 （韓国語III）＜1＞		
教員名	文　珍瑛		
科目ナンバー	1301088023	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

韓国語の授業を1年間履修しているか、同等の学力を有する人を対象にするクラスです。初級レベルの文法を復習しながら、さらにレベル・アップした文法と表現力を学びます。自然なコミュニケーションを身につけるため、さまざまなシチュエーションを設定して会話の練習をするとともに、朝鮮半島の生活や文化も学びます。

到達目標

初級で学習した語彙と文法を定着させるとともに、これらを応用してより自然な韓国語の表現で簡単な日常会話ができることを目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス、復習	
	初級で習った文法の復習	60
第2回	第１課　遅れて申し訳ございません。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第3回	第２課　この背の高い人がご主人ですか。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60

第4回	第３課　付き合っている人はいませんでしたか。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第5回	第４課　通いながらずっと学びましたが。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第6回	第５課　どこに行くつもりです。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第7回	まとめ１	
	第１課から第５課までの復習	60
第8回	中間試験	
	試験勉強	120
第9回	第６課　小学校で習ったことがありますよ。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60

第10回	第７課　韓国が勝ちそうです。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第11回	第８課　見ようと思います。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第12回	第９課　雨が降り始めました。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第13回	第10課　食事でもしに行きましょうか。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第14回	期末試験	
	試験勉強	120
第15回	期末試験の解説	
	試験問題の復習	60

授業の方法

教材にそって進めます。習った文法を用いて作文をします。積極的に学生同士の会話の時間を設けます。必要に応じて映像資料を使います。

成績評価の方法

授業への積極的な参加　30%
小テストと中間試験　30%
期末試験40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

世界の言語（韓国語Ⅰ・Ⅱ）

テキスト

木内明著、『基礎から学ぶ韓国語講座』中級、図書刊行会、2005年。

参考書

日韓・韓日辞書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の前・後とオフィスアワーに受け付けます。

科目名	世界の言語 （韓国語III）＜2＞		
教員名	文　珍瑛		
科目ナンバー	1401088023	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

韓国語の授業を1年間履修しているか、同等の学力を有する人を対象にするクラスです。初級レベルの文法を復習しながら、さらにレベル・アップした文法と表現力を学びます。自然なコミュニケーションを身につけるため、さまざまなシチュエーションを設定して会話の練習をするとともに、朝鮮半島の生活や文化も学びます。

到達目標

初級で学習した語彙と文法を定着させるとともに、これらを応用してより自然な韓国語の表現で簡単な日常会話ができることを目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス、復習	
	初級で習った文法の復習	60
第2回	第１課　遅れて申し訳ございません。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第3回	第２課　この背の高い人がご主人ですか。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60

第4回	第３課　付き合っている人はいませんでしたか。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第5回	第４課　通いながらずっと学びましたが。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第6回	第５課　どこに行くつもりです。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第7回	まとめ１	
	第１課から第５課までの復習	60
第8回	中間試験	
	試験勉強	120
第9回	第６課　小学校で習ったことがありますよ。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60

第10回	第７課　韓国が勝ちそうです。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第11回	第８課　見ようと思います。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第12回	第９課　雨が降り始めました。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第13回	第10課　食事でもしに行きましょうか。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第14回	期末試験	
	試験勉強	120
第15回	期末試験の解説	
	試験問題の復習	60

授業の方法

教材にそって進めます。習った文法を用いて作文をします。積極的に学生同士の会話の時間を設けます。必要に応じて映像資料を使います。

成績評価の方法

授業への積極的な参加　30%
小テストと中間試験　30%
期末試験40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

世界の言語（韓国語Ⅰ・Ⅱ）

テキスト

木内明著、『基礎から学ぶ韓国語講座』中級、図書刊行会、2005年。

参考書

日韓・韓日辞書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の前・後とオフィスアワーに受け付けます。

科目名	世界の言語 （韓国語IV）<1>		
教員名	文　珍瑛		
科目ナンバー	1301088024	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

前期で学んだ語彙と文法を復習しながら、さらにレベル・アップした文法と表現力を学びます。自然なコミュニケーションを身につけるため、さまざまなシチュエーションを設定して会話の練習をするとともに、朝鮮半島の生活や文化も学びます。学生同士で会話練習をします。積極的に参加してください。

到達目標

前期で学習した語彙と文法を定着させるとともに、これらを応用してより自然な韓国語の表現で日常会話ができることを目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	前期の文法復習	
	前期に習った文法復習	60
第2回	第11課　実現したらいいですが。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第3回	第12課　高校の時に修学旅行で来ました。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60

第4回	第13課　開かれるといいます。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第5回	第14課　すごくきれいになりましたよ。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第6回	第15課　建てられて以来どのくらい経ちましたか。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第7回	まとめ１	
	第11課から第15課まで文法復習	60
第8回	中間試験	
	試験勉強	120
第9回	第16課　健康そうですね。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60

第10回	第17課　同じ年かも知れません。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第11回	第18課　タレでも作っておいて。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第12回	第19課　痩せるためには我慢しなくちゃ。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第13回	第20課　私も行くから。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第14回	期末試験	
	試験勉強	120
第15回	期末試験の解説	
	期末試験問題に目を通す。	60

授業の方法

教材にそって進めます。習った文法を用いて作文をします。積極的に学生同士の会話の時間を設けます。必要に応じて映像資料を使います。

成績評価の方法

授業への積極的な参加　30%
小テストと中間試験　30%
期末試験40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

世界の言語（韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）

テキスト

木内明著、『基礎から学ぶ韓国語講座』中級、図書刊行会、2005年。

参考書

日韓・韓日辞書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の前・後とオフィスアワーに受け付けます。

科目名	世界の言語 （韓国語IV）＜2＞		
教員名	文　珍瑛		
科目ナンバー	1401088024	単位数	1
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

前期で学んだ語彙と文法を復習しながら、さらにレベル・アップした文法と表現力を学びます。自然なコミュニケーションを身につけるため、さまざまなシチュエーションを設定して会話の練習をするとともに、朝鮮半島の生活や文化も学びます。学生同士で会話練習をします。積極的に参加してください。

到達目標

前期で学習した語彙と文法を定着させるとともに、これらを応用してより自然な韓国語の表現で日常会話ができることを目指します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	前期の文法復習	
	前期に習った文法復習	60
第2回	第11課　実現したらいいですが。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第3回	第12課　高校の時に修学旅行で来ました。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60

第4回	第13課　開かれるといいます。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第5回	第14課　すごくきれいになりましたよ。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第6回	第15課　建てられて以来どのくらい経ちましたか。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第7回	まとめ１	
	第11課から第15課まで文法復習	60
第8回	中間試験	
	試験勉強	120
第9回	第16課　健康そうですね。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60

第10回	第17課　同じ年かも知れません。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第11回	第18課　タレでも作っておいて。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第12回	第19課　痩せるためには我慢しなくちゃ。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第13回	第20課　私も行くから。	
	本文を暗記し、単語を調べる。	60
第14回	期末試験	
	試験勉強	120
第15回	期末試験の解説	
	期末試験問題に目を通す。	60

授業の方法

教材にそって進めます。習った文法を用いて作文をします。積極的に学生同士の会話の時間を設けます。必要に応じて映像資料を使います。

成績評価の方法

授業への積極的な参加　30%
小テストと中間試験　30%
期末試験40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

世界の言語（韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）

テキスト

木内明著、『基礎から学ぶ韓国語講座』中級、図書刊行会、2005年。

参考書

日韓・韓日辞書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の前・後とオフィスアワーに受け付けます。

科目名	異文化理解Ａ（ことばと文化の窓） ＜1＞		
教員名	横山　裕人、湯山　トミ子、里村　和秋、鈴木　恵美子		
科目ナンバー	1001087100	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

異文化理解科目は、成蹊教養カリキュラム（2013年度入学までのもの）で初修外国語として提供している4言語（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語）とその言語圏の文化・社会を紹介します。外国語を習得し、実際に使用するためには、語彙や文法などの語学的知識だけでなく、その言語を母語として使っている人たちの常識や社会習慣などの背景も知っておくことが、円滑なコミュニケーションのために必要となるからです。

異文化理解A（ことばと文化の窓）は、１つの科目を4人の教員が担当することで、初修外国語4言語とその言語が元になる文化圏をコンパクトに紹介しようという科目です。具体的には、各言語を代表して一人の教員が3回ずつその言語と文化圏を紹介します。学期の最初に、教員が科目のガイダンスを行います。

このようにして、登録必須で履修することになっている言語とは異なる言語についても、触れることができます。これによって、互いの言語や文化を比較することを通して、意外な共通性や興味深い違いを発見できるでしょう。

到達目標

自分の学んでいる言語の文化的・社会的背景が理解できるよう手段を学び、基礎的な知識を獲得する。
地球上の言語・文化の多様性に関心を持つ。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	初修外国語4言語の教員による合同ガイダンス（教室の割当などスケジュールについても説明しますので、かならず出席してください）。	
	シラバスをよく読み内容を理解する。	60分
第2回	（ドイツ語１.）ドイツとドイツ語について（「メルヒェン」とは何か？）。	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第3回	（ドイツ語２.）ドイツ語圏のさまざまな文化（ウィーンの文化・音楽・歴史）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分

第4回	（ドイツ語３.）ドイツ、オーストリアを理解するために（「戦争責任」に関する日本との比較）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第5回	（フランス語１.）フランス語について、フランスと日本の関係について	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第6回	（フランス語２.）フランス本国の文化（世界遺産をたずねて）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第7回	（フランス語３.）フランス語圏の多彩な文化（歴史と音楽）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第8回	（スペイン語１.）世界のスペイン語圏概観、スペインと日本の関係について	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第9回	（スペイン語２.）スペインの言語と文化（地域固有の言語・世界遺産・祭りなど）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分

第10回	（スペイン語３.）南北アメリカ大陸のスペイン語圏	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第11回	（中国語１.）中国語自己紹介（中国語ってどんなことば？）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第12回	（中国語２.）広くて大きな中国、長い歴史の中国（中国文化、中華文明の魅力と不思議）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第13回	（中国語３.）中国へのまなざし、中国からのまなざし、どうしてこうなるの？（今、人、日本、世界との対話）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第14回	特別補足講義（各言語別に行う）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第15回	特別補足講義（各言語別に行う）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分

授業の方法

講義形式ですが、視聴覚教材も活用して、わかりやすく学べるようにしたいと考えています。
なお、教室は言語圏ごとに固定されていますので、クラス単位で３回ごとに教室が代わります。受講者は、自分が～のうちのどのクラスに所属するかを認識して、自分の所属するクラスが、次回の授業でどの言語圏、どの教室を使用するかを、初回ガイダンスで配布されるスケジュール表に基づき、確認するようにしてください。
また、履修者数にもよりますが、受講者からの質問や意見など積極的に受けたいと思います。成蹊ポータルを通して、担当者からの掲示や授業資料などが入手できますので、こまめにチェックしてください。

成績評価の方法

各言語圏で1本のミニレポート提出を課題とします。このミニレポートの成績（64%）とそれぞれの講義での平常点（36%）をそれに加えます（詳しくは第1回目の合同ガイダンスで説明があります）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識は必要ありません。初修外国語科目を履修していれば、一層興味深いものになるでしょう。
後期には、それぞれ自分の興味を持った言語や文化に合わせて、異文化理解Bを履修すると、一層理解が深まるでしょう。

テキスト

特にありません。必要に応じて、プリントが配布されます。

参考書

各言語圏担当者によって紹介されます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の後にも質問を受け付けます。それ以外の時間は、各教員のオフィス・アワーを利用してください。

科目名	異文化理解Ａ（ことばと文化の窓） ＜2＞		
教員名	横山　裕人、湯山　トミ子、里村　和秋、鈴木　恵美子		
科目ナンバー	1001087100	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

異文化理解科目は、成蹊教養カリキュラム（2013年度入学までのもの）で初修外国語として提供している4言語（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語）とその言語圏の文化・社会を紹介します。外国語を習得し、実際に使用するためには、語彙や文法などの語学的知識だけでなく、その言語を母語として使っている人たちの常識や社会習慣などの背景も知っておくことが、円滑なコミュニケーションのために必要となるからです。

異文化理解A（ことばと文化の窓）は、１つの科目を4人の教員が担当することで、初修外国語4言語とその言語が元になる文化圏をコンパクトに紹介しようという科目です。具体的には、各言語を代表して一人の教員が3回ずつその言語と文化圏を紹介します。学期の最初に、教員が科目のガイダンスを行います。

このようにして、登録必須で履修することになっている言語とは異なる言語についても、触れることができます。これによって、互いの言語や文化を比較することを通して、意外な共通性や興味深い違いを発見できるでしょう。

到達目標

自分の学んでいる言語の文化的・社会的背景が理解できるよう手段を学び、基礎的な知識を獲得する。
地球上の言語・文化の多様性に関心を持つ。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	初修外国語4言語の教員による合同ガイダンス（教室の割当などスケジュールについても説明しますので、かならず出席してください）。	
	シラバスをよく読み内容を理解する。	60分
第2回	（ドイツ語１.）ドイツとドイツ語について（「メルヒェン」とは何か？）。	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第3回	（ドイツ語２.）ドイツ語圏のさまざまな文化（ウィーンの文化・音楽・歴史）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分

第4回	（ドイツ語３.）ドイツ、オーストリアを理解するために（「戦争責任」に関する日本との比較）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第5回	（フランス語１.）フランス語について、フランスと日本の関係について	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第6回	（フランス語２.）フランス本国の文化（世界遺産をたずねて）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第7回	（フランス語３.）フランス語圏の多彩な文化（歴史と音楽）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第8回	（スペイン語１.）世界のスペイン語圏概観、スペインと日本の関係について	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第9回	（スペイン語２.）スペインの言語と文化（地域固有の言語・世界遺産・祭りなど）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分

第10回	（スペイン語３.）南北アメリカ大陸のスペイン語圏	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第11回	（中国語１.）中国語自己紹介（中国語ってどんなことば？）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第12回	（中国語２.）広くて大きな中国、長い歴史の中国（中国文化、中華文明の魅力と不思議）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第13回	（中国語３.）中国へのまなざし、中国からのまなざし、どうしてこうなるの？（今、人、日本、世界との対話）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第14回	特別補足講義（各言語別に行う）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第15回	特別補足講義（各言語別に行う）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分

授業の方法

講義形式ですが、視聴覚教材も活用して、わかりやすく学べるようにしたいと考えています。
なお、教室は言語圏ごとに固定されていますので、クラス単位で３回ごとに教室が代わります。受講者は、自分が～のうちのどのクラスに所属するかを認識して、自分の所属するクラスが、次回の授業でどの言語圏、どの教室を使用するかを、初回ガイダンスで配布されるスケジュール表に基づき、確認するようにしてください。
また、履修者数にもよりますが、受講者からの質問や意見など積極的に受けたいと思います。成蹊ポータルを通して、担当者からの掲示や授業資料などが入手できますので、こまめにチェックしてください。

成績評価の方法

各言語圏で1本のミニレポート提出を課題とします。このミニレポートの成績（64%）とそれぞれの講義での平常点（36%）をそれに加えます（詳しくは第1回目の合同ガイダンスで説明があります）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識は必要ありません。初修外国語科目を履修していれば、一層興味深いものになるでしょう。
後期には、それぞれ自分の興味を持った言語や文化に合わせて、異文化理解Bを履修すると、一層理解が深まるでしょう。

テキスト

特にありません。必要に応じて、プリントが配布されます。

参考書

各言語圏担当者によって紹介されます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の後にも質問を受け付けます。それ以外の時間は、各教員のオフィス・アワーを利用してください。

科目名	異文化理解Ａ（ことばと文化の窓） ＜3＞		
教員名	横山　裕人、湯山　トミ子、里村　和秋、鈴木　恵美子		
科目ナンバー	1001087100	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

異文化理解科目は、成蹊教養カリキュラム（2013年度入学までのもの）で初修外国語として提供している4言語（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語）とその言語圏の文化・社会を紹介します。外国語を習得し、実際に使用するためには、語彙や文法などの語学的知識だけでなく、その言語を母語として使っている人たちの常識や社会習慣などの背景も知っておくことが、円滑なコミュニケーションのために必要となるからです。

異文化理解A（ことばと文化の窓）は、１つの科目を4人の教員が担当することで、初修外国語4言語とその言語が元になる文化圏をコンパクトに紹介しようという科目です。具体的には、各言語を代表して一人の教員が3回ずつその言語と文化圏を紹介します。学期の最初に、教員が科目のガイダンスを行います。

このようにして、登録必須で履修することになっている言語とは異なる言語についても、触れることができます。これによって、互いの言語や文化を比較することを通して、意外な共通性や興味深い違いを発見できるでしょう。

到達目標

自分の学んでいる言語の文化的・社会的背景が理解できるよう手段を学び、基礎的な知識を獲得する。
地球上の言語・文化の多様性に関心を持つ。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	初修外国語4言語の教員による合同ガイダンス（教室の割当などスケジュールについても説明しますので、かならず出席してください）。	
	シラバスをよく読み内容を理解する。	60分
第2回	（ドイツ語１.）ドイツとドイツ語について（「メルヒェン」とは何か？）。	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第3回	（ドイツ語２.）ドイツ語圏のさまざまな文化（ウィーンの文化・音楽・歴史）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分

第4回	（ドイツ語３.）ドイツ、オーストリアを理解するために（「戦争責任」に関する日本との比較）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第5回	（フランス語１.）フランス語について、フランスと日本の関係について	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第6回	（フランス語２.）フランス本国の文化（世界遺産をたずねて）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第7回	（フランス語３.）フランス語圏の多彩な文化（歴史と音楽）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第8回	（スペイン語１.）世界のスペイン語圏概観、スペインと日本の関係について	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第9回	（スペイン語２.）スペインの言語と文化（地域固有の言語・世界遺産・祭りなど）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分

第10回	（スペイン語３.）南北アメリカ大陸のスペイン語圏	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第11回	（中国語１.）中国語自己紹介（中国語ってどんなことば？）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第12回	（中国語２.）広くて大きな中国、長い歴史の中国（中国文化、中華文明の魅力と不思議）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第13回	（中国語３.）中国へのまなざし、中国からのまなざし、どうしてこうなるの？（今、人、日本、世界との対話）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第14回	特別補足講義（各言語別に行う）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第15回	特別補足講義（各言語別に行う）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分

授業の方法

講義形式ですが、視聴覚教材も活用して、わかりやすく学べるようにしたいと考えています。
なお、教室は言語圏ごとに固定されていますので、クラス単位で３回ごとに教室が代わります。受講者は、自分が～のうちのどのクラスに所属するかを認識して、自分の所属するクラスが、次回の授業でどの言語圏、どの教室を使用するかを、初回ガイダンスで配布されるスケジュール表に基づき、確認するようにしてください。
また、履修者数にもよりますが、受講者からの質問や意見など積極的に受けたいと思います。成蹊ポータルを通して、担当者からの掲示や授業資料などが入手できますので、こまめにチェックしてください。

成績評価の方法

各言語圏で1本のミニレポート提出を課題とします。このミニレポートの成績（64%）とそれぞれの講義での平常点（36%）をそれに加えます（詳しくは第1回目の合同ガイダンスで説明があります）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識は必要ありません。初修外国語科目を履修していれば、一層興味深いものになるでしょう。
後期には、それぞれ自分の興味を持った言語や文化に合わせて、異文化理解Bを履修すると、一層理解が深まるでしょう。

テキスト

特にありません。必要に応じて、プリントが配布されます。

参考書

各言語圏担当者によって紹介されます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の後にも質問を受け付けます。それ以外の時間は、各教員のオフィス・アワーを利用してください。

科目名	異文化理解Ａ（ことばと文化の窓） ＜4＞		
教員名	横山　裕人、湯山　トミ子、里村　和秋、鈴木　恵美子		
科目ナンバー	1001087100	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

異文化理解科目は、成蹊教養カリキュラム（2013年度入学までのもの）で初修外国語として提供している4言語（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語）とその言語圏の文化・社会を紹介します。外国語を習得し、実際に使用するためには、語彙や文法などの語学的知識だけでなく、その言語を母語として使っている人たちの常識や社会習慣などの背景も知っておくことが、円滑なコミュニケーションのために必要となるからです。

異文化理解A（ことばと文化の窓）は、１つの科目を4人の教員が担当することで、初修外国語4言語とその言語が元になる文化圏をコンパクトに紹介しようという科目です。具体的には、各言語を代表して一人の教員が3回ずつその言語と文化圏を紹介します。学期の最初に、教員が科目のガイダンスを行います。

このようにして、登録必須で履修することになっている言語とは異なる言語についても、触れることができます。これによって、互いの言語や文化を比較することを通して、意外な共通性や興味深い違いを発見できるでしょう。

到達目標

自分の学んでいる言語の文化的・社会的背景が理解できるよう手段を学び、基礎的な知識を獲得する。
地球上の言語・文化の多様性に関心を持つ。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	初修外国語4言語の教員による合同ガイダンス（教室の割当などスケジュールについても説明しますので、かならず出席してください）。	
	シラバスをよく読み内容を理解する。	60分
第2回	（ドイツ語１.）ドイツとドイツ語について（「メルヒェン」とは何か？）。	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第3回	（ドイツ語２.）ドイツ語圏のさまざまな文化（ウィーンの文化・音楽・歴史）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分

第4回	（ドイツ語３.）ドイツ、オーストリアを理解するために（「戦争責任」に関する日本との比較）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第5回	（フランス語１.）フランス語について、フランスと日本の関係について	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第6回	（フランス語２.）フランス本国の文化（世界遺産をたずねて）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第7回	（フランス語３.）フランス語圏の多彩な文化（歴史と音楽）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第8回	（スペイン語１.）世界のスペイン語圏概観、スペインと日本の関係について	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第9回	（スペイン語２.）スペインの言語と文化（地域固有の言語・世界遺産・祭りなど）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分

第10回	（スペイン語３.）南北アメリカ大陸のスペイン語圏	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第11回	（中国語１.）中国語自己紹介（中国語ってどんなことば？）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第12回	（中国語２.）広くて大きな中国、長い歴史の中国（中国文化、中華文明の魅力と不思議）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第13回	（中国語３.）中国へのまなざし、中国からのまなざし、どうしてこうなるの？（今、人、日本、世界との対話）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第14回	特別補足講義（各言語別に行う）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分
第15回	特別補足講義（各言語別に行う）	
	教員の示した参考文献などを使って、関心を持った主題について文献を読み、インターネットなどで調べる。	90分

授業の方法

講義形式ですが、視聴覚教材も活用して、わかりやすく学べるようにしたいと考えています。
なお、教室は言語圏ごとに固定されていますので、クラス単位で３回ごとに教室が代わります。受講者は、自分が～のうちのどのクラスに所属するかを認識して、自分の所属するクラスが、次回の授業でどの言語圏、どの教室を使用するかを、初回ガイダンスで配布されるスケジュール表に基づき、確認するようにしてください。
また、履修者数にもよりますが、受講者からの質問や意見など積極的に受けたいと思います。成蹊ポータルを通して、担当者からの掲示や授業資料などが入手できますので、こまめにチェックしてください。

成績評価の方法

各言語圏で1本のミニレポート提出を課題とします。このミニレポートの成績（64%）とそれぞれの講義での平常点（36%）をそれに加えます（詳しくは第1回目の合同ガイダンスで説明があります）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識は必要ありません。初修外国語科目を履修していれば、一層興味深いものになるでしょう。
後期には、それぞれ自分の興味を持った言語や文化に合わせて、異文化理解Bを履修すると、一層理解が深まるでしょう。

テキスト

特にありません。必要に応じて、プリントが配布されます。

参考書

各言語圏担当者によって紹介されます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の後にも質問を受け付けます。それ以外の時間は、各教員のオフィス・アワーを利用してください。

科目名	異文化理解Ｂ（ドイツ語圏）		
教員名	里村　和秋		
科目ナンバー	1101087200	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

　　ドイツの文化や社会についてさまざまなテーマからアプローチすることを目的とします。
　神聖ローマ帝国の成立以来、ドイツは隣国イタリアやフランスなどの影響を受けながら、独自の文化を形成してきました。特に弁証法に象徴される、生と死、理性と感性といった二律背反的な要素を融合させる点に文化的特徴を見ることができます。
　　ドイツ文化や社会について、この授業では、ドイツのナショナリズムの基盤を形成したロマン主義の時代から第二次世界大戦を経て現代に至るまでのドイツ語圏のテーマ、特に19世紀文化、20世紀の政治的な問題などを扱い、それらの問題の本質をとらえることが到達目標となります。さらにドイツ以外のドイツ語圏に含まれるオーストリアの問題なども、ドイツの全体像を捉えるために扱います。
　　この授業への出席者はドイツ語履修者に限定しませんので、ドイツ語に関する知識がなくても理解できるように配慮しますので、学生のみなさんの積極的な参加を望みます。

到達目標

　　勤勉さ、国民性、高度な先進工業国、近代国家の成立の時期（明治維新とドイツ統一）など点で、しばしば日本との比較の対象であり、また日本の模範となってきたドイツでありますが、しかし、思想的本質においては、ドイツと日本の間には大きな相違があります。
　そうしたドイツの歴史的、文化的背景を追いながら、異文化としてのドイツ語圏の文化を理解し、さらにヨーロッパ文化の理解の基盤を作ることが目的となります。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション 文化論の問題・授業の進め方・レポートの課題	
	【予習】 ・ドイツに関して知っていることをまとめなさい。	６０
第2回	ドイツ・オーストリアの文化、歴史、都市（ベルリン／ウィーン）	
	【予習】 ・ドイツの歴史について知っていることをまとめなさい。 ・ベルリンについて知っていることをまとめなさい。 ・ウィーンについて知っていることをまとめなさい。	６０
第3回	ロマン主義（1）　　古典主義とロマン派 ドイツロマン派とメルヒェンの理論	
	【予習】 ・メルヒェンとは何かを調べなさい。 ・グリム童話を読んで、印象を述べなさい。	６０
第4回	ロマン主義（2）　ロマン派とメルヒェン　　メルヒェンの解釈	

	【予習】 ・グリム童話の「青髭」を読んで、解釈をしなさい。	６０
第5回	ヴィーン体制　　ビーダーマイアー期の状況 教養・ 検閲の問題　　ビーダーマイアー期の文学作品	
	【予習】 ・19世紀前半のウィーン体制について調べなさい。	６０
第6回	ヴィーンの世紀末（1）　　ユーゲントシュティールと精神分析 グスタフ・クリムトとジークムント・フロイト	
	【予習】 ・グスタフ・クリムトの絵画を見て感想を述べなさい。 ・フロイトの功績をまとめなさい。	６０
第7回	ヴィーンの世紀末（2）　　世紀末文学 ホーフマンスタールの世界	
	【予習】 ・ホフマンスタールの「騎兵の物語」を読んで、解釈しなさい。	６０
第8回	Ｒ．ワーグナーとＲ．シュトラウスのオペラ	
	【予習】 ・Ｒ．ワーグナーかＲ．シュトラウスのオペラを見て、印象を述べなさい。	６０
第9回	表現主義運動　　表現主義の絵画と映画	
	【予習】 ・印象主義の絵画と表現主義の絵画を比較して、感想を述べなさい。	６０
第10回	ナチス期のプロパガンダ映画	

	【予習】 ・リーフェンシュタールの「意思の勝利」「オリンピア」を見て、プロパガンダ映画の特徴を述べなさい。	６０
第11回	ヘルマン・ヘッセの文学と戦争	
	【予習】 ・ヘルマン・ヘッセの短編小説を読んで、感想を述べなさい。	６０
第12回	ベルリンの壁　崩壊	
	【予習】 ・ベルリンの壁の崩壊が生じた歴史的な経緯を調べ、それが与えた影響を述べなさい。	６０
第13回	ドイツに関するテーマについての発表（１）	
	【予習】 ・発表のための準備をしなさい。	６０
第14回	ドイツに関するテーマについての発表（2）	
	【予習】 ・発表のための準備をしなさい。	６０
第15回	ドイツに関するテーマについての発表（3）	
	【予習】 ・発表のための準備をしなさい。	６０
授業の方法		

授業ではレジュメや資料を配布します。日本語の文献を用いますので、ドイツ語の知識は不要です。
視聴覚資料等を使いながら講義形式で授業を進めますが、授業においてはあらかじめ指定された文献、配布する資料を読んでいることが前提となります。学生のみなさんに積極的に参加していただくために、質問やご意見をお聞きしながら授業を進めて行きます。また授業の最後には、毎回授業の内容を文章にまとめて提出していただきます。また短いレポートを数回ポータルサイトから提出していただきます。
また履修者の人数によりますが、いくつかグループを作り、グループごとにドイツに関するいくつかのテーマを選び、Power Pointで発表をしていただきます。その際には、ディスカッションができるように、事前に問題点を整理したレジュメを用意していただきます。
この授業では、単にドイツの文化を学ぶだけでなく、Power Pointでのプレゼンテーションの練習、無線LAN等を用いたグループワーク作業、さまざまな思考法の訓練なども行います。
なお学期末試験は実施いたしません。授業に関する質問・相談がある場合には、教室、研究室またはメールにて随時受け付けます。

成績評価の方法

以下の内容で評価いたします。なお学期末試験は実施しません。

1. 授業中での発言等で、どの程度積極的に参加しているかを評価します。（20%）
2. 毎回、講義内容をまとめ、授業終了時に提出していただきます。（30%）。
3. 授業において　レポートの課題を数回出します。レポートは1200字程度でまとめて、ポータルサイトから提出してください。（30%）
4 ドイツに関するテーマで発表していただきます。（20%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

異文化理解Aを履修していることが望ましいですが、必須ではありません。特にドイツ語や世界史を学習していない方でも、　ドイツを理解したいという受講生を考慮して授業を行います。

テキスト

特に指定のテキストはありません。授業中にプリントを配布します。

参考書

＜授業で触れるテキストを挙げておきます。興味に応じて読んでみてください＞

ゲーテ『ファウスト』　岩波文庫
レヴィ＝ストロース　『野生の思考』みすず書房
レヴィ＝ストロース『構造人類学』みすず書房　ソフォクレス　『オイディプス王』岩波文庫
カント『純粋理性批判』岩波文庫　ヘーゲル『精神現象学』岩波文庫
ニーチェ『ツァラツストラはこう語った』岩波文庫　ダーヴィン『進化論』
ソシュール『一般言語学講義』岩波書店　デリダ『声と現象』　理想社
サウンド　オブ　ミュージック　（1965）　20世紀FOX　（監督）ロバート＝ワイズ
手塚富雄著　『ドイツ文学案内』　岩波文庫別冊　藤本敦雄他著『ドイツ文学史』
鳴瀬治他：『ドイツ史　全3巻』　山川出版社
トーマス・マン『ドイツとドイツ人』岩波文庫
高橋義人『ドイツ人のこころ』岩波新書
アンジェロス：『ドイツ文学史』　クセジュ文庫
園田宗人他訳：『ドイツ・ロマン派論考』　国書刊行会
A.ウィードマン：『ロマン主義と表現主義』　法政大学出版会
エーゴン・フリーデル：『近代文化史3』　みすず書房
プレスナー：『ドイツロマン主義とナチズム』　講談社学術文庫
マックス・リュティ：『ヨーロッパの昔話』　岩崎美術社
小沢俊夫：『昔話とは何か』　大和書房　河合隼雄：『昔話の深層』福音館書店
桐生操：『本当は恐ろしいグリム童話』　K.K.ベストセラーズ
金田鬼一：『グリム童話集』（「12人の兄弟」第1巻「青髭」第2巻）
良知力：『青きドナウの乱痴気---ウィーン1848年』　平凡社
川名隆史：『路上の人々----近代ヨーロッパ民衆生活史』　日本エディタースクール出版部
エルンスト・マッハ：『感覚の分析』　法政大学出版会
ジョンストン：『ウィーン精神1・2』みすず書房
ウィットフォード：『クリムト』　洋版出版
M.ミルネール：『フロイトと文学解釈』　ユニテ出版
フロイト：『精神分析入門　上下』　新潮文庫　フロイト：『フロイトのウィーン』
ホフマンスタール：『チャンドス卿の手紙』　岩波文庫
ホフマンスタール：『ホフマンスタール全集』　河出書房新社
ヨアヒム＝ケーラー：『ワーグナーのヒトラー』三交社
ワーグナー：　『ワーグナー著作集』　第三文明社
ヴェステルンハーゲン：　『ワーグナー』白水社
ヘルマン・ヘッセ：『荒野の狼』　新潮文庫
A.ウィードマン：『ロマン主義と表現主義』　法政大学出版会
池田浩士：『闇の文化史』　馳々堂
ローベルト・ヴィーネ監督：映画「カリガリ博士」（1919）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	異文化理解Ｂ（フランス語圏）		
教員名	太西　雅一郎		
科目ナンバー	1101087300	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

この授業では、フランス人の日常生活とそれをとりまく風景のなかに現れるさまざまな思考・行動パターンについて調べていきます。フランス人のメンタリティはどのようなものなのか、どのようにして現在の姿へと形成されてきたのでしょうか。日常生活と生活感覚、それらをとりまくフランス的な風景を手掛かりに、フランスに特有の政治・宗教・民族・歴史・道徳・カルチャーなどをめぐる世界観を探っていきます。なおこの授業にはフランス語の知識は必要ありません。

到達目標

フランス人の日常生活の基盤にある価値観などを、その文化的、歴史的背景を考慮に入れながら、理解する力を修得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	フランスの代表的な絶景1	
	取り扱うテーマについて基本知識を得ておく。	60分
第2回	フランスの代表的な絶景2	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第3回	パリ市内の主要建築物	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分

第4回	フランスを体感する	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第5回	フランスのクリスマス風景	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第6回	フランス王室御用達の品々	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第7回	フランス美食術	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第8回	フランス流バカンスライフ	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第9回	マリー・アントワネットとフランス革命	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分

第10回	シャネル(1883-1971)とその時代	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第11回	世界遺産モン・サンミシェル	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第12回	国境の街ストラスブール	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第13回	フランスの少子化対策	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第14回	フランスの原子力政策	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第15回	オードリー・ヘップバーンとフランス	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習しておくこと。	60分

授業の方法
映像資料を利用しながら説明を行います。

成績評価の方法
１．毎回、話された事柄について、その内容をメモとして作成し授業終了時に提出してください（75%）。
２．フランスに関して論じた書物を選び、一定の分量を読み、その内容を要約し、レポートとして提出してください（25%）。
　レポートは、たとえば図書館資料を使って、1000字程度でまとめ、自分個人の意見を500字程度付け加えること。
　レポートには必ず、書名、著者名、出版社、出版年度、参照した箇所（ページ数）について明記すること。
　レポートの提出は、随時受け付ける。

定期試験は行わない。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
欧米の時事問題への関心や、歴史に対するさまざまな興味をもっていることが望ましい。
異文化理解A、ヨーロッパ地域理解

テキスト
なし。

参考書
随時、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	異文化理解Ｂ（スペイン語圏）		
教員名	鈴木　恵美子		
科目ナンバー	1101087400	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

スペインの文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色(言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化)に対する理解を深める。スペイン語圏の文化の多様性、ラテンアメリカのスペイン語圏の成り立ちなどを理解し、日本と比較しながら多文化共生の可能性を考える。

到達目標

本科目では、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身につけることを目標とする。
また必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力を養う。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	スペインの多様性　（イントロダクション）	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第2回	マドリード ・スペインの首都概観、街並み・人の様子、近年の歴史 ・バルについて　（社会的役割、スペインの食文化）	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第3回	カスティーリャ・イ・レオン　／　カスティーリャ・ラ・マンチャ ・都市紹介：サラマンカ（大学、大聖堂、中央広場)、セゴビア(ローマ時代の水道橋)	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分

第4回	スペイン黄金世紀の傑作『ドン・キホーテ』紹介	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第5回	地方色豊かなお祭りについて	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第6回	闘牛について　（闘牛の進行、歴史、世論の動向）	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第7回	カタルーニャ ・カタルーニャ語の現状、建築家ガウディや芸術家ダリを生んだ風土、食文化	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第8回	中央　vs. 地方　（対抗意識の背後にあるもの-サッカーを例にとって）	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第9回	バスク ・バスク語とバスク人、食文化、スポーツ	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分

第10回	アンダルシア ・歴史(様々な民族・文化の融合)、世界遺産(アルハンブラ宮殿)	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第11回	フラメンコの起源と発展	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第12回	ナバーラ ・パンプローナの牛追い祭り	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第13回	ガリシア ・サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼の道	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第14回	世界のスペイン語圏 ・広がりと歴史、ラテンアメリカとのリンク、アメリカ合衆国のスペイン語	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第15回	授業の振り返りとまとめ	
	これまでに学んだことを振り返り、興味を持った点をさらに掘り下げてレポートにまとめる。	120分

授業の方法

上記の計画に基づき、受講生の関心にも配慮して進める。
必要に応じて視聴覚資料などを使って理解を深める。

成績評価の方法

授業のコメントカード20%、宿題30%、レポート50%により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
さらに上記に掲げた到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：異文化理解A、各種スペイン語関連科目（コア科目、発展科目）

テキスト

特にテキストは使用しない。

参考書

適宜、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	異文化理解Ｂ（中国語圏）		
教員名	凌　雲鳳		
科目ナンバー	1101087500	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

言語、文化、民俗などの紹介と論議を通じて、中国文化の特徴への理解を深めていきます。中国語学習歴の有無に関わらず、中国の歴史と社会、中国人の暮らしについて多角的に触れ、中国の全体像を見てみましょう。なお、中国語履修者にとっては、中国語の文化背景への理解を深め、表現力の向上にも役立つでしょう。

到達目標

中国、中国文化についての知識を増やし、中国社会と文化の特徴への理解を深め、積極的に異文化への関心を持つようにすること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明　　する。 中国文化の紹介 一．中国概況 １．国名・国旗・首都・人口・行政区	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】講義の内容を振り返り、理解を深める。	60分
第2回	２．地理・歴史・政治・経済・世界遺産	
	【予習】配布資料を読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】講義の内容を振り返り、理解を深める。	60分
第3回	二．民族・言語・風習 1．共通語・漢民族の方言・少数民族の言語	
	【予習】配布資料を読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】講義の内容を振り返り、理解を深める。	60分

第4回	２．居住地・服装・住宅・飲食	
	【予習】配布資料を読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】講義の内容を振り返り、理解を深める。	60分
第5回	３．生活習慣・信仰と宗教	
	【予習】配布資料を読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】講義の内容を振り返り、理解を深める。	60分
第6回	4．祝祭日・年中行事・冠婚葬祭	
	【予習】配布資料を読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】講義の内容を振り返り、理解を深める。	60分
第7回	三．社会 1．伝統と現代・家族構成	
	【予習】配布資料を読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】講義の内容を振り返り、理解を深める。	60分
第8回	２．都会の生活 北京・上海・西安・広州	
	【予習】配布資料を読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】講義の内容を振り返り、理解を深める。	60分
第9回	３．農村の実態	
	【予習】配布資料を読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】講義の内容を振り返り、理解を深める。	60分

第10回	四. 文化・芸術・教育 1. 伝統文化 文字・文学・絵画・医学・武術・飲食	
	【予習】配布資料を読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】講義の内容を振り返り、理解を深める。	60分
第11回	2. 伝統芸能 京劇・舞踊・曲芸・音楽	
	【予習】配布資料を読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】講義の内容を振り返り、理解を深める。	60分
第12回	3. 現代芸術 映画・小説	
	【予習】配布資料を読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】講義の内容を振り返り、理解を深める。	60分
第13回	4. 古今の教育・中国の大学	
	【予習】配布資料を読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】講義の内容を振り返り、理解を深める。	60分
第14回	到達度確認テスト	
	到達度確認テストの実施	60分
第15回	総まとめ	
	総仕上げ	60分

授業の方法

主として、担当教師がプリントを使用して講義しますが、関連内容への理解を深めるために、論議をしながら進めていきます。また、映像資料や、映画も鑑賞する予定です。

成績評価の方法

期末試験、平常点（出席率、提出物）などにより総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくに必要なし

テキスト

プリントを配布します。

参考書

授業時に随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	異文化理解Ｂ（ドイツ語圏）		
教員名	坂口　尚史		
科目ナンバー	1001487510	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

ドイツ語圏とは、現在のドイツ連邦共和国、オーストリア共和国、スイス連邦の約４分の３の部分をさします。この地域について、文化理解の基本となる、地理と歴史の話からはじめて、フランス語などのロマンス語とは異なるゲルマン語の形成と近代ドイツ語の成立（簡単なドイツ語史）、そして文化理解の基本となる宗教（キリスト教）について講義を進めます。
　歴史については、9世紀にフランク王国が分裂してできた東フランク王国がドイツ語圏の原型であること、さらに10世紀末から19世紀の初めまであった「神聖ローマ帝国」時代の文化について、16世紀はじめに起こった文化史上の大事件である「宗教改革」について述べます。　ここからキリスト教はカトリックとプロテスタントの二派に分かれます。
　ここまでの一連の流れをしっかり理解することが大切です。　歴史上の有名な人名や地名は覚えてください。　中世の騎士階級が滅びて、16世紀から市民の文化が起こります。　その市民文化が大きく花開く18世紀から19世紀の文化が後半の最も重要な講義内容となります。

到達目標

ドイツ語圏の文化理解のために必要な、地理的歴史的な内容を理解する。　そのために大切な地名、人名、建築様式などを覚えること、そして、文化史上の大きな出来事について要点を解説できるようになること、これらのことが到達目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	現在のドイツ語圏について解説します。　地図を配布し、ドイツ連邦共和国の16州、オーストリアとスイスの起源について説明します。　第二次世界大戦後の東西両ドイツについて、1990年10月3日のドイツ統一についても解説。 『ドイツが世界に誇るものは何か？』というアンケートに対して、ドイツ人が答えた結果も紹介。	
	［復習］（以下おなじく今日の講義に関する 要点の理解です） この日は、ドイツ連邦共和国の地図を配り、そこには講義資料（１）と書かれています。　以後通し番号で講義資料がくばられますから、きちんと番号順に保存してください。　欠席した場合は、必ず次回とりにくること。　ドイツ連邦共和国の16州と州都の名前を、4分の１くらいは覚えること。	20
第2回	ドイツ語圏の地理的な環境について。　主な川の名前もテーマとなる。　ヨーロッパの諸言語の大きな三つのグループ（ロマンス語、ゲルマン語、スラブ語）の説明と、ドイツ語が所属するゲルマン語について。　ドイツ語を構成する３０の文字のこと。	
	ドイツ語圏を流れる三つの大河の名前、ユトランド半島をはさんだ二つの海、ライン川については主な支流の名前を覚える。 川の名前は今後頻繁に出ます。	20
第3回	ドイツ語圏の宗教について。　キリスト教の二派である、カトリックとプロテスタントが、ドイツ、オーストリア、スイスにおいてどのように分かれているか、さらに16世紀に起こったマルチン・ルターによる「宗教改革」とその影響について。　ドイツ語圏と日本との交流のこと。　１８６１年以来150年の概観。	
	1517年に始まった宗教改革は、なぜ起こったのか、ノートに書いておく。この項目は、以後何回も出てきます。	20

第4回	日独交流の歴史のつづきです。　1861年1月に、プロイセン王国と江戸幕府との間に、「日独修交通商条約」が締結された。1871年ドイツ帝国成立の十年前のことです。　日本の「明治維新」は1868年でした。　両国の近代国家成立のいきさつを調べます。 　それから、話は843年のフランク王国の分裂へと、約1000年前にさかのぼります。	
	日本とドイツの交流のはじまりについて、まとめておく。	20
第5回	今回から講義は、文化の歴史、いわゆる「文化史」に入ります。　各時代の文化の特徴をしっかりとらえてください。 　まず最初に、　分裂したフランク王国の東側（東フランク王国）が、ドイツ語圏の原型であること、962年にザクセン王朝のオットー大帝によって、「神聖ローマ帝国」が成立したことを理解して、歴史学者によって「中世キリスト教国家」とよばれるこの帝国の文化史上の意味を述べます。	
	「中世キリスト教国家」についてまとめる。 ドイツ語圏が、カトリック一色だった時代の特徴と国家の構造、文化の担い手であった「騎士」についてノートしておく。	20
第6回	キリスト教信仰は、どのようにドイツ語圏の人々の生活習慣のなかに入っているかという問題について、「教会歴」をプリントで示します。　とくに重要な「三大祝日」について、「聖書」引用をまじえて説明してみます。日本の学校では、宗教について教えません。　これは神道、仏教など多くの宗教があり、信仰の自由が認められているからですが、ドイツでは学校に「宗教の時間」があり、生徒たちは、聖書の話などを習います。	
	キリスト教の「三大祝日」をおぼえること。クリスマス　(Christmas) は、キリストの祝日を意味するといった、語源的なことも。 例えば、英語のイースターは、古代ゲルマン人が信仰した「光と春の女神」の名前であり、それがなぜ「復活祭」の意味でつかわれているのかといったことも覚える。	20
第7回	後半の市民文化の説明を多くするため、中世の説明を省略しなければなりません。　しかし、十字軍などによる騎士階級の没落や、都市の勃興など近世につながる事柄の多くが中世にあります。 　そこで、古代から現代にいたる文化の流れを、主なできごとを入れて、板書します。　これをノートに写し取ってください。 　つづいいて教会などの建築様式について、プリントの図を見ながら説明します。	
	文化史の流れをつかむ、この時間の板書は、もし欠席した場合には、友人のノートをみて必ず自分のノートに書き写すこと。 最近、そのノートを持たずに受講する人が多く見られます。	20
第8回	後期の中間にきたので、「小レポートの課題」を発表。 近世の始まりとして、ルネサンスの時代について解説し、都市の発達による市民階級の発展、人文主義の起こりについて述べます。　その冒頭に来るのが、１４５０年ころの、グーテンベルクによる活版印刷術の発明です。	
	中世から近世へと時代が移っていく過程をしっかりと把握すること。 教会などの建築様式を覚える。中世前期のロマネスク様式、中世後期のゴシック様式、16世紀のルネサンス様式。	20
第9回	1517年に マルチン・ルター　(1483－1546)　によって「宗教改革」　(Reformation) が始められた。　そこからキリスト教がローマ・カトリックとプロテスタントの二派に分かれる。　両派はどのように異なるのか、ルターはカトリックのどのような点を批判したのかをまとめます。 ドイツ語圏の文化を理解するための最重要項目のひとつです。	
	ローマ・カトリックとプロテスタントの違いをまとめてください。	60

第10回	今年は、昨年触れたような「初期の市民文化」の説明とバロック時代の文化（17世紀から18世紀前半）の説明をを省きます。 16世紀にはじまった「市民文化」は、18世紀半ばから19世紀にかけて、その頂点を迎えます。　哲学、文学、音楽の分野で偉大な哲学者、詩人、音楽家が輩出しています。 　日本でも、ドイツ語圏の文化を受容していらい、この時期の文化人の研究が最も熱心に行われてきました。 　まずは、音楽の古典派の話から入り、「ウィーン古典派」の三人の巨匠（ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン）　について述べます。	
	ウィーン古典派の巨匠たちの出身地と活躍した場所を確認しておこう。	20
第11回	日本で最も尊敬されている音楽家、ベートヴェン（1770―1827）の生涯と交響曲第9番の初演（1824年5月7日）までのことを描いたヴィデオ　『ベートーヴェン、第9交響曲誕生の時』を５０分ほどみます。	
	ベートーヴェンの人と思想についてまとめる。	30
第12回	第9交響曲の第4楽章に導入された詩の作詞者は、ドイツ古典主義の詩人シラーでした。　ドイツ文学の古典主義について述べ、最大の詩人ゲーテ　（1749－1832）とシラーの友情について、両詩人の主な作品名がテーマです。	
	ゲーテについては、日本において最も熱心に研究されてきた詩人であるだけに多数の文献がありますが、大学生が読みやすい文庫版を紹介します。　一例：菊池栄一『ゲーテ物語』　（講談社学術文庫）	120
第13回	前回の内容について補足し、晩年のゲーテの秘書だったヨハン・ペーター・エッカーマンの名著『ゲーテとの対話』からゲーテの言葉を紹介します。	
	岩波文庫　『ゲーテとの対話』　は、全3巻もある大きな本ですが、そのうちのごく一部でよいので、ドイツの文化に対するゲーテの考えを読んでみてください。	120
第14回	19世紀の初頭から起こった「ロマン主義の文学」と「音楽のロマン派」についてまとめます。 ロマン主義の文学運動の一環として、グリム兄弟が編集した『子どもと家庭のための民話集』をとりあげ、今日の版で２００ある民話の中から、ひとつまたは二つの話を選び、プリントで配っていっしょに読むことにします。	
	日本では、「グリム童話集」と訳されているテキストのオリジナルは、『子どもと家庭のための民話集』といいます。　決して子供だけのためのお話ではなく、大人が読んでも興味深いものです。　教訓的な話をえらびますから、その話の意味を考えてみましょう。	120
第15回	19世紀最大の芸術家の一人であるリヒャルト・ワーグナー（１８１３－１８８３）のオペラ、「タンホイザー」と「ローエングリン」について、文化史的な面から解説します。 テーマは、中世の騎士のことになります。	
	ここでもう一度、中世の騎士とキリスト教の文化について復習してください。	120

授業の方法

毎回黒板には書ききれない地図や、要点などを記載した「講義資料」をくばります。それぞれの資料に番号をふっておきますから必ず全部そろえてください。　それらを見ながら毎時間、とくに大事な地名、人名、建築様式などを覚えていってください。　定期試験前だけにおぼえることは不可能です。
　9回ほど「出席票」を配ります。　そこに出ている「穴埋め問題」に答えてください。　まとめて返却します。
講義資料は授業内容のすべてではありません。　ノートを用意して、黒板の字を写し取ってください。　ノートもなくプリントだけをみて、余白に書き込むだけの人、自分ではまったくなにも書かない人、あるいは寝ている人を見かけることが多くなりました。　90分は長いのかもしれませんが、授業中は集中してきいてください。　途中で　Beethoven　や　Mozart
のピアノ小品や、Schubert　の歌曲、キリスト教の教会で歌われる Bach　の曲を聴いたり、世界遺産のヴィデオを見たりします。

成績評価の方法

学期末試験を重視しますが、それ以外にレポートも考慮します。　評価項目の割合は、学期末試験は８０%、　毎時間とる出席は１０%、レポート１０%を予定しています。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくにありません。　高校時代に世界史を習っていないために、ヨーロッパの歴史をよく理解できないという受講者もいることを考慮して、話を進めます。 岩波文庫　ロマン・ロラン　『ベートーヴェンの生涯』　や　ゲーテ　『若きウェルテルの悩み』　などを読んで、ドイツの文化に関心をもっていると、講義が面白くなるでしょう。

テキスト

テキストは指定しません。　プリントをみながら講義ノートをとってください。

参考書

講義中に紹介しますが、それらは文化について理解を深めるための本です。必ず購入しなければならない本ではありません。
一例　：　ハインリヒ・ハイネ　『流刑の神々・精霊物語』　1980年　岩波文庫　（絶版ですが、情報図書館一階の文庫版のコーナーにあります。 この文庫は1927年にドイツのレクラム文庫をモデルにしてつくられたものであり、どいつの文化の窓口になっています。）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	異文化理解Ｂ（フランス語圏）		
教員名	太西　雅一郎		
科目ナンバー	1001487520	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この授業では、フランス人の日常生活とそれをとりまく風景のなかに現れるさまざまな思考・行動パターンについて調べていきます。フランス人のメンタリティはどのようなものなのか、どのようにして現在の姿へと形成されてきたのでしょうか。日常生活と生活感覚、それらをとりまくフランス的な風景を理解するために、フランスのイメージを生み出した歴史的出来事や人物などもあわせて考えながら、フランスを構成する多様な側面を探っていきます。なおこの授業にはフランス語の知識は必要ありません。

到達目標

フランス人の日常生活の基盤にある価値観などを、その文化的、歴史的背景を考慮に入れながら、理解する力を修得する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	19世紀後半のパリ大改造	
	取り扱うテーマについて基本知識を得ておく。	60分
第2回	パリ市内の主要建築物	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第3回	フランスを体感する	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分

第4回	フランス美食術	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第5回	フランス王室御用達の品々	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第6回	ジャンヌ・ダルクと英仏百年戦争	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第7回	マリー・アントワネットとフランス革命	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第8回	ナポレオン、解放者か侵略者か	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第9回	世界遺産モン・サンミシェル	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分

第10回	シャネル(1883-1971)とその時代	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第11回	オードリー・ヘップバーンとフランス	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第12回	国境の街ストラスブール	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第13回	フランスの少子化対策	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第14回	フランスの原子力政策	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習し、次回の授業に備えて基本知識を得ておくこと。	90分
第15回	第二次世界大戦(1939-1945)とフランス	
	前回の授業内容について不明箇所の確認作業を行い、重要ポイントを復習しておくこと。	60分

授業の方法
映像資料を利用しながら説明を行います。

成績評価の方法
１．毎回、話された事柄について、その内容をメモとして作成し授業終了時に提出してください（75%）。
２．フランスに関して論じた書物を選び、一定の分量を読み、その内容を要約し、レポートとして提出してください（25%）。
　レポートは、たとえば図書館資料を使って、1000字程度でまとめ、自分個人の意見を500字程度付け加えること。
　レポートには必ず、書名、著者名、出版社、出版年度、参照した箇所（ページ数）について明記すること。
　レポートの提出は、学期を通して随時受け付けます。

定期試験は行わない。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
欧米の時事問題への関心や、歴史に対するさまざまな興味をもっていることが望ましい。
異文化理解A、ヨーロッパ地域理解

テキスト
なし。

参考書
随時、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	異文化理解Ｂ（スペイン語圏）		
教員名	鈴木　恵美子		
科目ナンバー	1001487530	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

スペインの文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色(言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化)に対する理解を深める。スペイン語圏の文化の多様性、ラテンアメリカのスペイン語圏の成り立ちなどを理解し、日本と比較しながら多文化共生の可能性を考える。

到達目標

本科目では、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身につけることを目標とする。
また必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力を養う。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	スペインの多様性　（イントロダクション）	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第2回	マドリード ・スペインの首都概観、街並み・人の様子、近年の歴史 ・バルについて　（社会的役割、スペインの食文化）	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第3回	カスティーリャ・イ・レオン　／　カスティーリャ・ラ・マンチャ ・都市紹介：サラマンカ（大学、大聖堂、中央広場)、セゴビア(ローマ時代の水道橋)	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分

第4回	スペイン黄金世紀の傑作『ドン・キホーテ』紹介	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第5回	地方色豊かなお祭りについて	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第6回	闘牛について　（闘牛の進行、歴史、世論の動向）	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第7回	カタルーニャ ・カタルーニャ語の現状、建築家ガウディや芸術家ダリを生んだ風土、食文化	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第8回	中央　vs. 地方　（対抗意識の背後にあるもの-サッカーを例にとって）	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第9回	バスク ・バスク語とバスク人、食文化、スポーツ	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分

第10回	アンダルシア ・歴史(様々な民族・文化の融合)、世界遺産(アルハンブラ宮殿)	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第11回	フラメンコの起源と発展	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第12回	ナバーラ ・パンプローナの牛追い祭り	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第13回	ガリシア ・サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼の道	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第14回	世界のスペイン語圏 ・広がりと歴史、ラテンアメリカとのリンク、アメリカ合衆国のスペイン語	
	トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。	120分
第15回	授業の振り返りとまとめ	
	これまでに学んだことを振り返り、興味を持った点をさらに掘り下げてレポートにまとめる。	120分

授業の方法

上記の計画に基づき、受講生の関心にも配慮して進める。
必要に応じて視聴覚資料などを使って理解を深める。

成績評価の方法

授業のコメントカード20%、宿題30%、レポート50%により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
さらに上記に掲げた到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：異文化理解A、各種スペイン語関連科目（コア科目、発展科目）

テキスト

特にテキストは使用しない。

参考書

適宜、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	異文化理解Ｂ（中国語圏）		
教員名	湯山　トミ子		
科目ナンバー	1001487540	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

中国、中国語、中国文化圏の特徴、概況などを広く紹介し、論議する授業です。中国語履修者にとっては、中国、中国文化圏の特徴に多角的に触れ、語学学習を進めていく上での基盤として、中国語履修しない学習者にとっては、東アジアの文化に大きな影響をもった中国、中国文化についての知識を増進し、理解を深めていく窓口として、それぞれに興味深い内容を学ぶことができるでしょう。取り扱われる事項としては、中国の地理的、自然的特徴、社会の仕組みと人の暮らし、芸術と文化の創造などが挙げられます。講義形式を軸としながら、できるかぎり受講者との対話の契機をつくり、理解増進を活気あるものにしていきたい。

到達目標

・中国文化、中国の人と社会の特徴について知識を増進し、理解を深めることができる。
・中国文明、中国文化の成り立ち、特徴を理解し、言語、文化の多様性に関心を持ち、理解を深める力を養うことができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス ・授業の目標、内容、特色、進め方学習法などについての基本要件を紹介し、解説します。 ・学習者の学習歴、関心、要望を聴取し、授業の進行、内容、教材などについて相談します。 ・中国、中国語、中国文化圏とは１ 中国語の言語学的特徴について	
	・シュラバスを読み、自分の関心、要望などを考えておいてください。	15
第2回	・中国、中国語、中国文化圏とは２ 中国語の言語学的特徴について	
	・配布資料の整理、復習	30
第3回	・中国、中国語、中国文化圏とは３ 中国の地理的概況について	
	・配布資料の整理、復習	30

第4回	・中国、中国語、中国文化圏とは４ 中国の少数民族、言語・地理・文化の形成と特徴 （魅力と不思議）、華僑・台湾・香港について	
	・配布資料の整理、復習	30
第5回	・映像でみる中国の少数民族世界 中国少数民族の紹介また少数民族を題材とする映画 鑑賞とレポート作成課題	
	・配布資料の整理、復習	30
第6回	・中国の社会と人と暮らし　１ 社会の仕組み――政治と経済	
	・第6回の映像作品に関するレポート作成	120
第7回	・中国の社会と人と暮らし　２ 社会の仕組み――都市と農村 変わる中国 民衆の抗争 ＤＶＤなどの映像資料の使用	
	・配布資料の整理、復習	30
第8回	・中国の文化と芸術　１ 中国文学の世界――伝統と革新	
	・配布資料の整理、復習	30
第9回	・中国の文化と芸術　２ 中国文学の世界――現代文学と芸術	
	・配布資料の整理、復習	40

第10回	・中国の文化と芸術　３ 中国芸能・映画芸術の世界	
	・配布資料の整理、復習	40
第11回	・中国映画が映し出す人と社会 （映画作品の鑑賞とレポート作成課題）	
	・配布資料の整理、復習	40
第12回	・中国の食文化の形成と特徴 中華料理の世界	
	・第12回の映像作品に関するレポート作成	120
第13回	・中国の生活習慣――色と数 ・講義総復習	
	・配布資料の整理、復習	40
第14回	・講義内容の理解度確認のための筆記試験	
	・講義内容の整理、復習	120
第15回	・筆記試験の結果、まとめなど	
	これまでの学習内容を踏まえて、今後の学習、課題などについて、それぞれ省察しておく。	30

授業の方法

・教師による講義を中心に進めますが、できるかぎり受講者とコミュニケーションが増すように留意します。
・下調べなどは、特に必要としませんが、指定作品、資料の要約など、授業に提出を必要とする場合があります。

成績評価の方法

・試験（70%）、平常点（授業への参加状況、学習状況　30%）などを総合して評価します。

成績評価の基準

・成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
・授業内で指示するレポートの達成度、筆記試験における講義内容の理解度を評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・特になし

テキスト

・プリントを配布します。

参考書

・授業内で紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

・学内専用ホームページで周知します。

科目名	異文化理解Ｂ（韓国語圏）		
教員名	文　珍瑛		
科目ナンバー	1001487550	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この授業では、朝鮮半島の歴史と文化、朝鮮半島に住んでいる人々の思考と生活、日本との関係について学びます。日本と歴史的・文化的に近い朝鮮半島の歴史や文化を調べ、現在の文化や人々の思考や生活方式についての理解を深めます。日本との歴史的な関係に学び、現在や将来の関係についても考えます。文献と映像などを用いて多様な角度で探って見ます。
この授業は、韓国語ができなくても履修できます。

到達目標

①　朝鮮半島についての理解を深める
②　朝鮮半島と日本との関係を再認識できる
③　朝鮮半島を通して日本についての再認識できる

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	ガイダンス、自己紹介	
	シラバスを読む	20
第2回	朝鮮戦争の背景	
	講義テーマについて調べる	60
第3回	朝鮮戦争後の変化	
	講義テーマについて調べる	60

第4回	朝鮮半島外の人々	
	講義テーマについて調べる	60
第5回	プレゼンテーション１	
	プレゼンテーション準備	60
第6回	60年代の韓国の経済政策	
	講義テーマについて調べる	60
第7回	60・70年代政治的な変革	
	講義テーマについて調べる	60
第8回	60・70年代民衆の反応	
	講義テーマについて調べる	60
第9回	プレゼンテーション２	
	プレゼンテーション準備	60

第10回	90年代以降の大衆文化の影響	
	講義テーマについて調べる	60
第11回	映画で見る家族1	
	講義テーマについて調べる	60
第12回	映画で見る家族2	
	講義テーマについて調べる	60
第13回	プレゼンテーション３	
	プレゼンテーション準備	60
第14回	日本との文化交流	
	講義テーマについて調べる	60
第15回	プレゼンテーション４	
	プレゼンテーション準備	60

授業の方法

テーマに沿って講義をします。グループを作り、テーマを決めてプレゼンテーションをします。授業の進捗によって一部変更する場合があります。

成績評価の方法

1)　授業への参加　30%
2)　プレゼンテーション　30%
3)　レポート　40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

必要に応じてプリントを配布

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後とオフィス・アワーに受け付ける。

科目名	世界の言語　（ロシア語Ｉ）		
教員名	中澤　朋子		
科目ナンバー	1101088011	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

「ロシア語」や「ロシア」と聴くと、「暗号みたいな文字だ」、「寒そう…」等々、何かとても謎めいていて取っ付き難いような印象をもちます。しかしながら、じつはロシアはわれわれの「隣人」なのです。このように「（近いのに）遠い国」と思われがちな「ロシア」という国について改めて考えてみるということをテーマに、まずはその言語＝ロシア語からアプローチしてみよう、というのがこの授業のねらいです。

前期はロシア語をはじめて学ぶ人を対象に、ロシア語のアルファベットから始めていきます。文法事項を解説していきながら、教科書の一課ごとをゆっくりと進めます。また、ロシアの映画やアニメーションなども鑑賞します。

到達目標

①アルファベットの表やルビなどに頼らず、キリル文字が正しく読める。
②キリル文字をきちんと書ける。
③ロシア語初級文法の半分くらいを知っていて、理解している。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス、アルファベット ・授業の進め方、復習の仕方等についても触れる。 ・キリル文字を知り、じっさいに書いてみる。	
	【復習】ロシア語のアルファベットを覚える。	60～90
第2回	前回の復習 文字と発音（1）	
	キリル文字を声に出して読んでみる。	60～90
第3回	前回の復習 文字と発音（2）	
	キリル文字を声に出して読んでみる。	60～90

第4回	前回の復習 文字と発音(3) ※「第一課題」配布	
	【復習】キリル文字を声に出して読んでみる、「第一課題」を解いてみる。	60～120
第5回	前回の復習 第1課「この人は誰ですか」 ・平叙文／疑問文 ・д а「はい」　　など ロシアのアニメーション(1)	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第一課題」を解いてみる。	60
第6回	小テスト（「第1課」本文音読） 第2課「あなたは医者ですか」 ・н е т「いいえ」 ・人称代名詞　　など ロシアのアニメーション(2)	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第一課題」を解いてみる。	60
第7回	小テスト（「第2課」本文音読） 第3課「郵便局はどこですか」 ・動詞の不定形と現在人称変化（第1変化） ・名詞の性　　など ロシアのアニメーション(3) ※「第二課題」配布	
	復習】本文を声に出して読んでみる、「第二課題」を解いてみる。	60～120
第8回	小テスト（「第3課」本文音読） 第4課「これは誰の写真ですか」 ・名詞の数 ・所有代名詞、指示代名詞　　など ロシアのアニメーション(4)	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第二課題」を解いてみる。	60
第9回	小テスト（「第4課」本文音読） 第5課「どこにお勤めですか」 ・格 ・前置格　　など ロシアの映画(1) - ①	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第二課題」を解いてみる。	60

第10回	小テスト（「第5課」本文音読） 第6課「彼はロシア語を話します」 ・現在人称変化（第2変化） ・形容詞の性と数　　など ロシアの映画(1) - ②	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第二課題」を解いてみる。	60
第11回	小テスト（「第6課」本文音読） 第7課「どこに住んでるの」 ・生格、所有の表現 ・人称代名詞の格変化　　など ロシアの映画(1) - ③ ※「第三課題」配布	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第三課題」を解いてみる。	60～120
第12回	小テスト（「第7課」本文音読） 第8課「こんにちは、アンナ！」 ・動詞の過去形 ・与格　　など ロシアの映画(2) - ①	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第三課題」を解いてみる。	60～120
第13回	小テスト（「第8課」本文音読） 第9課「どこへ行くところ？」 ・идтиとехатьの変化と用法 ・不定人称文　　など ロシアの映画(2) - ②	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第三課題」を解いてみる。	60
第14回	小テスト（「第9課」本文音読） 第10課「何をする予定？」 ・合成未来 ・対格と活動／不活動名詞　　など ロシアの映画(2) - ③ ※すべての課題の最終期限日	
	【復習】本文を声に出して読んでみる。	60～90
第15回	小テスト（「第10課」本文音読） 到達度確認テスト（音読） 3つの課題の解説・質疑応答	
	復習】3つの課題の結果を受けて、不足している知識等を確認し、学修する。また、到達度確認テストの結果をふまえて、ロシア語の発音練習をさらに続けていく。	60

授業の方法

教科書に沿って一課ずつ進めていきます。おおまかな流れとしては、「新出単語→本文音読→文法解説→ふたたび本文音読・意味内容の確認」という工程を基本とし、各課全体をゆっくりと学習していきましょう。教科書の一課分を終えたら、その翌週には「まとめ」として、終えた課の本文を音読する小テストをおこなっていきます（ちなみに教科書の第10課までは、本文のキリル文字にルビが振ってありますが、ルビのないものをこちらで用意しますので、それを音読してもらうことになります）。また、ロシア文化へのアプローチの一環として、授業の後半20分～30分程度をつかってロシアの映画やアニメーションも鑑賞していきたいと思っています（ただし、上に示した映画の鑑賞回数はあくまでも目安なので、変更されることがあります）。

なお、前期の授業期間内に3つの「提出課題」が課されます。これはおもに教科書で学んだことやその発展問題なども範囲に含めた、「文法」が中心の課題です。したがって、課題提出にあたっては教科書のみならず必要とあれば図書館などで学習図書を参照しながら、完璧な答案を完成させてください。第4回目に「第一課題」を、第7回目に「第二課題」を、第11回目に「第三課題」をそれぞれ配布します。すべての課題の最終期限日は第14回目としますので、すべての課題提出がその日で完了するように取り組んでください。

成績評価の方法

提出課題（「文法問題」全3回：50%）、一課分終了後におこなう小テスト（「音読」：30%）、到達度確認テスト（「音読」：20%）を基本としますが、あわせて授業中の態度や積極性なども考慮に入れます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
とりわけ次の点に着目し、その達成度により評価します。
①ロシア語を正しく読めるようになってきている。
②提出課題に真面目に取り組み、努力の跡がみられる答案に仕上がっている。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

桑野隆著『初級ロシア語20課(CD付)』（白水社、2012年）ISBN: 978-4-560-08614-8

参考書

米重文樹編『パスポート初級露和辞典』（白水社、1994年）ISBN:978-4-560-00066-3
木村彰一他編『ロシア語辞典』（博友社、1995年）ISBN:978-4-8268-0148-5
その他、必要に応じて随時教室で紹介していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

随時受け付けます。電子メールでも可。

科目名	世界の言語　（ロシア語II）		
教員名	中澤　朋子		
科目ナンバー	1101088012	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

「ロシア語」や「ロシア」と聴くと、「暗号みたいな文字だ」、「寒そう…」等々、何かとても謎めいていて取っ付き難いような印象をもちます。しかしながら、じつはロシアはわれわれの「隣人」なのです。このように「（近いのに）遠い」と思われがちな「ロシア」という国について改めて考えてみるということをテーマに、まずはその言語＝ロシア語からアプローチしてみよう、というのがこの授業のねらいです。

後期は、前期に学習したことをふまえてさらに複雑な文法事項へと進んでいきます。文法事項はより難しくなりますがゆっくりと進めてゆくつもりなので、わからないことがでてきたらいつでも質問してください。また前期にひきつづき「音読」もたくさんしていきます。後期は「正しさ」に加えて「すらすらと」ロシア語が読めるように練習していきましょう。ロシアの映画などもできるだけたくさん鑑賞します。

到達目標

①アルファベットの表やルビなどに頼らず、キリル文字が正しくすらすらと読める。
②キリル文字を間違いなくきれいに書ける。
③挨拶などの簡単な表現をロシア語で何というか知っている、あるいは言える。
④ロシア語初級文法の基礎をひととおり知っていて、理解している。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	前期の復習 第11課「読み終えましたか」 ・動詞の体 ・体と時制　　など	
	【復習】本文を声に出して読んでみる。	60
第2回	小テスト（「第11課」本文音読） 第12課「私は忙しかった」 ・形容詞短語尾形 ・一人称命令法　　など ロシアの映画(3) - ①	
	【復習】本文を声に出して読んでみる。	60
第3回	小テスト（「第12課」本文音読） 第13課「スープは何がおすすめですか」 ・2人称命令法　　など ロシアの映画(3) - ②	
	【復習】本文を声に出して読んでみる。	60

第4回	第13課「スープは何がおすすめですか」 ・造格 ・-ова т ь動詞の変化　　など ロシアの映画(3) - ③ ※「第一課題」配布	
	復習】本文を声に出して読んでみる、「第一課題」を解いてみる。	60～120
第5回	小テスト（「第13課」本文音読） 第14課「ご気分はいかがですか」 ・形容詞や副詞の比較級 ・所有・存在の否定の生格　　など ロシアの映画(4) - ①	
	復習】本文を声に出して読んでみる、「第一課題」を解いてみる。	60
第6回	小テスト（「第14課」本文音読） 第15課「いつお出かけですか」 ・個数詞と名詞の結合　　など ロシアの映画(4) - ②	
	復習】本文を声に出して読んでみる、「第一課題」を解いてみる。	60
第7回	第15課「いつお出かけですか」 ・時間の表現　　など ロシアの映画(4) - ③ ※「第二課題」配布	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第二課題」を解いてみる。	60～120
第8回	小テスト（「第15課」本文音読） 第16課「ちょっとおうかがいしますが…」、 ・「ちょっとうかがいますが…」　　など ロシアの映画(5) - ①	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第二課題」を解いてみる。	60
第9回	第16課「ちょっとおうかがいしますが…」 ・無人称文　　など ロシアの映画(5) - ②	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第二課題」を解いてみる。	60

第10回	小テスト（「第16課」本文音読） 第17課「この辞書はいくらですか」 ・値段の表現 ・нравиться я の用法　　など ロシアの映画(5) - ③	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第二課題」を解いてみる。	60
第11回	小テスト（「第17課」本文音読） 第18課「彼の名前は？」 ・名前のたずね方 ・年数・年齢の表わし方　　など ロシアの映画(6) - ① ※「第三課題」配布	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第三課題」を解いてみる。	60～120
第12回	小テスト（「第18課」本文音読） 第19課「私は毎年ソチに行きます」 ・定動詞と不定動詞 ・「…月に」のいいかた　　など ロシアの映画(6) - ②	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第三課題」を解いてみる。	60
第13回	小テスト（「第19課」本文音読） 第20課「もしチケットがあるならば」 ・関係代名詞　　など ロシアの映画(6) - ③	
	【復習】本文を声に出して読んでみる、「第三課題」を解いてみる。	60
第14回	第20課「もしチケットがあるならば」 ・仮定法　　など ロシアの映画(6) - ④ ※すべての課題の最終期限日	
	【復習】本文を声に出して読んでみる。	60～90
第15回	小テスト（「第20課」本文音読） 到達度確認テスト（音読） 3つの課題の解説・質疑応答	
	【復習】3つの課題の結果を受けて、不足している知識等を確認し、学修する。また、到達度確認テストの結果をふまえて、ロシア語の発音練習をさらに続けていく。	60

授業の方法

教科書に沿って一課ずつ進めていきます。おおまかな流れとしては、「新出単語→本文音読→文法解説→ふたたび本文音読・意味内容の確認」という工程を基本とし、各課全体をゆっくりと学習していきましょう。教科書の一課分を終えたら、その翌週には「まとめ」として、終えた課の本文を音読する小テストをおこなっていきます。また、ロシア文化へのアプローチの一環として、授業の後半20分～30分程度をつかってロシアの映画やアニメーションも鑑賞していきたいと思っています（ただし、上に示した映画の鑑賞回数はあくまでも目安なので、変更されることがあります）。

なお、後期の授業期間内に3つの「提出課題」が課されます。これはおもに教科書で学んだことやその発展問題なども範囲に含めた、「文法」が中心の課題です。したがって、課題提出にあたっては教科書のみならず必要とあれば図書館などで学習図書を参照しながら、完璧な答案を完成させてください。第4回目に「第一課題」を、第7回目に「第二課題」を、第11回目に「第三課題」をそれぞれ配布します。すべての課題の最終期限日は第14回目としますので、すべての課題提出がその日で完了するように取り組んでください。

成績評価の方法

提出課題（「文法問題」全3回：50%）、一課分終了後におこなう小テスト（「音読」：30%）、到達度確認テスト（「音読」：20%）を基本としますが、あわせて授業中の態度や積極性なども考慮に入れます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
とりわけ次の点に着目し、その達成度により評価します。
①ロシア語を正しく且つ淀みなく読んでいる。
②提出課題に真面目に取り組み、努力の跡がみられる答案に仕上がっている。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

前期に「ロシア語Ⅰ」を履修していた人、あるいはすでにどこかでロシア語の学習をしたことがあり、ロシア語の基礎知識をすでに有している人を対象にしています。前期の学修をふまえたうえで授業が進んでゆくので、ロシア語未習者でどうしてもこの授業を取りたい人はすでに授業で扱った箇所についての自習が必至となりますので、そのつもりで臨んでください。

テキスト

桑野隆著『初級ロシア語20課(CD付)』（白水社、2012年）ISBN: 978-4-560-08614-8

参考書

米重文樹編『パスポート初級露和辞典』（白水社、1994年）ISBN:978-4-560-00066-3
木村彰一他編『ロシア語辞典』（博友社、1995年）ISBN:978-4-8268-0148-5
その他、必要に応じて随時教場にて紹介していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

随時受け付けます。電子メールでも可。

科目名	世界の言語 （タイ語Ｉ）		
教員名	中島　マリン		
科目ナンバー	1101088031	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

タイ語をはじめて習う方を対象としています。授業では、タイ語のみならずタイの文化、習慣や日本との違いについても説明をします。正しい発音を身につけ、文法を理解し、いろいろな状況での言い回しの練習をします。授業では、タイ語を実際に話すことで、覚えることを重視しています。難しいタイ文字ではなく、英語表記に似た発音記号で学習しますので、比較的簡単にタイ語を身につけることができます。

到達目標

旅先や短期滞在先で自己紹介をしたり、買い物をしたりする等、簡単なコミュニケーションができるようにします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、評価の仕方を説明。 ・タイ語の基礎　（発音と声調記号）を学習。	
	発音と声調記号を復習する。	30
第2回	タイ語の基礎　（有気音と無気音）を学習。	
	発音、声調記号、有気音と無気音を復習する。	30
第3回	タイ語の基礎　（末子音と文の基本構成）を学習。	
	今まで習った「タイ語の基礎」を復習する。	30

第4回	第1課「名前は何ですか」を学習。	
	・正しく発音ができるように発音記号と声調記号を復習。 ・習った単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第5回	第２課「お仕事は何ですか」を学習。	
	・正しく発音ができるように発音記号と声調記号を復習。 ・習った単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第6回	第３課「バンコクは暑いですか」を学習。	
	・正しく発音ができるように発音記号と声調記号を復習。 ・習った単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第7回	第４課「タイ料理は好きですか」を学習。	
	・正しく発音ができるように発音記号と声調記号を復習。 ・習った単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第8回	第５課 「トイレはどこですか」を学習。	
	・正しく発音ができるように発音記号と声調記号を復習。 ・習った単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第9回	第６課「バンコク銀行を知っていますか」を学習。	
	・正しく発音ができるように発音記号と声調記号を復習。 ・習った単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30

第10回	第７課「日本人でしょう？」を学習。	
	・正しく発音ができるように発音記号と声調記号を復習。 ・習った単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第11回	第８課 「居心地も良いし、料理もおいしい」を学習。	
	・正しく発音ができるように発音記号と声調記号を復習。 ・習った単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第12回	第９課「これはいくらですか」を学習。	
	・正しく発音ができるように発音記号と声調記号を復習。 ・習った単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第13回	第10課「今日は何日何曜日ですか」を学習。	
	・正しく発音ができるように発音記号と声調記号を復習。 ・習った単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第14回	第11課「すごくきれいですね」を学習。	
	・正しく発音ができるように発音記号と声調記号を復習。 ・習った単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第15回	まとめ。第1課～第11課を復習する。	
	・今まで習った単語と文法を復習してくる。 ・宿題をしてくる。	30

授業の方法

プリントを使用し、新単語、文法、ダイアログなどを学習します。学習した新単語や文法を応用して自分で簡単な文を作り、ある程度タイ語が身についたところでクラスメイトとペアを組み、挨拶や買い物等の練習をします。タイ語を話したくなるような、楽しい授業を目指しています。学習したことを家で復習できるように宿題を出します。

成績評価の方法

出席率10%、宿題提出率10%と期末試験80%によって総合評価します。
3回遅刻した場合は、そのうちの1回を欠席とみなします。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

クラスで配るプリントを使用。

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	世界の言語 （タイ語II）		
教員名	中島　マリン		
科目ナンバー	1101088032	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

発音記号、声調記号や簡単な挨拶が理解できる方を対象としています。前期に引き続きタイ語、タイの文化、習慣や日本との違いについて説明をします。正しい発音を身につけ、文法を理解し、いろいろな状況での言い回しの練習をします。授業では、タイ語を実際に話すことで、覚えることを重視しています。難しいタイ文字ではなく、英語表記に似た発音記号で学習しますので、比較的簡単にタイ語の発音を身につけることができます。

到達目標

旅先や短期滞在先でホテルの部屋を予約したり、料理を注文したりする等、簡単なコミュニケーションができるようにします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第12課「これは何と言いますか」を学習。	
	・習った文法を復習する。 ・単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第2回	第13課「部屋を借りる」を学習。	
	・習った文法を復習する。 ・単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第3回	第14課「遊びに来たのですか」を学習。	
	・習った文法を復習する。 ・単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30

第4回	第15課「あなたはムエタイを見たことがありますか」を学習。	
	・習った文法を復習する。 ・単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第5回	第16課「英語のメニューはありますか」を学習。	
	・習った文法を復習する。 ・単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第6回	第17課「何月生まれですか」を学習。	
	・習った文法を復習する。 ・単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第7回	第18課「博物館へ行きたいです」を学習。	
	・習った文法を復習する。 ・単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第8回	第19課「次郎さんをお願いします」を学習。	
	・習った文法を復習する。 ・単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第9回	第20課「タクシーに乗る」を学習。	
	・習った文法を復習する。 ・単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30

第10回	第21課「ホテルに泊る」を学習。	
	・習った文法を復習する。 ・単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第11回	第22課「時間があったら、何をしますか」を学習。	
	・習った文法を復習する。 ・単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第12回	第23課「具合が悪いです」を学習。	
	・習った文法を復習する。 ・単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第13回	第24課「何時に起きましたか」を学習。	
	・習った文法を復習する。 ・単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第14回	第25課「一日何時間勉強をしていますか」を学習。	
	・習った文法を復習する。 ・単語を暗記する。 ・宿題をしてくる。	30
第15回	まとめ。第12課～第25課を復習する。	
	・今まで習った単語と文法を復習してくる。 ・宿題をしてくる。	30

授業の方法

プリントを使用し、新単語、文法、ダイアログなどを学習します。学習した新単語や文法を応用して自分で簡単な文を作り、ある程度タイ語が身についたところでクラスメイトとペアを組み、料理の注文やホテルの宿泊予約等の練習をします。タイ語を話したくなるような、楽しい授業を目指しています。学習したことを家で復習できるように宿題を出します。

成績評価の方法

出席率10%、宿題提出率10%と期末試験80%によって総合評価します。
3回遅刻した場合は、そのうちの1回を欠席とみなします。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

発音記号・声調記号の読み方や簡単な基礎単語の予備知識をもっていること。

テキスト

クラスで配るプリントを使用。

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	世界の言語 （イタリア語Ⅰ）		
教員名	越前　貴美子		
科目ナンバー	1001088041	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

この講座の狙いは、イタリア語の初級文法を学び簡単な日常会話を身につけると同時に、イタリア文化についての関心を広げることです。そのために、多彩な側面からイタリアを見ていきます。

到達目標

イタリア語の初級文法を学習し日常会話において使いこなせるようにすること、また、イタリア文化全般についての幅広い知識を身につけることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第1回　　導入：イタリア語とは何か？ イタリア語のアルファベートの発音 アクセントとアクセント記号	
	初回ですので予習は必要ありません。リラックスして授業に臨み、イタリア語の発音に慣れて下さい。	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第2回	第2回　特に注意が必要な発音について学びます。	
	毎回の授業で慌てないために各自復習をしましょう。復習する際にはできるだけ声に出して発音するようにしましょう。	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第3回	第3回　挨拶の仕方と名詞について学びます。名詞につ　　いては男性・女性、単数・複数を語尾に注目しな　　がら学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。

第4回	第4回　冠詞（定冠詞・不定冠詞）の単数形と複数形を学びます。また、前置詞と冠詞の結合形と部分冠詞についても学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第5回	第5回　主語人称代名詞と直説法現在essereの活用を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第6回	第6回　否定文と疑問文の形、「～がいる、～がある」の表現、疑問詞を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第7回	第7回　第6回までの授業で学習したことを駆使して自己紹介の仕方を学びます。質問をしてそれに答える訓練をしましょう。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第8回	第8回　直説法現在avereの活用およびavereを用いた　　表現と、数字の言い方を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第9回	第9回　essereとavereの活用の復習に続いて、一般形容詞を学びます。指示形容詞、指示代名詞についても学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。

第10回	第10回　規則的な活用をする動詞の直説法現在形を学びましょう。まずは語尾が-areの動詞を、次に語尾が-ereの動詞を、最後に語尾が-ireの動詞を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第11回	第11回　前回に引き続き動詞の活用を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第12回	第12回　前回と前々回に続き動詞の活用を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第13回	第13回　不規則動詞と補助動詞の直説法現在の活用を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第14回	第14回　前回に引き続き不規則動詞の活用を学びま　　す。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第15回	第15回　前期に学習した内容をまとめて復習します。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。

授業の方法
受講者の活発な参加を要請しての講義形式で行う。

成績評価の方法
学期末試験（60%）、授業への活発な参加（30%）、出席（10%）により総合的に評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
予備知識は必要ない。

テキスト
朝日出版社『初級イタリア語』（CD付）を用意すること。また、辞書は各自の必要に応じて用意すること（小学館『伊和中辞典』を勧める）。

参考書
授業内に適宜指定する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	世界の言語 （イタリア語II）		
教員名	越前　貴美子		
科目ナンバー	1001088042	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この講座の狙いは、イタリア語の初級文法を学び、簡単な日常会話を身につけると同時に、イタリア文化についての関心を広げることです。そのために、多彩な側面からイタリアを見ていきます。

到達目標

イタリア語の初級文法を学習し日常会話において使いこなせるようにすること、また、イタリア文化全体についての幅広い知識を身につけることが目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第1回　前期に学習した内容を復習します。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第2回	第2回　前回に続いて前期の復習をします。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第3回	第3回　人称代名詞（直接補語・間接補語）と、それらの組み合わせの形を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。

第4回	第4回　再帰動詞を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第5回	第5回　前回に続き再帰動詞を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第6回	第6回　命令法を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第7回	第7回　前回に続き命令法を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第8回	第8回　直説法近過去を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第9回	第9回　前回に続き直説法近過去を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。

第10回	第10回　直説法半過去を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第11回	第11回　前回に続き直説法半過去を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第12回	第12回　直説法大過去を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第13回	第13回　直説法未来を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第14回	第14回　前回に続き直説法未来を学びます。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。
第15回	第15回　後期に学習した内容のまとめをします。	
	復習を忘れずに！	何よりも大事なことは、授業後に復習をして、習ったことを次週までにきちんと身につけることです。外国語学習に王道はありません。地道な努力をしていきましょう。

授業の方法
受講者の活発な参加を要請しての講義形式で行う。

成績評価の方法
学期末試験（60%）、授業への活発な参加（30%）、出席（10%）により総合的に評価する。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
イタリア語Ⅰ修了者が望ましいが、未修了者でも復習をきちんとすることで各回の授業に停滞することなく参加する意志のある学習者は受講可。

テキスト
朝日出版社『初級イタリア語講座』杉本裕之著（CD付）を用意すること。また、辞書は各自の必要に応じて用意すること（小学館『伊和中辞典』を薦める）。

参考書
授業内に適宜指定する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近現代日本史Ａ ＜1＞		
教員名	大町　健		
科目ナンバー	1101491010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要
日本の近代は、アメリカをはじめとするヨーロッパ諸国に不平等条約を押しつけられて出発しました。日本は、不平等条約を、５０年かかって明治末年に解消しました。そこに到る幕末の政治過程から、明治期の近代化の過程を、基本的な史料に基づいて考えることを授業のテーマとします。

到達目標
授業のテーマにそって日本の近代の歴史過程とその因果関係について理解し、論述できることを授業の到達目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	はじめに 授業の内容、進め方、課題の提示。	
	〔予習〕シラバスをよく読んで、授業の内容目的、到達目標を確認する。 〔復習〕授業の内容、目的、課題を確認する。	60分
第2回	ペリーの来航と不平等条約 不平等条約の内容となぜ欧米がそれを押しつけたのか学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第3回	開国の歴史的位置 不平等条約を押しつけられて開国したことが歴史的などんな意味をもったのかを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分

第4回	開国と尊王攘夷派の展開 開国による社会の混乱と幕府の対応によって尊王攘夷派が形成されたことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第5回	尊王攘夷運動の挫折と倒幕派の形成 尊王攘夷運動が挫折した要因とそれがどのように倒幕派に転換していったのかを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第6回	幕藩権力の解体と明治維新 公議政体政府として形成された新政府が、戊辰戦争のなかで討幕派の主導によって、幕藩権力を解体し、中央集権国家を形成していったことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第7回	近代化と殖産興業 明治政府が近代化のための殖産興業をおこなうために、地租改正、秩禄処分、徴兵令という一連の改革をおこなっていったことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第8回	征韓論と明治六年政変 征韓論の内容とそれがどのようにして、明治六年政変の分裂を生み出したかを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第9回	自由民権運動の展開 士族のはじまった自由民権運動が、どのようにして全国的な運動として盛り上がっていったかを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分

第10回	明治十四年政変と松方財政 明治十四年政変がどのような分裂によるものか、その結果としての松方財政が日本社会に与えた影響を学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第11回	日本の近代化の二つの道 日本の近代化の可能性を考えることによって、日本の近代化の意味を考える。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第12回	日本の朝鮮介入と日清戦争 日本の朝鮮介入によって日本と清国の対立が激化し、日清戦争によって清国を排除したが、ロシアと対立することになったことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第13回	日露戦争と韓国併合 日露戦争によって朝鮮からロシアを排除した日本は、朝鮮を併合する一方で、欧米との不平等条約を解消していったことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第14回	まとめ 授業の課題についてまとめる。	
	〔予習〕授業の課題にもとづいて文章をまとめる。 〔復習〕まとめを確認する。	120分
第15回	振り返り 受講生の疑問・質問に答え、授業内容を振り返る。	
	〔予習〕課題のまとめを点検し、疑問点を整理する。 〔復習〕授業内容を振り返る。	120分

授業の方法

最初に授業の課題を提示します。最初に前回の復習をし、史料プリントを配り、板書をしながら授業をすすめます。何回か毎に、質問・意見を提出したもらう機会をつくります。学期の最後に、授業の課題についての筆記試験をおこないます。

成績評価の方法

授業時に提出した質問・意見30%、学期末の筆記試験70%によって評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本近現代史Ｂ、戦後の日本と世界

テキスト

参考書

高校日本史教科書
岩波新書シリーズ日本近現代史
井上勝生著『幕末・維新』
牧原憲夫著『民権と憲法』
原田敬一著『日清・日露戦争』
『日本の時代史』１９～２３巻、吉川弘文館
その他の参考文献については随時授業中に指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	近現代日本史Ａ ＜2＞		
教員名	伊藤　悟		
科目ナンバー	1101491010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

幕末から大正デモクラシー期までを扱う。明治維新論、憲法体制論、天皇制自由主義体制論の3つの視点でこの時期の時代像を明らかにする。

到達目標

歴史の転換期の特徴を理解し、人は体制の転換という事態にどう対応するのかを理解する。そして一つの体制がさまざまなサブシステムから成り立っていることを理解する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	「歴史を見る視点」 イントロダクションとして歴史とは何か、歴史学とはいかなる学問かを提示する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第2回	「幕藩体制」 明治維新で打倒の対象とされた幕藩体制とはいかなる特徴を持つ体制なのかを考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第3回	「鎖国･割拠制の解体」 幕藩体制の3つの柱のうちの鎖国と割拠制という2本がどのようにして解体され、いかなるものとなったかを考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。

第4回	「身分制の解体①～徴兵令～」 徴兵令を材料に身分制の解体作業を考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第5回	「身分制の解体②～秩禄処分～」 最終的な身分制解体作業について考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第6回	「明治維新論」 前回までの講義を踏まえて明治維新期とはどのような時代であったかを考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第7回	「自由民権運動」 政治的民主化要求としての自由民権運動の意義を考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第8回	「明治憲法体制」 市民革命失敗例の憲法としての明治憲法体制の特徴を考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第9回	「初期議会」 初期議会における政府と民党の攻防を特徴を考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。

第10回	「和協の詔勅」 初期議会の終わりの意味を考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第11回	「明治から大正へ」 明治末の日本の特徴を考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第12回	「大正政変」 代替わりと政変の関係を考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第13回	「天皇制自由主義体制」 1920年代の日本の体制を、天皇制自由主義体制という概念で考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第14回	「自由主義の社会」 1920年代の日本社会の特徴を考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第15回	講義内容に基づく試験を行う。	
	特になし。	特に設定しません。

授業の方法
講義形式で行う。必要に応じ映像資料を利用することもある。

成績評価の方法
学期末にテストを行い、その成績で評価を行う。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
高校までの日本史の知識で十分であるが、高校時代に日本史を履修していない場合には、「岩波新書」の近現代シリーズを読んでおくことが望ましい。

テキスト
特になし

参考書
特になし。講義を通じてその都度指示する場合もある。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近現代日本史Ａ ＜3＞		
教員名	坂本　昇		
科目ナンバー	1501091001	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

近代日本は、欧米諸国に開国を迫られ、不平等条約をおしつけられて始まりました。不平等条約の改正のため、1911年の明治末頃までかかりました。一方「脱亜入欧」路線を目指した日本は、「奪亜」の道を歩んでいきます。韓国併合（「韓国廃滅」「強占」までの過程を、世界史的視野に立って考察していきます。

本講義では、民衆運動史・対外関係史などの歴史研究の成果に依拠して、東アジア世界近代史としての日本近代史の歩みを追究ぇしていきます。

到達目標

本講義では、基本的かつ重要な歴史史料に基づいて、その史料を理解して史実を考察するなかで、歴史的思考力・歴史的想像力を高めることを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	1、はじめに～オリエンテーション・講座のねらいなど～ 2、ペリー来航と不平等条約 3、開国の影響と攘夷運動 4、攘夷派の後退と倒幕運動 5、倒幕期の民衆と戊辰戦争 6、明治初頭の諸改革と近代化・殖産興業 7、明治初期の対外関係と明治6年の政変 8、士族の乱と自由民権運動の展開 9、明治14年の政変と松方軍拡財政 10、立憲体制・初期議会と条約改正 11、1880年代の日朝関係 12、日清戦争と義和団鎮圧戦争 13、日露戦争 14、韓国併合と大逆事件 15、まとめ・到達度確認テスト	
	シラバスを熟読して、講義の概要・留意点などを理解する。	30 分
第2回	・産業革命と世界の近代化など、ペリー来航の背景を史料に基づいて解説する。 ・和親条約の意味と最恵国待遇を認めた影響、通商条約の不平等性などを説明する。	
	【予習】高校日本史教科書などの近代の該当部の内容が理解できるように熟読する。 【復習】提示した史料を、独力で読解できるように読み直す。	予習30分 復習40分 以下毎回同じ。
第3回	開国・貿易の開始による経済的影響の実態を説明する。 またそれらに伴う国内諸階層の反応・対応を史料に基づいて説明する。 こうした中で展開した攘夷運動の特徴・影響などを説明する。	
	高校日本史教科書等で予習し、配布された諸史料を復習する。	同前

第4回	攘夷派が後退・敗北して行く過程と公武合体運動の展開などについて説明する。 そうした中で萌芽する倒幕論（武力倒幕論と大政奉還論）の特徴などについて説明する。	
	高校日本史教科書等で予習、配布プリントの諸史料の復習。	同前
第5回	世直し一揆や「ええじゃないか」などの、開国後・倒幕期の民衆運動の特徴・影響などについて、史料に基づいて説明する。 鳥羽・伏見の戦いから箱館戦争までの戊辰戦争の経過について資料で説明する。	
	高校日本史教科書等で予習、配布した諸史料の復習。	同前
第6回	遷都・一世一元・神仏分離令・五箇条の誓文など1868年の諸政策の特徴と政治的目的などを説明する。 近代化・殖産興業政策などの特徴と、岩倉使節団の米欧訪問などの意義を関連付けながら説明する。	
	高校日本史教科書等で予習、配布諸史料の復習。	同前
第7回	征韓論の歴史的経過と背景について説明し、明治6年の政変への経過を資料をもとに説明する。 明治6年政変後の、台湾出兵・江華島事件などの対外事件の経過などから、大久保政権確立の意義と大久保の意図について考察する。	
	高校日本史教科書等で予習、配布諸史料の復習。	同前
第8回	佐賀の乱から西南戦争にいたる乱の原因と経過を、史料に基づいて説明する。 士族の乱と並行して展開した自由民権運動の特徴と経過などについて史料で確認して説明する。	
	高校日本史教科書等で予習、配布した諸史料の復習。	同前
第9回	大隈重信と伊藤博文らとの対立の原因、開拓使官有物払下げ事件の経過と結果などから、1881年の政治過程について資料によって説明する。 1880年代前半の松方財政の特徴と民権運動との関係などについて諸資料に基づいて説明する。	
	同前	同前

第10回	明治憲法の制定過程と重要な条項などを説明し、初期議会の論戦・混乱の実態を説明する。 条約改正交渉の困難性と経過について説明する。特に東アジア世界の動向と合わせて理解できるように説明する。	
	同前	同前
第11回	壬午軍乱・甲申政変の経過と結果、天津条約の内容と脱亜論などを史料に基づいて説明する。 東アジア史としての日本近代史把握の意味に注目しつつ考察させる。	
	同前	同前
第12回	日清戦争の原因と経過・結果について史料によって説明する。 中国分割の実態と義和団鎮圧戦争の意義・日英同盟の模索過程などを説明する。	
	同前	同前
第13回	日露戦争の原因・経過・結果について、史料によって説明する。 韓国保護国化の過程を、英米などの動向と合わせて説明する。	
	同前	同前
第14回	韓国内の義兵運動の実際と伊藤博文射殺、韓国併合条 約の閣議決定問題などの経過について説明する。 大逆事件について経過・影響などの概略を説明する。 到達度確認テストについて説明する。	
	同前	同前
第15回	論述式の到達度確認テストを実施する。	
	f配布されてすべてのプリント中、出題可能性の高いものを熟読して、答案の素案を作成してみる。	復習60分

授業の方法

講義形式で行う。毎回史料・資料を掲載したプリントを配布して、それら基づいて講義する。

成績評価の方法

ほぼ毎回講義内容についての意見小レポートを提出してもらう（40%）。
また学期末に到達度確認テストを行い（60%）、その合計の点数により評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校までの日本史の知識で十分であるが、高校時代に日本史を履修していない場合には、「岩波新書」の近現代シリーズを読んでおくことが望ましい。

テキスト

特になし。

参考書

特になし。講義を通じてその都度指示する場合もある。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近現代日本史Ｂ ＜1＞		
教員名	大町　健		
科目ナンバー	1101491020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

２０世紀前半の日本の５０年間は、日露戦争、第一世界大戦、満州事変、日中戦争、アジア太平洋戦争と戦争の時代といってよいでしょう。なぜ日本は、中国さらにはアメリカをはじめとする連合国と戦争するに到ったのか、他の選択肢はなかったのかを考えるとき、注目すべきは、第一次大戦から満州事変の十数年間の日本は、基本的には国際平和を求める協調外交の時代だったことです。なぜ戦争に到ったかは、なぜ協調外交を生かすことができなかったのかという問題でもあります。これらの問題を基本的な史料に基づいて考えることを授業のテーマとします。

到達目標

授業のテーマにそって当該時期の歴史過程とその因果関係について理解し、論述できることを到達目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	はじめに 授業の内容、進め方を説明し、課題を提示する。	
	〔予習〕シラバスをよく読んで、授業の内容目的、到達目標を確認する。 〔復習〕授業の内容、目的、課題を確認する。	60分
第2回	第１次世界大戦と日本の中国進出 第１次世界大戦は初めての世界戦争であり、日本はそのなかで中国に二十一ヵ条要求によって進出をはかったことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第3回	ベルサイユ体制と民族自決 第１次世界大戦後、世界は民族自決を認めた平和維持をはかるベルサイユ体制が成立したことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分

第4回	外交の転換とワシントン体制 太平洋地域でのワシントン体制の成立にともなって、日本も二十一ヵ条要求を放棄し、対中国協調をはかる外交の転換をおこなったことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第5回	政党内閣の成立と外交の転換 日本の外交の転換の背景には、国内における戦争と軍拡への不満にもとづく政党内閣の成立があることを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第6回	大正デモクラシーと外交の転換 政党内閣の成立は、大正デモクラシーの運動をともなっていたが、そこには民本主義とならんで民族自決を認める動きがあったこと学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第7回	協調外交 外交の転換は協調外交として結実したが、中国においては民族運動が進み、北伐によって日本の権益が危うくなったことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第8回	金解禁 協調外交によって中国市場をめざした日本が、一方で金解禁を必要としたことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第9回	金融恐慌 北伐への不干渉政策をとる政府に対する不満をもつ勢力によって、融恐慌が拡大していったことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分

第10回	積極外交と協調外交 積極外交の政府のもとでの中国干渉は失敗し、協調外交をとる政府にもどるが、中国における民族運動の盛り上がりによって日本の中国における権益の危機が現実化したことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第11回	満州事変 関東軍による満州事変によって満州国が作られたが、国際連盟から脱退し、国際的に孤立したことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容をまとめる。	60分
第12回	日中戦争 日本と中国の対立は激化し、日本は中国との全面戦争に突入したことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第13回	アジア太平洋戦争 日中戦争の行き詰まりのなかで、米英との対立も激化し、日本が第２次世界対戦の一部であるアジア太平洋戦争に突入し、敗戦へと向かっていったことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第14回	まとめ 授業の課題についてまとめる。	
	〔予習〕授業の課題にもとづいて文章をまとめる。 〔復習〕まとめを確認する。	120分
第15回	振り返り 受講生の疑問・質問に答え、授業内容を振り返る。	
	〔予習〕課題のまとめを点検し、疑問点を整理する。 〔復習〕授業内容を振り返る。	120分

授業の方法

最初に授業の課題を提示します。最初に前回の復習をし、史料プリントを配り、板書をしながら授業をすすめます。何回か毎に、質問・意見を提出したもらう機会をつくります。学期の最後に、授業の課題についての筆記試験をおこないます。

成績評価の方法

授業中に提出した質問・意見30%、学期末の筆記試験70%によって評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本近現代史Ａ、戦後の日本と世界

テキスト

特になし。

参考書

高校日本史教科書
岩波新書シリーズ日本近現代史
成田龍一著『大正デモクラシー』
加藤陽子著『満州事変から日中戦争へ』
吉田裕著『アジア・太平洋戦争』
『日本の時代史』１９～２３巻、吉川弘文館
その他の参考文献については随時授業中に指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	近現代日本史Ｂ ＜3＞		
教員名	伊藤　悟		
科目ナンバー	1501091002	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

終戦工作の時期から1950年代前半までの時期を対象とし、日本の戦後体制形成までの時期をあつかう。アジア最強の軍事大国でかつ最大の資本主義国であった日本が一度崩壊し、そこから再び経済大国となったかを検討する。

到達目標

歴史における断絶と連続についての理解を深める。体制転換期といえども連続的要素を持ち、特に敗戦から復興の時期においても戦時下から連続的部分が現代を規定していることを理解する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	「天皇制自由主義体制」 1920年代のいわゆる大正デモクラシーの時期の日本の特徴を考察する。自由主義とは何かがポイントとなる。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第2回	「終戦工作」 1945年における終戦工作の内容と目的を考察する。なにを実現することで戦争終結が可能だったかがポイントとなる。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第3回	「ポツダム宣言」 戦後改革の前提である「ポツダム宣言」の内容を検討する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。

第4回	「人権指令」 東久邇宮内閣の性格を検討し、なぜ10月4日の「人権指令」が出されたのかを考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第5回	「人間宣言」 昭和天皇のいわゆる「人間宣言」とは何だったのかを検討し、新憲法制定と「人間宣言」の関係を考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第6回	「日本的民主主義」 日本政府の憲法改正案が極めて保守的なものとなった原因を、支配層の民主主義間の問題として考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第7回	「憲法制定」 日本側とアメリカ側の双方から新憲法制定過程を考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第8回	「政治的対抗関係①」 新憲法制定の時期における日本国内の政治的対抗関係を考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第9回	「政治的対抗関係②」 憲法の確定後から1948年までの日本国内の政治的対抗関係を考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。

第10回	「占領政策の転換」 アメリカの占領政策の転換を東アジア情勢との関連で考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第11回	「朝鮮戦争」 1950年6月勃発した朝鮮戦争が日本および世界に与えた影響を考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第12回	「再軍備論争」 朝鮮戦争をきっかけに起こった吉田茂と芦田均による「再軍備論争」について考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第13回	「自由主義的反動」 いわゆる｢逆コース」と呼ばれる1950年代前半期を「自由主義的反動｣の観点から考察する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第14回	「55年体制」 「55年体制」を「連立･連合論」の視点から考察し、現代に至る戦後政治史を通観する。	
	特に予習･復習の必要はありません。しっかり講義に参加しノートをとること。	特に設定しません。
第15回	講義内容に基づく試験を行う。	
	特になし。	特に設定しません。

授業の方法
講義形式で行う。必要に応じ映像資料を利用することもある。

成績評価の方法
学期末にテストを行い、その成績で評価を行う。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
高校までの日本史の知識で十分であるが、高校時代に日本史を履修していない場合には、「岩波新書」の近現代シリーズを読んでおくことが望ましい。

テキスト
特になし。

参考書
特になし。講義を通じてその都度指示する場合もある。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	戦後の日本と世界 ＜2＞		
教員名	富田　武		
科目ナンバー	1101491030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この講義は、学生の大多数が受験の際に日本史、世界史のいずれを選択しても殆んど習ってこなかった第2次世界大戦後の歴史を学び、国際化の時代に相応しい素養の一つを身につけ、併せて専門科目学習のベースを作ってもらうことを狙いとしている。特徴は日本史、世界史（大学では西洋史、東洋史）という区分をせず一体のものとして構成されている点、DVDを用い、映像によって理解をリアルなものにする点である。半期15回の授業では時間が絶対的に不足しており、概説的なものにならざるを得ないが、受講者がこれをステップに戦後史をさらに自分で学習するようになることを望む。

到達目標

自分たちの生きている時代を歴史的に、戦後69年の流れの中で理解できるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	映像学習 太平洋戦争末期から占領軍の統治・改革、マッカーサー離日までの主要な出来事を観る。	
	参考書①雨宮著、②武田著、③吉見著を開講前に読むことが望ましい。	270分
第2回	日本の敗戦と占領政策 第2次世界大戦を総括し、日本敗戦の過程（ポツダム宣言から受諾まで）と結果（領土喪失、引揚等）、占領下改革を概観し、占領政策をめぐる内外の力学を理解する。	
	テキスト石川1～2及び中村1―1～2を読む。	60分
第3回	戦後復興と冷戦開始 日本国憲法制定過程を米国と吉田首相の動向を中心に把握し、続く冷戦への移行と占領政策の転換、それに応じた吉田復帰と米国主導の経済（デフレ）政策を理解する。	
	石川3～7及び中村1―3を読む。	60分

第4回	朝鮮戦争から55年体制へ 　朝鮮戦争を転機とする「逆コース」、サンフランシスコ「単独講和」及び日米安保条約締結、保守主導の政治が自民党の結成、55年体制成立に至ったことを理解する。	
	石川8～11及び中村1―5～7を読む。	60分
第5回	映像学習 　安保闘争と高度成長を中心とした映像を観る。	
	できれば映画『Always 三丁目の夕日』を観て人々の暮しぶりを知る。	90分
第6回	安保闘争から高度成長へ 　60年安保条約改定の内容と国会論争、空前の反対運動を当時の国際情勢と絡めて把握し、池田首相が所得倍増を掲げて人々の関心を経済と生活に向けたことを理解する。	
	石川12～14及び中村2―1～2を読む。	60分
第7回	ヴェトナム戦争と日本 　冷戦下で世界はキューバ危機とヴェトナム戦争を経験し、日本は同戦争で米国に協力、日韓条約を結びアジア反共体制の一角を占め、中ソと対立したことを理解する。	
	石川15～16及び中村2―4～5を読む。	60分
第8回	高度成長の矛盾と石油危機 　高度経済成長が「公害問題」などを伴い、石油危機で終焉したこと、60年代末には先進諸国で学生運動が激発し「新しい社会運動」を生んだことを理解する。	
	中村2―2～3を読む。	60分
第9回	アジアの動向と「田中政治」 　70年代初期の欧州デタント、アジアの米中・日中和解、末期の新冷戦というジグザグ、日本では田中角栄の政権と「院政」＝利益誘導政治の完成を理解する。	
	石川17～19及び中村3―1、3を読む。	60分

第10回	映像学習 80年代日本の「繁栄」とソ連・東欧革命の実像を観る。	
	とくになし。	0分
第11回	新自由主義と日本の大国化 80年代はサッチャーに始まり米国、西独、日本が経済は新自由主義、政治は保守主義の政策をとり、日米間では経済摩擦の一方、政治的に緊密だったことを理解する。	
	石川21～22及び中村3―4～5を読む。	60分
第12回	ペレストロイカと冷戦終結 ソ連の社会主義体制が内部矛盾と西側との競争圧力に耐えられずに改革に乗り出したこと、言論の自由や民族自決の運動がついに体制自体を崩壊させたことを理解する。	
	参考書④『ソ連史』第6章を読む。	60分
第13回	バブル崩壊と55年体制崩壊 バブルが崩壊し日本が長期不況に陥ると同時にグローバル化に直面し、政治面では55年体制が崩壊して連立政権時代に入り、ナショナリズムが台頭したことを理解する。	
	石川25～26及び中村4―1～2、4を読む。	60分
第14回	グローバル化と「文明の衝突」 グローバル化は「世界の一体化」を必ずしももたらさず、ナショナリズムや宗教原理運動の台頭を呼んでいるが、地球大の諸問題解決も急務であることを理解する。	
	参考書⑤『欧州連合』と⑥『東アジア共同体』を読む。	90分
第15回	まとめ いま国内では「戦後レジームの変更」が叫ばれる一方、国際社会からは「日本は先の大戦を反省しているのか」と疑問がもたれる中で、戦後の世界と日本の歩みをあらためて問い直す。	
	とくにないが、テストを前に左記の内容を自分なりに文章化してみることを勧める。	60分

授業の方法

時間不足を考慮してレジュメ、補助教材をプリントとして毎回配布する。講義内容をよりよく理解するためには下記テキストの指定部分を予習してくること。なお、教員が自分の体験を交えて語る「余談」も理解を助けるので、耳を傾けてほしい。映像学習の日は感想文を書いてもらう。

成績評価の方法

期末試験を基本とするが、DVDの感想文提出、その内容も成績評価の20%程度を占める。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

最低限の予備知識として、『もういちど読む山川日本史』『もういちど読む山川世界史』を、とくに日本史・世界史ともに未修または一方未修の学生は必ず読んでおくこと。

テキスト

・石川真澄『戦後政治史　新版』岩波新書、780円　ISBN4-00-430904-2　C0231
・中村政則『戦後史』岩波新書、840円　ISBN4-00-430955-7　C0221

参考書

①雨宮昭一『占領と改革』岩波新書、700円、ISBN978-4-00-431048-8　C0221
②武田晴人『高度成長』岩波新書、780円、ISBN978-4-00-431049-5　C0221
③吉見俊哉『ポスト戦後社会』岩波新書、700円、ISBN978-4-00-431048-8　C0221
④松戸清裕『ソ連史』ちくま新書、800円、ISBN978-4-480-06638-1　C0222
⑤庄司克宏『欧州連合　統治の論理とゆくえ』岩波新書、740円　ISBN978-4-00-431099-0　C0231
⑥谷口誠『東アジア共同体―経済統合のゆくえと日本』岩波新書、780円　ISBN978-4-00-430919-0　C0233

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

簡単な質問は授業終了後に教室で受け付けるが、立ち入った質問や相談はメールまたは研究室で対応する。

科目名	戦後の日本と世界 ＜3＞		
教員名	大町　健		
科目ナンバー	1301091003	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

基本的な史料に基づき、第二次世界大戦後の歴史過程を通して、戦後社会を考察することを課題とします。戦後社会の枠組みの出発は、戦後改革でした。戦後改革は、敗戦国日本に求められただけでなく、戦後世界の課題でした。その後の高度経済成長は、戦後社会の枠組みを前提としておりその帰結ともいえるが、一方でその変容の結果でもあります。また、戦後社会の枠組みは、戦争という世界的な事柄の帰結である以上、日本の国内条件によって定まるものではなく、戦後世界の冷戦構造とその歴史によって大きく規定されていました。またその変容もまた、冷戦構造の変容、終結と大きな関連をもっていると考えられます。日本と世界の戦後構造の変容を論じることを通して、現代社会の認識を深めていくことをテーマとします。

到達目標

授業のテーマである戦後の日本と世界の歴史過程とその因果関係について理解し、論述できることを到達目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	はじめに 授業の内容、進め方、課題を説明する。	
	〔予習〕シラバスをよく読んで、授業の内容目的、到達目標を確認する。 〔復習〕授業の内容、目的、課題を確認する。	60分
第2回	敗戦と戦後改革 敗戦によって平和国家となること＝民主化を要求される、一方日本政府の国体護持のせめぎ合いのなかで戦後改革がすすんでいったことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第3回	憲法改正と戦後改革 憲法改正と戦後改革が、連合国と日本政府のどのような妥協によって進んで行ったのかを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分

第4回	東西冷戦 反ファシズムの連合として始まった戦後世界が、どのような対立のなかで、東西冷戦になっていったのかを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第5回	アジアでの熱戦と対日政策の転換 中国の国共内戦、朝鮮戦争というアジアの熱戦のなかで、アメリカの対日政策が転換され、対日講和が進んでいったことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第6回	ベトナム戦争とその影響 アジアの熱戦は、ベトナム戦争へと進んでいき、その結果、ドルショックをはじめ世界に大きな影響をあたえたことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第7回	戦後政治体制と1955年体制 戦後の政治体制は、世界の動きと連動し、中道連立政権から対米協調内閣を経て、保革が対立する１９５５年体制へすすんだことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第8回	1960年体制と高度経済成長 安保改訂をめぐる保革の激突を経て、経済をい優先して高度経済成長をおこなっていく1960年体制に転換したことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第9回	1960年体制の展開 1970年代には、日本の経済成長と世界の動きのなかで、日米関係、アジアとの関係、経済成長がそれぞれ展開していったことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分

第10回	冷戦の終結と社会主義の崩壊 1980年代に、西側諸国では新保守政権が登場したが、東側諸国においては社会主義が崩壊していったことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第11回	分裂・対立と統合のモメント 冷戦終結後、世界は湾岸戦争をはじめとする地域戦争及び民族紛争が多発するようになった一方で、欧州連合をはじめとする国家統合がすすんでいることを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第12回	変動と模索の日本 1990年代の日本では、自民党政権が崩壊して1960年体制が解体されていく一方で将来をめぐって模索がおこなわれていったことを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第13回	21世紀を迎えて 21世紀を迎えて、アメリカが対テロ戦争を続ける一方で、アメリカでも日本でも政権交代等の様々な動きが起こっていることを学ぶ。	
	〔予習〕授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕授業内容を文章にまとめる。	60分
第14回	まとめ 授業の課題をまとめる。	
	〔予習〕授業の課題にもとづいて文章をまとめる。 〔復習〕まとめを確認する。	120分
第15回	振り返り 受講生の疑問・質問に答え、授業内容を振り返る。	
	〔予習〕課題のまとめを点検し、疑問点を整理する。 〔復習〕授業内容を振り返る。	120分

授業の方法

最初に授業の課題を提示します。最初に前回の復習をし、史料プリントを配り、板書をしながら授業をすすめます。何回か毎に、質問・意見を提出したもらう機会をつくります。学期の最後に、授業の課題についての筆記試験をおこないます。

成績評価の方法

授業時に提出した質問・意見30%、学期末の筆記試験70%によって評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本近現代史Ａ、日本近現代史Ｂ

テキスト

とくに指定しない。

参考書

高校日本史教科書
岩波新書中村政則著『戦後史』
岩波新書シリーズ日本近現代史
雨宮昭一著『占領と改革』
武田春人著『高度成長』
吉見俊哉著『ポスト戦後社会』
『日本の時代史』２６・２７・２８巻　吉川弘文館
その他の参考文献については随時授業中に指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	現代日本の地理 <1>		
教員名	小田　宏信		
科目ナンバー	1101491040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

国際教養科目のコア科目です。国際化の中で，日本国内の諸地域は大きな変容を強いられてきました。この科目・クラスでは，経済地理学の成果に基づいて，主に産業活動の側面から，日本の地域システムと諸地域の変貌について考えていきます。

到達目標

グローバル経済の下におかれた，日本の諸産業の地域展開，大都市圏と地方圏の実情について理解し，経済地理学の視点から考察できることを，本講義の目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	グローバル化のなかの地域と経済	
	テキストの「はしがき」と第１章を読む。	60
第2回	人口動態からみた日本の地域システム	
	・前回の復習。 ・テキストの第２章第１節を読む。	60
第3回	農業生産からみた日本の地域システム	
	・前回の復習。 ・テキストの第２章第２節を読む。	60

第4回	工業生産からみた日本の地域システム	
	・前回の復習。 ・テキストの第２章第３節を読む。	60
第5回	流通産業からみた日本の地域システム	
	・前回の復習。 ・テキストの第２章第４節を読む。	60
第6回	日本の経済地域システム	
	・前回の復習。 ・テキストの第２章第５節を読む。	60
第7回	東京圏の形成と変容(1)：首都の形成と変容	
	・第６回までの「まとめの課題」に取り組む。 ・テキストの第３章第１節（pp.85-90）を読む。	120
第8回	東京圏の形成と変容(2)：世界都市東京の再開発	
	・前回の復習。 ・テキストの第３章第１節（pp.91-92, pp.100-102）を読む。	60
第9回	東京圏の形成と変容(3)：工業生産の場としての東京	
	・前回の復習。 ・テキストの第３章第１節（pp.92-100）を読む。	60

第10回	広域関東圏：北関東・東山・東海・北陸	
	・前回の復習。 ・テキストの第５章第１節～第４節を読む。	60
第11回	京阪神圏と名古屋圏	
	・前回の復習。 ・テキストの第３章第２節および第３節を読む。	60
第12回	九州圏と沖縄	
	・前回の復習。 ・テキストの第４章第４節および第５節，第５章第６節を読む。	60
第13回	中国・四国圏	
	・前回の復習。 ・テキストの第４章第３節および第５章第５節を読む。	60
第14回	北海道・東北圏	
	・前回の復習。 ・テキストの第４章第１節および第２節を読む。	60
第15回	まとめ	
	・全体を通じての復習。	120

授業の方法

テキストに極力準拠し，その内容に肉付けしつつ，配布資料を適宜参照して講義形式で進めます．写真教材も用います．
なお，欠席の場合も配布資料は取り置きしませんので，必要な場合はダウンロードして下さい。

成績評価の方法

平常点30%，期末試験70%。（別途，任意提出の課題の提出を加味するが，締め切り日以降は一切受け付けない）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

（1）日本の経済地域を空間的なシステムとして理解できているか。
（2）日本の主要産業部門の地域的展開についての基礎的事項を理解できているか。
（3）国際的大競争の下で日本の諸地域が抱える諸問題と対応について理解できているか。
（4）基本的な地域統計・統計地図を読み取って考察することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本の諸地域や東京が抱える諸問題について，ある程度の問題意識を持っていることが望ましい。

テキスト

『日本経済地理読本〔第９版〕』竹内淳彦・小田宏信編，東洋経済新報社，2300円程度，ISBN978-4-492-10031-8
【必ず第９版を準備してください】

参考書

『経済地理学の成果と課題・第７集』経済地理学会，日本経済評論社，3400円，ISBN-13: 978-4818820968
その他，適宜，紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	現代日本の地理 ＜2＞		
教員名	小金澤　孝昭		
科目ナンバー	1301091004	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

本年度は，現代日本の地域的特徴（地域システム）を、それがどのように形成されてきたのかに注目して考察する。
戦後の日本の地域システムの時期区分としては、1960年までの復興期、1973年までの高度経済成長期、199０年までの低成長期、1991年以降のバブル崩壊・新自由主義時代として捉えて考察を進める。

到達目標

現代の少子高齢化社会、グローバル化社会における日本経済社会の地域的特徴（地域システム）と、それがどのように作られてきたのかを、戦後の社会変化から理解することが到達目標である。これは、戦後史と経済社会の地理的展開の両面を学ぶことでもある。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	地理学とは何か？地理学は身近な地域の変化を明らかにすることと、その地域の変化を生み出す日本全体の地域変化の両方を考察する学問であること学ぶ	
	復習　講義時に配布した土地利用図の彩色とワークシートを完成させる。	120
第2回	戦後日本の社会の変化を学ぶ（～東京オリンピック） 高度経済成長期のDVDを鑑賞する。	
	復習　DVDの内容についてのワークシートを完成させる。	60
第3回	戦後日本社会の時期区分を行なう。人口や国民総生産などの統計指標を使って、日本経済社会の動向についてのグラフを作成する。	
	復習　グラフを完成させる。	120

第4回	戦前の日本の経済･社会を学ぶ。日本は戦後、ゼロから復興したのだろうか？戦前の経済社会との連続性はないのか?	
	予習　前の時間に配布した文書資料、写真資料を読んでワークシートを完成させる。	120
第5回	戦後復興の経済社会の地域システムを学ぶ。民主改革と傾斜生産方式の経済、占領下の経済システムの変化を理解する。	
	テキスト第一章(「戦後」の成立）を熟読し、ワークシートを完成させる。	60
第6回	エネルギー革命期の地域変化を学ぶ。朝鮮特需、エネルギー革命、多目的ダム開発、集団就職の実態を理解する。レポート課題 ①戦後の経済・社会･地域問題に関する文献を読む。	
	復習　第一レポートの作成。	180
第7回	産業構造の転換と太平洋ベルト地帯の形成を学ぶ。 高度経済成長期の産業の立地･配置を理解する。	
	復習　京葉工業地帯の埋め立て状況を示す土地利用図の作業を行う。	60
第8回	高度経済成長期の大人口移動を考える。過疎問題、過密問題、都市問題について考察する。	
	予習　テキスト（第二章「戦後」の基本的枠組みの定着）と配布資料を熟読する。	60
第9回	産業構造の差転換と低成長時代への突入。 ドルｼｮｯｸ･オイルショック以降の産業構造再編。重厚長大から軽薄短小の時代へ。	
	予習　テキスト（第三章「戦後」のゆらぎ）と配布資料を熟読する。	60

第10回	工場･事業所の地方分散と東京一極集中の形成のメカニズムを学ぶ。 レポート②「地方の分散が東京一極集中を招く」『世界』伊東論文を読む。	
	復習　第二レポートの作成。	180
第11回	貿易摩擦と日本の工業を学ぶ。日本の主力産業となった自動車産業の発達過程と貿易摩擦の問題点をDVD映像から学ぶ。	
	復習　DVD鑑賞ワークシートの完成	60
第12回	バブルの崩壊と産業空洞化を学ぶ。バブル崩壊による景気の低迷、地方に分散した工場の撤収と海外（中国）への工場移転がすすみ、地方の産業の空洞化が始まる。	
	予習　テキスト（第四章「戦後」の終焉）と配布資料の熟読。	120
第13回	少子高齢化社会と新自由主義の社会を学ぶ。経済格差、派遣労働に依存する安上がり雇用政策の要因を考察する。	
	予習　テキスト(終章　新しい戦争の中で－「戦後」とは何だったのか）の熟読とワークシート完成	120
第14回	到達度テストを実施する。	
	予習　到達度テストの準備をする。	180
第15回	テストの開設ならびに講義のまとめ(持続可能な社会をめざして～東日本大震災からの復興と日本社会の復興～)	
	テストで判明した不足している知識や理解が不十分な講義内容の点検確認を行う。	120

授業の方法

テキストに極力準拠し，配布資料を適宜参照しながら，講義形式で進めます．DVD教材も用います．

成績評価の方法

2回のレポート、各講義で行うワークシートで４０%、到達度試験４０%、講義への出席や講義中の態度などで２０%で評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

新聞をよく読んで、この講義に関連する記事をスクラップする。又、配布資料テキストをよく読むこと。

テキスト

中村政則『戦後史』岩波新書2005年　中村･森編『年表　昭和･平成史　1926-2011』岩波書店

参考書

別途指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	現代世界の地理 ＜1＞		
教員名	加賀美　雅弘		
科目ナンバー	1101491050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

ＥＵ拡大とともに変化するヨーロッパを理解するために，特に都市に着目した考察を行う。ヨーロッパには様々なタイプの都市があり，そのうち中央ヨーロッパの都市を事例に取り上げ，歴史的景観や外国人，エスニック集団に目を向けながら，都市の変化プロセスを明らかにする。具体的にはウィーンや旧社会主義諸国の都市を事例にして，都市景観，観光化，エスニック集団をキーワードに据えて，都市の変化を考察する。

到達目標

EU拡大が進むヨーロッパの都市に注目し，都市景観や都市構造などの変化に着目した地域社会の理解をめざす。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	都市からみたヨーロッパ地誌	
	ヨーロッパ地誌に関する参考文献を整理し，都市に関する記述内容を確認する。	60
第2回	都市理解のための地理学的視点（１）	
	都市地理学の基本的文献を整理し，地理学的視点を理解する。	90
第3回	都市理解のための地理学的視点（２）	
	都市地理学の基本的文献を整理し，地理学的視点を理解する。	90

第4回	ヨーロッパ都市の発達と特性（１）	
	ヨーロッパ地誌に関する参考文献を読んで，ヨーロッパの都市の概要を理解する。	90
第5回	ヨーロッパ都市の発達と特性（２）	
	ヨーロッパ地誌に関する参考文献を読んで，ヨーロッパの都市の概要を理解する。	90
第6回	ヨーロッパ都市の発達と特性（３）	
	ヨーロッパ地誌に関する参考文献を読んで，ヨーロッパの都市の概要を理解する。	120
第7回	中央ヨーロッパ都市の構造	
	ヨーロッパ地誌に関する参考文献を読んで，ヨーロッパの都市の概要を理解する。	120
第8回	都市の変化と歴史的景観（１）	
	ウィーンに関する参考文献を読んで，その構造についての概要を理解する。	120
第9回	都市の変化と歴史的景観（２）	
	ウィーンに関する参考文献を読んで，その構造についての概要を理解する。	120

第10回	都市の変化とエスニック集団（１）	
	19世紀の市街地化に関する参考文献を読み，労働者住宅に関する知識を蓄える。	120
第11回	都市の変化とエスニック集団（２）	
	都市のエスニック社会に関する参考文献を読み，その概要を理解する。	120
第12回	旧社会主義都市の変容（１）	
	旧社会主義都市に関する参考文献を読み，その概要を理解する。	120
第13回	旧社会主義都市の変容（２）	
	ベルリンに関する参考文献を読み，その構造を理解する。	120
第14回	ヨーロッパ都市の動態	
	ヨーロッパの地誌に関する参考文献を読み，都市の構造についての理解の整理をする。	120
第15回	まとめ（試験を含む）	
	授業内容を整理し，都市に着目したヨーロッパ地域の理解を進める。	120

授業の方法
配布プリントをもとに講義内容を詳説する。

成績評価の方法
学期末試験80%，授業中に課すレポートの提出状況20%

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
ヨーロッパの国名と地名について，地図帳を利用して把握しておく。

テキスト
特に使用しない。

参考書
授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付けるほか，随時電子メールでも対応する。

科目名	現代世界の地理 ＜2＞		
教員名	加賀美　雅弘		
科目ナンバー	1001091005	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

「ヨーロッパの統合と諸地域の変化」
近年のヨーロッパの諸地域が，ＥＵの拡大とともに変化する過程を検討する。そのために，まずＥＵがめざす地域統合とその課題を取り上げ，特に『民族の記憶』と『経済の地域間格差』に注目しつつ，新しいＥＵ加盟国がある東ヨーロッパ地域の特徴を考察する。最終的には，拡大するＥＵの地域構造を把握し，ヨーロッパが直面する課題を理解する。

到達目標

ＥＵの拡大が進むヨーロッパという地域を，国家と民族に着目して理解することをめざす。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ヨーロッパ理解の視角（１）	
	テキストの序章を読んで理解しておく。	60
第2回	ヨーロッパ理解の視角（２）	
	ヨーロッパの地理についての参考文献を読み，ヨーロッパ理解を深める。	60
第3回	ＥＵによるヨーロッパ統合とその課題（１）	
	テキストの第3部を読んで，ＥＵの仕組みについて理解しておく。	90

第4回	ＥＵによるヨーロッパ統合とその課題（２）	
	ＥＵの仕組みに関する参考文献を読んで知識を固める。	90
第5回	記憶としての民族問題（１）	
	テキストの第1部第1章を読み，国家と民族の関係について整理する。	90
第6回	記憶としての民族問題（２）	
	ヨーロッパの国家と民族についての参考文献を読み，知識を蓄える。	120
第7回	記憶としての民族問題（３）	
	テキストの第2部を読み，過去の民族問題の記憶についての理解を深める。	120
第8回	記憶としての民族問題（４）	
	ユーゴスラヴィア紛争についての参考文献を読み，知識を深める。	120
第9回	地域間格差と民族問題（１）	
	テキストの第1部第2～4章を読み，ヨーロッパにおける経済の地域間格差についての理解を深める。	120

第10回	地域間格差と民族問題（２）	
	少数民族集団やロマに関する参考文献を読んで内容を理解する。	120
第11回	地域間格差と民族問題（３）	
	ロマに関する参考文献を読み，彼らの歴史的，文化的特徴を理解する。	120
第12回	地域間格差と民族問題（４）	
	ロマに関する文献を読み，彼らの歴史的，文化的，社会的特徴を理解する。	120
第13回	ヨーロッパの地域構造（１）	
	拡大するＥＵに関する参考文献を読み，ＥＵが直面する課題を整理する。	120
第14回	ヨーロッパの地域構造（２）	
	拡大するＥＵに関する参考文献を読み，ＥＵが直面する課題を整理する。	120
第15回	まとめ（試験を含む）	
	授業内容を整理し，ヨーロッパ地域理解を進める。	120

授業の方法
配布プリントなどを基に，講義内容を詳説する。

成績評価の方法
学期末試験：80%，授業中に課すレポートの提出状況：20%

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
ヨーロッパの国名と地名について，地図帳を利用して把握しておく。

テキスト
加賀美雅弘・川手圭一・久邇良子（2014）『ヨーロッパ学への招待―地理・歴史・政治からみたヨーロッパ』学文社.

参考書
授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付けるほか，随時電子メールでも対応する。

科目名	国際教養総合講義　（保守主義とリベラルの思想的対立からみたアメリカ政治）		
教員名	中岡　望		
科目ナンバー	1101095205	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

本講座はアメリカの政治思想史を学ぶものですが、単に歴史的な事柄を学ぶものではありません。現在のアメリカの政治状況が歴史的な流れとどう関わっているのかという視点から、アメリカの政治の基本となっている思想史を学びます。特に、どう政府があるべきかという建国以来の議論を講義の中心にして、議論を発展させます。具体的には「大きな政府」対「連邦主義」、「リベラリズム」対「保守主義」という対立軸から歴史を解き明かしていきます。具体的には建国の思想、ジェファーソン対ハミルトン、リンカーンの政治思想、進歩主義、セオドーア・ルーズベルトのフェア・ディールとフランクリン・ルーズベルトの「ニューディール」、戦後のニューディール・リベラリズム、保守主義の台頭、レーガン革命、クリントンのニュー・デモクラッツ、ブッシュ政権とネオコン、オバマ大統領の政治思想といったトピックスを取り上げます。また、エバンジェリカルというアメリカの宗教についても講義をします

到達目標

新聞やテレビで報道されるアメリカ政治の底流にある政治思想を理解することで、現代のアメリカ社会の問題の本質が何であるかを理解出来るようになることが目標です。アメリカの政治制度がどのような経過、議論を経て形成されたのかを理解することも大きな目的です

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	講義の初めは、学生がコメント用紙に書いた疑問に答えます。出来る限り、学生に質問に答えることで、理解を促します。また、必要に応じて資料を配付しますが、出来る限り、オリジナルな資料を渡して、学生が予習しやすいように配慮します。	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする。	基礎的な資料を原文で読むこと
第2回	なぜ日本人はアメリカを理解できないのか、具体的な例を示しながら説明し、アメリカを本当に理解する必要性を教えます	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする	基礎的な資料を原文で読むこと
第3回	アメリカ革命の背後にある政治思想：ジョン・ロックからトーマス・ペイン、トーマス・ジェファーソンに繋がる思想	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする	基礎的な資料を原文で読めるようになること

第4回	トーマス・ジェファーソンとアレキサンダー・ハミルトンの国家観を巡る戦い	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする	基礎的な資料を原文で読めるようになること
第5回	連合規約とアメリカ憲法：憲法の読み方を学びます	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする。新聞などを通して時事的問題への理解も深める	基礎的な資料を原文で読めるようになること
第6回	リンカーンと南北戦争の本当の意味：南北戦争は奴隷解放の戦争か？	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする。新聞などを通して時事的問題への理解も深める	基礎的な資料を原文で読めるようになること
第7回	産業革命と新しいアメリカ：階級の発生と進歩主義の登場	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする。新聞などを通して時事的問題への理解も深める	基礎的な資料を原文で読めるようになること
第8回	セオドーア・ルーズベルトと進歩主義	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする。新聞などを通して時事的問題への理解も深める	基礎的な資料を原文で読めるようになること
第9回	フランクリン・ルーズベルトとニューディール政策：新しいリベラリズムの登場	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする。新聞などを通して時事的問題への理解も深める	基礎的な歴史資料を英語で読めるようになること

第10回	共和党の衰退とニューディール連合	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする。新聞などを通して時事的問題への理解も深める	基礎的な歴史資料を英語で読めるようになること
第11回	戦後アメリカ社会を支えた理念	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする。新聞などを通して時事的問題への理解も深める	基礎的な歴史資料を英語で読めるようになること
第12回	保守主義の台頭：タフトからレーガンへ	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする。新聞などを通して時事的問題への理解も深める	基礎的な歴史資料を英語で読めるようになること
第13回	レーガン革命の政治的、経済的、社会的意味：ネオリベラリズムの登場	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする。新聞などを通して時事的問題への理解も深める	基礎的な歴史資料を英語で読めるようになること
第14回	保守主義の時代とクリントン政権：民主党の中道右派化	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする。新聞などを通して時事的問題への理解も深める	時事的な問題を歴史的な視点から理解できるようになること
第15回	オバマ大統領が果した役割	
	歴史的文献を配布する。可能な限り原典を読むようにする。新聞などを通して時事的問題への理解も深める	時事的な問題を歴史的な視点から理解できるようになること

授業の方法

一方的な授業ではなく、できるだけ質問に答える形で双方向の授業を行うつもりです。簡単な質問でも、その中に重要な問題が含まれているケースがたくさんあります。そうした内容を確実に理解するように講義を組立てます

成績評価の方法

授業への出席が最低条件で、コメント用紙の内容を重視します。この２つで４０％を評価します。期末試験で６０％を評価します。

成績評価の基準

上記での説明に準じて評価します。成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません

テキスト

"American History--A very short introduction" (Paul S. Boyer, Oxford University Press)

参考書

クラス内で必要に応じて指示します

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近現代アジア史Ａ ＜1＞		
教員名	久保田　善丈		
科目ナンバー	1101095101	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

近現代日本とアジアの関わり、相互の「まなざし」のあり方がテーマ。とくに19世紀後半以降、非西洋は西洋の植民地主義的まなざしにさらされることになるが、そこではイメージの捏造とステレオタイプ化が進められ、アジアは「野蛮」「後進」の文脈で表象されることで「そうではない西洋」というイメージを支えることになる。そして、一般に「オリエンタリズム」と呼ばれるこうした植民地主義的まなざしのあり方は超領域的に問題とされ、例えば近代日本のアジアに対する「オリエンタリズム」が検討されるのだ。この授業の目的にひとつは、以上のような議論を軸に事例演習を重ね、オリエンタリズム批判の基本的な方法を理解することにある。そのさい重視するのが、アジア(とくに中国)、日本、「西洋」の間の「まなざし」の応酬だ。「わたしたち」は、あるいは「彼ら」は、「わたしたち」を「彼ら」をどのように捉えてきたのか、なぜそのように捉えるのか、その「まなざし」には「わたしたち」や「彼ら」のいかなる欲望が作用しているのか。このことは、今も根強く残る19世紀的ヨーロッパ的価値観と向き合いながら自身と他者を見つめ直すことを意味する。また、以上のような問題を扱うに当たってはポストコロニアル理論、ジェンダー理論を参照していくことになるだろう。

到達目標

「わたしたち」は、あるいは「彼ら」は、「わたしたち」を「彼ら」をどのように捉えてきたのか、なぜそのように捉えるのか、その「まなざし」には「わたしたち」や「彼ら」のいかなる欲望が作用しているのか、という問題を植民地主義的なまなざし、ジェンダーイメージの共有という観点から構想できるようになることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	わたしたちのまなざしを規定するオリエンタリズムとは。 事例として、「わたしたち」のオリエンタリズム、近代日本のオリエンタリズムを確認する。	
	シラバスをよく読んでおく。	20分
第2回	アジアのステレオタイプを考えるために① 「わたしたち」と「彼ら」。他者、差異、他者化とは。 他者化の典型例としての植民地主義的言説。	
	前回の内容を配布したプリント等で確認しておく。	20分
第3回	アジアのステレオタイプを考えるために② 植民地主義的な他者化とジェンダーイメージの関係。男として想像される強国(植民地主義宗主国側)と非男性・女として想像される弱国(植民地側)。	
	イギリス、フランス、日本などの植民地主義的拡大についての基本的事実を確認しておく。	30分

第4回	アジアのステレオタイプを考えるために③ 近年の事例を分析してみる。北京オリンピックの見え方、見せ方。チベット問題の見え方。	
	北京オリンピック開会式の雰囲気が分かる映像を見ておくことが望ましい。	60分
第5回	中国を見るということ① 広大で、多様で、複雑な中国をどうして「中国」として「ひとまとまり」に想像できてしまうのか。	
	中国の基本情報を確認しておく。	20分
第6回	中国を見るということ② 中国の見え方と「わたしたち」の「見たい中国」、「都合のいい他者としての中国」の登場。西洋中心主義と中国イメージの逆転。	
	自分の「見たい中国」を整理してみる。イギリスと中国の基本的な関係史を確認する。	30分
第7回	中国を見るということ③ 19世紀後半 - 20世紀にかけてのイギリスの中国イメージを図像で分析する。オリエンタリズム、植民地主義のイメージに見る「都合にいい他者」。	
	前回配布のプリントなどを確認しておく。	20分
第8回	植民地化されるということ。植民地宗主国による他者化と植民地ネイティブの自己イメージ。美しくも無垢でもない植民地化されたネイティブ。	
	フランツ・ファンノンについて少しでも調べておく。	60分
第9回	植民地主義的分類法(人種主義、オリエンタリズム)の拡散と浸透。植民地主義的イベントとしての万国博覧会。 「展示されるアジア人」。	
	万国博覧会の基本情報を確認しておく。	30分

第10回	「展示されるアジア人」とまなざしの応酬。見られる - 見る - 見せるアジア人。アメリカ、セントルイス万博の事例分析。	
	前回配布のプリントなどを確認しておく。	20分
第11回	展示される日本、展示する日本。パリ万博と内国勧業博覧会。植民地主義的まなざしの連鎖、その方法の連鎖。	
	前回配布のプリントなどを確認しておく。	20分
第12回	中国人の見え方。中国人脅威論の歴史。黄禍論の歴史。	
	前回配布のプリントなどを確認しておく。	20分
第13回	見られる - 見る - 見せる中国① 中国をめぐる植民地主義的イメージとジェンダーイメージ。女性化される中国、まなざし返す中国。	
	前回配布のプリントなどを確認しておく。	20分
第14回	見られる - 見る - 見せる中国②	
	前回配布のプリントなどを確認しておく。	20分
第15回	アジアのステレオタイプと植民地主義的まなざし、ジェンダーイメージの関係を整理。「バタフライ伝説ステレオタイプ」「新しい女ステレオタイプ」など。	
	前回配布のプリントなどを確認しておく。	20分

授業の方法

講義中心だが、授業で与えられた発想に基づいてレポートを作成することを目的とする。授業毎の「事例演習プリント」を通じて、講義のポイントを自分のものにしていくような形をとる。

成績評価の方法

「事例演習プリント」(出欠確認を兼ねる)、学期末のレポートを総合して評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

19世紀後半以降の世界史についておおまかな流れを理解していれば授業に入りやすい。

テキスト

随時提示

参考書

随時提示

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近現代アジア史Ａ ＜2＞		
教員名	佐々木　紳		
科目ナンバー	1101095101	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

20世紀初頭に終焉を迎えるまでのおよそ600年にわたり、中東・北アフリカ・バルカン半島の主要部分を勢力下におさめたオスマン帝国は、世界史のさまざまな局面において、あるときは「主役」として、またあるときは「脇役」として、独特の存在感を示してきた。この授業では、とくに「歴史的出来事の連関」に留意して、同時代の世界史の動向と密接に連動しながら展開していくオスマン帝国の歴史を学ぶ。扱う時代としては、16世紀から20世紀初頭にかけての「近世」「近代」に重きを置くことにする。

到達目標

①オスマン帝国史の通時的な見取り図を描けるようになる。
②オスマン帝国史を、同時代の世界史の動向のなかに位置づけながら説明できるようになる。
③オスマン帝国史を事例として、世界史を連関の視座から把握できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習･復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	授業の紹介と導入	
	【予習】シラバスを読む。高校世界史の教科書やインターネットなどを通してオスマン帝国史を思い出しておく。	60
第2回	世界史のなかのアナトリア	
	【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第3回	オスマン帝国の成立	
	【予習】中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60

第4回	オスマン帝国の拡大	
	【予習】中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第5回	近世Ⅰ：政治システムの構造と動態	
	【予習】中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第6回	近世Ⅱ：社会と文化の変容	
	【予習】中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第7回	近世から近代へⅠ：セリム三世とその時代 ※中間レポートを提出する（予定）。	
	【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第8回	近世から近代へⅡ：マフムト二世とその時代	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第9回	近代Ⅰ：タンズィマートとクリミア戦争	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60

第10回	近代Ⅱ：新オスマン人運動と第一憲政の成立	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第11回	近代Ⅲ：アブデュルハミト二世とその時代	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第12回	近代Ⅳ：青年トルコ革命と第二憲政	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第13回	近代Ⅴ：第一次世界大戦から独立戦争へ	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第14回	ポスト・オスマン期の構造と展開	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。到達度確認テストに向けて、これまでの授業内容を整理・点検する。	120
第15回	授業の総括と到達度の確認 ※到達度確認テストを実施する。	
	【復習】授業を通して得たものの見方や考え方のなかで、今後の各自の学習や研究に有用なものを見きわめ、さらなる発展学習につなげる。	60

授業の方法

・講義形式で進める。特定のテキストは用いず、レジュメ等を授業内で適宜配付する。
・書評形式の中間レポートを通して、オスマン帝国の通史についての理解を深めてもらう。
・到達度確認テストでは、授業内容をふまえたうえで、世界史を連関の視座から把握できるようになっているかどうかを問う。

成績評価の方法

・授業への取り組み（20%）、中間レポート（30%）、到達度確認テストの結果（50%）。
・授業に関する質問や意見を記入する用紙を毎回提出してもらい、授業への取り組みの度合いを判定する材料とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・オスマン帝国についての情報だけでなく、各自の興味・関心に応じて、オスマン帝国以外の地域や出来事に関する情報も積極的に収集すること。
・授業では、日本史を含むさまざまな歴史的出来事に言及することになるので、高校の世界史や日本史の教科書・資料集を活用して基本的な情報を確認するとよい。

テキスト

とくに設けない。

参考書

関連文献は、日本語・ヨーロッパ諸語のものを中心に授業内で紹介する。通史の理解を助ける参考書として、下記の二点をすすめる。
・林佳世子『オスマン帝国500年の平和』講談社、2008年。
・新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	近現代アジア史Ｂ ＜1＞		
教員名	久保田　善丈		
科目ナンバー	1101095102	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

近現代日本とアジアの関わり、相互の「まなざし」の応酬、ジェンダーイメージの作用のあり方がテーマ。とくに19世紀後半以降、非西洋は西洋のオリエンタリズムにさらされるが、そこではイメージの捏造とステレオタイプ化が進められ、アジアは「野蛮」「後進」の文脈で表象されることになるのだが、この授業では、それが、日本とアジアの関係に連鎖することを重視する。こういった観点をベースとした事例演習を重ねることで、「アジア主義的な問題」、「ポストコロニアルな問題」の見つけ方」を身につけることになるだろう。より具体的には、「オリエンタリズム」をベースとする、近現代日本の「アジア主義的感性」や都合のいい「ノスタルジア」をアジアに求めるような感性、身の回りを埋め尽くしているジェンダーイメージの日本 - アジア関係への転用といった問題を扱っていく。そのための事例を近現代日本・台湾・中国に見出して検証することがこの授業のもう一つの目的ということになる。また、以上のような問題を扱うに当たって随時ポストコロニアル理論を参照していくし、植民地を女性に、宗主国を男性に見立てるような議論に対してはジェンダー理論を参照していくことになるだろう。近現代アジアの歴史をジェンダー理論、とくに近年盛んになりつつある「男性性」研究の成果によって読み替えてみるという作業もこの授業の重要な観点のひとつだからだ。

到達目標

「わたしのアジアイメージ」が意識すると否とにかかわらず植民地主義的やジェンダーにかかわるイデオロギーによって社会的に構成されるという発想を理解する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	「わたしたち」にとってのアジアを考えるために、この授業で用いるいくつかの考え方、概念を事例で確認。ポストコロニアル、構成主義、植民地主義的なファンタジー、まなざしの応酬。	
	シラバスをよく読んでおく。	20分
第2回	まなざしの応酬を通じて構成主義的に自他イメージが出来上がっていくということの確認。アジアイメージも、ジェンダーイメージも。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	20分
第3回	「西洋 - 日本 - 日本以外のアジア」という枠組。そこでの自他イメージの構成。例えば漱石のロンドンと大連。白人に出くわしてハッとする三四郎。	
	ロンドンでたたずむ自分、大連でたたずむ自分を想像してみよう。同じでありうるだろうか。	20分

第4回	「心地よいアジア」とは① 「わたしたち」にとってアジアは決して「簡単」ではないはずなのに、アジアを享受できているとい現状の確認。	
	自分とアジアの直接・間接の関係を思い起こしてみる。	20分
第5回	「心地よいアジア」とは② アジア嫌いでも実は「心地よいアジア」という可能性。嫌韓嫌中の「心地よいアジア」。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	20分
第6回	ポストコロニアルな感性とアジアイメージ① 現代日本のポストコロニアルな感性の事例確認。「素敵なコロニアルスタイル」。植民地主義の連鎖、審美眼の連鎖。	
	「素敵なコロニアルスタイル」とはどんなスタイルか、チェックしてみる。	30分
第7回	植民地主義の連鎖、審美眼の連鎖事例確認(台湾大学の建築様式、「西洋」 - 日本 - 台湾)。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	20分
第8回	台湾のポストコロニアル。映画「多桑」の事例分析。台北の景観、植民地ネイティブのたたずまい(新たな支配者を受け入れるということ)。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	20分
第9回	90 - 00年代メディアの「心地よいアジア」とオリエンタリズム、アジア主義。女性雑誌、TV旅行番組の事例分析。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	20分

第10回	近代アジア主義の「心地よいアジア」とオリエンタリズムとホモソーシャル。ホモソーシャルとは。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	20分
第11回	アジア主義のオリエンタリズム、西洋中心主義を事例確認する。岡倉天心の「美術館」論。	
	岡倉天心の基本情報をチェックしておく。	30分
第12回	アジア主義的男らしさ① ホモソーシャル理論を理解して、アジア主義的な男らしさの世界を分析する。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	20分
第13回	近代日本における中国、朝鮮のイメージと「男らしさ」。 アジアの非男性化と日本の盟主性。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	20分
第14回	アジア主義者、国家主義者のたたずまいと自他イメージ。頭山満、ヒトラー、ムッソリーニ、三島由紀夫、プーチン…。	
	前回配布したプリント等の内容確認をしておく。	20分
第15回	これまでの内容をふまえて「心地よいアジアの成り立ち」をまとめる。	
	これまでのプリントをチェックする。	60分

授業の方法

講義中心だが、授業で与えられた発想に基づいてレポートを作成することを目的とする。授業毎の「事例演習プリント」を通じて、講義のポイントを自分のものにしていくような形をとる。

成績評価の方法

「事例演習プリント」(出欠確認を兼ねる)、学期末のレポートを総合して評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

19世紀後半以降の世界史についておおまかな流れを理解していれば授業に入りやすい。

テキスト

随時提示

参考書

随時提示

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近現代アジア史Ｂ ＜2＞		
教員名	佐々木　紳		
科目ナンバー	1101095102	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

第一次世界大戦後の1923年に、オスマン帝国の後継国家の一つとして成立したトルコ共和国は、人口の9割以上がイスラーム教徒であるにもかかわらず、トルコ語で「ラーイクリキ」と呼ばれる政教分離・世俗主義の考え方が定着した現代国家として知られている。ところが現在、そのトルコでは、イスラーム主義政党が10年以上も政権与党の座を維持するという「未曽有」の事態が生じている。この10年はまた、グローバル化が進展する現代世界のなかで、トルコが政治的・経済的に存在感を高めていく時期でもあった。この授業では、一方では現代世界の動向と密接に連動し、他方では政治と宗教との緊張関係をはらみながら展開してきたトルコ共和国の歴史を学びながら、この「10年」の意味を考える。

到達目標

①トルコ共和国史の通時的な見取り図が描けるようになる。
②トルコ共和国の歴史を、現代世界の動向のなかに位置づけながら説明できるようになる。
③現代トルコにおける政治と宗教のあり方を、歴史的な視点から理解し、解説できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の紹介と導入	
	【予習】シラバスを読む。高校世界史のなかでトルコ共和国に関する記述がどれだけあるかチェックしておく。	60
第2回	独立戦争とムスタファ・ケマル	
	【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第3回	トルコ共和国の成立	
	【予習】中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60

第4回	戦間期の世界とトルコ	
	【予習】中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第5回	ラーイクリキの形成	
	【予習】中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第6回	トルコの第二次世界大戦	
	【予習】中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第7回	一党独裁制から複数政党制へ ※中間レポートを提出する（予定）。	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第8回	冷戦とトルコ	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第9回	政軍関係と1960年クーデタ	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60

第10回	錯綜する民族・宗教・イデオロギー	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第11回	イスラームとトルコの統合	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第12回	政治化するイスラーム	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第13回	21世紀のトルコⅠ：公正と発展	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第14回	21世紀のトルコⅡ：ラーイクリキのゆくえ	
	【予習】到達度確認テストに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】参考文献や歴史事典を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。到達度確認テストに向けて、これまでの授業内容を整理・点検する。	120
第15回	授業の総括と到達度の確認	
	【復習】授業を通して得たものの見方や考え方のなかで、今後の各自の学習や研究に有用なものを見きわめ、さらなる発展学習につなげる。	60

授業の方法

・講義形式で進める。特定のテキストは用いず、レジュメ等を授業内で適宜配付する。
・書評形式の中間レポートを通して、トルコ共和国の通史についての理解を深めてもらう。
・到達度確認テストでは、授業内容をふまえたうえで、現代世界の動向を連関の視座から把握できるようになっているかどうかを問う。

成績評価の方法

・授業への取り組み（20%）、中間レポート（30%）、到達度確認テストの結果（50%）。
・授業に関する質問や意見を記入する用紙を毎回提出してもらい、授業への取り組みの度合いを判定する材料とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

・トルコ共和国についての情報だけでなく、各自の興味・関心に応じて、トルコ以外の地域や出来事に関する情報も積極的に収集すること。
・ウェブ上で公開されている、トルコの新聞の日本語版をチェックすることで、現代トルコについての具体的なイメージを育むとともに、出来事の歴史的背景への関心を養ってもらいたい。

テキスト

とくに設けない。

参考書

関連文献は、日本語・ヨーロッパ諸語のものを中心に授業内で紹介する。授業の理解を助ける参考書として、以下の二点をすすめる。
・新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001年。
・新井政美編『イスラムと近代化』講談社、2013年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	近現代欧米史Ａ ＜1＞		
教員名	佐伯　哲朗		
科目ナンバー	1101095103	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。前期の授業では、18世紀末のアメリカとフランスの革命から19世紀後半の帝国主義時代までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどる。このなかで、現代世界の諸問題について歴史的背景を含めて理解することを目指す。

到達目標

欧米近代史についての基礎的な知識を習得する。ある出来事について、歴史的な展開と世界史的な関連の両面を知ることによって、歴史的なものの見方を養う。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の概要、近代世界システムと砂糖	
	川北稔『砂糖の世界史』（岩波ジュニア新書）を熟読する。配布プリントを読む。	120
第2回	イギリス領北米１３植民地	
	野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、3-34頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第3回	アメリカ合衆国の独立	
	野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）35－45頁を熟読する。配布プリントを読む。	60

第4回	フランス史の基礎知識、１７８９年の革命	
	遅塚忠躬『フランス革命』（岩波ジュニア新書）40－86頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第5回	フランス革命の歴史過程、山岳派の台頭と没落	
	遅塚忠躬『フランス革命』（岩波ジュニア新書）、87－128頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第6回	フランス革命の意義	
	遅塚忠躬『フランス革命』（岩波ジュニア新書）、128－190頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第7回	イギリスの産業革命	
	小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦『大学で学ぶ西洋史［近現代］』（ミネルヴァ書房）、121－126頁、谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史　22巻　近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、341－383頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第8回	ジェントルマンの支配体制	
	谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史　22巻　近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、368－377頁、384－390頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第9回	イギリス議会政治体制の発展	
	谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史　22巻　近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、428－459頁、川北稔編『イギリス史』（山川出版社）、322－334頁を熟読する。配布プリントを読む。	60

第10回	ドイツ第二帝政の政治支配	
	大内宏一『ビスマルク』（山川出版社）、1－58頁、木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、204－232頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第11回	ビスマルクの国内政策	
	大内宏一『ビスマルク』（山川出版社）、58－87頁、木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、232－242頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第12回	ヴィルヘルム時代の政策と軍国主義	
	木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、243－278頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第13回	フランス第三共和制の危機	
	谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史』（ミネルヴァ書房）、153－163頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第14回	ヨーロッパ諸国の植民地支配	
	小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編『大学で学ぶ西洋史［近現代］』（ミネルヴァ書房）191－199頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第15回	革命前夜のロシア	
	小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦『大学で学ぶ西洋史［近現代］』（ミネルヴァ書房）169－175頁、274－275頁、和田春樹編『ロシア史』（山川出版社）、253－277頁を熟読する。配布プリントを読む。	120

授業の方法

私の方で項目ごとに時代背景や基礎知識について説明する。可能な範囲で地図などの資料を利用して、過去の歴史についてのイメージをもってもらえるようにする。
第２回以降の授業では、若干の時間を使って前回の授業で提出された質問に回答する。

成績評価の方法

学期末に論述形式の試験をする。また、各回の授業終了時に簡単なリアクション・ペーパーの提出を求める。評価の割合については、試験が80点、リアクション・ペーパーが20点を予定している。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点を踏まえて評価する。この授業で得た情報を用いて、例えば、フランス革命、産業革命、ドイツ統一などの重要な事柄の概略や意味を、この授業の受講者でない他の人（例えば友人や家族）に説明して理解してもらえるかどうか。試験答案の記述内容が高校世界史教科書に書かれているレベルにとどまる場合には、合格点は与えられない。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

大航海時代以降の欧米の歴史について、高校世界史程度の基礎知識を備えていることを前提としている。

テキスト

使用しない。

参考書

有賀貞・大下尚一・志邨晃佑・平野孝編『アメリカ史』（１、２巻）山川出版社、１９９３～９４年。村岡健次・木畑洋一編『イギリス史』（３巻）山川出版社、１９９１年。柴田三千雄・樺山紘一・福井憲彦編『フランス史』（２、３巻）山川出版社、１９９５～９６年。成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『ドイツ史』（２、３巻）山川出版社、１９９６～９７年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近現代欧米史Ａ ＜2＞		
教員名	中島　幹人		
科目ナンバー	1101095103	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらうことをめざす。本講義ではとくに、18世紀末のアメリカとフランスの革命から19世紀前半のウィーン体制の崩壊までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。

到達目標

本講義では、現代市民社会を生み出した歴史的事件の推移の基本的な知識を獲得し、その知識を元に自ら現代社会に問いかける姿勢を身につけることを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方・評価方法についての説明、および導入	
	あらかじめ、シラバスの内容を確認しておくこと	10分
第2回	近世ヨーロッパの成立(1)：諸国家間体系の成立	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第3回	近世ヨーロッパの成立(2)：「絶対主義」国家の内実	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分

第4回	アメリカの独立革命(1)：「新大陸」への入植	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第5回	アメリカの独立革命(2)：イギリス北米植民地の形成と発展	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第6回	アメリカの独立革命(3)：独立運動の展開①（イギリス第一帝国の再編と反対運動）	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第7回	アメリカの独立革命(4)：独立革命の展開②（共和国の樹立に向けて）	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第8回	フランス革命(1)：18世紀における旧体制の変質（経済的発展とブルジョワジーの伸展）	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第9回	フランス革命(2)：革命的状況の醸成（「世論」の興隆）	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分

第10回	フランス革命(3)：革命の展開①（名士会から1789年まで）	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第11回	フランス革命(4)：革命の展開②（1791年憲法体制から統領政府まで）	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第12回	フランス革命(5)：「文化革命」としてのフランス革命	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第13回	産業資本主義の発展(1)：イギリスにおける産業革命の基礎	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第14回	産業資本主義の発展(2)：イギリスにおける産業革命の開始	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第15回	産業資本主義の発展(3)：産業革命による社会の変化	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分

授業の方法

「授業の計画」において揚げた各テーマごとにレジュメを配布・参照して講義を進める。また、授業の最後に関連する画像（絵画・写真）・データ（グラフ・表）などを提示しながら、授業のまとめを行い、理解の深化をはかる。

成績評価の方法

成績評価については期末試験（論述形式）を90%、学習態度（出席2/3以上）を10%とする。
試験・学習態度の評価基準に関する詳細はガイダンス時に提示する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

テキスト

特定のテキストは使用しない。授業時にテーマに即したレジュメを配布する。

参考書

大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史　近現代編（増補版）』ミネルヴァ書房、1998年
小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』ミネルヴァ書房、2011年
村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史-宗教改革から現代まで-（改訂版）』ミネルヴァ書房、2003年
谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に-』ミネルヴァ書房、2006年
若尾祐司・井上茂子編著『近代ドイツの歴史-18世紀から現代まで-』ミネルヴァ書房、2005年
野村達朗編著『アメリカ合衆国の歴史』ミネルヴァ書房、1998年
そのほか、山川出版社の「各国史」シリーズや岩波書店の「講座世界史」など。
また、授業にて配布するレジュメにおいても参考文献一覧を提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近現代欧米史Ｂ ＜1＞		
教員名	佐伯　哲朗		
科目ナンバー	1101095104	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。後期の授業では、20世紀初頭の時期から20世紀中葉の第２次世界大戦の時代までの国際関係、ドイツを中心にして欧州諸国の歴史をたどる。この中で、現代世界の諸問題を歴史的背景を含めて理解できるようにする。

到達目標

欧米の近現代史についての基礎的な知識を習得する。
ある出来事について歴史的な展開と世界史的な関連の両面について知ることによって、歴史的なものの見方を養う。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第１次大戦の原因とバルカン問題	
	柴宜弘編『バルカン史』（山川出版社）、196ー217頁、225－241を熟読する。配布プリントを読む。	90
第2回	世界戦争への道、ドイツの国内事情	
	木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史　26巻　世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論社）、30－39頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第3回	開戦時の国内体制	
	若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、167－169頁を熟読する。配布プリントを読む。	60

第4回	戦争への動員	
	若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、170－175頁、および配布プリントを熟読する。	90
第5回	大戦期ドイツの日常生活	
	若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、175－177頁、藤原辰史『カブラの冬』（人文書院）を熟読する。	90
第6回	戦争の終結	
	若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、177－187、193－195頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第7回	戦争の帰結	
	木村靖二『二つの世界大戦』（山川出版社）、28－41頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第8回	ロシア革命	
	和田春樹編『ロシア史』（山川出版社）、278－310頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第9回	ヴェルサイユ体制	
	山口定『現代ヨーロッパ政治史（下）』（福村出版）、330－337頁を熟読する。配布プリントを読む。	60

第10回	1920年代アメリカの明暗、世界恐慌	
	野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、171－193頁、木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史　26巻　世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論社）189－211、289－308頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第11回	ナチズムの思想と運動	
	若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、196－197、209－215頁,、山本秀行『ナチズムの時代』（山川出版社）1－22頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第12回	ナチズム、一党独裁体制の成立	
	木村靖二編『ドイツの歴史』（山川出版社）、310－318頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第13回	「民族共同体」の建設	
	山本秀行『ナチズムの時代』（山川出版社）、36－42頁、木村靖二編『ドイツの歴史』（山川出版社）、318－320頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第14回	「第三帝国」の政治支配	
	若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、237－239頁、木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史　26巻　世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論社）332－334頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第15回	第２次大戦前夜の国際関係	
	木畑洋一・秋田茂編『近代イギリスの歴史』（ミネルヴァ書房）149－152頁を熟読する。配布プリントを読む。	60

授業の方法

プリントを配布して、項目ごとに時代背景や基礎知識について説明する。なお、可能な範囲で質問に答えるようにしたい。

成績評価の方法

学期末には、講義内容についての論述試験を行う。他に授業終了時に簡単なリアクション・ペーパーの提出を求める。評価の割合については、試験が80点、リアクション・ペーパーが20点を予定している。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

次の点を踏まえて評価する。この授業で得た情報を用いて第１次大戦、ナチズムなどの重要な事柄の概略や意味を、この授業の受講者でない他の人（例えば友人ｊや家族）に説明して理解してもらえるかどうか。

試験答案の記述内容が高校世界史教科書に書かれているレベルにとどまる場合には、合格点は与えられない。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

前期に近現代欧米史Ａを履修していることが望ましい。

テキスト

使用しない。

参考書

近現代欧米史Ａ（前期の授業）の参考書の項目を参照のこと。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近現代欧米史Ｂ ＜2＞		
教員名	中島　幹人		
科目ナンバー	1101095104	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史にかんする基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらうことをめざす。本講義ではとくに、19世紀後半における国民国家の形成や19世紀末の帝国主義時代から20世紀後半の第二次世界大戦後の時代までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。

到達目標

現代に直接連なる19世紀後半から20世紀の歴史を確認することで、現代社会における諸問題を考察するための知識を獲得し、その知識から自ら現代社会を相対化しうる視点を身につけることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方、および成績評価についての説明	
	あらかじめ、シラバスで確認しておくこと	10分
第2回	19世紀前半のヨーロッパ社会(1)：ウィーン体制の成立	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第3回	19世紀前半のヨーロッパ社会(2)：ウィーン体制の動揺	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60分

第4回	19世紀前半のヨーロッパ社会(3)：ウィーン体制の崩壊	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第5回	19世紀前半のアメリカ社会(1)：「市場革命」の時代	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第6回	19世紀前半のアメリカ社会(2)：南部奴隷制度と南北戦争	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第7回	19世紀後半のヨーロッパ社会(1)：国民国家の建設（①イタリア）	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第8回	19世紀後半のヨーロッパ社会(2)：国民国家の建設（②ドイツ）	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第9回	19世紀後半のヨーロッパ社会(3)：「国民」創造の努力	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60分

第10回	19世紀後半のアメリカ社会(1)：北部工業社会の進展と南部再建・西部開拓	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第11回	19世紀後半のアメリカ社会(2)：「金ぴか時代」	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第12回	帝国主義と第一次世界大戦(1)：帝国主義（ヨーロッパの拡大と「他者」への視線）	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第13回	帝国主義と第一次世界大戦(2)：大戦の経過とその帰結	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第14回	ヴェルサイユ体制：ヴェルサイユ体制下の各国の状況	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第15回	第二次世界大戦：世界恐慌とファシズム	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60分

授業の方法

配布資料（レジュメ）を参照しながら講義を進める。また、授業の最後にまとめとしてプロジェクターを用いた画像資料の提示をできるだけ行いたい

成績評価の方法

成績評価については、期末試験（論述形式）を90%、学習態度（出席2/3以上）を10%とする。
期末試験・学習態度の評価基準の詳細についてはガイダンス時に提示する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

テキスト

特定のテキストは使用しない。授業においてテーマに沿ったレジュメを配布する。

参考書

大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史　近現代編（増補版）』ミネルヴァ書房、1998年
小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』ミネルヴァ書房、2011年
村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史-宗教改革から現代まで-（改訂版）』ミネルヴァ書房、2003年
谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に-』ミネルヴァ書房、2006年
若尾祐司・井上茂子編著『近代ドイツの歴史-18世紀から現代まで-』ミネルヴァ書房、2005年
野村達朗編著『アメリカ合衆国の歴史』ミネルヴァ書房、1998年
そのほか、山川出版社の「各国史」シリーズや岩波書店の「講座世界史」など。
また、授業にて配布するレジュメにおいても参考文献一覧を提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	歴史トピックス　（武士の仕事と生活）		
教員名	高橋　一樹		
科目ナンバー	1001095111	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

日本列島の歩んだ歴史を特色づける現象のひとつに、９世紀以上にわたる武士とその政権(いわゆる幕府)の存在がある。
東アジア史の観点からすると、日本列島には古代から文人貴族を中心とする政府組織(朝廷)をもちながら、ほんらい戦士である武士が12世紀末に政権を樹立し、国家権力の中枢を掌握しつづける、という歴史はきわめて特異なものである。本講義はこのように武士とその政権を当然視することなく、武士と武家が中世から近世にかけて、どのような社会的な機能(仕事)をはたしていたのか、その変化のありようを生活史の視点から論じることにしたい。
なお、現代に生きる私たちは、武士あるいは侍について、一定のイメージをもっている。最近では、このイメージを日本の「伝統」と結びつけ、外国に対して日本を表象する際に「サムライ」が多用されている。しかし、現代にいたる武士・侍のイメージそれ自体が、歴史的に作り上げられてきたことに留意が必要である。本講義では、おもに江戸時代以降にさまざまなメディアを通して社会に広がっていく、創られた武士・サムライのイメージについても具体的な資料にもとづいて検証し、現代における歴史認識の淵源の一端についても考えていく。

到達目標

本講義では、武士と武士を生み出す家(武家)、さらにそれらを基盤とする三つの幕府(鎌倉・室町・江戸)の存続を切り口に、日本列島の前近代史を通史的かつ史資料を通して具体的に理解する視角と方法の獲得をめざす。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	はじめに:現代社会における武士・サムライのイメージ	
	テキスト欄に例示したような書籍のなかから、講義の進み方を意識して関連する部分を読んでおく。	80
第2回	戦士としての武士の発生	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第3回	武士の戦闘形態とその変容①	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90

第4回	武士の戦闘形態とその変容②	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第5回	武士の文書行政①	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第6回	武士の文書行政②	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第7回	衣食住にみる武家の個性化①	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第8回	衣食住にみる武家の個性化②	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第9回	武士イメージの創出とその社会的背景①	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90

第10回	武士イメージの創出とその社会的背景②	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第11回	武士の官僚化とその再生産システム①	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第12回	武士の官僚化とその再生産システム②	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第13回	武士の再軍備①	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第14回	武士の再軍備②	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第15回	全体のまとめ	
	前期の講義内容を各自のノートで整理・確認し、全体を通じての質問点などをまとめる。	100

授業の方法

文献史料・考古資料・絵画資料等の画像を盛り込んだパワーポイントとプリントを使用した講義形式で進める。随時小レポートを課す中で受講者からの質問にも対応する。

成績評価の方法

随時小レポートを課す（４０%）とともに、学期末試験（６０%）を行い、出席状況を勘案して総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

とくにテキストは指定しないが、近年の武士論に大きな影響を与えている高橋昌明『武士の成立　武士像の創出』（東京大学出版会）、佐伯真一『戦場の精神史』（日本放送出版協会）などを参照して、最近の研究動向に関心をもってほしい。

参考書

講義の進捗にあわせて、その都度紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	歴史トピックス　（武士と貴族・百姓）		
教員名	高橋　一樹		
科目ナンバー	1001095112	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

日本列島の歩んだ歴史を特色づける現象のひとつに、９世紀以上にわたる武士とその政権(いわゆる幕府)の存在がある。
東アジア史の観点からすると、日本列島には古代から文人貴族を中心とする政府組織(朝廷)をもちながら、ほんらい戦士である武士が12世紀末に政権を樹立し、国家権力の中枢を掌握しつづける、という歴史はきわめて特異なものである。にもかかわらず、現代社会における武士やサムライのイメージを捨象して、多様な歴史資料に即して冷静に検証すると、武士を公家や百姓と明確に区別するメルクマールは意外にも明確ではない。
本講義では、武士と武家の通史的把握を試みる前期の講義をふまえて、武士と武家の歴史的特質を貴族（公家）や百姓との関係から相対的に掘り起こし、それらが中世・近世の社会に与えた影響とその変化について論じる。

到達目標

本講義では、武士と武士を生み出す家(武家)、さらにそれらを基盤とする三つの幕府(鎌倉・室町・江戸)の存続を切り口に、日本列島の前近代史における国家と社会の関係を考えるための基礎的な知識と方法の獲得を目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	はじめに:武士はどのように描かれるか	
	テキスト欄で例示したような書籍のなかから、講義の進み方を見据えて関連する部分を読んでおく。	80
第2回	武士の発生と職能	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第3回	武士の変質と職能①	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90

第4回	武士の変質と職能②	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第5回	武士の移動①	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第6回	武士の移動②	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第7回	ジェンダーの視点からみた武士と武家①	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第8回	ジェンダーの視点からみた武士と武家②	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第9回	武士を中心とした近世の身分制	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90

第10回	武士身分とその担い手①	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第11回	武士身分とその担い手②	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第12回	武力の社会的拡散と農兵①	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第13回	武力の社会的拡散と農兵②	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第14回	武士身分の消滅と新たな「武士道」の登場	
	講義中に提示した参考文献において関連する章節を読了する。	90
第15回	全体のまとめ	
	後期の講義についてノートなどから内容を整理・確認し、全体を通じて質問点などを抽出する。	100

授業の方法

文献史料・考古資料・絵画資料等の画像を盛り込んだパワーポイントと適宜配布するプリントを使用した講義形式で進める。随時課す小レポートのなかで受講者の質問にも対応する。

成績評価の方法

随時小レポートを課す（４０%）とともに、学期末試験を実施し（６０%）、出席状況わも勘案して総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

特定のテキストは指定しないが、文献史学の立場から戦国時代の武家に関係する絵画資料の独自な解析を試みた小島道裕『描かれた戦国の京都』（吉川弘文館）、着衣の視点から公家と武家の異同を論じる近藤好和『装束の日本史』（平凡社新書）、新選組の実証的研究である宮地正人『歴史のなかの新選組』（岩波書店）などから最近の研究動向を参照してほしい。

参考書

講義の進捗にあわせて随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	アジア地域理解		
教員名	小田　宏信		
科目ナンバー	1101095106	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

発展のめざましいアジア諸国の地理的な諸問題について考えます。概説の後，ASEANの事例としてフィリピン共和国を，アジアNIEsの事例として大韓民国を主に取り上げます。また，これらを通じて，日本と近隣諸国の関わり方についても考えていきます。

到達目標

東・東南アジアに対する地理的認識を深めるとともに，地域経済発展のメカニズムとそれに伴う国土利用の変貌と諸問題について，地理学および広く社会科学の視点から理解することを，本講義の主たる目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	変貌するアジア	
	地図帳等をながめて，アジアの空間的イメージを頭の中にいれる。国名や主要大都市名も確認したい。	60
第2回	アジアの国家群	
	前回の復習	60
第3回	アジアの自然環境	
	前回の復習	60

第4回	民族多様性の中の国民国家形成：東南アジアを中心に	
	前回の復習	60
第5回	植民都市の諸相：ヨーロッパ人による統治、日本人による統治	
	前回の復習	60
第6回	アジア経済発展の論理と軌跡	
	前回の復習	60
第7回	東南アジアの人口の大都市集中と貧困	
	前回の復習	60
第8回	地域格差の形成と開発の空間戦略	
	前回の復習	60
第9回	フィリピン工業化と地域開発の歩み	
	前回の復習	60

第10回	外資輸出指向工業化の下でのフィリピンの諸地域	
	前回の復習	60
第11回	日系製造業の空間的集積	
	前回の復習	60
第12回	周辺部ASEANにおける地域開発戦略：ミンダナオ島の事例から	
	前回の復習	60
第13回	韓国工業化と地域開発の歩み	
	前回の復習	60
第14回	IMF危機以降の韓国経済と地域産業政策	
	前回の復習	60
第15回	まとめ	
	全体を通じての復習	120

授業の方法

配布資料を適宜参照しながら，講義形式で進めます．ビデオ教材，写真教材も用います．
配布資料は取り置きしませんので，欠席した場合はポータルサイトよりダウンロードして下さい．

成績評価の方法

平常点（リアクションペーパー等）20%，定期試験80%。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
(1)低開発国の経済発展のプロセスについて基本的な理解ができているか。
(2)経済開発の空間的枠組みを理解できているか。
(3)東南アジア・東アジア地域の歴史と社会，地域問題について政治経済地理学的な理解ができているか。
(4)アジアと日本の関係性について理解するための知識を身につけたか。
(5)東南アジア・東アジア地域の地誌的知識の基礎を身につけたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

本科目は発展科目であるため、国際教養科目コア科目（「近現代日本史」「現代日本の地理」「現代世界の地理」「戦後日本と世界」）のいずれかを履修済みであることが望ましい。その他の関連科目として，「経済地理」（経済学部），「経済発展」（法学部）など。

テキスト

本年度は使用しません。

参考書

『世界地誌シリーズ　東南アジア・オセアニア』菊地俊夫・小田宏信編，朝倉書店（2014年刊行予定）
『変動するフィリピン』貝沼恵美・小田宏信・森島済，二宮書店，2800円，ISBN: 978-4-8176-0331-9
『東南アジアの大都市圏-拡大する地域統合-』生田真人，古今書院、2800円，ISBN: 978-4-7722-5256-0
『現代東南アジア入門』，藤巻正己・瀬川真平編，古今書院，2600円，ISBN: 978-4-7722-3123-7
『スラムの経済学』中西　徹，東京大学出版会，5250円，ISBN: 978-4-1304-6042-2
『アジアの政治経済・入門 新版』片山裕・大西裕編集，有斐閣，2625円，ISBN:　978-4-6411-8386-5
『現代アジア政治経済学入門』岩崎育夫，東洋経済新報社，3675円，ISBN:　978-4-4924-4250-0

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	ヨーロッパ地域理解		
教員名	太西　雅一郎		
科目ナンバー	1101095107	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

この講義では、映像資料を利用しながら、ヨーロッパのさまざまな地域の主要な文化的特徴について、その成り立ちの過程やそこに含まれる問題について考えます。各地域の文化・芸術・宗教的な多様性を歴史的な出来事とあわせて見ていくことで、特に統合化と開放という二つの運動の相互関係を明らかにしていきます。

到達目標

地域や国家の表面的な統一性の背後に潜む複雑な状況を把握する力を涵養する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ウィーン、多民族からなる帝国の首都	
	取り扱うテーマについて基本的な知識を調べておくこと	90分
第2回	フランス流バカンスの過ごし方	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第3回	ヨーロッパ連合EUの移民政策	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分

第4回	ヴェネツィア、アドリア海の真珠	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第5回	ケルト文化に触れる	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第6回	ギリシア、古代と近代	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第7回	ノルウェー、お母さんにやさしい国	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第8回	チェコ、プラハ城をめぐる争い	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第9回	レアルvsバルサ、複数のスペイン	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分

第10回	プーチンのロシア、政治と宗教	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第11回	マーガレット・サッチャーのイギリス	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第12回	環境先進国ドイツ	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第13回	オランダ、さまざまな自由	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第14回	バルト3国について	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第15回	まとめ	
	前回までの学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておくこと。	90分

授業の方法
基本的にビデオを使用して、必要な補足説明を記したコピーを配布します。

成績評価の方法
定期試験(60%)、および授業時に数回の課題を課す（40%）。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
現在、諸地域の抱える諸問題や主要な歴史的経緯について知っておくことが望ましい。
異文化理解A,B

テキスト
コピーを配布します。

参考書
適宜、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
学内専用ホームページで周知する。

科目名	北米地域理解		
教員名	小田　隆史		
科目ナンバー	1101095108	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

　このクラスでは、北米地域の社会について、様々な角度から光を当てて、その地域の地理、歴史、政治、文化等に対する理解を深める。特に、北米都市社会のまちづくり、なかでも講師が近年研究しているコミュニティ防災をはじめ、多様な価値観を有する人々が共に暮らす社会のあり方や課題などのトピックを扱う。また、北米社会を理解するにあたって必須な英語力の向上にもプラスになる話題にも触れる。

到達目標

北米の各国における社会、政治、文化の特徴を理解する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	北米大陸の地理	
	地図を見て北米地域の位置関係	60
第2回	アメリカ合衆国の成立の歴史	
	先住民の歴史～独立	60
第3回	アメリカ合衆国の歴史（続き）	
	～戦後～パックスアメリカーナ	60

第4回	アメリカ合衆国の政治と社会	
	大統領制、連邦制	60
第5回	アメリカ合衆国の地方自治と都市	
	日本の地方自治制度との比較から	60
第6回	北米（合衆国・カナダ）への国際移動～移民・難民	
	越境した人々の新天地アメリカ	60
第7回	北米日系人コミュニティの歴史	
	移住～第二次世界大戦～強制収容	60
第8回	北米日系人コミュニティの現在	
	同化と文化継承をめぐって	60
第9回	多文化共生の北米都市社会	
	公民権運動～モザイク、メルティングポット、サラダボウル	60

第10回	都市貧困、犯罪、銃社会アメリカ	
	インナーシティ問題と多重剥奪	60
第11回	9.11同時多発テロと合衆国	
	テロ、戦争とアメリカ政治、経済、社会	60
第12回	北米社会と「新しい公共」	
	NPO、社会起業家、ガバナンス	60
第13回	北米ポップカルチャー	
	ハリウッド、メジャーリーグ、NBA	60
第14回	北米での暮らし～留学や仕事で生活するために	
	留学、インターンシップ、在外勤務のための北米理解	60
第15回	まとめ	
	これまでの学習を振り返る	90

授業の方法

講義で地理や文化の情報を提供しつつ、一部では学生参加型の授業形態を取る。アメリカやカナダに留学を考えている学生に役立つ話題にも触れる。実用的な英語コミュニケーションについてもトピックとして扱う予定。

成績評価の方法

出席(30%)、宿題(30%)、レポート(40%)。有意義な資料を提供したらポイントとなる。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

北アメリカの地理と歴史；授業計画にあげた主題などについて基本的な知識。

テキスト

クラスでプリントアウトを配布します。

参考書

クラスで指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	地域理解トピックス （地元学実践演習）		
教員名	清水　孝治		
科目ナンバー	1001095131	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

この授業では，地域を理解する＝地域の実態を把握するための手法を学ぶことを目的とします。現代の日本をみると，地域ごとに，解決しなければならない多くの問題があります。そうした地域問題の解決策を考えていくためには，まず第一に，その地域がどのような状況におかれているのかを，すなわちその地域の実態を，的確に把握していくことが求められます。そこでこの授業では，地域の実態を把握するためのさまざまな手法（＝地域調査の手法）を，わたしたちが生活する身近な地域を題材として具体的に学びます。

到達目標

１．地図（地形図）に関する基本的なことがらを理解し，説明できる。
２．地域に関する統計資料を整理・加工し，それを読みとる力を身につける。
３．地域に関するさまざまな事象を地図化し，それを読みとる力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	１．導入：地域を理解するために ここでは，授業のすすめ方について説明するとともに，この授業で学ぶ，地域の実態を把握するためのさまざまな手法（＝地域調査の手法）について概説します。	
	【予習】シラバスを熟読し，授業のテーマ・概要，授業の計画・内容を把握する。 【復習】授業のテーマ・概要，授業の計画・内容のほか，成績評価の方法・基準について，あらためて確認する。	【予習】30分 【復習】30分
第2回	２．地図の利用（１） ここでは，地域調査において不可欠となる地図（地形図）について，その基本的なことがらを学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに，授業の内容を確認する。	【復習】60分
第3回	３．地図の利用（２） ここでは，前回の授業をふまえて，身近な地域の地形図を用いて，実際に“地図を読む”作業をおこないます。	
	【復習】ノートなどをもとに，授業の内容を確認する。	【復習】60分

第4回	４．地域に関する資料（１） ここでは，地域に関する統計資料について紹介・概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに，授業の内容を確認する。	【復習】60分
第5回	５．地域に関する資料（２） ここでは，地域に関する統計資料を整理し，加工する方法について紹介・概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに，授業の内容を確認する。復習テスト（第１回）にむけて準備する。	【復習】60分
第6回	６．地域に関する資料（３） ここでは，身近な地域に関する統計資料を用いて，統計からどのようなことが読みとれるのかを，具体的に学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに，授業の内容を確認する。	【復習】60分
第7回	７．地図の利用（３） ここでは，地域に関するさまざまな事象を地図に表現する（地図化する）方法について紹介・概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに，授業の内容を確認する。	【復習】60分
第8回	８．地図の利用（４） ここでは，前回の授業をふまえて，身近な地域に関するさまざま事象を題材として，実際に“事象を地図化する”作業をおこないます。	
	【復習】ノートなどをもとに，授業の内容を確認する。	【復習】60分
第9回	９．地図の利用（５） ここでは，地域に関するさまざま事象を地図化したものからどのようなことが読みとれるのかを，具体的に学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに，授業の内容を確認する。	【復習】60分

第10回	10. インターネットを用いた資料の探索 ここでは，インターネットを用いた資料の探索について，とくにその有用性と限界について概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに，授業の内容を確認する。復習テスト（第２回）にむけて準備する。	【復習】60分
第11回	11. 地域に関する文献・資料の探索 ここでは，地域に関する文献・資料を探索する方法について，担当者の経験もふまえて概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに，授業の内容を確認する。	【復習】60分
第12回	12. 地域に関する文献 ここでは，地域に関する文献のなかでも自治体史・地誌について，担当者の経験もふまえて概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに，授業の内容を確認する。	【復習】60分
第13回	13. 現地での調査（１） ここでは，地域調査のなかでも重要な，現地での資料の探索，インタビューについて，担当者の経験もふまえて概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに，授業の内容を確認する。	【復習】60分
第14回	14. 現地での調査（２） ここでは，地域調査において重要な「歩く・観る・考える」の実践について，担当者の経験もふまえて概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに，授業の内容を確認する。	【復習】60分
第15回	15. まとめ―地域調査の重要性― ここでは，この授業で学んできた，地域の実態を把握するためのさまざまな手法（＝地域調査の手法）について，その全体像・重要なポイントをあらためてまとめます。	
	【復習】この授業で学んできた，地域の実態を把握するためのさまざまな手法（＝地域調査の手法）について，ノートなどをもとに，あらためて確認する。	【復習】60分

授業の方法

授業は，講義と実習（授業中に，もしくは課題として，各自でおこなう作業）を組みあわせつつ，展開される予定です。受講者との双方向性にもできる限り配慮します。授業中に，もしくは課題として，各自でおこなう作業については，指示にしたがって，指定された日時までに必ず終えておくこと。

なお，授業の進度により，内容を変更することがあります。

成績評価の方法

１．成績評価については，課題レポート（３回）の提出状況および内容をもとに，授業への参加状況や復習テストの結果を加味して総合的におこないます。
２．授業内容の理解度を確認するため，授業中に復習テストを２回，実施します。
３．成績評価のめやすは，課題レポート（３回，あわせて60%），授業への参加状況（20%），復習テスト（２回，あわせて20%）となります。

成績評価の基準

１．成績評価の基準は，成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
２．とくに，以下の諸点に着目し，それぞれの項目の達成度により，成績評価をおこないます。
Ａ）地図（地形図）に関する基本的なことがらを理解しているか。
Ｂ）地域に関する統計資料を適切に整理・加工し，それを読みとることができるか。
Ｃ）地域に関するさまざまな事象を適切に地図化し，それを読みとることができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくにありません。ただし，受講者は自宅・大学を問わず，各自でインターネットを利用できる環境を準備しておいてください。

テキスト

特定のものを用いる予定はありません。授業の進行にあわせて，関連する資料を配付します。

参考書

必要に応じて，関連する文献を紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業内容に関する質問などについては，毎回，授業の終了後，教室において対応します。

科目名	地域理解トピックス　（地域づくりの時代）		
教員名	小金澤　孝昭		
科目ナンバー	1101095132	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

①テーマ　地域づくりと地域調査
②概要　地域づくり・地域活性化は、古くからのテーマだが、最近は社会の変化に応じて
地域づくりの方法も変化してきた。地域経済･地域社会の活性化は、雇用の確保、人口の安定、社会･生活条件の整備が確保
されることから始まる。この講義では、雇用、人口、生活の３つの視点に注目した地域づくりの調査方法と地域活性化の内容を
考えていきたい。検討する地域としては、被災地域、都市地域、中山間地域の３つを取り上げた。

到達目標

地域づくりの柱である雇用の確保(産業振興)、人口の安定(定住人口＋交流人口)、生活条件の整備(地域資源･環境＋社会資本)とは何かを理解することである。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	はじめに 現在の日本が抱える地域問題として、この講義では①東日本大震災の被災地域の抱える問題、②大都市部の高齢化問題、少子化問題③「限界集落」を含む中山間地域の人口問題の3つを取り上げる。この3つの問題を①地域問題の確認作業の方法②地域調査の方法③地域づくり･地域活性化の方法から把握し、その実際を解説する。	
	復習　この時間に配布した資料を読む。	60
第2回	津波の被害の地域差:宮城県内のリアス地形地域、遠浅海岸地域、海岸地域での都市化地域における被害状況の地域差の実態とその要因について考察する。	
	予習 前の時間に配布した3地域の資料（気仙沼市、石巻市、仙台市）を読む。	60
第3回	津波の被害:リアス地形地域の特徴~気仙沼市の被害状況を事例に被害の特徴と要因を考察する。	
	予習　前回の講義時に配布した気仙沼市の地形図の彩色作業を行う。	100

第4回	気仙沼地域の復旧復興の方向について考える。ここでは、気仙沼地域の産業振興による復興を事例にする。この地域の産業振興の対象は、水産業と観光産業である。産業振興を産業連関という視点から進める場合の調査方法を学ぶ。	
	復習　気仙沼地域の復興についてのワークシートを完成させ、次回の講義時に提出させる。	60
第5回	仙台地域の被災状況を海岸地域と内陸地域の2つに分けて解説する。海岸地域については、海岸林、居久根の役割との関係で考察し、内陸地域は丘陵地域（里山）の宅地造成による問題を考察する。	
	予習　仙台の被災についての論文を読んでレポートを作成する。	120
第6回	仙台地域の復興の方策として、海岸林や居久根林の再生による緑の防潮堤づくりを考える。	
	復習　講義で議論した内容をワークシートにまとめる。	60
第7回	少子高齢化社会とはどんな問題を抱えているかを明らかにする。東京の少子高齢化問題を、待機児童問題と住宅団地の高齢化の事例で考察する。	
	復習　講義内容をワークシートにまとめる	60
第8回	住宅団地の高齢化問題を仙台市の事例で説明する。郊外に立地する住宅団地が丸ごと高齢化する事例を、住民のライフステージから考察する。	
	予習　前の講義で提起された論文についてのレポートを作成する。	120
第9回	少子化の問題については待機児童の問題を仙台の事例から考察する。	
	復習　少子化と待機児童が生まれる要因について考察するワークシートを完成させる。	60

第10回	人口減少地域はどうして生まれるのかを考察する。特に「限界集落」とは何かを講義する。	
	予習　前の時間に提起した論文についてのワークシートを完成させる。	120
第11回	福島県の西会津町を事例にして、高齢化地域の地域づくりについての調査方法を解説する。	
	予習　前の時間に提起した論文を読んでレポートを作成する。	120
第12回	地域振興のための産業政策として、農業振興と誘致企業政策、情報受発信政策（ケーブルテレビ）の効果について考察する。	
	復習　講義内容をワークシートにまとめる。	60
第13回	地域振興を進める上でいかに交流人口をどのように増加させるかを、西会津町の上谷地区、富士地区、奥川地区を事例に、イベント企画の作り方も含めて「検討する。	
	復習　講義内容のワークシートを完成させる。	60
第14回	到達度確認テスト　この講義で何を学んだかを明らかにするテストを行う。	
	予習　講義内容の確認　テストの準備を行う。	120
第15回	テストの解説とまとめ	
	復習　不足している学習内容の点検	120

授業の方法
基本的に講義形式で行うが、必要に応じて作業学習や討論形式の授業、ビデオ教材などを活用する。

成績評価の方法
2回程度課すレポートや作業課題(40%)、期末試験(40%)、講義中の出席状況や発言、質問(20%)で評価を行う。

成績評価の基準
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目
地域活性化に関連する記事がたくさん新聞に掲載されるので、複数の新聞をきちんと読んでください。必要に応じてスクラップしておくこと。就活に有利。

テキスト
テキストは特に指定しない。指定する必要のある場合は、講義中に指示する。

参考書
これについては、講義中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)
授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	英語で学ぶ世界　（現代の科学技術）		
教員名	渡辺　裕		
科目ナンバー	1001099010	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

ICTは、時間や空間といった人間の活動にとって制約となる課題の克服に寄与し、大量の情報を瞬時にやり取りすることによって、新たな活動の基盤としての役割を果たすようになってきています。今後、経済の成長を達成するためには、ICTの利用を課題解決につなげると同時に、私たちの活動に変革をもたらす契機として活用していくことが不可欠です。本講義では、今日のインターネットならびにこれからのユビキタスネットワークの基盤を支える仕組みについて概観すると共に、ディジタル通信ネットワークのシステム・ネットワークの構成、環境とネットワークについて英語で講義します。

到達目標

現在起こっている問題や、近い将来に実現される新しい技術、次世代のネットワークの可能性についての基本を理解することを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション（講義のねらい、授業計画） 講義のねらい、学習計画の概要について述べる。	
	とくに必要ありません。	0分
第2回	情報通信ネットワークの発展 情報通信ネットワークの歴史は、モールス信号で知られるサミュエル・モールスが1837年に発明した電信機によって幕開けとなり、約150年後の1980年代に通信回線のデジタル化が実現し、1990年代初頭から始まったインターネットの急速な普及とともに飛躍的な進展を見た。ここでは、情報通信ネットワークの発展を概観する。	
	事前に配布する英文のテキストの内容を把握してください。	60分
第3回	ポータブルインターネット概要 移動体通信を利用してインターネットに接続したり、インターネット接続機能を持った携帯電話や通信機能を内蔵した携帯情報端末で直接接続することなどで実現するポータブルインターネットについて概観する	
	事前に配布する英文のテキストの内容を把握してください。	60分

第4回	ポータブルインターネットの無線技術 ポータブルインターネットで用いられる無線技術（WiFi, WiMax, 3G, LTE, Bluetooth, ZigBee等）について概観する。	
	事前に配布する英文のテキストの内容を把握してください。	60分
第5回	スマートグリッド概要 通信・制御機能を付加した電力網であるスマートグリッドの技術的側面について概観する	
	事前に配布する英文のテキストの内容を把握してください。	60分
第6回	スマートグリッドの応用 米国の脆弱な送配電網を、新たに登場したコンピュータ技術によって低コストで安全に運用する手法を模索する過程で生まれたスマートグリッド構想について、家庭電化製品のネットワーク化推進に失敗していた高機能家電への進出を狙うメーカーやデジタル通信用のデバイス・メーカー、さらにはITネットワークを主導している企業までが、家庭へデジタル回線を引き込む良い機会と捉えて大きな関心を寄せるようになっている。ここでは、様々なスマートグリッドの応用について考察する。	
	事前に配布する英文のテキストの内容を把握してください。	60分
第7回	クラウドコンピューティング概要 ネットワーク、特にインターネットをベースとしたコンピュータ資源の利用形態であるクラウドコンピューティングでは、ユーザーは、コンピュータによる処理やデータの格納をネットワーク経由で、サービスとして利用する。コンピュータ利用の新しい形態であるクラウドコンピューティング技術について概観する	
	事前に配布する英文のテキストの内容を把握してください。	60分
第8回	ITS概要 ITS（Intelligent Transport Systems：高度道路交通システム）とは、人と道路と自動車の間で情報の受発信を行い、道路交通が抱える事故や渋滞、環境対策など、様々な課題を解決するためのシステムである。このＩＴＳ具術について概観する	
	事前に配布する英文のテキストの内容を把握してください。	60分
第9回	交通安全とICT ICT技術を活用して人・道路・車を一体のシステムとして構築する高度道路交通システム（ITS）は、高度な道路利用、ドライバーや歩行者の安全性、輸送効率及び快適性の飛躍的向上の実現、また交通事故や渋滞、環境問題、エネルギー問題等の様々な社会問題の解決を図り、自動車産業、情報通信産業等の関連分野における新たな市場形成の創出につながっている。ここでは、交通安全に果たすＩＣＴ技術の役割について概観する	
	事前に配布する英文のテキストの内容を把握してください。	60分

第10回	スマートウォーターマネージメント概要 現在、安全な水を飲めない人は世界の全人口の約6分の1を占め、将来的に、何らかの水問題を抱える人は、世界の3分の2に達するとの予測がされている。安全な水を、人が生きるための基盤として地球全体で整備する必要性が日増しに強まっている。ここでは、水資源管理等に関するＩＣＴ技術の役割について概観する	
	事前に配布する英文のテキストの内容を把握してください。	60分
第11回	スマートウォーターマネージメント（エネルギーと気候変動） スマートウォーターマネージメントに関連してエネルギーと気候変動の関係について技術的側面から概観する	
	事前に配布する英文のテキストの内容を把握してください。	60分
第12回	スマートウォーターマネージメント（ウォータフットプリント） ウォーター･フットプリントは、製品やサービスの背景に隠された水の消費や汚染を可視化して数量的に表すことを目的として提案された指標で、ISOで国際規格化された。生産・消費・貿易などの活動が水の直接的または間接的な利用にどのように関係しているかを数量的に表すことで、水をより有効に利用するための分析・検討が容易かつ客観的に行えるようになります。ウォーター･フットプリントの概念とＩＳＯの規格について概観する	
	事前に配布する英文のテキストの内容を把握してください。	60分
第13回	ICTと気候変動 ICTの急速な普及に伴い、その環境負荷も増大している。一方，ICTを活用することにより，ICT以外の他セクタの環境負荷を削減することが期待されており，ICTは環境負荷を低減可能な技術としての認識が広がっている。気候変動問題にICTが果たす役割の重要性について概観する	
	事前に配布する英文のテキストの内容を把握してください。	60分
第14回	ICTと災害対策 情報通信システムは、東日本大震災時、大きな被害を受け、充分には機能しなかった反面、社会インフラとしての重要性が強く認識された。災害が発生しても“つながる”ネットワーク、“壊れない”ネットワークを目指した災害に強い情報通信技術の研究・技術開発について概観する	
	事前に配布する英文のテキストの内容を把握してください。	60分
第15回	全体まとめ これまでの講義の内容について総括します	
	これまでに配布された英文のテキストの全体的な内容を復習してください。	60分

授業の方法

基本的に講義形式で行うが可能な限り受講者との双方向性を高めるように工夫する。

成績評価の方法

2/3以上出席し、かつ、提出課題（50%）と授業内容の理解を問う最終レポート（50%）の結果を加算した合計が60%以上を可、70%以上を良、80%以上を優と評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

利用する教材については、ダウンロード可能なURLを別途お知らせします。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	英語で学ぶ世界　（国際関係）		
教員名	上原　史子		
科目ナンバー	1001099020	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

グローバル化にともない、21世紀の我々の生活は、国内のみでは完結し得ないものとなり、他国との貿易や外交交渉に大きく依存している。したがって学生の皆さんも社会に出るにあたり、国際情勢をきちんと理解せずして企業活動の一翼を担うことは不可能になっている。

そこでこの授業では、国際関係の歴史を概観したうえで、世界情勢はどのような状況にあるのかを英語リソースを用いながら理解し、考え、議論できるようになることを目指す。

到達目標

英語の得意・不得意にかかわらず、この授業を通じて国際情勢の変化に関心を持ち、毎日のニュースに敏感になること、そして目まぐるしく変わる世界情勢の中で各人が何か一つ強い関心を持ち、そのテーマを掘り下げてみようという意識を持てるようになることが目標である。

この授業をきっかけに、日本語はもちろんのこと、英語・他言語のニュース・インターネット情報・新聞・雑誌などにも毎日接する習慣を身につけ、社会人になるにあたって必要となる世界についての知識を身に着けよう。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習･復習等)	
第1回	国際関係を学ぶにあたって（イントロダクション）	
	新聞やニュースで世界情勢を把握する。	30
第2回	現在の国際関係	
	新聞やニュースで世界情勢を把握する。	30
第3回	英字新聞を読む	
	英字新聞を眺めてみる。	60

第4回	地球環境問題と温暖化	
	地球環境問題・温室効果ガスの問題について現状を把握する。	60
第5回	３．１１と世界のエネルギー	
	世界と日本のエネルギー問題についてニュースをチェックして理解する。	60
第6回	世界と日本の安全保障	
	世界と日本の安全保障問題について現状を把握する。	60
第7回	ヨーロッパ統合とアジアのこれから	
	世界の統合の動きと分裂の動きについて理解する。	60
第8回	戦争と平和	
	世界の戦争・紛争について歴史と現状を理解する。	60
第9回	英語ニュースを聞く	
	英語ニュースを聞いて理解する。	60

第10回	英語ニュースを聞く	
	英語ニュースを聞いて理解する。	60
第11回	プレゼンテーション・ディスカッション	
	グループワークのための情報を収集する。	60
第12回	プレゼンテーション・ディスカッション	
	グループでの議論のための準備をする。	60
第13回	ドキュメンタリー映画をみる	
	映画を理解するための基礎知識を学ぶ。	60
第14回	ドキュメンタリー映画をみる	
	映画の主題と問題点を理解する。	60
第15回	21世紀の世界を展望する（総括）	
	21世紀世界について俯瞰する。	60

授業の方法

この授業では、毎回のテーマに関連した英語文献や海外メディア・映画などを通じて、現代国際関係を紐解きながら、世界の現状と課題への理解を深めていく。
授業は一方的なレクチャーではなく、21世紀世界の問題や将来の課題について受講者とともに議論することも予定している。
したがって毎回考えることが重要となるので、授業へのアクティブな参加が必須条件である。
また、出来るだけタイムリーな話題を取り上げるべく、世界情勢のハプニングに臨機応変に対応し、扱うテーマの内容や順序が変更になる可能性が大きいことを承知しておいてほしい。

成績評価の方法

平常点（４０%）、学期中・学期末の課題・レポート等（６０%）で評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・世界の今について現状と課題を理解できる。
・世界の現状と課題について説明し、考えを述べることができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識は特に必要としない。
学内で開講されているすべての科目が関連科目となる。

テキスト

毎回の授業で指示・配布する。

参考書

毎回の授業で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の際に教室で受け付ける。

科目名	英語で学ぶ日本　（日本の文化と芸術）		
教員名	細井　眞子		
科目ナンバー	1101099120	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

　さまざまな英文のテキストを通じて、「日本的なるもの」が英語でいかに表現されているか、またそのキーワードについて学習する。日本人からみた「日本的なるもの」と外国人からみた「日本的なるもの」を比較することで自国の文化を相対的にとらえる力を養い、自己表現能力を鍛える。

到達目標

自分でみつけた「問い」に対して、自分の言葉と思考で答える能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	日本の「料理文化」について、関連文献資料を用いて知識と考察を深める。	
	日常生活のなかで、国内外のメディアの日本文化に関する言及等に注目しておくこと。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。
第2回	日本の「料理文化」について、関連文献資料を用いて知識と考察を深める。	
	日常生活のなかで、国内外のメディアの日本文化に関する言及等に注目しておくこと。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。
第3回	「伊勢神宮」について関連文献資料を用いて知識と考察を深める。	
	日常生活のなかで、国内外のメディアの日本文化に関する言及等に注目しておくこと。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。

第4回	「伊勢神宮」について関連文献資料を用いて知識と考察を深める。	
	日常生活のなかで、国内外のメディアの日本文化に関する言及等に注目しておくこと。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。
第5回	日本人の「光との接し方」について、関連文献資料を用いて知識と考察を深める。	
	日常生活のなかで、国内外のメディアの日本文化に関する言及等に注目しておくこと。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。
第6回	日本人の「光との接し方」について、関連文献資料を用いて知識と考察を深める。	
	日常生活のなかで、国内外のメディアの日本文化に関する言及等に注目しておくこと。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。
第7回	「自己主張」をめぐる日本文化について知識と考察を深める。	
	日常生活のなかで、国内外のメディアの日本文化に関する言及等に注目しておくこと。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。
第8回	「自己主張」をめぐる日本文化について知識と考察を深める	
	日常生活のなかで、国内外のメディアの日本文化に関する言及等に注目しておくこと。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。
第9回	「kawaii文化」について、関連文献資料を用いて知識と考察を深める。	
	日常生活のなかで、国内外のメディアの日本文化に関する言及等に注目しておくこと。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。

第10回	「kawaii文化」について、関連文献資料を用いて知識と考察を深める。	
	日常生活のなかで、国内外のメディアの日本文化に関する言及等に注目しておくこと。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。
第11回	「kawaii文化」について、関連文献資料を用いて知識と考察を深める。	
	日常生活のなかで、国内外のメディアの日本文化に関する言及等に注目しておくこと。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。
第12回	「ジャポニズム」について、関連文献資料を用いて知識と考察を深める。	
	日常生活のなかで、国内外のメディアの日本文化に関する言及等に注目しておくこと。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。
第13回	「ジャポニズム」について、関連文献資料を用いて知識と考察を深める。	
	日常生活のなかで、国内外のメディアの日本文化に関する言及等に注目しておくこと。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。
第14回	「ジャポニズム」について、関連文献資料を用いて知識と考察を深める。	
	日常生活のなかで、国内外のメディアの日本文化に関する言及等に注目しておくこと。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。
第15回	自ら課題を設定して、日本文化の特質を授業内レポートとして作成する。	
	授業中にとくに興味をもった課題については、継続的に関心を持ち続けておくことが望ましい。	毎日15分間から30分間程度。場合に応じて。

授業の方法

各テーマに関連するテキストにもとづいた講義の後、受講者は自分の考察や疑問を授業内レポートにまとめて授業の最後に提出する。一部は日本語、一部は英語で講義を行う。

成績評価の方法

学期中に課すレポートおよび授業参加の熱意にもとづく平常点によって成績を評価。出席を重視する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本の歴史と文化

テキスト

美術を中心に文化を論じた英語および日本語文献から適宜テキストを選択し、コピーを配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	英語で学ぶ日本　（日本の経済）		
教員名	中岡　望		
科目ナンバー	1001099110	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

本講座は２つの目的があります。まず、経済学専攻の学生とそうでない学生のために、経済学の基本的な概念を英語で理解することです。同時に、英語の読解力と表現力を磨きます。クラスは基本的に英語で授業を行い、それを補完する形で日本語での説明を行います。経済学を学んでいない学生のために、最初はマクロ経済学の基本を英語で説明します。また授業の中で簡単な英語を使っての議論も行います。資料は毎回、クラスで配布します。

到達目標

英語の新聞の経済に関する記事を十分に読みこなし、理解できるようになるのが目標です

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	毎時限、英語の資料が配付されます。必ず事前に自分で訳してくること。それをベースに、基本的な経済用語の概念と日本経済に関する説明を行います。また、毎回、学生は簡単な英語でのスピーチも要求されます。自由な雰囲気で英語に慣れるのも、本コースの目的のひとつです	
	最初のクラスでは、学期全体の講義の進め方、資料の読み方などを説明し、各人の英語の力を評価します。	基礎的な経済用語を習得すること
第2回	英語によるマクロ経済学の基礎を学びます	
	事前に渡された資料を必ず読んでくること	基本的な経済学の用語の理解と英語用語を学習すること
第3回	英語によるマクロ経済学の基礎を学びます（２）	
	事前に渡した英文資料を読んでくること	日本経済の歴史の流れのなかで英語表現を学習すること

第4回	戦後の日本経済の発展の総括：敗戦から経済復興へ	
	事前に配布した資料を読んでくること	英文資料を読みこなせるようにすること
第5回	日本経済の高度成長：なぜ日本は高度成長ができたのかについて学ぶ	
	事前に配布した資料を読んでくること	英語の経済用語を習得すること
第6回	日本経済の国際化と成長鈍化：	
	事前に配布した資料を読んでくること	英文資料を読みこなせるようにすること
第7回	日本経済と１９８０年代のバブル：その原因と影響（１）	
	事前に配布した資料を読んでくること	英文資料を読みこなせるようにすること
第8回	日本経済とバブル（２）	
	事前に配布した資料を読んでくること	英文資料を読みこなせるようにすること
第9回	バブルの崩壊と１９９０年代の失われた１０年：日本経済に何が起こったのか	
	事前に配布した資料を読んでくること	英文資料を読みこなせるようにすること

第10回	バブル崩壊とデフレ	
	事前に配布した資料を読んでくること	英文資料を読みこなせるようにすること
第11回	デフレが日本経済と社会にもたらしたもの	
	事前に配布した資料を読んでくること	自発的に英語メデフィアの日本経済関連の記事を読めるようになること
第12回	ネオリベラリズムと日本経済：規制緩和と市場主義がもららしたもの	
	事前に配布した資料を読んでくること	自発的に英語メデフィアの日本経済関連の記事を読めるようになること
第13回	デフレと金融政策：ゼロ金利政策と量的緩和政策の意味	
	事前に配布した資料を読んでくること	自発的に英語メデフィアの日本経済関連の記事を読めるようになること
第14回	アベノミクスとは何か	
	事前に配布した資料を読んでくること	自発的に英語メデフィアの日本経済関連の記事を読めるようになること
第15回	日本経済の将来	
	英語で自分の意見を発表する準備をする	自発的に英語メデフィアの日本経済関連の記事を読めるようになること

授業の方法

最初に学生が前のクラスで感じた問題や疑問に答えます。経済の問題に限定せず、社会、政治問題も含めて学生の質問に答えます。続いて、宿題の英語の文章を詳細に英語と、必要あれば、日本語で説明します。クラスは一方的な講義ではなく、学生との双方向の対話で進めます

成績評価の方法

毎回、クラスの最後に「コメント・シート」に記入することが必須です。コメント・シートの提出は出席表とし、その内容も評価の対象にします。成績は、コメント・シートと期末試験で行います。期末試験の内容は、クラスで学生と相談の上で決めます

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

英語で学ぶ日本経済ですが、必ずしも経済学を履修しておく必要はありません。法学部や工学部などの学生にも十分に分かるように説明します。特に関連する講座、必要な予備知識は必要ではありませんが、英語の対する興味を持っていることが大切です。

テキスト

決まったテキストはありません。毎回、必要に応じて印刷物を配布しますから、それを十分に読みこなしてください。ただ、可能なら『Postwar Japanese Economy』(Mituhiko Iyoda, Springer)を読むようにすること。

参考書

クラスの中で資料を配布します

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	実践国際理解演習Ａ		
教員名	小田切　由香子		
科目ナンバー	1101099210	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 前期

テーマ・概要

Welcome to Practical Intercultural communication class.
This is an intercultural communication course. Students are expected to develop self-monitoring communication strategies through various kinds of activities.
このコースは異文化（いぶんか）コミュニケーションを目的（もくてき）とするコースです。学生はさまざまな活動（かつどう）で自分（じぶん）のコミュニケーションを客観的（きゃっかんてき）に観察（かんさつ）する力を養（やしな）います。

A teacher's role is to aid you by various kinds of activities.
講師は学生がコースの目的を達成するために様々な活動を提供します。

Students are required to participate in group activities, discussion and other activities.
学生はグループ活動、話し合い、その他の活動に参加しなければなりません。

到達目標

At the end of this course, the student will be able to :
improve your communicative competence

コミュニケーション能力を高めます

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	1 introduction to the course　クラスについて 2 icebreaking1　クラスメートを知るための活動	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes-30minutes 15分から30分
第2回	introduction to the course クラスについて teambuilding activity1 チームワークのための活動1	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes-30minutes
第3回	teambuilding activity2　- Diversity- 多様性を理解するための活動	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15分から30分
第4回	communication activity 1 コミュニケーションを考えるための活動１	

	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes-30minutes
第5回	Let me know about you activity 友達をに自分を知ってもらう活動	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes
第6回	communication activity コミュニケーションを考えるための活動	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes
第7回	Ranking activity 世界を知るための活動	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes
第8回	Intercultural game フェアトレードについて考えるためのゲーム	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes
第9回	Introduction to the project work これから参加するプロジェクトワークについて	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	10minutes
第10回	Project Work1 プロジェクトワーク１	

	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes
第11回	Project Work2 プロジェクトワーク２	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes
第12回	Project Work3 プロジェクトワーク3	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes
第13回	Making a portfolio ポートフォリオ作成	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes
第14回	Making a portfolio ポートフォリオ作成	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes
第15回	short presentation using a portfolio in a new group 作成したポートフォリオを新しいグループの中で発表	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes
授業の方法		

participatory activities.
参加型の授業です。

If you have a dictionary, bring it to every class.
辞書を持っていたら、毎回持ってきてください。

Homework is due at the beginning of the class period noted in the syllabus.
宿題は予定表（よていひょう）に書いてあるクラス時間の最初（さいしょ）に出してください。

Please avoid disrupting other students by arriving late or leaving early.
他の学生の迷惑（めいわく）になるので、遅刻（ちこく）、早退（そうたい）はしないでください。

Please students with documented disabilities contact me.
発達障害（はったつしょうがい）のある学生は講師（こうし）に相談（そうだん）してください。

TURN OFF CELLULAR PHONES, ETC. UPON ENTERING CLASS!!! 教室（きょうしつ）では携帯電話（けいたいでんわ）のスイッチを切（き）ってください。

成績評価の方法

70% of reflecting sheets + 12% short messages + 18% Portfolio =100%

活動報告（かつどうほうこく）など：70%
ショートメッセージ12%
ポートフォリオ：18%
合計（ごうけい）：100%

* It is strongly recommended that the student keep all graded assignments through the end of the course.
返却（へんきゃく）された宿題は保存（ほぞん）しておいてください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ A student's overall letter grade in the course is compliant with Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	実践国際理解演習Ｂ		
教員名	小田切　由香子		
科目ナンバー	1101099220	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2014年度 後期

テーマ・概要

This is an intercultural communication course. Students are expected to develop self-monitoring communication strategies through various kinds of activities.
このコースは異文化（いぶんか）コミュニケーションを目的（もくてき）とするコースです。学生はさまざまな活動（かつどう）で自分（じぶん）のコミュニケーションを客観的（きゃっかんてき）に観察（かんさつ）する力を養（やしな）います。

到達目標

At the end of this course, the student will be able to :
Improve their communicative competence

コミュニケーション能力を高めます

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 / 準備学修(予習･復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	1 introduction to the course クラスについて 2 icebreaking activities 仲良くなるための活動	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes-30minutes
第2回	task-centred activity1 課題達成のための活動1	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes-30minutes
第3回	communication activity1 - non-verbal communication 非言語コミュニケーション活動1	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes-30minutes
第4回	communication activity2 - non-verbal communication 非言語コミュニケーション活動2	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes-30minutes

第5回	communication activity3 - non-verbal communication 非言語コミュニケーション活動3	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んで ください	15minutes-30minutes
第6回	communication activity4 - high context or lowcontext 言語コミュニケーション活動4	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んで ください	15minutes-30minutes
第7回	task-centered activity 2 課題達成のための活動２	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んで ください	15minutes-30minutes
第8回	task-centered activity 3 課題達成のための活動3	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んで ください	15minutes-30minutes
第9回	intercultural game 異文化ゲーム	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んで ください	15minutes-30minutes
第10回	Introduction to the project work これから参加するプロジェクトワークについて	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んで ください	15minutes-30minutes

第11回	Project Work1	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes-30minutes
第12回	Project Work2	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes-30minutes
第13回	Project Work3	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes-30minutes
第14回	Making a portfolio ポートフォリオ作成	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes-30minutes
第15回	short presentation using a portfolio in a new group 新しいグループの中で作成ポートフォリオを発表	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	15minutes-30minutes
授業の方法		

using participatory activities in this lass
参加型クラスです

If you have a dictionary, bring it to every class.
辞書を持っていたら、持ってきてください。

Regular, personal practice with communication is crucial to understanding an intercultural communication, so students will have weekly homework assignments.
異文化コミュニケーション理解のために定期的、個人的なコミュニケーション練習が大切です。
ですから、毎週宿題（活動報告）があります。

The assignments (reflecxing sheet) will be due every Thursday.
宿題（活動報告）は毎週木曜日が締め切りです。

Students should hand the assignments in to me directly.
宿題は直接講師に渡してください。

成績評価の方法

70% of reflecting sheets+ 12% short messages + 18% Portfolio =100%

活動報告（かつどうほうこく）など：70%
ショートメッセージ12%
ポートフォリオ：18%
合計（ごうけい）：100%

* It is strongly recommended that the student keep all graded assignments through the end of the course.
  返却（へんきゃく）された宿題は保存（ほぞん）しておいてください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ A students's overall letter grade in the course is compliant with Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。